現代日本文學全集



杉浦非水裝幀

明治開化期文學集

改造社版



諸家照影（上段向つて右より假名垣魯文・福澤諭吉・川島忠之助　第二段東海散士・末廣鐵腸・須藤南諸
第三段中村正直・饗庭篁村・加藤弘之　下段馬場辰猪・成島柳北の諸氏）

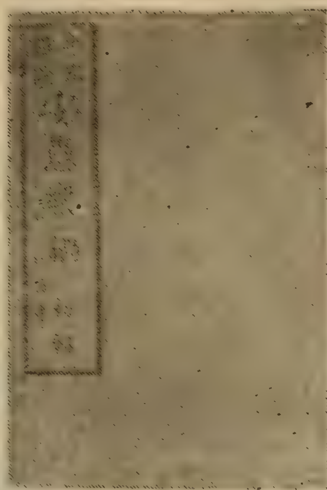
「明治開化期文學集」目次

牛店雑談

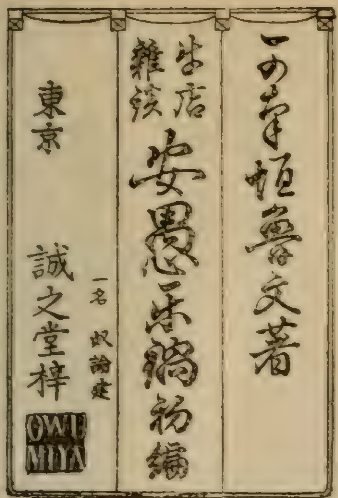
安愚樂鍋

假名垣魯文

牛店雑談 安愚樂鍋（一名 奴論建）



（原本初編表紙）



（原本初編扉）

牛店雑談 安愚樂鍋 初編

東京市隱 假名垣魯文戯著

初編自序

世界各國の諺に。佛蘭西の着倒れ。英吉利の食だふれと。食臺に並べて謂ど。衣は肌を覆ふの器。食は命を繋ぐの鎖。心の猿の意馬止て 咲いた櫻の花より團子。色則是食色氣より。喰氣を前の佳味肉食。牛にひかれて膳好方便。佛徒家の五戒さらんパア。虚と實の内外を西洋風味に薬混て。世に克熟し甘口とは。作者が例の自己味噌。家言もあしの不果放行。彼小便の十八町。慢々地急案即席調理。刻葱の五分ほども透ぬ潤筆のタレ按排。生肉の替りは後輯にして。一帙端を採給へと。文明開化開店の。告條めかして演述になん。

明治四歳辛未乃卯月初の五日東京本石街萬笈閣の隱居に於て

牛の煉薬黒牡丹の製主

假名垣魯文題

標目従初編至貳編

是に洩れたるは嗣編に著すべし

開場

天地は萬物の父母。人は萬物の靈。故ゆゑに五穀草木鳥獸魚肉。是が食となるは自然の理にして。これを食ふこと人の性なり。昔々

の里諺に。盲文爺のたぬき汁。因果應報穢を滌むる。かち〳〵山の切火打。あら玉うさぎも吸物で。味をしめこの喰初に。そろ〳〵開化し西洋料理。その功能も深見草。牡丹紅葉の季をきらはず。猪よりさきへだら〳〵歩行。よし遲くとも怠らず。往來絶ざる淺草通行。御藏前に定舖の。名も高旗の牛肉鍋。十人よれば十種の註文。昨晩もてたる味噌を擧。たれをきかせる朝歸り。生のかはりの粹がり連中。西洋書生漢學者流。劉訓に似た儒者あれば。背柏めかす僧もあり　士農工商老若男女。賢愚貧福おしなべて。牛鍋食はねば開化不進奴と鳥なき郷の蝙蝠傘、　鳶合羽の翅をひろげて遠からん者は人力車。近くは錢湯歸。藥喰。牛乳。乾酪乳油洋名牛陽はことに勇潔。彼肉陣の兵粮と。土産に買ふも最多き。人の出入の賑はしく込合の節前後御用捨。御懐中物御用心。銚子のおかはり。お會計。お歸ンなさい入ラッしやい。實に流行は晝夜を捨ず繁昌斯の如くになん。されば牛はうしづれの同氣もとむる肉食群集席を區別しありさまを。一個〳〵に穿て云はゞ　まづさつとしたところがこんなものでもあらうか

○西洋好の聽取

▲年ごろは三十四五の男いろあさぐろけれどシヤボンをあさゆふつかふと見えてあくぬけていろつやよくあたまはなでつけにそうはつにでるなるところ。百日このかたはやしたるを右のかたへなでつけもつともヲーテコロリといへる香水をつかふとみえてかみのけのつやよくわげはかくべつお住きからずきぬごろのみちゆきぶりにたろ糸二タ子のわたいれまがひさらさの下タ着うらははりかへしのがくうらなるべしカナキンではりたるかうもりがさをかたはらへおきくるしいさんだんにてもとめたる袖時計のやすものをえりからはづしてとき〴〵ときを見るはそつ六のけじつはほかのものへ見せかけなりたゞしくゑりはきんのてんぷらと見えたり。となりにうしをくひてゐるやくにはなしをしかける

「モシあなた牛は至極高味でごすネ此肉がひらけちやアぼたんや紅葉はくへやせんこんな清潔なものをなぜいままで喰はなかつたのでごウせう西洋では千六百二三十年前から專ら喰ふやうになりやしたがそのまへは牛や羊はその國の王か全權と云ツて家老のやうな人でなけりやア平人の口へは這入やせんのサ追〻我國も文明開化と號ツてひらけてきやしたから我〻までが喰ふやうになつたのは實にありがたいわけでごスそれを未だに野蠻の弊習と云ツてネひらけねえ奴等が肉食をすりやア神佛へ手が合されねえのヤレ穢れるのとわからねえ野暮をいふのは究理學を辨へねえからのことでげス　そんな夷に福澤の著た肉食の説でも讀せてえネモシ西洋にやアそんなことはごウせん　この人ござりませんをごウせんとさりますをげスなどいふくせあり　彼土はすべて理でおして行國がらだから蒸氣の船や車のしかけなんざアおそれいつ



（原本初編口繪）





（原本「西洋好の聽取」插畫）

たもんだネ既にごらうじろ傳信機の針の先で新聞紙の銅板を彫たり風船で空から風をもつてくる工風は妙ぢやアごッせんかあれはネモシ斯いふ譯でごぜえス地球の圖の中に暖帶と書てありやす國があるがネ彼所が赤道といッて日の照りの近イ土地だからあついことはたまらねえそこで以テ國の人が日にやけて皆なくろん坊サそれだからその國の王がいろ〳〵工風をして風船といふものを造ッて大きな圓い袋の中へ風をはらませて空からおろすとそのふくろの口をひらきやすネ。すると大きなふくろへ一ぱいはらませてきた風だから四はう八方へひろがッて國の内がすゞしくなるといふ工風でごスまだ奇妙なことがありやす魯西亞なンぞといふ極寒い國へゆくと寒中は勿論夏でも雪が降ッたり氷が張ので往來ができやせんそこで彼蒸氣車といふものを工風しやしたが感心なものサネ一體蒸氣車と云ものは地獄の火の車から考出したのださうだが大勢をくるまへのせて車の下へ火筒をつけてそのなかで石炭をどん〳〵焚からくるまの上に乘てゐる大勢は寒氣をわすれて遠道の通行ができやせうナント考へたものサネ。何サこのくれえな工風は彼土の徒はちやぶ〳〵前でげス此大千世界の形象せえ渾沌として毬の如しと考へたわサ。その以前は釋迦如來が須彌山と建けたところが西洋人はまん〳〵たる海上を渡ッて世界の果からはてまでを見きはめたのだから釋迦坊も後悔したさうサそこで以て海をわたる工風を西洋ぢやア後悔術といひやすわナオヤモウ御歸路かハイさやうならオイ〳〵ねえさん生で一合。葱も一處にたのむ〳〵

○墮落個の廓話

▲年に二十四五いろなましろくあたまのかみはたくさんにていてふにゆひはなしかの圓てうまがいおめしのあゐみぢんの小そで一ツどう着にはさだめしなの物をなにしたりとおもはれ二三日ゐつゞけでぼんやりしたすがたすこしやつれを見せるたちなりきんぐさり十六ぼんのたばこいれしやうのあゐしまにしちとやきせよしんばりのきせるねつけはさうげのかどみぶたにてこれも仕いれものとみえりとまん〳〵てをなく〳〵りてうでまもりのぎんかな具をひけらかしつゝとふたさしつおさへつのみかけ目のふちをあかくしてきいろいこゑをたかこうし

「半ちやんゆうべの世界はおいらはじつにふさいだヨ彼樓へは三四たび登樓たことのあるのだからけんのんだといふのに竹坊がむやみにあがらうといふからおめえは一件の處へ脫走してしまふしおいら一人ほかへあがるのもおもしろくねえから野面であがりこんだところがあいにくと二會までいつた遊女がおいらに出ツくはせたらうぢやアねえかこいつは不見識だとおもつたけれどひきつけのときごまかしてわきを向いてゐ　からお茶屋が氣をきかしてへ〳〵おめしかへトはやく切あげたのでその場はきりぬけたが番新めがおいらの顏を見おぼえてゐやアがつて。ひけて座しきへ這入とすぐにモシエぬしやアよくきなました人がわるウざんすヨこれサお茶屋の人このきやくじんは後の月の三日に田町の辨天平野から三人一座で二會に來なましたお客ですョト敵にこゑをかけられたからうしろを見せるのも外聞がわるいとはおもつたが馴染金散財にやア代られねえこれをさくがいなや小便にいつて。その歸り足にはしごをトン〳〵。はきものヲト　みづからこゑをかけて茶屋の女を。おきざりまいねんさツサとござれやといふ身で飛出して茶屋まですた〳〵歸ツたところが女中が後から追ッかけて來てなにかお氣にさはツたことでもございましたかは。エヽコウ、いゝぢやアねえか。ダガノおいらのやうに年びやく年中吉原へ計りはひりこんでゐちやアかほがわるく、なつてさきがこはがつて相手にしねえから島

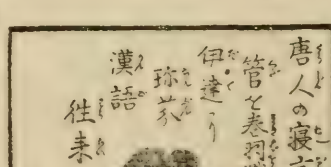
ばらへでも巣をかへようとおもツてゐるのサなんだツても丸三年といふもの一トばんもかゝしたことがあるめえぢやアねえかそれだから寶槌樓のことばの『かゥなんしあゝなんし』から鶴泉の『くされてゐる』『だしきつてゐる』平泉ぢやア客を古風にぬしといひサ『なんだます』『ぢれツてえ』といふことから松田屋のつの字ことば。角えびのはやことに岡本の『くるわョ』『ゆくわョ』金瓶大黒ぢやア『あゝやだョ』といふことばを禁じられたシ尾彦の朝のむかひのはやいのや大文字屋の氣のかるいの。伊勢六の大見識の内ゆるみまでを知ツて居るシ。岡田屋のおいらんたちは傾城水滸傳の種本で甲子屋のしん造衆が客のくるかこねえかを茶屋に念をおすことまで しようちしちやア 楽屋が見どほしで客になつてもおもしろいあそびはできねえからずつと世界を見やぶつて新造買もして見たが次の間あそびはがうせい氣ぼねのをれるものだしいまの壯年サにあんまり老人じみるからそれも廢して藝者と出かけたが組で八十匁はつゞかねえ。うら茶屋ばひりの汐待もたいぎだからグツト色氣を去ツて幇間を買ツてあそんでも見たが彼奴等はどうも友を呼でならねえヨ此あひだも新孝をさそツて金子へ夕飯を喰ひに行とあとから喜代壽に正孝序作露八なんぞといふ流行ツ子がどか〳〵とおしこんで來てかけがへのねえ大楮幣をとう〳〵一枚こすらせられたぜモウ〳〵なかはごめん〳〵。しかし今夜は廓の名殘に。彼の一件の處へ出かけるつもりだが。もうひとばん附合ふべしサなに又株ダ。イヤサ實にこんやで根ツきり葉ツ切りほんとうにこれぎり〳〵扨おてうしもおつもりダ



(原本「當落價の廓話」の插畫)

○鄙武士の獨盃

▲としごろは三十にかゝりいろあくまでくろくあたまは自びんにくさたばねもつともそうがみの火のつきさうなみだれがみくろもめんのもんつきどんつくもの子に小くらのよどれくさつたるはかまみじかき一ぽんかたなのつかのよごれをいとふかあるひはつかいとのはつれをかくさんためかしろもめんにてぐる〳〵とまきつけつんつるてんのきものをうでまくりしてしやにかまへよほどゑひがまはりしと見えてわりばしのさきにかれのつきたるを二ほんつかみて手びやうしをうちながら大きなこゑにて 詩「衣は骭にいたりイそではア腕にいたるウ腰間秋水。鐵を斷べしイ。人觸れば人を斬。馬ふるれば馬をきるウ。十八交をむすぶ健兒の社ア引。是ヤ〳〵女子酒をもてこずかイ。こや〳〵そしてナ生の和味のをいま一皿くれンカ。ア、愉快ぢや〳〵 トあたりをきよろ〳〵みまはしてとなりにゐたる二三[illegible] ハア失敬ごめんコヤ女子なにを閑術してをるか勉強して神速にせい トいひながらこちらに[illegible] 君牛肉は至極御好物とするさつのウ仕るが僕なぞも誠實賞味いたすでござるイヤかゝる物價沸騰の時勢に及ンで割烹店などへまかりこすなんちふ義は所謂激發の徒でござる此牛肉チフ物は高味滋益まるのみならず開化滋養の食料でござるテ。イヤ何かとまをして失敬。御めんコヤ〳〵女子一寸來ンかコヤ。あのうナ生肉をナ一斤ばかり持參いたすンで。至極の正味を周旋いたイてくれイア、酩酊きはまツたオヽ生肉かえゝわ〳〵會計はなんぼか じんく愉快きはまる陣屋の酒えん中にますら雄美少年引 トはなッたなうたひながらあいはくかたなをさげたこのおはしつみをついに かけて 女子またくるぞ トはしの木ばのはものがらおちてへたちいで ウタヽしき



(原本「鄙武士の獨盃」插繪)

しまのやまとごころを人とはゞア丶丶丶丶あさひにイ匂ふウ山さくら花ア丶丶丶丶引

○野幇間の諂諛

▲としごろは三十二三かははそながくせいのひよろりとしたをとこあゐみぢんのおめしちりめんたうざらさはへりはかりの下タ若にそろへをぬちどみのくりうめにそめたはおりへちひさく五ツところもんをつけ上しうはかたのふながうしのりのつよいおびをしめ壮がひさんどじゆのをじめをつけたるくろざんの一ツさげねつけは角にてからし丶をつくりたる古風なさいくきせるは石州ばりのてんぷらなりときゞ〳〵まゆげをあげさげしてくちをつぼめて物を云くせ有○つれはかはてとくいのきやくとおぼしくあさくさの地内あたりでゆきあひとりまきてはなれぬやうす

のづ八「モシ若旦那どうでげスこのせつはでえぶ柳橋邊でおうかれすぢぢやアござえせんかエ丶モシあまりまよはせすぎると罪になりやすぜ柳のすぢは誰でござえスはくじやう〳〵オット忘れたり〳〵二三日めえに島原の晩花から飛札到來すなはちたねは爰に有馬の人形筆ツ（トくわいちうのかみいれよりうやうやしくふみをだしてみせかけ）エモシあの娼妓はあなたにやアつとめをはなれた仕うちでげスぜイエサ油をかけるなんぞといふのはひととほりのお客でげスあなたと拙がその中はきのふやけふのことぢやないツマアおきゝなせえし此間内證の千聽さん（晩花樓主人の俳名をしかい）へ甘海宗匠からの傳言をたのまれやじたから一寸顏を出したついでに樓上へ參ツたところが私を見るとおいらんが野圖八さん浮さんと同伴かえと次の間へかけだしてきなすツたから私がいちばんだまをくらはせてへイ浮さんはいまさめや（清元案者の宅引手茶やなり）へ寄ておいでなさるからすぐに跡からモシおいらん御愉快。なんぞお饗應なさいと十八番の鐵をきめるとア丶まつてくんなヨとなにかそは〳〵しながら新造しゆうに耳こすりサ私は尾車さんや連山さんのところをまはつてくるうちに金花樓の珍味たつぷり手形の『びいる』が一ぽんとあらはれやした。ところでしやア〳〵と御馳走ちやうだいの間がおよそ西洋時計一字三ミニウトばかりのひまだから娼妓の曰。のづ八さんきさんはどうしなましたらうあんまりひまがとれるのだヨといはれてハッと胸にくぎ露顯ぬうちこつちからきりあげ揚貝ちよん〳〵まく。ちよツくら私がおむかひに。ゆきますさいづちたばねのし廊下とんびも羽をのしてスタ〳〵にげてきたさのサッサ。モシこんどはあなたとでもおともでねえと見つかりやアどんなめにあふかしれやせんヨア丶あんまりしやベッて咽がひつつくやうになりやしたいきつきにちやわんで一杯いたゞき女郎衆はよい女郎衆チト時代だが（トさつとのんであたまをたゝきなべのうしをおち〳〵く）オット丶丶ござえす〳〵（ひなたはしをしたへおき）わかだんな〳〵ちよつとごらんなせえやしとなりの年間はサちよつとあくぬけた風俗だが牛をば平氣岡本で食る達者サはありやアただものぢやアござえせんぜ。なんでも北里のお茶屋の妻君かさもなけりやア山谷堀あたりの船宿の女房かしらん堀ぢやア見かけねえかほだがどうもわからねえオットほりと云やア紫玉の處へ短冊を客さきからたのまれやしたから今戸の辨次郎へ風爐の註文ながら一昨日ちよつくらよりやしたら外を藝の有明樓行が二タ組ほど通りやす。たそやと見れば跡はからんモシそれ一件のネ。お猫サそらいつか大七からはしけて濱中やへ連出した藝サ。ホンニおめえさんほど罪作りなみやうりのわるいお方はござえませんぜ彼奴私を見ると紫玉の敷居をまたいで若だんなはどうなさいましたあれぎりぢやアあんまりでスからモウ一ぺん後生でございますヨとあたりをはゞかつて手をあはしてわかれやしたネモシあなたはどういふ腕を出して婦人をおころしなさるのでげス實にふしぎ妙でござえす。ア丶


（原本「野幇間の諂諛」挿畫）

おそれべ〳〵

○諸工人の侠言

▲としごろは四十ぐらゐ大工か左官らしきふうぞくしるしばんてんもゝひきはらがけ三尺おびはよごれたれど白木のそろばんぞめよとばしまがひのたばこいれにあつぱりのしんちうぎせるかみはしのをたばねたるごとくつれも同じくしよくにんながらこのじんぶつはとしかさといひことにあにでしにてもあらんかと思はれたるはなしぶりよほどゑひがまはりしとみえてまきじたのたかごゑにてゐばりをつけるくせあり

「エヽコウ松やきいてくれあの勘次の野郎ほど附合のねえまぬけは西東の神田三界にやアおらアあるめえとおもふぜまアかういふわけだきいてくりや夕邊仕事のことで八右衛門さんの處へつらア出すとちやうど棟梁がきてゐて酒がはじまツてゐるンだらう手めえの前だけれどおらだつて世話やきだとか犬のくそだとかいはれてるからだだから酒を見かけちやアにげられねえだらうしかたがねえからつツぺえりこんで一杯やツつけたがなんぼさきが棟梁でえくでもどちそうにばかりなツちやア外聞がみつともねえからさかづきをうけておいてヨ小便をたれにゆくふりでおもてへ飛出して横町の魚政の處へ往てきはだのさしみをまづ壹分とあつらへこんで内へはしけて一升とおごつたわおらアしらんかほの半兵衛で歸ツてくると間もなく酒と肴がきた處から棟梁もうかれ出して新道の小美代をよんでこいとかなんとかいツたからたまらねえ藝妓が一枚とびこむと八右衛門がしらまで浮氣になつてがなりだすとノ勘次のやらうがいゝげい人のふりよをしやアがつて二上りだとか湯あがりだとか蛸坊主が湯氣にあがつたやうなつらアしやアがつて狼のとほぼえでさんざツぱらさわぎちらしやアがつてそのあげ句が人力車で小塚原へおしださうと成とかん次のしみツたれめえおさらばずゐとくじをきめたもんだから棟梁も八さんもそれなりになつてしまツたがエヽコウおもしろくもねえ細工びんぼふ人だからだあのやらうのやうに錢金をしみやアがつて仲間附合をはづすしみつたれた了簡なら職人をさらべやめて人力の車力にでもなりやアがればいいひとをつけこちとらア四十づらアさげて色氣もそツけもねえけれど附合とくりやアよるが夜中やりがふらうとも唐天ぢよくからあめりかのばつたん國までもゆくつもりだアあいつらとは職人のたてがちがはア口はゞツてえいひぶんだがうちにやア七十になるばゝアにかゝアと孩兒で以上七人ぐらしで壹升の米は一日ねえし夜があけてからすがガアと啼きやア二分の札がなけりやアびんぼふゆるぎもできねえからだで年中十の字の尻を右へぴん曲るが半商賣だけれど南京米とかての飯は喰ツたことがねえ男だあいつらのやうにかゝアに人仕事をさせやアがつてうぬは仕事から歸ツてくると並木へ出てやすみにでつちておいた藁取なんぞヲならべて賣りやアがるのだアすツぽんにお月さま下駄にやき味噌ほどちがふおしよくにんさまだアぐづぐづしやアがりやアすならうてんをたゝきわつて西瓜の立賣にくれてやらアはゞかりながらほんのこつたが矢でも鐵砲でももつてこいおそれるのぢやアねえわえトいひがかりやアいひたくなるごらうなウ松てめえにしたとこがさうぢやアねえかオイ〳〵あンねえ熱くしてモウ二合そして生肉もかはりだアはやくしろウエヽ



（原本「諸工人の侠言」插畫）

○生文人の會談

▲ちかごろりうかうの書畫會れん中としごろ三十一二ぐらゐやさなるこしらへ身なりもさのみわろきにはあらねど世を見やぶつたつもりにてきものも上下ふぞろひなるをいくぢなくきなしくろのはおりむらさきのふとひもをむなだかにむすびてけんしきははなばしらとともにたかくかたはらにたう紙のまきたると扇子のつかねたるをあめりかさらさのふろしきにつゝみかけておき下タ地よほどさけの香のあるは



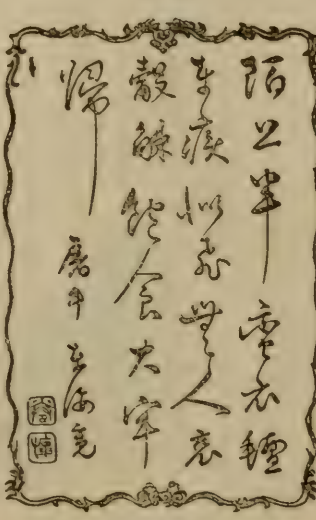
（原本「生文人の會談」插畫）

なかむらや万八あたりの會くづれと見えつれはさそひてつれゆきたるたゞの人物とみたりもつともをり〱うけこたへありとしるべし

一ア、けふの會はよわつた〱あのやうに唐紙扇面の攻道具でとりまかれてはさすがの僕もがつかりだこれだから近頃はどのやうにまねかれても謝儀ばかりもたせて書畫會へは出ぬことゝきめたがけふは南溟老人が喜壽の筵といひ殊に南湖翁の三十三回の追福ぢやから先生が出て玉はらなければ枕山松塘鷟洲雪江東寧帆雨柳圃隨庵桂洲波山の諸先生たちが不承知ぢやからぜひに出席をねがふとわざ〱扇めん亭の善公と廣小路の一庭が使者に來たので止を不得出かけたところが肴札五枚がけの一局へ合併して一杯のむが否やどうか先生おあとでねがひますと左右から扇面の鎗ぶすまサさてうるさいことだとギョッとしたがかねて期したことでア、是も會主への義理ぢやと觀念して書畫の註文でも扇面が貳百疋唐紙なら五百疋と極札がついてある腕を一言の禮のみで先四五本かゝせられたと思ひなさい僕がからだの居まはりを雲霞のごとく取巻てお後で一本どうか諸先生の合作でござりますから一寸ねがひますのヤレ遠國からたのまれました書畫帖だのとたちまち扇紙の山をなしたは實にうるさいはやく切あげて脫しよう、と身じんまくをしてゐる最中隣の方で生醉がけんくわをはじめた騷ぎで人々が奔走する間に早々下タへ來ると膳所に琴雅乙彦などいふ風流雄が內食をきめてゐるむかうの隅には諏訪町の松本がエ何サ楓湖先生がサ藝者の房八を合手に大なまゑひでこれから船で上手へ出かけるから是非附合とこまらせるので爰にも足をとめることがならんそれは偶の附合だから止を得ぬが明日は大藩の知事公から召されてお席に於て絹地三幅對の山水を卽席にしたゝめンければならんからチトつきあひははづすぢやが後日として尊公のそでをひいてぬけ出したがなにか呑たらんやうぢやによつて牛店ときめたは中村のかまびすきところより落ついてのめるから妙だ、てナ扨まづ春木氏の義理もすんだがエ、また來月の朔日は萬八で虛堂の展覽會二日がカウト寺島の梅隣亭で席畫の約束ア、うるさい〱實に高名家には誰がしたモウ〱名聞は廢すべし廢すべしオットト、、、、こぼれる〱

牛店雜談 安愚樂鍋 貳編上

東京市隱 假名垣魯文戯作



（原本貳編上題字）

二編換序

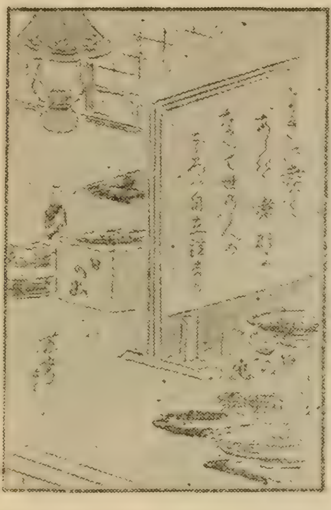
喘を問ふ宰相もあらず。羊にかへる王者もなし。大牢の滋味。煮燒て一鍋三百銅。角をぬかれ皮を晒され膽を乾さる、各國と交際は。汝を殺すが爲ならず。魯酒淡うして邯鄲圍る。更に災を移されたるを哀れむ。嗚呼天乎時乎。

芬兮成字題

西洋料理通跋

鴨の脛の短きも。鶴の脛の長きも。割烹の法を得。鹽梅の術を盡さば。豈憂ひ悲むことあらん哉。倩惟るに。莊周が獻立。伊尹が會席は。板前の淸く。俎箸の直にして。然も陰らぬ庖丁なれども。七五三代の古風に傾き。八珍九獻の當世に協はず。今哉外國の珍客。交際の佳宴をひらき。互市に盡す饗應も。萬里嬰を異にして。飲食の設け等類からず。然れども佳味の佳味たるは彼我同一なり。傳聞。我邦未開闢ざるとき。渾沌たる鷄の卵を。蛋黄わろしとて食せざるも。盛運星霜を經て進。淸る露は羮汁となり。濁れる殻は肉種となり。山海の珍味咄嗟に辨じ。精飯咽に煩く。美食口に飽て遠く西洋。佳味を餐遙に彼土の調理を學ぶ。善隣の徳大なる哉。偉なる哉。されば馬乘を畜ふ者も。鷄豚を屠り。伐冰の家にも牛羊を畜ひ。鷄を割に牛刀を用ひ。鶩を食うて吐出さず。時勢に從ふ新奇の膳部。この機に乘じて調ふときは。肉箸に。菜魚の泰山も崩すべく。食匙に。汁の蒼海をも量つべし。嗚呼萬物開化る時は。萬情互に通ずるの術。此料理通。三巻の天地人に籠れりとせん歟。依て後に一口を粘して。以て跋に換ると云爾。

明治新熟　北門社之食客



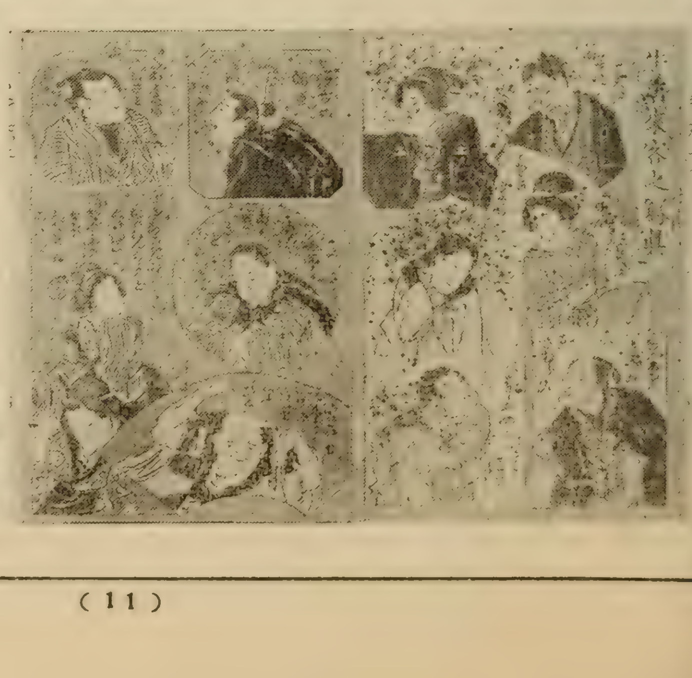
(原本貳編上口繪)

假名垣魯文漫題

傳染病の新聞に。賣弘めたる牛肉の。功能もむなしくならんかと。牛肉鋪の主人角を折り。肉を減しちからを落し。林涅爾孛斯土を病たる如く。豫防ぐ手術もなかりしに。他國は知らず掛幕も。あやに畏き我邦は。八百萬神達と。親類一家のよしみあれば。忽地例の神風に。吹はらうたる晴天白日。再び盛る牛店の繁昌。別て此頃吉原と新島原の立退に物いふ花の花川戸。賑ふ人



(原本貳編上口繪)



(原本貳編上口繪)

の山の宿。ふらるゝ宵もいとはずに。泥に踏こむ田町の素見。往も復るも流行の。牛肉で杯一ぱくつく腹組。牛の小便十八黨。むすぶ交り健児の社中。文明開化のざんぎりあたま。王政復古の惣髪頭。因循姑息の半髪額。歌妓は箱持の案内に屬。娼妓は引手の家婢にひかれ。老若男女の差別なく。此處に一評かしこにふたくみ。三人よれば呼出しの。揚代三十六匁。（當時改四十五匁）うしなふ智惠の割前勘定。腎藥もちひた經驗は。これから直に人力車。元地がわるけりや花川扉と。浮た駄洒落の口車。ちよんきなホイと押出す。あとはおさけと生の鍋。まづ先さまは一トきりの。替る替るの人心。所謂のぞき機關ならん歟。作者の口調は三馬々々〳〵（さてこれよりははんもんのしばゐていにはほなくでござい）そのため口章

チョン〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵

チョ、、、、、、チョン

○娼妓の密肉食

▲年のころは二十四五しやことかいへるあたまにむすびまへがみからいつすんはどうへのかたにかんさしずれにてはげなゆけさかだちうつくしけれどしぜんとこはらしくもつともいかつきせいらいなりるぬみちんのおめしちりめん一ッじゆはんはなにやらわからねどえりにきぬちどみのうすねずみにかりがねのもやうありおびにをとこものにてうやはかたのいつぽんどつこをぐる〳〵まきかつかうのわるいところをかくさんためちやじまのおめしちりめんきものとそでくちのあはぬにんてんをいくぢなくひつかけよほどゑひがまはりしと見えて目をすゑうでまくりをしてちやわんにてさけをあふるふうていたゞものにあらず作者かんがふるにこのをんな田町あたりへたちのきたるまじりみせのおいらんなるべしさいけんのくらゐづけは山がたにうろこ仲の丁のよびだしなれどもうはきものゝいなせづきにてとかく町がかへのとびのものやはんやものにおもひつくたちにてねんあきちかきとしのこうにきやくのあつかひもかうしやながらわるあしにいりあげてさしき着はいふにおよばずきやくからもらひたるだうぐをはじめざんのはかまをはいたさうげのはしまでみなせいさやす。つじやなどといふ七ツやへまげこみひとへものゝいちばいにてやどにくるまりやりくりさんだんにてますやから一作かりこみちやわんざけのあふッたりだいぶうしようかすみがへにごようがとかんがへさいちうあかい風がふいたのがさいはいで田まちのちや屋へころげこみいりわうじやに茶やのにようばうがきものとはんてんをかりこみちや屋の女中をつれだしていんねんのある客のところへおしかけてゆきなかやどにひとばんとまりてなにがしか小づかひをいたぶりたるかへりみちかつずつちうとふたりづれうしやへはひりてゆうべからのきうくつぶくろをひらきたるきままさけとみさたり「ネエおはねどんおまへのまへだが伊賀はんといふ人もあんまりひけふなひとぢやアないかこのせつかみがたから藝子とか舞子とかがたづねてきたのでわちきの處へはばつたり足がとまッたからそのはずぢやアあるけれどせつ〳〵とくるじぶんにやアヤレ身請をしようの親元へかけ合ツてもらひ引をするのとむりわうじやうにわちきのからだへ彫を付たり證文をかゝせたりしたくせにたるづけができたからモウようはねえといふふうでいたちの道をきつたやうでサ。こんどやけだされたからたづねてゆきやア留守をつかツて中やどのにかいへあげツぱなしの客人を見たやうにさん〳〵ばらまたせたあげ句がとりこんでゐてあはれないからいづれ茶屋迄たづねるからとサ。わちきやアあんなよとくれな奴をこれまで取とめたのはおツちやんの一件から、仲の町中のひやうばんもわるくなつたしなじみのきやくははなれてしまツたし自分がすゑしじう斷と定めて取ておきにしておいた作さんもだれかにしやくられたと見えて來なくなつてしまふし着物が無服で初會にもでられないしまつの處へ初會で馴染だから出てくれとおまへの處のおかみはんがいつてきてくれたからひけてからとこへまはつて見るとやアとこせの初坊がねつごやうをわづらツたやうなきやくじんでざんぎりのなかのよりツからしでしみじみつらうざんしたけれどおまへの内のお客だしことに初なじみだからとおもつて目をねむつてつとめるとはだしつツこくしじう手いたづらをしたりちからづくでおびを解イたりじつにたまらなかつたヨモウ〳〵あんな小うるせえきやくはつとまらないからことわらうかとおもふとたんへおツちやんのとこから金を五兩ばかりかしてくれろ駐春亭で頭取であひとの一座だから金がたりないでひよつとはぢをかくといけないからぜひ〳〵たのむとつかひをよこされたけれどアノ人にも是迄度々いれあげて質にやるものは小の町さん（の名なり）からあなめどん（の名）の着がへまでおきつくした處ざますから五兩ど

ころか壹分のさんだんもできやアしないわネしかしあの人も臘合なしやうばいをしてゐるからさだめしかほづくにもかゝはるだらうしまんざらくめんができないといつてやつたらはたらきのない女郞だとあいそをつかされるのはしれきつてゐるからじれツたくツて小の町さんにさうだんをするとあの人のいふにやアおいらんエちやうどいゝきれめだからできないといつてことわつておしまひなんし年もいかないわちきの口からしつれいざますけれどあの人とながくあひびきをしなんしちやアおいらんの身がつまるばかりでスからどうぞこれをさいはひにきれておくんなんしといつてくれたのざますからわちきもアノ人ゆゑぢやア茶屋しゆにやアあいそをつかされるお客はしくじつてしまふし四年ごしいい人にとつてゐた作さんまでなくなしてすツぱだかに成たからにやアたとひすみかへに出て小格子へ下ツてもあひとげようと思ひこんだものを今さらわづかの金銀づくであいそをつかされるのはざんねんでならないし。トいつてほかにさんだんのしかたもなし年季もきふにやア入れられないしどうしたらよからうと一寸のがれにあとからもたしてあげるからとつかひをかへして梅が枝のことを思ひだしてサ。ホンニばからしいわけざますが實間の手水鉢でむけんの鐘をつかうかとはしごをあわててかけおりるとたんへ伊賀はんが來なんしたから不圖おもひだしておまへのうちへはすまないがあひたいむしんをいつて五兩もらツたのをすぐに大音寺まへまでもたしてやつた急場の恩があるからそのばんは寐ずにつとめたもんざますからいゝ色をとこの氣になツてまいばん〳〵せつ〳〵に通てくるので日ゞの小づかひにもこまらないしもの日のしまひもしてもらふしざしき着もうけてもらツたりして仲の町へもあそびにでられるやうになつて一件にもたまにはあはれるのは伊賀はんのおかげだと思つていやで〳〵たまらないのを情人のやうにとつてゐたんざんすヨおまへのとこの客人をわるくいふのぢやアないが何處の女郞衆だつてあんな技助のうぬぼれをとりとめるものがあつたらかけざんすそしてふだんのやうすといやア麻風呂敷に茄子で〳〵といふことが蜻蛉にサの字いふ義ですおれのあそびかたはどうだのからだのと通がつてゐるンざんすが田印の青竹は牛に花りん糖ざんすヨ エヽいけしやアつくなやけたらたづねて來いといやアがつたくちをわすれやアがつてサしぶ〳〵で五兩ばかりな日くされがねをだしやアがつたからしやくにさはつてたゝきつけてかへらうと思ツたけれどなかやどのまへもあるからふしようしてもつては來たがこればかりなはしたがねをもつてかへツちやアしかられるンざンすヨオなんだエおはねどんおそくなるとエいゝぢやアないかおそくなりやア人力車があるからびく〳〵おしでないヨこれからかへツたらなり田屋かすみだ川へいつて正孝はんか民中はんをよびにやつてのみなほしをしまほうなんだエひら松か錦つるが。いゝとエわちきやアひらまつやきんつるはせかれてゐるンざんすオホ



（原本「娼妓の密肉食」挿畫）

ホヽヽヽ（こはかりがあるゆゑゆかれぬこととみえたり）サアもういつぱいこのちやわんでおあがりヨなにのめないとエ。エヽいやならわちきがのむからおよしひやでもいゝからモウ一本そして生でたべるのざんすからうすくきつたのをわさびじやうゆをつけてサアはやくいひつけておくんなんしエヽじれつてえしやくにさはるよウ引

○半可の江湖談

▲（としごろ三十だあくぬけのした人物ながらとかくきいたふうのわるくちうせずなんでも四もんのうき世ばなししつたぶりをしてをりをりはぢしめられてもかへるのつらへ水なりなりのこしらへはいちいちうるさければ畫めんにゆづりてくはしくいはずみなさまよろしくさつしたまへこれも一座二人づれなり）「エヽモシ友先生當時の形勢はおひおひひらけてきやしたが商法第一の世界になつたから此方づれのなまけ者は廢されるわけだネおたげえに漢語通に因循家だとか舊弊家だとかいはれるのだから大きにりうかうにおくれてきやしたがにはかにざんぎりにもなられず洋ふくのさんだんもできねえから半髪あたまをたゝかれてゐるのだがじつにわうらいをあるくにもかた身がせめえやうだョなにか物ほしさうに洋巾で張ツた蝙蝠傘をつきたつてめりやすの筒袍をはだに着て一六日にたちのきをひやかすのもあまり拙なわけだからきのふはぐつと大ひねり酔どうふで誘へるつれはたれぞといふに諏訪町の炭俵ヨソレ河岸のすみやサ彼は圖南の門人で書體も可なりにできやス俳諧もさうおうにやりやす彼人と倶に薪炭をつみこんで河岸へひいてきた大八車へ『フランケット』をしきまうけて是へあひのりをきめやまの車力兩人をやとひこみのおしだすところはくらまへ通り人力車の往サ來るサ目まぐるしい中へ。ヘンサカホイでひきだしたら世間億萬の俗物めらがおどろきものゝ木さんしよの木あざけるやつらを耳目にふれず大通りを馬喰町へかゝツて魚店から左へまがり横山町を直路に本町室町から〳〵わたるのオが日本橋夫から高なは十八町牛の小便だら〳〵きふに鐵道見物おとまりはぜひ南品といふところを連にひかれて無事に歸宅サどうだこりやア近頃のひねりだらうトキニ斯牛豕が行はれちやア天ぷらのたねにつかふとこがありさうなもんだがそこまでにやアいたらねえがこりやアきつと奇妙だョてんぷらといやア出揚の扇夫が故人になつたさうだがかれも東京の名物ものだをしまるゝときちりてこそとはいふけれどかれなぞはをしむにもあまりある人ぶつサ三題噺は正行流で嗚呼執心汝の馬鹿と田町の湊屋に美名をのこし狂言は鶯流で凹齋仁右衛門の直弟なる事是はこのあたりにかくれもないし清元はお玉が池の太兵衛直傳。一中節に靜太夫の名前あり石切がしの是眞老人をごまのあぶらの烟にまき久保町の多賀屋から萬年町の龜水子までをころもの粉でかきまはした手際はなかなかのうで前サネうでといやア喜三郎の活人形がおひ〳〵番數がそろふが彼奴は當世の左甚五郎だネ人物を見ると極質朴だが細工にかけちやアおそらく日本一だらう日本一でおもひだしたが東京中の寶をあつめて淺草のおく山で博覽會をするつもりだからそのときせわにんになつてくれろと小林椿岳先生と平瓶雷先生にたのまれたがイヤはなやしきの地つゞきもあのてやひが住みやアおひ〳〵ひらけてにぎはふだらうオ　おめえへゞらい先生をしらねえかソレ寫眞好の北庭筑波といふかはりものョにん間もイサ葉だとがらせいおもしろ味があるなウソレおめえも附合ツたらう横山町の大又ョ彼奴が道了さつたの開帳で蹴鞠の見世物を周旋して金かたをけちらした滑稽があるョ出方のものが辨當の手あてもねえから大又をさいそくしたら鞠沓をみんなのまへへはふりだして脱走してしまツたのは沓でもくらへといふなぞだといつたのは大わらひのはなしぢやアねえかはなしといやア小さんがよこはまでむらくと改名したとこか



（原本「半可の江湖談」插畫）

らあを木のせきで青海原沖津白波といふ外題を出して遊女汀江まぼろし小僧新吉の傳をはなしたところが五百六百づつまいばんの大入で實入がしつかりふとつたはらがふくれたとこから浮氣になツてある後家鞘へ所持の山がたなをはめこんで面でばかりはいろはしねえ腕だ〳〵と綱が羅生門からみやげをもつて歸ツたやうに東京へ來てほのめかしてゐるあとからみぎの後家どのが追ツかけてきてとつちりとんまな目にあつてたかイ座料でおちになつてはなしの市がさかえたさうだがイヤ世の中を見わたすとさまざまな新聞があるものだネ。ダガの自己ぐれえりうからをうがちやア戲作者や狂言作者ならたいそうな新案ができるのだぜ一昨日地內の河竹が來てなんぞ新きやうげんのたねになるはなしはねえかと買出しに來ると思ひなせえそのあとからすは町の魯文が西洋栗毛のたねになるちんせつがあるならきかしてくれといつてくるシよこはまの活板局から每日しんぶんをさいそくにくるしあんまりせけんを博くせんさくだてをするとヤレ博識だの物知りだのといはれてうるさくつてならねえぜオイ〳〵友先生コレサおれにばかりしやべらして猪口はどうするのだナ。オヤ〳〵ゐねむりか酒はつもりにしてめしにしようぜコレサぼんやりしずにモウいつぺえやらかしねえオイねえさん酒と牛肉のかはりだかはりだ

牛店雜談 安愚樂鍋 二編下

東京市隱 假名垣魯文戲作

○歌妓の座敷話

▲としごろは二十八九のまちげいしやあくぬけのしたたちいぜんはけんばんの下地ツ子よりいでてやなぎばしからさんやぼりこんばるにすきやまちをふみてきたるせんぢやうはかずのたつしやものなかごろとうけいにふけんしきなることのできたるよりたびかせぎとでかけなかせんだうはくまがいからおしのぎやう田をへめぐり上しうまはりをしてきりふにとゞまりそれよりひとたびとうけいにもどりよこはまをたゝきふか川のまじりいろぢよやのうちげいしやをもつとめたるうみにせんねん川にせんねんかふらをへたるけだものこのごろあさくさのひろこうぢあたりへでてひろめをなしチトふけたれどすねんのこうにておしまはす大ばくれんざしきがへりをはしけてきたと見えてなにどんとかいふはこなはしをつれきかへのまゝにてかねてこのむぎうにをくひにきたるなりさけはもちろんたいしゆにてのめはのむはどいろあをざめゑひがはるにしたがつてもちまへのでんぽふのしつぽがあらはれたてひさになりていろけもなくぐい〳〵とあふるなり一巳のどんわちきやアはまにゐたじぶんいつでも異人館へざしきでいつて牛といふものを食つけたら此地へかへツてきても三日にあげずたべないとなんだかからだのぐあひがわるいやうだヨこのうちの肉もずゐぶんいゝけれども濱で居たてを料理番がにんじんと混雜煮にして湯煮をしてそれからほんとうに煮たのをたべちやアじつにこんなうまいものはないと思ふヨわちきもはじめはきびがわるいしこんな物をたべちやアかみほとけへ手があはされないことといちづに思ツてゐたがお通辭なんぞのはなしをきくとけしてそんなわけぢやアないとことがらが譯ツたからたべはじめたのだわネ此あひだ壽仙へわちきのしつてゐるシャボンさんといふ異人さんが來て牛肉をもつてきてげいしやにたべろといふと一座がおたまさんにふく松さんに小みつさんにおらくさんサみんなが異人なれないもんだからいやがつてにげてあるくのをおもしろがつておツかけちらしておらくさんをつかまへてむりにくちのはたへもつていツたもんだからおらくさんが大ごゑをあげてなきだしたわネさうするとみんなが異人さんをとめて牛肉をペケにさせよう と思ツてサよく〳〵見るとうしぢやアなくツ


（原本「歌妓の座敷話」插畫）

て牛皮のお菓子だらうぢやアないかさうたいいまのわかい藝者しゆうはふざけてゐるわネちつとおきやくにからかはれるとなきだしたりざしきをもらッて歸るのヤレあのお座敷へはでられないのとサ何處を押やアそんな音がでるだらう藝といやア座付がすんで三さがりから二上りどどいつに角力甚九がはなれちやアかつぱがをかへあがつたやうで梅はさいたかもけいこ中のくせに客のえりきらひをしてすこしむかうづらがいゝと自惚きつて三みせんの胴へまくらがみをあてがふさんだんばかりをしてたまに澁い客の座敷へでもでて三絃なしにうき世ばなしにでもなるとあくびをしたりたゝみのちりをひねッたり兒守子がおとぎによばれたや。にざまはないヨお客がはうたをうたふとか一中ぶしをかたらうとかいふとはるさめやわがものもしまひまでまんぞくにはひけず夕がすみも『まだそのくせがといふカヽリの處ばかりでくらべぼたんも『いちばいしほのみちのべにちやうちんあれどこひのやみで。おしまひサそれでげいしやもねえもんだわネわちきなんざア十三のとき北廓でひろめをしてやかましい合しゆにひきまはされておざしきのたンびにばちのさいじりでコツコツやられたりもゝをそつとつねられたりいぢめていぢめていぢめぬかれたかはりにやアたいこから二ちやうつゞみをどりは花柳の出げいこと西川へかけ持のけいこサ清元は山谷堀の延津賀さんに通ッてもらふ長うたは彌十さんに來てもらふ一中ぶしは代地の序遊さんの弟子になる義太夫は岡太夫さんにをそはッて十四の春金子でさらひのあつたとき男藝者衆にこのまれて三味せんをひいてやつたようた澤ぶしは虎右衞門さんや芝金さんをよぶにやアおッくうだからとかかへられた內ゞいふからそれでもしらないぢやアくやしいと思ふので中尾やの美佐吉さんの處へいッてをがむやうにして數はつて三十番や四十のはうたはおぼえたのサそれだから町へ出てから柳ばしでも堀でも下谷でも金春でもげいしやひととほりのことはつとめたからこんな場すゑへながれてきてひい〳〵げいしやとつきあッてゐるのはおそれるけれどばゝアげいしやになツちやア氣がひけていひたいこともひかへめにしてゐりやアいゝかとおもやアがつて鷄卵のからがとれもしないおきやアげいしやのくせをしてなまきゝなくちをきくからをかしくつてたまらないわネしかしげいしやの沽券もさがッたがいまではおきやくもふけんしきたヨやうやく二ほんか三ぼんの玉を買ふとぬすみばかり賣らしたがつておざしきでなけりやアふだん着のまゝでいゝからちよつとあいさつに出てこいのヤレしんるゐ附合で一日柴又の帝釋さまへでかけようのといろ〳〵なねつをふいておくりおほかめのやうに轉んだら食はうとばかりねらッてゆだんもすきもなりやアしないヨ町人のとほりものがッて何處町さんだとか又俳名だとかを名のるちよびすけ（きいたふうなるをいふ）よりいつそざんぎりあたまで甚九もちきりのおきやくのはうがしまつがよしわたりものもきざまないからげいしやア料理やのためにやアいゝけれどもおなじざんぎりの

なかでも書生さんは人がわるくッて唐人のお尻がおほいねえ一六のどんたくに五人一座でげいしや一組ぐらゐを柳半か藤本へよびあげてらんばうにさわぎちらしてどろんけんの揚句がむかうの寫眞屋(淺草廣小路三ツ木與二郎)へみんなをつれておしあがつてげいしやとも七人いちどにガラス一枚へうつさしてお茶やおくわしをさん〴〵あらしてサわちきたちが後で先生へいひわけをするのがどんなにつらいかしれやアしないわネモウ〳〵げいしやもさきが見えてきちやアあがッたりだヨホンニいんぐわしやうばいでいつまでもうだつはあがらないとおもふからこれまでたび〳〵見切ッてあしをあらッたが亭主をもつてびんぼふでもするとこんなしみッたれな所帶をはるよりはいつそげいしやがましだらうモウ二三ねんうはうはしてくらして見ようと引まみえをしたり鐵漿水をみがきおとしたりしてひろめなほしをしたのもたび〳〵だが何に成ッてもぬれ手であはをつかむやうなことはないねえホンニサげいは身をたすけるほどの不仕合とやらで川はぎは川ではてるわネオヤ巳のどんおまへモウごぜんかなんだネまだい丶ぢやアねえかモウ一杯おのみといつたらモシねえさんアノごめんだらながら生でたべるのだから精肉をうす切にして山葵醬油をつけて二人前おくれヨそしておてうしをごくあつくして三枚でもつておいでついでに五分葱とお香のものをサオヤ〳〵むかうにゐるざんぎりはきのふ八百松でよばれたおきやくだヨ間がわるいねえ巳のどんつい立をこつちへよせてわちきのかげをかくしておくれどうしたらよからうエ丶かまはないチェッ知れたらしれたときのことサねえ巳のどん

〇文盲の無益論

▲としころ四十ぐらゐ居じよくていの男ほかにだうらくはなけれどまいばんぐんだんのせきにせめかけぜやうれんのうちに入りかうざのきはへつきてかうしやくしがいきつぎ中入のあひだにはなしなどしかけなにもしらぬくせにつべこべとくちをだ丶くみありしかしいろは四十七字がやうやくよめるほどのあきめくらゆゑすきにてわかんのいくさものごとなどきいてもみ丶からみ丶へぬけるうちのたのしみなりなれどもすこしはき丶かじりてつれのをとこにはなしかけるつれの人物もどうきもとなるとめぬどしか丶ぬどしはゑよき陪シ相手也「安さんおめえはとかく柳橋やゑんてうのつゞきばなしがすきだけれどチト講釋のはうをきいて見なせえそりやア天下の御記錄よみだから又おとしばなしなんぞとはちがつて實があるネこのせつ駒形の席へ晝は伯圓夜は燕尾が出るがなかなかおもしろいぜおとしばなしもをかしくつていゝけれど根がこしれえものだからきいてしまツてからはゆめを見たやうな心持だがそこは實錄のみつしりした徳にやア太閤記でも後風土記でもがうせいな物だヨちよつとした處が太閤秀吉公の智謀なんぞといふものはすばらしイネうまれが尾州愛智郡中の中村の百姓筑網といふあみうちの漁師の子でサおふくろさまは在郷中納言エ丶なんとかいふ公卿のむすめサオ丶それ〳〵藤原の行平あそんサ此あそんさまがネなにかしくじりがあッて須磨の浦へながされたと思ひなせえその浦の汐を汲海女となれそめてその腹へできたのが太閤さまのおふくろサだから後に前の關白大名大盡といはれるほどな子をうんだのダだが因縁といふものはこはいものサネそれからその公家のむすめをおふくろの海女が手しほにかけてそだつた處がてゝなし子だもんだから土地のものがばかにしておめえのとツさんはなんだ〳〵とからかはれるとそのむすめが。あまが子なれば父もさだめずといふ歌をよんだもんだからなるほどくげのおとしだねにさうゐねえとみんながかんしんしたらうぢやアねえかダガ歌といふものはがうせい徳のあるもんだとこの間花淸がかうしやくのひき語にいつたがちげえねえぜやけどをしたときにやア。さる澤の池のだいじやが水まして。いたまず火滅すひりつかずあびらうんけんそばかといふ歌を三べんとなへりやアそくざになほるし針がなくなつたときにやアソレ。清水の音羽のたきは

つきるともうせたるはりのいでぬことなしトこれも三べんとなへるとすぐに針がでるといふからふしぎぢやアねえかふしぎといへば道灌山の螺拔ヨ彼所を道くわん山とつけたのはむかし太田道灌といふ人が城を築イた場だからサ。そこでその人がつねにいくさに用ひたほら貝を天下泰平に成たから山へ埋てしまッたのがだんだんそだつてごんどぬけ出して天上したといふひやうばんだがこりやアありさうなことだネ何道灌も歌をよむか。うたをよむの侍のごん八ぢやアねえのじぶん大ひでりがあッて靑天六十日の間雨といふものは一トつぶもふらなかッた時相撲のたいこをかつぎだしてドデフル〳〵とたゝきながら三めぐりの堤をあッちこち雨乞をする處へ道くわんさまがゆきあはせて。いそがずばぬれまじものを夕立や田をみめぐりの神ならば神とよみあげてみめぐりの稲荷の御神前へ



(原本「文盲の無益論」挿畫)

納めると今迄はれわたつたそらが一めんにくもつてきてたちまち大あめが降出したもんだから道灌さまもぬれしよぼたれて關屋のさとのある百姓家へとびこんで雨具をかしてくれとたのむとうちからきれいなむすめが山ぶきの花をぼんへのせて持ッてきてものもいはずに出すとそこはもの知りだからかんがへたネエ、萬能集とかいふうたの本のなかに何とやらしてやまぶきみのひとつだになきぞかなしきといふ句があるさうサそれを引語にして蓑一ツもないとことわつたのが藪にも功の者百姓のむすめでもばかにやアならねえわサやまぶきといふ物は花がさいても實がならねえからこのことをひきだしたのはおそれいつたもんぢやアねえかだから理づめほどこはいものはねえと思ふヨこはいといやア此牛肉は仕立だと見えてだいぶこはいぜコウコウあンねえすきやきにしてモウ一鍋はやく〳〵

○人車の引力語

▲たうじひらけし人力の車力二人ノれきのふきんぢいゆきのながれ丁はにてしつかりとせしめたるはねやすみからだのやしなひにうしをくひにきたると見えひとへものの下タへ白きつゝぽうをきてうしのすゐとふけのあたゝまりでさむさをわすれりやうはだをぬぎつゝぽうのはだぎをあらはしたるてい圖のごとし太郎八やわんでさしつおさへつよほどどふんけん「力やおらアきのふほどほねのをれた仕事はなかッた　あさッぱらしんばしまでいそぎの仕ごとで淺草見附から貳朱と二百のたちで引て行と褌ぎはで下りたから歸りをのせて來ようと呼かけてゐるとおれがめえかた赤岩に居たじぶんなじみのてんま町の唐物屋のばんとうがとんだ合羽のきやはんがけでやつてくるのを見かけたところたしかによこはまのかひだしと見うけたからモシ旦那おひさしぶりでござりますとこゑをかけるとオヽ八公かひさしぶりだのときにいまから大いそぎで川ばたまでやらねえかといふからねもきめずにすぐにのせたわそこで腕と車のつゞくだけいそいだところ晝めえに川ばたまで着と大きにごくらう思ひのほかはやかッたと二分の立前に酒手が貳朱ときたので半日仕事に三分あまりヨそれから大森まで引けえして山もとで茶づッてすこしくたびれたからぶら〳〵引けえすと跡から來た客人はこれもおなじく濱の歸りらしいこしれえよ足元のゆるんだ處をやりちげえに見つけたから旦那淺くさまで歸り車へおめしなせえやせんかとすゝめかけたら見附までいくらで行といふから何サ仕立の歸りでござえやすからいくらでもおぼしめしとやッつけるとそんならいそぎで貳分やるから田町までやつてくれろとのりうつるがいなやいさくさなしにはらで着當をきめて七ツめえに田町のつきあたりから右へまが

つた口 中村やをかくとなふ といふ茶屋へ送りこむとやくそくとめえておいらんがしまツてまつてゐて見勢さきにはり込ンでゐたもんだからさか手が壹分サモウ一兩の立になつたから輕車でけえらうとするとにしのみやのかどでけえり客がかゝツて貳朱と四百でりやうごくまで引イてきたが内へ歸ツて湯へ這入て一合やるとがつかりしてとこもしかずに寐てしまツたがけふはうできさとあしのうらが痛えやうだぜイヤ仕事のあるときやアめまぐるしくあるけれどあぶれるときにやア朝ツぱらから立場にまごついたり相談のできかゝツたきやくにペケにされたりたまにかゝツた仕事もくさびがぬけて乘賃を踏まれたり大ぜいでくじを引きやアのこりくじにばかりなるし實に渡世はくるまのまはりあはせだぜサア力かんが直ツたかはり目だハテサ呑めといツたらオツトこぼれたかこりやアごめん〳〵オイ



（原本「人車力引の語風畫）

オイねえさん牛肉のかはりをたのンますヨ〳〵

○覆古の方今話

▲カケ合 一人はとしごろ四十あまりのそうがみおめしちりめんの小そで黄八丈の下着くろらしやに白らしやのもんどころおかせたるわりばおりせんだいひらのうらつけはかまを着しぎんごしらへにきんはくのめぬきあまりながからぬにちひさがたなをそへてさしたるはいづれの侍藩かの公用方とおぼしくつれの男は町人ていにてこれも四十あまりしまのはおり花子はないろもめんのうらつきがくうらとは見えずこんのめりやすのもゝ引白たびとくまじめなこしらへいぜん出入の町人と見えとちうにてゆきあひどうだうしたるやうすなり

町人⑪「だんなさまはちかごろ牛肉をお用ひでござり升か 士▲「ハイ僕なぞも矢張因循家のたちであまり肉食はせなんだが一昨年大びやう以來西洋家に治療を受てからすこしづつ用ひて見たら終好に成ツて當時は三日用ひねば工合がわるいやうぢやから當店から每度取よせて常食どうやうにいたすテ ⑪「へゝエそれは結構なことでございますわたくしなぞもよい年になりますまで肉食はけがれるものとおぼえましてとんと用ひずにをりましたが御時世につれまして此味をおぼえましたらわすられませぬが當夏の新聞に出ましたリンテルポーストとやらの傳染病がおそろしさに昨今までやめてをりましたがあの說は外國だけのことで日本へはわたらずにすみましたと見えますテ ▲「ハイ家畜傳染のやまひとあるからわれ人ともに恐縮はいたしたものの活た牛を屠て食のぢやから當節とてもあやまちはないはずぢやがイヤ牛店は大きに困迫いたしたらうてアハゝゝ ⑪「さやうでござい升せつかくひらけかゝツた牛肉も傳染病のふうぶんで大きにけい氣をおとしましたが此せつはおひ〳〵さやうならはさもうすらぎましてかやうにはんじやういたし升が諸色高直な時せつがらゆゑ食店なぞもあきなひにくうございませう ▲「イヤサ物の價が高直とはいふもののよく思へば高イのでないテ元來近年までは金銀銅鐵の精密な比例も知らずに鐵錢銅錢入レ交て大きいちひさい區別なく波形があれば四文通用とこゝろえ金銀貨幣もおなじことで銘さへあれば貳分は貳分一分は一分そのかたちの大きい小さいに不關係かるい重いもとんぢやくなく定座のしるしでありさへすればおなじことでふきかへのたびにちひさくなり性もおひ〳〵わるくなつたを開化文明にしたがツて人も漸次に伶利になりりこうにすぎて姦曲をめぐらすものがでるぢやからそのまゝにはすておかれぬテところで古金から四文一文の銅錢までその比例が出來たのぢやこの比例をかんがへれば騰貴とて如何程のこともない今日の形勢を見ても分明が第一は朝廷のおすくひや洋 米の御蔭とはいひながら米が貴いとて餓死するものもなくさけがたか



（原本「覆古の方今話」挿畫）

くともなまゐひが多イぢやテ食うたりのんだりできればこそ百に一升の米食うたときもやはり零落た者もあつたから隠賣女夜ほつをする徒は全體おのれが淫亂ゆゑ自己と我身をくるしめるのぢやとかく東京は繁花にすぎて奢侈がつよいぢやから裏店にすむしよくにんどもの妻やむすめなどが紡績の工はすこしもこゝろえずうたじやうるりやをどりなどの遊藝のみをこのんでびんぼふかくしとはいひながらちよつと出るにもお召のはんてん織物やはかたのおびを纏芝居寄席觀物場が見たいまゝ神佛の參詣をかこつけ口に美食をこのみ終に夫の身上を食倒すぢやテすべて衣食のおごりはどうかひどく禁じたいものぢやテ　トこのはなしのうちちよくつとりやりうしなべをくふことありとしるべし　㊥「仰しやればじつにさやうでござい升スせんこくのおはなし通りきん〴〵の比例をかんがへて見升れば貴いやら賤いやら條理がわかりませぬ先手近いところで愚案いたしますれば舊八文の浴湯錢は當時四十四文と申ながら文久錢と鐚がまじればもとの十文でございますから二文たかい勘定青錢なればいぜんとどうやう十二文錢なればもとの四文で四文つりをとるゆゑはんぶん直よりやすいわりでございます又髪結賃もその比例で丁度半ぶん直。ト申て當百錢ではらへば六倍になり升が米は大都十二倍布帛るゐは六七倍ゆゑおなじわりにはまゐりませぬが工匠の作料諸職の手間もみなそれ〴〵にあがり升たゆゑ米がたかいと申てさほどにこまるはずはござりませぬテわりのわるいは乞兒ばかり鐵錢より餘やるものがなく文久を與れぱつりを取りますが無勘定のひとは靑錢をもやることがござりますからどうか入レあはせになりませうハヽヽ。デござりますが東京もおひ〳〵華族さまがたがふえて御永住になるといふふうぶんでござり升ゆゑ曩昔のはんじやうにたちかへりませうかいかゞでござりませう。△「されぱサ一寸さきは闇で僕などが淺智に分ることではないが設令華族方が東京住居になられたとて是までのやうにはなるまいとおもはれるテ先街道々々の大通りの分は依舊にして裏町々々の偏鄙な所は眞中へ一集にまとまツて跡は開墾が出來茶園桑園に成ツたから七八年もすぎたら製茶蠶養がさかんになつて老少婦女子のよい職業サやがて人手がたらぬでこまるやうになるであらうそのときには百人千人がするわざも一ツの器械で便ずるやうにひらけるには疑ひない斯なつてこそ眞の繁昌サ國産多きは國の富ぢや。僕も昔は和漢の書をすこしばかり讀いたけれど横文字ばかりは大きらひ鎖港攘夷の説を唱へたが斯まで互市がさかんに成ツては外國の實情を知らぬもふじいうで嫌うた事をくやんで居れどさりとて白髪をいたゞきながらエビシをまなぶもはづかしいゆゑ譯書だけを讀でかの國の事情はすこしわかツたから以前の説を覆甦にして開港互市にあらざれば富國強兵の策なしとおもふところになつたぢやテそれに東京ばかりぢやない諸國とも茶や蠶紙や白絲や産物が増殖て互市が益さかんになれば　皇國の富となり富ば大砲や大艦も自由に出來るは知れてあるから地球の中の

強國となるとおもへばナントたのもしいことではないか東京が不景氣ぢやの寂寞の醉ぢやのこんにやくぢやのと云のは理にうといやからのいふことぢやテ 御仰を伺ひますれば實にさやうでござい升わたくしも老の學文に飜譯書でもよみませう實に西洋流でなくては夜があけませぬオヤ〳〵とかく申うちパッタリと日がくれましたモ一ツめしあがりましてあとは御飯にいたしませうコレ〳〵あねえなまのかはりとおかんのよいのをそして鍋が煮ついたからとりかへてくれないかへイ〳〵これはおそれ入ますオットホヽヽヽヘイございます〳〵

牛店雜談 安愚樂鍋 三編上

東京市隱 假名垣魯文戲著

序

種痘ハ天下ノ仁術肉食ハ萬民ノ滋養ナリ故ユヱニ牧牛ノ國家ニ益アル豈他獸ト等シカランヤ方今開化捐ク進ミ市井ノ細民ト雖モ牛痘牛肉ノ世ニ功アルヲ知ルモノカラ隨ッテ醫治ヲ全シ億兒百歲ノ壽ヲ存シ從ガッテ食料ヲ調シ衆庶健康ノ體ヲ保ッニ至ル今日ノ僥倖何事カ是ニ如ン此頃魯子ガ著述ノ小說安愚樂鍋三輯ノ稿ヲ披閱シテ談笑諷諫ノ筆意ニ感アリ小道トイヘドモ見ルベキモノアリ嗚呼談何ゾ容易ナラン依リテ簡單ニ一言ヲ贅シモッテ感讀ヲ謝スルト爾云。

于時明治第五年壬申ノ孟春吉旦
東京淺草金龍山下ノ旅店駿州屋ノ
小坊ニ於テ陸中國水澤ノ藪醫
臥牛散人 小野涼亭記之

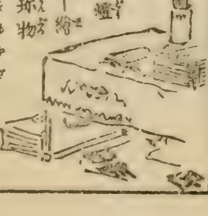
告條

梨園の立見。一目に充ざれども。俳優の藝頭を慥に評し。花街の素見。一夜に盡さゞれども。娼妓の品定め。殆ど委し。銀箔の月明鏡きにあらず。物言花手折し事なし。或は戲房に不入して。三階の事情を穿ち。又は三蒲團に坐さずして。青樓の艶情を究めんとする者は何ぞや。往昔所謂半可通。當世渾號て生聽連。此境界を遁れざる徒。化して戲作者と變れるより。我輩栞が輩に



和漢西洋 澤行情態文作道場
東京淺草諏訪町 假名垣魯文製
○治亂興廢狂言綺語
○内外小說時代世話
○江湖新聞滑稽奇談
○序跋文章略傳撰詞

○此他詩歌連俳諸流の
新淨瑠璃長唄端唄
口上茶番神祇祭禮の地口行燈



（原本三編上卷頭挿畫）

傚ひ。翠簾屋臺。金紙戸の涵割に。詰開きの演說。紋切形を塡詞み。鳳凰臺大中小の原訛り「アリンス」「オッス」の茶表紙を生捕る。如斯生熟きいた風。似た山連の我殲くが。芝居評判花街の情態。著述に儕倖襲客あり。讀まぬ同志書かぬ同志。犬も進步ば瞽者の棒頭。文盲千人。筆硯萬福。活業名利名聞と。利欲を兼し文人商側。作者の障落の戲場木戸と。小娼格子の安店を。改正再開たる堅固鋪毎日在宿休業なし。日限の註文お急ぎ合點。心得違文長編なり。も。御間に合せとりも。もとの章の假名釘も。是天性の役割番附。下手の長文ながながしく。身の爲告條さやうと爾云。

歌舞伎作者花笠魯助が遺弟子
花柳巷日洗私塾の同社中

青陽山人　假名垣魯文伏稟



(原本三編上見返し)

當世牛馬問答

馬「牛公ひさしくあはねえうちてめえはたいそうしゆつせしてらしやのまんてるにずぼんなんぞですつぱり西洋風になつてしまつたぜうまくやるな　牛「オヽ馬かてめえこそこのせつはたいそうりつぱな車をひいて一六にやアにぎやかなとこへばかりどんたくにでかけるさうだがうらやましイぜおれたちはうし〱とせけんでもではやされるやうにはなツたけれどホンのみやうもんばかりでうまれてものごころがつくかつかねえうちにはなづなをひかれてつきぢや横濱へ身をうられたあげくが四足をくひへゆはひつけられてポンコツをきめられてヨにんげんのはらへはうむられてじつにふさいでしまふわけサ　馬「イヤさうでねえぜんてえ手めえのなかまはたかなはのせんばや大津のしばやまちあたりでくるまをひく身の上ぢやアねえヨてんたうさまからにんげんのしよくもつになるやうにこのせかいへおうみつけになつたのをまだにんげんがひらけねえところからなりがおほきくツてつのなんぞがはえてゐてちからがありさうに見えたもんだから重荷でもしよはせようといふおもひつきでこれまでこめだはらをつみこんだりさいれいのねりものなんぞをひかせたのはまつたくにんげんのこゝろえちがひだ國はひらけそくなつたくにだけれどうしはものをつみはこびをするけものぢやアなくツてひとのくひものになるものだと心得てゐたから大牢のじみだのばつぺうのいへには牛家をかはずだのといツておいたたらじ開化とやらの世の中ぢ


(原本「當世牛馬問答」挿畫)

やアにんげんはもちろんとりけものでもすべてしやうあるものはそれ〴〵御奉公をせにやアならねえとある先生がおつしやつたのを馬の耳に風にしずにきゝとめておいたがてめえのなかまはにんげんにくはれてばんもつのかしらのからだをやしなふのが天への奉公ダポンコツをきめられて人のはらへはひりやアてめえたちのやくがすんでちくしやうのごふがめつして人間に生れかはるだうりぢやアねえか人間でたとへようならしんばうしとげて旦那からのれんをもらツて出店をひらくのだぜハテサねんがねん中わらやあづきのから斗くツてねてくらすよりは天への奉公を勤上て畜生だうのくるしみをさツて人間かいへ生をかへる方がよからうとおもふぜこちとらは人間の口へはひらうと思ツてもたれもくツてくれずまだしも赤馬にかさをかいた者が藥にくふけれどそれはたまの事だからごふのめつしる時はねえ　牛「さうきけばなるほど尤だモウモウぐちは云めえアヽ牛のおもでねえ

○商法個の胸會計

▲年ごろは三十一二あかぬけは見にばかりであらひはりがさかずとふるやへ[illegible]らんしてふうぞとうさんの二[illegible]子がりらん[illegible]じ[illegible]の

あらひはりなした袷おりに上ハ着はおなじくとまかなじまにまがひさらさの下ノ着おびは江戸はしの[illegible]くらやで三方ぐらゐはずんだと見ゆ目だたぬふうぞくながら[illegible]んかはのそで時斗をくりにかけしと見えてくさりのをり〳〵すらつくは[illegible]ミウトをあらそふ商法[illegible]と見えたりつれのをとこもおなじはんにいとんびごしらへかうもりがさを持ざんのていをり〳〵よこはまへかよふらいのあきうどなるべしとおもはれそり

「商兵衛さん牛肉は横濱のことだが此家のはずゐぶん食へるねえおいらア知己だけ亭主が並より氣をつけて極新らしいのを食はせるからはじめての牛店なンぞへはめつたにはひらねえヨ此あひだ芝で十二字すぎになツたから腹が減てたまらねえ處から或る牛店へはひツたところが店のかゝりを見るといかさま今月のはじめまで鰻の蒲焼骨抜どぢやう柳川流の出來合店を牛肉に押れて牛は牛連れと出なほしたと見えてイヤ事馴ねえで下女なんぞがからツきし半間で五分葱をくれろといふと昆布はござりませんノ生をちうもんすりやア鷄卵を持ツて來たりおまけに肉といやア日向へ乾たこつぱを見たやうにカラ〳〵して筋だらけでいくら噛んでもちぎれねえ古臭くなツた老牛を食はせられたので替りに手を付ねえでかんぢやうをして飛出したが實に牛肉ばかりは日増はまつぴらサしかし福地先生なんぞは古臭いのが可といはツしやるが素人口ぢやア屠て二日目あたりが最上ダネ最上といやアこんどあめりか十八番から引取ツた羅紗は綿なしの上物ダが十行李まとめて賣てえもんダが急に買手はねえかネ何サ店で小賣にさせりやア百間ぐらゐはまうかる品物だけれどおいらア一寸神戸まで船行て來てえから爰で代物を楮幣に引換ねえぢやア都合が惡イからサエヽ商さん南京米が築地のある商館へ千俵ばかり着たがどうだおめえ買はねえか何まだ下落するとウヽ其處ダ賣主の異人も日本がこれほどまで下りやアしめえと思ツて積込ンで來たところが香港でしけをくツて久しく逗留してゐたうち日本相場が下ツたもんだからがつかりして當時闇ツておくつもりのだが彼奴等の目的でもまだ下るとふんだから損毛承知で賣ツてしまふ了簡だから其處へ附込ンで性一ぱいねぎりつけて買落す策があるヨ其代り周旋が欲藏だから一わりの分ぢやア承知しめえが其處はよみと歌タおいらが半口のるから欲藏を周旋さしちやアどうだえナニ油を買ツたとえコウ〳〵地水へ手を出す時ぢやアねえぜそれよりは赤銅を買ツて見ねえか此間函館から利助が歸帆てきたが彼處ぢやアたいそう異人が買ヒ込むといふからぱつとしたえうち買ヒ込むのだぜおいらア神戸へ行かねえと爰でいくらも買ふのだけれどコンペイニがさきへ立ツて居るからどんな利易が降ツて沸かうとも爰ぢやア手を廣げることができねえから殘

念ダナ二 神戸は格別の大商法といふのぢやアねえがちつとばかり目的があるのサ住くいけば一しほのおなぐさみだがまづ損はしねえつもりサそれに今年は是非上海か瓜哇あたりまで航海してみつしりとまうけるつもりサ何ンでも大商法は洋航しねえぢやア大利がねえから去年あめりかの『サンフランシスコ』の博覧會へ行くつもりだツけが吉原の立退へ引ツかゝつて大散財をしたのでとんちんかんとなりにけりサどうか二三年の内に世界中の繁昌な港へおし渡ツて大六や伊勢勝なんぞにもおとらねえ身生に成ツて濱の高島やの上を越して一年に十萬兩ぐらゐなお易を上納してえもんだとこゝろがけてゐるのだヨハテ人は大きなことをのぞまねえけりやア開化の人物ぢやねえヨ酔てほらをふくのぢやアねえが是までおいらが見込んだ商法に五分もはづれたことのねえのはそこが腕前と肝ツ



(原本商法個の胸會計插畫)

玉ダはゞかりながら一番ツンとふんめえりやア五萬や十萬の金貨は忽ち手元へ積上りアエゝコレサ商兵衛さんしつかりしねえオヤコク／＼と船をこぐのかハヽア果報は寝てまつつもりかノオイ／＼そんな不勉強ぢやアまうからねえヨしつかりしてモウ一杯アヽいくぢのねえお合ダいくぢのねえお合ダ

○芝居者の身贔屓

▲なりはつむぎの着物へ魚がしと白ぬきの大文字にて染ぬきもつとも白字へうすねずみをかけたる八着下々着はかへッてちみなるものどうらはもゝとしるくしあかいじゆばんのそでをぴら／＼出しかけとくいの客と二タ人づれにてきそわかまちぞしりぞきうるさくとりまく仲間のものをとりさけたるはひとりこうるはふつもりなるべしさいぜんおらうしなべにてさしいおさへつのみかけてよほどなはりしぶ

ひきげん「エモシ旦那當春の仕初に顔見世狀を一ト幕見せたのは座元と地内の師匠(作者河竹新七をさして云ふ)が工風で去年の仕初に勸進帳を見せた格でごぜえますがいゝおもひつきぢやアごぜえませんか當時俳優は今戸(河原崎權之助)に限りやすね(芝居一たい三升じいきと見えたりよつてかく)いふ也 年の若えにいたしちやア隠居(七代目市川海老藏をさしてかくいふなり)なんぞより又一段こつてゐるからおそれたもんでごぜえますぜ兎角役者は一文上りでごぜえやすから仕種がよくなツて人氣が乘ツてくりやア萬事ひいき目が寄ツてきやすわネそれに私の方の太夫元さんはめつぽふ方寸が廣大から顔見世でも仕初でもわき町よりは一倍氣を入れて櫻を植てもしみつたれな樹は植込まねえからおのづから櫓に光りが出てサ景氣がよくなるわけでごぜえやすおめえさんのめえだが人間は腹がよくなくツちやア人はつかはれやせん去年の顔見せにやア三町ながら飾り物はしねえなかで私の方の太夫元の思ひつきで三好町の玄老先生に受合して茶屋のれんへ芳幾に似顔を畫せて景氣をとつておいて直に年尾の内に河竹さんに脚色ませて一幕かゝせて仕初に見せるなんぞといふ趣向はお釋迦さまでもごぞんじあるめえナントすごい大將ぢやアごぜえやせんか動きやアとれやせん實に去年の忠臣藏十二時のしゆかうなんざア見物の腹をゑぐりやしたぢやアごぜえやせんかそれに役者が山崎やに高島屋舞づる屋の老功で勉強ぞろひでごぜえやすから五分も透きやアごぜえせん今戸の小[illegible]は身にしみじみとようごぜえやした[illegible]一湯茶はかならずあつい物ツあついといやア張勢にえ[illegible]ダオイ／＼下女さんあんまり燗があつすぎて腹の中で羽目を敲イて三弁を悪口ぜ杯洗の水は鍋の鹽の辛えのを調合して水ぎれダかはりをたつぴつにもつてきなハテ水は安イ物牛は高イもの水はたつぷりかくみなさいアイ／＼さよでごぜいツアハハヽヽエモシ旦那さつき尾の丸をお出かけなさ

ると入れ替ツテ這入込ンだのを夜目遠目だが何者なるかとすかし見たらネ當時の仲鶴むかしの雁八に喜知六小半次の三人サネけんのん〳〵モウ一足のことで彼奴等にとりまかれてごらうじろまさか私どもとはちがつて牛店へ連込ムりくつにやアめえりやすめえからぜツぴ有明樓か大七か乃至利口を見せて親類附合ごかしで藪天とでも河岸を變るかでござえやすがそれにしてもあやまつて一人前三分宛の御散財サア、危ふしこねえだのやうにおめえさんと私といやな道行だがむかう越でのびあがらねば三めぐりをあとに見て平岩で肉食ちやぶ〳〵をきめようと座敷へすわツたばかりの處でうしろのからかみをすらりとあけて不義者見つけたうごきやアがるなと聲をかけたのをたれかと思ツたら杵屋の犬公に元役サネそのあとから客にとりのこされた山谷堀と猿若町の半藝妓が二タ組サネ私もギツクリしたからおめえさんの顏を見ると其處は旦那強勢ふんぎりがいゝテおめずおくせず落付はらツてオヤみんながちやうどいゝところへよく來て呉れた留公とさしで寂しくツてならなかつたトおつしやツたをいゝ汐にして三階惣出でぶたいへならんでわん公が犬の聲色に蚯蚓の鳴こゑも久しイ物を辛抱してきいてやツて大さんざいをなすツたなんぞは浮世の義理でおめえさんのお顏だからしかたも有りやせんが此頃は助べえありませんから牛肉の功能が見えやすめえエエこんやはおはしけなさるとえそりやアずゐぶんをかしい思ひつきでござえやすが一ツ件の處までおほくりの下宿へ引きがりはつらい譯だがおいらんのむかう脛はいはせませんぜこんやはしつかりときぼがありさうなもんでござえやすエナニ私の登樓れる妓家へ附合ツて下さるエそいつはありが對面曾我五郎のせりふぢやアれえが花まちえたる今宵のおほせハテめづらしいバタ〳〵〳〵〳〵。バツタリまつたりあんまり浮れて又杯洗をひツくりけえしたオイ〳〵ねえさんや雜巾だ〳〵



(原本「芝居者の身贔屓」插畫)

○藪醫生の不養生

▲九尺間口をはツて門札に本道外科とわりがきにして次關なしのすぐにくつぬけたのみなすといへに先生みづからしやうじの内にてどうれとこゑをかけるあんまあがりのデモいしや傷寒論の國字解もわかりかね[illegible]野だいこた郎いしやはいしやだがくすりは[illegible]の外[illegible]ことわりとふだを出しておくならつぱはなけれどそのくせにおかうみずのだいたんばうずやくしゆやのはきよみをかひこんでなんのやまひにでも用ひるのゑどくにもならねど可もなく不可もなき開化不用の人物としごろは五十あまりやうかんいろの四字すきたるへんぺらにおりにまがひ八丈のきいろへくろみのかゝりたる小そで下着なしのねずみかあさぎかしやうたいぶんみやうないざるえりのかゝりたるじゆばんいちまいつのざいくの山がたなをかたはらのせつたとともにおきうしなべ一人まへさけは一合づつなまのかはりはあつらへず五分ねぎと香のものまかりかへてぐびりちびりとのみながらの一人言「アヽけふはさむかツた〳〵たまに病家から人がきたと思ツたら愚老などにはなか〳〵手も付られぬ難症の樣子ぢやから切拔ようとは思ツたがまゝヨあやふい橋も渡らんければまぐれ當りといふこともないと勘考して診察してをる處へ親類共から立合せるといふ西洋家の散[illegible]醫者めが出かけてうせをツたでその場をゆづツて直に脱走もきめられんから談合して見たところが[illegible]なか〳〵の功者と見えて愚老なぞが足元へもおツ付くことではないからいいかげんなごまかしをいツて脱して來たが當節のやうに醫道が盛んにひらけては一文不通の[illegible]老なぞが醫者の眞似をしてゐる處ではないテしかしなんにも物しらずの愚老等でもこれまで漢家の行はれたうちは葛根湯とか大柴胡湯だとかあるひは藥名も大黄人參甘艸陳皮ぐらゐはおぼえてをるが漢醫は古方後世とも廢止どうぜんの時世に及ンだゆゑ醫業で生活をたてるのは洋[illegible]の名目も口元だけにおぼえなければならんが



（原本「藪醫生の不養生」挿畫）

髭くひそらして今から學ばれもせず別に藥名ばかり聞に行ところもないから病家へまねかれて今日のやうに西洋家と應接をする一段になツてくると蛇に會ツた蛙どうやうですくンでばかりをらにやアならんそのたび〳〵に半年ヅツも壽命をちゞめるのだからどうでも癈業して持前の野幇間と店をだしなほす方が上策だわいぜんたい醫者は付たりのつもりだが商買みやうりで折ふしまぐれあたりで全快させる病人もあるものだからひいきの引だふしでそれらが愚老を活藥師の如く思ツて周旋して吳るのが結句めいわく千萬サそんなめんだうなことより淺草の十二軒か兩國のならび茶屋あたりの知己なる處へ腰をかけて網を張ツてゐさへすりやア何處かの出入場の息子か乃至若イ者なぞに出會わサ其處でイヤいづれへとかどちらへとか辭にこゑをかけられちやア後を見せる敦盛はねえからこれは先生と這入こンで來るのをこぢつけて鐵面皮勿論で一寸一杯いかゞでごスト無理こぢつけでも割烹店へつれこンで上戸でも下戸でもえりきらひなく口をかけてやツた老妓と合併してさんざんにしひつけて彼奴の懷中をお爲ごかしで御用心であづかりおいた中から會計とその日の立前を此方へちやくぶくしてあはよくば藝妓の尻尾を持上て枕金の小釣をとるかさもなくば人力車の二挺仕立で吉原へでも引張ツて知己の茶屋へ送り込ンで伊勢六の五階見物とか金瓶の異人館一覽とか號して大興行をさせて利德は茶屋とたゝきわけ遊興おんぶの先生様サかゝる仁術を施こしつけてゐるゆゑ一服三分や五ふんの藥禮をあてにぢゝむさい病人なぞを煮燒かへしにはしてをられんア、癈業々々しかしまるで業を廢したら風邪藥の小遣ひどりができぬわいイヤ〳〵どうでも醫業に關係してをツては媒嫁の媒妁地面家作の周旋方の邪魔になるから本道外科と割書の表札を取除て武佐擲餘庵とばかり書イておかう。そこで坊主あたまでは舊弊が一洗せぬやうぢやから當世様にざんぎりと髮をかへるが名策ぢやテ。イヤかれこれいふうちモウ七字ぢや飯は宅で食として鍋一まいに酒が二合コレ〳〵女中こゝのかんぢやうはいくらぢや〳〵

○落語家の樂屋墮

▲としのころ二十二三いろなま白く大たぶさ圓朝か燕枝なぞを張ツてゐるつもりなれど中入まへ二三まいあとにてかうざへあがるしろうとになしの出けぬしうもの去年のはるあたりまでわかだんなかぶのきんちやといはれたけだ者がしかにくはれてしかのなかまへひきこまれたる大なまずきあぢいはゝおやのしおくりにておめしちりめんの二まいぞろひぞろりとしたこしらへゝゑおしだしはしんうちめかせどわざはいつかうなものとおもはれたりそのくせによいげいにんぶりて女きやくでもとりまくれうけんあどかせすてたま〳〵きやくにつれられこのうしやへきたることと知るべし「ねえさん鍋は飯のときとしてスップの吸下地で葱を細くそいで鞍下の極といふとこをそぼろに刻ンでヨぱら〳〵と入れて二人前持て來なそしてお酒はいゝのを二ツ極熱だヨナニサおいらだといやア親方が知ツてゐるヨ氣がきかねえ少女ダじれつてえへ、、、エモシ粋旦那どうでげスあなたもとう〳〵西洋に卷こまれて牛をあがるやうにおなンなすつたのはふしぎでげスネ何でも牛をやらねえぢやアすこやかにやアいきやせんまい〳〵私どもの連中でも牛や豕のはなしをしてもおそれるといふ面をした者がごぜえしたが鹿お牛や豕を食ふのは友食だからといふ譯かと思ひやしたらエモシひらけねえ手あひぢやアごぜえせんか何かけがれるとか不淨だとか譯もしらずに只おそれてゐるのだからこまりやすが近頃は連中もおひ〳〵ひらけてきたと見えやして夜席の出がけなんぞにやア牛

で杯一しめたうへでかけ持なぞをつとめると高座でどんなにかしやべりいゝかしれやせん。へイオットヽ、ヽ、ござえます／＼さうたてつけていたゞくと夜席がつとまりやせんふだんならぶッこぬいても一ぱんぐらゐぢやア客のあまの減る氣づけえはござりやせんが初日から三晩目でござえすから客が要といふ處でげス。へイ晝席は長右衛門で夜るは並木亭で一寸中入前をつとめましてすぐに東橋亭の切をはなしてそれから吉原の新席がはねでござえやすへイ有りがたうマア御ひいきのおかげで昨ばんなぞは百五十足ばかり參りやしたから並木も東橋もまづ大丈夫三四百はめえるやうになりませうとぞんじやす並木は圓朝の後で東橋が小さんむらくの後といふもんでござえやすから強勢骨が折れやすが燕枝と私が一トばん代りに中入前と切をつとめるのでござえすからまづ有がたいことに素首で前づらアうまりやすそれに燕枝が當春のはなし初に自作やした嵐の花おぼろの月影といふ呼物をはなしますのに私が吉原新聞令孃夜妻といふものを新作しやしたから今夜ッから四五晩のつゞき物ではなしやすがどうか若だんな一トばんお聞にお出なすッて下せえやしかうまをしちやア香をいふやうでござえすが私もしかになられた前方有人の弟子ぶんになりやして作の道もすこしやりやしたからどうなりかうなりまとまつてはをりやすがはなし初からきく客に耳の明イたおかたがありやアそれを的にしてはなしに實が入りやすが高座の前で譯りもしねえくせに惡口をきいたりまぜッけえす田夫野人があるので諸事おそれやすヨへイ／＼モヽ、ヽ、ヽ



(原本「落話」の笑屋蕾插畫)

オット／＼こぼれやすどうかこれでおさけはちよんとくぎりの飯をしめるとしやせうぢやアござえせんか若だんなもあんまりあがらねえ方だからおつもり御用心オットあぶねえすんでに食がとんぼをかへるとこでげしたオイ／＼ねえさんやアノ鍋かたにさういッて生の最上をすき焼だねにして四人まへたきたてでどぜんはしようちだらうのオイ／＼そして油肉をたんとヨエコレコレめんだうだらうが葱を小口からざく／＼に切ッて熱イ湯をかけて持ッてきてくんな―モシこれが異人のコックといッたらわかりやすめえがちやぶ／＼やの直傳でござえすぜすき焼を食たあとで葱の湯どほしをあがッてごらうじろ横西洋でござえスからサごぜんのくるうちお中入にモウ一杯あがッたらどうでげスネ一番の景物がお燗直しのおとッくりへイ一寸お酌二番がお猪口を頂戴かネアハヽ、ヽ、ヽこれおやアとんと前座のもののいひぐさサネいよ／＼うちどめおてうしはおつもり／＼

牛店雜談　安愚樂鍋　三編卷之下

東京　假名垣魯文著

○茶店女の隱食

▲としのころ十八九か或は二十を一ツ二ツこしたるかさだかならぬしま田わげをつぶしにゆひかさおりちりめんのはりかへし上々がのはしれぎなしふだんぎも見世ぎもこのうへへこれも馬みちの仲まちのふるぎやにておふくろがやすくかひおとしたるおめしのあいとねずみのあらいしまのはんてんをひつかけくせらおびのあとさきばかりむらさきちりめんでなかはちりめんどろうではぎあはせたるとさつしられたるはあさくさのおくやまへやとはれてよるのないしよくをかきいれにゃすだちまへで十字どろからおしろいこて／＼そろ／＼見世をひらく茶や女と思はれたりつれの女は五十ちかくいれはをおはぐろでごまかしくろ油てしらがをかくすにゝあさねもりなりのとしらへはくりろめカナ巾はりかへしのがくうらあゐみちんのへいせんまへかけばかりはおめしちりめんなりこれは なさんどぞんじのさんづの川のわたしばにすまひするみちしるべのしうせんかそれしやのあがりと見えてとしはとつてもいやみたつぷりさはらはおちんふぜいなりと文句にかくべき

八百や半兵衛の浮とやりてのおよくと仲居の高砂とがつべいしたやうなしらはけはいアなりかの茶やせ女がながわるいからいつしよにいつてくれとのたのみに下女地はすきなり吉よいはよしでこのうしやせのなべさかもり下人ともよけどゑひがまはりしよりふるだぬきと野ぎつねのしつぽをあらはしあたりにはどからぬへいきなかほにてさしつおさへつろうしのにくをさかなにそろ／＼本地のはけるはなしくちにてをのがくやをさつすべし ころ「おひきさんお前もうしはたゞないなんぞとこのあひだ氷月でおいひだツたがうそかだまかしだネずゐぶんいけるぢやアないかあきれもするヨアレサおかはりめだヨトしやくをするにはあははくきをあらはしてわらひながら ひき「アハヽヽヽおころさんおまへもひらけないことをいふ子ぢやないかあのときはソレきんちやが一座だからなんぼこんなばアになつたからといツてまだ孫彦に手をひかれてつゑにすがつて鳩に豆をやるとしでもないからお客なんぞのそばで牛をたべる大好だといつちやアまだなじみもないお方だからあんまりいろけがなさすぎて此悪婆めがとにらまれようとおもふからあゝはいツたやうなものの實はすきのくはのといふだんぢやアないヨぜんたい牛のまだはやらないじぶんから、あくものぐひでそのじぶんにやア雨國のならび茶屋で小川のおとくさんなんぞとかたをならべて見世をはツてゐたじぶんで組合のかしらであひが見世へ來ちやア山くぢらのうまいはなしをするのでたべたくツてならないから雪がふツて見世をはやくはねたばんがたに江戸やにゐたばアやアをさそツて

長い橋をこしてむかう雨國へいツてサもゝンぢい屋へはひらうとするとあかりがかん／＼ついてゐてまがわるくツてはひられなかつたワネその時分は年もぐツトわかしめけてゐたときだからなんぼきやんでもはねてゐてもそこは女だけでやまくぢらの店のまへを行ツもどりつしてゐた所へ馬場のかしらの子分に穴熊といふ若イ衆がちやうどぢいをたべにきて門口で出あツたらうぢやアないかさうするとサア何でもいつしよにはひれと手をひツぱられたのをいゝしほにしてはひツてたべたのがお初會サそれから食つきになツて霜月のこゑをきくといろけよりくひけ見えもかざりもへうたんもサその氣でなければ生物は食へないト内へ取よせてたべたがどうもさきでたべるやうにやアいかないヨダガネ猪や鹿はずゐぶんうまいが牛がひらけてから人さまのはなしをきくと牡丹や紅葉はあンまり藥ぢやアないなんでも牛にかぎる豕も澤山はいけないト云ことだからモウ／＼いまぢやアぢいはおあひだおはやしにしてしまツて牛一ツてんばりときめたヨおころさんは若い者のくせによくひらけて牛をたべならツたネホンニそれにやアかんしんするヨトうしのやうなしたをだして肉をべろりとせしめる ころ「そりやアちつと譯があるのサ今までおまへにもはなさな

かツたが私やア十五のとしにちやんが相場とかにまけて母親とわちきをおきざりにして駈走つだそうをダツソとつめていひおはいしをオハヤシなどいふくせありしてしまつたらうぢやアないかそのあとでいろ／＼困窮て家は分散しておつかアのさとが神奈川在だからそこへふたアりながらひきとられてゐるうちここにゐるをりやくして云のしんるゐうちからおころを異安に出しちやアどうダさきの異人さんはゐぎりすの紺四郎コンシユル也とかいふ旦那でかみの毛がちゞれて赤いとはいへ日本ことばもよくわかるなか／＼通人なんぞと馬鹿にするけれどどうして／＼萬事にゆきわたツた心意氣のいゝ人だから今の世せかいにえりもとへつかないのはやぼのゆきどまりでそれがひらけないのだとすゝめられるとおつかアがアノとほりのよくばりときてゐるからすぐにのりこんできふきんしだいでやりませうといツてやると月に五十兩で外に小遣ひが十兩仕度は別段いらないが身のまはりをかざツてくる手あてが二十五兩で親元がこまる者なら三ケ月ぐらゐ給金のかしこしもしてやらうシさきの氣に入りしだいでさんごじの五分玉や六分だまなんぞは日本のほゝづきどうやうでねだりしだいくれるし合の兒でも懷姙てオギヤアとさへいへばたとひ旦那は本國へ歸らうが一生こまらせないやうに

してやるとのことだからすぐに日見えにかけろといふので人力車で（人力車をリンリキ車とおぼえてゐるも）その日に横はまへ行ッて日見えにかゝッたところが私も親のためとはいふものゝ日本にうまれて千里萬里さきのえたいもしれない遠人なんぞのなぐさみ物になるのはいやで〳〵はまの口入やに待ッてゐるうちも波戸場へかけだして身でもなげてしまはうかイヤ〳〵さうすると年をとッたおつかアがかはいさうだからうはばみに呑まれた夢を見たつもりでがまんをしようかとゝつおいつしあんさいちうへ異人さんがお出だといふのでぶ



（原本「茶店女の愚食」挿畫）

るぶるしてサちひさくなッてゐると口入の人とおつかアが氣をもんでモットまへへ出て顔をあげてゐろとお尻をおすやらせなかをつゝツくやら私やアのぼせあがッたがはたで氣をもむから顔をあげてその旦那を見るとネほんたうにいゝ男サトント此間菊五郎さんがしたざんぎりかづらの洋服じたてのとほりな人でこんなおたふくだけれどなんだか氣にいッたやうで私のそばへきてあなた異人ペケありますかわたくしあなたたいさんよろしいト。チョイと私の手をにぎッたので私もぼつとしてしまッてサオホヽヽオホヽヽオヤたいへん。ついうかれてさかづきをひつくりかへしてサソレおひきさんまへがよごれるからおたちなねえ　ひき「オットさんざんおのろけのうけちんが他のさかづきをひッくりかへしてよそゆきのまへかけをびしよ〳〵だヨ　ころ「オホヽヽまつぴら〳〵ツイはなしに實が入ッてそゝう〳〵モウ〳〵あとはさらんぱアにしてサアつぎなほしお酌をしまはう　ひき「まアよさずといゝからあとをおはなしヨはじまりをきいておちをきかないと氣になるわネのろけごめんのふだをだすからそのあとのきまりをおつけな　ころ「私やアとんだことをいひ出してサエヽ口ばしッたからにやア身のざんげだかまはないはなしてしまふからみんなにはない〳〵わけて（おやゆびをちよいとだし）これにはごくない〳〵　ひき「おころさん私をそんなはすッ葉だとおもひか此しやうばいぢやア人のあらすそをいふのは極しろうとだわネ（人さしゆびにて口をたゝきこゝの）かたいのはじまんぢやアないが山のねえさん達が知ッてゐて内會のことをうちあけてたのまれたりまたたのンだりするのがこゝばゝアの渡世だヨそこにじよさいがあるものかネ　ころ「ほんたうに今東京へ歸ッてきて見るとぐわいぶんのわるいはなしだから口をつねッてゐるのだがツイ醉ッたからはなしかけたのだがネエヽそれからマアいゝあんばいしきにめ見えがすんですぐに取きめになッてその日のうちに異人館へひきとられていッて見るとほんたうにきもをつぶしたヨうちといッたら何から何まできれいでホンニいやだのおうだのといッたのはもつたいないやうで身で身をうらむやうだッたが私には旦那が三度のごぜんも日本風にしてたべさせてくれるうちソレこの牛サ。アノ旦那が二度のごぜんどきにはきつと牛をたべるのを見ならッたら情あひといふものはふしぎだと思ッたヨ東京にゐたじぶんにやア牛やのまへを通るのもいやだッたがだれもすゝめもしないくせに牛がたべたくなッて割烹人が煮



(原本「茶店女の盜食」插畫)

てゐる處へいツてちひさく切ツてもらツて一ト口たべて見るとおいしくなツて外のおさかななんぞより牛が好になツたのだから私の牛をたべるのはしろうとぢやアないくろツぽいのでスヨ　ひき「オヤ／＼さうですかエそれぢやア牛のはうぢやアくろン坊だネ　ころ「いやでスヨウ　ひき「アハ丶丶ときにおころさんあしたのばんは市六さんが鈍宅さんと同伴に私の處まで來なさるつもりだからモシおまへの方にさしがあツたらうまくくりあはせて五ツ時ぶんまでに出て來ておくれヨそしておばらさんにも鈍宅さんの來ることを耳うちをしておいておくれアノ醫者ツぼうは甚助だからヨ　ころ「オヤどんたくさんがざんぎりになツて甚助と名をかへたのかエしやんしやんしてるから　ホンニこツ／＼だヨ　ひき「そんなにわるくおいひでないおばらさんはずつと乘込ンでゐるヨ　ころ「まさかサ　ひき「イエさうでないのサ先生は女にかけちやアしんせつだヨ　ころ「病人をかけちやア　ふしんせつだらうネオオきびのわるい　オホオホ丶丶丶　ひき「イヤおころさんの口のわるいのにやアあきれるヨその口で市六さんやいけんの月宮さまを殺すのだネ　ころ「オヤ人ぎきの惡イよしてもおくれ私にころされるのは血を吸ひすぎたやぶツ蚊と秋の蚤ばかりサ　ひき「うまくいひましたツケ。へ丶ンあきれもしねえサアモウいゝかげんにごぜんにしよう家へだれか來ても私がゐねえと南馬道のぬけうらあたりへそれられたり北廓へでもはしけてしまはれると勘定づくだわネ　ころ「ホンニおひきさんは欲がねえヨそんなにためてばかりゐるとどろばうの用心がわるいからたまにやア息やすめに落ついてお飲なモシねえさん御酒となまをもつてお出　ひき「アレサモウ／＼澤山だネちやうどごぜんが來てゐるからこれでおつもりとしようぢやアないか　ころ「でもモウさういつたからいゝぢやアないかアレサとめなくツてもいゝからサねえさんはやくしておくれ

○新聞好の生鍋

▲にはかさんぎりの西洋こしらへやなぎはらのあき市かとびさは町のだいだうにてときれ／＼にかいあつめたる洋服こしらへふらんす仕立のまんてるにゑぎりすのチヨツキかぶりものは歩卒のふるものくつのさんだんまつたからずぬぎすてしあきうらさうり時計はくさりにかりでもぶらさげて外見をつくろはんとする人物そのくさりのてんぷらきんめつきも手にいらぬやうす人に時をきかれるとわすれたといひぬけるねんばいのなまざきせおいくにづくしせかいみやこぢなどを一寸口もとはかりよんで西やうのことならとはこりがにいひふらすこまりものなりはひはなにかしらずよはどのなまけもののべんぜつとう／＼としてきゝとりがてにて俗人をおどろかしふかくきかれると一句もでず用をかこつけてそのはをにげだすことさくしやろ文によく似た人物つれと賤人うしなべのひやざけでうぬひとりかい化の人物といふつらをしてつれのものははんのどだいそのじつはあたりにゐるきやくにおのれがはくがくをふいちやうするなりむらさきごろのふうしきづつみよりしんぶんしを三昧はかりとりだしてよみもせずにかたはらへかざりものとしてつれのをとことゐひおさへのさかづきあり

「オイ愚助さん君の處の賢兒はいくツになるネ伜はサ○ム丶モウ九ツかネそれぢやア從來の弊を追ッて遊ばせておいちやアいけねえヨ僕が處の豚兒もサエ何○ウ丶豕兒ぢやアわかるめえ支那風でいふから解されえのもむべなり／＼我家の孩兒サこれも今年八ツになるから去年くり／＼坊主にしておいた白雲頭。俗にしらくもあたまがことしはざんぎりになツたから僕がかねての卓見でいろはにほへとなぞはグツト廢して渾沌未分から英學サハテ西洋學もなまじ漢學史記章句論語見の段十二萬三千四百五十六石なんぞをちつとばかりやらせると支那の因循が傳染しておほきに害になりやす君の處の息もはやく洋學をまなばせなせえ方今の形勢では洋學でなけりやア夜はあけねえヨハテサ何にならうともおぼえさせておきやア商人は商人工人は工人だけの開化だわネまづ目今御新政の有がたいことにやア四民同一自主自立の權を給はり苗字帶劍[illegible]で

も洋服でも馬でも馬車でも勝手次第たとひ窮乏困迫の我輩たりとも往時の我輩にあらずこゝが即ち自主自立の權だしかし自立の權だの自由の理だのと一ト口に解イてきかせると無學文盲野蕃の徒はそんならその身の勝手なことをしても善惡とも政府でおとがめはないものだとおもふやからがあるからこまるヨ此節都鄙遠近となく說教がおひらきになッて諸社諸宗の教道師が勉勵するが僕が此職を命ぜられりやア靜岡の中村先生が譯した自由の理を譯解てきかして世の曚昧を醒さしたい者だテマヅ一盃 トさかづきのとりやりうしをくふことながはなしのうちにありとしるべし



(原本「新聞好の生鍋」插畫)

エヽモシすべて俗間の知覺をひらき人の知識を弘めるのは新聞紙のことだヨ今朝米澤町の日新堂から屆イタ新ぶんの五十八號だが實に確論有益なことがあるヨしかし傳聞の誤がねえともいはれねえ横濱の毎日新聞に假名垣魯文が往還へ小便をして罰錢を取られて狂歌を詠ンだなんぞといふ大虛說が次號まで二日とも出てゐるが當人は虛名家だから歡喜雀躍滿足でゐるさうだがずゐぶんをかしい間違ひサネ。ナニ是かこれは僕が徒然の餘りにかいておいた珍聞誌と號ス戲述だがイヤ世の中には新聞外の珍聞があるヨ爰にそれ斯いふをかしい建言があるが此建白人は極まじめな篤實家で此建言書を御採用になる氣で町用掛りまで持出してあまり〳〵を愚弄する文體ぢやこんなものを政府へ出訴におよんだら町用がかりまでの落度になるとんだ男だとさん〴〵しかられたさうだが隨分珍說サネ此文面を鍋と酒のかはりめに一寸讀ンできかせやせうへヽン

一　恐ながら書附を以て建言たてまつり候

一　凡無用をして有用に充候義經濟專務御國益第一の義とぞんじたてまつり候人民毎戸炎夏の季に至り候ては一般蚤を生ぜざるはなし此蟲人身を刺傷し短夜睡間を破り白晝の活計をさまたげ候而已にて實に無用有害の小蟲と申ながら彼も億萬生靈の小數なり採用によつて有益の一端とも相なるべく哉とぞんじたてまつり候つら〳〵愚考致候所彼をして火中に投沒いたし候へば則ち火氣に化し發響致候よりはからず存つき候彼英國のゼームスワットなる者釜蓋湯氣に乘じ沸躍いたし候より蒸氣機關を發明仕候と同論にして小力を合して大力とするの窮理とぞんじたてまつり候御府下近鄕すべて御昵近向きへ御布令あらせられ毎戸取溜させ候數百萬びきの蚤を以て毎日十二字刻砲の火藥の代りとあそばさせられ夏季三ケ月御費しに相成候火藥御積置あそばされ候はば百戰一勝の少端とも相なるべくや一粒萬倍の成功則ち無用を以て有用に充候遠きおもんぱかりに御座候賤身を省ず愚案にまかせ此段建言奉り候億萬一御採用にも相成候はゞ先上の高目有難く仕合にぞんじたてまつり候恐惶きんげん頓首百萬拜

浅草雷神門前
富田利　驍太郎

ナントをかしい奴があるもんぢやアねえかネ是等が所謂はなもと思案ダテ理くつのやうだが有名無實で何の役にもたちやアしねえ兎角學者込の生聞があるからめつたに西洋のはなしなぞはできねえのサ僕がこんどの建白なぞは實に國益の第一たるもので必ずしも一個の利潤に拘らず一國の富をなし我大皇神國の貴威を地球一圓に輝かし億長不朽の深策を捧るのだから蚤の建言蚊のすねの兵力なぞとは同じうして論ずべからずす。オヤ又てうしのかはりめだオイオイあねえ親方にラウスを大切にして燒鍋を一枚あつらへてくんなそして此お客は煮たのがいゝと云ふからタレ拔のスウプへみりんと醬油をおとしてよく煮てくんなオイ〳〵愚先生飯にやアまだはやの勘平ダゼ　トいふをり十二字の時計ヽヽゴドンドンといはゞ　エエびツくりしたハヽアモウ刻限かしらんゲエヽイ



（原本「新聞好の生鍋」挿畫）

○第四五編ひきつゞいて出板此次編は西洋栗毛の六編にて御存の當世流行のざんぎりあたま洋學書生の大字ち其塾中實地に渉りたる滑稽快諧御評判々々々

かたわむすめ

福澤諭吉

かたわむすめ



（福澤全集巻二「かたわむすめ」）

或る富家に女子誕生し、かほかたち中分なく玉の如き子なれども生れつき眉毛なし。初生のことなればかくべつ人の目にもつかず、おひおひ月日をおくり、はや八九年もたち前歯一二枚づつはえけるに、その色黒し。漸く半年を過ぎ一二枚を残す内に上下の歯もはえ揃ひしに、いづれも黒にてぬりたるやうなれども近所親類の人は何これにこゝろづかず、たまたま目にとまることあるも珍しからぬむしばにもあらんなどとて噂するものもあらず。唯両親はとくよりこれを患ひ世に不具なるもの数多の中に眉毛のなきものとては古来人の話に聞しこともなく、あまつさへはじめてはえし歯の黒きとは、いかなる因縁なるやと、人しらずひとり心を悩ませしかども、なほ親の欲目にて眉毛に乏しきあれ歯ははえ替るときかならず人なみになることならんと、七八歳のころまでそだてあげ初年歯ものこらずぬけかはりしに、両親の案に相違し二度目の歯にますます黒くして漆の如く、うるしの如し。

光陰矢よりもはやく、はや十四歳の春に至り初花のつぼみもほころぶ時節、たをやかに、ふるまひいとやさしく、あいけうもこぼるゝばかりの娘盛りなれども、たゞいかにせん歯と眉毛となり。近處の人々も今はこれを見のがしにせず、竊に指さし噂して父母達の耳々に入り、娘の眉毛はいづれにも相違もあるまじ、嫁むべし玉の顔色も近き内に光を失はん、其因果は親も知らぬ歯の色を悔むべきなり。あの家にはいかなる前世の約束ありて斯る嫁代のかいいいこれを知らずしや、親は代々うどん屋にてういたどんを高く賣り、しふい飯を喰ひし報か、さなくばこゝに又説あり。あの親達はかねもちなれども近處の人が借金の断りに行きしとき、いつもふくれつらして白い歯を見せたることなき其因果にて、黒い歯の娘を生みしならんなどとて、ではうだいに嘲り笑ふもあり。又洋学者先生の説に眉毛の薄はしくして目の向きは婦人の面色を飾るための道具なり。故に眉毛なきときは顔を飾りたるの要具なり。人に眉毛なきときは太陽の光線を上より直に目にさけ眼病の原因となることも多し。故に世界中に熱帯諸国の住居しき土地の人は眉毛濃く、寒帯に近き地の住人は眉毛薄し。かくまで造物主の深き趣意ある眉毛なるに、生れながら其眉毛をなきとは天に見放されたる罪人といふべしと。親達にこの説を聞くにつけても一段のかなしみを増し、殊とも花ともたとへん方なき娘ひとりの娘、は今年頃にも美ひたるにこの風俗にては、とても嫁の相来べきにもあらず。醫師を頼み祈禱を頼りこの娘の歯を白くし眉毛をはやす法もあらば身代をつぶすはおろか、両親の命に替へても惜ることなしと手を盡し心を碎けども更に

其甲斐あることなし。

かくて年月を經るに從ひ不思議なるかな世上にて此かたわ娘の評判次第にうすらぎ二十歳ばかりの年に至りしかば、近處にても全く忘れたるが如く一人として噂する者もなきゆゑ、兩親も心の中に悦び然るべき聟を求てこれに家を讓り其身は隱居しけるに、彼のかたわ娘なる者今は申分なき一家の細君となり年來の心配も消て跡なかりしとぞ。嗚呼このむすめは不幸にして幸を得たるものと云ふべし。外國にて斯る不具に生れつきなば生涯身の片付も出來ぬ筈なるに、幸にして日本國に生れ同類のかたわ多ければこそ人なみに一家の細君ともなりしことなれ。此婦人不具なりといへども既に人の妻となる上は、その娘の時の由來を知るものこそこれを不具なりといはん。知らずしてこれを見れば隣の細君が眉をはらひ、おはぐろをつけたる風に少しも異なるなし。唯となりの細君は剃刀を以て眉の毛をそり、ふしの粉を用ひておはぐろをつけ、錢を費し手間をかけ、まんぞくなる顏に疵を付、漸くかたわになりたると、此娘は生れつきあつらへのかたわづらにて剃刀を用ひず、おはぐろを求めず、やすやすと世間のかたわに仲間入して、錢も手間も費さずりしとの相違あるのみ。實に不思議なるは世間の婦人なり。髮を飾り衣裳を裝ひ、甚だしきは借着までしてみえを作りながら天然に具りたる飾をばをしげもなく打捨て、かたわ者の眞似をするとはあまり勘辨なきことならずや。まして身體髮膚は天に受けたるものなり。漫りにこれに疵付るは天の罪人ともいふべきなり。

世界國盡(巻之一)

發端

世界は廣し萬國はおほしといへと大凡五に分けし名目は「亞細亞」「亞非利加」「歐羅巴」北と南の「亞米利加」に堺かぎりて五大洲大洋洲は別にまた南の島の名稱なり土地の風俗人情も處變ればしなかはるその樣々を知らさるは人のひとたる甲斐もなし學ひて得へきことなれは文字に遊ふ童子へ庭の訓の事始まつ筆とりて大略をしるす所は

亞細亞洲

圓き地球のかよひ路は西の先にも西ありてまはれは歸るもとの路環の端の際限なき太平海の西の方「亞細亞洲」の東なる我「日本」を始とし西のかたへと乘出しその國々を尋るに「支那」は「亞細亞」の一大國人民おほく土地廣くみなみに「印度」北に「魯西亞」

東のかたは「太平海」瀬戸を隔てゝ日本國九州肥前の長崎より「支那」の東岸の「上海」へ海路僅に三百里蒸氣船の旅なれは十日の暇を費して往て歸るに餘あり南にまはり「香港」は「英吉利領」の一孤島島にひらきし新みなと商賣繁昌土地にきはひ東洋一の港なりそも〳〵「支那」の物語往古陶虞の時代より年を經ること四千歳仁義五常を重じて人情厚き風なりとその名も高く聞えしか文明開化後退去風俗次第に衰て徳を修めず智をみかゝす我より外に人なしと世間知らすの高枕暴君汚吏の意にまかせ下を抑へし惡政の天罰遁るゝところなく頃は天保十二年「英吉利國」と不和を起し唯一戰に打負て和睦願ひし償は洋銀二千一百萬五處の港をうち開きなほも懲さる無智の民理もなきことに兵端を妄に開く弱兵は負て戰ひまた負て今のすかたに成行しその有樣そ憐なり

「亞細亞」の南一面の海に臨める「印度地」は西と東に區別して西なる方は「後印度」東の方は「前印度」こゝに名高き國々は「暹羅」「安南」「尾留滿國」其又北に「西藏國」政府をたてし國なれと人氣隨しく文字なく西洋人の侮を受ておそるゝ計なり「暹羅」と「尾留滿」のあひたよりみなみに長き「滿落花」は「須磨多良島」と相對し東西僅二十餘里間の海を「滿落花」の瀬戸と名けて蕃國の船の往來も賑しく瀬戸を出れは「印度海」北へ向て「辨翹」の入海深く入こめは「小栗」の河の東岸に開きし都は「輕骨田」「英吉利領」の惣奉行「印度」地方を支配して軍艦商船數多く「亞細亞」諸國に「英吉利」の威勢かゝやくみなもとは前後印度の領地とそ

「印度」の西の國々は「阿芙賀仁須丹」「土留喜須丹」みなみの端の「尾留知須丹」獨立國の名あれとも風俗粗き夷狄のみ西に進て「邊留社」は世にも所謂古國なり紀元以前六百年「白洲王」といへる君隣の國をほろほして武威を「亞細亞」に轟かし次て二千有餘年時代移り物かはり一時「蒙古」に攻取られ千五百年のころにまた政府一度改り「富肥」の世とそ唱へける

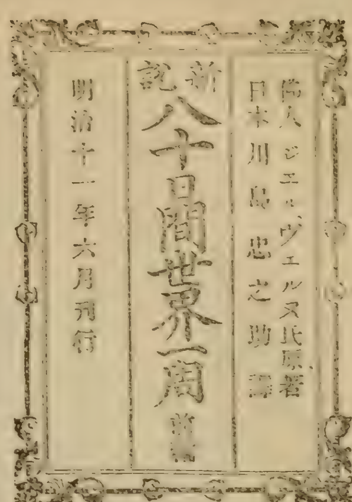
「邊留社」の入海へたて西のかた砂漠廣き「荒火屋國」南の方に「荒火屋海」北は「土留古」に堺して西は「亞細亞」の陸の邊彼方望めは「阿非利加洲」中をへたつる「西紅海」海の南の地續は「末洲」の地峽と名も高き百里はかりの鐵道の北に出れは「地中海」「亞細亞」「阿非利加」「歐羅巴」三國堺の中の海海のひかしは「小亞細亞」「尻屋」「雨仁屋」「羽禮須多陀」惣名「亞細亞土留古」とて「土留古」の國の領地なり

「志邊里屋」は「亞細亞」の北にひろかりて西は「宇良留」の麓より東の邊は「亞米利加」へ近くむきあふ瀬戸の水みなみは「支那」にさかひして北は邊なき北極海東西一千五百餘里南北凡八百里「魯西亞」の領地の廣大は世界萬國比類なしこゝに名たかき奉行所は西國筋に「戸保留須喜」東國筋に「伊留久須喜」南境の「喜阿久田」は一賣買城に隣して「支那」と「魯西亞」の産物を互に易る交易場東へ廻り「黑龍江」江尻に建し「仁古來府」我日本の蝦夷地より煙も見ゆる隣國東のかたは「御小突海」海に突きたす「嘉無薩加」「亞細亞」の東はてにけり

新説

八十日間世界一周

川島忠之助



（原本表紙）

第壹回

千八百七十二年中ニ龍動ボルリントン公園傍サヴヒルロー街第七番ニ於テ千八百十四年中シエリダンガ物故セシ家ニ同府改進舍ノ社員ニテ自身ハ偏メテ行状ノ人ノ目ニ立タヌ様注意シアリシモ何時トナク奇僻家ノ名聞高キケルフアイリス、フヲッグ氏ト稱スル一紳士ゾ住ヒケル

彼ノ大英國ノ光榮トモ云フベキ雄辯家ノ跡へ引續キ來リシフヲッグ氏ハ沈毅自重ニ倦テ其履歴ヲ知ル者アルナシ其動作ノ優美ナルハ眞ニ是レ英吉利上等社會ノ花トモ云フベキ紳士ナリ人嘗テ氏ヲ評シテビロンニ似タリト云唯其異ナル處ハビロンニシテ美髯アルト千歳ヲ經ルモ老衰スベカラザル神色自若タルアルノミ氏ハ必ズ英國ノ市民タルハ疑ヲ容レズト云𪜈憶フニ恐ラクハ龍動ノ人タラザリシナラン如何トナレバ人未ダ嘗テ氏ガ證券公賣社、銀行及ビ其他ノ商社へ出入セルヲ見シ者ナク又龍動河溝ノ裏ヘフヲッグノ貨ヲ載テ來リシ船舶ノアルヲ聞カズ然シテ氏ハ職ヲ官ノ衙門ニ奉ゼズ又氏ノ姓名ガ代言學校ノ内ニ響キシヿナケレバ訟庭ニ出テ榮譽ヲ法官ノ前ニ爭ヒシヿヲ聞カズ氏ハ工タラズ商タラズ又農タラズ大英國官立大學校、龍動大學校、工人學校、西邦文學學校、法律學校、或ハ彼ノ大英國女皇ガ親ク保翼シ玉フ工術學校等ノ社員ニ齒セズ又英國首府中ニ充チ滿チタル萬種ノ社會數多キ其中ニモ蟲害避除術研究社迄尋ルニ猶氏ガ其社員タリシヲ聞カザリキ然ラバ果シテ何ニタリシヤト問ヘバ氏ハ改進舍中ノ一社員タルニ過ギズ人若シ氏ノ如キ身性曖昧ノ紳士ニシテ此ノ堂々タル社中へ列スルヿヲ怪シマバ氏ハベーリング兄弟社中へ若干ノ預金ヲ託シアルヲ以テ其振リ出シノ手形ハ何時タリ𪜈毛頭ノ障礙ナク該社會ニ於テ直チニ正金ト交換シ得レヲ以テ自ラ人ノ憑信ヲ執リ且其紹介ニ因テ入社セシ件ヲ以テ疑ヲ解クベシ

此フヲッグ氏ノ富裕タル哉固ヨリ疑ヲ容レズ然レ𪜈其如何シテ富ヲ積シヤノ問ニ至テハ氏ノ身ニ關シテ最モ探索ヲ遂ゲシト云者ダモ答フル能ハザル所ニメ又之ヲ知ラント欲スレモ氏ニ就テ之ヲ探知スベキニ非ズ兎ニ角氏ハ貨財ヲ濫散セズ又其吝嗇タラザルハ公衆ニ利スルノ業仁恤ノ擧ノ如キ善事ヲ成サント欲シテ財資乏キヲ告ル者アレバ輙チ氏ハ資ヲ投ジテ陰ニ贈給賛成スルヲ以テ之ヲ見ルベシ

沈毅自重復タ氏ノ如キ者ハアラジ平生言語ヲ愼テ更ニ談話ヲ好マザルハ以テ愈〻祕蘊ノ人ナルヲ覺ユ然リト雖モ氏ノ行跡ノ著明ナルヿ宛然皎日ノ如シ唯其ノ爲ス所ノ事常ニ儼整均一ナルヿ實ニ想像ノ表ニ出ヅ氏ハ果シテ行旅ヲ事トセシカ實ニ地理ニ通曉スルヿ他ノ其右ニ出ル者ナク如何ナル幽邃僻陬ノ地ト雖モ氏ガ之ヲ知ルヿ精密ナラザルナキヲ以テ推セバ氏ハ漫遊セ

シ者ノ如シ時トシテ社中ニ於テ囂々然衆説百出范乎トシテ踪跡没シ其死生ヲ知ル者ナキ遊歴家等ノ終リヲ論ズル者アルモ氏一タビ口ヲ啓テ其所見ヲ簡説スレバ衆論立ロニ定マリ氏ノ測度豫言スル所後日ノ實況ト違フヿハ未ダ曾テコレアラズ蓋シ氏ハ洽ク天下ヲ經歷セル者タルヤ明矣（假令實地天下ヲ遊歴セサルモ精神ハ常ニ天下ヲ經歷セル者ナリ）然レドモフヲツグハ龍動ヲ離レザルヿ茲ニ年アリ氏ト相識最久キ者ト雖モ未ダ改進舍ヨリ同氏ノ居宅ニ至ルノ道上ニアラズシテ氏ニ遭ヒシト云者アルヲ聞カズ

氏ノ娛樂トセシ處ハ單ニ骨牌ノ一遊戲アルノミ此戲タルヤ果シテ沈然タルヲ以テ能ク氏ノ性ニ適セシニ因ルカ氏ハ屢ミ贏ヲ得ルト雖モ其贏金ノ囊裏ニ入リシヿナク氏ハ皆是ヲ仁恤ノ資ニ充ツ蓋シ其資額小ナラズ之ニ因テ之ヲ見レバ氏ノ奕スル贏ノ爲ニ博スルニ非ラズシテ單ニ遨遊ヲ索ムル者タルヤ實ニ明ナリ奕ハ是氏ノ爲ニハ難事ニ克ツノ爭角ニシテ身體ヲ動カサズ四肢ヲ勞セズシテ其果ヲ得ルヲ以テ甚ダ己レノ質ニ適合セリトス

人又フヲツグニ妻子ノアルヲ聞カズ然レドモ是レ誠實ノ君子タルモ亦妻子ナキ者少カラズ又何ゾ怪ムベケンヤ其親族朋友ナクシテサヴヒルロー街ノ居宅ニ獨居スル如キニ至テハ頗ル奇怪トス曾テ他人ノ其家ヘ出入セシナキヲ以テ其内部ノ模樣ノ如キ更ニ是ヲ知ル者ナシ氏ハ午餐夕膳秋毫モ常時ヲ違ラズ改進舍裏ノ終始同一ノ室内ナル同一卓子ニ對シテ飲食シ又更ニ他客ヲ饗セズ該社中員士ノ需ヲ俟ツ未ダ嘗テ完美ノ室ニ睡シヿアラズ十二時ヲ以テ必ズ自家ノ居宅ヘ歸ルハ唯寢ニ就クガ爲ナリ是故ニ氏ニ奉使スルハ一僕ニシテ足ル二十四時ノ中氏ノ家ニ在ルヤ十時間ニシテ之ヲ就眠盥梳ノ時ニ充ツ氏ガ立テ徘徊スルニ當テハ必ズ社内入口ノ一室ナル花紋ノ甃上ニ於テス然ラザレバ必圓堵ノ下ナル環ラスニ赤斑石ノ彫柱殷然タルヲ以テセシ圓室ノ中ニ於テシ且其歩ヲ均一ニス氏ガ食スルニ當テヤ是レ社内ノ精肉鮮魚甘美ノ乳酪等ヲ擧ゲテ其最モ美キ者ヲ撰テ庖宰旨ク之ヲ調理シ烏黑ノ禮服ヲ着シ端然タル給仕人ガ撒西製ノ精緻無比ノ布ヲ以テ覆ヒシ卓子ノ上ヘ氏ノ爲ニ備ヘシ特別ノ器皿ニ盛テ之ヲ薦ム又玲瓏タル玉杯ニ盛ルニシェリポルト桂皮或ハ丁子ヲ加ヘシ葡萄酒等ヲ以テシ又其美酒ヲ冷スニハ彼ノ米國地方ヨリ莫大ノ費ヲ厭ハズ取寄セ社員ノ需ニ供ル氷塊ヲ以テス

氏ノ如クニシテ生ヲ樂ム者ヲ目シテ奇僻家トセバ奇僻モ亦取ルベキ所ナキニ非ラズサヴヒルロー街ノ居宅ハ甚ダ宏麗ナルニ非レモ頗ル起居ニ便ナレバ又愛スベシ殊ニ主人ノ行狀終始均一ナルヲ以テ之ニ使役セラル丶者ノ職掌亦頗ル簡易ナリ然レモフヲツグ氏唯一人ノ僕ニ就テ需ムル所ハ非常ノ嚴格ニシテ毫毛ノ時間タリモ違フヿヲ容サズ既ニ今十月二日ノ如キフヲツグ氏ハ其僕ジェームス、フヲスタルガ洗鬚湯ノ定度八十六度ナルベキヲ失テ八十四度ナル者ヲ持チ來リシヲ咎テ之ヲ解傭シ更ニ繼テ其代リトナルベキ者ガ十一時ヨリ十一時半ノ間ニ來リテ氏ニ謁スベキ筈ナルヲ以テ之ヲ待ツ氏ハ端然トシテ椅ニ凭リ兩足ヲ揃ヘシ狀恰モ兵士ガ檢閲式ニ列スル時ト一般ナリ體ヲ直ニシテ頭ヲ擧ゲ兩手ヲ膝頭ヘ置テ時辰表ノ鍼ノ進ムヲ見テ居リケル（氏ノ用ル時計ハ年、月、日、曜、時、分、秒ヲ示ス所ノ繁雜ノ器械ナリ）フヲツグハ日頃ノ慣行ニ據レバ十一時半ノ鐘聲ヲ聞クト均シク家ヲ立出デ改進舍ニ趣クベキ筈ナリキ此時フヲツグノ待チ居リシ便室ノ扉ヲ叩テ彼ノ放傭ノ僕フヲスタル入來リ主人ニ一人ノ三十歳バカリナル壯漢ヲ引キ合セ云ヘラク是レゾ下僕ノ代リトナルベキ新參ノ僕ニテ候

フヲツグ新僕ニ向ヒ「汝ハ佛人ニシテジョント

呼バル、與ト問ヘバ彼ノ新僕ハ對テ云フヤウ「ジャントコソ稱シ候也ジャンパスパルツートハ某萬事ニ精勵シテ如何ナル事モ貫徹スルト云性質ナルヲ以テ人ノ某ヲ目セル綽名ノ其儘ニ殘リ居候也嗚呼ガマシクモ誠實ノ壯漢タルヿハ某自ラ信ズル所ニハ候ヘド貴人ニ對シ毫モ伏藏スル所ナク告ゲマヰラセンニハ某既ニ種々ノ職業ヲ試ミ候也先ヅ門附ケノ唱歌師トナリ續テ輕技師トナリシ時ナドハ翩轉スルヿハレヲタルニ讓ラズ一條ノ架線上ニ於テ舞躍スルヿハフロンダンニ下ダラザリシモ後チ體操術ノ教師トナリ又長技ヲ公衆ノ利用ニ供セント欲シテ終ニ巴里ニ於テ消防方ノ伍長トナリ今猶某ノ佩ブル所ノ履歴書中ニハ壯大ノ火災ニ臨ミシ功績モ記載コレアリ然レド一閱門中ノ穩生ヲ味ント欲シテ英國ニ來リテ家僕タルヿ玆ニ五年然ルニ昨今手明キトナリテ居ル際ファイリス、フヲッグ君コソ當大英國ニ於テ最モ嚴格ナル貴人ニシテ更ニ轉移セザルノ紳士ナリト傳承欽慕ノ餘リ今日推參シテ貴人ノ面謁ヲ仰ギ願クハ貴人ニ仕フルヲ得テ某ガパスパルツーノ綽名スラ忘却スルニ至ラント冀望候也ト具サニ陳ベ立ツレバ紳士ハ聞キテパスパルツーハ予ノ索ムル處ニ適シ殊ニ汝ノ一身ニ付テハ予既ニ良報ヲ得タリ然シテ汝予ガ需ムル所ヲ熟知セシ哉　僕「熟知シテ候　主「可シ今ハ汝ノ時計ニテ何時ナル哉ト問ニ應ジパスパルツーハ衣ノ袂ヨリ巨大ノ銀時計ヲ取リ出シ「十一時二十二分ニテ候ト云ヘバ主人又云ク「汝ノ時計ハ遲レタリ　僕「失敬ナガラ違フ筈ハ決シテコレナク候　主人「汝ノ時計ハ後ル、ヿ四分ナリ去レモ互ニ差ヲ記憶シ置カバ障得ナカリナン仍テ今千八百七十二年十月二日水曜日午前十一時二十九分ヨリシテ汝ハ予ノ使傭スル所タリト云と置キテフヲッグハ立テ帽ヲ右手ニ持シ彼ノ自動ノ木偶ト一般ナル動作ニテ其帽ヲ頭上ニ戴キ又他ノ一語ヲ交ヘズシテ出デ去リケル

パスパルツーハ頓テ門戶ヲ開閉スル響ヲ聞クヿ兩次是レ則チ先ヅ主人ノ立出デシト次ニ舊僕フヲスタルガ爰ヲ辭シテ去ルナリ斯クテ終ニサヴヒルロー街ノ家ニ留リシハパスパルツー一人トナリタリケリ

第貳囘

偖パスパルツーハ愕然トシテ獨自嘆賞シケル樣嗚呼我新主人ノ如キ謹嚴端正ナル人ハ罕ダチュサウ貴婦ノ許ナル彼ノ蠟製ノ偶像ニ於テ僅ニ見ル所ナリト 蠟製ノ偶像ニシテ妙工眞ニ迫ル只言語ノナキヲ以テ始テ偶人ナリト知ルホドナル製造ニテ龍動府ノ一奇觀ニシテ看客常ニ市ヲナス

パスパルツーガ主人ニ應接セシハ瞬間ナレド蚤クモ其容貌ヲ熟察セシニ年齡四十強ナルベク容顏閑雅ニシテ且隆偉ニ身材長大ニシテ娉婷タリ毛髮鬚髯共ニ薄栗色ニシテ眼光澄明額上未ダ一痕ノ皺波ヲ漲ラサズ色稍ヤ蒼素ク齒牙麗艶タリ其風姿ハ彼ノ相學者ノ稱スル繁劇中ニ餘裕ヲ有スル者ニ屬ス可シ事ニ臨テ神色自若喜怒色ニ顯サズ剩冗ノ動作少シテ事務爰ニ擧ル氏ハ眞ニ是レ純然タル英人ニシテ嘗テ畫工カウフマンヌガ妙技ヲ振テ寫シ出ダセシ肖像ニ於テ見ル所ノ體格ナリ其五體四肢妙ニ適應シ恰モルロイ或ハイルンショー精製「クロノメートル」ニ似タリ果メ氏ハ活機關ト均シク動作頗ル整々其四肢ニ彰ハル、狀ニ就テ之ヲ見レバ人ノ儼整タルニ非ズ卽チ儼整ノ凝テ人ト爲リシガ如シ

ファイリス、フヲッグハ彼ノ動作進退所謂定規ヲ當テシ如ク嚴格均一ノ徒一動一歩モ剩費セザル輩ノ流タリ故ニ一所ヘ至ラントスルニ當テハ先ヅ捷徑ヲ取ルヲ以テ未ダ嘗テ一跨ト雖モ剩多ノ歩ヲ進メシヿナク又天井ヲ仰望スル如キ贅冗ノ舉作ヲナスヿナシ人未ダ嘗テ其ノ慼々タル色アルヲ見シヿナク又其欣々タル容

アルヲ見シヿナシ氏ハ怱々トテ急グヿナシト雖𪜈又終ニ徐々トシテ遲緩セシヿナシ氏ハ他人ト交ルノ際自ラ時ヲ濫消スルヲ免レザルヲ厭フヲ以テカ獨立獨行世塵ヲ離レテ逸然タリパスパルツーノ綽名アル ジャンノ如キハ是レ純然タル巴里兒ニシテ嘗テ英國ヘ來寓シ龍動ニ於テ家僕ノ職ヲ執ルヿ五年其間適意ノ良主ヲ索メテ未ダ之ヲ得ズパスパルツーハフロンタンマスカリル等ノ徒ノ如キ肩骨突出シ獅鼻空ヲ仰ギ眼中微濕ナク容姿傲然タル癡漢ニアラズ是レ風采自ラ愛スベキノ好壯漢ニシテ脣ハ微厚常ニ佳品ヲ味ヒ且ツ人ニ逢ウテ微笑スルヲ待ツ者ニ似タリ團圓タル頭顱ノ自ラ朋友ノ肩上ニ見ヲ喜ブベキ風ノ者ニシテ其質柔順且ツ人ニ遇スル頗ル勤ム然シテ其眸瞳ハ淡碧ニ顏色常ニ蛇顏ノ如ク股肥太能ク自家ノ頰頭ヲ見ルヲ得胸廣ク身材強壯筋骨剛勁ニシテ弱冠ノ頃ヨリ百錬シタルヲ以テ力能ク千鈞ノ鼎ヲ擧グベシ其毛髪ハ淡黑ニシテ硬勁ナリ昔時嘗テミネルブ（希臘羅馬ニテ崇敬セシ軍事ニ智徳ノ女神ナリ）ノ像ヲ刻ム者ハ鬘形十八種ノ異樣アリト今パスパルツーノ如キハ一櫛ヲ執テ兩三回髮髮ヲ撫スレバ梳樣爰ニ整ヒ又他ノ形樣ヲ附スベキナシフヲッグ氏ノ沈毅ニ對スルニ彼ノ意氣活潑タル壯漢ノ性質ヲ以テシテ互ニ適合スルヤ否ヤヲ問ハヾ如何程空心ノ人タリト雖𪜈是ヲ然リト答ルヲ得ベケンヤ然ラバ果シテパスパルツーハ主人ノ需ル所ノ釐毫ヲ爭フ程ノ嚴格ヲ守リ得ベキヤハ其實地ニ就カザルノ間ハ知ルベカラズ弱冠ノ時ヨリ飄然四方ヘ流寓セシガ今來休養ヲ渇望シテ彼ノ英人ノ儼整タル風習ヲ傳聞シ彼ノ上等紳士ノ肅然タル容儀アルヲ欽慕シテ英國ヘ來テ身ヲ立テントセシガ不幸ニシテ未ダ好主人ニ會ハズ既ニ十有餘家ヘ轉仕セシモ或ハ輕躁或ハ浮虛或ハ放逸或ハ出遊ヲ好ム者タルヲ以テ遂ニ一所ニ留マルヲ得ズ既ニ頃日迄傭使セラレシロンゲスヘリ侯ノ如キハ議事院ノ議員タリシト雖𪜈猶弱冠ナルヲ以テ割烹店ノ樓上ニ夜ヲ更カシ終ニ巡吏ノ肩ニ掛リテ漸ク家ニ歸ルヿナドモ屢ミナリケレバパスパルツーハ此亂行ニテハ主人ノ威光自ラ薄ラグトテ折ニ觸レテハ諫諍シケレ𪜈忠言耳ニ逆ヒ却テ疎ンゼラレケレバ終ニ辭シ去テ閑散ノ際フヲッグ氏ガ一僕ヲ要ムルト聞キ私ニ氏ノ一身上ニ關スル諸作ヲ尋レバ其品行儼整ニシテ平素他ニ宿泊セズ行旅ヲ事トセヌ等是素ヨリ己レノ欲スル所タ　ヲ以テ來テ氏ニ謁シ遂ニ前回ニ記セシ機會ニ於テ其傭フ所トナリシナリ

十一時半ノ鳴鐘ノ響キシヲ以テ獨リパスパルツーハサヴヒルロー街ノ家ニ殘リケレバ先ヅ穴藏ヨリ天井上ノ穀倉迄逐一點檢スルニ到ル處總テ淸潔ニシテ虛飾ナク整頓百事宜ヲ得ルヲ以テ大ニ己レノ意ニ適セリトセリ然シテ彼レノ所見ニテハ此家ノ構造少シク蝸牛ノ殼ニ類スル樣思ハレタリ尤モ是レ貝殼ニシテ内部ヲ照スニ瓦斯ヲ引用シ之ヲ煖ムルニモ亦同ク瓦斯ヲ用フル所タリ三階ニ到リテ己レニ供スル部屋ヲ見ルニ電氣ニ仍テ鳴ル呼ビ鈴及ビ傳聲管トノアルアツテ樓上樓下ノ諸室ト通ジ殊ニ煖爐ノ上ニ掛ケシ時辰表ハ主人フヲッグ氏ノ寢室ニアル者ト電氣ニテ又相通ジ兩器均シク同秒時ヲ示スアルヲ見滿足ニタヘズ良室ナリ良室ナリト嘆賞シナガラ見ルニ時辰表ノ下ニ何ヤラン一篇ノ掲書アリ近ヅイテ熟ミ之ヲ視ルニ日々ノ行事書ニシテ其概略ニ每朝正八時フヲッグ氏ガ床ヲ出ルヨリ十一時半改進舍ヘ行カントテ家ヲ出ル迄ノ勤務ハ先ヅ八時二十三分ニ炙肉及ビ茶ヲ供シ九時三十七分ニ洗鬚湯ヲ進メ九時四十分髮ヲ梳ル等猶數條ノ條目アツテ又十一時半ヨリ夜半寢ニ就ク時迄モ萬事細ニ豫定シテ其規律ノ設ケアリケレバパスパルツーハ喜ビテ此行事記ノ細目ヲ忘レジトコソ諳記シタリケ又其人ノ衣裳戸棚ヲ啓キテ見ルニ是又整々乎トシ

テ衣服ノ序ヲ正シ上衣、袴、胴服等モ一々之レヲ帶シ是ニ其ノ各衣出入ノ月日及ビ着用季日等ヲ一冊ノ簿ヘ誌シ[illegible]ニ要スル靴ヲ整頓スルモ亦是レニ均シ此サヴヒルロー街ノ居宅ハ昔時彼ノ高名ナリシモ又行蹟頽落タリシシエリダンガ住ヒシ頃ハ不規則ノ濫淺タリシモ今ハ家中ノ飾付等百事整頓シ自ラ殷富ノ光ヲ表セリフヲッグ氏ハ彼ノ改進會ノ隣ナル文庫甲ハ文學ノ圖書ヲ藏メ乙ハ法律及ビ政事ニ關スルノ書籍ヲ藏スルアツテ是ニ就テ意ノ欲スル處ナル書ヲ讀ミ得レヲ以テ又家ニ書棚ヲ設ケズ寢室ニ只一箇ノ安全金匣ノアルアリ其製堅牢火災及ビ竊盜ノ難ヲ防グニ堪ヘタリ又曾テ家ニ一片ノ兵器獵器ノ類ナク殺伐ノ凶器ヲ藏セズ惟フニ氏ノ性質又頗ル平和ヲ好ム者ノ狀アリケンパスパツーハ家內殘ル隈ナク點檢シ終テ獨リ頻ニ滿足ノ色ヲ顯シ掌ヲ摩シツヽ是デコソ我望通リナリフヲッグ氏ト吾レト必ズ能ク適合スルナラン氏ハ儀整ニシテ他出ヲ好マズ眞ニ是レ一箇ノ活機關ナリ此ノ如キ主人ニ仕フルハ素ヨリ吾ガ辭セザル所ナリト繰返シテゾ獨語シタリキ

第參回

フヲッグハ十一時半ニサヴヒルロー街ノ家ヲ立出デシヨリ右足ヲ五百七十五回左足ノ前ヘ進メ左足ヲ又五百七十六回右足ノ前ヘ出ダシ終ニ改進會ヘゾ着ニケル抑モ該會ハポールモールノ境內ヘ建設ケシ宏壯ノ大廈ニシテ六十萬圓ノ費用ヲ要セシナリフヲッグハ直ニ食堂ヘ入リ設ケノ卓子ニ就キニケル其堂ハ瀟洒タル閑庭ニ臨ミ園木秋霜ニ染テ黃色其窓ニ映ズ氏ノ午餐ニ供スルモノハ先ヅ前菜、鱈、乾酪、油漬魚肉等ノ如キ瀟洒品兩三種ニシテ次ニ鮮魚ヲ湯煮シテ之ニ最上ノ醬汁ヲ加ヘタル羹及又次ニ牛炙ノ紅ナルニ香蕈ヲ添ヘテ調理セシ者ヲ薦メ之ニ次ニ大黃莖及ビ山葡萄ヲ加ヘテ精製シタル菓子及ビチエステル製ノ乾酪一片ヲ薦メ畢テ彼ノ改進會用ノ爲特ニ精撰シタル名茶一兩椀ヲ傾ケテ後十二時四十七分ニ卓ヲ起テ公衆ノ會堂ニ入レ其造營美麗ヲ極メ特ニ四壁ニ揭ルニ裝飾燦然タル畫額數面ヲ以テス是ニ於テ一僕「タイムス」號新紙ノ未ダ裁ラザルマヽナルヲ持チ來テ氏ニ捧グ氏之ヲ取テ繙キ誦讀三時四十五分ニ至ル又「スタンダード」ヲ執テ之ヲ閱シタ夕膳ノ時ニ迨テ漸ク止ム晚食モ亦料理略々晝餐ノ時ト等シ唯(「ロイヤル、ブリスチシュ、ソース」汁ノ類)ヲ添ルノミ

五時四十分再ビ會堂ヘ入リ又「モーニング、クロニークル」二號ヲ携テ之ヲ讀ミ又晚餐ヲ頓ミズ兎角スル內半時間程モ過ギケル頃改進會ノ各員漸々來會シ各進ンデ煖爐ノ前ニ集ル是皆フヲッグ氏ト同遊ノ骨牌社伴ニシテ嗜好、氏ニ讓ラズ其人々ニハ工學博士アンドリユー、スチユアート銀主ジヨン、シユリバン同サミユエル、フヲレンチン造酒豪商フラナガン大英國特立銀行重役ゴーチエ、ラルフ等ノ如キ徒ニテ該會ノ社員ニ列ル面々ハ固リ商工中ニテモ頂上ト稱フベキ者ナレド就中以上ノ數名ハ豪富名望共ニ著シキ紳士タリキ

此時フラナガンハラルフニ向ヒ如何ニラルフ氏彼ノ騷盜一件ハト問ヒ掛レバスチユアート橫合ヒヨリ夫ハ到底銀行ノ損金モノナルベシト云ヘバラルフハ首ヲ掉リ老練ノ警吏數名ヲ既ニ歐米ノ各港ヘ派遣シ乘船上陸ノ際嚴シク搜索スル最中ナレバ賊ノ逃竄頗ル難カルベケレバ不日其捕獲セラレンコト必セリスチユアート「然ラバ其賊ノ人相ハ識レヲルニヤト問ヘバラルフハ眞面目ニテ第一彼奴ハ賊ニテナシト聞テスチユアートハ怪ミテ「何ト云ハル、ゾ銀行紙幣ニテ五萬五千磅(貳拾七萬五千圓)ノ大金ヲ盜ミシ奴ヲ賊ト稱セズト云ヒ張リ玉フカト詰レバラルフハ「否ナ賊ニハアラズ」シユリバン傍ヨリ「夫ハ職

人ニテ候ヤト問ヘバ「否ナ、モーニング、クロニークル」ニハ卑シカラザル紳士ナリトコソ掲ゲアリト答ヘツヽ來會ノ諸客ニ一禮セシハ是レ別人ナラズ積ミ疊ネタル新聞紙其他ニ頭モ埋レテ見エザリシフヲッグナリケレバ各々之ニ答禮シタリケリ

抑モ當時大英國中各社ノ新誌ニ喋々トシテ説ク所ノ竊盜ハ三日已前ノ事ニシテ則チ九月二十九日英國特立銀行會計長ノ机頭ニ置キシ五萬五千磅ノ巨額ヲ一束ネニセシ紙幣ノ紛失シタリシ件ナリケリ斯ク巨額ノ金圓ガ左シモ容易ニ偸マルヽトハ奇怪ナリト危疑スル人々ヘ對シ唯彼ノ銀行副長ラルフハ答ルニ「其時丁度折惡ク三シリング六ペンス（八拾七錢五厘）ノ入金ヲ帳簿ヘ記載スル折ナリケレバ流石ノ會計方モ八方ヘ眼ヲ配ルヿ能ハザリシニヨルト辨ジタリ一體此英國銀行ハ衆庶ノ毀譽ヲ重ンズルヿ深クシテ更ニ番卒ヲ置カズ格子ノ類ヲ設ケズ金銀楮幣ノ類展テ机上ニアルヿ殆ンド常ニテモ入來ル者ノ心ニヨリ偸ントセバ事容易ニ行ハルベクゾ見エニケル元是レ衆庶ノ廉潔ヲ狐疑セヌ主意ニ出ヅ爰ニ英國風習ノ一斑ヲ示スガ爲其一例ヲ擧ゲンニ或人一日銀行ニ行イテ一室ニ待チ居リシニ會計方ノ机上ニ七八斤モアルベシト思ヘル純金ノ一塊アルヲ見テ珍ラシサノ餘リ手ニ取リテ之ヲ眺メ又傍ノ人ニ渡シテ見セケルガ金塊ハ手ヨリ手ニ渡リテ終ニ薄暗キ廊下ノ隅マデ渡リ行キ漸ク元ノ机上ヘ復セシハ稍々半時間程モ過ギシ頃ナリケレド會計方ハ更ニ意ヲ留メズ頭サヘモ擡ゲザリケリト云然レ𪜈九月二十九日ニハ不幸ニシテ紙幣ハ元ノ位置ヘ復リ來ラズ爲換振出所ノ壁ニ掛ケタル自鳴鐘ガ五時則チ閉鎖ノ時ヲ報ジ損益出納等ヲ點檢スルニ至リ漸ク五萬五千磅ノ不足ヲ發見シ始テ竊盜ニ遭ヒシヲ悟リ老練ノ警察吏數名ヲ拔擢シテリワプール、グラスゴー（英國）ハーブル（佛國）スエス（埃及）ブリンヂジ（伊太利）紐育等ノ諸港ヘ派遣シ且之ニ約スルニ首尾能其賊ヲ捕フニ於テハ賞金貳千磅（壹萬圓）ト其上ニ取リ復シタル金額ノ多寡ニ準ジ其百分ノ五ヲ附與ス可キヲ以テ之ニ命ジ即刻吟味ニハ掛リタレ𪜈略々心當リノ附クマデ先ヅ取リ敢ヘズ發着ノ旅人ヲ嚴密ニ視察スベキヲ以テセリ

果シテ「モーニング、クロニークル」ノ掲ル所ノ如ク今回ノ盜ハ英國盜賊社會ニ於テ未ダ知ラザル所ノ者ニシテ九月二十九日竊盜現行ノ地該銀行受附ケ室内ヲ扮粧モ卑シカラズ風采動作モ閑雅ナル紳士ガ頻ニ往キツ戻リツ徘徊シ居シヲ見受ケタル者アリシニヨツテ漸々吟味ヲ遂ゲ正シク其紳士ノ人相書ヲ寫シ取リ本邦ハ勿論自他ノ警察官ヘモ直ニ是レヲ報送シタレバ賊ハ必ズ遁スマジト信ズル者多クシテ既ニラルフ如キモ其懽ナリキ當時該件ハ龍動ハ勿論大英全國一般ノ流行話トナリ本邦ヨリ派遣警吏ノ志ヲ遂グルヤ否ヤヲ説クヿ喋々タリサレバ改進舍ニ於テモ素ヨリ該件ニ關スル論ノ起ルハ怪ムニ足ラズ況ンヤ現在該銀行ノ副長ガ一座ノ内ニ列スルニ於テヲヤラルフハ彼ノ賞金ノ約アルヿナレバ大ニ警吏ノ精勵ヲ鼓舞シ必ズ捜索ノ功績アルベシト確信シアリタレド同僚スチュアートノ如キハ更ニ是ト所見ヲ同ウセズ故ニ議論各紳士ノ間ニ止マザリシガ各骨牌ノ戯ヲ始メントスチュアートハフラナガント相對シフヲレンテンハファッグト面シテ座ニ就キテ各勝負ヲ爭フ間共ニ默然タレト雖モ一戯局ヲ了リ牌ヲ揃ヘ之ヲ頒ツノ間ハ間斷ノ議論再ビ起ツテ又嘖々然タリ此時スチュアートハ屈セズ一賊モ素ヨリ老功ノ奴ナルベケレバ利運ハ賊ノ方ニアレト聞テラルフハ「コハ何事ゾ何處ヘ行クモ最早遁逃シ得ベキ地ハコレナキニ　スチュアート「奇異ノ事ヲ云ハルヽ哉　ラルフ「サリトテ濶キ處ヘ走レト思ヒ玉ノゾ　スチュ　夫ハ僕モ知ラザ

レド兎ニ角地球ハ廣キ物ナリト云ヘバフヲッグ傍ヨリ微哂ニテ「昔シハ眞ニ廣カリシナレドト云ヒツヽ牌子ヲフラナガンヘ差シ出シテ「今度ハ君ノ切リ玉フ順ナリト之ヲ渡セバ爰ニ至テ勝負ノ間議論中斷シタリシガ終ルニ及ンデスチュアートハ再ビ其緒ヲ繫ギ「昔シハ廣カリシケレドト云ヒ玉フハソモ何故ゾ若シヤ地球ノ層ガ縮リデモセシヿナル哉　ラルフ「素ヨリナリ僕ハフヲッグ君ノ說ニ同ズ百年已前ノ事ヲ回想スレバ今日ハ十分一ノ日數ヲ以テ地球ヲ一周スベシ故ニ地球ハ縮ミシト云フモ附會ノ言ニ非ズ殊ニ今回ノ如キ機會ニ際シテハ搜索ヲシテ頗ル迅速ナラシムベシ　スチュ「然レ圧賊ノ遁逃モ亦同ジク容易ニナリタルナリ此時フヲッグハ傍ヨリ「此度ハ君ノ番ナリト心附ケルニゾスチュアートハ猶モ心服セズ勝負了リケレバ又云ク「眞ニラルフ君ガ云ハルヽ所ノ今ハ三ケ月間ニ地球ハ一周セラル故短縮シタリトハ中々新奇ノ說ナリト云ハザルヲ得ズ　フヲッグ「僅ニ八十日間ヲ出デズシテ能ク一周スベシ此時シュリバン傍ニアツテ「印度大半島鐵道モロタールヨリアラハバッド迄ノ線路開業セシカラハ眞ニ八十日間ニ周回スベキガ如シ爰ニ「モーニング、クロニークル」ガ揭載セシ豫算ニヨレバ

龍動ヨリスエズ港迄モンセニー隧道ヨリブリヂジヲ經テ鐵道並ニ郵船ニテ	七日
スエズヨリボンベイ迄郵船ニテ	十三日
ボンベイヨリカルカッタ迄鐵道ニテ	三日
カルカッタヨリ香港迄郵船ニテ	十三日
香港ヨリ横濱迄郵船ニテ	六日
横濱ヨリ米國桑港迄郵船ニテ	廿二日
桑港ヨリ紐育迄鐵道ニテ	七日
紐育ヨリ龍動迄郵船並鐵道ニテ	九日
總計八十日	

スチュアートハ是ヲ聞クヨリ我レヲ忘レテ親牌子マデ切込ミナガラ「然リ八十日間ニ周回スル筈ナルベケレド暴風、逆風、破船、汽車ノ脫線等ナキノ保證ヲ如何セント云ヘバフヲッグハ勝負ナカバモ更ニ意トセズ「皆其内ニ込メテ豫算セルナリ　スチュ「然ラバ萬一印土或ハ米國地方ノ土人等轍線ヲ破壞シ列車ヲ抑留シ荷物ヲ奪掠シ旅人ノ皮膚ヲ剝グ等ノ難アリ圧猶能ク周回スベシト云ヒ張リ玉フカト云ヘバフヲッグハ手ニ殘リシ貳枚ノ役牌ヲ投ゲツヽ「素ヨリ何モ角モ籠メテ算セシナリ此時スチュアートハ配牌ノ順ニ當リケレバ落チ散リシ牌子ヲ拾ヒ擧ゲツツ云フヤウ「フヲッグ君ノ云ヒ玉フ所ハ理論上ニテ就ル筈ナルベケレド實地ニ當テハ成ラヌガ常ナリト聞クヨリフヲッグハ「否ナ實驗上ニテモ就ル事ナリ　スチュ「君ガ云ヒ張リ玉フ如クンバ君自ラ是ヲ實地ニ試ミ玉フヲ見タクゾ思フナリ　フヲッグ「夫ハ最ト易シ君サヘ望ミ玉フナライザ共ニ發足致スベシ　スチュ「僕ハ左樣ナ企擧ニハ同意セネド君ノ主張シ玉フ周地ノ行旅ハ到底河漢ヲ望ムノ狂擧ナリトシテ四千磅（貳萬弗）ヲ投ジテ賭トスベシ　フヲッグ「否ナ固ヨリ出來ベキ事ナリ　スチュ「然ラバ君之ヲ實驗シ玉ヘ　フヲッグ「世界ヲ八十日間ニ周レトナ　スチュ「然リ　フヲッグ「拙者毫モ辭スル所ニ非ズ　スチュ「何時發シ玉フゾ　フヲッグ「只今直ニ　スチュアートハフヲッグノ執拗ノ功ナルニ驚クマデ叫ブ樣「夫ハ狂擧ノ極ナリ斯ル空論ハ休メニシテ牌子ヲ採テ戲遊セント云ヘバフヲッグハ答ヘテ「然ラバ猶一度牌子ヲ揃ヘ玉ヘ須ケ違ヘモアルナレバト云フ時スチュアートハ心中焦ルガ如ク牌子持ツ手モ戰キナガラ又俄ニ之ヲ机上ヘ置キ「如何ニフヲッグ君ヨ僕ハ愈ヽ四千磅ヲ賭トスベシト云ヘバフヲレンチンハ傍ヨリ之ヲ宥メ　スチュアート君先ヅ心ヲ靜メ玉ヘ是ハ素ヨリ眞面目ノ

事ニハアラジ　ステユ「否ナ僕ガ賭スルト云フ時ハ決メ戯言ニハ候ハズト云フヲ打チ聞クフヲッグハ同僚ノ諸子ニ向ヒ「斯クナル上カラハ拙者ガ嘗テベーリング兄弟商會へ預ケ置キシ金貳萬磅（拾萬圓）アリ之ヲ投ジテ賭ト致スベシト云ヘバシュリバンハ驚キテ「貳萬磅トナ夫ハ不慮ノ遅滞モ起リナバ終ニハ返ル可ラザル損トナルモ不厭シテト云ハセモ敢ヘズフヲッグハ「思ヒ掛ケナキト云フ「ハ無キ筈ナリト云ヲ打消シ「左レモ此八十日間ノ期日ナルモノハ唯最短ノ時ヲ舉テ算セシノミ　フヲッグ「巧ニ用ヒナバ最短最小ハ萬事ニ充ルニ堪ヘタリ　シュリ「然レド其期日ヲ違選セヌ樣致サンニハ實ニ鐵道ヨリ郵船ヘ郵船ヨリ鐵道へ飛遷ラザルヲ得ズ　フヲッグ「實ニ拙者ハ飛ビ移ルベシ　シュリ「夫ハ座興ノ戯言ナラン　フヲッグ「否ナ否ナ良英人タル者ハ決シテ戯言ヲ吐カズ殊ニ況ンヤ賭ヲ結ブ如キ重事ヲナスニ於テヲヤ拙者ハ議ニテモ拙者ガ八十日間則チ千九百貳拾時間乃チ拾壹萬五千二百分時間已内ニ地球ヲ一周ナシ得ズト云フ人ニ對シ二萬磅ノ賭スベシ如何ニ君等ハ競賭ヲ承ケ玉フ歟ト陳ブレバスチュアート、フヲレンチン、シュリバン、フラナガン、ラルフノ諸子ハ協合シ異口同音ニ我々ハ之ヲ承クベシト云フヲ聞テフヲッグハ「可シドウブルス行ノ汽車ハ八時四十五分ノ發車ナレバ拙者是レニ乘テ發足致スベシ　スチュ「今宵直ニ發スルト云ヒ玉フ歟「固ヨリト云ツヽフヲッグハ懐中暦ヲ取出シテ「今日ハ是レ十月二日水曜日ナレバ拙者ハ是非共十二月二十一日土曜日午後八時四十五分ニ龍動へ歸着シ當改進舍ノ此會堂へ出頭スベシ萬一時日ノ遅緩スル其時ハ現今ベイリング兄弟商會へ依託シ置候二萬磅ナル者ハ固リ各位ノ所有物ニ歸シ申スベシ因テ妥ニ該金額ノ手形ヲ留ムト云ヒツヽ直ニ一篇ノ誓約文ヲ草シ締約ノ諸子六名各是ニ姓名ヲ筆記シ後證トナスニ當テモフヲッグハ神色自若タリ實ニ此賭ヲナスヤ利ヲ博センヽスルニ非ズ故ニ己レノ財産ノ半ヲ投ジテ其半ヲ携行キ此至難ノ企ヲ遂グル資ニ充テント欲スルガ故ナリ相手ノ諸子ハ皆驚裏悸々タル如キ色アリ是レ賭額ノ多寡ニ關スルニ非ズ只今回ノ如キ異常賭ヲ結ブヲ自ラ責ル狀アレバナリ

七時ノ鐘聲響キケレバ諸子牌子ヲ休メ發程ノ準備ヲナス「ヲ勸ムルニゾフヲッグ答ケルニ「拙者ハ常ニ準意アリ又玉心勞シ玉フナカレト云ヒツヽ牌子ヲ配リテ「拙者ハ菱ヲ圓シタリ今度ハスチュアート君ノ順番ナリ

第四回

ファイリス、フヲッグハ骨牌ノ戯ニ貳拾弗程モ打勝テ改進舍ノ諸員ニ別ヲ告ゲ七時二十五分ニ茲ヲ立出ツヽ七時五十分ニ我家ニゾ歸リケレバパスパルツーハ先程ヨリ日々ノ行事ヲ諳記シテ考フルニ主人ノ歸宅ハ夜半正十二時ノ筈ナルニ斯ク時間ヲ違ヘテ歸宅スル主人ノ行狀コソ奇怪ナリトテ只管打愕キケリ

ファイリス、フヲッグハ先ヅ己レノ部屋ニ入リテパスパルツーヲ喚ビニケレ圧僕ハ時間ノ違フヲ怪シミシカ更ニ返辭モセザレバ主人ハ差シテ辭モイラダテズ再ビパスパルツート喚ビニケレバ漸ニシテパスパルツー入リ來リケルフヲッグ氏之ニ云テ曰ク「我レ汝ヲ喚ブハ番ヤ二度目ゾト僕ハ時計ヲ片手ニ持チナガラ「未ダ十二時ニハナリ候ハズト對レバ主人ハ靜ニ、我汝ヲ咎ムルニ非ズ又時ノ早キモ熟知スレド十分ノ内ニドーブル、カレー（[illegible]）ヲ差シテ發足スレバ其用意ヲ整ヘヨト

僕ハ正シク己ノ聞誤リカト思ヘバ苦笑シテ佇立シ偖云フ樣「君ニハ何處ヘカ發程被成候哉「左レバトテ世界ノ一周ヲ成ス心得ナリト聞テ僕ハ驚愕無涯眼ヲ圓クシ眉ヲ顰メ兩手ヲ垂レ

唯茫然トシテ世界一周トハト打駭クヨリ外ナカリケル

八十日間ニ一周スル事ナレバ瞬間モ冗費スベカラズト主人ノ言葉ニ僕ハ不思首ヲ左右ヘ打掉リテ「旅荷物ノ支度モコレナキニ如何シ玉フゾト云ヘバ主人ハ打チ消シテ「旅裝ヲ齎スハ無用ナリ手携ノ袋ヘ毛織ノ襦袢貳枚足袋三足ヲ裝入シ行バ足リナン餘品ハ途ニテ購ヒスベシ先ヅ予ガ手提袋并ニ旅氈ヲ二階ヨリ持降リテ汝モ亦底厚ノ靴ヲ用意スベシ尤モ旅中徒行ハ極稀レニ或ハ全ク徒行スルヿハナキ程ナラン早ク早ク急キ立テラレバスパルツーハ答ントセシガ言モ不出其儘主人ノ房ヲ出デテ已ノ室ヘ入リタルマヽ轉ロブガ如ク椅子ニ腰打掛ケ「噫何等ノ不幸ゾヤ休養ヲ要ル此際ニト獨言シテ打紛レ在シガ漸テハ果テジト心ナラズモ出發ノ準備ヲナシツヽ又思フ樣八十日間ニ世界ヲ一周スル抔ト云フハ到底風狂人ノ發意ナルカ但シハ我ヲ嘲弄スルノ惡戲カハ知ラザレドドーブルヘ行モ可ナリカレーヘ行クモ亦強テ心ニ違フ所ニ非ラズ況ンヤ五年來故國ノ土ヲ踏マザルニ於テヲヤ巴里迄行カンモ又測ラレズ然ラバ故國ノ首府ヲ再覽スルハ樂事ニアラズヤ氏ノ如キ平素自重ノ紳士ナレバ此處ヲ踰エテ先キヘハ過行スベカラジ左ハ乍去斯ク迄家ニノミ駐留スルヿヲ好ミシフヲツグモ今ハ行旅ノ羇途ニ就カンヿ疑フベキニ非リケリ扨八時ニナリケル時バスパルツーハ主人ノ旅裝ニ已レノ着換ヲ纏テ一箇ノ袋ヘ納メ精神猶恍惚タリシガ已レノ室ヲ立出デ懇ニ扉ヲ鎖シテ後ニ主人ノ許ニ來リ見レバフヲツグ氏ハ既ニ準備ヲ完卒シブラドツー氏所著ノ世界道中記ヲ携ヘ僕ノ入來ヲ待居シガハスパルツーノ持來リシ手提嚢ノ口ヲ啓キ彼ノ萬國普通ノ銀行紙幣ノ層高ニ束ネタル者ヲ靜ニ其中ヘ納メツヽ問テ云ク「何ニモ遺失ノ品ナキヤ　僕「何ニモ候ハズ　主人「旅氈等ハ如何哉　僕「皆爰ニ持來リ候　主「然ラバ是ヲ持チ行クベシト云ヒツヽ手提ヲ取リ上ゲ僕ニ渡シテ警テ云ク「此嚢中ニハ貳萬磅（我ガ十萬圓）ノ金額ヲ納メタレバ能々心ヲ配レヨト聞クヨリ僕ハ驚キ不思モ嚢中ノ金額ハ不殘正金ニテ其重サニ堪ヘザリシガ如ク既ニ嚢ヲ落トサントセシガ又確ト握リ主ニ尾シテ戸外ヘ出デ戸扉ヲ堅ク閉鎖シテ後立出デツヽサヴヒルロー街ノ端ニテ客待ノ馬車ヘ打チ乗リ馬ヲ躍セ急ニ急テチャリング、クロスノ停車場ヘト志ザシテ驅セ去シガ八時二十分ニ早クモ同場ノ門前ヘ着シケレバパスパルッーハ疾ク車ヲ飛ビ降リ主人モ續テ車ヲ降リ御者ニ傭賃ヲ與ル時顔色憔悴シテ肩ニハ破レタル肩掛ヲ纏ヒシ老媼ガ手ニハ一人ノ形モ怪シク頽レタル帽ヲ戴ダキ汚泥ノ中ヘ徒跣ニテ戰キ立チタル小童ヲ携サヘツヽフヲツグノ傍ヘ近キ哀ヲ乞フヲ見テ坐ロニ憫情ヲ催シ先刻骨牌ノ戯ニ打チ贏チシ貳拾弗ヲ取出シ彼ノ乞丐ニ向ヒ「是ヲ汝ニ施惠スベシ吾レ汝ニ遭遇セシハ滿足ニ餘リアリト云捨テヽ跡ヲモ見ズニ過ギケレバパスパルツーハ不思モ眥ヲ濕シケルハ是レフヲツグ氏ノ仁心ノ爲ニ感動セラレシナリフヲツグ氏ハ直ニ同場ノ大室ヘ入リ巴里行ノ一等車券貳枚ヲ買來ル樣僕ニ命ジ終テ顧レバ改進舍ノ社友五名ノ送リテ來會スル者ニ逢ヒケレバ盟テ云フ樣「拙者ハ愈々唯今ヨリ發程致スナレバ持參ノ旅行證ヘ各地ニ於テ領事ノ檢印ヲ乞ヒ請ケ歸國之上諸君ノ覽觀ニ具スベシト聞テゴーチエ、ラルフハ慇懃ニ答テ云「斯迄配慮シ玉フニモ不及我等ハ君ガ紳士タル榮譽心ノ高キニ憑信スベシトフヲツグハ「然ラバ拙者ノ爲ニハ猶更都合宜敷候也アンドリュー、スチュアートハ傍ヨリ念ヲ推シ「君ニハ約定日數ヲ忘レ玉フナト云ヘバフヲツグハ首肯シ「必ズ八十日目則チ千八百七十二年十二月二十一日（土曜日）午後八時四十五分迄ニハ歸國致シ諸

君ニ再會致スベシトテ袂ヲ分チ八時四十分ニ僕ヲ從ヘテ客車ノ席ニ付キケレバ八時四十五分ノ鐘聲ト共ニ一聲ノ嘯笛ヲ合圖ニ汽車運轉ヲ始メル折シモ細雨霏々トシテ降リ下リ一天暝ク冥咫尺ヲ辨ゼズフヲッグハ臂ヲ車房ノ一隅ニ凭セ敢テ言葉モナキ折カラパスパルツーハ心緒如醉如夢我ヲ忘テ彼ノ紙幣ノ嚢ヲ保護シ在シガ客車將ニサイデンハムヲ過ントスル頃如何シテケン儀ニ失望惶惑ノ叫聲ヲ發シケレバフヲッグハ怪ミ何事ゾト問ハレテ答モ匆遽シ「餘リ蒼卒ノ發足ニツイ遺忘候ト聞テ主人ハ又問返シ「何ヲ忘レシヤト再ビ問ハレテ漸クニ下郎ノ部屋ナル瓦斯燈ヲ消滅スルヲ遺レ候ト云ヒケレバフヲッグハ靜ニ然ラバ其點燈ノ料ハ汝ガ償フベキ所テリトゾ申シ聞カセケル

第五回

フヲッグ氏ハ倫敦ヲ辭スルニ當リ自家ノ出征ガ社會上ニ如何ナル大影響ヲ招クカハ更ニ念頭ニ掛ケザリシナランガ賭博ノ新聞ハ先ヅ改進合中へ洩クモ傳播シ社中ノ各員ヲシテ萬緒ノ端ヲ繁ナシムレバ止リナク從テ各新聞社探訪家ハ是ヲ聞クヨリモ各自ノ本社へ馳付テ印刷ノ方へ傳播スレバ當時倫敦府ハ勿論大英全國士民ノ知ル所トナリニケル斯クテ此世界一周ノ一問題ハ衆諸ノ討論スルコト嘖々喋々恰モ再ビ彼ノ米國「アラバマ」號ノ勝敗ヲ再ビ現出ナセシガ如シ或ハ偶マファイリス、フヲッグニ左袒スル者アリト雖モ彼ノ當今商有舟車ノ補ヲ借リ紙上ノ空論ヲ憑ンデ最短ノ日子ヲ以テ世界ヲ一周セン抔トハ嗚呼ノ狂說ナリト排斥スル黨ノ多キニ比スレバ實ニ寥々タリキ

英京ニ於テハ著名ノ「タイムス」「スタンダート」「イーブニング、スタール」「モーニング、クロニークル」等ヲ始メトシ二十有餘ノ新聞紙ハ舉テフヲッグノ說ヲ擯斥スル中ニテ「デーリー、テレガラフ」耳ハ稍ヤ氏ニ左袒シテ其說ヲ保庇シタレド鄭蔵公衆ノ氏ヲ目スルヤ頑陋ノ狂人タルヲ以テスルノ外ナラズ且改進合ノ社員ヲ責ムルニ氏ノ精神ノ惑亂セルヲ奇貨トシ假令氏ガ此賭博ヲ促ストモ懇ニ是ヲ據ムベキニ却テ是ト爭ントスルノ行アルヲ以テス該論ニ關シテハ各處卓然タル論說新誌上ニ著レケレバ元來英人ハ地理學ヲ嗜ム風儀ナレバ苟モファイリス、フヲッグニ關シタル記事アル時ハ社會ノ尊卑ヲ問ハズ取ル間違シト皆眼ヲ凝シテ其章ヲ熟讀シタリケル最初ノ間ハ奇險ヲ好ムノ人中ニモ注意ノ婦人等ハ龍動府入ル間中ニ氏ノ改進ノ文庫へ殘シ置キシ相影ヲ寫シテ掲載シタル肖像ヲ見テ氏ニ黨スル者不少其尤モ信仰スル者ニ至テハ「何ナテ危疑スル事ヤアルベキ世ノ中ニマダマダ不調ノ事ノ成リシモ不少ト斯ク云ヒ張ル徒ハ「デーリー、テレガラフ」新誌ヲ閲スル徒ニ多カリケ ガ漸次ニ該誌迄モ亦大ニ熱心ヲ冷シタル色アリケリ夫ハ如何ニト原由ヲ尋ルニ十月七日刊行ノ官立地理講究社ノ雜誌中ニ一篇ノ論アツテ詳ニ氏ノ企テシ環地ノ業ノ畢竟狂舉ニ屬スルヲ辨ジテ云ク一能ク此業ヲ遂ゲンニハ先ヅ舟車ノ發着寸毫ノ差リナキヲ要ス然ルニ歐洲内ノ如キハ先ヅ定規ノ時間ニ發着ナルヲ得ベシト雖モ數百里ノ長路ノ上ニ困テ算スレバ唯僅カナル其一端ニ過ギズ然シテ印土ヲ經過スルニ三日ヲ要シ米國ヲ横過スルニ七日ヲ費ス際ニ當リ汽車ノ發着定規通リナルヲ望ムベケンヤ又器械ノ破損列車ノ顛覆或ハ衝突又タ大雪ノ路ヲ塞ル等ノ不慮ノ險アランコトモ保シ難シ況ンヤ冬天暴風濃霧ヲ冒シテ萬里ノ大洋ヲ蹴破スル船舶ニ於テヲヤ凡ソ遠洋ヲ航スル船舶ハ其器械善良精快ノ者ト雖モ猶東三日ノ遲緩アルハ當ナラズヤ故ニ發着ノ期能ク定規ノ如クナルヲ得ベケンヤ之ニ因テ推究スレバ一日ノ遲緩ト雖モ終ニフヲッグヲシテ失敗又之

ヲ簇ムルニ簇ナカラシメン況ンヤ數時ト雖モ猶ホ氏ヲシテ汽船ノ技倆ニ遅カラシメバ大使ノ出發船ヲ俟ツヨリ外ナカルベシ然ル時ハ如何ニ焦慮スト雖モ亦挽回ノ策ナキヤ明矣

此一章ヤ各新誌ノ翻寫スル所トナリ大ニ世上ニ響ヲナシファイリス、フヲッグノ賭券ノ市價俄ニ墮落シタリケル

英國ニ於テハ彼ノ博奕ヲ蔑視スル中等社會已上ノ衆諸ハ素ヨリ賭ヲ嗜ムヿノ深ケレバ今回フヲッグノ發程スルニ當リテヤ初兩三日ノ間ニ於テハ其業ノ成否ヲ論ジテ巨額ノ賭ヲ結ブ者不少特ニ改進舍ノ社員等ハ或ハフヲッグニ黨シ或ハ是ヲ駁シテ各巨額ヲ投ジ賭トナス此風靡然府下ノ士民ニ波及シフヲッグハ恰モ競馳ノ賭馬タルノ體トナリ各其名ヲ懐紙ニ記スルニ至ル然シテ其賭券ヲ龍動市上ニ於テ豫メ定價ヲ立テ或ハ即金ニ或ハ限月ノ約ヲ以テ盛ニ之ヲ賣買セシガ五日ノ後彼ノ地理講究社ノ辨文一篇世ニ著レシヨリ市價俄ニ降リ唯速ニ之レヲ賣ラント熱中スル者耳トナリ數券ヲ束ネテ五分、一割ヨリ二割、五割ヲ減ジテ鬻ガントシ終ニハ與ルモ人之ヲ取ル者ナキニ至ル矣

此間猶フヲッグニ黨スル者單ニ一人ニ過ギズ是別人ナラズ則チ近來老衰殊ニ痺疾ヲ患テ坐臥僅ニ一榻ニ寄生スルアルベルメール侯ナリ侯ヤ常ニ云ラク「廢疾ニ冒サレテ世界漫遊ノ志ヲ果サヾルヲ憾ム若シ果シテ志ヲ伸ルヲ得バ十年ノ星霜ヲ費シ自家ノ財産ヲ傾クトモ遺憾ナシト是ニ於テファイリス、フヲッグノ爲五千磅（則二萬五千圓）ヲ投ジテ賭トス之ヲ見テ侯ヲ諫諍スル者アレバ靜ニ之ニ對ル「倘シ此事業ノ成ツベキヿアラバ予ハ我英國人ノ先鞭ヲ着クル者アルヲ見ンヿヲ冀フト云ヿヲ以テセリ

然レモフヲッグ氏ノ黨ハ日ヲ逐テ減少シ偶〻賭ヲ試ル者モ壹ニ對スルニ百五十ヨリ貳百ニ至ルノ比較ヲ用ルニ至リシ時豈圖ランヤ氏ガ發程ノ日ヲ去ルヿ七日ニシテ突然午後九時警視本局ノ長官へ宛テ左ノ電報ノ着ニケレバ終ニ氏ノ賭券ハ地ニ墜チ人復タ是ヲ顧ル者ナシ

スエズ發

銀行ノ金ヲ奪ヒ遁逃スル賊ファイリス、
フラッグノ踵ニ尾行ス速ニ捕縛辭令書
ヲボンベイへ宛テ送致アリタシ

警吏 フヒキス

龍動蘇格蘭プレース
警視本局長ロワン君

此電報ノ力ヤ實ニ迅速ナルヿ電ノ名ニ背カズ頃刻迄温良ノ紳士タリト思ヒシモ今ハ可憎ノ盗賊ト變ジタレバ嚢ニ改進舍ニ殘セシフヲッグノ寫眞ヲ出シテ熟察スルニ彼ノ賊ナリトテ尾踵セシ男ノ容貌ト寸毫ノ違ヒナシ是ニ於テフヲッグノ營生ノ秘密ナル交際ノ涯レル發程ノ突然タル等ニ就テ推想スレバ言ヲ彼ノ風狂ニ屬スルノ賭ヲ結ビ世界一周ノ旅ヲ試ムルニ託シ其實英國警吏ノ密網ヲ脱却セント欲スル奸計ナルヤ顯然ナリトコソ評シケリ矣

第六回

前回ニ掲ル電報ハ抑モ如何ナル機會ニ於テ發セシヤノ由來ヲ尋ルニ十月九日水曜日午前十一時ニ埃及スエズ港へ英國彼阿會社所屬船「モンゴリヤ」號トテ噸數二千八百噸馬力五百ヲ兼ネタル暗車鐵製ノ郵船到着ノ筈ナリキ該船ハ意國ブリンヂジ印土ボンベイノ兩港ノ間ヲスエズ溝ヲ經テ不絶往返ヲナシ其迅速ナルヿハ社中ノ船舶ノ中ニテモ最モ卓絶セル者ニテ定規速力拾海里ナレモ疾走是ヲ踰ルヿ常ナリキ該港ハ近頃迄猶僻陋ノ村落ナリシモ彼ノレセップス氏ノ大工業ヲ竣リショリ諸國ノ人民輻輳シ今ハ繁昌ノ港トナリシ昔時曾テ工學博士ステ

ヘンガ英國國運隆替ノ爲ニ杞憂ノ餘慨然トメ豫言セシ言ニ違ハズ今ハ英國ノ船舶ト雖𪜈舊來ノ喜望峯ヲ踰テ印度ニ至ルノ路ヲ取ラズメ此スエズ溝ヲ過ギ暗ニ本邦ノ衰運ヲ促スニ至ル其海岸ニ群集スル諸人中ニ貳人ノ男ガ「モンゴリヤ」號ノ到着ヲ待テ徘徊スル者アリ則チ其壹人ハ本港駐箚英國ノ領事ニシテ又他ノ壹人ハ容貌羸瘦シ顔色怜悧ヲ表シ長眉濃ニ生ジ眼光炯然能ク人ヲ射ルト雖𪜈又能ク翻然溫柔ヲ呈スルヿヲ知ル所ノ男子ニシテ此時何カ心ニ待ツ所ノ物アツテ一所ニ佇立シ能ハザル者ノ如ク或ハ往キ或ハ回リテ漫歩セリ蓋シ是ハ英國警察本局ヨリ彼大英國特立銀行ニ於テ紙幣若干ヲ騙偸シ去リシ奸賊逮捕ノ爲メ豫メ沿海ノ諸港へ派遣セラレシ逮捕吏ノ一人ニシテフヒキスト稱シ其任タルヤ密ニスエズ港經過ノ旅客ヲ視察シ苟クモ蹤跡疑シキ者ニ逢フ時ハ直ニ其踵ニ追尾シ捕縛令ヲ待テ之ヲ捕ルニアリ然シテフヒキスノ許へ本國警察長ヨリ兩日前報知シ來レル所ニ據レバ其賊ハ容貌閑雅鄙シカラザルノ人物タルヲ或人曾テ銀行受付ケ室内ニ於テ見タル者アリキト首尾能此賊ノ逮捕ヲ遂ルニ於テハ多分ノ賞典ヲ占ル筈ナレバ警吏ハ益〻領ヲ延ベ足ヲツマダテヽ「モンゴリヤ」ノ來ル間甚遲シト待ツモ理リナリケルガ、ハヤ十度ビ前後モ尋問セシヿナレ𪜈又更ニ領事ニ向ヒ「君ノ云ヒ玉フ所ニテハ彼ノ郵船ハ延着ノ憂ナキトナ

領事「否ナ心ナ勞シ玉ヒソ昨日ポルトサイドヲ經過ノ由報知モアリ且ツ同所ヨリ本港迄ノ距離百六十海里ハ彼ノ『モンゴリヤ』如キ快駛ニ於テ有名ナル船ノ爲ニハ一足飛トモ申スベシ既ニ定規ノ時數ニ踰ルヿ貳拾四時間已上ノ者へハ政府ヨリ貳拾五磅(百二拾五弗)ノ褒賞ヲ附與スヲ例トスルガ毎度該船ハ此賞金ヲ得ル程ナレバ決シテ遲刻アルマジト聞ケ𪜈フヒキスハ猶モ穩ナラザル如ク「彼ノ郵船ハブリンヂジヨリ直ニ來航致候ニ哉 領事「貴言ノ如クブリンヂジ港ニテ印土行ノ郵箱ヲ積ミ過ル土曜日午後五時ニ該港ヲ開帆セシ由ナレバ、ヤガテ來着ニ程モアルマジケレバ先ヅ心ヲ靜メテ待チ玉へ左ハ乍去萬一彼ノ賊ハ『モンゴリヤ』ニ乘込居トテモ君ノ所持ノ人相書ノ體ニテハ發見中々容易ナルマジキカト拙者殆ド危ブムナリト云ハセモ敢へズ 警吏「危ブミ玉フナカレ領事君彼奴等ヲ發見スルハ唯外貌ヲ見テ足ルニ非ズ殆ンド先ヅ臭ギ出ダスト一般ニシテ宜シク五官ノ智覺ヲ活用セシメ始テ之ヲ發見スルヿニテ既ニ僕ノ生涯ニハ彼ノ溫良ヲ粧フ僞紳士ヲ捕ヘシヿ一ニシテ足ラズ故ニ今回ノ賊ノ如キモ船中ニ在ルニ於テハ決シテ僕ノ掌裏ハ脱シ申サスマジ 領事「殊ニ今回ノ如キ大事ノ盜賊ニテアレバ何卒君ノ言ヒ玉フゴトク首尾能ク逮捕ニ就クヤウ企望サレ候也 警吏ハ益〻調子ニ乘リ「眞ニ盛大ノ竊盜ト云フベシ當今ハ盜運大ニ衰へステツハルトノ亞流ハ跡ヲ絶チ僅ニ『シリング』數片ヲ竊デ絞罪ニ遭フノ徒耳ナルニ五萬五千磅(二十七萬五千圓)ヲ掠ムル盜ニ遭フトハ果シテ何等ノ好キ獲トモ申ベケレ 領事「君ノ説キ玉フ策略ヲ聞クカラニハ愈〻君ノ功ヲ奏シ玉ンヿヲ企テ祈ルト雖𪜈恐クハ君ト雖𪜈少シク難キ所ナキニ非ズカト被存其故如何ト云フニ君モ知リ玉フ如ク彼奴ノ容貌ハ眞ニ正實ノ君子ニ似タリト 警吏聞テ色ヲ作シテ云ク「君ニハ知リ玉ハズヤ大奸ハ却テ賢ノ如シト實ニ是レ生來狡黠然タル容色アル徒ハ勉テ廉直ヲ守ラザルヲ得ズ若シ此徒ニシテ然ラズンバ忽チ警吏ノ捕フル所トナリヌベシ故ニ彼ノ陽ニ誠直ヲ粧フ僞君子ノ假面ヲ剝ギ取ルコソ肝要ナリ尤此業ハ容易ノ事ニアラズシテ又藝術ノ一部ニ位スベシト此言ニ就キテモ此警吏フヒキス己ノ職業ニ精勵シ又自ラ其術ニ誇ル色アルヲ見ルベシ此時追々各國ノ水夫、商賈、賽取、人足、土人ノ輩

集來リ馬頭大ニ囂然タルハ是レ郵船ノ到着將ニ近キニアラントスルナリ

此日ヤ天朗ニ晴タレド寒風東ヨリ吹テ殊ニ寒冷ニ日光淡々トシテ斜ニ兩三ノ高塔ヲ照ス該港ノ南ニ一ト筋ノ長堤延テ海心ニ進ムヿ貳千「メートル」(半里餘)恰モ巨腕ノ港心ヲ抱ク者ノ如シ亦タ遙ニ紅海ノ方ヲ眺メバ無數ノ漁船貨舶片々トシテ波ニ御ス皆上古ノ形裝ヲ保持ス其風光愛スベシ群集ノ間ヲ經過スルニ當テモフヒキスハ己レノ職掌ノ慣習ニ背カズ瞥然眼ヲ配テ往來ノ衆諸ヲ視察セリ正ニ十時ノ鐘聲港口ノ時辰臺ニ響ヲ聽キ叫テ云ク「噫彼ノ郵船ハ來ラザル乎ト領事ハ答ルニ早ヤ遠カラザルベキヲ以テスフヒキス問テ云ク「スエズニ寄港シ留マルヿハ何時間程ナルベキ哉 領事「スエズヨリ紅海ノ端ナルアデン港迄千三百十海里ノ長程ニテ石炭モ多量消耗スルナレバ是ヲ積込マザルヲ得ズ其間四時ヲ要ス フヒキス又問テ云ク「此船ハ直チニ當港ヨリボンベーニ航シ候哉 領事「然リ路ニ於テ荷物乘卸ヲナサズ直ニ彼ノ港ニ達スルナリ 警吏「然ルニ於テハ若シ此ノ船中ニ彼ノ賊ノ來アラバ彼奴モ必ズ印土地方ハ英領ナルヲ以テ安心ナリ難キヲ知リテ當港ヘ上陸シテ玆ヨリ隱ニ道ヲ變ジ亞細亞地方ニアル佛國或ハ荷蘭所領ノ屬國ヘ奔ラント企ツルヿナルベシ 領事「彼ノ盜賊大膽不敵ノ曲者ナルニ非ラズンバ其方略ヲ用ヒマジ君知ラズヤ英國ノ犯罪人ハ他國ニ奔ルヨリ却テ龍動ニ潛匿スル者能網ヲ漏脫シ得ル事ヲト云ヒツヽ領事ハ分レテ程遠カラズ己レノ公務所ヘ往キシ跡ニ殘リシフヒキスハ獨リ何トヤラン彼ノ騙賊ハ「モンゴリヤ」船ニ搭ジテ來ルベキヿ疑ナキ心地セラレ來ル間遲シト待詫ビタリ

眞ニ是レ其賊英國ヲ脫シ米洲地方ヘ逃竄センヿヲ需ルナラバ警察嚴密ノ大西洋ハ渡ラズシテ道ヲ彼ノ警察疎恢ノ印土地方ニ藉テ奔ラント欲スルヿ又疑ヲ容ルベケンヤ

フヒキス萬種ノ思想モ忽チ郵船來着ヲ報ズル一聲汽笛ノ爲メニ破攪セラレ人足土人ノ徒群ヲ亂シテ肩摩轂擊人ノ衣に觸レ人ノ足ヲ踏ムモ更ニ意トセズ波止場ヘ向ケ馳セ集リ見ル間ニ艀舟十有餘艘岸ヲ離レテ海心ヘ撑キ出シ郵船ノ來港ヲゾ迎ヘケル暫クアッテ形巨鯨ノ波ヲ蹴ルガ如キ「モンゴリヤ」號ハ溝ノ兩岸ノ間ヲ過ギリ十一時ノ鳴鐘ト均シク來テ港內ヘ錨ヲ投ズレバ贏汽ヲ漏ス聲恰モ電ノ如シ船中ニハ數多ノ來客或ハ甲板上ニ立テ市街ノ光景ヲ遠望スルアリ或ハ又囊ニ「モンゴリヤ」ヘ撑キ附ケ來リシ艀舟ヘ飛ビ乘リ上陸スル者モ多カリキ

フヒキスハ此時海岸ニイミ一々上陸スル乘客ヲ熟々視察シタリケルガ其內一名ノ壯漢ガ五月蠅ク僱使ヲ乞ヒ來ル土人ヲ頻リニ推シ擯ケツヽ來テフヒキスニ近寄リ言ヲ慇懃ニシテ英國領事廳ノ何處ナルヲ問者アリテ靜カニ懷中ヨリ一通ノ旅行證ヲ取出シタル樣子正シク英國領事廳ニ於テ檢印ヲ乞ヒ度キ者ノ如クナリケレバ

フヒキスハ何心ナク手ニ取上ゲテ一見シ人相書ノ條ニ至レバ豈圖ランヤ旅行證ニ揭載ノ人相ハ正シク己レノ待ニ待チタル彼ノ本邦警察局ヨリ報知ノ賊ト寸毫ノ差ヒナカリケレバ思ハズ色ニ出サントセシガ又自ラ愼ミ船客ニ向ヒ「此ハ足下ノ手形ニテハ有間敷キガナ 壯漢「否是レハ小可ガ主人ノ手形ニ候ナリ 警「然シテ足下ノ主君ハ何處ニ在スヤ 壯「船中ヘ留リテ候 警「去リトテ御主人親ラ領事廳ヘ出頭シ玉フノ上ニ非レバ願ノ趣意貫キ申マジ 壯「何ト謂ヒ玉フゾ夫ハ是非共緊用ニ候哉 警「如何ニモ緊用 壯「領事館ハ又何レノ方ニ候哉警吏ハ二百步斗リ廣庭ノ彼方ナル家ヲ指シ「彼方ニ見玉フ角ノ家コソ其館ナリ 壯「左ラバ主人ヲ迎ヘ來ルベシ併シ主人ハ上陸ヲ嘸迷惑ニコソ思フナラント云ヒツヽフヒキスニ一禮シ再ビ汽船

へ引キ返シケリ

第七回

警吏ハ急ギ領事館ヘ趣キ遽ク面謁ヲ乞ヒケルニゾ頓テ領事ノ前ニ打チ通リ何ノ儀ト辭モ陳ベズシテ突然ト云テ曰ク「領事君愈々彼ノ騙兒ハ『モンゴリヤ』ヘ乘込來シ事疑フベキニ非ズト存ズ其故ハ頃刻一個ノ僕ニ行逢ヒ旅行證ノ事ニ付斯樣々々ト物語ルヲ聞テ領事ハフヒキスニ向ヒ「善哉々々其奸奴ノ顏色ヲ見テ哭レンヿ氣味能ケレ然レド當時ハ既ニ旅行證ハ檢印ヲ据ルノ手續キモ旅客ノ隨意ナレバ若シ眞ニ足下ノ推量ノ如ク賊ニ違ヒナクンバ蹤跡ヲ晦マサントコソスレヨモ我ガ廳内ヘハ來ルマジ 警「否ナ否ナ想フニ彼ノ奴ノ如キ大膽不敵ノ曲者ハ却テ必ズ來リ申スベシ 領「自分ノ旅行證改メノ爲ニカ 警「然リ然リ通常正直ノ人ニハ旅行證ハ却テ煩シキ具タルニ過ザレド奸徒脫走ノ爲ニハ無比ナル遁辭トナルハ一般ノ例ナレバ願クハ君其乞ヲ許可シ玉ハザランヿヲ 領「夫ハ又何故ニ乎若シ彼レノ所持スル手形ニ缺典ナクンバ何ゾ某シ之レニ檢印ヲ拒ムノ權アラン 警「然レド領事君小可ハ龍動ヨリ逮捕ノ指令書到着迄ハ是非共彼奴ヲ當港ヘ抑留致サネバナラヌ譯ニテ候 領「夫ハ足下ノ義務ニシテ某シ聊カ關スル所ニアラズ併シ某ニハト言葉未ダ全ク畢ラザルニ役所ノ戸ヲ叩ク者アッテ當館ノ小使ノ案内ニ從ヒ入リ來ル貳人ノ外客蓋シ其一人ハ先刻警吏ト談話セシ僕ナリキ

其レハ則チ主從ノ旅客ニシテ主人ハ領事ノ前ヘ旅行證ヲ差出シ辭少ニ檢印ヲ受ケ度條ヲ申シ入ルレバ領事之ヲ手ニ取リテ讀下スニゾフヒキス其隙ニ室ノ一隅ヨリ眸ヲ凝シテ彼ノ外客ヲ一心不亂ニ熟視シケル領事ハ讀ミ終リテ「貴客コソファイリス、フォッグ氏ニ在ス哉ト問ヘバ紳士ハ對テ「如何ニモ拙者ニテ候 領「シテ此人ハ君ノ從者ニ候哉 フォッグ「然リパスパルツートト稱スル佛國人ニテ候 領「龍動ヨリ來リ玉フカ フォッグ「然リ 領「然シテ貴客ノ行キ玉フ所ハ フォッグ「ボンベーヘ參リ候 領「宜ク候ナリ併シ君ニハ檢印ノ手續ハ當時無用トナリ旅行證改ノ式ハ既ニ廢止トナリ候ヿヲ未ダ御承知無之哉 フォッグ「拙者夫レハ豫テ承知アリシヿニハ候ヘド君ノ檢印ニ據テ他日拙者ノ當スエズ港經過ノ證ニ致度志願アルニ因テノヿニ候 然ラバトテ領事ハ旅行證ヘ姓名花押幷ニ月日ヲ筆記シテ領事館ノ證印ヲ捺シテ渡シケレバフォッグハ手數料ヲ納メテ鞠躬ニ默禮シ僕ヲ從ヘテ出デ往キシ後ニテ警吏ハ領事ニ向ヒ「君ニハ如何思ヒ玉フゾト云ヘバ領事ハ對テ「左レバ溫良完全ノ紳士トコソ見受ケタリキ 警「左モアルベケレド夫レハ今我々ノ關スル所ニ非ズ領事ニハ今ノ神色自如タリシ紳士ノ容貌コソ寸分僕ノ報知ヲ得シ所ノ賊ノ人相ニ違ハヌヿヲ發見シ玉ハズヤ 領「足下ノ言ハル、所ト同意ナレド足下モ熟知アル、通リ一體人相書ト云フ者ハト半分聞モアヘズフヒキスハ「本般ノ事件ニ付テ僕自信シテ聊モ危疑セズ幸ヒ彼ノ從者ハ佛人ニテ言ヲ愼ムヿヲ知ラヌ男ナルベケレバ彼ニ就テ探ルハ屈竟ノ策ナリ暫ク待チ玉ヒネト云ツ、警吏ハ出デテパスパルツーニ回リ逢ハントゾ尋ネケリ

却說フォッグハ領事館ヲ立出デテ海岸ニ到リ爰ニテ何歟從者ニ命ジ置キ我身ハ艀舟ニ打乘リ本船「モンゴリヤ」ナル己ノ子舍ヘ立歸リ一小册ヲ取リ出スニ

十月二日水曜午後八時四十五分龍動發
同月三日木曜午前七時二拾分巴里着
同日八時四拾分巴里發
十月四日金曜モンセニー隧道ヲ經テ午前
　六時三拾五分意國チュリン府ヘ着
同日七時二拾分チュリン發

十月五日土曜午後四時ブリンヂジ港着
同日午後五時郵船モンゴリヤへ乗リ込
十月九日水曜午前十一時スエズ港へ着
消耗時間通計百五拾八時半則チ六晝夜半

トゾ誌シタリ元來フヲッグ氏ハ此道程册子ヲ縱横ニ區畫シ十月二日ヨリ十二月二十一日迄ノ日月七曜等ヲ細ニ記載シ又豫テ巴里ブリンヂジスエズボンベーカルカッタ新嘉峯香港横濱桑港新育リヴァポール龍動等ノ限日タル地方ヘハ到着ノ定規時刻ヲ記載シ別ニ實地時刻ノ桁ヲ設ケ相比較シテ各地到着時數ノ損得ヲ精算シ得ル方法ヲゾ設ケタリケル是故ニ此良方ナル精表ヲ見レバ一目ノ下ニ進ミシカ後レシカヲ瞭然ニ辨知スルヲ得タリキフヲッグハ今日モ亦例ノ如ク此册子ヘ十月九日水曜ヲ以テ定規ノ時間ニスエズ港ヘ到着シ結局損得共ニナカリシ條ヲ筆記シケル此日課終リケレバ己ノ子舍ヘ午膳ヲ取リ寄セ喫シツヽ市街ヲ遊覽スル等ハ曾テ心頭ニモ浮ベズシテ過ニケル元來英人ノ風タルヤ他國ヘ遊歷スル時モ猶從者ヲシテ己レニ代テ見物セシメシモノ少ナカラザルナリ

第八回

フヒキスハ間モナク海岸ニ於テ彼ノパスパルツーガ主人トハ異リテ自身ハ何ヲ見タリトテ誰カ障ル者アラント彼方此方ヘ彷徨シ遊覽シ居ルニ追付キケレバ近寄テ言葉ヲ掛ケ「如何ニ足下ノ旅行證ノ檢印ハ無滯相濟シ哉ト問レテパスパルツーハ「噫君ニテ在ス哉皆都合宜敷事濟ミタリシモ全ク君ノ注意ニ據ル眞ニ多謝々々 警「然シテ足下ハ當地ノ景情ヲ縱覽シ玉フ歟 パス「然リ果シテ君ノ言ノ如シ左レド餘リニ速ニ進行スル故カ恰モ夢中ニ旅途ニ登ルガ如クニ覺ユルナリ爰ガ是デモスエズト云處ニテ候哉 警「然リスエズナリ パス「埃及ノ 警「正シク其埃及ノ パス「彼ノ亞弗利加ナルカ 警「然リ其亞弗利加ナリ パス「亞弗利加ナリト云ヒ玉フゾ僕ニハ何トヤラ猶迷夢ノ醒メヌ心地ニテ巴里ヨリ先キヘハ行キ過ギザル樣ニノミ坐ロニ想ハルヽナリ彼ノ華麗無比ノ都府モ午前七時二十分ニ北方停車場ヲ出デテ降雨ヲ衝テ里昂停車場迄ノ間僅カニ馬車ノ硝窓ヲ隔テヽ通覽セシハ遺憾ニ絕ヘズ實ニ僕ハペール、ラシエーズ及ビシヤンゼリゼノ曲馬場ヲ再覽シタク思ヒタリシニト聞テ警吏ハ又問フ樣「然ラバ君ハ餘程急ギ玉ヒシ者ト見受ルナリ パス「僕ハ敢テ急ギシニ非ラズ是レ我ガ主人ノ意ニ從ヒシ耳噫思ヒ出シタリ我々ハ旅衣箱ヲ持タズ手提胴亂一箇耳ヲ提ヘ來リシニ付襟袢并靴韈等ヲ求ムルノ命ヲ受ケタリキ 警「然ラバ小可ガ案内シテ望ノ品々何ナリモ貯ヘアル一市鋪ヘ伴ヒ申スベシ パスパルツーハ喜ビテ「實ニ君ノ厚意謝スル處ヲ知ラズト云ツヽ相伴ウテ歩ミナガラ又云フ樣「僕ガ第一注意スベキ所ハ發船ノ時刻ニ後レヌニアリ 警「心ヲ安ジ給ヘ猶正午ヲ過ギザレバ十分餘暇ハアリツルナリ之ヲ聞テパスパルツーハ答テ云ク「正午ナリトハマー何事ヲ云ヒ玉フゾ今ハ丁度九時五十貳分ナルニ 警「夫ハ君ノ時計ノ遲レシナリ パス「何トテ我ガ時計ノ錯ルベキ是ハ苟モ我ガ曾祖父ヨリ一家傳來セシ珍器ニテ一年ニ差フ處僅ニ五分ニ過ギズ眞箇ノ「クロノメートル」ナリ 警「我レ今其原由ヲ知レリ君ハ龍動ノ時ニ合セ其儘打置キ玉フ故當スエズ港ノ時トハ凡ソ貳時間ノ差ヲ生ゼシナリ君宜敷各地ノ正午ニ準ジテ君ノ時器ヲ是ニ合セ玉フベシ パス「我時計ノ鍼ヲ動カセトナ嗚呼決シテ僕ハ是ヲ肯首セザルベシ 警「然ラバ君ノ時計ハ太陽ト順進スルヲ得ザルベシ パス「是レ太陽ノ罪ナリ我ガ時計ノ惡シキニ非ズト云ヒツヽ獨リサモ誇リ顏ニ時計ヲ我ガ懷中ヘ納メケル暫クアリテフヒキスハ問フ樣「然ラバ遽ク龍動ヲ發足シ玉ヒシナラン パス「眞ニ然リ眞ニ然リ過ル水曜

日ノ宵我主人フヲッグ氏ハ平常ノ慣行ニ反シ集會所ヨリ八時ニ歸宅シ夫ヨリ僅ニ四十五分ヲ過ギザルニ忽ヤ我々ハ羇旅ノ道ヘ登リタリキ　警「然シテ君ノ主君ハ何處ヲ志ザシテ行キ玉フ哉　パス「何處迄モ先キヘ先キヘト進行シ世界ヲ周回スルト云　警「何ニ世界ヲ一周シ玉フトナ　パス「然リ八十日間ニ此長旅ヲ完畢スルト尤モ主人ハ此旅ノ成否ニ付賭ヲシテ而後發スルト揚言シ玉ヘ𪜈是ハ茲レギリノ噺シナリ僕ニハ一向信ゼラレズ想フニ別ニ何カ異ナル目的ノアルヿナランカ　警「嗚呼左ラバ其フヲッグ君ハ餘程ノ奇人ト見ユルナリ　パス「僕モ亦素ヨリ是ヲ信ズ　警「然ラバ同氏ハ定メテ富客ナラン　パス「富客ノヿハ明瞭ナリ氏ハ今回極猶新鮮ノ銀行紙幣ニテ巨大ノ金額ヲ佩ビ道中更ニ是ヲ費スニ毫モ愛惜ノ色ナク既ニ『モンゴリヤ』ノ機關師ニモボンベーヘ定規時間ヨリ先進シテ着クニ於テハ一大褒賞金ヲ與ヘンヿヲ約束セリ　警「君ハ長ク同氏ト相識ノ間ナル哉　パス「中々以テ舊識抔ニハ候ハズ漸ク出發ト同日ニ同氏ニ傭ハレシ耳ト答フ警吏ハ最前ヨリ既ニ精神勃々タリシニ今又聞知セシ僕ノ答言數件ガ其心膽ニ何等ノ感ヲ起セシカハ推想スルニ難カラズ彼ノ盜ヲ行ウテノ後間ヲ失ハズ遽シク龍動ヲ發スル彼ノ巨額ノ金ヲ佩テ行ク彼ノ忙ク遠遙ノ國ヘ奔ラントスル彼ノ法外ノ賭ニ託言ス　等皆一トシテ己レノ推想ト符合セザルナク又其從僕タル佛人ヲ慫慂シテ聞クニ彼レガ其主人ノ人ト爲リヲ知ラズ又フヲッグハ龍動ニ在ツテ他人ト交ラズ財産ニ豐カナルノ名アリシト雖𪜈人其由來ヲ知ル者ナク到底身上曖昧ナル者タルヲ確知シ併テ彼レハ更ニスエズヘハ上陸ノ意ナク眞ニボンベーヘ行ク者ナルヲ確知セリ

パスパルツー問テ云　ボンベーハ遠方ニ候哉　警吏對テ云「隨分遠方ナリ船路十日間程モ掛ルベシ　パス「ソシテボンベートハ何邦ニ候哉　警「印土ノ一市ナリ　パス「亞細亞ノ内ニ候哉　警「固ヨリ　パス「嗚呼叱ツ失敗タリ爰ニ僕ガ心中常ニ穩ナラザル一事アリ僕ガ嘴ナリ　警「如何ナル嘴ナルヤ　パス「夫ハ本邦發程前消滅スルヿヲ忘レ來リシガ爲僕ノ拂フベキ所トナリシ瓦斯燈ノ嘴ヲ云ナリ僕因テ詳ニ計算スルニ二十四時間ハ燃ル所ノ瓦斯代貳志厘（我ガ五十錢）ニシテ正シク僕ノ給料ヨリ踰ルヿ六『ペンス』（十二錢五厘）ナレバ猶旅路ノ長延スルアラバ僕ノ困弊君宜シク洞察シ玉フベシト是ヲ聞テフヒキスハ彼ノ瓦斯云々ヲ了解セシヤ否ヤハ知ラザレド胸中私ニ決スル所アリケレバ最早意ヲ其件ニ注グヲ止メ兎角スル内市鋪ニ至リケレバ「君隨意ニ好キ品々ヲ購求シ玉ヒネ但シ『モンゴリヤ』出船ニ後レ玉フヿ勿レト意ヲ添ヘ置キ急ギ領事ノ公務所ヘ回リ來リテ今ハ心中ニ確乎ト洞知セシ廉アリケレバ更ニ危疑セズ靜ニ領事ニ向ヒ「今ハ厘毫ノ疑臆モ消エ失セタリ彼ノ曲者ハ陽ニ八十日間ニ世界ヲ一周スル奇僻家ナリト揚言シ居レ𪜈既ニ小可ガ掌中ニ陷リタレバ敢テ意ヲ勞スルヲ用ヒズ　領「嗚呼何等ノ狡黠奴ゾヤ新舊兩世界（亞細亞歐羅巴亞弗利加ヲ舊世界ト稱ス亞米利加濠斯多利ヲ新世界ト稱ス）ノ警察ヲ欺キ遂テ後再ビ龍動ニ歸ラントスル者ナラン　警「夫レハ後日ヲ刮テ見ツベキ所ナリ　領「然レド君ニハ毫モ思ヒ誤リ玉フヿナキヤト猶モ領事ハ念ヲ推セバ　警「否ナ思ヒ誤リハ候ハズ　領「然ラバ何等ノ事故アッテ其賊當スエズ港經過ノ證トシテ只管ニ拙者ノ檢印ヲ乞ヒシナルカ　警「夫レハ何ノ故ナルカ小可ト雖𪜈解シ兼ヌレド先ヅ小可ノ說ク所ヲ聽キ玉ヘト云ヒツヽ警吏ハ最前フヲッグノ從者ト談話セシ其要目ヲ摘テ物語ルヲ領事打チ聽「夫レニテハ眞ニ萬緒ノ嫌疑彼ノ男ノ身上ヘ萃ルナリ然シテ君ハ何トシ玉フ所存ゾヤ　警「別事ニモコレナシ則チ先ヅ龍動ヘ電信ヲ投ジテボンベーヘ宛テ小可ノ許ヘ逮捕指令ヲ急送ズル樣懇請シ次ニ『モンゴリヤ』ヘ

同乘シテ其踵ニ追尾シテ印土ニ至リ彼ノ地ハ素ヨリ大英國ノ土地ナレバ彼ノ逮捕指令ヲ左手ニ持シ慇懃ニ近傍リテ右手ヲ彼レノ肩上ヘ掛ル小可ガ妙策ナルト靜ニ演ベツヽ警吏ハ立テ暇ヲ告ゲ領事館ヲ立出テ傳信局ヘ至リ彼ノ前回ニ記載セシ電報ヲ本邦警視長ヘ送リ置キ十五分時間モ過ケル頃フヒキスハ手輕ノ胴亂ニ用意ノ金子十分ニ裝置シタルヲ片手ニ提ゲ早「モンゴリヤ」ヘ乘込ケレバ、ヤガテ該船ハ汽力ヲ增シ紅海ノ白波ヲ蹴立テツヽ疾駛シタリケリ

第九回

スエズアデン兩港ノ距離ハ千三百十里ニシテ郵船會社ノ定規ニ據レバ百三十八時間ニ經過スル割ナレド此「モンゴリヤ」號ハ汽罐ノ火ヲ熾ニシ汽力ヲ倍シテ奮迅駛行シ天晴レ定規ノ時間ヨリ先進スベシト見エニケル偖ブリンヂジヨリ來割ノ船客モ多クハ印土行ノ人々ニテ或ハボンベーヘ行ク者アリ或ハカルカツタヘ行ク者モ當時ハ彼ノ印土全邦ヲ横斷スル鐵道竣工以來錫蘭ノ岬ヲ迂廻スル勞モナケレバ皆ボンベーヘ上陸スル者ナリケル然シテ此乘客ノ中ニハ文武ノ官吏モ多カリキ中ニモ武官ニハ英國派遣精兵ノ士官タル者アリ或徵募ノ土兵ノ司令官等モ多カリキ元來當地方ノ官吏ハ舊印土商會ノ所轄ヲ脱シ英廷直隷ノ今日ト雖モ皆高大ノ俸給ニ飽ク其例少尉ノ年給千四百圓佐官壹萬二千圓將官二萬圓ナル如シ是故ニ「モンゴリヤ」號ニ在テハ在官ノ紳士ニ交ルニ英國豪家ノ子弟ガ百萬ノ金ヲ懷ニシ出デ異域ヘ商鋪ヲ建テントスル徒ヲ以テセシ社會ナレバ交際頗ル高尚優美ナリ船中ノ管事ハ肩ヲ船將ニ比スル吏ニ乄朝飯二時ノ晝餐五時ノ夕膳八時ノ夜食ニハ善美ヲ盡シ郵船內ニ於テ屠戮シテ調理ヲ施セシ精鮮ナル肉等珍味佳肴ノ陳列卓子モ爲ニ垂レントス其饗應頗ル慇懃ナリ乘客モ中ニハ更衣日ニ二度ニ及等ノ豪華ヲ鬪ス徒アリテ或ハ風流ノ士女音樂ヲ催シテ遊遨シ或ハ海波靜ナルニ當テハ甲板上ニ踏舞シテ偕樂ス然レドモ横狹縱長ノ海灣ノ習ニテ紅海ノ風濤變轉極リ無ク亞細亞或ハ亞弗利加洲ノ一岸ヨリ烈風ノ吹來ル日ニ當テヤ「モンゴリヤ」ハ狹長梭ノ如キ暗車形ノ船ナレバ顚轉スルヿ涯リナシ此ニ於テヤ嬋娟タル婦女ハ散ジテ琴聲俄ニ息ミ歌曲踏舞モ亦漸ク輟ム然レドモ該郵船ハ機力壯剛暴颶ヲ怖レズ狂瀾ヲ輕ンジ倍ミベルマンデルメ海峽ノ方ヘ進行暫時モ撓マザリケリ

ファイリス、フヲツグハ此時ニ當テ何ヲナシ居リシヤト問バ人正ニ想ント欲ス氏ハ或ハ風向變轉乄駛行是ガ爲ニ阻ラレンヲ恐レ或ハ狂瀾ノ衝觸機關ヲ破ルヿアランヲ憂慮シ或ハ又不虞ノ破損等アツテ已ムヲ得ズ沿道ノ港灣ヘ滯阻セラレ是ガ爲自家行旅ノ企ヲ害センヿヲ憂慼シテ措カズ頗ル恟々タルベシト是レ誤テリ此紳士ハ假令中心ニ此不虞ヲ慮テ慼々タルアルモ敢テ色ニ顯ハサズ依然タル彼ノ改進舍ニアリシ意外ニ出ルノ事モ不虞ニ生ズルノ災モ猶ホ能氏ヲ驚スニ足ラズ其神色自若トシテ物ニ動クナキハ船中ノ「クロノメートル」ト頡頏スベシ氏ハ甲板ニ佇立シテ往昔曾テ初生人類歷史ノ活劇場ニシテ今日能ク懷舊ノ情ヲ促スニ堪ル紅海ヲ眺望スルヲ屑トセズ亦敢テ來テ其兩岸上ニ散置セル奇景可憐ノ村落時々天涯ニ飛影ヲ描ク者ヲ眺ムルノ意ナシ氏ハ又上古ノ史家ストラボン等ノ徒ガ每次惶乎トシテ險惡ヲ說キ且茲ニ航スルノ船客ハ豫ジメ發程ノ前ニ當リ先ヅ自家ノ貨財ヲ投ジ海神ヲ祭ルノ後ニ非レバ未ダ曾テ敢テ舟ニ乘ル者アラザル程ナル亞剌比海ノ危險ヲモ想像セヌ者ニ似タリ

然ラバ果シテ此奇異ノ士ハ「モンゴリヤ」ノ中ニ籠メラレ居テ何ヲカ爲シタルト云ハヾ氏ハ如何程船身ノ激動スルモ敢テ其絕妙ノ機關ヲ察スヿ

ナケレバ日々四次ノ饗膳ヲ缺カズ是ヲ喫シ畢レバ必ズ骨牌ノ戯ニ從事セリ果シテ氏ハ嗜好氏ニ讓ラザルノ好敵手ニ遭遇シテ終日互ニ沈然トシテ技ヲ鬪セシ人々ニハゴアナル住所ヘ趣ク收税官某ボンベーヘ歸向スル宣教先達ナルスミス及ベナレースヘ征戍スル大英國陸軍少將某等ナリパスパルツーハ又船暈ノ氣味等更ニナケレバ其居室舳先トハ雖モ清潔ナル所ニ起居シ快ク美酒佳殽ニ飽テ斯ク榮燿ヲ盡シテスル旅ナレバ最早不足ト爲ス所ナク却テ驥尾ニ附シテ來リシヲ私ニ喜ビ殊ニ主人ノ奇僻モ印土ニ至レバ息ミヌベシト獨リ想像シテ樂ミ居タリケリ

スエズ港出發翌日則十月二十九日ノヿトカヤ彼ノ埃及地方ヘ上陸ノ節會合シ親切ニ待遇ヲ受ケシ其人ニ不圖又甲板上ニテ會合シケレバパスパルツーハ喜色滿面ニ顯レ莞爾トシテ微笑シツヽ近寄リテ「噫見違ヒハセジ彼ノスエズニテ親切ニ僕ヲ誘引シ呉レ玉ヒシ君ニコソオハサズヤト云ヒケレバ警吏モ亦「僕モ足下ヲ忘レハセジ足下彼ノ奇僻ナル英人ノ從者ニテオハサズヤ　パス「恰モ君ノ言ノ如シ然シテ君ノ姓名ハ　警「フヒキスト申ス　パス「フヒキス君ヨ君ニ此船中ニ於テ再會スルヿ歡喜ニ堪ヘズ然シテ君ハ又那處ヘ行キ玉フゾ　警「君ト均シクボンベー迄同伴致スナリ　パス「重疊々々シテ君ハ此ノ道中ハ屢ミ通行シ玉ヒシヤ　警「素ヨリ僕ハ當郵船會社ノ社員ニ候ヘバ通行セシヿ數多度ニ候　パス「然ラバ君ニハ定テ印土地方ハ詳ニ知リ玉フナラン　警「然リ乍去ト對モ自ラ曖味ナルハ已レノ所意ヲ知ラレス要愼ナリパスパルツーハ又問ラク「印土ハ珍シキ土地ニアリヌベシ　警「然リ眞ニ珍邦ト云ベシ寺院アリ高塔アリ堂宇アリ重塔アリ虎アリ蛇アリ又踏舞スル少婦アリ然レド君等ガ是レヲ悉ク縱覽シ玉フ暇ナカリ玉ハンヿヲ私ニ恐ルヽナリ　パス「僕モ是等ヲ悉ク見物センヿヲ希望致スナリ實ニ精神完全ナル人タランニハ八十日間ニ世界ヲ一周スルト云託言ヲ以テ汽船ヲ降テ轍路ニ飛乘リ汽車ヲ出デ又郵船ヘ飛遷ルヲ以テ生ヲ送ルヲ快シトスル者アランヤ畢竟此體操ノ稽古ニ似タ様ナル旅モボンベー迄參ラバ止ミヌベシ疑玉フヿ勿レ　警「フヲツグ氏ニハ異リモ無ク在ス哉ド何氣ナク問カクレバ　パス「頗ル健康僕ノ如キモ幸ニ健全海上ノ淸氣ヲ呼吸スル故歟數日間食セヌ餓鬼ニ聊カ劣ラヌ程食ノ進ミ候ナリ　警「然レド足下ノ主君ハ更ニ甲板上ニ見エヌハ何故ゾ　パス「僕ノ主人ハ物見高カラヌ性質ナレバ更ニ爰ヘハ出來リ申サズ　警「足下ハ此ノ言ヲ八十日間ニ世界ヲ一周スルニ託シテ旅行シ玉フ主人ハ何歟例バ外交ニ關スル密旨ヲ奉ジテ他國ニ使スル如キ祕訣ノアルヲ知リ玉ハズヤ　パス「夫等ノ邊ハ僕更ニ關リ知ラズ又結局其祕訣ヲ穿知スル爲ニハ僕半片ノ小貨ヲモ出ス意ナシトゾ對ヘケル

爰ニ會セシ後モ兩人屢ミ相逢ウテ世間話等ナシケルガ警吏ハ他日何角カノ便利アランカト胸ニ一物アレバ務テフヲツグ氏ノ從者ト懇篤ニ交リ折々ハ「モンゴリヤ」ノ酒室ヘ伴ヒ行キ「ウヒスキー」麥酒等ヲ振舞ケレバ此方ノ僕ハ毫モ辭讓セズ受ケツ傾ケツ又フヒキスノ人トナリ溫良ノ佳士ト思ハレケレバ時々ハ答禮セシコト多カリキ斯ル折カラ郵船ハ駛行迅速ナリケレバ十三日ニハ早ヤモカノ邊ヲ經過シタリケル遙ニ此モカヲ眺メバ頽廢タル環壁猶其外ヲ遶リ綠々タル棗樹其上ニ散立ス後山處トシテ廣濶タル茄琲樹ノ園ナラザルナシ爰ニ於テパスパルツーハ此有名ナル市街ヲ眺ミ歡喜メ措カズ且隅々タル環壁ノ傍ニ當今破壞ノ餘タル古壘ノアルアツテ遠ク是ヲ望メバ形チ太ダ巨茶碗ノ環アル者ニ類スルヲ見ル此夜間「モンゴリヤ」ハバベルヤンデルノ海峽則チ亞剌比亞方言ニテ淚ノ

關ト唱ル所ヲ過リテ翌十四日アデン港口ノ西北ナル汽船岬ヘ寄港シ爰ニテ更ニ煤炭ノ貯蓄ヲ積込タリ此アデン港ノ如キ煤壙遠隔ノ土地ニ於テ用意ノ石炭ヲ積込事ハ輕擧ニアラズ彼阿一會社耳ニテ費ス所一年四百萬弗ニ降ラズ尤豫メ石炭ヲ各港ニ貯積スルヲ要スルガ故ニ彼ノ遠隔ノ洋洲ニ於テハ一噸ノ石炭價十六弗前後ニ就クト云フ

「モンゴリヤ」ハボンベーヘ達スルマデ猶千六百五十里ノ長程ヲ餘シ煤倉ヲ充ルガ爲猶此スチマルポイントヘ滯留セザルヲ得ズ然リト雖モ此數時ノ遲延ハ豫メフヲッグガ表上ニ記スル所ナレバ更ニ氏ノ行旅ニ害アラズ況ンヤ該船ハ十月十五日ノ曉ニアデンヘ着スベキニ既ニ十四日ノ午後ヲ以テ爰ニ達シ十五時間ノ先進アルニ於テヲヤファイリス、フヲッグ氏ハ從者ヲ率キテ上陸シ旅行證ノ檢印ヲ乞ヒニ行ニケルガフヒキスモ亦隱ニ尾シテ到リケル斯クテ其手續モ終リケレバフヲッグ氏ハ本船ヘ立歸リ暫ク中斷セシ博戲ノ中ヘ再ビ入リニケル偖又パスパルツーハ例ノ如ク飄然トシテソマンリスパニアン白西猶太亞剌比等ノ諸族及ビ歐洲ヨリ移住ノ居民ノ集リテ成セシ人口貳萬千ナルアデンノ市中ヲ徘徊シ或ハ彼ノアデンヲシテ印土海中ノジブラルタルノ名稱ヲ負ハシムルニ堪ヘタル數箇ノ砲臺ノ精堅ヲ賞歎シ或ハ彼ノ二千年ノソノ昔シソロモン王ノ工師ガ工ヲ創メ近年英國ノ土木博士ガ工ヲ竣メシ數箇ノ蓄水池ノ宏壯ナルニ驚感スルヿ淺カラズ本船ヘ歸リ來リテ獨語シテ云ラク「噫奇ナル哉奇ナル哉人若シ新奇ヲ見ント欲セバ笈ヲ負テ行旅ヲ事トスルニ若カズト

午後六時ニ「モンゴリヤ」號ハ螺旋車ノ翼ヲ掉ヒ亞電港ノ積水ヲ亂打シ頓テ印土海上ノ鯨濤ヲ凌テ快駛セリ亞電ボンベー兩港互間ヲ跋渉スル定期ヲ百六十八時間トス然ルニ風位西北ヨリ來リ布帆ノ能ク汽力ヲ助クルアツテ船脚殊ニ快ク印土海ハ眞ニ該船ノ駛走ニ便ナリキ此時船ハ風力ノ一方ニ壓スルヲ以テ動搖自ラ穩ニ彼ノ盛粧華飾ノ婦女客モ出テ甲板上ニ集リ歌吹踏舞モ亦再ビ起ル今回ノ航海ノ如キハ實ニ是レ萬緒好機ニ遭フ者ト云ベシパスパルツーハ思ヒ寄ラズフヒキスト會合シテ良朋ヲ得シヲ喜ブヿ涯リナカリキ

十月二十日日曜日金烏正ニ午ナラントスル頃始メテ印土ノ地方ゾ見エニケルガ二タ時程モ過ニケル頃水先案内ナル者ハ來テ「モンゴリヤ」號ノ舳頭ニ座ヲ占メタリ早ヤ連巒一帶水天ノ間ニ横ハリ稍ヤ近クニ及デハ數叢ノ椋櫚樹蒼々乎トシテ城市ヲ覆フヲ見ル汽船ハサルセットコラバ象島居夫島等島嶼ノ環テ一灣ヲ造ス彼ノボンベー港口ヘ進入シ四時ニハ既ニ該港ノ馬頭ヘ纜ヲ繋ギケル此時ファイリス、フヲッグハ本日ノ博戲第三十三回ヲ了リ氏モ敵手モ共ニ謀略ノ技倆ヲ競ヒ十有三度ノ全勝ヲ奏シテ終ニ今回好旅ノ局ヲ了リケル扨「モンゴリヤ」號ハ十月二十二日ボンベーヘ着スル定規ノ處二十日ヲ以テ該港ヘ到着シタリケルニ付フヲッグガ龍動ヲ發程シタルヨリ正ニ是レ二日ノ所得ニ成リケレバ氏ハ道中記ヲ取リ出シ定則ノ通リ所得ノ桁ヘ之ヲ誌シケル

第拾回

印土ノ地勢タルヤ能ク衆庶ノ知ル所ニシテ略ボ三角ヲナシ其座線北ノ方山ニ接シ尖角南ノ方海ニ突出シ面積百四十萬英方里人口一億八千萬此大邦ニ配居スルヿ稠密所ニ隨テ均一ナラズト雖モ大率ネ英國政府ノ統轄スル所ニシテカルカツタニ惣理知事ヲ置キマドラスボンベーベンガラニ知事ヲアゲラニ副知事ヲ置テ政治ヲ司ラシム然レドモ純粹タル英國直隸所領ト稱スル者ハ面積七十萬方里人口一億一千萬ニ過ズ

其内地ニ住スル土民ノ如キハ標悍殘忍今日猶不羈獨立ヲ固守スルヲ以テ英皇ノ恩威未ダ洽徹セザルノ邦小カラズトス日今マドラス府ノ屹立スル地ヘ曾テ千七百五十六年ノ其昔シ始テ英國人ガ來リテ居留館ヲ設ケシ時ヨリ近年彼ノ土民大イニ暴起セシ其年迄高名天下ニ轟キシ印土會社ナル者勢ヒ頗ル盛大ニシテ土人ニ就テ其土地ヲ購フニ徴々タル年賦ノ債券ヲ以シ或ハ之ヲ掠奪シテ漸ク疆ヲ擴メ凡事ヲ管スル惣理知事及ビ文武ノ吏員等ヲ命ジ儼然タル一政府ノ體ナリシモ今ハ散ジテ跡ヲ絶チ印土所領ハ直ニ英廷ノ統轄スル處トナル爰ヲ以テ闔國ノ景狀風習人種ノ區分ニ至ル迄日ヲ逐テ變遷ス往時ハ曾テ人ノ羈旅ヲ事トスル者或ハ歩シ或ハ騎シ或ハ貨車腕車ニ乘リ或ハ籃輿ニ乘リ或ハ人背ニ負ハレ或ハ稀ニ馬車ヲ用ル等皆古風ノ運輸ノ策ヲ藉ザルヲ得ザリシニ開化ノ今日ハインドスガンヂュ等ノ河上ニハ汽船ノ波ヲ截テ走ルアリ陸ニハ全州ヲ横斷シ又岐レテ諸府ニ到ル轍路ノ便アリテボンベーカルカッタノ遠キモ僅ニ三日ニシテ達シ或ハ返ルヲ得ベシ尤此轍路ノ線タルヤ直線ニアラズ若シ飛鳥ノ如ク一直線ニ此道程ヲ翔ケラバ千里ヨリ千百里ニ過ギザルヲ以テ假令汽車ノ速力甚ダ迅速ナラザルモ猶三日ヲ費スヲ要セズト雖モ轍路北ノ方アラハバッド迄迂回スルヲ以テ遠サ殆ンド三分ノ一ヲ益スニ至ル今玆ニ其樞要ナル沿道ノ各地ヲ示サン大。印。土。鐵。道。ノ經過スル地方ハ先ヅ程ヲボンベー港ニ起シサルセットヲ歷テタンナノ對岸ニテ大陸ニ遷リ西ガートノ山脈ヲ踰エ北ニ向ヒバルハンプールニ進ミ爰ヨリ略ボ獨立ナルバンデルカンド地方ヲ横ギリアラハバッドニ至リテ稍ヤ轉ジテガンジュ河ノ畔ナルベナレースニ出デ又距テ南ノ方バルヂバン及ビ佛領ナルシャンデルナゴール府ノ邊迄降リ而メ後始テカルカッタノ線ト會合ス「モンゴリヤ」號ノ乘客ガ上陸スルハ午後第四時ニシテカルカッタ行ノ汽車ノ出車ハ八時ナリケレバフヲッグ氏ハ同遊ノ諸子ニ別ヲ告ゲテ郵船ヲ降リ從者ニ兩三ノ購品ヲ命ジ且時ヲ誤ルヿナク必ズ八時前ニ停車場ヘ來會センヿヲ誡メ己レハ星學家ノ用ル時辰器ヲ搖スト一般ナル定歩一秒時ニ一足ヲ進メツツ彼ノ手形ニ檢印ノ式ヲ乞ニゾ往ニケル故ニ敢テボンベー府ノ市廳、書籍館、砲臺、修船場、貨溝、棉市、市鋪、回敎ノ寺院、猶太ノ堂宇、アルメニアノ祠社、マレハル山ニ在ル兩箇ノ稜塔堂上ニ聳エ壯麗人目ヲ驚ス伽藍等ノ奇觀ヲ縱覽スルヲ求メズ又彼ノエレファンタノ妙工及び港灣ノ南方ナル祕恠ヲ以テ著ル葬地モ浮屠氏ノ舊築猶今日人ヲ感歎セシムルニ足ルカンベリノ幽窟モ亦氏ノ往テ眺マントスル處ニアラズシテ手形改所ヲ出ルヤ否ヤ更ニ一物ヲ見ズシテ靜ニ停車場ヘ行キ食堂ニ入リ夕膳ヲ喫スルニアタリ主管喋々當國兎肉ノ炙ニシテ美旨ナルヲ稱賛シテ是ヲ薦ムル者アリファイリス、フヲッグハ是ヲ煮テ翫味シタルガ香料ノ度ヲ過ルアルヲ以テ却テ麁野ナリトシ鈴ヲ鳴メ主管ヲ喚ビ是ヲ熟視シテ云ク「是レガ則チ兎ナル歟怪奴恬然トシテ對テ云ク「是レ則チ佳美ノ兎ニテ候ゾ「此兎ハ屠戮ニ就ク前ニ當リ喏々トシテ猫聲ヲ發セシヤ 主管「噫君兎ニシテ喏々タリト嘲リ玉フヿナカレ我君ニ誓フ フヲッグ靜ニ云ク「予誓ノヿハナスニ及バズ單昔日印土地方ニ於テ猫兒ヲ神獸ト崇ラレシヿヲ忘レ玉フナ實ニ其頃ハ良世ト稱スベシ 主管「猫兒ノ爲メニ良世ト稱シ玉フカ フヲッグ「多分恐クハ旅客ノ爲ニモ均シク良代ナリシナラント云ヒ捨テツ、フヲッグハ靜ニ夕膳ヲ喫シケル

フヲッグ氏ガ郵船ヲ降リテヨリ暫クアリテフヒキスモ亦續テ船ヲ辭シ馳テボンベー府警視局長ノ許ニ至リ而シテ已レノ職掌今回特派ノ趣意及ビ彼ノ犯跡略著ノフヲッグニ對スルノ

情實等細述シテ龍動ヨリ曩ニ送致ヲ請置シ逮捕指令書ノ既ニ着セシヤ否ヤヲ問フニ人答ルニ未ダナルヲ以テス然シテ其指令書ノ如キハ龍動ヲ發スルフヲッグニ後ルヽ數日ナルヲ以テ何ゾ是ニ先テ來ルノ所以アランヤ爰ニ於テフヒキスハ大ニ望ヲ失シ頻リニ當地ノ警視長ニ就テ其指令書ヲ受ケンヿヲ請ヒシト雖モ是ハ本邦警視本局ノ管スル所ニシテ此本局ノ當路者ニ非レバ公然令ヲ下スノ權ナキヲ說テ敢テフヒキスノ需ニ應ゼズ其規律ヲ遵奉シ精理ヲ曲跡セザルノ嚴肅ナルノ茲ニ至レバ彼ノ英國人民ガ身上ノ自由ニ關シテハ毫モ專橫ヲ假サヾル風習ノ力ノ能クスル所ナリ

フヒキスモ強請スベカラザルヲ知リ不得已彼ノ指令書ヲ待タリケリ只彼ノ祕訣洞察シ難キ奸兒ガボンベー府中ニ滯留セシ間ハ片時モ是ヲ失ハジト決心シ且既ニパスパルツーノ如キモフヲッグ氏ハ該府ニ留息スベシト斷然信ゼルヲ以テフヒキスハ更ニ是ヲ疑ハズ其間ニハ指令書到着スベシト私ニ期シタリキパスパルツーハ「モンゴリヤ」ヲ去ニ當リ主人ガ指圖セシ所ニ基キ考ルニボンベーヘ到ル亦曩ニ巴里スエズニ於ルガ行旅只爰ニ駐ルベカラズシテ氏ハカルカッタ迄或ハ猶其先キヘモ進行スルアランヿヲ了リ又竊ニ彼ノフヲッグノ賭ハ架空ノ擧ニアラズシテ休養ヲ渴望スル己レノ身モ因果ノ薄運ノ爲ニ導カレテ終ニハ世界ヲ八十日間ニ一周スルニ至ランモ未ダ知ルベカラズト想思涯リナカリケリ然シテ襦袢靴襪等ノ買物モ終リケレモ時猶早シトテボンベー府中ノ衢街ヲ散步スルニ其熱鬧太ダシク各國ノ歐人ニ交ルニ尖帽ヲ戴ク白西人アリ圓巾ヲ被ルパンヒヤス人アリ角冠ヲ頂クシンド人アリ長裳ヲ褰グル亞耳米人アリ黑帽ヲ穿ツノパルシ人アリ此パルシ人ハ印土地方黎庶ノ中ニ於テ最モ怜悧、端正、文化、勵工ヲ以テ鳴リ今日ボンベーノ豪商モ多クハ此種族ノ徒ニシテ連綿トシゾロヲストルノ門ニ歸依スルパルシースノ種族ノ祭禮ニシテ其體恰モ歐洲ノカルナバル祭（日本ノ祭禮ト大同小異踊屋臺、山鉾及ビノ男女等狂舞シテ街衢ノ中或ハ寶堂ニテ遊遶スルヿニシテ年中第一ノ樂ミトス其第二月初旬ヨリ月尾ニ至リテ止ム）ト一般ナリ奇異ノ行列アリ百般ノ遊戲アリ中ニモ婀娜タル少婦ガ金銀ノ縷ヲ以テ繡絨セシ輕羅ノ裳ヲ褰ゲ金鼓胡弓ノ音律ニ乘ジ蹁然トシテ輕舞スル際更ニ醜態ヲ著サヾル等絕妙ナリ此奇異ナル祭禮ヲ見テ心緒昏迷シ目ヲ圓カニシ耳ヲ側テ突兀佇立セルパスパルツーノ愚狀ヲ呈スル其奇態ハ蛇辨ニ涉ルヲ以テ敢テ爰ニ贅セズパスパルツーハ不幸ニモ探奇ノ情致勃起シテ自ラ禁ズル能ハザリケン主人大事ノ遠征ニ障碍トナランモ顧ルニ遑ナク何時シカ愼ノ境ヲ踰エシヲ知ラズ此祭禮ヲ傍看セシ後停車場ヘ行カントシテ彼ノ妙工壯觀テルマレバルヒールノ寺前ヲ過ギ風ト其內部ヲモ縱覽セント欲スル望ヲ生ジタルガ固ヨリ此印土ノ寺院內ハ耶蘇敎徒ニシテ猥リニ闖入スルヿヲ嚴シク禁制スル所ノ者若干宇アルヿト假令其歸依ノ敎徒ト雖モ來拜スルニ當テハ豫メ履ヲ扉外ニ脫却シタルノ後ニ非レバ堂ニ昇ヲ許サヾル等ノ要則アルヲ知ラザリキ此ノ數日ニ就テモ英國政府ガ密ニ公正ノ政理ヲ遵奉スル一斑ヲ見ルベシ苟モ宗敎ニ關スル條目ハ瑣々タル末事ト雖モ能ク深ク是ヲ保持シ敢テ又是ガ障碍ヲナス者ヲ恕サズ故ニ偶ミ是ヲ犯ス者アレバ是ヲ罰スル頗ル嚴重ナリト斯クテパスパルツーハ此堂裏ヘ入リ毫モ惡シキヿヲナストハ固ヨリ思ハザレバ其金光燦然タルブラマ風ノ粧飾ヲ縱覽スル折カラ忽然トシテ三名ノ僧侶現レ出勃然色ヲナシテ之ヲ聖境ノ敷瓦ノ上ニ引キ仆シ其上ヘ折リ重リテ靴及ビ襪ヲ剝褫シ囂々タル蠻聲ヲ發シ怒號シツヽ亂打シケレバ佛人ハ憤然トシテ身ヲ跳ラセ堅メテ突出ス拳ト銳ク蹴出ス足トヲ以彼ノ長裳足ニ纏テ自由ニハ働キ兼ネシ僧侶貳名ヲ搏チ倒シ走テ

堂外ニ出デ雙脚ノ全力ヲ竭シ疾走シケルニゾ往來ノ土人ヲ煽動シナガラ踵ヲ慕テ逐ヒ來ル僧侶トハ頓テ距リケル七時五十五分則チ發車ノ時刻ニ先ツ僅ニ數分ナル頃領ヲ顯シ徒跣ニシテ爭鬪ノ際誤テ求品ノ包ヲモ失ヒツヽ遽テヽ停車場へ驅込ミタリフヒキスモ此時フヲツグ氏ノ踵ニ尾シ來リ乘車場ノ側ラニ立チアリシガ彼ガ視テ奸兒ト傚ス人ハ今將ニボンベーヲ辭セントスルヲ見終ニ之ニ從テカルカツタ或ハ其先何處迄モ同行セント決シケルバスパルツーハフヒキスノ爰ニ在ルヲ見ザレバ勿論フヒキスガ物蔭ニテ偸聽スルモ知ラズ僕ハ主人ニ己レノ頃刻遭遇シ來リシ珍事ノ譚リヲ搔キ摘ンデ語リケルヲ聞ツヽフヲツグハ列車ニ入テ己レノ座ニ就キ靜ニ僕ニ對テ云ク「如斯ノ珍事ハ再ビ汝ノ身上ニ生ゼザランコヲ冀望スト憐レムベシ僕ハ此時神色惑亂徒跣ニシテ敢テ一言ヲ發セズ悚然トシテ主人ニ尾シテ車中ニ入ニケル

フヒキスモ亦列車ノ隣房ニ入ラント思ヒシガ忽然發程ノ企ヲ變ズルノ念心頭ニ浮ビ獨言シテ曰ク否ナ否ナ余ハ留ラン彼レ既ニ印土ノ境ニ於テ犯罪セリ故ニ彼ハ既ニ我手裏ニ在リト此時一聲ノ汽笛高ク響キテ列車ハ早ヤ暗夜黑幕ノ包匿スル處トナル

第拾壹囘

列車ハ定規ノ刻限ニ發程シ數名ノ武官文吏及ビ阿片土靛等商業ノ爲當國東部ニ趣ク若干ノ旅客ヲ載セリパスパルツーハ主人ト同房ニ坐シ又其對榻ニ倚ル一客アリ是レ彼ノスエズヨリボンベー迄フヲツグ氏ト同遊ヲ事トセシ陸軍少將ニシテ行テベナレースニ戍スル軍團ニ歸投セントスルフランシース、クロマルチー氏ナリフランシース、クロマルチーハ軀身長大毛髮微殷年齡五十歳ナルベシ近頃土民暴起ノ亂ニ屢〻武功ヲ立ツテ世ニ著ル弱冠ノ時ヨリ來テ印土ニ客遊シ其故郷へ歸省スルハ太ダ稀ナルヲ以テ印土產ノ稱アルニ至ル其博識諸學ニ渉ルヲ以テ若シフヲツグヲシテ印土地方ノ風俗歷史州郡ノ治方等ノ訊問ヲ受ルノ人々タラシメバ必ズ欣然トシテ是ヲ語ルベシト雖モ彼ノ紳士ハ敢テ一事ヲ沓ハズ氏ノ如キハ是レ行旅スル者ニ非ズシテ唯彼ノ星學家ガ所謂ル一箇ノ重體地球ノ環帶ナル軌道ヲ旋リテ一大圈ヲ畫スル者ト云ベシ此時氏ハ腔裏ニ獨リ龍動發程已來消耗セシ時間ヲ暗算シアリケルガ性質若シ贅冗ノ動作ヲ爲ス人ナランニハ掌ヲ摩スル位ハナスベキニ氏ハ是サヘモ無サズ唯沈然トシテ端坐シタリキゾノ

フランシース、クロマルチーハ今回同行ノ侶トナリシフヲツグヲ視察セシハ唯其骨脾ヲ手ニシテ同遊セシノ間ニ涯ルト雖モ早クモ奇僻家タルヲ曉リ氏ノ如キ外貌冷然タル皮膚ノ裏ニモ能ク人心ノ包藏セラレテ悖然タルアリヤ亦氏ノ魂ハ能ク造化ノ靈妙ニ感ジ榮毀ノ志望ヲ蓄フヤト疑惑セルモ理ナリ此少將ガ嘗テ會合セシ奇僻家ノ最モ著キ者ト雖モ是ヲ此フヲツグニ比スレバ唯ニ三舍ヲ避ルノミナラジ

フヲツグハフランシース、クロマルチーニ地輿周回ノ企テト其何レノ原由ニ根スル等ヲ打チ明ケテ語リケレバ少將ハ此賭ノ到底益〻世ノ目的モナク唯奇僻ノ致ス所タルヲ見彼ノ稀世ノ僻人ノ行跡ニ就テ考レバ何處ニ至ルモ己レニ利セズ又人ニ益セズメ過スベシトコソ想ヒケル

列車ハボンベーヲ出テヨリ一時ニシテ棧道ヲ渡リサルセット島ヲ經過シテ大陸へ遷リカリヤンノ停車場ニ到テカダラプーナヲ經印土ノ東南諸州へ岐行スルノ支線ヲ右ニ見テボーウニルノ停車場ニ達ス此處ニ到テ列車西部ガートノ山脈數嶺ニ岐レテ綠樹其頂ヲ蓋ヒ曾テ噴火ノ力ニ仍テ成レル峨々タル巖石麗ニ連ル重巒ノ間へ進入セリ先刻ヨリクロマルチー及フヲツグ

ノ兩士時々互ニ數語ヲ交ヘシガ少將ハ此時中止數次ニ及ブ談話ノ縷ヲ繫ギ「兩三年以前ニモ候ハヾ恐ク君ノ路線當所ニ於テ阻遮セラレ終ニ君ノ志ヲシテ空シク畫餅ニ屬セシムルニ至ル程ノ遲緩ヲ生ジ申スベキニトフヲッグニ語レバ フヲッグ「夫ハ又何等ノ故ニ候哉 少將「如何トナルニ往時ハ轍路此ノ重嶺ノ麓ニ止ルヲ以テ籃輿或ハ騎馬ヲ藉テ是ヲ踰エ此ノ山背ニアル所ノカンダラノ停車場ニ至ラザルヲ得ズ フヲッグ「拙者ハ豫メ障碍ノアランヿヲ前知シ置キ候ヘバ其遲緩ハ敢テ拙者ノ豫算ヲ亂スニ足ラズ候也 少將「然レド君ニハ今日此ノ從者ノ引キ起セシ珍事ノ爲ニ一大紛擾ニ會セント爲シ玉ヘリト云ヘド此時パスパルツーハ雙足ヲ裹ムニ旅氈ヲ以テシ睡眠方ニ濃ナリ爰ヲ以テ己レノ評ヲ爲ス者アルハ夢ニダモ知ラザリケリクロマルチーハ又云フヤウ「英國政府ハ此類ノ犯罪ヲ罰スルヿ頗ル苛酷ナリ政府ハ第一印土人ノ宗敎ニ關スル習慣ハ總テ衆庶ガ是ニ崇敬ヲ加ヘヿヲ望ムガ故ニ君ノ僕ノ如キモ若シ警吏ノ捕ル所トナリセバト云ヲ半バ聞テフヲッグハ靜ニ「彼レ若シ不幸ニシテ警吏ノ捕ル所トナラバ至當ノ罰ヲ蒙リ處刑濟ノ後靜ニ歐洲ヘ歸鄕セシムベシ何ニヨッテカ彼レノ主人タル拙者ヲシテ該件ノ爲ニ遲緩セシムル所以ヲ知ラズト對ヘケレバ談話爰ニ至テ復タ中斷ス列車ハ夜間ニガート嶺ヲ踰エナシクヲ過ギリ翌十月二十一日稍〻平坦ノカンテイシュノ地方ヲ經過シタリキ此邊ノ國土耕耘頗ル洽キヲ得村落處々ニ散置シ浮屠ノ重塔ノ其上ニ屹立スルハ歐洲ニ於テ寺院鐘樓ト一般ナリゴダベリ河ノ支流ナル數多ノ細流アッテ此膏腴ノ豐疆ニ瀉グパスパルツーハ眠漸ク覺メ東窓ノ外ヲ眺望シ身ハ是レ大半島鐵道ノ列車中ニ在テ印土ノ地境ヲ過ルヲ信ジ得ズ彼レノ爲ニハ實トナラザル樣思ハレケレド其現實ナル是ヲ捨テ亦何ヲカ取ラン其機關車ハ英國機關士ノ進退スル所ニシテ其黑烟ヲ噴テ棉樹、茄菲樹、檳榔、紅椒樹等ヲ擁スルモ亦英國產ノ石炭ヲ用ユル所ニ因ル白汽ハ靉靆トシテ旋リテ棕梠樹ノ叢ヲ籠メ其間ニ畫ケルガ如キノ田舍屋、僧院廢棄セラレテ人影ナキ者或ハ印土建築無盡ノ妙巧ヲ窮メ粧飾粲然タル寺院等比々トシテ各地ニ散在ス眼ヲ轉ジテ遠キヲ眺メバ曠原延亙トシテ涯リナク殷々タル車聲ハ岡陵ニ潛ムノ巨蛇猛虎ヲシテ愕カシムベク轍路ノ開鑿貫通スル彼ノ鬱蒼タル深林ノ中ニハ猶群象ノ往來スルアッテ汽車ノ黑烟ヲ噴テ疾走シ來ルヲ物思ハシキ眼ヲナシ悠然トシテ望ム者アリ今朝マリゴームノ停車場ヲ過ギテ昔シ彼ノ神女カリーノ信徒ガ屢〻生血ヲ澆ギタリシ不祥ノ國境ヘ入ル

數宇ノ佛閣アッテ行人ノ奇觀ヲ博スルニ堪ルエルヲラモ亦茲ヲ去ルヿ遠カラズ今日ハ唯ダ寂然タルニザーム王國ヘ屬スル一州ノ小府タルニ過ギザルモ昔ハ彼ノ殘虐人ヲ震動セシメシヲーレンゼップガ據テ首府トナシ名聲ヲ天下ニ轟カセシヲーロンガバットモ亦甚ダ懸隔スルニ非ズ彼ノ冥鬼ヲ祭ルニ託シ老弱男女ヲ論セズ人ヲ襲擊シ是ヲ縊害スルヲ以テ常トシ巧ニ追捕ヲ遁レテ又出ヅル所ノ醜賊ノ巨魁タリシフェリンゲアガ兇暴ヲ逞ウセシモ亦此邊ニシテ當時至ル處トシテ僵屍ヲ見ザル處ナキ程ナリシガ今日ニ至リ英國政府ガ鋭意ニ此ノ暗殺ヲ防グヲ以テ害ニ遭者大ニ減ズト雖モ猶此ノ慘毒怖ルベキノ醜類會社未ダ全ク殄滅ニ就カズト云

午前半列車ポルハムプールノ停車場ヘ停リケレバパスパルツーハ金ニ飽カセテ漸クニ僞眞珠ナドモテ繡飾セシ花草履壹足ヲ買求メ來リ誇氣ニゾ之ヲ穿チケル

旅客ハ爰ニテ忙シク午餐ヲ喫シ末流カンペー灣ヘ出ルタプチ川ノ岸ニ沿テ復タ車ニ駕シアスルハルノ停車場ヲ差シテ赴キケリ今少シク問ヲ

假テパスパルーノ意衷ヲ寫シ出サンモ冗事ニアラジ抑モ初メボンベーヘ達スル迄ハ茲ニ來ラバ行旅モ必ズ止ミヌベシト思ヒシガ今現ニ疾風ノ如キ汽車ニ駕シ印土全邦ヲ横ギルニ際シ心神忽焉トシテ變換シ主人ノ企ノ實着ナルヲ信ジ競賭ノ架空ナラザルヲ知リ最短ノ日限ヲ以テ地球ヲ一周スルヿニシテ僅カタリトモ之ニ超過シ得ザルノ約アルヿ抔ヲ悟リケレバ往來活潑タル青年ノ豪氣再ビ勃々トシテ滿身ニ浮ビ立今ハ既ニ途中ニ於テ不慮ノ障遮ノ生ジテ行旅ノ爲ニ遲緩セラレンヿ等心ニ關シ自身モ亦此競賭ノ内ニ加ハル者ノ如ニ想ヒケレバ後悔スルモ猶及バザル昨日無益ノ彷徨ヲナシ終ニ不慮ノ擧動ニ及ビ既ニ今回ノ事業ヲ失ハントセルヲ追想スルモ猶震慄スルヲ禁ジ得ザリキ又フヲッグ氏ノ如キ沈毅ノ質ニ非ルヲ以テ憂慮惴々タルヿモ亦氏ニ倍シ消耗セシ日數ヲ胷中ニ暗算シ汽車ノ停ヲ憤リ緩走遲々タリナド言ヒ罵リ又私ニフヲッグガ機關士ニ賞金ヲ約セザリシヲ不滿ニ思ヒケル實ニ此壯漢ハ汽船上ニ於テハ奇效ヲ奏スル賞金モ速力定規アル汽車上ニ於テハ實行スベカラザル事ヲ知ラザリケレバナリ

日正ニ暮ントスル頃轍路カンティシュバンデルカンド二州ノ境界ヲナスサットプール嶺ノ陜谷ニ入ル翌十月二十二日クロマルチー氏ノ尋問ニ應ジパスパルツーハ自家ノ時器ヲ見テ午前三時也ト對ヘタリ偖彼ノ祕藏ノ時器ハ終始綠威ノ子午ニ合セタル儘ナレバ當所ヨリ西ノ方七十有七度ヲ距ルヲ以テ相遲ルヽ事四時ナリキクロマルチーハパスパルツーガ時ノ違ヘルヲ改メサセントテ曩ニフヒキスガ既ニ辨ジ聞カセシ説ト同事ヲ論ジ恆ニ東ニ向ヒ則チ太陽ニ先ダッテ進行スルガ故ニ經度一度ヲ進毎ニ日脚四分宛短縮ス因テ各地ノ子午線ニ隨テ時器ヲ進退セザルベカラザルノ理ヲ解サシメントスレドモ更ニ效驗ヲ得ズ頑固ナル僕ハ少將ノ説タ所ヲ了解セシカドモ強情ヲ逞ウシ更ニ龍動ノ時刻ヲ變ズルヿヲ肯ハザルハ頑癖實ニ嗤フニ堪タリト雖ドモ他人ノ障害ヲナサヾレバ又深ク咎ルヲ要セズ

午前八時ロタールノ停車場ヲ過ルヿ十五里ニシテ列車廣漠タル路上ニ數戸ノ茅屋及ビ工人ノ假小屋等軒ヲ幷ベシ一村落ニ到リテ列車管事客車ノ前ヲ過ギリ號デ云ク「旅客茲ヨリ下車スト聞テフアイリス、フヲッグハ物問ヒ貌ニテフランシース、クロマルチーヲ見ルニ氏モ亦大ニ留滯ノ不意ニ出ルヲ恠ム者ノ如シパスパルツーモ亦驚愕他ノ兩士ニ讓ラズ身ヲ跳ラセテ車外ニ飛ビ出デシガ忽チ回リ來リテ叫テ云ク「鐵道ハ茲ニ迄テ盡トクロマルチー恠テ問テ云ク「子ハ何ト云フゾヤ　パス「僕ハ轍路爰限リ最早先キヘハ通シ申サズト云ヒ候也少將ハ忽チ客車ヲ降レバフヲッグモ續テ靜ニ車外ヘ出デ兩人均ク管事ノ前ニ至リクロマルチー先ヅ問テ云ク「此地ハ何處ナルヤ管事對テ云「コルビー村ナリ　少「我々ハ此地ニ止ルヲ要スルヤ　管「勿論ニテ候轍路未ダ全ク落成ニ及バズ之ニ因テト半バ聞テクロマルチーハ「何ト云ハルヽ轍路未ダ落成致サズトナ　管「然リアラハバッドヨリ先キハ復タ汽車通行シ候得共彼所迄猶五十里程ノ處未ダ竣工ニ至ラズ候也　少「去リナガラ新聞紙ニハ公然全線開業ノ旨豫テ掲載アリシニト云ヘバ管事ハ「貴官恠ミ玉フヿナカレ是只ダ新聞ノ謬聞ヲ記セシ耳クロマルチー氏是ヲ聞テ怫然トシテ云ク「然ルニ足下ノ會社ニテボンベーヨリカルカッタ迄ノ乘車劵ヲ鬻グハ太ダ奇恠ナリ　管「恠シミ玉フナ旅客ハ豫ジメコルビーヨリアラハバッド迄各自進行ノ便ヲ求ルノ勞ヲ親カラセザルヲ得ザルヿヲ了知スルニヨルト聞テクロマルチーハ憤リニ堪ヘズパスパルツーノ如キハ若シ主人ノ前ニアラザランニハ

其列車管事ヲ打チ仆シ吳レント逸レドモ主人ノ前ヲ憚リテ敢テ粗暴ニ渉ラザリキフヲッグハ騷ガズクロマルチーニ向ヒ「今ハ何トカシテアラハバツドヘ達スルノ方略ヲコソ討議致シタキヿニゾト云ヲクロマルチー打チ聽キテ云ク「今回ノ遲緩ハ實ニ以テ君ノ爲ニ障碍タルヿ疑ヲ容レズ フヲッグ「否心ヲ勞シ玉フナ拙者豫ジメ是ヲ前知セリ 少將「何ト云ヒ玉フゾ然ラバ君ニハ轍路ノ中斷セルヿヲ知リ玉ヒシカ フヲッグ「否ナ決シテ然ルニハ非レド各般ノ障遮ガ早晩起ルベキハ拙者素ヨリ豫期セシ所ニテ況ンヤ今日ハ猶二十二日ナルニ香港ヘ向ヒ汽船ノカルカッタヲ出港スルハ二十五日ノ正午ナリ加之拙者ハ是迄二日ノ所得モアレバ是ヲ棄ル耳ノ事ニテ其出船ノ間ニ合ヒ申スベケレバ何等ノ失敗モ恐ルヽヲ要セザルナリト對ヘケルニゾ斯程迄モ深ク自信シテ答ヘシ其言葉ニ對シ再ビ喙ヲ容ル所ナカリケル然レドモ新聞紙ハ彼ノ急進スル時器ト一般ニテ兎角急進スル癖アルヲ以テ今回ノ如キモ全線ノ落成セル條ヲ揭載シタリケルガ實地ニ就テ之ヲ見レバ線路此處ニ盡ルヤ現實ナルガ故ニ旅客ハ概ネ此ノ線路ノ中斷ヲ知リケルヲ以テ客車ヲ降リ各自村內ニアル所ノ運輸ノ具タル或ハ「パルキガリ」ト稱スル四輪ノ車ニシテ背骨凸乾シタル牛ニ牽カシムル者或ハ形チ神輿ニ髣髴タル輦車或ハ籃輿或ハ乘馬等ヲ爭ウテ取リ去リシヲ以テフヲッグクロマルチーノ兩士ハ村中殘ル隈ナク奔走シテ搜索シタレド終ニ一物モ發見セズ悄然トシテ回リ來リファイリス、フヲッグ云ク「予ハ徒行センノミト此トキ主人ノ踵ニ尾シ來リシパスパルツーハ已レノ穿チタル華綺ナルモ更ニ堅牢ナラザル彼ノ花草履ヲ睥睨シツヽ面ヲシカメアリシガ己レモ亦タ幸ニ運具ノ發見ニ奔走シ來リシカバ暫シハ躊躇シテ在リシガ偖テ云フ樣「某シ私ニ運輸ノ要具ヲ發見セシ樣思ハレ候ナリ フヲッグ「夫ハ果シテ如何ナル物ゾ パス「爰ヨリ百歩程彼方ニ住ヒ居候土人ノ育ヒ居象ニコソト聞テフヲッグハ「然ラバ其象ヲ見ニコソ參ルベシト云テ頓テ五分時間モ過グル頃ファイリス、フヲッグ、フランシース、クロマルチー、パスパルツーノ三人ハ早ヤ一軒ノ矮屋ノ側ニ丈餘ナル高柵ヲ環セシ巨欄アリテ屋內ニハ一名ノ土人欄內ニハ一頭ノ象ガ住スル所ヘ到リ象ヲ見度旨ヲ土人ニ告グレバ頓テ土人ハ三名ノ賓客ヲ導キ共ニ欄內ヘ入リニケルガ三人ノ旅客ハ彼ノ半馴ナル巨獸ノ前ヘ進ミケル元來此象ハ負擔ノ役ニ用ルガ爲ニ非ズ唯闘爭ノ爲ニ畜フ所ナルヲ以テ天然其柔順ノ性質ヲ變ジ漸々印土ノ方言ニテ「マッツ」ト稱スル暴戾質ヲ帶ビシメントスルニアリ然メ此變質ヲ催スニハ三ケ月間之ニ喰マシムルニ唯牛酪ト砂糖トヲ以テスト此養方ハ前條ノ如キ結果ヲ生ズルニハ適セザルベキガ如シト雖モ土人此方ヲ用テ能ク效驗ヲ得ルト云フ然メ此象漸ク昨今前記ノ食ニ就キ「マッツ」ノ萌シ未ダ發生セザリシハフヲッグノ爲ニ甚ダ僥倖ナリキ其名ヲ「キウニ」ト稱ス「キウニ」ハ他ノ諸象ト均シク數里ノ長程ヲ快走シ得ルト他ニ騎スベキ隻獸ナキト此兩條ノ原由ニ因リ終ニ是ヲ使用セント決セリ然リト雖モ方今該獸漸ク減少セントシ特ニ積墀ノ場ニ登リ闘爭ニ適スルハ牡象ナルヲ以テ人ノ之ヲ需ルヤ頗ル切ナリ該獸ハ捕ヘラレテ人間ニ育ハルヽニ當テハ生殖スルヿ太ダ稀ナリ是ヲ以テ山野ニ獵シテ捕フルニ非レバ又タ得ベカラズ是故ニ人ノ是ヲ育フヤ注意頗ル丁寧ナリ是ニ於テカフヲッグ氏ガ初メ之ヲ借ランヿヲ望ムニ當テヤ土人斷乎トシテ固辭シケレバフヲッグ固ク乞ヒ且ツ約スルニ法外ノ高價一時間十磅（五十弗）ノ割ニテ賃銀ヲ拂ハンヿヲ以テス土人肯カズ貳十磅（百弗）ヲ以テス肯カズ四十磅（貳百弗）ヲ以テス猶固辭スルヿ元ノ如シパスパルツーハ主人ノ賃格ヲ益スヲ聽毎

ニ驚躍スルニ至ルト雖モ土人ハ更ニ諾スル色ナシ然ルニ其金額ヤ大矣先ヅ該象ガアラハバッドニ迄ハ十五時間ヲ費スト假想スレバ其駄賃六百磅(則三千弗)育主ノ所得トナルベキナリファイリス、フヲッグハ此時更ニ騷ゲル色ナク先ヅ印土人ニ勸ムルニ其象ヲ千磅(五千弗)ノ價ニテ賣ランヿヲ以テス土人是ヲ賣ルヿヲ肯ハズ恐クハ此點奴私ニ此機ヲ奇貨トシ巨利ヲ射ントスル者ナラン歟此時クロマルチー氏ハフヲッグ氏ノ袖ヲ牽キ傍ヘ招キ陰カニ是ヲ諫ルニ先ヅ能ク熟考シテ后ニ處スルヲ以テスフヲッグ之ニ對ルニ熟考ノ後ニ非レバ未ダ曾テ事ヲ處セシヿアラズ且該件ハ貳萬磅(十萬弗)ノ賭ノ勝負ニ關スルヲ以テ假令其實價ノ貳十倍ヲ擲ツモ緊要物タレバ是非共購求セザルヲ得ザルヲ以テシ再ビ來テ彼ノ土人ニ應接ス土人ハ貪欲ノ卑情自ラ細眼ノ裏ニ著レ唯價額ヲ貪ルノ外ナラザルヲ察シフヲッグハ買取ントテ漸々糶リ騰ゲ千二百磅(六千弗)ヨリ千五百磅(七千五百弗)千八百磅(九千弗)終ニ糶リ騰ゲテ貳千磅(壹萬弗)ニ至ル平常顏色朱ヲ注ギシ如キパスパルツーモ此時餘リノ事ニ打驚キ色ヲ失ヒテ茫然タリ貳千磅ニテ漸ク土人ハ諾々承引キケレバパスパルツーハ叫テ云ク嗚呼何、云フ價ゾヤ是デハ象肉ヲ鬻グニ狂價ヲ以テスル者ナリト賣買ノ約既ニ齊フ上ハ馭者ヲ傭フ耳ナリシガ是ハ象ヲ得ル程ノ難件ニハ非ズシテ容貌怜悧タル一名ノパルシ人ノ年猶若キガ自ラ來テ使役ヲ乞ヒケレバフヲッグ氏ハ是ヲ容ルシ且是ニ賞金贏多與ヘンヿヲ約シケレバ愈〻怜悧ヲ倍スベク見エニケル此パルシ人ハ能ク馬丁ノ職ニ精シキヲ以テ一刻モ失ハズ象ヲ牽キ出シ其背ヲ被ニ蒲團ノ類ヲ以テシ其兩側ヘ兩箇ノ籃榻ヲ繫ギテ樂ニハ見エネド腰掛ニ髣髴タル者ヲ造リテ發程ノ準備ヲナシタリキ爰ニ於テフヲッグハ彼ノ胴亂ヨリ銀行紙幣ヲ取出シテ象ノ賣主ヘ與ヘケル之ヲ見テパスパルツーノ愛惜眞ニ己レノ五臟ノ裏ヨリ取出サルガ如キ色アリキフヲッグ氏ハフランシース、クロマルチーニアラハバッドノ停車場迄相伴ヒ行カンヿヲ勸ケレバ少將ハ此ノ巨獸ノ力一客ヲ益スガ爲ニ若干ノ疲勞ヲ與ルニ非ザルヲ見テ其招キニ應ジケリ各種ノ糧食ヲコルビーニ於テ購求セシ上フランシース、クロマルチーハ一側ノ釣榻ニフヲッグハ他ノ釣榻ニ各〻座ヲ占メパスパルツーハ主人ト少將ノ中央ニ蒲團ヲ布キテ打チ跨リ彼ノ案內ノパルシ人ハ象ノ頸ニ跨リテ此ヲ馭シ第九時ニ象ハ此一行ヲ載テ村ヲ辭シ道ノ近キヲ貪リテ椰樹檳榔鬱々タル深林ヲ道キ分ケテゾ進入シタリケリ

第拾貳回

此邊ノ地方ハヴィンドヒヤス山ノ連脈四區ハ岐セシ所ナレバ轍路ノ開鑿モ亦自ラ羊腸タリフヲッグハ固ヨリ急ノ旅行ナルヲ以テ路程ヲ縮ルガタメニ現今築工最中ナル新線ヲ右ニ見テ彼ノパルシノ嚮導ハ地方ノ捷徑ヲ諳ンジ山林ヲ横ギリ踰テ行カバ二十里前後短縮スルト云ニ任セケルファイリス、フヲッグ幷ニフランシース、クロマルチーハ均ク彼ノ籃中ヘ身體領迄モ湮沒メ馭者ノ鞭下ニ馳驅スル象背ニ在テ身頗ル激動セラル丶モ互ニ相見ルヿモ象背ヲ隔ルガ故ニ漸クナレバ敢テ談話モナサズ只彼ノ英人ノ眞面目ヲ著シ更ニ動ズル色モナク此溢體ヲ忍耐シタリパスパルツーハ直ニ獸背ニ跨ルヲ以テ其激動ヲ受ルヿ頗ル甚シケレバ主人ノ忠告ヲ確守シ愼恐シ敢テ舌ヲ齒牙ノ間ニ伸サズ若シ失テ齒牙ノ間ニアラシメバ齒斷センヿ蓋シ疑ヲ旋サジ或ハ一搖セラレテ象ノ領頭ニ突進シ或ハ再搖セラレテ忽チ其尾端ニ迯巡シ恰モ彼ノ輕技師ノ徒ガ薄板ノ長橋ヲ踏テ跳躍スル者ト一般ナレド壯漢ハ笑謔止マズ時々糖片ヲ囊中

ニ採テ是ヲ與レバ怜悧ナル「キウニ」ハ毫モ馳驅ノ健歩ヲ緩メズ長鼻ノ端ニ承テゾ食ヒケル進行スルヿ貳時間ニメ嚮導象ヲ駐メ夫ニ一時間ノ休憩ヲ放ルシケレバ怡然トメ近傍ニアリシ水溜リニテ渇ヲ潤シ草木ノ枝葉等ヲ喰ミ居リケルガクロマルチー氏ハ疲勞ニ堪ヘネバ却テ此滯留ヲ喜ビシガフヲッグ氏ハ恰モ熟眠シ晨タ床ヲ起出シトキト均シク更ニ困勞ノ色ナカリキ少將此狀ヲ見テ賛歎シテ云ク「嗚呼氏ハ鐵身ナルカトパスパルツーハ辨當ノ準意ヲシテ居是ヲ聞キ「眞ニ鐵モ鐵ナリ鍊鐵ナリトゾ云ヒニケル正午嚮導復途ニ上ル風物漸ク荒茫鬱蒼タル深林ハ去リテ矮樹ノ叢之ニ次ギ小林又去テ之ニ次ニ寞々タル曠原僅ニ瘠草巨石之ヲ蔽フアリ此邊上ボンデルコンド髀隙ハ彼ノ悲慘ナル印土教門ヘ信依凝結セシ徒ノ住居スル所ニシテ遊歴家ノ經跡モ未ダ洽カラズ殊ニ峨々タルヴインドヒヤス山ヲ巢窟トシテ英人ニ抗スル酋長ノ歸服シタル地方ナルガ故ニ英廷ノ威武未ダ全ク之ヲ化スルニ至ラズト此日モ既ニ巨象ニ騎テ疾走スル旅客ヲ見憤怒ノ態ヲアラハセシ兇暴ナル土人ノ群ニ幾度トナク遭ヒケルガ嚮導ハ不虞ヲ誡シメ成リタケハ避ケテゾ打過ギケル禽獸ノ類ハ出デ遭フ甚ダ稀ニ偶マ猴兒ノ人ヲ見テ醜顩ヲシワメ轉顚シテ逃ゲ惑フ者アリケレバパスパルツーハ是ヲ見頻リニ打興ジケリ此壯漢ハ千緒ノ憂思ヲ釀シケル其中ニモアラハバットヘ到着ノ上ハ主人彼ノ象ヲ果メ何トナスナラン牽テ往クベキカ否其購求ノ代金ニ加ルニ運送入費ヲ以テセバ身代潰シノ代物ナリ是ヲ賣ランカ將タ之ヲ放タンカ貴重ノ良獸何ゾ愛育セザルベケンヤ萬一主人ガ是ヲ己レニ惠ミ與ヘンナド云ヿアラバ其所置ニ困ルヿ涯リナカラン抔ト獨リ取リ越シ苦勞ヲゾシタリケリ斯テ午後八時頃ニハヴインドヒヤス山脈ノ難所モ既ニ踰エテ其北面ニ一軒ノ壞レ屋アルヲ見出シ爰ヘ宿ヲ投ジケル然シテ今日經過ノ里程貳拾五里ニテ恰モアラハバッドノ停車場迄ノ道程ノ半ナリキ此夜ハ寒氣殊ニ嚴シカリケレバパルシ枯枝ヲ室中ニ焚キ諸客稍ゝ暖ヲ取リ各ゝ強ク空腹ヲ覺ケレバ囊ニコルビーニテ購求セシ糧食ヲ取リ出シテ飽食シ了リ初ハ斷續タル兩三語ノ談話ノ聲モセシガ頓テ鼻息ノ響ヨリ外ニ聲モセザリケリキ嚮導ハ獨リ「キウニ」ノ傍ニ立チ禿株ニ凭テ僅ニ眠リニ就キニケリ時ニ遙ニ彪虎ノ長嘯スル聲及ビ猿猴ノ叫笑スル響キノ聽ルノミニシテ四隣寂然タリ猛獸ノ如キモ只怒號スル耳ニシテ敢テ襲來スベキ狀ナケレバ長夜靜然タリフランシース、クロマルチーハ疲困ノ餘リ熟眠スル狀彼ノ豪膽ノ武人ニ負カズパスパルツーハ晝間ノ激動再ビ夢裡ニ感ジ眠リ頗ル穩ナラズフヲッグハ酣眠頗ル穩ニ恰モサヴヒルロー街ノ居宅ニ睡ル者ノ如シ

翌朝六時亦程ヲ發シ嚮導豫メ即夜ハラハバッドノ停車場へ達センヿヲ期ス之ニ因テフヲッグハ龍動發程ノ首メヨリ減節シ來レル四十有八時間ヲ全耗セズ猶ホ其一部ヲ贏スベキ割ナリ漸クニシテヴインドヒヤス山嶺ノ麓ヲ離レ「キウニ」又其歩ヲ速ニシ午時ガンジュ河ノ支流タルカニ川ノ畔ニ沿ウタルカレンシャルヲ迂回シ芭蕉樹ノ小森アル其下ニ憩ヒ其果ヲ採テ食フニ美味乳酪ニ均シク滋精麪包ニ讓ラズ行人甚ダ之ヲ賞ス嘗テ嚮導ハ却テガンジュ大江沿流ナル人烟絶跡ノ地ヲ安寧ナリトシ務メテ土地占居ノ地ヲ避ケタリ此處ヨリ東北ヘ向ヒ十二里ニシテアラハバッドニ達ス午後二時鬱蒼タル綠樹陰蔽ニシテ延亙數里ニ暨ブノ一徑ヲ過シハ則チ樹陰ヲ愛シテナリ尤是ニ至ル迄不快ノ遭遇モナク行旅安泰ニ了局セント思ユル時何ヤラン虞ル處アル如ク象ハ突然歩ヲ輟メケレバクロマルチーハ怪シミニタヘズ鑑褂ノ上ヘ頭ヲ擧ゲテ「何事ゾト問ケレバパルシ人ハ耳ヲ穿チテ深

林ノ間ニ當リ何トナク物音騒然タルヲ打聞ツヽ「下郎ニモ解シ候ハズト答ヘケル兎角スル内ニ細々タル響モ漸ク分明ニナリ遂ニ人聲簫管ノ響クガ如クナリケレバパスパルツーハ頻リニ耳ヲ欹テ眼ヲ刮リ四方ヲ回顧スルモフヲッグハ更ニ騒ゲル色ナク一語ヲ發セズ近寄ヲ待タリキパルシ人ハ速クモ地ヘ降リ立チ象ヲ側ノ梢ニ繫ギ置キ生ヒ茂リタル森ノ中ヘ馳セ入リ暫クニシテ歸リ來リ「是レブラマ敎徒ノ行列ニシテ只今此方ヘ向ヒ練リ來ルナレバ見ラレヌ內ニ成ルベクハ避テ通行イタスベシト云ヒツヽ象ヲ解テ深樹ノ蔭ニ牽キ行キ旅客ニ降リザル樣ニ忠告シ「綠葉鬱蔽シタル蔭ナレバ敎徒等心附ズシテ經過スベシトハ思ヘドモ更ニ油斷セズ脫走ヲ要スル時ハ速ニ領ニ跨リ奔ラント豫メ準備ヲナシタリケル

頓テ人語音樂ノ響モ次第ニ近ヅキ調子モ變ラヌ唱歌ノ聲ニ鼕々タル太鼓銅鑼ノ響ヲ雑ジヘ其行列ノ先驅ハ蚤ヤフヲッグ氏等ノ潛ミシ處ヨリ五十歩計リ距レシ邊ヲ通リケルニゾ枝葉ノ間ヨリ窺ヒテ彼ノ奇々怪々タル儀式ニ列ル人々ヲ見分ケケル其第一ニ進ミ來ルハ頭ニ法帽ヲ戴キ身ニハ五彩ノ法衣ヲ穿チタル僧侶數名ニシテ老若男女銅鑼鐃鈸ヲ鳴ラシ挽歌ヲ唱ヘテ其前後ニ扈從シ是ニ次デ來ルハ一輛ノ神輿ニシテ其車輪ハ象蛇ノ環結シテ輪ヲナス者ニ肖タリ是ヲ牽クニ麗華ヲ極メテ粧飾シタル一雙ノ「ゼビュス」（牛ニ似テ背上凸骨アル獸ナリ）ヲ以テシ其上ニ安置スルニ一箇ノ偶像ヲ以テス其像タルヤ身體塗ルニ濃赤ヲ以テシ一身ニシテ四手アリ頭髮蓬ノ如ク亂レテ眼光惑ガ如ク舌頭長ク垂レテ兩唇渚ニ汚テ染ルニ似タリ領ニハ斬首ヲ串綴シタル襟飾ヲ掛ケ腰ニハ斷手ヲ連ネタル帶ヲ締メ足ニ無頭ノ巨屍ヲ踏壓シテ立タリケル是ヲ見テクロマルチーハ私語メ云ク「是神女カーリニシテ戀慕及ビ死沒ノ神ナリパスパルツー之ヲ聞テ云ク「醜惡ノ老嫗死沒ノ疫神タルヿハ可ナリ戀慕ノ神ナルヿハ僕決シテ承伏セズト此時パルシ手ヲ擧テ默セヨト令シタル偶像ノ周圍ヲ肩摩轂擊シテ環繞スル頑妄ノ老徒ハ黃土色ノ袈裟ニ虎斑アルヲ肩ニ懸ケ神ニ供スルトテ刺截ノ流血淋漓タル膚ヲ露シタル犧ナリ此徒ハ狂頑ノ餘リ甘ジテ身ヲ神輿ノ轍下ニ摧キテ冥福ヲ得ント望ムト云フ其後ニ隨フハ數名ノブラマ門徒ニシテ各ミ燦然タル華衣ヲ着飾リ立歩モ漸クナル一名ノ婦人ヲ牽立來ルナリ其婦人ハ猶妙齡ニシテ色飽クマデ白ク歐婦ニ異ナラズ其頭其領其肩其耳其腕其指其足指ニ至ルマデ領飾リ腕環指環耳環ノ類寶珠ヲ以テ埋ムル如ク身ニ穿ノ衣ハ金光燦々タル錦繡ニシテ纖々タル輕羅ノ是ヲ蔽フアッテ嬌姿自ラ窈窕タリ此少婦ノ後ニ踵キ來ルハ腰ニ露刃ノ長劍ヲ横タヘ帶ニ短銃ヲ挾ミシ警護ノ暴夫ガ輦中ニ一屍ヲ載セテ來ル者アリ嗚呼何ゾ彼ノ綽然タル少婦ト反對ノ茲ニ至ル哉其屍ハ年既ニ高キ印度酋長ノ體ニシテ是ニ被ラシムルニ眞珠ヲ串綴セシ帽子及ビ錦ノ衣ヲ以テシ繡珠煌々タル帶幷ニ印土貴神ノ愛護スル精美ノ兵器ニ至ルマデ都テ生者ニ於ケルガ如シ其又後ニ從ヒ來ルハ伶人一隊又續テ一群ノ頑徒ガ差シモ喧ビスシキ音樂モ爲ニ蔽ハルヽ計リノ破レ鐘ノ如キ叫聲ヲ發シ來ル者アリ正シク行列ノ後押トゾ見エニケル

フランシース、クロマルチー氏ハ此ノ儀仗ヲ覽悽愴トメ嚮導ノ方ニ向ヒ「嗚呼『スッチ』カト問ヘバパルシ人ハ打チ點頭キ指ヲ唇ニ當テヽ沈默ヲ請ヒケル此時陸續タル行列モ緩カニ樹間ヲ經過シ頓テ後押ノ群モ蚤ヤ深林ノ中ヘ入テ影ダニ見エズナリ挽歌漸ク遠ザカリテ細々タル樂聲猶遙ニ林ニ響テ微々タリ今也前ノ喧囂タルニ次ニ颯々タル風聲喈々タル鳥聲アルノミ

フヲッグハクロマルチーノ一語ノ仔細アリゲナルヲ聞キ行列ノ影見エズナリケル時「『スッチ』

トハ何物ニテ候ヤト問ヒケレバ少將ハ答テ『スッチ』トハ自ラ志願スル人犧ト云フ義ニテ今君ノ見玉ヒシ彼ノ婦人ハ明朝拂曉ニ荼毘ノ烟ト消滅スベクニテ候ナリパスパルツーハ憤懣ニ堪ヘ兼ネ「嗚呼何等ノ醜類ゾトフヲッグハ又問ウテ云ク「然シテ彼ノ屍骸ハ誰ナル哉嚮導答テ云ク「是ハ當ボンデルコント州ニ君臨セシ則ヲ彼ノ婦人ノ所天ニコソ候ナリト聞ケドフヲッグハ哀憐ヲ催セシヤ否ヤ音聲微濁ヲ帶ビズ復タ云フヤウ「如何ニ此等ノ蠻俗猶印土ニ依然タルハ英人ノ力未ダ能ク是ヲ扶攘スルニ至ラザルカ　少將「印土地方大概ハ此ノ犧牲ノ蠻習既ニ斷エタレドモボンデルコンドノ如キ野蠻ノ邊陲ハ猶我大英國ニ歸服セザル故ヴインドヒヤス山以北ハ渾テ殺戮侵掠ノ慘劇場トコソナリ居リ候ナリパスパルツー是ヲ聞テ愁然トシ「生ナガラ燒カル、ヿカナト私語スレバ少將ハ再ビ語ルヤウ「燒死スルハ眞ニ哀レムベシト雖𪜈若シ然ラズンバ彼ノ婦人ハ社會ニ立チテ如何ナル憂キ目ニ遭テ終生難苦ヲ嘗ムルハ君ノ想像シ得ザル處ナリ余其所以ヲ述ベン人先ヅ其頭髮ヲ削リ之ニ喰マシムルニ僅カ兩三握ノ米ニ過ズ其之ヲ視ル恰モ臭穢ノ如ク終ニ狂犬ト一般ノ狀ニテ溝壑ニ顚斃スルヲ免レズ是故ニ此悲慘ナル生ヲ營マンヨリ寧ロ酷刑ヲ甘受セントテ不得止死ニ就ク者同穴ヲ渇望シ數門ニ頑凝シテ是ニ至ル者ニ踰ユ又時トシテ眞實是ヲ志願スル者モナキニアラズ既ニ某シボンベーニ在リシ時妙齡ノ寡婦夫ノ屍ト共ニ自燒スルヲ許サレンヿヲ願フ者アリ政府固ヨリ其願ヲ承認セズ茲ニ於テ該婦府中ヲ脱シ去テ一個ノ獨立酋長ノ許ニ投ジ終ニ犧ノ志ヲ果セシ者アリト此物語リノ中嚮導首ヲ掉テアリシガ其終ルニ竢ンデ云ク「明朝拂曉ニ犧ト消ユル婦ハ自ラ是ヲ願フ者ニ候ハズ　フヲッグ「夫ハ如何シテ知リ得ルゾ　パルシ「是ハボンテルコンド闔州ノ人ノ洽ク傳ヘ知ル哀レナ譚ニテ候ナリ　フヲッグ「然レド可哀サウナル彼ノ婦人ハ少モ抵抗スル態ナキハ又何故ゾヤト問ヒ詰レバ　パルシ「官ノ疑ハ理リナガラ夫ハ既ニ麻ト阿片ヲ薫ジタル烟リニ當テ精神ヲ昏迷セシメラレシニ因リ候ナリ　フヲッグ「然シテ何處ニ誘ヒ行クゾヤ　パルシ「此處ヨリ貳里計リ距リタルピラシノ佛院ヘ連レ行キ明朝荼毘ノ時限迄其堂中ニ籠メ置キ候ナリ　フヲッグ「然メ其牲ノ式ハ何時頃ナルベキヤ　パルシ「明朝拂曉ニテ候ト答ヘツヽ立テ深樹ノ中ヨリ象ヲ牽出シ其領ニ跨リ既ニ嘯テ象ニ進行ヲ促サントスル時フヲッグ氏ハ是ヲ止メテフランシース、クロマルチー氏ニ向ヒ「彼ノ婦人ヲ萬死ノ中ニ拯ントスルハ如何思ヒ玉フゾト聞テ少將ハ愕キ「彼ノ婦人ヲ拯フト云玉フカ　フヲッグ「左レバコソ拙者ハ猶十二時ノ餘暇ヲ有シ居レバ此時間ヲ其企ニ給スベシト答ケレバ　クロマルチー氏ハ感歎シテ云「眞ニ君ハ凛然タル義士ナリトフヲッグハ單ニ答ルニ「拙者餘暇アル時ハ義ヲ盡スヿヲ知ルト云ヲ以テセリ

第拾參回

此企タルヤ畢竟大膽ノ一大難事ニシテ恐クハ就リ難カラン故フヲッグ氏ガ此擧ニ就ニ當リ先ヅ身命ヲ孤注トシ假令幸ニメ害ニ遭ハザルモ醜虜ノ擒トナリ終ニ周坤ノ志ヲ成サヾランモ計ルベカラズ然レ𪜈幸ニメフランシース、クロマルチー氏ノ豪邁能ク之ガ輔翼タルアリパスパルツーニ於テハ主人ノ義氣ニ激セラレ水火ノ中ニ投ズルモ正ニ辭セザル者ノ如ク冷然氷ノ如キ膚裏ニモ義心ノ勃々タルアルヲ見テ主人ヲ欽慕スルヿ益々切ナリケレバ憑テ以恃ムベシト雖𪜈嚮導ノ志未ダ知ルベカラズ印土人ノ黨タラザランヤ假令其助力ヲ得ザルモ亦是ヲ中立セシメンヿ緊要ナリキ爰ニ於テクロマルチー氏ハ寸毫モ祕セズ其向フ所ヲ問ヘバ嚮導對デ云

ク「某モパルシ人彼ノ婦モ同種族ナリ願クハ官ヲ輔ケテ犬馬ノ勞ヲ盡サントフヲッグ之ヲ聽テ云「善哉言ヤ嚮導トパルシ人又云ク」然レドモ事若シ就ラズシテ擒トナラバ只ニ死ニ就クノミナラズ苛虐ノ刑戮ニ就クノ險アリ官宜ク之ヲ熟慮シテ後ニ發シ玉ヘフヲッグ曰ク「其略既ニ我ガ方寸ニアリ夜ヲ俟テ後ニ事ヲ擧ゲント欲ス如何パルシ「某モ斯クト思ヒ候也此時夫ノ勇氣凛々タル士人ハ犧牲トナル所ノ婦人ノ身事ヲ物語ル所ニ據レバ素トボンベー在住ノ豪商ノ女ニシテパルシ族ニ屬シ容姿ノ伉儷ナルヿ遠近ニ著シ嘗テ該府ニ於テ純然タル英風ノ敎育ヲ受ケシヲ以テ其學識及ビ坐作進退ヲ見ル時ハ人之ヲ歐婦ト區別スル能ハズ其名ヲアウダト稱ス幼ニシテ父母ヲ失ヒ長ズルニ及デ強迫セラレテ彼ノボンテルカンドノ老酋長ニ嫁シ三月ニメ寡トナリ慘毒身ニ逼ル可ヲ見テ逃走セシガ幾許モナク捕ヘラレテ歸ル酋長ノ族人之ヲ殺メ貪戾ヲ逞セントシ今日既ニ逃ル可ラザルノ酷戮ニ就ントスト此談ヲ聞キフヲッグ以下義心愈ミ鞏固トナル然シテ嚮導ニ令シ象ヲ驅テピラジノ佛寺ノ邊ヘ到リ成可其傍ニ接近セシムルヿニ決ス行クコト凡ソ半時ニシテ佛寺ヲ距ル僅カニ五百歩斗リノ樹葉暢茂セル下ニ留ル爰ニ至レバ既ニ頑徒ノ叫聲分明ニ聞エケリ此時我ガ衆各ミ犧婦ニ近ヅクノ方略ヲ議スルニ嚮導ハ其堂ノ景況ヲ知レリ且ツ少婦ハ籠メラレテ龕中ニアリト云フ護卒ノ熟醉酣眠ニ乘ジ一扃ヨリ潛入スルヲ得ベキカ或ハ堂壁ノ一面ヲ穿テ入ルベキヤノ策ノ如キハ實地ニ就クニ非ザレバ又豫決スベカラズト雖ドモ曉天ニ至ラザル前夜陰ニ乘ジ奪ヒ去ルニ非ズンバ天既ニ明ケテ少婦ノ死地ニ臨ニ及デハ人力ノ何ゾ能ク之レヲ萬死ノ中ニ拯フコトヲ得ベケンヤ是故ニフヲッグ以下ハ日ノ暮ルヲ待テ夜ニ入ルヤ否ヤ佛寺ノ周圍ヲ視察セント決セリ六時頃ヨリ以後ハ土人ノ陋習ニヨツテ僧俗共ニ「ハング」ノ氣ニ（鴉片ヲ麻賀湯ノ中ヘ混合セシ麻藥ナリ）沈湎シ四邊ニ浪藉タレバ其間竊ニ潛行シテ堂內ヘ近キ得モ知ルベカラズトテフヲッグ氏クロマルチー氏パスパルツー等ヲ率テ嚮導ハ靜カニ林ヲ出デ十分斗リニシテ小川ノ畔ニ至リ松脂ヲ焚ケル篝火ノ光ニ透シ見レバ薪ノ纍々トシテ堆キ者アリ是レ夫ノ貴キ白檀ヲ重ネ之ニ澆グニ香油ヲ以テセル茶毘ニ供スル薪堆ナリ是上ニ横リシハ則チ翌朝寡婦ト共ニ一縷ノ烟リト消エントスル酋長ノ屍ナリキ是ヲ距ル一百歩斗リニシテ佛寺アリ其巍々タル寶塔ハ高ク聳テ喬木ノ間ニ屹立セリ嚮導聲ヲ低テ「來リ玉ヘト云ヒツヽ三人ノ先ニ立チ益ミ戒心シテ靜ニ深草ノ間ヲ潛過シケル此時夜陰蕭索只之ヲ攪ス者ハ颯々タル風ノ枝葉ヲ戰ガスアルノミ頓テ嚮導ハ寺苑ノ一隅ニ留リテ閃々タル篝火ノ廣苑ヲ照スニ因テ其形狀ヲ通覽スレバ地上處トシテ老幼男女ガ相混淆シテ熟醉酣眠スルノ群ナラザルナク其中兩三ノ醉虜ガ幽ニ呻吟スル聲ノ聞ユルハ殆ンド劇戰ノ場ニ僵尸ノ横ハル者ト一般ナリ其後ニ當テピラジノ佛院ハ恍トシテ深樹ノ間ニアリ近テ之ヲ眺メバ酋長ノ護兵ハ白刃ヲ按ジ燄光暗淡タル篝火ノ下ニイミテ門戶ヲ護ルヲ見ケレバ堂裏ニモ必ズ僧侶ノ徹夜看護スルアラント思ヘバ嚮導等ノ失望譬ルニ物ナシパルシ人ハ堂內ヘ潛入スルノ到底成リガタキヲ曉リ敢テ進マズ諸子ヲ率キテ逡巡シケルフアイリス、フヲッグ、フランシース、クロマルチーモ亦同ジク此方面ヨリハ襲トモ事ノ成ルベカラザルヲ察シ互ニ歩ヲ止メ聲ヲ潛メテ立談ス少將先ヅ云ク「猶八時ナリ夜半ニ至ラバ護卒等モ亦睡倒スルナルベシパルシ人云ク「如何ニモ左アルベシトテフアイリス、フヲッグ以下一樹ノ下ニ横タハリテ一刻千秋ノ思ヒヲナシ夜ノ更クルヲゾ待ニケル嚮導ハ時々群ヲ離レテ行テ窺フニ護卒ハ依然警備ヲ怠ラズ又淺々

タル燈光ノ堂窓ノ外ニ漏ル、アリ待テ夜半ニ及ブモ警備依然タリ之レニ據テ考ルニ護卒ガ「ハング」ニ酔テ昏倒センコハ憑ムベカラザレバ他ニ方略ヲ旋サヾルヲ得ズ佛院ノ一壁ヲ鑿テ潛入センカ堂内ノ僧侶ガ堂前ノ護卒ト均シク徹夜シテ犠婦ヲ守ルアルヤ否ヤ知ルニ由ナシ是ニ於テ嚮導再ビフヲッグ、クロマルチー、パスパルツーノ諸子ヲ導キ迂回シテ堂背ニ至ラントス途ニ隻影ヲ見ズシテ十二時半頃佛院ノ背面ニ達ス此方ニハ一個ノ警固ダモ無シト雖ドモ亦更ニ潛入スベキノ扃窓ノ類アルナシ

一鈎ノ彎月ハ將ニ山端ヲ離レントスルニ早ヤ飛雲ノ爲ニ遮ラレ加之喬木ノ蔽アルヲ以テ夜陰頗ル暗黒ナリ豈ニ堂背ニ近キタルヲ以テ足レリトスベケンヤ其壁ヲ鑿テ一個ノ穴ヲ洞クヲ要ス此工ニ就ニ當テフヲッグ以下持チケル器具トテハ只懐裏ノ小刀アルノミナレド幸ニメ堂壁ハ煉化石ト木トヲ以テ作リシ所ノ者ナレバ洞鑿甚ダ難カラズ初メ一片ノ煉化石ヲ拔卸スルヲ得バ餘ハ、從テ容易ニ拔取スルヲ得ベシ是ニ於テ精々響ヲナサヾル樣心ヲ用テ其工ニ着手ス嚮導トパスパルツーハ左右ニ分レテ煉化ヲ拔卸シテ二尺有餘ノ一竅ヲ鑿タント勉強スルヲ以テ工事愈ミ進マントスル際堂中一聲忽チ叫ブ者アッテ戸外ノ衆聲之ニ應ズパスパルツー及ビ嚮導ハ忽チ工ヲ輟ム發見セラレシカ或ハ警ヲ傳ヘシヤ判然タラズト雖ドモ戒心最モ疏ナル輩ナレドモ猶遠ザカラザルヲ得ズ故ニフヲッグ、クロマルチー等モ避テ再ビ樹下ニ潛ミ警戒消散スルヲ待テ再ビ行テ洞壁ノ擧ニ着手セントス嗚呼何ゾ機會ノ惡シキヤ護卒堂後ヘ來テ茲ニ警備シテ又去ラザレバ工事半途ニシテ妨碍セラレシ四人ノ失望紙筆ニ盡シ難シ今ハ早ヤ犠婦ノ側ラヘサヘ近ヅクノ策ナシ況ンヤ如何シテカ之ヲ拯フヲ得ベケンヤクロマルチーハ遺憾ニタヘズ空ク拳ヲ嚙ミパスパルツーハ憤激已ノ身ヲ顧ルニ遑ナク漸ク嚮導ノ抑留スル所タリ神色變ズルコナキフヲッグハ未ダ何等ノ感アルカ更ニ色ニ顯サズ此時少將聲ヲ低ウシ「棄テ發程スルノ外又他策ナキ歟嚮導答云ク「捐テ發スルノ外他策ノ施スベキナシフヲッグ云ク「拙者ハ明日午時前ニアラハバッドニ着セバ可ナルノミ猶暫ク待チ玉ヒネクロマルチー是ヲ聽テ云ク「君ニハ何ノ期望スル所アッテカ待チ玉フゾヤ早直ニ夜ノ明ルニ間ナク然シテ・・・ト半開テフヲッグハ又云フヤウ「今我等ノ得ザル機會ノ最後ノ期ニ至テ生ゼンモ未ダ知ルベカラズトクロマルチーハフヲッグノ眼中ニ就テ其意ノアル所ヲ察セントスレドモ解スルニ由ナシ此沈毅ノ英人ハ何ヲ憑ンデ志ヲ遂ントスルヤ少婦既ニ死地ニ臨ムノ際毅然躍リ出デ之ヲ獄卒ノ毒手ヨリ奪ヒ取ラント欲スル歟是レ無謀ノ狂擧ナリ如何ニ氏ノ心緒ノ亂ル、ノ此極ニ至ルト思ヲ得ベケン哉兎ニ角クロマルチー氏ハ彼ノ殘忍見ニ忍ビザルノ慘劇始ルマデ待ツコヲ承諾シケルガ嚮導ハ今假ニ潛匿セシ處ニ長ク留ルヲ欲セザレバ再ビ舊ノ廣苑ノ一隅ヘ誘回リケル蓋シ爰ヨリハ熟睡セル群衆ノ動作ヲ視察シ得レバナリパスパルツーハ一本ノ喬枝ニ昇リ何ニ歟俄ニ一策ノ腦漿ニ浮ビ來リ今ハ勒シテ去ル能ハザル者アルガ如ク頻リニ思ヲ練リ居リシガ始ノ程ハ我ナガラ狂思爰ニ至ルカト獨語セシガ暫クシテ又云「何ゾ成ラザルト限レルナランヤ彼ノ頑愚ノ醜虜ニ遇スルニハ只此一策アルノミニテ奇功ヲ奏センモ亦圖ルベケンヤト云テ未ダ其思想ヲ明言セズ忽チ猿ヲモ欺ク輕身ニテ一端地ニ接スル所ノ下枝ニ降リ遷リケル兎角スル内時間モ移リ早ヤ東雲微明ヲ帶ブルハ是レ天明ノ既ニ近キニアルナリ此時迄熟睡恰モ昏絶スル者ノ如キ衆生モ忽然トシテ蘇生セルガ如ク銅鉦再ビ轟キ挽歌絶叫復タ起ル是レ薄命少婦ノ最期ノ來レルナリ果シテ此時佛堂ノ扉

颯トシテ排ラキ內ヨリ潑ト溢出ル燈光ノ下ヨリ出デ來ルハ則チ犧牲ニ供スル少婦ガ兩個ノ僧侶ニ扶ケラレテ堂外ヘ出ルナリ是ヲ望ムニ一所懸命ノ力ヲ振ヒ痲醉ノ昏夢ヲ破テ獄卒ノ毒手ヲ脫セントアセル者ノ如シ之ヲ見テフランシース、クロマルチーハ憤心破裂セントシ不思モファイリス、フォッグノ手ヲ握リケレバ豈斗ランヤ氏ノ手裏ニ冷然トメ露刃ノ小刀アルヲ感ジケル此時滿庭ノ衆庶靡然トシテ搖ギ立チ少婦ハ又再ビ痲蕡薰氣ノ爲メニ昏迷セラレ頑徒ガ絕叫經文ヲ倡ヘテ護送スル其央ニ立テ過ギニケル

ファイリス、フォッグ以上諸子モ亦頑徒ノ後ヘニ尾シテ扈從シ二分時間程ニテ彼ノ小川ノ傍ニ至リ酋長ノ屍ヲ橫タヘシ薪堆ヲ距ルヿ五十步斗リノ所ニ止リテ暗淡タル蔭ヲ透カシテ窺ヘバ少婦ハ既ニ死體ノゴトク動キモセズニ故夫ノ屍體ノ傍ニ偃シタルヲ見ル然メ頓テ一條ノ炬ヲ秉テ火ヲ積薪ニ近クレバ膏油ノ浸潤セル木片何ゾ時ヲ遷スベキ忽チ熒々タル猛火トナツテ燃エ揚リケル此悲慘ノ狀ヲ看ルニ忍ビズ心緒モ亂レテ狂顚シフォッグハ身ヲ跳セ既ニ薪堆ノ方ヘ走ラントスルヲ漸クニシテフランシース、クロマルチー嚮導ノ兩人ガ驚テ之ヲ抑留スルヲ排突シ又タモ驅出ダサント狂フ時景物俄ニ變換シ恐怖ノ聲囂然トシテ轟キワタリ衆庶狼狽靡然トシテ皆地上ニ轉伏スル際倏忽トシテ老酋長ハ未ダ死セザルニヤ少婦ヲ片腕ニ抱キ揚ゲツヽ廻旋渦ヲ作シテ立上ル黑烟中ヲ衝テ屹立シ薪堆ヲ降ル其狀悽愴トシテ實ニ妖怪ノ所爲トコソ見エタリケル此時來會ノ衆徒警固ノ護卒數頭ノ僧侶等思ヒ懸ケザル奇怪ニ遭遇シ皆驚怖シテ地上ニ俯シ更ニ頭ヲ擧テ見ントスル者ナカリケル

既ニ昏絕シタル少婦ヲサヘ輕ゲニ抱キ揚ゲラレタルヲ見テフォッグ氏クロマルチー氏モ共ニ愕然トシテ佇立シパルシ人ハ頭ヲ垂レテ惶然タリパスパルツーノ如キモ必ズ驚駭之ニ讓ラザルナリシナラン

蘇生ノ亡者ハ其儘走テフォッグクロマルチー等ノ傍ヘ來リ短聲ニテ謂テ云ク「走ラント濃烟ヲ冒シ潛ニ薪堆ヘ近キシハ是レ別人ナラズ乃チ夫ノパスパルツーナリ猶闇黑ニ物色モ判然タラザルニ乘ジテ少婦ヲ萬死ノ中ニ拯ヒ出ダセシモ亦是レ此ノパスパルツーナリ大膽ニモ亡者ノ技ヲ演ジテ幸ニ衆庶ヲ恐嚇シ鬼胎ノ洽キニ乘ジテ闇ヲ衝テ經過セシモ亦是レ此ノパスパルツーナリ四人ハ片時ヲ遷サズ深林ノ中ヘ馳セ入リ彼ノ象ニ鞭ヲ加ヘテ疾走スル時後ヨリ嗷々トシテ怒號シツヽ逐ヒ來リ忽然一個ノ彈丸ガ來テフォッグノ帽ヲ貫キシニ就テ察スレバ謀略既ニ暴露スルヤ明矣果シテ僧侶等稍鬼胎ヲ脫シテ燄々タル薪堆ヲ見レバ酋長ノ屍ハ依然トシテ玆ニアリ是ニ於テ初メテ奪掠ノアリシヲ曉リ奪誘ノ徒ノ林中ニ走ルヲ見護卒其踵ニ尾シ銃彈ヲ亂射シタレモ諸子ノ速クモ遁逃スルヲ以テ頓テ銃丸弓矢ノ達セザルノ所ニ距リタリ

第拾四回

此豪膽ノ奪掠モ首尾能ク功ヲ奏シケレバパスパルツーノ喜無極一時間程ヲ過ル迄猶欣々然トシテアリシガクロマルチーハ此豪邁無比ナル壯漢ノ手ヲ握リ頻リニ贊歎セシ折カラ主人ハ僕ニ向ヒ善哉ト此一語ノ氏ノ口ニ出ルハ他人千言萬語喋々トシテ之ヲ賞贊スルト均シカリキ僕ハ愈々遜謙シ其功績ヲ完ク主人ニ歸シ己レハ唯往時曾テ輕技師トナリ消防方ノ伍長タリシパスパルツーニシテ彼ノ嬋娟タル婦人ノ故良人ナル酋長ニ打扮チ積薪ノ傍ニ潛マントスル奇策ヲ案ジ出セシヿ耳ト敢テ誇ル色ナクゾ答ケル然シテ少婦ハ旅氈ニテ纏ハレシ儘彼ノ籃庭ヘ臥シ未ダ人心地モ付カズ居タリケルカヽル折カラ象ハ地理ヲ諳記セシパルシニ導カレツヽ猶薄暗キ

深林ノ間ヲ疾走シピラジノ寺ヲ出デショリ凡ソ一時間モ過ギケル頃ハ寞々タル廣野へ出デ七時頃歩ヲ駐メ休息シケルガ少婦ハ猶昏倒人事ヲ知ラザレバ嚮導ハ清水ヲ掬シ之ニ少ク火酒ヲ加味メ飲マシムレド麻醉ノ勢力猶未ダ散ゼズ

フランシース、クロマルチーハ麻ノ薫氣ノ人ヲ昏倒スル效力ノ度ヲ熟知シタレバ少婦ノ全快スベキハ更ニ危疑セネド深ク少婦ノ爲ニ憂慮セシハ其將來ノ危險ニテアリキ故ニ敢テ包ム所ナクフヲッグ氏ニ告ルニ倘シアウダ女ノ印土地方ニ留ランニハ再ビ必ズ彼ノ殘忍ナル土人ノ毒手ニ陷ルベシ且ツ此頑徒ハ印土全邦ニ散在スルニ因テ英國警察ノ嚴密ナルヲモ冒シテマドラスボンベーカルカッタ等ノ地ニ於ケルモ猶能ク少婦ヲ捕へ去ルベキ嫌アルヲ以テシ之ヲ證スルニ既ニ輓近類似ノ事件アリシ例ヲ擧ゲ氏ノ意見ニテハ少婦印土ヲ辭シ他邦ニ移ルニ非ザレバ安康ヲ得ル策ナシト語ルヲ聽テフヲッグハ其意見ニ應ジ熟考シテ兎ニ角籌策ヲ施スベシト對へケルモ猶悠然タリキ

十時ニ垂ントスル時嚮導アラハバッドノ停車場ニ着キシト告ゲニケル

半途ニメ中止シタル線路モ此ノ地ヨリ再ビ連續シ一晝夜ヲ出デズシテ列車カルカッタニ達スベシ故ニフヲッグ氏ハ翌十月二十五日正午香港へ向テ出帆ノ郵船へ乘込ムニ十分ノ時間ヲ贏ス筈ナリケリ停車場へ着キ先ヅ少婦ヲ一室へ休マセ置キフヲッグハパスパルツーニ衣服調度何クレトナク美ナリト思フ品々ヲ購求シ來レト命ジ且散金ヲ厭フコナキヲ以テスパスパルツー片時ヲ移サズ馳テ市中へ行キ衢街ヲ奔走シタリケル元來此アラハバッドハジョンナガンジュ兩流ノ聖江ノ會合スル畔ニ屹立スルヲ以テ神聖ノ府ト稱セラレ印土地方ニ於テ最モ衆庶ノ崇敬スル所トナリ全國ノ信徒陸續トシテ四方ヨリ來拜スト云且ラマヤナノ傳說スル所ニヨレバガンジュ河水ハ源ヲ天ニ發シブラマ教祖ノ惠ニ因テ降テ地上ニ流ルト云

パスパルツーハ買物セント思ヒ諸方ヲ奔走シツツ早クモ市中ヲ縱覽シタリ其重ナル物ヲ擧レバ昔日當府ノ干城タリシ宏壯タル砲臺モ今ハ變ジテ府鎭ノ獄舍トナリシ者ナリ昔ハ商賣繁昌物產富饒ナリシモ物換リ星移リテ今ハ商工共ニ衰廢セリ彼ノ龍動接政街（龍動ニテ最モ繁華ノ市街ナリ）ニ羅列セル衣服其外百般ノ物品ヲ鬻グ商店ノ如キ者アランカト搜索スレドモ更ニ見當ラズ漸ク一軒ノ猶太老商ガ萬種ノ物品ヲ請賣スル店ヲ發見シ茲へ入リテ毛布ノ衣服大ナル外套貂狐皮ノ裘ノ麗華ナルヲ見テ其價七拾五磅（三百七拾五圓）ナルヲモ不厭買取リテ意氣揚々トシテ停車場へ回リ來リケル此時アウダ女ハ曩ニピラジノ寺僧ガ之ニ當テシ麻痺ノ氣效モ漸々ニ消エ失セ少シク我ニ回リシ者ノ如ク稍ヤ眼ヲ見開クニ其明眸ノ溫柔ナル眞ニ婉然タリ曾テ能詩ノ王エカフヲットールガ其妃ノ美ヲ稱揚シテ贊歌セシアーメナガラモ斯クヤアラント想像セラレタリ其歌ニ云ク

光澤タル雲鬢新ニ梳ツテ頒レテ兩額ニ垂レ洋乎トシテ嬋妍タル花頰ヲ包ミ皎々タル玉顏ヲ擁ス兩鉤ノ翠眉ハ宛轉トシテ司戀神女カマノ弧ノ如ク絹カト恠シマル、長睫ノ間秋水カト疑ガハル、嬌眼ノ裏ニ明眸ノ炯然タルハ恰モヒマラヤ峯頭神湖ノ面へ輝々タル天光ノ映ズルガ如シ其燦然トメ一笑スルニ當テヤ瑳々タル皓齒ノ朱脣ノ間ニ見ハル、ハ半開ノ榴花ガ白露ヲ含ムニ髣髴タリ艷タル其耳櫻色タル其織手窈窕乎トシテ蓮蕚ノ新ニ水ヲ出ルカト疑ハル、其嬌足ニ至ル迄滿身ノ麗色玲瓏トシテ錫蘭ノ眞珠ゴルゴンドノ金剛珠ト豔光ヲ爭フベシ一握以テ環ラスベキ裊々タル柳腰ハ眞ニ是レ人生ノ至寶タル妙齡ガ今全盛ノ麗華

ヲ暢發シテ輕躁ヲ添ヘタル嬌容婀娜タル豐胸ヲシテ愈々麗艶ヲ益サシム其綾羅ノ輕裳ヲ穿チ立タル芳姿ハ彼ノ萬古不朽ノ肖像師ヴヒクバカルマノ靈妙ヲ凝ラシテ鑄造セル純銀ノ像カト怪シマル矣

假令藻詞ノ喋々トシテ之ヲ稱讃スルヿナキモボンデルコンドノ故酋長ノ寡婦アウダ女ハ是レ眞ニ伉儷ノ佳人ニシテ英語ヲ能クシ曩ニパルシ人ガ之ヲ稱シ教育ニ因テ豹變セリト云ヒシモ眞ニ過當ニ非ラザリケリ兎角スル内既ニ發車ノ期ニナリケルガフヲッグハ最前ヨリ待チ居タルパルシ人ヘ約束ノ賃銀ヲ與ヘ之レニ一錢ノ酒代スラ與ヘネバパスパルツーハ此嚮導ガ身命ヲ擲テ力ヲピラジノ事件ニ盡シ倘シ將來土人ガ彼レ其事ニ關セシヲ知ラバ彼レハ如何シテカ其讎怨ヲ免カルヽヲ得ン然レバ主人ハ是ヲ厚ク賞スベキニ却テ然ラザルヲ怪ミケリ爰ニ又「キウニ」ノ處置モツカズ斯ク巨額ヲ擲テ購ヒシ象ナレバ如何之ヲナスベキヤフヲッグハ既ニ決セル胸算アレバ嚮導ニ向ヒ「パルシヨ汝我ニ事ヘテ忠勤ヲ抽ンズ我既ニ汝ノ功勞ニ報イテ未ダ汝ノ忠節ニ報イズ汝若シ此象ニ意アラバ汝牽テ歸ルベシト云ヒケレバ嚮導ハ眼光輝々トシテ叫デ云「嗚呼官ハ奴ニ賜フニ一家産ヲ以テセントシ玉フ歟フヲッグ「辭スル勿レ猶汝ニ報ルニ足ラザラン此時パスパルツーハ叫デ云ク「善哉我ガ友コレヲ拜受セヨ『キウニ』ハ勇豪ノ獸ナリト云ヒツヽ該獸ノ傍ニ至リ砂糖一片ヲ出シ『キウニ』爰ヘ爰ヘト云ヒツヽ與フレバ象ハサモ喜シ氣ニ喉ヲ鳴ラシ鼻ヲ延シテパスパルツーノ腰ノ邊ヘ當テ漸々ト卷キ揚ゲテ己レノ頭ノ高サニ至レバパスパルツーハ毫モ懼レズ其頭ヲ撫ルニゾ象ハ靜ニ彼レヲ地上ニ卸シ鼻ヲ延シテ別ヲ惜シム者ニ似タレバ壯漢ハ是ヲ握テ強クゾ振リニケル

暫クアッテフヲッグ、クロマルチー、パスパルツー等ハ彼ノ少婦アウダヲ上座ニ就カシメ各々完美ナル客車ノ裏ヘ座ヲ占メケルニ列車ハ早ヤ十分ノ汽力ヲ張リベナレースヲサシテ疾走シタリケルニアラハバッドヨリ該地迄ハ行程僅カニ八十里ナルヲ以テ貳時ニシテ達スルヲ得タリ此間ニ少婦ハ「ハング」ノ昏醉氣漸ク消解シ始テ我ニ歸リ四邊ヲ見レバ是ハ如何ニ夢カ現カ幻カ身ハ歐風ノ衣服ヲ穿チ一面識モナキ旅客ト共ニ轍路ノ客車ノ内ニ在リケレバ其愕キハ如何斗リゾ同伴ノ諸士ハ先ヅ懇切ニ之ヲ介抱シ火酒少シ斗リヲ飲マセテ氣力ヲ鼓舞シ其后少將ハ始終ノ譚ヲ語リ聞カセ殊ニファイリス、フヲッグノ義氣危險ヲ顧ミズ自家ノ身命ヲ抛テ貴孃ヲ水火ノ中ニ拯ハンヿヲ望ミ終ニパスパルツーガ豪膽ナル謀略ニ因テ虎口ヲ脱セシムルニ至ル迄ノ美談ヲ稱贊シテ語リケレバフヲッグハ敢テ一語ヲ發シテ談話ノ腰ヲ折ラズパスパルツーハ赧然トシテ單ダ之ヲ説ニ當ラズト云ウテ益々謙遜シタリキアウダ女ハ聞クヨリ始テ知ル拯命ノ恩人其厚恩ヲ謝スルコト至テ懇切ナルモ至誠ハ却テ喋々タル言語ヨリ潸々タル涙ニ表レテ其眞情ノ通ズルヤ脣齒ノ間ニ出デズシテ却テ秋水ニ等シキ清眼ニコソヨリニケル此時想ヲ回ラシテ彼ノ「スッチ」ノ慘狀及ビ百般ノ危險ガ猶交モ印土地方ニ己レヲ待ツアルニ至リ悽然トシテ戰慄ニ耐ヘズフヲッグハ疾クモ夫レト推シケレバ貴孃ヲ香港ヘ誘ヒ行クベケレバ時過ギ物情收ル迄彼所ニ駐リ玉フベシトテ慰レバアウダ女ハ歡喜謝スル所ヲ知ラズ香港ハ支那沿海ノ一市ト雖モ英國ノ所轄ニメ殊ニ該地ニハ同種族ニテ當時屈指ノ豪商ト仰ルヽ遠縁ノ親族モ一人在留スルアレバトテ兎ニ角フヲッグノ厚意ニ依賴シタリケル

十二時半ニハ列車ハヤベナレースノ停車場ヘ着スブラマ教徒ノ口碑ニ傳ル所ニ據レバ此ノ所ハ往古カジノ舊蹟ニシテ彼ノ回教祖マホ

メツトノ墳墓ノ如ク浮テ天地ノ間ニ懸リシ所ナリシト雖𪜈今日訪ヒ來テ其現況ヲ見レバ蕭條タル地上ノ一市ニメ印土ノ雅典ノ稱アレド唯陋野タル煉化造リノ弊居ニ沿ウテ白堊ノ煉塀ノ繞ルアルノミニテ更ニ他ノ奇觀ナケレバ寂寞トシテ自ラ神ヲ傷マシムニ堪ヘタリフランシース、クロマルチー氏ガ來リテ戍スル所ハ此處ニシテ兵營ハ市外北數里ノ所ニアリ少將ハ玆ニ於テ座ヲ立テフヲツグニ向ヒ環地ノ大業ノ首尾能ク了局センヿヲ祈リ且ツ遠カラヌ内ニ再ビ漫遊ノ志ヲ起シ其時コソ今回ノ如キ異常行旅ヲナサズシテ心穩ニ縱覽ノ成ル樣冀望スルナド語リ畢テ離別ヲ告ケルニフヲツグハ單ダ之ニ答ルニ輕ク其指頭ヲ握リシノミアウダ女ノ如キハ虎口ヲ遁レシモクロマルチー氏ノ義勇ノ功績多ニ居ルヲ忘レマジト思ヘバ送別ノ詞モ自ラ洋溢タリパスパルツーハ少將ガ愛顧ノ切ナル情ヲ表シテ其手ヲ握レバ光榮身ニ溢レ又何レノ時カ遭遇シテ其懇親ニ報イ得ベキナド陳ブルヲ聞了テ終ニ少將ハ名殘惜クモ袂ヲ分テ辭シ去リケリ

列車ハベナレースヲ距リテガンヂュ河畔ノ州郡ヲ經過スルニ當リ天氣モ朗ニ晴レタレバビハールノ地方光景千態萬狀續々トシテ客車ノ硝窓ヘ徹入ス黃雲ノ漫々タルハ稻田ナリ嫩芽ノ離々タルハ麥圃ナリ綠樹頂キヲ包ムノ山去テ鰐魚其淵ニ潛ムノ廣澤來ル河畔ニ臨メバ兩三ノ象大群ノ「ゼビス」等牽キ來テ聖江ノ流ニ浴スル者アリ又秋氣深ク徹シテ冷氣既ニ人ノ肌ヲ侵スノ候タリト雖𪜈彼ノ印土ノ善男善女ハ更ニ之ヲ畏ル、色ナク皆熱膽教規ヲ奉ジ河流ノ央ニ淨浴ス蓋此ノ信者ハ佛教ヲ奉ズル徒トハ氷炭相容レザルノブラマ教徒ニシテ其信ズル所三個ノ神體ニ凝ル則チ第一ヲヴヒスニュト稱ス太陽ノ神タリ第二ヲシブアト稱ス土風水火ノ如キ造化ノ力ヲ司ル第三ガ是レブラマニシテ僧徒法官ノ主宰タリ然レ𪜈今日英國ノ風治ニ化シタル印土殊ニ彼ノ聖江ガンヂュノ積水ヲ亂打シ江心ニ浮沈スル鷗鳧、洲頭ニ甲ヲ乾ス龜鼈岸邊沙上ニ平臥スル熱心ノ信徒等ヲ驚カセテ汽船ノ往來スルヲ見ルアラバブラマシーブヴヒスニュ等ハ果シテ何ントカ云ントスベキ

窓外ノ風景ノ移リ換ルハ電ノ如ク今前ニアルカト思ヘバ忽焉トシテ後ヘニアリ又時トシテハ機關車ノ白汽ニ障ラレテ靉靆タル浮雲ノ中ニ模糊タリ車中ノ行客瞥見セシ各地ノ重モナルモノハ昔シビハールノ酋長ガ據リシチュナールノ古城薔薇水ノ製造ニ於テ著名ナルガズプールガンジュ河畔ニ葬リシコルンワリス侯ノ墳墓ボキサルノ城市、印土地方ニ於テ最モ阿片貿易ノ昌市タルパトナノ麗華、亭々タル噴烟管ブラマノ淸天ヲ汚シ錬鐵ノ百工ヲ勵ミ刀戟鋸鉋ノ萬器ヲ造テ英國マンチスタルビルミングハムノ諸府ト盛大ヲ爭フベキモングヒルノ宏壯等隨テ來レバ隨テ去リ恰モ華胥（夢國）ノ境裏ヲ疾走スルカト怪シマル兎角スル内日既ニ沒シテ四邊闇黑虎豹熊羆豺狼ノ徒ガ汽車ノ前ニ遁逃シテ吠ルアルノミ又ベンガル州ノ奇觀タルゴルゴンド、廢頹セシグールノ古蹟、昔時一箇ノ都府タリシムールスヘタベドフーグル等ノ城市モ見ルニ由ナシ殊ニシヤンデルナゴールノ如キハ佛國ノ所有地ナルヲ以テパスパルツーハ定メシ故國ノ旗ノ城頭ニ飜ルヲミレバ容色自ラ揚々然タリシナラン翌朝七時終ニカルカツタニ達ス然シテ香港ヘ航行ノ郵船ガ正午ノ出船タルヲ以テフヲツグノ猶餘暇ヲ有スルヿ五時間ナリキ

該紳士ノ道程豫算表ニ據レバ印土ノ首府ニ達スルハ正ニ是レ十月二十五日卽チ龍動ヲ發セシヨリ二十三日目ナルベキヲ以テ氏ハ定規ノ日限ニ達スト雖𪜈不幸ニメ龍動ヨリボンベイニ迄ノ間ニ餘セシ二日ノ餘暇ハ印土半島ヲ横過スル時

前回ニ說ク事故ニ因テ消耗シタリト雖ヒ想フニフヲッグハ是ヲ憾ミト爲サヾリシナラン

第拾五回

列車終ニ停車場內ヘ止リケレバパスパルツーハ先ヅ客車ヲ降リフヲッグモ續テ同伴ノ少婦アウダヲ扶ケテ客車ヲ降リテ想フニ印土地方ハ危險測ルベカラザレバ該地ヲ距レザルノ間ハ須臾モアウダ女ヲ離ルベカラズ直ニ香港行ノ郵船ヘ乗リ込ミ該船中ヘ少婦ヲ安樂ニ投宿セシムルコソ上策ナルベケレトテ既ニフヲッグハ停車場ヲ出デントスル時突然一個ノ警吏之ニ近ヅキテ云ク「貴客ハフアイリス、フヲッグ氏ニテ在ス歟」フヲッグ「如何ニモ拙者ニテ候」警吏此時パスパルツーヲ指メ問テ云「此人ハ貴客ノ從者ナル哉」フヲッグ「然リ」警「然ラバ兩君共拙者ト同伴シ玉ヘト云ヒシニフヲッグハ毫モ驚キ騷ゲル氣色ナシ是他ナラズ此警吏ハ法律ノ代人ナレバナリ英人ハ渾テ法律ヲ看ルヿ聖經ノ如ク然リパスパルツーハ彼ノ佛人風ノ氣象ニテ抗辯セント欲セシガ警吏棒ヲ取テ靜ニ之レヲ推スフヲッグ之ヲ看テ柔順ナレヨト眴セシフヲッグハ警吏ニ向ヒ此妙齡ノ婦人モ我々ト同道シテ不都合ナク候ヤ 警「敢テ異議ナシト云ヒツヽ警吏ハフヲッグ氏アウダ女パスパルツー等ヲ誘テ方言ニハルキガリ」トテ雙馬牽キナル四輪車ヘ乗ラシメテ發セシガ通路貳拾分斗リ此間皆默々片語ナシ車ハ先ヅ黑市ト稱スル狹隘ナル陋巷ヲ經蓋シ此邊ハ兩側ニ住メル土人渾テ身ニハ敝レタル襤褸ヲ纏ヒ汚穢見ルサヘ厭フベキ殆ンド無宿ノ奴輩ガ蟄寓スル所ノ矮屋ナリ之ヲ通リ過ギテ後歐人ノ居留地ニ入レバ衢街ノ兩側ニハ可憐ノ煉化屋檐ヲ列ネ椰子芭蕉蒼々トシテ是ガ蔭庇ヲナス時猶早朝ト雖ヒ既ニ金鞍ニ跨ルノ貴公子駿足ニ鞭ッテ馬車ヲ馳スルノ富客等往來如織此時馬車ハ一館ノ前ニ駐ル其造營華麗ナルニ非レヒ亦普通ノ居宅タラザル者ノ如シ警吏ハ囚人(眞ニ囚人ト云モ謬ヒズ)ヲ誘テ鐵ノ格子ヲ以テ固メシ窓アル室ヘ入レ置キ「君等ハ第八時半判事ヲバヂヤ氏ノ前ヘ出頭シ玉フベシト謂ヒツヽ戸ヲ閉シテ出デ行キケレバパスパルツーハ悵然トシテ云「我々ハ縲紲ノ身トナリシトアウダハフヲッグニ向ヒ悸ク胸ヲ鎭メ兼ネタレド自ラ心ヲ勵マシテ「妾故ニ君等ハ終ニ此法庭ニ出玉フナリ必ズ妾ヲ救ヒ玉ヒシ故ナラン何卒妾ヲ見棄テ去リ玉ヘト云ヘドフヲッグハ騷ガズ「是ニハ何カ事ノ行キ違ノアルナラン彼ノ『スッチ』ノ件ニテ法庭ニ召サルヽヿハ何條是アルベキ如何ニシテ彼ノ醜虜ガ大膽ニモ控訴シ得ベキゾ兎ニ角香港迄護送セヌ內ハ決シテ見棄マジトゾ答ヘケルガパスパルツーハ傍ヨリ然レド郵船ノ開帆ハ正午ニコソト忠告スレバ物ニ動ゼヌフヲッグ氏ハ單ダ正午前ニハ船ヘ乗込ミ居ルベシト答ヘケル其語氣最モ確然タレバパスパルツーモ不思議ニ午時前ニハ乗船疑ヒナシト云ヘド心中ハ安カラザリキ頓テ八時半ニナリケレバ警吏ハ戸ヲ啓キ入來リ諸子ヲ隣室ニ誘フ是則チ法庭ニシテ歐人土人等相混ジテ既ニ白洲ヘ羅列セリ

フヲッグ氏アウダ女及パスパルツー等ハ法官ノ爲ニ設ケシ高座ノ前ナル腰掛ヘ着座ス此法官トハ則チ彼ノ肥滿セシ判事ヲバヂヤニシテ一名ノ書記ヲ從ヘ頓テ法庭ヘ入リ來リ傍ノ釘ニ掛ケタル鬘ヲ卸シテ手早クモ打チ被リテ「第一番ノ訟事ハナド云ヒツヽ手ヲ頭ニ擧ゲテ云ク「吒ッ是ハ我ガ鬘ニアラザリシ書記是ヲ見テ云ク「果シテ夫レハ拙者ノ鬘ニテ候 判「嗚呼何トテ判事ガ書記ノ鬘ヲ被リナガラ善キ裁判ノ成ルベキヤライストルボッフ君ト云ヒツヽ爰ニテ互ニ鬘ヲ交換ス斯ル時カラパスパルツーハ白洲ノ時辰盤ノ鍼ノ進ムヲ見ルニ付テモ裁判開端ノ遲々タルヲ憤リ胸中沸クガ如クニ覺エケリ

座定テ後チ判事ヲバヂヤ「第一番ノ訟事ハト

云ヘバ書記「ファイリス、フヲッグト呼ビ揚グルフヲッグ聲ニ應ジテ答ヘテ云「拙者ニテ候ト書記又パスパルツーヲ呼ブパスパルツー聲ニ應ジテ「爰ニアリト答フ判事云ク「善シ既ニ二日以前ヨリ足下等ハ控訴ヲ受ケボンベーヨリ來着ノ汽車ゴトニ警吏ヲシテ捜索セシメタリパスパルツーハ忍ビ兼ネ「何ノ罪アッテカ我々ヲ拘引シ玉ヒシゾ判「漸次ニ足下等之ヲ知ルベシフヲッグ「拙者ハ英國ノ市民ニテ自ラ權利ヲ有スルヿナルニ判「足下ニ對シ不當ノ取扱ヒヲセシト云ヒ玉フ歟　フヲッグ「否決テ然ルニ非ズ判「可シ控訴人ヲ呼ビ入レヨト云フ命ニ應ジテ警吏印土僧侶三名ヲ白洲ノ内ヘ誘ヒ來ル是ヲ見テパスパルツーハ「是コソ少婦アウダ君ヲ焚殺サントセシ毒僧等ニ違ヒナシト囁キケル僧侶等ハ進テ判事ノ前ニ立チ書記高聲ニ「ファイリス、フヲッグ幷ニ其從者ニ對シ國禁ヲ犯シブラマ教徒ノ聖境ヘ闖入シ狼藉ニ及ビシ犯罪控訴書ヲ讀ミ上ル此時判事フヲッグニ向ヒ「足下ハ聞キ玉ヒシ歟　フヲッグ「然リト云ッヽ時計ヲ見テ「拙者ハ敢テ是ヲ包藏セズト聞イテ判事ハ「然ラバ足下白狀セラルヽヤ　フヲッグ「然リ拙者モ白狀スルカラハ彼ノ三名ノ僧侶達モ亦ヒラジノ寺院ニ於テ執行セントセシ件ヲ同ジク吐露アランヿヲ待候也ト云ヒケレバ僧侶達ハ少シモ了解セヌ者ノ如ク互ニ顏見合セテアリシガパスパルツーハ忍ビ兼ネ怫然トシテ聲デ云ク「彼奴ハ彼ノピラジノ寺院ノ堂前ニテ既ニ少婦ヲ焚殺サントスル所ナリシト聞テ僧侶ハ益々愕然判事モ驚キ「夫ハ又如何ナル少婦ヲゾボンベー府内モ憚カラズ誰ヲ焚カントセシナル哉爰ニ於テパスパルツーハ一圓解セズボンベート云ヒ玉フカ判「固ヨリピラジノ寺院ニハ更ニ關スルヿナシ是レボンベー府内マレバルヒールノ堂内ニ於テノ犯罪ナリ書記傍ヨリ犯罪ノ證據タル狼藉人ノ靴ナリト云ヒツヽ一足ノ靴ヲ取出シテ机ノ上ニ置ケバパスパルツーハ思ヒモ寄ラズ我ガ品ヲ見ルヨリ愕然思ハズ「是ハ我靴ナリト發言シ加之主從ノ惶惑自ラ色ニ顯レタレバ最早明白ナリト判事ハ洞察シタリケリフヲッグ主從ハ彼ノボンベーノ事件ハ既ニ忘レ果テ居リシガ今日カルカッタ裁判所ヘ呼ビ出ダサレシモ則チ該件ノ爲ナリキ警吏フヒキスハ果シテ英國政府ガ該件ニ類スル犯罪ヲ罰スル頗ル嚴ナルヲ知リ此事件ヲ奇貨トセバ己レノ志望ヲ遂グルニ屈竟ノ機會ト案ジ付キケレバ己ノ發足ヲ十二時間延引シ其間ニマレバルヒールノ僧侶ノ許ヘ行キ之ヲ挑撥スルニ巨額ノ收贖金ヲ占ルノ好機ナルヲ以テシ相伴テ次ノ發車ニテ犯罪人追尾トシテ發足セシガフヲッグ主從ハ彼ノ少婦ヲ虎口ニ拯フガ爲メ道ニテ時間ヲ消耗セシヲ以テ却テ警吏等先ンジテカルカッタヘ着シタリケル既ニ電信ニテ巨細該府ノ法官ヘ報知シ置キケレバ必ズフヲッグ主從ハ下車スルト等シク警吏ノ手ニ陷シヿナラント思テ來リシニ未ダ彼等ハ到着セズト聞キシフヒキスノ本意ナサハ筆ニ述ブルモ難カリキ其追捕セントシテ尾シ來リシ賊ハ何處カ沿道ノ停車場ニテ車ヲ降リ蚤クモ北部ノ邊陲ヘ逃竄セシカト想ヘバフヒキスハ二十四時ノ其間憂悶焦ルガ如ク狂氣ノ如クニナッテ停車場ニ見張リ居シガ今朝彼ノ賊ノ主從ガ仔細ハ解セネド一名ノ少婦ヲ携ヘ車ヲ降リ來ルヲ見ルヨリ其喜實ニ涯リナカリケル然シテ忽チ一名ノ警吏ヲ送リテ之ヲ抑留シタレバ終ニ今回フヲッグ氏パスパルツー並ニアウダ女等ガ判事ヲバデヤノ庭前ヘ呼出サルヽ事トハナリヌ然シテパスパルツーハ目前ニ逼ル難儀ニ心ノ惑亂セズンバ白洲ノ一隅ニ彼ノ警吏フヒキスガ審判ノ模樣ヲ手ニ汗シテ傍聽シ居ルヲ發見セシナランガカルカッタニ於ルモ猶ボンベースエズニ於ルガ如ク未ダ彼ノ逮捕指令ハ警吏ノ手許ヘ入ラザリキ判事ハパスパルツーガ思ハズ口外セシ一言ヲ

證據トシ犯罪人ニ向ヒ一犯罪ハ愈〻白狀ニ及ビ玉フカト問ヘバフヲッグ更ニ動ズル色ナク「如何ニモ陳ズル處ナク候ト答ヘケレバ判事ハ爰ニ於テ宣告ヲ申シ渡ス

英國ノ憲法ニ據レバ印土地方黎民ノ宗教ハ其派ノ何タルヲ論ゼズ皆等シク之レヲ嚴肅ニ保護スルノ主意タリ然ルニ過ル十月二十日パスパルツー事猥リニ聖境ヲ蔑視シボンベー府下佛院ノ登上ヲ汚シ狼藉ニ及ビシ旨白狀ニ及ビ罪狀明白ニ付禁獄十五日罰金三百磅(千五百圓)申付ル三百磅トハトパスパルツーハ只罰金ノ高ニノミ打愕キ思ハズ聲ヲ發シケレバ見坐ハ訛タル聲ヲ張リ揚ゲテ「默止リマセートヽ制ス判事又フヲッグノ宣告ヲ取上ゲ

ファイリス、フヲッグ事其從者ノ犯罪ニ關シ是レガ連累タラザル條辨明スルニ足ル證據コレナク殊ニ主人タル者ハ己レノ僱役スル從者ノ擧動ニ關メ渾テ責任ヲ免レザルニ依リ從ヲ以テ禁獄八日罰金百五十磅(七百五十圓)申付ルト讀ミ揚ゲ終リ書記一次ノ事項ヲ讀ミ揚グベシト云フヲ聞彼ノ一隅ニ潛ミシフヒキスノ滿悅涯リナシ實ニフヲッグガ八日間カルカツタヘ抑留サル、上カラハ逮捕令ノ到着スルニハ猶十分餘裕アリパスパルツーハ此處刑ガ主人ヲシテ貳萬磅(拾萬圓)ノ賭ニ負ケシメ終ニ其破産ヲ招キシモ皆己レガ愚カニモ彼ノ忌マハシキ佛寺ヘ入シヨリ起リシ珍事ト思ヘバ己ノ罪ノ深キヲ憾ミ益〻脾ヲ噛ミテ茫然タリフヲッグハ神色更ニ變セズ恰モ頃刻ノ宣告ハ己レノ身上ニ關セザル者ノ如ク眉サヘ更ニ顰ムルコナク書記將ニ他ノ事項ヲ讀ミ揚ントスル際ニ至リ靜カニ座ヲ立チ「拙者ハ保釋金ヲ納ムベシトイヘバ判事ハ之レニ答ヘテ云「夫ハ足下ノ權内ニ在リトフヒキスハ不思戰慄セシガ又フヲッグ主從ノ他國人タルノ廉ヲ以テ兩人ヘ課スル各〻千磅(五千圓)宛ト云フ巨額ヲ以テスル旨ナル判事ノ審判ヲ聞ニ及ンデ稍ク安堵シタリケル實ニ是レフヲッグ氏己レノ處刑ヲ甘受スルニ非ズンバ貳千磅ノ散財トナレバナリ彼ノ紳士ハイザ上納致スベシト云ヒツヽパスパルツーノ持チ居リシ囊中ヨリ銀行紙幣一ト束ネヲ取出シ書記ノ机上ニ置ケバ判事ハ是レヲ見テ「此金額ハ當廳ヘ預リ置キ足下禁獄滿期ノ節之レヲ返附スベシ夫迄ノ間足下等ハ保釋條ニ因リ進退自由ナリト申渡ヲ聞フヲッグハ僕ニ向ヒ「來ルベシト云ヘバパスパルツー憤懣未ダ癒エガタク「我ガ靴ダケモセメテ返却スベシト叫ベバ爰ニ於テ見坐靴ヲ返附シケル是ヲ請取ツヽ「片々千磅ヅツトハ差シモ貴キ靴カナ猶其上ニ足ニ障リテ窮窟ナリト囁キケリフヲッグハ少婦アウダノ手ヲ曳テ悠然トシテ立出ヅレバパスパルツーハ慚愧ニ堪ヘズ悚然トシテ其踵ニ尾シテ去リニケルフヒキスハ彼ノ賊ガ到底貳千磅(一萬圓)ニ戀々シテ必ズ八日ノ禁獄ヲ甘受スベシト想ヒケレバ直チニ其跡ヲ慕ウテ走リケルニフヲッグハ一輛ノ馬車ヲ傭ヒアウダ女パスパルツー等ト倶ニ之ニ打乘リテ發スルニゾフヒキスハ猶モ車ノ跡ニ尾シ走リ行キ頓テ車ハ海岸ニ達シ茲ニテ馬ヲ駐メケル半里程港ノ彼方ニ「ラングウン」號錨ヲ卸シ前檣ノ絶頂ニ出帆ノ號旗ヲ飜シテゾアリケルガ十一時ノ鐘聲ノ響ク時フヲッグハ猶一時間ノ餘裕ヲ有シテ車ヲ降リアウダ女及ビ僕ヲ伴ヒ艀舟ニ載リ岸ヲ離ル、ヲ見テフヒキスハ獨リ地ヲ蹴テ足摺シツヽ佇望スルノ外ナクシテ云ク「嗚呼奸賊メ玆地ヲ去リヲルカ貳千磅ヲモ抛チテ顧ミザルトハ浪費盜人ノ如キトノ諺實ニ當レリ可矣假令世界ノ端迄モ我必ズ追尾セン左ハ去ナガラ彼奴ノ調子デ行ナラバ盜シ金モ頓テ剩サヌ程ニナリヌベシナド獨リ警吏ハ推想シテ悶エ居タリフヲッグハ果シテ龍動ヲ發セシヨリ以來隨身ノ旅費褒賞金象購求代價保釋金罰金等ノ支拂トシテ既ニ貳萬五千圓ノ巨額ヲ道中ニ散ジ

来リケレバ警吏ガ己レノ渇望スル部割高ノ減殺スルヲ憂フルモ亦理リナリキ

第拾六回

「ラングウン」號ハ暗車鐵製ニシテ噸數都テ千七百七十噸馬力四百ヲ兼ネタル一郵船ニシテ彼°阿°°會社ニ屬シ支那日本ノ沿海ヲ通航ス其速力ノ如キハ「モンゴリヤ」號ト頡頏スト雖𪜈船中客室ノ結構ニ至テハ遙ニ劣ルヿ數等ナリ爰ニ於テアウダ女ノ船中ヘ落チ付シモフヲッグガ曾テ豫メ期望セシ程ノ榮耀ヲ占ルニ至ラズ尤モ航海僅カ三千五百里程ナレバ十一二日ヲ出デズシテ經過スベク殊ニ少婦ハ敢テ虚奢ヲ要シ難事ヲ需ムルノ客ナラザリキ此航海ノ初日ヨリアウダハ漸ニフヲッグト相識深クナリ行クニゾ何角ニ付テ感恩ノ深キヲ表シケル夫ノ沈毅ナル紳士ハ中心ハ如何ヤ知レザレド其外貌ニ就テ見レバ言語動止ノ間ニモ毫モ感情ヲ起セシ風ナク唯澹然トシテ之ヲ聽キ只管少婦ニ不自由ノナキヤウニ注意頗ル懇切ナリ又時々必ズ來テ己レハ談話ヲ爲サヾルモ其語ル所ヲ聽抔シテ之ヲ慰問シ且ツ此少婦ニ對スルニ禮讓鄭重ヲ守ルト雖𪜈自ラ愛想ヲ含ミ其行跡始終換ハラザルハ恰モ妙手ノ製セシ自動ノ木偶カト怪シマルヽ斗リナレバアウダモ其深意ヲ解スル能ハザリシガパスパルツーハ蚤クモ主人ハ奇僻ノ好事家タルヲ告ゲ且ツ如何ナル賭ニヨツテ此紳士ハ世界ヲ環囘スルニ至ル等ヲ語リケレバアウダハ聞テ微笑シアリシガ到底氏ハ少婦ノ爲ニハ再生ノ恩人ナレバ外貌ニ因テ其恩義ヲ薄ンズルヿアランヤアウダハ又曩ニパルシ人ノ嚮導ガ説キシ如ク身ノ薄命ヲ譚ルニ果テ該女ハ夫ノ印土地方ニ冠タル種族ニ屬セリパルシ商ノ内ニハ印土地方ニ於テ木棉ノ商業ニ從事シ陶倚ノ富豪ヲ占メシ者モ夥多ナル其中ニテソルジェムス、シーブホイトテ英廷ヨリ既ニ貴族ノ稱號ヲ賜リテ曾テボンベー府ニ住居セシ富客ハ即チアウダ女ノ親族ニテ今回女ガ香港ヘ行テ投ゼント冀フ所ノ人モ亦是レ此ノジーブホイ氏ノ從弟ニシテジェートト稱シ頗ル人ノ愛敬ヲ享ク然レ𪜈同人ノ許ニ投ジテ救助安寧ヲ得ル哉否哉ハ測ラレズトテ憂慮ノ色アリケレバフヲッグハ只管ニ之ヲ慰メ更ニ神ヲ勞スルヿナク運ヲ天ニ任セ置カバ必ズ自然ニ惡クハナルマジト云フニゾ少婦ハ猶モ其深意ヲ尋ネント雙眸ヲ凝シテフヲッグノ眸中ヲ視ツムレド如何セン彼ノヒマラヤ峯頭ノ神湖ヲ欺ク淨眼アルモ鐵心腸ノフヲッグハ常ニ變ラヌ沈毅ノ謹狀此清湖中ヘ投ゼントスル態ナドハ露ホドモ面ニ顯レザリケル所ナリ彼ノ海客ガ呼デベンガルノ連抱灣ト稱スル漫々タル廣灣ヲ過ルノ間ハ天氣風向モ便ニシテ「ラングウン」號ノ駛航モ殊ニ快爽ナリケレバ早ヤ彼ノ群島中ノ魁タルアングマン島モ遙ニ水天相連ルノ邊ニ見ルヽハ是其島中ニ屹立シ巍々トシテ二千四百尺ノ高ニ聳ユル風景畫ノ如キ鞍形嶽ノアルアツテ海客ノ遙ニ標的トスル所ナリ漸ク近クニ及ンデ島岸ニ沿ウテ駛行スルト雖𪜈島中ノ蠻虜「パプーア」等ハ隱シテ見レズ此蠻虜ハ社會ノ最下等ニ列スベシト雖𪜈世之ヲ目シテ人相食ムノ醜類トスルハ蓋シ誤レリ椰子、檳榔、肉荳蔲樹、竹林、芒叢ノ類鬱蒼トシテ諸島ノ前面ヲ蔽ヒ峨々タル山嶺其後ニ併立ス其水涯ニハ無數ノ水鳥群リ來リ群リ去テ波際ニ漾フ此群島ノ光景隨テ遷レバ隨テ換リ奇絶愛スベシト雖𪜈去往頗ル迅ク「ラングウン」號ハ早クモ支那海ノ海門タルマラカノ海峽ヘ向テ進行セリ此時ニ當テ心ニモアラヌ環地ノ長旅ヲナサントスル警吏フヒキスハ果シテ何事ヲカ爲セシヤヲ尋ヌルニカルカツタヲ發スルニ際シ先ヅ一言ヲ遺シテ逮捕令到着スルニ於テハ直ニ香港ヘ郵送スベキヲ以テシ漸クニシテパスパルツーノ見ル所トナラザル樣心ヲ配テ

「ラングウン」號ヘ來搭シケルガ出遭フ時ハ如何ナル事故ニ因テ此船中ニ在ルカヲ辯解セザルヲ得ズ斯テハ面倒ナリ郵船着港ノ其時迄ハ深ク潛ンデ居ラント決セシガ又再ビ彼ノ僕ト交際ヲ結バザルヲ得ザル機會ノ生ジケル夫ハ如何ト尋ヌルニ世界廣シト雖𪜈該件ニ付警吏ガ只管望ヲ屬セシハ只香港ノ一市ノミナリ新嘉峯アリト雖𪜈該港ヘハ汽船ノ滯留甚ダ短キヲ以テ事ヲ擧ルニ遑ナシ然レバ賊ヲ捕フルモ又之ヲ逸シテ終ニ再ビ獲ベカラザランニ迨ルモ唯香港ニアリ果シテ該港ハ沿道ニアル英國所領ノ絶境ニシテ一タビ爰ヲ踰レバフヲッグハ支那日本亞墨利加地方ニ逸シ殆ンド安全ノ潛匿地ニ投ズルナラン香港ニ至テ彼ノ逮捕指令ノ手ニ入ルニ於テ、ハフヒキスハフヲッグヲ逮捕シテ之ヲ該港警察官ノ手ニ引キ渡シナバ更ニ毫碍ノアルナシト雖𪜈香港ヲ超過スルニ當テハ一片ノ逮捕指令書ヲ以テ足ルニ非ラズ宜シク其國政府ニ乞ウテ捕獲セザルヲ得ズ其際自ラ百船ノ障碍アッテ遲緩ヲ生ジ賊ハ此機ニ投ジ遁逃シ終ニ逸竄スベキノ嫌アリ是故ニ若シ香港ニ於テ志ヲ得ズンバ又他方ニ至テ功ヲ奏センヿ殆ンド難キガ如シ爰ニ於テカフヒキスハ獨リ己ノ部屋ニ在ツテ沈吟シツヽ熟々思フヤウ彼ノ逮捕令ガ香港ヘ着シヲラバ可シ彼奴ヲ直ニ捕フベシ萬一指令ノ未ダ來ラザルニ於テハ何トカ策ヲ旋ラシテ彼奴ノ發港ヲ遲緩セシメザルベカラズ我レ既ニボンベーニ於テ失敗シカルカッタニ於テ亦志ヲ得ズ萬一再ビ香港ニ於テ之ヲ逸サバ我ガ名譽ヲ墜スベシ假令如何程難キヿナリ𪜈是非共功ヲ奏セズシテ止ムベキヤ倘シ彼ノ可憎フヲッグ奴ノ發程ヲ遲緩セシメザルヲ得ヌ場合ニ迨ラバ果シテ如何ナル策ヲカ施スベキト沈思苦計終ニ百事ヲ打チ明ケテ彼ノパスパルツーニ語リナバ素ヨリ連累トモ思ヘネバ己レノ隨從スル主人ノ素性ヲ知リ厄ノ其身ニ累ランヿヲ恐レ必ズ我ニ儻スベシトテ既ニ決心ハセシモノヽパスパルツーガ若シ一言タリ𪜈主人ニ斯クト告ルアラバ事業終ニ就ルベカラズサレバ最モ冒險ノ危策ナリ他ニ施スベキノ策ナキニ至ルニ非ンバ是ヲ用ニベキニアラズ爰ニ於テ警吏ノ心緒麻ノ如カリシモ忽チ彼ノアウダ女ガフヲッグト相伴ウテ「ラングウン」號ニ在ルヲ思ヒ出デ考ルニ抑モ彼ノ少婦ハ何者タルベキヤ如何ナル機會ニ依テフヲッグノ侶伴トハナリシナラン其相會合セシハボンベートカルカッタトノ間ニアルベキハ素ヨリ明了ナレド何レノ邊ナリシヤ知ルニ由ナシフヒキスハ曾テカルカッタ裁判所ノ白洲ニ於テアウダ女ノ伉儷ナルヲ瞥見シタリケレバ若シヤフヲッグハ故ラニ此美婦人ト會センガ爲ニ印土地方ヲ經過セシナラズヤナド警吏ハ頻ニ惑ヒシニ又思フヤウ若シモ何トカシテ少婦ヲ奪ヒ來リシニハアラザルカ寔ニ是レ然ラント終ニ此臆測ハフヒキスノ腦裏ニ凝結シタリケレバ可シ彼ノ少婦ハ有夫ノ身ニセヨ否ナルニセヨ奪ヒ來リシモノナルカラハ此機會ヲ僥倖トシ香港ニ於テ彼ノ誘略兒ガ今度ハ金力ヲ以テ遁ルベカラザル困ニ遭ハセンハ蓋シ難キニ非ズ然レ𪜈「ラングウン」ノ香港ニ着スルヲ俟テ事ヲ擧ナバフヲッグハ復タ例ノ如ク甲船ヨリ乙船ヘ飛ビ移リ事未ダ着手ニ至ラズシテ彼既ニ走リ去テ遠ニアラバ臍ヲ噬ム𪜈及ブベケン哉故ニ先ヅ豫メ英領府鎭ノ警察官ヘ該件ヲ報知シ次ニ「ラングウン」號ノ着港ヲ乘客ノ上陸セザル前ニ當テ知ラシムルニアリ然ルニ郵船ハ新嘉峯ヘ寄港シ且該地ト支那沿海諸港トハ電信線ノ通ズルアレバ之レヲ報知スルヿ固ヨリ易中ノ易事ナリ然レ𪜈其確報ヲ得テ後靜ニ籌策ヲ畫セント思ヘバフヒキスハ終ニパスパルツーニ就テ之レヲ訊問セント心ヲ定メ今日迄モ暗ニ踵ニ尾シテ來リシガ今ハ断然身ヲ彰ハサントコソ決シタリ寔ニ是レ今日ハ十月三十一日ニシテ翌日ハ既ニ

「ラングウン」號新嘉峯へ寄港スル日割ニ迫リタレバ最早片時モ移スベカラズ爰ニ於テフヒキスハパスパルツーニ先ンジテ大ニ愕キタル態ヲナシテ之レニ近ヅカバヤトテ己レノ子舍ヲ出デ甲板上ヘ登リパスパルツーガ此時舳頭ノ邊ヲ徘徊シアルヲ見テ遽ク之レニ近傍リテ「コハ憶ヒガケナキ足下ガ此「ラングワン」上ニ在ストハ」ト云ヒ掛ケラレテ看レバ「モンゴリヤ」ニテ同船セシフヒキスナレバパスパルツーハ愕キ怪ミ「ボンベーヘ駐リ玉フ筈ナリトテ該地ニ於テ君ニ別レシニ圖ラザリキ又再ビ香港行ノ路ニ於テ君ト再會致サントハ然ラバ君モ同ク世界ヲ一周シ玉フナラズヤ」「否ナ否ナ小可ハ香港ヘ留ル積リ假令其先キヘ進行ストモ四五日ハ必ズ該港ヘ滯在スベシ」ト答フルニパスパルツーハ疑ヒ未ダ解ケヤラズ「然レドカルカツタ港解纜已來今日迄君ト相會セザリシハ頗ル怪シムベシ」「少シク船暈ノ氣味ナリシガ神氣爽カナラザリシニ因テ終始子舍ノ内ヘ安臥シ居リタルナリベンガル灣ハ小可ノ爲ニハ結句印土洋ヨリ難儀ニ覺ユルナリ時ニ足下ノ御主人フヲツグ君ハ無異ナル哉」パス「至テ健全儼整ナル「相替ラズ氏ノ道程豫算表ト一般ナリ未ダ一日タリモ遲緩ナシ嗚呼君ハ未ダ之ヲ知リ玉ハネド今デハ我々同行ニハ妙齡ノ一婦人壹名アリト云ヘバフヒキスハ更ニ其言ヲ解セヌ者ノ狀ヲ粧ヒ「妙齡ノ一婦人トナ」ト物問ヒ顏ニ云ヘバパスパルツーハ彼ノボンベーノ寺院ノ事件ヨリ象ヲ貳千磅(壹萬圓)ニテ購ヒシ事「スッチ」ノ慘酷アウダ女ノ誘奪カルカツタ裁判所ノ處刑保釋金ヲ納テ漸ク自由トナリシ事迄モ逐一譚リ聞カセケルガフヒキスハカルカツタノ事件ハ通曉シタレモ故ラニ皆更ニ知ラザリシ風ヲナシ聞事每ニ意ヲ注ギ居ルニゾパスパルツーハ愈々興ニ乘ジ有リシ事共打語リケレバフヒキスハ又問フヤウ「到底足下ノ主君ハ夫ノ少婦ヲ歐羅巴ヘ伴ヒ回リ玉フ目算ナリヤ」パス「否トヨフヒキス君否ナリ我々單ダ之ヲ香港迄護送シ該地ノ豪商ニテ婦人ノ親族タル某氏ノ許ヘ引渡スバカリ」ト聞テフヒキスハ大ニ己ノ期セシ所ト違ヒ失望セシモ更ニ色ニ出サズ「コハ幸ナリト口裏ニ飾テ「パスパルツー君『ジン』酒ヲ一杯傾ケ玉ハズ哉」ト云ヘバパスパルツーハ喜ビテ「爭デカ辭シ申スベキフヒキス君『ラングウン』號ニテ圖ラズモ再會セシ祝ニハ一杯傾クルモ猶過ギタリトスベケン乎」

第拾七回

是ヨリ以降ハ兩人屢々會合シケレド警吏ハ深ク謹ンデ敢テ輕々シクパスパルツーニ就テ探偵ヲ試ミズ又フヲツグ氏ヲ瞥見セシモ兩三度ニ過ギズ氏ハアウダ女ノ傍ニ侍シテ之ヲ慰ムルニ非レバ必ズ例ノ如ク骨牌ノ戯ニ從事スルヲ以テ「ラングウン」號ノ會堂ニ留ルヲ好ンデ又外ヘ出デズパスパルツーハ又如何ナル不思議ナ廻リ合セニテコソ重テフヒキスガ主人ト同ジ道ニ登リシヤト不審モ更ニ霽レヤラズ彼ノ夫丈ハ素ヨリ信切ナル佳士ナレド始テスエズ港ニテ相會セシガ爾來「モンゴリヤ」號ヘ同船スル時彼レノ言フ所ニテハボンベーヘ留ル筈ナリシニ今日再ビ香港行ノ郵船上ニテ相見ントハ恰モフヲツグ氏ノ距跡ヲ追テ來ルガ如シ豈其趣意ヲ怪シマサルベケンヤ抑モフヒキスハ何者タランカ知ラザレド香港ヘ着セバ恐ク復タ彼奴ハ我等ト同船シテ該港ヲ出津セン「鏡ニ懸テ見ルガ如シ若シ誰カ之ヲ否ナリト云者アラバ我愛護ノ花草履ヲ抛テ賭トセンパスパルツーハ假令百年ノ長歳月思案ニ沈ミテ考フルモ爭デフヒキスハ如何ナル任ヲ帶ブル乎ヲ察シ得ベキ又焉ンゾフヲツグ氏ガ賊ト認メテ地球ノ周圍ヲ尾踵セラル丶ナリト憶フベケンヤ然レドモ人ハ皆各般ノ事項ニ一源由ヲ想像スルモノナレバパスパルツーノ如キモ忽焉ト

シテ腦裏ニ明ヲ覺エフヒキスノ離レズ附キ隨フハ必ズ彼ノ改進會ノ同僚社員ニ密旨ヲ授カリフヲッグ氏ヲ追尾シテ氏ハ正シク約定通リノ道筋ヲ經過シ地球周回ノ長旅ヲ遂ルヤ否ヤヲ竊ニ監察スル者ナラント臆測セシハ中ラズト雖モ遠カラズ

パスパルツーハ己レノ鑒定的中ナルベシト思ヘバ獨リ得色アッテ獨言スラク是ハ明白疑ヒナシ必ズ夫ノ紳士等ガ我々ノ踵ニ尾セシムル間者ナラン去トハ卑劣ノ擧動カナフヲッグ君ハ廉潔信義ノ君子ナルヲ間者ヲ放ッテ竊ニ監察セシムルトハ何ノ事ゾ嗚呼見ヨ夫ノ紳士等必ズ多クノ金ヲ失ハント爰ニ於テパスパルツーハ此疑問ノ解ヲ得シヲ喜ビ居シガ若シ之ヲ主人ニ告ゲナバ主人ハ必ズ斯ク迄敵手ノ諸士ガ狐疑スルノ深キヲ憤ルナルベシト想ヘバ決シテ口外スマジト決シ唯機會アラバ暗ニフヒキスヲ探グリ吳ンズモノト待チカケタリ十月三十日水曜日午後ニハ既ニ「ラングウン」ハ彼ノ須磨多羅島ト摩剌加半島一帶ノ水ヲ隔テ相望ム摩剌加ノ海峽ヲ過ギルニゾ峨々タル岩礁蒼々タル島嶼蒼波ノ間ニ併立シ隨テ來レバ隨テ去リ兩岸ノ連峯亦其間ニ出沒シ風光眞ニ畫ノ如シ翌朝四時「ラングウン」號ハ定規時限ヨリ超進スルヿ半日ニシテ既ニ新嘉峯ヘ寄港シ爰ニ於テ復タ石炭ヲ積入ルフヲッグハ今回ノ超進ヲ例ノ所得ノ桁ヘ記載シアウダ女ガ兩三時陸上ヲ徘徊シタシト云フ望ニ應ジ之ヲ伴ウテ上陸シタリケルガフヒキスハ惣テフヲッグノ擧動ヲ狐疑スル折ナレバ私カニ尾シ行クニゾパスパルツーハ之ヲ見テ陰ニ其劣擧ヲ嘲リツヽ常ノ如ク買物ニト出掛ケケル

新嘉峯ハ土地太ダ廣濶ナルニ非ズ山嶽ノ圍ムナキヲ以テ景色太ダ壯宏タルニ非ズト雖モ閑雅ニシテ自ヲ其中ニ風致アリ之ヲ比スレバ廣苑中ヘ衢街ヲ區畫セシト一般ナリ頓テフヲッグアウダ等ハ彼ノ新荷蘭地方ヨリ輸入シ來レル駿逸ノ良馬ニ牽カシムル所ノ一華車ニ駕シ駸々トシテ樹林ノ間ヲ過ルニ淋漓タル綠葉ノ道ヲ蔽フハ棕梠樹ナリ馥郁タル淸香ノ風ニ薫ズルハ丁子花ナリ椒樹家ヲ繞ルハ是レ歐洲ノ田舍ニテ荊枳ノ類ヲ植テ生垣トナスニ代ルナリ椰樹蘇鐵等ノ暢茂スルハ熱帶地方ノ風致ヲ形シ肉荳蔻樹ハ綠葉漆ノ如ク光澤淸涼タリ林中輕跳醜面ノ猿子遁走スル者若干群此林中又虎ナキヲ保シ難シ人或ハ彈丸黑子ノ島裏ニシテ未ダ此猛獸ヲ殲スニ至ラザルヲ怪ム者アランガ是其摩剌加地方ヨリ海峽ヲ游ギ渡テ來ルアレバナリフヲッグ氏及ビアウダ女等ハ郭外ヲ跋渉スルヿ二時ニシテ來ッテ市內ニ入レバ瓦甍ノ重キニ壓抑セラルヽ如キ狀アル低屋ガ相鱗次シテ稍ヤ市ヲナス者ニ似タリ只其好スベキハ可愛ノ庭園家屋ヲ環リ坤輿上ニ冠タル鳳梨「マングースチン」ノ美菓其中ニ蕃殖スルアルナリ此間フヒキスモ一馬車ヲ僱ヒ其踵ニ尾スルモフヲッグ等ハ素ヨリ其故意ニ出ルヲ知ラズシテ十時頃郵船ヘ歸着スレバパスパルツーハ既ニ其甲板ニアッテ主ノ歸船ヲ出迎ヘ最前市中ニ於テ購ヒ來リシ大サ拳ノ如キ「マングースチン」トテ外樣無花菓ノ熟セシト等ク株內深紅實肉白玉ヲ割ガ如ク一タビ之レヲ齒牙ノ間ニ上スレバ甘美窮リナキ仙菓ヲ採テアウダ女ニ進ムルニゾ女ハ莞爾トシテ嬌笑ヲ含ミ其芳志ヲ謝スレバパスパルツーハ光榮身ニ溢レ悅ブヿ限リナカリキ

十一時ニハ「ラングウン」號ノ煤倉モ充チクレバ纜ヲ解キケルニゾ彼虎豹ノ巢窟タル摩剌加ノ連山モ頓テ水烟ノ中ヘ沒シケル新嘉峯ヨリ彼ノ支那浩海ニ孤立スル英國所屬香港島迄ハ道程凡千三百里ナリ然ルニフヲッグハ日本横濱港ヘ向ヒ十一月六日香港ヲ解纜スル郵船ニ駕セント思ヒケレバ六日已內ニ此距離ヲ踰エント期シタリケル「ラングウン」號ヘハ新嘉峯ヨリ印土

人錫蘭人清人摩麗人葡萄牙人ノ諸客來劄シ頗ル繁雜セリ尤モ此輩多クハ二等ノ子舍ヲ占メリ

頃日來天氣續テ熙々タリシガ月下弦ニ迨ルニ暨ンデ漸ク變ジ海波亦隨テ險惡ナリ時々勁風大ニ起ルモ幸ニシテ其方向ノ東南ヨリ來ルヲ以テ舟行却テ便ヲ得ルヿ多ニ居ル其便ナルニ當テヤ船長水手ヲ督シテ滿檣ノ布帆ヲ擴ゲ汽力ト風力トヲ兩用セルヲ以テ其速力大ニ加ハル其交趾沿海ヲ航スルノ間ハ概ネ此ノ如ク鯢濤狂瀾ノ舷ヲ搞ツアツテ船客ヲ困マスルヿ酷シ然レモ船身ノ痛ク動搖スルハ其罪海濤ニ非ズシテ其船形宜ヲ得ザルニ因ル支那ヘ通航スル彼阿會社ノ所屬船ハ果シテ其構造ニ大失アリ是レ其水脚ノ深サ船身ノ層積ト相適ハザルヲ以テ泰然波濤ヲ凌グ能ハズ且其層積十分ナラズ故ニ少シク風浪ノ發ルアレバ船脚立ロニ變ズ是ヲ以テ論ズレバ此船ハ佛國郵船會社所屬船「アンベラドリス」「ガンボッヂ」號等ニ及バザルヤ遠シ是レ其機關ノ劣ルニ非ズ只船形ノ當ヲ得ザルニ因ル造船家ノ立算ニ據レバ佛製ノ船ハ其重量ト等シキ海水ヲ容ルモ猶沈ムニ至ラザレモ彼阿會社ノ屬船「ゴルゴンダ」「コレア」「ラングウン」號等ノ如キハ其重量ノ十分ノ六ニ適スル水ヲ容ルニ至ラバ沈沒セザルハ蓋シ稀ナラント故ニ風浪高キ日ニ當テヤ頗ル戒愼シ時トシテハ汽力ヲ減ジテ徐進セザルヲ得ズ之ガ爲ニ舟行大イニ遲々シ時間空シク消過スルアルモフヲッグハ更ニ關セザル者ノ如ク然リパスパルツーノ如キハ憤怒ニ堪ヘズ或ハ船長ノ短ヲ誹リ機關手ノ拙ヲ謗リ會社ヲ罵リ船體機關ノ無情物ニ至ルマデ詈テ已マザルハ恐クハ是レ彼ノサヴヒルロー街ノ家ニ殘テ燃ル所ノ瓦斯燈モ幾分カ其憤嗔ヲ起ス種ナルベシ

フヒキス一日之レニ向ヒ「君等ハ香港ヘ着スルヿヲ頗ル急ギ玉フガ如シ」ト云ヘバパスパルツーハ答テ云フヤウ「素ヨリ甚ダ急グナリ」警「足下フヲッグ氏ガ橫濱行ノ汽船ニ乘リ移ルヲ急グト思ヒ玉フ歟」パス「然リ氏ハ非常ニ之ヲ急グ者ナリ」警「然ラバ足下ハ地球一周ノ奇旅ヲ信ジ玉フ歟」パス「毫モ疑ハズ然シテ君ハ如何思ヒ玉フゾ」警「小可ハ更ニ之ヲ信ゼズ」ト云ヘバパスパルツーハ眼ヲ瞬キツヽ「君ハ是レ惡謔家ナリ」ト責ルニゾフヒキスハ此一言ヲ聞クヨリ暗ニ憂ヲ懷キ我ヲ目スルニ此名ヲ以テセシハ果シテ彼ハ我身ノ何者タルヲ推知セシニハ非ルカ然リト雖モ我ヨリ外ニ此祕訣ヲ知ル者ナキニ彼如何シテ之ヲ曉ルベキ由アランヤト思ヘバ猶更ニ其意ヲ解セネド兎ニ角彼ノ此言ヲ發スルヤ何カ意ヲ寓スル者ノ如カリキ曾テ復タ他日壯漢ハ何時シカ愼ノ度ヲ忘レ少ク嘲謔ノ語氣ニテフヒキスニ向ヒ「如何ニ我々香港到着ノ節ハ不幸ニシテ君ヲ彼ノ地ヘ殘シテ去ルコトモガナ」ト問ヘバフヒキスハ惶惑淺カラズ「未ダ分ラネド多分」ト云テ言塞ルニゾパスパルツーハ還タ云フヤウ「君ノ我々ト伴テ來リ玉フニ於テハ僕ノ爲ニハ一大幸ト云フベシ夫レ彼阿會社ノ社員タルベキ者ハ何トテ途中ニ止リ得ベキ實ニ君ハ初メボンベー迄行キ玉フ筈ナリシニ今殆ンド支那ヘ近ヅキ米國ノ如キモ蚤ヤ太ダ遠キニ非ズ然シテ歐米兩洲ノ間ハ僅ニ一躍ニシテ之レヲ踰ユベシト嘲リ語ルヲ聞クヨリフヒキスハ心安カラネバ熟々パスパルツーヲ察スルニ滿面笑ヲ含テ貳心ナキ者ニ似タレバ心ナラズモ共ニ笑ニ紛ラセシガ壯漢ハ猶モ虛實ヲ探ラント暗ニ算スル所アレバ又問フヤウ「君ノ職務ハ定メシ贏利多キ事ナルベシ」ト問ハレテフヒキスハ何氣ナク「然リ好キ事モ惡シキ事モアルナレド元來小可ノ懷抱ヲ痛メテ行旅スルニアラネバ」パス「素ヨリ其廉ハ僕モ洞知シタリシト快ク打チ笑フ狀他事ナクコソ見エニケル談話畢リテ後チフヒキスハ己レノ子舍ヘ歸リ獨熟々考ルニ佛人ハ蚤ヤ既

ニ己レガ警吏タルヲ推察シタルニ似タリ然レド之ヲ其主人ニ告ゲタリシヤ又其連累タルベキヤ或ハ知ラズシテ之レニ隨從スルヤ抑モ又今回ノ謀略モ既ニ彼ガ猜スル所トナツテ志終ニ成ルベカラザルヤナド悶ル警吏ハ或ハ謀ノ齟齬セルヲ憾ミテ失望シ或ハフヲツグノ未ダ厄ノ身ニ迫ルヲ知ラザルベシト想ウテ少シク憑ム所ナキニアラネド到底策ノ出ル所ヲ知ラズ少焉アツテ稍ヤ精神ノ鎭マルニゾ始テパスパルツーヲ味方ニ引入レ萬一香港ニ於テフヲツグヲ該地ニ抑留スル策ニ苦ムニ當テフヲツグガ愈々夫ノ英領ノ地ヲ辭センースルノ急ニ逼ラバ萬事ヲ包マズパスパルツーニ語リ其輔ヲ借ント決心シ思ラク夫ノ壯漢ハ元來其主人ノ連累ニテ既ニ二奸我意衷ヲ推知スルニ於テ失敗又タ償フニ由ナキニ至ランカ或ハ壯漢ハ主人ノ竊盜ニ與ミスル者ナラザランニハ彼ハ必ズ賊ヲ棄テヽ我ヲ輔クベキカノ兩途ニ出ンノミト以上兩個ノ意衷ヲ寫セシ所ナルガフヲツグハ恰モ大鵬ガ青空ヲ翺翔シテ地上ノ細禽ヲ睥睨スル者ノ如ク又其地球ノ周回ヲ環ルニアタツテハ己レニ附屬スル隣星ノ擧動如何ヲ省ミズ只直線ニ軌道ヲ回ル星辰ノ如シ然レドモ星學家ノ語ヲ借テ云バ幾許カ該紳士ノ心緒ヲ紊スニ堪タル一客星ノアル筈ナルニ左ハナクシテアウダ女ノ嬌艶ナルモ亦之ヲ動カスニ足ラズ假令幾分カ紊擾力ノ氏ヲ蕩スアルニモセヨ「ユラニユス」星ノ紊擾力ヲ基根トシ遂ニ海王星ヲ發見セシニ至リシヨリモ之ヲ尋ルハ猶難キヿ數等ナリパスパルツーハアウダ女ガ主人ニ對スルニ毎度感想ノ深情自ラ眼中ニ彰ルヽヲ見ルヿ數回ナルニ主人ノ心ノ動クナキハ怪ムベキノ極ナリト私ニ驚キ思フヤウフヲツグ氏ハ眞ニ義勇ニ奮フ心ハ有レド戀情ヲ知ラヌ木石ナルベシ又行旅ノ結果如何ニ至テハ更ニ憂慮スル色ダニ面ニ見レズハ訝カシトテ已レハ獨リ煩悶已ム時ナク一日機關室ノ欄干ニ凭テ壯剛タル機關ノ運動ヲ眺メ居シガ折シモ船身大ニ動搖シ艫端水際ヲ離レテ暗車空轉シ汽瓣贏汽ヲ迸ラスルヲ見テ憤怒ニ堪ヘズ叫デ云一咄夫ノ汽瓣ハ壓量十分ナラズ是ニテ舟ノ進行スベキ理アランヤ嗚呼何ゾ英人ノ迂拙ナルヤ若シ米國ノ船舶ナランニハ假令破裂ノ險アルモ進行スルヿハ必ズ快カルベキニ

第拾八回

兩三日以降天氣陰翳ニシテ荒レ模樣ナリシガ風向西北ニ定リ殊ニ猛烈ニシテ舟行大ニ之ガ爲ニ阻ラル「ラングウン」號ハ元來狹長ノ構造ナルヲ以テ烈風ノ爲ニ逆カ卷カレテ彼方此方ニ山ナス濤ニ打チ搖ラレテ顚轉顚ル劇シケレバ乘客モ皆鋭氣ヲ失シ悽愴タリ十一月三日四日ノ間ハ飃颶ノ兆ニシテ暴風倏忽トシテ海波ヲ打チ「ラングウン」號ハ凡ソ半日ノ間ハ僅ニ螺旋車拾旋回ノ速力ニシテ遲々巨濤ヲ衝テ漸進セザルヲ得ズ此時滿檣ノ布帆ハ收メテ檣桁ニ收縮シタリト雖モ猶萬條ノ縄綱狂風ニ號ンデ轟然トシテ聲アリ爰ニ於テ舟行大ニ遲緩シ香港ヘ達スル貳拾時間ノ遷延ヲ生ズ若シ風力ノ頓ニ減殺スルナクンバ猶其遲緩之ヲ超過センモ測ルベカラズト想ハレタリ

フヲツグハ更ニ常ト變リシ色ナク怒濤天ヲ蹴テ飛揚スル海水ガ直ニ我身ニ對シテ抵抗スル如キ狀アル悽景ヲ眺メテアリシガ肩サヘ顰ムルヿナカリケル然レドモ此貳拾時間ノ遲緩ハ横濱行ノ汽船ニ後クレシメ終ニ氏ノ志業障碍ナランヿ思フベシ然レドモ氏ハ恰モ神經ノナキ人ノ如ク更ニ憤恚憂慮ノ色ナカリキ氏ハ又眞ニ豫メ此颶ニ前見アツテ既ニ豫算爰ニ及ビシ者ノ如シアウダ女ハ此天變ヲ憂ヒテ氏ト談話ノ際暗ニ之ヲ視察スルニ神色平時ニ異ナラザリキ

フヒキスハ今回ノ暴風ヲ見ルヿ大ニ是レニ變リ此暴風ハ己ノ爲ニハ一大好機會タルヲ喜ビ

若シ「ラングウン」號ハ狂瀾ヲ冒シテ進ノ難キヲ知リ針路ヲ轉ジテ難ヲ避ケントデモセバ其滿悦定テ究ナケン該船ノ途中ニ於テ遲緩スルハ到底大ニ其望ヲ扶ケフヲツグヲシテ必ズ香港ヘ數日ノ間駐留セザルヲ得ザラシメン終ニ天暴風ヲ起シ海鯢濤ヲ飄シテ之ガ羽翼トナルアリ豈快ヨカラズヤト警吏ハ少シク船暈ノ爲ニ苦痛セシト雖モ豈敢テ恨トスルニ足ランヤ身ハ船身ノ劇動ニ搖ラレテ假令嘔氣ヲ催スアルモ心中既ニ一大喜事アリ精神焉ゾ爽快タラザランヤ

パスパルツーガ此暴颶ノ間ハ怏々トシテ瞋恚ノ色ヲ包ム能ハザリシハ否容ノ能ク察スル所ナラン今日迄萬事好機ニ投ジ水土共ニ主人ノ意ヲ體シ汽船汽車等皆氏ニ柔順シ風伯汽力共ニ氏ノ行旅ヲ賛ル者ノ如カリシモ忽一變終ニ不運ノ鐘聲爰ニ響シニヤ今日ノ暴風狂瀾ノ憎サヨト

パスパルツーハ憂慮熾クガ如ク怒氣ニ堪ヘカネ此潛凌ノ海神ヲ撻ント逸ル意ハ眞ニ嗤フベキモ意衷ハ又憐レムベシ其憂悶スル狀ハ恰モ彼ノ貳百磅ノ賭金ハ己レノ囊中ヨリ出ス者ノ如カリキ

フヒキスハ内心喜悦ニタヘザルモ表ニハ深ク是ヲ祕シタリケリ若シ然ラズシテパスパルツーガ其意衷ヲ察シナバ必ズ粗暴ニ渉リテ己レノ憤懣ヲ漏ラセシナラン

パスパルツーハ烈風ノ間ハ暫クモ「ラングウン」號ノ甲板上ヲ去ラズアリシガ終ニ堪ヘカネテ桅檣ヲ上ヘ攀ヂ昇リ猿ヨリ輕ク立廻リ水夫ノ働キヲ助クルニゾ衆皆舌ヲ捲テ其活潑ヲ驚歎セリ船將士官水夫ノ嫌ヒナク遭者毎ニ何時頃ニハ風ノ穩ニナランヤ抔ト百回有餘モ尋ルニゾ衆諸ハ其勞神ノ過グルヲ嘲リ晴雨針ニ就テ知リ玉ヘト云ヒスレバ該器ノ下ニ立テ搖レド動カセド更ニ昇騰セザリケレバ果ハ罪ナキ器械ニ向ヒ罵詈ヲ極メテ暇ク斗リナル胸ノ怒焰ヲ漏シケリ兎角スル間ニ風力大ニ減ジ海波稍穩ナリ其方向モ亦隨テ南ニ轉ジ駛航ニ便トナル爰ニ於テパスパルツーノ心緒モ天氣ニ隨テ快爽ニ復シ滿船ノ布帆順風ニ孕デ「ラングウン」號ノ速力大ニ加ハリ疾走流矢ト競フ然ト雖モ如何セン失却シタル時間ハ又是ヲ回復スル策ナク六日ノ午前六時ニ迄ンデ漸ク始テ陸地ヲ發見シタリフヲツグノ豫算ニ據レバ五日着港ノ筈ナルニ六日トナリシハ正ニ是レ二十四時間ノ延着ナレバ横濱行ノ汽船出發ニ後レンヿモ測ラレザリケリ第六時ニ水先案内來テ「ラングウン」號ノ舳頭ニ立チテ船ヲ指揮シテ香港ノ灣内ヘ入津サセント控ヘタリパスパルツーハ幾度カ之ニ就テ横濱行汽船ノ既ニ出發セシヤ否ヤヲ訊ントセシガ出發セシヲ聞テ忽チ望ヲ失ハンヨリ寧ロ少焉ノ間タリトモ最後迄一縷ノ冀望ヲ保タント思ヘバ復タ躊躇シテ居タリケルガフヒキスニモ豫テ己ノ憂思ヲ語リケレバ此方ハ固ヨリ狡智ノ老狐ナレバ言ヲ巧ニシフヲツグハ必ズ次ノ出船ニハ間ニ合フベケレバ斯ク憂慼シ玉フナト鎭慰セント試レバパスパルツーハ嗔怒益々烈ヲ加フノミ

パスパルツーハ忍デ敢テ水先案内ヲ訊問セザリシガフヲツグハ彼ノブラトショーノ萬國道中記ヲ參考シテ後チ水夫ニ向ヒ靜ニ「何時横濱行ノ船ハ香港ヲ出帆スル哉ト問ヘバ水夫ハ答テ「明朝ノ滿潮ニ乘ジテ出帆ノ筈ナリト聞テフヲツグハ別段變リシ色ナク「吁然ル歟ト云ヒシノミナレドパスパルツーハ傍ニアツテ之ヲ聞クヨリ雀躍シ既ニ水夫ヘ抱キ付キテ喜ビヲ表セントスル程ナルガフヒキスハ憤リニ堪ヘズ其頭ヲ捻リテ哭レントスル斗リナリフヲツグ復々問テ云ク其船名ハ何ト稱ス哉水先「カルナチック」ト申スナリフヲツグ「昨日出船ノ筈ナラザリシヤ水先「然リ其積リノ處汽罐ニ損所ノ生ゼシ故之ヲ修繕スルトテ明日迄出船延引ト

ナリテ候　フヲッグ「多謝ト云ヒツヽ、フヲッグハ例ノ定歩ニテ「ラングウン」ノ罐室へ回リシ跡ニテパスパルツーハ水夫ノ手ヲ握リサモ親シゲニ「足下ハ實ニ善キ人ナリト云ヒ掛ケラレシ水先ハ何故頃刻ノ數言ガ斯ク迄懇親ナル接待ノ種トナリシヲ知ネバ怪ミ居リタル折カラ一陣ノ風吹キ來リケレバ再ビ元ノ舳頭へ立チ回リ彼ノ香港灣中ニ充滿スル支那貨船漁舟其他萬種ノ船舶ノ間ヲ右へ避ケ左へ逃レテ郵船ノ入津ヲ導ビキケリ

一時間程過ケル頃「ラングウン」號ハ蚤ヤ波止場ノ側へ着シ船客各〻陸へ上リケル

本回ノ如キ若シ「カルナチック」ノ汽罐ヲ修スル擧ナクンバ五日ヲ以テ發程シ日本行ノ旅客ハ已ヲ得ズ次便ノ出船ヲ俟テ淹留セザルヲ得ザリシニ不測モ此好機會ニ遭ヒシハ眞ニ是レフヲッグノ運ノ強カリシナリ今フヲッグハ定規ニ後ルルヿ貳拾四時ト雖モ横濱ヨリ太平洋ヲ踰テ桑港ニ航スル郵船ハ直ニ香港ノ線ト相通ズルヲ以テ香港ヨリ着船ナキ内ハ解纜セザル筈ナレバ貳十四時ノ遲緩アリ雖モ向後ノ行旅ヲ害スル憂ヒナク又タ太平洋經過ノ間ニ於テ失却時間ヲ回復センハ蓋シ難ニアラザレバ憂トスルニ足ラズ故ニ氏ハ龍動發程ヨリ以來三十五日目ニシテ貳十四時違ヒニテ豫算ノ期日ト稍ヤ平行シタリケリ

「カルナチック」號ハ翌朝五時ニアラザレバ拔錨セザルヲ以テフヲッグ十六時間ノ餘暇ヲ有シケレバアウダ女ノ身ニ關セシ事務ヲ整頓セント少婦ノ手ヲ執リ扶ケツヽ上陸〆肩輿ヲ傭テコレニ乘セ「如何ナン旅館ガ良キナルヤト舁夫ニ問ヘバ「『クロップホテル』コソ善ク候ト示シケレバパスパルツーヲ隨ヘツヽ貳十分バカリニシテ肩輿ハ旅館ニ着キケレバ先ヅ一室ヲ借リテ少婦ヲ憩ハセフヲッグモ親ラ其行キ屆キシヤ否ヲ點檢シテ后チ少婦ニ向ヒテ「貴孃ヲ留メテ託スベキ當港ニ在ス貴孃ノ族人君ヲ尋ネ申スベシト云ヒツヽ又パスパルツーヲ呼ビ「予ガ歸館迄ハ汝留リテ必ズアウダ女ヲ獨リ殘シテ出デ去ルナト誡メ置キ當港ノ商務公會館へ往キ尋ナバ富豪ヲ以テ名望共ニ高キジエー氏ヲ知ラヌ者トテハアラジト思ヘバ直ニ至リ一賽取商ニ就テ之ヲ叩クニ果シテ彼ノパルシ商ヲ識リ居タレド該商ハ既ニ十分ノ家産ヲ起セシカバ二年以前ニ歐洲へ轉移シテ今ハ清國ニ居ラズ尤舊來荷蘭ノ諸商ト廣ク取引ヲシテアリケレバ當時ハ同國へ住居アルナレベシトノ答ナリケレバフヲッグハ本意ナク旅館へ回リ直ニアウダ女ニ會センヿヲ請ヒテ其室へ入リ言少ナニ「ジエー氏ハ最早香港へ在留ナク多分荷蘭邊へ移住セラレタリト語ルヲ聽テアウダ女ハ瞬間答モナシ兼ネテ只頻ニ手ヲ當テヽ考へ居シガ少焉シテ漸クニ彼ノ鶯喉ノ嬌聲ヲ發シテ云ク「フヲッグ君ヨ妾ハ是ヨリ如何シテコソ能カルベキ　フヲッグ「夫ハイト易キ事ニコソ歐羅巴迄行キ玉フベシ　アウダ「去リトテ斯迄君ノ厚志ニ甘ユルヿハ如何ニ顏厚クモナルベキヤ　フヲッグ「何ノ心ヲ勞シ玉フ事哉アルベキ貴孃獨リヲ我〻ガ伴フトテモ別段ニ我等ノ企業ノ障ニハナル物ナラネバト云ヒツヽパスパルツーヲ喚ビケレバ應ト答へテ入リ來ルフヲッグハ之ニ向ヒ「今ヨリ直ニ『カルナチック』へ行キテ舍三個ヲ取リ置クベシト命ズレバパスパルツーハ彼ノ己レヲ愛顧スル少婦ト共ニ猶行旅ヲ引續ル事ノ成ルヲ喜ビ勇ンデ直ニ旅館ヲ立出デケリ

第拾九回

香港ハ蕞爾タル一島嶼ニシテ曾テ千八百四十二年南京ノ諦盟ニヨッテ大英國へ讓ラレシガ彼ノ英人ハ開拓ニ捷キ籌畫ニヨッテ儼然タル一府ヲ開建シテ此ヴヒクトリヤ港ヲゾ現出シタリケル其位置廣東河ノ口ニアリテ海路六十里ヲ隔テ、

葡萄牙領澳門港ト相對スル素ヨリ此兩港商運ヲ相爭フニ竪ンデハ澳門爭カ香港ト頡頏スルヿヲ得ン乎故ニ淸國ト通商多ク玆ニ於テス貨溝アリ病院アリ波止場アリ倉庫ノ棟ヲ連ルアリ市街ハ淸麗府鎮ノ衙門「ゴチク」風ノ大敎院

ゴチク風ノ建物ハ工部ハ校上野美術館等ノ如キ屋根ノ勾配急ニ門牕等ノ逆鍋犬ノ如ク尖リタル形ヲ云フ

アツテ玆ヘ來ルノ旅客ヲシテ恰モ英國地方ニ現在スル一市ガ地球ノ全體ヲ貫イテ其背面ヘ現出セルニ非ル歟ト怪マスルホドナランパスパルツーハヴヒクトリヤ港ノ方ヘ赴カント手ヲ袖ニシツヽ市中ヲ閑歩スレバ歐洲ニテハ見掛ケモセネド中華帝國ニテハ猶頻ニ用ヒラルヽ翠帳深ク鎖セシ肩輿及ビ淸人歐人日本人等ガ絡繹トシテ市中ヲ往來スルヲ見ルニ其體裁ボンベーカルカツタ新嘉峯等ト大同小異ニシテ眞ニ是レ地球ヲ環リテ到ル處英國ノ所領ノ散在セザル處ナキ證左ナリ頓テヴヒクトリヤ港ヘ達シテ港心卽チ廣東河口ノ方ヲ眺メバ英佛米蘭等萬國ノ軍艦商船ニ交ルニ支那日本ノ貨船小艇ヲ以テシ桅檣森然トシテ林ヲナス其間ニ片々タル花壇ノ波間ニ漂フハ是レ栽花ノ舟園ナリパスパルツーハ徘徊スル際屢ミ黄色ノ衣ヲ穿チシ者ニ遭ヒ之レヲ見ルニ皆皤々タル高齢ノ老翁ナリ髭髯ヲ彼ノ支那風ニ剃ラシメント欲シテ一軒ノ辮髪鋪ヘ入リ談話ノ際少シク英語ヲ解スル一剃工ニ就キ彼ノ頃刻行キ遭ヒシ老翁等ハ皆八十歳已上ニシテ淸廷ノ特許ヲ得テ始テ國彩タル黄衣ヲ着スル者ナリト聽キパスパルツーハ唯是ヲ奇異ナリトシテ打チ笑ヒケリ斯クテ髭髯モ剃リ畢リテ「カルナチック」號ガ纜ヲ繋ギシ波止場ヘ到リ見レバ彼ノフヒキスガ最前ヨリ頻ニ往キツ返リツ散歩シ居ルニ行キ遭ヒタルガ素ヨリ更ニ之レヲ怪シマザリケリ然レモ何トナク失望ノ色其面ニ彰レケレバパスパルツーハ之レヲ見テ私ニ「先ヅ善シ是ハ改進舍ノ各員ノ爲ニハ吉兆ナリト獨言シツヽモ更ニフヒキスノ憂悶ニ心附カザル者ノ如ク微笑シツヽ近寄リタリ此時フヒキスハ己ノ薄運ヲ歎ジテ憂慮スルニ逮捕指令書ハ未ダ到着セズ勿論時ヲ移サズ後ヨリ來ルベシト思ヘド當港ニ暫ク滯留スルニ非レバ又掌中ヘ入ルベカラズ然ルニ沿道ノ英領トテハ此香港限リナレバ何トカ籌策ヲ旋シテフヲツグヲ抑留セズンバ又再ビ彼ヲ捕フベカラズト臆ヘバ悶ルモ理リナリキ斯ル折カラパスパルツーハ「如何ニフヒキス君愈ミ亞米利加迄同伴スルト決定シ玉ヒシヤト問ヒカクレバフヒキスハ切齒シタル脣間ヨリ僅ニ「然リト答フルノミパスパルツー呵々ト打笑ヒ「左モアルベシ君ガ我々ト離レ得玉フベカラザルハ僕既ニ察シタリイザ共ニ行キテ乎舍ヲ取リ玉ハズヤト誘ウテ共ニ切符賣捌所ヘ入リ四人ノ乎舍ヲ取リタリケル此時該所ノ主管兩人ニ向ヒ「『カルナチック』ノ修復既ニ整ヒタレバ發程時間モ明朝ノ處今宵八時ニ解纜スベシト告ゲケレバパスパルツーハ喜ビテ「夫ハ頂上ノ好機會ナリ主人ハ嘸ヤ都合宜ク覺スナラン早ク歸ツテ告ゲ申サント答ヘケルガフヒキス事ノ迫ルヲ見最後ノ策ヲ用ヒケル則チ仔細ヲ殘ラズパスパルツーニ告ゲ其助ケヲ得テフヲツグヲ香港ヘ引留ムルヨリ外ニ又策ノ施スベキナシトテ賣捌所ヲ出デ「何處カ酒店ヘ伴ウテ一盞ヲ傾ケンハ如何ントパスパルツーヲ誘ヘバ時猶早キヲ以テフヒキスノ招キニ應ジケリ斯ル折カラ海岸ニ臨ンデ一軒ノ見體瀟洒タル酒店ノアルヲ見和伴ウテゾ入リケルニ玆ハ廣キ醼室ニシテ四邊美シク飾リ付ケ後堂ノ方ニハ數脚ノ竹床ヲ列シ早ヤ此床上ニ横タハツテ熟眠スル徒モ少カラザリキ既ニ三十名バカリノ客人ガ醼堂ノ中處々ニ配置シタリシ少キ條製ノ卓子ニ倚リ或ハ英產ノ麥酒「ホルタル」ノ類ヲ傾クルモアレバ或ハ又「ジン」「ブランデ」ノ如キ火酒ノ類ヲ飲ムモアル其中ニ長キ朱泥ノ烟管ニ阿片ト薔薇液トヲ混和セシ小丸ヲ點ジ

テ薫ラス者モ多カリキ然シテ烟客昏醉シテ卓上ヘ轉倒スルニ至レバ卓奴來テ靜ニ其頭足ヲ執テ床上ヘ伴ヒ先キヨリ眠リ居ル者ノ傍ヘ臥サシムルヲ常トス此時既ニ昏醉ノ極度ニ達セシ陋客凡ソ貳十餘名枕ヲ并ベテ臥シ居レリ

此體ヲ一目シテフヰキスパスパルツー等ハ彼ノ商事ニ怜悧ナル英國人ノ奇貨トナリ年々千零四十萬磅(五千貳百萬圓)ノ巨額ヲ抛テ阿片ト稱スル毒藥ヲ購ヒ取ル處ノ憫レムベキ顏色憔悴シタル蠢愚ノ癡漢等ガ來リテ醉ヲ沽フ所ノ一室ナルヲ知レリ實ニ此ノ千萬ノ金額ハ人倫ノ毒習ヲ奇貨トシテ絞リ取ル所ナリト思ヘバ慨歎ニ餘リアリ

清國政府ハ之ヲ憂ヒ鋭意ニ嚴法ヲ設ケテ其毒弊ヲ防ント試ミシモ終ニ效ナク阿片烟ヲ喫フノ弊ハ初メ富豪社會ノ範圍ニ熾ンニ漸ニ擴マリテ上下ニ洽ネク又其流毒ヲ遏ムルニ由ナシ現今中華ノ臣民男トナク女トナク此慨歎ニ堪ヘタル弊習ニ沈湎スルヿ滔々タル支那帝國皆然リ一タビ是毒烟ヲ嗜ノ惡習ニ染ル時ハ若シ之ヲ廢スルニ當テハ胃中痼攣ノ甚シキヲ覺ユルヲ以テ又自ラ禁ズベカラザルニ至ルト又嗜好甚シキ者ハ一日能ク八服ノ烟ヲ吸フト然レドモ如此ノ輩ハ必ズ五年ヲ出デズシテ死ニ至ルト云フ今フヒキス及パスパルツーガ枯腸ヲ潤ホサント欲シテ入リシモ亦猶香港ニスラ夥多シキ吸阿片室ノ一ナリキ此時パスパルツーハ嚢裏片貨ヲ貯ヘズト雖モ他日又何處ニ於テカ報答スベシト思ヘバフヒキスノ厚意ニ應ジケル爰ニ於テ「ポルト」貳壜ヲ呼デ是ヲ傾クルニ佛人ハ頻リニ其美ヲ稱贊スルモフヒキスハ自重敢テ謳レズ唯頻ニパスパルツーヲ熟視シ共ニ四方八方ノ談話等ヲナシ殊ニフヒキスガ「カルナチック」號ヘ搭ジテ共ニ行カントスルノ好逑ナルヲ贊シテパスパルツーハ獨リ興ニ入リシガ瓶酒既ニ罄クルヲ以テ行テ郵船出發時限ノ數時間縮リシヲ主人ニ告ゲントテ起ツヲフヒキスハ牽キ留メ「今少焉ク待チ玉ヘ」パス「何用アリテ留メ玉フゾ 警「一大事件ニ付足下ト少シク談ジタキヿアリ パス「ナニ一大事トナト云ヒツヽ杯ヲ把テ殘リシ數滴ヲ飲ミ干シテ「可シ可シ夫ハ明日緩リト談ズベシ今日ハ生憎其暇ナシト云ヒ放テバフヒキスハ又「先留リ玉ヘ夫ハ足下ノ主人君ニ關スル一事ナリト聞テパスパルツーハ眸ヲ凝シテフヒキスヲ見ルニ容色常ニ異リケレバ再ビ座ニ就キ「何ヲカ僕ニ語リ玉フ事ノアル哉ト問ヒカクシバフヒキスハ壯漢ノ手ヲ執リ聲ヲ低テ問テ云ク「足下ハ定メシ小可ガ何者タル哉ヲ推知シ玉ヒシナラン パス「知ラザルベキヤト微笑シツヽ云フニゾ警吏ハ又タ「然ラバ萬事ヲ打チ明ケ語リ申スベシ パス「萬事僕ハ既ニ推知シタレド兎ニ角君ノ陳ブル所ヲ聞カン然レド先ヅ僕ガ所見ニテハ彼ノ紳士等ハ無用ノ事ニ多クノ費用ヲ散耗スル人トスルナリ 警「無用ノ費ト云ヒ玉フゾ足下モ今ハ心ヲ許シテ語リ玉フナランカ足下ニハ未ダ金額ノ多寡ヲ知リ玉ハヌナラン パス「イヤ僕能ク是ヲ知レリ卽チ貳萬磅ナリト答レバフヒキス再ビ佛人ノ手ヲ執テ「五萬五千磅ナリト云ヘバパスパルツーハ愕キテ「ナニフヲッグ君ハ浩ル巨額ノ賭ケヲ爲シ玉ヒシトナ可シ可シ然ラバ倘更因循シテハ居ラレヌ譯サラバ一刻モ早クト起チ上ルヲ「五萬五千磅ナリト云ヒツヽフヒキスハ之ヲ牽キ留メ強テ彼ヲ座ニ復ラシメ「ブランデ」酒壹瓶ヲ取寄セテ又タ云フヤウ「倘シ小可ハ今回功ヲ奏スニ於テハ貳千磅(壹萬圓)ノ賞金ヲ占ル一件ナリ足下小可ヲ輔ケテ五百磅(貳千五百圓)ヲ得ル意ナキヤト問ヒ掛クレバパスパルツーハ瞠ト目ヲ張リ「君ヲ輔ケヨトハ 警「然リ則チ小可ニ力ヲ協テフヲッグ氏ヲ兩三日間當香港ヘ抑留スベシト云フナリ パス「嗚呼何ト云ヒ玉フゾ我ガ主人ノ正直ヲ狐疑シテ之ヲ追躡セシムルヲ以テ足レ

リトセズ彼ノ紳士等ハ今又其行路ニ妨碍ヲ構ヘテ之ヲ阻ントスルトハ何等ノ卑劣ノ爰ニ至ル哉 警「夫ハ又君ノ言ハ如何ナル意ヲカ含ム事ナル哉 パス「僕ノ言ントスル處ハ則チ其擧ハ眞箇ノ奸謀ニシテ恰モフヲッグ氏ノ懷金ヲ奪テ己ガ懷ヘ入ルヽ策ノ外ナラズト云フナリ 警「是レ恰モ我々ガ的トスル所ナリ此時パスパルツーハ最前ヨリ頻ニ傾ク「ブランデ」ノ效驗ニヨツテ漸ク氣色モ荒ラギシガ聲ヲ勵ゲマシ云ヘル樣「是レ眞箇ノ毒計ナリ是レ眞ノ奸謀ナリ彼ノ同僚紳士ノ鄙劣ナル耶トフヒキス聞テ更ニ解セヌ樣子ナレバパスパルツーハ又タ叫テ云ク「同僚トハ改進舍ノ社員ノ諸士ヲ指ス君知ラズ哉我ガ主人ハ廉潔ノ士ナリ一タビ賭ヲ締ブニ當テハ固ヨリ公然タル贏ヲコソ得ントスルナリ 警「足下ハ小可ヲ何者ナリト想ヒ玉フゾト問ヘバパスパルツーハフヒキスヲ睨ミ「ナドテ知ラザルベキ足下ハ改進舍紳士ノ密旨ヲ奉ジ我主人ノ行旅ヲ妨ゲンガ爲ニ來リシ間者ナリ是レ僕ガ足下等ノ爲ニ愧ヅル所既ニ足下ノ謀略ハ疾ヨリ之ヲ察シケレ圧僕之ヲ方寸ノ中ニ祕シテ未ダ主人ニ告ゲザリキト聞テフヒキスハ遽ク「然ラバ氏ハ未ダ何ニモ知リ玉ハズヤト問ヘバパスパルツーハ復タ杯ヲ擧テ傾ケツヽ「未ダ何事モ知ラザルナリト聞キシフヒキスハ額ニ手ヲ當テ如何ハセント躊躇セリパスパルツーノ誤解ハ眞ニ赤心ヨリ出ル者ノ如シ然レド斯クテハ謀略モ却テ施シ難シ其語氣ノ純然タルニ就テ考フルレバ最初ヨリ暗ニ危ブミシガ彼ハ其主人ノ連累ニハアラザルヤ明ナリ爰ニ於テ思フヤウ可シ彼レ其連累タルニ非ンバ必ズ我レニ力ヲ協スベシトテ警吏ハ再ビ力ヲ得殊ニ時間モ切迫スレバ是非共フヲッグヲ香港ヘ抑留セネバナラヌト思ヘバ警吏ハ急キ立ツ聲色ニテ「能ク我ガ言ヲ聽キ玉ヘ元來予ハ足下ノ推察ニ違ウテ改進舍社員ノ間者ニアラズパスパルツーハ詭弄セントスル者ノ如クフヒキスヲ瞷ニ看ツヽ「其確證アリヤト云ヘバ 警「小可ハ本國政府ヨリ密旨ヲ授カリ來リシ警察吏ナリ パス「エー君ガ警吏ナリトナ 警「然リ其證ニハ是見玉ヘ則小可ノ受ケシ指令書ナリト云ヒツヽ懷中ヨリ取リ出シテ見スル一通ハ中央警察長官ノ花押アツテ違フベカラザル指令書ナレバパスパルツーハ愕然トシテ言葉モ出ズ只フヒキスノ顏ヲ見凝ルニゾフヒキスハ又タ云フヤウ「フヲッグ氏ノ賭ナル者ハ元來架空ノ託言ニテ足下始メ改進舍ノ社員迄皆罔レテ居玉フナリ氏ハ又タ足下ガ我知ラズ其羽翼トナリ玉ハンコトヲ期スル者ナルベシト聞テパスパルツーハ「夫ハ又何故ニト詰リ掛ルニ答テフヒキスハ云フヤウ「先ヅ聞キ玉ヘ去ル九月二十八日英國特立銀行ニ於テ五萬五千磅ヲ盜ミ去リシ者アリ幸ヒニメ其容貌ヲ見認ル者アリテ則チ是ハ其人相書ナレド見玉フ通リフヲッグ氏ノ相貌ト寸分違ハヌワト聞テパスパルツーハ憤然トシテ拳ヲ擧テ卓子ヲ叩キ「嗚呼何等ノ妄言ゾ我主人ノ如キハ地球上兩人トナキ廉潔ノ君子ナリ 警「夫ハ又如何シテ知リ玉フゾ足下元來氏ト相識ナキナラズ哉 又足下ハ氏ガ此ノ風狂ニ屬スル託言ニ據テ旅具モ携ヘズ銀行紙幣ニテ百萬ノ金額ヲ帶ビ出發セシ其日ヲ以テ漸ク氏ニ傭ハレ玉ヒシナラズヤ然ルモ猶足下氏ヲ目シテ廉潔ノ君子トシ玉フ歟ト問ハレテ哀レ壯漢ハ我レニアラデ只「然リ然リト答ルノミ 警「然ラバ足下ハ氏ノ連累ナリトテ捕縛セラルヽヲ望ミ玉フ歟ト迫ルニゾパスパルツーハ頭ヲ低レテ兩掌ノ上ヘ据ヱ敢テフヒキスヲ仰ギ看ズ暫時沈吟シテ考ルニ彼ノアウダ女ヲ水火ノ中ニ拯ヒシ仁義ノ君子タルフヲッグ氏ニシテ賊ナリトハ憶ハレズ然レド氏ノ身上ニ萃ル嫌疑モ幾許ゾト思ヘバ自ラ疑團胸裏ニ胚胎セントスルヲ排斥シ終ニ氏ニ罪アリトハ決シテ信ゼラレザレバ自ラ心ヲ勵マシテ警吏ニ對シ「足

下ノ僕ニ就テ需ムル所ハ到底何ナル哉ト問ヘバフヒキスハ答テ云ヤウ一見玉フ通リ小可ハ爰迄フヲツグニ尾シ來リシニ曩ニ龍動ヘ乞ヒ置キシ逮捕指令未ダ落掌セズ故ニ足下ト籌策ヲ協セ氏ヲ香港ヘ抑留スルニアリ　パス一僕ニ足下ヲ翼ケヨトナ　蹔　然ラバ銀行ヨリ約束アル貳千磅（壹萬圓）ノ賞金ヲ足下ト配分スル意ナリト聞テパスパルツーハ頭ヲ掉リ一否ナト云ヒツヽ起ントセシガ氣力モ脱ケテ後ヘニ撞ト倒レツヽ連續モセヌ言葉ニテ一フヒキス君假令足下ノ僕ニ談リ玉ヒシ事ハ皆眞デアラウモ假令フヲツグ氏ハ足下ノ言ノ如ク賊デアラウトモ僕ハ信ゼヌ僕ハ氏ニ傭レ來テ現在氏ニ仕テアルノミナラズ氏ノ温良仁義ノ實行ヲ目撃シタル僕ナレバ如何ニシテ今日氏ニ對シテ叛逆スルニ忍ビンヤ假令館シムルニ全世界ノ黄金ヲ以テシ玉フモ僕ハ斯クノ如キ卑怯ノ粟ヲ喰デ恥ヂザル如キ村落ニ長ゼシ者ニ非ズ　蹔一足下ハ然ラバ拒ミ玉フ歟
パス一僕ハ斷然之ヲ拒絶セン　蹔　然ラバ此一件ハ何ニモ云ハヌ體ニシテイザ改テ一杯ヲ傾ケン
パス「可シ可シ快ク一杯ヲ傾ケント云フパスパルツーヲ見ルニ酩酊愈ヽ加リケレバ如何ニトカシテ之ヲ其主人ト離サント思ヘバフヒキスハ之ヲ爛醉十二分ニセンモノト四邊ヲ見ルニ阿片ヲ點ゼシ烟管兩三枝ノアルヲ見テ是レ屈竟ト取上テ竊ニパスパルツーノ指間ヘ插メバ此方ハ知ラズ何心ナク取上ゲテ唇間ヘ含ミ吸一吸シテ其烟ヲ喫スルニゾ麻藥ノ效驗覿面ニテハヤ昏醉セシト見エ頭ヲ低レテ性根ナクナルヲ視ツツ漸クニシテ爲濟シタリト獨笑シ是デハ如何ナフヲツグ奴モ發船ノ時刻ヲ知ラザルベシ假令萬一出發スルトテモ此面憎キ佛人ハ置キ去リニ致スベシ吁愉快々々ト獨語シツヽ店酒ノ會計ヲ終テ立出デタリ

新説 八十日間世界一周（後編）

新説 八十日間世界一周 後篇
佛人ジエル、ヴエルヌ氏原著
日本川島忠之助譯
明治十三年六月刊行

（原本表紙）

第貳拾回

斯ル毒計ヲ旋ラス者憑キ纏ヒテ行末覺束ナク成リモヤスベキ事アリ𪜈神ナラヌ身ノフヲッグハ爭デカ知リ得ベキ男兒ハ坤輿ヲ周ル大事業ニテモ革嚢一個ヲ携レバ事足ルレド既ニアウダ女ヲ歐洲迄伴ナヒ行カント肯ガフ上ハ又一人旅トハ事替リ旅裝其他ノ要具何クレト求メネバナラヌトテ此時方ニ旅館ヲ打連立テ立出デ香港市中ヲ徘徊シ彼ノ沈着謹嚴ノ性質モテ百事遺漏ナク調理スルニゾ少婦ハ其甲斐々々敷取扱フ親切ニ感ジ務メテ贅奢ノ品ヲ買フヲ止ムレバフヲッグハ聽キ入レズ「否ナトヨ決シテ心ヲナ勞シ玉フナ皆是レ豫テ期シタル所ニテ乃チ我等ガ旅行ノ便利ヲ計ルノミ」ト答ヘツヽ種々ノ品物ヲ買ヒ調ヘ共ニ旅館ニ還リケリカクテ夕飯ヲ喫シ畢リケレバアウダハ少シク疲レタリトテ會釋シテ己ガ部屋ヘ入ル跡ニ殘リテフヲッグハ唯ダ獨リ深更マデ端然トシテ龍動刊行ノ「タイムス」繪入新聞等ヲ閲シテ又餘念ナカリキ

若シフヲッグ氏ガ物ニ驚キ易キ人ナラバ人定ノ後マデモ僕ノ歸リ來ラヌヲ怪ムベキ筈ナレ𪜈豫テ横濱行ノ汽船ハ翌朝ノ出帆ト知レバ別ニ不審モ思ハズ眠リニ就キ翌朝ニ至リ鈴ヲ鳴ラシ僕ヲ喚ベ𪜈來ラズ旅館ノ奴婢ニ問ヘバ夜前ヨリ未ダ僕ハ還リ來ラズト答フ之ヲ聞キ心中如何ニ思ヒケルカソハ誰モ測リ知ルベカラザルヿナリ此時丁度八時ナリケレバ直樣肩輿ヲ言付ケアウダ女ニ出發ノ用意ヲナサシメ旅具ヲ携ヘテ立チ出デタリ是レ汽船ノ拔錨九時半ナリト兼テ聞キ置キタルニ由ル左右スル間ニ肩輿モ來リケレバ二人ハ此ニ打乘リ荷物ハ腕車ヘ積テ旅館ヲ出デ行クヿ半時許ニシテ馬頭ヘ着シ乘船セントスレバ傍ラニ人アッテ「カルナチック」號ハ昨夕已ニ解纜シタリト云フ

フヲッグハ馬頭ヘ到ラバ汽船ハ從者ト共ニ己ヲ待ツナルベシト思ヒシニ豈圖ン孰モ此ニ在ラザレバ流石ノ紳士モ當惑セシナランガ更ニ失望ノ色モナク却テアウダガ乘リ後レテ憂慽ヲ慰メテ「貴女ヨ心安ク思ヒ玉ヘ此事ハ唯是レ一時ノ小碍ニ過ギズ」ト此時傍ラニ此體ヲ熟察セシ一士アリ近キテ一禮ナシ「君ニハ僕ト同ジク昨日入港ノ郵船『ラングウン』號ノ乘客ニ候ハズヤ」フヲッグ冷然答テ云ク「言ハルヽ如シ然レ𪜈拙者ハ未ダ謦欬ニ接セシノ榮ナシ」一士「恕シ玉ヘ僕過ッテ君ノ從者ガ君ノ側ニ在リト心得言ヲ掛ケタリ」ト聞テ少婦ハ卒爾此ニ向ヒ「然ラバ君ニハパスパルツーノ所在ヲ知リ玉フニヤ」ト問ヘバ一士ハ故ラニ驚キタル態ヲ粧ヒテ「何ト謂ヒ玉フゾ彼ハ君等ニ扈從致サズ候哉アウダ「昨日ヨリ未ダ歸リ來リ候ハズ多分ハ我等ニ告ゲズ獨リ『カルナチック』號ニ打チ乘リシナラン」一士「君等ヲ差シ措テ斯然ラバ甚ダ無禮ノ問ナガラ君等ハ彼ノ郵船ニ乘リ玉フ筈ナリシヤ」アウダ「言玉フ通如何ニモ」一士「僕モ亦君等ト同

ジク乘船致ス筈ノ處『カルナチック』號ハ機關ノ修復出來シテ廣告ノ時刻ヨリ十二時間前ニ突然解纜致シ候ヘバ我等ハ八日間ヲ曠ウシテ次便ノ郵船ヲ待ツヿカト僕ノ失望頗ル大ナリト陽ニハ云ヘ𪜈八。。。日間ト云フ其時心中ノ喜悦如何許リゾヤ實ニ其八日間ハ是レフヲツグヲ香港ヘ抑留ムルノ日數ニテ其間ニ捕縛令ノ到着ハ疑ヒナシ斯クテゾ時運彌々警吏ノ方ヘ傾斜シタル者ノ如シ

然ルニテモフヲツグハ　然トシテ靜思スルニ香港ノ内ニハ「カルナチック」號ノ外多クノ船モアルヤウ見受ケタレバ「憂ヘズモガナト云ヒツヽアウダノ手ヲ引テ出港スベキ船ヤアルト灣上ヲ眺メ馬頭ヲ徘徊スルヲ見テフヒキスハ茫然ト呆レ居タリ看官宜シク其狀ヲ察シ給ヘ

フヲツグハ若シ便船ノナキ時ハ別段ニ汽船ヲ雇ヒテ行カント心ヲ定メ彼方此方ト港内ヲ巡リ歩行ヿ三時許リニ及ベドモ碇泊ノ船舶ハ皆荷積或ハ荷卸シノ最中ニテ未ダ即日出帆スベキ者一艘ヲモ見出サズサシモニ今日迄萬事好機ニ投ゼシフヲツグモ今ハ勝算漸ク衰運ニ傾キフヒキスハ稍ヤ氣力ヲ復セリ然レ𪜈フヲツグハ更ニ挫ケル氣色モナク若シ此地ニテ一船ヲモ得ズンバ澳門（葡萄牙ノ植民地ニシテ香港ト海ヲ隔テ相對ス）マデモ行ンノ心組ニテ頻ニ船ヲ搜索シツヽ港口ヘ來ル折柄忽チ一個ノ舟人前ニ來リ帽ヲ脱シ會釋シテ云ク「貴客ニハ船ヲ探シ玉フナラズヤ　フヲツグ「直チニ出帆スル船アリヤ　舟人「然リ水路嚮導船第四十三號ニテ其結構港内推シテ第一トスル船ゾ候　フヲツグ「善ク駛ル船ニヤ　舟人「一時間凡ソ八九里ヲ駛ルベシ貴客先ヅ御覧アレカシ、シテ貴客ニハ多分海上ヘ出デテ閑遊ヲ試ミ玉フナルベシ　フヲツグ「否ナトヨ我等ハ旅行スルナリ　舟人「旅行トナ　フヲツグ「横濱迄行クヲ肯フヤ　舟人此言ヲ聞テ戲謔トコソ思ヒケレバ　舟人「貴客戲レヲ言玉フナラン　フヲツグ「否我等ハ故アリテ昨日出帆ノ『カルナチック』號ニ乘リ後レシ者ニテ横濱ヨリ桑港ヘ通フ郵船解纜ノ期ニ後レヌヤウ遲クモ來ル十四日迄ニハ横濱ヘ至ラント思フナリ　舟人「殘念ニハ候ヘ𪜈此事ハ到底成就シ難シ　フヲツグ「我レ汝ニ一日百磅（五百圓）ヲ與ヘン若シ幸ニシテ期ニ合ハヾ貳百磅（千圓）ノ賞金ヲ給セン　舟人「貴客ノ仰セハ實事ニ候フヤ　フヲツグ「決シテ虛言ニアラズト聞テ舟人ハ非常ノ金額ヲ得タサノ慾ト絶海ノ遠航ヲ危ブムノ懼トニ躊躇シテ心中一決セズ兎ヤセン角ヤセント海上ヲ打守リテゾ居タリケルガ側ニテ之ヲ見聞スルフヒキスハ憂慮一方ナラズ此時フヲツグハアウダヲ顧テ「貴女ハ海上ノ危險ヲ怖シク思ヒ玉フヤト問ヘバ少婦ハ「否君ニ從ヒマヰラスル上ハ何トテ怖シク存ジ申スベキト答ヘケリ兎角スル内舟人ハ帽子ノ緣ヲ撚リナガラフヲツグノ前ニ進ミケレバ同氏ハ「如何ニゾト問フ　舟人「去ラバニテ候フ何ニモセヨ二十噸（百五十石）内外ノ小舟ヲ以テ此連陰勝ノ時候ニ斯ル遠洋ノ渡海ハ乘込水手ノ我々ノミケラズ貴客ノ性命ヲモ賭ニスルヿナレバ應ト返答モ致シ難シ且ツ當港ヨリ横濱迄ハ行程千六百五十海里ニ候ヘバ迚モ間ニ合ヒ申スマジ　フヲツグ「千六百里ニ過キズ　舟人「夫ハ同ジ事ニテ候フト聞テフヒキス漸ク哱ト一息ツキケルニ舟人又云ク「去リナガラ外ニ旋ラスベキ手立ナシトモ申サレズト聞テ警吏ノ呼吸復タ塞ガレリ　フヲツグ「其手立トハ如何ナルヿゾ　舟人「當港ヨリ千百里ナル日本ノ西隅長崎港ヘ行クカ、然ナクバ唯ダ八百里ニ過ギザル上海ヘ行クカノ二ツナリ殊ニ上海ヘトナラバ支那ノ地方ヲ離レモセズ且ツ潮勢北ニ向ツテ流ルヽヿユヱ最モ渡海ニ便リヨシ　フヲツグ「我等ハ横濱ヘ行キ米國ノ郵船ニ乘ル積ナレバ長崎上海ハ用ナキ處ナリ　舟人「否々桑港通ヒノ郵船ハ程ヲ横濱ニ起スニハ候ハズ其發着ノ要港ハ上海ニテ長崎横濱ハ唯其寄港スル

所ニ過ギズ　フヲッグ「汝ハ確カナル證據アリテ此ク言フヤ　舟人「素ヨリ然ルヿニテ候フ　フヲッグ「郵船ノ上海ヲ出帆スルハ何日ナルカ　舟人「來ル十一日午後ニ候ヘバ猶四日ノ日子アリ四日ハ卽チ九十六時間ナレバ平均一時間ニ八里宛走レバ八百里ノ距離モ差シテ難キヿニ候ハズ　フヲッグ「汝何時頃ニ出帆スルヤ　舟人「食料ヲ用意シ船具ヲ支度スル間一時間俟チ玉ハバ出帆致スベシ　フヲッグ「然ラバ約束ハ整ヒタリ、シテ汝ハ船頭ナルヤ　舟人「仰ノ通リジョン、バンスビート申シ『タンカデル』號ノ船頭ニテ候フ　フヲッグ「汝前金ヲ望ムヤ　船頭「貴客厭ヒ玉ハズバ願クハ之ヲ申シ受ケン　フヲッグ「然ラバ前金貳百磅(千圓)ヲ渡サント云ツヽ顧ミテフヒキスニ向ヒ「君ニモ此機會ニ同船シ玉ヒテハ如何ト云ヘバフヒキスハ少シモ猶豫セズ「僕ヨリ之ヲ君ニ乞ヒ奉ラント思フ所ニテ候フ　フヲッグ「宜ク候フ半時間以內ニハ乘船致スベシ

アウダハパスパルツーノ歸リ來ラヌヲ痛ク憂ヒテ「彼ノ壯漢ハ如何ニ成リツランナド云フヲフヲッグハ慰メテ「拙者計フ筋アリ必ズ心ヲ勞シ玉フナト云ヒツヽ謀略組織シテ茫然タルノ警吏ヲ跡ニ殘シテ兩人ハ先ヅ香港警察廳ニ趣キパスパルツーノ人相書ヲ出シ之レニ若干ノ金額ヲ添ヘ若シ此者來ルヿアラバ歸國致スヤウ命令セラレンヿヲ賴ミ置キ又佛國領事廳ヘ行キテモ同ジヤウ懇ニ依賴シ畢リ再ビ肩輿ニテ馬頭ヘ來リ彼ノ四十三號水路嚮導船ヘ乘リ移レバ船ハ直チニ纜ヲ解キテ出帆ス此時既ニ午後三時ナリキ

「タンカデル」號ハ貳拾噸(百五十石)積ノ「ゴエレット」形ノ小船ニシテ丈ケ長ク幅狹ク舳頭ハ殊ニ尖クシテサナガラ競走船𪜈云フベキ構造ナリ二本ノ桅檣ハ斜ニ艫ノ方ヘ傾キ本帆前帆頂帆等備リテ如何サマ順風ヲ受クレバ快駛シテ能ク他ノ嚮導船ニ勝チ褒賞ヲモ占ムベシトゾ見エタリケル銅板ノ類ハ輝キ甲板ハ淸潔ニシテジョン、バンスビーノ命令能ク行キ屆キタルヿ知ラル

乘組ハ船頭ジョン、バンスビーノ外水手四名ニテバンスビーハ年齡四十五許リ面貌海日ニ曝サレテ黧ク眼光爛々トシテ勇相アリ從フ水手等モ皆屈强ノ壯夫ニシテ近海ノ水路ヲ熟知シ如何ナル暴風激浪ト雖𪜈物ノ數トモセヌ樣アレバ如何ホド臆病ノ者モ自ラ心神安スク所謂大船ニ乘リタル心地セラルベシトゾ見エタリ

フヲッグハアウダヲ携ヘ船ニ上レバ既ニフヒキスハ先キニ在リ相伴ヒテ艫邊ノ客室ニ入ルニ室ノ四面ニハ長床ヲ置キ中央ニ一脚ノ卓子ヲ具ヘ天井ニハ自搖ノ燈檠ヲ垂ル狹シトイヘド淸潔ナリフヲッグフヒキスニ向ヒ「良室ヲ得テ君ニ供セント思ヘ𪜈見ラルヽ如キ次第ナレバ許サレヨト聞テ警吏ハ默然唯頭ヲ下ゲシノミ是其心中ニ奸賊フヲッグノ客トナルヲ恥ヅレバナリ然クテ其心中ニ思ヘラク此奴中々禮ヲ知ル白者ナリ然レド何處カ賊タルノ樣子ヲ免レズト

英國ノ國旗ヲ後檣ニ翻ガヘシテ三時ノ點鐘ト共ニ出港スルニゾ旅客ハ皆甲板上ニ坐セリ此時フヲッグアウダノ兩人ハ萬一パスパルツーガ追ヒ來ルヿモアランカト思ヘバ唯馬頭ノ方ヲノミ眺メ居タリフヒキスハ昨日曾テ毒計ヲ以テ窘メシ僕ノ萬一追付キ來ラバ我計策忽チ破レ由々シキ大事ヲ惹キ起スベシト思ヘバ胸中悸々トシテ穩ナル間ナカリシガ終ニ其來ラザルヲ見テ彌々彼ハ痲醉藥ニ醉ヒテ今ニ醒メヌ者ト察シ稍ヤ安堵ノ思ヲナセリ

須臾ニシテ港ヲ出デ滿船ノ布帆順風ヲ孕ミ船身水ヲ蹋デ波間ニ跳レルヿ猶長鯨ノ波濤ヲ破ルガ如シ

第貳拾壹囘

支那ノ沿岸ハ數々暴風起リテ常ニ危險ナル水路

ナルニ取分ケ秋分ノ頃ハ最モ甚シフヲツグ等ノ旅ハ頃シモ十一月初旬ニ際シ二十噸ヘ百五十石内外ノ小船ニ駕シ八百餘里ノ長程ヲ航スルナレバ危險ノ極トモ謂フベシ左レバ舟人ガ遙ケキ横濱ヘ航シ賃銀ノ巨額ヲ欲セザルモ尤モノヿト知ラレタリ上海ヘ行ント欲スルスラ既ニ大膽ノ望ミナルニ若シ舟人等ガ慾心ヲ抑ヘズシテ此危險ノ海路ヲ渡リナバ其果テハ如何ゾヤ然レ𪜈ジョン、バンスビーハ「タンカデル」ノ堅牢ナルヲ恃ミ更ニ怖ルヽ氣色ナシ

サテ「タンカデル」ハ其日ノ夕方ニ至ルマデ風ノ逐フニ任セ沿岸ノ屈曲ニ從ヒ左轉右折シテ進行スルニゾ其快利ナル最面白ク賞賛スルニ餘リアリ

彌々進ンデ最早沖合ヘ出ントスル時フヲツグハ船頭ニ向ヒ「云フ迄モナキヿナレド精々骨折リテ舟ノ迅速ナルコソ望マシケレ」舟人「貴客心ヲ煩セ玉フヿナカレ前帆後帆トモニ風ヲ測テ十分張リ揚ゲタレバ此上頂帆ヲ開クモ舟行ヲ助ケズ却テ船身ヲ抑ヘテ速力ヲ減ズルノ恐レアリ」フヲツグ「汝能ク職掌ヲ勤ムルカラハ我又何ヲカ申スベキスベテ汝ノ爲ス所ニ任セン」ト云ヒツヽフヲツグハ恰モ海客ノ如ク足ヲ開テ直立シ逆カ巻ク波濤ノ動搖ニ蹌キモセデ眺メ居タリ少婦モ亦舷邊ニ坐シ日モ早ヤ暮近ク四方ノ物淒シク渺茫タル海原ヲ唯一葉ノ輕舟ニ乘リテ馳ルナレバ心中自ラ悽然タリ仰デ檣頭ヲ見レバ布帆風ヲ銜デ翼ノ如ク船身波ヲ衝テ飛揚シ遠ク之ヲ望メバ恰モ飛鳥ノ空ヲ翔ルニ彷彿タリ

須臾ニシテ日全ク暮レ一鉤ノ新月纔ニ淡光ヲ雲間ニ放チシモ頓テ西ヘ傾キハヤ晩霧ニ鎖サレテ影愈々暗ク加之濃雲南方ヨリ起テ既ニ半天ヲ蔽ヒケレバ船頭ハ號信燈ヲ點シテ兩舷ニ掲ゲリ蓋シ要港ノ近傍ハ船舶ノ往來繁ク往々衝突ノ難アルヲ以テ豫メ之ヲ防グナリ若シ此注意ヲ怠リテ他船ト觝觸スレバ速力ノ劇シキヨリ稀有ノ災害ヲ起スヿアリトゾ

フヒキスハフヲツグノ言語寡キヲ知リ且己モ言ヲ交ルヲ厭ヘバ唯獨リ舳頭ニ在テ思案ニ沈ミツヽアリ斯クテ將來ヲ察スルニフヲツグハ足ヲ横濱ヘ止メズ直ニ桑港通ヒノ郵船ニ打乘リ廣袤無比ノ米國ヘ走ツテ官ノ追捕ヲ遁レント企ツル者ノ如シ警吏ノ見ル處ニ據レバフヲツグノ奸智ニ長ケタルヿ尋常ノ偸兒ガ直ニ米國ヘ走ルガ如キ陳手段ニ倣ハズ警察官ノ目ヲ掠メ故ラニ東洋ヲ迂回シ心靜ニ米國ヘ遁レ彼ノ地ニ至ルニ及ンデ倫テ銀行ヨリ盜ミ來リタル數十萬ノ金額ヲ資本トナシ榮華ニ暮ラサントスルヤ了然トシテ疑ヲ容レズ然レ𪜈假令米國地方ヘ到レバトテ爭デカ之ヲ不問ニ措クベキ否ナ何ゾ之ヲ遁スベキ必ズ米國政府ニ乞ヒ追捕セザル其内ハ僅ノ間モ眼ヲ放タジ是素ヨリ我ガ職務ナリ爭デカ果サデ已ムベキヤ此クテ之ヲ行フニ僥倖ナルハ豫テ謀リシヿトハ云ヘ𪜈パスパルツーガ傍ニ無キニアリ彼レ既ニ我ガ意衷ヲ知ル者ナレバ其主ニ再會セシメザルコソ緊要ナレト獨リ點頭キ居タリケリ

フヲツグ氏モ同ジク思案其僕ニ及ビ熟々考フルニ彼ノ壯漢ハ疎忽ニモ何カ言ヲ誤解シ既ニ纜ヲ解ク間ニ慌立シク「カルナチック」號ヘ行キ其儘出發セシヤモ知ルベカラズト云ヘバアウダハ元來大ニ彼ノ忠誠ヲ愛シテ其知レザルヲ嘆ク折ナレバ矢張同ジ心ニテ若シ横濱ヘ到着ノ上萬一彼ノ來リ居ルニ遭ハヾ如何許リカ嘻シカランナド語リ合ヒニケリ

夜モハヤ十時ニ近ヅク頃ヨリ風力稍ヤ激シク帆ノ一部ヲモ收ムベキホドノ勢ナルニ船頭ハ熟々青空ノ模様ヲ望見シテ更ニ舟ノ方向ヲ變ヘズ是レ「タンカデル」ノ構造ハ水脚深クシテ能ク風ノ推力ニ堪ヘ且ツ假令暴風雨ノ起レバトテ迅速ニ滿檣ノ布帆ヲ收メ得ベキ術アレバナリ

夜半ニ及ンデフヲッグアウダノ兩人ハ共ニ降テ室ニ入レバフヒキスハ先キニハヤ其床上ニ横臥セリ船頭及ビ水手等ハ皆終宵甲板上ニ在リテ少シモ休息セズ居タリケリ

明クレバ八日朝暾正ニ水ヲ離レントスル頃已ニ百里ヲ走レリ船頭ハ屢〻速器ヲ投ジ舟行ヲ點檢スルニ其速力八九里ノ間ニアリテ綱具悉ク張リテ弛ミナケレバ速力ハ蓋シ最高ノ點トゾ知ラレタル若シ風力ノ此儘ニテ減ズルナクバフヲッグノ勝算空シカラザルベシ此日ハ潮勢ニ從ヒテ地方ヲ去ルヿ遠カラネバ時々遥カニ地方ヲ見ル此邊ノ海岸ハ凸凹トシテ自ラ故郷ノ樣ト事變レバフヲッグハ意ヲ山水ニ委ヌル人ナラネド自然心ヲ慰メテゾ居タル加之風ハ地方ヨリ吹キ來ルヲ以テ海波甚ダ高カラズ眞ニ僥倖ト云ベシ若シ然ラズシテ怒濤天ヲ蹴ルノ航海ニテハ「タンカデル」ノ如キ小船ハ只波濤ニ阻ゲラレ速力大ニ減ジ思ハズ遲延スルハ一定ナリ正午ニ及ンデ風威少シク和ギ東南ニ轉ジケルユヱ船頭ハ上段ノ帆ヲ十二分ニ開キシガ二時間計ニシテ復タ勁風トナレリ

フヲッグアウダノ兩人ハ幸ニシテ船暈ニ感ゼヌ性ナルヲ以テ船中貯藏ノ乾餅鑵詰ノ食物等ヲ飽マデ食ヒ又フヒキスニモ之ヲ薦ムルニ警吏ハ心中奸兒ノ食ヲ受クルヲ不快ニ思ヘ𪜈何如セン胃モ亦小船ノ如ク物ヲ載セテ其重力ヲ取ラザルベカラザルガ故ニ已ムヲ得ズ食ニ就キ其畢ルニ及ンデフヲッグヲ傍ヘ招キ云ヘルヤウ「君ヨトコノ君ノ一言ハ蓋シ警吏ガ脣皮ヲ張裂ク許リノ心ニテ言出シタル語ト知ラレタリコノ君ナル者ノ襟元ヲ捕ヘント思フ心ハ燃ユル計ナレド愼テ顔色ヲ粧ヒ「君ノ僕ヲシテ此船ニ客タルヲ許シ玉ヒシハ感謝スルニ堪ヘズ僕ノ資力素ヨリ君ノ如ク大金ヲ出スニ堪ヘネド又相應ノ資金ヲ出サント存ズ　フヲッグ「君此等ノ言ヲ說ク勿レ　警「然レ𪜈僕ハト言ハントスルヲフヲッグハ押シ止メ「否々是レ皆總費ノ内ニアリ兎ニ角ト言玉フハ無益ノヿニ候フト云ヘバフヒキスハ返スベキ言ナク胸益〻迫リ來レバ只頭ヲ下ゲシノミニテ舳邊ヘ去リ終日復タ語ヲ交ヘザリキ此間舟行頗ル迅速ナレバジョン、バンスビーハ期限ニ後レズ上海ヘ着スルヿト竊ニ喜ビ屢〻此有樣ヲフヲッグニ物語ルニ同氏ハ只必定望ノ通リニ至ルベシト答フルノミ又船中ノ水手一同ハ巨額ノ賞金ニ垂涎シテ奮發盡力シ能ク其職ヲ執ルヿ假令英京競爭船會ノ折柄モ斯クハアラジト見エタリ

其夜ニ至リバンスビーハ驗速器ニ據テ香港ヨリ來リシ行程ヲ測ルニハヤ二百二十里ヲ走レリ是ヲ以テ推セバフヲッグハ横濱ヘ着スルニ更ニ遲緩スルヿナシサレバ龍動發程已降始メテ遭遇セシ危難モ亦同氏ノ目的ヲ妨グルヿトナラザルベシ

天明ノ頃ヨリシテ船ハ福建ノ岸ニ沿ヒテ臺灣ノ海峽ニ入リ將ニ熱帶線ヲ離レントス然ルニ峽中ハ潮勢逆流シテ波濤頗ル險惡ニ船身頻リニ動搖シテ甲板上ニ佇立スベカラズ駛行モ亦昨夜ノ如クナラズ日ノ昇ルニ及ビテ風威彌〻加ハリ天色暴風ノ兆ヲ露ハシ晴雨鍼モ亦昇降定マラズ遥ニ東南ノ洋面ヲ望メバ連濤相激シテ颶颱將ニ起ラントスルガ如シ殊ニ昨夕太陽ノ沈ムニ當テ洋上燐氣ヲ發スルヿ多カリケレバ船頭ハ暫ク此有樣ヲ熟察シ齒間微言シツヽ居タリシガ此時フヲッグノ傍ヘ來ルヲ見テ小聲ニテ「貴客ヘハ何事ヲモ明白ニ申スベキカ　フヲッグ「何ナリ𪜈云ヘ　船頭「然ラバ申サン今ニ烈風吹キ來リ大ニ困難ナルベシト云フフヲッグハ之レヲ聞モ騷ギタル氣色ナク南方ヨリ來ルニヤ或ハ北方ヨリナル歟　船頭「南ヨリ來ルアレ見玉ヘ回旋颶ノ起ル兆候ヲ　フヲッグ「南ヨリ來ラバ追手ナリサラバ却テ我等ガ爲メニ便ヨシ深ク怖ルヽニ足ラズ　船頭「貴客ノ如クニ論ジ玉フ上カラハ某

ニ於テハ別ニ心配ナク候フトゾ言ケルスベテ夏季ヨリ初秋ノ間ニ起ル回旋颶ハ多分暫時ノ事ニシテ只電光暴風ノ間ニ閃メキサシテ恐ル丶程ニモアラズ然レ𪜈冬季ニ近ヅケバ往々猛烈ヲ極ムルモノ多ケレバ船頭ハ其難ヲ避ケン爲メ豫メ布帆ヲ卷キ收メ桅檣ヲ短ク縮メ室戸ヲ密ニ閉ザシ海水ノ船中ニ入ルヲ防ギ只一片ノ三角帆ヲ揚ゲテ駛行ニ備ヘ狂風ノ襲來今カト固唾ヲ呑ンデ待チタリ是ヨリ先キニ船頭ハ乘客ニ室内ヘ降リ其歇ヲ待チ玉ヘト勸メケレ𪜈フヲツグアウダノ兩人ハ清氣ノ通ゼヌ隘室ヘ蟄シ怒濤ノ激動ニ搖ラル丶ハ堪ヘ難シトシテ肯ガハズフヒキスモ亦同ジク甲板上ヲ去ラズシテ居タリ兎角スル間ニジョン、バンスビーノ先見違ハズ烈風暴雨大ニ至リ其風力ハ測リ知ルベカラズト雖𪜈其速力ハ最迅ノ汽車ノ四倍ニモ超過セリサハ逆カ卷ク波濤ヲ衝テ進ムヿサナガラ羽毛ノ風ニ飜々タル如ク怒濤狂瀾ハ雪山ノ崩ル丶ガ如ク小舟是ガ爲ニ殆ンド埋メラル丶ヿ數十回ニ及ビ乘客モ海水ヲ被ルヿ屢々ナリ然レ𪜈バンスビーハ畢生ノ力ヲ出ダシ巧ニ舵ヲ操リテ幸ヒニ覆沒ノ難ヲ免レタリ蓋シフヒキスハ胸裏陰ニ其職務ノ苦辛ヲ歎ジ又風雨ノ猛烈ナルヲ憤ルナルベシト雖𪜈アウダハ同行紳士ノ自若トシテ物ニ恐レヌ容貌ヲ見テ自身モ其伴侶タルニ恥ヂザラント同ジク悠然トシテ其傍ニ立テリ然レ𪜈幸ヒニシテ風勢南ヨリ吹キ來リ追手ナレバ勢ニ乘ジ北ヘ北ヘト進行セシガ日暮ニ及ビ回旋颶ノ常トシテ俄ニ西北ニ轉ジ鯨濤側面ヲ撲テ船身ノ動搖スルヿ頗ル激烈ナリ若シ構造堅牢ナラズシテ乘客ノ信ヲ措ク能ハザル船ナラバ魂ヲ消シ魄ヲ奪フヤ是時ヨリ甚キハナカルベシ夜ニ入リ風雨益々急ニシテ六合黯黑ノ如ク咫尺ヲ辨ゼズ是ニ於テ流石ノバンスビーモ大ニ憂慮ヲ懐キ何レノ港ヘカ立寄リ難ヲ避クベキ期迫レリトテ水手等ニ議リテ後チフヲツグノ傍ヘ進ミ「見ラル丶通リ益々劇シク候ヘバ暫ク船ヲ海濱ノ一港ヘ寄セ候フコソ良全ノ策ト存ズルナレ　フヲツグ「予モ亦斯ク思フナリ　船頭「如何ナル港ヘ寄セ申スベキト問ハレテフヲツグハ悠然トシテ答テ曰「我志ス所只一港アルノミ　船頭「シテ其港ハ　フヲツグ「上海ナリト聞キテバンスビーハ初メフヲツグノ豪膽不屈ノ精神ヲ含有スルヲ覺ニザリシガ今之ヲ聞キ了リテ一叫シテ曰ク「然ラバ貴客ノ望ニ應ジ上海ヘ參ルベシトテ爾來船首ヲ北向セシ儘更ニ之ヲ變ゼズ此時其危險云フベカラズ天ヲ蹴テ起ル巨濤船ヲ沒シ覆ヘラントスルヿ二回其魚腹ニ葬ラレザルハ眞ニ不思議ノ僥倖ト云フベシ此際若シ誤テ手ヲ弛メバ忽チ波濤ノ押シ流ス處トナルヤ必定ナリ　アウダハ船暈セヌ性ナレ𪜈流石ニ猛浪劇波ニ搖ラレ疲勞ノ餘リ殆ンド轉ゼントスルヲフヲツグニ扶ケラレ辛ウジテ踏ミ留マリシヿ數度ニ及ベ𪜈敢テ一言モ其苦サヲ說クヿナカリキ

夜已ニ明ケタレ𪜈風雨未ダ衰ヘズ然レド其方向復タ東南ニ轉ジ稍ヤ舟行ノ便ヲ助クルヲ以テ「タンカデル」ハ大ニ速力ヲ加ヘタリサリナガラ風向俄ニ變ゼシヲ以テ逆浪相衝突シテ愈々怒騰シ海面益々險惡ナリ若シ尋常ノ船ナランニハ纔ニ二十噸內外ニシテ此風波ヲ凌ギ犯サバ忽チ破碎セルヤ疑ヲ容ルベカラズ

サシモニ激烈ノ航海ナレ𪜈折ニ觸レ積雲重霧ノ絕エ間ヨリ陸地ノ見ユルヿアリテ少シハ頼モシク思ハルレド又四方ヲ顧ミレバ更ニ一船ノ漂フ者ナク此暴風ヲ冒シテ航海スルハ唯ダ「タンカデル」一艘ノミナリキ

午時ノ頃ニ至リ颶風少シク衰ヘ日沒ニ垂ントスルニ及ンデ益々日和ノ徵ヲ現ジタリ然レ𪜈暴風未ダ全ク止マズ夜ニ入リ稍ヤ其和グヲ見テ船頭ハ水手ニ令シ復モヤ帆ヲ三四合ニ掛ケシメ

タリ是ニ於テ其速力大ニ増シ昨日ヨリノ遅緩ヲ償フベクゾ見エタル乗客ハ各〻疲困ヲ極メ僅ニ空腹ヲ補ヒテ眠ニ就ク明クレバ十一日曉天船頭ジョン、バンスビーハ熟々陸地ノ狀ヲ察シテ上海ヲ距ル百里許リナルヲ知レリ然レ𪜈乗客ガ横濱行ノ郵船解纜ノ間ニ合フニハ今夕六時迄ニ彼處へ着セザルベカラズシテ猶前路ノ百里ヲ今日中ニ走リ過ギザルベカラズ若シ昨日ヨリノ颶ニ遭テ數時間ヲ曠ウスルヿナカリセバ目今ハ既ニ三十里前後ノ距離ニ在リシナランニ反ス反スモ殘念ナリト獨リ言シテゾ居タリケル

風威次第ニ減ジテ未ダ全ク其止ムヲ知ラザレ𪜈幸ニシテ波濤モ隨テ柔ラギ滿檣布帆ヲ開キ頂帆斜帆モ十分ニ孕ミ飛沫其舳下ニ漲ッテ舟行矢ノ如シ正午猶餘ス所ノ行程四十五里ナリ是ニ於テ船中懼ヲ懷クヿ頗ル切ニ皆今カ今カト待チ侘テ胸中自ラ悸々トシテ安ンゼズ此内自若タルハ只フヲッグ一人ノミナリキ元來颶風ノ常トシテ忽チ起ルモ又忽チ止ミ海面平穩ニ歸シ颶後ハ更ニ勁風ノ憑ムベキナシ既ニ風力ハ減ジタレ𪜈幸ヒニ船身輕ク滿檣ノ布帆能ク風ヲ受ケ加之潮勢自ラ船ヲ誘フヲ以テ午後六時頃上海ノ河口ヲ距ルヿ十里許ノ處ニ至レリサレ𪜈目指ス港ハ江流ヲ溯ルヿ猶十二里ノ處ニ在リ

時正ニ七時ニ至リ「タンカデル」號ハ河口ヲ距ルヿ猶三里ニアリ是ニ至テ船頭ハ彼ノ貳百磅（千圓）ノ賞金ヲ得ル能ハジト思ヘバ大ニ歎息シナガラフヲッグノ擧動ヲ窺フニ同氏コソ一身ニ屬スル財産ヲ擧テ失フト得ルトハ只此咫尺ノ間ニアル者ナレ𪜈自若トシテ平常ニ異ナラズ此時忽チ雲際一抹ノ黑烟ヲ噴テ長梭ノ過グル如キヲ見ル是レ別物ナラズ太平海郵船ノ定規時限ヲ違ヘズ横濱ヲ差シテ出帆スルナリバンスビーハ之ヲ見テ失望ノ餘リ思ハズ舵梃ヲ放チ「咄ッ失敗」ト一叫スレバフヲッグハ騒ガズ一信號ヲ爲セヨト一令ヲ下セバ豫テ舳邊ニ信號ノ爲メトテ備ヘタル小徑ノ鑄砲ヲ十二分ニ裝藥シ今ヤ船頭ハ火ヲ火門ニ點ゼントスルトキフヲッグハ又令シテ國旗ヲ半檣ニ下サシム蓋シ是レ遭難需救ノ信號ニテ郵船之ヲ見バ必ズ舵ヲ旋ラシテ來リ救ンヿヲ恃メバナリ此クテ砲聲一發忽チ空中ニ轟キ餘響遙ニ雲際ニ鳴リテ殷然タリ

第貳拾貳囘

汽船「カルナチック」號ハ物貨ヲ滿載シ乗客ヲ充搭シテ午後六時ヲ相圖ニ香港ヲ出帆シ彌〻汽力ヲ熾ンニシ日本海へ向ケ駛行ス然ルニ船中上等客ノ子房空ナル者貳箇アリ蓋シ是レフヲッグノ需ニ應ジテ他客ニ供セザル所ナリ翌朝ニ至リ舳ノ方ニアル二等客ノ子房ヨリ醉眼朦朧蓬頭狼藉タル一個ノ人蹣跚タル足ヲ踏ミ留メ踏ミ留メ如何ニモ疲困ノ狀態ニテ出デ來リ甲板上ノ胡床ニ就ク者アリ是レ別人ナラズ彼ノパスパルツーニテゾアリケル爰ニ其由來ヲ尋ルニ彼レ向キニ香港ノ吸烟室ニ在リシ時フヒキスガ其所ヲ去ッテ幾モナク小使共ハ其熟睡ノ體ヲ看テ徐カニ之ヲ奥ノ方ナル寢床ノ上へ移シ臥サシメシニ三時許ノ間ハ人事ヲモ知ラズ昏睡セシガ流石ニ未ダ果サヌ一事ノ心頭ニ掛レルヿアレバ忽然ト目ヲ覺シ起キ上ガラント蹀ケ𪜈痲醉劑ノ餘毒未ダ消エ失セズ少時ハ唯ダ顚轉セシガ漸〻ニシテ我ニ復ヘリ蹌踉ク足ヲ踏ミ占メテ寐ボレタル音聲ニテ「カルナチック」ト叫ビツヽヤヲラ此ヲ立チ出レバ汽船ハ唯數歩ヲ距テ馬頭ニ横ハリテ蚤ヤ汽力ヲ盛ニシ既ニ出帆ノ際ナリ斯リケレバパスパルツーハ周章狼狽シテ板橋ヲ踰エ船中ニ入ルガ否ヤ身體ハ氣力ト共ニ竭テ其儘舳頭ノ甲板上ニ倒レタリ此時方ニ「カルナチック」ハ纜ヲ解テ稍ヤ行進ヲ始ムル時ナリキ凡テ水夫等ハ此ノ如キ景狀ヲ目擊スル

「珍シカラネバ敢テ怪ミモセデ靜ニ之ヲ扶ケ階ヲ降リ二等ノ子房ニ安眠セシメタリサテ汽船ハ香港ヲ距ル百五十里計リ來レル時パスパルツーハ昏睡僅ニ醒メタレド未ダ平生ニ復セズ斯クテ今朝ニ至リパスパルツーハ汽船ノ甲板上ニ來ツテ清鮮ノ大氣ヲ呼吸スルニ隨ヒ宿醉モ漸次ニ醒ムルニ付ケテ如何ニシテ此船中ヘ來リシカト心ヲ落チ付ケ考レドモ更ニ記憶ノ緒ヲ得ザリキ良少時シテ漸ニ昨日フヒキスト會合シ吸烟所ヘ伴ハレ夫ヨリ警吏ガ密話セシ事共ヲ思ヒ出シ我ニ問ヒ我ニ答ヘテ「予ハ何ニセヨ昨日痛ク沈醉セシニ違ヒナシサレバ主君ニ見エナバ何ト云ヒ玉フカ測ラレズ左ハ去ナガラ出帆ニ後レザリシハ先々一大僥倖ナリキ其ニ付ケテモフヒキスノ事ヲ思ヒ出シ「彼奴ハ昨日其意中ヲ予ニ明カセシ上ハヨモ片意地張リテ此『カルナチツク』迄ハ來ルマジ左スレバ今度コソ彼奴ヲ擯ヒ除ケタルハ必定疑ヒナシ噫我ガ主君ヲ英國銀行ノ金ヲ偸ミ逃亡スル賊ナランカト嫌疑シ一警吏アツテ追尾シ來ルトハ何事ゾヤ言ハデモ知レシヿナガラ主君ニ竊盜ナドノ犯罪ナキハ正シク予ノ身上ニ暗殺ナドノ惡逆ナキガ如シト云ヒツヽ又倩〻考ル樣此事柄ヲ主君ニ告ゲテフヒキスノ言行如何ヲ知ラシムベキカ將タ暫ク之ヲ己ノ方寸ノ中ニ祕メ置キ龍動ヘ囘着ノ日ヲ竢テ後英京警視局派遣ノ一吏ガ君ニ尾シテ來リシ事アリシト告ゲテ一笑話柄ノ種ニ供スベキカ思フニ後日ヲ竢ツテ徐ニ物語ルニ如カザルベシ孰レニモセヨ熟考ノ上ニテ好キ分別モアルベシ目今ノ急務ハ主君ノ榻下ニ趨ツテ自ラノ過失ヲ謝スルニアリトテ立チ上ラントスレバ折惡シク怒濤舷ヲ打チ船身轉顚スル最中ナレバ立チ歩ミ難ク蹌踉ナガラ辛ウジテ艫ノ方ヘ到リ甲板上ヲ見廻ハスニ主人ニ似シ人モ又アウダニ類セシ婦人モ絶テ玆ニハ在ラザリケレバ「解セリ解セリアウダ貴婦ニハ猶床ニ在リ玉ヒ主君ハ又誰カ好敵手ニ遭テ例ノ骨牌ニ耽リ玉フナラント獨言メ階子ヲ降リ客室ニ到リ見ルニフヲツグハ此處ニモ在ラザリケレバ會計ノ許ヘ行キ「フヲツグ君ノ子房ハ何レナルカト問フニ「斯樣ナル姓名ノ乘客ハ本船中ニ在ラズト答フ之ヲ聞テパスパルツーハ推返シテ「否ナ否テ在リ玉フ筈ナリ其君ハ軀幹長大ニ風姿威容アリ沈默ニシテ冗話ヲ好マズ且ツ年少ノ一婦人ヲ伴ヒ玉ヘリ會計「當船中ニハ少婦ノ乘客ハ一名モナシ若シ疑ヒ玉ハヾ念ノ爲メ此乘客姓名簿ヲ見玉ヘ

最初ノ間ハ誤テ他船ヘ乘リシナランカト怪ミシニ自身ハ現ニ「カルナチツク」ニ搭ジ來レドモフヲツグトアウダハ却テ是ニ在ラザリケレバ滿胸ノ迷霧俄ニ消散シ昨日本船解纜ノ時刻縮ミタルヲ主人ニ報道スベカリシニ過テ告ゲザリシニ因リ今日ノ事アルヲ知リパスパルツーハ心神昏迷シテ思ハズ傍ノ椅子ヘ倒ルヽ許リニ腰打チ掛ケ熟〻考ルニ今フヲツグ氏等ガ便船ニ乘リ玉ハヌハ正シク我ガ過失ニ出ヅトハイヘドモ我ヲ昏醉セシメ主君ヲ香港ヘ抑留ムル毒計ヲ旋ラシタル奸奴アラズバ此不幸ニハ遭フマジキニト漸ク警吏ノ計中ニ陷リシヲ曉レドモ已ニ其甲斐ナカリケリ又憶ニ同氏ハ便船ニ乘リ後レ玉フ上ハ既ニ捕縛セラレテ囚獄ノ裏ニ繋ガレ玉ヒシモ計ラレズ兎ニ角ク家産ヲ破リ玉フヿハ必定ナリサゾカシ主君ハ憤リテゾ在スラント後悔ノ涙雨ノ如ク自ラ頭髮ヲ握リ拔キツヽ憤ルノミ嗚呼他日若シ警吏ノ之ト再會スルヿアラバ其報怨ノ擧ハ如何ニゾヤ

怒氣稍ク鎭ルニ從ヒ精神モ亦漸ク我ニ復リ熟〻身ノ現狀ヲ考レバ身ハ今マ日本ヘ向テ航行ノ郵船中ニ在ルヿユヱニ彼地ニ到ルハ確實ナレド囊中元來片銀ノ蓄モアラネバ彼地ヲ去ルニハ如何ナル手立ヲ用ヰルベキ此船賃ハ前拂ナレバ幸ヒニ寢食ヲ缺クニ至ラザレド到底

五六日ノ内ニハ一策ヲ案メテ行ナハネバ饑渇ニ迫ル困難ニ陷レリト覺悟ヲ極メケレバ食卓ニ向テモ主人ノ分マデヲモ飽食スル態恰モ前路ニ當ル日本國ハ食物ノナキ無人郷ナルヲ以テ豫メ食ヒ置キヲ爲ス者ノ如クナリキ

十三日曉天ノ高潮ニ乘ジテ郵船ハ滯ルヿナク横濱港ヘ着セリ抑モ此港ハ北米洲ヨリ太平洋ヲ踰エテ支那日本呂宋ノ地方ヘ往來スル船舶ノ寄港スル處ナレバ實ニ要衝ノ地ナリ其位置ハ日本帝國第二ノ首府ナル江戸ヲ距ルヿ遠カラズ其海灣ニ臨ンデ新タニ設ケタル開市場ナリ江戸府ハ昔時曾テ將軍ノ居城ニシテ萬機ノ首府ナレバ神孫帝子ノ居地京都ト繁盛ヲ頡頏スル廣大ノ一都府ナリ

「カルナチック」ハ横濱稅關ノ波止場ニ近キ錨ヲ萬國ノ船舶羅列スル間ニ投ジケレバパスパルツーモ已ヲ得ズ上陸スレド身ハ香港以來爲ス事毎ニ鶍ノ嘴ト喰ヒ違ヒケレバ心中快々トシテ樂マズ行末ヲ考フレバ何ンゾ珍奇ニ富ム旭日國ニ來ルトモ喜ブニ遑アラン是ヨリ別ニ目的モナク只市中ヲ足ニ任セテ徘徊セリ

パスパルツーガ初メ至レル所ハ所謂洋人居留地ニテ家屋ノ構造概シテ高カラズ二階ニハ廣キ緣側アツテ其下ハ美麗ナル連柱ヲ以テサヽヘタリ衢街ノ景狀全ク歐風ニシテ十二天岬ニ起リ江岸ニ至テ涯ル此地モ亦香港ト同ジク英米淸蘭等各國ノ商賈ガ輻湊シテ一切ノ物品ヲ賣買スル最繁昌ノ湊ナレ𪜈パスパルツーハ此地方ニ識ル人ナケレバ亞弗利加南部「ホッテント」ノ國ヘ俄然雲際ヨリ降リシ者ト更ニ異ナラザル思ヒヲナシタリ横濱在留ノ英國或ハ佛國ノ領事廳ヘ行キ子細ヲ述ベテ保護ヲ乞フノ策固ヨリナキニハアラザレド然ルトキハ自ラ主人ノ身ニ關スルヿマデモ明白ニ言ハネバナラズサレバ此窮策ヲ用ルニ先ダチ他ノ萬策ヲ試ミ盡サント心ヲ決シ居留地内ヲ徘徊シタレド別ニ何等ノ策ヲモ考ヘ得ザレバ思フヤウ若シ此地ニテ術ナクバ江戸迄モ行カント漸ク日本街ノ方ヘ至レリ此邊ハ邦人ノ尊信スル一神女ノ名ヲ取テ辨天ト稱セリ路傍ニ奇異ナル構造ノ神門アリ入リテ見レバ老杉古松道ヲ挾ンデ生ジ一虹ノ板橋竹林ニ沿ウテ架レリ神殿ハ其奧ニ在テ老松鬱蒼トシテ蔭ヲ爲シ閑靜ナル趣アリ是ヨリ市街ノ方ヘ至レバ數個ノ兒童群遊スルアリ其容顏ハ淡紅ヲ帶ビ兩頰ハ殊ニ赤シ此兒輩ノ猫犬ヲ逐テ戲ムルヽサマ正ニ是レ日本風俗ヲ描キシ屏風ノ一片ヲ突然眼前ヘ齎シ來ルカト疑ハルヽバカリナリ斯クテパスパルツーハ嘗テ見慣レタル故國ノ風トハ凡テ事異リ見ル物ゴトニ珍シカラヌハアラザレバ我ガ身ノ上ヲ氣遣ナガラモ思ハズ知ラズ市街ヲ打チ過テ其群衆ヲ見ルニ僧侶ガ鼓ヲ鳴ラシテ街頭ニ佇ムアリ腰ニ雙刀ヲ帶ビ頭ニ陣笠ヲ戴イタル官吏アリ連錢ノ戎衣ヲ穿チ表ニ絹地ノ軍裝ヲ穿テルハ天子ノ近衞タルベク紺色ニハ白筋ノ入リタル綿服ヲ着シ後裝銃ヲ肩ニスルハ鎭臺ノ兵タルベシ其他貴賤ノ軍人枚擧ニ遑アラズ是蓋シ日本ハ淸國ノ風ニ反シ兵事ニ鞅掌スルヲ榮トスルノ風習ナレバナラン男子ハ概ネ足細クシテ且短ク幹材小ナルヲ多トス頭上漆黑ノ髮ヲ結ビテ髻ヲ作リ容顏或ハ銅色ノ黧黑ナル者アリ或ハ白キ者アレ𪜈淸國人ノ如ク黃萎ノ者ハ壹人モアラズ女子ハ細瞼黑歯概シテ美ナラズ然レ𪜈華麗ノ衣裳ヲ着シ腰ニ大幅ノ帶ヲ纏ヒ之ヲ結デ團々タル大環ヲ作シテ背後ニ垂ル近頃巴里ノ婦女子ガ帶端ヲ垂ルヽハ蓋シ日本ノ風俗ニ倣ヘルナラン足ニハ草履或ハ木履ヲ穿チ徐々トシテ車馬肩輿ノ馳セ違フ間ヲ往來セリパスパルツーハ此異容ナル群衆ノ間ヲ徘徊シツヽ或ハ日本國産ノ珍器奇物ヲ陳列セル賣店ノ前ニ佇ミ或ハ招旗翩翻トシテ客ヲ麾ク酒樓ノ前ニ至レ𪜈如何セン囊中空虛ナレバ樓ニ登ルヲ得ズ又此地別ニ茶屋ナル者アリ茶ヲ喫スルノミナラズ此店ニ就

テ溫酒ヲ飲ムベク又美烟ヲ喫スベシ蓋シ酒ハ米ヲ以テ醸ス所ナリ然レモ此地ハ阿片烟ヲ吸ヲ許サズ物珍サノ餘リ偶然市街ヲ行過ギ頓テ田舍ニ至レバ四顧皆廣漠タル稻田ニシテ群鶴其間ニ縱遊セリ鶴ハ土俗推シテ鳥類ノ長トナシ且是ヲ長壽ノ瑞祥トナセリ又處々ニ亭々タル老杉ノ蒼鷹ヲ栖マシメ裊々タル垂柳ノ白鷺ヲ息ハシムルアリ農家ノ狀ヲ見レバ竹林繞ツテ自ラ墻ヲナシ園中林檎梅櫻等ノ菓木ヲ栽ウ然レモ邦人ノ愛玩スル所ハ其實ニアラズシテ却テ其花ニアリ鳥ノ來テ無情ニ之ヲ啄ムヲ恐レ異形ノ案山子或ハ鳴子ヲ高ク枝間ニ揭ゲテ恐嚇ノ具トセリ此中最モ驚クニ堪ヘタルハ艷然タル椿花ノ嚴霜ニ傲テ巨樹ノ朶上ニ咲キ亂レタルナリ歐洲ニアル所ノ矮小ナル盆栽樹ノ比ニアラズパスパルツーハ忽チ路傍ニ紫菫花ノ笑ヘル如ク咲キケルヲ見喜ンデ「善イ哉我ガ晩餐ニ供ススベシト云ヒツヽ採テ之ヲ齅グニ淡白ニシテ香氣ナケレバ喟然トシテ「噫不幸ナル哉ト打歎キケリ壯夫ハ遠ク慮リテ上陸スル以前ニ主人ノ分マデモ勉メテ貪饕シタレモ如何ニセン朝ヨリ終日徘徊シタルヿナレバ空腹ヲ覺エ食ヲ欲スルヿ頻ナリ四邊ヲ見ルニ絕エテ邦人ガ羊豕ノ肉ヲ鬻グ者ナシ彼レ曾テ土俗ノ農事ヲ重ンズルヨリ耕牛ヲ屠ルヲ以テ神慮ニ背ク所業ト爲スト傳聞シタルヿアレバ自ラ臆測シテ日本ハ元來食品ニ乏キ國トゾ想ヒケル是他ナシ只牛羊豕肉ノ寡キヲ知ツテ未ダ猪鹿鳴鶉ノ佳品河海ノ魚介田園ノ蔬菜ハ邦人ノ常食トスル者ニシテ其饒多ナル他ニ比類ナク自己モ亦此等ノ物ヲ喰テ口腹ニ充シムベキヲ知ラザレバナリ

日既ニ暮ルヽニ近ケレバ回歩シテ日本市街ニ入ルニ家毎ニ數箇ノ球燈ヲ檐頭ニ點ジ其光影能ク路上士女ノ亂舞スルヲ看ルニ足レリ又賣卜者ガ街頭ニ露坐シテ眼鏡ヲ弄シ未來ヲ說キ行人ヲシテ其机邊へ集マラシムル者アリ是ヲ過ギテ馬頭ニ到リ港心ヲ一望スレバ漁人ノ炬影數點熒々トシテ水ニ映ジ海波爲ニ燦然タリ

夜漸ク更ケテ街上行人稀ニタヾ警察官吏ノ巡邏シテ非常ヲ戒ムル者アルノミ此官吏ハ大率華麗ナル衣服ヲ着シ數名ノ從者ヲ率キ行裝殆ンド歐洲ノ大使ニ比スベケレバパスパルツーハ之ヲ見テ噫善イ哉日本ハ復タ歐洲へ使節ヲ派遣スルト見ユ

第貳拾參囘

翌日ニ至リ身體疲勞シ殊ニ腹ノ甚ク虛リケレバ何事ヲ棄テモ先ヅ食物ヲ需メントト思ヘド元來囊中一物ノアルニアラズ但シ首ニ掛ケタル時計ヲ賣ラバ容易許多ノ金ヲ得ベケレモ之ヲ他人ニ委サンハ餓死スルモナホ爲サヾルノ性質ユヱ如何ハセント思案ニ暮タル折柄風ト思ヒ出ス樣我ハ天性音聲ニ富ミ且ツ能ク英佛流行ノ歌ヲ暗ンズレバ此藝ニ頼テ燃眉ノ急ナル凍餒ノ患ヲ免ルヽコソ上策ナラメ且ツ日本人ハ百事ヲ爲スニ鐘鼓管絃ヲ用ル風アリト聞ケバ定メシ音樂ヲ好ム性質ナルベシ左スレバ歐洲ノ太夫ガ歌フ妙音ヲ聞キ判ルヿ疑ヒナカラン然レモマダ早朝ナレバ折角妙音ヲ發スルトモ恐クハ人々職業ニ忙ハシク纏頭ヲ投ジ伶人ノ功勞ニ報イル者ナカルベシ好々暫ク時ヲ見合テスルコソヨカラント決心シテ其處等經巡リツヽ熟々考ルニ門附ノ唱歌師ニシテハ身ノ裝ヒ餘リ美ニ過ギタレバ之ヲ適宜ノ弊衣ト交換シ其餘リヲ以テ口腹ヲ飽カシムルノ策ヲ爲サント心付クモノカラ元來土地ニ馴レザルパスパルツーノヿエ彼方此方ト彷徨タル後漸クニシテ一軒ノ古着商ヲ見出シタリサテ此ニ就テ衣服交換ノ相談ヲ試ルニ歐製ノ衣服ハ土商ノ意ニ適スト見エ相談モ速ニ整ヒ頓テパスパルツーハ時代ヲ經テ色モ怪シク變リタル日本服一枚ト頭巾ヲ得タルノミナラズ兩三片ノ小銀貨ヲ併セ得テ其袖中ニ錚々タ

ル聲ヲ爲サシメツヽ此ヲ立チ出デタリ此時パスパルツーハ獨言シテ『カルナバル』ノ祭ニ會シタリト思ヘバ左ノミ恥辱トスルニ足ラズト斯ク姿ヲ日本風ニ變ズル後ハ志ス所只喫飯ノ一事ナリトテ粗陋ナル一茶店ヲ見掛ケテ此ニ立チ入リ鳥肉少シ計リト兩三碗ノ飯トヲ食ヒタリ斯クテパスパルツーハ滿腹ニナリケレバ少シ落居テ思慮ヲ旋ラスニ朝飯ヲ喫シタレド晩餐ハ又如何ノ手立ヲ用ヰテ喫スベキ今トナリテハ最早此弊裝ヲ賣テ他ノ弊衣ニ代ルノ策モ盡キタレバ深ク戒愼セザルベカラズソハ兎モアレ一日モ早ク此ノ旭日國ヲ去リ米洲ヘ行クコソ緊要ナレ噫今日ノ辛苦ハ此地ト共ニ永ク忘レザルベシトゾ歎息シタリケル

パスパルツー又考ル樣米國ヘ向テ出帆ノ郵船ヘ行キ厨丁カ或ハ傭奴ノ使用ヲ求メ日々ノ食料ト船賃ヲ以テ給料ニ當テ、桑港マデ至ラバ又好手段ナシトモ云フベカラズ目下ノ急務ハ日本ト米國ヲ隔絶スル太平洋四千七百英里ヲ踰ルノ一點ニアリト心ヲ定メケリ元來パスパルツーハ事ヲ試ズシテ中止スルノ性質ナラネバ馬頭ノ方ヘ行キ海岸ヘ近ヅクニ隨ヒ又思ヒ回ラス樣米國ノ郵船ニ果シテ厨丁ヲ要スベキヤ假令之ヲ要スルトモ異形ノ風體ニテ人ノ信任ヲ得ベキヤ又誰ヲ頼テ身ノ保證ヲセシムベキト熟思スレバ熟思スルニ從テ最初ハ至テ易キ策ト思ヒシヿモ終ニハ至難ノ策トナリ思案ニ暮レテゾ居タリケル折シモ一大招牌ヲ押シ立テ街上ヲ練リ行ク者アリ何ナラント目ヲ留メテ看レバ英文ニテ左ノ廣告ヲ掲グ

大評判日本輕技連中
天狗直傳秘訣之輕技

右ハ近々北米合衆國ヘ渡航ノ前御暇乞トシテ演技仕候也

勸進元　ウヰリヤム、バタルカル

「亞米利加合衆國ヘ行ク者トナ好シ好シ是レ我ガ望ヲ遂グルノ好機會ナリト云ヒツヽ彼ノ招牌擔夫ノ踵ニ尾テ行クニ頓テ日本街ヘ回リ來リ一宇ノ演戯場ノ前ニ留レバ其檐頭ニハ數流ノ旗幟ヲ[illegible]シ又輕技師演戯ノ景狀ヲ極彩色ニテ畫キタル招牌ヲ掲ゲタリ是レ則チバタルカル氏ガ輕技、手品、太神樂等諸藝人ノ頭トナリテ招牌ニモ載スルガ如ク此ノ旭日ノ帝國ヲ辭シテ花旗ノ合衆國ヘ行ントスルノ期ニ當リ告別ノ儀トシテ演戯スル爲ニ設ケシ盛場ナリパスパルツーハ直ニ場ニ入リバタルカル氏ニ面會セント申シ込メババタルカル親ラ出デテ之ニ會ヒ日本人ト見受ケケン「何等ノ用アリテ來レルゾパス「僕ヲ一人傭ヒ玉フ意ハナキヤト云ヘバ場頭ハ顋ノ下ニ亂生シタル疎髯ヲ撫デツヽ聲高ニテ「僕トナ云ヒソ予既ニ從順忠勤ナル者兩個ヲ有セリ彼等ハ終始予ガ左右ヲ離ズ只其保養ヲ忽ニセザレバ能ク予ニ仕ヘテ更ニ給俸ヲ要メズ是レ見ラレヨトテ節クレ立チタル雙腕ヲ示セバパス「然ラバ何ニモ僕ハ君ニ入用ノ道コレナキヤバタ「ナシパス「咄若シ君ノ驥尾ニ附テ行クヲ得バ僕ノ爲ニハ一大便利ナルベキニバタ「吁其許ハ日本人ニハアラザルカ何故ニ斯カル異形ヲナスヤパス「時運ノ爲業ハ詮方ナシバタ「實眞ナリサテ足下ハ佛人ナリヤパス「然リ巴里產ノ巴里人ニテ候フバタ「然ラバ醜顔ヲ爲スヿハ知リツラント問ヘバ此方ハ生國ノ故ヲ以テ潜ル問ヲ受ケ心中竊ニ憤恚ヲ含ミ答テ云ク「然リ我々佛人ハ皆多少醜顔ヲ眞似ルヿヲ知レド米人ノ右ニ出ルハ覺束ナシバタ「其許ノ言フ所理ナリ偖テ其許ヲ僕トシテ傭フノ用ナシサレド其許ヲ滑稽方ニ傭フベシ是等ノ藝ハ其許ノ意ニ適フヤ佛國ニテハ外國人ヲ此役ニ充ツ今外國ニテハ佛人ヲ其職ニ當テンパス「吁バタ「兎ニ角其許ハ強壯ナルカパス「然リ殊ニ食後ハ格別ナリバタ「謳歌ハ得手ナルカト問ヘバ元來街頭ニイテ奏樂ヲナサントシタル程ナレバパスパルツーハ毫モ

聴セズ一然リト答フ　バタ「然レ𪜈頭ヲ地上ニ据ヱテ逆立シ左足ノ指尖ニ獨樂兒ヲ旋シ右足ノ端ニ氷ナス白刃ヲ直ニ植ナガラ猶謳フヿヲ得べキカト再ビ問ハルレド是レ亦昔日嘗テ身ニ覺エノアルヿナレバ少モ躊躇セズ一成ラズト謂フヿヤアルベキ　バタ」右ノ數ケ條ガ目的ユヱ其許ニ委ク問ヒタルナリト云ヒツヽ卽時ニ傭入ノ約束ヲ結ビケレバパスパルツーハ漸ク日本輕技師ノ群ニ加リ一業ヲ得タリ左リナガラ左程ニ喜悦スル程ニハアラネ𪜈八日以内ニ桑港ヘ向テ發程スルノ策ハ慥ニ得タリトテ少シク安堵ノ思ヒヲナセリ

横濱ハ云フニ及バズ江戸迄モ評判高ク聞エタル此度名殘リノ狂言ハ午後三時ヲ期シ開場スル筈ナリケレバ早ヤ時刻モ近ヅキテ木戸口ノ方ニ於テハ金鼓管絃ノ喧シキヿ恰モ鼎ノ沸クガ如シ

パスパルツーハ今日初度ノ登場ナレバ未ダ一派ノ演戯ヲ習フ遑ナキニヨリ其役割ハ百技千藝ヲ終リテ後彼ノ大切ト唱フル最後ノ一技天狗ノ櫓立ヲ演ズルニ當リ其強肩ヲ貸シテ礎ニ供スルニアリキ兎角スル内漸次場内ヘ入リ來ル看客ハ歐米人アリ日本人アリ支那人アリ男ハ女ニ連リ老ハ幼ニ伍シ其ノ雜遝云ハン方ナク各〻相爭テ上間及ビ棧敷ヘ座ヲ占メケレバ向キニ木戸口ニ客ヲ招テ奏樂セシ伶人ノ一群モ退テ樂屋ヘ入リ猶人員ヲ增シテ金鼓管籥ノ類ヲ鳴ラシ其喧キヿ限リナシ此度ノ演戯ノ如キモ自他類似ノ者ト大同小異ニシテスベテ平均力ヲ熟知シテ巧ニ之ヲ技藝ニ施スハ日本人ヲ推シテ絶倫トス先ヅ其技ノ秀ル者ヲ擧グレバ紙片ヲ裂テ空中ニ散ジ扇ヲ拔テ之ニ風ヲ加ヘ翩々トシテ胡蝶ノ花ニ戯ルヽ態ニ擬アリ或ハ薫烟ヲ吸ヒテ空ヲ仰ギ徐ニ之ヲ吐ケバ青烟靉靆トシテ相聯リ自ラ貴客善來ノ文字ヲ現出スル者アリ甲ハ一連ノ燭ヲ秉リ累滅累點其神速ナル看客ヲシテ點滅何レノ邊ニ於テ爲スカ認ムルニ遑アラザラシム乙ハ獨樂兒ヲ執テ一タビ廻旋シ之ヲ弄スレバ恰モ生アリテ其命ニ從ヒ其意ニ應ズル者ノ如ク或ハ細管ノ上ヲ走リ長劍ノ刄ヲ度リテ轉墜セズ演場ノ左壁ヨリ右壁ヘ懸ケタル蜘絲カト怪マルヽ細縷ノ上ヲ走ルモナホ墜ズ或ハ巨盤ノ縁ヲ繞リ又竹梯子ヲ昇降シ暫ク陰レテ又見ル其巧妙窮リナシ忽チ之ヲ取リ空中ニ抛チ墜チ來ルヲ待チ木片ヲ以テ之ヲ受ケ打チ揚ゲテ女兒ノ羽子ヲ弄スルニ擬スルモ猶自轉ヲ止メズ又忽チ之ヲ取テ袖中ヘ匿シ少焉シテ之ヲ出スモ猶依然トシテ回旋スル狀恰モ獨樂兒ノ心棒ニ一ノ彈機ヲ設ケテ然ラシムルガ如シ

縄技體操ノ險技ニ至テハ長梯ニ登リ脩竿ヲ攀ヂ球上ニ立チ仰臥シテ兩足天ニ朝シ樽ヲ弄シナガラ妙技ヲ演ズル等曲ニ記スルニ遑アラズ斯クテ此回ノ興行ハ彼ノ高鼻ノ一群ヲ歐米人ニ示スニ在リ其妙技ノ驚クベキハ歐米人ノ未ダ嘗テ識ラザル所ナリ

此高鼻ハ別ニ一團ノ儻ヲ結ビ天狗ヲ崇テ高祖ト仰ギ信ズル者ナリ其容貌ハ肩ニ雙翅ヲ帶ビ身ニ佛國中古ノ軍人ノ穿テル戎衣ニ彷彿タル裝ヲナシ其尤モ特別ノ業ハ一長鼻ノ面上ニ突出スルト技師ノ之ヲ使用スルノ妙ナルトニアリ其鼻トハ他ナシ六尺ヨリ一丈ニ及ブ一長竿タルニ過ギズ或ハ直或ハ鉤曲平滑ナル者アリ蝋毛ノ生ゼシ者アリ皆面上ヘ固ク結ビ付ケテ百技ヲ其鼻端ニ演ズルハ一樣ナリ此技ヤ先ヅ十有餘人ノ天狗黨舞臺ニ登リ來テ仰臥スレバ同儻又來テ其林立シタル鼻頭ニ登リ跳躍飛翔彼レヲ踏ンデ舞ヒ此レニ移テ歌ヒ人ヲシテ驚歎措カザラシム

最後ノ一大奇觀ハ則チ特ニ公告シタル所ノ人櫓ナリ此戯ハ五十有餘個ノ高鼻黨々相疊積シテ一個ノ神車ニ擬スルナリ其技手ハ肩ヲ踏デ相疊立スルニアラズシテ皆其鼻尖ヲ踏ンデ演戯

スルナリ此日偶々其基礎ノ役ニ當ル一技手ノ不在ナルニ因リハスハルツーハ之ニ代リテ人櫓ノ基礎トナレリ此役ノ要目ハ別ニ做事ハナケレド只強剛ノ人ナラバ爲シ得ラル、ニヨリ場頭ハ斯ク役割ヲナシタリトゾ

パスパルツーハ例ノ中古時代ノ戎衣ヲ穿チ五彩ノ雙翼ヲ佩ビ六尺ノ長鼻ヲ面上ニ固ク結ヒ付ケシガ思ハズモ往年若冠ノ頃故郷ニテ嘗メシ所ノ幾辛苦ヲ回顧シ憮然トシテ歎息シタリシガ其長鼻ハ元是レ糊口ノ一要具ナレバ終ニ奮然出テ舞臺ニ登リ人櫓ノ基礎ニ當ルベキ同朋ト共ニ空ヲ仰デ並臥シ鼻尖ヲ直立スレバ乙ノ一群來テ其上ニ仰臥シ甲ニ倣テ其鼻尖ヲ林立セリ丙群又來テ其上ニ横リ更ニ丁伍ヲ承ケ纍々相疊リテ終ニ戯場ノ梁ニ接スルニ至レバ萬口一齊喝采ノ聲堂ニ溢レ恰モ萬雷ノ轟ガ如シ此時如何シタリケン忽チ一鼻ノ脱却スルアリテ纍々タル人櫓ハ俄然震動スルカト見エシガハヤ紛々トシテ頽レ倒ル、狀積薪ヲ覆スニ異ナラザリキ

此レハ是レパスパルツーガ突然其職ヲ捨テタルニ由ル此クテパスパルツーハ雙翼ヲ假ラザルモ欄干ヲ飛ビ踰エ右側ノ棧敷ヘ跳リ登リ一看客ノ膝下ニ跪テ「嗚呼主君ナリヤ主君ナリヤト絶叫スレバ　看客「足下何者ナルカ」パス「下郎ニテ候フ」看客「汝ナリヤ好シ然ラバ速ニ郵船ヘ從ヒ來レト云フハ是レ別人ナラズ則チフヲッグ氏ニテ同伴ノアウダ女ト共ニパスパルツーヲ率キ急ニ場外ニ出デントシテ廊下マデ來レバ場頭バタルカル此體ヲ見テ憤怒ニ堪ヘズフヲッグ氏等ヲ押留メ詬罵シテ償金ヲ請求スルニゾフヲッグハ騷ゲル色モナク紙幣一握ヲ投ジテ忽ち其激怒ヲ萎シメ悠然ト立チ出テ郵船ニ乗リシハ六時半ニシテ方ニ解纜ノ刻限ナリキ僕ハ猶肩頭一雙ノ翅面上六尺ノ鼻モ未ダ脱却スルニ遑アラズ唯ダ其儘主人ノ後ヘニ從ヒ共ニ乗船シタリケリ

第貳拾四回

却テ說ク上海沖ニテ「タンカデル」號ハ旗章ヲ半バ下シ砲ヲ放チテ救助ヲ需メケレバ太平洋郵船ノ船將某ハ忽チ柁ヲ轉ジテ小船ヲ救ハントシタリ斯クテフヲッグ氏ハ手早ク五百五十磅（我二千七百五十圓餘）ヲ出シテ船頭ジョン、バンスビーニ與ヘ畢テアウダフヒキスノ兩人ヲ伴ヒ首尾ヨク郵船ヘ乗リ移リケレバ汽船ハ原ノ針路ニ復シ直ニ長崎ヲ經テ横濱港ヘ來着セシニ因リ十一月十四日早天即チ豫定ノ期日ヲ誤ラズフヲッグハ此地ヘ着スルヲ得タルナリサテフヒキスニハ別ヲ告テ直ニ英郵船「カルナチック」號ヘ到テパスパルツーノ來リシヤ否ヲ訊ヘバ彼レハ同船ニ搭ジテ昨日横濱港ヘ來着シタルニ相違ナシト聞テアウダノ喜斜ナラズフヲッグモ等シク悦ビシナランガ其色ニ見レザレバ知ルニ由ナシ

フヲッグ同夕直ニ桑港ヘ向テ發程スベキ身ナリケレバ片時モ猶豫セズ英佛領事館ヲ首トシ横濱ノ市街ヲ殘ル隈ナク奔走シテ捜索ニ心ヲ盡セドモ更ニ其蹤ダニ得ズ若シモヤト思ヒ偶然彼ノ演戯場ヘ立チ入リシガ素ヨリ異形ノ扮装ニ姿ヲ變ジ居タリケレバ爭デカパスパルツーヲ見識ルベキ然レドモ此方ノ壯漢ハ舞臺ニ仰臥シテ人櫓ノ礎ニナリナガラ看客ヲ打チ眺メケルニ豈圖ン主人ガ棧敷ニ在テ縱覽スル體ヲ見出シ歡喜禁メガタク思ハズモ鼻頭ヲ動カシタルニ因テ終ニ人櫓ハ瓦解シタレバ其儘棧敷ニ飛來リテ主人ニ再會ノ歡ヲ得タルナリ

斯クテ互ニアリシ事共語リ合フ序香港ヨリ「タンカデル」ニ搭ジフヒキスト呼ベル探偵人ト同道シテ云々トアウダノ譚ルヲ聞キ壯漢ハ彼ノ警吏ト己レガ間ニアリシ事實ヲ主人ニ告ル時ハ未ダ到ラズト私ニ思ヘバ故意ト色ニモ出サズ唯

己レガ香港ニテ思ハズ吸烟室ニ入リ偶然阿片烟ヲ喫シ終ニ昏醉シテ不覺ヲ取リシ事共程好ク陳ジ罪ヲ己レ一身ニ負ヒ只管ニ寛恕ヲ請フニゾフヲッグハ一語ヲモ交ヘズ徐カニ若干ノ金ヲ僕ニ與ヘ船中ニテ適宜ノ衣服ヲ求メシメタリ少間アリテ出デ來ルヲ見ルニ長鼻ヲ除キ雙翅ヲ脱却シ又向キノ天狗黨ノ一個ナルヲ認ムルニ由ナカリキ

抑モ今回横濱ヲ發シテ桑港ヘ行ク汽船ハ太平海郵便會社ノ船ニテ名ヲ將軍「グラントト稱シ噸數二千五百噸ヲ容ルベク船内ノ製作行客ニ便ニシテ殊ニ快走ノ速力ヲ有セリ其船形ハ外輪ニシテ甲板ノ中央ニ一大天秤アリ其甲端ハ汽筩ヨリ出入スル心棒ニ接シテ直立ニ昇降運轉シ乙端ハ直ニ外輪ノ巨軸ヲ運轉セシムルノ機梃ニ接シテ其運動ハ轉ジテ廻旋運動ヲナシ甲乙迭ヒニ昇降運轉シテ間斷ナシ加之三基ノ桅檣ニ張レル布帆ハ大ニ汽力ヲ佐ルニヨリ一時間ニ駛行スルヿ十二海里ノ多キニ至ルサレバ此郵船ノ太平海ヲ航スルハ大概二十一日ヨリ遲キヿナシ然レバフヲッグ氏ガ心中豫メ桑港ヘ十二月二日ニ紐育ヘ十一日ニ龍動ヘ二十日則チ誓約ノ期限十二月二十一日ヨリ早キヿ數時間ニシテ到着スルヿヲ信ズルモ亦理ノ在ル所ナリキ船中ノ乘客ハ米人多キニ居リ英人ハ之ニ亞グ其中印土鎭戍師團ニ屬スル士官等ガ其休暇ノ時日ヲ曠ウセジト遊歷スル者數名アリ其他清人ガ傭奴ト爲リテ米國ヘ航スル者夥多シケレバ乘客ハサシモニ廣大ナル船モ充滿シテ餘地ナカリキ

今回ノ郵船ハ雙輪ノ波ニ駕スルト布帆ノ順風ヲ受ルトニヨリ船身自ラ穩ニ且ツ太平洋モ其名ニ背カザルニ因リ航海中別ニ記スル程ノ事モナシ彼ノフヲッグ氏ハ沈靜常ト異ナラズ少婦アウダハ感恩ノ情日ヲ重ヌルニ隨テ彌〻切ニ外貌冷然タルモ内情仁慈ニ敦キ紳士ノ行ヲ見テ愛慕ノ至情或ハ自ラ他ノ情緒ヲ惹ガ如キ色アレ𪜈彼ノ心中測リ知ル可ラザルフヲッグ氏ハ知ルカ知ラヌカ毫モ心ノ動ク色ハナカリキ

斯ル情意モアルヿナレバアウダハ大ニ心ヲ今回ノ賭事ニ勞シ苟ニモ其失敗ヲ釀サントスル如キ妨碍ニ會スル時ハ憂感措カズ屢〻パスパルツーヲ呼テ之ト譚ルニゾ義僕ハ晴ニ少婦ノ胸中ヲ推知セザルニアラザレバ主人ノ廉直、仁慈、任侠ノ氣象ヲ擧ゲ贊歎シテ止マズ且少婦ノ憂慮ヲ慰ルニ支那日本ノ如キ絶域ヲ去リシ上ハ蚤ヤ至難ノ極點ヲ越エタリ一旦開明ノ米國ニ上陸スレバ陸ニハ桑港ヨリ紐育ニ至ルノ鐵道アリ海ニハ完全ナル郵船ノ通ズルアリテ紐育ヨリ龍動マデモ亦容易ノ旅ナレバ豫定ノ期日ヲ違ヘズ長旅ノ結局ヲ見ンハ疑フベキニアラズナド語リ合ヘリ

横濱ヲ出立シテヨリ九日即チ十一月二十三日ニ將軍「グラント」號ハ經度百八十度所謂龍動府ノ直背ヲ經過シタレバフヲッグハ方ニ坤輿ノ半球ヲ跋渉シ且日子ヲ費スヿ五十二日猶贏ス所ノ日子ハ二十八日ニ過ギズ經度ニ就テ論ズレバ遊跡ニ半球ニ過ギズト雖𪜈其路程ニ就テ數フレバ既ニ三分ノ二ヲ經過シ來レルナリ噫何ゾ龍動ヨリ亞電ヘ亞電ヨリ孟買ヘカルカッタ新嘉峯港ヨリ横濱ヘ至ルノ行路迂回ノ甚キヤ若シ龍動ヲ發シテヨリ以來其緯度五十度ノ線ヲ踐ンデ來タランニハ行程僅ニ壹萬二千海里ニ過ギザレ𪜈運輸ノ便ヲ逐フガ爲ニ二萬六千海里ヲ跋渉セザルヲ得ズサテ今十一月二十三日マデニ經過セシハ既ニ壹萬七千五百海里ノ多ニ及ベリ前路ハ只直線ノ路程ニシテ況ンヤフヒキスノ傍ニ在ツテ故ラニ行旅ヲ阻ムヿナキニ於テヲヤ

看客能ク記憶スルナランパスパルツーハ龍動ヲ辭セシヨリ諸國ノ時器ヲ悉ク不正ノ者ト臆斷

シ頑固ニモ先祖傳來ノ時器ヲ龍動ノ時ト合セシ儘ナリシガ今日即チ十一月二十三日ハ郵船ノ「クロノメートル」ト一秒ノ差ダニナカリケレバ其喜悦一方ナラズ曩ニフヒキスガ說キ明カセシ事共ヲ思ヒ出ダシ若シフヒキスガ同船中ニ在ルナラバ我ガ確說ヲ誇リ示シテ窘メ吳レント思ヒツヽ獨言シテ云ク「彼奴ハ辯口ヲ叩イテ太陽太陰ノ運轉子午線抔ト無稽ノ說ヲ吐キタレモ畢竟妄言ニ過ギズ若シ彼奴輩ノ言ヲ信ゼバ如何ナル僞リノ時器ヲ製出センモ測リガタシ予ハ早晩太陽ノ我ガ時計ニ從テ正轉ニ復スベシト信ゼシニ今果シテ然リト是レパスパルツーガ時器ハ午後ノ九時ヲ示シ船中ノ時器ハ午前ノ九時ヲ指スノ差アルヲ辯ゼザレバナリ若シ其時器ヲシテ以太利風ノ時辰盤ノ如ク二十四時ニ區分シアラバ已ノ九時ハ即チ夜半ヨリ起算シ第二十一時目ニ當ルヲ悟ルヿヲ得ベカリシニ假令此際ニ當リフヒキスガ再ビ物理ヲ說辯スルノ才アルモパスパルツーノ偏執ナル恐クハ之ニ心服セザルベシ又萬一偶然警吏ガ此船中ヘ見レ來ルヿアリトモパスパルツーハ素ヨリ之ヲ仇視スルノ理由アレバ恐クハ議論ノ赴ク處他ノ點ニアランサテ又フヒキスハ當時何處ニ在ルカト尋ルニ奇ナル哉彼ハ方ニ將軍「グラント」號ニ搭ジパスパルツート同船シテ來レルナリ

抑モ警吏ハ横濱ヘ着スルヤ否ヤ一時フヲッグヲ放チ置キ直ニ英國領事館ヘ行キテ捕縛令ノ着セシヤ否ヤヲ尋ルニ右ハ孟買ヨリ跡ヲ追テ來リ其日附ハ既ニ四十餘日ノ久シキヲ經テ稍クフヒキスノ掌裏ヘ入リタレド奈何ニセンフヲッグハ既ニ英領地方ヲ離レケレバ之ヲ捉ンニハ更ニ外國政府ヘ逃亡人追捕免許ヲ請フノ國書ナクバ其效ナシ豫テ斯ル事モアランカト香港ニテ抑留ノ策ヲ企テタレド行ハレズ待チニ待チタル捕縛令モ今ハヤ英領ニアラザレバ無效ニ屬シケリ是ニ於テ警吏ノ失望譬ヘン方ナク憤懣ニ禁ヘザリシガ良アリテ思ヒ返シケルヤウ嗚呼是レ何ンゾ深ク意トスルニ足ラン捕縛令ハ此地ニ於テコソ無效ナレ復タ英國ヘ回ラバ有效ノモノナリ我倩〻彼ノ猾兒ノ動靜ヲ察スルニ巧ニ警察官ヲ欺キ物情收マル頃ニ及バヽ復タ本國ヘ回ントスル者ノ如シ好シ爭カ其踵ニ追尾セズシテ止ムベキ其贓金ニ至テハ或ハ賞金ニ費シ賭象ニ巨額ヲ抛チ罰金保釋金ニ大金ヲ失ヒ其他ノ浪費等ヲ概算スレバ既ニ是迄ニ散ゼシ所五千磅(我金二萬五千圓)ノ上ニ出ヅルト雖モ銀行ハ富有ナリ何ゾ此等ノヿニ拘ランヤト斯クテフヒキスハ心ヲ定メ直ニ將軍「グラント」號ヘ乘リ込ミテフヲッグ氏アウダ女ノ乘船セシ時ハ既ニ船中ニ在リシガ思ヒ掛ケナキパスパルツーガ天狗ノ裝ヲコソ穿チタレ見違フマジキ其人ニテ現ニ主人ニ從ヒ來レルヲ見テ大ニ驚キシガ爰ニテ見ラレナバ一大事ト點頭キツヽ自己ノ子房ニ隱レ潛ミ居タリ此クテ多人數ノ乘客ユヱ其中ニ紛レテ始終匿レ遂グベキ積リナリシガ此日偶然郵船ノ舳頭ニ於テ生憎ニパスパルツーニハタト面ヲ合セケレバパスパルツーハ見ルヨリ疾クフヒキスノ襟元目掛ケテ飛カヽリ有無ヲモ云ハセズ拳ヲ固メテメッタ打ニ撃ケレバ四邊ニ傍看スル米人ハ仔細ヲ知ラネド手ヲ拍テ勢ヲ援クレバ此方ハ益〻猛リテ搏チ据ヱツヽ英流ノ拳法ハ遠ク佛拳ノ優ルニ如カジトゾ誇リタリ

フヒキスハ敢テ逆ラハズパスパルツーノ搏チ据ヱテ稍ヤ怒氣ノ鎮ルヲ待チ漸クニシテ起キ上リ衣裝ノ狼藉タル儘パスパルツーニ向ヒ靜ニ「斯ク我ヲ撃チ之ニテ心濟タリヤト問ヘバ パス「然リ當分ハ是ニテ心ヲ癒ヤセリ 警「然ラバ足下ニ談ズルヿアリ我ト共ニ來リ玉ヘ パス「何事ヲカ 警「足下ノ主君ノ事ニ關スト騷ゲル色ナク答フルヲ聞テ主人思ヒノパスパルツーハ最初ノ鋭氣モ挫ケ果テ警吏ニ隨テ舳頭ヘ行キ共ニ胡床ヘ座ヲ占メケレバフヒキス先ヅ云フヤウ「足下我

等ヲ縦ク博チ玉ヘリ其ハ先ヅ好シトシテ聞キ玉ヘ是迄我等ハフヲッグ氏ノ障碍タリシガ向後ハ力ヲ盡シテ彼人ノ便宜ヲ爲サン　パス―嗚呼君モ遂ニ我主君ノ正廉ノ君子ナル事ヲ信ジ玉ヒシカト問ハレテフヒキスハ斷然答テ―否ナ我等ハ矢張・彼兒ト思ヘリ先ヅ默シテ靜ニ予ガ言ヲ聽キ玉ヘ同氏ノ英領地方ニ在ル間ハ捕縛令ヲ待ツガ爲ニ或ハ孟買ノ僧侶ヲ煽動シテ之ヲ法庭ニ抑留シ或ハ足下ヲ香港ニ昏醉セシメ主從ヲ分離シ百方計畫シテ同氏ヲ抑留セント試ミシナリト語レバパスパルツーハ弛ミシ拳ヲ握リ堅メテ聞キ居タリフヒキスハ又續ギテ云ヘル樣―斯ク前ノ計略ヲ語リナバ怒リ玉ハンナレド今フヲッグ氏ノ意中ヲ察スルニ將ニ英國ヘ回ラントスル者ノ如シ我等モ亦之ニ尾シテ行クベシ然シナガラ向後ハ予ノ目的以前ト異リタレバ隨テ手段モ變ジ此ヨリハ前ノ邪魔ヲノミナサント盡セシ力ヲ轉ジ勉メテ便利ヲ佐ケントコソ思フナリ足下モ蓋シ我等ト利害ヲ等ウスル者ナレバ英國ヘ到着スルノ後ニ非レバ一奸賊ノ僕タリシカ或ハ一君子ノ從者タリシカヲ知ルニ由ナカルベシト演ルヲパスパルツーハ深ク心ヲ注テ聽キ畢リシガフヒキスハ又彼ガ我說ク處ハ底意ナク其意衷ヲ啓テ語ル者ナル事ヲ了得シタル色ヲ察シ更ニ問テ今ヨリ如何ニ予ト合體シ玉フ心ナキヤ　パス―君ニ同心スレハ素ヨリ我願ニアラズ然シナガラ君ハ此ヨリ我主人ヲ佐ケントスル事ナレバ一時其力ヲ假ルハ敢テ辭セザレド若シ毫ニテモ君ノ所業ニ不審事アラバ忽チ君ノ領元ヲ搶デ伏セント言ヘバフヒキスハ靜ニ承知ナリトゾ答ヘタル

斯クテ是ヨリ十一日ヲ過ギ十二月三日ヲ以テ將軍グラント號ハ恙ナク桑港ヘ投錨シタリフヲッグ氏ハ一日モ遲滯スル事ナク發程セント思ヒケリ

第貳拾五回

フヲッグノ一行ハ午前七時ニ始メテ足ヲ米洲大陸ニ容レタリト云ヘド此處ハナホ浮キ波止場ノ事ナレバ大陸ト喚バンモ少シク穩ナラズ此浮キ波止場ハ潮ノ高低ニ隨テ上下自由ナルユヱニ船積陸揚共ニ頗ル其使リヨケレバ是ヘ來リ纜ヲ繫グモノ多ク大小ノ風帆船ニ交ルニ萬國ノ汽船ヲ以テシサナガラ高樓ノ海ニ泛ブカト怪マルヽ許リナリ又サクラメント川ヲ上下スル川蒸氣船モ此處ニ輻湊シ墨其哥白露智利ブレジル歐洲亞細亞大洋洲及ビ太平洋中ノ諸島等ト貿易スル貨物ノ出入モ亦此港コリス斯クテパスパルツーハ米洲ヘ安着スルヲ祝シ傍ラ己ノ長技ヲ見ハサント欲シ身ヲ躍ラシテ波止場ヘ飛ビ移レバ其朽キ板ハ甚ク蟲ノ蝕ヒタリシニヤ戞然ト聲アリテ踏ミ折レ危クモ兩脚之ヲ貫ントシタリケレバ一聲噫ト叫ブニゾ近傍ニ泛游シタル鷗鷺ノ類一齊ニ驚キ飛ビシハ可笑カリシ事ナリキ

斯クテフヲッグ氏ハ先ヅ紐育行キノ汽車發程時限ヲ問ヒ合スルニ午後六時ナリト云フ因テ猶終日ノ餘暇アルヲ以テフヲッグ氏ハ彼ノ一驅三弗ノ馬車ヲ備ヒアウダ女ヲ伴ヒテ之ニ乘リパスパルツーハ御者ノ傍ニ座ヲ占メ頓テ「萬國鶴泊館」ヲサシテゾ行キケルパスパルツーハ車ノ高所ニ坐シツヽ米國ノ市街ハ物珍シク思フニゾ右ヲ顧ミ左ヲ盼ミルニ街衢ハ廣闊ニシテ家屋ハ概ネ低造ナレドモ次第亂レズ鱗ノ列ナル如ク頗ル整ヒ寺院ハ英風ノ「コチック」形多ク貨溝ノ廣大ナル貨庫ノ宏壯ナル問ハズシテ商業ノ繁盛ヲ知ルベシ又街路ノ中央ニハ轍路アリテ馬車ノ來往織ルガ如ク人道ニ群集スル者ハ歐米ノ士女ノミナラズ支那印度ノ移民モ打交リテ其熱鬧一方ナラズ

パスパルツーハ嘗テ桑港ハ猶依然トシテ千八百四十九年前後ノ景況ト憶想シ今日ニテモ强

流、山賊、放火、暗殺等ノ悪逆ヲ事トシ世間ヘ慘毒ヲ流ス兇徒ノ常ニ短銃匕首ヲ挾ンデ財貨ヲ掠奪スル淵叢トノミ喧傳セシニソハ既ニ往事ニ屬シ今ハ儼然タル一大商市ト變ゼシヲ見テ驚歎止マザリケリ若シ市政廳ノ高閣ニ登臨シテ一望セバ碁布羅列シタル無數ノ街衢ニ錯ルニ蒼樹鬱々タル公園ノ連ルヲ見ルベシ又眼ヲ轉ジ府ノ一隅ヲ眺メバ清人居留ノ殊域ヲ見ルベシ其構造奇異ニシテサナガラ米國中ニ一ノ支那國ヲ現出セシガ如シ路上又昔日ノ如ク金壙ヲ索ムル壙夫輩ガ赤キ襦袢ヲ着テ奔走スルナク又羽冠ヲ戴ク土人ニモ逢ハズ唯行違フ人ハ高帽ヲ戴キ黒衣ヲ着セル紳士ノ商事ニ鞅掌シテ奔走スルノミ街衢ノ中ニモモントコムメリ街ノ如キハ壯麗龍動ノ攝政街巴里ノ伊人街等ト頡頏スベク其兩側ノ商店ニハ萬國ノ物產ヲ排列シテ漏ヿナケレバパスパルツーハハヤ英國ニ至リタル心地セラレテ坐ニ心モ浮立ツヤウニ覺ユカクテヤガテ旅館ヘ着シ其構造ヲ見レバ樓下ニハ廣濶ナル座敷ヲ設ケ處々ニ乾肉、蠣、蟹、糕菓、牛酪ノ類ヲ堆ク盛リ上ゲ人ノ隨意ニ採リ食フニ任ス唯來客ノ償フ所ハ其飲酒ニ過ギズ他ハ飽食スルモ敢テ償フヲ要セザレバパスパルツーハ大ニ米風ノ奇異ヲ怪ミテゾ居タリケル斯クテフヲッグ氏アウダ女ヲ伴ヒテ食堂ニ入ルニ其裝飾整然トシテ愛スベシ暫クアリテ皮膚漆ヲ欺ク許リノ黒奴ガ運ビ來ル種々ノ珍味佳殽ハ卓上ニ滿ルバカリナリ食事終リテヨリフヲッグ氏ハ英國領事ノ許ニ至リ彼ノ旅行證ニ檢印ヲ乞ハントテアウダヲ伴ヒ旅館ヲ出ヅレバパスパルツーハ主人ノ側ヘ來リ云ヘル樣「某聞キ及ビ候フニ「パシヒック」鐵路ニハ「シウ」「ポウニー」等ノ土人ガ襲撃スル例モ間ミアリトカ承リ候ヘバ其用意シテ尾裝ノ良銃カサナクバ連發ノ短銃二三十挺ヲ購求シテ行クコソ然ルベケレト云ヘバフヲッグハ無用ノ要愼ナラントハ云ヒナガラ強テ禁メモセズ已ハ直ニ領事廳ヲ指シテ行キケルニ未ダ二百歩ナラズシテ不圖フヒキスニ邂逅セリ警吏忽チ驚ケル色ヲ粧ヒ「如何ニシテ君ト同船ニアリナガラ船中ニテハ會ヒ參セザリシニヤ向キニハ大ニ君ノ懇情ヲ蒙リ今更言語ニ述ベガタク候フサテ今度俄ニ歐洲ヘ行クベキ丁ノ生ジタレバ爭デ君ノ同行ニ加ヘ伴ヒ給ハラバ大慶ニ存ジ候フト云ヘバフヲッグハ會釋シテ一然ランニハ我等コソ大幸ニ存ズルナレト答ヘタリフヒキスハ腹裏陰ニ遁逃スルカト氣遣ヘバ直ニ云フヤウ丁今日ヨリ君等ニ陪シテ此市中ノ奇觀ヲ縱覽スル丁ヲ許シ玉ヘト乞フニフヲッグハ異議ナク之ヲ承引シ頓テ三名ニテ街衢ヲ徘徊シツヽモントコムメリ街ニ至レバ群衆譬ルニ物ナク往交フ人ハ織ルガ如ク馳セ違フ車馬ハ目ヲ衝クバカリナリ轍路平路ノ嫌ヒナク商家ノ店頭樓上ノ窓ヨリ屋根ノ上マデ渾テ人ノ山ヲナスガ如シ其雜沓ノ中數流ノ旗幟ヲ立テヽ來ル者アルヲ見ル甲群齊シク「ケーマルフヒールド」ナリト叫ベハ乙隊ハ「マンヂボイナリト應フフヒキスハ之ヲ見テ早クモ選擧ノ大集會ナリト察シケレバ之ヲフヲッグニ告ゲツヽ云ヘル樣一迂濶ニ此邊ニ佇ミ居ラバ不慮ノ傍杖打タレンモ測リ難シ此群衆ノ中ヘハ入ラヌコソ安全ノ策ト存ズルナレフヲッグ「眞ニ貴所ノ言ハルヽ如シ他國ノ政論ノ爭鬪ニ會シ過ヲ打タルヽハ尤モ好マシカラズトテ共ニ微笑ヲ催シナガラ猶此景狀ヲ見ントテアウダ女ヲ護リツヽ共ニモントコムメリ街ノ一隅ニアル小阜ノ上ニ登リ見渡セバ石炭庫ト石油店トノ間ニ一大机ヲ置キ來集ノ群衆ハ皆此所ニ會合スル者ノ如シ然レド高位ノ文官ヲ選ムガ爲カ或ハ武官ヲ擧ルガ爲カ或ハ又州知事ヲ公選スルニアラズンバ國會議員ノ爲ニ投票スルカハ未ダ他國ノフヲッグ等ガ知リ分クル道ナケレド其景狀ヲ察スルニ到底閣府ノ一大重事ニ關ル者ナル丁明ナリ斯

ル折カラ會員驟ニ騷擾シ只見ル萬拳齊ク起テ亂墜シ鯨波其間ニ湧キ群衆互ニ亂撃シテ爲ニ肉濤ヲ湧カシ旌旗ハ仆レテ人波ノ間ニ沒シ瞬間ニメ再ビ頭上ニ飜ルヲ見レバ僅ニ一片ノ繿縷竿頭ニ留ルニ過ギズ眼中俄ニ高帽ノ滅ズルハ是レ其毀壞シテ本形ヲ失フニ由ルナリ之ヲ見テフヲツグハ「噫何ゾ論趣ヲ固守スルノ勇ナルヤト云ヒケルニフヒキスハ又「大集會タルヿ疑ヒナシ其原由ハ必ズ至重ノ一事ト察セラル恐クハ前年既ニ決議ニナリシ『アラバマ』艦ノ難論再發シタルニハアラザルカト云ヒ居タリ

警兎ニ角ケイマルフヒールド氏トマンヂボイ氏ノ甲乙兩雄相對峙スルハ疑ヲ容レズト云ヒツヽ傍看ノ一人ニ原由ヲ質サントスレバ其折雜沓益〻加ハリ鬨聲益〻劇シク旗竿ハ變ジテ竹鎗トナリ亂拳場ニ滿チテ手下ノ百物ハ皆取テ彈丸ニ換ヘ長靴短履ハ紛々空ニ飛デ霰ヨリモ繁シ此際怒號聲中交ルニ數箇ノ砲聲ヲ轟カスニ至ル此クスル内ニ群衆ハ漸ク小阜ノ石磴ニ接近シ來レリ其狀ヲ見ルニ甲乙孰レナルカ傍看ノ者ニハ判然タラザレ𪜈其一黨既ニ利ヲ失ヒテ崩立チタルヿ明瞭ナレバフヒキスハ大切ノ賊ニ怪我サセテハ一大事ト思ヒ萬一此爭鬪ノ原由英國ニ關スルヿナラバ我々ノ英人ナルヲ知ラレシ時面倒ニ候フベシ速ニ立チ去ルニ如カズト聞テフヲツグハ「英國市民ニト發言未ダ畢ラヌ内忽然トシテ後ノ方ニ鬨聲起テ「マンヂボイ黨是ニアリト連呼ス蓋シ選擧人ノ一群ガ同黨ノ危急ヲ救ハントシテケーマルフヒールド黨ノ側面ヲ衝ナリ

アウダモ此時フヲツグノ肩ニ倚テ此狼藉ノ體ヲ見驚クヿ限リナシトカクスル内一行ハ忽チ兩黨爭鬪ノ間ニ狹マレ逃レントスルモ既ニ道ナク鬪士ハ各〻得物ヲ振テ迫ルニゾ詮方ナクテフヲツグフヒキスノ兩人ハ少婦ヲ護テ立チタリケル中ニモフヲツグハ強ク揉ミ立テラレタレ𪜈容色更ニ常時ト異ナラズ天ヨリ英國ノ士民ニ特別ニ授ケ玉フ鐵ヲモ欺ク拳ヲ振テ僅ニ防禦シタリシニ顏色朱ヲ注グカ如ク髭鬚殷々肩骨屹屹トシテ乙隊ノ首領ト覺シキ一巨丈夫忽チ拳ヲ擧テフヲツグニ迫ルヿ頗ル急ナリ此體ヲ見テフヒキスハ身ヲ拋テ之ニ代レバ其高帽忽チ潰レテ低巾ト化リ頭上一大瘤ヲ生ジタリ

フヲツグ氏ハ屹ト敵手ヲ睨ミ「己レ『ヤンキー』（『ヤンキー』トハ北米土人ガ移住ノ英人ヲ目スル稱ニシテ今英人ガ米人ヲ蔑呼スルニ此稱ヲ用ヰル）覺エテ居レ 米人「何ヲ小癪ナ『イングリスマン』 フォッグ「他日再會シテ雌雄ヲ決セン 米人「何時ナリ𪜈汝ノ望ニ應ゼンシテ汝ノ姓名ハ フォッグ「ファイリス、フヲツグト云フ汝ハ何ト 米人「陸軍大佐スタンプ、プロクタルナリト言ヲ交フルヤ否ヤ忽チ群衆ニ推シ隔テラレタリ此時フヒキスハ漸ク起キ上リタルニ外套ハ裂ケテ兩斷トナリ袴ハ破レテ土人ノ穿テル露臀袴ノ如キ姿ニ變ジタレ𪜈幸ヒニシテ甚シキ傷ヲ被ラズ且アウダニハ怪我モナク唯フヒキス一人毆打ノ難ニ遭ヒシノミ

斯ル間ニ既ニ群集ノ外ニ出デケレバフヲツグハ警吏ニ向ヒ其己ニ代リタル謝辭ヲ述ブ 警「サノミ心ヲナ勞シ玉ヒソ先ヅ僕ト共ニ來リ玉ヘ フォッグ「何處ヘ 警「製衣鋪ヘトゾ云ヒタリケル兩人ハ實ニケーマルフヒールド氏又ハマンヂボイ氏ノ黨ニ與シテ鬪爭セル者ノ如ク衣裳寸々ニ破レケレバ製衣鋪ヲ求メテ新シキ衣服ヲ調ヘ之ヲ着シテ共ニ旅館ヘ還リケリ然ルニパスパルツーハ既ニ六七梃ノ懷銃ヲ買ヒ求メ先キニ還リ居タリシガ今主人ノフヒキスト共ニ還リ來ルヲ見テ自ラ憂色アリシガ頓テアウダヨリ今日有リシ事共ヲ聞キテ始メテフヒキスノ約ニ背カザルヲ信ジ漸ク胸ノ曇ヲ霽シケリ却テ説ク一行ハ食事ヲ終リ馬車ヲ傭ヒ停車場ヘ行キケル道スガラフヲツグ氏ハフヒキスニ向ヒ「足下再ビ彼ノ大佐プロクタルヲ見玉ハザリシヤト問

ヘバ　警「否ナ　フヲッグ「拙者早晩米國ヘ再航シテ彼レト相見ントス英國ノ市民ニシテ斯ル凌辱ヲ蒙リ舍テ置クベキニアラズト聞ケ𪜈警吏ハ只微笑シテ答ヘズ蓋シフヲッグノ如キハ眞ニ英人ノ性質ニテ本國ニ在ツテハ私闘ヲ擯斥スレドモ榮譽ヲ保持スル爲ニ已ムヲ得ザレバ他國ヘ出デテモ闘フ人ノ類ナリ

午後五時四十五分停車場ヘ到レバ列車方ニ發程セントスル時ナリキ將ニ車内ヘ入ントシテフヲッグハ鐵道會社ノ一員ニ向ヒ「今日桑港ニアリシハ何事ゾ「夫レハ一ノ集會ニテ候　フヲッグ「去リナガラ市中ハ餘程雜沓ノ樣子ナリキ一撰擧ノ爲ニ開キシ集會ニテ候フ　フヲッグ「然ラバ軍團ノ總督ニテモ撰擧シタルノカ「否ナ唯一個ノ勸解裁判官ヲ撰ミシニ過ギ候ハズト此答辭ヲ聞テフヲッグ氏ハ車内ノ座ニ就ケバ列車ハハヤ汽笛ヲ鳴ラシテ進ミ行キケリ

第貳拾六回

大洋カラ大洋マデトハ米人ガ合衆國ノ中央ヲ横ギリタル一大線路ニ附スルノ渾名ナレ𪜈其實太平海ノ轍路線ハ兩線ニ分レテ甲ヲ「セントラルパシフヒック」ト稱シ桑港ヨリヲクデンニ至ル乙ヲ「ユニヨンパシフヒック」ト名クヲクデンヨリヲマハニ至ル此ヲマハヨリ紐育ノ間ハ轍路二線アリテ運輸頗ル便ナリ是故ニ桑港ト紐育ノ間ハ綿々タル鐵線ヲ以テ連絡シ其長サ三千七百八十六里ニ下ラズ就中ヲマハト桑港ノ間ハ空漠ナル荒原ニテ開明ノ今日猶蠻民出沒シテ旅客ニ害ヲ爲スヿ多シトゾ此内纔ニ「モルモン」宗徒ガイリノイス州ヲ逐ハレテ千八百四十五年ノ頃ヨリ移轉シ來リ殖民ノ基ヲ拓キシ地方アルノミ昔時ハ兩港ノ間ヲ經過スルニ六ケ月ヲ閲スルモ猶早シト稱セシガ今ハ纔ニ七日ヲ出ズシテ通過スルニ至レリ

千八百六十二年ノ頃ナリシカ南部諸州ノ議員ハ線路ヲ南方ニ通ゼシメントテ痛ク論辯シケレ𪜈芳名不朽ノ大統領リンコルン氏ハ斷然之ヲ緯度四十一二度ノ間ト定メヲマハヲ以テ新線ノ輻湊點トナセリ斯クテ其土工ニ着手スルニ當リ進歩ノ迅速ナル眞ニ米人ノ技倆ニ負カズ急進ノ弊ハ往々過失ナキヲ保セザレ𪜈此工事ハ敢テ工業ノ美果ヲ損ゼズ其一例ヲ擧ゲンニ昨日落成ノ線上ヲ過ギテ明日將ニ布カントスル鐵線ヲ運輸シ築造隨テ成レバ之ヲ假リテ隨テ進ミ凡ソ平坦ノ地方ニ於テハ轍路ヲ拓クヿ日ニ壹英里半ニ達セリ

太平海轍路ハロワカンサスコロラドヲレゴンノ諸州ヲ經過スルニ當テ數條ノ支線ヲ生ズ先ヅヲマハヲ發シテプラッタル川ニ沿ウテ其北支ノ下流ニ至リ轉ジテ南支ニ沿ヒラ、ミノ地方ヲ横ギリワアサッチ山ヲ過ギ大鹽湖ヲ廻リテ彼ノモルモン徒ノ首府大鹽湖府ニ達シ又チュイラノ深峽ニ入リシータルアンボルトノ連山アンボルト川及ビネバダノ高嶺ノ如キ荒漠無人ノ境ヲ過ギテサクラメントニ下リ進テ太平海ニ達ス此長途ノ間千仞ノ峻嶺ヲ踰ルモ勾配甚ダ急ナラズ一英里ニ付百十二尺ヲ超エシ處ナシ今フヲッグ氏ガ汽車ニ駕シテ七日間ニ跋渉シ十二月十一日ヲ以テ紐育ニ到リ直ニ大西洋渡海ノ郵船ニ移ラントスル前路ノ狀景概略右ノ如シ

フヲッグ氏ノ一行ガ乘ル處ノ客車ハ長形ノ乘合馬車ニ似テ内ニ區畫ナク兩側ニ榻子ヲ並列シ其中央ニ一條ノ通路ヲ設ケ盥梳室、吸烟室等ヘ行クノ便トナセリ列車ハ各々相聯續スルヿナレバ旅客ハ意ノ欲スル所ニ隨テ列車中ヲ往來シ會食車或ハ喫茗車或ハ會同車何レノ車ヘモ至ルベシ唯闕ク處ハ劇場車ノミ然レ𪜈早晩其設ケ有ルニ至ラン車中又別ニ新聞紙書籍等ヲ鬻グ者及ビ銘酒、烟艸、菓子ノ類ヲ賣ル者アリテ頗ル便宜ナリ

却テ說ク旅客ハ午後六時ヲ以テ桑港ノ對岸ナル

ヲヽクランドノ停車場ヲ發程セシガ折シモ日既ニ全ク暮レテ密雲天ヲ鎖シ凍風將ニ雪ヲ釀サントシテ寒氣膚ニ徹シ列車ノ進行甚ダ迅速ナラズ且各地ニ立チ寄ルヿナレバ其速力ハ一時間凡ソ二十英里内外ナリサレド定期ノ時限内ニ米國ヲ經過スルニハ素ヨリ足レル所ナリ

車中ニ入テヨリ以來行客ハ皆睡眠ヲ催シケン言語自ラ少ク車内靜カニ唯車聲ノ轟クヲ聞クノミフヒキスハ依然舊態ヲ變セザレ𪜈パスパルツーハ香港ノ一事以後交情大ニ疎遠トナリ互ニ相親ムノ情ハ殆ド絶エ警吏ノ傍ニ座ヲ占ムレ𪜈深ク戒愼シ苟ニモ警吏ノ所業ニ怪ムベキ者アラバ忽チ其細領ヲ撚ヂ上ゲ吳レント注目シテゾ居タリケル

列車發程シテ凡ソ一時計リ過ギタル頃ヨリ雪飄々トシテ降リ來リシガ幸ヒニ列車ノ行進ヲ障ルニ至ラズ暫クアリテ窓外ヲ眺メバ眼中只白氈ヲ布キタル如ク其際涯ヲ知ラズ時々機關車ノ湯汽旋リ騰リテ淡光ヲ帶ビ朦朧タリ午後八時小使入リ來リテ旅客ニ就寢ノ時限來レルヲ報ゼリ元來此客車ノ構造ハ寢車ヲモ兼ル者ナレバ倚子ノ背ヲ飜シ伸ベテ之レニ蒲團ヲ敷ケバハヤ一箇ノ寢臺ト變ジ忽チ適好ノ寢室ヲ現出ス旅客各〻寢床ニ入レバ重帷アリテ深ク鎖シ他ヨリ窺ヲ得ズ衾褥ハ潔クシテ雪白ニ羽枕ハ温ニシテ輕柔ナリ安眠シテ疲ヲ慰メント各〻一臥ヲ試ムレバ快樂恰モ郵船ノ子房中ニ眠ルト異ナラズ此頃ヨリハ立チ寄ル場所モ少ナケレバ列車ハ汽力ヲ盛ニシテカリフホルニヤ州ヲ横ギリ進行シタリケリ

桑港ヨリサクラメントニ至ルマデノ鐵道ハ所謂「サントラルパシフヒック」ナル者ニテ其ノ末流サンパフロ灣ニ至テ海ニ入ルアメリカン川ニ沿ヒ直ニ東北ニ向テ行進スルニ此地方ハ平坦ニシテ距離モ亦百二十里ヲ過ギザルヿナレバ六時間ニテ經過シ夜半サクラメントニ達セリ旅客ハ皆熟睡セル頃ナレバカリホルニー州ノ首府ニ達シタルヲ知ラズ斯リケレバ廣濶ノ美街宏莊ノ政廳、寺院、公會園ノ如キモ誰一人觀ル者ナカリキ

サクラメントヲ發シジョンクションロクリンヲウホルンコルファキスノ各驛ヲ過ギテ列車ネバダノ重嶺ヘカヽリ翌朝七時ヲ以テシスコノ停車場ヲ過ギテ後チ一時間ニシテ寢室復タ變ジテ尋常ノ客車トナレリ此時旅客ハ硝子窓ヲ透シテ眺ムレバ此邊ノ轍路線ハネバダ嶺ノ屈曲ニ從ヒテ築キシヲ以テ或ハ峨々タル峻嶺ノ半腹ニ沿ヒ或ハ千仭ノ絶壁ニ懸リ急曲ヲ避ケテ故ニ迂回シ深谷ニ入リテ出ル處ナキカト疑ハル復タ遠ク機關車ノ過グルヲ見レバ左右ノ號燈及ビ銀色ノ信鐘閃々トシテ輝キ排障器ハ突出シテサナガラ巨獸ノ疾走スルガ如ク汽笛ノ響ハ凛冽トシテ溪間ノ奔流瀑布ノ水聲ト相應ジ汽罐ノ烟ハ濛々トシテ松杉ノ梢ニ黯淡タリ此邊架橋隧道稀ニ線路地勢ニ從テ巧ニ山腹ヲ繞レリ九時頃ヨリシテ列車ハカルソン峽ヲ經テ東北ニ向ヒネバダ州ヘ入リ頓テレノニ達ス乘客此地ニテ二十分ノ時間ヲ得テ午餐ヲ喫シ正午ヲ以テ又出發ス是ヨリシテ線路アンボルトノ河岸ニ沿ヒ北ヘ向フヿ數里又轉ジテ東ニ向ヒ終始河岸ヲ去ラズ其水源ナルアンボルト嶽ノ麓ニ至レリ此嶽ハネバダ州ノ東界ニアリ午餐ヲ畢テ後チフヲッグ氏ノ一行ハ車中ニ在ツテ日ニ觸ルヽ所ノ風景ヲ見ルニ廣野ノ渺漠タルアリ遠山ノ雲際ニ聳ユルアリ溪水ノ泡沫ヲ飛シテ奔流スルアリ時トシテハ野牛ノ群遊スルアリテ遠ク之ヲ眺メバ長堤ノ動クカト怪マルヽアリ野牛數千群ヲナシ來テ線路ヲ横ギルニ當テハ爲ニ機關ヲ停メテ其經過スルヲ待ツ數時間ノ長キニ及ブヿ少カラズト云フ今回モ亦午後三時頃壹萬有餘頭ノ野牛來テ線路ヲ遮リケレバ列車ハ進ムヿ能ハズ已ヲ得ズ進行ヲ緩ウシ無數ノ群中ヘ排障器

ヲ揮テ一突ヲ試ムルト雖ドモ無數ノ獸隊容易ニ撃破スベキニアラザレバ終ニ行進ヲ止メ唯茫然ト眺メ居タリ然ルニ野牛ハ更ニ恐怖ノサマナク首ヲ低レ徐々トシテ歩ミ時々吼然トシテ長鳴スルノミ其形ハ歐洲ノ牡牛ヨリ大ニ尾足共ニ短クシテ肩骨凸出シ角根ノ距離廣ク頭ヨリ領ニ至ルマデ長毛繁生シテ其肩上ニ垂ル恰モ是レ一抹ノ括肉川流トナリテ奔逆スルガ如ク何等ノ堤陂モ亦能ク之ヲ過ムベカラズ

旅客ハ皆車頭ニ出テ奇異ノ牛隊ヲ覽テゾ居タリケルフヲッグ氏ハ行路ノ遲延ヲ厭フベキ筈ナレドモ却テ自若トシテ野牛ノ道ヲ開クヲ待チ居タレドパスパルツーハ少シモ堪フルコト能ハズ怒色滿面ニ露レ豫テ携ヘ來レル短銃ヲ連發シテ之ヲ打チ殺サント犇メキツヽ嗚呼何等ノ國ゾ數萬ノ野牛隊ヲ成シ汽車ヲ抑留シテ天下ノ公道ヲ妨ゲ悠々トシテ行列ストハ奇怪ノ至リナリ又機關手モ斷然汽車ヲ飛バシテ此畜生ヲ蹂躙セザルハ怪ムベシ知ラズフヲッグ君ノ前見遠ク慮リテ此事ヲモ豫算ニ加ヘ玉ヒシニヤ

然レドモ機關手ノ此障碍ヲ乘リ破ラントセザルハ大ニ慮ル處アレバナリ若シ輕々シク爲ス時ハ最初排障器ニ觸ル、野牛ハ必ズ壓殺スベキハ論ヲ俟タザレド機關ノ力モ自ラ限リアリテ終ニハ脱線ノ災ヲ惹キ起シ旅客ノ禍トナルコト必定ナレバソレガ爲メ靜ニ獸群ノ經過スルヲ待テ後チ汽力ヲ倍シ遲延ノ時間ヲ償フコソ上策ト思ヒシナレ斯クテ其行列ハ三時間ノ長キヲ歷テ漸ク過ギ去リ線路障碍ナキニ至リシハ既ニ日沒ニシテ此時其隊尾ハ今漸ク線路ヲ超ユルモ既ニ隊首ハ南方ノ雲際ニ沒シテ見エザリキ是ヲ以テハンボルト嶺ヲ踰エタルハ殆ンド八時ニシテ大鹽湖ノ近傍「モルモン」宗徒ノ殖民地ナル奇異ノ地方ウター州ヘ入リタルハ既ニ九時半ナリキ

第貳拾七回

十二月五日ノ夜ヨリ列車東南ニ向テ行クコト凡ソ五十里ニシテ一轉シ東北ニ進ムコト又五十里漸次大鹽湖ニ接近セリ翌朝九時ニ垂ントスル時パスパルツーハ車頭ニ立テ鮮氣ヲ呼吸シテ在リシガ此日ハ降雪漸ク歇ミ積雪地ニ在テ白氈ヲ布ケルガ如ク太陽微ニ見ハルヽモ重霧ニ蔽レテ光ナク其形盆大ノ金貨ヲ空中ニ懸ルニ彷彿タリ壯漢之ヲ見テ胸裏私ニ其價ヲ英貨ニ比セント暗算スルニ突然異容ナル一外客入リ來リテ終ニ果サズ

今エルコノ停車場ヨリ入リ來レル外客ノ容貌ヲ見ルニ身幹長大ニシテ色淺黑ク鬚鬢亦黑シ黑キ衣服ヲ着シ黑帽ヲ戴キ領ニハ白キ襟飾ヲ結ビ手ニハ白革ノ手袋ヲ穿テルハ問ハズシテ宣教師ナラント見エケリ此人列車ノ首ヨリ尾ニ至ルマデ客車ニ入ル每ニ壹葉ノ引札ヲ取テ其戶ニ貼リ付クパスパルツーハ何ナラント近キテ覽ルニ「モルモン」宗長老ウヰリヤム、ヒッチガ本日列車ニ來リ合セタル序第百十七號ノ客車ニテ十一時ヨリ正午マデ「モルモン」宗ノ教旨ヲ說クユヱ在車ノ紳士中同宗ノ奧義ヲ知ラント願フ者ハ來聽アルベシ云々トアリパスパルツーハ元來「モルモン」宗ハ一夫數妻ヲ娶ル教法ナルヲ知レドモ未ダ其詳細ヲ知ラザレバ私ニ獨言スラク「行クベシ行クベシト頓テ說教ノ廣告ハ車中ニ普ネク其時刻ニ至レバ乘客數百有餘名ノ內三十名許ハ何事ヲ說クナラント來テ第百十七號ノ客車中ニ座ヲ占メタリ中ニモパスパルツーハ前列ニ設ケタル歸依者ノ席ニ坐セリ

長老ウヰリヤム、ヒッチハ既ニ人アリテ其說ヲ駁セシ者ニ答ルカト思ハル、斗リ憤恚ヲ帶ビタル音聲ニテ說キ起シ「如是我聞ジヨゼフ、スミスハ聖教ノ犧牲ナリ其弟ヒラムモ亦犧牲ナリ是愚老ガ諸君ニ明言スル所ナリ合衆國政府ガ我教主ニ對シテ暴戾ナルコト知ルベシ他日必ズブ

リグハム、ヤングヲ殘シテ犧牲トナスハ必定ナリ若聽衆中誰カ敢テ之ヲ駁シ得ルヤト之ヲ聞キテ聽衆一人ノ之ヲ駁スル者ナシ如何トナレバ長老ノ外貌ハ沈毅ナルモ語氣憤怒ヲ帶ビタルニ恐ルレバナリ當時合衆國政府ハ果斷ノ處置ヲ以テモルモン宗徒ヲ遇シ其偏執ナルヲ壓倒シテツターノ地方ヲ略シ之ヲシテ合衆國ノ法ニ服セシメ反逆ト數婦ヲ娶ルノ罪ヲ鳴シテブリグハム、ヤングヲ囚獄ニ下シタレバ爾來其教徒ハ憤怨ニ堪ヘズ益〻精力ヲ勵マシテ國會ノ非ヲ揚言シテ其不道ヲ咎メタリ長老ウヰリヤム、ヒツチノ如キモ鐵道客車ノ中ニマデ來リテ説法スルモ是故ナリ却テ説ク長老ハ彌〻聲ヲ勵マシ遠ク上世ニ溯リイスラエル建國ノ頃一個ノ豫言者出デ來テ新教ノ聖旨ヲ記シ之ヲ其子モロムト云フ者ニ傳ヘシ縁起ヲ説キ其後千八百三十五年ニ此貴重ナル聖書ヲ米國ウアルモン州ノ一農ジヨゼフ、スミスト稱スル不可思議ノ豫言者ガ翻譯セシハ是レ或日林中ニ至リタルニ神使一片ノ紫雲ニ駕シ來リテ親ク之ヲ授ケタリシニ縁ルト陳ベタリケリ

此過去ノ縁起ヲ聽クヲ厭フ聽衆ハ漸々起テ座ヲ去レリ然レ𪜈長老ハ續テ説クニスミスハ爾來其父ト二兄及ビ數名ノ徒弟等ト力ヲ協セ終ニ一派ノ宗門ヲ開キ之ヲ米國ノミナラズ遠ク英獨瑞典ノ諸國ニ廣メシニ自由ヲ貴ブノ輩ハ爭テ之レニ歸依シ其徒日ヲ逐テ多ク殊ニ工人ノ歸依スル者多ケレバヲハイヨ州中ヘ別派ニ殖民スルマデニ至リシ由來ヲ説キ又カルクランドヘ二拾萬弗ノ資金ヲ以テ一宇ノ禮拜堂ヲ建テ其後スミスハ巨萬ノ金ヲ積テ傍ラ銀行ノ業ヲ營ミシ折柄圖ラズモアブラハム以下高名ナルエジプトノ僧ノ眞蹟ヲ得タル物語ヲ演ブルニ其演説ノ長キニ倦ンデ聽衆ハ次第ニ座ヲ去リ今ハタヾ二十人許ヲ餘スニ過キズ

然レ𪜈長老ハ更ニ撓メル色ナク又説キ起スヤウ「如何ノ譯カ知ラザレドスミスハ千八百三十七年中ニ破産シ株主ノ怒ニ觸レテ身ヲ炭汁ノ中ニ投ゼラレシモ幾許モナク再ビ宗徒ニ崇敬セラレテミスーリー州インデペンスニ於テ復三千有餘ノ徒弟ノ首トナリ一箇ノ安樂國ヲ設ケタリ然ルニ又嘗族輩ニ嫉マレ已ヲ得ス米國遠西ノ絶域ヘ退クニ至リシ來歷ヲ長々ト演説セリ此時マデ座中ニ留ル者僅ニ十名ナリパスパルツーハ毫モ倦ム色ナク猶耳ヲ欹テヽ聽クニスミスハ爾來苛虐ヲ忍ビテ益〻精ヲ勵シイリノイス州ヘ出テミシヽピ河畔ノノーヴーラベルヲトシテ居住ヲ定メ其人口二萬五千餘ニ上リケレバスミス親ラ市政ヲ司リ訴訟ヲ判ジ又兵馬ノ權ヲ握ルニ至リシ履歷ヲ細ニ述ベ續テ其教祖ガ千八百四十三年ニ合衆國大統領ノ候補タラントセシモ毒計ヲ旋ス者アリテ卑怯ニモ教祖ヲカルタジユヘ欺キ招キ終ニ之ヲ提ヘ陰ニ覆面ノ兇徒ヲシテ暗殺セシメシ狀ヲ演説セリ其時ニハ座中唯パスパルツー一人トナリタルガ長老ハ眼睛ヲ凝ラシパスパルツーヲ睨ミ説クニ「教祖スミス兇徒ノ刃ニ斃レテ後ブリグハム、ヤング神託ニ因テ其遺志ヲ繼ギノーヴーヲ去テ大鹽湖ノ畔ヘ來リ新殖民地ヲ拓キシニ近隣地質ノ肥腴ナルト其位置ノカリフホルニヤ州金山ヘ行ク要路ニ當ルトヲ以テ大ニ繁昌セリ就中此好結果ヲ得セシメシ者ハ教旨ノ貴キニ由ルトハイヘ𪜈我ガ一夫數婦ヲ娶ル主義ノ效ナリ然ルニ政府ハ彌〻我徒ヲ嫉ミ或ハ擅ニ兵ヲ出シテ殖民地ヲ蹂躙シ或ハ法ヲ枉ゲテ教頭ブリグハム、ヤングヲ幽囚セリ吾人ハ終ニ兵力ノ爲ニ屈スベキカ否ナ決シテ屈セジヴアルモントヲ逐ハレイリノイスヲ逐ハレヲハイヨヲ逐ハレミスーリーヲ逐ハレ今又ウターヲ逐ハルヽモ益〻志ヲ堅シ何處ヘナリ𪜈無主ノ地ヲ得テ我徒ノ天幕ヲ張ラント欲ス如何ニ足下ノ如キ篤志ナル人ハ來テ吾人ト共ニ我ガ教門ノ旗影ニ生涯ヲ送ラズヤト滿顏憤怒ノ色ヲ

含ンデ唯一個ノ聽者ニ問ヘバパスパルツーハ憚ル色ナク否ト答テ忽チ座ヲ去リケリ之ニ由テ終ニ座中一名ノ聽衆ナキニ至リタレドモ長老ハ猶激説ヲ吐テ已マザリキ

說法ノ間列車ノ進行甚ダ迅速ニシテ午時過ギタル頃既ニ大鹽湖ノ西北岸ニ達セリ此處ヨリ湖上ヲ一望スレバ水面漫々トシテ岸邊ノ巨巖堆鹽ニ包マレ積雪ヲ戴クガ如ク其美景謂フベカラズ湖水ノ面積ハ岸頭ノ巨巖次第ニ層ヲ加フルヲ以テ昔日ヨリ縮マルヿ若干方里ナレド深サハ之ニ反シテ數尋ヲ加フ其長七十里幅三十五里ニシテ海面ヨリ高キヿ三千八百尺是レ則チ海面ヨリ低キヿ千二百尺ニアルアスハルチト湖（小亞細亞ニアリテ死海ト稱ス）ト反對ナリ湖水鹽分ヲ含ムヿ甚シク其重量四分ノ一ハ堆鹽溶解シテ其内ニ交レルナリ蒸溜水ノ重量ヲ千斤トセバ同量ノ湖水ハ千百七十斤ナリ是レガ爲メ魚介生活スルヿ能ハス偶マ魚介ノウエバル川其他ノ溪水ヨリ下テ湖中ニ入ル者アルモ直ニ鹽分ニ犯サレテ死ス故ニ死海ノ名アリ然レドモ湖水ノ重キ人ノ其中ニ入ルモ沈マズト云フハ妄誕ノ說ナリ

湖邊到ル處悉ク田圃ヲ爲セルハ是レモルモン徒ノ能ク農事ヲ勉ムルニ由レリ六ケ月ノ後即チ三四月ノ頃此地ニ來ラバ牧場ニハ腴草萋々トシテ繁茂シ圃ニハ麥穗穰々トシテ登熟シ園ニハ花卉ノ馥郁タルアルベキニ惜ムベシ今嚴冬ニ當リ積雪地上ヲ覆ヒテ四邊渾テ銀世界ト變ジタルヿヲ

午後二時ヲクデンヘ着セシガ列車ハ六時ニアラザレバ發程セザルヲ以テ十分ノ時間アリフヲツグ氏ノ一行ハ停車場ヨリ支線ノ轍路ヲ經テ大鹽湖府ニ至リ縱覽スルニ當府ハジウルデン河ノ岸ワーザッツ山ノ麓ニアリテ純然タル米風ノ結構ナリ街衢廣闊ナルモ裝飾ナク區畫方正ニシテ却テ雅致ヲ缺ケリ

此府ハ絶テ寺院ノ見ルベキ者ナケレバ概シテ府中奇觀ナシト云モ可ナリ唯少シク見ルニ堪ヘタル者ハ教頭ノ居館裁判處及ビ武庫ノ在ルノミ餘ハタヾ青色ノ煉化石ヲ疊ミタル家ニテ繞ラスニ庭樹ノアルモノ數軒ト府城ノ周圍ニ千八百五十三年中ニ建設セル土石混造ノ塀アルトノミナリ所謂本街ナル者ニハ市場アリ旅舍數軒アリ其中「大鹽湖舍」ナル者ヲ巨擘トス

フヲツグノ一行ハ市中ヲ徘徊スルニ渾テ寂然トシテ熱鬧ノ地ナク只禮拜堂ノ近傍稍ヤ行人稠ク其中ニモ婦人ヲ多シトス是レ他ナシ「モルモン」教旨ノ然ラシムル所ナリ然レドモ「モルモン」徒ハ總テ數婦ヲ擁スルニアラズ各自ノ自由ニ任スノミ此教旨ニテハ婦女ノ寡居ハ天理ニ背ク者トナスガ故ニ婦女皆熱中シテ嫁センヿヲ願フナリ此宗徒ノ中富有ナル者ト見ユルハ必ズ黒絹ノ衣ヲ穿チ質素ナル肩掛ケヲ纏ヘリ其餘ハ大概更紗ノ棉服ヲ着ル者多シパスパルツーハ心中私ニ此「モルモン」宗ノ婦女等ハ唯一夫ノ爲ニ生ヲ送ルヲ慨歎シ又其夫タル者ハ數婦群居スルヨリ閨門ノ中常ニ怨聲絶エズ一旦往生シ其婦ヲ率キテ淨土ヘ至ルニ及ハヾ我ガ最愛ノ妻妾モ皆敎祖スミス一個ノ有トナリテ其後宮ノ裝飾ニ列ナルヲ見ルベシ思ウテ此ニ至レバ長大息ニ勝ヘズ又偶然往來ノ婦女ヲ見レバ皆我ヲ見ルニ何トナク秋水ヲ送ルガ如ク彌々恐懼ノ念ヲ増シタリシガ幸ニシテ遊覽此ニ盡キケレバ一行ハ四時ニ近キ頃ヲクデンヘ還リ各々客車中ヘ座ヲ占メタリ斯クテ發車ノ期ニ至リ汽笛一聲既ニ機關ノ車輪漸ク列車ニ速力ヲ加ヘントスル時忽チ後ニ聲アリテ「停ムベシ停ムベシト叫ブ者アリ列車發スルニ當リテハ又容易ニ進行ヲ止メガタキニ斯ノ如ク絶叫シテ來リシハ是レ「モルモン」徒ノ一紳士ニシテ發車ニ後レシ者ト見ニ停車場ニ門牆ノ設ケナキヲ幸ヒトシ宙ヲ飛ンデ走リ來リ漸ク最尾ノ客車ヘ逐ヒ付キ一躍シテ飛ビ乘リシガ精力既ニ竭キテ一時ハ玆ニ倒レシマヽ何

事モ云ハザリキ

パスパルツーハ最初ヨリ此狀ヲ見テ驚キ居タリシガ頓テ其傍ニ行キ見レバ推察ニ違ハズ其人ハ閨門ノ治ラザルニ由リ終ニ遁走スル者ナルヲ聞キ頗ル之ヲ憐ミ且ツ遁走スルマデニ迫リシヿナレバ定メシ二十餘名ノ妻妾ヲ蓄ヘシナラント思ヒ其少シク回復スルヲ見テ辭ヲ卑クシテ妻妾ノ數ヲ問ヘバ「モルモン」先生ハ天ヲ仰テ歎ジツヽ「一婦ナリ然レ𪜈猶我ニハ餘リアリト云ヒケリ

第貳拾八回

列車ハ大鹽湖畔ヲグテンノ停車場ヲ出デテ北ヘ向ヒウエバル河岸ニ至レリ則チ桑港ヲ發シテヨリ行程玆ニ九百里ニゾナリケル又進ンデ東ノ方ワアサツチ嶽ニ入レリ此邊到ル處渾テ峻巖絶壁ナラザルナク彼有名ナル巖嶽モ此地方ニアリ既ニ政府ヨリ會社ヘ下附セシ補助金ノ如キ平原ハ平均壹英里ニ壹萬六千弗ノ割合ナレ𪜈此險道ニ至ツテハ四萬八千弗ノ巨額ヲ與ヘタリト云フ然レ𪜈前回ニモ言ヘル如ク工師ハ能ク地形ヲ察シテ地勢ニ從ヒ勉メテ難處ヲ避ケテ轍路ヲ架シタレバ全線ノ中隧道ヲ穿チタルハ長一萬四千尺ナル者一箇處アルノミ桑港ヨリ次第ニ登リ來リ大鹽湖畔ニ至レバ此處ヨリ又漸次ニ大西洋ノ方ヘ向ヒ降ルニ從テ溪水ノ山間ニ流ルヽ者頗ル多クモッチグリイン等ノ急流ニ架セル小橋ヲ渡ルヿ數回ナリパスパルツーハ日ヲ逐テ故郷ニ近ヅケバ歸心益〻切ニフヒキスモ亦早ク英國ノ地ヲ踏ントスル情ハ遠クフヲッグニ勝リテ切ナリケレバ一同ニ不虞ノ危險ニ遭テ阻滯センヿヲ深ク恐レケリ

午後十時列車フオルト、ブリッヂアニ停ルヿ暫時ニシテ又二十里許リ行キヰヨミングノ地方ビッタル、クリイキノ谷ニ入レリコロラド州ニ注グ處ノ川源ハ多ク此ヨリ出ヅト云ヘリ

翌七日グリイン河ノ停車場ニ止ルヿ十五分間昨夜ヨリ雪ハ降續ケ𪜈幸ヒニ雨ヲ雜ヘテ多ク積ラネバ列車ヲ阻ムニ至ラザリキ然レ𪜈パスパルツーハ天氣ノ惡シキヲ見テ若シモヤ雪塊ノ車輪ニ粘着シテ危險ヲ釀サンカト憂慮シツヽ獨言シテ云ク「主君ガ此冬天ニ行旅ヲ思ヒ立チ玉フハ何等ノ意ゾ年中ノ好時節ヲ撰ンデ途ニ上リ玉ハヾ勝算モ自ラ多カルベキニト打呟キツヽ頻リニ空中ノ模樣ヲノミ咏メ居タルニアウダハ又別ニ憂ヘノ種ノパスパルツーヨリモ大ナルヲ生ジタリ是レ別事ニアラズ嚮ニ列車停車場ニ止マリシ折數個ノ乘客車ヲ降テ場頭ニ散歩スル者アリ此時アウダハ何心ナク窓外ヲ看ルニ豈圖ン前日桑港ノ撰擧會ニテフヲッグ氏ニ對シ粗暴ノ振舞ヲナシタル大佐スタムプ、プロクタルノ其内ニアリツルナリアウダハ之ヲ見テ打チ驚テ己ノ見ラレンヿヲ恐レテ直ニ頭ヲ窓裏ニ退ケタリキ

少婦ハフヲッグノ沈着ナル意中測ルベカラズト雖𪜈其懇情ノ厚キニ感ジ愈〻愛慕ノ念ヲ增シ其心ハ稍ヤ恩義ノ界ヲ踰エ既ニ別種ノ情ヲ起セル程ナレバ今不圖恩人ニ抗敵スベキ暴客ノ列車ノ内ニ在ルヲ見テ心中更ニ安ンゼズ若シフヲッグ氏ノ知リ玉ハヾ必ズ嚮ノ無禮ヲ責メ大事ヲ惹キ出シ玉ハント獨リ心ヲ痛メツヽ兩人ノ出會ザランヿヲ祈リケリ斯クテフヲッグガ一睡セル間ヲ窺ヒ竊ニフヒキスパスパルツーノ兩人ヲ招キ有リシ事ヲ物語レバフヒキスハ之ヲ聞テ大ニ驚キシガ暫クアリテ話スヤウ「貴女心ヲ安ンジ玉ヘ元來恥辱ヲ蒙リシ本人ハ僕ニテ候ヘバフヲッグ氏ノ手ヲ俟タズ僕先ヅ彼ト一撃ヲ試ムベシ　パス「彼奴ノ如キハ君ノ手ヲ勞スルニ及バズ己ニテ事足リ候フ　アウダ「フヲッグ氏ハ自身ノ恥辱ヲ他人ニ雪ガシメ顧ミザル人ニハアラズ既ニ再ビ米國ヘ來リ鬪ハントマデ云ヒ玉ヒシヿナレバ若シ不意ニ面ヲ合セ玉ハヾ必

ズ一大事トナリヌベシ如何ニモシテ出會ヒ玉ハヌヤウスルコソ上策ナラメ　警「貴女ノ言ハルル處道理ナリ若シ出會ヒ玉ハヾ勝ツモ負クルモ同ジク旅行ノ妨ゲナラント云ヒナガラ再ビ口ヲ開カントスル𪜈パスパルツー傍ヨリ「若シ此上途中ニテ妨ゲアラバ此度ノ賭ハ敵手ノ爲ニ勝ヲ奪ハルベシ此車今日ヨリ四日ノ內ニハ必ズ紐育ヘ達スルヿナレバ暫時ノ間主君ヲ此車外ヘ出サヾル策ヲ施サバ彼ノ憎ムベキ米人ト面ヲ合セ玉フヿアルマジト云フ此時フヲッグハ眠方ニ覺メ雪ニ閉ヂラレ鬱陶トシテ車窓ヨリ彼方此方ノ景色ヲ眺メントテ頭ヲ擡ケレバ彼ノ談話モ止ミヌ少時アリテパスパルツーハフヒキスニ私語ヤクヤウ「君ハ眞ニ我主君ニ代テ鬪ヒ玉フ意アリヤト問ヘバフヒキスハ斷然トシテ云ク「汝ガ主人ヲ生ケテ歐洲ヘ連レ回ルニハ水火ノ內モ辭セザルナリトパスパルツーハ之ヲ聞キ悄然トシテ恐シク思ヒシガ其忠誠ノ情ハ幸モ衰ヘザリキ

兩敵出會ノ難ヲ避ケン爲メフヲッグヲ車外ヘ出サヾル策ハ如何ナル術ヲ用ヰルベキ幸ヒナルカナ同氏ハ其性沈着ニシテ好奇ノ情薄ケレバ警吏ハ不圖一策ヲ案ジ出シ頓テフヲッグニ向テ云ヘルヤウ「汽車中ニ在テ無聊ニ過セバ日モ常ヨリハ長キヤウニ覺エ候フ　フヲッグ「眞ニ然リサリナガラ時ハ自然ニ過ルモノニ候ハズヤ　警「汽船中ニ在リ玉ヒシ頃ハ屢々骨牌ヲ玩ビテ長日ヲ銷シ玉ヒシナラズヤ　フヲッグ「然リサレド此處ニハ骨牌モナク又敵手モナケレバ如何トモ爲シ難シ　警「骨牌ノナキハ意ト爲シ玉フナ車中之ヲ賣ル店アレバ購求スルヿ最易シ敵手ニハ先ヅアウダ君在セリト云ヘバ少婦ハ聲ニ應ジテ「骨牌ノ遊戲ハ英國ノ教科ニアリテ妾モ少シハ爲シタルヿアリ　警「僕モ隨分得意ノ業ユヱ連中已ニ三人アリ今一人ハ闕クルモ可ナラン此「ウヰスト」ハ平常四人ニテ勝敗ヲ爭フ戲ナリト云ヘバフヲッグハ平素好ム所ノ遊戲ヲ思ヒ掛ケナク汽車中ニ催ス機會ヲ得タレバ欣然トシテ「兎ニ角貴言ニ從ハント直ニ僕ニ言付ケ遊具ヲ買ハシムレバ頓テ骨牌貳組ニ添ルニ算珠幷ニ羅紗張ノ板一枚ヲ携ヘ來レリ遊具頓ニ備リケレバ直ニ其遊戲ヲ始メテ勝敗ヲ競フニアウダモ能ク此戲ヲ解シ折ニ觸レテハフヲッグモ及バヌ妙手ヲ出シテ賞贊ヲ蒙ル程ナリ又フヒキスノ如キハ頗ル此技ニ巧ミニテ中々侮リ難キ敵ナリキパスパルツーハ此體ヲ傍看シ胸中私ニ謂ヘルヤウ「今ハ早ヤ慮ル處ナシ主君ハ必ズ車中ヲ動キ玉ハザルベシ

午後十一時列車正ニ兩大洋ニ注グ水源ノ境界ニ達セリ此處ハ海面ヨリ高キヿ七千五百二十四尺ナリ呼ンデブリッチャル、パッスト稱ス是ヨリ行クヿ二百里ニシテ空濶タル平原ニ出ヅ此邊ノ地形ハ天工故ラニ轍路ノ便ヲ圖リシ者ノ如シ

既ニ大西洋ニ面スル山足ニ出ルヤ北プラット河ノ支流山間ヨリ湧キ出ルアリ此處ヨリ東北ヲ望メバ巖嶺ノ連脈空ニ聳エテ恰モ屛風ヲ環ラスガ如シ其中ララミ峯ヲ以テ最モ高シトス此山麓ト轍路間ハ廣漠タル原野ニシテ數條ノ流水之ヲ潤シ左ノ方ハ岡陵起伏シテ遙ニミシヽピ河ノ一支流タルアルカンサス河ニ至テ止ム

午時三十分ハレック陵ノ下ヲ過ギル玆ニ砲壘アリテ此邊ノ警備ニ具フ此處ヨリ二三時間ヲ進行スレバ全ク山路ヲ踰エ了ルベキ筈ナレバ先ヅ難處モ無事ニ經過シタリトゾ覺エタル折シモ降雪漸ク歇ミ寒氣凜烈タル肌ヲ裂ク計リナリ四邊寂寞トシテ人跡絶エ唯時々怪鳥ノ機關ノ響ニ驚キテ逃ゲ惑フヲ見ルノミ

フヲッグノ一行ハ午餐ヲ喫シ復タ骨牌ヲ採テ勝敗ヲ爭ヒ餘念ナカリシガ一聲ノ汽笛ヲ放テ忽然汽車ハ行進ヲ停メタリパスパルツーハ頭ヲ窓外ヘ伸シテ見レド停車場ノ在ル樣子モナク又何等ノ事故ナルカ更ニ知ルベキヤウナク不審シ

クノミ思ヒケリ斯リケレバ萬ニ氣遣フアウダトフヒキスハフヲッグノ車外ヘ出ヅルヿアリモヤセント安キ心ナカリキ幸ヒニ同氏ハ動ク氣色ナク僕ニ命ジテ其事故ヲ探ラシムパスパルツーハ急ギ車外ヘ飛ビ出セバ早ヤ四十餘名ノ旅客車外ニ在テ大佐プロクタルモ其中ニアリ車頭ノ方ヲ望ミ見レバ赤色ノ信號轍ヲ遮ギリ機關手、列車管事ノ徒皆降テ一個ノ信號夫ト何ヤラン頻ニ論ジ合ヘリ乘客ノ内ニモ三四名之ト言ヲ交ル者アリ近キテ之ヲ聽ケバ大佐ハ就中、大聲ヲ放チ昂然ト言ヒ罵シル其語ニ對シ信號夫ハ「否ナ通行ノ術ナク候フメヂシンボウ橋大破ニ及ビタレバ迚モ斯ク重量ノ列車ハ渡ルヿ叶ヒ難シ

此橋ハ此處ヨリ凡ソ一里バカリ距タリタル急流ニ架セル釣橋ニテ其兩岸ハ直立シ恰モ削リ建テタル城壁ノ如シ

然ルニ架橋ノ釣鎖ニ破損ヲ生ジ其斷エ落ンヿ旦夕ニ有ントス迚モ列車ヲ驅テ此危險ヲ冒スベカラズト蓋シ此言決シテ事實ニ背カズ平素放慢風ヲナスノ米人ニシテ今俄ニ警戒ヲ加フ之ニ背カントスルハ狂愚ノ甚シキ者ト謂フベシ

パスパルツーハ主人ノ命令ヲ等閑ニスルニハアラザレド猶モ委シク聞キ繕ヒ報道セント其儘其處ニ佇立シ耳ヲ欹テ聞クニ　大佐「何ト云フゾ進行シガタシトナ然ラバ我等ヲ雪中ヘ根ノ生エルマデ立タシムル積ナルカ　信「否既ニラマハヘ電信ヲ以テ列車ヲ催促致シタレバソレニテメヂシンボウ驛ヘ參ルベシサスレバ今夕六時頃ニ到着致シ候ハント聞クヨリ壯漢ハ一ナニ六時ダト　信「左ニ候フ徒行シテ行クトモ矢張ソレ丈ケノ時間ヲ費シ申スベシ一客傍ヨリ詰ルヤウ「相距ルヿ僅ニ一里ニ過ギザルニ　信「然リ本道ハ一里ニ候ヘドモ其過グベカラザルヲ如何ニセン　大佐「舟ニテ渡ルヿ成リガタキヤ　信「溪流大ニ漲ツテ渡ルベカラズ淺瀨ヲ索メ渡ラントセバ十里計ヲ迂回スベシ

是ニ至テ大佐ハ會社ヲ咎メ列車管事ヲ責メ罵リテ止マズパスパルツーモ共ニ怒リ罵リケリソハ如何ニト云フニ這回コソフヲッグ氏ニ取リテハ希有ノ禍ニテ何ホド主人ガ銀行紙幣ヲ所持スルトモ之ヲ救フベキ術ナケレバナリ．

旅客一同ノ憂慮譬フルニ物ナシ假令延滯ノ一事ハ差シ措クモ猶雪中十里餘ノ遙ケキ道ヲ徒行セネバナラヌ艱難アリ是ニ於テ衆口囂々不平ヲ唱ヘテ止マズ然レドモフヲッグハ骨牌ニ耽リテ餘念ナク更ニ他事ヲ顧ミズ斯クテパスパルツーハ事情ヲ主ニ告ゲザルヲ得ヌ機會ニ迫リタレバ悄然トシテ憂ヲ懷キ將ニ客車ヘ回ントス此時忽チ人アリテ「諸君彼橋ヲ渡ルハ全ク成シガタキヿニアラズト揚言スル者アリ何人ナルカト驚キテ見レバ當車ノ機關手ニシテフホルスクルト云フ純粹ノ「ヤンキー」米人ヲ蔑稱スルニ用ヰルナリ一客問ウテ云ク「橋ヲ渡ル歟　機「固ヨリナリ　客「列車モ共ニ行クカ　機「固ヨリ然リ列車管事ハ傍ヨリ「然レドモ橋ノ斷エ落ントスルヲ如何セン　機「假令橋ノ朽チ損ンジタリトモ恐ルヽニ足ラズ氣力ヲ十二分ニナシ迅速ニ走過セバ必ズ踰ユルヲ得ベシ

パスパルツーハ耳ヲ欹テ此說ヲ聞キ居シガ思ハズ「何等ノ奇怪ゾト叫ビケリ斯クテ旅客中機關手ノ說ヲ喜ブ者忽チ增加シ就中其性急躁ナル大佐プロクタルノ如キハ頻リニ此說ヲ贊成シテ「工師中ニハ列車ニ十分ノ速力ヲ加レバ無橋ノ河スラ飛ビ踰ルニ難カラズト說ク者アリナド喋々譽メ立テケレバ衆人一同此說ヲ嘉納スルニ致リ「首尾能ク橋ヲ渡ルノ運ハ百中ノ五十ヲ以テ算スベシ「否六十ナラン「否九十ナラント甲言ヘバ乙和スルニゾパスパルツーハメヂシン川ヲ渡ル一事ニ付キテハ何如ナル危險ヲ冒スモ甘ンズル志ナレドモ去トテ前條ノ議ハ餘リニ米風ノ輕卒ニ過グルニ惑ヒ茫然タリシガ良ヤアリテ

胸裏陰ニ一策ヲ案ジ出ダシ一客ニ向ヒ「只今機關手ノ發議セシ策ハ少シク危險ニ過グト存ズ然シ別ニ半モ言ハセズ一客ハ「百中八十ノ利運アリト云ヒツヽ忽チ立チ去リケレバパスパルツーハ又他客ニ向ヒ「僕トテモ知ラザルニハ候ハネド少シク思慮ヲ旋ラスヰハト云フヲ打チ消シ客「玆ニ及ビ考ルヿノ有ルベキヤ既ニ機關手ガ保證スルカラハ又何ゾ疑フベケント答フルヲ又押シ返シパス「橋ヲ渡リ得ベキハ疑ヒナキニセヨ要愼ハト此ノ要愼ノ一言偶然耳ニ觸ケン大佐ハ怫然トシテ怒ヲナシ「要愼トナ最大ノ速力ナルゾ足下解セズヤ最大ノ速力ナルゾパスパルツーハ口ヲ啓ク毎ニ中止セラレ未ダ自說ヲ陳ズルニ由ナカリシガ稍大聲ヲ發シテ「僕能ク解シ又能ク知レリ唯要愼ト云フヰハ君等ノ耳ニ逆ヘモ恐クハ自然ト謂ントスルヲ又口々ニ「誰ガ何ヲ以テ自然ナリ抔ト呶々スルゾト嘲ル中ニ大佐プロクタルハ壯漢ニ向ヒ「足下ハ恐怖スルナランパス「我ヲ目メ臆スル者トスルカ然ラバ好シ佛人モ亦機ニ臨デハ米人ト豪膽ヲ競フヿヲ示スベシト云フヰ列車管事ハ聲ヲ揚ゲ「諸君速ニ車中ニ入リ玉ヘト聞テパスパルツーハ獨言シナガラ「車ニ入レト云フカラハ車ニ回リハスルモノヽ先ヅ旅客ヲ徒歩ニテ橋ヲ渡ラシメ其後チ列車ヲ行ルコソ安穩ナルベケレト云ヘド誰レモ之ヲ聽ク者ナク設ヒ之ヲ聞ク者アルモ着實ナル說トスル者ナカリシナラン

旅客皆車中ニ復リパスパルツーモ亦座ニ就キケレ𪜈同行ノ諸子ハ博戲ニ耽テ餘念ナケレバ故ラニ默シテ有シ事ヲ告ゲズ此時機關手忽チ一聲ノ汽笛ヲ合圖ニ列車ヲ後ヘ戾スヿ凡ソ一里可是レ蓋シ溝ヲ跳リ踰エントスル者先ヅ退歩シテ豫メ身ニ餘勢ヲ蓄フルト一般ナリ

斯クテ第二ノ號笛ヲ以テ復タ車ヲ前進シ漸次ニ速力ヲ增スニゾ頓テ其迅速名狀スベカラズ機關ノ運轉一秒間ニ二十回ニ達シ其速力ハ凡ソ一時間ニ百里ノ餘ヲモ走ルベク機關車ノ響ハ萬雷ノ落ルガ如ク重力ハ速力ノ爲ニ壓セラレ轍路ノ重量ハ殆ンド減ジ車軸ハ熱シテ注ゲル脂油ハ爲メニ沸騰スルカト怪マル

斯クテ彼ノ今ニモ斷エントスル橋ヲ無事ニ踰エタルヿナレバ其疾キヿ電光ノ如ク一人トシテ橋ヲ看認ル者ナカリキ列車ハ甲岸ヨリ乙岸ヘ跳リ踰エタリト云フモ誣言トハ思ハレヌ程ナリ機關手ノ勢ニ任セ駛セタルユヱ其餘勢强大ニシテ停車場ヲ過ルヿ五里ニシテ始メテ列車ヲ停ムルヿヲ得タリ然レ𪜈釣橋ハ素ヨリ大破シテ既ニ渡ルベカラザル程ナレバ列車ノ過グルヤ否ヤ忽チ中斷シテメヂシン川中ヘ頽レ墜チ餘響百萬ノ雷鳴ヲ欺キ山谿爲ニ震動セリ

第貳拾九回

今ハ無事ニ急流ヲ踰テ復別ニ列車ヲ障ル者ナケレバ卽夜進行シテサウタルスノ壘下ヲ過ギチェインノ峽道ヲ經テイヴァンスノ峽道ニ至レリ此處ハ海面ヨリ高キヿ八千〇九十一尺ノ線路中第一ノ高處ナリ此ヨリ以東大西洋迄ハ一圓ノ平野ニシテ漸次ニ低降セル地勢ナリ

此邊ハ總テ金銀壙ニ富ミケレバ五萬有餘ノ人口已ニ移住シ加之コロラード州ノ首府デンハルヘ赴ク支線モ此地ヨリ發スルヿナレバ最繁昌ナル處トゾ見エケル

桑港ヲ出發セシヨリ此時迄三晝夜ニシテ其經過ノ行程ハ千百八十二里ナリ猶四晝夜ニテ紐育ヘ着スルノ計算ナレバフヲッグノ前見少シモ相違セザリキ

夜中ウヲルバクノ陣營ヲ左ニ見テウヰヨミングコロラード二州ノ境界ヲ流ルヽロッヂポールト並行シテネブラスカノ地方ニ入リセドウヰッグノ傍ヲ經十一時ヲ以テプラックル河ノ南支ニ臨シデ建タルジュルスボルグ街ヘ着セリ抑ヽ此地ハ千八百六十七年十二月二十三日「ユニヨ

ンパシフヒック鐵道線ノ開業式ヲ執行セシ處ニテ當日ハ兩箇ノ機關車九輛ノ客車ニ招待ヲ受ケタル貴客數百名ヲ載セ來リ萬民歡呼ノ聲ノ中ニ其車ヲ停ム當時ノ副統領トマス、デュラント氏モ招カレテ其中ニアリキ「シウ」ニ「ポウン」ノ蕃族來リ擬戰ヲ演ジテ臨客ノ興ヲ添ヘ晩ニ至リ近傍ニテ烟火ヲ揚ゲテ慶賀ヲ表セリ汽車中ニ於テ印刷セル新聞紙「レールウエー、パイヨニア」ノ發兌モ亦此日ニ始マル蓋シ鐵道ハ開明ノ要具ニシテ今之ヲ無人ノ境ニ設クルハ後來起ルベキ大小ノ都府ヲ連絡スルニ備フルナリ故ニ機關車ノ笛聲ハ其效アンヒョン（上古希獵ノ神ニシテ奏樂ノ技ニ長ジ一日彈琴スルニ當リ木石其妙音ニ感動シ自ラ相疊ンデ一市ヲ起セリト云ヒ傳フ）ノ琴聲ニ勝リ他日無數ノ都邑ヲ本國ノ地上ヘ湧キ出サシムルニ至ラン

翌朝八時蚤ヤマクハルソンノ壘ヲ後ヘニ見蜿蜒タルプラックル河ノ左岸ニ沿ヒテ下リ九時ヲ以テノルスプラットニ着セリ此府ハ南北プラット兩支流ノ會スル處ニ在リ是ヨリ兩流合シテ一大河トナリヲマハノ下ニ至リミスーリ河ニ入ル

此時經度百〇壹度ヲ踰ユ

フヲッグ氏ノ一行ハ復タ博戲ヲ開キ座中一人トシテ長途ノ疲倦ヲ訴ル者ナシフヒキスハ最初若干ノ贏利ヲ得タリシガ今ハ頻リニ輸ケ勝チニテ其鋭氣平生ニ十倍シ更ニフヲッグニ劣ラズ爭ヒケリ然ルニフヲッグ氏ハ今朝ヨリ大ニ奕運向キテ連リニ勝ヲ得今回モ亦祕術ヲ旋ラシ鋤形ヲ出シテ勝ヲ制セント胸算スル時後ヘニ人アリテ突然寶石ヲ出スベシト云フ誰ナラントフヲッグ等ハ首ヲ回ラシテ見レバ是レ別人ナラズ曩ニ桑港ニテフヒキスヲ打擲シタル彼ノ合衆國陸軍大佐プロクタルノ何ノ間ニカ來リテ居タルナリプロクタルハフヲッグト面ヲ合ハスルヤ否ヤ「噫今鋤形ヲ出サントシタルハ君ナリヤト云ヘバフヲッグハ騷ゲル色モナク鋤形ノ拾點ナルヲ其場ヘ投ゲ出シ「マツコノ通リ行ヒ呉レント答フレバ大佐ハ滿面朱ヲ注ギ「寶石コソ僕ノ望ム所ナレト云ヒツヽ骨牌ヲ攫ミ取ラントシテ「又足下ハ此遊戲ヲ解セヌ人ナリト云フフヲッグ之ヲ聞キ靜ニ座ヲ起チ「僕ノ長ズル處ハ他ノ一技ニ在リト聞テ彼ノ暴客ハ奮然ト怒ノ眼ヲ睜リ「其ヲ試ミルハ足下ノ意ニ任センアウダハ此有樣ヲ見テ驚クヿ限リナクヤヲラフヲッグノ臂ヲ抑ヘテ引キ止メントスレバフヲッグハ靜ニ之ヲ放タシム又パスパルツーハ主人ニ對シ粗暴ヲ爲ス彼ノ米人ニ飛ビ掛リ打チ据エ呉レント身構ヘセシフヒキスハ傍ニ在リシガ之モ疑危セズ勃ト起チ大佐ニ向ヒ「足下ノ敵ハ拙者ナリ足下ハ拙者ヲ罵リテ打擲シタルヲ忘レタルカフヲッグ之ヲ遮リ止メ「否然ラズ今回ノ事ハ拙者ノ一身ニ係レリ彼奴明ニ拙者ガ鋤形ノ牌子ヲ出サントスルニ入ラザル助言スルノミナラズ解セヌ人ト罵ルハ無禮ニ無禮ヲ重ヌル振舞其罪責ムルハ拙者ノ役ナリ　大佐「何地何ナル時ニテモ此身ニ障ハアラザレバ好ム兵器ヲ搜シテ來レ

アウダハ始終ノ問答聞キナガラモ何ニカシテフヲッグヲ宥メント千々ニ心ヲ摧キツルガ其詮絶エテナカリケリ警吏ハ此場ノ難儀ヲ自身ニ引受ケント進ンデ敵ニ語ヲ掛ケタレドフヲッグニ押シ止メラレ又パスパルツーハ大佐ヲバ戸外ヘ投ゲ出サント後ヨリ寄添行クヲ主人ニ屬目セラレテ其儘ニ唯ミ莽々トシテ居タリケリ此時フヲッグハ徐ニ起テ客車ヲ出ヅレバ大佐モ引續キテ共ニ架板ノ上ニ至ルフヲッグハ敵ニ向ヒ拙者ハ歐洲ヘ還ルヲ急グ者ナレバ遲延アリテハ迷惑ナリ　大佐「其ハ拙者ノ知ル所ナラズフヲッグ言ヲ正ウメ「足下ト桑港ニテ邂逅セシヨリ胸中竊ニ再會センヿヲ期シタリ然ナガラ拙者ハ已ムヲ得ザル事アリテ是非ニ歐洲ヘ歸航セネバナラヌ身ユヱ願クハ六ケ月ノ日子ヲ假セ

ヨ用事ヲ濟シテ再ビ出會セン　大佐「何故ニ六年トハ云ハザルカ　フォック「我六ケ月ト云フハ間違ナキ時期ヲ云フノミ何ゾ其ヨリ長キヲ要セン　大佐「足下ノ言ハ遁辭ナリ鬪フトカ鬪ハヌトカ決答セヨ兎角ノ言葉ハ無益ナリ　フォック「然思フハ尤ナリ然テ足下ハ紐育ヘ行キ玉フノカ　大佐「否　フォッグ「チカゴヘカ　大佐「否　フォッグ「ヲマハヘカ　大佐「我行ク先キハ足下ニ用ナシ足下ハプロムクーキト云フヲ知レリヤ　フォッグ「否　大佐「此次ノ停車場ニテ一時間以内ニ達スベシ其上汽車彼處ニ至リナバ十分間ハ留ルベシ十分間ノ時アラバ決鬪スルニハ餘リアリ　フォッグ「然ラバ拙者プロムクーキニテ停ルベシト答フルニゾ「足下ハ永ク彼ノ地ヲ去リ難カラント飽マデ愚弄スレドフォッグハ更ニ動ズル色ナク「誰カ之レヲ預言スベキトノミ答ヘテ客車ノ内ニ入リアウダニ向ヒテ云フヤウ「叨リニ大言ヲ吐ク人物ハ決シテ恐ルヽニ足ラヌ者ナレバ必ラズ心ヲ勞シ玉フナト慰メ次ギニフヒキスニ向ヒ今回ノ勝負ニ立合人トナランヿヲ乞ヘバフヒキスハ素ヨリ斷ルヿヲ得ズ餘儀ナク之ヲ承諾セリ斯クテフォッグハ毫モ前ニ異ナラズ靜ニ先刻ヨリ中止シタル骨牌ヲ執リ又アウダフヒキスニ向ヒ勝負ヲ決センヿヲ促シタリ然レド兩人ハ骨牌ヲ取リ擧グル力モナク唯打萎テゾ居タリケル兎角スル中十一時トナリ汽笛一聲停車場ニ近キタルヲ告グレバフォッグフヒキスノ兩人相伴ウテ車外ニ出ヅパスパルツーモ豫テ用意ノ懷銃二梃ヲ携ヘ續テ立チ出ヅレバ車中ニ殘ルアウダ女ハ顏色死セルガ如ク此世ノ人トハ見エザリケリ大佐プロクタルモ同ジクサモ粗暴ラシキ米人一名ヲ立合人ニ伴ヒテ車ノ戸ヲ開キ架板ノ上ヘ出デ雙方共ニ已ニ車ヲ下リントスル時列車管事遽シク馳セ來リ「諸君此處ハ下リ玉フ處ニアラズ　大佐「何故ニ　管「最早二十分ノ延着ニナリ居リ候ヘバ此處ヘハ停マリ申サヌナリ　大佐「然レ𪜈子ハ此紳士ト一撃ヲ試ミント思フナリ　管「其ハ遺憾ノ事ニ候ヘ𪜈即刻發車ノ都合ニテアレ聞キ玉ヘ今鳴ルハ已ニ發車ノ號鐘ナリト云フ時車ハ已ニ走リ出ヅルニゾ管事ハ遽シク「諸君ノ望ヲ果サセ申サヾルハ不本意ニ候ヘ𪜈規則ハ等閑ニ致シ難シ然リナガラ途中ニテ試ミ玉ハヾ誰アリテ貴客等ヲ妨ゲ申スベキト云ヘバ大佐ハ嘲笑ツヽフォッグニ向ヒ「恐ラクハ紳士ノ意ニ適セザラン　フォッグ「能ク我意ニ適セリ

パスパルツー胸中竊ニ思フヤウ米國ノ風トハ云ヒナガラ斯ル賤シキ列車ノ管事マデ此ノ如キ快活ナル言ヲ出スカト嗟嘆ナシツヽ主ノ後ヘニ從ヒ行ケバ管事ハ自ラ先ニ立チ兩敵手立合人等ヲ導キ多ノ車ヲ經テ最尾ノ客車ニ至レリ此中ニハ十人可ノ乘客居合セタルガ管事ハ此等ニ打チ向ヒ「榮譽ノ事ニ關シタル爭論ヨリ車中ニ於テ決鬪ナサントスル乘客アリ願クハ諸客暫時車外ニ避ケラレタシト需ムレバ乘客ハ決鬪ト聞キテ何ンゾ猶豫スベキ皆快ク肯ヒテ車ノ外ヘゾ出デタリケル

此客車ハ長サ凡ソ五十尺モアラン兩端ニ在テ射撃スルニハ頗ル適宜ノ廣サナレバ急ギ雙方ノ本人ハ其約束ヲ定メタリ其約束ニハ第一ニ本人ハ懷銃ヲ携ヘ車中ニ入ル事第二ニ立合人ハ外ヨリ戸ヲ鎖シテ車外ニ待ツ事第三ニ機關ノ笛聲ヲ合圖ニ發砲スベキ事第四ニ二分時間ヲ經テ立合人ハ戸ヲ開キ二士ノ中孰レニテモ無難ナル方ヲ助ケ出ス事右ノ如ク定メタレバフヒキスパスパルツーノ兩人ハ胸裏悸々トシテ安ンセズ合圖ノ笛聲今ヤ今ヤト待チ居タリ此時遲シ彼時早シ俄然トシテ叫喚ノ聲喧シク數發ノ砲聲轟キタリ其方角全ク車内ニアラズシテ彌〻劇シク全線ニ響キ渡リ泣キ叫ブ聲列車ノ内ニ騷然タレバ今此處ニアル人々ハ早クモ察シ一定是レ「シウ」ノ蕃族ガ列車ヲ襲撃スルニ疑ヒナシトテフォッ

グプロクタルノ兩人モ手ニ懷銃ヲ握レル儘車外ニ飛ビ出ダシ砲聲最モ劇烈ナル前部ノ客車へ馳セ行キタリ

抑ゝ大膽不敵ノ土人等ガ列車ヲ抑留シテ脅襲ヲ恣マヽニスルハ往々少ナカラズ此度ノ如キモ一襲ヲ試ントテ蕃賊數百名來レルナリ其襲來スルトキハ列車ノ疾走スルヲ事トモセズ客車へ跳リ上ル樣恰モ曲馬師ガ奔馬ヲ逐テ之ニ飛ビ乘ルガ如シ今蕃賊ハ各ゝ銃器ヲ携ヘテ列車ヲ目ガケ亂射シタリケレバ旅客モ奮然車窓ヨリ懷銃ヲ放テ劇ク之ニ應ゼリ又別ニ蕃賊一隊アリテ先ヅ機關車へ飛乘リ機械方ヲ撲チ倒シ賊魁トモ覺シキ一個ノ白者機關ヲ止メントテ汽辨ヲ撚ヂシガ其運用ヲ解セザルヨリ却テ汽道ヲ滿開シケレバ汽車ノ速力彌ゝ加ハリ一時間百英里ヲ疾走スル程ナリキ其餘ノ賊群ハ此時ハヤ客車ヲ襲ヒ列車ノ背上ヲ奔走シ其戸扉ヲ打破リ防禦ノ旅客ト肉薄シテ鬪爭セリ荷車ハ既ニ賊ノ奪フ處トナリ衣服貨幣ハ紛々トシテ路傍ニ狼藉タリ然レトモ旅客ハ健闘能ク敵衝ニ當リ防戰スルハ恰モ自動ノ壘塞ヲ固守スル者ニ似タリ

襲撃ノ初ヨリアウダハ勇氣人ニ勝レ蕃賊ノ近ヅクヲ目掛ケ硝子窻ノ内ヨリ懷銃ヲ以テ狙撃シタルハ男モ及バヌ振舞ナリ此時賊徒ハ銃丸ニ觸レテ轍路ノ線上ニ僵仆シ又車輪ニ碎カレテ斃ルヽ者無慮二十餘人旅客モ亦敵丸ニ當リ賊椎ニ打レテ負傷スル者數名ニ及ベリ

旅客蕃賊互ニ奮闘スルヿ既ニ十分間ニ及ベトモ勝敗未ダ決セズ警備ノ屯營ハ二里ヲ距ツルケルネー驛ニアリ故ニ何ニカシテ汽車ヲ停ル術ヲ旋ラサヾレバ終ニ其處ヲ行キ過ギ竟ニ蕃賊ノ毒手ニ陷ルノ外ナキニ至ラン列車管事ハフヲツグ氏ノ傍ニ防戰シテ居タリシガ無慘ヤ一發ノ賊丸ニ胸ヲ打拔カレテ倒レントセシガ勇氣ヲ勵マシ聲ヲ揚ゲテ「倘シ五分以內ニ車ヲ停メネバ我等生ヲ全ウセジト此一言ヲ聞キテフヲツグハ奮然身ヲ跳ラシ「我コソ車ヲ止メテ呉レント大喝一聲車外へ飛ビ出サントスルヲ見テパスパルツーハ遽ク之ヲ留メ「下郎ニ任セテ君ニハ留マリ玉ヘカシト云ヒツヽ主人ヲ突キ除ケ車ヲ飛ビ下リアハヤ客車ノ下へ入ルヨト見エシガ忽チ昔日ノ長技ヲ見ハシ飛鳥ノ如ク身ヲ躍セ列車ヲ接續セル連鎖ヲ攀ヂ車軸或ハ彈機ヲ足掛リトナシ匍匐シテ早ヤ列車ノ前部ニ達シタル其業前ノ目覺キ人間業トハ思ハレズ是ニ於テ壯夫ハ隻手ヲ荷車ト機關車ノ間へ懸ケテ身ヲ宙ニ釣リ連絡鉤ヲ卸シ續テ接續機ヲ脫セント心ハ矢竹ニ逸レドモ其引ク力强キヲ以テ螺旋固着シテ脫スベカラズ兎ヤセン角ト心ヲ惱ス折柄幸ヒナルカナ偶然機關ハ激動シテ接續機忽チ碎ケケレバ機關車ハ其儘走リ去リ列車ハ餘力ニ進ンデ止マザリシガ車內ニ人アリテ車輪ノ運轉ヲ障ギリケレバ終ニケルネーノ停車場ヲ距ルヿ百步ニ足ラザル處ニ止マリタリ

同場ノ警備兵ハ遙ニ砲聲ヲ聞キ異變ヲ推知シテ馳セ來リケレバ蕃賊ハ之ヲ見テ敵シ難キヲ察シ汽車未ダ止ルヲ俟タズハヤ何處トモナク逃ゲ去リケリ

旅客ハ皆再生ノ思ヲナシ頓テ停車場ニ下リテ其人員ヲ算フルニ不足ノ者數人アリ就中一身ヲ抛テ衆命ヲ救ヒタルパスパルツーモ其一人ナリ

第參拾回

旅客ノ蹤跡ヲ沒スル者スベテ三人ハパスパルツーモ其一人ニテ鬪爭ノ際不幸ニモ命ヲ殞セシカマタハ蕃賊ノ擒ト爲リシカ其樣子ヲ知ル由ナカリキ又創疵ヲ被リタル者甚ダ多ケレトモ死ニ至ル程ノ者ハ一人モ無キハ幸ヒナル其中大佐プロクタルガ奮闘敵ニ當リ銃丸ニ股ヲ貫カレテ倒シヲ第一ノ重傷トス是ニ於テ即刻療治ヲ要スル負傷人ハ皆之ヲ停車場ノ室內ニ移シ懇ニ治療ヲ加

へタリ又一行ノ内ニテモアウダ女ニハ少シノ怪我モナクフヲツグハ勇氣ヲ勵シ生ヲ輕ンメ敵ニ當リタレ圧無難ニシテ淺手ヲモ負ハズ唯フヒキスノミ腕ニ些カノ輕傷ヲ被リタリ然ルニ乘客ハ既ニ皆車ヲ降リタレ圧パスパルツーハ影ダニ在ラザレバ少婦ハ潸然トシテ涕ヲ流シテ憂慮シテ止マザリキ

列車ヲ打チ看レバ鮮血淋漓トシテ車輪ニ滴リ往々肉片ノ斷レテ軸頭ニ垂ル丶アリ首ヲ回ラシテ經過セシ轍路ヲ見レバ亦一條ノ紅帶積雪ヲ染メ綿々トシテ斷エズ又遙ニ南ノ方共和川ノ邊ヲ眺ムレバ遁逃シタル蕃賊猶其邊ニ出沒セリ

フヲツグハ暫ク腕ヲ叉キ佇立シテ片語モナクアウダハフヲツグノ意中ヲ察シ唯打守リテ言葉ナシ是レ同氏ガ身ヲ擲テ蕃賊ヲ追擊シ忠僕ノ性命ヲ救ンヿヲ思慮スルナラント氣遣ヘバナリ暫クメフヲツグハ少婦ニ向ヒ「生死ノ處ハイザ知ラズ我等誓テ彼レノ所在ヲ尋ネント云モ訖ハラズニ少婦ハ忽チ紳士ノ手ヲ執リ涙ヲ拂ヒツツ「嗚呼フヲツグ君ト云ヒテ口籠レバ氏ハ復タ少モ早ク趣キ援ハヾ必ズ生命ニ恙ナク還レ歸ラル丶ナラント云ヒケリフヲツグハ斯ク心ヲ決シテ勇マシクモ自家ノ利益ハ擲ゲ棄テ一日ノ遲緩アラバ紐育發程ノ郵船ニ乘リ後レ終ニハ賭ニモ負ケ家産ヲモ破ルベキヲ少シモ意トセズ是レ唯我義務ヲ盡ス所ナリト堅ク信ジテ亦躊躇セザリケリ

ケルネー砲壘ノ大尉某ハ兵卒百名可ヲ率キテ蕃虜ノ再襲モアランカト警備ヲ嚴ニナシテ停車場ニ在リケレバフヲツグハ大尉ニ向ヒ「君ヨ旅客ノ蹤跡ヲ沒セル者三名アリ　大尉「死シタル歟　フヲツグ「死セリヤ或ハ擒トナリシヤ未ダ判然タラザレ圧打チ棄テ措クベキヿナラズ蓋シ君ニモ蕃虜ヲ追擊スル心ナラン　大尉「夫ハ重事ニゾ候フ土人ハアルカンザス辺ノ先キ迄遁走スルモ計ラレズ且拙者ハ當所ノ砲壘ヲ棄テ遠ク追擊ハ致シ難シ　フヲツグ「然ラバ三人ノ性命ハ奈何セン　大尉「君ノ言理アリト雖圧拙者三人ヲ救ハン爲メ五十人ヲ危險ニ導ケ者ト思ヒ玉フカ　フヲツグ「君ノ能否ハ拙者ノ知ル所ニ非ズ然レ圧是レ君ノ職務ノ然ラシム所ナラン　大尉「拙者ニ向ヒ職務ノ有無ヲ彼是ト說キ得ベキ者ハ玆ニアルベキ筈ナシ　フヲツグ「然ラバ好シ拙者單身ニテ行カント立チ上レバ傍ニ在ツテ大尉トノ問答ヲ聞キ居タルフヒキスハ驚キテ「君ヨ君ハ單身ニテ土人ヲ逐ハント爲玉フカ　フヲツグ「吾人ガ唯今性命ヲ全ウセシハ抑モ誰ガ功績ナルゾ然ルニ足下ハ其恩人ヲ見殺ニ爲ヨト云ヒ玉フカ拙者ハ何ゾ手ヲ束ネテ止ムベケンヤト男子ノ決心言葉ニ顯レケレバ流石ノ大尉モ其義勇ニ感動セラレケン「君ハ眞ニ義人ナリ吾輩惡ンゾ君ヲ單行セシムベケント云ヒツ丶部下ノ兵士ニ向ヒ義ニ勇ムノ輩三十名進ンデ紳士ヲ擁護セヨト一令ノ下ニ全隊齊ク進ムニゾ大尉ハ其内ヨリ精兵三十名ヲ拔擢シテ之ニ一軍曹ヲ副フレバフヲツグハ喜ビテ「多謝トゾ答ヘケル是ニ於テフヒキスハ「某モ君ニ隨行スルヲ許シ玉ヘ　フヲツグ「某ハ足下ノ意ニ任センサリナガラ若シ足下ノ意中拙者ヲ助クル爲ナラバ願クハ留ツテ萬一拙者ガ不幸ニ罹ラン時アウダヲシテ憑ル所アラシメヨ之ヲ聞テ警吏ハ是迄折角千辛萬苦シテ跡ヲ追ヒ來リシ奇貨ヲ空シク曠野ヘ放チ遣ヿカト思ヘバ自ラ胸中悖々トシ忽チ顏色ヲ失ヒシガフヲツグノ眼中ニ就テ其意衷ヲ探グリ見レバ誠實滿面ニ顯レ又タ疑フベクモアラザルニ似タリ因テ終ニ「然ラバ留ント答ヘタリ

少間アツテ紳士ハ少婦ノ手ヲ一握シテ別ヲ告ゲ且始終其身ヲ放タザル貴重ノ行嚢ヲ授ケ畢ト懇ニ暇ヲ告ゲ夫ヨリ兵士ニ向ヒ「足下等ノ力ニ賴テ幸ヒニ生擒ヲ復スルヲ得バ千磅(五千圓)ヲ頒テ功勞ニ酬イント告ゲ訖テ之ヲ率キ繰リ出シタルハ殆ド十時過ナリキ

斯クテアウダ女ハ停車場ノ一室ニ入リ思慮ハ唯フヲツグ一身ニ凝リ固リ義ヲ見テ進ムノ勇ナルニ感ジ已ガ榮利ヲ抛ゲ棄テ身ヲ義務ノ犧牲トナスヲ歎ジ其事ニ臨ンデ騷カズ勇氣絶倫ナルヲ愛慕シテ已マザリケリ

フヒキスノ思想ハ全ク之ト反對ニテ獨リ室外ヲ彼所此所ト歩ミツヽ噫我ナガラ餘リニ心ノ弱カリキ地球ヲ一周スルスラ輕ンジテ遙々追尾シ來レル男ヲバ僅カノ細節ニ羈サレテ取リ逃シタル悔シサヨ既ニ捕縛令マデ懷中シナガラ油斷シタルガ失リナリ今一旦其行ク處ニ任セルカラハ最早歸リ來ルヲ期スベカラズ然ラバ復タ何時邂逅シテ再ビ之ヲ獲ベケン哉ト臍ヲ噛ムノ悔ヲ爲シ思案ニ暮レテ居タリケレバ漏刻ノ過グルヿ頗ル遲々タリ

斯クテフヒキスハ追手ノ兵ノ靴跡ヲ認テ追ハヾフヲツグニ追付ンヿ難カルマジト心附キ平原ヲ望メバ早ヤ降雪數寸之ヲ覆ウテ其痕跡ダニナク渺茫タル銀世界ト變ジ索ムルニ道ナケレバ警吏ハ大ニ望ヲ失ヒ是マデ幾多ノ艱難ヲ屑トモセズ追蹤シ來ルヲ中止シ歐洲ヘ歸ラント斷念スルニ至レリ此時既ニ午後二時ニ垂ントシ降雪ハ霏々トシテ中天ヲ沒セリ忽チ汽笛數聲東ニ聞エ此方ヲ指シテ進ミ來ル者アリ然ルニ電信ヲ以テ喚ビ寄セタル列車ハ未ダ來ルベキ時ニアラズ桑港ヨリヲマハヘ行ク列車ハ明日ニ非レバ來ルベカラズ然ラバ果シテ何者ナルカト尋ルニ今數聲ノ汽笛ヲ鳴シテ徐々歸リ來ルハ則チ先刻パスパルツーガ一身ヲ抛テ列車ト斷チ切リシ所ノ機關車ニテ初メハ疾風モ及バヌ速力ナリシガ汽罐ニ炭ヲ添フル者ナキニ因リ漸次ニ汽力衰ヘ緩行シテ終ニケルネー驛ヲ距ルヿ二拾里可ノ所ニ止マレリ火夫機關手等ハ蕃賊ニ毆レテ悶絶シタリシガ此時漸クニシテ蘇生シ四邊ヲ視レバ獨リ我ガ機關車ノミ荒原ノ中ニアリ如何シテ列車ト離レシカ分ラネド後ニ殘リシ列車ノ艱難如何可ト想ヘバ機關手等ハ毫モ猶豫セズ直ニ木片ト石炭トヲ罐竈ニ投ゲ入レ再ビ火勢ヲ熾ニスレバ未ダ程經ヌヿト見エ汽力立ニ加ハリ其儘ニ車ヲ班シケルネー驛ヲ指シテ來レルナリ

旅客ハ機關車ノ還リ來テ再ビ列車ノ首ニ附クヲ見歡喜斜ナラズアウダ女ハ之ヲ見テ室外ヘ驅ケ出デ直ニ管事ニ問テ云フヤウ「發車シ玉フヤ」「卽刻發車致スナリト答フレバアウダ女ハ「賊ノ擒トナリシ不幸ノ侶伴等ハ如何シ玉フ心ナルゾ 管「去リトテ既ニ三時間餘モ遲延セシニ此上便々ト猶豫ハ致シ難シ アウダ「次回ノ汽車ハ何時頃此處ヘ參ルカ 管、明晩ニテ候 アッダ「一明晩ナリトナソハ餘リ遲シ是非共發車ヲ待チ玉ヘ 管「意ニ應ジ難シ明晩ニテ遲シトナラバ唯今ノ發車ニ乘リ玉ヘト云ヘバアウダハ心ヲ定メケン アウダ「妾ハ發程セザルベシトゾ答ヘケル

汽車ノ歸リ來ラヌ間ハ頻リニケルネー驛ヲ去ラント思ヒシフヒキスモ始終アウダ女ノ問答ヲ聞居テ今目前此發車ニ乘ラントナラバ唯車中ニ入リ座ニ就クノミニ迫リ心緒兩端ニ分レテ定メカネ少焉思案ニ沈ミシガ一旦企テシ事ニ何ノ功績モナク空シク中止スルニ忍ビ難ク成否𪜈其極ニ達シテ已マントゾ決シケル

旅客ハ皆入リテ座ニ就キ負傷ノ人ニ扶ケラレテ車ニ乘ルニ大佐プロクタルモ其内ニ在リテ創痍最モ重ク見エタリ汽罐ハ此時方ニ沸騰ノ極度ニ達シケン贏汽ヲ安全管ヨリ漏シツヽ一聲ノ汽笛機關車ヨリ發スルト共ニハヤ車ハ轍線上ヲ軋ラセ頓テ風雪ノ間ニ沒シテ影ダニ見エズナリニケリ

斯クテ二三時間可過ギケルガ天色暗淡トシテ雪ハ小休ナク降リ沍寒彌ヨ酷クナリケルニ警吏ハ場内ノ胡床ニ倚リテ他ヨリ看レバ睡レル者ノ如ク身動キモセズ居タリ又アウダ女ハ凛烈

タル風雪ヲ屑トモセズ室ヲ出デ場外ノ片端ニ佇立シ密雲ノ爲メニ打翳リタル空ヲ咏メ若シモ歸リ來ル人ノ影ヤ見ユルカ或ハ響デモ聞エハセヌカト耳目ヲ凝セド絶エテ影響ノ到ル無ク果ハ膚サヘ凍エケレバ室內へ回レモ少間アツテ復タ出テ待チ侘ルヿ幾回ナルヲ知ラズ兎角スル間日モ既ニ暮レタリ然レモ追撃ノ兵隊ハ今果シテ何レノ邊ニカ在ルカ曾テ歸營セズ或ハ既ニ敵ニ遭テ方ニ奮闘セルカ風雪ヲ冒シテ徒ラニ曠野ノ間ニ彷徨スルカ知ルニ由ナケレバ留營ノ大尉某ハ憂苦自ラ面ニ露レタリ

夜ニ入テヨリ降雪ハ止ミタレモ寒氣却テ凜烈ヲ加ヘ飢鳥栖樹ヲ離レズ野獸巣窟ニ潛ミ荒原渺寞寂トシテ響ナシ之ヲ望マバ如何ナル剛膽ノ壯夫モ自ラ悽然タラザル能ハザラン

アウダ女ハ終夜只フヲツグノ事ノミ案ジ暮シ萬種ノ危險ヲ幻裏ニ見ツヽ若シモ是等ガ眞ノ不幸ノ前表ナランカト憂ヘ悲ム心ノ底ハ中々ニ紙筆ニ盡スベキ所ニアラズ

警吏ハ最前ノ胡床ニ凭リシマヽ思案ニ沈ンデ寐モヤラズ斯ル折カラ誰ヤラン一人ノ男子近ヅキテ何ニカアラン語レモ警吏ハ只首ヲ掉テ更ニ應ゼズ

冬夜ノ長キモ終ニ明ケ果テヽ朝曦漸ク嶺際ニ出ヅレモ重霧ニ蔽レテ猶光芒ナシ然レモ二里許ノ間ハ目ニ遮ル者ナキ土地ナレバフヲツグ率キシ一隊ノ南ニ向ヒテ出發シタルヲ以テ若モヤト南ノ方ヲ望メモ平原茫トシテ隻影ヲ見ズ大尉某ハ憂慮措ク能ハズ乙隊ヲ遣テ甲隊ヲ援ハシムベキ歟或ハ既ニ犠牲トセシ小隊ヲ救ントシテ叨リニ援軍ヲ遣リ重テ生靈ヲ死地ニ陷レンカト暫時ハ心モ迷ヒシガ終ニ少尉一名ヲ呼ビ之レニ一隊ヲ屬シ南ヲ志シテ出兵シ彼ノ行方ヲ探偵セヨト命ジタリ折シモ忽チ砲聲數發營外ニ轟キケレバ兵士ハ其ハ信號ナリト遽ク陣外へ出デテ皆一望スレバフヲツグノ率キシ一兵ハパスパルツー及ビ二名ノ擒ヲ奪ヒ復シ隊伍齊整ト凱陣シテ陣營へ近ヅキケリ

ケルネーヲ距ル十里可ノ處ニテパスパルツー及ビ二名ノ旅客ハ圍遶シタル賊虜ト奮闘シ就中壯漢ハ鐵拳ヲ振ツテ虜三名ヲ撲チ斃シタル所へ恰モ好シ援軍ノ來リ救フニ遭ヒタリトゾ

一隊ハ齊々堂々ト歸リ來リケレバ衆人ハ歡呼シテ救者及ビ被救者ヲ迎ヘ其無事ヲ祝セル間ニフヲツグハ最前約束セシ褒賞金ヲ頒チ兵士ニ附與スルヲ見パスパルツーハ私ニ獨語シテ「嗚呼我ガ身ハ實ニ主君ノ爲ニハ不廉ニ當ル代物カナト云ヘリケリ

フヒキスハ黙止片語ナク只紳士ヲ熟視スルノミ未ダ其感觸何レノ邊ニアルカ知ルベカラズアウダ女ノ如キハ先キノ憂ヘニ引カヘ歡究ツテ何ノ語モナク直ニ紳士ノ手ヲ執リ唯之ヲ緊握スルノミパスパルツーハ列車茲ニ留ツテ待ツナルベケレバ猶之ニ乘ツテ行カバ剩過ノ時間ヲ償フニ足ルベシト思ヒケン「列車ハ…ト連呼スレバフヒキス答テ曰ク既ニ發車セリフヲツグ又問テ「次回ノ汽車ハ「今宵ニ非レバ此處ヘ來ラズト聞ケモ紳士ハ神色自若トシテ只「噫ト云フノミ

第參拾壹回

フヲツグハ後ルヽヿ茲ニ二十時間ナリ畢竟パスパルツーヲ救ハントシテ後レタルヿナレバ壯漢ハ間接ニ主人零落ノ原由トナリシヲ歎ジテ獨リ悵然タリ此時警吏ハフヲツグニ近ヅキ色ヲ改メテ云ク「君ハ眞ニ行旅ヲ急ギ玉フヤ　フヲツグ「眞ニ然リ　警「重テ申スモ如何ナレド來ル十一日リヴアポールヘ向テ航行ノ郵船解纜ノ時刻即チ午後九時以前ニ是非共紐育ヘ趣キ玉ハデハ叶ハヌ事故ノ候フ歟　フヲツグ「然リ最モ重事ニ關ス　警「若シ土人ノ襲撃ナクバ來ル十一日午前ニ紐育ヘ着シ玉フ積リナリシ歟　フヲツグ「然リ

出帆ニ先ダツヿ十二時間ノ筈ナリキ「然ラバ今後ルヽヿ已ニ二十時間ナリ然リナガラ十二時ノ先進アルニヨリ之ヲ差引クトキハ眞箇ノ遲滯ハ八時ナリ目的トスル處ハ之ヲ回復スルノ一事ニアリ君之ヲ決行ナシ玉フヤ否ヤ　フォッグ徒行ニテ歟「否ナ風走橇ニ乘ツテ行クナリ昨夜此策ヲ僕ニ勸メシ者アリ是レ蓋シ昨夜警吏ガ首ヲ掉テ斥ケシ者ナランフヲッグハ躊躇決セズ如何ハセント思フ折柄警吏ハ場前ニ佇ミケル者ヲ指シテ一其橇人ハ彼處ニ居レリト言ヘバフヲッグ點頭キツヽ橇人モッヂニ伴ハレケルネー壘下ノ一陋屋ニ入リテ其橇ヲ見ルニ形チ門扉ニ似テ底ニ兩箇ノ彎挺ヲ設ケ滑走ニ便ズ橇上ニハ檣ノ高ク空ニ聳ルアリテ一大方帆ヲ揚グベク又斜形帆ヲ張ルベシ檣下ニ旅客五六人ヲ容ルヽノ座アリ後部ニ一舵ヲ附シ以テ方向ヲ自在タラシム冬間積雪線路ヲ沒シテ汽車ノ往來絕ユルニ至テハ此橇ヲ以テ之ニ代ヘ淼茫タル氷野ヲ渉テ甲驛ヨリ乙驛ヘ通ズ其迅速ナルヿハ汽車ノ右ニ出ルモ決シテ之ニ劣ルヿナシ

風走橇ノ結構ヲ見畢テフヲッグハ陸舟ノ長ニ其行路及賃銀等ヲ談判スル折シモ勁風大ニ西ヨリ吹キ來リ東行ニハコヨナキ追手ナレバモッヂハ豫約ノ時限ヲ出デズシテヲマハノ停車場ヘ着スルヿ難カラズト云ヘリ果シテ然ラバヲマハヨリチカゴ及ビ紐育ノ間ハ汽車ノ往來繁キヲ以テ遲滯ノ時間ヲ復センモ亦測ルベカラズ故ニ設ヒ冒險ノ嫌ヒナシトセザルモ焉ンゾ決行セザル可ンヤ

フヲッグハアウダ女ヲシテ疾走スル橇上ニ露坐シ凜烈タル寒威ヲ冒サシムルニ忍ビ難ケレバパスパルツートト共ニケルネーニ滯留シ後ヨリ緩々好路ヲ撰ミ歐洲ヘ來ルベシト勸ムレドモアウダ女ハ只管辭ミテ聽カズ頻ニ同行センヿヲ望ミタリ此ニ又パスパルツートハ若モフヒキスガ一人ニテ主人ニ尾シテ行クトキハ如何ナル珍事ノ出來センモ計リ難ク内心大ニ恐レ居タリシガ始メテ已レモ從ヒ行クヲ得テ竊ニ心ヲ安ジタリ

フヒキスノ深意ハ爾來フヲッグノ言行ヲ見聞シテ稍ヤ其嫌疑ノ薄ラギシ歟或ハ猶之ヲ臆斷シテ怜悧ノ黠兒ガ坤輿ヲ一周シ畢テ英國ニ回リ警察官ノ慧眼ヲ晦マサントスル者トナス歟明白ニハ知レザレド其職務ヲ竭シテ後已マント決セバ心ハ毫モ變ゼズ其英國ヘ回着センヿ最モ切ナリキ

橇ノ準備都テ整頓シケレバ旅客ハ各ゝ身ニ旅氈ヲ纏ヒ其上ニ坐シタリ橇人ハ八時ヲ合圖ニ二箇ノ巨帆ヲ揚ゲタルニ忽チ順風ヲ承ケテ其疾キヿ一時間凡ソ四十里計ノ速力ナルベシケルネーヨリヲマハ迄ノ距離ハ直線二百里ニ過ギズサレバ風威ノ減ズルナク旅中異事ノ起ルナクバ五時間ニテ此間ヲ踰エ午後一時ニハヲマハヘ着スベキ期程ナリ

倏忽風ヲ截テ疾驅スルヲ以テ烈風肌ヲ衝キ寒威殊更ニ烈シク旅客ハ皆相互ニ擁護シテ僅ニ之ヲ凌ギ敢テ談話スル者ナク氷結シタル雪上ヲ走ルノ輕捷ナル快艇ノ波上ヲ走ルガ如クニシテ只異ナル所ハ逆浪怒濤ノ之ヲ動搖スルナキノミ勁風地ヲ拂テ到ルトキハ布帆大ニ張リ橇モ爲ニ飛颺スルカト思ハルヽ計ナリモッヂハ柁梃ヲ按ジテ橇尾ニ坐シ程宜ク之ヲ操テ能ク目指ス線路ノ外ニ出デズ又斯ル勁風嚴寒ヲ厭トモセズ音聲穩ニ「若シ一物モ橇具ノ致スナクバ必ズ約束ヲ違ヘズ到着致スベシト云ヘリ畢竟フヲッグノ慣例ヲ用ヰ巨額ノ褒美ヲ約シテ之ヲ鼓舞シタレバ約定ノ時限迄ニ是非共到着セント盡力スルナリ

今橇ニ乘テ經過スル地ハ少シモ岡陵丘阜ナク平坦ニシテ海面ニ異ナラズ恰モ無涯ノ氷池ヲ渉ルガ如シ又線路ハプラット川ニ沿ヒテグランド、アイランドヨリネブラスカ州中第一ノ都會コロムバスヲ經過シライラルフレモントノ諸市

ヲ過ギヲマハニ至リヿナレバ西北ニ轉ジ自ラ彎狀ヲナシテ弧ノ如シ橇ノ進路ハ則其弦ナリフレモントノ上ニ於テプラット川ヲ渡ルトイへ𪜈其水流氷結シテ更ニ薄氷ヲ履ムノ恐レナシ只フヲツグ等ガ聊カ危懼スル所ハ橇ノ器具ニ損所ノ生ズルト風力ノ衰減スルトノ二ツニ在ルノミ然ルニ風力ハ毫モ衰ヘズ益〻勢ヲ增シ桅檣モ爲ニ曲レカト思ハル丶計リニテ只鐵線ノ之ヲ維持スルアリテ倒ル丶ニ至ラズ風ノ鐵線ニ觸テ鳴響スルハ恰モ撥ヲ以テ絃ヲ彈ズルガ如ク抑揚緩急只風ニ之レ順ヒ嫋々トシテ自ラ律呂ニ適ヘバフヲッグハ微笑シテ曰ク「此線條能ク樂ヲ奏スト同氏ガ橇上ニ在ツテ言ヒシハ唯此一語アルノミアウダ女ハ身ニ輕裘ヲ被リ旅氈ヲ纏ヒ只管嚴寒ヲ防グノミ

パスパルツーハ寒威烈クシテ顏面半バ凍テ朱ヲ注グ如ナレ𪜈敢テ期望ノ心ヲ失ハズ設ヒ午前ニ於テ紐育ニ着スル能ハザルモ猶其夜ノ內ニハ彼地ニ着シテ英行ノ汽船ニ乘ラント思ヒケリ之ニ由テ只管風走橇ヲ主人ニ勸メ今ヲマハへ行クヲ得タリサリナガラ勝算ノ既ニ空シカリシヲ挽回シタルハ是レフヒキスノ功ナリト思ヒ欣然トシテ殆ド其手ヲ執テ之ニ謝セントセシガ胸裏暗ニ其奸計ヲ思ヒ出シ再ビ戒愼ノ念ヲ起シ敢テ輕擧セザリキ此間又壯漢ハ主人ガ奮然其身命財産ヲ放擲シテ我身ヲ蕃虜ノ牙爪ヨリ救ヒ出セル恩義ヲ肺肝ニ銘ジ一生ノ間夢ニモ忘レジト誓ヒケリ

旅客ノ思想ハ此ノ如ク人每ニ異ナルモ橇ハ一途ヲ踐ンデ毫モ方向ヲ變ヘズ駛行セリ此邊ハ小藍河ノ支流平原ニ縱橫シタリト雖𪜈皆積雪ニ沒メ所在判ズベカラズ唯渺々タル銀世界ノ中更ニ一物ノ眸裏ニ遮ルナク只邂逅ニ寒樹ノ朔風ニ戰グヲ見ルノミ絕テ村落ノ影ダニナシト又時々野鳥ノ食ヲ索メテ群翔スルアリ或ハ飢ニ迫ツテ原野ヲ彷徨スル數隊ノ痩狼ガ橇上ニ人影アルヲ認メ疾走シテ之ト競フアリ若シ此際不幸ニシテ橇上ノ器具破損シ行進俄ニ止マルニ至ラバ旅客ハ忽チ豺狼ノ餌食トナルハ必然ナリ

パスパルツーハ懷銃ヲ持チ橇後ニ坐シテ若シ其急迫スルニ及バ丶之ヲ射斃サント構ヘケリ然レ𪜈幸ニシテ橇中一箇ノ破損モナク漸次狼群ト距タリ終ニ之ヲ見ザルニ至ル

一齊ノ銀界水陸ヲ分ツベカラズト雖𪜈モッヂハ午時頃地形ヲ察シテプラット河ヲ渡リタルヲ知レリ然レ𪜈未ダ之ヲ告ゲズ只心中既ニヲマハハ二拾里以內ニアルヲ知ルノミ爾來未ダ一時ナラザルニ忽チ柁梃ヲ放チ檣下ニ趨リ忙シク布帆ヲ收メタリ然レ𪜈滿橇ノ速力未ダ衰ヘズ空檣ニテ行クヿ凡ソ半里可此ニ至テ始メテ進行スルヿ止ケレバモッヂハ積雪屋ヲ沒スル一市ヲ指シテ云ク「ヲマハへ到着セリト

パスパルツー及ビフヒキスノ兩人ハ先ヅ橇ヲ降リ凍龜スル四肢ヲ劇ク摩擦シテ微溫ヲ取リテ後フヲッグ氏及ビ少婦ヲ扶ケ降ラシムレバ紳士ハ篤ク橇人ニ報イパスパルツーモ亦其手ヲ執テ大ニ之ヲ賞シ畢テ一行ハ歩ヲ早メヲマハノ停車場へ到リケリ

太平海鐵道線ナルモノハヲマハニテ止マリ是ヨリチカゴ府へ至ル轍路ハ「ロック、アイランド、ロヲド」ト稱シ東ニ向ヒテ進ミ途上五十ケ所ノ停車驛アリフヲッグ一行ガ停車場へ着セシ時恰モ好シ一列車ノ將ニ發程セントスル者アリ是ニ於テ市中ヲ縱覽スル等ノ寸暇モナク草卒車中へ飛ビ入リシガ平素探奇ノ癖アルパスパルツーモ今ハ毫モ市中ヲ徘徊セザルヲ憾トセザリキ列車ハ疾行風ヨリモ速ニイヨウ州中コンシル山ヲ經過シイヨウ府ヲ離レ夜中デーヴエン、ホルトニ於テミシ丶ピ河ヲ涉リロックアイランドヲ過ギテイリノイス州ニ入レ丶路上往々平野ニ街衢ヲ畫シ既ニ馬車ノ轍路マデ備ハレ𪜈家屋ハ一軒モナキ空地アリ蓋シ是レ後日ノ都會ニシ

テ既ニ其名稱アル者モ少ナカラズ翌十日午後四時チカゴ府ヘ着セリ抑ミ此府ハミチガン湖頭ノ樞要ノ地ニ在テ火災ニ罹ルヿ屢ミナレドモ灰燼ノ冷エヌ間ニ忽チ舊觀ニ復シ今ハ却テ繁昌昔日ニ倍蓰スル大都會ナリ又此地紐育ト相距ルヿ九百里ニシテ數條ノ鐵路其間ニ連ナルヲ以テ汽車ノ發着モ頗ル頻繁ナリ故ニフヲッグノ一行ハ此處ニ着スルヤ否ヤ直チニ「ヒツボルグ、チカゴ」線ノ汽車ニ乗リ出發シタルニ無情ノ汽車モ亦フヲッグノ希望ヲ察スルニヤアラン其疾走スルヿ電光ノ迸ルガ如ク忽チインヂアナヲハイヨノ諸州ヲ經過シタリ此邊ハ繁昌ノ都會各地ニ散在シ田野ノ耕耘モスベテ能ク行キ屆ケリチカゴヨリ十六時間ニシテヲハイヨ河畔ニ出ヅ抑モ此河ハ昔シ佛人ノ見出セル所ニテ最初ハ之ヲ美麗河ト稱シ當時佛人其殖民地ノ大本トナサント企テシ所ナリ少時ニシテ列車アレゲニーニ達ス此府ハアレゲニーモノンゲヘラ兩河ノ間ニ在リ工業盛ンナル地ニテ數箇ノ烟突常ニ黒烟ヲ噴テ日光爲ニ暗淡タリ昔日此地ニ「デュケスヌ」ト唱セシ砲壘アリテ佛人之ヲ守衞シ米國ノ獨立ヲ助ケシ舊蹟ナリ當時佛兵ハ路易十六世ガ義俠ノ命ヲ奉ジ來テ華盛頓ヲ助ケ米人ヲシテ英人ノ羈束ヲ脱セシメシガ今日ニ至レバ合衆共和國ノ勢威益ミ盛ンニシテ英佛ノ勢力共ニ跡ヲ米國ニ絶テリ當時砲烟彈雨ノ場ハ化シテ今日物産繁殖ノ地トナレリ

アレゲニー河上ニ架セル壯觀目ヲ驚カスニ堪ヘタル長橋ヲ渡リピッツボルグ停車場ニ入ル茲ニハ既ニ繼ギ替フル爲ニトテ華麗ヲ盡シタル列車場頭ニアリテ旅客ヲ待チ居レリ

フヲッグハ少婦ヲ扶ケテ車ヲ降レバパスパルツーハ今度コソ遲誤ヲナサジト愼ミツヽ直ニ主人ノ手荷物ヲ提ゲテ背後ニ從ヘリ此クテ一行ハ繼ギ替ヘノ新車ヘ遷ラントシテ其方ヘ進ム時傍ナル割烹店ノ前ニ一黒奴ガ銅鑼ヲ打チツヽ「猶十分間ノ暇ゾ候フ諸君來テ食事シ玉ヘト叫ビ居ルヲ見テフヲッグハ躊躇シテイム折柄純金製ノ眼鏡ヲ掛ケ衣冠儼然タル一紳士旅客ノ車ヲ降ルサマヲ眺メ居シガフヲッグ等ノ躊躇スル體ヲ見掛ケ一禮シテ「失敬ナガラ諸君朝飯ヲ喫シ玉ハントナラバ猶ホ十分間ノ猶豫候ト聞テフヲッグ其懇切ヲ謝シ少婦及ビフヒキスヲ伴ヒテ食堂ニ入リタレドモ獨リパスパルツーハ若シモヤ食事中發車スル如キ恐アランカト危ミ先刻ノ紳士ガ數名ノ知人ト言ヲ交ヘ居ルヲ見テ一禮シテ云ク「貴客卒爾ノ無禮ヲ恕シ願クハ旅客食事中過チテ汽車ニ乗リ後ルヽ等ノ憂ナキヤ否ヤヲ示シ玉ヘ　外客「毫モ憂ヒ玉フ勿レペンシルバニヤ鐵道會社ノ便利ナルハ單ニ車中ニテ[illegible]ノ[illegible]ノミナラズ飲食等ノ爲ニトテ十分ノ時間ヲ設ケオケリト聞テ壯漢ハ漸ク安堵ノ思ヲナシ食堂ヘ入リテ佳殽珍味ニ飽キニケリサテ一行ハ頓テ茲ヲ立出レバ旅客ハ既ニ櫛ノ齒ヲ曳ク如ク諸方ヨリ集ヒ來リテ列車ニ入ル際ナレバ之ニ附キテ一客車ニ入ルニ其構造善美ヲ盡シ華麗ヲ極メタレ未ダ曾テ見ザル所ナリ汽車稍ヤ行進ノ支度ヲナス時先ニ朝飯ノ時間アリト敎ヘシ紳士車中ニ入來リシガパスパルツーヲ見識リケン近ヅキテ「先程ハ時間モ十分猶豫アリテ定メシ緩リト朝飯ヲ喫シ玉ヒシナランパス「時間モ十分アリ殊ニ頗ル好キ驩待ノ料理ニ飽キシハ全ク貴客ノ厚意ニ依レルナリト答ヘケリ斯クテ紳士ハ一榻ヘ凭リ數葉ノ新聞紙ヲ披キ逐次ニ看過セリ其迅キヲ以テ察スルニ紳士ハ新聞記者ニアラザルカ且時々知人ノ禮スル者アルヲ以テ屢ミ閲覽ヲ止メテ之ニ答禮スルヿ甚ダ慇懃ナリフヲッグハ之ヲ見テ座ヲ起チ近キテ新紙一葉ヲ借覽シタシト請ヒケレバ　外客「甚ト易キ事ニ候フ「デスハッチ」「クロニクル」「ポスト」「リーダル」其他何レナリトモ貴客ノ意ニ適スル者ヲ取リ玉ヘ　フヲッグ「何レニテモ宜シク候ナ

リ唯拙者ノ需ムル所ハ本車ノ紐育ヘ着スル時刻ヲ知ルニアリ 外客「今宵九時三十五分ニハ到着致スベシ今我々ガ乘ル所ハ晝間ノ直行車ト云フ者ニテ米國ニテハ最モ迅速ノ汽車ニテ候フト言ヘバ警吏ト僕ハ九時三十五分ト聞キ思ハズモ總身戰慄シタリシガフヲッグ氏ハ更ニ驚ク色ナク「夫ハ我等ノ爲ニ甚ダ幸ナリ唯中途ニ於テ障碍ナカランヿヲ期望致スナリ 外客 心ヲ安ジ玉ヘ此列車ノ定規ニ違ハザルハ太陽ノ日々軌道ヲ回ツテ毫髮ノ差ナキニモ比スベク決シテ淹滯ノ憂ハ候ハズ フヲッグ「此鐵道線路ハ何ト稱シ候カ 外客「此線路ハペンシルバニヤ鐵道會社ノ本線ニテ西ハ巖嶺ニ起リ東ハ大西洋ニ達シ又北ハ エリミチガン等ノ諸湖ニ始マリ南墨其思哥灣ニ至テ止ム其支線普ク國中ニ縱橫致シ候ナリ

談話暫ク絕エフヲッグハ復タ沈然トシテ語ラズ外客モ亦眼鏡ヲ懷ニ探テ新紙ヲ披キ頻ニ覽讀セリパスパルツーハ主人ノ對話ヲ傍聽シテ居リシガ未ダ聞キ足ラヌ所アルガ如ク頻ニ言ントシテ又默セシガ終ニ耐ヘズ「失敬ナガラ此列車ハ紐育ヘ到着ノ上歐洲ヘ向テ解纜スル郵船ト連續スベキ者ニ候フヤ「二三時ヲ出デズシテ必ズ一郵船ノ出港ニ會シ玉フベシ パス「幸ニシテ郵船ニ至リ得ルトセバ航海ハ凡ソ幾日ヲ經テリヴァポールヘ着シ候ゾヤ 外客「凡ソ十日間ナリ或ハ九日ニテ着シ玉フヿモアルベシ但遠カラズ費羅特比府ヨリ歐洲ヘ直航スル線路ヲ設クルニ至リ申スベシ然カスル時ハ彼ノ府ハ當線路中最東ニ位スル地ナレバ大ニ路程ヲ短縮致スベシ現今リヴァポールヘ紐育ヨリ通フ所ノ汽船ハ元來費府ニアル一社ノ設ケシモノニテ且船舶ハスベテ我ガ米國製ナレバ最モ快迅ノ譽高ク候フ既ニ足下等モ我々米人ハ緩行徐歩ノ人民ナラザルヿハ諒知シ玉フ所ナラント聞キテ一同ハ米國ヘ來リシ以來見聞シタル事物ヲ回想スレバ米國ノ運輸ハ決シテ遲漫ナリトハ評スベカラズト語リ合ヒタリキ

斯ク談話ニ時ヲ移シケル間ニ列車ハ疾走シテ好風景ナル無數ノ村落ヲ過ギ又煤礦ヲ看ルヿ數ケ所且往々數輛ノ炭車ニ逢ヒタリ夫レ石炭ハ焚テ熱ヲ生ズベク點ジテ燈光トナスベク又以テ數百萬人ノ勞力ニ代ルニ堪ヘ眞ニ是レ人生ノ至寶ト謂フベシ列車此時アレゲニー嶺ニ近ヅクニ從ヒ轍路漸次ニ上ルヲ以テ機關ハ益々汽力ヲ熾ニシ進行毫モ撓マズヘムロックノ深林ニ入リシガ此林ハ火災ニ遭ヒテ今ハ兀然タル赤嶺ニ過ギズ前ニハ漑々タル大河モ此邊ニ至レバ概ムネ潺湲タル細流ト變ゼリ嶺中クレスソン村アリ海面ヨリ高キヿ二千尺ナルヲ以テ夏季避暑勝地トス此ヲ過ギ少間アリテ數聲ノ號鐘機關車頭ニ響クヤ否ヤ四顧俄ニ晦瞑シ咫尺ヲ辨ズベカラズ筒ハ何事ナランカト疑ヒケルニ行クヿ凡一里可ニシテ日光再ビ車中ヲ照スニ至リ一顧シテ看レバ峻嶺ハヤ其後ニアリ因テ始メテ隧道ノ裏ニ入リテ此峻嶺ヲ打過ギタルヲ知レリ

列車山ヲ去ル彌々遠ケレバ巒峯彌々雲際ニ聳エタリ然ルモフヲッグ更ニ之ヲ望ムノ心ナシ之ニ反シアウダハ鬱々タル蒼樹ノ轍路ヲ夾ンデ故ラニ列植セル如キ美景ヲ眺望シ賞美シテ止マズ笑ヲ含ミナガラ「此景眞ニ絕妙ナリ妾ガ身ハ殆ンド雲中ニ翔ルカト疑ハルト云ヒケリフヲッグ「眞ニ然リ然レ𪜈降路汽車ノ速力或ハ過度ナランカト氣遣ヘリト云ヘバ外客傍ヨリ之ヲ打チ消シテ「サノミ恐レ玉フニ及バズ君ノ安泰ナルハ恰モ君ガ貴國ニ在テ最上ノ客車ニ乘リ玉フ時ト異ナルヿナシ當轍路ハ創設ノ際ニ危險ヲ慮テ深ク警戒ヲ加ヘ精ヲ究メ工ヲ鍊テ百物善美ヲ盡シテ之ヲ築造セリ今其一二ヲ擧ゲンニ轍線ハ悉ク精鋼ヲ撰ミテ製シ僅ニ三尺ノ重サ八十磅（我ガ六十斤）アリ車輪ハ鋼ト鐵トヲ鍛鍊シタルヲ以テ摧ルノ憂ナク軸モ亦鋼造ナレバ

折ルヽノ懼ナシ車室ノ構造ハ堅牢比ナク大概ノ危險ニ遇フモ損ズ可ラズ加之列車毎ニ強梗ノ過轉器ヲ備ヘタレバ設ヒ現時ノ速力ニテ疾走スルキト雖モ機關手一タビ之ヲ操レバ列車長サ程ヲモ經ザル中ニ蚤ヤ之ヲ輟ムルヿヲ得ベシ

フヲッグ君ノ御說明ヲ承リテ大ニ危懼ノ心ヲ散ジ且其構造ノ委細ヲ了知シタルハ感謝ニ堪ヘズアウダモ傍ヨリ「車ノ降ルヿ矢ヨリモ疾ク人ヲシテ千仞ノ深谷ヘ陷レシムルカト怪ルト云ヘバ外客ハ「我々ガ先刻隧道中ニ在リシ時ハ海面ヨリ貳千百六十一尺ノ高處ニ在リシガ次ノ停車場アルトナヘ至ラバ最早千百六十八尺ニ過ギズ然ルニ其距離ハ唯十一里ナレバ一里毎ニ凡ソ百尺內外ヲ降下致シ候ナリ

フヒキスパスパルツーノ兩人モ耳ヲ欹テヽ傍聽シテ居リシガ警吏ハ外客ニ向ヒ「鐵道建築ノ事業ハ原英國ニ始マルト雖モ爾來貴國ニテ用ヰ初メシヨリ益々精工ヲ究メ就中客車ノ構造ノ如キハ清潔ニシ且ツ大氣ノ疏通ヲ主トシ美觀適要共能ク整ヒ實ニ萬國ニ冠タルベク我ガ英國ノ客車ノ如キハ鬱閉シテ大ニ旅客ニ便ナラズ遠ク及バザル所ナリ外賓君ノ溢言眞ニ謝スベシ既ニ貴國ニテモ弊邦製造ノ客車ハ善美ナリトテ或會社ニテハ米製ノ客車ヲ其重要ノ線路ニ用キルト聞及ベリ又我々ハ好旅ノ人民ナルニ弊邦ハ土地廣漠ニテ一遍ノ羈旅ニモ數千里ニ亙ルヿアレバ益々客車ノ構造ヲシテ旅客ノ便宜ニ適スル樣計ラザル可ラズト言ヘバパスパルツー傍ヨリ「失敬ナガラ貴客ニ問ヒ申サン貴國ハ山河ノ奇景ニ富ミ既ニ眼前ニアル峻嶺ノ如キハアルプ（歐洲ノ高山ニテ佛、伊、瑞、澳ニ跨ル）ニシテ氷谷ノ險ナクアペンニン（伊國ノ山名）ニシテ強盜ノ巢窟ナクピレネ（佛ト西班牙ノ界ニアリ）ニシテ貧寠及ビ私戰ノ慘狀ナキ勝地ナリ加之行旅ノ便ハ遙ニ歐洲ノ右ニ出ヅルト謂フベシサレド何等ノ譯ニヤ貴國ノ人ハ却テ遠ク歐洲ヘ來航シ故ニ勞苦ヲ求メ玉フゾヤ是レ僕ノ常ニ惑フ所ナリト思ハズ辯ニ任セテ口走リシガ說キ了テ始テ面白カラヌヿヲ言出シタリト慚愧シ又續テ言モ出サズ斯ル折カラ列車アルトナ驛ヘ着シケレバ之ヲ僥倖トシ早卒主人ニ傳キ午餐ヲ喫セント之ヲ紛ラシケリ

アルトナヲ辭シ東ニ向ヒ行クヿ數里ナラズシテ絕景畫ノ如キジユニヤタノ峽道ニ入レバ千仞ノ絕壁左右ニ峭立シ雲ヲ摩スルガ如ク又廣濶タル處ハ嶂巒相屬シテ屛ノ如シ或ハ溪流ノ畔ニ副ヒ或ハ鐵造ノ架橋ヲ渡リ忽チ闇晦ナル隧道ニ入リ又綠樹鬱蒼タル幽谷ニ出ヅ斯ノ如ク出沒極リナク行クヿ數十里ニシテサスケハンナ河ノ水源ニ沿ヒテ下レリ此河ハ廣サ一里ニ亙ルト雖モ所々ニ淺瀨アリテ川底ノ露ハレタル所頗ル多ク其間ニ礁磯石散在セリ又大小ノ村落ハ鱗次河邊ニ臨ミ處々ニ亭々タル烟突アリテ鍊鐵工場ノ州內ニ繁榮スル徵ト知ラレタリ

頓テサスケハンナノ長橋ヲ渡レバ眼界俄ニ變ジ沃野千里眺望ノ美謂フベカラズアウダ女ハ之ヲ眺ンデ贊歎シテ止ザリキ猶數里ニシテペンシルバニヤ州ノ首府ハルリスボルグノ停車場ニ着ヽ抑モアルトナヲ出デテヨリ機關車ハ煤水ヲ十分ニ貯ヘ疾驅シテ途上更ニ車ヲ停ムルヿナカリケレバ僅ニ三時四十分ニ里程百三十二里ヲ過ギ此府ヘハ着シケリ

此ニ於テ旅客ハ各々食堂ヘ入リ晩餐ヲ喫セント車ヲ降リ立騷ギケレバ店主ハ鎭メテ靜カニ告グルニ猶發車マデニハ十分ノ間暇アリト說キ諭セリ知ルベシ會社ノ旅客ニ十分ノ時間ヲ與フルヲ斯リケレバ乘客ハ皆快ク飽食シテ費經特比府迄百五里間ノ長路ヲ三時三十五分間ニ一走スルモ能ク之ニ耐ヘント用意セリ

サテ列車再ビ出發シ耕耘ヲ以テ北米全國ニ冠タル地方ヲ經過シ漸次費府ヘ近クニ從ヒ路傍ノ農家モ自ラ殷富ノ狀ヲ現ハシ且瀟洒タル豪家ノ別業其間ニ交ハリ停車場ノ如キモ亦大ニ

美觀ヲ飾ルハ問ハズモ知ル是レ大都會ニ接スルヿヲ少間アッテ費府大公園ノ傍ヲ過ギテ停車場ニ入レリ

此時車中ノ旅客此所へ降ル者數名アリ今朝ヨリフヲッグノ一行ニ慇懃ナリシ紳士モ車ヲ去ラント用意ヲナシケレバフヲッグハ近キテ「今朝ヨリ貴客ノ庇蔭ヲ蒙リシヿハ我等ノ深ク感謝スル所ナリ願クバ互ニ名刺ヲ換ヘテ後日再會ノ符ニ具ヘント聞テ彼ノ紳士ハ貌ヲ改メ起チ上リテ「途中會合ノ歡ヲ得シハ迭ヒニ增減ナシト云ヒツヽ懐中ヨリ陸軍少佐ジューント記セシ大ナル名刺ヲ取テフヲッグニ附與シ「他日我ガ米國へ再來シ玉フ時ハ歡喜シテ君ヲ迎ヘン者ハ蓋シ拙者ナラント言ヒアウダ女ニモ大々暇ヲ告ゲ訖テ車外へ出ヅルト思ヘバ蚤ヤ群衆ニ紛レテ其形ダニ見エズナリタリ

列車モ頓テ聲ヲ發シフェーアマウント遊花ノ裏ヲ横ギリテ人口ハ殆百萬ニ滿チ殖産ハ米國第一ナル費府ノ外ヲ續リテ行クヿ數里ニニュージョルシー州ニ入ルニ土地準テ平坦ニシテ大小ノ會處々ニ在リ就中ニュウヲークノ如キハ紐育府ノ大工場ト稱スルモ過當トハ言ヒ難シ此邊ニ至レバ列車ノ往來繁キヿ實ニ織ルガ如シ兎角スル間ニ列車ハ終ニ十一日午後九時三十五分ヲ以テジョルシー府内ハドソン河ニ臨ンデ建タルペンシルバニヤ鐵道會社ノ停車場へ着セリ抑モ此停車場ノ宏壯ナルハ毫モ少佐ジューン氏ノ言ニ背カズ一晝夜二十四時間ニ發スル客車五十一輛荷車八十一輛ニシテ着スル車數モ亦同數ナリ停車場前ハ直ニハドソン河ニシテ貨船商船鱗次トシテ舳ヲ並ベ艫ヲ列ネテ河水ノアルヲ見ズ車ヲ降テ埠頭ニ至レバ高樓ノ水ニ泛ブカト怪マルヽ許リナル巨大ノ渡船幾艘トナク各々客ヲ待チ受ケ直ニ江ヲ渉リテ紐育へ達スベシ此渡船モ亦會社ノ所屬ニテ晝トナク夜トナク兩府ノ間ヲ往來シテ乘客ノ數ハ實ニ幾萬億ナルヲ知ラズ

「クナル」線則チ別稱英米郵船會社ノ埠頭ハ停車場ト連ル所ナリシガ如何センリヴアポールへ出帆スル郵船「チャイナ」號ハ已ニ四十五分以前ニ解纜シタル後ナリケリ

第參拾貳回

郵船「チャイナ」號ハフヲッグ氏ヲ殘シ措キ唯同氏ガ最後ノ冀望心ノミヲ載セ去リシ者ノ如シ歐米兩洲ノ間ヲ通航スル船舶ハ其數多シト雖モ如何ニセン同氏ガ目今ノ需メニ應ズル船トテハ生憎ニ一船モナシ駛行ノ迅速構造ノ壯麗取拔ヒノ鄭重等ヲ以テ遙ニ同業中ニ卓絶シタル彼ノ佛蘭西渡洋郵船會社ノ汽船モ十二月十四日ニ迄ラザレバ纜ヲ解カズ獨逸ハンボルグ會社ノ郵船ハ其行ク處英國リヴアポール或ハ龍動等ニアラズシテ佛港ハーブルナレバ若シ之ニ搭ズル時ハハーブル港ヨリ英國サウサンプトン迄贅路ヲ迂回シテ徒ラニ一秒千金ノ光陰ヲ曠シ剩ヘ數十日ノ功勞ヲ水泡ニ歸セシムル恐アリサレバ之ヲモ採リ難シ別ニ「インマン」會社ノ汽船「シチ、ヲフ、パリス」號ノ翌日出帆スルアリト雖モ元來「インマン」會社ノ船舶ハ米國地方へ移住スル貧民ノ用ニ供スルヿナレバ自ラ機關モ粗ニテ馬力モ强カラズ速力ノ如キモ甚ダ遲々加之時々風帆ノ力ヲ假テ走ルユエ航海ノ日子概ネ多數ヲ要セリ到底フヲッグハ勝算ヲ此等ノ船ニ委スベキニアラズ

紳士ハブラトショウ道中記ニ就キ各社汽船出發ノ期日ヲ點檢シテ思案ニ沈ミケリパスパルツーモ同ジ思ヲ焦シテ熟々出發以來ノ事態ヲ追懷スルニ目今四十五分ノ遲着ニヨリテ主人ガ汽船ニ乘リ後レシヿモ因ヲ原レバ不慮ノ事トハイヘ矢張己レニ起リ又是マデ主人ヲ佐ケントシテ爲セシ事モ多クハ障害トナリ加之主人ガ濫用シタル巨額ノ金モ亦多クハ己レノ失策ヲ償フ

爲ニ費ン、純然タル損金ト云ベシ斯ル無益ノ浪費ヲ屑トモセズ氣ヲ勵シテ急ギシ旅モ今ハハヤ全ク徒勞ニ屬シ却テ巨額ノ財産ヲ彼賭金ニ添ヘテ失ハセ終ニ主人ノ零落ヲ招キタルヿ罪科遁ルベキヤウナシト自ラ身ヲ責メテ茫然タリ

サレドフヲッグハ毫モ之ヲ尤メズ從容トシテ汽船會社ノ棧橋ヲ去ルニ當リ其侶伴ニ向ヒ「明日ヲ竢テ事ヲ決スベシト云ヒツヽアウダ女ヲヒキスパスパルツート共ニジヨルシー、シチヨリハドソン河ヲ渡リ紐育府内ブロードウエー街「聖ニコラス」旅館へ着シケリサテ食事畢テ各々其寢室へ入ルニフヲッグハ更ニ憂ヘル氣色ナク常ノ如クニ安眠セシガアウダ女ヲ初トシテパスパルツー等ハ憂心悄々トシテサシモニ長キ冬ノ夜ニ須臾ノ夢ヲモ結ビ得ザリキ

明クレバ十二月ノ十二日ニテ今朝第七時ヨリ來ル二十一日午後八時四十五分迄ニ贏ス所ハ僅ニ九日ト十三時四十五分ノミ是ニ因テフヲッグハ昨夜「クナレ」線中第一ノ快走船「チャイナ」號ニ搭ジリヴアポールへ行カバ龍動へ着センヿ定期ノ内ニ有ル可カリシニ乘リ後レシハ又不幸ナラズヤ

紳士ハ僕ヲ呼ンデアウダ女ニ傳キ家ニ留リ己ガ歸來ヲ竢ツベシト命ジ置キテ獨リ旅館ヲ立チ出テハドソンノ河岸へ來リ河口ノ方ニ碇泊スル船舶ノ中ニテ出港スベキ者ヤアルト尋ヌルニ素ヨリ此地ハ繁昌限リナキ埠港ニテ萬國ノ津港へ向テ出帆スル船舶毎日百有餘艘ハ必ズアリ今朝モ已ニ出帆ノ號旗ヲ揭ゲ滿潮ヲ待テ解纜セント準備ヲナス者幾艘ナルヲ知ラズ然リナガラ多クハ風走船ナレバフヲッグ氏ノ需ニ適スル者少シ是ニ於テ豫テノ志望モ愈々空シキカト危ブム折柄忽チ一商船ノ纜ヲ砲臺ノ下ニ繫ゲルヲ見出シタリ今之ヲ熟視スレバ暗車形ナル細身ノ汽船ニシテ頻リニ黑烟ヲ噴ハ出港ノ準備ヲナス者ト知ラル

フヲッグハ直ニ艀艇ニ乘テ汽船ニ近キ一見スルニ其下部ハ皆鐵ヲ用キ上部ハ木製タリ頓テ舷畔ニ至リ梯子ヲ攀ヂテ甲板ニ上リ船將ニ面會セント求ムレバ該船「ヘンリエッタ」號ノ船將某直ニ出デテ面接セリ熟々其容貌ヲ觀ルニ年齡五十歲内外ナルベク眞ニ海上ノ老狸トモ謂ツベキ面體ニテ恰モ錆ヲ帶ビタル銅ノ如ク其色赤黑ヲ帶ビ毛髮モ亦殷紅ニシテ眼孔頗ル大ニ肩廣ク骨逞クシテ自ラ猛獰ノ狀ヲ現ハシ中々與シ易カラザル男トハ一目シテ自ラ知ラレタリ之ヲ見テフヲッグハ辭ヲ和ゲ「足下ハ船將ナルヤ 船將「然リ フヲッグ「拙者ハ龍動ノ住人ファイリス、フヲッグト申ス者ナリ 船將「拙者ハ英國カルヂーフノ住人アンドリュ、スピヂート申ス フヲッグ「足下ハ出帆シ玉フナラズヤ 船將「一時間以内ニ出帆イタスナリ フヲッグ「何處へ行キ玉フカ 船將「ボルドウ(佛國ノ港)へ フヲッグ「其積荷ハ何ナリヤ 船將「砂利ナリ別ニサシタル商貨モナキユヱ已ヲ得ズ之ヲ重リニ供スル耳 フヲッグ「船中旅客ヲ乘セ玉フ哉 船將「旅客ハ一人モ載セズ只商貨ヲノミ積ムナリ フヲッグ「足下ノ船ハ快走スル哉 船將「然リ十一二里ノ間ニテ實ニ快走著名ノ「ヘンリエック」ナリ フヲッグ「足下我等侶伴四名ヲリヴアポールマデ載セ行クヲ肯ヒ玉ハズ哉 船將「リヴアポールへ便船シタキトナ何トテ支那へト云ヒ玉ハザル フヲッグ「拙者ハリヴアポールへ行カント云フナリ 船將「否 フヲッグ「否トナ 船將「否々拙者ハ目今ボルドウへ行カントテ出港スル際ナリボルドウへ行クナリ フヲッグ「乘船賃幾何ニテモ肯ンジ玉ハズヤ「假令幾何ヲ得ルモ肯ンゼズト決答スル語氣又論辯ヲ容ルベキ勢ナラネバフヲッグハ談ヲ轉ジテ「汽船ノ持主ハ恐ラクハ足下ト意見ヲ異ニセン 船將「其持主ハ即チ拙者ナリ此船ノ進退總テ拙者ノ意ノマヽナリ フヲッグ「然ラバ

拙者全船ヲ借用致サン　船將「否　フヲツグ「然ラバ拙者之ヲ買ヒ取ラン　船將「否ナ肯ガハレズト言放チタリ斯クテモフヲツグノ容止毫モ騷ゲル色ナシサレモ其禍福ノ機實ハ此瞬間ノ内ニ迫レルナリ之ヲ如何ニト云フニ紐育ハ香港ト等カラズ「ヘンリエッタ」號ノ船將ハ又「タンカデル」號ノ船頭ノ比ニアラズ是迄ハ百障千碍モ悉ク紳士ノ金力ニ因テ消散シタレモ今回ノミハ金力モ亦其效ヲ見ハスヿ難シ然ラバ此上ハ危險ヲ侵シテ輕氣球ニ駕シ大西洋ヲ踰ルノ空策ヲ除ク外ハ是非共一汽船ヲ索メテ海路ヲ航セザルベカラズ暫クアリテフヲツグハ一策ヲ案ジ出ダシタリ因テ船將ニ向ヒ「然ラバボルドウ迄拙者等ヲ乘セ行キ玉ヘ　船將「否ナ假令二百弗ヲ拂ヒ玉フモ拙者ハ承知致シ難シ　フヲツグ「二千弗ヲ出スベシ　船將「一客毎ニ歟　フヲツグ「然リ　船將「侶伴四名ナリヤ　フヲツグ「四名ナリト聞テ船將スピーヂーハ竊ニ考ルヤウ別ニ航路ヲ變ズルニモアラズシテ八千弗ヲ得ルヿナレバ平素ハ乘客ヲ嫌フニモセヨ一人二千弗ヅツトアルカラハ決シテ尋常ノ乘客ニ非ズ貴重ノ積荷ト看做サバ可ナリトテ皮モ剝グルバカリニ額ヲ搔キ居タリシガ少間アリテ「九時ニ開帆ノ心組ナリ貴客ニハ夫レ迄ニ乘船シ玉フ哉　フヲツグ「九時迄ニハ必ズ乘船致スベシ

此時正ニ午前八時半ナリシガ紳士ハ直ニ陸ヘ回リ馬車ヲ驅ツテ旅館ニ至リアウダ女パスパルツー及ビ彼ノ終始離ルヽヿナク附キ纏フフヒキス迄モ伴ヒテ再ビ「ヘンリエッタ」號ヘ來レル時ハ方ニ拔錨セントスルナリ道スガラパスパルツーハ主人ノ定メシ船賃ヲ聞キテ吃驚ノ餘リ嗚呼ト一聲長大息セシ其音調ハ蓋シ音律中ニモ亦未ダアラザル聲ナリケリ

フヒキスハ又私ニ謂ヘラク英國銀行ハ愈々損失ヲ蒙ルヿ少カラジ設ヒ爾後フヲツグガ濫費ヲ愼ムモ既ニ七千磅餘（金貨三萬五千圓）ハ囊中ニ缺乏ヲ生ゼシナラント

第參拾參囘

出帆セシヨリ凡ソ一時可ヲ經テ「ヘンリエッタ」號ハハドソン河口ノ標準ナル燈明船ヲ打チ過ギフウクサンヂーノ岬ヲ囘リ終日火島ノ岸ニ沿ヒ東ニ向ヒテ快駛セリ

翌十三日正午汽船ノ架梁ニ立テ船ノ位置ヲ測量スル者アリ問ハデモ知ルヽ船將スピーヂーナルベシト思フニ然ニアラズシテ紳士ファイリス、フヲツグナリ

斯クテ船將スピーヂーハ室中ニ閉鎖セラレ憤怨沸ガ如ク怒リ叫ケブサマ狂亂スルニ似タリ如何ナレバ斯ク主客所ヲ異ニシタルト其原由ヲ尋ルニフヲツグハ素ヨリリヴァポールヘ行カントスレモ船將ハ頑固ニテ肯ハズ斯クテゾフヲツグハ權ニボルドウヘ行クト約束シ乘船ノ後巧ニ金力ヲ藉リテ乘組ノ水火夫ヲ懷ケタルニ固ヨリ彼等ハ一時雇ハレテ船ニ在ル者ナレバ自ラ船將ト和熟セズ其等ノ譯ニヤ未ダ日數モ歷ザルニ翕然トシテ皆紳士ニ靡キ從ヘリ已ニ水火夫共ハ服從セリト見テ取レバフヲツグハ彼等ニ指揮ナシ船將ヲ或ル子房ニ幽閉シ自身船將ニ代リ汽船ノ方向ヲ轉ジテリヴァポールヘトゾ向ヒケル斯クテフヲツグノ水火夫共ヲ指揮スルサマ自ラ法ニ適ヒ運動自在ナリ因テ同氏ハ曾テ海客タリシヿアルヤ明ナリ

フヲツグハ船將ニ代リ勇マ敷指揮シテ航海スル其結果ノ如キハ後ニ至テ知ルベキ所ナリト雖モアウダ女ノ憂懼ハ猶息マズフヒキスハ惶レ惑ヒテ未ダ爲スベキ所ヲ知ラズパスパルツー一人只花々敷事ナリト喜ビケリ

「ヘンリエッタ」號ノ速力ハ十一二里ノ間ニアリト嘗テ船將ノ言ヒシニ違ハズ駛行頗ル快ク若シ海路ノ暴ルヽヿナク又風位モ東ニ轉ゼズ船身或ハ機關等ニ損所ヲ生ズルナクバ「ヘンリ

ニッタ一八十二月十二日ヨリ同二十一日迄九日ノ間ヲ以テ三千海里ノ大洋ヲ踰エ首尾能クリヴアポールヘ安着スルハ必然ナリ然レモ既ニ竊盜ノ嫌疑ヲ被ル身ヲ以テ今又加フルニ理不盡ニ船將ヲ幽囚シケレバ紳士ノ困難ハ將來未ダ測ルベカラザルノ邊ニアリ

纜ヲ解テヨリ三四日ノ間ハ海波甚ダ險ナラズ風位モ東北ニ定マリテ帆走ノ便利アレバ「ヘンリエッタ」ノ駛行迅速ナル事眞ノ郵船ニモ劣ラザリキ

パスパルツーハ主人ノ奇策意表ニ出デタルヲ感歎シ敢テ前路ノ如何ニ顧慮セズ只欣々然トシテ水夫等ヲ相手ニ談笑シ或ハ得意ノ輕技ヲ演ジ或ハ嗜好ノ酒ヲ頒チテ飲マシメ抔スルニゾ頗ル水火夫ノ歡心ヲ得タリ斯リケレバ滿船ノ人氣自ラ其快活ナルニ染ミ皆欣喜シテ其職務ヲ勵ミケリ是ニ於テ壯漢ハ過去ノ艱難ハスベテ忘却シ只遠カラズ世界一周ノ大業首尾ヨク局ヲ結バント念ヒケレバ其待佗ビテ思ヲ焦ス事ハ火力ニ因テ汽罐ノ沸騰スルガ如クニゾ覺エタリ、此間時々警吏ノ動作ヲ窺ヘモ既ニ昔日ノ交情ハ全ク消却セシト見エ敢テ之ト語ラズ

フヒキスハフヲッグガ利ヲ啗ハシメテ滿船ノ乘組水火夫ヲ己ニ儻セシメ自身ニ之ヲ指揮シテ行クヲ見テ毫モ其意ヲ解スル能ハズ茫然タル事數時間ナリシカ頓テ心付キケン元五萬五千磅ヲ偸ミタル賊ナレバ今一汽船ヲ奪フハ何ゾ深ク怪ムニ足ランヤ思フニ陸盜變ジテ海賊トナリ陽ニリヴアポールヘ行クト揚言シテ陰ニ跡ヲ海波ノ間ニ匿シ更ニ奪掠ヲ事トスル者ナルベシト思ヒテ此ニ至リ輕々シク跡ヲ追ヒ深入リセシヲ悔イタリケリ

船將スピーヂーハ己ノ子舍ニ幽閉セラレ憤怒少間モ收マラズ猛リ狂フニゾ膂力無雙ノパスパルツーモ主人ノ命ニ從テ其食料ヲ運ニハ深ク戒愼シタリケリ

十三日ニ新地ノ岸ヲ過ギタリ此邊ハ日和ノ時ニテモ隨分險惡ノ海路ナルニ頃シモ冬間ノ事ナレバ霧深クシテ暴風定リナク殊ノ外危險ナリ然ルニ昨日ヨリ晴雨鍼俄ニ降リ空中將ニ變候アラントスルヲ報ジ夜ニ入レバ寒威益々烈シク勁風大ニ東南ヨリ至リ針路ノ外ヘ流サルヽ如クナレバ已ヲ得ズ布帆ヲ收メ汽力ヲ增シテ進行スレモ如何セン逆浪怒濤ノ爲ニ舷側ヲ撲タレ船身大ニ動搖シ遲々トシテ進ム事能ハズ兎角スル内暴風益々烈シク海上ヲ住居トスル水手等モ「ヘンリエッタ」ハ斯ル狂瀾ニ抵抗シ得ルヤト氣遣フ程ニ至レリ　パスパルツーノ如キハ空ト共ニ瞬間モ愁眉ヲ開キ得ズ二日ノ間ハ深ク憂慮ニ沈ミシガフヲッグハ毫モ恐レズ泰然トシテ水火夫ヲ指揮シ暴風怒濤ヲ事モセズ進行スルニゾ船身ノ轉顚スル事彌々劇ク白波ヲ銜クニ當テハ懸河一奔甲板ヲ洗ヒ去リ鯨濤艫ヲ突キ揚グルニ當テハ暗車水ヲ出デテ空ニ轉ジ轟々ト雷音ヲ發シテ狂瀾ヲ打チ風ノ方向モ東南ニ定リテ更ニ變ゼザレバ布帆ノ力ヲ假ルニ由ナシ然レモ此度ノ航海ハ追々豫定ノ日數ヲ短キ事ナレバ布帆ノ力ヲ假リテ汽力ヲ助ケシムル事最必要ナル事ナリ

十二月十六日ハ即チ龍動發程以來七十五日目ナルガ「ヘンリエッタ」號ハ幸ニ風波モ靜ニナリテ未ダ大ナル遲緩ヲ生ゼズ既ニ航路ノ半ヲ過ギタリ若モ此航海夏季ナランニハ勝算疑ナシト雖モ寒ニハ只日和ノ好惡ニノミコレ因ルナレバ未ダ推シ測ルベカラズパスパルツーハ竊ニ望ヲ順風ニ屬シ設ヒ之ヲ得ザルモ汽力ハ必ズ憑ムベシト信ジケリ然ルニ今日機關師ガ甲板ヘ來リ主人ト密話スル體ヲ看テ其故ヲ解セズ心中暗ニ憂ノ種ヲ釀シ如何ニシテカ之ヲ聞キ取ラント思ヒ耳ヲ欹ツレモ聲低ウシテ全ク之ヲ聞キ取ルベカラズ只耳邊ニ達スル者ハ左ノ數語ノミ

フヲッグ「足下確實ナル見込アリテ此ク

ハ言フカ 機「確實ナル見込アレバコソ申スナレ君ニモ知リ玉フ如ク解纜以來火ヲ全竈ニ焚キ汽力ヲ盛ニシテ疾走致シ候ヘバ嚢ニ紐育ヨリボルドウヘ航行スル爲ニ十分ナリトシテ貯ヘタル石炭モ今ハ殘リ少ク竭キ候フ フヲツグ「拙者熟考シテ後臨機ノ策ヲ施サント云フヲ竊ニ聞取リパスパルツーハ復憂ルヿ一方ナラズ憑ミ切リタル石炭迄未ダ港ニ着カザルニ蚤ヤ竭ルトハ何事ゾ猶此障碍ヲモ除キ玉ハンニハ主君ハ眞箇ノ英雄ナリト獨語シタリキ

斯ル折柄フヒキスト面ヲ合セケレバ取リ敢ヘズ其憂懼トスル事共ヲ落ナク語リケレバ警吏ハ嘲テ「足下ハ眞ニリヴアポールヘ行クト思ヒタルカ パス「素ヨリ然リト云ヘバ警吏ハ嗤テ「愚人カナト云ツヽ舳ノ方ヘ行カントスルヲパスパルツーハ引留メ其無禮ヲ嚴責セント思ヒシガ畢竟警吏ノ一言中ニ寓意ノ存スルヲ解セザリケン却テ其誤テ君子ノ踵ヲ追ヒ來リ今コソ自ラ臍ヲ噬ムナルベケレト臆想シ終ニ思ヒ止マリケリ

爾來フヲツグハ如何ナル奇策ヲ施スカ未ダ測ルベカラズト雖モ既ニ同氏ノ方寸決スル處アリト見エ機關手ニ向ヒ「彌ヽ火勢ヲ減ズルヿナク行進スベシト命ジケレバ機關手ハ猶豫セズ石炭ヲ全竈ヘ投ジケン烟突黑烟ヲ迸ラシ舟ハ一層快走セリ機關手ノ前言違ハズ十八日ニ至リ「彌ヽ石炭ノ竭クルニ切迫セリト告グルニゾフヲツグハ少シモ驚カズ「竭ルマデモ火ヲ減ズベカラズ汽力ヲ熾ニスベシト命ジタリ

此日正午フヲツグハ船ノ位置ヲ測量シ畢テパスパルツーヲ召ビ船將スピーヂーヲ伴ヒ來レト命ジタリ是恰モ猛虎ノ鎻ヲ解テ牽キ來レト云フニ比シキヿナレバ命ヲ奉ジテ壯漢ハ階子ヲ降リ「嘸カシ怒テ在ルナラント獨言シツヽ行キケルガ少間アリテ哮吼罵詈スルヿ榴彈ノ墜チ來テ破裂スルカト疑ハルヽ勢ニテ船將スピーヂーハ甲板上ヘ跳リ來リシガ怒氣胸ニ滿チ氣塞リケン物モ得言ハズアリシガ漸クニシテ叫ンデ云ク「茲ハ何處ゾヤトフヲツグハ靜ニ答テリヴアポールヲ距ルヿ七百七十里ナリ 船將「汝海賊 フヲツグ「君ト熟談シタキ事アリテ君ヲ招キタリ 船將「此錦帆兒奴 フヲツグ「君ニ乞ヒテ此汽船ヲ買取ラント欲ス 船將「否天地間ニアルトアラユル神ニ誓テ拒絕ス フヲツグ「船ヲ乞フ故ハ實ニ此船ヲ焚カザルヲ得ザル勢ニ迫レバナリ 船將「ナニ我所持ノ船ヲ焚クトナ フヲツグ「然リ石炭ノ缺乏セルニヨリ木造ノ部ヲ焚クナリト聞テ船將愕然トシテ「何ニ我ガ船ヲ燒クト云ヒ、ツヽ餘リノ事ニ言語モ塞ガリシガ漸クニシテ「五萬弗ノ價アル船ヲ燒カントハト呆ルヽヲ見テフヲツグハ銀行紙幣一ト束ヲ把テ「六萬弗ニテハ如何ト差出スニゾ船將ハ思ヒ掛ケナク六萬弗ノ巨額ヲ見テ憤怒立ニ消エ失セ室中ニ閉塞セラレシ怨モ今ハ打チ忘レ二十年ニ近キ古船ヲ斯ク高價ニテ售リ得ルヲ喜ビ容色忽チ笑ヲ含ミ勉メテ聲ヲ和ラゲテ「シテ鐵部ノ船身ハ我輩ノ所有ニ候ヤ フヲツグ「然リ共ニ機關モ添フベシ如何ニ得心ナルカ 船將「如何ニモ承諾致シタリト云ヒツヽ紙幣ヲ受ケ收メ手早ク之ヲ算ヘ終リ懷中ヘ納ムル體ヲ傍看スル パスパルツーハ色ヲ失ヒ驚クヿ限リナシフヒキスハ眼前フヲツグノ二萬磅（八萬圓）ニ近キ大金ヲ抛チ古船ヲ買フノミナラズ其鐵部即チ全船ノ實價ヲ有スル部分ヲ放擲シテ顧ミザルヲ見テ「如何ニ銀行ヨリ盜ミ來レル金ハ五萬五千磅ナルニモセヨ濫費モ亦甚シキ奴カナト驚キ殆ンド顚倒セン計リナリ

スピーヂーガ紙幣ヲ納メ畢ルヲ見テフヲツグハ物靜カニ云フ樣「拙者ノ所行ハ嘸カシ訝シト思ハンガ拙者ハ來ル二十一日ノ午後八時四十五分迄ニ龍動ヘ着セザレバ二萬磅ヲ失フ恐レアリ然ルニ紐育ニ來リシ時計ラズモ郵船ニ乘リ後

レシニ君ハ我等ヲリヴアポールヘ乗セ行ヲ拒絶シタレニ因テ已ヲ得ズ目今ノ仕業ニ及ビシナリ　船將「夫ハ氣ノ毒ノヿニ候然リナガラ夫ガ爲メ僕ハ圖ラズ四萬弗可ノ贏利ヲ得ルニ至レリト口走リシガ言ヲ改メ「貴客ノ尊名ハ何ト稱シ玉フゾ「フヲツグト申ス　船將「フヲツグ君ヨ貴客ハ眞ニ「ヤンキ」ノ氣象ヲ備ヘ玉ヒタリト媚言ヲ呈スル積リニテ立チ去ラントスルヲフヲツグハ喚ビ留メ「今日ヨリ此船ハ我が所有ナルヤ　船將「勿論ニテ候フ船底ヨリ桅檣ノ尖頭マデ木製ノ部ハ總テ貴客ノ所有ナリ　フヲツグ「好シ然ラバ先ヅ内部ノ装造ヲ毀チテ石炭ノ代用ニ充テヨト一令ノ下ヨリ直ニ之ヲ毀テ焚キ初メシガ何ニ爲ヨ大船ノ速力ヲ維持スル爲ナレバ薪ノ消費モ實ニ夥多ク忽チ戸扉、子舎ノ造作、中甲板、卓子、榻、床ノ類皆竈中ヘ入テ灰燼トナレリ

翌十九日ハ採薪ノ業益々劇シク檣ヲ截リ倒シ桁ヲ摧キ端船ヲ毀チ滿船斧斤ノ聲丁々トシテ各々氣ヲ勵シテ薪ヲ造ル中ニモパスパルツーハ或ハ鋸或ハ斧一人ニテ能ク十人ノ工ヲ爲セリ

翌二十日ニ至レバ舷板ヲ解キ甲板モ過半ハ剝取リテ竈中ニ投ジ終ニ「ヘンリエッタ」號ハ函船ト變ジ木製ノ部ハ殆ンド餘ス所ナキニ至リ漸ク愛爾蘭土ノ海岸ヲ遙ニ水天一髮ノ間ニ望ミフアストネットノ燈明モ亦渺茫ノ間ニ明滅ス然レドモ十一時ニ至リ船猶クインスタウン港ノ沖ニ在テ龍動ヘ着スル迄僅ニ二十四時間ヲ贏スノミ設ヒ汽力ノ全勢ヲ盡シテ駛行スルモ猶リヴアポールヘ着スルサヘ一晝夜ヲ要スベシ況ンヤ薪茲ニ竭キテ汽力將ニ衰ヘントスルニ至テハ迚モ豫テ期セシ時限以内ニ龍動ヘ到着センヿ思ヒモヨラズ船將スピーヂーモ今ハ共ニフヲツグノ爲ニ心ヲ勞シ近キテ謂フヤウ「萬事貴客ノ志望ニ背馳致スハ眞ニ痛ムベキヿナリ猶クインスタウンノ沖ヲ通過致シ候ハズ　フヲツグ「噫彼處ニ燈明ノ輝クハクインスタウン港ニ候フカ　船將「然リ　フヲツグ「港ヘ入リ得ベキヤ　船將「三時卽チ滿潮ノ時ニアラザレバ入ルヲ得ズト答フレドモフヲツグハ毫モ急グ色ナク穩ニ「然ラバ待タンノミト云フハ蓋シ猶逆運ニ向テ飽マデモ抗セント思ヘバナリ

クインスタウンハ愛爾蘭土ノ西岸ニ在ル一港ニテ米國ヨリ來ル郵船ハ先ヅ爰ヘ寄港シ郵便信書ヲ陸揚スル場所ナリサテ其信書ハ常ニ豫メ出發ノ用意ヲ整ヘテ郵船ノ着港ヲ待ツ所ノ直行汽車ニ積ミヂュブリンヘ輸シ彼處ヨリ又迅速ノ汽船ニ載セテリヴアポールヘ送ルヿナレバ此路ヲ取ルトキハ快走ノ郵船ニ乘ルヨリモ大抵先ダツヿ十二時ニシテリヴアポールヘ着スベシ是故ニフヲツグモ「ヘンリエッタ」ニ搭ジテ行クトキハ翌夕ニ至ラザレバリヴアポールヘ着スベカラザルニ此路ヲ取ラバ翌日午時ニハ彼港ヘ着シ同夜八時四十五分以内ニ龍動ヘ回着シ得ント冀望シタルナリ

午前一時夜ヲ冒シテ「ヘンリエッタ」ヲクインスタウン港ヘ乘リ入レフヲツグハ船將スピーヂーヲ過半取リ毀チシモ猶其代價ノ半額ニ當ルベキ燒キ殘リノ船中ニ殘シ己ハ侶伴ヲ牽キテ上陸セシガフヒキスハ陸ヘ上ルヤ否ヤ之ヲ捕ヘント心ノ頻リニ逸ルヲ抑ヘテ忍ビシハ蓋シ其嫌疑ノ少シク解ケタルカ或ハ自ラ誤認ヲ晤タルカ其ハ知ルニ由ナシ然レドモ瞬間モ其警護ヲ怠ルヿナシ斯クトモ知ラヌフヲツグ息ヲモ續カズ直ニ一時半出發ノ汽車ニ乘テクインスタウンヲ出立シ旭日稍ヤ昇ラントスル頃ヂュブリンヘ着シ此處ニテ鋼造ノ快走船ニ乘リ移リ波ヲ凌ギ風ヲ冒シテ終ニ十二月二十一日午前十一時四十分恙ナクリヴアポールノ埠頭ヘ着シケリ

是ヨリ龍動ヘ至ルハ僅ニ六時間ニテ足レリトス然ルニ此時フヒキスハ彼ノ捕縛令ヲ持チ近ヨリツヽ右手ニテ紳士ノ肩ヲ撫シ「足下ハフアイリ

ス、フヲッグ氏ニ相違ナキヤ　フヲッグ「眞ニ然リ何故改メテ問ハル、カ知ラネ𪜈フヲッグニ相違ナシ　警「拙者女皇陛下ノ勅ヲ奉ジテ只今足下ヲ捕縛ス

第參拾四回

憐ムベシフヲッグ氏ハ富有ノ人ト雖𪜈巨額ノ金ヲ擲チ幾多ノ辛苦ヲ嘗メ漸クニシテ英領ヘ着スルヤ忽チ縲紲ノ身トナラントハ斯クテ今宵ハリヴアポール稅關ノ獄中ニ繫ガレ明日ハ龍動ヘ護送セラル、ヿナリト

主人ノ縛セラル、ヲ見テパスパルツーハフヒキスニ飛ビ掛ラント起チ上ルヲ巡査ノ為ニ遮ラレテ果サズアウダ女ハ何故ニ浩ル粗暴ノ振舞スルカ解スルヲ得ズ唯驚キテノミ居タリシガ頓テパスパルツーニ就テ始終ノ譚ヲ聞キ爰ニ始メテ我命ノ親トモ頼ム平直義勇ノ紳士ニ盜賊ノ汚名ヲ負ハシムルヲ知リ最口惜ク思ヒツ、怒リ怨メド其詮ナク唯潸然トシテ涙ニ暮レテ居タリケリフヒキスハ同氏ヲ捕縛スルハ其職務ナレ𪜈其罪跡ノ有無ヲ糺スハ刑法官ノ關スル所ナルヲ以テ今ハ職務ヲ盡セリトテ何處ヘカ立チ去リケリ

此時パスパルツーノ胸中忽チ一思想浮ミタリ其ハ如何ト云フニ今回ノ厄難モ其本原ヲ糺セバ自己ノ過失ヨリ起リシヿニテ今更思ヘバ何故ニ早ク主人ヘ實情ヲ告グ置カザリシカフヒキスハ密行ノ警吏ニテ其目的ハシカ〳〵ト告ゲ置カバ主人モ道スガラ警吏ノ誤認ヲ正シ其嫌疑ヲ解キ玉フベカリシニ又何トテ英國ヘ回着セバ自家ヲ捕縛セント計較ム所ノ奸物ヲ伴ヒ來玉フ理アランヤ噫我ナガラ鈍マシカリキト今更心付キテ後悔スレバ胸塞リ聲咽ビ啼泣スル狀傍看スルモ哀レナリ

アウダパスパルツーノ兩人ハ如何ニカシテ一タビナリ𪜈フヲッグ氏ニ對面シ其情實ヲ陳べント寒氣ノ酷ヲモ厭ハズシテ稅關ノ門前ニ佇ミ居タリ

同氏ハ千辛萬苦ノ末漸ク今十二月二十一日ノ前十一時三十八分ヲ以テ英國リヴアポールヘ歸航シ是ヨリ纔ニ六時間ヲ汽車ニ費シテ龍動ヘ着シ誓約ノ時限ヲ誤ラズ改進舍ヘ到ル迄ニハ猶九時五分ノ有餘アリテ殆ド勝利ヲ占ムルニ當リ忽然縲絏ノ身トナリ一身ノ財產ハ悉ク失ヒ終ニ拯フベカラザルノ困難ニ陷リタルヿ故定メア悲憤ニ堪ヘザルベシト思ヒノ外同氏ハ心中ノ積鬱抑フベカラザルヲ枉テ忍ブニヤ又ハ看護ノ隙ヲ窺ヒ脫出セントスルヤハ知ラザレ𪜈外ヨリ之ヲ見レバ更ニ憂フル氣色モナク自若トシテ粗製ノ木榻ニ倚リ徐ニ事ヲ待ツ者ニ似タリ蓋シ同氏ガ胸中竊ニ他ニ期望スル所アリテ然ルカ同氏ハ唯懷中ノ時器ヲ机上ニ置キ其鍼ノ進ムヲ熟視シテ默然タリ

同氏ハ此厄ニ遭ヒテ獄中ヲ脫セント欲スルカ嗚呼何ゾ然ラン同氏ハ立テ一タビ檻内ヲ一周シ窓戶ノ堅牢ナルヲ見テ徐ニ座ニ復シ彼ノ道中日誌ヲ取リ出シ

十二月二十一日土曜リヴアポール

トアル文字ノ下ヘ

第八十日目　午前十一時着

ト書キ加ヘ又空ク待ツ折カラ稅關ノ時辰鐘一時ヲ報ズ是ニ於テ自家ノ時器ノ二分許進メルヿヲ知レリ

兎角スル内早ヤ二時トナリタリ倘シ此時此處ヲ出デ龍動ヘ直行スル汽車ニ乘ルヿヲ得バ八時四十五分即チ誓約ノ時限ニ後ルヽヿナク改進舍ヘ到ルヲ得ラルベシ然レ𪜈如何セン今ハ稅關ノ獄中ニ閑居スル罪囚ノ身ナレバ流石ノ紳士モ憮然トシテ額ヲ蹙メテゾ居タリケル

二時三十三分ニ至リ檻外俄ニ騷ガシク忽チパスパルツーフヒキスノ叫聲戶ヲ開ク響ト共ニフヲッグ氏ノ耳ニ達スルニゾ氏ハ眼光頗ル

喜色ヲ帶ビ看ル一看スレバアウダ女パスパルツーフヒキスノ三人等ク進ミ入リ アウダ パスパルツーハ同氏ノ左右ノ手ヲ執テ言ハントシテ言フヿ能ハズフヒキスハ絶エ入ルバカリニ喘ギツヽ漸クニシテ吃リナガラ「宥シ玉ヘ宥シ玉ヘ不幸ニシテ容貌ノ彷彿タルヨリ誤テ君ヲ疑ヒ斯ル厄難ニ罹ラシメタリサレド眞ノ賊ハ既ニ三日以前ニ縛ニ就キタリ因テ君ハ今ヨリ自由ノ身ナリト之ヲ聞テ紳士ハ警吏ノ正面ニ立チ雙手ヲ伸バシテ後ノ方ヘ引キ回スゾト見エシガ忽チ自動ノ木偶ニ等シキ運動ヲ爲シ警吏ノ肩ヲ打チタリケリ斯ル擧動ハ同氏ガ生涯唯一回ノ事ナリシナランパスパルツーハ之ヲ見テ始メテ雀躍絶叫シテ「愉快々々是コソ眞ニ英拳ヲ施ス機會ノ最モ適セル所ナリトフヒキスハ倒レシママ敢テ一語ヲモ發セズ只管後悔シテゾ居タリケル

フヲッグハアウダ女パスパルツーヲ率キテ税關ヲ出テ直ニ馬車ニ飛ビ乘リ時ヲ遷サズ停車場ニ到レバ既ニ龍動直行ノ列車出發ニ後ルヽヿ三十五分ニテ此時方ニ二時四十分ナリ是ニ於テ直ニ別仕立ノ汽車ヲ命ジタルニ幸ヒニ十分汽力ヲ貯ヘ卽刻發スルニ任ヘタル者數輛アリ然レ𪜈線路ノ都合ニ因リ發車スルハ三時ナリキ

フヲッグハ例ノ如ク巨額ノ賞金ヲ約シテ機關手ヲ鼓舞シ三時ヲ以テ少婦忠僕ノ二人共ニ龍動ヘ向テ發程セリ

龍動リヴアポールノ間ハ非常ノ障碍ナキ時ハ五時三十分間ニ通過スルハ固ヨリ難キニアラズト雖𪜈奈何セン線上ニ案外ナル障碍アリテ同氏ガ龍動ヘ回着セル時ハ八時五十分ナリキ

フヲッグハ百折屈セズ世界一周ノ功ヲ畢リシガ不幸ニシテ僅カニ五分間ノ遲着ナルヨリ終ニ其勝算ヲ失ヘリ

第參拾五回

翌日ニ至ルモサヴヒルロー街ナルフヲッグ氏ノ居宅ハ牖戸ノ鎖セルヿ依然トシテ留守ノ間ニ異ナラズ寂寞トシテ人影ナキガ如シ故ニ設ヒ人アリテ同氏ノ歸宅ヲ隣人ニ告ル者アリトモ恐クハ之ヲ信ズル者莫ラン然レ𪜈同氏ハ停車場ヲ出ヅル時僕ニ命ジテ道スガラ食品若干ヲ求メシメ自家ハ少婦ヲ伴ヒテ其家ニ歸リシナリ

フヲッグ氏ハ遙々山海ヲ跋渉シテ幾多ノ障碍ヲ制シ種々ノ危險ヲ冒シテ途上至ル處徳義ヲ施シ今漸ク足ヲ故國ヘ容ルヽヤ否ヤ忽チ同伴警吏ノ誤認ニ因テ縲紲ノ身トナリ千辛萬苦モ終ニ畫餅ニ屬シ富有ノ身モ是ヨリ零落ニ至ラントハ實ニ無殘ノ極ト謂フベシ最初故國ヲ出ヅルトキ攜帶セシ大金モ今嚢中ニ蓄ス所ハ瑣々タル小額トナリ又自家ノ財産ハ嘗テベイリング兄弟社中ヘ預ケシ二萬磅ニ過ギズシテ其金額ハ既ニ賭資ニ充テシヿナレバ最早敵手ノ有ニ歸シ自家ノ資産ニハ非ズ元來同氏ノ此度ノ賭事ハ只榮譽ヲ博スルノ眞意ニ出デ決シテ之ヲ以テ潤屋ノ策トナスノ如キ卑劣ノ企望ニ出デズ故ニ設勝利ヲ得ルモ既ニ行旅ニ於テ費耗セシ金額ハ數多ナレバ身ヲ富スニ足ラザルベキニ不幸ニシテ失敗ヲ被リ終ニ家産ヲ擧テ失却シタリ然レ𪜈同氏ハ敢テ深ク之ヲ憂トセズ自若トシテ之ヲ甘受スルハ胸中別ニ決スル所アル者ニ似タリ

アウダ女ハ聽クモ紳士ノ言語ニ自ヲ不祥ノ語氣ヲ含ムヿヲ知リ若シモヤ思迫テ短慮ノ擧動アランモ測ラレズト憂愁ノ情胸ニ餘リテ一瞬ノ間モ眠リ得ズパスパルツーモ疾ク之ヲ察シケン色ニハ出サネド始終主人ノ動作ニ眼ヲ注ギタリ

然レ𪜈焦眉ノ急務ハ發程以來八十日間斷エズ點ゼシ瓦斯燈ノ一事ナレバ自己ノ寢室ヘ走リ行キケリ斯クテ後郵信函ヲ開ケバ果シテ内ニ瓦斯會社ノ書キ出シアリ然レド漸ク其出費ノ源ヲ絶チシニ由テ稍ヤ安堵シタリケリ

フヲッグハ寢ニ就キタレ圧其眠リシヤ否ヤ知ルベカラザレバ義僕ハ守門ノ犬ノ如ク終夜主人ノ室外ニイミテ主人ノ擧動ヲ窺ヒケリ

翌日ニ至リ同氏ハ僕ヲ召シテアウダ女ノ爲メ午餐ノ用意ヲ整ヘシメ又自家ハ茶一碗炙肉一片ニテ足レリト云ヒ且アウダ女ニ乞フニ午餐晩食共ニ其食卓ニ列ナラザルモ宥恕スベシ只日暮ニ至リ暫時會話シタキ旨アル丁ヲ申セト命ズルニゾ僕ハ既ニ終日ノ命令ヲ承リシ上ハ只退テ之ヲ行フノミナレ圧主人ノ自若タル色ヲ見恍トシテ未ダ去ル能ハズ嚢キニハ警吏フヒキスノ陰謀ヲ知リツヽ愚ニモ主人ニ告ゲザルニヨリ主人ハリヴアポールノ厄ニ遭ヒ随テ今日ノ難アルニ至リタルモ皆是レ己ノ過失ニ出ヅルト思ヘバ往事ヲ悔イテ胸塞リ終ニ耐ヘ得ズ哀叫シテ「主君嘸カシ此下郎ヲ憎シト思召スナラン失敗ノ原由ハ此下郎ノ過ニテ候フト云ヒ出ヅルヲフヲッグハ靜ニ押シ鎭メ「予ハ誰ヲモ咎メザレバ退キテ今命ジタル事共落ナク爲セト云フヲ聞テ餘儀ナク主人ノ前ヲ退キ少婦ノ許ニ至リ主人ノ言ヲ傳ヘ訖リ言ヲ改メテ「主君ノ心ヲ解キ參ラセント思ヲ焦ス計リニテ更ニ寸效アリ圧思ヒ候ハズ仍テ願ハ尊孃ノ力ヲト云ハントスルヲ少婦ハ打チ消シ「同氏ハ決シテ他人ノ助ケヲ受クル人ナラズ同氏ノ厚恩ニ感ズル眞情ハ妾モ方寸ニ溢ルヽ計リナレ圧同氏ハ妾ガ意衷ヲ知リ玉ヒタル色モナシ然レバ如何ナル術アリ圧同氏ノ心ヲ解クベキ手立ナシ卿能ク意ヲ注テ少間モ左右ヲ離レズ傳キ護レカシ卿言ハズヤ同氏ハ今夕妾ニ面晤ヲ望ムトパス「然リ察スルニ今夕ノ談話ハ多分尊孃ノ將來ノ目途ヲ確定スル事ナラント聞テ「然ラバ待タンノミト云ヒツツ少婦ハ又モヤ思案ニ沈ンデ言葉ナシ

浩ル有樣ナレバフヲッグ氏ノ居宅ハ空屋ノ如クニテ議事院ノ樓鐘午前十一時半ヲ報ズレ圧同氏ハ敢テ改進舍ヘ行カントモセズ蓋シ斯ル事ハ同氏ガ此家ニ住居セショリ以來未ダ曾テ有ラザル所ナリ如何トナレバ同氏ハ設ヒ例刻ニ期シ彼處ヘ至ルモ昨夕八時四十五分ノ契約時限ヲ過ギシ上ハ自家ノ賭ハ失却シ誰アリテ歸來ヲ待ツ者モナク且ベイリンク兄弟社中ヘ預ケ置キシ二萬磅モ豫メ敵手ヘ證券ヲ渡シ置キタレバ既ニ自家ノ有ニ非ズ改進舍ヘ趣クモ何ヲカ爲ント斷念シケレバナリ故ニ終日居室ニ籠リテ自家ノ要事ヲ爲セリパスパルツーハ主人ノ身上ニ掛念シ幾回モナク室ニ階ヲ昇リ主人ノ便室ノ戸外ニイミ或ハ鍵穴ヨリ窺ヒテ其動靜ニ注目セリ元來忠誠無二ノ赤心ヨリ出ヅル丁ナレバ不敬ノ所爲トハ思ハザリキ

折ニ觸レテハフヒキスノ事ヲ思ヒ出シ前ニハ一向憎トノミ思ヒシガ彼トテモ職務ニ精勵スルノ餘リ過テフヲッグ氏ヲ嫌疑シタル丁ナレバ固ヨリ故造ノ害心アルニアラズナド思ヒ回ラシ益ミ我ガ罪ノ恕スベカラザルヲ知リ悲歎遣ル方ナカリキ

兎角スル間ニ午後七時半トナリケレバフヲッグハ先ヅ僕ヲアウダ女ノ室ヘ遣テ只今其便室ヘ至ルモ不都合ナキヤ否ヤヲ慇懃ニ問ハシメ少間アリテ其室ニ入リ禮畢テ一榻ヲ爐邊ニ惹テ少婦ト對坐シ少シク首ヲ低レテ默然タリシガ良アリテ首ヲ擡ゲ少婦ニ向ヒ「遙々萬里ノ外ナル英國迄貴女ヲ伴ヒ參ラセ嘸カシ怨メシト思シメサント言ヘバアウダ女ハ胸モ張リ裂ク計リニ覺エ「何事ヲ云ヒ玉フゾ勿體ナクモ命ノ親ト賴ミ奉ル君ヲバト答ヘケリ　フヲッグ「先ヅ靜ニ聞キ玉ヘ嚢ニ貴女ヲ助ケテ遠ク當國迄伴ヒ參ラント致セシ時ハ拙者モ相應ノ家産ヲ所持セシニ因リ其一分ヲ進ラセナバ隨分貴女ヲ幸福ニ暮サセ參ラセン丁難カラザリシニ圖ラザル不幸ニシテ今ハ破産零落ノ身トナリタリ　アウダ「此度ノ事ハ妾モ悉シク知リタルユヱ唯痛マシクノミト思ヒ參ラスルナリ君ハ又妾ガ鐵面皮モ今日マデ君ニ

從ヒ來リ心ナラズモ君ノ行旅ノ障碍トナリ君ノ破産ヲ招キ玉ヒシ根原トナリ嘸カシ憎シト思シ玉ハン　フヲッグ「何トテ左樣ノヿアルベキ貴女ヲ印土ニ留メ參ラセバ再ビ頑徒ノ毒手ニ陷リ玉ハン恐レアリシユヱ此クハ遠ク伴ヒ參ラセタルナリケレバナリ　アウダ「然バ君ノ御情ハ妾ヲ萬死ノ內ニ拯ヒ玉ヒシノミナラズ猶行末マデヲモ計リ玉ハルベキ深キ御心ニアリケルカ　フヲッグ「然リ然ルニ運拙クシテ志ヲ得ズ去レ𪜈僅ニ殘資ノ貯アレバ願クハ之ヲ貴女ニ進上シテ拙者ノ赤心ヲ表セン　アウダ「然ラバ君ニハ此後如何シ玉フ御心ナルカ　フヲッグ「拙者ノ如キハ一物ヲ要セズ心ヲ勞シ玉フヿ勿レ　アウダ「然ラバ行末ノ生計ヲ如何シテ立テ玉フゾ　フヲッグ「機ニ臨ミ好キヤウニ致スベシ　アウダ「君ノ如キ紳士ハ良友モアリ玉フヿナレバ生計ニ事缺キ玉フヿハ餘モアラジ　フヲッグ「否朋友一人モ候ハズ　アウダ「親戚ハ在リ玉フナラン　フヲッグ「否親戚モ當時ハ皆ナ亡セ果テタリ　アウダ「凡一人ニテ浮世ヲ渡ル程果敢ナキ者ハナキニ君ニハ朋友親戚ノ共ニ憂キ事ヲ語リ合フ人ナシト言ヒ玉フカ世人モ常ニ申サズヤ設ヒ如何ナル辛苦ニテモ二人ニ負ヘバ耐ヘ易シト　フヲッグ「眞ニ貴女ノ言ハルヽ如シ是ニ至テアウダ女ハ容ヲ改メ起テ兩手ヲ伸バシツヽフヲッグニ向テ「君親戚ト朋友トヲ一身ニ兼ネタル婦人ヲ得玉フ意アラズヤ不束ナガラモ妾ニ二世ノ契ヲ許シ玉ヒ箕箒ヲ奉ズルヲ得セシメ玉ハヾ妾ガ幸之ニ優ルモノ候ハジ恥シナガラ許サセ玉ヘト云ヘバフヲッグモ座ヲ起チ眼光烱然是マデノ容子ト異リ脣吻少ク戰キテ一言ヲ發セズアウダガ眸ヲ凝シテ己ヲ熟視スルヲ見ルニ其信誠貞順ノ德義眼中ニ溢レテ恩人ノ危急ヲ救フガ爲ニハ如何ナル艱苦モ顧ミズ末賴母敷クゾ見エケレバフヲッグハ深ク其誠意ニ感ジ少婦ノ眸光ヲ見テ眩スル者ノ如ク眼ヲ閉ヂ暫クシテ復タ開キ淡如トシテ「予貴女ヲ戀フヤ切ナリ全世界ノ神明ニ誓テ貴女ヲ愛慕スルノ誠意ヲ表シ永ク貴女ト偕老ノ契ヲ結バン「吁ト歡聲一叫少婦ハ胸ヲ捧ゲテ又一言ナシ

主室ノ鈴聲ヲ聞テパスパルツーハ遽ク其裏ニ入レバ少婦ノ纖手猶主君ノ手裏ニアルヲ見テ忽チ其情ヲ解シ歡喜一方ナラズ滿面ノ輝々タルヿ恰モ赤道ノ太陽ノ如シ

フヲッグハ之ニ向ヒ、メリルホン教區中ノ僧官サミユエル、ウヰルソン長老ノ許ヘ行テ云々ノ事ヲ告ゲ置クニハ既ニ遲キヤ否ヤト言ヘバ義僕ハ欣々トシテ笑ヲ含ミ一決シテ遲キ筈ハ候ハズ只今猶八時五分ヲ過ギ候ハズ又問テ「明月曜日ヲトシ玉フナラント云ヘバ紳士ハ少婦ニ向ヒ「明月曜日ト定ムベキ歟ト問ヘバ快ク同意スルニゾパスパルツーハ急ギ戶外ヘ馳セ行キケル

第參拾六囘

却說彼ノ銀行ノ金ヲ竊ミシ眞ノ賊ハジエムス、ストランドト云フ者ニテ十二月十七日ユヂンボルグ府ニ於テ天網ニ罹レリトノ新聞一タビ世上ニ流布セシヨリ大英全國ノ輿論俄ニ一變シ僅ニ三日以前迄ハスエズ在勤ノ警吏ニ跡ヲ追ハルヽ偸兒ナリト爪彈セラレシフヲッグモ奇癖ヲ偏執シテ世界ヲ一周スルノ君子ナリト敬セラレ往日其事ノ成否ヲ評論セシ衆庶ハ復タ嚮ノ如ク其意見ヲ主張シ殊ニ各社ノ新聞記者輩ハ或ハ贊シ或ハ駁シ論辯頗ル喧シク競賭ノ舊約愈〻堅ク更ニ新約ヲ結ブ者モ多キヲ加ヘタリ是ヲ以テ賭券大ニ其價格ヲ挽回セリ

フヲッグノ敵手五名ハ殆ンド競賭ノ約アルヲ忘却スル程ナリシガ忽然十二月十七日ニ眞賊ノ縛セラレタルヲ聞キ驚キテ日子ヲ算スレバフヲッグノ發程以來正ニ七十七日ナリ然ルニ未ダ其一信ダニ得ザレバ今果シテ何レノ邊ニ在ルヲ詳ニセズ或ハ疲困シテ斃レシカ或ハ競

爭ヲ斷念シタルカ將タ鋭意屈セズ誓約ヲ遂ゲントト海陸ヲ跋涉シテ十二月二十一日八時四十五分ヲ刻シ改進舍ノ會堂ヘ入リ來ルベキカト皆心ヲ煩シテ須臾モ安慮スルヿ能ハザリキ

十七日以來三日ノ間ハ英國社會ハ貴賤ノ別ナク皆確報ヲ渴望スルノ餘リ或ハ電信ヲ米國亞細亞ノ各地ヘ發シテフヲッグノ蹤跡ヲ探索シ或ハ人ヲサヴヒルロー街ノ家ヘ遣テ其動靜ヲ窺ハシムルモ多カリケレドモ未ダ何等ノ報モナシ又警察官ハ誤テフヲッグヲ追跡セシ警吏フヒキスノ消息ヲ詳ニセズ斯クテ公衆ノフヲッグヲ視ルハ恰モ駿馬ガ今將ニ競馬場ノ一端ニ達セントスル時ト一般ニテ喋々其勝敗ヲ說キ更ニ新賭ヲ結ブ者モ夥多シ然レドモ公衆ガ同氏ノ勝算ヲ危ムヿ深ク約ヲ結ブニ當リ多クハ百ニ付二十或ハ十或ハ僅ニ五ヲ以テスルニ至ル此內獨リアルベルメール老侯ノミハ依然對數ヲ維持シテ屈セザリキ

是ヲ以テ土曜日ノ日暮ニ至レバ蚤ヤポールモール近傍ハ群衆雜遝シ殊ニ改進舍ノ前面ハ牙儈數百東西ニ馳セ違ヒ好賭家數千街頭ニ佇立シ往來爲メニ阻マリ立錐ノ地モナキガ如シ斯ル混雜ヲ押シ分ケテ牙儈ハ大聲ニ賭券ヲ公賣スルヿ恰モ公債證券ニ於ケルガ如シフヲッグノ歸國スベキ誓約ノ時限益々迫ルニ隨ヒ群衆ノ雜遝モ益々甚ダシク巡查モ之ヲ制止スルニ頗ル困却セリ

五名ノ敵手銀主ジョン、シュリバン同サミュエル、フヲレンチン工學博士アンドリュー、スチュアート英國銀行副長ゴーチエ、ラルフ麥酒釀造家トマス、フラナガンノ諸氏ハ日暮ヨリ改進舍ノ廣間ヘ集會シ皆胸間悸々トシテ待チ居タリ兎角スル間ニ會堂ノ大時計八時二十五分ヲ指スニゾスチュアートハ座ヲ起テ「諸君ヨ是ヨリ僅ニ二十分間ヲ出ズシテ我等トフアイリス、フヲッグ氏ノ間ニ結ビシ誓約ノ期限ハ切レ候ゾフラナガン又起チテ「リヴアポールヨリ來レル汽車ハ何時ノ者ヲ以テ最モ近ク到着シタル者トナスカ　ラルフ「七時二十三分ノ者ヲ最モ近キ者トシ次便ハ今夜十二時十分ニ非レバ到着到サズ　スチュアルト「然ラバ若シフヲッグ氏ハ七時二十三分着ノ汽車ニテ回着シタランニハ既ニ爰ヘ來ルベキ筈ナリ思フニ最早我々ハ勝利ヲ握リシ者ト信ズルモ大早計ニハ非ルベシト云ヘバフヲレンチン傍ヨリ「暫ク待テ決スルニコソ宜シカラメ諸君モ知リ玉フ如クフヲッグ氏ハ奇癖絕倫ノ人物ニテ凡テ事ヲ處スルニ緩急毫髮ヲ錯ラザル質ナレバ今ヤ最後ノ時刻過ギ果テントスル時忽然入リ來ランモ測ルベカラズ最後ノ時刻卽四十五分ニ入リ來ラザルニ於テハ拙者ノ如キハ却テ驚クベシト云フヨリ早クスチュアートハ聲ヲ勵マシ「拙者ノ如キハ設ヒ其入リ來ルヲ見ルモ彼ナリトハ信ズマジ　フラナガン「實ニフヲッグ氏ノ企圖ノ如キハ到底行フベカラザルヿナリ設ヒ同氏ヲシテ如何程嚴整タラシムルモ已ヲ得ザル遲緩ハヨモ避ケ難カルベシ　シュリバン「且ツ氏ノ發程以來未ダ一電報ダニモ來ラザルハ怪シカラズヤ　ステュアート「諸君疑ヒ玉フヿナカレ同氏ガ失敗スルハ鏡ニ懸ケテ見ルガ如シ諸君知ラズヤ同氏ガ駕シ來ルベキ郵船ハ唯「チャイナ」號一艘ナリ彼船ハ昨日既ニリヴアポールへ着セリ此クテ此水運新誌ニ就テ乘客姓名簿ヲ閱スルニ同氏ノ姓名ハ載セテアラズ良シヤ其行路ニ一ノ障礙ナシト假想スルモ猶同氏ハ漸ク此頃米國地方ヘ達セシ程ナルベシ故ニ自今凡二十日以上ヲ經ザレバ迚モ回着ハ覺束ナシ然カスルトキハアルベルメール老侯ノ五千磅モ遂ニ他人ノ手ニ歸スルナラン　ラルフ「我等ガ勝利既ニ疑ヲ容レズ明朝ハ速ニフヲッグ氏ノ殘シ置ク證書ヲ携ヘベイリング兄弟社中ヨリ金額ヲ受領セント言ヒ訖ルトキ正ニ八時四十分ナレバ猶五分間ノ勝負ナリト言ヒ合ヘリ

斯クテ五名ノ紳士ハ互ニ其面ヲ見合セ勝算既ニ疑ヒ無シト雖𪜈元來天運ニ任カスル勝負ナレバ自ラ恐懼ヲ抱カザル能ハザリシガフヲレンチンノ發言ニ應ジ起テ樗蒲卓ニ就キ遊戯ヲ始メントスル時スチュアルト謂テ曰ク「設ヒ三千九百九十九磅ヲ與ヘント云フ者アリト雖𪜈拙者爭カ我四千磅ノ賭ヲ人ニ委センヤト

此時時辰盤八時四十二分ヲ表ス

對奕ノ諸子ハ各々沈着ノ色ヲ粧ヒ遊戯ヲ試ントスレ𪜈奈何セン肚裏悸々トシテ只眼眸頻ニ時辰盤ノ方ヘ向フニゾ勝負ヲ決スルヲ得ズ兎角スル間ニラルフガ頒チ與ヘタル牌子ヲ切リツツフラナガンハ「八時四十三分カナト言ヒシガ其後ハ諸子ハ唯默然トシテ對座スルニゾ舍内ノ廣堂ハ寂トシテ只時器ノ響ヲ聞クノミ外舍ハ之ニ反シ群衆囂々トシテ喧呼四隣ニ起ル

少間アリテシュリバンハ常ナラヌ聲ヲ揚ゲテ「八時四十四分ナリト云ヘリ斯クテ全勝ヲ占ムルニ至ルマデハ僅ニ一分間ノ内ニアルヿナレバ諸子ハ皆牌子ヲ措キ唯秒鍼ノ進ムヲ算シテ既ニ四十秒ニ至レ𪜈未ダ何等ノ異事モナシサルニ五十五秒ニ至リシ頃門外忽チ殷々トシテ輕雷ノ如キ響ヲ傳ヘ續テ衆聲騷然トシテ遠近ニ喧シク只事ナラズ聞エシカバ諸子怪ンデ座ヲ起チ戸外ヲ見ントスル折柄會堂ノ戸扉ヲ啓キ押シ合ヒツヽ堂内ヘ闖入セント犇ク群衆ニ先チ入リ來ル一個ノ紳士アリコハ誰ナルヤト眸ヲ凝ラシテ之ヲ見レバ彼ノ奇癖絶倫沈毅敢勇ナルフヲッグ氏ニシテ神色悠然トシテ「諸君ヨ拙者只今歸國致シタリト此時恰ヒ時辰盤六十秒即チ四十五分ヲ示ス時ナリキ

第參拾七回

今茲ニ如何ノ譯アリテ誓約ノ期ニ後レ零落ノ身トナルヲ憂ヘ居タルフヲッグ氏ガ改進舍ヘ期ヲ誤ラズ來リシカ事ノ仔細ヲ尋ルニ彼ノサヴヒルローナルフヲッグノ家ニテパスパルツー今夕八時五分即チ龍動ヘ來着セシヨリ凡ソ二十五時ヲ過ギシ頃主人ノ命ヲ奉ジテ翌日婚姻ノ禮式ヲ依賴セントテウヰルソン長老ノ許ヘ馳セ行キシニ折シモ長老不在ナリケレバ其歸ルヲ待ツヿ凡ソ二十分餘ニシテ終ニ之ニ面會シ其家ヲ出シトキハ八時三十五分ナリシガ主家ニ復命スル體ヲ見ルニ帽ヲ失ヒ髮ヲ亂シテ路上ニ狂奔スルヿ恰モ疾風ノ如ク行人ニ觸レテ之ヲ倒セ𪜈顧ルニ遑ナク僅ニ三分時間ヲ出デズシテサヴヒルローノ家ニ回リ主人ノ室中ヘ轉ビ入リシガ氣息頗ル急劇ニシテ口言フ能ハズ之ヲ見テフヲッグハ怪ミ「何事ナルカト問ヘバ僕ハ吃リツヽ

パス「主君婚禮ハ叶ヒ難シ　フラッグ「叶ヒ難シトハ　パス「明日ハ執行成ラヌト申スナリ

フヲッグ「何故ニ歟　パス「明日ハ日曜ニ當リ候フ　フヲッグ「月曜日ナルニ　パス「否ナ今夜コソ土曜ニテ候フ　フヲッグ「土曜日ナリトナ夫ハ汝ガ誤ナリ　パス「否ナ否ナ主君ハ一日ノ日子ヲ覺エ違ヘテ居玉フナリ我々ハ約定期ヨリモ二十四時間先着致セシナリ然レ𪜈間モナク時限ハ切レ候フ急ギ玉ヘト云ヒナガラ主人ノ襟ヲ采リ力ニ任セテ牽キ立ツルニゾ紳士ハ前後ヲ考フルニ暇ナク牽カルヽマヽニ家ヲ出デ一輛ノ馬車ヘ飛ビ乘リ馭者ヘ百磅ノ褒美ヲ約シテ馳セケレバ途中犬ヲ軋リ殺スヿ二頭他ノ馬車ニ觸ルヽヿ五輛ニシテ一驅電光ノ如ク頓テ改進舍ヘ着シ其會堂ヘ入リシハ正ニ時辰表八時四十五分ヲ指ス時ナリ

是ニ於テフヲッグハ能ク八十日間ヲ以テ坤輿ヲ一周シ約束ノ如ク二萬磅ノ賭ニ贏チ得タリ然ルニ嚴肅ナルフヲッグノ如キ紳士モ一日ヲ誤算シ自家能ク七十九日間ヲ以テ一周ノ業ラ完シ十二月二十日ニ龍動ヘ回着セシヲ錯テ二十一日土曜日ト臆斷セシハ眞ニ怪シムニ堪ヘタリ然レ𪜈之ヲ解クハ極メテ易シ如何トナレバフヲッ

グハ東ニ向ヒ坤輿ヲ一周セシユヱ思ハズ一日ヲ贏シタルナリ若シ之ニ反シ西ニ向ヒテ一周シタランニハ一日ヲ失フ筈ナリ是レ他ナシフヲツグハ東向シテ進ミケレバ太陽ニ先ダツヿ一經度毎ニ四分ヅツ短縮スルユヱ地球ノ周圍三百六十度ニ四分ヲ乘ズルトキハ恰モ二十四時間トナル是レ即チフヲツグガ期セズシテ一日ヲ贏シ得タル理由ナリ又フヲツグハ東向シテ進ムニヨリ太陽ノ中天ニ午スルヲ見ルヿ八十回ナリシニ龍動ニ留リシ諸子ハ其間太陽ヲ中天ニ望ムヿ僅ニ七十九回ナリ是故ニフヲツグガ日曜日ト誤認セシ日ハ即チ土曜日ニシテ敵主ノ諸子ハ改進舍ヘ會同シテ其回着スルヲ待チ受ケシナリ

若シパスパルツーガ一祕藏ノ時器ノ日子ヲ示スヿ正シカラバ必ズ龍動ノ時刻ヲ守リテ動カザルユヱ斯ル誤認ハ生ゼザリシナラン

フヲツグ氏ハ最初ニ企圖セシ如ク爲シ果テヽ二萬磅ノ賭ニ勝チタリト雖𪜈同氏ガ一周ノ旅中耗スル所ノ金額ハ凡ソ壹萬九千磅ノ巨額ニ騰リケレバ其收利ハ僅ニ一千磅ニ過ギズ是レ前回ニモ既ニ說ケルガ如ク同氏ノ目的ハ元來射利ノ點ニ非ズシテ自家ノ議論ノ確實ナルヲ證セントスルニアレバナリ斯クテ一千磅ノ贏利スラ自ラ之ヲ收ルヲ潔トセズ之ヲ其僕トフヒキスニ頒チ與ヘタリ是レ同氏ノ大度ナル警吏ヲ仇視セズ却テ其不幸ヲ憫メバナリ然レ𪜈嚴格ノ主義ヲ失ハザランガ爲メ僕ノ不注意ニ因テ千九百二十時間無益ニ消費セシ瓦斯燈ノ價ハ嚴ニ之ヲ償ハシメタリトゾ

同日ノ夕紳士ハ沈着常ニ異ナルヿナクアウダ女ニ向テ「今ニ至ルモ婚姻ノ歡情ハ先ト替リ玉ハズヤ　アウダ「夫ハ妾ヨリ君ニ問ヒ參ラスベキヿニ候フ先頃ハ零落シ玉ハントスル君ナリシガ今ハ富貴ノ君ナルニ　フヲツグ「然ル事ヲ說キ玉フ勿レ我等ノ資産ハ全ク貴女ノ賚ナリ若シ君ノ結婚ノ事ヲ說キ玉フヿナクンバパスパルツーガウヰルソン長老ノ許ヘ行テ我等ガ日子ノ誤認ヲ發見スル貴重ノ機會ニ遭フヿナカリシナランニ

斯クテ兩人ノ婚禮ハ是ヨリ四十八時ヲ經テ目出度執行スルニパスパルツーハ曾テ死ヲ冒テ少婦ヲ救ヒシ功績アリシヿナレバ推サレテ少婦ノ證人トナリ光榮身ニ溢レ欣喜譬フルニ物ナク實ニ手ノ舞ヒ足ノ踏ム所ヲ知ラザルガ如クナリキ

其翌曉ニ至リ劇ク紳士ガ寢室ノ戶ヲ叩ク者アリ出デテ一看スレバパスパルツー戶外ニ佇ミタリ「パスパルツーヨ何事カアル　パス「他事ニハ候ハズ下郎只今發明致セシ一事アリ　フヲツグ「何事ナルカ　パス「唯七十七日ヲ以テ世界ヲ一周スルト申ス一事ナリ　フヲツグ「印土ヲ經過セザル時ハ眞ニ汝ノ言ノ如シ然レ𪜈若シ印土ヲ經過スルヿナカリセバ予ハアウダ女ヲ救フノ機會ニ遭ハズ然レバ又少婦ヲ娶リテ偕老ノ契ヲ結ブヿアルベカラズト云ヒツヽ靜ニ戶ヲ閉ヂケリ

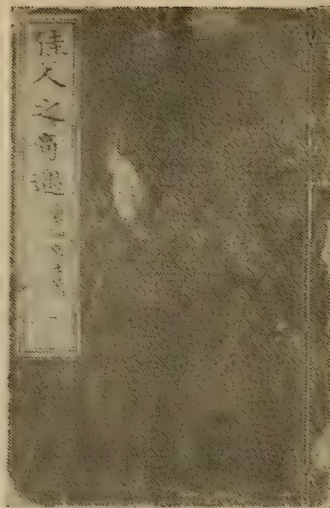
フヲツグハ豫テ持論ノ如ク八十日間ヲ以テ地球ヲ周リ終ニ勝利ヲ占ムルニ至リシハ是レ全ク郵船、鐵道、馬車、娛樂舟、商舶、風走橇、及ビ象等スベテ旅行ノ便具ヲ使用セシニ因ルト雖𪜈同氏ガ事ニ臨ミテ沈着嚴整ナル天稟ヲ以テ此奇ナル成績ヲ成シタルニ在リト云フベシ然レ𪜈數萬里ノ山海ヲ跋渉シ其得ル所ハ果シテ何等ノ物カアルト問ハヾ人或ハ云ハン一更ニ無シト然レ𪜈姿德兼ネ備リタル淑女ニ奇遇シ終生ノ幸福ヲ得タルハ之レヲ一大贏利ト謂ハザルベケンヤ然ラバ人唯此一事ヲ以テスラモ世界ヲ一周スルノ大志ヲ起サヾルベカラズ

佳人之奇遇

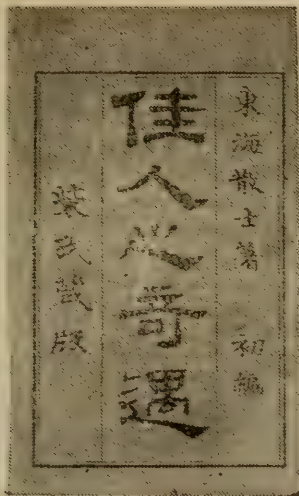
東海散士

佳人之奇遇

初編



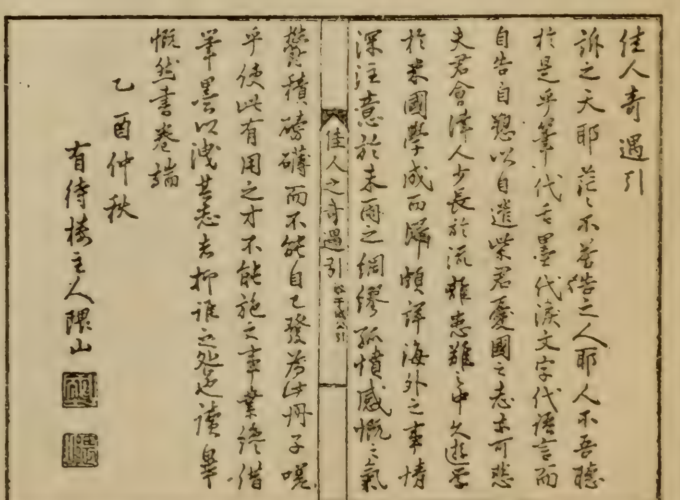
（原本初編巻一の表紙）



（原本初編巻一の見返し）

自敍

散士幼ニシテ戊辰ノ變亂ニ遭逢シ全家陸沈迍邅流離其後或ハ東西ニ飄流シ或ハ筆ヲ投シテ軍ニ從ヒ遑々草々席暖ナルニ暇アラス既ニシテ笈ヲ負テ海外ニ遊ヒ專ラ實用ノ業ニ志シ經濟、商法、殖産ノ諸課ヲ修ムルニ汲々タリシヨリ殖産利用ノ心日ニ長シテ花月風流ノ情日ニ消シ文ヲ練リ詩ヲ咏スルノ餘閑ニ乏シ然レトモ多年客土ニ在リ國ヲ憂ヘ世ヲ慨シ千萬里ノ山海ヲ跋涉シ物ニ觸レ事ニ感シ發シテ筆トナルモノ積テ十餘册ニ及ヘリ是レ皆偸閑ノ漫錄ニシテ和文アリ漢文アリ時ニ或ハ英文アリテ未タ一體ノ文格ヲ爲サス今年歸朝病ヲ熱海ノ浴舍ニ養ヒ始テ六旬ノ閑ヲ得タリ乃チ本邦今世ノ文ニ倣ヒ之ヲ集錄刪正シ名ケテ佳人之奇遇ト云フ唯散士ハ詩文ノ專門家ニ非ラス故ニ其瑕玼ニ至テハ固ヨリ免ル能ハサルモノナリ鄙諺ニ曰ク局ニ當ル者ハ迷ヒ傍觀ノ者ハ淸シト散士此著述ニ於テ其諺ノ我ヲ欺カサルヲ悟レリ蓋シ此篇ノ成ルヤ漢儒或ハ之ヲ評シテ曰ク文字往往戲作小說ノ體ニ傾キ且ツ西洋男賤女貴ノ弊風ヲ導キ婦女ヲシテ驕傲ニ陷ラシメ女德ヲ壞ルノ恐レアリト稗史家ハ則チ之ヲ難シテ曰ク卷中癡話情愛ノ章少ク遊里歌舞妓ノ談ナク徹頭徹尾凡テ是レ慷慨悲壯ノ談ノミ故ニ一見倦厭ノ念ヲ生シ易シト鐵子カ曰ク惜乎文中往往對句を缺キ雅言ヲ選フヲ務メス若シ更ニ聯句對詞ヲ選ヒ文章ヲ鍛錬セハ完璧トナラント然ルニ隱生ハ卽チ


佳人奇遇引

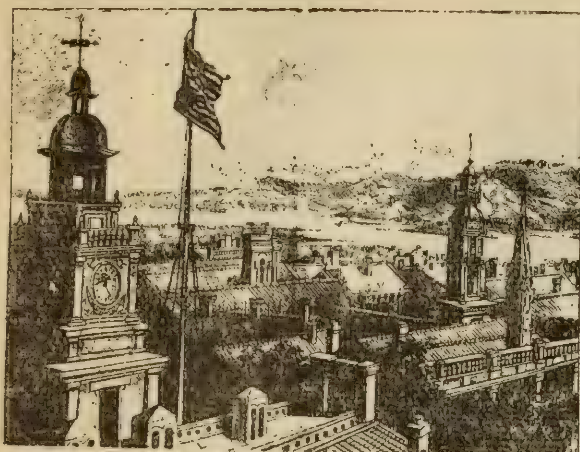
誰之天耶茫々不蒼借之人耶人不吾聴
於是乎筆代舌墨代涙文字代語言而
自告自慰以自遣柴君憂國之志未可悲
夫君會津人少長於流離患難之中久遊學
於米國學成而歸頗詳海外之事情
深注意於東西之綱[illegible]孤憤感慨之氣
鬱々積磅礴而不能自已發為此冊子嗟
乎使此有用之才不能施之事業徒借
筆墨以洩其志者[illegible]讀畢
慨然書巻端

乙酉仲秋

有侍楼主人隈山

（原本初編巻一谷干城題字）

曰ク徒ニ漢魏六朝ノ古文ニ拘泥シ對句雅言ニ意ヲ用ユ故ニ文字藻麗ナリト雖モ西洋大家ノ貴フ所ノ氣拔ニ乏シト謂フ可シ且ツ模擬スル所東西稗史ノ尤モ短處タルニ過キスト華生ハ之ニ反シテ曰ク稗史家中別ニ一機軸ヲ出シ東洋ノ思構ニ倣ハス西洋ノ體裁ヲ假ラス鬼神ヲ語ラス妖怪ヲ談セス時事ニ感シ實事ヲ記ス故ニ文章流暢精神雄邁字字皆金玉ナリト更ニ一士アリ未タ數行ヲ讀ミ了ラス卷ヲ掩テ笑テ曰ク是レ亦洋行書生自由ノ論ノミ見ルニ足ラサルナリト是ニ於テ散士喟然トシテ歎シテ曰ク難



獨立閣ヨリ遠眺ノ圖

（原本挿畫）

哉鉛槧操觚ノ士作者勞シテ讀者逸シ難スル者易シテ辯スル者難シ況ヤ讀者各自己ノ心ヲ以テ意ヲ迎ヘ同義ヲ異解スル者アルニ於テヲヤ是ニ由テ之ヲ觀レハ朝吏ハ誤テ官吏ヲ譏ルモノトナサン勤王家ハ自由ヲ說クヲ以テ王室ニ不忠トナサン民政黨ハ共和政ヲ非難スルヲ以テ王室ニ媚ルトセン教法家ハ天道ノ是非ヲ疑フヲ以テ說ハス理學者ハ天道ヲ說クヲ見テ頑陋ト嘲ラン道德家ハ鄭聲淫穢ノ書トセン和漢小說家ハ以テ不粹ト評セン激烈ノ少壯輩ハ怯弱ノ論ト詈ラン老練家ハ書生ノ空論ト笑ハン蓋シ皇天ノ仁慈ナル猶ホ且ツ萬人ノ所望ヲ滿タスコ能ハス何ソ獨リ散士ノ佳人之奇遇ニ疑ハンヤ故ニ讀者ノ評論ハ關スル所ニアラサルナリ平意虛心文字ニ拘泥セス全篇ヲ通覽シテ微意ノ存スル所ヲ誤ル勿クンハ幸甚唯憾ムラクハ鼇頭ノ論評（本集ニハ之ヲ略ス）ハ多ク內外諸名士ノ筆ニ係ルト雖モ憚ル所アリテ茲ニ其姓名ヲ揭クル能ハサルノミ然レトモ他日必ズ讀者ヲシテ之ヲ明知セシムルノ時アラン希クハ諒セヨ

明治乙酉三月於熱海浴舍東海散士誌

佳人之奇遇　卷一

東海散士一日費府ノ獨立閣ニ登リ仰テ自由ノ破鐘（歐米ノ民大事アル毎ニ鐘ヲ撞テ之ヲ報ス始メ米國ノ獨立スルニ當テ吉凶必ス閣上ノ鐘ヲ撞ク鐘遂ニ裂ク後人呼テ自由ノ破鐘ト云フ）ヲ觀俯テ獨立ノ遺文ヲ讀ミ當時米人ノ義旗ヲ擧テ英王ノ虐政ヲ除キ卒ニ能ク獨立自主ノ民タルノ高風ヲ追懷シ俯仰感慨ニ堪ヘス憮然トシテ窓ニ倚テ眺臨ス會〻二姬アリ階ヲ繞テ登リ來ル翠羅面ヲ覆ヒ暗影疎香白羽ノ春冠ヲ戴キ輕縠ノ短羅ヲ衣文華ノ長裾ヲ曳キ風雅高表實ニ人ヲ驚カス一小亭ヲ指シ相語テ曰ク彼ノ處ハ即チ是レ一千七百七十四年十三州ノ名士始メテ相會シ國家前途ノ國是ヲ計畫セシ處ナリト當時英王ノ昌披ナル漫ニ國憲ヲ蔑如シ擅ニ賦斂ヲ重クシ米人ノ自由ハ全ク地ニ委シ哀願途絕エ愁訴術盡キ人心激昂干戈ノ禍殆ト將ニ潰裂セントス十三州ノ名士大ニ之ヲ憂ヒ此小亭ニ相會シ其窮厄ヲ救濟シ內亂ノ禍機ヲ撲滅セントス時ニ巴土烈義顯理乃チ激烈悲壯ノ言ヲ發シテ曰ク英王戮スヘシ民政興スヘシト此亭今猶存シテ當時ノ舊觀ヲ改メス獨立閣ト共ニ費府名區ノ一タリ

又遙ニ山河ヲ指シテ曰ク那ノ丘ヲ竈谿ト呼ヒ那ノ河ヲ蹄水ト稱ス噫晩霞丘

晩霞丘ハ慕士頓府東北一里外ニ在リ左ハ海灣ヲ控キ右ハ群丘ニ接シ形勢巍然實ニ咽喉ノ要地ナリ一千七百七十五年米國忠義ノ士夜竊ニ此要害ニ占據シ以テ英軍ノ進路ヲ遮ル明朝敵兵水陸合撃甚タ鋭シ米人善ク拒キ再ヒ英軍ヲ破ル敵三タヒ兵ヲ增ス而シテ丘上ノ軍外援兵ナク內硝藥竭キ大將窩連戰沒シ力支フル能ハス卒ニ敵ノ陷ル所トナル後人碑ヲ此處ニ建テ以テ忠死者ノ節ヲ表ス散士明治十四年暮春晩霞丘ニ遊ヒ古ヲ弔ヒ今ニ感シ世ヲ憂ヒ時ヲ悲ミ放翁カ憤世ノ慨アリ詩ヲ賦シテ懷ヲ述フ曰ク

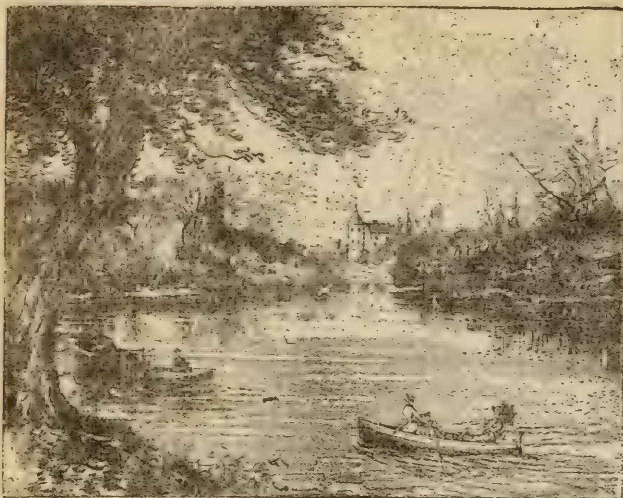
孤客登臨晩霞丘。芳碑久傳幾春秋。委擧義旗除虐政。誓戮鯨鯢報國仇。解兵放馬華山陽。凱歌更盟十三州。政重公議風俗淳。策務保護國用優。東海不競自由風。壯士徒抱千載憂。豺狼在野何問狐。外侮未禦況私讎。歎息邪説攪財政。年舶齎貨輸五洲。感時慨世他鄉晩。飛絮落花增客愁。

三萬里外ノ異鄉ニ遊歷シ文ヲ論スル故鄉ノ人ハ只鐵硯子ノ佩蘭士ノ古戰場ニ遊學スルアルノミ散士晩霞丘ノ詩ヲ似ス鐵硯子卽夜長句ヲ賦シテ贈ル其詩ニ曰ク

長嘯復長嘯。玻窓對月所思悠。晩霞丘畔君正佳。佩蘭士上我倚樓。二丘對峙呼欲答。中有一葦海水匝。暮潮日落蒼煙飛。丘樹夏中綠加合。此水此丘雖相望。會面期少空斷腸。想起去年桑灣曲。餞亭夜雨話平生。當時聽君縱豪語。識君胸間萬丈虹氣横。三日又相別。任意各分析。東去我踏六磯山頭雪。西留君哦太平洋間月。月乎雪乎本無情。對之可寓相憶意。一別東西三千里。夢魂夜夜繞兩地。君復逢頭野服歌鴻鵠來。相逢大都十字街。街頭車馬何喧譁。徒令東客增慨歎。建國如彼僅百歲。文物典章日濟濟。生民得業各欣欣。六日勤勉一日憩。食有美肉出有車。其室是石其衣毳。家家店頭電線織。處處層樓爐煙靉。輪船走海魚龍驚。火車穿山地軸壞。田間老嫗解自由。閭巷倉父說國勢。誰能令如此。其基在法制。反想我國事。憂患堆兮歔欷。彊魯窺北門。猾英攪藩籬。諸老事苟且。大勢日委微。財度失其節。生靈號凍飢。當此累卵危。邪説亂是非。經國要變通。俗士豈易知。一朝誤其道。毫釐千里差。可憫馬服子。死法御活機。海內三千餘萬衆。曾無一人策一奇。欽君獨講經濟術。欲振長策拯沒溺。求道萬里接賢達。濟心夙夕耽群籍。腹裏文章觸事發。往往落筆奮金石。嗚乎壯士古來多杞憂。感時慨世不暫休。我有斗酒君且來。欲將百事付一甌。

ノ一擧獨立ノ檄文ヲ此閣ニ草シ自由ノ大義ヲ天下ニ明表セシニ當テヤ邊郡ノ民耒ヲ捨テヽ雲集シ兵ヲ荷テ蜂起シ織女ハ布ヲ絕テ旗トシ食父ハ粮ヲ齎シテ饗應シ慈母ハ子ヲ諭シ淚ヲ揮テ戰場ニ赴カシメ貞婦ハ夫ヲ勵マシテ隊伍ニ列セシメ唯タ後レンコヲ是レ恐レ白刃ニ觸レ銃丸ヲ冒シ傷テ撓マス死シテ悔イス誓テ自由ノ爲メニ斃レ百萬虎狼ノ英軍ニ抗シ兵結テ解ケサル七年慕士頓府敵ニ委シ新府繼テ陷リ費都亦其蹂躪スル所トナル是ニ於テ大將華聖頓疲兵ヲ率ヰ退テ竈谿ニ陣ス時ニ天寒ク積雪千里堅氷途ニ塞リ援兵到ラス糧運繼カス軍氣沮喪シテ士卒菜色アリ諸將議シテ曰ク若シ今ニシテ一戰以テ軍

氣ヲ勵マサスンハ四方忠義ノ師瓦解センノミト卽夜竈谿ヲ發シ旗ヲ卷キ枚ヲ銜ミ蹄水ヲ渡リ英ノ驕兵ヲ襲ヒ大ニ之ヲ破リ自由ノ師復タ振フ此役ヤ將士貧クシテ履ノ足ヲ覆フナク衣ノ寒ヲ防クナク徒跣氷雪ヲ踏ミ脛足破レテ流血淋漓數里ハ積雪之カ爲メニ赤ク軍中凍死セシモノ亦多シト云フ噫人情誰カ死ヲ樂ミ生ヲ惡マンヤ氣高ク志遠ク國家ノ難ヲ急ニシテ私身ヲ忘レ偏ニ報國ノ道ヲ盡サンコヲ願ヘハナリ宜ナル哉米人ノ能ク頽勢ヲ挽回シ凱歌振旅シテ馬ヲ華山ノ陽ニ歸シ牛ヲ桃林ノ野ニ放チ而シテ外ハ歐人ガ隣國犯



圖ノ逅邂ニ水蹄ト人佳士散　（畫插本原）

掠ノ政略ニ對スルニ强ヲ挫キ弱ヲ護ルノ公議ニ據リ内ハ痒序ヲ建テ、鋒鏑ニ換ヘ工商ヲ勵マシ農桑ヲ課シ此富强文明ノ邦國ヲ作シ人ハ自由ヲ樂ミ民ハ太平ヲ謳フニ至ル所謂凱歌ノ聲風雲ノ色ヲ動カシ兵氣銷シテ日月ノ光ト爲ルモノナリ吾黨何レノ日カ此ノ如キ盛運ニ遭逢スルヲ得ンヤト長大息之ヲ久ウス

散士之ヲ聽テ以爲ラク今這ノ嬿婉タル佳人自由ノ邦國ニ棲息シ文明ノ德澤ニ沐浴シ而シテ慨歎悲哀此ノ如ク切ナル恰も晉廷ノ末路王導カ諸人ト新亭ニ會合シ目ヲ擧ケテ山河ノ異ナルヲ憤リ空ク南冠ヲ戴テ楚囚ノ涙ヲ灑クノ情アルカ如キハ何ソヤ怪訝自ラ禁スル能ハス時ニ倦鳥林ニ歸リ遊客悉ク散ス散士亦費府ノ郭門ヲ出テ歩シテ西費ニ還ル輕靄糢糊トシテ晩風衣裳ヲ吹キ遙ニ竈谿ノ依稀タルヲ望ミ蹄水ノ浩蕩タルヲ觀テ轉タ懷古ノ情ニ堪ヘス乃チ古風一篇ヲ賦シ行々且ツ吟ス曰ク

晩降二獨立閣一。行吟蹄水潯。蹄水流滔滔。竈谿煙霏霏。疎鐘響二夕陽一。倦鳥還二遠林一。微風吹二輕裳一。新月照二素襟一。對二此風景好一。何爲獨傷レ心。當年汗馬地。桑滄不レ可レ尋。英雄皆枯骨。鐵戟半銷沈。義士建レ國礎。百年欽二餘音一。成敗有二定數一。白眼睨二古今一。

穆堂仙史ハ古山ノ友人新府ニ在ル者ナリ散士ノ韵ヲ次シテ曰ク

弔レ古不レ堪レ感。徘徊水之潯。落花春寂寂。淸流雨霏霏。有レ閣名二獨立一。巍巍拔二晩林一。有レ溪呼二蹄水一。潺潺洗二幽襟一。美哉山河色。空傷二壯士心一。遺跡長可レ仰。古人不レ可レ尋。諸將富二謀略一。元帥稱二深沈一。功業垂二青史一。四海傳二芳音一。爾來百餘載。自由隆二於今一。

春風駘蕩朝霞烟ノ如シ散士獨リ輕舟ニ棹シ高歌放吟蹄水ノ支流ヲ遡テ漸ク竈谿ノ岸ニ近ツク一淸流アリ竈谿ノ幽谷ヨリ出ツ兩岸ノ碧蘚數種ノ櫻桃ト相掩映シ水色澄潭鮮魚ノ游泳スルヲ數フ可シ散士棹ヲ枉渚ニ弭メ笑テ曰ク是レ眞ニ今世ノ桃源ナリ恨ムラクハ秦ヲ避クルノ人前朝ノ逸事ヲ話スル者ナキヲ乃チ吟シテ曰ク扁舟來訪武陵春ト未タ聯ヲ成サス時ニ微風遙ニ琴聲ヲ送ル怪テ耳ヲ欹テ之ヲ聞ク其聲漸ク近シ一小艇アリ上流ヨリ下リ來ル一妃棹ヲ操リ一妃風琴ヲ彈ス綽約タル風姿之ヲ望メハ宛モ神仙ノ如シ相去ル數武ニ妃散士ヲ凝視シ耳語シテ驚駭ノ色アルニ似タリ散士其ノ何ノ故ナルヲ知ラス目送スルコ久シ妃亦顧ミルコ二回

舟岸ヲ廻リテ終ニ其之ク所ヲ知ラス徒ニ河上ノ渺茫微波ノ揚汨タルヲ觀ルノミ散士常ニ米人ノ風流雅致ニ乏ク共ニ花月ノ韵事ヲ談スルノ友ナキヲ歎ス今殘肴花間ニ琴ヲ撫シテ吟咏スルノ仙妃ニ邂逅シ頻ニ其高趣風韵ヲ慕ヒ微波ニ託シテ情ヲ寄セ以テ一片氷心ノ彼岸ニ達センコヲ願フノミ因テ思フ昔者王昭君胡地萬里ノ沙漠ニ飄零シテ漢帝懷ヲ傷マシメ楊大眞馬嵬ノ露ト消エテ明皇長生殿裡ノ舊情ヲ夢ミシモ亦以アルナリト獨リ惆悵シテ流ニ遡リ舟ヲ搖ス百花翩翩風ニ隨テ飛ヒ黃鸝嚶嚶樹ヲ繞テ囀ル水ニ枕シテ一家アリ廣壯ナラスト雖モ古雅清致塵俗ヲ脫シ庭前ノ松柳其自由ニ任セ門ニ長者ノ車轍ヲ見スト雖モ人ヲシテ偉人ノ居タルヲ察セシム散士舟ヲ門前ノ岸柳ニ維キ丘ヲ越エ水ヲ涉リ漸ク籬落ニ到レハ極目春草織ルカ如ク菜花微風ニ搖動シ牧羊ノ綠陰ニ倦睡スルヲ見ルノミ頭ヲ回シテ遙ニ瞻望スレハ汽車黑煙ヲ殘シテ平野ヲ馳セ帆檣雲ノ如ク蹄水ヲ往來ス散士古ヲ懷ヒ今ニ感シ昔者波斯王勢氣佐師カ百萬ノ大軍ヲ提ケ歐洲ヲ幷呑セント欲シ歐亞ノ境ニ至リ馬ヲ高丘ニ立テ慨然トシテ嘆シテ曰ク嗚乎今百萬ノ貔貅我ト共ニ海ヲ渡ルモノ百年ノ後皆枯骨トナリ一人ノ此世ニ生存スルモノナカラン嗚乎世ニ萬年ノ天子ナク國ニ不朽ノ雄邦ナシト涙下テ冷冷禁セサリシヲ思ヒ又英國文章ノ詞宗歷史ノ大家麻浩冷曾テ故鄉ヲ海天髣髴ノ間ニ望ミ萬感交々集リテ千載ノ後威名赫赫文物燦然タル大英國ハ衰微シ壯麗ノ聖　寺ハ廢頹シ彩虹ノ西　橋ハ舊觀ヲ存セサルニ至ラン其時ニ至テ墨客文人ノ英國ノ盛時ヲ追想シ西橋ノ朽梁ニ坐シテ聖寺ノ廢觀ヲ寫ス者アラント慘然トシテ樂マサリシヲ憶ヒ人ノ來テ此自由ノ古戰場ヲ弔スル無キヲ恨ム漸ク歸路ニ即キ通谷ヲ經テ景山ヲ涉リ往クコ數十步遙ニ二妃ノ江濱ニ翠ヲ拾フヲ見ル唯タ良媒ノ歡ヲ接スルナキヲ嘆シ空ク眷戀ノ情ヲ抱キ怏怏トシテ彷徨躊躇ス既ニシテ一妃輕裾ヲ提ケ徐步シテ散士カ傍ニ近ツク年二十三四綠眸皓齒黃金ノ髮ヲ垂レ（西人綠眸ニシテ玉髮ノ金光アルヲ稱シテ美人トナス）細腰氷肌遊散ノ文履ヲ踏ミ纖手ヲ揚ケテ楊柳一枝ヲ折ル其態度風采梨花ノ露ヲ含ミ紅蓮ノ綠池ニ浴スルカ如シ顧ミテ散士ヲ揖シテ曰ク郎君ハ先キニ河上相見エシ君子ニ非スヤ此幽谷ハ牧童漁父猶ホ來ル稀ナリ況ヤ紳縉貴公子ニ於テヲヤ想フニ郎君頭髮黑ク眼光銳シ西班牙ノ士人ニ非サル無キヲ得ンヤト散士答ヘテ曰ク否僕ハ東海ノ遊士笈ヲ負テ茲土ニ遊學スル者ナリ今百花盛ニ開キ春草野ニ滿チ群鶯亂飛ス偶々感スル所アリ間ヲ偸テ舟ニ掉シ自由ノ戰場ヲ弔ヒ興ニ乘シテ流連シ俯仰吟咏歸ルヲ忘ル幸ニ疑慮ヲ釋ケト姬驚テ曰ク郎君ハ扶桑日出ノ帝都ヨリ來ルカ山海三萬里又故鄉ヲ懷フノ狀ナカランヤ散士曰ク嬋姸タル仙姿箏ヲ撫シテ低吟シ雲夢洛川ノ神女モ顏色ナク妃蓮（希臘ノ美人）蘇皇（蘇蘭ノ女王當時才美ヲ以テ一世ニ冠タリ）モ舍ヲ避クルノ人ニシテ冠ヲ南嶽ニ振ヒ足ヲ滄浪ニ濯ヒ塵土ヲ遁レテ隱逸ス誰カ其高袁卓操ヲ欽シ其風度瀟洒ヲ慕ハサランヤ今僕卒然相逢フヲ得諺ニ曰ク一樹ノ陰一河ノ流偶然袖ヲ交フル亦多少ノ因緣ナリト詩ニ曰ク有美一人。清揚宛兮。邂逅相遇。適我願兮ト僕カ幸何ヲ以テカ能ク此ノ如キヤ妃柳枝ヲ以テ其半面ヲ掩ヒ微笑シテ曰ク郎君言フ所ノ者ハ彼ノ柳陰ニ立ツノ人ナリ妾豈敢テ當ランヤ伏シテ問フ前日費ノ獨立閣上窓ニ倚ルノ士ハ郎君ニ非サルナキ歟答テ曰ク然リ妃カ曰ク妾名ハ紅蓮故有リテ阿孃ト世ヲ此地ニ避クル者ナリ先キニ郎君ヲ河上ニ見ルヤ阿孃妾ニ謂テ曰ク奇哉前日費ノ獨立閣ニ相見今亦籬落ニ相遇フ遊跡風流其歸ヲ同ウス共ニ風流ノ韵事ヲ語ルコヲ得ハ胸懷無限ノ憂鬱ヲ散スルコヲ得ント須臾ニシテ又駭テ曰ク彼ノ士眸髮共ニ黑シ或ハ恐ル西班牙ノ人ナランカト妾ヲシ

テ郎君ノ蹤跡ヲ探ランム妾其媒介ノ道ナキニ苦ミ折柳ニ託シテ敢テ郎君ヲ干シ試ム幸ニ唐突不敬ノ罪ヲ尤ルヿ勿レ妾將ニ跡水ニ鵲橋ヲ作リ星客ヲシテ之ヲ渡ラシメント微笑疾行シテ直ニ柳陰ニ至リ一妃ト耳語シテ乃チ共ニ臨水ノ一家ニ入ル暫クニシテ又來リ告ケテ曰ク阿孃郎君ヲ待ツ幸ニ光臨セヨト散士頭ヲ擧ケテ遠ク之ヲ望メハ一妃已ニ出テ、門頭ニ待ツ髣髴トシテ輕雲ノ新月ヲ蔽フカ如ク近テ之ヲ見レハ皓タル白鶴ノ仙堦ニ立ツカ如シ年齒二十許盛粧濃飾セスト雖モ冷艶余ク雪ヲ欺キ眉ハ遠山ノ翠ヲ畫キテ鳳鬟雲ヨリ綠ニ秋波情ヲ凝セトモ炯炯人ヲ射テ晴ニ威儀ヲ備ヘ紅頰咲ヲ含ミテ皓齒微ニ露ハレ纖纖タル細腰ニ輕綺ノ長裾ヲ曳キ姸姸タル蓮步ニ綵繡ノ輕履ヲ踐ミ餘香人ヲ襲ヒ徐步階ヲ下テ來リ迎フ實ニ天上ノ美人降テ人間ニ在ルカト疑フ散士心動キ胸悸レ僅ニ一揖スルノミ妃カ曰ク今郎君此ニ光臨ス妾ノ幸福何ニカ之ニ加ヘント自ラ起テ長椅ヲ薦ム東ハ跡水ハ支流ニ臨ミ籬落ノ一丘ニ據リ東ハ費府ニ對シ西ハ芳林ニ接シ深邃幽閑庭前ノ櫻花十分ニ開キ楊柳枝ヲ垂レテ翠蔭婆娑タリ窓外ニ一雕花籠ヲ掛ケ籠中ニ白鸚鵡ヲ畜フ又壁頭ニ扁額ヲ掲ケ題シテ曰ク

幽谷蕙蘭空懷レ香年年全レ節待二鳳皇一

架上ニ一玉簫ヲ横ヘ壁間ニ一風箏ヲ掛ク大琴小琴相對シ皆淸楚ヲ極ム須臾ニシテ座定リ談話溫粹謙態遜狀其人ニ接スルヤ豁然襟懷ヲ開キ胸中ニ藩籬ヲ置カス散士問フニ隱逸ノ故ヲ以テス妃憮然トシテ曰ク妾豈ニ自ラ好テ隱逸ヲ爲ス者ナランヤ時我ト與ナラス事願ト違フ故ニ幽谷ニ節ヲ守テ茲ノ沈淪ニ逢フノミト散士竊ニ以爲ラク美人伉儷願ト違ヒ世ヲ恨テ隱棲スルニ非スンハ情人ヲ亡ヒ皇天ノ無情ヲ悲ミ貞操ヲ此幽境ニ守ル人ニ非サル無ランヤト乃チ曰ク昨費府獨立閣ニ相見シ人ハ令孃ニ非サルナキカ妃カ曰ク然リ散士カ曰ク先キニ二妃ノ感慨悲憤禁セサリシヲ見テ心竊ニ之ヲ怪メリ何爲レソ其レ然ルヤ妃答ヘテ曰ク世ヲ避クルノ士難ヲ逃ルヽノ人若シ往事ヲ述フレハ徒ニ傷感ヲ增スノミト散士固ク其故ヲ問フ妃沈默シテ答ヘス深ク顧慮ノ念アルカ如シ紅蓮進テ妃ニ謂テ曰ク妾固ト日本男兒ノ心肝ヲ知ル阿孃ノ來歷ヲ談スルモ妾其他ナキヲ保セント是ニ於テ妃慨然トシテ曰ク妾名ハ幽蘭西班牙ノ京城麻戶立都ノ者ナリ家ハ世世西國ノ名族タリ昔時西班牙人カ剛敢撓マス萬里ノ鯨波ヲ踰エ千百ノ艱難ヲ嘗メ米國ノ大陸ヲ發見シテ我カ版圖ニ歸セシヨリ國旗四海ニ翻リ威名歐洲ニ轟キ富強天下ニ冠タリ然レトモ滿ハ損ヲ招キ盈ハ虧ヲ生シ上下驕傲風俗壞頹シ先王固ク舊教ヲ信シ新教ヲ目シテ天ニ逆ヒ人ヲ惑ハスノ邪教トナシ百萬ノ兵ヲ發シテ法王ヲ助ケ新教ノ徒ヲ剿滅セントシ四出剽掠殘暴至ラサル所ナク孩兒婦女ヲ合セテ之ヲ刑戮シ僧侶ニ委スルニ法權ヲ以テス是ニ於テカ僧侶權ヲ弄シ人ヲ救フノ教法ハ却テ民ヲ苦ムルノ器トナリ僧侶互ニ殺伐ヲ事トシ法ヲ敗リ紀ヲ亂シ國ヲ汚シ民ヲ虐シ炮烙湯鑊人ヲ殺スコト百萬其貪婪酷烈千古ノ載籍ニ未タ曾テ見サル所ナリ此疾百世癒エス鐵鎖ヲ以テ民ヲ御シ鞭笞ヲ以テ衆ヲ待チ民情ヲ訴フル者ハ目シテ君ヲ譏リ上ヲ誣フルトシ自由ヲ說クノ士ハ直ニ不忠不義ノ名ヲ負ハシメテ之ヲ刑戮ス是ヲ以テ寃民情ヲ訴フル所ナク志士力ヲ展フル所ナク國勢陵遲綱維弛廢シ內憂外患並ヒ臻リ海外ノ藩屛多ク叛キ國內ノ朋黨相軋リ四分五裂統括スル所ナク財度其宜シキヲ失ヒ南米年年貢スル所ノ億萬ノ金銀ハ徒ニ笑ヲ呈シ媚ヲ獻スル後宮ノ費ニ充テ或ハ貪婪飽クナキ僧侶貴族ノ奢侈ニ供シ金銀濫出國力疲弊シ森林荒廢地瘠セ民貧ク人各ミ其生ヲ救フノ急ナル卒ニ廉恥ヲ顧ミルニ暇ナク盜賊橫行國ニ寧歲ナシ女皇伊位米剌皇兒頓加

羅ヲ追テ位ヲ竊ミ寵臣僧侶權ヲ專ニシ賄賂公行賦斂常ナク外隣國ノ侮ヲ受ケ内人民ノ望ヲ失フト雖モ上下宴安歌舞遊獵馳驅ニ耽醉シ政綱月ニ壞ル妾カ父兄日夜國勢ノ陵遲ヲ歎シ人民ノ窮困ヲ哀ミ此頽勢ヲ挽回セント欲シ忠義ノ士ト密謀計畫暴君ヲ廢シ賢主ヲ立テ弊政ヲ革メ賦斂ヲ薄シ人民ヲシテ皆其堵ニ安ンシ鼓腹撃壤太平ヲ謳歌スルニ至ラシメント時機ヲ待ツコト久シ時ニ一千八百六十八年秋九月我カ女皇佛帝拿破倫三世ト將ニ會盟セントシ車騎ヲ從ヘテ行ク行クコ未タ幾里ナラス從騎喧騷皆呼テ曰ク我皇無道ニシテ君德ナク民生ヲ安スルコ能ハス宜シク速ニ位ヲ去リ寶祚ヲ賢主ニ禪ルヘシト市民之ヲ聞テ雀躍群至鳳輦ヲ攀チテ之ヲ促ス僅ニ三日ニシテ全國皆叛ク女皇近臣ト佛京ニ遁レ拿破倫ニ倚ル拿破倫髭ヲ掀ケテ曰ク奇貨居ク可シ時ナル哉時再ヒ來ラスト廢皇ノ王子ヲ擁シテ兵ヲ境上ニ屯シ檄ヲ我民ニ移シテ曰ク弊邑義ニ據リ不腆ノ兵ヲ提ケテ爾友邦ノ難ニ赴ク今爾カ正統ノ皇子茲ニ在リ爾何ソ早ク亂人ノ脅迫ヲ去リテ明主ニ歸セサル皇子至德誠ニ能ク亂虐ヲ戡定シ爾有衆ヲ保全スルノ眞主ナリ若シ夫レ圖ヲ改メテ降ルモノハ皆許シテ問フナカラント是時ニ當テヤ我皇兄頓加羅ヲ戴クモノ檄ヲ遠近ニ傳ヘテ曰ク

夫レ婦女ノ天位ニ登リ國政ニ關スルハ我祖宗大法ノ禁スル所ナリ先キニ僧侶貴族私利ヲ營ミ共立ツ可カラサルノ婦女ヲ立テ、社稷ノ主トシ聰明雄才ノ皇兄頓加羅ヲ逐テ國政ヲ專ニシ恣横至ラサルナシ今ヤ民離レ衆散シ女皇國ヲ逃レ宗廟主ナキヲ致セリ吾黨乃チ皇兄頓加羅ヲ立テ、王位ニ即カシメ以テ民心ニ從ヒ弊政ヲ除キ私怨ヲ去リ立憲公議ノ政ヲ建テントス祖宗ノ大法ヲ奉シ國家ノ安寧ヲ望ム者ハ宜ク速ニ來テ共ニ力ヲ致スヘシ躊躇逡巡風雲ノ會ニ後レテ悔ヲ他日ニ取ルコ勿レ

ト國民之ニ應スルモノ甚タ多シ時ニ學士書生別ニ自主自由ノ利ヲ說キテ共和ノ民政ヲ呼唱スル者アリ才ヲ抱テ鬱屈スル者貧困ニ苦テ亂ヲ思フ者皆相和シテ人心ヲ煽動ス其勢恰モ滿岸ノ漲水堤ヲ潰シテ一時ニ決スルカ如ク之ヲ壅塞セントスレハ反動愈〻激烈ナリ而シテ共和黨又分レテ二トナリ一ハ急進ヲ說キ一ハ漸進ヲ主張シ兩黨相容レス衆論喧呶邦内擾擾タリ國中ノ名士輿論ノ遂ニ定マル可カラス人心ノ遂ニ一ニ歸ス可カラサルヲ覺リ相共ニ議院ニ會シテ前途ノ國是ヲ議ス時相風雷夢豪邁果斷ヲ以テ著ル起テ衆ニ告テ曰ク我國今日ノ勢ヲ案スルニ人心相離レ黨派大ニ興リ二黨合シテ四派分レ一派滅シテ一黨起リ上下紛擾其底止スルトコロヲ知ラス是豈一時ニ激シテ然ルモノナランヤ蓋シ宿怨相積ミ私怨相結ヒ以テ今日ノ不幸ヲ見ルニ至ル故ニ今ノ計ヲ爲スモノ宜ク我黨派ニ因ナキノ英主ヲ立テ、人心ヲ糾合シ朋黨ヲ離散スルニ如カス今夫レ普國ハ歐洲ノ强邦ニシテ皇子理烏佛最モ賢ナリ品ハ貴冑ニ超エ行ヒ宗潢ニ冠タリ以テ宗社ヲ苞桑ニ安ンシ國家ヲ磐石ニ奠ムルニ足ル故ニ之ヲ迎テ相共ニ奉戴セント欲ス其計已ニ熟セリト滿場或ハ宰相ノ意ヲ迎ヘテ之ヲ贊クルモノアリ或ハ之ヲ排スルモノアリ民政黨ノ諸人ハ大ニ之ニ抗シテ曰ク宰相ハ普相比須麥克ノ計策ニ陷レリ宰相ハ普王ノ威ヲ恐レテ國ヲ賣ルモノナリト痛責擠排議論湧クカ如シ此時ニ當テ妾が老父徐ニ起テ諸士ニ謂テ曰ク女皇ヲ廢スルノ事ハ我實ニ之カ主タリ當時將士ト共ニ誓テ曰ク暴君ヲ廢シテ正統ノ英主ヲ立テ以テ民望ニ從ハン私利ヲ營ミ私心ヲ抱クモノハ我黨ニ非サルナリ又我國民ニ非サルナリ若シ夫レ此ノ如キモノアラハ力ヲ戮セテ之ヲ除ク可ク身ヲ殺シテ之ヲ擯ク可シト豈歐洲强國ノ皇子ヲ迎ヘ以テ我國政ヲ委スルヲ思ハンヤ若シ相

公ノ言ノ如ク今日ニ至リ普ノ皇子ヲ迎ヘテ之ヲ立テハ天下我ヲ目シテ普相ノ術中ニ陷リ國ニ人ナシト云ハン加フルニ普王ノ豪雄ナル普相ハ權謀ニ富ム豈默默トシテ止ム者ナランヤ今ヤ佛帝は言ヲ我朝威ニ託シ兵ヲ境上ニ屯シ以テ廢皇ノ皇子ヲ立テント欲ス然レドモ我人民ハ女皇ノ不德ヲ惡ミ其恨骨髓ニ入ル故ニ廢皇ノ皇子ヲ立ツト雖モ以テ人心ヲ維キ難シ況ンヤ佛帝ノ心事亦計ル可カラサル者アルニ於テヲヤ頃ロ南方ノ諸州皇兄頓加羅ヲ推シテ王位ニ卽カシメ立君公議ノ政ヲ組織セント欲ス抑モ皇兄ハ正統ノ皇子立君公議ハ天下ノ美政ナリ若カス諸士共ニ力ヲ此ニ盡サンニハト滿場ノ議論之カ爲メニ愈〻激シ各〻相搏擊セントスルノ勢アリテ議論何レニ定マルヲ知ラサリシカ其宰相ハ意ヲ迎フルモノ半ニ過キタルヲ以テ議遂ニ決ス是ニ於テ使ヲ普國ニ遣ハシテ推戴ノ意ヲ表シ皇子ノ卽位ヲ乞フ皇子之ヲ諾ス佛ノ君は之ヲ聞テ大ニ憤リ直ニ書ヲ飛シテ皇子卽位ノ擧ヲ止メンヿヲ乞テ止マス皇子遂ニ之ヲ許ス而シテ佛帝猶ホ厭カス傲慢不敬普帝ヲ犯シテ戰ヲ促ス蓋シ佛ノ君臣普國ノ日ニ富强ノ術ヲ講シ歐洲ニ雄飛スルヲ見テ心平ナルヿ能ハス普ノ羽毛未タ豐滿セサルニ乘シテ之ヲ挫折シ復タ振フヿ能ハサラシメント欲ス何ソ料ラン　國ノ隱然雙翼ヲ收メテ以テ一飛沖天ノ機ヲ待チ佛ハ則チ君臣乖離シ將驕リ卒怠ルヲ是故ニ一敗地ニ塗レ地ヲ割キ城下ノ盟ヲナシ佛帝降虜トナリ遂ニ他鄕ニ流寓シテ終ルニ至レリ是ニ至リ我民ハ伊國ノ皇子ヲ迎ヘテ王位ニ卽カシム是ヨリ先キ大宰相風雷夢刺客ノ爲メニ斃レ黨派ノ爭日ニ甚シ皇子國步ノ艱難ヲ受ケ朋黨ノ分裂ヲ結ヒ以テ民心ヲ定メント欲ス然レトモ風雷夢ノ斃レテヨリ各黨ノ主領各〻自立ノ志ヲ抱テ相下ラス其智略亦互ニ匹敵シ之ヲ統結スルノ俊傑ナシ而シテ共和黨最モ激烈ノ論ヲ唱ヘ時好ニ投シ放談橫議以テ民政ヲ建テントシ是非混合朝廷ノ紛擾干戈ノ亂ヨリモ甚シク政權日ニ傾ケリ王之ヲ憤懣シ意ヲ決シテ四民ニ告ケテ曰ク

人生誰カ富貴ヲ希ハサラン誰カ功名ヲ慕ハサラン初メ爾有衆寡人カ不明ヲ棄テス一國推戴シ國政ヲ擧ケテ之ヲ寡人ニ委ネンヿヲ乞フ寡人不明ニシテ自ラ計ラス漫リニ以爲ラク幸ニ此重任ヲ負ウテ大過ナカルヘシト是ニ於テ父母ヲ辭シ群臣ノ諫ヲ納レス死生榮辱爾カ國家ト共ニセント誓ヒ爾群臣ノ助ニ頼リ爾人民ノ力ニ倚リ功業ヲ千載ニ垂レ爾衆庶ト共ニ其慶ニ頼ラント欲セリ恨ムラクハ爾有衆浮薄輕動私怨ヲ以テ公道ヲ忘レ朋黨ノ爲メニ是非ヲ顚ミス終日嗷嗷政路ヲ紛擾シテ國勢ノ衰頽ヲ致ス寡人之ヲ告諭スルヿ幾回ナルヲ知ラス而シテ爾有衆其行ヲ悛メス今ヤ寡人衛盡キ智窮リ亦之ヲ奈何トモスルヿナシ其爲ス可カラサルヲ知リテ王位ヲ偸ミ人望ニ違フハ寡人ノ一日モ安セサル所ナリ茲ニ王位ヲ辭シ將ニ故鄕ニ歸ラントス古人云フ錦ヲ衣テ故鄕ニ還ルハ人情ノ榮トスル所ナリト今寡ハ不明慚ヲ呑テ位ヲ去リ憂心悄悄恥ヲ懷テ再ヒ故鄕ノ父老ヲ見ル其喪情果シテ如何ソヤ然リト雖モ爾一タヒ君臣ノ義ヲ結ヘリ今此ヲ去ル猶ホ故山ヲ去ルノ思アリ願クハ爾有衆舊怨ヲ解キテ國勢ノ陵夷ヲ挽回センヿヲ涙ヲ揮テ茲ニ訣別ヲ告ク

ト遂ニ去リテ伊國ニ還ル是ヨリ宗廟復タ主ナク民政黨機ニ乘シ勢益〻振ヒ國勢如何トモス可カラサルニ至ル妾カ老父之ヲ憂悶シ衆ヲ會シテ說テ曰ク聞ク我士民王政ヲ厭ヒ民政ヲ希ウテ已マスト其氣風好スヘキカ如キモ今局ヨリ之ヲ見レハ其非計タルヲ奈何セン諸君見スヤ共和ヲ以テ民政ヲ建テ文物燦然富强駸駸トシテ見ル可キモノ只北米合衆國アル而已抑〻北米ノ人民ヤ本ト自主自由ノ風ニ生長シ明效良法ノ雨ニ沐

浴シ能ク私心ヲ捨テ、公議ヲ執リ論理ニ泥マスシテ實業ヲ務ム是レ能ク民政ヲ建テ、宇內ニ冠タル所以ナリ我民ハ則チ然ラス論理ニ泥テ實業ヲ務メス輕跳ニシテ鋭進シ亦忽チ挫折ス墨西哥國ハ米國ト境ヲ接シ齊ク共和ノ民政ヲ建ツルノ國ナリ然レ𪜈朋黨相忌ミ首領相仇シ爾來五十有三年間ニシテ一帝一攝政統領五十三人ヲ更ヘタリ此ノ如キ朝迭暮更ノ政府ノ下ニ棲息スル生民焉ソ能ク進路ヲ文明ノ境ニ尋ネ生路ヲ自由ノ郷ニ求ムルヲ得ヘケンヤ墨西哥人ハ我西班牙ノ後裔ニシテ風敎人情亦相同シ亦以テ自ラ鑒ムルニ足ルヘシ殊ニ我文物典章ヨリ國民ノ志操ニ至ルマテ遠ク米人ニ及ハス而シテ今此輕佻未開ノ民ヲ驅テ民政ノ界ニ馳騁セント欲ス余其害ヲ知レトモ未タ其利ヲ議ラサルナリ好シ暫ク舊テ之ニ當ルモ政黨ノ開キ國政迭ニ亂人ニ移リ內外混淆庶官職ヲ失ヒ遂ニ朝令暮改ノ弊政ニ陷リ政權ハ姦雄ノ掌中ニ歸シ軍人爲政ノ端ヲ開キ干戈紛擾止ム時ナカラン一千八百三十年佛國革命ノ亂ニ人民王政ヲ厭ヒ將軍鑣柄斗ニ被スルニ紫袍ヲ以テシ立テ、民政ノ首領トナサント欲セシカ將軍固辭衆ヲ諭シテ曰ク余十八歲ノ時米國獨立ノ檄文ヲ讀ミ覺エス髮竪チ涙下リ直ニ袂ヲ揮テ奮起シ孤劍救援ヲ誓ヒ孤帆大洋ニ漂ヒ孤軍重圍ニ陷リ將士ト食ヲ分チ衣ヲ推シ戈ヲ枕シ辛酸ヲ同スルコ七年其間米人カ獨立自治ノ誠心確乎トシテ動ス可カラサルノ氣風ヲ慕ヒ取テ以テ之ヲ我民ニ敎フルコ久シ然レ𪜈我民ノ氣象風敎自治ノ民政ニ適セサルヲ奈何セン宜ク賢主ヲ迎ヘテ立君公議ノ明政ヲ起スヘシ是レ我佛國ノ良計ナリ是レ我民人ノ幸福ナリト將軍ノ言以テ殷鑑トナスヘシト意氣懇到聲涙共ニ下ル嗚乎忠言ノ耳ニ逆ヒ大聲ノ里耳ニ入リ難キ古今ノ常患ナリ黨人等却テ老父ヲ目シテ自由ノ公敵ト爲シ民權ノ僞黨ナリト誣ヒ一犬虛ヲ吠エテ萬犬實ヲ傳ヘ清議容レラレス詬詈唾斥其肉ヲ食ヒ其皮ニ寢處セント欲シ遂ニ命ヲ下シ父兄ヲ誣フルニ反逆ノ罪ヲ以テシ將ニ死刑ニ處セントセリ是ニ於テ父兄間行シテ難ヲ避ケ誠忠ノ士亦多ク國ヲ去ル是ヨリ黨人益〻憚ル所ナク民政ノ空理ニ迷ヒ自由ノ樂境ヲ夢ミ遂ニ民政ヲ天下ニ布告スルニ至レリ時ニ京城ノ市民醉フカ如ク狂フカ如ク寺院ニ會シ道路ニ集リ皆共ニ共和萬歲ヲ唱ヘ既ニ已ニ自主自由ノ樂土ニ棲息スルノ空想ヲナシ所在爭テ僧侶ヲ殺シ貴族ヲ追フ所謂暴ヲ以テ暴ニ易ヘ其非ヲ知ラサルモノナリ而シテ其黨領憲法ヲ組織シ政令ヲ施スニ當テヤ政黨相軋リ首領相忌ミ議士ハ徒ニ口舌ノ末端ヲ議場ニ爭テ實用ニ益ナク人民ハ徒ニ賦斂ノ輕カランコヲ嗷嗷シ以テ政令ノ遲滯ヲ致シ僅僅歲餘ニシテ統領內閣ノ更迭スル五回民其途ニ迷ヒ而其令ヲ厭ヒ士其行ヲ惡ミ兵其律ヲ侮リ自由樂境ノ迷夢ハ變シテ寡人爲政ノ苦境ト作リ各黨軋轢ノ極遂ニ互ニ干戈ヲ弄シ枉殺ヲ逞ウスルニ至レリ是ニ至テ老父ノ言盡ク驗アリ人竊ニ其明ニ服ス父兄他郷ニ在リテ故國ノ難ヲ傍觀スルニ忍ヒス義旅ヲ糾合シ皇兄頓加羅ヲ推シテ盟主トナシ弊政ヲ除キ私怨ヲ去リ分裂ノ政黨ヲ結合シ僞黨ノ首領ヲ退ケ立憲公議ノ政ヲ建テ以テ內亂ヲ治メ外侮ヲ禦キ僧侶貴族ノ陋習ヲ破リ此民ヲシテ自由ノ眞郷ニ棲息セシメント誓ヒ其檄ヲ傳ヘシニ天下皇兄ノ賢名ヲ慕ヒ四民雲ノ如ク集リ景ノ如ク從ヒ旌旗空ヲ蔽ヒ舳艫相望ミ歡吹耳ニ盈チ庶民悅服シ士卒奔馳シ相會スルモノ林ノ如ク兵勢大ニ振フ黨人每戰皆敗レ漸ク將ニ潰エントセリ此時ニ當リテ普相陰謀ヲ逞ウシ竊ニ兵餉ヲ贈リテ黨人ヲ援ク是ヲ以テ死灰復タ燃エ兵鋒頗ル鋭ク兩虎互ニ傷キ彼我智勇共ニ困ム時ニ廢皇ノ皇子猶ホ境上ニ在リ機ニ乘シテ國都ニ入リ誘フニ利ヲ以テス士民已ニ爭亂ヲ厭ヒ兵士ノ剽掠ニ苦ミ爭テ之ニ歸スルコ水ノ下流ニ就クカ如シ民政黨ノ首領モ亦

締盟ヲ變シ降ヲ馬前ニ獻シ質ヲ致シテ臣ト稱シ新王ノ爲メニ先驅ス新王乃チ妾ガ老父ト舊交アル者ニ命シ書ヲ作リ老父ヲ招カシム老父復書シテ其變節反覆ヲ責メテ曰ク

夫レ士ノ貴フ所ハ節義ノミ苟モ士ニシテ節ナクンハ亦何ソ云フニ足ランヤ先キニ足下共和ノ民政ヲ主唱セシニ當テヤ僕立憲公議ノ良政ヲ說テ之ニ抗ス忠言耳ニ逆ヒ衆口金ヲ鑠シ僕ヲ目シテ自由ノ公敵ト爲シ國家ノ反賊ト誣フ語猶ホ耳ニ在リ足下亦當ニ忘レサルヘシ且ツ足下某日ヲ以テ衆ト誓テ曰ク此身民政ト共ニ斃レント其舌未タ乾カサルニ厚顏鐵面膝行面縛降ヲ馬前ニ賣テ唯タ後レンヿヲ是レ恐ル嗚乎是レ果シテ何ノ心ソヤ苟モ略ホ節義ヲ解シ廉恥ノ心ヲ抱クモノノ爲ス所ナランヤ前キニ拿破倫三世ノ民政ノ組織ヲ破テ帝位ニ上ルニ當テヤ佛國ノ名士威區土留飛豪慨然臂ヲ揮テ之ニ抗シ其奈何トモス可カラサルニ至リ憤然一孤島ニ退隱セリ是ヲ眞ノ大丈夫ト云フ夫レ海ヲ踏ムノ高節ハ萬乘モ其情ヲ屈スルヿ能ハサルナリ今足下自ラ潔 スル能ハサルノミナラス靦然封爵ヲ受ケテ恥ル色ナク更ニ其交友ヲ幷セテ不義變節ノ徒タラシメントス足下其レ何ノ面目アリテ天下ニ對セントスルヤ嗚乎疾風ニ勁草ヲ知リ板蕩ニ誠臣ヲ見ル是非棺ヲ蓋テ定マル待ツ所ハ千載ノ定論ナリ兵馬倥偬意ヲ盡スヿ能ハス

敵將之ヲ見テ大ニ怒リ兵ヲ進メテ攻戰ス我將士大小百餘戰多ク命ヲ鋒鏑ニ損ン前功悉ク廢シ家兄亦戰沒ス老父皇兄ト飲泣訣別シ恢復ヲ誓ヒ妾ヲ攜ヘ逃レテ此地ニ匿ル老父年古稀ヲ過キ歐米萬里ノ山海ヲ跋涉シ有爲ノ士ト結ヒ果敢ノ氣剛直ノ節老テ愈〻堅シ況ンヤ妾年尙ホ壯ナリ豈死生窮達ヲ以テ父兄ノ宿志ヲ空ウセンヤ國破レ家亡ヒ親戚凋殘ス月ヲ望テ獨坐スレハ則チ悲憤雨ナカラ集リ花ニ對シテ行吟スレハ則チ憂愁交〻至ル東故國ヲ望メハ憤氣雲ノ如ク蹶リ激情風ノ如ク烈ク之ヲ思フ每ニ寢食俱ニ廢ス冀クハ妾ガ苦心ヲ憐察セヨト言ヒ畢テ慘憺トシテ涙下ル散士亦之カ爲メニ感動容ヲ動カス幽蘭漸ク涙ヲ收メ襟ヲ正シ更ニ散士ニ謂テ曰ク妾奇遇ニ感シ深ク紅蓮女史カ言ヲ信じ僅ニ一會ノ邂逅ヲ以テ一生ノ來歷ヲ說キ終生ノ大事ヲ語ル自ラ恥ルニ堪ヘタリ然リト雖モ是レ多年沈鬱スル所ノ精神覺エス發露シテ是ニ至ルモノナリ幸ニ笑フヿ勿レ又漫ニ幽愁ノ語ヲナシ郎君ヲシテ厭倦セシムルヲ恐ルト散士答テ曰ク令孃胸宇快濶毫モ插ム所ナシ所謂青天白日ノ談ナリ僕豈其情ニ感セサランヤ唯タ其語ノ盡クルヲ惜ムノミト顧ミテ紅蓮ニ謂テ曰ク阿孃モ亦西班牙ノ人ナル歟ト紅蓮カ曰ク否妾ハ愛蘭ノ産ナリト散士曰ク阿孃幽蘭女史ト此處ニ退隱ス思フニ又必ス故アラン希クハ其詳ナルヿヲ聞クヲ得ント紅蓮曰ク妾ノ父ハ奇贏ノ術ニ長シ牙籌ヲ執テ計畫シ貨ヲ販キテ米國ニ貿遷シ又貲ヲ借リテ東洋ニ輸出シ需用世ニ投シ計畫算ヲ超エ富一世ニ冠タリ初メ英王詐術ヲ用ヰテ我王ヲ欺キ我民ヲ詐リ陽ニ聯邦相助クルヲ約シテ陰ニ之ヲ併呑シ名ハ聯邦タリト雖モ實ハ臣妾タルニ過キス爾來英蘇相謀リテ我國ノ繁盛ヲ嫉ミ我富强ヲ忌ミ苛法虐制到ラサル所ナク我工業ヲ窘メ我製造ヲ躄メ我貿易ヲ害シ我結會ヲ妨ケ我敎法ノ自由ヲ奪ヒ我出版ノ自由ヲ禁セリ是ニ於テ工業ハ頽廢シ商業ハ疲弊シ黎民顚沛ノ艱ヲ踏ム吏人機ニ乘シテ良民ノ田畝ヲ掠奪シ急征暴斂下民ヲ鞭撻シ地主(多ノ貴族)ハ苛徵ヲ務メテ更ニ民力ヲ計ラス斗升未タ輸セサレハ忽チ酷罰ニ遭フ膏血已ニ竭キテ搒掠猶ホ未タ止マス毒ハ永野ノ蛇ニ逾エ猛ハ泰山ノ虎ニ過ク五穀登ラス餓莩道ニ横ハルニ至レリ今ヲ距ルヿ僅ニ數十載愛蘭ノ志士奮テ英政立法ノ羈絆ヲ脫シ獨立保護ノ政策ヲ施行セシニ當テヤ工業振起シ士風再ヒ盛ニ四海中興ノ

美群生來蘇ノ望ヲ懷ケリ圖ラサリキ昊天禍ヲ悔イス大災荐ニ臻リ再ヒ英國ノ虐政ニ窘メラレ國權憲法ノ自由ヲ殺カレ貴族汚吏ノ爲メニ全國ノ田畝ヲ掠奪セラル英王ノ暴戾殘酷ナル英民ノ奸黠貪縱ナル我國ノ孤ニシテ援ナキヲ欺キ價ヲ賤シテ田地ヲ售ヒ卒ニ其直ヲ還サス或ハ息ヲ倍シテ之ヲ貧人ニ貸シ以テ其利ヲ罔ス我民其弊ニ堪ヘス餓死スル者八十萬ヲ超ユルニ至レリ妾聞ク胎ヲ刳キ夭ヲ殺セハ則チ麒麟其郊ニ至ラス巣ヲ覆シ卵ヲ破レハ卽チ鳳皇其邑ニ翔ラス何トナレハ其類ヲ傷フル者ヲ惡メハナリト鳥獸ノ不義ニ於ケル尙ホ之ヲ避クルヲ知ル況ヤ人ニ於テヲヤ怪哉對岸ノ英民傍觀救ハサルノミナラス却テ欣然喜色ヲ顯シテ曰ク愛國ノ窮厄ハ人民過多ノ致ス所ナリ禍災荐ニ至リ生民死亡相續キ然ル後以テ富强ヲ謀ルヘシト諺ニ曰ク非道行ハルヽトキハ正理退クト宜ナル哉彼邪說ノ人聽ヲ惑シテヨリ老幼ハ溝瀆ニ斃レ壯者ハ散シテ四邦ニ流離スル者毎年幾萬人ナルヲ知ラス國內ノ生齒減スルニ從テ人民結合ノ力愈ミ衰ヘ生民ノ艱年ニ增シ日ニ加ハル是ニ於テ彼人口過多弊害ノ謬說邪言益ミ其妖言タルヲ證スルニ足ル蓋シ英人ノ外交政略タル談笑ノ間ニ劍ヲ含ミ杯酒ノ中ニ鴆ヲ濺キ狠レルヿ山羊ノ如ク食ルヿ豺狼ノ如シ親ム可カラサルナリ若シ一タヒ彼四海兄弟自由交通ノ甘言ニ欺カレ彼ト自由ニ貿易シ彼干涉ヲ招クトキハ其邦國（上耳其、印度、埃及、等ノ邦）ハ漸次ニ生齒減シ國力疲レ國ニ獨立ノ名稱アルモ獨立ノ實力ヲ缺キ年年歲歲貿易鈞ヲ失ヒ金寶ヲ輸出スル名ハ入貢ニ非スト雖モ實ハ國民ノ膏血ヲ絞テ以テ英國ニ貢スルニ異ナラサルナリ然ルニ世ニ空理ニ迷ヒ英人ノ術中ニ陷テ之ヲ曉ラサル者少カラス眞ニ浩歎ニ堪ヘサルナリ誰カ謂フ英皇ハ仁慈惻愛ナリト今英女皇ノ卽位以來英領印度人民ノ餓死セル者五百萬

英國烈女曉鶯女史ノ言ニ據ル女史ハ公義ヲ以テ一世ニ著ル嘗テ一書ヲ著シテ英領印度ノ慘狀ヲ痛論セリ又亞利美亞ノ役軍中惡疫流行死亡相繼キ看護其人ニ乏ク軍氣沮喪セリ女史之ヲ聞テ慨然國ノ爲メニ身命ヲ犧牲ニ供スルヲ誓ヒ烈女ヲ召集シテ戰場ニ赴キ湯藥自ラ嘗メ奬勵看護至ラサル所ナシ士卒義ニ感シ軍氣復タ振ヒ遂ニ旋凱ノ功ヲ奏セリ天下傳ヘテ以テ美談トセリ

兵ヲ起シ武ヲ瀆ス二十五回財ヲ費ス七億五千萬

英ノ賢相武頼土ノ言ニ據ル一千八百八十二年英國無名ノ師ヲ起シテ埃及ヲ伐ツ君其非計ヲ延爭シテ曰ク抑ミ我自由黨ノ主義トスル所ハ保守黨カ功名ヲ喜ヒ禍福ヲ弄フカ如キニ非スシテ外國ト兵馬ノ交涉ヲ薄クシ通商ヲ繁クシ交義ヲ厚スルニ在リ悲哉我女皇卽位以來四十五年我自由黨執政間ニ干戈ヲ動ス二十回ニシテ保守黨ハ僅ニ五回ニ過キサルナリ豈自ラ省ミテ恥チサランヤ況ヤ此遠征ノ如キ無名ノ師ニ於テヲヤト然レ圧其言聽カレス其謀用キラレサルニ至リ斷然冠ヲ掛ケテ退隱セリ

二タヒ日本ヲ犯シ三タヒ淸國ヲ攻メ威ニ據テ淸人ヲ刼シ鴉片ヲ輸入ス淸人ノ鴉片ノ毒ニ斃ルヽ者千萬ヲ以テ數フヘシ其責其罪果シテ誰ニカ歸セン獨リ怪ム英ノ君臣放言シテ曰ク我ニ敵スル者モ猶ホ之ヲ愛ス四海皆兄弟ナリ汝ト永ク天ノ福祿ヲ享ケント是ヲ以テ之ヲ見レハ文明ヲ以テ誇リ慈愛ヲ以テ教トスル耶蘇教國モ亦賴ムニ足ラサルカ如シ妾聞ク洪波塞ニ振ヘハ川ニ恬鱗ナク驚飈野ヲ拂ヘハ林ニ靜柯ナシト如何トナレハ勢弱ケレハ則チ制ヲ强制ニ受クレハナリ妾實ニ以テ然リトス愛蘭ノ議士皆奮テ信向ノ自由ヲ稱シ獨立立法ノ正理ヲ唱フルト雖モ常ニ少數ノ故ヲ以テ大英國議院ニ敗ヲ取ルヿ茲ニ二百有餘年噫乎權威太タ峻ニシテ民命何ソ堪ヘン又曾テ飢饉天災ヲ恤ルヿ莫ク却テ之ヲ助ケ

テ虐ヲ爲シ掊克衆怒ヲ干シ能ク衆ヲ結ブ仇ヲ爲ス向キニハ死ヲ畏ルヽノ心ヲ存シテ尙ホ法紀ヲ知ル今ハ生ヲ求ムルノ路ヲ絕ツ豈身家ヲ顧ミルニ暇アランヤ闔國ノ士民切齒扼腕謀ノ出ツヘキナシ然ルニ妾が父自ラ任シテ玆厄運ヲ挽回セント欲シ田畝ヲ貧民ニ配與シ產ヲ傾ケテ英傑ニ結ヒ愛國ノ獨立ヲ計畫シ機謀已ニ熟シ將ニ成功ニ垂トシ不幸ニシテ反者アリ其謀洩レテ我父囚ニ就キ憂憤病ヲ釀シ遂ニ獄中ニ沒セリ妾時ニ尙ホ幼ナリ家財ハ沒セラレ親戚ハ罪セラレ煢煢依ル所ナシ刺史暴留苦（一千八百八十二年公園ニ於テ暗殺セラル）ハ愛蘭ノ人ナリ人トナリ節操ニ乏シク英王ニ媚ヒ權勢赫赫タリ彼妾カ幼ニシテ孤弱ナルヲ奇貨トシ甘言ヲ以テ妾ヲ誘ヒ黃金ヲ餌トシ納レテ侍妾ト爲サント欲セリ妾幽懷憤悶遣ル所ナク彼カ生國ニ不忠不義ナルヲ責メ汚行醜狀ヲ罵ル彼大ニ怒テ妾ニ寃枉ノ罪ヲ誣ヒ愛國ニ住スルヲ禁セリ妾故國ヲ放逐セラレテ憤恨深ク骨髓ニ入リ去ルニ臨ミ誓テ曰ク妾終身又英王ノ臣民タラス愛蘭ヲ獨立シ以テ英國ノ虐政ニ報セント遂ニ跡ヲ晦マシ歐洲ニ飄零シ今又米國ニ來リ時機ノ到ルヲ待ツ曾テ幽蘭女史ニ邂逅シ斷金ノ交ヲ結ヘリ妾今我義士波寧流ノ妹姪等ト密ニ聲援ヲ通シ在米ノ同胞ヲ糾合シ輕卒急成ヲ戒メ內ハ威力ヲ養生シ外ハ正理ヲ明表シ他日大ニ爲スコアラントス惜哉淺謀輕擧ノ徒狂暴是レ勉メ無智妄作是レ喜ヒ頑民ヲ煽動シ獨立自治ノ大計ヲ忘レ法紀ヲ亂リ道義ヲ壞リ暗殺ヲ逞クシ爆裂ヲ試ミ遂ニ達武林府ニ於テ賢刺史加腕蛇ヲ殺シテヨリ天下愛國ヲ目シテ兇惡ノ巢窟爆烈黨ノ淵叢トナスニ至レリ是レ常ニ波寧流諸士ノ深ク浩歎恨惜スル所ナリ抑〻愛國志士ノ期スル所ハ他ナシ將ニ天ノ一國ニ賦與スルノ大義ニ據リ英人ノ羈絆ヲ脫シ我民人ノ掠奪セラレタル權理ト財產田土トヲ回復シ急征暴斂ノ弊ヲ矯正シ下民塗炭ノ苦厄ヲ救助セント欲スルニ在ルノミ苟モ妾カ心ノ是トスル所ハ九死モ猶ホ避ケス豈水火ヲ恐レ殃禍ヲ憚ランヤ妾史籍ヲ閱シ之ヲ前代ニ徵スルニ我國ノ如キ厄運ノ極ハ古今未タ曾テ有ラサル所之ヲ思フ每ニ憤悶憂鬱自ラ禁スル能ハサルナリ今夫レ強ハ弱ヲ窘メ狡ハ朴ヲ欺キ世人見テ怪ムコナシ豈之ヲ開明ノ域人文ノ世ト稱ス可ケンヤ是レ天下義ヲ慕フノ士ノ夙夜痛歎スル所ニシテ愛國ノ獨立ヲ奬勵スル所以ナリト語語肺腑中ヨリ出テ、聲聲憤怨ヲ帶ブ散士腕ヲ扼シ聞キ了テ覺エス三歎ス既ニシテ紅蓮更ニ散士ニ問テ曰ク妾昨新報ヲ閱セシニ曰ク日本ノ三士新府某ノ樓ニ會シ時事ヲ論シ英人ノ專恣ヲ憤リ一士カ曰ク愛蘭若シ義兵ヲ擧ケ英人ニ抗セハ何如ント二士直ニ答ヘテ曰ク劍ヲ杖テ直ニ赴シ彼ノ獨立ヲ救援セント其高風義烈妾カ竊ニ慕フ所ナリ郎君ハ元ト同邦ノ人彼ノ義士ノ名氏ヲ知ラハ妾が爲メニ之ヲ告ケヨト散士答ヘテ曰ク其一士ハ則チ不肖是ナリト紅蓮急ニ立テ散士が手ヲ執リ淚ヲ揮テ曰ク幸ニ今其人ヲ見ルコヲ得タリ妾唯タ惧ム我邦人義旗ヲ擧クル果シテ何ノ日ニアルヲ知ラサルコヲ嗟乎世事已矣ト潸然淚下テ又言フコ能ハス淸人アリ杯盤ヲ周旋ス其應對擧止ノ凡ナラスシテ常ニ異ナルヲ觀ル齡大凡五旬ヲ超ユ幽蘭紅蓮ノ談ヲ聞キ眉宇激スルカ如ク傷ムカ如ク襟ヲ正シテ進ミ幽蘭ヲ揖シテ曰ク今ニシテ初メテ兩孃ハ國家ノ忠臣烈女ナルコヲ知レリ老奴モ亦亡朝ノ孤臣漫ニ自ラ料ラス前朝ノ恢復ヲ志スモノナリ特ニ怪ム今者忠義ノ人期セスシテ此ニ會合スルヲト幽蘭驚テ席ヲ命シテ曰ク噫子モ亦亡朝ノ遺臣ナルカ眞ニ奇遇ト謂フ可キノミ願クハ詳ニ之ヲ語レト

佳人之奇遇 卷三

淸人カ曰ク僕姓ハ鼎名ハ泰璉范卿ハ其字ナリ明

ノ名臣瞿式耜カ將鼎踵ノ後ナリ明ノ末造清兵大擧シテ西ニ下ル向フ所瓦解シ過ル所風靡ス明ノ名將史可法揚州ニ戰沒セショリ江淮復タ勤王ノ師ナシ式耜何蛟騰孤軍ヲ提ケテ僅ニ粤西ヲ保ツ踵久ク桂ニ將トシテ大ニ桂人ノ心ヲ得タリ嘗〻清兵桂ヲ攻ム踵式耜ト奮戰シテ遂ニ清ノ大軍ヲ退ク始メ踵粤東ノ李成棟ト舊アリ書ヲ寄セテ責ムルニ大義ヲ以テス時ニ成棟我廣州ヲ下シ印信凡ソ五十餘顆ヲ收ム中ニ於テ獨リ總督ノ印ヲ取テ之ヲ藏ム意疑惧シテ未タ決セス愛妾綠雲ナルモノアリ其意ヲ揣リ知リ間テ朝夕ニ慫慂ス成棟几ヲ撫シテ曰ク憐ム此雲間ノ眷族ナリト綠雲カ曰ク我獨リ富貴ヲ取ランヤ先ツ尊前ニ死シテ以テ君子ノ志ヲ成サント遂ニ自刎ス成棟尸ヲ抱テ大哭シテ曰ク嗚乎美人尚ホ能ク生ヲ棄テ引決ス大丈夫豈奮闘スル能ハサランヤト卽日衣冠ヲ卽ケ總督ノ印ヲ以テ具疏シテ駕ヲ迎ヘ王師再ヒ振フ然リト雖モ大廈ノ將ニ傾カントスル一木ノ能ク支フ可キニ非ス何蛟騰擒ニ就キ續テ李成棟戰沒シ落日西ニ傾キ殘月光ヲ失ヒ四方勤王ノ師土崩瓦解シ諸城卒ニ陷リ清兵來リ迫ルヿ甚タ急ナリ或人式耜ヲ促シ境ヲ超テ速ニ去ラシム式耜肯セスシテ曰ク封疆ノ臣ハ宜ク封疆ニ死スヘシ是レ我忠ヲ盡シ國ニ報シ死シテ貳心ナキヲ明ニシ以テ堂堂タル明朝大臣ノ節操ヲ後世ニ垂ル、秋ナリト叱咤兵ヲ督シ軍破レ城陷リ從容トシテ擒ニ就キ身ヲ以テ社稷ニ徇ヘリ曆王僅ニ身ヲ以テ免カレ奔テ緬甸王ニ倚ル踵猶ホ王ニ從ヒ殘兵ヲ集メテ遙ニ鄭成功ト聲援ヲ通シテ恢復ヲ謀ル豈料ランヤ吳三桂飜テ賊ニ降リ僞朝ノ封爵ヲ受ケ躬親ラ淸兵ノ爲メニ前驅ス緬甸王恐レテ曆王及ヒ從臣ヲ執ヘテ淸兵ニ送ル踵呼テ曰ク身中華ノ鬼ト爲ルトモ豈敢テ北虜ニ膝ヲ屈センヤ李侍郎ハ我友ナリト奮ヒ罵テ王ヲ抱持シ遂ニ殺サル是ニ於テ家國傾覆シ四百餘州又明兵ナク鄭成功ノ臺灣ニ據テ彈丸黑子ノ小壘ヲ保チ僅ニ明朝ノ正朔ヲ奉スル有リシノミ此時ニ當テ滿淸薙髮ノ令ヲ下シ中華ノ文物衣冠盡ク變シテ夷狄ノ俗ト爲リ滿人乘勝ノ勢ヲ以テ老幼ヲ殺シ婦女ヲ辱シメ處士ヲ坑ニシ書生ヲ謫シ苛虐暴戾獰虎ヨリモ猛ク間〻忠義ノ士アリト雖モ姦臣ノ爲メニ脅サレテ力ヲ展フル所ナク徒ニ言ヲ爲シテ曰ク暫ク恨ヲ飲ミ恥ヲ忍テ時機ノ到ルヲ待ツヘキナリト然リト雖モ時去リ日逝キ前志挫折シ士心衰縮シ遷延陵替見テ以テ常トシ廉恥地ヲ拂ヒ義聲久ク聞エス甚シキハ楚ノ鄭女蓮趾ヲ短縮シテ北夷ノ俗ニ媚ヒ燕趙悲歌ノ士辮髮左袵ヲ以テ揚揚得色アルニ至レリ道光二十年鴉片ノ亂起リ英軍入寇ス時ニ我父白雲山（廣東省、增城ノ西八十里ニ在リ）ニ退隱ス警ヲ聞キ奮テ人ニ謂テ曰ク清朝ハ我が仇ナリト雖モ今ヤ兄弟墻ニ鬩クノ秋ニ非スト卽チ勇丁ヲ募リ舟師ヲ督シ大ニ舟山ニ戰テ之ニ死ス淸將尫弱ニシテ戰鬪兒戲ニ齊シク大臣權ヲ爭ヒ命令一ナラス此國家存亡ノ秋ニ當リ衣ヲ解キ食ヲ推シテ士心ヲ得ルヿヲ務メス糧ヲ盜ミ金ヲ竊ミ以テ士卒ノ飢寒ヲ致ス是ヲ以テ士怠リ卒怨ミ一戰支フヿ能ハス北京遂ニ陷リ卒ニ地ヲ割テ城下ノ盟ヲ爲シ汚辱千載ニ流レ帝命輕クシテ遠キニ及ハス諸省ノ吏人互ニ上ヲ欺キ下ヲ虐シ租稅ヲ私シ威福ヲ弄ヒ尾大掉ハスシテ漸ク封建ノ勢ヲナシ四百餘州復タ一帝國ノ下ニ糾合ス可カラサルニ至ラントス抑〻滿人ノ政略タル黔首ヲ愚ニシ一日ノ安ヲ偸ミ詐言以テ非ヲ掩ヒ虛喝以テ人ヲ嚇シ外交ニ信ナク內治ニ實ナク尊大ニシテ漫ニ人ヲ侮リ頑陋ニシテ獨リ自ラ智ナリトシ下ヲ御スルヿ濕薪ヲ束ヌルカ如ク權勢ニ趨クヿ市ニ歸スルカ如ク廉潔ノ士ハ意ヲ失シテ林樊ニ隱レ道義ノ儒ハ悉ク下僚ニ沈ミ斗筲ノ輩獨リ志ヲ得テ顯要ニ上リ樞機ヲ執リ上替レ下凌キ彗星洊隕上ニ怒リ山岳崩裂下ニ怨ム時ニ明ノ遺臣十八人其機已ニ熟スルヲ察シ檄ヲ四

百餘州ニ傳ヘテ清朝ノ罪惡ヲ鳴ラシ明朝ヲ恢復シ蒼生ノ塗炭ヲ救ヒ姦臣ヲ誅戮シ弊政ヲ改革センヿヲ誓フ維 實ニ道光二十八年ナリ海內響應シ旌ヲ揚ケ甲ヲ擐シ蜂起蟻集黄華地ニ振フ是ニ於テ謀臣計議都ヲ金陵ニ建テ兵ヲ率キテ東下シ清ノ胥吏ヲ殺シ旬月ニシテ諸省ヲ徇ヘ進テ北京ニ迫ル清朝擧テ震慴シ都ヲ吉林ニ遷シ兵鋒ヲ避ケントス或人說クニ石敬塘カ兵ヲ契丹ニ借ルノ權謀ヲ以テス廷議之ヲ嘉納シ重賞ヲ以テ東洋ニ在ル西人ニ賂フ夫レ東洋ニ在ル外人ハ多ク亡命無賴ノ徒ニシテ亂ヲ好ミ利ヲ貪ルノ輩ナリ故ニ爭テ募ニ應シ戈ヲ荷ヒ刀ヲ提ケ海陸並ヒ進ム清兵援ヲ得テ頻ニ進戰ス我軍利アラス死傷相繼ク清兵勢ニ乘シ殺戮侵掠至ラサル所ナシ僕ノ家姉亦囚ニ就ク敵遇スルヿ無禮ナリ姉怒リ敵將ノ面ニ唾シテ曰ク奴輩何ソ無狀ナル我必ス怨ヲ清朝ニ報イ鼠輩ヲシテ又遺類ナカラシメント遂ニ敵ノ爲メニ殺サル僕時ニ金陵ニ潛匿シ以テ復讐ヲ謀ル吏物色太タ急ナリ殆ト免レサルヲ知リ乃チ姓名ヲ變シ賤夫ニ混シテ纔ニ此地ニ逃ルヽヿヲ得タリ嗚乎英雄路ヲ失テ足ヲ託スルニ門ナク豪傑名ヲ埋メテ生ヲ計ルニ術ナシ今ヤ米人ノ我ヲ嫌惡スル蛙蟾蛇蝎ノ如ク我ヲ蔑視スルヿ黒奴ヨリモ甚シ是レ諸君ノ熟知スル所ナリ加之ナラス輓近米政府令ヲ發シテ清人ノ來航ヲ禁止スルニ至レリ是レ蓋シ清人カ癡愚自ラ取ルノ罪禍ナリト雖モ豈人間ノ自由ヲ貴ヒ平等ノ權利ヲ重スル米人ノ施行スル政策ナリト稱譽スルヿヲ得ンヤ世言フ天道ハ善ニ福シ歐米ハ義ニ與ミスト然レトモ僕疑ナキ能ハス窮達ハ命ナリ吾獨リ何ノ罪ソ茲ニ窮厄ニ遭フ寧ロ溘死流亡スルモ志ヲ渝ヘサル而已嗚乎呉ヲ沼ニスルノ志空ク蹉跎シ悠悠タル日月留ム可カラス我老將ニ到ラントス嗚乎哀イ哉ト散士聞ク每ニ激昂悲痛胸臆ヲ攪シ默然トレテ語ナク長太息シテ涙ヲ掩ヒ人生ノ艱多キヲ哀ム幽蘭謝シテ曰ク郎君幸ニ恕セヨ春風駘蕩快樂ノ陽場ヲ變シテ秋風蕭殺悲哀ノ陰觀ト爲シ郎君ヲシテ怏怏トシテ樂マサラシム是レ妾カ罪ナリ今ヤ貴國舊政ヲ釐革シ歐ノ長ヲ取テ其短ヲ舍テ米ノ實ヲ摭テ其花ヲ去リ文化月ニ新ニ富強日ニ進ミ舊邦維レ新ニ柔ヲ守テ競ヲ執リ見レ者ハ駭テ目ヲ拭ヒ聞ク者ハ驚テ耳ヲ傾ク其勢方ニ旭日ノ東天ニ昇ルカ如ク東洋ニ屹立シ聖帝與フルニ自由ノ政憲ヲ以テシ人民誓テ聖明ニ服センヿヲ期シ干戈已ニ定マリ天下安樂五穀年ニ豐ニ四民業ヲ樂ミ朝鮮使ヲ通シ琉球內附ス方今東洋大ニ爲スヘキノ秋ニ當リ牛耳ヲ執テ亞細亞ノ盟主ト爲リ東生民倒懸ノ難ヲ解キ西英佛ノ跋扈ヲ制シ南清人カ陋習ヲ壞リ北俄人ノ覬覦ヲ絕チ歐洲諸邦カ東洋ヲ蔑視シ內治ニ干涉シ遂ニ之ヲ內屬ト爲サントスルノ政略ヲ拒キ彼億兆ノ蒼生ヲシテ初テ自主獨立ノ眞味ヲ嘗メ文物典章ノ光輝ヲ發セシムル者ハ貴國ニ非スシテ其レ誰カ之ニ當ラン想フニ郎君能ク東西ノ群籍ニ獵涉シ古今成敗ノ數ニ熟スト雖モ恐ラクハ未タ干戈ノ慘狀戰場ノ苦艱放謫ノ辛酸幽囚ノ憤憂ハ曾テ知ラサル所ナル可シ妾等國亡ヒ家破レ辛苦萬狀他邦ニ流寓シ故鄉ヲ懷望シテ寤寐忘ルヽヿ能ハス知ラス識ラス言談悲痛ノ事ニ度リ以テ郎君ヲ待ツノ禮ヲ失フ今ヤ郎君笈ヲ負ヒ良師ニ從ヒ賢達ニ接シ且ツ有爲ノ邦國ニ生レ年壯ニ氣盛ナリ功業期シテ待ツ可キナリ嗚乎幸福祥慶ハ郎君ノ身ニ輻湊シ艱難憂戚ハ妾等カ身ニ蝟集ス蓋シ吉凶禍福ハ皇天ノ命スル所人力ノ奈何トモスル所ニ非ス窮達ハ命ナリ亦何ソ悲マン郎君郎君猶ホ何爲レソ悲憤ノ色ヲ帶ヒ眉宇ヲ開カサル妾等ノ過實ニ深シ郎君幸ニ寛容セヨト慰諭懇到情義色ニ溢ル紅蓮范卿モ亦進デ罪ヲ乞フ時ニ散士涕涙瞼ニ滿チ掩ハント欲シテ禁スル能ハス簌簌トシテ幽蘭カ衣ニ灑ク起テ謝シテ曰ク令孃幸ニ寛恕セヨ

ト巾ヲ執テ之ヲ拭ハント欲ス幽蘭急ニ之ヲ止メテ曰ク郎君ノ涙賤妾カ衣裳ニ落ツ實ニ千金ノ賜婕妤カ唾花ニ勝ル感謝何ニカ譬ヘン却テ怪ム郎君悲哀スル何ソ其レ切ナルヤ日本ノ士風強ヲ挫キ弱ヲ助ケ人ノ爲メニ急難ニ趨キ往往囚繫ニ陷ルモ猶ホ且ツ辭セス情ヲ撓メ意ヲ抑ヘ兒女ノ泣ヲ爲サヽルヿ天下ノ稱賛スル所ナリ抑ヽ忠孝仁義ハ情ヨリ發スト今郎君ノ義烈高風妾等ノ苦節ヲ憐ミ爲メニ涕涙潸潸下テ禁セサルニ至ル賤妾死ストモ忘レサルナリ若シ天道果シテ善ニ幸セハ禍福循環シ卒ニ能ク志ヲ達スルノ時アラン不幸ニシテ時機到ラスンハ節ヲ守テ道義ノ爲メニ死スルモ亦好カラスヤ是レ命運ハ常亦何ソ怨マンヤ古ヨリ死スル者一ニアラス艸木ト同ク朽チ混混世ト倶ニ濁ルハ妾カ志ニ非サルナリ願フ所ハ邦ノ爲メ世ノ爲メニ滿腔ノ熱腸ヲ灑キ身命ヲ犧牲ニ供シ斃レテ後ニ止マンノミ聞ク功ハ虛ヲ以テ成ル可カラス名ハ僞ヲ以テ立ツ可カラスト妾常ニ以テ然リトス夫レ香ハ薫ヲ以テ自ラ燒ケ翠ハ羽ヲ以テ自ラ傷ル志士ノ世ニ處ル寧ロ玉ト爲テ碎クルモ瓦ト爲テ全キヲ恥ツ寧ロ蘭桂ト爲テ摧クルモ蕭艾ト爲テ存スルヲ厭フ況ヤ生キテ世ニ益スルヿナク死シテ後世ニ聞ユルヿ莫クンハ螻蟻ト何ソ擇ハン設使ヒ天地ト壽ヲ等スルモ亦復タ何ノ益アラン是レ前聖ノ禍機ヲ踏テ顧ミス災害ヲ犯シテ悔イサル所以ナリ夫レ道以テ天下ヲ濟フニ足リ而シテ人ニ貴ハルヽヿヲ得ス言以テ萬世ヲ經スルニ足リ而メ時ニ容セラレス陳蔡ノ間ニ餓ヲ救フヿ能ハサリシハ闕里ノ孔聖是レナリ德行神明ニ應シ風教萬世ニ垂レ今ニ至テ王公大人稱シテ忘レサルモ猶ホ羣小ノ慍ニ逢ヒ終ニ慘酷ノ磔戮ヲ免ルヽヿ能ハサシリハ我救世主卽チ是レナリ立言正大千古ヲ凌勵シ聖賢ト齊ク駕シ並ヒ驅スルモ俗人ノ爲メニ異端視セラレ誣言邪構遂ニ鴆毒ノ禍ニ遇ヒシハ希臘ノ名儒叟虞刺鐵其人ナリ故ニ知ル忠直ノ主ニ迕ヒ獨行ノ俗ニ負クハ理勢ノ然ラシムル所是故ニ木、林ニ秀ツレハ風必ス之ヲ摧キ行、人ヨリ高ケレハ衆必ス之ヲ非ル前鑑遠カラス覆車軌ヲ繼キ而シテ志士仁人猶ホ之ヲ踏テ悔イサルモノハ何ソヤ將ニ以テ志ヲ遂ケ道ヲ行ヒ名ヲ成サント欲スレハナリ其志ヲ遂ケンヿヲ求メテ風波ヲ嶮塗ニ犯シ其名ヲ成サンヿヲ求メテ謗議ヲ當世ニ避ケス精ヲ勉メ操ヲ勵マシ晨ニ興キ夜ニ寐ネ寧息スルニ遑アラス豈煖衣飽食獨リ樂ミ歌舞醉倒自ラ甘スルニ忍ヒンヤ噫彼ノ希世苟合ノ士尊貴ノ顏ヲ俛仰シ勢利ノ間ニ逶迤シ意ニ是非ナクシテ之ヲ讃ムルヿ流ルヽカ如ク言ニ可否ナクシテ之ニ應スルヿ市ニ歸スルカ如ク權重キ所ハ之ヲ戴クヿ王冠ヨリ尊ク勢ノ去ル所ハ之ヲ棄ツルヿ敝履ヨリ易シ其言ニ曰ク名ト身ト孰レカ親シキ得ト失ト孰レカ賢レル榮ト辱ト孰レカ貴キ飽ト飢ト孰レカ重キト故ニ其衣服ヲ燁ニシテ其車馬ヲ矜リ其貨賄ヲ冒シテ其聲色ヲ淫ニシ脈脈然トシテ自ラ以テ志ヲ得タリトスル者豈共ニ天下ノ大計ヲ議シ共ニ憂樂ヲ同ウスルニ足ランヤト議論縱橫義氣秋霜ヨリ烈ナリ散士初メ幽蘭カ風采閑雅ニシテ容色秀麗ナルヲ慕ヒ高才節義ノ以テ人ヲ感動スルヿ此ノ如ク其レ卓然タルヲ思ハサリシ今幽蘭カ言ヲ聞クニ及テ敬慕ノ念愈ヽ切ナリ散士幽蘭ヲ熟視シテ曰ク今日ハ是レ如何ナル日ソヤ實ニ明良相遇フ千載ノ一事令孃紅蓮范卿諸君ノ義風忠烈聞ク者ヲシテ頑夫モ廉ニ懦夫モ志ヲ立テシムヘシ況ヤ書ヲ讀ミ理ヲ解スル者ヲヤ徒ニ散士ノ涙ヲ以テ婦女ノ泣ヲナス者ト怪ムヿ勿レ散士モ亦亡國ノ遺臣彈雨砲煙ノ間ニ起臥シ生ヲ孤城重圍ノ中ニ偸ミ國破レ家壞レ窮厄萬狀辛酸ヲ嘗メ盡ス何ソ令孃等ニ讓ランヤ料ラサリキ今日天涯萬里參商隔絕ノ人他鄕ノ客舍ニ邂逅シ經歷ノ難前途ノ艱殆ト一ニ出ツルカ如シ因テ往事ヲ懷ヒ時事ヲ慨シテ萬感心ニ攅リ悲喜交ヽ集リ涙墜

テ禁スルヿ能ハス遂ニ令孃ノ衣裳ヲ穢スニ至レリト言未タ終ラサルニ三人齊ク驚歎シテ曰ク郎君ノ言果シテ信ナルカ若シ果シテ然ラハ眞ニ奇中ノ奇遇ト云フ可キノミ願クハ幸ニ聞クコトヲ得ヘキカト散士慨然トシテ曰ク僕モ亦日本良族ノ子ナリ屈指回顧スレハ二十年前我國歐米各邦ト締盟セシニ當テヤ尊王攘夷ノ說紛トシテ起リ慷慨悲歌ノ士幕府ノ專横ヲ憤リ俗吏ノ偸安ヲ慨シ一死ニ報イント臂ヲ揮ヒ呼號スルニ當テヤ恨ヲ幕府ニ抱クノ士亂ヲ好テ無



孔子陵巷ノ野ニ轍ユルノ圖　(原木插畫)

爲ニ苦ムノ徒機ニ乘シテ良民ヲ煽動シ公卿ヲ誘惑シ深謀遠識ナク宇內ノ大勢ヲ知ラス徒ニ蟷螂ノ斧ヲ以テ歐米ノ兵ヲ攘ハント擬シ深夜外館ヲ襲ヒ火ヲ放テ剽掠ヲ極メ白日路上不意ニ起テ無辜ノ外客ヲ枉殺シ以テ匹夫ノ勇ニ誇リ以テ神州ノ恥ヲ雪ムルトシ兒戲輕佻怯弱暴言フニ忍ヒサルモノアリ井伊大老ハ前ニ斃レ安藤侯ハ後ニ傷キ開港ヲ唱フル者ハ人目スルニ秦檜ヲ以テシ鎖港ヲ云フ者ハ自ラ韓岳ニ比ス是ニ於テ外人憤怒シ兵威ヲ以テ相劫カシ我海岸ニ寇シ我藩籬ヲ亂シ我國權ハ彼ノ殺ク所トナリ我威力ハ彼ノ凌ク所トナリ神州ノ陸沈命脈ノ絕エサル一線ノ千鈞ニ懸クルカ如シ外人ノ跋扈跳梁殆ト復制ス可カラサルニ至ル然シテ其原ヲ尋ヌレハ幕府ノ失體ヨリ起ルト雖モ當時慷慨自ラ任セシ士人ノ躬親ラ招ク所ノモノ多キニ居ル其瘡ヤ深ク其痍ヤ大ニ瘡痍未タ全ク癒エス國辱未タ全ク雪メス慷慨有志ノ士ノ深ク當年ヲ浩歎スル所ナリ當時我主君京師ヲ護衞シ先帝ノ殊遇ヲ蒙リ佐久間象山横井沼山諸名士ノ言ヲ納レ上攘夷ノ非計ヲ諫メ下狂暴ノ輕擧ヲ戒ム然ルニ朝臣××××
×××××××××××××××××××××
×××××××××××××××××××××
×××××××××××××××××××××

×××××××××××××××××××××
×而シテ外ハ各國兵威ヲ恃テ約ヲ責ムルヿ秋霜ヨリモ嚴ナリ抑々英人ノ禍心ニ出ツルモノ多シ當時若シ米國公使巴理斯君カ公平無私ノ心ヲ以テ其間ニ周旋彌縫スル無カリセハ我神州ハ印度タラスンハ安南タランノミ外虞此ノ如ク殷ニ內難亦此ノ如ク荐ナリ而シテ幕府三百年承平ノ後ヲ受ケ政苟且ニ流レ兵勢振ハス財政亂レ大勢已ニ去リ亦挽回スヘカラサルニ至レリ是レ國家存亡ノ關スル時ニ當リ豈毀譽成敗ヲ顧ミルニ遑アランヤ故ニ我公決意京師ヲ以テ墳墓ノ地ト定メ上ハ公武ノ軋轢ヲ調和シ下ハ內亂ノ禍機ヲ撲滅セントシ奮テ之ニ當ルモ臂弱ク負荷ノ重キニ堪ヘス且ツ州人勇アレトモ謀寡ク剛直ニシテ變通ニ暗ク孤忠公武ノ間ニ介立シ事違ヒ志空ク徒ニ天下ノ憫笑スル所トナル慨ニ勝フ可ケンヤ偶々先帝崩御シ大樹亦繼テ薨ス將軍慶喜公英才ヲ以テ國步ノ艱難ニ當リ侯伯ト舊怨ヲ解キ弊政ヲ除キ國權ヲ復シ以テ大ニ爲ス所アラント欲ス然レトモ病膏肓ニ入リ復タ之ヲ如何トモスル能ハス遂ニ大政ヲ奉還セラレ繼テ我公亦職ヲ失ヒ京師ヲ退クニ至ル而シテ當時世人却テ我ヲ責ムルニ覇府ヲ保庇シ維新ノ帝業ヲ妨クルモノトナシ朝廷我ヲ罪スルニ禍心ヲ包藏

シテ帝命ニ抗スルモノトナシ哀願途絶ニ愁訴計窮リ錦旗東征大軍我境ヲ壓ス時ニ一二兒奸ノ輩アリ我家財ヲ掠メ我婦女ヲ殘シ降人ヲ屠戮シテ殆ト王師民ヲ弔スルノ意ヲ失フカ如シ是ニ於テ我君臣皆以爲ラク此レ一二雄藩ノ陽ニ幼主ヲ擁シテ陰ニ私怨ヲ報スルノミト闔國捍禦春ヨリ秋ニ至リ孤軍百戰刀折レ矢盡キ敵兵遂ニ城下ニ迫ル我將士枕籍死スルモノ麻ノ如ク瘠者空拳ヲ揮テ敵兵ニ抗シ手斷チ足碎ケテ地ニ斃ルレ𪜈目ヲ瞋ラシ齒ヲ切シ敵兵ノ進路ヲ遮リ頭足處ヲ異ニシ血流レテ杵ヲ漂スニ至ルモ猶ホ敵ニ抗スルノ狀ヲ爲サヽルモノナシ當時年少ノ一隊アリ白虎隊ト云フ年約十六七皆良家ノ子弟ナリ此日初メテ陣ニ臨ミ驕勝ノ兵ト戰ヒ衆寡敵セス死傷略ホ盡キ餘ス所僅ニ十六人奔テ一丘ニ上リ瘡ヲ裹ミ血ヲ歠テ憩フ少焉アリテ城市火四ニ起リ砲丸樓櫓ヲ焚ク皆以爲ラク城陷リ大事去矣ト乃チ西向再拜シテ曰ク今ヤ刀折レ弦絶シ臣等カ事終ル苟モ生ヲ偸テ以テ君ニ背カスト相訣別シ刃ヲ引テ自殺ス眞ニ憐レム可キナリ然レ𪜈大丈夫尸ヲ馬革ニ裹ムハ伏波ノ壯語亦壯士ノ常ノミ何ソ之ヲ嗟カンヤ唯酸鼻心ヲ刺シ目見ルニ忍ヒス耳聞クニ堪ヘサルモノハ婦女ノ操烈國家ト共ニ亡フル者擧ケテ數フ可カラサルナリ今ニシテ其慘狀ヲ懷ヘハ茫トシテ夢ノ如ク恍トシテ幻ノ若ク覺エス涙下ルナリト蓮

「紅忍ヒス傍ヨリ悲聲ヲ發シ問テ曰ク郎君ノ家幸ニ其慘禍ヲ免レシカト散士涙ヲ飲ミ更ニ語ラント欲シテ語ル能ハサルモノ數回胸結ヒ心塞ル稍クニシテ涙ヲ攪シ告テ曰ク其年八月二十二日勝軍山（會城ノ東七里ニ在リ要害ノ地ナリ）ノ敗報到リ士民呼テ曰ク敵軍飛來城下ニ迫ルト時ニ散士三兄一弟アリ慈母小弟ヲ一僕ニ託シ涙ヲ揮テ遠ク去ラシム蓋シ深意ノ存スル有リ大兄ハ軍ヲ監シテ越之後州ニ戰ヒ轉戰シテ城下ニ傷キ仲兄ハ野州ニ戰沒シ小兄ハ兵ヲ督シテ境上ニ拒ク家翁疲兵ヲ勵マシテ郭門ニ戰テ傷キ叔父亦客兵ヲ督シ瘡痍ヲ裹ミテ猶激戰ス曉雨濛濛日色光ナク砲聲轟轟叫聲天ニ震フ散士時ニ尙ホ幼ナリ猶ホ一矢ヲ敵ニ放テ死セント欲シ跪テ家人ニ訣別シ覺エス顏色凄愴タリ慈母叱シテ曰ク汝幼ナリト雖モ武門ノ子ナリ能ク一敵將ヲ斬リテ潔ク尸ヲ戰場ニ暴シ家聲ヲ損スコト勿レト散士奮テ蹶起ス家人送テ門ニ至ル祖母呼テ曰ク汝ヲ泉下ニ待タント姉妹呼テ曰ク努力セヨト涙ヲ掩フ嗚乎痛哉百年ノ恩情永訣言茲ニ盡矣家人神前ニ聚リ香ヲ燒キ祖先ノ靈ニ告ケテ曰ク事已ニ此ニ至ル亦言フヘキナシ苟モ餘生ヲ亂離ノ間ニ偸テ侮インヨリ寧ロ潔ク國家ニ殉シ死シテ父兄ヲシテ顧慮ノ累ヲ絶タシメ以テ三百年來養生セシ士風ヲ表明スル眞ニ此時ニ存ス只タ恨ムラクハ我公多年ノ孤忠空ク水泡ニ屬シ反賊ノ臭名ヲ負フヲ是レ終天ノ憾ミ海枯レ山飜ルモ消シ難シト妹時ニ五歳ナリ慈母謂テ曰ク敵兵已ニ我家ニ迫ル今汝ト泉下ニ趣キ以テ父兄ヲ待タントス聞ク地下途暗シト今我一族皆亡フ人ノ又香火ヲ供スルナシ汝州抱持シテ其途ニ迷離スル勿レト火ヲ放テ從容義ニ就ケリ噫悲哉ト坐人皆歔欷嗚咽ス散士言ヲ續テ曰ク孤軍重圍ノ中ニ陷リ硝焰空ヲ覆ウテ日光ナク風雪膚ヲ刺シテ糧餉已ニ盡キ士卒日ニ傷亡シテ外ニ援兵ナク孤城ヲ以テ天下ノ大軍ニ抗スル三旬遂ニ降旗ヲ建ツ是役ヤ婦女ノ竊ニ軍ニ從ヒ死傷スルモノ多シ一婦アリ其良人父兄ト皆戰沒スルヲ聞キ手ツカラ老姑ト一子トヲ刃シ辭世一首ヲ詠シテ曰ク

識るや人まもるにたえて家も身も
やくやほのほの赤きこゝろを

ト火ヲ放テ自殺ス一姫アリ一藩降ルト聞キ憂憤指ヲ嚙テ壁上ニ血書シテ曰ク

君王城上建降旗。妾在深宮何得知。

ト宮前ノ松樹ニ縊ル又一婦アリ月明ニ乘シ笄ヲ以テ國歌ヲ城中ノ白壁ニ刻シテ曰ク

明日よりはいつくの人かなかむらん
なれし大城にのこる月影

ト髪ヲ薙テ死者ノ冥福ヲ祈レリ士卒モ憤恚自殺スルモノアリ主將諭シテ曰ク空シク死シテ名ヲ滅センヨリハ恥ヲ忍ヒ生ヲ全ウシテ一旦外患アルノ日誓テ神州ノ爲メニ生命ヲ鋒鏑ニ委シ而シテ是非正邪ヲ死後ニ定メンニハ若カスト是ニ於テ一藩恨ヲ忍ヒ涙ヲ呑ミ轅門ニ降ル我公ハ檻車京ニ送ラレ將士ハ東西ニ虜トナリ幽囚數歲俗吏ニ罵ラレ獄卒ニ辱メラレ後又極北ノ荒野ニ放謫セラレ悲風蕭殺牧馬夜嘶キ飢テ山下ニ蕨薇



（原本插畫）　會津城中烈婦和歌ヲ遺スノ圖

ヲ掘リ窮シテ海濱ニ海藻ヲ拾ヒ以テ餘生ヲ保チ迍邅竄斥猶ホ悔イサル所以ノモノハ他日我帝國ノ爲メニ鞠躬命ヲ致シ往年ノ志ヲ天下後世ニ伸ヘ死者ニ泉下ニ謝セント欲スルノミ今ヤ外人禍心ヲ包藏シ神州ヲ蔑視シ淸ハ猥ニ自ラ尊大我ヲ輕シテ鄰交ニ信ナク俄獨ハ勢威ヲ頼テ驕傲シ英佛ハ狡智ニ老ケテ蕩逸シ我ニ飮マシムルニ美酒ヲ以テシ我ニ贈ルニ翠羽ヲ以テス其酒其羽往往鴆毒ノ製スル所我士民之ヲ受ケテ而シテ未タ疑ハス所謂此レ毒藥ヲ甘餐シ猛獸ノ爪牙ニ戲ルモノナリ只タ恐ル邦ノ爲メニ侮ヲ取ランコトヲ且ツ彼口ニ仁義ヲ誦シテ桀虜ノ行アリ表ニ天道ヲ說テ裏ニ豺狼ノ慾ヲ懷ク亞細亞北部ハ彊俄ノ爲メニ幷セラレ南方印度ハ英王ノ臣妾トナリ安南ハ佛國ニ隸屬シ土耳其淸國モ亦萎微既ニ已ニ亡滅ノ運ニ傾ケリ鳴乎鯨鯢浪ヲ蹴テ東洋ヲ縱橫シ豺狼食ヲ求メテ戶外ヲ窺フ仰テ殷鑑ヲ覽テ千歲ノ憂ニ堪ヘサルナリ加之ナラス我人民開明ノ域ヲ愛シ自由ノ里ヲ慕ヘトモ之ニ達スルノ道ニ迷ヒ腐言邪說取捨スル所ナク枉ヲ矯メ却テ直ニ過キ祖宗百年ノ良法ヲ破毀シ工農數世ノ組織ヲ撲滅シテ顧慮スル所ナク輕佻浮薄強辯ニシテ能ク談シ米ヲ模シ歐ヲ擬シ徒ニ理論ニ奔テ實業ヲ勉メス政令ニ抗シテ自由ノ伸暢ト誤リ橫議罵詈シテ民權ノ朋黨ト誇リ以テ世俗ノ好ニ投シ譽ヲ當世ニ求メンコヲ務メ後世識者ノ譏ヲ顧ミス虛ニ吠エ臭ヲ逐フノ徒靡然響應シ士風壞頹德義地ヲ拂ヒ朝ニ民權ヲ主唱セシ者夕ニ官權ヲ呼號シ甘ンテ轅下ノ駒トナリ士ニ常操ナク議ニ確論ナシ甚矣哉士ノ節義ヲ失フヤ黃金ノ爲メニ其說ヲ變シ詐術權謀互ニ相傷ケ忌嫉姦計徒ニ相仇シ善惡成敗ニ陷リ毀譽勢利ニ脅サル是ニ於テ輕薄干紀ノ輩姦智ヲ役シテ以テ之ニ乘シ良民困頓シテ姦徒蕩逸シ禮教彫衰士民其所ヲ失ヒ生ヲ救フノ急ナル卑利是レ務メ廉恥ノ心月ニ消シテ貪婪ノ慾日ニ增シ遂ニ護國ノ大義ヲ忘レ體ヲ毀リ身ヲ傷ケ以テ兵役ヲ避ク數百年來薰陶セシ埋輪（東漢ノ末路[illegible]臣冀不疑等政ヲ專ニシ使者八人ヲ遣シテ州郡ヲ分行シ以テ民情ヲ視察セシム張綱獨リ其車輪ヲ洛陽ノ都亭ニ埋メテ曰ク豺狼道ニ當ル安ンゾ狐狸ヲ問ハンヤト）ノ士風數年ニシテ地ヲ拂ヒ王門ノ伶人（戴逵字ハ安道少シテ文藝アリ琴ヲ善クス大宰陵王人ヲシテ之ヲ召サシム逵使者ニ對シテ琴ヲ破テ曰ク戴安道ハ王門ノ伶人ト爲ル能ハスト）タルモノ比比皆然リ是ニ於テ風尙愈〻薄ク賄賂漸ク風ヲ爲シ富者ハ妾ヲ買ヒ媵ヲ納レ貧者ノ子女醜行ヲ愧チス鄙情贅行世教ヲ壞リ家聲ヲ汚ス志士之ヲ見テ心ヲ傷メ舊老之カ爲メニ流涕ス賦稅年ニ多キヲ加ヘ而シテ民力未タ伸ヒス中央集權重キニ過キ地方其鈞ヲ失ヒ帝京ニ非サレハ事ヲ起シ名ヲ擧クル能ハス悠悠タル奔競ノ士政府場外ニ別ニ名利ノ餘地アルヲ覺ラス皆官途ニ狂

奔シテ偏ニ租税ニ衣食センコヲ願フ其弊ヤ限リナキ饕餮ノ徒限リアルノ官途ヲ啈望シテ已マス恆産ナキノ民ハ窮路ニ怨泣シテ適從スル所ナク禍機陰伏病肺腑ニ入リ浮言相動シ漸ク大計ヲ遺レントス殊ニ知ラス日本固有ノ國權ハ歐人ノ爲メニ奪ハレ吾人幸福ノ利ハ外商ノ爲メニ殺カルルヲ散士ヲ以テ之ヲ見レハ方今焦眉ノ急務ハ十尺ノ自由ヲ內ニ伸ハサンヨリ寧ロ一尺ノ國權ヲ外ニ暢フルニ在リ噫×××××××××××
××××××××××××××××××××
××××××××××××××××××××
××××××××××××××××××××
××××××××××××××××××××
××××××××××××××××××××
××××××××××××××××××××
××××××××××××××××××××
××××××××××××××××××××
××××××××××××××××××××
×××××××××××××悠悠不斷歲月ヲ經過セハ必スヤ今ヲ以テ舊幕ノ末路ヲ見ルノ恨アラシメン嗚乎此大難ヲ救濟挽回スルノ策果シテ如何セン上下小怨ヲ棄テ舊惡ヲ捨テ私心ヲ去テ公議ニ從ヒ游員ヲ去リ冗費ヲ減シ內結外競ノ志操ヲ勵マシ國權恢復ヲ以テ各ミ自ラ任シ國家ハ盛運ヲ以テ自ラ期シ外人ノ移住ヲ奬勵シ外國ノ資本ヲ利用シ古來國人カ漫ニ官爵ヲ重シテ天爵ヲ輕シ淸貧ニ傲テ商利ヲ賤ムノ陋習ヲ破リ農桑ヲ課シ工商ヲ進メ海運ヲ隆盛ニシ以テ沿海ノ航權ヲ保護シ鐵路ヲ縱橫ニシ以テ內地ノ交通ヲ便ニシ四民心ヲ一ニシ耐久努力セハ厄運漸ク去リ自由始メテ伸ヒ國家ノ富强文明ハ期シテ待ツヘキナリ然リト雖モ今日ノ域中ヲ看ルニ我國ノ士人志遠大ナラス多クハ小成ニ安シテ歌舞遊蕩闘碁抹茶ニ耽リ書畫骨董ヲ玩ヒ以テ一日ノ富貴ヲ偸ミ唯一二州人ノ歡心ヲ得ルヲ務メ私怨ノ爲メニ公道ヲ忘レ情義ノ爲メニ庸人ニ任ス米人カ能ク私心ヲ捨テ公議ニ據リ國家ノ爲メニ盡スノ心肝ニ照セハ天淵モ啻ナラス吾人實ニ忸怩スルニ堪ヘサルナリ是レ散士カ日夜胸臆ニ積テ國家前途ノ大計ノ爲メニ悁悒憤懣スル所以ナリ天道ハ果シテ是カ非カ散士深ク之ヲ疑フト一座歎息之ヲ久ウス

時ニ金烏既ニ西岳ニ沈ミ新月樹ニ在リ夜色朦朧タリ少焉アリテ皓彩庭ヲ照シ淸光戸ニ入ル幽蘭靜ニ起チ窓ヲ開テ曰ク光景畫クカ如ク郎君幸臨ス欄外風淸ク花香人ヲ襲フ良夜空ク度リ難ク盛會再ヒ期ス可カラス徒ニ相對泣スル亦何ノ益アランヤ氣ヲ鼓シ勇ヲ奮ヒ歌舞吟咏自ラ寬ニスヘシト顧ミテ紅蓮ニ謂テ曰ク汝小琴ヲ奏セヨ我ハ大琴ヲ彈セント散士カ曰ク麥須兒ノ嗷詩佛國報國ノ詩ニシテ歌フ者氣躍リ心激ス今淸人王紫詮カ譯スル所ヲ記ス

法國榮光自レ民著。爰擧二義旗一宏建樹。
母號妻啼家不レ完。淚盡詞窮何處訴。
吁王虐政猛二於虎一。烏合爪牙廣招募。
豈能復覩二太平年一。四出搜羅困二奸蠹一。
奮レ勇興レ師一世豪。報レ仇寶劍已離レ鞘。
進レ兵須レ結二同心誓一。不レ勝捐レ軀義並高。
維今暴風已四播。孱王相繼民悲咤。
荒郊犬吠戰聲哀。田野蒼涼城闕破。
惡物安能著二眼中一。募レ兵來往同相佐。
禍流二遠近一惡貫盈。罪參在レ上何從赦。
奮レ勇興レ師一世豪。報レ仇寶劍已離レ鞘。
進レ兵須レ結二同心誓一。不レ勝捐レ軀義並高。
維王泰侈弗レ可レ說。貪婪不レ足レ爲二殘賊一。
攬レ權怙レ勢谿壑張。如下納二象軀一入中鼠穴上。
驅二使我民一若二牛馬一。瞻二仰我王一途二日月一。
維人含レ靈齒髮儔。詎可二鞭笞日摧缺一。
奮レ勇興レ師一世豪。報レ仇寶劍已離レ鞘。
進レ兵須レ結二同心誓一。不レ勝捐レ軀義並高。
我民秉レ政貴二自主一。相二聯肢體一結二心膂一。
脫二身束縛一在二斯時一。奮二發英靈一振二威武一。
天下久已厭二亂離一。詐欺相承徒自苦。
自主刀鋒正犀利。安

得ン智驅而術取ルヲ一奮ニ勇興スヲ師ヲ一世豪ノ。報レ仇ヲ寶劍已ニ離レ鞘ヲ。進メ兵ヲ須ク結フ同心誓ヲ。不レ勝タ損レ軀ヲ義並ニ高シ。

可ナランカ妃カ曰ク諸哉願クハ郎君之レヲ和セヨト妙音丹脣ニ發シ哀聲皓齒ニ激シ二八迭ニ奏シ心激シテ手敏ク纖指ヲ飛ハシテ以テ馳セ鶩セ琴聲劉亮怨ムカ如ク訴ルカ如シ淸響忽チ變シテ牢落凌厲逸氣奮涌繽紛交錯ス四坐唱和スル數回范卿更ニ古詩ヲ朗吟ス散士之ニ和ス其詩ニ曰ク

今日良宴會。歡樂難ニ具陳一。彈レ箏奮ニ逸響一。新聲妙入レ神。令德唱ニ高言一。識レ曲聽ニ其眞一。齊心同レ所レ願。含意倶未レ申。人生寄ニ一世一。奄忽若ニ飇塵一。何不下策ニ高足一。先據中要路津上。無爲守ニ窮賤一。轗軻長苦辛。

義氣紛紛雄心四ニ滿ツ幽蘭彈ヲ止メ散士ノ手ヲ執リ起テ舞踏ス歌舞相龍テ各々玉觴ヲ擧ケ成功ヲ禱リ而シテ壽ヲ賀ス悲愴ノ念稍々散シテ豪慨ノ情眉宇ニ溢ル散士乃チ曰ク古人云フ良辰佳景賞心樂事四ノモノ並ヒ得難シト今盡ク期セスシテ偕ニ至ル意氣初メテ壯ニ胸襟豁如タリト幽蘭カ曰ク肝膽相照シ氣概相投ス各々新ニ一賦ヲ製シ懷フ所ヲ歌ウテ以テ懷抱ヲ寫サハ如何ト皆曰ク善シト是ニ於テ思ヲ籌シ時ヲ移ス幽蘭先ツ成ル徐ニ琴ヲ撫シ歌テ曰ク

春風吹テ兮水孱孱。白雲散シテ兮月團團。室ニ有レ賓兮臭如レ蘭。坐ニ有レ朋兮吐ニ心丹一。五絃彈シテ兮中情歎。悲歌唱テ兮髮衝レ冠。乘シテ風雲ニ兮冲ニ九天一。潛龍躍テ兮還ニ胡淵一。

紅蓮亦琴ヲ彈シテ歌テ曰ク

淸夜會シ良友ニ。花下酌ム芳罇ヲ。春雁向テ北ニ翔リ。遙遙トシテ煙樹昏シ。落花隨レ風擺ケ。翩翩トシテ敷ク庭園ニ。殘春看ス將ニ盡ント。難レ挽ノ日月ノ奔ルヲ。臂弱ク不レ堪レ戈ニ。幽憤空ク含ム寃ヲ。國仇未タ全ク雪カ。甘心思フ喪フヲ元ヲ。情悲ミテ絃聲急ニ。和スカ我慷慨ノ言ニ。

范卿庖丁ヲ揮ヒ朗朗トシテ歌テ曰ク

二十年前跨ル征鞍ニ。鐵衣血痕猶未タ乾カ。當時私ニ期ス淮陰ノ印。今日纔ニ受ク漂母ノ餐。市井ノ年少輕ニ侮シ我ヲ。來往指シテ辱フ呼テ尭顚ト。胸中ノ奇計向テ誰ニ語ラン。髀裏肉生シテ鬢將ニ斑ナラントス。聞説ク范增年七十。猶ホ會シテ風雲ニ濟フト時ノ艱ヲ。王侯將相何ソ有ラン種。大澤豈ニ無カランヤ蟠龍ノ蟠ル。悲歌慷慨起テ劍舞ス。落花紛紛撲ツ欄干ヲ。

散士花瓶ノ座隅ニ在ルヲ執リ擊テ歌テ曰ク

討テ閑ヲ棹ス滄浪ニ。飄然トシテ入ル仙郷ニ。幽蘭秀テ通シ谷ニ。淸香引ク鳳凰ヲ。紅蓮映シ綠池ニ。淡影鎖ス鴛鴦ヲ。仙妃撫シ鳴琴ヲ。餘音空ク斷腸。客擊ツ漸離ノ筑ヲ。哀響涙霑ス裳ヲ。意氣談シ平生ヲ。慷慨説ク興亡ヲ。功業未タ及ハ建ルニ。雄心轉タ悲傷ス。好シ取ト萬斛ノ憂ヲ。淸酌付ス一觴ニ。

紅蓮杯ヲ擧ケ散士ニ謂テ曰ク好作郎君更ニ一杯ヲ重ネヨト散士辭セス之ヲ受ケ笑テ范卿ニ謂テ曰ク僕ノ詩尤モ惡ク尤モ後ニ成ル罰杯甘スル所ナリト紅蓮カ曰ク郎君ノ至情自ラ詩賦ニ顯ル故ニ之ヲ賀スルノミト散士敢テ其故ヲ問フ紅蓮微笑シテ壁上ノ扁額ヲ指シテ曰ク幽蘭ノ淸香能ク鳳皇ヲ引クトモ紅蓮ハ空ク淡影ノ中ニ鎖サレテ顧ミルモノナシト散士云フ所アラントス紅蓮聞カサルマネシテ急ニ大絃ヲ奏シ以テ散士ノ語ヲ亂シ高ク終命ノ詩

魯國大學ノ諸生書ヲ魯帝ニ奉シテ立憲公議ノ政ヲ促ス魯ノ君相事ヲ左右ニ託シ以テ書生ノ政談ヲ禁壓ス是ニ於テ彼レ激昂言語頗ル魯帝ヲ犯シ爲メニ獄中ニ繫カレ僅ニ二十三年ノ星霜ヲ以テ空ク朝露ト消ニ其刑場ニ臨ムノ前終命ノ長篇ヲ牢壁ニ血書ス其唱歌ニ曰ク

夜靜ニシテ漏聲響キ。窓暗クシテ月色靑シ。是非ハ蓋テレ棺定ル。笑テ爲ニ自由ノ瞑ス。

ヲ歌フ初メハ鶯音ノ幽谷ヨリ發スルカ如ク終リハ秋雁ノ沙北ニ叫フカ若ク宮商響切ニシテ悲歌雲際ニ徹シ蓄思ノ悱憤ヲ舒ヘ久結ノ纏綿ヲ奮

フ范卿歌ヲ聽キ慷慨案ヲ拍テ曰ク俄國ハ禮義ヲ棄テ首功ヲ尊フノ國ナリ獰虎ノ嵎ヲ負ヒ餓鷲ノ雲間ニ翔ルカ如シ六國曾テ合從黒海ヲ踰エ濟城ヲ陷レ大ニ彼ノ驍鋒ヲ挫クモ久シカラスシテ彼レ黒海ノ盟ヲ破リ驕傲陸梁控弦百萬騎卒雲ノ如ク教法ヲ權リテ以テ呑噬ノ助トナシ西波蘭ヲ滅シ南ハ燕趙ヲ窺ヒ旗ヲ五天竺ノ境ニ飜ヘシ北樺太ヲ併セ東馬ヲ鴨綠江ニ飲シ高麗ノ半島ヲ呑マントシ外ハ列國ヲ侮リ内ハ帝命ニ傲リ憑陵險遠兵ヲ弄シテ盤桓シ寒帶ノ地ニ據リ氷雪ヲ頼テ以テ固トナシ以テ萬世ニ帝タラント欲ス是レ猶ホ魏ノ武侯カ却テ河山ヲ指シ以テ自ラ強大ナリトシ殊ニ物ニ與亡アリテ毛羽零落ノ漸アルヲ知ラサルカ如シ彼レ未タ覺ラス猶ホ朝權ヲ制シ威福己レニ由リ刑戮口ニ在リ愛スル所ハ五宗ヲ光ラシ惡ム所ハ三族ヲ滅シ。公議スル者ハ顯誅ヲ受ケ。腹議スル者ハ隱戮ヲ蒙リ百寮口ヲ鉗ミ道路目ヲ以テス志士悲憤ノ聲貧民怨嗟ノ色アレハ酷刑假ナク連累極リナク胥纎蹊ニ充チ坑穽路ニ塞リ手ヲ擧クレハ網羅ニ挂リ足ヲ動セハ機陷ニ觸レ忠臣名士ノ罪ナクシテ極北ノ氷野ニ放謫セラレ幽暗ノ鑛獄ニ鞭役セラレ悲痛憤憂恨ヲ呑テ霜雪ト共ニ滅沒スル者其幾千萬ナルヲ知ラス天下爲メニ寒心ス是ニ於テ海内無聊ノ民魯都怨嗟ノ士蜂ノ如ク起リ蟻ノ如ク群リ遂ニ慘逆ノ敗アリ永ク世ノ鑑ト爲ル新王即位猶ホ未タ悟ラス侍臣正言セス苛政慘刑全ク其禁ヲ解カス君見スヤ如今俄人ノ惡虐暴戾ナル無辜ノ猶太人ヲ殺戮スル十萬火ヲ放テ其家ヲ燒キ人ヲ殺シテ其財ヲ奪ヒ白日路上其父兄ヲ屠殺シ其妻女ヲ淫姦シ妖孽暴戾逆賊李自成以來曾テ聞カサル所ナリ俄帝之ヲ知テ禁セス鎭臺兵ヲ擁シテ救ハス縣吏傍觀坐視ス無道ノ帝元惡ノ臣ト語益〻將ニ激セントス幽蘭急ニ之ヲ止メテ曰ク范卿復タ感慨ノ談ヲナシ一坐ヲシテ再ヒ悲愴ノ情ヲ起サシムルコ勿レ故國ヲ追ハレ父母ヲ亡ヒ兄妹ニ別レ山河萬里ノ客土ニ飄流シ米人ノ仁憐ニ頼リ西費ノ橋畔ニ寓スル窮艱ノ猶太人ヲ見ルモノ誰カ斷腸ノ憾ナカラン俄人ノ暴戾虐無黨ノ悖逆天人共ニ怒ル所若シ其非ヲ改メスンハ必ス共ニ天殃ヲ受ケント首ヲ回シ遙ニ費府ヲ指シテ散士ニ謂テ曰ク一灣描クカ如ク萬家煙ノ如ク風清ク月白ク庭柯霜ヲ帶フルカ若シ恰モ秋夜觀月ノ景色ニ殊ナラスト散士一詩ヲ微吟シテ曰ク

據丘臨水一層樓。中有人擧楚囚。
夜冷蟲聲聲續。月高費府萬家秋。

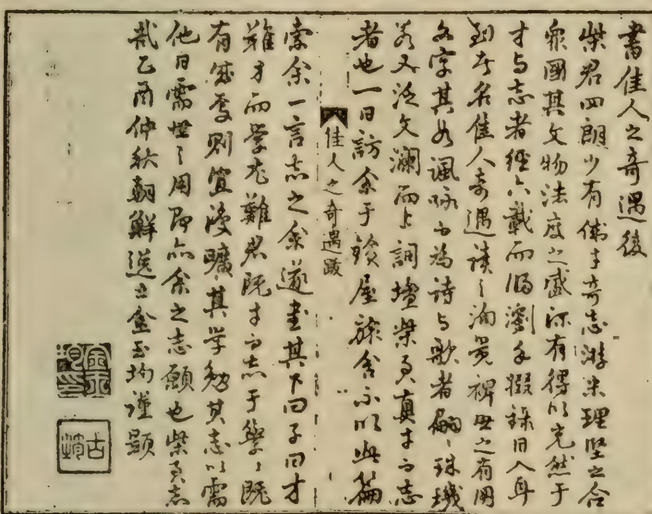
ト是レ僕カ昨朝作ル所ナリ時ニ僕費府外ノ一江村ニ僑居シ世務ノ風塵ヲ避ケテ讀書ニ汲汲タリ一夜風靜ニ霜寒ク明月清冷江水ト相映シ旅寓荒涼實ニ秋感ニ堪ヘス聊賦シテ以テ懷ヲ述フルノミ却テ君カ當時ノ狀ヲ寫スニ似タリト皆曰ク何ソ郎君ト相見ルノ遲キヤト范卿カ曰ク僕希クハ瑤韵ヲ次カント即吟シテ曰ク

萬里沈淪老客樓。國亡家滅恰幽囚。
相逢相語當年事。春月朦朧恨似秋。

坐人感歎之ヲ唱和ス進興愈〻加ハリ夜色殊ニ靜ニ湘妃漢女更〻杯ヲ勸メ金樽翠爵散士カ爲メニ斟酌シ紅蓮玉簫ヲ吹キ范卿鳳笙ヲ鼓ス散士槃ヲ撃テ之ニ和シ幽蘭起テ舞フ翩兮驚鴻ノ若ク矯兮游龍ノ如ク輕塵羅襪ニ生シ鳳鬟鬖鬖タリ心搖搖トシテ醉ヒ易ク醉眼花ヲ生シ顏赤ク耳熱シ幽蘭紅蓮モ亦微醉シ笑語情調殊ニ濃ニ秋波斜ニ通シ美鬢花ヲ凝ラシ玄眉弛テ鉛華落チ亂髮ヲ收メ華裳ヲ褰ケ幽蘭散士カ右ヲ執リ紅蓮散士カ左ヲ攜ヘ階ヲ下テ共ニ庭園ニ歩ス紅露衣ヲ沾シ芳香人ヲ襲ヒ落花狼藉柳影纎ルカ如ク明月澄清列宿參差雲無ク風靜ニシテ溪水煙ノ如シ漢皇カ城ヲ傾ケ楚王カ雲トナル愛戀ノ情人ヲ惱ス何ソ夫レ深キヤ是ニ至テ益〻古人ノ我ヲ欺カサルヲ知リ仰テ雲漢ヲ窺ヒ伏シテ人事ヲ顧ミ天地盈虧ノ數人生盛衰ノ理ニ感シ二妃ニ謂

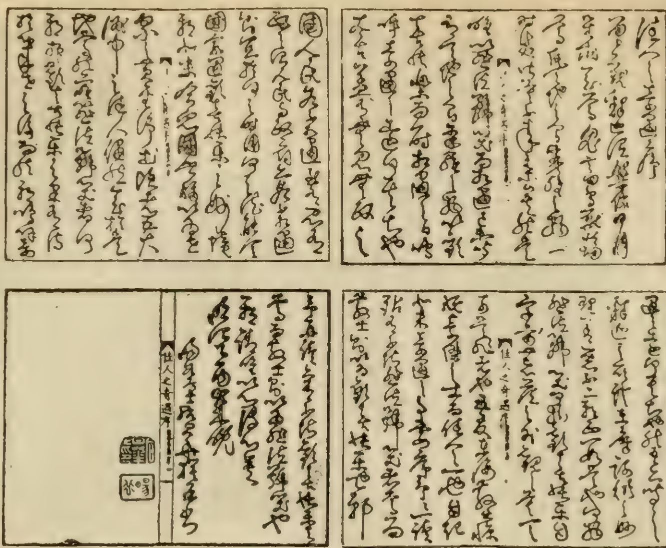
テ曰ク鈞天ノ廣樂再シ難シ試ニ見ヨ茫茫タル宇宙ノ大煌煌タル星辰ノ限リナキ造化ノ妙之ヲ中空ニ懸ク聞ク光線ノ速ナル一時數百萬里ヲ奔ルモ猶ホ星光ノ我ニ達スルノ日月三歳ヲ經ルモノアリト漫漫タル南溟八千里天高ク地厚ク後世億萬年ニ垂ル、モ猶ホ此世界ノ命數ヲ以テ彼茫茫限リナキ宇宙ニ比セハ滄海ノ一滴ニ齊シ吾人ヲ以テ天地ノ大ニ比セハ其數果シテ如何ソヤ故ニ天文ノ數ヲ窮メ玄玄ノ理ヲ講セハ吾人ヲシテ茫然失フ所アラシム況ヤ造化ヨリ之ヲ見レハ各國兵ヲ構ヘ功名相競フハ眞ニ蝸牛角上ノ爭ニ異ナラサルヘシ老子ノ玄道釋氏ノ寂滅至微玄妙吾人ヲシテ迷ハシムルモ故ナキニ非ス古人燭ヲ秉テ夜遊フ良ニ故アルナリト幽蘭カ曰ク悲極テ歡樂生シ歡樂極テ哀情多シト今歡樂將ニ盡キントス亦悲哀ヲ生スル勿ランカ且ツ夜將ニ五更ナラントス郎君須ク寢ニ就ク可シト散士ヲ誘ヒ西樓ニ登テ曰ク是レ郎君ノ好夢ヲ結フ處ナリ明朝復タ相見ント握手ノ禮ヲ行ヒ微笑シ去ル散士乃チ獨リ房ニ入ル輕衾空床ヲ覆ヒ殘月幽房ヲ照シ枕ニ就テ眠ル能ハズ恍惚之ヲ久ウス既ニシテ羽檄ノ馳スヿ星ノ如ク鞞鼓ノ聲雷ノ如ク烽火邊亭ニ列シ旗幟原野ニ連リ千軍萬馬馳驅奔走砲煙天ニ漲リ劒花地ニ閃キ槍銃交ミ接シ喊叫互ニ振フ我軍利ヲ失ヒ敵軍勢ニ乘シ水陸京城ニ迫ル我將士殊死シテ戰ヒ呼聲山嶽ニ震フ敵軍振動キ全軍亂ル忽チ流彈アリ來テ散士ガ胸ヲ洞シ流血淋漓地ニ仆レ氣息奄奄水ヲ求メテ得ス須臾ニシテ美人アリ博愛ノ旗ヲ揮ヒ矢石ノ間ヲ犯シ急ニ車ヲ下リ散士ヲ抱起シ呼テ曰ク郎君心ヲ安セヨ敵軍敗レ幽蘭侍焉ト忽然トシテ目ヲ開ケハ正ニ是レ一場ノ怪夢冷汗背ヲ濕シ胸中激動シテ猶ホ未タ止マス頭ヲ擧クレハ日已ニ高シ乃チ衣裳ヲ粧ヒ幽蘭ト相對シテ食ヲ執ル背上散士ヲ連呼スルモノアリ曰ク郎君妾ヲ捨テ去ル勿レト驚テ顧ミレハ籠中ノ白鸚鵡ナリ二姫相見テ咲フ紅蓮カ曰ク誰カ竊ニ鸚鵡ニ教ヘテ此語ヲ爲サシムルモノソト幽蘭俯シテ語ラス滿顏紅ヲ潮シ眉間羞ヲ帶フ流波ノ將ニ瀾タヽントシ露花ノ風ニ惱ムカ如ク躑躅トシテ安カラス紅蓮銀瓶茶ヲ煮テ茗ノ捧シ祝シテ曰ク茗花吉兆アリ兩賢ノ爲メニ之ヲ賀スト散士カ曰ク昨夜惡夢ヲ結ヒ今朝吉祥ニ逢フ知ラス其孰レカ是孰レカ非ナランヲ人間萬事塞翁カ馬(塞上翁馬ヲ失フ人之ヲ弔ス翁カ曰ク詎ソ福ト爲ラサルヲ知ランヤ數月ニシテ馬、胡ノ駿馬ヲ將テ至ルニ於テ人之ヲ賀ス翁カ曰ク詎ソ禍ト爲ラサルヲ知ランヤ其子馬ヨリ墮テ髀ヲ折ル人又之ヲ弔ス翁カ曰ク詎ソ福ト爲ラサルヲ知ランヤ後ニ胡兵大ニ入ル丁壯ノ者戰テ死スルヿ十カ九此子獨リ跛ノ故ヲ以テ父子相保テリ)ナリ後事豫メ期ス可カラスト幽蘭散士カ言ヲ聞テ於邑嗟歎シ沈默不樂ノ色アリ散士辭シテ曰ク迷テ而シテ桃源ノ仙妃ト游ヒ約セスシテ而シテ洛川ノ神女ニ過ヒ期セスシテ而シテ桃園ノ知己ニ會シ歡樂款情胸襟ノ快活殆ト言フ可カラス知己ノ過ヒ難キ古人ノ歎息スル所ナリ今ヤ萍水相逢フ盡ク他郷流離ノ人ニシテ一朝蓋ヲ傾ケ兄弟姉妹ノ情アリ豈奇遇ニ非スヤ假令ヒ世路多艱天涯驚別音耗久ク絶エ死生知リ難キモ此交情ハ泯フ可カラサルナリ豈彼ノ富貴輕薄ノ徒カ生死ヲ誓ヒ黄金已ニ盡キテ反目ノ人ト爲リ質ヲ委ネ臣ト稱シ人ノ爵祿ヲ受ケ厄運艱難ニ臨ミ君ヲ離レ國ニ負クノ輩一場ノ快樂ヲ貪リ偕老ヲ誓ヒ色衰ヘテ相捨テ背クカ如キ徒ナラン哉人情ノ尊フ所ハ信義ニ在リ苟モ實無クンハ其レ孰レカ之ヲ信セン重テ相見ン幸ニ珍重セヨト幽蘭漸ク愁顏ヲ擡ケテ曰ク郎君昨夜夢ニ凶兆アリト聞ク恐ラクハ復タ相見ルノ期ナカラント一滴ノ紅涙睫ニ滿ツ急ニ笑ニ託シ紅蓮ヲ顧テ曰ク我心慘トシテ悲傷シ惕トシテ憂鬱ス何爲レソ其レ此ノ如クナルヤト紅蓮幽蘭ノ背ヲ拊シ笑テ曰ク歐人ノ諺ニ曰ク愛ニ溺ル、者ハ心神迷フト今兩賢ノ才ヲ以テ癡人ノ夢ヲ說キ他日ノ吉凶ヲ卜スル兩情ノ意氣相投スルノ深淺ヲ測ルニ足ルト散士語ノ出ス所ヲ知ラス幽蘭亦咲ヲ含テ未タ答フルアラス紅蓮カ曰ク郎君遂ニ來

臨セヨ蓋シ郎君ノ交ハ風流ヲ以テ合ヒ義氣ニ據テ厚ク談スル所ハ聖賢ノ遺訓ニ非サレハ忠臣義士ノ遺行苦節ナリ吟咏スル所ハ慷慨悲歌ニ非サレハ古賢ノ遺音ナリ淑女君子ハ樂テ淫セスト是レ明哲ノ遺訓ナリ願クハ屢ミ往來シテ懐抱ヲ敍シ吾人ヲシテ悵然別離ノ歎ヲ抱カシムル勿レト散士カ曰ク淑女ノ言過褒散士敢テ當ル能ハスト雖モ屢ミ來往シテ淸誨ニ接シ交義ヲ厚ウスルニ至テハ散士ノ願フ所ナリト後七日ヲ約シ慇懃ニ手ヲ握テ訣別シ將ニ門ヲ出テントス幽蘭呼テ白薔薇一朶ヲ折リ散士ノ襟ニ挾テ曰ク郎君此花凋殘スト雖モ相棄テ去ル勿レト散士笑テ對テ曰ク只タ恐ル死花余カ手ニ殘リ解語ノ花ハ飛テ誰カ家ニカ向ハント幽蘭頭ヲ掉テ微笑スルノミ范卿舟ヲ艤シテ待ツ久シ散士禮シテ而シテ舟ニ上ル二妃呼テ曰ク郎君珍重必ス再訪セヨト散士帽ヲ脫シテ曰ク必ス重ネテ相見ント范卿纜ヲ解キ棹ヲ執ル散士回顧スルモノ數回遙ニ二妃ノ白巾ヲ揮テ遠ク相招キ空シク柳樹ノ下ニ立ツヲ見ルノミ范卿棹ヲ休メ流ニ任シ蹄水ヲ下リ共ニ東洋ノ衰頽ヲ憤リ興亞ノ策ヲ論ス范卿曰ク僕曾テ一良朋アリ文ヲ巧ニシ詩ヲ能クシ清國ノ不振ヲ慨シ朝庭ノ弊政ヲ憤リ正言憚ラス隱然改進ノ首唱タリ遂ニ朝吏ノ爲メニ忌マレ禍ヲ恐レテ難ヲ米國ニ避ケ曾テ賢武律地大學ノ博士タリ惜哉其人一朝病ニ臥シテ而シテ起キス溘然黄泉ノ客ト爲レリト散士が曰ク戈彦先生歟僕モ亦數ミ謦咳ニ接シ結交ヲ約シ他日大ニ東洋ノ爲メニ力ヲ盡サンコヲ盟ヘリ今良友ヲ失ヘリ哀哉余淸朝ヲ東ニ遷シ四百餘州ヲ三分シ競爭ノ志氣ヲ振起シ鴉片ノ鴆毒ヲ禁絕セハ淸人ノ元氣ハ擺揮シ英人カ兵威ヲ頼テ印度ヲ壓制スルノ財源ハ涸レン是レ興亞ノ端緒ナルヘシト而シテ其之ヲ爲スノ策ヲ語ル范卿驚テ曰ク是レ僕カ胸中ノ密計先生ト符合ス噫世豈臥龍鳳雛無カランヤ只タ艸廬三顧ノ先主ニ遇ヒ難キヲ奈何セント范卿カ計謀奇策歷歷聽ク可シ討論密議亹亹トシテ倦マス實ニ東洋得易カラサルノ俊才ナリ薄暮舟ヲ費府ノ東岸ニ着ス他日ヲ約シテ相別矣



（原本初編巻二　金玉均跋）

佳人之奇遇 貳編



(原本二編巻三後藤象次郎伯序)

佳人之奇遇 巻三

期日ニ至リ散士盛服粧飾シテ車ヲ驅リ蹄水ノ濱ニ至ル時ニ密雲雨ヲ帶ヒ西風面ヲ拂ヒ河伯躍リ憑夷叫ヒ波浪飄蕩舟ノ渡ル可キナシ怏怏トシテ岸上ヲ徘徊ス忽チニシテ黑雲四ニ塞リ急雨盆ヲ覆スカ如ク轉瞬ノ間衣裳盡ク沾フ乃チ轅ヲ回ラシテ寓居ニ歸ル此夜病ニ感シ終宵眠ル能ハス偏ニ昊天ノ無情ヲ怨ミ寂寞タル客舍愁人夜ノ長キヲ苦ミ人ヲ懷フ三秋ノ如シ魚腹ニ託シテ眷戀ノ情ヲ通セン乎遺臣ノ跡顯レ謀洩レンヿ是レ幽蘭ノ深ク消息ヲ戒ムル所ナリ越テ十有七日病少シク間ナリ即チ病痾ヲ勉メテ蹄水ニ臨メハ水鏡覺エス顏色ノ枯槁ヲ照ス歎シテ曰ク噫他ノ爲メニ憔悴此ニ至ルカ豈再ヒ相見ルヲ羞チサランヤト已ニシテ舟前岸ニ達ス乃チ幽蘭ノ居ニ至ル觀光形ヲ革メ百花盡ク零落シテ兎麥燕葵叢叢目ニ滿チ門徑ノ青草亂レテ人ノ除クナク門戶蕭條復タ應答スル者ナシ嗚乎嗚呼昨夕ノ游跡ハ果シテ夢カ將タ幻カ後會ノ續ク莫キヲ傷テ前事ノ追ヒ難キヲ悵ミ楊柳春風ノ院ヲ鎖シ梨花夜雨ノ門ヲ閉チ音容杳トシテ接スル靡ク心緒亂レテ紛紜タリ去ラント欲シテ去ルニ忍ヒス柳蔭ニ盤踞シテ徒ニ嗟嘆スルノミ忽チ見ル柳樹ヲ白レテ書スルモノアリ春蚓秋蛇僅ニ讀ム可シ曰ク

昔擁政殉二嚴遂之顧一。荆軻甚二燕丹之義一。意氣之間靡レ軀不レ悔。雖レ微レ達レ節謂二之可一レ庶。

一行ノ文字總テ鳥跡ナルヲ以テ心范卿ノ書スル所ナルヲ知ル然レ𪜈其何ノ故ナルヲ詳ニセス疑念交〻集リ彷徨之ヲ久ウス一傖父アリ年七十許竿ヲ肩ニシ岸ニ傍テ來リ揖シテ曰ク郎君ハ東海ノ遊子ニ非スヤ老奴ハ此屋ヲ守ル者ナリ二妃故有テ倉皇行裝ヲ束ネ過ル九日ヲ以テ此家ヲ發セリ去ルニ臨ミ一書ヲ託シテ曰ク他日劉郎來リ訪ハヽ幸ニ之ヲ呈セヨト乃チ懐ヲ探リ尺素ヲ與ヘ直ニ復タ竿ヲ負テ去ル散士披テ之ヲ讀ム其文ニ曰ク

慘ハ亂離ヨリ慘ナルハ莫ク悲ハ生別ヨリ悲キハナシ昊天弔セス災厄再ヒ臨ム阡飛鴻アリ告ケテ曰ク老父縛ニ就キ檻車西都ニ送ラルト妾之ヲ聞キ胸中割クルカ如ク情懐何ソ堪フ可ケンヤ乃チ將ニ單身虎狼ノ秦ニ赴キ老父ト死生ヲ俱ニセントス今一タヒ郎君ヲ見テ懷抱ヲ敍セント欲ス而シテ時我ト延ヒス郎君其レ焉ヲ憐察セヨ悠悠タル鳴雁翼ヲ垂レテ北ニ行ク嗟乎我命薄ク運窮リ事願ト違ヒ良會ノ永ク絕エタルヲ恨ミ素懷ノ通シ



散士再ヒ鴻水ノ舊家ヲ訪フノ圖　（原本插畫）

難キヲ傷ム歐雲米水萬里處ヲ異ニシ各天參商ノ如ク萍蹤定處ナク離夢躑躅別魂飛揚シ風流雨散一別雲ノ如ク蘭摧ケ鳳去リ祇ニ妾カ情ヲ攪ス命運ハ天ノミ亦何ソ怨ミン大丈夫四海ニ志ス萬トシテ比隣ノ如シ恩ゝ苟モ虧ケスンハ遠キニ在レトモ猶ホ親愛セン何ソ必スシモ衾幬ヲ同シテ而シテ後慇懃ヲ展ヘンヤ郎君遠獻翼ヲ振ヒ名ヲ汗青ニ垂レヨ良時茲ニ在リ失フ勿レ異日東洋ノ男子天ノ一國ニ賦與スル正義ニ仗リ自由ノ旗ヲ揮ヒ歐人ト國權ヲ爭ヒ兵馬ノ間ニ馳驅スルト聞カハ單身難ニ赴キ郎君ノ傷床ニ侍ヘリ湯藥自ラ嘗ムル者ハ必ス賤妾ナリ郎君ノ凱旋ヲ馬前ニ迎ヘ手ヲ握テ功業ヲ祝スル者モ亦必ス賤妾ナリ若シ當年郎君妾ヲ見スンハ則チ妾ハ身命ヲ國家ノ犠牲ニ供シ早ク已ニ道義ノ鬼ト成リテ現世ノ人ニ非サルヲ知レ嗚乎惡夢識ヲナシ君ヲ懷ウテ涙滂沱タリ手ヲ携フルノ日邈トシテ夢ノ如シ恩心愈ゝ結ホレテ誰ト與ニカ之ヲ解カン涙ヲ揮ヒ謹テ別離ヲ告ク願クハ郎君邦家ノ爲メニ努力自愛セヨ

封中又一書アリ波寧流女史ニ寄スルモノニシテ紅蓮ノ散士ヲ介スル書ナリ散士幽蘭カ書ヲ讀ム數回黯然トシテ聲無ク悵然トシテ謂ラク幽蘭カ能ク伶俜弱質ノ姿ヲ以テ奮テ父ノ難ニ赴キ又其一見ノ知遇ニ感シ終生交誼ノ渝ラサルヲ盟ヒ今世ノ永訣ヲ表シ更ニ散士ノ前途ヲ奬マス實ニ一世ノ女丈夫ト謂フ可シ嗚乎奇節是ノ如ク秀才彼ノ如ク忠孝姿色與ニ備ハリ尚ホ且ツ時ニ會ハス流離漂零旻天之ヲ悔イス更ニ災厄ヲ與フ皇天后土何ソ其レ酷ナルヤ蓋シ聞ク梅蕾春ニ魁テハ霜雪之ヲ痛メテ後ニ微妙ノ香アリ豪傑未タ時ヲ得サレハ造物頻リニ厄ニ遇ハシメテ遂ニ萬世ノ功名ヲ留ムト天道ハ至微眞ニ知ル可カラス而シテ紅蓮范蠡ノ前途ヲ思ヘハ共ニ一身ノ榮辱ヲ顧ミス國家恢復ノ大志ヲ懷キ其任ヤ重ク其道ヤ遠シ然ルニ今私交ノ故ヲ以テ幽蘭カ厄運ニ赴カハ未タ盡サヽルモノアルニ似タリ或ハ別ニ深意ノ存スル所アルカ或ハ幽蘭カ妙齡薄弱死ヲ決シテ老父ノ難ヲ救フノ危キヲ見テ交情相分ルヽニ忍ヒス共ニ倶ニ赴キシカト獨リ問ヒ獨リ答ヘ憂愁交ゝ至リ疑團愈ゝ解ケ難シ首ヲ擧クレハ四顧ノ山河舊ノ如ク依然タルモ麥秀テ草亂レ人去リ時移リ落暉西山ニ搗キ晚風水波ヲ揚ケ杜鵑離情ヲ牽キ極目蕭條親ルトシテ散士ノ情ヲ傷マシメサルハナシ散士乃チ棹ヲ回シテ費府ニ歸ル

是ヨリ後快快トシテ樂マス寢食共ニ廢シ憂顏色ニ形ハル傍人其ヲ知ラス皆以テ病痾ノ再發トナシ保養加餐ヲ勸ムル者多シ散士竊ニ幽蘭ノ書ヲ篋裡ニ藏メ時ニ取リテ之ヲ讀ム忽チニシテ麗容眼ニ遮リ温語耳ニ來リ忽チニシテ憤恨交ゝ集リ胸結デ解ケス心鬱シテ散セス殆ト讀書ヲ廢スルニ至ル是ニ於テ日ニ氣ヲ山水ノ間ニ放ニシ以テ幽懷ヲ暢敍セントス水逝キ年流レ春老イ夏來ル一日杖ヲ引テ絕景山ノ公園ヲ歩シ春園橋ヲ過キ凱旋街ヲ下ル凱旋街

ハ費府ノ中衢ニ在リ革命ノ役佛將鑼柄斗年尙ホ少ニシテ米人ノ義擧ニ感シ產ヲ傾ケ身ヲ顧ミス力ヲ米國ノ獨立ニ盡シ奮戰勇鬪見ル者爲メニ奮ヒ聞ク者爲メニ起チ戰功亦多シ米人其義ニ感シ凱還ノ後凱旋形ヲ造リ以テ將軍ヲ饗セリ後人將軍ノ功績ヲ不朽ニ垂レント欲シ取テ以テ街衢ノ名トス芙蘭麒麟ノ墓亦此ニ在リ散士行ミ芙公ノ人トナリヲ慕ヒ公ノ祠堂ニ謁セント欲シ門ヲ入リ祠前ニ跪テ之ヲ拜ス微ニ一苔石ノ青草ノ中ニ孤立スルアルヲ見ルノミ嗚乎公ハ自由ノ泰斗ニシテ學術ノ先進ナリ兒童走卒モ猶ホ公カ名ヲ知ラサルハナシ國家艱難ノ時ニ當リ公年五旬ヲ過キ能ク萬里ノ山海ヲ超エ英闕ニ伏シテ英王ノ非ヲ諫メ歸テ涙ヲ揮ヒ米人ノ輕擧ヲ戒メ或ハ佛王ニ說テ以テ兩國ノ紛亂ヲ解カシメント欲ス英王之ヲ容レス漫ニ兵威ヲ權リテ之ヲ抑壓セントス事勢此ニ至リ又爲ス可カラサルヲ知リ乃チ奮テ米國ノ自由ト共ニ倒レント盟ヒ間關奔走席暖ナルニ暇アラス歐洲强國ノ君王ニ遊說シ遂ニ佛西兩邦ノ君相ヲ感激シ以テ合從ノ盟ヲ結ハシム米國ノ獨立公ノ力ニ依ルモノ實ニ多シトス而シテ素碑僅ニ芙蘭麒麟ノ數字ヲ刻スル有ルノミ噫乎夫ノ富貴ノ徒驕侈逸樂國ニ益ナク世ニ害アリ或ハ擅ニ權威ヲ弄テ下民ヲ凌キ或ハ徒ニ碑銘ヲ文飾シテ以テ後人ヲ瞞着セントシ或ハ寺院ヲ建立シテ以テ死後ノ冥福ヲ祈ル者ト日ヲ同シテ語ル可カラサルナリ且ツ公ノ學天人ヲ貫キ數ミ危險ヲ侵シ霹靂ノ下ニ立チ遂ニ電氣ノ理ヲ悟ル當時世人皆嘲テ曰ク腐儒ノ空談實用ニ益ナシト公之ヲ聞テ曰ク俗人ハ目前ノ利ニ汲汲トシテ遠大ノ志ナク志士ハ永遠ノ計ヲ慮テ目前ノ利ヲ顧ミス百年ノ後必ス我ヲ知ル者アラント今ヤ電線織ルカ如ク萬里ノ海外瞬間ニ語ル可ク陸ニハ鐵道ヲ馳セ海ニハ船艦ヲ蕩ス城ヲ陷レ病ヲ療スル電氣ノ功利僕ヲ更ヘテ數フ可カラス公ノ言果シテ信アリト謂フ可シ夫レ布衣韋帶ノ士ニシテ能ク王公相將ヲ動シ一國ノ興廢ヲ隻言ノ間ニ決スルモノハ何ソヤ道存シ學博キカ爲メナリ孔聖言ヘルアリ吾聞ク其容體觀ルニ足ラス其勇力憚ルニ足ラス其祖先道フニ足ラス而シテ終ニ大名アリテ以テ四方ニ顯ハレ聲ヲ後裔ニ流ス者豈學ノ效ニ非スヤ故ニ君子ハ以テ學ハサル可カラサルナリト散士齡既ニ臥龍出廬ノ年ニ近ク猶ホ笈ヲ負テ天外ニ漂零シ文章未タ彰ハレス功業未タ成ラサルヲ慨シ韓愈カ田橫ヲ祭ルノ志ヲ憐ミ獨リ自ラ解テ曰ク散士モ亦志迷ハスンハ流離顚沛スト雖モ亦何ソ悲マンヤト墓前ヲ低徊シテ暫ク去ルニ忍ヒス

一士アリ煙ヲ吹キ墓邊ヲ逍遙ス散士ヲ揖シテ曰ク君ハ何國ノ人ナルヤ散士曰ク東海ノ遊子ナリト士問フニ東洋ノ形勢ヲ以テス散士具ニ其狀ヲ語テ曰ク歐人貪慾厭クナク蠶食日ニ甚タシク隨テ東洋ノ勢愈ミ危シト士復タ問テ曰ク貴國北ハ一葦ノ海水ヲ隔テ近ク魯國ニ接シ其北門鎖鑰ノ狀如何ソヤト散士カ曰ク魯人一騎江ヲ渡ルモ之ヲ防クノ一兵ナシト士憤歎已マス少焉アリテ一樹ヲ指シテ曰ク是高節公ノ手ツカラ植ウル所ニシテ芙公ノ靈ニ供セシ者ナリ散士問テ曰ク高節公トハ何人ソヤ士少シク聲ヲ勵シテ曰ク君聞カスヤ波蘭ノ名士ナルヿヲ散士曰ク余夙ニ其名ヲ聞ク然レトモ未タ詳ニ其爲ス所ヲ知ラス希クハ吾爲メニ之ヲ語レト士乃チ草間ニ踞シテ曰ク昔者波蘭ハ威名歐洲ヲ震動シ牛耳ヲ取テ四隣諸邦ヲ朝セシメシモ物換リ星移リ國勢萎微遂ニ亡滅スルニ至レリ而シテ其本ヲ源ヌレハ國ニ常主ナク内相鬩クノ弊ニ因ル者ト謂フ可シ蓋シ波蘭名ハ王國タリト雖モ實ハ民政ニ異ナラス唯其異ナル所以ノモノハ貴族ヲ撰テ王トナスニ在ルノミ故ニ王ヲ選フノ期アル每ニ權謀術數衆詐ヲ造リ刺客ヲ放チ加之ナラス二三州人獨リ政權ヲ專擅シ偏見ヲ持シテ互ニ其權衡ヲ保ツニ汲汲トシ其弊ヤ國家ノ名譽モ顧ミルニ

暇アラス其爭ヤ下民ハ疾苦モ問フニ遑ナキニ至レリ是ニ於テ乎寡人爲政ノ弊ニ陷リ選者人ノ爲メニ官ヲ擇ヒ官者身ノ爲メニ利ヲ擇フ而シテ鈞ヲ秉リ軸ニ當ルノ士、身、官ヲ帶フル十ヲ以テ數フ機事ノ失十ニ恆ニ八九世族貴戚ノ子弟陵邁超越資次ニ拘ハラス冗員寔ニ繁ク坐談彌ミ積リ朝令暮改虛禮日ニ滋ク苟且ノ政年ニ加ハリ法ヲ弄シ文ヲ舞シ徒ニ下民ヲ抑制シ内亂ヲ鎭壓スルヲ勉メテ外競ノ大計ヲ遺レ國權地ニ委シ今日亡國ノ慘狀ヲ來セリ寡人爲政ノ害豈深ク鑒ミサル可ケンヤト散士答テ曰ク余曾テ史ヲ繙キ波蘭ノ滅亡スル所以ヲ見ルニ別ニ理ノ存スル所有ルカ如シ抑ミ彼民ヤ自由ノ理ヲ誤リ一身ノ自由ヲ以テ無上ノ自由ト爲シ國家獨立ノ自由更ニ貴キヲ悟ラス是故ニ外患アルノ日ニ當テ人人獨立ノ志ヲ忘レ徒ニ一身ノ自由ヲ嗷嗷シ國ニ死スルノ義ヲ以テ一身ノ自由ヲ傷クト爲シ其極ヤ貴族ハ下民ヲ凌キ下民ハ貴族ヲ怨ミ政權下ニ達セス民情上ニ通セス尾大掉ハス遂ニ魯普澳三國ノ爲メニ分轄セラレ富強ノ雄邦黍禾空シク秀テ、燕子孤リ飛フヲ見ルニ至レリ自由ノ誤解豈深ク鑒ミサル可ケンヤ往者我大使波蘭ヲ過ク曉ニ當テ會ミ角聲ノ夢ヲ破ルアリ窓ヲ開テ之ヲ見レハ貧民群ヲ爲シ旅客ノ憐ヲ乞フ者ナリ名士木戸孝允モ亦從テ在リ之ヲ見テ深ク隆國ノ末路ヲ感シ憤歎措カス朝ニ歸リ廟堂諸老ヲ誡メタリト云フ是レ皆波蘭人カ自ラ取ルノ過ナリト雖モ三國ノ暴戾無道ナル豈文明ヲ以テ自ラ許シ深ク西教ヲ信スル者ノ爲ス所ナランヤト士カ曰ク眞ニ君カ謂フ所ノ如シ世人皆救世主ノ心ヲ以テ心ト爲シ友義敎會

友義敎會ハ英國ノ高僧北駒趨ノ創ムル所ニシテ新敎ノ一派ナリ米ノ芙蘭麒麟英ノ武賴土諸傑ノ如キ皆其會徒タリ博ク衆ヲ愛シ友義ヲ厚ウシ隱德ヲ重ンシ最モ戰爭ヲ戒メ亂人ノ侵掠ヲ防クニ非サルヨリハ攻擊ヲ行フコヲ許サス一ニ聖教ノ本旨ニ據ル而シテ又寺院ヲ建テス僧侶ヲ置カス洗禮ヲ行ハス其說ニ曰ク幼蒙ノ時心思未タ定マラス洗禮ヲ受クルト雖モ以テ一世ノ善惡ヲ左右ス可カラス是故ニ別ニ洗禮ヲ設ケス世人各ミ善惡アリ隨テ其願望スル所モ亦各ミ異ナリ然リ而シテ僧侶一人ノ身ヲ以テ同一ノ經ヲ誦シ各ミ異ナルノ願望ヲ遂ケシメント欲ス其レ得可ケンヤ是故ニ敢テ僧侶ヲ置テ以テ冥福ヲ祈ラシメスト

ハ誠ヲ推シテ以テ人ニ及サハ天下ノ亂干戈ノ慘日ヲ期シテ跡ヲ文明社會ニ絕ツ可キナリ悲哉季世澆澆功名私利ノ爲メニ教法ヲ餌トスルノ姦雄僞僧ノ營營タル豈慨然タラサルヲ得ンヤ且ツ夫レ波蘭今日ノ禍、細ニ之ヲ論セハ其源スル所最モ久シ一千七百六十四年波蘭ノ貴族魯ノ女帝峨嵯嶙第二世ノ術數ニ陷リ其甘言ヲ信シ其賄賂ヲ納レ希臘教ノ王子ヲ撰テ王位ニ卽カシム抑ミ希臘教ハ魯帝ヲ戴テ神トナシ一意之ヲ遵奉シ是非善惡其命ニ差ハサルヲ以テ教法ノ大本トナセリ故ニ魯人毎ニ之ヲ假リテ吞噬ノ器侵掠ノ具トナスハ世界公衆ノ知ル所ナリ當時魯帝希臘教徒ヲ煽動シテ内亂ヲ起サシメ而シテ後大兵ヲ遣テ之ヲ援ケ大ニ波蘭ノ軍ヲ敗リ地ヲ割キテ城下ノ盟ヲナサシムルニ至レリ嗚乎教法ニ沈溺スルノ害是ノ如シ豈深ク鑒ミサル可ケンヤ波蘭兵既ニ大敗スト雖モ志尙ホ敵愾ノ氣ヲ懷キ天ヲ戴カサルノ讎ヲ忘レス日夜膽ヲ嘗メテ回復ヲ謀ルノ士寡カラス四海ノ志士亦多ク之ヲ援ケ普澳モ亦大ニ嚮日ノ暴行ヲ悔イ普國ノ如キハ却テ其獨立ヲ獎勵セリ是ニ於テ波蘭人新ニ憲法ヲ創起シ共和ノ政ヲ廢シ立憲公議ノ制ヲ立テ皇子ヲ選テ之ヲ奉戴シ檄ヲ飛ハシテ文明諸邦ニ告ケ歐米ノ各邦モ亦皆之ヲ承認スルニ至レリ而シテ魯獨リ執拗可カス然レトモ波蘭ノ民固ク取リテ動カス死ヲ以テ國權回復ヲ盟ヒ上下心ヲ一ニシ是非ヲ世界ノ公判ニ訴ヘ一二強國ノ



(原本插畫)　高節公奮戰ノ圖

功ヲ得テ以テ魯國ヲ脅サハ宗廟社稷ヲ克復スル難カラサリシモ惜イ哉波蘭ノ貴族舊法ノ己レニ利アルヲ見テ國家獨立ノ大計ヲ遺レ獨立黨ノ肘ヲ掣シテ之カ同盟ヲ拒ム魯帝因テ揚言シテ曰ク波蘭ノ獨立ハ全國人民ノ志望ニ非スシテ學士書生ノ企ツル所之ヲ要スルニ私怨ヲ報シ不平ヲ漏サント欲スルノミ此徒ヲ鎭壓スルニ非スンハ以テ歐洲ノ安寧ヲ保ツ可カラスト大軍ヲ發シテ獨立黨ヲ伐ツ貴族乃チ簞食壺漿シテ之ヲ迎ヘ兵ヲ擧ケテ相應ス貴族專横ノ害豈深ク懲ミサル可ケンヤ是ニ至テ普國モ亦締約ヲ變シ魯ト合シテ三軍來リ攻ム獨立黨高節公ヲ推シテ大元帥トナシ以テ之ヲ拒ク公ハ波蘭ノ名將高義ヲ以テ名ヲ天下ニ轟カス米國獨立ノ日同志ヲ召集シ華聖頓ノ帷幄ニ參シ獻替スル所多シ而シテ芙蘭麒麟ト最モ親善米國獨立ノ後米人大ニ公カ戰功ヲ嘉シ高位ヲ以テ公ヲ待タント欲ス公固辭シテ曰ク烈士ハ難ニ趣テ其報ヲ謀ラス忠臣ハ國ヲ慮テ其身ヲ顧ミスト余ハ米國ノ爲メニ萬死ヲ冒シ風ニ櫛リ雨ニ沐シ矢石ノ間ニ馳騁セシ所以ノモノハ天下自由ノ消滅センヿヲ恐レテナリ豈功名ヲ貪リ富貴ヲ慕フカ爲メナランヤ今ヤ故山ヲ懷ヘハ慷慨長大息次クニ血涙ヲ以テスルモノアリ誓テ魯人ノ羈絆ヲ脫シ貴族ノ不忠ヲ罰シ人民ヲ鼓舞シテ國家ヲ興復センヿ我カ素願ナリ貴邦人カ獨立不羈百折不撓ノ氣更ニ余ヲ奬勵スルモノ多シ余若シ榮官ヲ貪テ此土ニ留マラハ世人我ヲ目シテ謂ハント彼ハ口ヲ米國ノ獨立ニ假リ本國ハ危急ヲ顧ミス難ヲ捨テ、安ニ就ク者ナリト大丈夫豈戀戀トシテ樂土ニ棲息スルニ忍ヒンヤト決然袂ヲ揮ヒ卒ニ故山ニ歸レリ天下之ヲ聞テ皆公ノ節ヲ高シトシテ稱譽セサルモノナシ一千七百九十二年七月十七日公孤軍ニ將トシテ治閔加ニ魯ノ大軍ヲ邀擊シテ勝タス波蘭ノ皇子之ヲ聞キ魂落チ魄褫ハレ書ヲ贈テ魯人ニ謝シ兵ヲ止ムルヲ乞フ公大ニ怒リ其反覆怯弱ヲ讓ム皇子夜逃レテ貴族黨ニ歸ス時ニ謀臣アリト雖モ民ニ匡合ノ志ナク遠績ハ詐術ニ屈シ雄圖ハ昏主ニ挫ケ烈士ハ扼腕空シク寇讎ノ手ニ委シ中人ハ節ヲ變シテ虐國ノ桀ヲ助ク事此ニ至リ如何トモ爲ス可カラサルヲ知リ公血涙ヲ揮テ他邦ニ遁逃シ以テ時機ノ至ルヲ待矣明年波蘭忠義ノ士等再擧ヲ計ルニ及テ高節公ノ諸將亦來リ集マリ輒チ檄ヲ傳ヘ兵ヲ擧ケ假王ヲ攻メテ之ヲ擒ニシ大ニ反國ノ貴族ヲ刑戮ス普王之ヲ聞キ直ニ兵ヲ遣テ來リ攻ム公邀擊シテ又之ヲ破リ敵兵ヲ境外ニ驅リ遂ニ敵ノ一騎ヲ見サルニ至レリ兵勢大ニ振ヒ波蘭ノ獨立日ヲ期シテ遲ツ可キカ如シ魯帝峨嵯嶙報ヲ聞キ諸將ヲ集メ議シテ曰ク朕波蘭ヲ征服セスンハ復タ爾等ヲ見スト名將數和老ニ兵十萬ヲ付シ普軍ト合シテ來リ攻メシム高節公勇ヲ奮ヒ智ヲ盡シテ魯普兩國ノ大軍ニ抗ス十月十日死士ヲ募リ將士ト訣別シ魯ノ大軍ト血戰ス吶喊ノ聲山谷ヲ動カシ鼓鼙ノ響天地ニ震フ死尸積テ丘陵ヲナシ流血波浪ヲ揚ク魯ノ援軍益ミ加ハリ波蘭ノ軍遂ニ破レントス高節公旋ヲ取リ殘兵ヲ指揮シ縱横馳突遂ニ重傷ヲ蒙リ馬ヨリ落チ呼テク曰波蘭ノ命數今日ニ盡クト遂ニ擒

ラル魯將頻リニ降ヲ勸ム高節公カ曰ク古ヨリ軍ヲ謀リ師敗レハ則之ニ死シ國ヲ謀リ邑危キトキハ則之ニ亡フハ士ノ道ナリ今我軍破レ國亡フ僕又何ノ面目有テ再ヒ天下ノ士ニ見エンヤト遂ニ降ラス波國風落華ノ守兵公ノ高節ニ感シ城陷ルノ日男女一萬二千人奮戰勇闘死傷略ホ盡キ餘ハ悉ク水火ニ投シテ死シ曾テ一人ノ降ル者ナシト云フ嗚乎國ニ報フルノ赤心死ニ至テ挫折セス遺芳餘烈百世ニ流レ人ヲ感激スル是ノ如ク其レ深シ此レ豈眞ノ大丈夫ニ非スヤ彼檢樹ハ公カ米國ヲ辭スルノ日手ツカラ植ウル所ノモノナリ夫レ墓ヲ表シ善ヲ推シ人ヲ思ヒ樹ヲ愛ス甘棠翦ル勿レ矧ヤ名士ノ遺愛ヲヤト散士腕ヲ扼シテ之ヲ聞キ感嘆措カス士首ヲ擧テ曰ク談話佳境ニ入リ覺エス晷ヲ移ス好機アラハ重テ相見ン請フ是ヨリ辭セント手ヲ分テ去ル

散士獨リ樹邊ヲ徘徊シ英雄ノ晩節強國ノ末路ヲ悲ミ他日歐洲ニ遊ヒ波蘭ノ丘墟ヲ訪ヒ高節公カ英魂ヲ弔ハント欲シ又芙蘭麒麟ノ功成リ身退クノ榮ヲ慕ヒ時會ノ變化天命ノ無常ヲ感シ再ヒ芙公ノ墓ヲ拜シテ去ル時ニ陰雲雨ヲ含ミ電光空ニ閃キ雨脚地ニ達ス散士奔テ之ヲ春園橋下ニ避ク又五六輩ノ雨ヲ此處ニ避クル者アリ相指シテ曰ク百年前芙公ノ紙鳶ヲ飛ハシテ雷ヲ捉ヘシハ則彼處ナリト漸クニシテ過雨晴ヲ放チ暑熱既ニ去テ晩涼殊ニ清シ散士沈吟短古一首ヲ得タリ

凱旋門上白日淪。春園橋下涼味新。孤杖來弔芙公墓。追懷往年感歎頻。自由棲處是我鄕。千古格言掃俗塵。報國心肝堅於鐵。手奉檄書訴蒼旻。孤身乞援三萬里。國家存亡繫一身。八寸之筆三寸舌。誠忠凜烈泣鬼神。合從盟成巴黎夕。錦帆直還北米晨。愁雲籠光龍京月。群芳添色華府春。欽君天邊巧擒雷。能驅雷霆代郵傳。一線通處坐可語。不論乾端與坤垠。雷也猶能聽君命。何況濟濟四海人。君不見如今自由光。八表英魂當遊東海濱。

其後波寧流女史ヲ訪ハント欲ス復タ微恙ニ罹リテ猶ホ未タ果サス一日新報ヲ閲スルニ西班牙ノ電報ヲ載セテ曰ク頓加羅黨ノ將西都ニ囚ヘラルル者獄ヲ越エテ逃ル未タ其行ク所ヲ知ラスト散士節ヲ拍テ曰ク豈幽蘭女史ノ老父ニ非サルナキヲ知ランヤト乃チ又以爲ラク波寧流女史ヲ見テ之ヲ問ハヽ或ハ其狀ヲ知ルヲ得ンカト紹介ノ一書ヲ懷ニシ蹐水ヲ渡リ汽車ニ投シ紐瀬流州ニ向フ女史ハ愛蘭獨立黨ノ魁首波寧流氏ノ妹ナリ其姪モ亦本國ニ在テ父ト共ニ貧民ヲ奬勵シ義士ヲ招集シ英人ノ剛政戾略ニ抗シ英政ノ羈絆ヲ脫セントス而シテ女史ハ其老母ト米國ニ留マリ在米ノ愛人ヲ勵マシ資ヲ募リ粮ヲ積ミ以テ本邦ノ貧人ニ贈リ之ヲ救濟スルヲ以テ已レノ任ト爲シ而モ隱然在米愛蘭獨立黨ノ首領タリ曾テ一長歌ヲ作リテ愛人ノ困厄英人ノ虐政ヲ述フ其歌慷慨淋漓聞クモノヲシテ流涕滂沱自ラ禁スル能ハサラシム世或ハ其輕佻過激ヲ尤ムルモノアリト雖モ一女子ノ身ヲ以テ生ヲ棄テ死ヲ取リ天道ノ大義ニ據リ國家ノ回復ヲ志シ一痩土ノ饑民ヲ驅テ濟濟タル多士ト相搏セント欲ス亦一世ノ女丈夫ト謂フ可シ且ツ躬行高潔國ニ許スノ赤心一身ノ歡娛ヲ顧ミルニ遑ナク婥妁ノ姿ヲ以テ未タ月下ノ交ヲ結ハス豈彼終世綿綿タル癡情ニ區區シ身ヲ忘レ家ヲ忘レ甚シキハ國家ノ大計ヲ誤ル者ノ比ナランヤ

既ニシテ汽車ヲ下リ波寧流女史ノ門ヲ敲ク絕テ應スル者ナシ散士佇立稍々久シテ一婢扉ヲ開キ其半面ヲ顯ハス赤髮攣耳低鼻厚脣歷齒吃聲糟面ニ滿ツ散士ヲ見テ意色甚タ惡シ傲然トシテ散士ノ來意ヲ詰ル散士慇懃ニ答ヘテ曰ク僕ハ東海ノ游士令孃ニ謁ヲ乞フ者ナリト婢頭ヲ掉テ曰ク女史病テ床ニ在リ賓客ニ接スル能ハス況ヤ新

來足下カ如キ者ヲヤト散士心其不敬ヲ憤リ將ニ其面ニ唾セントス而レモ又竊ニ以爲ラク是レ固ヨリ無智ノ賤婢ノミ且ツ愛人常ニ淸人ノ己レニ利ナキヲ惡ム久シ今彼余ヲ認メテ淸人ト誤ルノ致ス所ナルナカランヤト乃チ更ニ紅蓮ノ書ヲ取リ刺ヲ挾ミ託シテ曰ク僕數十里ヲ遠シトセスシテ來リ訪フ所以ノ者ハ一タヒ令孃ヲ見ルヲ得テ一片ノ氷心ヲ表セント欲スレハナリ他日若シ期アラハ重ネテ相訪ハン竊ニ令孃ノ自愛ヲ祈ルノミト快快トシテ門ヲ辭シ停車場ニ至リ階ニ倚リ長嘯シテ汽車ノ發スルヲ待ツ時ニ愛人數輩アリ亦來テ散士ノ旁ニ倚ル弊衣垢顏年皆二十五六相共ニ散士ヲ指目シテ嘲笑シ或ハ高ク呼テ辮ノ賤奴トナス散士知ラサル爲シテ遠近ヲ眺望ス一少年アリ疾行シテ散士ノ前ニ來リ敬揖シテ曰ク足下ハ東海ノ士人ニ非スヤト散士曰ク然リ少年曰ク僕ハ波寧流女史ノ家人ナリ前ニ足下ノ高步ヲ枉クルヤ賤婢之ヲ知ラス空ク光臨ヲ辭セリ今女史僕ヲシテ急ニ足下ヲ追ハシメ以テ再來ノ榮ヲ辱ウセラレンヿヲ乞フ足下希クハ一步ノ勞ヲ惜ム勿レト散士曰ク僕今日再ヒ愛人ノ侮辱ヲ受ク一婢一傖無學ノ徒固ヨリ尤ムルニ足ラスト雖モ僕豈之ヲ快トセンヤ且ツ僕カ心既ニ歸府ニ決セリ請フ更ニ他日

ヲ約セント少年曰ク女史病床ニ在ル殆ト月餘ニ亙リ門ヲ杜チ客ヲ謝シ以テ心神ヲ養フ今ヤ足下ノ遠ク至ルヲ喜ヒ病ヲ力メ一タヒ相見テ以テ胸懷ヲ開カント欲ス賤婢足下ヲ過スルノ如何ハ女史ノ未タ知ラサル所ナリ足下願クハ怒ヲ移スヿ勿レ婢ノ不敬ノ如キハ僕乞フ其罪ニ當ラン且ツ女史氣鋭ニ性豪ニ精神越潔病痾ニ沈テヨリ悦怒平カナラス足下賤婢カ亡狀ヲ憤リ捨テヽ去ラルト聞カハ其病ノ再發スル亦計ル可カラス僕何ノ辭カ以テ女史ニ對セヽヤ足下又曰ク再ヒ辱ヲ受クト賤婢ノ不敬ハ命ヲ聽ケリ敢テ其他ヲ問フト言未タ終ラス傍ノ一人蛸ヲ脫シ進テ曰ク郎君ヲ凌ク者ハ奴輩ナリ奴輩事理ニ通セス又波寧流女史ノ客タルヲ知ラス見テ以テ淸人トナシ誤テ敬禮ヲ失セリ蓋シ他ノ意有テ存スルニ非ス小君奴輩カ爲メニ幸ニ郎君ニ謝セヨト靦面汗顏身ヲ置クノ地ナキ者ノ如シ散士其質朴ニシテ過ヲ悔イルノ速ナルヲ憐ミ又波寧流女史ノ眞ニ病ムヲ知リ疑團氷解怒氣漸盡乃チ少年ト共ニ再ヒ波寧流女史ノ家ニ至リ客院ニ待ツ半白ノ老媼來リ迎テ曰ク妾ハ波寧流ノ母ナリ先ニ紅蓮女史書ヲ寄セテ郎君ノ人トナリヲ告ケ勸ムルニ後來ノ交ヲ以テス賤兒之ヲ開テ日ニ郎君ノ至ルヲ待ツ眞ニ一日三

秋モ唯ナラス既ニシテ病ニ罹リ其後床上ニ轉輾スル將ニ一月ナラントス諸醫賤兒カ客ヲ見レハ則悲壯ノ談ヲ爲シ精神激昂爲メニ身體ノ瘦弱ヲ釀スヲ恐レ固ク禁シテ客ニ接スル勿カラシム是故ニ小婢モ亦郎君カ遠ク來ルヲ知ラス見テ以テ常客ト爲シ誤テ禮ヲ失ヒ再ヒ玉趾ヲ勞セシムルニ至レリ是レ小婢無智ノ致ス所ト雖モ抑〻妾等カ罪亦淺カラス天被海容賤兒ト切ニ祈ル所ナリト散士曰ク是レ何ソ以テ罪トナスニ足ランヤ唯令孃ヲ見ルヲ得ハ僕カ幸之ニ若カスト老媼曰ク賤兒病床ニ臥シ頭髮久シク梳ラス襟袖永ク修メス固ヨリ以テ高賓ヲ見ル可キナシ郎君其止ム可カラサルヲ察シテ之ヲ尤メス相見テ一言ヲ辱スルヲ得ハ幸甚ト散士曰ク令孃ニシテ若シ妨ケスンハ豈之ヲ辭センヤト少焉有テ女史徐步シテ入ル散士立禮ス女史散士ヲ促シテ坐セシメ親ラ安榻ニ坐ス年二十七八肌膚白雪ヲ欺キ皓齒連珠ノ如ク兩頰肉寒ク雙眼光冷ナリ綠鬢ヲ結テ後ニ垂レ眉宇自ラ憂アル者ノ如シ女史徐ニ語テ曰ク妾曾テ新報ヲ見テ日本人ノ義氣アルヲ知リ又紅蓮ノ書ニ因テ郎君ノ高風ヲ聞キ一タヒ相見ンヿヲ願フ久シ而シテ郎君棄テス百里玉趾ヲ枉ク妾カ喜ヒ將ニ何ニカ譬ヘント散士曰ク僕令孃ノ高操卓節ヲ聆キ心竊ニ之ヲ

慕フ玆ニ年アリ今忽チ謦咳ニ接スルヲ得僕カ喜ヒ知ル可キナリ聞ク令嬢久シク病痾ニ染ムト今少シク間ナルヤ否ト女史曰ク妾カ病ハ自ラ其力ヲ計ラス國ヲ憂ヒ時ヲ慨シ心結ヒ氣鬱スルノ因テ釀ス所然レ圧昨來稍ミ間ナルヲ得タリ郎君半日ノ暇ヲ假シテ願クハ我カ爲メニ卓偉ノ高論ヲ説キ風流ノ韻事ヲ談シ又東洋ノ奇談ヲ話シ以テ幽情ヲ散スルヲ得セシメヨト散士曰ク僕唯タ令嬢ノ卓説ヲ聆カント欲スルノミト女史微笑シテ暫ク言ハス時ニ郊外ノ製器館氣笛四點ヲ報ス日庭松ニ掛リ微風窓紗ヲ卷ク女史婢ヲシテ瑣窓ヲ掲ケシム平疇崇田廣ク眼底ニ參錯シ青山遠ク翠靄白雲ノ間ニ出沒ス禽鳥ハ音ヲ藂林ノ邊ニ弄シ鷺鷥ハ羽ヲ青草ノ裏ニ刷ス鋤ヲ執ルノ翁牛ヲ曳クノ童皆登臨ノ興ヲ添フルニ足ル垣ヲ回ルノ一川アリ枯巖擁石ノ間ヲ流レ淺淺聲ヲナス笙ヲ吹キ瑟ヲ彈スルカ如ク物トシテ我懷ヲ喜ハシメサルハナシ女史指シテ散士ニ示シテ曰ク彼山ヲ何丘ト云ヒ彼水ヲ何川ト云フ往昔師ヲ用ユル處當今鑛ヲ掘ルノ處村落彼處ニ在リ墓碑彼邊ニ隱ルト散士嘆稱止マス女史曰ク妾常ニ好景ヲ愛シ居ヲトシテ漸ク此樓ヲ得タリ蓋シ朝ニ出テ正理ヲ說キ道ヲ論シ暴ヲ倒シ弱ヲ援ケ貪利ノ徒ヲ斥ケテ災厄ニ罹ルノ窮民ヲ救ヒ夕ニ歸

テ書ヲ清風ノ中ニ繙キ深ヲ釣リ奥ヲ極メ妙旨ヲ窮覽シ時ニ月ニ踏ミ花ニ歌ヒ以テ終日ノ鬱悶ヲ排セントス是レ妾カ無上ノ樂ニシテ芙公ノ所謂自由ノ棲ム處是レ吾郷ノ意亦此ニ在ランカト散士曰ク僕平生ノ望モ亦此ニ外ナラスト既ニシテ女史更ニ前川ヲ指シテ曰ク妾又綸釣ノ痼疾アリ彼水ハ妾ノ日夕竿ヲ垂ルヽ處ナリ郎君亦之ヲ好ムヤト散士曰ク奇ナル哉令嬢嗜ム所何ソ其レ僕ト相同シキヤ僕郷ニ在ルノ日綸ヲ東江ノ涯ニ投シ竿ヲ西水ノ上ニ垂レ概ネ以テ盡日ナシ其後國難ニ丁リ南轅北轍席暖ナルニ遑アラス況ヤ西遊以來書窓日傾キ易ク是ヲ以テ又試ミサル數年矣僕之ヲ好ム實ニ深シト女史曰ク然ラハ則チ是ヨリ倶ニ前川ニ釣リ塵事ヲ一竿ニ投シテ以テ憂愁ヲ散除セント更ニ婢ヲシテ綸絲ヲ裝ハシメ歩シテ川岸ニ至リ水ニ沿テ下ルコ百餘武流忽チ止ミ洞リテ潭トナル廣サ十二三弓兩岸ノ垂楊空ヲ覆ヒ一二ノ奇石潭中ニ横ハル蘧篨ヲ藉シテ共ニ綸ヲ垂ル先ツ相約シテ曰ク釣魚ヲ以テ雌雄ヲ決セント暫クニシテ潑剌竿ニ上ルモノ數尾遂ニ薄暮ニ至ル各ミ釣ル所ヲ算ス散士一尾ヲ贏ス女史大ニ之ヲ笑ヒ且ツ歸リ去ラントス散士尚ホ未タ止マス嗒然瞬セス眸ヲ竿頭ニ注ク女史嘲笑措カス乍チニシテ一鱗活活水ヲ躍リ綸ト共ニ上

ル大サ二尺強女史大ニ驚キ啞啞ノ聲未タ終ラス忽チ嗚乎ノ聲ヲナス散士顧ミテ曰ク之ヲ東楡ニ失シテ之ヲ桑梓ニ得タリ諺ニ曰ク功業ハ其終リヲ見ヨト令嬢以テ如何トナス女史曰ク郎君何ソ傲ルコノ甚タシキ得ル所互ニ相同キニ非スヤト散士カ曰ク蓋シ僕ノ釣ル所ハ大サ殆ト令嬢ニ倍スルヲ如何ト女史曰ク始メ豈大小ヲ約センヤ唯タ其數ノ如何ニ在ルノミ且ツ妾得ル所ハ小ナリト雖モ色鮮ニシテ味美ナリ郎君得ル所ハ其容徒ニ大ニシテ色味倶ニ及フナシ請フ之ヲ人物ニ譬ヘン乎夫ノ韃靼ヲ知ラスヤ一鞭馬ヲ躍ラセハ向フ所前ナク旬日ニシテ羅馬帝國ヲ糾合シ帝位ニ昇リ進テ亞細亞諸州ヲ蹂躙セリ又夫ノ若遜ヲ見スヤ市民ヲ驅テ之ヲ指揮シ大英無前ノ大軍ト三戰大ニ之ヲ破リ遂ニ大統領ニ昇レリ拿破倫ハ一孤島ヨリ起リ佛國ノ帝位ニ即キ其兵ヲ用ユル神ノ如ク歐洲ヲ席卷シ威四海ニ震ヒ歐ノ君相降ヲ納レテ唯タ後レンコヲ之レ恐ル智亞ハ經濟ノ才ヲ抱キ擧ケラレテ驕ラス退ケラレテ怨マス國ニ許スノ志白髮渝ラス國勢ヲ已ニ頽ヘルニ回シ宗社ヲ既ニ覆ヘルニ復シ遂ニ佛國大統領ノ位ニ昇レリ和通士ハ人トナリ多病薄弱然レ圧百折屈セス物理ノ奥ヲ探リ遂ニ蒸氣ヲ驅テ人力ニ代ヘ海ニハ巨艦ヲ浮ヘ陸ニハ鐵車ヲ奔ラセ生民ヨ

リ以來人ヲ益スル者及フナキニ至レリ是數人皆蓋世ノ英傑智豐ニシテ材高シ而シテ其長ケ中人ニ及ハス唯タ其異ナル所ノモノハ腦裡ニ鱗スルノミ豈身體ノ大小ヲ以テ雌雄ヲ決ス可ケンヤ今十九世紀ハ才學藝術ノ競爭ニシテ往古野蠻ノ單騎勇闘身體筋骨ノ强壯ニ誇リ弱ヲ凌キ寡ヲ壓シ優勝劣敗ヲ試ミシ時ニ非サルナリ嗚乎郎君ノ說ノ如キハ八尺ノ農夫南方ノ黑奴貴國ノ角觝天下ニ敵ナシト云フカ如シ今日ノ事情ニ通セサルモノト云フ可シト散士笑テ曰ク令孃豈僕カ矮少ナルノ故ヲ以テ曲ケテ之ヲ折カント欲スルニ非スヤ但得ル所大魚甚タ多シ其小ナルモノハ乞フ再ヒ之ヲ放タン女史曰ク妾聞ク男子ノ情ハ變シ易キヿ秋天ノ如シト信ナル哉言ヤ郎君後ニ得ルノ大ヲ以テ先ニ釣ルノ樂ヲ忘ル所謂新ヲ憐ミ舊ヲ疎スルモノナル無カランヤト散士曰ク令孃言語抑揚殆ト僕ヲシテ又口ヲ開ク能ハサラシメントス今ニシテ悔ユ令孃ヲシテ大魚ヲ得セシメサルヿヲト女史大ニ笑フ時ニ四圍漸ク昏シ乃チ竿ヲ收メテ歸ル直ニ誘テ客院ニ到リ散士ニ謂テ曰ク今日ノ樂ミ實ニ近來無キ所鬱憂全ク散シ快樂言フ可カラス然レ𪜈少シク身疲レテ神憊キヲ覺ユ郎君幸ニ之ヲ恕セヨト徐ニ起テ傍ノ長椅ニ倚ル母氏闥ヲ推シ來テ女史ヲ顧ミテ曰ク心神果シテ如何女史カ曰ク二豎頓ニ身ヲ去ルカ如シ蓋シ郎君ノ賜ナリト三人團欒西ヲ語リ東ヲ話シ興亦漸ク酣ナリ倏チ點スルニ彩鐙ヲ以テシ時ニ羞ムルニ晩餐ヲ以テス良肉鮮魚案上ニ雜陳ス粲トシテ玉ノ如シ釣ル所ノ魚味最美ナリ共ニ賞シテ止マス散士箸ヲ置キ問ウテ曰ク聞ク英人カ自國ノ航海ヲ奬勵シ愛國ノ富强ヲ妨害セントスルノ時ニ當テヤ令ヲ發シテ以テ愛人ノ英船ニ乘ル者ニ非サレハ海ニ漁スルヲ禁セリト眞ニ此事有リヤ如何ト女史眉ヲ張テ曰ク之レ有リ以テ其他ヲ推知ス可キノミ百世ノ國讎報セスンハアル可カラスト聲漸ク激シ語將ニ烈シカラントス母之ヲ止メ更ニ語ヲ移シテ談東洋婦人ノ情態ニ及フ女史笑テ曰ク東洋甚タ美人多シト想フニ嬌玉羞花ノ人窓ヲ開テ南來ノ雁ヲ望ミ門ニ傍テ岫ニ還ルノ雲ヲ看以テ郎君ノ歸朝ヲ遲ツ者アラン散士莞爾トシテ答テ曰ク僕少ウシテ狂猖檢操ナク其後舊邦喪亂東西ニ飄零シ殆ト寧日ナク且ツ性歌舞遊蕩ヲ好マス洒洒落落ノ風ニ乏シク紈袴ヲ穿チ輕裘ヲ衣喔咿嚅唲以テ婦女ニ事フルノ勞ニ堪ヘス是故ニ絶テ僕ヲ顧ミル者ナク僕モ亦是ヲ以テ自ラ得タリトセリ一生ヲ鰥衾孤燈ノ下ニ送ルモ未タ知ル可カラサルモノト女史曰ク噫ゝ是妾カ事ノミ抑ゝ婦女柔軟ノ臂ヲ揮テ一世ニ爲スアラント欲セハ勢ヒ夫ヲ迎ヘテ以テ偕老ノ契ヲ結フ能ハス蓋シ生計ノ微事肘ヲ掣シ子女ノ累、心ヲ控キ遂ニ意ノ如キ能ハサルモノアリ男子ハ則然ラス婦內ヲ護リ子ヲ敎ヘ孫ヲ育シ至ラサル所ナシ其外ヲ勉メテ以テ志ス所ヲ爲スニ於テ何ノ累カ之レ有ランヤ唯タ君子ハ窈窕ヲ憐テ其色ニ淫セサルニ在ルノミ是ヲ以テ歐米古來ノ人ヲ觀ルニ義婦烈女終身嫁セサルモノ甚タ多シ而シテ男子ノ孤獨一世ヲ畢ル者尠シ嗚乎人枯木頑石ニ非ス孰レカ春ヲ懷フノ情ナカラン・ヤ唯タ天下ノ事心ニ關スル者是ヨリ大ナル有テ而シテ遂ニ顧ミルニ遑アラサルノミト散士曰ク令孃ノ言實ニ理アリト謂フ可シ然レ𪜈僕聞ク哲學ノ大家感堵理學ノ泰斗紐頓大史麻浩冷詞家華聖頓於留贊數人ノ如キ者終身妻ヲ娶ラス米ノ大統領婉美倫舞雩河南モ亦然リト男子豈特リ累ナカランヤ且ツ夫レ歌樓舞館固ヨリ細腰輕軀多シ水郭山村豈明眸皓齒ニ乏シカランヤ但心ニ稱ウテ而シテ取ラント欲セハ難キ冀北ノ駒ノ如シ是レ美人薄命才子佳人ニ配シ難キノ歎アル所以ナリ若シ男兒一タヒ誤テ姦婦ヲ娶リ淫女ニ溺レハ大ニシテハ國ヲ失ヒ小ニシテハ家ヲ破リ名ヲ汚ス者甚タ多シ古人謂ヘルアリ皓齒蛾眉ハ性ヲ伐ルノ斧ナリト果シテ然ラハ

何ソ累ナシトセンヤト語未タ終ラス女史笑テ曰ク然リト雖モ才豐ニシテ容麗シク大事ハ以テ倶ニ計ルニ足リ小事ハ以テ累トナスニ足ラス而シテ共ニ飛ヒ偕ニ老イントスルモノアラハ夫レ之ヲ如何セント散士曰ク石橋雨ニ朽チ羝羊風ニ孕ムモ此ノ如キノ好事アル可カラス斯レ僕ノ夢ニ見ル所ノモノノミ令娘癡人ニ非ス何ソ夢ヲ說クヲ須キント女史笑ヲ忍テ曰ク何ソ夢ヲ說カンヤ近ク之ヲ郎君ノ身ニ取ルノミ郎君之ヲ知ラスト謂フトモ妾業ニ已ニ之ヲ知ルヲ如何セント既ニシテ口ヲ掩テ曰ク妾謂フ所ノ者ハ幽蘭女史ノ事ナリ郎君猶ホ情ナシト謂フカ將タ之ヲ知ラスト言ハンカ散士笑ヲ含テ未タ答ヘス女史輒チ曰ク噫ミ情義ハ是レ天ノ命スル所商參萬里ノ客一見舊相識ノ如ク共ニ相棄ツル能ハス豈奇遇ニ非スヤト散士漸ク機ヲ得テ問テ曰ク紅蓮女史一タヒ去テ後如何ノ狀アルヲ詳ニセス竊ニ以テ念トナセリ昨新報ヲ見ルニ電音ヲ掲ケテ曰ク西國頓加羅黨ノ將獄ヲ越エテ逃ルト是レ僕カ紅蓮諸娘ノ爲メニ意トナス所ナリ令娘若シ聞ク所アラハ幸ニ之ヲ告ケヨト女史笑ヲ含テ曰ク郎君問フ所ノ人ハ少シク失當ナル無カランヤ散士曰ク一ヲ聞テ十ヲ知ラント欲シテナリト女史カ曰ク彼レ書ヲ投シテ一タヒ海ニ航シテヨリ未タ一片ノ音耗ニ接セス妾ノ夙夜安セサル所然レドモ兩娘年少ナリト雖モ才智共ニ豐ニ謀略亦富ム顧フニ豎兒ノ戲ヲナシテ千金ノ身ヲ危ウスルヿナカラント且ツ食シ且ツ談シ少焉アリテ散士將ニ辭シ去ラントス女史乃チ止メテ曰ク人生朝露ノ如シ今日ノ我焉ソ來日ノ鬼ナラサルヲ知ランヤ今年米土ノ君何ソ明年東海ノ人ニ非サルヲ識ランヤ請フ事ナクンハ妾カ爲メニ今夕ヲ長ウセヨト相誘ウテ南樓ニ登ル時ニ天月明淨都テ纖翳ナク江山千里掌中ニ落ツ散史女史ニ謂テ曰ク僕敢テ令娘ニ請ハントスルモノアリ若シ病ニ關スル無クンハ幸ニ之ヲ許セ女史曰ク郎君殊ニ命スルアラントス其何事ナルヲ知ラスト雖モ妾ニシテ能クス可クンハ豈之ヲ辭センヤト散士曰ク僕性甚タ音ヲ好ム嘗テ人ノ報國詞ヲ吟スルモノアルヲ聞ク其音悲壯其節激越即チ令娘ノ作ナルヿヲ知レリ其後南邦ニ行キ去テ北ニ來ル至ル處人口ニ膾炙シ里童牧卒猶ホ令娘カ報國詞ヲ歌フ僕尤モ之ヲ愛セリ今令娘幸ニ僕カ爲メニ鳴琴ヲ撫シテ一曲ヲ吟セハ其喜ヒ何ソ加ヘント女史母氏ヲ顧ミテ曰ク兒一タヒ病ニ臥シテヨリ未タ嘗テ琴ヲ弄セス我心モ亦寥寥タルヲ覺ユ幸ニ今郎君ノ命アリ且ツ今夕病殊ニ間ナリ請フ拙技ヲ奏シ以テ嘉客ノ懷ヲ慰メント母氏ノ曰ク大ニ好シ但大聲ヲ發スル勿レト女史乃チ起テ琴ヲ操リ和顏ヲ揚ケ皓腕ヲ攘ケ纖指ヲ飛ハシテ之ヲ彈シ徐ニ報國詞ヲ歌フ其詞ニ曰ク

海可瀰兮山可移。亡國怨兮永難遺。請看故鄕衰弊狀。滿目風光堪悽欷。昔日豪華王侯家。臺榭一空委茅茨。羅織場荒爐灰冷。龍骨車朽水聲微。古城夜靜老梟啼。廢寺晝暗蝙蝠飛。落落殘村秋草死。處處茨墟蟲聲滋。國亡王孫無人問。徒跣驅羊迷路岐。最憐矮屋群居者。數顆山薯纔充飢。自版圖入暴英。先世國力遂萎靡。戾王奸吏繼世出。牧御又非昔時治。重斂虐民膏血枯。前有鐵鎖後鞭苦。苛政如虎極暴威。貪婪無厭事奢侈。細民苦租竇巾上。一家離散又何歸。子別慈親妻別夫。年年流落向天涯。宗祀不祭鬼神哭。饑莩橫途鷄犬稀。雲黯澹兮山川愁。風凄薰兮草木悲。嗚乎鄕國之慘既如是。殺身成仁是丈夫。寧爲玉碎忠義鬼。不願瓦全亡國奴。好除獨夫興新政。凱歌與衆還舊都。

英聲奮逸風駭キ雲亂ル或ハ曲ニシテ而シテ屈セ

ス或ハ直ニシテ而シテ倨セス時ニ劫椅シテ以テ慷慨シ或ハ怨嫞シテ而シテ躊躇ス散士聞キ終テ覺エス聲ヲナシテ曰ク悲イ哉令孃賦スル所ヤ聞ク昔時師曠律ヲ調シテ以テ南風ノ競ハサルヲ知リ季札樂ヲ聞テ以テ諸侯存亡ノ期ヲ知ルト令孃忠義ノ誠悲憤ノ念自ラ彈琴唱歌ノ間ニ溢レ能ク人ヲシテ感動止ム能ハサラシム散士音ヲ能クセスト雖モ豈感觸セサルヲ得ンヤト女史彈シ歇テ慨然トシテ曰ク妾カ歌ノ悲キニ非ス其實境ニ出ツルノ悲キノミ嗚乎一國ノ獨立ハ天ノ賦與スル所人間ノ通義ハ他人ノ犯ス可カラサルモノナリ而シテ英人兩ナカラ之ヲ犯シ我愛人ヲ遇スル禽獸モ啻ナラス請フ我南方民人ノ慘狀ヲ察セヨ壁落チ屋破レ以テ風雨ヲ避クルニ足ラス露葉ク衣ノ以テ寒ヲ防クナク霜隕チ履ノ以テ足ヲ包ムナシ子孫學ニ就ク能ハス弟妹婚ヲ結フ能ハス終身田野ニ勞働シ星ヲ戴テ出テ月ヲ見テ歸リ冬夜孜孜纖纖ノ苦ヲ積ムモ地主暴斂ノ爲メニ猶ホ餓飢ヲ救フ能ハス制令ノ不正ヲ論シ民人ノ害ヲ除カント欲セハ英蘇二國ノ全力ヲ併セテ之ヲ壓抑シ又爲スヿ能ハサラシム且ツ彼レ倨傲憚ラス外人ニ向ヘハ則チ曰ク愛人無智教フルモ學フヲ知ラス導クモ進ムヲ識ラス魯鈍支那人ニ過キ愚陋印度人ト匹ス堂堂タル大英國ノ文明ヲ妨ケ榮名ヲ傷クル者ハ愛蘭人民ナリト何ソ其思ハサルノ甚タシキ政事家ニハ則チ威怒門土暮留駒アリ雄辯ニハ於古寧留アリ將略ニハ於寧留窩林頓佛ノ大統領麥馬奔米ノ大統領若遜等アリ此數氏ハ皆愛國ヨリ出ツル所英雄學士ノ多キ豈僕ヲ更ヘテ數フ可キノミナランヤ今ヤ已レ之ヲ苦メ國弊ヘ民瘁ムニ及テ之ヲ人種ノ然ラシムル所ナリト謂フ何ソ其レ冤ナルヤ方今英國ノ威五州ニ輝キ通商貿易ノ盛ナル宇内ニ冠タルヲ以テ人之ヲ恐レ之ニ惑ヒ而シテ眞ニ愛國古今ノ成敗ヲ鑒ミ我窮厄ヲ憐ミ我黨ノ忠誠ヲ助クル者寥寥晨星ノ如ク徒ニ目シテ兇昆ノ邪境トナス又悲シカラスヤ嗚乎夫レ霜雪ハ以テ山木溪草ヲ殺ス可キモ以テ亭亭タル松柏ノ操ヲ奪フ可カラス英國ノ苛令虐制ハ以テ無氣印度ノ民ヲ制ス可キモ以テ愛國必死ノ士ヲ壓ス可カラス蓋シ棺ヲ蓋テ論始メテ定ル人生ノ願フ所ハ後世ニ恥チサルニ在リ妾何ソ當世ノ毀譽ヲ顧ミンヤト議論風發辯奔馬ノ如シ更ニ散士ニ謂テ曰ク夫レ億兆ノ生靈其願フ所各々異ナリ憤ヲ發シ身ヲ顧ミス天下ノ爲メニ善ヲ勸メ害ヲ除キ弱ヲ扶ケ強ヲ挫キ大奸ヲシテ身ヲ容ルヽ能ハサラシメントスルノ志士仁人アリ茫茫タル穹天ヲ探リ漫漫タル蒼海ヲ測リ至微ノ奥ヲ尋ネ玄妙ノ理ヲ窮メントスルノ理學者アリ意ハ湧泉ノ如ク論ハ燎火ノ如ク人以テ文壇ノ老將トナシ之ヲ讀ム者ハ筆ヲ擱キ之ニ對スル者ハ口ヲ拑スルノ文學者アリ馬上三軍ヲ叱咤シ人ヲ殺スヿ草艾ノ如ク尸積テ山ヲナシ血流レテ杵ヲ漂シ以テ自ラ得タリトスルノ將士アリ徒手空拳布衣ヨリ蹶起シ時運ニ際會シ生殺與奪ノ權ヲ掌握シテ初メテ快ト呼フノ英雄アリ下民ノ愁苦ヲ顧ミス急征暴斂食飲方丈侍妾數百人自ラ以テ志ヲ得タリトスルノ暴君アリ終日終夜造次顚沛輸贏ヲ決シ黄金ノ爲メニ慮ヲ苦メ思ヲ焦シ有無相通シ以テ國家人民ノ福祉ヲ謀ルヲ知ラサルノ守錢奴アリ一諾ヲ重ンシ片言ヲ信シ情人ノ爲メニ辛酸萬狀猶ホ悔イサルノ多情者アリ巧言令色權貴ノ顏色ヲ俯仰シ以テ終世ノ生命ヲ保タント汲汲スルノ佞倖者アリ饑エテ一飯ノ食ナク寒エテ一袍ノ布ナク流離疾病遂ニ溝瀆ニ斃レ猶ホ且ツ救者ニ逢フ能ハサルノ薄命者アリ嗚乎人生禍福ノ差此ノ如ク甚タシ其然ル所以ノモノハ何ソヤ宿世因緣ノ止ム可カラサルカ將タ其受クル所ノ性相同シト雖モ志ス所ノ殊ナル此ノ如キカ或ハ教育ノ然ラシムル所カ抑々感觸交遊ノ然ラシムルカ果シテ天ノ賦與スル命運ハ奪フ可カラサルモノアルカ若シ夫レ然ラハ則生モ樂ムニ足ラス死モ亦悲ムニ足ラス之ヲ天運ニ任セン

カ或ハ我信スル所ヲ社會ニ施シ生民ノ爲メニ身命ヲ犠牲ニ供シ道義ノ爲メニ始終スルニ在ルカト散士對テ曰ク漢國ノ碩儒司馬遷謂ヘルアリ曰ク古者富貴ニシテ名ノ磨滅セルモノ勝テ紀ス可カラス唯タ倜儻非常ノ人ノミ稱セラルト志士ハ世ニ在ル百折撓マス芳ヲ千載ニ流スニ在ルカト女史曰ク人生ノ幸福果シテ何ノ邊ニ存スルカ妾惑焉郎君願クハ妾カ爲メニ試ニ之ヲ語レト散士カ曰ク史ニ曰ク人從容トシテ希臘ノ古聖楚論ニ問テ曰ク先生ノ見聞スル所ヲ以テスレハ人生最上ノ快樂ヲ受ケタルモノ抑モ何人ソヤト楚論答テ曰ク亞天ノ士貞流士其人ナル哉彼レ人トナリ正直義烈善ヲ聞テ驚クカ如ク惡ヲ視テ仇ノ如ク常ニ獨立ノ生計ヲ營ミ餘力アレハ賴ルナキノ孤兒衰老ヲ救ヒ公平自由ノ政令ニ薫沐シ後チ貞節ノ佳人ト婚シ數子ヲ擧ケ皆俊秀ニシテ令名アリ父母ニ孝ニシテ交友ニ信ナリ貞流士ハ老年ニ當リ鄰國兵ヲ起シテ來リ伐ツ貞流士胄ヲ擐ヒ戈ヲ荷ヒ奮テ義勇兵ニ加ハリ血戰勇鬪將士爲メニ振ヒ民心爲メニ起チ大ニ敵兵ヲ破リ京城依テ以テ全ク自由再ヒ隆ナリ而シテ貞流士重傷ヲ蒙リ遂ニ命ヲ鋒鏑ニ隕セリ國人知ルト知ラサルト皆爲メニ流涕シ國家ノ大典ヲ擧ケテ以テ忠魂ヲ祭リ芳碑ヲ建テ、以テ功業ヲ不朽ニ垂レリト嗚乎此ノ如クニシテ男兒始メテ生テ世ニ恨ナク死シテ地下ニ瞑ス可シト女史聞キ了リテ愾然トシテ曰ク男兒羨ム可シ婦女死處ナキヲ如何セント時ニ案頭ノ自鳴鐘十一點ヲ報ス散士驚キ起テ謝シテ曰ク逍遙ノ遊ヲ爲シテ以テ幽鬱ヲ散セシメ清亮ノ音ヲ發シテ以テ心神ヲ樂マシメ次クニ適快ノ論ヲ以テシ更ニ散士ノ心ヲ奮起セシム散士唯終夜令孃ノ側ニ侍シ其未タ知ラサル所ヲ敲カントス然レトモ更已ニ深シ請フ是ヨリ辭セン令孃ノ身ハ一國興廢ノ關スル所幸ニ自愛セヨト女史曰ク妾ノ不才ヲ棄テス遠路來リ顧ミル辭ノ以テ謝ス可キナシ唯祈ル重ネテ玉趾ヲ枉ケテ妾カ胸懷ヲ開カンヿヲト散士曰ク是レ僕カ願フ所ナリト慇懃ニ手ヲ握テ別ル又汽車ニ投シテ費府ニ歸ル夜既ニ深ク萬籟共ニ寂タリ

佳人之奇遇 卷四

越テ六日散士新報ヲ閲ス一報ヲ掲ケテ曰ク愛蘭獨立黨ノ首魁波寧流女史病急ニ革リテ昨夜幽冥ノ鄕ニ逝ケリ年二十八嗚乎哀矣哉ト散士一讀愕然トシテ驚キ默然トシテ首ヲ低レ憮然トシテ大息スル者之ヲ久ウス既ニシテ喟然トシテ歎シテ謂ク幽蘭紅蓮ノ二妃頻ニ殃禍ニ遭ヒ蹤跡生死未タ知ル可カラス而シテ今波寧流女史亦世ヲ棄テ、遠ク黃泉ニ逝ク嗚乎天常ニ有爲非常ノ人ヲ苦メテ殘暴無智ノ者ヲ助ク顏回ハ夭盜跖ハ壽造物豈才ヲ嫉ミ智ヲ忌ムカ抑〻前世ノ宿因已ム可カラサル有ルカ古人曰ク天道ハ善ニ福シ惡ニ禍スト余疑ナキ能ハサルナリト此夕ヨリ散士復タ病痾ニ感ス時ニ國中女史ノ訃音ヲ聞キ悼惜セサルモノナシ其葬ルニ及テヤ遠近ノ人皆相共ニ之ヲ送ラント欲シ雲集霧合棺ヲ擁シテ去ラス是ニ於テ旅襯新府ヨリ慕士頓ニ回リ亦還リテ費府ニ來ル到ル處其葬ヲ送ル者數萬群ヲ爲ス散士獨リ二豎ノ故ヲ以テ遂ニ弔訪スル能ハス嗚乎妙齡一女ノ身ヲ以テ一世ノ景慕スル所トナル此ノ如シ至誠人ヲ感動スルニ非サルヨリハ焉ソ能ク然ランヤ女史嘗テ謂フ是非ハ蓋棺ノ後ニ至テ論始メテ定ルト期スル所大ニシテ而シテ違ハサルモノト謂フ可シ

返照已ニ收マリ瞑煙全ク散シ長空皦然又雲翳ヲ見ス首ヲ上クレハ一輪氷ノ如ク松樹ノ間ニ懸ル散士時ニ窓ヲ開キ樓ニ倚リ四圍ヲ眺臨シ遙ニ故鄕ヲ懷ヒ舊交ヲ追想ス交友半ハ四方ニ流離シ半ハ黃土ニ化朽ス彼ヲ懷ヒ此ヲ想ヒ百感交〻集マリ殆ト堪フ可カラサルニ至ル忽チニシテ又波寧流女史ノ事ニ感ス時ニ遺尸未タ葬ルニ及ハ

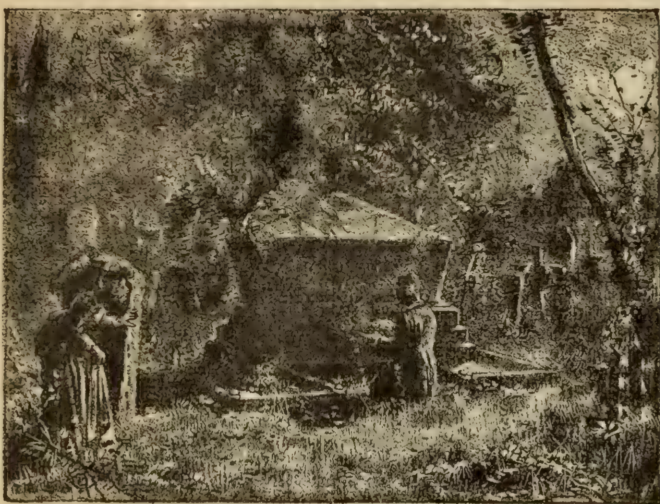
ス旅櫬尙ホ費府ノ北邙ニ在リ乃チ一タヒ身親ラ之ヲ弔ヒ舊交ヲ全セント欲シ直ニ歩シテ之ニ向フ丘樹ノ間ヲ過キ小水ノ涯ヲ行ク乍チニシテ木葉月ヲ避リ路暗ウシテ影冷カナリ乍チニシテ玉兎水ニ落チ潺湲ノ響ヲナス漸クニシテ北邙ノ上ニ達ス萬籟寂トシテ四ニ人影ヲ見ス已ニシテ旅櫬ノ邊ニ近ツク一塊ノ人影ニ似タルヲ見ル身ヲ屈メテ之ヲ凝視ス忽チニシテ纖雲月ヲ隱シ茫トシテ分ツ可カラス唯タ白衣蓬髮腰下朦朧煙ノ如ク霧ノ如ク行クカ如ク止マルカ如キヲ見ルノミ尖風一陣葉鳴キ枝震フ倏焉影消エテ鬼氣人ヲ襲フ散士幼ニシテ未タ事理ニ通セサルノ時世ニ幽鬼ナル者アルヲ聞ケリ今ヤ素ヨリ之ヲ信セスト雖モ少時ノ染習腦裡ニ感觸スル所ナシトナサス胸惕然トシテ悸キ肌忽爾トシテ戰キ寒栗殆ト體ニ洽シ自ラ顧ミテ囅然トシテ笑フ是レ精神惑迷ノ致ス所ニシテ所謂疑心暗鬼ヲ生スル而已ト即チ進テ旅櫬ノ前ニ至ル旅櫬ハ一土室ノ中ニ在リ廣サ五六弓其一面ヲ石ニシ以テ開ク可カラシム散士跪テ微聲ヲ發シ波寧流女史ノ靈ヲ祭リテ曰ク

維レ一千八百八十二年月日愛蘭ノ烈女波寧流女史卒ス不幸短命春秋僅ニ二十八嗚乎哀矣哉父ハ海軍ノ名將母ハ獨立黨ノ領袖兄ハ愛蘭ノ名士其名一世ニ高ク姪亦獨立黨ノ梁柱タリ嗟乎厥姓斯氏世世芳烈ヲ奮ヒ聲ヲ四海ニ揚ク會ミ陽九ニ遭ヒ舊都隕顚シ外人政ヲ專ニシテ生民悲咤ス君乃チ羈旅此阨艱ニ隔ル忠肝鐵ノ如ク故國ノ爲メニ身ヲ忘レ節ヲ磨キ志ヲ勵マシ弱ヲ扶ケ強ヲ挫キ舊京ヲ回復スルヲ以テ已レカ任ト爲ス何ソ運極マリ命衰ヘ吉往キ凶歸ル嗚乎哀矣哉神柩新府ヲ發シ北慕士頓ニ迄リ山河ヲ經歷シ又南費府ニ至ル葬ヲ送ルモノ號慟境ヲ踰エ雲集途ニ滿チ花樹魂ヲ祭リ蒼天ヲ望テ訴ヘ路人涙ヲ灑キ征馬悲嘶シ哀風感ヲ添ヘ愁雲徘徊ス嗚乎哀矣哉君少ヨリ志節ヲ負ヒ至誠至孝下ヲ率ユルニ方アリ躬行淸潔身ヲ以テ人ニ許サス文ハ春花ノ如ク思ハ涌泉ノ如シ發言詠ス可ク筆ヲ下シテ章ヲナス又韻樂ニ深ク歌音雲ヲ過ム旻天何ノ意ソ此烈女ヲ奪フ嗟乎哀矣哉君散士ニ戲レテ云フ天命常ナク朝夕ヲ謀ラス今年西土ノ士明年東海ノ人ナラン今夕同歡ノ友焉ソ知ラン明朝黃泉ノ客ナランヿヲト何ソ竊ラン諧語讖ヲナシテ遂ニ今日ノ事アラントハ神柩今將ニ故山ニ反ラントス音容接シ難ク首ヲ延ヘテ嘆息ス君父散士ニ語ル是非棺ヲ蓋ウテ論初メテ定マル要スルニ後世ニ愧チサルニ在リト嗚乎女史幽冥ニ永安ス人誰カ死ナカラン身沒シテ名垂ル先哲ノ偉ナリトスル所君亦以テ瞑ス可シ嗟乎哀矣哉孤雲結テ月慘憺中泉寂トシテ夜沈沈白露滴テ征衫冷カニ悲風起テ丘樹驚キ幽蘭摧ケテ鳳皇去リ紅蓮折レテ鴛鴦離レ生年淺クシテ逝日長ク憂患衆クシテ歡樂尠シ昔ハ志ヲ同ウシ今ハ世ヲ異ニス舊歡ヲ憶ウテ新悲ヲ増ス悲憤結テ誰カ憂ノ解カン憂心惕トシテ空シク涙ヲ掩フ嗟乎哀矣哉尙クハ饗ケヨ

弔ヒ終リテ首ヲ低レ幽懷言フ可カラス時ニ雲晴レ月明ニ四面晝ノ如シ二女アリ半面ヲ苔碑ノ後ニ露ハス矍然トシテ面白ク凄然トシテ眼冷カニ散士ヲ望ムモノヽ如シ散士遽ニ起テ之ヲ見瞿然容ヲ失ヒ毛髮悚樹又言フ能ハス一女徐ニ身ヲ起シテ曰ク君ハ東海ノ郎君ニ非スヤ妾は愛蘭ノ紅蓮ナリト散士熟視驚愕默然タルモノ之ヲ久ウス漸クニシテ之ニ謂テ曰ク嗚乎紅蓮女史何故ニ此ニ在ルヤ僕ヲシテ夢中ノ夢カト疑ハシム眞ニ奇中ノ奇遇ト謂フ可キナリ今其喜ヒヲ述ヘント欲シテ口ノ期期タルヲ如何セント紅蓮曰ク妾亦悲喜雨ナカラ集テ何ヲ語リ何ヲ話ス可キヲ知ラサルナリ散士更ニ忙シク問テ曰ク幽蘭范卿今何ノ處ニ在ルヤ共ニ與ニ西都ニ赴キシカ將タ行ク能ハサリシヤ別後ノ狀詳ニ之ヲ聞クヿヲ得

ント紅蓮悄然トシテ曰ク此レ一朝一夕ノ能ク談ス可キニ非ラス蓋シ妾等ノ郎君ニ分レテヨリ未タ半歳ニ至ラス而シテ世運ノ隆替人事ノ變遷妾等カ迍邅困躓既ニ百歳ヲ重ヌル者ノ如シト散士意安カラス急ニ問ウテ曰ク然ラハ則二氏恙ナキヤ否ト紅蓮依違言フ能ハサルモノヽ如シ既ニシテ曰ク郎君急ニ之ヲ問フ勿レ徒ニ悲哀ヲ増サンノミト散士意愈〻安カラス又將ニ問フアラントス紅蓮顧ミテ土室ヲ指シテ曰ク嗚乎斷金ノ友既ニ此ノ如シ何ソ其レ悲キヤト散士曰ク僕ハ一面ノ識ノミ且ツ南北其國ヲ異ニス而シテ其死スルヲ聞クヤ悲悼殆ト堪フル能ハス生テ其國ヲ同ウシ立テ其志ヲ一ニス其情果シテ如何ゾヤ紅蓮曰ク妾今夕歐洲ヨリ着シ裝未タ解クニ及ハス早ク波寧流女史ノ逝クヲ聞キ驚愕措ヲ失シ旅櫬ノ倘ホ此處ニ在ルヲ知リ怱卒月ヲ踏ミ手ツカラ花枝ヲ折リ供シテ以テ遺靈ヲ弔セントス忽チ人聲ノ近ツクヲ聞キ乃チ之ヲ其後ニ避ク其人亦櫬前ニ至リ永ク留テ去ラス妾頻ニ之ヲ疑ヒ數〻首ヲ擧ケテ之ヲ窺フ生憎ヤ癡雲光ヲ掩テ樹下影暗ク其面ヲ認ムルニ由ナシ既ニシテ其唱フル所ヲ聞ク或ハ幽蘭女史ノ名ヲ引キ或ハ妾カ名ヲ呼ヒ憤怨痛恨次クニ涙ヲ以テス妾疑念愈〻加ハリ更ニ首ヲ擧クレハ玉兎雲ヲ躍リ始メテ郎君ナルヲ知レリ竊ニ怪ム郎君亦何カ故ニ夜ヲ侵シテ此ニ來ルヤ散士曰ク月ニ對シテ故人ヲ懷フハ人情ノ常ナリ今夜僕ノ來リ弔フ亦情ノ止ム能ハサルニ由ルノミト更ニ語テ曰ク山寂トシテ夜靜カニ四ニ人影ヲ見ス我隻影ヲ照スモノハ獨リ天上ノ明月ノミ我談話ヲ聞ク者ハ唯一堆ノ土室アルノミ乞フ是ヨリ別後ノ狀ヲ語ラン可ナランカト紅蓮曰ク妾ノ願フ所ナリト即チ草ヲ席シテ共ニ坐ス散士曰ク始メ蹄水ノ寓居ニ相見テヨリ僕ノ心恍トシテ忘ル可カラス晝想夜夢七日ヲ待ツ七月ノ久キカ如シ紅蓮曰ク妾等ハ郎君ヲ待ツ七年ノ思アリト散士カ曰ク既ニシテ期日ニ及ヒ蹄水ノ濱ニ至ル風雲俄カニ起テ水波忽チ激シ驟雨大ニ至リ衣裳皆濕ヒ小舟遂ニ渡ル能ハスシテ歸ル是ヨリ小痾ニ感シ病床ニ轉輾セリ紅蓮曰ク妾等日ニ指ヲ屈シテ期日ノ至ルヲ待チ此日幽蘭女史夙ニ興キ喜ヒ顏色ニ溢ル范卿ハ鷄ヲ割キ魚ヲ烹妾は室ヲ拂ヒ席ヲ滌メ共ニ相語テ郎君ノ至ルヲ待ツ悲イ哉風雨常ニ起リ易ク人事多ク左ヒ易シ天色卒爾トシテ變シ郎君遂ニ來ラス次日又飛報アリ曰ク幽蘭女史ノ父西國ニ入リ間諜ノ知ル所トナリ縛セラレテ西都ニ送ラルト女史之ヲ聞テ痛哭骨ニ徹シ乃チ妾等ニ告ケテ曰ク聞ク樹靜ナラント欲セハ風停マス子養ハント欲スレモ親待タス往テ來ラサルモノハ年ナリ再ヒ見ル可カラサルモノハ親ナリト妾今ニシテ還ラスンハ又將ニ此嘆アラントス妾直ニ明朝ヲ以テ獨リ西都ニ入リ父ノ難ヲ救ハント欲ス事若シ成ラスンハ共ニ與ニ死センノミ抑〻此行極メテ危ク手一タヒ分テハ會面再ヒ期ス可カラス唯タ祈ル妾死スルト聞カハ各〻家財ヲ分テ以テ國ヲ興スノ用ニ供セヨト妾輒チ答テ曰ク令孃何爲レソ此言ヲ出スヤ妾令孃ト一タヒ交ヲ結ヒショリ府奧互ニ傾瀉シテ崖岸ヲ其間ニ置カス死生榮辱皆相倶ニナサント盟ヘリ而シテ今令孃單身妙齡匕首ヲ懷ニシテ虎狼ノ敵國ニ入ラントス其生死固ヨリ知ル可カラス妾豈令孃カ今日ノ危キヲ見テ手ヲ袖ニシテ晏居スルニ忍ヒンヤ虎窟狼棲唯タ君カ向フ所妾焉ソ與ニセサランヤ獨リ鼎老ハ交ノ久シキ令孃ト妾トノ如クナラス留テ以テ家財ヲ管ス可キノミト語未タ畢ラス范卿勃然トシテ怒リ進テ妾ニ謂テ曰ク異ナル哉紅蓮女史ノ言ヤ名ハ主タリ僕タリト雖モ一タヒ互ニ心膽ヲ吐テヨリ交情豈深淺アランヤ今ヤ或ハ生ヲ捨テ、孝道ヲ盡サント欲シ或ハ死ヲ取テ友誼ヲ全ウセント欲ス之ヲ聞クモノ誰カ奮起セサランヤ孔子曰ク見レ義不レ爲無レ勇也孟子曰ク捨レ生取レ義ト僕ニシテ此行

ニ隨フナクンハ平生誦スル所聖賢ノ教ニ恥ツル勿カランヤ又何ヲ以テ齊魯奇節ノ人燕趙悲歌ノ士ヲ見ンヤ況ヤ他日東海ノ郎君再ヒ訪フノ日必ズ老奴ヲ賤ミ謂ハン鼎泰果シテ怯懦ノ匹夫ノミ貪慾ノ老奴ナリ又尋常淸人ニ異ナラスト僕何ノ面目アリテ郎君ヲ見ンヤ幽蘭女史希クハ僕ヲ從ヘヨ半白ノ老奴亦爲ス所ナカランヤト意色既ニ決スルモノヽ如シ女史曰ク兩友ノ言フ所皆理ナキニ非ラス然レ𪜈兩君皆天下ノ大望ヲ懷キ一身ノ安危ハ國家ノ存亡ニ關ス豈



散士再ビ墓前ニ紅蓮女史ト邂逅ノ圖　(原本插畫)

蟻ノ信ヲ以テ大鵬ノ志ヲ挫ク可ケンヤ私情ト公義ト何レカ重キ是レ兩君ノ常ニ稱スル所ニ非ラスヤ抑ミ妾ノ國ヲ出ツル十歲ノ時ニ在リ地勢人情甚タ明カナラス良友ノ力アル者有テ一臂ノ勞ヲ援ケンヿ固ヨリ妾ノ願フ所況ヤ妾ノ紅蓮女史ト交リシヨリ三年ノ星霜ヲ經鼎老ト志ヲ論シテヨリ日尙ホ淺シト雖モ其居ヲ一ニスルハ既ニ二載ノ裘葛ヲ過キタリ今手ヲ河梁ニ分ツノ情果シテ如何ソヤ只一片ノ公義絕タサル可カラサルモノアルヲ如何セン且ツ夫レ妾若シ兩君ヲ携ヘ去ラハ人誰カ妾カ不明ヲ笑ヒ兩君ノ淺謀ヲ嘲ラサランヤ兩君此地ニ留リ身ヲ守リ時ヲ待チ宿昔ノ志ヲ達シ功ヲ竹帛ニ垂ル可キノミ天運未タ盡キスンハ豈手ヲ一堂ノ上ニ握ルノ日無カランヤト議論明晰妾等ヲシテ又言フ能ハサラシム范卿首ヲ掉テ曰ク否否昔者荊軻一朝ノ囑ニ依リ身ヲ擲テ千里ノ强秦ニ入リ聶政ハ交友ノ誼ニ由テ韓相ヲ堂上ニ刺セリ是レ或ハ大義ニ合ハスト雖モ意氣ノ剛交情ノ深キ後世ヲシテ奮ハシム可シ故ニ天其誠ニ感シテ白虹日ヲ貫キ大史モ亦之ヲ記シテ以テ萬世ノ後ニ傳ヘリ且ツ夫レ事ノ成否ハ天運ノ如何ニ在リ人ノ生死ハ命數ノ定マル所天命我ニ與セスンハ令孃ト去ラスシテ此地ニ留マルモ三日汗ナクンハ死センノミ人間ノ死スル何ソ獨リ西國ニ止マランヤ命運幸ニ盡キスンハ怒濤ノ中ニ漂ヒ火澤ノ間ニ陷ルト雖モ亦何カ有ラン此行或ハ却テ我カ恢復ノ助トナランモ亦未タ計ル可カラス令孃復タ謂フ勿レ唯タ俱ニ與ニ行ク可キノミト妾モ亦其言ヲ助ケテ頻ニ女史ニ說キ直ニ行李ヲ裝ヒ明朝ヲ以テ將ニ海ニ航セントス女史曰ク前途ノ計略ノ如キハ徐ニ之ヲ船中ニ議センノミト各々散シテ寢ニ就カントス女史猶ホ燈ニ對シ沈思シテ未タ去ル能ハサルモノヽ如シ妾怪テ其故ヲ問フ女史曰ク唯一片ノ誠終ニ達スルヲ得ス此大難ニ臨テ忘レント欲シテ忘ルヽ能ハサルヲ如何セン且ツ後日再ヒ來リ訪テ而シテ妾等ノ在ルナキヲ見ハ且ツ疑ヒ且ツ怪ミ將ニ何トカ言ハントス假令人我ニ背クモ我輕薄ノ行ヲナシ以テ人ニ背ク可カラス然レ𪜈策ノ以テ我情ヲ通スルナシト妾因テ問テ曰ク令孃郞君ノ在ル處ヲ知ルヤト曰ク遂ニ之ヲ知ルニ遑ナク今ニ至テ憾トナス所ナリ若シ之ヲ知ルモ用ユルナシ親ラ訪ハント欲セハ時已ニ迫リ書ヲ投セハ事ノ漏ルヽヲ恐ル事此ニ及デ又爲ス可キナシト妾曰ク然ラバ則チ令孃尺素ヲ認メテ之ヲ家僕ニ遺ス可シト是ニ於テ女史筆ヲ執リ妾紙ヲ展ヘ沈思晷ヲ移シ一字一句モ苟モセス眞ニ二人カ誠意ヲ表シ肝血ヲ灑ク所ナリ書漸ク成

ルニ及テ晨星寥寥東天漸ク白シ乃チ後事ヲ老僕ニ託シテ去ル時ニ范卿モ亦河濱ニ至リ柳樹ヲ白ウシ文字ヲ題セリ想フニ又意ノ存スルアルカ如シト散士詳ニ爾來ノ狀ヲ語リ且ツ曰ク乞フ令孃等別後ノ狀ヲ聞カント紅蓮天ヲ仰テ曰ク河漢既ニ傾キ月西山ニ落ツ夜短クシテ話長ク又談シ盡ス可カラス郎君若シ妨ケスンハ共ニ蹄水ノ舊家ニ赴キ更ニ徐ニ語ル可シ妾舊廬別後ノ狀ヲ見ント欲スルナリト散士曰ク更深ウシテ美人ヲ携ヘ山谷ノ隱家ニ行ク此事ヲシテ東洋ナラシメハ固ヨリ譏誹ヲ免レス身米國ニ在ルヲ以テ幸ニ之レ無キナリ只恐ル令孃ノ累ヲナスアランヿヲト紅蓮曰ク何ゾ妾ノ累ヲナサンヤ獨リ愧ツ蕙蘭鳳皇ヲ引カスシテ而シテ泥土ノ蓮華錯テ鳳皇ヲ悟スヿヲ若シ幽蘭女史ヲシテ此ヲ知ラシメハ其レ妾ヲ何トカ言ハント散士曰ク令孃尙ホ僕ノ拙什ヲ記セシカ何ソ靦面ノ至ニ堪ヘント紅蓮曰ク妾性極メテ魯鈍百事總テ記シ難シ但蹄水一夕ノ談秋毫モ遺ル、ナシ自ラ以テ奇ナリトセリト散士笑テ曰ク僕亦然リト且ツ語リ且ツ行キ既ニ北邙ヲ下ル紫山旭日ヲ孕テ萬象漸ク鮮ナリ乃チ川岸ヲ下リ小舟ヲ僦テ蹄水ニ向フ舟絶景山ノ間ヲ過ク絶景山ハ費府ノ遊園ナリ地勢高爽境域廣大風光ノ美眺望ノ奇五洲第一ト稱スル時ニ兩岸樹木鬱茂禽鳥和鳴實ニ我耳目ヲ歡ハシムルニ足ル紅蓮首ヲ右ニシ林頭ノ一樓ヲ指シテ曰ク郎君彼ノ古屋ヲ知ルヤト散士曰ク咄叛將阿能奴ノ舊居カト

阿能奴ハ米國ノ將才略ヲ以テ顯ル革命ノ役米軍振ハス兵勢日ニ蹙マル時ニ英國重賞ヲ以テ之ヲ迎フ阿能奴心動キ元帥華聖頓ヲ擒ニシ英軍ニ降ラント約ス事覺レテ英軍ニ投ス乃チ其兵ヲ將テ數〻米ノ北境ヲ犯ス英軍敗レ歸ルニ及テ英京ニ住ス此時ニ當テ天下皆米國ノ獨立ヲ稱譽シ華聖頓ノ略芙蘭麒麟ノ忠四海ニ傳播シ籍籍惜カズ英人猶ホ阿能奴ノ不義ヲ笑フ者アリ遂ニ慚愧幽鬱病ヲ發シテ死ス今其舊宅陸軍ニ屬シ依然存シテ不忠者ノ戒トセリ

既ニシテ舟蹄水ノ舊家ニ達ス河柳水ニ垂レテ蔓草路ヲ埋メ壁ニ葺葺ノ葛ヲ掛ケテ屋ニ喔喔ノ烏ヲ見ル門ニ寄テ戸ヲ敲ク老僕聲ニ應シテ出ツ乃チ紅蓮ノ面ヲ仰テ大ニ驚キ且ツ喜ヒ引テ裡ニ入ラシム室裏寂寞氈上塵堆ク明窓淨几皆蛛網ノ封スル所トナル相顧ミテ惝惘之ヲ久ウス少焉アリテ紅蓮老僕ヲ呼テ曰ク一杯ノ鵞黃ヲ得ル能ハサルカ曰ク令孃等ノ去ルニ方テ葡萄ノ美酒若干ヲ殘セリ老僕性飮ヲ嗜マス依然存シテ今ニ至レリト直ニ去テ廚房ニ入ル散士曰ク酒肴ハ望ム所ニ非ス唯速ニ三君爾來ノ詳ヲ聞カント紅蓮喟然トシテ歎シテ曰ク妾豈急ニ之ヲ告クルヲ欲セサランヤ胸塞リ舌結ホレ實ニ言フニ堪ヘサルヲ如何セン且ツ郎君之ヲ聞カハ又將ニ悲哀ノ情ニ禁ヘサラントス是故ニ暫ク醇酒ヲ假リテ以テ浩浩ノ氣ヲ鼓シ而シテ後娓娓相語ラント欲スルノミト散士愈〻之ヲ促ス紅蓮乃チ襟ヲ正シテ曰ク幽蘭女史范卿ト已ニ魚腹ニ葬ラレシナラン妾獨リ生ヲ偸テ今日再ヒ郎君ヲ見ル豈恥チサランヤト白巾ヲ取リ面ヲ掩ヒ痛哭シテ椅下ニ轉輾ス散士聞キ了リテ愕然トシテ未タ胸裏ニ悲哀ノ念ヲ覺ユルニ暇アラス茫然トシテ又手足ノ措ク所ヲ失フ者ノ如シ既ニシテ紅蓮ヲ助ケ之ヲ勵マシテ曰ク令孃何ソ泣哭スルノ深キヤ人誰カ死ナカランヤト紅蓮漸ク首ヲ擧ケ散士ヲ見テ復タ慟哭ス散士曰ク今令孃痛哭スト雖モ幽蘭范卿豈再ヒ蘇ス可ケンヤ寧ロ余カ爲メニ往事ヲ談シ以テ烈女節士ノ英魂ヲ慰ムルヲ得セシメヨト時ニ老僕酒瓶ヲ持チ來テ机上ニ置ク紅蓮強テ一杯ヲ傾ケテ曰ク是ヨリ妾等ノ履歷ヲ語ラン

旅裝既ニ成リ費府ニ出テ直ニ汽船ニ搭ス鐵纜一タヒ解テ舟行漸ク疾シ女史妾ヲ携ヘテ甲板ニ上リ相指點シテ妾ニ語テ曰ク雲樹ノ迷迷タルハ

此レ費府ニ非ラスヤ費府ハ是レ東海郎君ノ在ル處嗚乎何ノ日カ再ヒ相遇ハン蹄水ノ邊ニ非ラスシテ其レ九泉ノ下ニアランカト因テ相共ニ流涕ス散士曰ク眞ニ其レ此ノ如キカ何ソ僕別後ノ情ト相似タルヤト紅蓮乃チ言ヲ繼テ曰ク三人船中ニ在テ前途ノ計ヲナサントス然レモ時機ノ以テ豫メ定ム可カラサルモノアリ乃チ唯タ相議シテ曰ク幽蘭女史ノ故國ヲ去リシハ已ニ十年ノ前ニ在リ故ニ西國ノ人亦女史ヲ知ル者ナカラン是ヲ以テ名ヲ歐洲漫遊ニ假リ以テ西國ノ帝都ニ入ラハ誰カ又疑フモノアランヤ而シテ後變ニ應シテ之ヲ謀ラハ機ハ乘ス可キモノナカランヤト船走ル益ミ遠シ既ニ大西洋ノ中央ニ至ル三人甲板上ニ在リ時ニ月明ニ星稀ニ四望渺茫トシテ水波萬里ニ彌リ雲端一物ヲ見ス微風客衣ヲ襲ウテ浪華水紋船輪ノ水ヲ斬ルヲ聞クノミ妾乃チ女史ニ謂テ曰ク家ヲ出テ、ヨリ既ニ三日ヲ經タリ想フニ今ヤ東海ノ郎君當ニ我カ蹄水ニ來ル可シ籬邊ノ蕙蘭既ニ疾風ニ散シ後池ノ紅蓮驟雨ニ碎ケテ滿目荒涼去ル能ハサルモノアラント女史曰ク妾昨夜夢ニ郎君ト蓬萊ニ遊ヘリ情緒未タ敍スルニ至ラス忽チ浪聲ノ覺破スル所トナレリ今又此月ニ對シ昔日ノ歡ヲ思ウテ懷舊ノ情殆ト堪フ可カラサルナリト共ニ船頭ニ立テ沈吟稍ミ久ウス

女史乃チ妾ヲ顧ミテ曰ク一長歌ヲ得タリ請フ之ヲ吟セント我所思行ヲ歌フ歌聲金石ヨリ出ツ婉約ニシテ而シテ優遊嬌厲ニシテ而シテ慷慨妾等ヲシテ殆ト聞クニ堪ヘサラシメタリ散士曰ク令娘若シ之ヲ記セハ何ソ余カ爲メニ之ヲ歌ハサル紅蓮曰ク百艱萬難ヲ經テ心思數ミ亂レ或ハ遺ル、所ナシトナサス且ツ妾カ聲女史カ清亮ノ如クナラス妾カ顏女史カ嬋姸ノ如クナラス然レモ女史既ニ亡矣妾豈亡友カ爲メニ之ヲ歌テ以テ其志ヲ通セサランヤト乃チ琴ヲ彈シ長歌ヲ吟ス曰ク

我所思兮在故山。欲往從之行路難。人生百事易蹉跎。幾使遷客發長歎。家國衰廢日已遠。君王蒙塵何處遯。舊廬雙燕歸無家。滿目晝暗草苑苑。老父春秋超古稀。繁霜埋頭雪印眉。鐵石之肝磨不磷。松柏之心死不移。常秉正義排邪說。數提干戈除妖孽。經營如此誰不感。底事一朝罹縲紲。月横大空千里明。風搖金波遠有聲。夜寂寂兮望茫茫。船頭何堪今夜情。我所思兮老父身。欲往從之天造屯。萬斛深愁奈難遣。星河西落未成眠。懷中匕首霜氣冷。腰間珮環風聲靜。

自知此行難生還。情似荊軻辭燕境。勿謂裙釵料事危。陽氣向處山可摧。勿謂妙齡不堪戈。至誠固有鬼神知。去國匆匆十霙爲。姻戚半散半枯骨。談志俱是異鄉人。照心唯有一輪月。月横大空千里明。風搖金波遠有聲。夜寂寂兮望茫茫。船頭何堪今夜情。我所思兮東海端。欲往從之水路難。海端有國名扶桑。俗與風光皆雅嫻。綿綿皇統垂萬世。昭昭威名及遐裔。士重信義輕末利。小心翼翼仰聖帝。孤棹嚙風琶湖舟。萬古含雪芙峯頭。花香一目千樹春。月高八百八島秋。此地眞箇桃源洞。隔天夜夜入吾夢。仙槎欲探猶未探。風塵之中至秋仲。月横大空千里明。風搖金波遠有聲。夜寂寂兮望茫茫。船頭何堪今夜情。我所思兮東海人。欲往從之關山難。羨君錦衣歸鄉日。悲妾虎窟探兒辰。妾今一去何日復。歐雨米煙夢相逐。妾今一去何處會。青雲黄壤豫難卜。想昔蹄水乘興船。東西奇遇殘春天。月下攜手花落處。清風拾翠水

流ル邊。嗚乎疇昔之夜無二此歡一。今宵豈又有二此歡一。千行ノ涙ハ沾ス紅ノ綃袖。一雙ノ影ハ映ス亞字ノ欄。月ハ横二大空一千里明ニ。風ハ搖二金波一遠ク有リ聲。夜寂寂兮望茫茫。船頭何ゾ堪ヘン今夜ノ情。

婉約悽惋紅蓮ノ聲モ亦極メテ僇亮秋角霜ヲ帶ヒテ古戍ニ號フカ如ク風泉月ニ和シテ寒瀨ニ瀉クニ似タリ彈シ希ミテ鏗爾タリ散士曰ク昔日ノ春遊ヲ懷ヘハ徒ニ感傷ヲ增スノミ嗟乎舟ニ蹈水ニ遊ヒ花ニ靄谿ニ會シ高談心ヲ娯マシメ哀音耳ニ順ヒ白日已ニ隱レ繼クニ朗月ヲ以テス歌舞漸ク止テ手ヲ携ヘ共ニ庭園ニ遊フ花香馥郁山河煙ノ如シ當時余顧ミテ曰ク此樂再ヒシ難シト成以テ然リト爲ス今果シテ天涯ニ離散シ幽蘭范卿化シテ異物ト爲ル節同シク時異ニ物是ニ人非ナリ我カ悲ハ如何ト紅蓮カ曰ク之ヲ語ルモ徒ニ悲哀ヲ增スノミト更ニ語テ曰ク船中又妾等ヲシテ疑ハシムルモノ有リ匈牙利ノ一婦人ナリ屢ミ妾等ヲ甲板上ニ見遂ニ相狃レテ相親シム辭氣悽惋頗ニ家國ノ傾覆ヲ悲ミ又能ク東洋ノ形勢ヲ詳ニス談會テ貴國ノ風光ニ及フ婦カ曰ク妾日本ノ志士某ヲ知ル其容貌言語ヲ問フ宛モ郎君ニ異ナラス猶ホ憚ル所アリテ其名姓ヲ問ハサリキ郎君之ヲ知ルヤト散士首ヲ傾ケテ曰ク僕平素親シム所ノ婦人ニシテ又此ノ如キ者ナシ豈身ヲ變シテ事ニ託シテ三君ノ形跡ヲ探ル者ニ非ラスヤト紅蓮曰ク妾等モ亦之ヲ疑フ故ニ敢テ其實ヲ明サスト又曰ク是ヨリ應ニ羈旅ノ孤客軟弱ノ婦女奇策ヲ回ラシテ西國の君臣ヲ欺キ以テ幽蘭將軍ヲ奪フ事ヲ語ラン

八日ヲ經テ船西國ノ加亞津ニ着ス直ニ西都ニ入リ一逆旅ニ投ス國人ノ猶ホ女史ヲ知ル者アルヲ恐レ病ニ託シテ出テス妾等獨リ城邊ヲ步シテ牢獄ノ制規ヲ窺ヒ囚徒ノ形狀ヲ探リ歸テ相共ニ計略ヲ議ス既ニシテ幽蘭將軍城西ノ獄ニ在ルヲ聞ク而レ𪜈此獄深濠ヲ回ラシ高壁ヲ築キ雲梯モ渡ル能ハス飛鳥モ越ユ可カラス古來王公將士ノ空シク此中ニ死スル者其幾干ナルヲ知ラス且ツ幽將軍ハ名高クシテ怨ミノ府マル所故ニ守衞嚴ナリ國人尚ホ且ツ近ツク能ハス是ヲ以テ百計千慮亦良策ノ之ヲ救フ可キナシ已ニシテ荏苒數日ニ亙リ偶說街談一ナラス或ハ謂フ將軍獄中ニ病ムト或ハ謂フ死刑ノ命將ニ近キニ在ラントスト女史此ヲ聞キ彼ヲ聽キ憂愁愈ミ切ナリ一日范卿市ニ出テ、詳ニ守城長ノ人トナリヲ探リ歸テ之ヲ妾等ニ告ク妾因テ往古ノ小說ニ擬シ一奇ヲ策シテ二子ニ計ル女史曰ク此レ兒戲ニ均シキノミ然レ𪜈今ヤ親戚故舊半ハ矛戟干戈ノ下ニ倒レ半ハ萬里ノ山海ニ放謫セラレ共ニ事ヲ謀ル可キ者ナク又奇策ノ施ス可キナシ且ツ夫レ佛將羅柄斗ノ澳國ノ獄ヲ逃レ拿破侖三世ノ破無ノ城ヲ遁ル、カ如キ其策固ヨリ天下ノ奇計ニ非ラス識者ヲ以テ之ヲ見レハ兒戲ニ類スルノ誹リヲ免レス然レトモ穽中ニ陷ルニ及テハ威約ノ漸ヲ積ミ勞ヒ萬一ヲ僥倖スルノ外爲ス可キモノ無シ范卿曰ク曠日彌久ハ常ニ變ヲ釀シ易シ變一タヒ生セハ智者モ其策ヲ施スノ道ナシ若カス速ニ之ヲ試ミ以テ其成否ヲ天ニ問ハンニハ且ツ聞ク守城長ハ英語ヲ能クシ色ヲ好ミ財ヲ貪リ往年妻ヲ喪ヒ今頻ニ伉儷ヲ求ムト其車馬ヲ驅リ城邊ヲ逍遙スルニ乘セハ紅蓮女史ノ策以テ行フ可シト

翌日紅粉ヲ裝ヒ盛服ヲ飾リ妾獨リ晩涼ヲ趁テ城邊ヲ步ス時ニ行人漸ク稀ニシテ一二ノ車馬相往來スルヲ見ルノミ少焉ニシテ一輛ノ驪車轔轔塵ヲ蹴テ遙ニ來ル有リ近ツテ之ヲ見レハ則守城長ノ乘ル所ナリ心之ヲ喜ヒ車漸ク近ツクニ及テ徐ニ其顏ヲ仰キ秋波時ニ一轉ス守城長モ亦顧ミテ少シク笑フ者ノ如シ妾故ニ途ニ迷フ爲シテ彷徨躊躇ノ狀ヲ爲ス其車モ亦行クヿ差ミ緩ナリ是ニ於テ妾疾ク步シテ之ニ先チ或ハ顧ミ或ハ近ツキ行クコト五六町日已ニ

沒シテ物景模糊タリ妾乃チ揖シテ更ニ之ニ近ツク彼レ綏ヲ取テ其車ヲ留ム妾慇懃ニ之ニ告ケテ曰ク妾ハ米國ノ産頃者貴都ニ遊ヒ東街ノ逆旅ニ在リ今友ヲ携ヘ涼ヲ城邊ニ趁フ偶〻相失シテ遂ニ歸途ニ迷ヘリ數〻之ヲ路人ニ問フモ言語相通セス如何トモ爲ス可キナシ而シテ日既ニ晡レ車馬甚タ稀ニ疲勞加ハリ進退兩ナカラ難シ窮苦實ニ言フ可カラス且ツ孤婦ノ夜行ハ君子ノ戒ムル所ニシテ文明社會ノ禁スル所タリ妾敢テ半面ノ識ナク漫ニ尊嚴ヲ冒シテ行路ノ妨ケヲ爲ス罪ノ以テ謝ス可キナシ然レモ幸ニ妾カ異郷ノ困厄ヲ憐ミ歸路ヲ指敎スルヲ得ハ其恩應ニ何ヲ以テ報ス可キト主城長曰ク僕ハ守城長王羅ナリ異郷迷途ノ情果シテ如何ソヤ僕已ニ令孃ノ此薄暮ニ方テ東西ニ彷徨スルヲ見テ心頻ニ之ヲ怪メリ令孃ヲシテ早ク之ヲ告ケシメハ何ソ疲勞此ノ如ク甚タシキニ至ラシメンヤ若シ妨ケスンハ共ニ車ヲ同ウセヨ僕乞フ貴寓ニ誘ハント妾深ク其厚意ヲ謝シ直ニ其側ニ上ル輙チ御者ヲシテ疾ク馳セシム妾嬌態婉媚以テ彼カ心思ヲ試ム甚タ與シ易キ者ノ如シ既ニシテ車逆旅ニ達ス彼レ妾カ手ヲ執テ曰ク他日更ニ相訪ハン幸ニ自愛セヨト轅ヲ回シテ去ラント欲ス妾尚ホ繾綣ノ情アルヲ知リ之ヲ止メテ曰ク閣下ハ賤妾ノ恩人ナリ閣下ナクンハ妾カ窮厄果シテ如何ソヤ深情厚恩肝ニ銘シテ忘ル可カラス豈紳縉君子ヲ勞シテ徒ニ歸ラシメンヤト直ニ之ヲ客房ニ誘ヒ意ヲ迎ヘ情ヲ裝ヒ更ニ幽蘭女史ヲ招テ曰ク此ハ葡萄牙ノ人久シク米國ニ在リ妾ト相得テ最モ善シ今手ヲ携ヘテ同ク來ル者ナリ爾來淡水ノ交ヲ訂シテ淸明ノ敎ヲ蒙ムルヲ得セシメヨ是レ妾等カ願フ所ナリト又厚ク御者ヲ勞ヒタリト散士曰ク令娘ノ姿色ヲ以テ此計略ヲ行フ誰カ其陷穽ニ入ラサルモノアラント紅蓮紅潮ヲ漂ハシテ曰ク郎君妾ヲ弄スル勿レ笑ヲ忍テ且ツ妾カ談スル所ヲ聞ケ已ニシテ守城長旅館ヲ辭シ去ル翌日妾簡ヲ折リ深ク昨夕ノ厚意ヲ謝シ繫戀忘ル能ハサルノ情ヲ陳シ添フルニ葡萄ノ美酒ト里昂ノ錦繡トヲ以テス彼レ復タ眷慕ノ意ヲ表シ明夕再ヒ來リ訪フヲ以テ答フ三人先ツ計ノ緒ニ就クヲ喜ヒ頻ニ時器ニ對シテ晷陰ノ移ルヲ待ツ漸クニシテ次日ノ薄暮ニ至レハ守城長肥馬ニ策チ輕裘ヲ衣、來テ旅館ヲ訪フ妾モ亦輕縠長繡極メテ姿態ヲ裝ヒ之ヲ客房ニ迎ヘ恭應敬對王公ニ接スルモノヽ如シ而シテ又絕テ畛畦ヲ其間ニ置カス守城長熙熙トシテ語リ怡怡トシテ笑ヒ城府ヲ毀チテ情瀾竭キサルモノヽ如シ妾仍チ言ヲ設ケテ曰ク希クハ明日ノ黃昏ヲ期シ令閨ト共ニ手ヲ携ヘテ駕ヲ弊廬ニ枉ケヨ妾ヲシテ花顏ヲ拜シ玉姿ニ接スルコヲ得セシメヨト守城長髯ヲ撚テ曰ク僕單身ニシテ荊妻ナシト妾カ曰ク閣下欺ク勿レ交友ノ義眞ヲ以テ語ル可シト守城長カ曰ク僕ノ言眞ナリ僕不幸ニシテ往年妻ヲ喪ヒ寂寞ノ中既ニ三載ノ星霜ヲ經タリト妾更ニ謂テ曰ク閣下ノ丰采ニシテ閣下ノ仁慈アリ閣下ノ達才英智ヲ以テ閣下ノ尊位高爵アリ其伉儷ヲ求ムルニ於テ美人才女唯タ其望ム所ノマヽ想フニ未タ六合ノ禮ヲ行ハスト雖モ兩情已ニ偕老ヲ誓フノ美人アラン羨ム可シト守城長曰ク令孃言フ所ノ如キハ令孃ノコトノミ僕何ソ欽羨ニ堪ヘンヤト妾曰ク閣下未タ之ヲ知ラサルノミ願クハ妾カ往事ヲ語ランカ妾ハ元米國ノ富家ニ生ル父曾テ汴州ノ刺史トナリ頗ル令名アリ一兄アリ夙ニ心ヲ博物ノ學ニ潛メ長シテ志愈〻堅シ其友某アリ父ハ西國ノ人ナリ學識深遠ニシテ高ク儕輩ニ嶄絕ス今ニ至テ之ヲ想フニ容貌言語頗ル閣下ニ肖タリ年齡モ亦閣下ト相伯仲ス常ニ相往來シテ頻リニ妾ヲ愛鍾ス妾モ亦漸ク相親ミ心私ニ之ヲ許ス遂ニ幣帛ヲ入レ羔雁ヲ收メ日ヲ涓テ婚媾ノ義ヲ結フ然レモ未タ輿ヲ移スニ及ハス偶〻老父病ニ罹リ幾モナクシテ死ス是ヨリ先キ吾カ兄大ニ四方敢爲

ノ士ト結ヒ五洲ヲ周遊シ以テ博物ノ學ヲ極メ北洋ノ極ヲ探リ以テ千載ノ名ヲ計ラント欲ス然レ𪜈父老イタルヲ以テ未タ果サス是ニ於テ將ニ其志ヲ縦ニセント欲ス妾母ト之ヲ危ミ力メテ之ヲ止ム遂ニ可カス某固ヨリ兄ノ志ヲ賛シ共ニ母ニ告ケテ曰ク虎穴ニ入ラスンハ虎子ヲ得ス吾輩豈市中ノ少年ト伍シテ徒ニ太平無事ヲ樂ミ一世ヲ悠悠ノ間ニ送ル可ケンヤト勁風ニ鞭チ怒濤ヲ叱シ遂ニ北洋ニ趣キタリ當時天下ノ人皆其志ヲ高シトシテ籍籍稱セサルハナシ妾且ツ悲ミ且ツ喜ヒ唯タ足ヲ翹ケテ其錦衣古郷ニ歸ルヲ待テリ船一タヒ去テヨリ既ニ一年ニ至ル而シテ片信斷音ノ如何ヲ報スルナシ世人唯タ傳ヘ云フ我船北洋ノ堅氷ヲ破リ北海ノ鯤鯨ヲ驚カシ既ニ北極ニ近ツキタリト後又一年ヲ經テ更ニ音問ニ接セス母之ヲ憂ヒテ病ヲ發シ骨肉日ニ痩セ神心共ニ疲ル時ニ新報報シテ曰ク瑞典ノ北洋巡船北極ノ一島ヲ過キリ米國北洋巡船ヲ發見ス其船堅ク積氷ノ封スル所トナリ器破レ食竭キ人畜悉ク死スト母此報ヲ聞クニ及テ病革マリ空シク黄土ニ歸セリ妾兄ヲ喪ヒ良人ニ別レ而シテ又母ヲ失ヒ悲哀痛悼堪フル能ハス漸クニシテ此身モ亦病ニ罹リ病蓐ニ在ル殆ト一年ニ亙ル今春ニ至テ身始メテ快ヲ覺ユ交友姻戚勸ムルニ遠ク歐洲ニ遊ヒ秀山ヲ踰エ明水ヲ渡リ幽鬱ヲ清敍スルヲ以テス妾乃チ英國ニ航シ佛國ニ遊ヒ瑞西ヨリ伊太利ニ至リ遂ニ貴國ニ來ル貴國ノ風光實ニ妾カ目ヲ樂マシメ寒温亦妾カ身ニ適シ漸ク歸ルヲ忘ルヽノ思アリ但妾今ヤ父母ト兄トノ遺産ヲ受ケ婦女一人ノ力ヲ以テ之ヲ管理スル能ハス雄才高風ノ君子ヲ得テ以テ一生ヲ託セント欲ス而レ𪜈素願未タ達セス天下ノ廣キ丈夫ノ多キ妾カ意ニ適スル者ナシト彼慰メテ曰ク若シ令孃ノ言ヲシテ眞ナラシメハ僕乞フ畢生ノ力ヲ盡シテ令孃ノ身ヲ護リ以テ一生ヲ安セシム可キノミ天荒レ地老ユト雖モ此心又渝ラスト妾陽ニ喜悅ノ色ヲ爲シ言ヲ飾リ事ヲ構ヘ百媚千阿唯タ其意ヲ失ハンヿヲ恐ルヽノ狀ヲナス是ニ於テ彼レ意氣飛颺喜ヒ言フ可カラス其後毎夕車ヲ馳セテ來リ訪フ訪ヘハ必ス綃羅ノ贈アリ妾等機ノ業ニ熟スルヲ見テ計略ノ行フ可キヲ知リ一日相共ニ車ヲ同ウシ西城ノ下ヲ過ク妾仰テ城壁ヲ望ミ問テ曰ク壯ナル哉金城湯池是レ國王ノ居カト守城長曰ク否我カ典ル所ノ圜堵ナリ古來侯伯將士ノ命ヲ此中ニ損スル者指ヲ僂ムルニ遑アラス今亦大逆無道ノ徒命ヲ此裏ニ待ツ者一二百人アリト妾故ニ驚テ曰ク噫乎果シテ然ルカ身鶴翼ニ乘シ人雲梯ニ架スト雖モ飛踰スルヲ得難シ想フニ獄中ノ堅牢莊嚴復タ比ナカラン恨ムラクハ一タヒ城中ヲ見テ以テ談欄ト爲ス能ハサルヲト守城長曰ク僕其管鑰ヲ司レリ令孃之ヲ見ント欲セハ何ノ難キヿカ之レ有ランヤ將ニ吉日ヲトシ手ヲ携ヘテ遊ハン而已令孃ト同行ノ女史モ與ニ倶ニセハ如何ト次次ノ二日ヲ約シテ去ル三人天ヲ仰テ祝シテ曰ク旻天未タ我ヲ棄テス好運漸ク循環セリト妾カ曰ク好運此ノ如シ而シテ爾後ノ計略ハ當ニ如何スヘキ宿望ヲ達スルト否トハ正ニ此一擧ニ在リ妾其奇謀ノ出ツル所ヲ知ラサルナリト幽蘭女史ノ曰ク妾一計アリ以テ行フ可シ願クハ紅蓮女史守城長ト手ヲ携ヘ情ヲ飾リ言ヲ巧ニシ以テ彼カ心情ヲ攪シ妾ヲシテ老父ヲ認メテ密計ヲ行フヿヲ得セシメヨ彼レ妾等カ米人ナルヲ信シ又妾等カ婦女ナルヲ侮リ必ス意ニ介スルヿ無カル可シト乃チ其密計ヲ語ル皆曰ク妙計行フ可シト期日ニ至テ守城長來リ迎フ勳章胸前ニ聯リテ燦爛目ヲ奪ヒ寶劍腰間ニ掛リテ煌煌日光ト相映ス亦是レ肥馬輕裘徒ニ市童ノ憐ヲ受ケ胸中無一物ノ賤丈夫ナル哉妾特ニ范卿ヲ止メ之ニ後事ヲ託シ且ツ告ケテ曰ク若シ不幸ニシテ計洩レ事成ラスンハ亦生キテ相會スルノ期ナカラント范卿聲ヲ勵マシテ曰ク誠心一到何事カ成ラサ

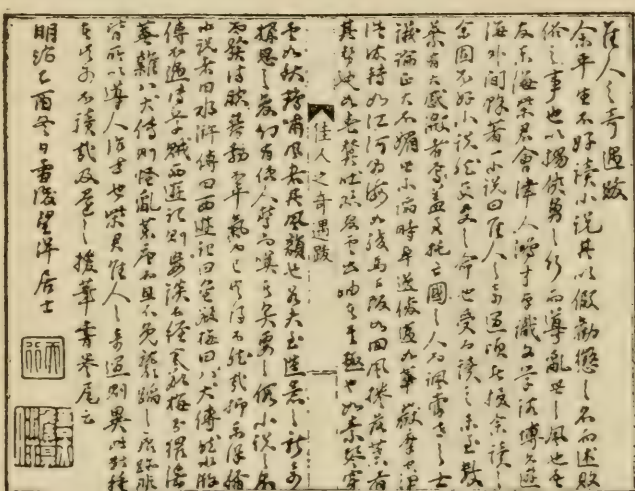


北氷洋ニ米船ノ慘狀ヲ發見スルノ圖　(原本挿畫)

ランヤ今大事ニ臨テ不祥ノ念ヲ抱キ不吉ノ言ヲ發スル勿レ令孃ノ妙計必ス適中ス可シ若シ成ラサルモ老奴別ニ一計ノ存スルアリ以テ念トナス勿レト相分レテ城門ニ到リ車ヲ下リ妾ハ守城長ト手ヲ携ヘ或ハ巧言令色彼カ心ヲ喜ハシメ或ハ怨嗟彼カ情ヲ牽キ又他事ヲ思フノ遑ナカラシム幽蘭女史ハ其後ニ尾シ務メテ談笑ノ態ヲ爲セリ已ニシテ牢獄ニ入ル囚人ノ慘狀見ルニ忍ヒス是ニ於テ覺エス凄然トシテ懷ヲ傷マシメ潸然トシテ涙ヲ催シ守城長ニ問テ曰ク想フニ此中何ソ必スシモ鼠竊狗盜殘惡ノ徒ノミナランヤ世ヲ憤ルノ不平論客君ニ背クノ不忠臣モ亦極メテ多カラント守城長曰ク然リト乃チ南隅ノ一室ヲ指シテ曰ク彼處ニ在ル者ハ顛加羅ノ愛將幽蘭將軍ナル者ナリ彼レ皇兄ト兵ヲ擧ケテ勝タス遁レテ歐洲諸邦ヲ遊歷シ伊太利ノ娥馬治及ヒ佛國ノ巖擘跎ト相結託シ竊ニ佛境ヨリ我カ國都ニ入リ同志ヲ募リ兵ヲ擧ケント欲ス僕幸ニ之ヲ捕テ以テ國亂ヲ未萌ニ鎭スルヿヲ得タリト妾之ヲ聞テ意飛ヒ氣躍リ喜ヒ深クシテ憤リ高シ猶ホ心胸ヲ抑ヘ密ニ幽蘭女史ヲ目指ス女史モ亦首肯ス漸クニシテ南隅ニ到ル守城長窓ヲ隔テ將軍ト一揖ス將軍容貌魁偉肉落チ骨立チ白髮皎髯蓬蓬トシテ雪ノ如シ年既ニ老イタリト雖モ猶ホ馬上顧盻ノ風アリ妾時ニ薔薇花ノ襟ニ挾ムアリ執テ將軍ニ與ヘテ曰ク妾ハ米國ノ人ナリ謹テ將軍カ自重ヲ祈ルト將軍僅ニ手ヲ鐵窓ノ中ヨリ出シ握手ノ禮ヲ爲シテ謝ス妾依テ首ヲ回ラシ幽蘭女史ニ謂テ曰ク令孃モ亦將軍ヲ慰メヨト急ニ守城長ノ手ヲ執リ顧ミスシテ過ク噫乎幽蘭女史カ大事ニ臨テ情ヲ矯メ意ヲ抑ヘ父ヲ狴犴ノ中ニ見テ顏色變セス言語常ノ如ク從容トシテ密計ヲ行フノ狀深沈勇邁古ノ烈女ト雖モ遠ク過クルヿ能ハサルモノ有リト更ニ語ラント欲シテ又涙ヲ拭フ少焉ニシテ言ヲ續テ曰ク日暮ニ至リ城門ヲ出テ旅亭ニ還ル范卿迎ヘテ胸ヲ撫シ忙シク問テ曰ク成否如何、成否如何、老奴今日一刻ヲ消過スルヿ恰モ半歳ノ長キカ如シ路人ノ疾行スルヲ見レハ令孃等ノ凶事カト疑ヒ兒童ノ遊戯モ爲メニ心ヲ驚カシ婢僕剝啄ノ聲モ警吏ノ闖入カト訝リ幾ト魂ヲ銷スルニ至レリト幽蘭女史制止シテ曰ク范老高言スルヿ勿レ諺ニ曰ク窓隙壁空猶ホ耳目アリト蓋シ計ハ洩ルヲ以テ破ル謹マサル可ケンヤト徐ニ曰ク奇計意ノ如シ宿望ヲ達スルノ期近キニ在ラン然レ𪜈悲喜妾カ胸臆ヲ攪シ憤歎ノ念結テ解ケサルナリ先ニ妾老父ヲ見テ一言ノ心情ヲ通スルニ由ナク老父モ亦驚駭唯茫然トシテ老眼ニ涙ノ浮フヲ見ルノミト此ニ至テ幽蘭女史情禁スル能ハス意弛ミ涕涙雨ノ如ク下リ嗚咽之ヲ久ウス妾之ヲ慰メテ曰ク時運此ノ如ク成功期ス可キナリ然ルニ何爲レソ痛哭スルノ甚タシキヤト范老酒杯ヲ備ヘテ曰ク令孃愁眉ヲ開クノ期正ニ近キニ在リ宜シク胸臆ノ鬱憤ヲ散ス可シト三人相祝シ杯ヲ擧ケテ成功ヲ禱ル時ニ皓月東天ニ出テ明光戸ニ入ル幽蘭女史徐ニ起テ窓ヲ開キ妾ニ謂テ曰ク明月晴朗晝ノ如ク庭前ノ柳影皆モ織ルニ似タリ人ヲシテ懷舊ノ念ニ堪ヘサラシムト妾乃チ郎

君ノ詩ヲ吟シテ曰ク好取二萬斛憂一濤酌付二一觴一ト杯ヲ擧ケテ女史ニ與フ女史微笑シテ一杯ヲ傾ケ我所思行ヲ吟ス是ニ於テ三人共ニ踈水ノ舊遊ヲ語リ數旬ノ鬱憂一席ノ小宴ニ散シ清興大ニ加ハリ夜ノ既ニ深キヲ覺エサリシ是レヨリ後彼來ルヿアレハ益〻嬌態ヲ學ヒ阿容ヲ作リ若シ來ラサレハ簡ヲ折リ言ヲ寄セ以テ彼カ情ヲ牽キ彼カ動靜ヲ覘フ後數日ヲ經テ彼偶〻來ラス明日之ヲ詰ル曰ク朝議アリ夜深ケテ始メテ公退クヲ故ヲ以テ來リ見ルヿ能ハサリシト一日ヲ隔テヽ又來ラス之ヲ詰レハ答フルヿ初メノ如シ妾依テ以爲ラク彼所謂朝議ナルモノハ妾等カ密ニ計ル所ニ非サルナキヤト范卿ニ命シテ守城長ノ居動ヲ窺ハシム果セル哉范卿歸リ告ケテ曰ク今日守城長數輩ノ警吏ヲ從ヘ密ニ車馬ヲ驅テ城南ニ到リ時ヲ移シテ還リ復タ城門ニ入レリト此夕守城長來リ見ル妾卒爾トシテ問テ曰ク何ソ來ルヿノ遲キヤト彼又答フルヿ初メノ如シ妾乃チ隅ニ向テ語ナキモノ久シ彼妾ニ問テ曰ク今日令孃甚タ不樂ノ情アルモノヽ如シ豈病痾ニ染ム莫カランヤト妾直ニ答ヘテ曰ク妾カ死生憂苦公ニ於テ何カアラント彼憂愁色ニ顯ハレ又敢テ仰キ見ス徐ニ曰ク僕令孃ニ奇遇シテヨリ令孃ノ才學ヲ慕ヒ令孃ノ容姿ヲ愛シ月下ノ神ニ祈リ六合ハ禮ヲ待チ花ニ月ニ車ヲ驅リ山ニ水ニ手ヲ攜ヘ以テ令孃ノ心思ヲ慰メ又我懷ヲ安セント欲ス然ルニ令孃今夕僕ヲ遇スル之ヲ他日ニ見ルニ寒熱急ニ節ヲ變シ怨ヲ冷眼ニ帶ヒ鍼ヲ言語ニ含ムハ何ソヤ是レ僕ノ竊ニ惑フ所ナリト妾他ヲ顧ミテ獨語シテ曰ク人情ノ貴フ所ハ信義ニ在リ苟モ實ナクンハ人誰カ之ヲ信セント彼顏色少ク變シ進テ妾ニ謂テ曰ク令孃ノ言僕ノ愈〻解セサル所ナリ或ハ恐ル讒間ノ入リ易キ人心ノ疑ヒ易キ敢テ其故ヲ問ハント妾因テ彼ヲ責メテ曰ク頃者閣下ノ動止疑フ可キモノアリ蓋シ閣下ノ來ラサル兩日ニ亙レリ妾乃チ人ヲシテ之ヲ探ラシム曰ク閣下今朝佳人ト車ヲ同ウシ涼ヲ城南山水ノ隈ニ趁フト妾之ヲ聞キ胸臆固ク結テ解クル能ハス猶ホ望ム閣下カ舊交ヲ思ヒ前言ヲ履ミ實ヲ以テ告ケンヿヲ然ルニ恬然妾ヲ欺テ曰ク君主ノ爲メニ城南ニ使スト閣下豈妾ヲ羈旅ノ一女ト侮リ欺負嘲弄此ニ至ルニ非スヤ噫乎妾一タヒ閣下ヲ慕フノ春風心緒ニ萌シテヨリ夏時漸ク熱ヲ加ヘ留メント欲シテ留ム可カラス今ヤ閣下與フルニ秋風ノ扇ヲ以テス妾其惠賜ヲ得テ三冬ノ冷寒ヲ覺ユ閣下乞フ去矣又妾ヲ以テ念トナス勿レト守城長初メテ胸ヲ撫シテ曰ク誰カ此語ヲ爲ス者ソ僕豈此事アラン哉眞ニ公事ノ已ム可カラサルモノアルヲ如何セント妾猶ホ頭ヲ掉テ曰ク否否是レ亦所謂非ヲ飾ル者ノミ果シテ然ラハ何ソ殊ニ車ヲ城南三里外寂寞無人ノ郷ニ驅リ時ヲ移スヲ要センヤ閣下去矣妾復タ薄情秋天ノ人ニ對スルヲ恥ツト將ニ戸ヲ開テ奥ニ入ラントス主城長急ニ妾カ衣ヲ牽キ低聲耳語シテ曰ク僕乞フ實事ヲ告ケテ以テ令孃ノ疑念ヲ解カント急ニ四邊ヲ顧ミ說テ曰ク令孃先ニ城中ニ見ル所ノ幽將軍累日病ニ臥シ飲食日ニ減シ衰弱殊ニ甚タシ彼レ今ヤ朝家ノ反臣タリト雖モ然レ𪜈先ニハ國家ノ元老ニシテ皇兄ノ愛將ナリ其才略世ニ顯ハレ名聲四ニ高シ何ソ禮ナカル可ケンヤ依テ彼カ欲スル所ヲ問ヒ以テ永カラサルノ餘命ヲ慰メシメントス彼カ曰ク老夫ノ病ハ久ク密室ニ閉居シ新鮮ノ大氣ニ觸レス又絶テ草木山水ノ情ヲ喜ハシムルモノナキニ因ル故ニ一タヒ郊外ニ出遊シ餘年ヲ保延スルヿヲ得ハ生前ノ恩惠之ニ過クルナシト然レ𪜈今ヤ國内不平ノ徒未タ全ク治マラス皇兄ヲ慕ヒ幽將軍ヲ思ヒ動モスレハ則蜂起シテ宿志ヲ成サント欲スル者極メテ多シ若シ幽將軍ノ請ヲ許サンカ其奪フ所トナリ更ニ一敵國ヲ作ルモ未タ知ル可カラス然ラハ則許サヽランカ國王ノ度ナキヲ顯ハシ政府ノ怯弱ヲ示スナリ故ニ君王近臣

ト謀リ密ニ僕ヲシテ日ヲ隔テ、將軍ト車ヲ同ウシ警吏數騎ヲシテ之ヲ護ラシメ以テ城南無人ノ山間水隈ヲ逍遙シ彼カ保養ヲ計ルナリ是レ實ニ國家ノ機密僕ノ口ヨリ出テ、令嬢ノ耳ニ入ル幸ニ謹テ洩スヿ勿レ誠心ヲ吐露シテ此ニ至ル猶ホ僕ヲ疑フヲ爲スカト時ニ妾覺エス喜ヒ顏色ニ溢ル急ニ主城長ノ手ヲ執リ妾カ唇ニ付シ謝シテ曰ク賤妾不明ニシテ閣下ノ厚情ヲ覺ラス漫言妄語閣下ヲ辱ム死シテ餘罪アリ然リト雖モ是レ妾カ公ヲ思フノ深キ神心迷亂此極ニ至ルナリ閣下幸ニ賤妾カ眞心ヲ憐ミ鍾愛舊ニ異ナルヿ勿レ妾モ亦閣下カ賤陋ヲ以テセス告クルニ國家ノ機密ヲ以テシ表スルニ至誠ノ丹心ヲ以テスルヲ見テ疑心氷解惑念澌盡山顚海覆スト雖モ此心復タ渝ラス生テハ箕箒ヲ奉シテ閣下ノ側ニ待シ死シテハ穴ヲ同ウシテ泉下ニ從ハントス是ニ於テ兩情相和シ交歡始メノ如シ妾更ニ謂テ曰ク妾モ亦久シク野外ニ遊ハス閣下若シ今日ノ事ヲ以テ意ニ介スル無クンハ明日妾ト車ヲ驅リ以テ翠ヲ山野ノ間ニ拾ヒ魚ヲ流水ノ涯ニ釣ラント守城長カ曰ク極メテ好シト相約シテ去ル既ニシテ妾幽蘭范卿ノ二人ヲ招テ曰ク妾明日詳ニ地理ヲ見テ以テ大事ヲ行フ可シト幽蘭女史ノ曰ク機會ノ來ル間ニ髮ヲ容レス速ニ事ヲ擧クルニ若カス古人ノ所謂萬死ヲ出テ、一生ヲ得ルモノハ將ニ此時ニ在ラントス皇天我ヲ棄テスンハ大事就ル可シ若シ事成ラスンハ妾ハ老父ト與ニ死センノミ是レ妾カ竄谿ヲ辭スルノ日誓フ所ナリト意色已ニ決スルモノ、如シ妾范卿ト之ヲ贊シ以テ期日ノ至ルヲ待ツ


佳人之奇遇跋

佳人之奇遇跋

明治乙酉冬日書於望洋居士

(原本二編卷四望洋居士跋)

佳人之奇遇　三編

序

小說家の期する所は獨り趣向の巧妙を弄ひ世態人情を描出するにあらす假りて定見定理を示し容易に人心に貫徹せしめんとするものにして大に筆墨の外に期する所あるなり故に其敍する所の時に隨ひ處に從ひ又其人と勢とに由て世上百般の事を狀出し政治社會の事僻邑村落の狀人の貴賤心の高卑皆寫さゝる所なく或は其人をして人間の幸福を說かしめ學術の應用を示さしめ又或は美術の妙趣を講せしむるか如き其效用の社會に關する實に尠少ならさるなり

歷史家は人間社會の事を誌す然れとも實事を實敍し偶ま文字を以て之を潤色するに過きさるなり是故に古今の大家と雖も能く讀者をして其昔時に遡り其實地に當るの思をなさしむるもの稀なり小說家は之に異なり作者の意想に從ひ人物時勢を寫し其人物の心術動作悉く帋上に躍出し筆其行かんと欲する所に行き輒其止らんと欲する所に止り讀者をして自ら其地に立ち其時に居り其勢に乘するの想あらしむるものなれは固より歷史家とは大に其旨を異にす又夫の一國の政權を握り民間の政務を以て自ら任する大臣名士の如きも廣く世態人情を看破し古今を通覽し萬事を網羅して能く之を分析し又之を總括し泰然動かす千年の大計を定むるの智量見識を具ふるにあらされは其位の高きと其責の重きも必す億兆の望を滿足せしむること難し而して小說を著す者能く毫端を以て天下を動かすを得へし身之を行はすして一國の政權を握り民間の政務を以て自ら任する者の爲す能はさる所を爲す其力亦大なりと謂ふへし

小說の世に力ある此の如くそれ大なり然り而して世の小說を著す者動もすれは其期すへき所を知らす專ら野卑猥雜の事を敍するにあらされは徒に政治の眞談慷慨の激論を述ふるに過きす抑政談なるものは世態人情の一分のみ故に人盡く政談を以て業となし他に其職を有せさるの邦國あらは人文の極度に達したるの社會と謂ふ可からす故に政談を以て社會の大事となし其他を知らさるものは與に論するに足らす之を主となし更に其他を顧みさるの小說は美を盡し善を盡したるものと謂ふ能はさるなり

余か友東海散士久しく異邦に遊ひ其閲歷する所に就て一書を著し佳人之奇遇と曰ふ志高きの士と智深きの女を假り西洋の理論を標準として東洋の國事を論し以て其懷を述へんとするものゝ如し趣向新奇にして大に我國從來の小說と異り而して散士の此篇は廣く人間萬物の現象を網羅し眞正の小說を著さんとして筆を捉りたるや將た偶然其感を述へんと欲して遂に此篇を爲したるものなるや否は全篇を通覽するに非されは未た之を知る能はさるなり想ふに幾多の士女流離困沛の中に奔走して君父の大難を救ひ國家の危急を助くる狀を見れは獨り慷慨悲憤を事とするか如しと雖も後卷功成り名揚るの篇に至らは徒に無病に呻吟す

るものに非す必らす別に期する所あるを詳にするを得ん而して夫の米國新說男女同權論の如き身自ら之を講し之を行ひ讀者をして知らす識らす其眞面目を悟らしめ又時の已むを得さるに出つれは雄壯活潑艱難に周旋するの女も其悠々家に在るの時に方ては靜婉濟德親子の情愛を傷らす夫婦の大倫を紊さす男子をして之を敬慕すへきの女たるを知らしめ而して人生の幸福は貧富貴賤を論せす一家の親睦に在ることを知らしむるに終り其間都鄙の情狀を敍し學術の應用美術の精巧を述るに至らん歟然れとも是果して散士の意なるや否や未た知る能はさるなり

今年春散士歐米に遊ぶ發するに臨み余に託するに此書出版の事を以てす頃者第五卷刻成る書肆來りて序跋の事を謀る余今の書を著す者を觀るに高官に請ひ名士に囑し其評論序跋題字を得て以てこれか拙を掩ひ其虛譽を釣らんとする者多し蓋し序跋を得んと欲せは其事を專らにし或は相戒るの知己に請ふへし然らされは序跋ありて序跋なきに如かさるなり散士固より此に見るあり前篇皆其人を擇み苟も序跋を求めす能く其旨を得たるか如し而して第五卷に至ては嘗て自ら擇ふ所あらす余も亦鞅掌の間之を他人に請ふの閒なく又請ふへきの人あるを知らす因て悉く省かんとす然れとも書肆之を聽かす遂に余をして序せしむるに至る余は素より法律を事とする者此篇に序すへきの人に非さるに似たり且つ從來余に法律書の序跋を囑するもの多し余徒に虛譽を助くるの忌むへきを以て未た嘗て其需に應することあらす然り而して獨り此篇に序するものは散士と交るの最も深きを以てなり但余は散士の才學著述を稱揚する者にあらす其才學は散士自ら之を示すへく其著述は讀者亦之を是非すへし明治十九年小暑日芳暉園主人錄於礫川光雲閣

佳人之奇遇 卷五

翌朝守城長僕御ヲ從ヘ雕車ヲ驅リ來リ迎ヘテ曰ク乞フ昨夕ノ約ヲ履マント妾乃チ單衣輕裳殊ニ風流ノ粧ヲナシ肩ニ望遠鏡ヲ懸ケ手ニ蒲鞭ヲ提ケ出テ守城長ヲ揖ス守城長怪ミ問テ曰ク令孃何爲レソ輕粧此ノ如クナルト妾答ヘテ曰ク屢ミ僕御ヲ從ヘ雕車ヲ驅ラハ人ノ耳目ニ觸レ易シ且ツ右顧左眄胸襟ヲ開テ以テ閣下ト親話スル能ハサレハ興味亦索然タルヲ免レス今日ハ即チ千歲ノ一時ニシテ而モ僕御ノ爲メニ煩累スル所トナル豈又遺憾ナラスヤ故ニ雕車ヲ捨テ僕御ヲ去リ更ニ小車ヲ驅リ唯タ閣下ト相携ヘテ我カ意ノ欲スル所ニ至リ雲ヲ履ンテ花ヲ折リ青草ヲ藉テ香風ニ嘯キ以テ心情ヲ娛マシムルノ趣アルニハ若カスト守城長喜色ヲ呈シテ曰ク是レ僕ノ日夜願フ所唯タ令孃ノ意ニ拂ハン事ヲ恐レテ未タ之ヲ言ハサルノミ高意ニシテ眞ニ此ノ如クナラハ豈輕裝ノ遊ヲ好マサランヤト鳴呼彼レ色ニ迷ヒ慾ニ溺レ國家ノ大事ヲ遺レ妾等ノ計策ヲ覺ラス自ラ進ミテ陷阱ノ中ニ墮ツト更ニ語ラント欲シテ忽チ首ヲ低レ沈思紆慮謂フ能ハサル者ノ如シ既ニシテ曰ク話シテ此ニ至レハ妾聊カ郎君ニ向テ愧ツルモノアリ蓋シ彼レ本ヨリ齷齪斗筲ノ才ニシテ財ヲ貪リ色ヲ好ミ忠ヲ忌ミ能ヲ害スルノ一賤丈夫ニ過キスト雖モ妾亦一處女ノ身ヲ以テ花柳ノ色ヲ粧ヒ狹斜ノ情ヲ飾リ之ヲ騙シ之ヲ欺クニ傚フ安ソ心ニ快トセンヤ今郎君妾カ謂フ所ヲ聞キ妾ヲ賤ミ妾ヲ疎スルノ念ヲ萌サンコトヲ恐ル、ナリ唯タ是レ交友ノ誼已ム可カラサルニ出ツ冀クハ郎君之ヲ察セヨト散士曰ク

凡ソ浮世ノ事時ト勢トニ由テ變ス若シ令娘ニシテ私欲ノ爲メニ人ヲ欺キ色情ノ爲メニ人ヲ陷ルルノ計策ヲ行ハヽ余ハ令娘ヲ惡ミ令娘ヲ疎シ又令娘ト相見ルヲ欲セサルナリ若シ夫レ然ラス苟モ令娘ニシテ果シテ天下ノ爲メニ小人ヲ欺キ國家ノ爲メニ姦臣ヲ陷レ以テ懲戒ノ鑑トナシ以テ勸導ノ階トナサハ余ハ則チ令娘ノ僞言モ之ヲ助ケ令娘ノ欺計モ之ヲ贊ケ相共ニ大ニ力ヲ盡ス可シ今令娘カ幽蘭女史ノ忠孝ノ囑託ヲ重ンシ正義ノ爲メニ身ヲ屈シテ姦徒ヲ陷ルヽカ如キ澆漓浮薄ハ今日ニ當テ或ハ利ヲ見テ義ヲ忘レ或ハ危キニ臨テ志ヲ變シ或ハ時ヲ知ラス勢ヲ察セス偸安筆ヲ弄シ兀坐舌ヲ鼓シ徒ニ他人ヲ貶議スル者ノ爲メニ悦ハレサルヘシト雖モ余ハ則チ令娘ノ志ヲ憐ミ令娘ノ行ニ感シ倶ニ力ヲ　スル能ハサリシヲ憾ムノミ蓋シ人アリ其胸襟ヲ吐露シ余カ救援ヲ請フ者アラハ義氣ノ激スル所精神ノ感スル所骨ヲ碎キ身ヲ殺スモ猶ホ悔イサル可シ瑣瑣タル僞言詐術固ヨリ問フ所ニ非ラサルナリト紅蓮之ヲ聞テ曰ク郎君ノ志果シテ此ノ如キカ妾何ソ詳ニ之ヲ語ラサランヤ

既ニシテ悉ク雕車ト僕御トヲ去リ妾守城長ト一小車ニ乘シ城市ヲ出テ南ニ去ルヿ一里許リ妾莞爾トシテ謂テ曰ク今日ノ遊樂キカト守城長曰ク昨夕ハ反臣ト車ヲ同ウシ今朝ハ仙妃ト駕ヲ供ニス昨ハ非ニシテ今ハ是ナルモノト妾故サラニ笑テ曰ク先キニ閣下カ妾ヲ忘レ妾ヲ疎シ車ヲ同ウシ手ヲ携ヘ間吟清咏情ヲ怡ハシメ心ヲ樂マシムルノ地ハ何ノ邊ソヤ想フニ靜間幽邃塵客俗人ノ情話ヲ妨クル者ナカラント守城長綏ヲ綏ウシ笑テ指シテ曰ク那處ニ在リ實ニ蕭岑トシテ令孃カ謂フ所ノ如シ今日亦那處ニ憩テ以テ相語ランカ我カ情話ヲ聞クモノハ翠梢ノ孤鳥ノミ我カ艷語ヲ嫉ムモノハ綠柯ノ殘蟬ノミ淸流ノ潺潺タル心ナクシテ我カ雙影ヲ寫シ涼風ノ習習タル情多クシテ我カ衣裳ヲ吹ク眞ニ得易カラサルノ勝地ナリト且ツ笑ヒ且ツ語リ漸ク山横水流ノ邊ニ入ル妾望遠鏡ヲ出シ東西ノ村落ヲ指點シ遠邇ノ森林ヲ下瞰シ其山名ヲ問ヒ其水姓ヲ敲キ陽ニ風光ノ美ナルヲ賞シ陰ニ地勢ノ險夷ヲ探リ鉛筆ヲ捉リ白紙ヲ展ヘ其奇景ヲ寫スカ如クシテ山徑ヲ究メ水支ヲ明ニシ卒ニ一小地圖ヲ製セリ又行クヿ數町遙ニ石橋ノ高ク溪流ニ架スルヲ見ル時ニ青天湛然炎暑薰赫旱氣轉タ甚タシ守城長車ヲ橋下ニ留メ馬ヲ綠蔭ニ維キ首ヲ回シ一巨石ノ水涯ニ横ハルヲ指シテ曰ク僕ノ始メテ幽将軍ト此地ニ遊フヤ彼ノ石上ニ憩ヘリ當時僕警衞ノ大任ヲ負ヒ反逆ノ大因ヲ伴ヒ此無人ノ境ニ入ル若シ人アリ來リ奪ハヽ其禍害ノ及フ所獨リ僕ノミナラス國家ノ安危ニ關スル亦期ス可カラス是ヲ以テ深林ニ對スレハ其伏兵ノ潛ムアランヿヲ恐レ巖石ニ逢ヘハ刺客ノ匿ルヽアランヿヲ慮リ身ハ此清幽ノ佳境ニ在テ此苦心焦慮ヲナシ而シテ令孃ヲ見テ情ヲ敍シ一日ヲ永ウシテ懷ヲ娛マシムルヿ能ハス孤鳥ノ喃喃タルハ悽怨ノ聲ヲナシ流水ノ潺潺タルハ惆悵ノ響ヲナス其情何ソ堪フ可ケン、然レ𪜈今日卒然令孃ト手ヲ携ヘテ此地ニ遊フヲ得タリ昨日苦心焦慮ノ地ハ頓ニ目ヲ娛マシメ神ヲ怡ハシムル處トナリ昨日悽怨惆悵ノ音ハ忽チ情ヲ樂マシメ耳ヲ喜ハシムルノ聲トナレリ唯タ恨ム明日復タ彼老餘ノ囚徒ト車ヲ同ウセサル可カラス而シテ又令孃ヲ見ル能ハサルノミ鄙語ニ曰ク月明ナラント欲スレハ浮雲之ヲ掩ヒ花漸ク發テ風雨之ヲ散スト人事ノ意ノ如クナル能ハサル眞ニ歎ス可キ哉ト妾愀然トシテ車ヲ下リ秋波情ヲ凝シ斜ニ守城長ヲ見テ曰ク月ニ浮雲アリ花ニ風雨アリ閣下ノ言ノ如シ妾亦今日ノ行樂ニ感シ明日ノ愁情ヲ思ヒ怨恨ハ笑悅ノ中ヨリ生スルヲ如何セン蓋シ妾ハ敢テ閣下ヲ疑フニ非ラスト雖モ癡情ノ結フ所未タ果シテ閣下ノ將軍ト車ヲ此間ニ驅ルカ將タ妾カ聞ク所ノ如ク佳人ト手ヲ携ヘテ



紅蓮守城長ト水涯ニ憩フノ圖

（原本插畫）

涼ヲ那邊ニ趁フヤ否ヤヲ明ニスルヿ能ハサルナリ妾ハ明日閣下ノ言ヲ證センカ爲メニ馬ニ騎シ此地ヲ逍遙シ閣下ニ邂逅シテ其虛實ヲ決セントスト守城長愕然トシテ曰ク先キニ僕ノ令孃ニ語ル所ハ實ニ國家ノ祕事父子ノ間ト雖モ洩ス可カラサル者而ルニ令孃我カ言ヲ信セス明日來リ會セハ之ヲ見ル者誰カ僕カ機密ヲ洩スヲ疑ハサランヤ特ニ僕カ終世ノ沈淪ノミナラス實ニ國家ノ大事ナリ願クハ令孃來ルヿ勿レ必ス重ネテ相共ニ遊ハンノミト妾頭ヲ掉テ曰ク閣下カ妾ヲ拒ム所以ノモノハ則チ妾カ疑フ所以ナリ妾ハ既ニ一身ヲ以テ閣下ノ生殺ニ任セント欲ス閣下ハ行爲ヲ明ニセスシテ可ナランヤト守城長且ツ慰メ且ツ說キ辯解甚タ勗ム妾少ク色ヲ作シ聲ヲ勵マシテ曰ク此地ハ靜幽ノ佳境タリ來リ遊フ者固ヨリ獨リ妾等ニ限ラス且ツ妾ハ羈旅ノ一女子ノミ閣下ト相逢フヲ知ルモノアリト雖モ安ソ敢テ深ク怪マンヤ然リ而シテ閣下痛ク妾ヲ拒テ來リ見ルヿヲ許サス豈更ニ疑ハサルヲ得ンヤ妾カ心ハ石ニ非ラス轉ス可カラス妾カ心ハ席ニ非ラス卷ク可カラス妾ハ誓テ閣下ノ幽將軍ト車ヲ共ニスルヲ見サレハ止マサルナリト或ハ疑フカ如ク或ハ怨ムカ如ク或ハ戀フカ如ク或ハ憤ルカ如ク以テ彼カ心思ヲ攪亂ス守城長妾カ歡心ヲ失ヒ妾カ憤怨ヲ增サンヿヲ恐レ聲ヲ和ケテ曰ク令孃ノ眞意此ノ如クナレハ宜シク令孃ノ欲スル所ノ如クナルヘシ唯警吏輩ノ怪ム所トナルヿ勿レト妾心竊ニ喜ヒ語ヲ轉シ步ヲ移シ又車ニ乘シ馬ニ鞭チ更ニ幽邃ノ中ニ入リ愈〻佳景ノ境ヲ見テ施施トシテ行キ漫漫トシテ遊ヒ終ニ歸路ニ就ク妾計策ノ略ホ成ルヲ喜ヒ又前途ノ測リ難キヲ慮リ胸中紛擾語ラント欲シテ語ル能ハス笑ハント欲シテ笑フ能ハス又彼ノ疑フ所トナルヲ恐レ曲ケテ笑容ヲ作リ務メテ快樂ヲ粧ヒ遂ニ相伴テ旅館ニ還ル時ニ日漸ク沈テ街頭燈火ノ點スルヲ見ル妾時機正ニ明日ニ迫ルヲ以テ心事匆忙忡忡トシテ安ンセス速ニ守城長ヲ返シ幽蘭范老ノ二人ト共ニ詳ニ其計策ヲ議シ之カ準備ヲナサント欲ス而シテ守城長猶ホ旅館ニ留リ未タ去ルヲ欲セス自ラ晩餐ヲ命シ幽蘭女史ヲ呼ヒ當日ノ遊興ヲ語リ悠然晏居諧謔冗話妾ヲシテ復タ二人ト相語ルヿ能ハサラシム妾憂悶愁思肺肝ヲ刺スカ如ク頭腦ヲ碎クカ如シ郎君妾カ當日ノ苦心ヲ察セヨト言ヒ畢リテ酒瓶ヲ倒ニシテ一杯ヲ傾ケ胸ヲ撫シテ大息ス

少焉アリテ又語ヲ繼テ曰ク既ニシテ晩餐ヲ終リ妾守城長ニ謂テ曰ク閣下今日妾カ爲メニ綏ヲ携ヘ鞭ヲ執リ親ラ僕御ノ任ニ當レリ其疲勞如何ソヤト守城長笑テ曰ク僕令孃ノ側ニ在ラハ恍トシテ蓬萊ニ遊フカ如シ何ソ苦艱ト疲勞トヲ辭センヤ唯令孃ノ累ヲナスヲ恐ルヽノミト漸ク身ヲ起シテ辭シ去ル三人直ニ密房ニ入ル妾覺エス聲ヲ爲シテ曰ク咄彼ノ癡漢我カ黃金ノ光陰ヲ消スト幽蘭女史慰メ問テ曰ク且ツ神ヲ安ンシテ今日ノ吉凶ヲ語レト妾乃チ懷ヲ探リテ寫ス所ノ小地圖ヲ出シ示シテ曰ク密計殆ト竅ニ中レリ是レ妾カ今日談笑行步ノ中ニ作ル所ナリ甚タ分明ナラスト雖モ亦以テ計策ヲ講スル

ニ足ラント依テ指點シテ其山勢水態ヲ語リ其行裝準備ヲ計ル時ニ夜既ニ深ク四面闃寂トシテ風聲ノ靜ニ戸外ニ響クヲ聽クノミ幽蘭女史曰ク更闌ニシテ市店皆已ニ眠ル器械ヲ購ヒ以テ明旦ノ備ヲ爲ス能ハス其レ之ヲ如何ス可キト范老曰ク陋奴モ亦是ヲ以テ大ニ念トナセリ嗚乎吾輩生ノ大事智ヲ盡シ身ヲ勞シ漸ク將ニ成ラントシテ而シテ深宵ノ故ヲ以テ終ニ其志ヲ達スル能ハサルカト妾亦嘆シテ曰ク彼賤丈夫ヲシテ去ルヿ早カラシメハ豈我カ此憾ミアランヤト聲未タ了ラス窓外滴滴ノ響アリ范老戸ヲ開ケハ一陣ノ涼風雨ヲ吹テ颯颯裡ニ入ル翠簾飄リ彩燈消エントス范老急ニ戸ヲ穿ツ妾大ニ喜テ曰ク噫々皇天未タ我ヲ棄テス惠ムニ今宵ノ雨ヲ以テス我カ計策必ス成ランノミ又悲歎スルヲ要セスト幽蘭女史曰ク何ノ故ソヤト妾カ曰ク王羅守城長ノ郊外ニ遊フヤ將軍ノ保養ヲ計ルニ在リ故ニ風雨ヲ冒シ泥濘ヲ凌キ而シテ必ス行カント欲スルニ非ラス想フニ應ニ新晴ヲ待チ而シテ駕ヲ命センノミ妾等因テ一二日ノ間ヲ得テ徐ニ計畫密議スルヲ得ント風雨益々甚タシク簷滴ノ聲愈々喧シ妾等カ前途ノ計畫モ亦明旦ニ非ラサルヲ知リ胸襟僅ニ綽然タルヲ得タリ妾又地圖ヲ把テ反覆其計策ヲ說キ且ツ曰ク此事成ラハ何ノ地ニ奔フ而シテ可ナランカ佛國最モ便ナリト雖モ境界嚴肅ニシテ電線通セサル處ナク追迹亦必ス急激ナラン皇兄ヲ戴キ將軍ヲ慕フノ南方ニ遁レンカ是レ亦人ノ最モ意ヲ注ク處ニシテ政府ノ警察彼ヨリ密ナルハナカラン妾甚タ之ニ惑ハサルヲ得スト幽蘭女史ノ曰ク妾モ始メ之ニ迷ヘリ然レトモ漸クニシテ其計ヲ得タリ蓋シ幸ニ老父ヲ奪フヿヲ得ハ直ニ路ヲ東北ニ取リ其備ヘサルニ出テ力メテ蹤跡ヲ晦シ伊武浪河ヲ渡リ伊太利ニ航シ歐洲ノ俠勇自由ノ泰斗タル峨馬治ニ倚ラント欲スルナリ其一諾ヲ得テ而シテ去就ヲ決セハ天下ノ强國モ亦以テ奈何トモスルヿ能ハス身ハ泰山ノ安キニ在テ遂ニ前狼後虎ノ患ナカラン想フニ老父ノ見ル所モ或ハ之ニ同シカラント范老案ヲ拍テ曰ク此計最モ妙ナリ孫子曰ク水ノ形ハ高ヲ避ケテ而シテ下ニ趨リ兵ノ形ハ實ヲ避ケテ而シテ虛ヲ擊ツト又曰ク千里ヲ行テ而シテ勞セサルモノハ無人ノ地ヲ行ケハナリト今日ノ事兵事ニ非ラスト雖モ之ニ鑑ミテ謀ヲ講セハ大過ナカル可シト妾モ亦之ヲ贊シテ議即チ決ス時ニ案頭ノ自鳴鐘鏗鏗トシテ第四點ヲ報ス明早風漸ク收マリ雨未タ歇マス范老英船ノ水手ト稱シ市ニ出テ、三個ノ短銃ト二襲ノ男裝トヲ購ヒ妾等ハ房中ニ在リ行李ヲ整ヘ書冊ヲ火シ各々明日ノ準備ヲ爲ス日既ニ晌午ヲ過キ煙霏ヒ雨散シ淸涼初秋ニ似タリ幽蘭女史カ曰ク王羅モ亦是レ姦猾多智一個ノ老漢ナリ尙ホ其動靜ヲ詳ニシ情ヲ飾リ意ヲ迎ヘ彼ヲシテ更ニ疑フ所ナカラシム可シト妾乃チ人ヲ遣シテ之ヲ招キ幽蘭女史ト故サラニ閒雅愉悅ノ狀ヲ裝ヒ諧謔怨言以テ彼カ動止ヲ試ム彼既ニ心骨蕩然トシテ悠悠款語又更ニ怪訝ノ態アルヲ見ス談笑差々久ウシテ彼レ將ニ歸リ去ラントス妾其手ヲ握リ微笑シテ曰ク夜來多情ノ雨行路ヲ遮リテ今日手ヲ握ルノ歡樂ヲ導キ今宵無賴ノ風滯雲ヲ掃テ明日臂ヲ把ルノ佳興ヲ妨ク然レ𪜈若シ幸ニ好機ヲ得ハ翠野碧溪ノ間ニ逍遙シテ遠ク玉姿ヲ認メテ妾カ相思ノ情ヲ慰メント彼レ乃チ首ヲ回シ笑テ曰ク是レ亦僕ノ望ム所ナリ但令孃必ス他人ノ怪ム所トナルヿ勿レト門ヲ出テ、去ル此夜妾館主ヲ呼ヒ託シテ曰ク妾等明日聯騎郊外ニ遊ハント欲ス願クハ爲メニ二頭ノ駿馬ヲ備ヘヨ性柔順ニシテ疾足ナルモノヲ可ナリト爲スト又地圖ヲ開キ范老ニ示シテ曰ク先ツ此松林ニ至テ妾等ノ到ルヲ待テト卽夜范老行李ヲ負ヒ農夫ノ裝ヲ爲シテ去ル翌旦ニ至テ妾等モ亦素飾輕粧シテ出ツ幽蘭女史白馬ニ騎シ妾驪馬ニ鞭チ馳セテ郭門ニ達ス二人ノ警吏アリ佇立シテ道路ヲ視

察ス一人進テ我カ馬前ヲ遮リ幽蘭女史ヲ止メ將ニ問フ所アラントス他ノ一人急ニ來リテ其肩ヲ打チ暫ク耳語シテ相共ニ笑ヒ徐ニ進路ヲ開テ曰ク貴孃行矣行矣又問フ所有ル無シト蓋シ彼ハ守城長ノ家奴ニシテ能ク妾等ヲ知ル者又敢テ怪マサルナリ一夜ノ雨、半日ノ晴、泥路新ニ乾テ馬蹄塵ヲ颺ケス既ニシテ松林ノ蓊鬱タルヲ見ル妾乃チ馬ヲ進メテ其中ニ入ル范老獨リ樹根ニ踞シ行李ヲ側ニシ煙ヲ吹テ妾等ノ至ルヲ遲テリト紅蓮尙ホ言フ所アラントス時ニ老僕數顆ノ果實ヲ竹籃ニ盛リ入リ來リテ曰ク邸後ノ林檎漸ク熟スルニ似タリ何ソ甘酸ヲ試ミサルト紅蓮直ニ小刀ヲ把リ一顆ヲ切テ兩片トナシ一片ヲ以テ散士ニ與ヘ自ラ一片ヲ喫シテ曰ク嗚乎是レ仙掌ノ甘露ニ勝ル妾カ喉舌僅ニ浥フヲ得タリ請フ更ニ其後ノ狀ヲ語ラン



幽將軍ヲ奪フノ圖　(原本插畫)

范老乃チ行李ヲ開キ粧束ヲ變セシム妾等直ニ衣ヲ脫シテ男裝ヲ穿チ頭ニ烏黑ノ高帽ヲ載キ目ニ鴨緑ノ眼鏡ヲ掛ケ假髯鼻下ヲ掩ヒ短銃腰間ニ在リ遠ク之ヲ望メハ堂堂タル兩個ノ好丈夫ナリ相見テ覺エス一笑ス笑聲未タ終ラス原頭遙ニ匹馬ノ嘶クアリ我カ馬亦耳ヲ欹テヽ相和セント欲ス范老急ニ木枝ヲ取リ馬口ニ銜シ更ニ一條ノ麻索ヲ以テ固ク其上ヲ結ヒ嘶鳴スル能ハサラシム暫クニシテ二騎アリ轡ヲ並ヘ左視右顧シテ過ク范老林間ヨリ之ヲ見テ節ヲ拍テ曰ク嗚乎皇天未タ我ヲ捨テス今日ノ事既ニ成矣ト妾問テ曰ク何爲レソ此言ヲ爲スト范老曰ク彼ハ即チ警吏ノ路上ヲ斥候スルモノナリ彼ヲシテ來ルヿ一刻遲カラシメンカ我ヲシテ去ルヿ一刻早カラシメンカ我策悉ク彼ノ發現スル所トナリ積日ノ苦心轉瞬ノ間ニシテ徒ニ畫餠ニ歸センノミ眞ナル哉機會ノ來ル間ニ髮ヲ容レサルヤト直ニ疾奔シテ橋邊ニ至ル妾幽蘭女史ト之ヲ望メハ范老身ヲ屈シテ數個ノ大石ヲ運轉シ力ヲ極メテ路上ニ亂列シ殭落崎嶇車馬ヲシテ通ス可カラサラシム既ニシテ還リ來リテ曰ク造父鞭ヲ擧ケテ八龍ヲ御スルモ王羅ノ車那處ニ留マランノミ老奴其側ニ伏シ銃ヲ發シテ號ヲ爲シ以テ彼ヲ刧サン兩娘直ニ馬ヲ驅リ大聲叱呼シテ來リ迫レト再ヒ身ヲ轉シテ去ル妾等年猶ホ壯ニシテ意氣最モ雄ナリト雖モ骨柔ニ肱弱ク其成否未タ計ル可カラス范老其人ノ如キハ親ラ經歷スル所頗ル多ク老成着實事ニ臨テ而シテ懼レ謀ヲ好テ而シテ成ス者眞ニ得易カラサルノオナリ今妾等ノ此人ヲ得タルハ亦是レ旻天ノ誠忠ヲ憐ムノミ少時ニシテ幽蘭女史小邱ニ上リ直ニ下リ忙シク告ケテ曰ク一輛ノ馬車橋邊ニ向テ來ルト妾之ヲ聞キ心胸鼓動脈脈トシテ波瀾ノ如シ乃チ氣ヲ鼓シ勇ヲ振ヒ躍テ馬ニ跨リ草葉木枝ヲ隔テヽ之ヲ見ル歷歷トシテ辨ス可シ御者鞭ヲ執テ車前ニ坐シ警吏劍ヲ帶テ其左ニ倚リ守城長幽將軍ト相語テ其中ニ並坐ス馬車漸ク橋邊ニ近ツカントスルニ方リ一發ノ砲聲忽然樹間ニ響ク守城長大ニ驚キ聲ヲ放テ曰ク賊アリ賊アリ馬ニ鞭チ速ニ走レト語未タ終ラス乍チ又爆然一聲警吏ヲ射テ之ヲ傷ク警吏倒レテ路側ニ墮ツ妾等機ニ乘シ短銃ヲ提ケ馬ニ鞭チ之ニ迫ル守城長御者ト魂散シ魄褫ハレ

其成ス所ヲ知ラス唯タ力ヲ極メ鞭ヲ輪シ馬背ヲ亂打ス馬又大ニ駭キ鬣ヲ振ヒ蹄ヲ揚ケ橋畔ニ向テ走ル忽チ巨石ノ路上ニ横ハルニ逢ヒ進マント欲シテ進ム能ハス道路狹隘ニシテ追騎後ニ在リ退カント欲シテ退ク能ハス周章狼狽ノ狀想フ可シ幽蘭女史急ニ西語ヲ以テ疾呼シテ曰ク伏兵速ニ出テヨ姦賊ヲ誅シ忠良ヲ救フハ此一擧ニ在リト御者之ヲ聞キ鞭ヲ捨テ自ラ水中ニ投ス守城長モ亦身ヲ跳ラシテ遁レント欲ス范老之ヲ認メテ大ニ怒リ一拳擊テ車下ニ倒シ直ニ進テ短銃ヲ擬ス妾之ヲ留メテ曰ク彼レ姦惡已ニ貫盈スト雖モ豈漫ニ殺スニ忍ヒンヤト時ニ幽蘭女史馬ヲ下テ其傍ニ在リ卽チ馬口ノ痲索ヲ解キ范老ニ與ヘテ守城長ヲ縛セシメ自ラ車上ニ向ヒ將軍ノ手ヲ取リ扶ケテ車ヨリ下シ涙ヲ揮ヒ告ケテ曰ク此二人ハ兒カ刎頸ノ友ニシテ皆生ヲ捨テテ今日阿爺カ危急ヲ救ヘル者ナリ先ツ此處ヲ遁レテ而シテ後詳ニ其顚末ヲ語ラント范老守城長ヲ縛シ且ツ白巾ヲ以テ其面ヲ裹ミ引テ林中ニ至リ固ク樹根ニ繫キ又前ニ脫スル所ノ女裝ヲ携ヘ來リテ妾等ニ與フ妾卽チ幽蘭女史ト相扶ケテ男裝ヲ去リ將軍ト范老トヲシテ之ヲ着セシメ再ヒ身ヲ變シテ馬上ニ跨ル范老亦服ヲ變シ直ニ車轅ヲ毀チ馬綏ヲ斷チ其二馬ヲ解キ右手ニ纓轡ヲ執リ左手ニ將軍ヲ摩キ呼テ曰ク閣下請フ先ツ之ニ騎セヨト更ニ舊衣ヲ執テ河流ニ投シ自ラ他ノ一馬ニ跨ル幽蘭女史將軍ニ問テ曰ク將ニ何ノ地ニ遁レントスト將軍曰ク命ヲ皇天ニ委ネテ路ヲ東北ニ取リ伊太利ニ向ハンノミト女史ノ曰ク老父ノ見ル所亦兒ト異ナルヿナシト是ニ於テ四人鑣ヲ連ネ鞭ヲ鳴ラシ塵ヲ颺ケ沙ヲ捲キ將軍之カ先導トナリ路ヲ無人ノ境ニ取リ東北ニ向テ馳奔スルヿ十餘里漸クニシテ饑渴交〻迫ル將軍勇壯矍鑠意氣世ヲ蓋フノ風アリト雖モ久シク囹圄ノ中ニ在リ肉癯セ神衰ヘ之ニ加フルニ當日騎スル所ノ馬鞍ナク鐙ナク最モ四肢ヲ勞スルヲ以テ困憊殊ニ甚タシ既ニシテ日暮レ馬疲レ之ヲ牽ケトモ動カス之ヲ鞭テトモ進マス四人已ムヲ得ス馬ヲ棄テ丶歩ス時ニ雲暗ウシテ星河光ナク風起リテ山雨降ラント欲ス路上闇闇險夷ヲ辨セス一歩一息唯脚ニ任セテ行ク夜漸ク深ウシテ疲饑亦極マリ遂ニ一歩ス可カラサルニ至ル首ヲ回セハ一條ノ岐路アリ相去ルヿ甚ダ近ウシテ一茅屋ノ路傍ニ在ルヲ認ム皆悅テ曰ク以テ一餐ヲ求ム可シト近テ之ヲ見レハ路上ノ馬厩ナリ荒寥闃寂人ノ敢テ守ルモノナシ皆大ニ望ヲ失フ然レ𪜈又歩ヲ移ス能ハサルヲ以テ相携ヘテ樓上ニ登ル蛛網縱橫塵埃寸積陋謂フ可カラス身ヲ轉シテ其中ニ臥ス范老首ヲ擧ケテ窓隙ヨリ遙ニ孤燈ノ林間ニ映スルヲ見身ヲ起シテ曰ク老奴請フ去テ食ヲ求メント直ニ樓ヲ下リ故サラニ階ヲ撤シテ去ル妾等積勞ノ餘覺エス眠ニ就ク暫クニシテ霹靂一聲吾カ夢ヲ破ル驚テ目ヲ開ケハ金蛇閃閃壁ヲ穿テ入リ雷聲隱隱山ヲ破テ來ル狂風茅屋ヲ捲カント欲シ驟雨江河ヲ傾クルニ似タリ未タ久シカラス近ク人馬ノ聲アリ雷音雨響ト相混シテ至ル妾身ヲ起シ急ニ幽蘭女史ニ耳語シテ曰ク彼聲豈追兵ノ迫ルニ非ラスヤト語未タ終ラス戶外喧騷或ハ呼テ曰ク發見セリ發見セリト妾之ヲ聞キ以爲ラク命運玆ニ極マレリト胸惕惕トシテ悸キ怒氣勃勃トシテ發ス乍ニシテ十數人ノ士卒戶ヲ排シテ入ル一人火ヲ點シテ曰ク幸甚幸甚薪炭此ニ在リ火爐彼ニ在リト相集マリテ火ヲ樓下ニ燒キ濕衣ヲ脫シ之ヲ乾シテ談笑ス妾等カ意少ク安ンス士卒火ヲ燒クヿ益〻熾ニ焰煙漸ク樓上ニ滿チ袖ヲ掩テ之ヲ防クモ避ク可カラス呼吸ニ隨テ鼻口ノ間ニ出入シ叫ハント欲シテ叫フ能ハス起タント欲シテ起ツ能ハス苦艱煩悶眞ニ堪フ可カラサルニ至ル妾聲ヲ潛メテ曰ク空シク命ヲ焰煙ノ中ニ失ハンヨリハ寧ロ決鬪シテ死ヲ潔スルニ若カスト幽蘭女史制止シテ曰ク是レ所謂血氣ノ勇ノミ何ソ身ヲ輕ンシテ賤兵弱卒ノ手ニ死セ

ンヤ忍フヘクシテ之ヲ忍フハ尋常ノ人ノミ忍フ可カラスシテ之ヲ忍フハ妾等ノ望ム所ニ非ラスヤ忍テ而シテ此ニ死スルモ一歩ヲ動ス可カラス且ツ彼レ妾等カ樓上ニ匿ルヽヲ知ラス唯來テ風雨ヲ避クルノミ久シカラスシテ必ス去ラント妾已ムヲ得ス首ヲ俯シテ士卒ノ去ルヲ遲ツ樓下火ヲ燎クヿ或ハ寬ニ或ハ猛ニ熖煙屢〻昇騰シテ氣息絕エント欲スルモノ數回將軍卒然苦聲ヲ發シテ咳息ス樓下ノ一卒忽チ之ヲ聞キ衆ニ告ケテ曰ク樓上人アリ今咳息ノ聲ヲナセリト一卒曰ク否此レ小鼠ノ響ノミ廐舍何ソ人アルヲ得ント或ハ怪ミ或ハ笑ヒ談論久シク決セス一人曰ク登テ而シテ之ヲ探ランノミト身ヲ動シテ曰ク階梯ナシ登ル能ハスト一人曰ク既ニ梯階ナシ人ナキ必セリ又何ヲカ怪マント一笑シテ止ム既ニシテ士卒等相語テ曰ク東方漸ク白ク雨聲亦微ナリ賊徒是レヨリ必ス南方ニ奔リテ頓加羅黨ニ寄ラン然レトモ彼レ徒歩ノミ追捕固ヨリ難カラスト行裝ヲ整ヘ步騎相間リテ出ツ妾等虎口ノ難ヲ脫シ心神少ク定マル然レトモ餘煙漠漠トシテ未タ室內ヲ去ラス乃チ窓ヲ啓テ之ヲ掃ハント欲ス雙手ヲ支ヘテ半身ヲ起セハ忽チ殘煙ノ薰灼スル所トナリ目眩シ魂迷ヒ撲然トシテ臥ス樓下范老ノ聲アリ曰ク將軍兩孃ト恙ナキヤ敵兵既ニ南方ニ去レリト妾之ヲ聞キ微聲ヲ發シテ曰ク范老速ニ窓戶ヲ啓ケ又希クハ一杯ノ水ヲ與ヘヨト范老水ヲ馬槽ニ盛リ登リ來テ妾ニ與ヘ直ニ窓ヲ開キ巾ヲ振テ熖煙ヲ掃フ妾一喫シテ蘇生ノ思ヲナシ手ヲ延ヘテ幽蘭女史ヲ搖カシ又水ヲ進メント欲ス女史俯臥シテ更ニ應セス諦視スレハ則チ將軍ト相保持シテ氣既ニ絕エ息已ニ歇ミ僅ニ血脈ノ微動スルヲ感スルノミ妾范老ト驚愕スル殊ニ甚タシ乃チ其口ヲ開キ水ヲ注キ背ヲ擁シテ呼フ少焉アリテ二人目ヲ開キ精神差定マル女史范老ヲ顧ミテ曰ク范老去テ後追卒沓至妾以爲ラク范老路ニ捕ヘラレ妾等カ潛匿亦已ニ露ルト既ニシテ其然ラサルヲ知リ又以爲ラク范老未タ縛ニ就カスト雖モ歸リ來ラハ其禍害眞ニ計ル可カラスト戰戰トシテ薄氷ヲ履ムカ如ク兢兢トシテ深淵ニ臨ムカ如シ之ニ加フルニ熖煙樓上ニ充チ氣息通スル能ハス妾等カ愁苦亦想フ可シ然レトモ衆皆恙ナキヲ得タリ是レ豈天ニ非ラスヤト范老曰ク老奴先キニ林下ニ至リ一農家ヲ認メ戶ヲ敲キ情ヲ述ヘ食ヲ求メテ還ル時ニ雷雨驟ニ至リ殆ト步ヲ移ス可カラス因テ暫ク之ヲ樹下ニ避ク遙ニ人馬ノ聲西方ヨリ至ルヲ聞ク心大ニ之ヲ訝リ雨ヲ犯シテ廬邊ニ近ツケハ追卒ノ屋內ニ亂入スルナリ老奴之ヲ見テ胸ヲ撫シテ曰ク嗚乎已矣ト短銃ヲ腰間ニ取リ直ニ進テ死ヲ決セント欲ス更ニ近テ壁間ヨリ之ヲ窺ヘハ人人蹲踞徒ニ火ヲ燎キ濕衣ヲ乾スノミ是ニ於テ神魂始メテ安シ乃チ屋後ニ匿レテ其去ルヲ待テリト四人淚ヲ垂レ手ヲ握リ互ニ其事ナキヲ祝シ相攜ヘテ樓ヲ下ル饑疲既ニ極マリ踉蹌トシテ步ス能ハス范老攜フ所ノ麵包ヲ出シ妾等ニ供ス妾等手指ヲ以テ分割シ立テ之ヲ喫ス美大牢ノ如シ漸クニシテ氣力少シク加ハリ精神始メテ安シ將軍妾ト范老トニ謂テ曰ク令孃ト令兄トノ厚誼ヲ以テ虎穴ヲ脫シ鰐口ヲ逃レ遂ニ此ニ至ルヲ得タリ若シ躊躇シテ速ニ去ラサレハ再ヒ危險ニ逢フモ亦知ル可カラス宜シク勇ヲ鼓シテ國境ヲ超ユヘシト三人茅屋ヲ出テヽ岐路ヨリ西ニ入ル山漸ク深ウシテ路益〻險ニ峭壁萬重樵路ヲ尋ネ懸崖千仞鳥道ヲ攀ツ風寂トシテ四ニ飛鳥ノ聲ナク雲淡クシテ遙ニ孤猿ノ叫フヲ聞ク漸クニシテ一山ノ絕頂ニ達ス目ヲ放テハ伊武浪河蜿蜒トシテ翠崖青原ノ間ヲ流ル出沒隱見銀蛇ノ草間ヲ奔ルニ似タリ一道ノ汽車蒼靄ヲ穿チ黑煙ヲ吐キ北ニ向テ山脚ヲ過ク蜈蚣ノ身ヲ動シテ孤繩ヲ渡ルカ如シ將軍足ヲ巖角ニ欹テ指シテ妾等ニ告ケテ曰ク彼ノ鐵路ハ即チ北境ニ通スルモノナリ此間僻陋ニシテ警衛頗ル緩ク又吾輩ヲ疑フ者アル可カ

ラス何ソ下テ而シテ之ニ乘セサルト范老曰ク吾カ心既ニ百里ノ外ニ奔リテ而シテ跛脚僅ニ尺歩ナル能ハス大鵬ノ翼ヲ假リテ青穹ニ搏タンカ長房ノ術ヲ借リテ地脈ヲ縮メンカ是レ兩ナカラ共ニ成ス能ハサルモノハ幸ニ今彼ノ鐵路アリ請フ將軍ノ言ニ從テ速ニ之ニ乘セント直ニ荊棘ヲ排シテ峻坂ヲ下リ僅ニ鐵路上ニ出ツ更ニ鐵路ニ傍テ西ニ行クヿ里餘一停車場アリ裡ニ入テ待ツヿ良ミ久シ眞ニ天ニ跼シ地ニ蹐スルノ思アリ夜十點鐘遂ニ汽車ニ搭ス旅館ヲ出テヽヨリ山野ヲ跋渉スルヿ一百里飲食ヲ絕ツヿ二日ニ亙リ身疲レ脚痛ミ覺エス熟睡シテ拂曉ニ至ル汽笛一聲目ヲ開ケハ身ハ已ニ停車場ニ在リ相攜ヘテ車ヲ下ル枯腸枵腹歩脚蹣跚トシテ又進ム能ハス乃チ一酒店ニ入ル或ハ汽車ヲ待ツ者或ハ汽車ヲ下ル者室內ニ充滿シテ殆ト膝ヲ容ルルノ地ナシ妾等戶邊ニ佇立シテ左右ヲ顧眄スルモノ久シ一老翁アリ狀貌醜惡額上ニ一創痕ヲ印ス幽將軍ヲ熟視シ其側ニ進ミ揖シテ曰ク弊廬別ニ小室アリ貴客以テ憩フ可シト誘テ一樓ニ至ル裝致淸麗又一人ノ客ナシ少焉ニシテ主翁自ラ往來シテ酒食ヲ饗ス來ル每ニ必ス目ヲ將軍ニ注ク妾心ニ之ヲ疑フ主翁去ルニ及テ幽蘭女史將軍ニ謂テ曰ク主翁ノ舉動常ニ異ナリ其言語亦疑フ可キ者アリ豈偵吏ノ徒ニ非ラサル無カランヤト范老色ヲ變シテ曰ク或ハ然ラン若シ然ラハ則チ計宜シク何如カスヘキト戶外乍チ聲アリ低ク幽將軍ト呼フ四人忽然トシテ起立シ相見テ未タ一語ヲ發セス戶外又忙シク語テ曰ク果シテ然リ果シテ然リト急ニ戶ヲ排シテ入ル主翁ノ一壯士ヲ伴フナリ范老目ヲ瞋シ短銃ヲ擧ケテ之ヲ射ル、發セス、妾短銃ヲ執テ主翁ニ擬ス主翁壯士ト共ニ大ニ驚キ手ヲ揮テ呼テ曰ク誤ル勿レ誤ル勿レ某等固ヨリ將軍ニ不利ナル者ニ非ラスト將軍妾ト范老トヲ顧ミ止メテ曰ク暫ク彼ノ言フ所ヲ聞ケト壯士乃チ跪テ將軍ヲ諦視シ涔涔然淚ヲ流シテ曰ク尊容ヲ拜セサル玆ニ數年顧フニ將軍既ニ某ヲ記セサル可シ某ハ伊黎ナリト將軍曰ク然ラハ則チ足下ハ武羅ノ役賤兒ノ軍ニ在リシ者ニ非ラスヤト伊黎曰ク然リ回顧スレハ一千八百七十四年將軍ノ賢息ニ從ヒ共和黨ノ大將魂沙ノ中堅ヲ衝キ先登第一ノ功ヲ以テ擢ラレテ一軍ノ長ト爲レリト將軍曰ク嗚乎彼魂沙年八旬ニ過キ壯勇無雙叱咤奔馳シテ我軍ニ當ル我軍亦將ニ披靡支ヘサラントス時ニ劍ヲ揮ヒ馬ヲ躍ラセ彼ノ陣ニ入リ遂ニ魂沙ヲシテ鋒鏑ニ殪レシメタル者ハ眞ニ足下ナリ老眼遂ニ此非常ノ勇士ヲ誤ル實ニ愧ツルニ堪ヘタリト伊黎曰ク當時某重傷ヲ蒙ムリ家居シテ病ヲ養ヒ更ニ爲ス所ナク其後啞弃象王位ニ即キ皇兒ノ軍利アラス賢息戰沒シ將軍遠ク遁ルト聞キ憤恨骨髓ニ徹シ慷慨止ム能ハサルナリト巾ヲ以テ淚ヲ拭ヒ更ニ主翁ヲ指シテ曰ク此レ即チ某ノ老父ナリト主翁言ヲ繼テ曰ク老奴モ亦皇兒ノ軍ニ從フ者其敗ルヽニ方テ此創ヲ負ヒ踪ヲ北方ニ匿シ遂ニ豚兒ト共ニ生計ヲ此ニ營ムノミ昨者相傳ヘテ謂フ三勇士幽將軍ヲ山野ニ奪ヒ未タ其踪跡ヲ知ラスト先キニ將軍ノ弊廬ニ臨ムヤ一見シテ以爲ラク容貌ハ憔悴昔時ニ異ナリ伴フ所亦三士ニ非ラス然レ𪜈眉目音吐ハ宛然幽將軍ニ似タリト且ツ疑ヒ且ツ怪ミ遂ニ獨リ決スル能ハサルヲ以テ豚兒ヲ招キ私ニ戶隙ヨリ尊容ヲ窺ハシメタリト范老之ヲ聞キ天ヲ仰テ嘆シテ曰ク嗚乎天ナリ嗚乎天ナリ我カ銃ヲシテ手ニ隨テ發セシメハ空シク有爲非常ノ同志者ヲ倒シテ遂ニ身ヲ容ルヽノ地ナキニ至ラン射テ而シテ發セス擬シテ而シテ射セス幸ニ此禍ナキヲ得タリ豈天ニ非ラスヤト少焉アリテ伊黎問テ曰ク將軍此ヨリ將ニ何處ニ向ハントスト將軍カ曰ク伊太利ニ航セントノミト伊黎曰ク諺ニ曰ク白龍魚服セハ預且ノ網ニ絓ラント今將軍從者甚タ少ク而シテ前路ノ戒嚴最モ

備ハレリ豈危カラスヤ若カス將軍檄ヲ傳ヘテ壯士ヲ募リ京城ニ向フト揚言シ旗ヲ返シテ東佛境ニ入ランニハ此地亦皇兄ヲ慕ヒ將軍ヲ欽ム者多シ某父子不才ナリト雖モ主トシテ之ニ應セハ數百ノ鄉勇半日ヲ出テスシテ召集スルヿヲ得ン勢颶風ノ沙礫ヲ捲クカ如ク敵ヲシテ疾雷耳ヲ掩フニ遑アラサラシメハ志ヲ得ル何ソ難シトセンヤト將軍ノ曰ク余ハ是レ敗軍ノ殘將ノミ豈死ヲ惜ムノ故ヲ以テ有爲ノ壯年ヲシテ身ヲ鋒鏑ノ下ニ委ネ無辜ノ百姓ヲシテ兵馬ノ慘ニ罹ラシムルニ忍ヒンヤト主翁カ曰ク獨リ將軍ノ爲メニ謀ルニ非ラス實ニ社稷ノ爲メニ之ヲ謀ルナリ大行ハ細瑾ヲ顧ミス斷シテ而シテ行ヘハ鬼神モ亦之ヲ避ク若シ遲遲タラハ再ヒ不虞ノ辱ヲ受ケン卽チ吾黨ノ興復遂ニ復タ期ス可カラサルナリト辭氣悲壯眞ニ肺腑中ヨリ出ツ將軍曰ク兵ヲ起スモ敢テ大功ヲ計ルニ非ラス徒ニ輕擧暴動以テ天下ノ譏ヲ招キ後世ノ笑ヲ遺スニ過キス且ツ路ヲ伊武浪河ニ取リ水ヲ渡リテ伊太利ニ入ラハ是レ無人ノ境ヲ過クルナリ更ニ危シトナスニ足ラスト二人其動カス可カラサルヲ知リ妾等ヲシテ皆蠶服ヲ着シ農裝ヲナサシメ一輛ノ村車ヲ僦ヒ將軍ヲ車中ニ伏サシメ覆フニ氊氈ヲ以テシ伊犁父子左側ニ倚リ妾幽蘭女史ト右側ニ坐シ范老御トナリ酒店ヲ發ス路上卒ニ敢テ怪ム者ナク薄暮奇洲河ニ達ス伊犁父子東西ニ周旋シテ一小舟ヲ僦ヒ急ニ妾等ヲ乘ラシメ手ヲ握テ後會ヲ期シ涕泣シテ別ル

白帆西風ニ孕テ舟行ク矢ノ如シ翌日第十二點始メテ河港ニ泊シ更ニ櫓ヲ轉シテ多島海ニ入ル西國ノ山髣髴トシテ漸ク白煙ノ中ニ沒シ伊邦ノ船漂搖トシテ遠ク蒼波ノ上ニ出ツ青螺ノ浮フカ如キモノハ群島ノ横ハルナリ白鶴ノ翔ルカ如キ者ハ布帆ノ走ルナリ奇觀佳景杳杳トシテ船首ヨリ來ル時ニ追躡ノ憂ナク疲勞モ亦始メテ癒エ心思僅ニ間ナルヲ得タリ因テ往ヲ談シ來ヲ計リ悲喜交ミ集マル將軍曰ク余ノ始メテ捕ハルヽヤ私カニ以爲ラク事此ニ至ル天ナリ唯タ死ヲ圜堵ニ待タン耳ト而ルニ突然兒ノ阿娘ト來ル有リ其喜如何ソヤ且ツ夫ノ薔薇花ノ計實ニ人ノ意表ニ出ツ蓋シ余密ニ蕾ヲ破リ紙片ヲ得文字蠅頭ノ如シ乃チ其言ニ從ヒ飲食ヲ絕チ陽ニ病ト稱シ官ニ請テ郊外ニ逍遙シ今日アルニ至レリ阿娘ノ大恩終生忘ル可カラサルモノト妾カ曰ク此事元令孃ノ策スル所妾輩唯之ヲ行フニ過キスト女史曰ク偏ニ令娘ト范老トノ厚誼ニ依ルナリト將軍カ曰ク兩君各ミ曠世ノ大望ヲ抱キ而シテ余カ爲メニ縮心縷骨一モ顧ミル所ナシ天下ノ人誰カ感セサル者アランヤト范老曰ク僕聞ク君子ハ節ヲ奮テ以テ義ヲ顯ハスヲ樂ミ烈士ハ軀ヲ危ウシテ以テ仁ヲ成スヲ甘ンス是ヲ以テ雄俊ノ徒義ヲ重ンシ命ヲ輕ンシ分ニ感シ身ヲ遺ル故ニ田光ハ劒ニ北燕ニ伏シ公叔ハ命ヲ西秦ニ畢フ果毅輕斷谷風ニ虎步シ萬乘ヲ威懾シテ華夏雄ヲ稱ス奴輩老矣ト雖モ豈亦志氣ナカランヤト或ハ慷慨悲憤腕ヲ扼シテ談シ或ハ歡然款語口ヲ開テ笑フ既ニシテ舟伊國ノ華風麗島ニ近ク將軍首ヲ擧ケテ港灣ヲ望ミ大ニ驚テ曰ク吾事已矣ト言了リ憮然タルモノ久シ妾等怪テ其故ヲ問フ將軍曰ク何ソ夫ノ檣頭ノ旗幟ヲ見サルヤト又遙ニ市街ヲ指シテ曰ク見ル所皆半旗ノ凶禮ヲ表スルナリ豈峨馬治ノ死ニ非ラサル無キヲ知ランヤト急ニ舟ヲ進メテ岸ニ上リ之ヲ路人ニ叩ケハ果シテ峨馬治ノ死スルナリ

峨馬治ハ伊太利ノ人一千八百七年內須島貧家ニ生ル幼ヨリ卓落不羈好テ兵ヲ談シ劍ヲ說ク長スルニ及ヒ航海ノ術ヲ講シ四方ニ周遊シ五洲ノ形勢ヲ視察シ大ニ悟ル所アリ伊ノ名士馬說難諸士ト訂交シテヨリ深ク當時歐洲專横ノ暴政ヲ惡ミ自由ノ擴張セサル可カラサルヲ覺リ先ツ法王ノ世權ヲ革メ澳國ノ壓制干涉ヲ斷チ伊太利ヲ一統スルヲ以テ終世ノ事業ト

ナス善能和ノ民自由ノ兵ヲ擧クルニ方リ奮テ其軍ニ加ハリ事破レテ國ヲ去ル後二歳ヲ經テ復タ前圖ヲ繼クヲ謀リ捕ヘラレテ將ニ死刑ニ處セラレントス獄ヲ越エ遁レテ佛國ニ奔ル一千八百三十六年南米ニ航ス明年宇流愚威國ニ亂起ル峨馬治策ヲ杖キ之ニ赴キ共和ノ政ヲ助ケ擧ケラレテ海陸ノ將トナリ内亂平定ノ功ヲ建ツ一千八百四十八年伊太利ニ歸ル是ヨリ先キ伊太利頻ニ澳太利ノ凌轢スル所トナリ邦域日ニ縮マル峨馬治之ヲ見テ慷慨自ラ禁スル能ハス卽チ手兵ヲ率キテ澳軍ヲ伐ツ遂ニ敗レテ軍門ニ降ル明年伊太利ノ民羅馬人ト謀ヲ通シ紛然蠢動竿ヲ揭ケテ競ヒ起リ皆君ヲ逐ヒ自主スルヲ以テ辭ト爲シ邦内洶洶タリ峨馬治蹶然袂ヲ揮テ曰ク時再ヒ來ラス機失フ可カラスト直ニ羅馬ニ入リ義勇兵ニ將トシテ數ミ佛澳ノ兵ヲ破リ法王ヲ逐ヒ城ニ據テ堅守ス時ニ那不流人佛兵ト勢ヲ合シ來リ攻ム峨馬治自ラ矢石ノ間ニ馳驅シテ戰フヿ前後三十日衆寡敵セス孤城重圍ニ陷リ其守ル能ハサルヲ知リ衆ヲ勸メ降ヲ議シ獨リ貞節勇敢ノ妻ヲ携ヘ圍ヲ衝キ漁船ニ乘シ將ニ他邦ニ逃レントス澳ノ海軍之ヲ覺リ追躡甚タ急ナリ乃チ舟ヲ捨テ陸ニ上リ谷ニ潛ミ山ヲ踰エ眠食共ニ廢スルモノ數日而シテ敵ノ追探愈ミ益ミ嚴ナリ其妻飢饑困憊寸歩ス可カラサルニ至リ擲シテ流水ヲ飮ミ峨馬治ニ語テ曰ク妾今國家人民ノ爲メニ生命ヲ犧牲ニ供ス死シテ亦恨ナシ唯丈夫ノ成功ヲ見サルヲ憾ムノミ丈夫宜シク屈セス撓マス青雲ヲ後日ニ期シ英名ヲ千歳ニ留ム可シト笑テ峨馬治ノ手ヲ枕シ溘焉トシテ死ス眞ニ峨馬治ノ妻タルニ愧チスト謂フヘシ峨馬治其後免レテ再ヒ南米ニ航ス一千八百五十六年左流濡亞佛國ト連合シテ澳國ト戰フニ及テ峨馬治歸テ義勇兵ヲ募リ自ラ其先鋒トナリ屢ミ奇功ヲ奏シ其一郡ヲ割テ吾カ版圖トナス當時那不流王暴戾至ラサルナシ獅子利ノ人之ヲ怒リ相與ニ叛ヲ謀ル善能和ノ民亦之ニ應シ將ニ兵ヲ擧ケントス乃チ峨馬治ヲ推シテ元帥トナス峨馬治其兵ヲ將キテ獅子利ニ渡リ伊太利一統ノ檄ヲ傳フ遠近響應來テ幕下ニ屬スル者極メテ多シ向フ所敵ナク勢破竹ノ如ク諸城皆下リ四鄰震慴ス勢ニ乘シテ直ニ那不流ニ侵入ス府民守兵ヲ逐ヒ歡然逢迎自由萬歲ヲ唱ヘ峨馬治ヲ仰テ以テ救生ノ魁首自由ノ泰斗ト稱シ奉シテ以テ三軍ノ首トナス偶ミ左流濡亞王威馬寧流立テ伊太利王ト爲ル峨馬治因テ兵權ヲ解キ自ラ卒伍ニ歸ス實ニ一千八百六十年ナリ是ニ於テ伊太利遂ニ諸州ヲ兼併シ一統ヲ爲スヲ得王其功ヲ賞シ授クルニ大將ノ印綬ヲ以テス峨馬治之ヲ辭シ飄然海島ニ歸ル伊太利既ニ境内ヲ一統スト雖モ佛澳ノ横恣猶ホ昔日ニ異ナラス峨馬治之ヲ見テ悲憤ノ情禁スル能ハス一千八百六十二年書ヲ政府ニ呈シ澳國ト絕タンヿヲ勸ム報セス峨馬治之ヲ怒ッ一千八百六十六年義勇兵ヲ募リ將ニ羅馬ヲ襲ヒ佛ノ戍兵ヲ追ハントス政府大ニ驚キ兵ヲ遣テ之ヲ止ム肯セス因テ大ニ返戰ス峨馬治重傷ヲ被リ擒セラル明年再ヒ義勇兵ヲ集メ事未タ成ラスシテ華風麗島ニ幽セラル既ニシテ又脫シテ羅馬ニ入リ國民ヲ驅テ法王ノ兵ヲ破ル佛ノ援軍來リ乘スルニ會シ軍敗レテ又生擒セラル會ミ哀ヲ請フ者有リ赦サレテ海島ニ歸ルヲ得タリ一千八百七十年普佛釁ヲ構ヘ佛軍連敗振ハサルヲ聞キ慨然兵ヲ募リ佛國ニ赴キ將ニ一木ヲ以テ大厦ノ傾クヲ支ヘントス和成ルハ後佛人高位ヲ以テ待タントス峨馬治笑テ曰ク難ヲ助ケ賞ヲ望ムハ志士ノ恥ル所ナリト兵權ヲ解テ故國ニ退隱ス蓋シ峨馬治ハ魯仲連ノ徒ナリ人ノ爲メニ艱難ニ赴キ世ノ爲メニ禍害ヲ排シ强ヲ挫キ弱ヲ助ケ高位重爵之ヲ見ルヿ敝履モ啻ナラス而シテ自ラ奉スル極メテ薄タ褐

巾敝衣士卒ト食ヲ同ウシ七擒大志ヲ變セス百折素意ヲ屈セス終始伊太利全國ヲ一統シ地ニ墮チタルノ國威ヲ恢復シ以テ歐洲ノ雄邦ト連鑣馳騁セシムルヲ以テ已カ任ト爲ス其兵ヲ擧クル毎ニ曰ク事成ラハ王ニ歸シ成ラスンハ自ラ其罪ニ當ランノミト其能ク全土ヲ一統シ法王ノ世權ヲ革メ強國ノ間ニ競立セシメタルモノハ蓋シ峨馬治ノ力多キニ居ル峨馬治ノ一擧一動ハ歐米君相ノ注目スル所一言一行ハ歐米自由ノ消長ニ關スルニ至ル豈曠世ノ豪傑ナラスヤ


（原本插畫）

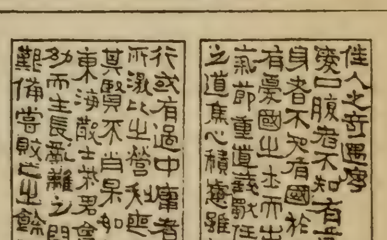
將軍茫然自失スルモノ久シ既ニシテ曰ク余少ヨリ諸國ニ遊ヒ一國ノ人傑ニ於テ交ラサル者殆ト稀ナリ而メ世ノ以テ雄俊英傑トナス所ノ者ハ詭辯ノ徒ニ非ラサレハ權謀詐術ノ輩ニ過キス義ニ勇ニシテ道ヲ好ミ盛衰ヲ以テ節ヲ改メス存亡ヲ以テ志ヲ易ヘサル者ハ未タ曾テ之レ有ラサルナリ天下ノ廣キ人物ノ多キ伊ノ峨馬治佛ノ巖鼈陀之ニ庶幾トナス故ニ余常ニ曰ク倶ニ志ヲ談シ事ヲ計ルニ足ル者ハ獨リ此二子アルノミト而シテ今ヤ峨馬治則チ亡矣豈悲シカラスヤ敗殘潛伏ノ者固ヨリ葬儀ニ會ス可カラス既ニ事ヲ計ル能ハス亦喪ニ會スルヲ得ス永ク此地ニ留マルモ亦何ヲカ成サン若カス速ニ佛國ニ赴キ巖鼈陀ヲ見テ而シテ去就ヲ決センニハト乃チ一逆旅ニ投シ一日ヲ經テ汽船ニ乘シ更ニ佛國向フト語了リテ紅蓮徐ニ首ヲ低レ沈思スル所アルカ如ク愁慮スル所アルカ如ク又敢テ言ハス散士曰ク令娘胡爲レソ其後ノ狀ヲ語ラサルト紅蓮曰ク是ヨリ死別ノ一話ナリト散士曰ク速ニ語レ速ニ語レ語リ畢ラサレハ令娘カ悲哀ノ情永ク開クコトナシ聞キ畢ラサレハ僕カ悼惜ノ懷遂ニ安スルコト能ハスト紫蓮涙ヲ揮ヒ聲ヲ呑ミ漸ク首ヲ擡ケテ曰ク然ラハ則チ是ヨリ將ニ幽將軍父子及范老死沒ノ狀ヲ語ラン

此日倶ニ一室ニ在リ四人端ナク快快トシテ樂マス憂愁自ラ色ニ形ハレ談少ク語短シ妾幽蘭女史ヲ促シ甲板ヲ歩ス女史曰ク初メ寳谿ヲ出テヽ大西洋ヲ航スルニ方リ精神激昂意氣發越奮然山ヲ拔クノ概アリ今ヤ勇心挫折志力衰勞シ鬱鬱ノ情ニ堪ヘサルナリト妾曰ク妾モ亦令孃ニ異ナラス思フ所有ルニ非ラヘシテ更ニ思フ所有ルモノヽ如シ自ラ其ノ何ノ故タルヲ知ル能ハス天霽氣朗光景極メテ佳ナリ眺矚シテ以テ神ヲ慰メンノミト既ニシテ膚寸ノ雲颯颯ノ風ニ從ヒ江山ノ巓ニ起リ蓬蓬トシテ疊嶂ノ狀ヲナス風威漸ク加ハリ疏雨從テ至ル天暗ウシテ疾雷近ク震ヒ海潮逆流飛沫空ニ散ス妾等大ニ驚キ匍匐シテ僅ニ室内ニ入ル怒濤益ゝ洶湧暴風愈ゝ獰颷忽チニシテ舳九天ニ上ルカ如ク忽チニシテ艫九泉ニ入ルカ如ク左立右臥輾轉反側船體ノ顚覆眞ニ計ル可カラス乘客困沛或ハ柱檣ヲ抱クアリ猿猱ノ木ニ倚ルカ如ク或ハ力衰ヘテ床上ニ轉スルアリ丸子ノ板上ヲ走ルニ似タリ既ニシテ激浪玻窓ヲ破リ流沫溪溪トシテ船中ニ入ル時ニ器物破碎ノ響船夫號叫ノ聲悽悽慘慘聞クニ堪ヘサラシム實ニ飛豪カ十九世史（小說ノ名）モ及フ能ハサルノ狀アリ未タ久シカラス大聲疾呼スル者アリ曰ク船

暗礁ニ觸レ今將ニ沈沒セントス乘客速ニ甲板ニ上レト妾等急忙階子ヲ攀チテ板上ニ出ツ滿天暗黑逆浪山ノ如ク覆テ甲板上ニ落ツ北風怒號ノ中哀聲悲音救ヲ求メ援ヲ乞フ者激浪ノ響ト相和シ地之カ爲メニ裂ケントシ天之カ爲メニ覆ラントス船長死ヲ決シ小艇數隻ヲ下シ乘客ヲシテ皆之ニ移ラシム浪舞フコ殊ニ高ク船搖クコ最モ甚タシ容易ニ飛ヒ下ル能ハス或ハ先ヲ爭ヒ或ハ時ヲ失ヒ其波間ニ溺ル丶モノ極メテ多シ妾亦人ノ爲メニ隔テラレ幽蘭范老ハ諸氏ト相失ス乍チニシテ女史將軍ト早ク小艇ニ乘シ大船ノ下ニ在ルヲ見ル妾乃チ意ヲ決シ身ヲ屈シ將ニ飛ヒ下ラントス一道ノ激浪天ヲ摩シテ至リ切然中間ヲ遮リ一轉シテ小艇上ニ倒碎ス小艇忽然波間ニ沈沒シ女史ト將軍ト其影ヲ見サルニ至ル而メ范老ハ遂ニ其之ク所ヲ知ラス妾時ニ恐怖ノ念已ニ去テ必死ノ心已ニ決ス唯茫然トシテ立テ飛沫ノ中ニ在リ耳邊聲アリ曰ク速ニ逃ル可シ何ソ故サラニ躊躇シテ此ニ在ルト妾ヲ扶ケテ小艇ニ移シ一小島ニ達ス此間夢ノ如ク幻ノ如ク漠トシテ明ナラス少時ニシテ岸ニ上リ首ヲ回セハ汽船既ニ覆沒シテ僅ニ帆檣ノ怒濤上ニ出ツルヲ見ルノミ鳴乎三友已ニ魚腹ニ歸シ妾獨リ何爲レソ今日ニ至ルヤ生テ其志ヲ同ウシ死シテ其處ヲ俱ニスルコ能ハス茲ニ再ヒ郎君ニ逢フ豈愧チサランヤ天下ノ人春花ニ吟シ秋月ニ嘯キ瑤臺ニ坐シ大牢ニ飽キ艱難屯邅ノ何事タルヲ知ラス一生ヲ行樂ノ中ニ送ル者多シ妾等何ソ獨リ轗軻數奇浮世ノ憂苦厄運ニ縛セラレ曾テ人生ノ幸福ヲ享クル能ハサルヤト愀然トシテ大息ス

佳人之奇遇　卷六

散士聞キ了リテ愾然歎息スルモノ之ヲ久ウス既ニシテ聲ヲ勵マシ紅蓮ニ謂テ曰ク令孃世路ノ多難ニ遭ヒ身ヲ苦メ心ヲ勞スルコ最モ甚タシ今日ノ悲哀固ヨリ其所ナリ然レモ正義ノ爲メニ雜亂ヲ排シ交友ノ爲メニ紛糾ヲ解カント欲セハ奚ソ辛酸ヲ辭スルコヲ得ン且ツ幽蘭女史ノ死ノ如キハ最モ哀ム可シト雖モ亦深ク悲ムヲ要セサルモノ有リ蓋シ余ノ始メテ蹄水ニ相遇フヤ女史告ケテ曰ク寧ロ蘭桂ト爲テ摧クルモ蕭艾ト爲テ存スルヲ愧ツト今ヤ女史邦家ノ爲メニ死地ニ入リ父翁ト與ニ海ニ投ス所謂桂蘭ト爲テ摧クル者ニシテ亦以テ瞑シテ恨ナカル可シ令孃ハ卽チ然ラス別ニ俱ニ天ヲ戴カサルノ深讎アリ而シテ未タ其志ヲ達スル能ハス豈其身ヲ輕ンス可ケンヤ紅蓮首ヲ擡ケテ曰ク妾感喟交〻集マリ心亂レテ思迷ヒ遂ニ郎君ノ疑フ所トナル然レモ妾カ心ハ莫邪ノ劒ノ如ク鍛錬ヲ歷テ愈〻鋭ク妾カ情ハ卞和ノ璧ノ如ク琢磨ヲ經テ益〻潔シ郎君請フ念トナス勿レ散士曰ク令孃其後何ノ處ニ逃ル紅蓮曰ク妾數人ト岸ニ上リ相伴テ一漁家ニ入ル休養數日心神纔ニ舊ニ復ス乃チ以爲ラク佛國ニ航シ巖鱷蛇ヲ見テ幽將軍ノ死ヲ告ケ而シテ後徐ニ去就ヲ決セント初メ米國ヲ出ツルニ方テ幽蘭女史金券三千ヲ分テ之ヲ三人ノ襟中ニ藏シ以テ不虞ノ要ニ供セシム故ニ此厄アルニ至ルモ妾亦囊橐ノ慮ナキヲ得タリ因テ便船ニ搭シテ佛國ニ赴キ巴黎ニ入テ巖鱷蛇ヲ見具ニ其顚末ヲ語ル英雄亦情アリ豪傑豈涙ナカランヤ巖公深ク將軍ノ死ヲ惜ミ慨然トシテ曰ク仇讎未タ報イス老將既ニ逝ク人生幾何ソ眞ニ草上ノ朝露ノ如シ已



（原本三篇卷六鳥尾中將序）

カ欲スル所ヲ行ウテ功業ヲ不朽ニ垂レント欲スルモ亦難矣哉ト更ニ妾ニ告ケテ曰ク敝邦英國ト交ル甚タ久シ故ニ民情國俗互ニ相熟悉ス而シテ余最モ愛蘭人ヲ愛ス蓋シ愛人輕擧暴動ノ跡尠カラスト雖モ蹶ケハ輙チ愈ミ奮ヒ倒ルレハ輙チ益ミ興リ屯蹇坎壈ノ間ニ處シテ常ニ晏如タリ其敢爲ノ氣象萬國或ハ及フ者アルナシ闔島心ヲ一ニシ力ヲ戮セテ米佛人民ノ輿論ヲ借リ以テ英國ノ隙ニ乘セハ獨立ノ權ヲ復シテ自治ノ政ヲ施シ窮厄ヲ水火ノ中ニ救フヿ顧フニ當ニ遠キニ非ラサルヘシト意氣激昂音吐鐘ノ如シ聞キ畢リテ語言猶ホ耳朶ニ鏗爾タリト散士曰ク聞ク嚴公卓識遠近者大ニ意ヲ東洋ノ形勢ニ注クト我カ日本ノ事ニ就テ論議スル所有リヤ否紅蓮曰ク貴國ノ事論スル所無キニ非ラスト依違トシテ謂フ能ハサルモノヽ如シ散士曰ク希クハ我カ爲メニ之ヲ語レト紅蓮猶ホ未タ言ハス散士頻ニ之ヲ叩ク紅蓮乃チ曰ク郎君請フ恕セヨ妾且ツ其實ヲ告ケン妾嚴公ニ問テ曰ク頃日傳フル者有リ曰ク近來日本大ニ開ケ漸ク千古ノ宿弊ヲ蟬脫シ自由ノ擴張セサル可カラサルヲ覺リ民心振興到ル處自主自由ノ論ヲ唱道セサルハナシ閣下之ヲ聞キ深ク其義ニ感シ海ニ航シテ東、扶桑ニ赴キ自由ノ爲メニ之カ聲援ヲ爲サント欲スト是レ妾カ大ニ祝スル所ナリ貴邦ノ人義氣ヲ重ンシ敢爲ニ勇ミ往年米國ノ義擧ヲ賛襄シ近日敝邦ノ獨立ヲ奬勵シ今日亦此擧アリ日本是レヨリ歐人ノ羈絆ヲ脫シテ不正不義ノ抑壓ヲ免レ治外法權ヲ廢シ國民漸ク自由ノ晴日ヲ拜スルヲ得ヘシ妾佛國ノ高義閣下ノ此擧ト共ニ五洲ニ發揚センヿヲ知ルト語未タ了ラス嚴公眼ヲ瞋シ一喝シテ曰ク咄是レ齊東野人ノ言ノミ先キニ吾國普國ト戰ヒ拿破倫三世師丹ニ敗レ身降虜ト爲リ巴黎亦圍ヲ受ケ國家ノ滅亡旦夕ニ迫レリ是時ニ當リ吾輩主戰ヲ唱ヘ民心ヲ一ニシ肉ヲ碎キ骨ヲ刎キ以テ國辱ヲ雪カント欲ス乃チ單身氣球ニ乘シ重圍ヲ脫シテ浪華河上ニ至リ兵ヲ招キ勇ヲ募リ勵マスニ國家克復ノ大義ヲ以テシ將ニ進テ新勝ノ普軍ヲ破リ阿連郡城ヲ復シ蔑土ノ軍ト相應シ三軍合擊長驅ノ客兵ヲ堅城ノ下ニ鏖ニシ遂ニ進テ彼ノ都城ヲ屠リ吾カ社稷ヲ磐石ノ牢ニ置キ以テ威名ヲ萬世ニ傳ヘントス而ルニ巴彥薺怯懦爲ス無ク首鼠兩端身ヲ愛ミ國ヲ賣リ十五萬ノ雄卒ヲ率キテ甘シテ降虜トナリ我カ民ヲシテ勇氣挫折命ヲ惜ムノ鬼胎ヲ生シテ義ヲ重ンスルノ丹心ヲ失ヒ曉曉トシテ和議ヲ唱ヘ地ヲ割テ城下ノ盟ヲナシ遂ニ三老雄ノ名ヲナサシメ以テ普國ヲシテ雄ヲ歐洲ニ逞ウスルニ至ラシム遺憾何ソ堪ヘント四隅ヲ睨ミ手ヲ擧ケテ案ヲ拍チ又詰ヲ繼テ曰ク是レ余カ日夜甓ヲ運ヒ膽ヲ嘗メ忘ルヽ能ハサル所ナリ然リ而シテ今ヤ內ニ王政黨ノ故主ヲ思ウテ共和ノ政ヲ惡ムアリ社會黨ノ虛無黨ト相結ヒテ過激ノ改革ヲ斷行セント欲スルアリ外ニハ普ノ禿姦陰ニ澳伊西ノ三國ト連衡シテ我カ釁隙ヲ窺ヒ馬島埃及安南ノ三國亦我カ制ニ抗セントス實ニ國家多事ノ秋ナリ余不肖ト雖モ身此大任ヲ負フ何ノ暇アリテカ一貧弱ノ小邦ニ趣キ無用ノ光陰ヲ費サンヤ然レ𪜈日本人ニシテ上下心ヲ一ニシ眞ニ國權ノ振ハサルヲ慨シ眞ニ外人ノ專橫ヲ憤リ昔時米國ノ義擧ノ如ク聖土奴民嗷ノ獨立ノ如ク

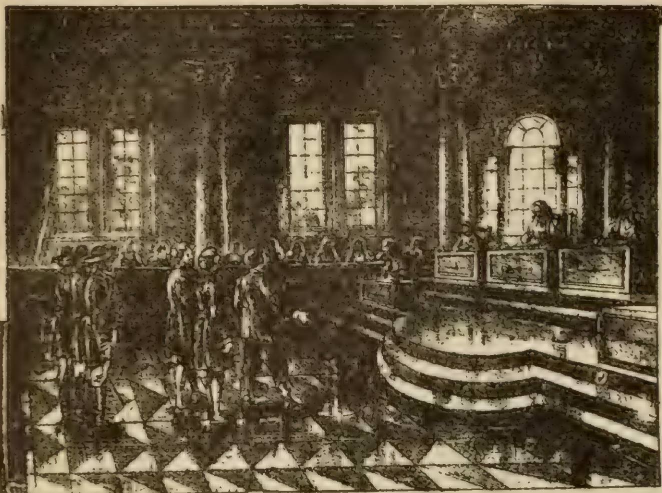
聖土奴民嗷ハ西印度中ノ一島ニシテ佛國殖民地ノ一ナリ一千八百一年第一世拿破倫奴隸實施ノ令ヲ此島ニ布ク島民其暴戾殘虐ヲ憤リ所在蜂起シ名將東山黨、老亞智勇ヲ推シテ盟主トナシ血ヲ啜リ天ヲ仰キ相共ニ誓テ曰ク死シテ自由ノ鬼トナルモ生テ奴隸ノ民タラスト遂ニ兵ヲ擧ケテ叛ス老亞智勇ハ亞非利加賣奴ノ子ナリ一千七百四十三年此島ニ生ル佛國革命ノ亂起リ共和ノ政ヲ立ツルニ及テ全島ニ令シテ奴隸ヲ解放シ自主ノ權ヲ與ヘ、人人ヲシテ其業ニ就クヿヲ得セシム既ニシテ

英人佛國ノ內亂アルヲ見テ隙ニ乘ジテ此島ヲ奪ヒ以テ其有ニ歸セシメント欲ス卽チ大兵ヲ遣シテ來リ圍ミ甘言之ヲ誘ヒ兵威之ヲ脅シ殆ト其半ヲ略ス時ニ老亞智勇備ノ提督勵武禮ノ麾下ニ屬シ屢ミ英軍ト戰ヒ奇功ヲ建テ累遷シテ一面ノ將トナル會ミ部下ノ將士竊ニ間ヲ英軍ニ通スルモノアリ提督ヲ賣テ其軍ニ降ル是ニ於テ島ヲ守ルノ兵狼狽爲ス所ヲ知ラス皆將ニ干戈ヲ棄テヽ轅門ニ降ラントス亞智勇外ニ在リ之ヲ聞キテ大ニ驚キ星馳歸リ來リ大ニ士卒ヲ督勵シテ英軍ヲ一戰ノ下ニ破リ提督ヲ奪還シ士氣ヲ振作シ以テ狂瀾ヲ既ニ覆ヘルニ回セリ乃チ擧ケラレテ大元帥トナル老亞智勇奮然トシテ全島ヲ克復スルヲ以テ己カ任トナシ士卒ト甘酸ヲ同ウシ頻ニ英軍ヲ破リ急追シテ英將迷途亂土ヲ圍ミ其全軍ヲ擒ニシ一島盡ク定マル島民其功ヲ推尊シ奉シテ以テ首領トナシ悉ク島政ヲ攝セシム然レ圧老亞智勇人ト爲リ謙退遜讓敢テ其功ニ伐ラス自ラ奉スルヿ素朴ニシテ最モ華侈ヲ惡ミ漫ニ新ヲ逐ウテ舊ヲ改ムルヲ爲サス民情ヲ量リテ政ヲ施シ法ヲ執ルコト公ニ事ヲ斷スルコト敏ナリ是ニ於テ民其德ニ感シ人其智ニ服シ之ヲ敬スルヿ父ノ如ク之ヲ慕フヿ母ノ如シ商工ノ道隨テ振起シ島民漸ク富ム一千八百年安眠ノ和議成リ歐洲ノ平和或ハ得テ而シテ望ム可シ會ミ拿破倫奴隷再施ノ敕ヲ此島ニ下ス老亞智勇敕ヲ奉セス卽チ上書シテ諫メテ曰ク

天下ノ人貴族僧侶ノ暴政ニ苦ムヿ久シ陛下三尺ノ劍ヲ提ケ自由ノ眞理ニ基キ內ニ明法ノ政ヲ建テ以テ我カ民ヲ無政亂離ノ中ニ救ヒ外ニ專橫ノ君ヲ廢シ以テ彼民倒懸ノ難ヲ解キ南征スレハ北方怨ミ東伐スレハ西方恨ミ四海欽仰陛下ヲ以テ自由ノ眞主ト爲ス今干戈僅ニ定マリ瘡痍未タ癒エス敵國猶ホ隙ヲ窺フモノアリ是時ニ當リ宜シク人心ヲ收メ民望ニ協フヲ以テ務トナスヘシ乃チ陛下何ヲ苦テ人間最上ノ惡德ナル奴隷賣買ノ制度ヲ再施セント欲スルカ夫レ奴隷賣買ノ無道殘虐ナル陛下ノ既ニ知悉スル所天下ノ共ニ厭惡スル所固ヨリ微臣カ喋喋ヲ待タス而シテ今陛下强テ之ヲ施サント欲ス臣恐ラクハ天下後世ノ誹謗ヲ免ル能ハサランヿヲ盛德ノ累焉ヨリ大ナルハナシ豈惜シカラスヤ我全島ノ人民先キニ政府ノ恩命ニ依リ初メテ奴隷ノ苦厄ヲ脫シ自主ノ天日ヲ拜シ自由ノ眞味ヲ嘗ムルヿヲ得タリ今又焉ンソ禽獸ノ群ニ入リ牛馬ト伍スルヲ肯ス可ケンヤ陛下若シ强テ天心ニ逆ヒ人心ヲ顧ミス此惡德ヲ斷行セント欲セハ微臣死ストモ敕命ヲ奉スル能ハス微臣餘命幾モナシ特ニ一身ノ爲メニ計ルニ非ラス國ヲ憂ヘ民ヲ思フノ情默シテ而シテ止ム能ハス忠言耳ニ逆ヒ良藥口ニ苦シ敢テ天威ヲ冒觸ス罪固ヨリ萬死ニ當ル伏シテ斧鉞ヲ待ツ

拿破倫之ヲ見テ大ニ怒リ罵テ曰ク咄豎子何ソ鐃舌ナルト義弟匾令貝ニ授クルニ精兵三萬五千戰艦五十四隻ヲ以テシ一擊シテ聖土奴民嗷ヲ屠ラント欲ス老亞智勇之ヲ聞キ大ニ戰備ヲ修メ勵マスニ自由ノ正義ヲ以テシ激スルニ奴隸ノ殘虐ヲ以テス全島ノ民三萬ニ滿タス皆感奮振起勇氣百倍骨ヲ積テ壘トナシ血ヲ流シテ濠トナシ全島ヲ擧ケテ赤土ニ歸シ而シテ從已マント欲ス老亞智勇固ヨリ善ク兵ヲ使フ機ニ臨ミ變ニ應シ拒戰累日拿破倫親任ノ名將精兵三萬五千艦五十餘隻ヲ率ヰ而シテ又且ツ如何トスルヿ能ハス會ミ佛ノ軍中疫ヲ病ム者多シ佛將其爲ス可カラサルヲ知リ使ヲ遣シテ老亞智勇ニ說テ曰ク公忠勇深ク士卒ノ心ヲ得テ百戰盡ク其功ヲ奏セリ然レ圧孤島ノ衆以テ天下ノ雄ニ抗シ難シ若カス和ヲ講シ萬事舊約ヲ改メス蒼生ヲ干戈ノ中ニ救ハンニハト

老亞智勇大ニ喜テ曰ク是レ臣カ志ナリ臣豈好テ干戈ヲ弄シ功名ヲ貪ル者ナランヤト將ニ日ヲ期シテ佛將ト會シ和ヲ議セントス佛人預メ兵ヲ闈幕ノ中ニ伏セ急ニ起テ老亞智勇ヲ捕ヘ縛スルニ鐵鎖ヲ以テシ直ニ佛京ニ送リ獄舍ニ幽シ論スルニ大逆無道ヲ以テス老亞智勇其不法ヲ怒リ法庭ニ論辯シテ曰ク臣ハ陛下ニ於ケル固ヨリ私怨アルニ非ラス又私利ヲ營ミ私慾ヲ逞ウセント欲スルニ非ラス其干戈ヲ交ヘシ所以ノモノハ人生ノ權利國家ノ



(原本插畫)　老亞智勇法庭ニ論辯スルノ圖

大計ニ在リ蓋シ陛下ハ奴隷ノ惡法ヲ再施シテ人民ヲ牛馬使セント欲シ臣ハ奴隷ノ惡德ヲ棄テ人生ノ大義ヲ伸ヘント欲ス其是非曲直瞭然トシテ火ヲ視ルカ如シ今之ヲ口舌ノ間ニ爭ハスト雖モ天固ヨリ靈アリ當ニ臣カ誠意ヲ知ルヘシ人固ヨリ心アリ當ニ臣カ孤忠ヲ憫ムヘシ而シテ陛下獨リ其理否ヲ窮メス其曲直ヲ問ハス悍然兵馬ヲ以テ其志ヲ達セント欲ス暴モ亦甚タシト謂フ可シ事已ニ此ニ至ル唯唯トシテ其爲ス所ニ從フハ男兒ノ忍フ能ハサル所ニシテ干戈ハ又戰國ノ常事固ヨリ怪ムニ足ラサルナリ臣元ト奴隸ノ子ナリ唯タ衆ノ爲メニ推サレテ謀主トナリ僅ニ黑人數千ヲ驅リ以テ守備ノ計ヲナスノミ陛下ノ軍、勇猛無比歐ノ雄邦ヲ蹂躙シテ向フ所敵ナシ固ヨリ是レ乘勝ノ大兵臣カ孤軍ノ能ク抗スル所ニアラス然リ而シテ攻守累月勝敗遂ニ決セス豈兵ノ多寡力ノ強弱ニ關セサル所以ノ者アルカ陛下果シテ勇アラハ盍ソ更ニ親ラ大軍ヲ引率シ正正ノ陣、堂堂ノ旗、勝敗ヲ境上ニ決セサル陛下又義ヲ好ミ勇ヲ愛セハ盍ソ臣カ言ヲ容レ臣カ行ヲ嘉セサル畀レ蓋シ陛下ノ陛下タル所以ナリ何ソ料ラン正論服スルヿ能ハス兵艦勝ツヿ能ハス誘フニ和議ヲ以テシ捕縛シテ萬里ノ外ニ送ル

姦猾ノ策怯懦ノ謀世ノ之ヲ聞ク者誰カ陛下ヲ笑ハサランヤ又誰カ陛下ヲ惡マサランヤ是レ丈夫ノ爲ス可キ所ニアラス抑ミ曠世ノ英雄拿破倫皇帝陛下ノ爲ス可キ所ニ非ラサルナリ聞ク天網恢恢疏ニシテ漏サス爾ニ出ツル者ハ爾ニ反ルト陛下モ亦他日必ス楚囚ノ辱ヲ愛ケ他鄉萬里ノ外ニ客死ス可シ臣死スルノ後魂魄猶ホ故山ヲ護リ我カ人民ヲ鼓舞シ佛國ノ羈絆ヲ脫シ必ス獨立自主ノ國タラシメン陛下幽囚ノ日異鄉ニ在リテ之ヲ聞ケト日光炬ノ如ク聲音雷ノ如シ滿堂ノ人震慄セサルハナシ法官復タ之ヲ論詰スルヿ能ハス唯タ曰ク大逆無道ナリ大逆無道ナリト再ヒ獄中ニ投シ十月ノ間人ニ接シ天日ヲ見ルヲ得サラシム老亞智勇憂憤病ヲ爲シ天ヲ仰テ痛歎シテ曰ク嗚乎天道是カ非カ復タ我カ孤忠ヲ伸フル所ナシト一叫地ニ僵レテ而シテ絕ス四海ノ志士皆老亞智勇ノ義勇ヲ感シ拿破倫一世ヲ忌惡セサルナシ後未タ幾ナラスシテ拿破倫一世遠島ニ謫セラレ聖土奴民吸兵ヲ擧ケテ獨立ス一ニ老亞智勇カ言ノ如シ

愛人カ英政ニ敵スルカ如ク百折撓マス千挫屈セス志氣愈ミ振ヒ民心益ミ固クンハ余亦其孤忠ニ感シ一臂ノ勞ヲ盡ス可シ然レ𪜈未タ全國人民條約

改正ノ成ラサルヲ憤リ慷慨激昂自ラ政府ニ迫リ之ヲ論スル者アルヲ聞カサルナリ苛税ヲ課シ酷租ヲ布キ以テ軍艦ヲ購ヒ兵備ヲ裝フモ只內亂ヲ鎭壓スルニ汲汲タル耳未タ海岸ニ砲壘ヲ增シ外寇ヲ防禦セント欲スルヲ聞カサルナリ故ナク外事ニ干涉シ隣交ヲ傷リ人ヲシテ弱邦ヲ蔑視スルノ志アルヲ疑ハシムルモ未タ曾テ上下一致全力ヲ國權恢復ニ盡シ若シ歐人ニシテ日本ノ正理ヲ承諾セスンハ斷然獨立國ノ體面ヲ保持セント欲スルノ決意アルヲ聞カサルナリ在野ノ名士奮然臂ヲ揮テ歐米ニ航シ條約ノ偏重ヲ各國ノ君相ニ訴フル者アルヲ聞カサルナリ志士論客カ此土ニ來リ筆ヲ揮リテ書ヲ新聞ニ投シ舌ヲ掉ウテ公衆ニ演說シ以テ輿論ヲ傾動スルモノアルヲ聞カサルナリ全國ノ民、才ヲ擇ヒ能ヲ選ミ使ヲ遣シテ書ヲ各國ノ議院ニ奉ケ以テ條約ノ改正ヲ請求スル者アルヲ聞カサルナリ國家獨立ノ實力ヲ傷ケ自治ノ大權ヲ失ヒ外人ノ鼻息ヲ窺ヒ他邦ノ虛喝ヲ恐レ三千餘萬ノ衆上下恬然トシテ愧ツル所ヲ知ラス內結外競ノ大計ヲ遺レ互ニ相語テ曰ク自由ノ爲メニ斃レンノミ國權ヲ擴張セサレハ死モ且ツ已マスト之ヲ小蛙ノ井底ニ躍ルニ譬フ世或ハ日本男兒ヲ稱スルモノアリト雖モ是レ皮相ノミ未タ其肺腑ヲ知ラサルノミ今日ノ務更ニ焉ヨリ大ナル者アリ區區小島ハ是非曲直豈乃公カ心頭ヲ累スニ足ランヤト散士聞ク每ニ冷汗背ヲ沾シ首ヲ低レテ大息ス紅蓮曰ク妾嚴公カ貴邦人民ヲ責ムルノ甚タ酷ナルヲ聞キ一言之ヲ闡カント欲ス偶〻他客ノ來ル者アルヲ以テ果サスシテ歸ル蓋シ妾カ言フ所ハ偏ナク黨ナシ郎君其冒瀆ヲ尤ムル勿レ散士曰ク嚴公ノ論鑿々トシテ皆肯綮ニ中ル眞ニ我邦人頂門ノ一鍼ナリ令孃カ諱マス文ラス語ルニ其實ヲ以テス僕豈服膺セサランヤ

紅蓮更ニ語ヲ轉シテ曰ク妾既ニ友ヲ失ヒ獨リ異鄕ニ漂零シ寂寞無聊ノ感ニ堪ヘス茫然自失スルモノ久シ時ニ鄰房談話ノ聲アリ頻ニ戲曲ヲ評シテ曰ク伊太利ノ名妓技ヲ敎坊ニ演ス姿體輕妙音聲流麗眞ニ古來希ニ見ル所ナリト妾之ヲ聞キ以爲ラク敎坊ニ赴キ憂悶ヲ排スルニ若カスト逆旅ノ小娘ヲ携ヘ行テ演劇ヲ觀ル嬌喉嘹喨黃鳥ノ春花ニ囀スルカ如ク雅韻輕清金鳳ノ慶雲ニ歌フニ似タリ腰ハ細柳ヲ裝ヒ裾ハ流霞ヲ曳ク蹁躚トシテ體飛燕ヲ擬シ曲折シテ形回鸞ヲ學フ妾之ヲ聞キ之ヲ見テ大ニ樂ム小娘妾カ袖ヲ牽キ耳語シテ曰ク請フ南樓ノ前面ヲ見ヨ豈雄偉ノ丈夫ニ非ラスヤト妾首ヲ擧ケテ一望スレハ何ソ計ランヤ宛然守城長王羅ニ似タリ大ニ驚キ殆ト爲ス所ヲ知ラス胸ヲ撫シ心思ヲ安ジ小娘ニ問テ曰ク丰采溫雅衣裝都麗眞ニ可憐風流ノ人唯〻恨ム何ノ處ノ高士ナルヲ知ル能ハサルヲト小娘笑テ曰ク是レ西班牙ノ人吾樓ニ宿シテ令孃ノ上房ニ在ル者ナリト妾愈〻其王羅ナルヿヲ知リ且ツ愕キ且ツ恐レ少焉モ安スルヿ能ハス幸ニ妾翠羅面ヲ覆フヲ以テ彼レ遂ニ妾タルヲ知ラサルカ如シ乃チ技未タ畢ラサルニ急ニ病ト稱シテ歸ル夜既ニ半ヲ過キ又如何ス可キナク千思萬慮眠ラスシテ天明ニ達ス小娘來リ見テ曰ク令孃顏色憔悴豈夜來ノ病痾ニ非ラスヤト妾カ曰ク否以テ念トナス勿レト更ニ膝ヲ進メ問テ曰ク昨夜ノ高士ハ今猶ホ樓上ニ在リヤ妾一タヒ相見テヨリ又忘ル、能ハス詳ニ其人トナリヲ知ラント欲ス希クハ妾カ爲メニ之ヲ語レト小娘曰ク兒ハ唯西班牙ノ人ナルヲ知ルノミト妾數金ヲ取リ與ヘテ曰ク好娘子妾カ微意ヲ憐マハ幸ニ之ヲ探レト小娘嫣然トシテ笑テ曰ク諾請フ暫ク之ヲ待テト既ニシテ復タ來リ告ケテ曰ク妾之ヲ阿爺ニ聞ク曰ク彼ハ西班牙ノ守獄長ナリ先キニ頓加羅黨ノ名將獄ヲ越エテ遁レ未タ踪跡ヲ詳ニセス人或ハ疑フ必ス佛國ニ潛入シテ計ル所アラント是故ニ彼レ親ラ來リ探ルナリト且ツ兒今彼ト樓下ニ遇フ兒ヲ揖シテ曰ク昨夜阿

娘一娘子ヲ教坊ニ伴フ是レ何人ソヤト妾乃チ實ヲ以テ答フ彼レ其伍ト語テ曰ク或ハ然ラン或ハ然ラン風姿丰采眞ニ疑フ可カラス恨ムラクハ翠羅ノ面ヲ遮ル有リテ而シテ其眞ヲ見ル能ハサリシヲト蓋シ彼モ亦令孃ヲ戀フ者ノ如シ羨ム可シ羨ム可シト妾之ヲ聞テ以爲ラク妾等財ヲ盗ミ人ヲ殺スモノニアラス所謂是レ政治犯ナリ而シテ既ニ境ヲ踰エテ異邦ニ入ル萬國自ラ公法ノ存スルアリ彼レ固ヨリ以テ暴威ヲ逞ウスルヿ能ハス然レ𪜈彼レ私怨既ニ骨ニ入ル其禍計ル可カラス且ツ久シク此處ニ止マルモ以テ女史ノ志ヲ繼ク可カラス以テ我事ヲ成ス可カラス若カス迹ヲ晦シ遠ク此土ヲ遁ルヽニハト案頭ノ新紙ヲ閱スレハ此夕汽船ノ米國ニ發スルアリ乃チ大ニ喜ヒ筆ヲ搦テ書ヲ遺シ紙幣ヲ其中ニ封シ札上ニ留メテ以テ宿主ニ與ヘ更ニ巖公ニ贈ルノ一封ヲ草シ薄暮旅舍ヲ去リ匆々書ヲ郵筒ニ投シ直ニ馬車ヲ傭ヒ馳セテ阜頭ニ至リ船券ヲ購フノ遑ナク走テ汽船ニ入ル未タ久シカラス汽笛一聲煙ヲ吐キ波ヲ蹴テ港灣ヲ駛出ス妾首ヲ窓隙ニ出シテ遠ク陸上ヲ見ル時ニ王羅數人ノ警吏ヲ率キ馬ヲ馳セテ阜頭ニ來リ妾カ乘ル所ノ馬車ヲ探リ御者ヲ捕ヘテ其之ク所ヲ問ヒ手ヲ擧ケ聲ヲ放チテ我船ヲ還サントス會ミ群客阜頭ニ充滿シ巾ヲ揮テ別ヲ惜ム者甚タ多ク船亦漸ク遠シ船將ニ之ヲ認メス轉瞬萬里又其後ノ狀ヲ知ラス誠ニ天惠ト謂フ可シ散士曰ク今令娘ノ語ル所忽チニシテ驚ク可ク忽チニシテ喜フ可ク絕妙ノ稗史ヲ讀ミ絕巧ノ演戲ヲ見ルト雖モ以テ之ニ加フル無シ唯ミ是レ親友ノ自ラ經歷スル所哭ス可クシテ樂ム可カラス我情既ニ此ノ如シ況ンヤ令娘カ情ヲヤ嗚乎舟ニ蹄水ニ會スルニ當テ誰カ花間ノ遊樂ヲ期センヤ其花間ニ吟スルニ方テ又誰カ後日ノ風雨ヲ知ランヤ夫ノ歐洲ニ赴クト又今日ノ會アルトニ至リテハ皇天神明猶ホ或ハ測リ及ハサル所人事ハ一場ノ演戲ノ如シ聚散常ナク悲喜定ム可カラス一世ハ莊周ノ夢ノ如シ昨夕ノ歡會ハ是レ夢ニシテ今朝ノ愁苦ハ是レ既ニ覺ムルモノカ今朝ノ愁苦ハ是レ夢ニシテ昨夕ノ歡會ハ是レ未タ覺メサルモノカ茫々寞々我ト人ト皆知ル能ハサルナリ令娘令娘既ニ辛酸ノ長話ヲ聞ケリ愁容ヲ結テ而シテ永ク沈吟セル亦何ヲカ爲サン請フ是レヨリ前庭ニ歩シ以テ少シク精神ヲ慰メンノミト相携テ樹間ニ至ル散士枯草ニ踞シ紅蓮ヲ仰テ曰ク古人謂ヘルアリ身窮シテ詩始メテ工ナリト幽蘭女史ノ咏ハ已ニ之ニ聞ケリ令娘亦豈得ル所ナカランヤト紅蓮曰ク歸路舟大西洋ノ半ニ至リテ恰モ月明ニ屬ス妾獨リ甲板上ヲ徘徊シテ往事ヲ追憶シ幽懷禁スル能ハス幽蘭女史ノ我所思行ヲ朗吟シ之ニ和シテ一首ヲ得タリト乃チ咏シテ曰ク

我所レ思兮在二回天一。鴻業固期照二千年一。
一心據レ義又取レ仁。平生推レ易唯居レ難。
會聞皇天不レ與レ惡。却疑天賦有二厚薄一。
世有二汚隆一時或否。蓬艾塞レ路蘭凋落。
請見喬松爲レ風摧。百花群芳被二雨猜一。無
賴鷙鳥逞二搏撃一。燕雀何處訴二餘哀一。死
生富貴豈足レ恃。青紫軒冕曷須レ喜。好
以二世事一付二一夢一。不レ問天道非與レ是。月
横二大空一千里明。風搖二金波一遠有レ聲。夜
寂寂兮望茫茫。船頭何堪今夜情。
我所レ思兮在二故鄕一。烟水迢々天一方。萬
里異鄕三年客。秋風揮レ涙賦二短章一。吾田
正爲二虎狼一蹂。吾廬亦奈二風雨漏一。
瑤臺悉頹瓊園荒。麥秀黍離狐兎走。竈底
已冷甑生レ塵。何堪貪吏催科頻。此
際何以救二吾兒一。此時何以暖二吾
親一。悲慘知誰使レ如レ此。非レ天非レ神怨在
レ彼。一躍直欲レ屠二鯨鯢一。豈圖坎壈
殆瀕レ死。月横二大空一千里明。風搖二
金波一遠有レ聲。夜寂寂兮望茫茫。船頭何
堪今夜情。

我所思兮在故人。離群索居感轉頻。晨
星零落人不見。獨弔形影涙沾巾。或
以巾幗脂粉慈。慷慨要除生民害。或
以黄書垂死身。泣送永日圍堵内。
如夫蘭氏希世賢。其義其節誰不憐。
意氣投合吐心膽。共誓微軀爲國捐。
天降之殃不與恵。大功未成身先斃。
思之念之恨無窮。黯然擧首問蒼
帝。月横大空千里明。風搖金波遠
有聲。夜寂寂兮望茫茫。船頭何堪今夜
情。
我所思兮在斯身。蟠屈却期一朝伸。
豫知成敗自有數。豈爲屯蹇失性
眞。一天歩艱難如怒浪。世途嶮巇似列嶂。
排之蕩之是吾任。區區辛酸不用愴。
自古英雄出僕奴。異才往往隱狗屠。果
知澒亂紛爭世。或出奇偉俊傑徒。寶刀
在匣氣勃勃。何時能刺姦佞骨。海若
眠時天地靜。枉把哀琴嘯皓月。月横
大空千里明。風搖金波遠有聲。夜寂
寂兮望茫茫。船頭何堪今夜情。

散士曰ク妙謂フ可カラス壯ハ長鯨ヲ屠ルカ如ク險ハ崢嶸ヲ排スルニ似タリ高ク天根ヲ攀チ深ク牛渚ヲ照シ妙意佳景鬼神ノ會ト同シク江山ト爭フ可シ之ヲ幽蘭女史ノ詠ニ比セハ勝ル有テ劣ルナシト相笑ヒ相語テ樹間ニ逍遥スル久シ又相攜ヘテ室裡ニ入ル散士曰ク僕昨宵寓舎ヲ出テヽヨリ猶ホ未タ歸ラス舍主或ハ之ヲ怪マン請フ是レヨリ辭セン紅蓮曰ク妾此地ニ留マリテ暫ク時機ノ至ルヲ待タントス郎君駕下ヲ以テセスンハ螢雪ノ餘高駕ヲ草廬ニ枉ケテ以テ高論ヲ吝ム勿レ散士曰ク學程極メテ繁ク七日僅ニ半日ノ間アルノミ正ニ土曜ヲトシテ重ネテ相訪ハント袂ヲ分テ歸ル

散士寓舎ニ歸レハ家人集マリ來リ且ツ喜ヒ且ツ怪ミテ曰ク郎君昨宵此ヲ出テヽヨリ何ノ處ニ至ル吾儕皆之ヲ疑ヒ相集マリテ之ヲ議シ遂ニ其如何ヲ知ル能ハス今郎君ノ容貌頗ル枯槁ノ色アリ又タ衣裳ニ塵沙ノ痕アルヲ見ル是レ果シテ何ノ故ソヤト衆交ミ散士ヲ詰問ス蹄水ノ祕事固ヨリ以テ人ト語リ難シ匆卒ノ際又虚ヲ構ヘ譚ヲ作ルヿ能ハス乃チ茫然回顧スルモノ良ゝ久ウシテ曰ク昨夜書ニ倦ミ獨坐月明ニ對ス忽チ感スル所アリ樓ヲ下リ庭園ヲ徘徊シ興ニ乘ジ足ニ任セテ遂ニ山水ノ隈ニ入リ清嘯微吟天道ノ有無ニ迷ヒ人生ノ生死ニ感シ愈ゝ思テ愈ゝ迷ヒ漠然トシテ夢寐恍惚ノ中ニ相半セリ今ニ及テ追思スレハ果シテ何ノ處ニ遊ヒ又何事ヲ爲シタルヤヲ知ル能ハス蓋シ日本ノ所謂狐憑ナルモノハ歟ト衆之ヲ聞キ相目シテ嘿然タリ既ニシテ舍主告ケテ曰ク近者郎君兀々勉學寢食ヲ廢スルニ至ル豈遂ニ神經ヲ病マシムルニ非ラスヤ向後唯當ニ靜居加餐以テ精神ヲ養フ可シト

期日ニ至リ散士蹄水ノ居ニ至ル紅蓮安榻ヲ緑陰ニ移シ身ヲ欹テ一巻ヲ繙キ散士ノ至ルヲ知ラス散士潛行シテ榻後ニ立チ俄然其背ヲ拊ツ紅蓮愕然書ヲ棄テヽ起ツ顧ミテ笑テ曰ク郎君何ソ戯ヲナスト相攜ヘテ室裡ニ入リ山ヲ評シ水ヲ品シ雜談數刻晩ニ至リテ歸ル是ヨリ七値一日必ス蹄水ヲ訪フ訪ヘハ則チ流ニ棹シ險ヲ攀チ或ハ賦シ或ハ吟シ共ニ歡ヲ盡サヽルハナシ相別レハ情益ゝ悶ヘ相逢ヘハ意愈ゝ濃ナリ散士幽蘭ニ別ルヽ既ニ遠ク紅蓮ニ逢フ漸ク久シ乃チ紅蓮ヲ愛スルノ情綿綿トシテ胸裡ニ生ス然レモ紅蓮ノ膽略甚タ勇ナルニ過キ權謀詐術未タ量ル能ハサルモノアリ且ツ假令六合ノ禮ヲ行ヒ歡ヲ同牀ニ結フト雖モ紅蓮ノ志偏ニ父母ノ仇讎ヲ報シ愛蘭ヲ獨立スルニ在リテ暫ク米國ニ假居ス可キモ日本ニ來リテ安棲スルノ心ナク散士モ亦伉儷佳人ヲ得テ萬金ノ富ヲ致スモ永ク外國ニ移住スルノ念ナシ故ニ謂ラク一時ノ癡情後憂ノ種子ノミト乃チ鄭子カ九尾ノ狐ニ逢テ而シテ變憐ス

ルヲ愧チ孫生カ兩頭ノ蛇ヲ見テ而シテ決斷スルニ倣ヒ相親テ而シテ相抑ル、ニ至ラス之ニ加フルニ能ク兩人カ情ヲシテ斷スルニ至ラシムルアリ埃及ノ戰爭是ナリ

一日新誌ヲ閱ス埃及ノ元帥亞刺飛侯ノ四方ニ檄スル文アリ曰ク

蓋聞ク非常ノ事アリテ然シテ後非常ノ功アリト我先王威士明流外人ノ專恣ヲ憤リ人民ノ窮困ヲ歎シ他邦ノ干涉ヲ絕チ國權ヲ復シ賦稅ヲ輕クシ汝蒼生ヲ救ハントス創業未タ就ラス中道ニシテ英佛ノ爲メニ脅迫セラレ恨ヲ飲ミ位ヲ去リ他鄉ニ蒙塵ス前宰相征戎駒侯果斷不屈亦遂ニ英佛ノ爲メニ讒阱セラレ炎熱萬里ノ沙漠ニ放謫セラル嗚乎我カ賢王ハ他國ニ蒙塵シ我カ忠臣ハ沙漠ニ飄零ス我儕之ヲ思フ每ニ肝腸寸斷血淚雨ノ如シ今ヤ外人內、政柄ヲ握リ外、萬機ヲ斷シ我カ立憲公議ノ議決ハ彼ノ拒ム所トナリ我カ闔國人民ノ哀願ハ彼ノ顧ミサル所トナレリ堂堂タル我カ國權今何ニカ在ル我カ王孱弱制ヲ外臣ニ受ケ先王播遷ノ後徒ニ虛器ヲ擁スルノミ天下ノ事已ニ此ノ如シ國步艱難天日明ヲ失フ此時ニ當リ凶ヲ夷ケ亂ヲ剪リ國家ヲ將ニ覆ラントスルニ救フ者豈非常ノ事ニ當リ非常ノ功ヲ立ツト謂フト云ハサルヘケンヤ嗚乎英佛ハ我カ財政ニ干涉シ私利ヲ營ミシヨリ賦稅數倍シ十三ノ幼童尙ホ人口ノ苛稅ヲ免レス學ヲ講シ理ヲ究ムルノ學士人口稅三倍ノ學士稅ヲ徵セラル其レ此ノ如キハ急征暴斂四海載籍ノ未タ曾テ記サヽル所桀紂ノ暴獰狼（羅馬暴君）ノ惡亦何ソ之ニ及ハンヤ是ニ於テ九州貫ヲ解キ海內紛擾灘江千里ノ沃野モ以テ汝父老半日ノ饑ヲ養フニ足ラス南地五百里ノ棗林モ亦妻子ノ饑ヲ救フ能ハス夙ニ興キ夜ニ寢ネ終歲赤道直下熱沙ノ中ニ暴露シ手足跰跂汗流レ體痛ミ猶ホ且ツ父母妻子ヲ保ツ能ハス外吏日ニ迫リ賦稅ヲ嚴責スル炎帝ノ三角塔上ニ怒ルカ如ク汝カ家財ヲ沒滅スル沙漠ノ颶風ヨリモ猶ホ劇シ嗚乎嗚乎我カ膏血ハ空ク毒蛇ノ渴ニ供シ我カ粒粒辛苦ハ徒ニ豺狼ノ飢ニ充ツ豺狼猶ホ未タ飽カス我カ禁衞ノ兵ヲ解キ我カ護國ノ兵ヲ散シ我カ劍ヲ鎖シ我カ糧ヲ盜ミ而シテ已レ厭クナキノ慾ニ充テ竊ニ我カ羽翼ヲ殺キ暗ニ我カ手足ヲ縛シ然ル後ニ我カ連綿千歲父母ノ鄕國ヲシテ歐人ノ版圖ニ歸シ我カ同胞兄妹ヲシテ彼レカ臣妾タラシメント欲スルノミ試ニ目ヲ張リテ今日ノ域中ヲ觀ヨ是レ遂ニ誰家ノ天下ソヤ今ヤ天怒リ人怨ミ恨憤懷ニ盈チ裂眦扼腕劍ノ室ヲ出ツルカ如ク矢ノ弦ヲ離ル、カ如ク亦收ム可カラサルナリ長ク鬱スルモノハ奮ハンヿヲ思ヒ久シク屈スルモノハ伸ヒンヿヲ思フ天下ノ失望ニ由リ宇內ノ推心ニ從ヒ爰ニ義旗ヲ擧ケ以テ妖孽ヲ淸メ上ハ先王ノ幽憤ヲ慰メ下ハ同胞ノ仇讐ニ報セント欲ス皇天照臨祖先威ヲ垂ル是ヲ以テ敵ヲ制セハ何ノ敵カ摧ケサラン此ヲ以テ功ヲ圖ラハ何ノ功カ就ラサラン英佛ハ天下ノ强國雄兵百萬戰艦林ノ如シ我カ孤軍ヲ以テ之ニ當ル任重クシテ道遠ク事難クシテ禍速カナリ然リト雖モ生テ外人ノ奴隸トナリ荏苒ノ餘喘ヲ鞭撻ノ苦界ニ求メンヨリハ寧ロ忠義ノ鬼トナリテ芳ヲ竹帛ニ留メ名ヲ後昆ニ垂ル、ニ孰レソヤ此役ヤ忠臣肝腦地ニ塗ルノ秋烈士功ヲ立ツルノ會所謂非常ノ事アリテ而シテ後非常ノ功アルモノナリ勗メヨヤ將士躊躇罪ヲ得ル勿レ

散士朗讀再三案ヲ拍テ曰ク壯快ノ文ナリ駱賓王カ僞周武氏ヲ伐ツノ檄ノ如シト明日之ヲ懷ニシテ蹄水ニ趣ク紅蓮窓ニ倚リ呼テ曰ク妾郞君ヲ待ツ久シ請フ速ニ來レト散士裡ニ入ル紅蓮乃チ昨飛報アリ曰ク先キニ英國遠征ノ軍ヲ起シ一擊シテ埃及ヲ服シ大ニ其內治ニ干涉セント欲ス而ルニ埃及ノ民激昻奮起之ヲ國境ニ拒キ歲月彌久成敗未タ判ス可カラスト是レ豈吾黨ノ一大

吉報ニ非ラスヤ蓋シ変カ本國ノ外患アルヲ倖フハ甚タ怪ム可キ者ノ如シト雖𪜈英國ハ吾黨ニ於ケル怨アリテ恩ナシ故ニ暴英ノ傾覆ハ吾黨ノ祈ル所ナリト散士曰ク聞ク英ノ自由黨ハ義ニ據リ道ニ從ヒ平和ヲ以テ其主義トナスモノナリト近頃英國ノ政權ハ自由黨ノ掌握スル所タリ豈漫ニ無名ノ師ヲ起シ友邦ノ内治ニ干渉スルヿヲ之レ爲サンヤ今日ノ事豈其已ムヲ得サルニ出ツルニ非サルナカランカ紅蓮曰ク是レ徒ニ其名ニ迷フ者ノミ世ニ名實ノ相反スルモノ多シ郎君何ソ其實ヲ察セサル今女皇即位以來ノ政績ヲ考フルニ友邦ト干戈ヲ交フルモノ二十五回而シテ其二十回ハ皆自由黨政府ノ爲ス所ナリ豈名ヲ以テ其實ヲ推ス可ケンヤ蓋シ英人ノ外交ニ於ケル利己ヲ以テ其主義トナスニ至テハ保守自由ノ別アルヿナシ散士曰ク令娘ノ見ル所ヲ以テ英埃向後ノ大勢ヲ計ラハ果シテ如何ソヤト紅蓮起テ一小冊子ヲ机上ニ取リ顧ミテ曰ク郎君未タ英國ノ志士印度慘狀史ノ記者滿茂流惠カ英國靑史ヨリ抄萃編纂セル埃國慘狀史ヲ讀マサルカト散士受ケテ樓廊ニ出テ長椅ニ倚テ之ヲ讀ム其大略ニ曰ク

我カ大英國ハ立憲公議ノ始祖ナルヲ以テ常ニ宇内ニ誇視シ宇内各國モ亦皆稱賛シテ止マサル所ナリ而ルニ埃及人民カ立憲公議ノ政體ヲ組織セントスルニ方リ大英國ハ權謀詐術力ヲ盡シテ之ヲ破壞セント欲スルハ何ソヤ蓋シ埃及國ニシテ立憲公議ノ政體ヲ組織シ公議輿論ヲ以テ政令ヲ施行スルニ至ラハ從來英人カ施行シタル專横不正ノ條約ニ服從セサランヿヲ恐ルレハナリ是レ悖戻暴逆ノ最モ甚タシキモノニシテ其臭名ハ千載青史ニ留マリテ永ク消滅スルノ期ナカラン請フ嘗試ニ之ヲ論セン

埃及王大ニ歐風ニ心醉シ百事歐人ヲ顧問トナシ文物典章ヨリ以テ衣服飮食ニ至ルマテ舊慣ヲ棄テヽ歐風ヲ模擬シ費用日ニ嵩大ニ赴キ國庫漸ク空乏ヲ告ク英佛無賴ノ徒之ヲ見テ竊ニ計ル所アリ乃チ一億萬金ヲ埃及王ニ貸與セリ抑モ土耳其政府ハ埃及ノ内政ニ干渉スルノ權ヲ有スル者ニシテ曾テ歐人ノ詐術ニ陷リ幾多ノ艱難ヲ經歷シ自ラ前車ノ誡メヲ踏ミ殷鑑ノ恐ル可キヲ知レリ當時埃及ノ國歩漸ク安カラサルヲ見テ豫メ其救フ可カラサランヿヲ知リ嚴令ヲ發シテ私ニ國債ヲ募ルヿヲ禁セリ時ニ西歐資金充溢シテ之ヲ使用スルノ事業ナク海外ノ好市場ヲ求ムルヿ饑者ノ肉ニ於ケルカ如ク渇者ノ水ニ於ケルカ如シ是ニ於テ英佛無賴ノ徒又一策ヲ案シテ曰ク苟且ナル哉苟且ナル哉ト乃チ黄金五百萬ヲ以テ土廷執政ノ大臣及ヒ帝ノ左右ニ賂ヒ遂ニ土帝ヲシテ外債特許ノ證印ヲ埃及王ニ與ヘシム是ヨリ未タ數年ナラスシテ英佛ノ民遊金三億六千萬ヲ運轉シテ悉ク射利ノ用ニ供シ其息ノ如キモ三割ノ高利ニ達スルモノアルニ至ル嗚乎姦商ノ爲ス所固ヨリ惡ム可シ然レ𪜈是レ市井ノ小人ノミ彼ノ上流歐人ニシテ身ハ埃及王ノ顧問トナリ其恩寵ヲ蒙リ其俸祿ヲ受ケ傍觀坐視啻ニ之ヲ匡救セサルノミナラス更ニ煽動誘惑シテ此大債ヲ起シ救フ可カラサルノ窮途ニ沈淪セシムル者ニ至テハ是レ所謂恩ニ報スルニ怨ヲ以テシ人ノ苦ヲ以テ自ラ楽ム者縱令人ニ向テ恬然タルモ豈自ラ省ミテ愧ツル所ナカランヤ今埃及毎歳ノ財政ヲ算スルニ歳入僅ニ四千萬ニ過キス而シテ外債ノ息三千萬ノ巨額ニ達ス嗚乎古往今來財政ノ紛亂スルヿ此ノ如キノ國アランヤ租稅日ニ酷ニシテ民愈々疲レ地益々荒レ歳入却テ減縮シ之ヲ往歳ノ租稅ニ較スルニ一千萬ヲ減スルニ至ル而シテ外人ノ埃及政府ヨリ攫取セル利息外ノ金額ハ四年間ニシテ六千萬ニ達セリ國庫ノ空乏此ノ如ク財政ノ困難此ノ如シ外債ノ息何ヲ以テ能ク辨スルヿヲ得ン歐人又外債ノ期迫ル

ヲ見テ祝シテ曰ク時漸ク來レリ是レヨリ後唯我カ欲スル所ノマヽノミト日ニ政府ニ迫リ息金ヲ促スヿ甚タ急ナリ政府之ヲ如何トモスルヿ能ハス唯首ヲ垂レテ延期ヲ乞フノミ是ニ於テ歐人連衡シテ埃及政府ニ迫テ曰ク國庫ノ空乏ヲ告クルハ有司私利ヲ營ミ財政當ヲ得サルニ在リ若シ歐人ヲシテ之ヲ監督料理セシメハ百事整頓禍ヲ轉シテ福トナス可シト然レ𪜈埃及人敢テ背セス依テ英國大臣嗷嗔ヲ遣テ之ヲ促サシム宰相征戒駒固ク執テ動カス答ヘテ曰ク古人曰ク名ト器トハ以テ人ニ假ス可カラス若シ一タヒ財政ノ全權ヲ以テ之ヲ外人ニ委ネ租税ノ輕重國庫ノ開閉其掌中ニ歸スルニ至ラハ是レ國家ノ大權既ニ我カ國ヲ去ルモノナリ近者貴國此要求アリテヨリ國内ノ志士激動奮起訛言百出警報頻ニ到ル僕苟モ今日ノ大任ニ當レリ假令死ストモ此大權ヲ以テ外人ニ與ヘ難シト其後未タ數日ナラス警吏アリ征戒駒ノ邸ヲ圍ミ叫デ曰ク聞ク足下人民ヲ煽動シテ亂ヲ起シ以テ歐人ヲ掃ハント欲スト縛シテ獄舍ニ下シ更ニ誣ヒテ曰ク竊ニ計ヲ外人ト通シ專ラ私門ヲ營ミ國用ヲ濫消ス惡逆不敬天地ノ容レサル所ナリト卽日炎熱萬里ノ沙漠ニ放謫シ又法廷ニ出テ一言ノ辯明ヲ爲ス能ハサラシム鳴乎誰カ此毒計ヲ行ヒタルモノソ諺ニ曰ク羊ヲ牧シテ豺ヲ畜ヘ魚ヲ養ウテ獺ヲ縱ニス其犯ス勿カランヿヲ欲スト雖𪜈得ンヤ既ニシテ英佛ハ財政ノ大權ヲ奪ヒ又憚ル所ナク恣ニ苛税ヲ徴シ妄ニ酷賦ヲ課シ鞭撻前ニ在リ劍戟後ニ在リ人民弊頽財政是ニ至テ全ク壞廢ニ歸ス鳴乎法ヲ治ニ作ル其弊猶ホ亂ル法ヲ亂ニ作ル誰カ能ク之ヲ救ハンヤ

英人猶ホ以テ足レリト爲サス總領事ヲシテ埃及王ヲ責メシメテ曰ク外人ヲ聘シテ其俸祿ヲ遲滯スルハ何ソヤト埃及王答ヘテ曰ク今ヤ士卒貧困商民流離慘憺ノ狀實ニ甚タシク目見ルニ忍ヒス耳聞クニ堪ヘス一國ノ力ヲ傾ケ汲汲之ヲ振恤セント欲スルモ亦計ノ出ツ可キナシ是レ卿等ノ親ラ見聞スル所ニアラスヤ然リ而シテ卿等事ニ託シ詞ヲ飾リ必ス要セサルノ歐人ヲ强テ飽クナキノ高祿ヲ求ムルハ果シテ何ノ心ソヤ其少ク遲滯スルカ如キハ素ヨリ自ラ甘ス可キ所ノミト領事曰ク陛下歐人高祿ヲ貪ルト爲スハ非ナリ財政ヲ料理シ租税ヲ徴集シ道路ヲ改築シ運河ヲ開鑿シ道路ヲ築キ橋梁ヲ架シ事務ヲシテ整整進歩セシメタルモノハ是レ癡鈍陋劣ノ埃及人ノ能クスル所ニアラス歐人ノ功豈鮮少ナランヤ貴邦ノ貧窮困厄ノ如キハ我英人ノ預リ知ル所ニ非ラス貴邦ノ貧弱ニ陷リタルハ亦我カ英國ノ預リ知ル所ニ非ラサルナリ我カ大英國女皇陛下ノ臣民ハ埃及人民カ貧富如何ニ由テ自己ノ權利ヲ傷ケ自己ノ損害ヲ甘スルノ責任ヲ有セサルナリト埃及王之ヲ聞キ憤怒シテ曰ク汝歐人常ニ謂ハスヤ政體ノ如何ヲ問ハス苟モ在留シテ保護ヲ受クルモノ有レハ賦税ヲ其政府ニ納メサル可カラサルハ萬國ノ公法ニシテ免ル能ハサル所ナリト而シテ汝歐人ノ我境内ニ在ルモノ其數十萬ヲ超エ言行相反シ邪説佞辯皆賦税ヲ拒ミ曾テ一人ノ國費ヲ負擔スルモノナシ加之ナラス警察ヲ異議シ道路ヲ非難シ專恣横行至ラサル所ナシ且ツ治外法權ヲ奇貨トシ不正ヲ行ヒ非理ヲ踏ムモ我カ民之ヲ如何トモスルヿ能ハサルヲ知リ常ニ密賣ヲ事トシ我カ海關ノ定法ヲ破リ以テ無功ニ歸セシメ而シテ全國ノ歲入ハ皆汝歐人ノ吸收スル所トナル汝歐人ハ其慾ヲ逞ウシテ我カ政費ヲ制限シ僅ニ五百萬ニ減殺セシメタルニ非ラスヤ窮乏困難財政ノ此ニ至レル所以ノ者ハ是皆汝歐人ノ監督施行セシ政策ノミ汝歐人カ予ヲ欺キ國ヲ誤ラシメタルノ結果ノミ鳴乎汝英人始メハ懇ニ厚意ヲ表シテ而シテ今ヤ反目仇讎ノ如キ者ハ何ソヤト切齒渧ヲ

揮ヒ顧スシテ裡ニ入ル

是ニ於テ英人獨リ之ヲ如何トモスルヿ能ハス仍テ萬國會議ノ決案ト僭稱シ埃及政府ヲ要シテ曰ク歐人ノ遠ク萬里ノ殊域ニ來リ鞠躬力公務ニ盡スモノハ自ラ好テ徒ニ為スニ非ラサルナリ而シテ埃及政府往往俸祿ヲ遅滯シ甚タシキハ口ヲ國庫ノ缺乏ニ假リテ減俸ノ論アルニ至ル是レ我カ歐人ヲ奴隷使セント欲スルカ我カ歐人ハ東洋諸邦ノ人民ト異ナリ報酬ナクシテ徒ニ使役セラル、奴隷ニ非ラサルナリ聞ク王室猶ホ私財巨萬ヲ有スト宜ク之ヲ散シテ以テ國債ノ責ヲ塞ク可シト上下其妄慢ヲ怒リ之ヲ不可トシテ曰ク國財私財其別固ヨリ判然タリ未タ王室ノ私財ヲ以テ外國ノ公債ニ供スルノ義務アルヲ聞カサルナリト歐人依テ之ヲ法廷ニ訴フ法廷ノ高官ハ皆歐人ナラサルナシ遂ニ文ヲ舞シ法ヲ枉ケ埃及王ヲシテ敗訴ニ歸セシム嗚乎歐人暴戾ナリト雖モ豈公産私産ノ別ヲ知ラサランヤ豈邪正理否ノ分ヲ解セサランヤ唯其衰弊ノ餘又為ス能ハサルヲ見テ私慾ノ為メニ公道ヲ忘ル、ノミ又假シ埃及ヲシテ國富ミ兵强カラシメハ豈手ヲ拱シテ歐人ノ非道ニ服センヤ豈口ヲ箝シテ歐人ノ殘逆ニ從ハンヤ國アレ𪜈財ナク兵アレ𪜈力ナク空シク豺狼ノ慾ニ屈シ王室ノ財産宮殿器物ヨリ土地牛羊ニ至ルマテ皆其掠奪スル所トナル歐人ノ悖戾苛逆亦甚タシカラスヤ一千八百七十九年更ニ政府ニ强ヒテ歐人二百五十人ヲ公職ニ就カシメ政費三十萬ヲ增シ明年又百十二人ヲ增シ十三萬ヲ加ヘ其後歐人ノ官職ニ入ルモノ陸續絶エス一千八百八十二年ニ至リテハ歐人ノ埃及政府ニ仕ヘテ租稅ニ衣食スル者其數一千二百五十人ニシテ其財ヲ糜スヿ二百萬ヲ超ユルニ至レリ是レ皆義ヲ忘レテ利ヲ射ルノ徒ニシテ無用ノ事業ヲ起シ冗費遊員ヲ作ルヲ務ムルノミ鄙語ニ謂ヘルアリ取レハ則チ是レ利取ラサレハ則チ是レ愚ト當日歐人ノ心蓋シ此語ニ外ナラサルナリ

歐人猶ホ埃及ノ將士ヲ憚ル密ニ相議シテ曰ク宜シク事ニ託シテ兵員ヲ汰シ將士ノ俸祿ヲ減ス可シ是レ一ハ其羽翼ヲ殺テ以テ枕ヲ高クスルヿヲ得一ハ其餘貲ヲ配取シテ以テ自ラ利スルヿヲ得ント乃チ大ニ兵員ヲ解キ又將士二千五百ノ俸祿ヲ半減シ告ケテ曰ク國用給セス下民饑ニ泣ク暫ク國家ノ為メニ忍フ可シト而シテ歐人ノ俸給ハ依然舊ノ如シ其後貪婪愈〻甚タシク更ニ有司千人ヲ退ケテ曰ク國用給セス下民飢ニ泣ク暫ク國家ノ為メニ忍フ可シト而シテ歐人ノ俸給ハ依然舊ノ如シ繼テ又苛稅ヲ土地ニ課シテ曰ク國用給セス下民饑ニ泣ク暫ク國家ノ為メニ忍フ可シト而シテ歐人ノ俸給ハ依然舊ノ如シ專橫ノ政壓抑ノ令此ノ如シ而シテ歐人猶ホ以テ足レリトセス更ニ法ヲ矯メ律ヲ枉ケ土地一億萬項ヲ沒收シテ曰ク國用給セス下民饑ニ泣ク暫ク國家ノ為メニ忍フ可シト而シテ歐人ノ俸給依然舊ノ如シ時勢茲ニ至ル誰カ奮起セサランヤ四方ノ志士腕ヲ扼シテ憤慨シ闔國ノ人民涕ヲ揮テ嘯集シ宣言シテ曰ク權臣ヲ退ケ姦人ヲ除キ耶蘇教徒ヲ鏖殺ス可シト蘇丹ノ如キハ獨立シテ自治ノ政ヲ為サント唱ヘ亞剌飛將軍ヲ推シテ盟主トナシ血ヲ啜テ歐人ト共ニ朝ニ立タサルヲ誓ヒ更ニ紳士僧侶六十人文武ノ官職七十人紳商四十人人民ノ代理者六十人ヲ會シテ國是ヲ議シ書ヲ埃及王ニ上リテ曰ク

歐人ハ禍心ヲ包藏スルヤ久シ面ニ慈愛ヲ衒テ腹ニ鴆毒ヲ抱キ浸潤ノ計沾漸ノ術以テ今日ニ至レリ今ヤ内閣ハ既ニ其左右スル所トナリ財政ノ權工商ノ利皆其專有壟斷ニ歸セリ往〻將ニ兵權ヲ奪ヒ邦土ヲ擧ケテ之ヲ掌中ニ握ラント欲スルハ犀ヲ牛渚ニ燒クヨリモ猶ホ明ナリ今日天下ノ民萬衆一心財政監

督ハ英人ト工部總理ハ佛人トヲ斥ケ其肉ヲ食ヒ其骨ヲ燒カント欲セサルハナシ蓋シ是レ積惡ノ果ニシテ衆怨ノ集ル所又免ル可カラサルモノナリ陛下今ニシテ彼二人ヲ退ケ民望ニ從テ立憲公議ノ良政ヲ建テ公衆ト謀テ國費ヲ課シ不急ノ土木ヲ廢シ無用ノ工業ヲ停メ民ト共ニ休息セスンハ禍必ス蕭牆ノ中ヨリ起リ言フニ忍ヒサルノ慘境ニ陥ラン

希クハ陛下之ヲ裁セヨ



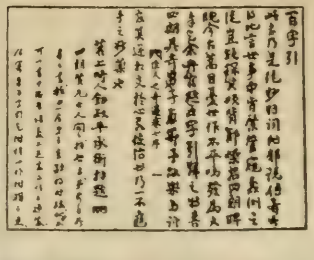
(原本插畫)　埃及王位ヲ奪ハレテ宮ヲ出ヅル圖

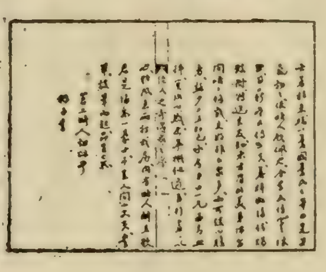
王之ヲ納レ即日二人ヲ内閣ヨリ退ク國内ノ民之ヲ聞テ欣然雀躍祝シテ曰ク吾輩是レヨリ始メテ蘇息スルヿヲ得ント歐人ハ之ニ反シテ憤激最モ甚タシク英ノ總領事ハ直ニ馳セテ王宮ニ至リ恣ニ大臣ヲ黜陟スルノ非ヲ讓メ且ツ曰ク聞ク陛下密ニ人民ヲ鼓舞シテ立憲公議ノ政體ヲ奬勵スト抑々立憲ノ政體ヲ主唱スル者ハ一二失意ノ徒私利ヲ營ミ不平ヲ漏サント欲スルノ致ス所ナリ陛下何ソ覺ラサルヤ事ニ及テ之ヲ悔イハ臍ヲ噛ムモ猶ホ及フ可カラス陛下速ニ彼二人ノ官爵ヲ復シ立憲政體ノ組織ヲ停止セシム可シ妖雲ノ爲メ光明ヲ失フヿ勿レト王曰ク是レ全國ノ輿論ナリ予カ最モ望ム所ナリ諸臣ノ陰謀ニ非ラサルナリ又夫ノ大臣ヲ黜陟スルカ如キハ其權予ノ有スル所何ソ獨リ怪ムニ足ランヤ抑々汝歐人常ニ立憲ノ美ヲ贊スルニ非ラスヤ公議ノ政ヲ誇ルニ非ラスヤ又之ヲ以テ他國ヲ誘導スルニ非ラスヤ而シテ今予億兆ノ望ニ從ヒ立憲公議ノ美政ヲ組織セント欲セハ之ヲ障碍シ之ヲ非難シ以テ己カ私慾ヲ逞ウセント要ス予復タ汝ヲ見ルヿヲ欲セサルナリト是ニ於テ英人諸歐人ト議シテ曰ク王憤怒殊ニ甚タシク久シク其位ニ在ラシメハ吾輩歐人ノ禍測ル可カラスト各々隱ニ計ヲ構ヘ交々其政府ニ讒シテ曰ク埃及王妄ニ邪教ヲ信シ聖教ヲ蔑視シ歐洲各邦ノ友義ヲ顧ミス恩ニ報スルニ仇ヲ以テシ將ニ歐人ヲ驅逐シテ之ヲ境外ニ掃ハント欲ス其形跡已ニ明ナリト既ニシテ英佛二國ノ總領事兵ヲ率キテ王宮ニ迫リ王ヲ脅シテ曰ク子カ王位ニ即テヨリ苛税ヲ課シ酷租ヲ徴シ百姓ヲ恤マス士卒ヲ愛セス田圃荒蕪財帑空乏内ニハ臣民ノ嫌厭ヲ來シ外ニハ歐洲諸國ノ歡心ヲ失フ速ニ王位ヲ去ラサレハ夫レ埃及ノ存亡ヲ如何ト王痛憤深慨但タ事匆卒ニ起リ與ニ謀ル可キナク邦小ニ力弱ク又之ニ抗スルヿ能ハス袞冕龍衣皆歐人ノ褫奪スル所トナリ潸然涕ヲ飲テ王宮ヲ出テ九重ノ門ヲ過キ祖先墳墓ノ地ヲ追ハレ遂ニ他郷ニ流寓スルニ至レリ英佛ノ民王子ヲ立テ、位ニ即カシメ擅ニ政柄ヲ左右シ急政暴斂愈々益々甚タシ國人外人ノ擁立スル所ナルヲ以テ心ヲ新王ニ屬セス民心離散國勢陵夷盜賊四方ニ起リ萬姓亂ヲ思フ偶々陸軍ノ軍隊大佐三人ヲ選テ王宮ニ至リ請ハシメテ曰ク外人ノ職權ヲ免シ以テ國威ヲ挽回ス可シト歐人王ニ勸メテ直ニ之ヲ拘捕セシム軍隊ノ激怒犯ス可カラサルヲ恐レ即チ之ヲ免ス既ニシテ八月九日ニ至リ數千ノ將士王宮ヲ圍ミ亞刺飛侯ヲシテ王ニ請ハシメテ曰ク

第一國ヲ賣ルノ内閣ヲ解散ス可シ第二國會ヲ設立シテ萬機公議ニ決ス可シ第三兵制ヲ嚴ニシ以テ危急ニ備フ可シト英人之ヲ聞キ直ニ本邦ニ飛報シテ曰ク埃及ノ人民王ツ要シテ公議ノ政ヲ建テント欲ス然レ𪜈是レ本ヨリ人民ハ輿望ニ非ラス亞剌飛ノ煽動スルニ由ルノミ亞剌飛ハ桀猾ノ梟雄ニシテ深ク邪教ヲ信シ最モ聖教ヲ惡ム者ナリ故ニ彼ヲシテ一タヒ政權ヲ握ラシメハ必ス聖教ヲ撲滅シ歐人ノ權利ヲ凌キ生命財産ヲ蹂躙シテ又顧ミル所ナカラン宜シク急ニ兵馬ヲ遣テ其勢力ヲ挫折スヘシト時ニ埃及全國ノ新誌日ニ歐人ノ專横暴戾ヲ鳴ラシ國權恢復ヲ唱ヘ民心ヲ鼓舞誘掖セサルハナシ歐人之ヲ恐レ政府ニ迫リ新誌ノ發行ヲ禁止セシム嗚乎英佛ハ言論ノ自由ヲ重スルノ邦國ナリ而シテ今此ノ如シ專横亦甚タシカラスヤ既ニシテ埃及國會ヲ開キ廣ク人才ヲ選テ百事ヲ討議ス英人又抗シテ曰ク敢テ我カ國ニ謀ラス恣ニ制令ヲ施行シ妄ニ賦稅ヲ增減ス是レ權ヲ越テ而シテ吾政府ヲ蔑ニスルモノナリト直ニ兵艦ニ令シ歷山港ニ向ハシム嗚乎吾英國自由議院ハ弱ヲ凌キ非ヲ遂ケ禽獸野蠻ノ世ニ模倣シ恬然愧ツル所ナク傲然自ラ以テ得タリトナス何ソ其無道ノ甚タシキヤ群羊ハ固ヨリ猛虎ト搏シ難シ久シカラスシテ英人必ス能ク埃及ヲ討平シ其意ノ欲スル所ヲ逞ウスルヿヲ得ン嗚乎埃及ノ人民果シテ何ノ罪カアル國ヲ守リ家ヲ衛ラント欲シ身ヲ砲煙彈雨ノ下ニ殺シ尸ヲ沙漠ノ中ニ暴シ空シク餓鳶ノ食トナランカ嗚乎埃及ノ子弟何ノ罪カアル幸ニ身ヲ兵亂ノ中ニ全ウスルモ貪婪飽クナキノ歐人數千其欲ヲ横ニスルアリ膏血既ニ盡キテ山谷ノ間ニ餓死シ空シク豺狼ノ食タランカ嗚乎大英國仁慈叡聖女皇陛下ノ政府ハ果シテ此ノ如キモノカ嗚乎自由政黨ノ政略ハ果シテ此ノ如キモノカ

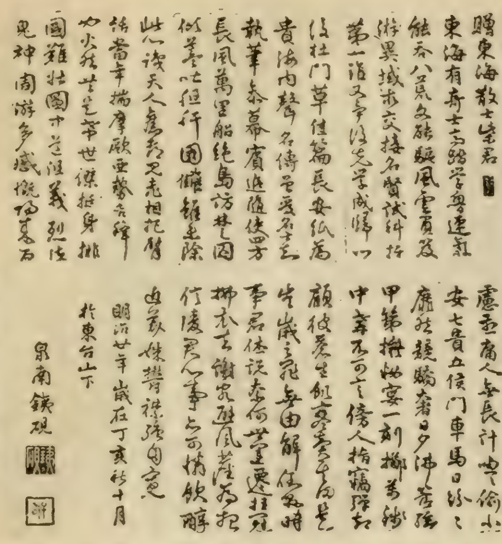
散士一氣之ヲ讀ミ悲憤ノ情胷中ニ鬱積シ覺エス卷ヲ掩ウテ大息ス紅蓮更ニ一新誌ヲ手ニシ散士カ側ニ立チ示シテ曰ク郎君請フ此一章ヲ見ヨト散士容ヲ改メテ之ヲ讀ム曰ク埃及ノ軍中ニ一老將アリ齡七十許一娘子ヲ携ヘ常ニ亞剌飛侯ノ帷幄ニ參シ最モ軍略ニ富ム人其來歷ヲ知ル者ナシ或ハ謂フ西國ノ人ニシテ頓加羅黨ノ殘將ナリト兩人相見テ茫然語ナキモノ之ヲ久ウス

佳人之奇遇　四編





（原本四編卷七鈕叔平序）



（原本四編卷七泉南鐵硯題詩）

佳人之奇遇　卷七

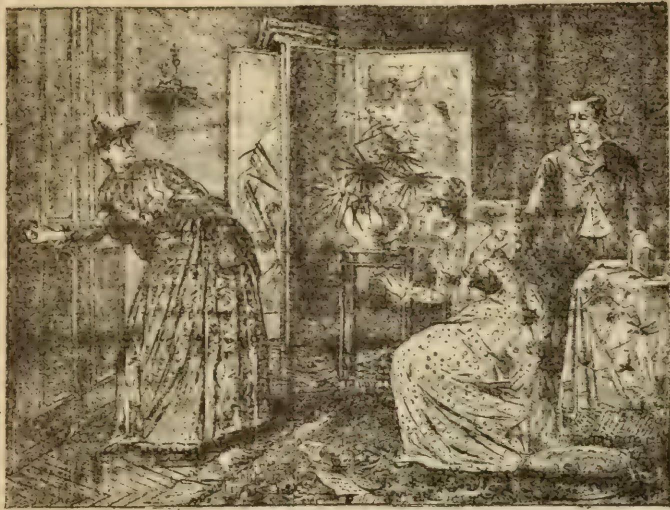
紅蓮卽チ散士ニ問ウテ曰ク郎君ノ幽蘭女史ト相遇フヤ僅ニ一二回ニ過キス而ルニ妾ノ郎君ニ於ケルヤ交遊連旬互ニ胸襟ヲ開キ郎君ハ妾カ人ト爲リヲ盡クシ妾ハ又郎君ノ人トナリヲ詳ニシ竊ニ以爲ラク意氣投合誰カ能ク我カ二人ニ若カンヤト而シテ妾熟〻郎君ノ意ヲ量ルニ幽蘭女史ヲ慕フコト妾ヲ見ルヨリ深ク鏡ヲ分ツニ非サレハ髮ヲ封シテ期スルモノヽ如シ嗚呼郎君上帝明アリ天命未タ盡キス幽蘭女史生ヲ今日ニ幸スルヲ得テ再ヒ來リ會スルアラハ女史郎君ヲ如何セン郎君又妾ヲ奈何セント散士元ヨリ幽蘭ヲ思フ紅蓮ノ比ニアラス然レ𪜈落花流水一時癡情ノ結フ所斷言スルノ勇ヲ失ヒ躊躇答ヘサルモノ久シ乍チ門扉ヲ開クノ聲アリ二人欄ニ倚リテ之ヲ望ム白衣白冠翠羅面ヲ覆フノ一女徐ニ入リ來ル散士覺エス聲ヲ發シテ曰ク幽蘭女史歸リ來ルト紅蓮斜ニ散士ヲ見テ少シテ面色ノ變スルアルカ如シ既ニシテ女子階前ニ達ス紅蓮熟視少時卽チ呼ンテ曰ク夫人ハ曾テ妾等ト同船セシ人ニアラスヤト夫人嘿々首肯シテ堦上ニ至ル紅蓮卽チ出テヽ之ヲ迎ヘ榭廊ニ延キ先ツ椅子ニ倚ラシム夫人獨語シテ曰ク老父ノ言果シテ驗アリ果シテ驗アリト散士其何ノ意ナルヲ知ラス唯タ眸ヲ其容貌ニ注ク年齒三十四五肥肉清白ニシテ意氣自ラ軒昂ノ風アリ散士ヲ顧ミテ曰ク郎君ハ則チ東海散士ニ非スヤト散士驚キ謝シテ曰ク僕不明未タ夫人ノ姓名ヲ知ラス夫人何ニ因リテ僕カ姓名ヲ知ルト夫人笑テ曰ク郎君妾ヲ知ラサルハ名賤クシテ容醜ナルヲ以テノミト更ニ紅蓮ニ謂テ曰ク阿娘眞ニ羨ム可シ又眞ニ過分ノ人ナリト謂フヘシ獨リ山水ノ好景ヲ占メ悉ニ閑雅ノ居宅ニ住シ蘭橈桂楫ノ舟其出遊ヲ待チ秀標偉才ノ人其談話ヲ共ニス嗚呼阿娘ハ過幸ノ人ナル哉抑ミ亦過分ノ人ナル哉ト紅蓮艴然直ニ夫人ニ答ヘテ曰ク夫人ノ此室ニ入ルヤ徒ニ妾ヲ詰リ妾ヲ弄セント欲スルニヨルカ妾不敏ト雖𪜈亦是レ一箇獨立ノ生ヲ營ムモノナリ花ニ吟シ月ニ嘯キ栖遊樂唯我カ意ノ欲スル所豈又他人ノ干渉ヲ要センヤト夫人色ヲ爲シテ曰ク果シテ然ルカ果シテ然ルカ果シテ令娘ハ一箇獨立ノ生計ヲ營ムモノナル歟素ヨリ妾等ノ喙ヲ容ル可キ所ニアラス且ツ其容顏ノ婉ナル才智ノ優ナル辭辯

ハ敏ナル皆衆人ノ企テ及ハサルモノ然レ圧非ヲ飾ルニ巧ニシテ交友ニ信ナキノ謗ヲ免ルヽ能ハサルモノアランカ願フニ令娘幽蘭女史ト西班牙ニ航スルニ方リ妾ト船中ニ會スルヲ記ス可シ當時妾胸襟ヲ吐露シテ信義ヲ表セシニ非スヤ令娘則チ冷語ヲ以テ之ヲ待チ曾テ其意ニ介セサルモノヽ如シ談東洋ノ事ニ及フニ及ンテ妾東海散士ノ事ヲ語ルニ非スヤ令娘則チ他ヲ顧ミ語ヲ轉シテ復更ニ知ラサルモノヽ如シ令娘ト幽蘭女史トハ天ヲ仰キ血ヲ歃リテ刎頸ノ交ヲ盟ヒタルニアラスヤ其一タヒ相失スルニ至リテハ獨リ隱家ニ歸リ悠悠然意中ノ人ト游優シテ念頭又幽蘭女史ノ生死ヲ置カス嗚呼是レ非ヲ飾ルニ巧ナルニ非スヤ交友ニ信ナキモノニ非スシテ何ソト紅蓮怒氣ヲ眉間ニ忍ヒ敢テ一語ヲ發セス散士亦默然トシテ相對視スルノミ座上索然寥トシテ人ナキカ如シ夫人忽チ身ヲ起シテ曰ク妾カ千里ヲ遠シトセス來リテ兩君ヲ訪フ所以ノモノハ信ヲ表シ志ヲ述ヘ大ニ謀ル所アラント欲スルニ在リ何ソ圖ラン兩君妾ヲ卑ミ妾ヲ疎シ妾ヲ疑ヒ妾ヲ惡ミ冷遇惡待隅ニ向テ相語ルヲ欲セス妾請フ是ヨリ辭セント散士曰ク夫人僕等ノ不敬ヲ責ム僕等素ヨリ其罪ヲ辭セス然レ圧夫人モ亦傲然漫語人ヲ侮リ人ヲ辱メ突如來リ突如去ル豈是レ良家子女

ハ行爲ニ愧ツル無カランヤト夫人冷笑シテ曰ク默セヨ豈又足下ノ廣舌ヲ用ヰンヤト左手ニ戶ヲ推シ將ニ出去ラントス紅蓮袂ヲ攬リ聲ヲ勵マシテ曰ク近世ノ婦女往往偵吏トナリテ往往社會ノ惡德ヲナスモノアリ夫人若シ姓名ヲ告ケ眞意ヲ述ヘ我カ疑ヲ解クニ非サレハ妾誓テ此家ヲ出ツル一歩ナラシメスト夫人曰ク人ヲ目シテ間諜トナス不明亦笑フニ堪ヘタリ自ラ省ミテ其身ニ疚シカラサレハ千百ノ偵吏其門ニ出入スト雖圧豈恐ルヽニ足ランヤ今令娘妾ヲ見テ偵吏トナシ頗ル恐ルヽ所アルモノヽ如シ其天地ニ俯仰シテ公明ナラサルモノアル知ル可キナリ妾唯タ高明ノ士ヲ訪ヒ正大ノ人ニ交リ此大任ヲ全ウセント欲スルノミ耳ヲ汚スノ言心ヲ瀆スノ語妾ノ少時モ聞クヲ欲セサル所ナリト紅蓮怒氣火ノ如ク散士ヲ視目シテ決意ヲ示ス夫人則チ之ヲ覺リ手ヲ支ヘテ徐ニ曰ク勇氣稱ス可シ勇氣稱ス可シ然レ圧是レ匹夫ノ勇ノミ士君子ノ取ラサル所ナリ妾不肖ト雖圧亦此處ニ徒死スルモノニアラス輕忽ノ行後日ノ悔ヲ招クヿ勿レト再ヒ椅子ニ倚リ自若トシテ傍ラ人ナキカ如シ乃チ机上ニ新紙アルヲ執リ嘿讀少時忽チ愕然トシテ曰ク嗚呼兩君既ニ已ニ幽蘭女史ノ事ヲ知ルカ妾兩君カ未タ其生死ヲ詳ニセス晏然遊樂スルヲ見テ心實ニ平ナルヿ

能ハス故ニ之ヲ試ムルノミ焉ソ知ラン早ク既ニ之ヲ詳ニセントハト直ニ一金環ヲ懷裡ニ取リ進テ紅蓮ニ示ス紅蓮一見駭キ且ツ問ウテ曰ク是レ幽蘭女史ノ海中ニ沈沒スル時猶ホ小指ニ穿ツ所ナリ如何ソ今日夫人ノ手ニ落ツルヤ願クハ妾カ無禮ヲ宥メ幸ニ其顚末ヲ告ケヨト散士ト共ニ席ヲ進メテ其側ニ近ツク夫人曰ク然ラハ則チ今兩君ノ爲メニ妾カ別後ノ來歷ヲ語リ幽蘭女史ノ事ヲシテ明亮ナラシメン妾令娘等ト袂ヲ西國ニ分テヨリ直ニ父母ヲ省セリ未タ幾ナラスシテ峨馬治病重キノ報アリ妾カ父交深キヲ以テ直ニ妾ヲ攜ヘ馳セテ華風麗島ニ赴ク及ハス父因テ妾ヲシテ獨リ先ツ歸ラシム航路半ナラス風雨大ニ起リ電光雷鳴海怒リ濤激シ檣折レ舵壞レ忽チニシテ轟然百雷ノ齊シク落ルモノノ如シ即チ是レ暗礁ニ觸レテ機關ノ破ルヽナリ妾蹶起甲板ニ出ツレハ一隻ノ小艇今將ニ去ラントスルヲ見ル身ヲ躍ラシテ之ニ投ス舟小ニシテ人多ク加之衆皆戰慄シテ魂ヲ喪ヒ氣ヲ失ヒ左臥右顚船傾キテ起ツ能ハス忽チニシテ一道ノ逆浪天ヲ衝テ我舟上ニ飜リ舟半ハ覆リ人悉ク溺ル其再ヒ復スルニ至リテ船底ニ止マル者僅ニ三人ノミ妾二人ヲ注視シテ眼光未タ轉セス倏然一聲巨浪背ヲ打チ身將ニ舷外ニ墮チント

ス兩人妾カ裾ヲ取リ力ヲ極メテ之ヲ援キ萬死ヲ出テ僅ニ舟中ニ止マルヿヲ得タリ時ニ妾海水ヲ飲ムヿ甚シク昏絶シテ其後ノ事ヲ記セス既ニシテ目ヲ開ケハ雲行キ風斂マリ赤日空ニ麗リ白浪遠ク平ニ身ハ舟底ニ困臥シ頭上ニ一老人一女子ト跪坐スルアルヲ見ルノミ兩人妾ノ頭ヲ搖カスヲ見テ大ニ喜ヒ慰メテ曰ク夫人蘇生セルカ妾等既ニ已ニ死スト爲セリト妾其語ヲ聞キ往事ヲ追懷スレハ小舟傾覆ノ事溺死救援ノ事皆恍惚トシテ長夢ノ始メテ覺ムルカ如シ乃チ謝シ



(原本插畫)　紅蓮骨數斗夫人ト論辨ノ圖

テ曰ク若シ兩君ノ救助ヲ得ルニ非サレハ身ハ既ニ海底ノ鬼トナランノミト一姬更ニ妾ヲ熟視シ驚キ問ウテ曰ク夫人ハ妾等ト米國ヨリ西班牙ニ同船セル人ニ非スヤ妾之ヲ聞キ又眼ヲ注キテ其容貌ヲ見ル則チ是レ他ノ二人ト同行シテ大西洋中ニ談話セシ者ナリ因テ互ニ奇遇ヲ感シ覺エス涕涙瞼裡ニ溢レ又他語ノ發ス可キナシ其後船洋中ニ流漂スルヿ一晝夜風靜ニ波平ニ又怒濤激浪ノ患ナシト雖モ海天茫々四ニ船影山色ヲ見ス孤舟ノ漂搖スル所是レ何ノ處ナルヲ知ラス妾愀然二人ニ謂テ曰ク嗚呼舵ヲ轉シ擢ヲ操ルノ水手皆既ニ鯨鯢ノ腹中ニ葬ラレ今ヤ飢渴殊ニ迫リ疲勞尤モ甚シク漂流浪ニ任シ進退ノ定ム可キナシ抑ミ之ヲ如何ス可キト二人亦潸然語ナキモノ之ヲ久ウス暫クニシテ黑煙ノ天邊ニ起ルヲ見ル皆大ニ喜ヒ叫ンテ曰ク是汽船ノ過クルナリ以テ救助ヲ求ム可シト是ニ於テ衣ヲ振ヒ聲ヲ放テ其船ヲ呼フ汽船航路ヲ變シテ我舟ニ近ツクモノヽ如シ三人愈ミ喜ヒ蘇生ノ思ヒヲナス既ニシテ幽蘭女史首ヲ翹ケテ曰ク彼船ハ來ルモノニアラスシテ去ルモノナリト妾曰ク否否進ミ來ルモノナリト互ニ眼ヲ凝シテ之ヲ見レハ悲ム可シ女史ノ言虛シカラス汽船背馳スルヿ益ミ遠ク船影遂ニ明ナラス一片ノ斷煙ヲ模糊ノ外ニ殘ス

ノミ老人曰ク盛ナル者必ラス衰フ生ケル者誰カ死セサラン唯其運極マリ道窮マルニ至テハ從容義ニ就キ天下自由ノ郷ニ昇遊センノミ今我カ三子ハ所謂運極マリ道窮マル者此際ニ方リ悲泣歎息天ヲ尤メ人ヲ恨ムハ是レ敎養素ナキノ致ス所ナリ悠然舟中ニ危坐シ目ヲ瞑シ天ヲ禱リ以テ安身立命ノ地ヲ求ム可キノミト是ニ於テ老人天ヲ仰キ妾等ニ代リ高聲ニ天ニ祈リ精神ヲ上帝ニ奉スルヿヲ誓ヒ終リ三人共ニ目ヲ瞑シ口裡ニ祈念シ心志ヲ定メテヨリ危懼ノ念釋然トシテ去リ生ヲ欲スル卑念亦腦裡ニ生セス時ニ眼ヲ開ケハ日沒シテ海風颯颯星宿ノ天外ニ動搖スルヲ見ルノミ其後腹飢ヱ體疲レ覺エス舷ニ倚リテ困睡ス忽チ暴風ノ再ヒ捲キ來ルアリ既ニシテ波濤我カ舟ヲ覆シ一身海波ノ間ニ溺レ將ニ死セントス忽チ天妃ノ飛ヒ來ルアリ相助ケテ天上ノ樂土ニ至ル忽チニシテ絲竹管絃ノ雲邊ニ起リ噪々トシテ我カ耳邊ニ湧ク是ニ於テ愕然驚キ俄ニ首ヲ擧クレハ則チ皆是レ小舟ノ一夢ニシテ汽船ハ汽笛ヲ吹キテ近ク我邊ニ來ルアルヲ見ル夢カ眞カ未タ分明ナル能ハス漸ク心神ヲ定メテ之ヲ熟視ス曉月濛濛甚タ明ナラス唯タ船旗風ニ飄リ艦燈波ニ映スルノ影淡キヲ見翼輪水ヲ切ルノ音囂キヲ聞ク三人互ニ勇ヲ鼓シ氣ヲ勵マシ漸ク

船艦ニ立テ救ヲ呼フ汽船之ヲ認メ即チ小艇ヲ下シ我カ舟ヲ救フ嗚呼死期既ニ旦夕ニ迫リ而シテ俄然此救援ニ遇フ其心情果シテ如何ソヤ既ニシテ小艇我ガ舟ヲ引キ本船ニ至ル船長導ヲ一室ニ移シ優待厚遇以テ積勞ヲ安セシム蓋此船ハ希臘ノ郵船埃及ノ歷山港ニ到ルモノナリ妾等ノ漂流スルヿ亦甚シカラスヤ船中ノ貴女紳士妾等ノ危厄ヲ憫ミ互ニ金錢衣服ヲ與フ女史妾ニ謂テ曰ク妾猶ホ身ニ若干金ヲ有ス以テ夫人ノ窮ヲ周スルニ足ルト因テ金錢ヲ返シ唯衣服諸品ヲ受ケ三人始メテ再生ノ思ヒヲナス船牀ニ安臥スルヿ一晝夜漸ク疲勞ヲ忘レ神氣亦舊ニ復スルヲ覺ユ乃チ女史ヲ別室ニ訪ヒ互ニ天運ノ未タ盡キサルヲ賀シ且問ウテ曰ク難船以來未タ令娘等ノ經歷如何ヲ問フノ暇アラサリシカ夫ノ嚮日令娘ト米國ヨリ同行ノ兩氏ハ今回果シテ如何ト女史悽然トシテ曰ク先キニ大西洋ヲ航スルニ當リ敢テ心事ヲ夫人ニ告ケサル所以ノモノハ計略洩レ易ク大事成リ難キヲ恐ルヽニヨル今ヤ期セスシテ會遇ヲ艱難ノ中ニ再ヒシ測ラスシテ死生ヲ危急ノ間ニ共ニシ遂ニ今日アルニ至ル是蓋天緣自ラ然ラシムルモノ亦奇遇ト謂フ可シ豈經歷ヲ吐露シテ妾等ノ心事ヲ明ニセサランヤト幾多ノ來歷ヲ略述シ大息シテ曰ク兩友妾ヲ助ケテ身ヲ黃泉ノ下ニ失フ父ヲ救フノ喜ヒ未タ心胸ヲ安セス友ヲ喪フノ悲ミ忽チ肝膽ヲ驚カス妾カ今日ノ友ヲ憶フノ感豈昨夕死ヲ扁舟ニ待ツノ情ト異ナランヤト妾之ヲ聞キ始メテ其顚末ヲ詳ニシ感慨殊ニ深シ漸ク船歷山港ニ達ス船長ノ曰ク是レ埃及ノ歷山港ナリ三君旅亭ニ至リテ暫ク心神ヲ保養セヨト妾等謝シテ曰ク一生ヲ萬死ノ中ニ全ウスルヿヲ得ルモノ皆足下ノ厚誼ニヨル今何物カ以テ足下ノ高恩ニ報ス可キ但船破レテ攜提悉ク海中ニ沒シ又一物ノ貴覽ニ呈ス可キナキヲ如何ト船長笑テ曰ク余ハ英人ナリ英國船長ノ職タル身ヲ殺シテ他人ノ溺死ヲ助クルノ義務アリ何ソ況ンヤ難船漂舟ヲヤト三人逆旅ニ投シ療養數日心身全ク復セリ是時埃及ト英佛トノ交涉日ニ漸ク困難ニ赴キ埃及ノ士民激昂奮起禍機將ニ破裂ニ垂トス蓋英佛專橫跋扈ノ基スル所ナリ是ヨリ先キ英國兵艦ヲ埃及ニ送リ宣言シテ曰ク埃及ノ亂民洲越ノ運河ヲ梗塞シ以テ世界ノ交通ヲ杜絕シ以テ我國印度ノ連絡ヲ妨碍セントス是レ我カ兵備ヲ嚴ニシ以テ不逞ノ暴徒ヲ禦ク所以ナリト嗚呼洲越運河ハ埃及國ノ富源ニシテ其國家ノ大益ヲナスヿ實ニ鮮小ナラス且其國都ト運河トハ百五十里ノ遠隔ニシテ其間人馬ノ通過ス可カラサルノ沙漠アリ埃及人民何ヲ苦テ此越ユ可カラサルノ艱險ヲ犯シ財ヲ糜シ人ヲ勞シ此富源ヲ塞閉シ以テ怨ヲ歐ノ强國ニ結フヿヲナサンヤ誣妄モ亦甚シイ哉英人又曰ク埃及政府ノ改革ハ一國ノ輿論ニ非ス埃及內閣ノ更迭ハ萬民ノ願望ニ非ス軍人煽動ノ致ス所其變亂測ル可カラサルモノアリ是レ我兵艦ヲ出シ歐人ノ生命財產ヲ保護スル所以ナリト嗚呼一國自ラ一國ノ權アリ政府ノ改革內閣ノ交迭ノ如キ素ヨリ是レ一國內ノ事ノミ豈他國ノ干涉ス可キ所ナランヤ然リ而シテ英人ノ兵馬ノ力ニヨリテ悍然其間ニ干與セント欲ス是レ蓋財政工商ノ全權ヲ掌握スルヿ昔日ノ如クセント欲スルニ由ルノミ何ソ其虎貪狼慾暴威ヲ逞ウスルヿノ甚シキヤ

一日妾等一室ニ談話ス窓外忽チ騷然トシテ兒女號泣兵馬馳騁ノ聲アリ既ニシテ銃礮ノ響天ニ震ヒ吶喊ノ音四ニ起ル妾大ニ驚キ乃チ女史ト共ニ窓ヲ開キテ戸外ヲ見ル樓下ノ群衆直ニ短銃ヲ發シ瓦礫ヲ投シ刀ヲ揮ヒ相共ニ叫ンテ曰ク虎狼ノ外人ヲ攘テ國權ヲ回復スルハ此一擧ニ在リト幽將軍妾等ヲ止メテ曰ク是レ大亂ノ潰裂スルモノハ此際ニ當リ宜ク形勢ヲ明ニシ以テ一身ノ進退ヲ決ス可シ狼狽周章ハ身ヲ危ウスル所以ノミト時ニ戸窓ヲ破リ器物ヲ壞ツノ音戛戛落落トシテ近

隣ニ叢叢タリ女史曰ク想フニ是レ暴徒ノ此機ニ乘シ歐人ノ居宅ニ闖入スルモノナリト語未タ畢ラス一群我カ逆旅ニ入ル刀を提ケ槍ヲ揮ヒ戸ヲ叩テ叱咤シ將ニ室內ニ亂入セントス忽チ數騎ノ門前ヲ過キテ連呼スルモノアリ曰ク元帥來ル元帥來ル敢テ疎暴ノ擧動アル可カラス若シ他人ノ家財ヲ侵掠シ無辜ノ外人ヲ傷害スル者アラハ必ス處スルニ嚴刑ヲ以テス可シト暴徒之ヲ聞キ四方ニ散去シ路上頗ル肅然タルモノヽ如シ妾等意少シク安ンス少焉ニシテ元帥萬歲ノ聲滿街ニ叫號スルヲ聞ク因テ思ハス頭ヲ窓外ニ出セハ將士群集シテ刀槍兩行ニ騈列シ光彩陸離トシテ氷霜ノ白日ニ映スルニ似タリ幽將軍又止メテ室中ニ安臥セシム忽チ跫音戞々階子ニ響キ剝啄我カ室戸ヲ敲クモノアリ幽將軍徐ニ身ヲ起シ戸ニ倚リテ誰何ス曰ク埃及ノ將士ナリト將軍戸ヲ開ケハ將士劒ヲ佩ヒテ戸外ニ直立スルモノ數人中間ノ一人進テ室內ニ入ル戎裝ハ美衆中ニ抽テ粲然目ヲ奪フ身長大ニシテ肉最モ豐肥ニ眼光爛トシテ巖下ノ電ノ如シ幽將軍ヲ熟視シ乃チ慇懃ニ謂テ曰ク謹テ將軍ノ恙ナキヲ賀シ又其矍鑠トシテ老テ益々壯ナルヲ祝スト幽將軍故ニ驚怖ノ狀ヲナシ答ヘテ曰ク老奴ハ南米ノ一商賈ナリ二女ヲ携ヘテ伊希ニ遊

ヒ景勝ノ名區ヲ尋ネ往古ノ遺跡ヲ探リ將ニ佛國ニ航セントス途ニ颶風ニ遇ヒ僅ニ免レテ貴國ニ到ルモノナリ偶マ今日ノ騷擾ニ會ヒ親子三人遂ニ生命ヲ全ウスルヿ能ハサランヲ恐レ戰戰栗栗胸中ノ鼓動猶ホ未タ停マラサル所忽チ閣下等ノ來ルニ遇ヒ萬死ヲ矛戟ノ下ニ免ルヽヿヲ得タリ是レ老奴ノ深ク謝スル所ナリ然ルニ閣下老奴ヲ目スルニ將軍云云ノ語アリ老奴怪訝ノ至リニ堪ヘス唯冷汗背ヲ濕スノミ又言語ノ以テ應對ス可キヲ知ラスト將士首ヲ掉リ笑テ曰ク欺ク勿レ欺ク勿レ將軍ハ西國ノ名將其韜略ニ富ミ戰鬪ニ勇ナル誰カ之ヲ知ラサル者アランヤ將軍今日ノ風姿或ハ以テ他人ヲ欺ク可シ然レトモ亦余ヲ欺ク可カラサルナリト幽將軍猶ホ僞名ヲ告ケ更ニ其觀察ノ誤謬ヲ辨ス將士更ニ進テ曰ク今日ハ實ニ國家存亡ノ分ルヽ所寸陰ノ閑且ツ得可カラサルノ時ナリ而ルニ余ノ今來リテ將軍ヲ訪フ所以ノモノハ何ソヤ蓋夙ニ以爲ラク將軍其人ノ如キ偉才勇略ノ人ヲ得テ我カ帷幄ニ主タラシメハ撥亂反正ノ業手ニ唾シテ成ル可キノミ唯天涯地角生死ノ音猶ホ且ツ詳ニスルヿ能ハサルヲ如何是レ眞ニ恨ム可キナリト今突然告クル者アリ將軍來リテ此處ニ寓スト余豈百事ヲ擲テ來リ訪ハサル可ケンヤ將軍

何ソ余カ情ヲ察セサル且ツ將軍千言萬語以テ其姓名ヲ掩ハント欲スルモ余ハ將軍ノ麾下ニ屬シ曾テ役ニ西都ニ從フ者豈將軍ヲ忘ルヽアランヤ然レトモ余ノ未タ姓名ヲ告ケサルモノハ其罪亦多シトナス余ハ則チ埃及國兵部卿亞刺飛ナリト幽將軍之ヲ聞キ身ヲ起シテ曰ク老奴罪アリ明侯既ニ老奴ヲ知リ而シテ老奴未タ明侯ヲ知ラス是レ玉石ヲ辨セサルモノアリ老奴實ニ西國ノ獄ヲ越エ途ニ暴風ニ遇ヒ僅ニ免レテ貴邦ニ飄落セリ知ラス明侯命スルニ何事ヲ以テセントスルヲト亞刺飛侯曰ク將軍ヲ我カ軍師ニ請ハント欲スト幽將軍曰ク是レ果シテ何ノ言ソヤ古人曰ハスヤ敗軍ノ將ハ以テ勇ヲ語ル可カラス亡國ノ丈夫ハ共ニ存ヲ謀ル可カラスト老奴豈明侯ノ求メニ應ス可ケンヤト亞刺飛侯曰ク余今國家傾覆ノ形勢ヲ坐視シ人民塗炭ノ慘狀ヲ傍觀スルニ忍ヒス衆ノ爲メニ推サレ兵ヲ擧ケ義ヲ唱ヘ將ニ歐人ト兵馬ノ間ニ相見ントス唯彼ハ堅甲利兵國富ミ人多ク我ハ衰弱困弊帷幄ニ謀議ノ士ナク戰陣ニ精銳ノ卒ナク必勝ヲ今日ニトス可カラス將軍願クハ余カ今日ノ心情ヲ察セヨ然レトモ將軍ノ眼英佛埃及ノ曲直ヲ見テ其曲我ニ在リトセハ余亦敢テ勞ヲ將軍ニ乞ハス否公明正大ノ君子ヲシテ無名ノ暴擧ニ與ラシメ節ヲ汚シ名ヲ辱カシムル

ニ忍ヒサルナリト幽將軍嘆シテ曰ク明侯ハ兵ヲ擧クルハ國家ノ危急ヲ救フニ在リ僕老イタリト雖モ豈義ヲ見テ爲サヽルニ忍ヒンヤ且ツ老奴久シク囹圄ノ中ニ呻吟シ征鞍ニ跨ラサルモノ此ニ歳餘今ヤ髀肉日ニ生スルノ歎アリ奮テ明侯ノ義擧ニ應シ身ヲ以テ明侯ノ馳驅ニ任ス可シト亞刺飛侯大ニ喜ヒ進テ幽將軍ノ手ヲ握リ呼テ曰ク雄邦十萬ノ援軍ヲ得タルハ幽將軍ノ一諾ヲ得タルニ若カスト既ニシテ又幽將軍ニ問ウテ曰ク人心未タ固カラス兵甲未タ整ハス是時ニ當リ計宜シク何レニ出ツヘキト幽將軍對テ曰ク先ツ人心ヲ興起シテ義烈ノ氣ヲ堅カラシメ大義ノ存スル所國是ノ向フ所ヲ明ニスルハ檄文ニ若クモノナシト亞刺飛侯即チ起草ヲ幽將軍ニ請フ將軍筆ヲ搦リ考案少時筆シ了リテ亞刺飛侯ニ示ス侯朗讀一過案ヲ打テ曰ク地ヲ拔キ天ニ倚リ正聲勁氣紙上ニ溢ル之ヲ讀ム者誰カ踊躍セサランヤト更ニ二三ノ字句ヲ推敲シ直ニ出テヽ之ヲ士官ニ交附シテ朗讀セシム此檄文ハ既ニ五洲ニ傳播セリ想フニ兩君モ亦誦讀シタル可シト散士曰ク嗚呼夫ノ檄文ハ幽將軍ノ手ニ成ルモノカ宜ナル哉其人ヲシテ感激止マサラシムルヤト

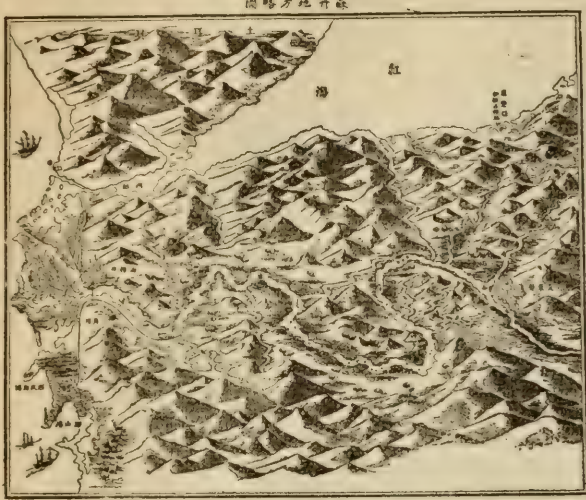
夫人又言ヲ繼キテ曰ク一日幽將軍軍議ヨリ歸リ慨然長大息シテ曰ク老奴死處ヲ知ラサルナリト妾等怪ミテ其故ヲ問フ即チ徐ニ説テ曰ク埃及王ハ孱弱ニシテ勇氣果斷ナク内ニ近侍ノ言ヲ聽キテ忠良ヲ忌ミ外ニ敵人ノ反間ヲ信シテ謀士ヲ疑ヒ歐人ノ詐術ニ陷ルヲ知ラス亞刺飛侯ハ忠義ノ心餘アレモ深謀遠猷ノ才智ニ乏ク小恥ヲ忍ヒ衆議ヲ排シ斷然鴻業ヲ畫スルノ勇ナシ是ヲ以テ我カ埃及ノ爲メニ計畫スル所ノ如キモ皆用ユルヿ能ハス庸衆ノ爲メニ大事ヲ誤ラントスル者アリ夫ノ英將宇流盛ハ兵略ニ老ケ武術ニ富ミ與ミシ易カラサルノ名將ナリ羸弱ノ卒ヲ驅リテ之ト相敵セント欲ス豈非常ノ策略ヲ運サヽル可ケンヤ然リ而シテ今此ノ如シ埃及ノ敗亡識者ヲ待タスシテ知ル可シ我輩亦死處ヲ得ル能ハサルナリト女史妾ト更ニ膝ヲ進メテ問ウテ曰ク妾等其ノ事實ヲ聞クニ非サレハ又甚タ解シ難キモノアリ請フ詳ニ之ヲ告ケヨト將軍又愀然トシテ曰ク昨日諸將士相會シテ軍事ヲ議ス一將曰ク先ツ回教ノ爲メニ耶蘇教ヲ攘フヲ以テ兵ヲ擧クルノ名トナシ以テ回教人民ヲ煽起シ我カ兵勢ヲ鼓舞シ英佛人民ヲ掃蕩ス可シト余之ヲ論斥シテ曰ク誰カ此言ヲナス者ソ未タ天下ノ大勢ヲ知ラス未タ軍事ノ虛實ヲ明ニセサル者ニ非サレハ迂僻腐儒教法ニ心醉迷溺セル者ノ説ク所ナリ抑〻兵名ナキ者ハ敗ル兵ヲ起ス者元ヨリ名ナカラサル可ラス然レモ教法ヲ假リテ攻守ノ名トナスハ往昔ノ事ニシテ今十九世紀ノ事ニアラス且ツ今日國會ノ決議ハ歐人ノ爲メニ廢セラレ人民ノ輿論ハ歐人ノ爲メニ壓セラレ一國ノ權利ハ歐人ノ蹂躙剝奪スル所トナリ萬機ノ政務ハ歐人ノ左右陟黜唯意ノ欲スル所トナリ忍ハント欲シテ忍フ能ハス堪ヘント欲シテ堪フル能ハス忠膽義肝遂ニ發洩スル所ニシテ所謂自由ノ公義ニ據ル者豈又別ニ教法ノ名ヲ假ルヲ要センヤ唯是レ大義ニ基キ唯是レ大義ヲ明ニセハ歐米亦志士仁人ニ乏シカラス或ハ劍ヲ仗テ來リ救ヒ或ハ金銀ヲ募リ兵器ヲ送リ或ハ舌ヲ演壇ニ振ヒ筆ヲ新誌ニ放チ以テ我カ兵勢ヲ援ケ彼ノ軍氣ヲ阻マシムルモノアルヤ必セリ若シ大計此ニ出テスシテ名ヲ教法ノ爭ニ限ランカ一髮千鈞ヲ引キ朽索六馬ヲ馭スモノト謂フ可シ啻ニ國運ノ挽回ス可カラサルノミナラス愈〻益〻滅亡ノ運ヲ招ク者ナリ蓋回教恢復ヲ以テ兵ヲ起スノ名トナセハ印度以西或ハ之ニ應スル者アラン然レモ爲メニ歐米人民ノ憤怒ヲ招クヿ亦加〻甚カラン且ツ縱令印度以西之ニ應スルモノアリト雖モ能ク兵ヲ擧ケ干戈ヲ執リ歐人ニ當リテ以テ我カ聲援ヲナスハ萬望ム可カラサルナリ又假シ土耳其ニシテ同教ノ故ヲ以テ我カ救援ヲナサンカ南下

シテ土耳其ノ咽喉ヲ扼シ吞噬ノ慾ヲ逞セントスルハ俄國ノ宿志ナリ故ニ事此ニ至ラハ俄ハ則チ兵ヲ啓クノ名ヲ得テ以テ其背ヲ拊チ雷池ヲ出ツル一歩ナラシメサルヿ龜トセスシテ知ル可キナリ是ニ於テ歐米諸國ハ男女老幼皆我ヲ惡ミ我ヲ怨ミ萬國一人ノ我ヲ助クルモノナク却テ敵兵ヲ利スルノ術ニシテ所謂讎ニ兵ヲ貸シ盜ニ糧ヲ與フル者ナリ勢此ニ至ラハ名將復生スト雖𪜈豈能ク爲ス可ケンヤ請フ夫ノ希臘國ヲ見ヨ其邦土ノ大我カ半ニ及ハス衰弱困弊ノ狀亦我國ト異ナルヿナシ而シテ猶ホ能ク雄邦ノ强兵ト戰ヒ遂ニ今日獨立ノ一國ヲ組織スルニ非スヤ是レ實ニ闔國人民ノ力ニ出ルト雖𪜈抑々歐人救援ノ功亦最モ大ナリトス歐人ノ希臘獨立ヲ救援スル所以ノモノハ何ソヤ一ハ曠古ノ自由國ニシテ古聖賢人ノ出ツル所文學技藝ノ起ル所而シテ今ヤ殘戾ノ治下ニ服從シ離群索居流離困弊ノ狀眞ニ見ルニ忍ヒス之ヲ往古ノ歷史ニ見テ慷慨ノ感勃然トシテ起ラサルナキニ因リ一ハ希臘ノ人民憤然激發自由ノ牙蘖ヲ樹テ獨立ノ大義ヲ主唱シ寡ヲ以テ衆ニ當リ屈セス撓セス其義其勇聞ク者ヲシテ奮起セシムルニ足ルニ因リ一ハ耶蘇教ヲ奉シテ回教人民ト戰ヒタルニ因ルナリ是三因アルカ故ニ歐洲ノ志士翕然贊稱或ハ隱ニ兵器彈藥ヲ送リ或ハ劍ヲ杖テ赴キ援ケ英國ノ名士詩宗梅崙侯ノ如キモ亦奮テ其國ニ至リ身ヲ希臘ノ犧牲ニ供シ大義ヲ八表ニ明ニシ遂ニ獨立ノ大功ヲ奏セシムルニ至レリ然レ𪜈若シ希臘國ヲシテ回教ニ據リテ耶蘇教ヲ掃フノ名アラシメンカ最モ世界ノ古國ナリト雖𪜈大義ニ依リテ生命ヲ擲ツモノナリト雖𪜈歐洲一人ノ之ヲ援クル者ナキノミナラス皆干戈ヲ負ウテ之ヲ討チ旬日ヲ出テスシテ社稷ノ頹滅スル知ル可キナリ嗚呼我カ兵ヲ擧クル何ソ希臘ト異ナルアランヤ今ヤ老奴ノ如キモ亞侯ノ顧託ニ依リ大義ノ爲メニ生命ヲ擲チ兵馬ノ間ニ馳驅シ斃レテ後ニ止マント誓フ然レ𪜈諸士ニシテ教法ノ爲メニ戰端ヲ開キ耶蘇教ヲ掃蕩スルノ檄ヲ傳ヘハ老奴元ヨリ耶蘇教ノ信者ニシテ回教ノ信徒ニアラス豈同胞ト干戈ヲ交フルニ忍ヒンヤ豈上帝ノ罪人タルニ忍ヒンヤ請フ是ヨリ辭センノミト亞剌飛侯余カ言ヲ納レ大ニ諸士ヲ諭シ遂ニ其議ヲ停ムルニ至レリ然レ𪜈回教ヲ方信スルモノ余ヲ目シテ邪教ヲ奉シ禍心ヲ包藏シ家國ヲ誤ルモノナリトシ讒謗罵詈至ラサル所ナシ嗚呼時不祥ニシテ鴟梟翺翔讒諛志ヲ得罷牛ヲ騰駕シ蹇驢ヲ驂ニス余亦之ヲ何如ス可キト妾等其事ノ意外ニ出ツルニ驚ク翌日將軍病ト稱シテ客舍ニ在リ卽チ一書ヲ作リテ亞剌飛侯ニ贈リ備ニ戰備ノ計略ヲ論セリト乃チ日記ヲ懷裡ニ取リ散士紅蓮ニ示シテ曰ク是レ則其草稿ナリト散士匆忙披テ之ヲ讀ム其文ニ曰ク

百戰百勝ハ善ノ善ナルモノニ非ス戰ハスシテ人ノ兵ヲ屈スルモノハ善ノ善ナルモノナリ故ニ上兵ハ謀ヲ伐ツヘシ凡ソ兵ヲ用キルノ要ハ必ス先ツ敵情ヲ詳ニシ其編制ヲ知リ其計略ヲ察シ其强弱ヲ卜シ其地理ヲ明ニシ其空隙ヲ衝クニ在リ所謂彼ヲ知リ己ヲ知ル者ハ百戰殆カラス彼ヲ知ラス己ヲ知ル者ハ一勝一負彼ヲ知ラス己ヲ知ラサル者ハ毎戰必ス敗ル故ニ先ツ戰ハント欲スル者ハ豫メ彼我ノ勢ヲ詳ニシ而シテ其謀ヲ運サヽル可ラス夫レ英國ハ歐ノ雄邦ニシテ國富ミ人衆ク覇ヲ海上ニ稱シ旌旗四海ニ繞ヘリ勇威八表ニ輝ク且ツ其將士訓練ノ久シキ經歷ノ多キ號令ニ服シ戰鬪ニ勇ニ鐵艦ヲ運轉スルヿ四支ノ如ク巨礮ヲ運用スルヿ槍銃ニ似タリ銳鋒ノ向フ所鐵ヲ碎キ岩ヲ破リ目ニ又强敵ナシ大ニ拿破倫遠征ノ兵ヲ亞武邱港ニ破リ佛西二國ノ艦隊ヲ土羅河苛港ニ鏖ニシ土埃ノ軍艦ヲ希臘海ニ戮スカ如キ强烈前無キヿ推知ス可キナリ我埃及ハ國力漸ク疲弊シ財枯レ民散シ謀ニ長スルノ將寡ク軍ニ慣ルヽハ

兵少ク銃礮ノ利船艦ノ牢英國ノ十ノ一ニ及ハス海戰ノ具未タ形ヲ成サス陸戰ノ堡壘未タ備ラス四隣ノ國我ト同盟ヲ締シ緩急相助ケ攻守相救フモノナク實ニ危急存亡ノ勢ニ迫レリ嗚呼敵ノ國勢彼ノ如ク我カ國勢此ノ如シ然リ而シテ干戈ヲ交ヘテ相戰ハント欲ス亦危カラスヤ蓋今日ノ戰略ヲ論スル者曰ク牙纛ヲ海樓府ニ樹テ沿海ノ礮臺ニ據リ以テ襲擊ヲ禦ク可シ又曰ク固ク城壘ヲ守リ敵ヲ平野ニ待チ一戰以テ勝敗ヲ決ス可シト某竊ニ之ヲ慮ルニ是則チ敵ノ術中ニ陷ルモノニシテ勝算ノ萬ニ一ヲ期ス可ラサルヲ知ルナリ若シ輕〻シク動キ正正ノ旗ヲ邀ヘ堂堂ノ陣ヲ擊タハ余其一敗地ニ塗レ部伍散亂收拾ス可ラサルヲ恐ルヽナリ然ラハ則チ我兵終ニ以テ英軍ト抗ス可ラサルカ我國終ニ以テ國權ヲ復ス可ラサルカ曰ク否戰略ノ如何ニ在ル耳夫レ兵ハ詭道ナリ勢ニ由テ利ヲ制セハ弱以テ強ヲ拒ク可ク怯以テ勇ニ敵ス可ク寡以テ衆ヲ破リ小以テ大ヲ挫ク可ク佚ヲ以テ勞ヲ待ツモノハ勝チ勞ヲ以テ佚ニ當ル者ハ敗ル水ノ形ハ高ヲ避ケテ而シテ下ニ趨キ兵ノ形ハ實ヲ避ケテ而シテ虛ヲ擊ツ我カ英軍ヲ拒クノ術亦此ニ慮ラサル可ラス蓋明侯卒然將士ヲ率キテ海樓歷山ノ諸都ヲ棄テ退テ西南ノ內地ヲ保チ右ニ灘江ノ長流ヲ帶ヒ左ニ砂原ノ沙漠ヲ控キ背ニ群蠻ノ土民ヲ懷ケ蘇丹ノ糧養ニ據リ檄ヲ四方ニ傳ヘ愛國ノ義兵ヲ招キ以テ軍氣ノ震起スルヲ待ツ可シ是レ佚ヲ以テ勞ヲ待ツノ策ニ非スヤ請フ更ニ之ヲ細論セン夫レ善ク戰フ者ハ不敗ノ地ニ立テ敵ノ敗ヲ失ハス今夫レ我兵遠ク西南ニ退カンカ英兵其後ニ尾シ以テ我カ據ヲ衝カント欲スルヤ必セリ然レ𪜈彼レ地勢ニ暗ク水利ヲ知ラス糧食ニ乏シク氣候風土ニ慣レス熱風ノ酷瘴氣ノ烈勇氣ヲ挫折シテ遂ニ邪瘴ノ流行ヲ招キ萬里ノ沙漠前ニ瀰漫シ人病ミ馬瘦レ未タ陣ヲ布キ刃ヲ接セスシテ必ス其大半ヲ失ハン然リ而シテ我軍ハ則チ旬月ヲ出テス精兵七萬突騎三萬檄ニ應シテ我麾下ニ群臻スルヿ明カナリ因テ壘ヲ結フ千里旗ヲ江原ニ樹テ以テ其來ルヲ待チ輕騎ヲ放チテ敵ノ不意ヲ襲ヒ土兵ヲシテ出沒其輜重ヲ刦シ以テ彼ノ衰勢ニ乘セハ元帥謀略ニ富ムト雖𪜈器械精練ヲ極ムト雖𪜈豈又恐ルヽニ足ランヤ且ツ我軍會〻其鋒ヲ交ヘテ小挫折ニ會フアリト雖𪜈更ニ退キテ之ヲ避ケハ戰ハスシテ彼ノ兵ヲ屈スルヿヲ得ン凡ソ師ヲ興ス十萬出テ征スル千里百姓ノ費公家ノ奉日ニ千金ヲ費シ且ツ其戰ヲ爲スヤ勝ツト雖𪜈久シケレハ則チ兵ヲ鈍シ鋭ヲ挫ス城ヲ攻ムルトキハ則チ力屈ス久シク師ヲ暴ストキハ則チ國用足ラス敵國其弊ニ乘シテ起ル智者有リト雖𪜈其後ヲ善クスルヿ能ハス夫レ我兵ハ國內ニ屯シ糧食ヲ境外ニ仰カス內ニ取リ內ニ散シ以テ外敵ヲ拒クニ過キス其力能ク數年ヲ支フルヿ實ニ易易タル耳然レ𪜈英軍ハ則チ懸軍萬里深ク敵地ニ入リ空城ヲ陷ルモ以テ財貨ヲ求ム可ラス土地ヲ占ムルモ以テ禾穀ヲ得可ラス徒ニ沙漠ノ間ニ往來シテ更ニ得ル所ナク兵器糧食皆之ヲ萬里ノ外ニ求ム其費ス所豈唯一日萬金ノミナランヤ歐人兵ヲ興スハ元ト利慾ヨリ出ツ且ツ十九世紀ノ勝敗ハ兵ヲ失フノ多寡ニ非スシテ財ヲ費スノ如何ニ決ス英人焉ソ日ニ萬金ヲ費シ千人ヲ失ヒ曠日彌久師ヲ我國ニ留ムルヿヲナサンヤ夫レ兵ヲ鈍シ鋭ヲ挫シ力ヲ屈シ貨ヲ殫ストキハ四面其弊ニ乘シテ起ル故ニ海外ハ藩屏背反ヲ謀リ愛蘭獨立ヲ計リ反對ノ政黨之ヲ內ニ排シ宿恨ノ隣邦之ヲ外ニ刦シ遂ニ費用足ラス援軍乏ク遠征ノ孤軍ヲシテ進ンテ據ル所ナク退テ守ル所ナク氣ヲ失ヒ膽ヲ喪ヒ自ラ土崩瓦壞スルニ至ラシメン我軍即チ莞然其弊ニ乘セハ一擧シテ全軍ヲ覆シ大業收ムヘキナリ夫大業ヲ期スル者ハ小累ヲ思フ可ラス非

蘇丹地方略圖



(原本插入地圖)

常ノ大謀ヲ決スル者ハ非常ノ決斷ナカル可ラス兵ヲ用キルノ害ハ猶豫最モ大ナリ三軍ノ災ハ孤疑ヨリ過クルハナシ兵ヲ知ルノ將ハ民ノ司命國家安危ノ主ナリ願クハ明侯之ヲ裁セヨ

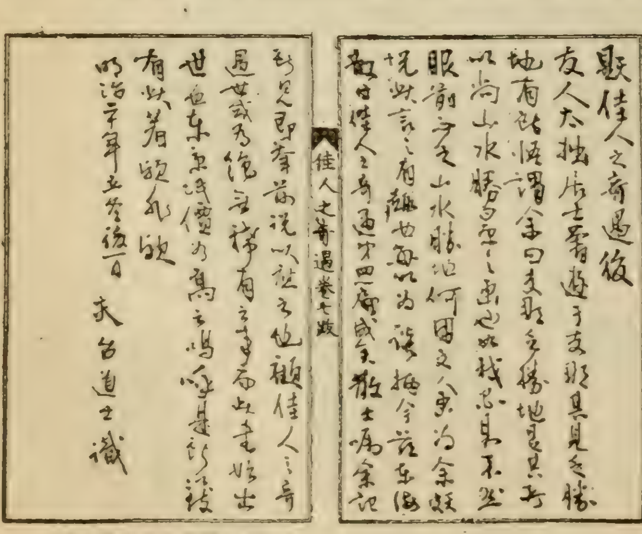
夫人又語ヲ繼テ曰ク亞剌飛侯直ニ軍議ヲ開キ諸將ヲ會シ其意見ヲ吐露セシム參謀如安似佞ハ瑞西ノ人ナリ人ト爲リ狹量ニシテ其勇ニ驕リ大計ニ暗シ幽將軍カ一朝此地ニ來リ上下ノ信任ヲ得テ其謀略亦及フ可ラサルヲ思ヒ諸將ニ謂テ曰ク英人何ヲカ爲サン彼レ外強威ヲ示スモ內實ニ衰弊ヲ極メ兵艦概ネ朽腐ニ屬セサルナク兵士皆惰弱ニ流レサルナシ我兵居然險ニ據テ邀擊セハ一擧破ル可キナリ幽將軍耄耋彼我ノ狀勢ヲ詳ニセス首ヲ畏レ尾ヲ畏レ目唯敵軍ノ畏ル可キヲ見テ我兵ノ禦ク可キヲ知ラス徒ニ彼ノ猖獗ヲ唱ヘテ我軍氣ヲ挫ク其言固ヨリ用キルニ足ラサルナリ埃及王元ヨリ海樓府ヲ去ルニ意ナシ似佞ノ言ヲ聽キ將士ニ令シテ京城ヲ守ラシム諸將士亦相共ニ語テ曰ク未タ一矢ヲ放タス歷山海樓ノ都城ヲ棄テ兵ヲ率キテ退クハ最モ勇士ノ愧ツル所ナリト僧侶輩其間ニ在リ讒言ヲ逞ウシテ曰ク幽將軍西教ヲ奉スルモノナリ故ニ邪教ノ勝タンヿヲ願フモノナリ敵兵ノ間諜ニシテ兩都ヲ擧ケテ英軍ニ賣ラント欲スル者ナリト是ニ於テ亞剌飛侯心惑ヒ慮亂レ先ツ海樓府ヲ固守シ以テ敵軍ニ抗セント決セリト散士曰ク僕一介ノ書生素ヨリ韜略ニ通セス唯好テ劍ヲ談シ兵ヲ說キ以テ一時ノ快ヲ取ル耳然レ𪜈今埃及防戰ノ策略ヲ案スルニ幽將軍ノ說ク所ニ若クモノナシ英軍久シキニ堪ヘスシテ軍ヲ退クルヤ必セリ然ルニ遂ニ用キラルヽヿ能ハス嗚呼英雄常ニ群小ノ爲メニ嫉マレ長策多ク長袖ノ爲メニ阻マル古ヨリ然リトナス眞ニ嘆ス可キナリ知ラス幽將軍ハ如何ソ身ヲ此間ニ處スルヲ昔者范增項羽ノ將トナリ其策用キラレス稍疑ハルヽヲ知リ大ニ怒テ曰ク天下ノ事大ニ定矣君王自ラ之ヲ爲セ願クハ骸骨ヲ乞ウテ卒伍ニ歸セント傑士ノ志ヲ得ル能ハサルニ至リテハ又止ム可ラサルナリ幽將軍豈又此ニ出テスヤト夫人曰ク否幽將軍ハ大ニ之ト異ナリ乃チ妾ニ謂テ曰ク願クハ阿娘蘭兒ト共ニ海ニ航シ密ニ歐洲ニ赴キ以テ干戈ノ禍ヲ免レヨ余ハ今衆疑ノ府トナリ萬人目ヲ余カ去就ニ注キ偵吏慮ヲ余カ擧動ニ焦ス去ラント欲シテ去ルニ術ナク逃レント欲シテ逃ルニ路ナシ又僥倖ヲ萬一ニ期シ却テ恥辱ヲ蒙ルニ忍ヒサルナリ故ニ余ハ唯一快戰シテ以テ生死ヲ天運ニ問ハント欲スト更ニ顧ミテ幽蘭女史ニ謂テ曰ク汝ハ則チ夫人ニ從テ速ニ此地ヲ去ル可シト女史流涕シテ曰ク妾ノ米國ヲ出テ歐洲ニ航スルヤ唯阿爺ヲ萬死ノ中ニ救フニ在リ若シ救フ能ハサレハ共ニ生死ヲ同ウセント欲スルニ在リ阿爺ノ危急ニ臨ミ阿爺ノ艱難ニ瀕スルニ至リ袖ヲ振テ去ルノ意アラハ豈故ラニ萬里ノ波濤ヲ涉テ遠ク歐洲ニ來ランヤ事既ニ此ニ至ル妾亦阿爺ニ沙漠ノ中ニ從ヒ炎風火雨ノ下砲烟彈雨ノ間其辛苦ヲ共ニシ其艱難ヲ同ウセン獨リ夫人ハ妾等ト宿緣アルニ非ラス且ツ金玉ノ身速ニ此處ヲ去ラサル可ラスト妾情交ノ結フ所卽チ別離スルニ忍

ヒス奮テ曰ク妾モ亦生死ヲ同ウセント幽將軍
曰ク然ラハ則チ兒ハ余ト共ニ此土ニ留マル可シ
然レモ夫人ハ決シテ余等ト去就ヲ共ニス可ラス
蓋夫人ハ父兄ノ存スルアリ其前途ニ期スル所
豈更ニ大ナルモノナカランヤ今此地ニ留マリ余
等ト生死ヲ共ニス亦何ノ益アラン一日ヲ延フレ
ハ一日ノ悔ヲ遺スノミ速ニ意ヲ決シテ故國ニ
還ル可シト妾心實ニ潔トセサルモ其理アル
ニ感シ止ムヲ得スシテ其言ニ服ス幽將軍大ニ
喜ヒ一書ヲ裁シテ皇兄頓加羅ニ奉寄スルヿヲ
託シ且ツ慇懃ニ後來ノ事ヲ說キ幽蘭女史ハ又妾
ニ謂テ曰ク紅蓮范卿ハ二氏交友ノ誼ニ依リ妾等
カ爲メニ百年ノ身ヲ擲テ萬世不歸ノ鬼トナル是
實ニ妾カ哀恨傷惋懷裏ニ往來シテ寤寐猶ホ忘ル
ルヿ能ハサル所ナリ故ニ一片ノ碑ヲ破船ノ近岸
ニ建テ以テ妾カ微心ヲ二君ノ靈魂ニ告ケントス
蓋一種ノ哲學ヨリ之ヲ見レハ碑文弔祭ノ如キ
無用ノ事タルヘシト雖モ人情ノ感然ラサルヲ得
サルモノアリ然レモ事既ニ此ニ至ル妾ノ生死又
期ス可ラス焉ソ再ヒ歐洲ニ反リ碑ヲ建ツルヲ
期ス可ケンヤ願クハ夫人妾カ此情ヲ憐ミ妾ニ
代リテ其勞ニ當レ是レ妾カ終生ノ願ナリト妾曰
ク妾亦深ク令孃カ眞情ヲ察セリ其建碑ノ如キ
ハ易易タルノミ妾必ス令孃ノ言ヲシテ空ウセ

シメス敢テ念トナス勿レト女史喜ヒ更ニ左指ノ
金環ヲ取リ妾ニ與ヘテ曰ク聊カ以テ餞意ヲ表ス
ル耳若シ又天涯地角東海散士ニ萍逢スルヿアラ
ハ是ヲ以テ證トナシ妾カ流離窮厄ノ猶ヲ告ケヨ
ト語畢リテ涙滂沱トシテ下ル妾モ亦首ヲ低レ飲
泣シテ首肯ス既ニシテ行裝ヲ修メ密ニ船ニ搭シ
テ伊國ニ歸ル家人皆大ニ駭キ喜テ曰ク既ニ
已ニ死セリトセリ何ソ其幸ナルヤト手ヲ握リ
テ歡喜極リナシ妾乃チ來歷ノ大略ヲ父兄ニ
告ケ又幽將軍ノ書ヲ皇兄ニ送ル其後獨リ幽蘭
女史ノ事ヲ苦慮シ憂鬱ノ狀自ラ老父ノ疑フ
所トナル老父曰ク日來汝ノ容貌甚タ憂アルモ
ノ、如シ豈其故ナカランヤ何ソ明ニ之ヲ語ラ
サルト妾依テ詳ニ幽蘭女史ノ來歷ヲ語リ又其
建碑ノ事ヲ告ケ更ニ其方法ヲ問フ老父稍ミ沈思
シテ曰ク幽蘭女史カ其親友ヲ悼ミ碑ヲ海岸ニ建
テントス情義實ニ稱スルニ堪ヘタリ又汝カ之
ニ代リテ其勞ニ當ルハ最モ其宜キヲ得タル者ト
謂フ可シ然レモ余熟ミ之ヲ思フニ夫ノ紅蓮范卿
ハ二人果シテ長逝ノ客トナルカ皇天明アリ志士
仁人ヲ擁護シテ猶ホ身ヲ今日ニ完ウスルカ未タ
明ナラサルアリ而ルニ碑ヲ建テ魂魄ヲ弔ハン
ト欲ス豈又太タ早カラスヤト妾曰ク否否風雨此
ノ如ク波濤此ノ如ク船艦ノ覆沒此ノ如ク豈生命

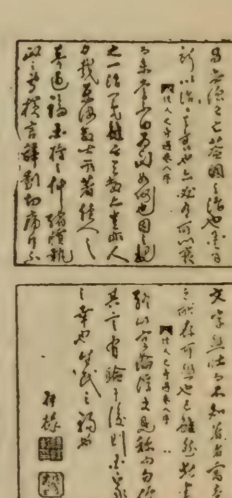
ヲ今日ニ完ウスルノ理アランヤ妾カ如キハ僥倖
中ノ僥倖ト謂フ可キノミト老父曰ク汝既ニ僥倖
中ノ僥倖タリ焉ゾ二人モ亦僥倖中ノ僥倖タラサ
ルヲ知ランヤト妾反覆之ヲ爭フ老父更ニ溫言ヲ
以テ諭シテ曰ク愛兒心ヲ沈メテ余カ言ヲ聞ケ夫
レ世事人事ハ支離錯雜最モ甚シキモノニシテ落
花流水ヲ見テ凄然懷ヲ傷メ無情悲哀ノ感ニ堪ヘ
サルモノアリ落花流水ヲ見テ莞然情ヲ喜ハシ高
情康樂ノ快ニ堪ヘサルモノアリ各々觀ル所ノ如
何ニヨリテ相懸隔スルヿヲ免レス然ラハ則チ哲
學上ヨリ推究センカ亦斷定シ難キヲ奈何抑々憂
哀主義ヨリ觀スレハ世界ハ艱厄ノ汚土社會ハ不
平人生ハ究苦動物ニシテ泡沫夢幻草上ノ露ノ如
ク風前ノ燈ニ似タリ或ハ生レテ而シテ未タ期ナ
ラス忽チ夭折スルモノアリ或ハ生來不具目色ヲ
見ル能ハス手形ヲ捉ル能ハス足地ヲ歩ス能ハサ
ルアリ或ハ一滴ノ水破症水トナリ忽チ身體ヲ失
フモノアリ或ハ一爪ノ傷破症風トナリ俄ニ生命
ヲ損スル者アリ生ヲ一掬ノ水ニ繫キ命ヲ一息ノ
氣ニ絕ツ波波乎トシテ其レ危哉或ハ百暴ヲ行ヒ
而シテ且ツ一生ヲ坎壈轗軻ノ外ニ脫スルヿ能ハ
ス逡々トシテ路頭ニ餓死スルモノアリ或ハ罪過
ナクシテ電雷ノ上ニ震ヒ地震ノ下ニ崩ル海路
ニ覆溺ニ遇ヒ鐵路ニ衝突ニ陷ル者其幾萬人ナル

ヲ知ラス嗚呼生命ノ短促脆弱ニシテ人世ノ多難不幸ナル之ヲ思ヒ之ヲ慮ルヿ愈〻益〻深クシテ愈〻益〻憂哀無常ノ甚シキニ感觸スルナリ實ニ天下萬物憂哀ノ種ニアラサルハナシ然レ𪜈若シ夫レ精神ヲ一鍊シテ康樂主義ヨリ觀センカ世界ハ幸福ノ樂土ニシテ人生ハ萬物ノ主宰ナリ故ニ電ヲ擒シ風ヲ捉ヘ水ヲ玩ヒ火ヲ使ヒ以テ山岳ヲ搖スヘク以テ鐵艦ヲ動スヘク以テ石城ヲ碎ク可ク激浪怒濤ノ上ヲ行クヿ平地ノ如ク風ニ御シ雲ヲ渡リ半空ヲ翔ルヿ飛鳥ノ如ク宇內ノ事物耳目ノ觸ル、所悉ク吾有ナラサルナク一念ノ動ク所一トシテ爲ス可ラサルナシ豈亦一大愉快ナラスヤ且ツ人ノ生命ノ如キモ短促脆弱ナリト觀セハ則チ短促脆弱ナリ然レ𪜈長壽强健ナリト觀セハ則チ長壽强健ノモノナリ或ハ虎穴ニ陷リテ生命ヲ全ウスルモノアリ或ハ四支ヲ切斷シ或ハ身體ヲ解破シ而シテ一死ヲ免ルモノアリ又或ハ船大洋ニ破レ永日ヲ一片ノ板ニ繫キ而シテ救濟ニ遭フモノアリ何ソ夫レ短促ナランヤ何ソ夫レ脆弱ナランヤ且ツ夫ノ峨馬治ヲ見スヤ南船北馬兵ヲ起シ軍ニ加ハルヿ幾タヒナルヲ知ラス萬死ノ途ニ出入シテ生擒セラル、モノ前後十餘回ニ及ヒ傷創身ニ遍クシテ體ニ完膚ナシ然レ𪜈終ニ大業ヲ建樹シテ天年ヲ自由ノ鄕風月ノ里ニ送ルヲ得タリ又夫ノ普國ノ三傑ヲ見スヤ硝煙彈雨ノ間ニ馳騁シ國內ノ禍亂ヲ掃蕩シ刺客姦黨ノ襲擊ヲ免レ精鋭無前ノ鄰敵ヲ挫折シ遂ニ獨乙聯邦ヲ統一シ今ヤ國威ヲ五州ニ張リ良將賢相名君ト鼎立シテ其情水魚ノ如ク浸潤ノ潛膚受ノ愬行ハレス其一言一行ハ萬國君相ノ肝膽ヲ驚スニ非サルナシ又夫ノ佛ノ鑼柄斗ノ如キ此老爺ノ如キヲ見スヤ國步艱難ノ時ニ際シ或ハ勝チ或ハ敗レ或ハ囹圄ノ中ニ幽セラレ或ハ父母ノ國ヲ放追セラレ流離困厄而シテ猶ホ八十餘年ノ長壽ヲ全ウス故ニ人間ノ喜悲ト生死トハ自ラ天運宿因ノ然ラシムル所アリテ人智ノ窺ヒ計ル可ラサルモノアリ是ニ由テ之ヲ推セハ紅蓮范卿ノ二人焉ソ今日ノ恙ナキニ非ラサルヲ知ランヤ汝更ニ二人ノ踪跡ヲ探リ之ヲ詳ニシ之ヲ明ニシ而シテ後果シテ不歸ノ人タルヲ知ラハ則チ始メテ石碑ヲ海角ニ建テ以テ幽魂ヲ慰ムルモ未タ遲キニ非ラサルナリト妾退テ反覆熟慮スルモノ終夜漸ク老父ノ言フ所其理アルヲ覺リ卽チ以爲ラク若シ二人ノ中生命ヲ全ウスル者アラハ必ス踪水ノ隱家ニ歸ラン若シ歸ラサルモ亦其音信ヲ聞クヿヲ得ン不幸ニシテ返ルモノナク又音信ヲ通スルモノナクンハ則チ東海散士ヲ尋訪シ幽蘭女史ノ境遇ヲ語ラン是亦女史ノ志ヲ通スルモノニシテ徒勞タラサルニ足ラント卽日家ヲ發シ昨夜始メテ費府ニ着セリト紅蓮起テ謝シテ曰ク嗚呼夫人ノ厚誼此ノ如キカ妾蒙昧之ヲ覺ラス其罪又謝スルニ辭ナシ請フ之ヲ恕セヨト散士嘆シテ曰ク嗚呼皇天未タ忠孝ノ人ヲ捐テス幽蘭女史猶ホ今日ニ生存スルヲ得ルカ然ラハ則チ范老モ亦身ヲ天涯ニ全ウシテ再遇ノ期アル無カランヤ然レ𪜈埃及ノ逆境挽回ス可カラサルヲ如何セント語未タ終ラス自鳴鐘鏘鏘聲アリ顧レハ則チ後六點ヲ報スルナリ



（原本四篇卷七天臺道士跋）

紅蓮二人ヲ顧ミテ曰ク談話ノ爲メニ日景ノ既ニ傾クヲ忘ル顧フニ兩君大ニ飢ヱタルヘシ妾聊カ麤餐ヲ備ヘ又更ニ相語ルヘシト戸ヲ開キテ廚房ニ入リ去ル散士椅子ヲ進メテ曰ク聞ク初メ夫人大西洋ヲ航スルノ時既ニ已ニ僕カ名ヲ知ルト僕未タ夫人ヲ知ラス夫人何ヲ以テ僕カ名ヲ知ルト夫人曰ク郎君曾テ芙蘭麒麟ノ墓ヲ弔ヒ一士人ニ邂逅セシヲ忘レサルヘシ散士曰ク詳ニ之ヲ記セリ高節公ノ偉功ヲ語リ波蘭ノ盛衰ヲ說キ僕ヲシテ憾慨禁スル能ハサラシメタル者ハ則チ彼ノ士人ナリト夫人曰ク是レ則チ妾カ家嚴ナリ當時妾モ亦墓邊ニ在リ暑ヲ樹陰ニ避ケ敢テ郎君ニ面セスト雖モ其談話ハ竊カニ之ヲ樹陰ニ明ニセリト散士曰ク僕啻ニ其姓名ヲ問ハサリシノミナラス又何國ノ人ナルヤヲ知ル能ハス常ニ以テ遺憾トセリ何ソ料ラン是レ夫人ノ父君ナラントハト夫人曰ク然リ父名ヲ骨數斗ト謂ヒ妾名ヲ瀟梨ト呼ヒ元匈牙利ノ產ナリト散士驚キ且怪ミ問ウテ曰ク僕夫ノ雄略歐米ニ轟キ義烈鬼神ヲ泣カシメ經濟ノ才高潔ノ風萬人ノ仰瞻スル骨數斗其人アルヲ聞クヤ久シ知ラス父君ハ其同族ノ人ナルヤト夫人答テ曰ク郎君ノ所謂骨數斗ハ則チ是レ我カ父ナランカ匈國中我カ父ヲ置テ而シテ又天下ニ名アルノ骨數斗アルヲ聞カス嚮日郎君ト芙公墓畔ニ邂逅シテ波蘭ノ形勢ヲ痛論シ東洋ノ國狀ヲ慨歎シタル者ハ則チ郎君ノ所謂骨數斗ナリト散士蹶然容ヲ改メ席ヲ起チ謝シテ曰ク嗚呼眞ニ然ルカ嗚呼是レ乃チ余カ常ニ欽慕スル骨數斗公カ僕蒙昧英雄ヲ識別スルノ眼ナク見テ以テ一箇ノ路人トナス慚愧何ソ堪ヘン偏ニ夫人ニ賴リテ其罪ヲ謝スルノミト時ニ紅蓮戸ヲ開キ入リ告ケテ曰ク晩餐既ニ成ル請フ食堂ニ來レ杯ヲ擧ケテ以テ今日ノ吉報ヲ祝セン未來ノ事未タ知ル可カラサル者アリト雖モ天運未タ盡キスンハ豈幽蘭諸氏ト手ヲ一堂ノ中ニ握ルノ時ナカランヤト散士夫人ト共ニ紅蓮ニ尾シ食堂ニ入リ各〻玉杯ヲ把リ斟酌二三行襟懷漸ク陶然タルヲ覺ユ時ニ秋月前邱ノ上ニ出テ皓々トシテ疎松殘楊ノ枝ニ掛リ餘光ヲ漏シテ窓紗ノ中ニ入ル散士之ヲ見テ二人ニ謂テ曰ク何ソ彼ノ窓外ノ好景ヲ見サルヤ今ヨリ須ク小舟ヲ艤シ月ニ棹シテ蹄水ノ流ニ浮ヒ更ニ胸襟ヲ吐露シ以テ今夕ヲ永ウスヘシト夫人笑テ曰ク妾モ亦大ニ望ム所ナリ然レ𪜈妾紅謝シ芳去リ綠蔭既ニ濃ニ兩君カ芳艷春ヲ競フノ間ニ入ルヿヲ羞ツル耳且ツ郎君落花春ヲ傷ムノ妾ヲ攜ヘテ舟ニ上ルモ群葩笑ヲ昰ルハ昔遊ヲ追想シ難シト紅蓮微笑シテ曰ク歐人ノ諺ニ曰ク二八ノ芳蕾ハ艷麗目ヲ悅ハシム可シ妖媚情ヲ分スルモノハ滿開五五ノ後ニ在リト夫人何ソ自ラ棄ツルヿノ早キヤト夫人亦笑ヲ含ミテ曰ク此ノ說ノ當否豈能ク婦女ノ專決シ得ヘキ者ナランヤ是レ男子ノ任ナリト眼ヲ散士ニ注ク散士杯ヲ手ニシ融然トシテ曰ク日本ハ則チ自ラ美人ノ定期アリ子女十七八ヲ以テ最愛ノ佳期トナス故ニ諺ニ曰ク土茶ノ新烹能ク飲ムニ堪ヘタリ夜叉ノ十七猶ホ愛スヘシト然レ𪜈好惡人相異ナリ情愛境遇ノ如何ニヨリテ相同キ能ハサレハ概論ス可カラサルモノアランカト夫人曰ク然ラハ則チ試ミニ郎君ノ意ヲ以テ之ヲ斷セハ美人何歲ヲ以テ眞正ノ芳期トナスヤ郎君ノ言語中模糊兩端ノ意ヲ含ミ春花秋月兩ナカラ之ヲ愛スルノ意アルヲ疑ハシムト散士笑テ曰ク


(原本四編巻八三浦梧樓氏序)

難イ哉嚴ナル哉夫人ノ問ヒヤ僕婦人ト交遊締結殆ント稀ナリ豈焉ソ能ク此大疑題ヲ決ス可ケンヤト紅蓮曰ク郎君又何ノ憚ル所カアラン各〻其志ヲ謂ハン耳先ツ郎君ノ意中ヲ語レト散士杯ヲ置キ莞爾トシテ曰ク然ラハ則チ先ツ余カ思フ所ヲ述ヘン兩妃僕ヲ弄スル勿レ蓋シ散士ヲ以テ之ヲ見ルニ美人ニハ決シテ年齡アルモノニ非スト紅蓮忙シク問ウテ曰ク奇語妾ノ未タ聞カサル所想フニ必ス其說アラン散士答テ曰ク眞正ノ美人ナル者ハ容色秀麗ノ謂ヒニアラスシテ社會ノ人情ニ慣レ粗ホ文學技藝ニ達シ男女ノ交際情愛ノ眞味風流ノ韻事詩歌音樂ノ事語ル可カラサルナク通セサルヿナク而シテ後始メテ眞成ノ美人ト謂フヘキナリ世人十六七ヲ以テ美人ノ芳期トナスト雖モ稚春未タ與ニ春風蕩駘ノ興味ヲ語ルニ足ラサルヘシ抑〻往古希臘ニ絕代ノ美人アリ月ヲ望メハ月、光ヲ閉チ花ヲ眺ムレハ花、艷ニ羞ツ上帝之ヲ見テ忽チ戀慕ノ情ヲ起シ化シテ白鳥トナリ相馴レテ數〻相戲レ遂ニ一女ヲ擧ク美人妃蓮是ナリ秀麗絕艷夐ニ其母ノ上ニ出ツ既ニシテ斯破流多王ノ皇妃トナリ年漸ク長スルニ從ヒ容色年ニ加ハリ四十餘歲ニ至ル比ヒ嬋娟ノ容嬌娜ノ色見ルモノヲシテ心飛ヒ魂ヲ惑ハサシム遂ニ土魯葦侯巴禮斯ト親ミ擬情ノ結フ所相棄ツルヿ能ハス相携ヘテ歐亞ノ海境ヲ越エ土魯葦國ニ出奔ス諸侯之ヲ聞キ其無禮不義ヲ憤リ之ヲ責ム肯セス是ニ於テ諸侯遂ニ大兵ヲ擧ケテ土魯葦ヲ伐チ攻圍十二年ノ久キニ彌リ漸ク土魯葦城ヲ陷レ妃蓮ヲ奪ヒ歸ルニ及ヒ其美其婉更ニ昔日ニ異ナラス老イテ益〻艷麗ナルヲ見ルノミ時ニ年既ニ五十二歲ナリト云フ果シテ然ラハ美人ニ年齡ナキヲ知ル可シ羅馬ノ普禮驅須カ宮女阿志波斯彌ヲ娶ルヤ時ニ阿志波斯彌年三十餘歲ニシテ才貌秀麗一世ヲ傾ケ其後三十餘年間美日ニ加ハリ麗月ニ增シ六十有餘ニシテ見ル者目ヲ驚カシ魂ヲ迷ハシメ道路逢フ者覺エス首ヲ回サヽル者ナシト云フ亦以テ美人ニ年齡ナキヲ知ル可シ埃及ノ女王久麗王葩都羅ハ曠世ノ美人ナリ其弟ノ爲メニ王位ヲ簒奪セラルヽニ當リ久麗王葩都羅羅馬ノ名將獅威挫ヲ見潸然涕ヲ垂レテ救援ヲ乞フ獅威挫ハ雄略ヲ以テ猶ホ其容色ノ嬌娜ニ迷ヒ前途ノ大業ヲ忘レ救援ヲ誓ヒ親カラ矢石ヲ犯シ圍城ノ中ニ困厄シテ悔イス遂ニ相携ヘテ羅馬ニ歸リ名頗ル損スルヲ顧ミス續テ獅威挫ノ敗後勇將安斗乳女王カ叛將ヲ助ケシヲ怒リ直ニ嚴刑ニ處セント欲シ之ヲ召ス久麗王葩都羅之ヲ聞キ盛ニ粧飾ヲ修メ珠玉ヲ帶ヒ光彩陸離絃歌舟ニ棹シテ赴ク安斗乳一見魂飛ヒ心迷ヒ勇氣挫折亦其罪ヲ問ハス家ヲ捨テ妻ヲ顧ミス共ニ埃及ニ行キテ還ラス時ニ年既ニ三十ヲ起ユ其後十年盛容艷情兩ナカラ衰ヘス其自殺スルニ至ルマテ久麗王葩都羅ノ容顏日ニ姸麗ノ加ハルヲ見テ遂ニ婉嬌ノ萎スルヲ見スト云フ亦以テ美人ニ年齡ナキヲ知ルヘシ羅馬ノ美人黎美婀ノ始メテ王莪斯大王ノ寵愛ヲ得タルハ三十三ノ時ニシテ其後宮中ヲ專ニシ大王ヲ掌裡ニ玩フヿ三十七年而シテ宮中ノ美人新選ノ娥人曾テ一人ノ寵ヲ爭ヒ美ヲ競フモノアルナシト謂フ亦以テ美人ニ年齡ナキヲ知ル可シ近世ノ美人ニ至リテモ亦皆然ラサルハナシ美人留婀玖娘ハ三代ノ少年ヲ悩殺セシメ而シテ其高僧邊禮カ老衰ヲ忘レ教法ニ背キ懸戀シテ他人ノ爲メニ指斥セラレシ時ハ留婀玖娘齡七十ノ時ニ在リ其名ヲ聞ク者ハ神飛ヒ魂馳セ其容ヲ見ルモノハ肉消シ腸斷エ死スルノ日歐洲ノ多情男子長大息セサルモノナシト云フ美人年齡ナキニ非スヤ俄ノ女帝峨嵯嶙ハ三十三ニシテ帝位ニ卽キ壯勇ノ猛將於流怒留夫ヲ一秋波ノ間ニ籠絡シ其後三十三年間幾多ノ勇士ヲ悩マシ幾多ノ少年ヲ迷ハシ崩スルニ當リテハ情涙ヲ催スモノ北幾人ナルヲ知ラスト云フ美人豈年齡ナキニ非スヤ禮加美亞モ亦佛ノ尤物ナリ馬羅豪膽猶ホ且ツ

一見懸戀シテ爲メニ勢力傾キ名聲損スルモ顧ミサルニ至リシ時ハ禮加美亞三十八歲ニ達セリ爾來十五年間歐洲第一ノ美名ヲ博シ嘗テ一人ノ之ヲ非議スルモノナシト云フ又以テ美人ニ年齡ナキヲ證スルニ足ラスヤト夫人笑テ曰ク何ソ其引證ノ該博ナルヤ果シテ郎君ノ說ク所ノ如クナラハ妾ノ如キ者亦未タ落花紅葉ヲ恨ムニ足ラサル歟ト散士曰ク是レ蓋シ歐米諸國殊ニ然リト爲スノミニ非ス東洋諸國ニ在リテモ亦然リトス唐人ノ詩ニ曰ク霜葉紅レ於二二月花一ト世ニ傳フ西王母アリ年百餘歲常ニ桃ヲ食シ顏色玉ノ如ク西池ニ浴シ肌白雪ノ如シ楚ノ襄王西遊弱水ヲ渡リ雲夢ニ會シ雲トナリ雨トナリ千載ノ後多情ノ王公ヲシテ猶ホ追懷羨怨セシム唐ノ則天武氏ハ麗容嬋姸楚楚人ヲ動カシ髮ヲ削リ人事ヲ謝絕シ寺院ニ退隱ス高宗一見忘ル丶能ハス父ニ背キ恥ヲ顧ミルニ暇ナク後宮ニ內レ厚ク迷ヒ深ク溺レ遂ニ王皇后及ヒ蕭良娣ヲ廢シタルハ武氏三十年ノ後ニアリ高宗崩スルニ及ヒ則天聖帝ト號シ或ハ浮屠懷義ヲ寵シ或ハ御醫沈南璆ヲ愛シ死ニ至ルマテ色情兩ナカラ衰ヘス故ニ唐書ニ曰ク太后春秋高シト雖モ善ク自ラ塗澤シ左右ト雖モ其容色ノ衰ヘタルヲ認メス妖冶猶ホ人ヲ惱マシ諸豪傑爭ウテ命ヲ聽キシト云フ時ニ年齡八十餘亦以テ美人ニ年ナキヲ證スヘシ鹽谷判官ノ妻西臺ハ早田宮ノ女ナリ其未タ嫁セサルヤ世人皆曰ク西臺ノ美之ヲ百花ニ比センカ梅花ハ其香馥郁眞ニ人ヲシテ喜ハシム可シト雖モ樹ニ婀娜ノ風ナシ櫻花ハ色美ナレモ花ニ馥郁ノ香ナシ楊柳靑靑風ニ舞ヒ水ニ戲レ其姿愛スヘキモ香ナク色ナキヲ如何セン梅香ヲ櫻花ニ移シ之ヲ柳枝ニ開カシメハ始メテ能ク西臺ノ美ト競フヲ得ント其後高貞ニ嫁シ貞從十餘年芳名益ミ高シ高師直湯沐ノ風姿婀娜タルヲ窺ヒ芳容目ニ遮リ麗影懷ニ往來シ艷書千百貞婦ヲ動シ得ス僅ニ一歌ヲ得テ煩惱ノ情念燃エテ消シ得ス遂ニ判官ヲ讒殺シテ以テ婦人ヲ奪ハントセシ時ハ西臺年亦三十五歲ヲ過キタリシト云フ美人年ナキノ說豈其レ眞ナラスヤト紅蓮曰ク然ラハ則チ幽蘭紅蓮ノ二人ノ如キハ先ツ暫ク時ヲ待チ一步ヲ夫人ニ讓ラサル可カラサルカト興漸ク酣ニシテ款語笑聲秋夜別ニ一團ノ春ヲ起ス是ニ於テ相伴ウテ河岸ニ至リ舟ヲ放チテ蹄水ニ浮フ山遠ク月小ニ滿林ノ白露月光ニ映シ燈火三點水外ニ明ナリ微風時ニ起リテ瀾滿月影ヲ碎キ秋樹蕭條トシテ落葉舟邊ニ漂フアリ一葦ノ之ク所ヲ縱ニシテ漸ク中流ニ至ル夫人徐ニ吟シテ曰ク

微月懸二西方一　依稀吐二素光一　下レ階步二前庭一　白露霑二我裳一　攜レ手出二籠谿一　放レ舟自由鄉。
俯視二蹄水流一　仰觀二浮雲翔一　蟋蟀啼二郊野一　疎鐘響二山椒一　良時無二停景一　歡樂猶未レ央。
金風中夜起　北斗忽低昂。佳人今何處。山海阻且長。只恐寒節到。凝氣結爲レ霜。

ト聲音瀏亮玉笛ノ關山ニ響クカ如ク黃鶯ノ幽谷ニ歌フニ似タリ紅蓮曰ク何ソ其風韻ノ凄婉ニシテ音調ノ悲慘ナルヤト散士紅蓮ヲ顧ミテ曰ク夫人ハ曠世ノ名士骨數斗君ノ令孃ナリ阿翁ハ生死ノ途ニ出入シ幾多ノ險艱ヲ履ミ幾多ノ辛酸ヲ嘗メ大業成ルニ垂ントシテ中道ニシテ敗ルト雖モ忠勇義烈世ヲ蓋フ顧フニ夫人モ亦世途ノ險ヲ冒シ志遂ヒ事成ラス慷慨痛切發露シテ悲壯ノ音トナルニ非スヤト紅蓮覺エス船中ニ危坐シ夫人ニ謂テ曰ク夫人ハ匈牙利ノ名士骨數斗君ノ令孃ナルカ嗚呼何ソ心丹ヲ吐露シ高談ニ接シ胸襟ヲ開クノ遲キヤ尊親今何ノ處ニ居住シ故鄕今果シテ何ノ狀ソヤト夫人之ヲ聞キ沈思久ウシ又一詩ヲ吟シテ曰ク

勿レ問故山事。故山夢一場。親友多零落。舊齒悉凋喪。墳墓亂二衰草一。城闕亦丘荒。力政呑二九鼎一　苛虐暴二二殤一　家國傾廢久。何日收二散亡一　子弟事二文弱一　角弓無レ由レ張。

感忤悼ニ遷斥一。舒レ憤訴ニ彼蒼一。

紅蓮曰ク初メ四人ト此ノ地ニ邂逅スルヤ皆亡國ノ遺臣ナリ互ニ其奇遇ニ感シ來歷ヲ語リ肝膽ヲ吐露シ以テ斷金ノ交リヲ誓ヘリ今ニシテ亦亡國ノ忠臣一人ヲ加フ豈奇遇ニ非スヤ夫人願ハクハ強テ妾等カ爲メニ往事ヲ語ルヲ惜ム勿レト是ニ於テ夫人襟ヲ正シテ曰ク妾カ祖先ハ亞細亞ノ豪傑惡鬼羅ノ猛將ナリ亞鬼羅豪邁不世出ノ大勇略ヲ以テ歐亞ノ大陸ヲ席卷スルニ當リ祖先雄猛比ナク陣ヲ陷レ旗ヲ搴キ戰功最モ多シ因テ匈國ニ



墺國女皇匈國議院ニ臨ノ圖　(原本挿畫)

封セラレ世世侯位ヲ保テリ世移リ時變シ盛衰處ヲ異ニシ曾テ土耳其回敎人ノ爲メニ蹂躙サレ遂ニ日耳曼帝國ノ領屬ニ歸ス日耳曼帝國我カ人種ハ亞細亞人ニテ自國ト異ナリ其強盛日ニ進ムヲ見テ之ヲ忌ミ之ヲ惡ミ百方我レヲ苦メ我レヲ撓ムルノ策ヲ施シ我カ建國以來ノ大法ヲ廢シ我カ自由ノ大權ヲ殺キ苛虐壓制到ラサル所ナシ我カ人民其暴戾ニ堪ヘス兵ヲ擧ケテ獨立ヲ謀ルヿ其幾度ナルヲ知ラスト雖モ衆寡敵セス四方皆敵遂ニ其志ヲ達スルヿ能ハス鐵血ノ暴政ニ屈伏シテ空ク憤涙ヲ吞ムモノハ百餘歲ニ及ヘリ一千七百四十年普ノ布烈帝歷大王乘勝ノ精兵ヲ率キテ日耳曼帝國ノ南境ヲ犯シ馬利和王モ亦佛國ノ聲援ヲ得テ帝位ヲ爭ヒ我カ西境ヲ攻ム澳國連戰利アラス諸城悉ク陷リ澳都亦敵兵ノ攻略スル所トナル女帝瑪利亞帝列佐虎ロヲ脫シ逃レテ匈國ニ來リ親ラ幼帝ヲ抱キ步シテ議院ニ臨ミ涙ヲ揮テ佛曼ノ暴略ヲ訴ヘ國家克復ノ大義ヲ述ヘ且ツ曰ク戰勝チ功成ラハ則チ民力ヲ休養シ公議ノ政ヲ施シ自治自由ノ政權ヲ與ヘ以テ其勞ニ報ス可シト我カ民之ヲ見之ヲ聞キ感泣憤興勤王ノ兵ヲ起シ女帝ノ旗下ニ集マリ奮戰激鬪遂ニ歐洲無比ノ強兵ヲ破リ家國ヲ將ニ覆ラントスルニ救ヒ帝位ヲ既ニ地ニ落ツルニ回セリ女皇大ニ其功ヲ嘉シ其勞ニ報イルヿ凡テ約ノ如クス而ルニ皇子女勢夫深宮ノ中ニ生レ婦女ノ手ニ長シ母皇中興ノ艱難ヲ知ラス人民勤王ノ忠誠ヲ忘レ驕奢ニ陷リ淫逸ニ耽リ固陋ノ說ヲ容レ小人ノ言ヲ信シ盟約ニ背キ地方自治ノ權ヲ奪ヒ民選ノ吏員ヲ變シテ官選ノ制トナシ民選ノ法官ヲ廢シ陪審ノ法ヲ止メ集會言論ノ自由ヲ禁抑シ甚シキニ至リテハ迂儒諸生ノ空論一二外人ノ邪說ヲ聽キ邦家獨立ノ骨髓ナル國語ヲ廢シテ獨乙語ヲ用ユルノ令ヲ布クニ至レリ嗚呼數百年來固有ノ風俗習慣タル衣食住ノ一事ヲ改良セントスルニモ先ツ豫メ前途國家ニ影響スル經濟及ヒ人民生計ノ度ヲ斟酌シテ徐々之ヲ施行スヘキモノニシテ僅々數年ノ能ク改良スヘキモノハナランヤ然ルニ俄然一國ノ國語ヲ廢シ外國語ヲ以テ之ヲ實地ニ應用セシメント欲スル無智矇昧輕佻浮薄豈少シク國ヲ愛シ事理ヲ解スルモノヽ爲スヘキ者ナランヤ人民其弊ニ堪ヘス怨嗟ノ極遂ニ激昂憤怒ニ陷リ謂フニ忍ヒサルノ禍害將ニ旦夕ニ生セントス全國ノ志士之ヲ恐レ乃チ總代ヲ京師ニ派シ上書シテ曰ク

我カ祖宗建國ノ法タルヤ天皇陛下ハ公明正大一視同仁以テ紀綱ノ收攬シ以テ億兆ヲ撫愛ス是ヲ以テ德風下ニ洽ク萬民其堵ニ安ンス蓋シ

國家ハ祖宗傳來ノ國家ニシテ陛下一人ノ國家ニ非ス人民ハ國家ノ人民ニシテ陛下一人ノ人民ニアラス人民ハ國家アリテ生存シ國家ハ人民アリテ成立シ陛下ハ國家人民アリテ而シテ後臨御ハルヿヲ得ルモノニシテ所謂國ハ民ヲ以テ成リ王ハ國ト民トヲ以テ成ル者ニシテ是レ實ニ天則ナリ民ノ法上下萬衆ノ肝膽ニ銘シテ千世磨滅ス可カラサル者ナリ我カ民命ノ主叡聖文武ナル陛下宜ク此ノ法典ヲ服膺セハ以テ天地ト長久ナルヘシ若シ姦臣ニ誤ラレ此ノ天則ニ背キ賜ハヽ恐ラクハ無智ノ下民陛下ヲ怨ム者アランモ計ル可カラス近者人心動搖衆庶其堵ヲ安セス妖雲殺氣隱然四面ヲ密閉シテ早晩潰裂セントスルノ狀アリ是レ果シテ何ノ故ソヤ臣民陛下ニ背クニ由ルカ抑ミ陛下ハ臣民ニ戾ルニ由ルカ臣民ハ決シテ陛下ニ背クニ非ス陛下ノ臣民ニ戾ルニ非ス右左大臣ノ陛下ト臣民トニ背キ中間ニ居テ聖明ヲ擁蔽シ帝敕ヲ矯メ人民ヲ凌キ私利ヲ恣ニシ威福ヲ弄セント欲スルニ因ルナリ夫レ先皇雄偉ノ姿ヲ以テ大亂ヲ戡定シ仁德ノ風ヲ推シテ萬姓ハ腹中ニ置キ功ヲ賞シ約ヲ履ミ民ト誓テ曰ク噫爾有衆朕ヲ艱難ノ中ニ助ケ能ク匡糾ノ功ヲ立ツ爾カ功績實ニ多シ朕大ニ之ヲ嘉ス茲ニ前約ニ從ヒ漸漸公議ニ依リテ自治ノ政ヲ許シ與ニ共ニ民力ヲ休養ス可シ朕カ百年ノ後歿テ或ハ此ノ約ニ背クアラハ是レ朕カ子孫ニ非ス是レ朕カ臣民ニ非スト是ニ於テ我カ三千餘萬ノ同胞兄弟ハ皆聖慮ノ優渥ナルニ感泣シ日ニ首ヲ展ヘテ以テ着着美政ノ緒ニ就カンヿヲ希望セリ而ルニ其後先皇崩御シテ權臣命ヲ矯メ先約水漚ニ歸ス陛下至仁至孝而シテ今先皇ノ聖詔ニ戾ルヿヲ爲ス其レ何ヲ以テカ先皇ニ地下ニ見エンヤ古聖曰ク民信ナケレハ立タスト陛下至仁至孝而シテ左右ノ臣陛下ノ名ヲ以テ信ヲ臣民ニ失フヿヲ爲ス何ヲ以テカ萬民ヲ統御センヤ臣等素ヨリ陛下ニ怨ミアル者ニ非ス唯左右執政ノ權臣恣ニ聖明ヲ擁蔽スルノ跡アルヲ見テ區區愛國ノ情默視スルニ忍ヒサルナリ

夫レ聖詔ノ寶典ハ上下一意奉戴セサル可カラサルモノニシテ之ニ戾リ之ニ悖ルモノハ宗廟ノ子孫ニ非ス國家ノ臣民ニ非ス若シ夫レ改明時勢ノ氣運寶典ヲ更革セサル可カラサルノ境遇ニ際スルアラハ詳ニ利病得失ヲ議シ國家ノ隆盛社會ノ秩序生命財產ノ安寧ヲ計リ而シテ始メテ能ク更革スルヲ得可シ若シ然ラスシテ一二ノ權臣帝命ヲ以テ己レニ便ナラサル者ヲ變更スルモ人民其法ヲ信セス人民其律ニ堪ヘス遵奉ハ誠心ナクンハ憲法ハ實果シテ何ニカ在ルヤ徒法死律ハ寧ロナキニ勝レルナリ今ヤ卒然約盟ニ背キ聖詔ニ戾リ既ニ賦與シタル權利ヲ奪ヒ壓抑苛制ノ政ヲ施シ迂儒書生ノ妄言ヲ容レ國家獨立ノ骨髓ナル國語ヲ廢シ替フルニ他國ノ言語文字ヲ以テシ恬トシテ怪ムノ色ナク羞ツルノ顏ナシ臣等政府ノ意ノ何レニ在ルヲ知ルヿ能ハサルナリ蓋シ竊カニ察スルニ政府ハ今日ノ弊政ヲ固守シ一ニ兵力ト警察トニ依賴シ以テ泰山ノ安キニ據リ堅城ノ中ニ高臥スルノ思ヲ爲スハ燕ノ飛幕ニ巢フ者ト謂フ可シ豈誤ラスヤ豈危カラスヤ然リ而シテ左右ノ臣執拗頑陋私慾ノ爲メニ帝德ヲ傷ツケ私利ノ爲メニ國家ヲ忘レ先王ノ聖詔ヲ擧行セサル時ハ是レ十九世紀ノ人民カ國權ヲ維持シ己ニ賦與セラレタルノ權利ヲ保全シ掠奪セラレタルノ自由ヲ恢復セント欲セハ柔順ノ策ヲ假ル可カラス必ス力ヲ劍戟ノ鋭利ニ求メサル可カラサルノ止ムヲ得サルニ強誘スル者ニシテ國家ノ前途問ハスシテ知ル可キ而已希ハクハ陛下上祖宗ニ對シ下人民ヲ思ヒ確乎英斷姦臣等ハ爲メニ聖明ヲ傷ケ賜フヿ勿レ一刻ヲ遲クスレハ一刻ノ悔アリ一日ハ一日ノ害アリ陛下速ニ臣等カ精忠ヲ汲ミ裁スル所アレ泣血味首頓首

頓首
政府之ヲ見テ内亂ノ避ク可カラサルヲ知リ輒チ憲法ヲ發布シ議員ヲ召集シ大ニ弊政ヲ釐革シ地方自治ノ政ヲ許スヿヲ約ス未タ幾ナラス佛帝拿破崙四鄰ヲ討平シ殆ント歐洲ヲ併呑ス澳國亦其鋒ニ懸リ連戰利アラス都城悉ク陷ル澳帝因テ復東國ニ奔リ來リ邦家ノ存亡實ニ旦夕ニ迫レリ我カ人民再ヒ敵愾ノ心ヲ揮擢シ勃然奮勵死ヲ見ルヿ歸スルカ如ク勇敢無前ノ強兵ニ抗シ遂ニ社稷ヲ全ウスルニ至リタル者蓋シ我カ人民ノ力多キニ居ル其後拿破崙敗謫セラル、ニ及ヒテ俄普墺ノ三帝神聖同盟ヲ約シ自由民權ノ氣運ヲ撲滅スルヿヲ約ス蓋シ事俄カニ極端ニ走ルトキハ其反動モ亦極端ニ走ルハ自然ノ數ノ免ル可カラサル所ニシテ當時全歐諸州ハ佛國革命ノ爲メニ干戈ノ亂ヲ釀シ奈翁歐洲ヲ震動シ流血歐洲ノ野ヲ漂ハシ死尸山川ノ間ニ横ハリ人流離其堵ヲ安ンセス民顛沛其業ヲ營ムヲ得ス亂ヲ厭フノ心治ヲ思フノ急ナルヨリ誤リテ以爲ラク自由ナルモノハ國家紛亂ノ階梯ナリ民權ナルモノハ人民困窘ノ門戸ナリト即チ極端ノ理論過激疎暴ノ擧動ヲ指摘シテ自由民權ノ本色トナシ遂ニ新ヲ忌ミ舊ヲ思フノ卑心ヲ生シ徒ニ昔時ノ利便ヲ稱シテ却テ自由ノ爲メニ奴隷ノ苦域ヲ脱シ民權ノ爲メニ自主安寧ノ樂地ヲ得タルヲ思ハス壓制ノ下ニ呻吟シ鞭笞ノ下ニ叫號シタルノ慘害ヲ忘ル、ニ至レリ豈ニ嘆息ノ至リナラスヤ

其後滅廷日苦ナル者アリ外務ヲ專任スル十餘年遂ニ宰相ノ上位ニ昇リ政權ヲ併掌スルヿ前後三十九年政體腐敗シ人心萎微シ報國ノ精神挫衰シ改進ノ氣運消滅シ十九世紀ノ澳國ヲシテ將士奮ハス民心競ハス學術進マス工藝退キ商業衰ヘ國運ノ進歩鄰近諸國ニ後ル、ヿ數十年ニ至ラシメタルモノ滅廷日苦ノ致ス所ナリ西普國ノ辱シメヲ被リ日耳曼聯邦ノ盟主ヨリ斥ケラレ南伊太利ト戰ヒ毎戰皆敗レ地ヲ失フ數百里東匈牙利藩屛ノ怨ヲ招キ北俄國ノ侮ヲ受ケ今ヤ衰弱ノ大國ヲ歐洲ニ數フル者先ツ指ヲ澳國ニ屈セサルナシ亦滅廷日苦ノ致ス所ナリ蓋シ其因ヲ原ヌレハ其地位ヲ保ツニ汲汲トシ志士ノ口ヲ拑制シ一ニ平和ヲ唱ヘ二ニ又平和ヲ唱ヘ主トシテ人民ノ元氣ヲ沮喪セシムルノ致ス所ナリ政治家タルモノ豈深ク鑒ミサル可ケンヤ請フ諸君ノ爲メニ滅廷ト苦ハ政略ヲ論セン

滅廷日苦人ト爲リ姦才ニ長ナレトモ節操ナク佞辯ニ巧ミナレトモ國家ノ大計ヲ知ラス已レ一旦政權ヲ握ルニ至リ漸漸自主自由ノ根ヲ殺キ抑壓暴制ノ令ヲ布キ議院ハ貴族僧侶ヲ以テ組織シ威權ト金權トヲ以テ全ク籠絡シ政府ノ議案ヲ提出スルヤ滿場常ニ原案ヲ贊成通過シ議院ノ開閉一日ニ終ルモノアリ世ニ之ヲ一日議院ト云フ是ヨリ賄賂公行諂諛佞倖ノ小人漢ニ爵祿ヲ享ケ節操忠義ノ士皆廟堂ヲ退ケラル商工ノ大業悉ク滅廷日苦ノ黨與ニ握リ不正ノ利ヲ貪リ不義ノ益ヲ占メ日夜蓄財ニ汲汲トシテ別莊ヲ風光明媚ノ勝地ニ營ミ酒ニ耽リ色ヲ貪リ良家ノ子女ニ戲レ僚屬ノ妻妾ヲ姦シ花柳ノ賤婦ヲ愛シ政令ノ機密ヲ寵商ニ通シ賭博萬金以テ自ラ豪ナリト稱ス是ニ於テ狐臣狗蓬傲然官家ノ虎威ヲ借リ風ヲ亂シ俗ヲ壞リ醜行萬狀謂フニ忍ヒサルニ至ル

滅廷日苦ハ姿容ニ巧ミニ應接辭令ニ嫺ナリ乃チ甘言珠玉ヲ以テ帝ノ右左ニ結ヒ以テ信任ヲ宮中ニ固ウシ毎ニ後宮ニ出入シテ醜聲外ニ漏ル、ヿ多シ且ツ彼レ自ラ其學深カラス其識高カラサルヲ知ル故ニ務メテ容儀ヲ作リ言語ヲ曖昧ニシ一ニ籠絡主義ニ據リ剛直ノ士人アラハ即チ籠絡スルニ情實ヲ以テシ流俗ノ人ハ則チ籠絡スルニ色ト利トヲ以テス榮官以テ不平ノ士ヲ籠絡シ諂諛以テ外人ヲ籠絡シ宮殿ヲ美ニシ衣服ヲ壯ニシ以テ萬人ヲ籠絡セントス是ニ於テ費用日ニ加ハリ俸祿能ク支フ可カラス因テ外交ヲ名トシ交際ヲ名トシ更ニ探偵費ト稱シ帝室費ト稱シ

百萬ノ金額ヲ模稜ノ中ニ濫用スルモ彈正御史ノ官ナク議院糺彈ノ實權ナク滔滔タル三千餘萬ノ生靈酷租ヲ納メ苛歛ニ苦ミ田ヲ賣リ家ヲ失フモノ毎年數萬人官府强テ之カ說ヲ爲シテ曰ク之レ人民ノ奢侈ト怠惰ノ致ス所ナリト路ニ食ヲ乞フモノアレハ之ヲ拘ヘ家ニ助ヲ求ムル者アレハ之ヲ追ヒ甚シキニ到リテハ貧人ヲ賑救スルノ故ヲ以ヲ嚴責ヲ受クル者アルニ到ル嗚呼國勢玆ニ陷ル又何ヲカ乞ハンヤ時ニ猶ホ國家中興ノ老將多シ滅廷日苦威望爭ヒ難キヲ知リ且ツ姦佞ノ才ヲ以テ上位ニアルモ元ト汗馬ノ勞ナク一朝事アルハ日政柄ヲ失ハンヿヲ恐レ一策ヲ案シ外交ヲ名トシ諂諛主義以テ强國ニ依賴シ警察探偵ヲ嚴ニシ外交祕密ヲ主トシ假令國權ヲ傷ケ國威ヲ損スルモ太平無事ヲ維持セハ老將ハ遂ニ無用ノ人タルヤ明ナリ乃チ初メテ枕ヲ高ウスルヿヲ得ント是ニ於テ舞蹈遊樂ヲ奬勵シ唯元氣ヲ謳歌ノ中ニ消糜シ將士ヲ醉夢ノ間ニ昏倒セシメ人民ヲ貧究ノ淵ニ沈メテ他事ヲ顧ミルニ假ナカラシメ而シテ己レ黨與ト共ニ萬金ヲ積ミ生涯ヲ安樂放逸ノ域ニ送ラント欲スルモ天其レ之ヲ許サンヤ人豈之ヲ許サンヤ

三帝神聖同盟ヲ約シテヨリ歐ノ大陸皆其連合ニ强迫セラル蓋シ同盟ノ意タル自由民權ヲ撲滅シ革命ノ擧公議ノ政ヲ布ク邦國アルキハ神聖同盟ノ軍ヲ以テ之ヲ征シ之ヲ止ムルノ政略ニ過キサルナリ故ヲ以テ英米ヲ除クノ外皆抑壓非道ノ治下ニ呻吟シ之ヲ憤リ之ヲ慨シ不諱直言爲メニ國ヲ追ハレ獄ニ繫カレ斷場一刀ノ秋霜ト消ユル者其幾千人ナルヲ知ラス滅廷日苦欣然トシテ曰ク好シ初メテ以テ我カ餘年ヲ優遊ノ中ニ送ルヿヲ得可シト焉ソ知ラン自由改進ヲ熱望スル者ハ現然形跡ヲ當時ニ發泄スルト雖モ隱然計畫シテ勢力日ニ加ハリ時機ノ來ルヲ待ツヿ久シキヲ會ミ佛京ノ革命起リ伯林ノ改命ヲ促シ全歐ノ人心紛紜トシテ麻ノ如ク激昂堤水ノ決スルカ如ク今ヤ滅廷日苦ノ詐術巧言以テ之ヲ籠絡スルヿ能ハス是ニ於テ武力ニ倚賴シ鎭壓ノ令ヲ施シ恐嚇政略ヲ取ル國中ノ人民之ヲ見テ俄然勃發憤激志有ル者期セスシテ悉ク京師ニ集マリ九闕ニ伏シ書ヲ捧ケ以テ自由ヲ展ヘ内閣ヲ改改センヿヲ請フモノ日ニ月ニ多シ就中澳都大學ノ博士諸生ハ衆ニ先ンシ大呼シテ曰ク出版ノ自由ヲ許サヽレハ人民ノ枉屈ヲ訴フルヿ能ハス立憲公議ノ政ヲ興サヽレハ其レ姦臣ノ横專ヲ如何セン人民ニ參政ノ權ヲ與ヘサレハ一國ノ獨立ヲ如何セント何國ノ士民憤激殊ニ甚シク老父ヲ推シテ魁首トナシ書ヲ宮闕ニ奉ケ以テ弊政ヲ除カント一千八百四十六年五月十五日進ンテ維也納ニ入ル府民歡喜樂ヲ奏シ篝火ヲ燒キ先導スル者數萬人萬歳ヲ唱ヘ暴政ノ救主暴政ノ救主ト呼フ此日議院開集ノ日ナリ議事未タ開カス傍聽者數千人四方ニ充滿セリ一士石階ニ立チ老父ノ天下ニ告クルノ檄ヲ朗讀ス滿衆異口同音ニ之ヲ翼賛シ議員ヲ要シ人民之ニ追從シ王宮ニ進ミ國家ノ危勢ヲ痛陳シテ帝聽ニ達セント千百群ヲ爲シテ進ム滅廷日苦大ニ恐怖シ黨與數人ト倉皇財寶ヲ懷ニシテ遠ク英國ニ出奔ス嗚呼身國家ノ大臣トナリ表ニ忠誠ヲ粧ヒ政柄ヲ握リ威權ヲ弄シ君ヲ欺キ國ヲ誤リ君臣ノ間殆ント仇敵ノ厄域ニ陷ルニ及ヒ己レ身ヲ以テ兩間ニ横リ大亂ヲ鎭ムルヿニ力ヲ盡シ猶ホ能ハスンハ罪ヲ引キテ以テ天下ニ謝セハ猶ホ大丈夫タルヿヲ失ハサルナリ然ルニ國難ニ死スルヿ能ハス君ニ背キ國ヲ捨テ生ヲ偸ミ國ヲ逃ル節操氣概ニ乏シキ權臣ノ終リ往往此ノ如キ者アリ慨スルニ堪フヘケンヤ紅蓮曰ク古ヨリ臺鼎ノ貴ニ昇リ位爵ニ戀戀シテ徒ニ太平無事ヲ希ヒ鄰近ノ强國ニ媚ヒ國威ヲ傷ケ國權ヲ辱カシメ恬然トシテ顧ミル所ナク或ハ志士ノ之ヲ發露スルアランヿヲ恐レ妄リニ言論ノ自由ヲ束縛シ以テ當世ヲ瞞着セント欲スル者多シ嗚呼滅廷日苦ノ如キ者是レナリ豈知ランヤ寧父ノ如

キ志士アリテ之ヲ挫キ之ヲ斥ケ身ヲ父母ノ故國ニ置クヿ能ハスシテ他邦ニ落魄セシム快亦甚シカラスヤト散士夫人ニ問ウテ曰ク僕尊父ノ大名ヲ聞クヿ久シ然レ𪜈僕未タ細カニ卓行偉業ヲ知ラサルモノ蓋シ多カラン願クハ僕カ後業ノ爲メニ之ヲ語レト夫人曰ク老父年三十ニシテ代議士ノ撰ニ中リ匈國ノ議員ニ擧ケラル當時名聲未タ聞エス演說未タ熟セス經驗未タ積マス世務未タ練レス其辯論才量未タ輿望ヲ動カシ議員ヲ左右スルヿ能ハサルヲ以テ竊カニ自ラ嘆息シテ



(原本插畫) 識迭日苦逃走ノ圖

曰ク余自ラ省ミス參政ノ寄託ヲ擔荷シ民ノ枉屈ヲ伸ヘ其福祉ヲ增サント欲スト雖モ力微ニシテ其望ニ副フ能ハス故山ノ父老ニ背クヿ多シ蹶然トシテ職ヲ辭センカ代議士ノ本分未タ盡ササルヲ如何セン唯誓テ身ヲ以テ國ニ盡サンノミ區區他人ノ毀貶焉ソ之ヲ避クルヲ用キン必スヤ國ニ盡スノ機アラント當時議院政府ノ爲メニ籠絡セラレ議員代議士ノ本分ヲ忘レ徒ニ政府ノ意ヲ迎ヘ議事專斷多ク政府議事ノ外ニ漏レンヿヲ拒キ議員モ亦敢テ之ヲ人民ニ明告セス人民抑壓ノ制ニ慣レ漸染ノ久シキ亦恬トシテ之ヲ怪マス是ヲ以テ官吏國費ヲ濫用シ議員ノ汚行謂フニ堪ヘサル者多シ老父之ヲ見テ慨然トシテ曰ク豪梁ノ徒公ヲ忘レテ私ヲ圖リ人民ヲ虐政酷法ノ下ニ愚ニシテ以テ永ク其地位ヲ保タント欲スルモ其レ風敎ノ壞亂ヲ如何セン其レ國勢ノ陵夷ヲ奈何セント是ニ於テ議事ノ實錄ヲ鋟シテ以テ公衆ニ頒布ス人民之ヲ讀ミ初メテ其非橫專恣ヲ憤リ民心漸ク起ツ政府大ニ懼レ出版條例ヲ定メテ之ヲ禁遏ス老父其卑劣ヲ怒リ諸生數十人ヲシテ謄寫セシメテ以テ之ヲ人民ニ頒ツ有爲ノ士人蜂起シテ之ヲ援ケ遂ニ內閣及ヒ議院ニ迫リ議事實錄ヲ公布センヿヲ請フ輿論沸沸吏人復之ヲ如何トモスル能ハス彼レ其先罪暴露シテ

禍患身ニ及ハンヿヲ恐レ人ヲシテ老父ニ說カシメテ曰ク公淸華ニ班シテ位高ク爵貴ク年少ウシテ卓落有爲ノ才ヲ抱ク今公客氣ノ爲メニ使ハレテ漫ニ政府ニ抗爭シ以テ禍害ノ身ニ及ハンヿヲ忘ルヽハ竊カニ公ノ爲メニ取ラサル所ナリ焉ソ少シク自ラ抑省シテ身ヲ官途ニ安ンシ永ク富貴ヲ享ケサル想フニ公ノ才ト智ト他日必ス重用セラルヽノ日アラント老父之ヲ聞キ冷笑シテ辭シテ曰ク僕祖先以來世世貴族ニ列シ遺田頗ル富ム僕一身ノ爲メニ計ルニ亦何ヲカ望マンヤ但下民困頓ニ瀕シ國勢陵夷ニ趨キ敗亡ノ機日一日ヨリ危シ僕倒瀾ヲ回シ死骨ニ肉スルノ外復他意アルナシ今ヤ政府貴族政權ヲ專ニシ急征暴斂賦稅常ナク朝ニ令シテ暮ニ改マリ困農疲民ノ膏血ヲ吸收シテ之ヲ邊幅無用ノ費ニ充ツ之ヲ奈何ソ民力凋衰セサランヤ是レ獨リ細民ヲ然リト爲スノミニ非ス中等以上ノ人ト雖モ亦皆苛政ノ下ニ歎息セサルモノナシ抑々政ハ安民ノ具ナリ而シテ今乃チ之ヲ虐民ノ器トナスハ政ナキノ愈レルニ如カス汚吏ノ利慾窮リナクシテ而シテ生民ノ膏血限アリ限アルノ血ヲ以テ而シテ窮リナキノ慾ニ供ス困頓以テ斃レスンハ亦何ヲカ待タン是レ眞ニ愛國志士ノ袖手傍觀スヘキノ秋ニ非ス余豈富貴榮達ノ爲メニ我カ良心ヲ欺クニ忍ヒンヤト

政府益々之ヲ忌ミ遂ニ捕吏ヲ遣ハシテ老父ヲ逮ヘ之ヲ獄ニ投ス法官上意ヲ迎ヘ法ヲ舞ハシテ罪ヲ織テ曰ク骨數斗身華冑ニ在リ曩ニ事ヲ模稜ノ報ヲ世ニ公ニスル所以ノ者ハ民心ヲ煽激シテ以テ竊カニ不軌ヲ圖ラント欲スルナリト遂ニ牢獄ニ投サラル四年老父期滿チ獄ヲ出ツルニ方リテ身體衰弱歩スル能ハス海水ニ浴シテ以テ世塵ヲ避ケ暫ク鋭氣ヲ養ヒ復政事ヲ談セス既ニシテ澳都ニ歸リ新紙ヲ發行シ政治ノ腐敗風俗ノ矯正ヲ呼號シ貴族僧侶ノ專横ヲ攻擊シ就中國語恢復ハ國家ノ元氣人民ノ骨髓ナルヲ痛論シ遂ニ議院ヲシテ獨乙語ヲ廢シテ邦語ヲ用ヰシムルニ至ル國民輿望隆然タリ老父以爲ラク世ヲ濟ヒ民ヲ救ヒ國家ヲシテ富強ナラシメント欲セハ文物典章ノ美以テ其外ヲ衒ハンヨリ寧ロ先ツ一國ノ實力ヲ養ウテ以テ根本基礎ヲ牢ウセサル可カラスト是ニ於テ鋭意經濟ノ策ヲ講シ以爲ラク工商ノ權外人ノ手ニ落ツルトキハ則チ獨立ノ國體ヲ成ス者ニ非サルナリト常ニ保護政略ヲ執リ外品ニ重税ヲ課シテ以テ國内ノ農工ヲ保護セリ外商其業ヲ失ハンヿヲ恐レ職工ト資金トヲ攜ヘ國國ニ來住スルモノ數千人工商ノ業大ニ振起ス老父猶ホ以テ足レリトセス愛國ノ志士ト嗜欲ノ爲メニハ外品ヲ使用セサルヲ誓フ國人風ヲ望ミ靡

産ノ業ニ奮從シ社會ノ風氣一變セリト云フ老父人ト爲リ勇敢ニシテ沈着胸臆曠濶艱難ニ處シテ晏然タリ常ニ天下ヲ以テ己レノ任ト爲シ至公事ヲ處シ毫モ私心ヲ挾マス産ヲ傾ケテ四方ノ豪傑ニ結ヒ聲名藉藉トシテ世ニ噪ケリ其議院ニ立チ侃侃トシテ生民ノ痛苦ヲ訴ヘ國家ノ大計ヲ論スルヤ沛然トシテ禦ク可カラス衆皆靡然トシテ之ニ從フ其勢力ノ大ナル國望ノ歸スルヿ列國議院中曾テ其例ナシト云フ加之老父天下ノ事細大詳悉シ經濟ノ策ヲ抱テ懸河ノ辯ヲ揮フ議論明晰應答流ルヽカ如シ人敢テ其鋒ニ當ル者ナシ敵黨相語テ曰ク議場ニ骨數斗ト戰フハ群羊ヲ驅テ猛虎ヲ搏ツカ如シト老父諸子ノ爲メニ敬憚セラル此ノ如シ是ノ時ニ當リ政府黨ハ貴族ヲ以テ魁首ト爲シ節操ニ乏ク權臣ニ賴テ榮達ヲ求ムル者浮薄ナル記者ノ金慾ノ爲メニ使用セラルヽ者蠹魚ノ士當時ノ事情ニ暗キ者相集リテ一黨ヲ爲ス其唱道スル所ニ曰ク古來ヨリ聖君ノ功德ヲ今日ニ垂ルヽ所以ノモノハ皆專制ノ治代ニ非サルハナシ曰ク立憲公議ノ政ハ民政ノ階梯ニシテ天威ヲ蔑如スルモノナリ曰ク舊ヲ改メ新ニ就クハ國家ノ秩序ヲ亂ル者ナリ曰ク天皇ノ出入從騎ナキハ威嚴ヲ損スル者ナリ曰ク責任内閣ハ帝王ノ主權ヲ割ク者ナリ曰ク内閣ノ更迭ハ國

本動搖ノ萌ナリ國是定マラサルノ證ナリト一意政府ノ意ヲ遵奉スルヲ以テ國民ノ義務ト爲シ嚴酷民ニ臨ミ鐵椎民ヲ御スルヲ以テ王家ノ重キヲ加フル者ト爲シ改進自由ノ輿論ヲ撲滅スルヲ以テ王家ノ侮ヲ禦ク者ト爲シ集會演說ノ自由ハ處士横議國安ヲ妨害スル者ト爲シ新聞出版ノ自由ハ譏謗煽激社界ヲ紊亂スル者ト爲ス遂ニ枉ケテ之カ辭ヲ爲シテ曰ク現内閣ハ過失少キニ非スト雖モ今ノ大臣ヲ外ニシテ天下ノ大政ヲ任託ス可キ人ナシ情實組織ノ内閣ハ主義結合ノ組織ヨリ鞏固ナリト人民ノ負擔ヲ輕減スルトキハ放逸奢侈ニ流ルト其僻論浮說固ヨリ論スルニ足ルナシ時ニ一千八百四十七年老父澳匈獨立黨代議士ノ候補タリ政府大ニ之ヲ恐レ吏人某ノ怜悧敏慧ナル者ヲシテ金ヲ與ヘ官ヲ辭シテ政府黨ノ候補タラシメ官府大ニ帝室費ヲ支出シ反間ヲ放チ其出入ヲ問ハス賄賂ヲ以テ投票ヲ買ヒ府知事ハ吏員ヲ派シテ飛語ヲ作リ以テ老父ヲ讒シ警吏戸毎ニ說キ家毎ニ諭シ貴族ハ舊臣ヲ集メテ情實ヲ陳シ政府ニ與センヿヲ勸ム獨立黨モ亦正正堂堂演說ニ新紙ニ全力ヲ盡シ老父ヲ援ケ紛紛囂囂物論沸クカ如シ是レ實ニ政黨ノ勝敗ノミナラス一國ノ盛衰存亡實ニ老父ノ一身ニ集マルノ時ナリ時ニ匈都ノ佳人婀娜ノ姿ヲ以テ紛糾ノ巷ニ立チ嬌音

姚[illegible]讒說横論以テ老父ノ攻撃ヲ爲セリ今ニ至リテ政黨ハ一佳話ト爲スト云フ既ニシテ選擧ノ日ニ至リ老父果シテ衆ノ爲メニ推サレテ議院ニ入リ敵黨ハ敗復タ顏色ナシ我カ黨ノ喜ヒ知ル可キノミ老父議院ニ入テヨリ弊政釐革ノ魁首トナリ政費年ニ增シ人民流離財政當ヲ失フヲ指摘シテ毫モ遺サス時ニ霹靂一聲議院ニ落ツルモノアリ衆愕然トシテ之ヲ聞クニ巴黎府人民革命ノ擧報是レナリ衆色ヲ失フ老父徐ロニ起チテ曰ク方今危急存亡ノ秋徒ニ財政ノ一事ヲ論スルモ安ソ禍亂ヲ救フヲ得ンヤ抑ミ我カ國大亂ノ後ヲ承ケ民心太平ヲ思フノ餘遂ニ姦臣ノ爲メニ國ヲ誤ラレ上之ニ乘シテ專横ヲ極メ下之カ爲メニ卑屈ニ趨ル是レ今日國勢ノ陵夷ヲ致ス所以ナリ是ノ時ニ當リ果然一刀兩斷ノ策ヲ施スニ非サレハ豈能ク其毒骨ヲ截テ死者ヲ蘇スルヲ得ンヤ其策如何第一禍害ノ根毒ヲ截際セサル可カラス何ヲカ禍害ノ根毒ト云フ第一君側ヲ淸ム可シ現今大宰相滅延日苦ハ仁聖ノ帝ヲ擁シテ大權ヲ私門ニ握リ陽ニ帝敕ヲ號シテ陰ニ政柄ヲ占メ功績ハ則チ之ヲ己レニ收メ過誤ハ則チ之ヲ帝室ニ歸ス夫レ大臣ハ機ヲ皇帝ニ奉シテ而シテ望ヲ人民ニ負ヒ躬大任ヲ荷ウテ而シテ責一身ニ在リ古賢言ハサルヤ功成レハ王ニ歸シ成ラスンハ自ラ其罪ヲ受ケント然ルニ今滅延日苦ノ爲ス所之ヲ上ニシテ陛下ニ忠ナラス之ヲ下ニシテ人民ニ信ナラス是レ果シテ國家ノ大臣ト稱ス可キカ是レ代フルニ剛直大度ノ名臣ヲ以テ組織セサル可カラサルナリ第二責任內閣ヲ組織ス可シ夫レ內閣ハ萬機ノ出ツル所政事ノ過誤皆其責ニ任セサル可カラス滅延日苦ノ大宰相タリショリ以テ今日ニ至ルマテ國事過誤アル時ハ則チ或ハ掩フニ帝敕ヲ以テシ或ハ當局ノ吏員ヲシテ罪ヲ負ウテ引退セシメ恬然トシテ己レ其事ニ與リ知ラサル者ノ如シ是レ內閣組織ノ宜キヲ得ル者ト謂フヲ得可ケンヤ宜ク弊ヲ去リ機ヲ洗フヲ以テ更革一新セサル可カラサルナリ第三都下維也納ノ官邸壯麗目ヲ眩シ瑰琦魂ノ驚カス退テ地方ノ慘狀ヲ察スルニ苛征ニ苦ミ疲弊困難災厄頻ニ臻リ租稅山積シテ年年祖先傳來ノ田宅ヲ賣リ妻子分散流離飄零其土ニ安ンスル能ハサル者幾十萬ナルヲ知ラス是レ地方自治ノ制ヲ破リテ中央集權ノ弊ヲ積ムノ致ス所ニ依ラサルハナシ宜ク積弊ヲ蕩滌シテ以テ休養生息ノ道ヲ圖ル可シ第四財政[illegible]ヲ得ス徒ニ下民ノ膏血ヲ絞リテ以テ大藏ノ便宜ヲ計ルノ法ヲ設ク故ニ少數人民ヲ利シテ天下ノ人民ヲ苦メリ且ツ上流社會ノ驕奢ノ風ヲ先導シテヨリ輸入ノ輸出ヲ超過スル殊ニ甚シク金貨日ニ減シ再ヒ前年ノ覆轍ニ蹈マントス宜ク公明[illegible]ノ財政ヲ計畫セサル可カラス之レ最第一ニ無用ノ政費ヲ一掃スルニアリ第五施政ノ方針一定セス情實ハ政日ニ加ハリ朝令暮改弊實百出繁文苛察民心ノ厭惡日ニ甚シ蓋シ政ヲ爲スハ要人ノ爲メニ官ヲ設クルニ非ス官ノ爲メニ人ヲ擧クルナリ今ヤ紀綱敗壞人ノ爲メニ官ヲ設ケ私恩ヲ賣ルニ官ヲ以テシ舊怨ヲ解クニ官ヲ以テシ殆ント官ヲ以テ朋黨遊戲ノ具ト爲スニ異ナラス天下ノ公租一ニ權臣ノ私物ノ如シ無用ノ貴族日ニ加ハリ吾輩困敝艱厄ノ際ニ當リ食ト衣トヲ減シテ以テ公家ニ奉スル所以ノ者ハ上ハ皇室ノ長久ヲ新圖シ下ハ人民ノ幸福ヲ冀望スルヲ以テノ故ニ非スヤ然ルニ既ニ此ノ如シ又誰ニ向テカ人民ノ危急一息ヲ託センヤ嗚呼廟堂ノ諸公歡喜舞踏太平ヲ裝飾シ日又一日苟且安ヲ偸ミ今ハ隣邦ノ輕侮ヲ招キ國威漸ク衰ヘ內ハ威權ヲ弄シテ郵便ノ公權ヲ破リテ私信ヲ開封シ忠臣義士ヲ疑忌シ志士ヲ追放シ論客ヲ抑壓シ蒼生塗炭ニ苦ミ民本殆ント盡ク是ノ時ニ當リ私心ヲ捨テ公明ヲ主トシテ公議ニ訴ヘ公議輿論ヲ以テ內閣組織ヲ一變シ無用ノ官吏ヲ掃滌シ不急ノ土木ヲ廢シ政費ヲ減シテ稅斂ヲ薄ウシ以テ生民ヲ休養スルニ非スンハ國勢ヲ興復センコト萬望ム可カラサルナリト衆皆憤然トシ

テ曰ク然リ然リ今日ノ内閣ハ情實ニ成ル者ナリ國權ヲ傷ケ國威ヲ損スルモ位置ヲ保ツ爲メニ徒ニ平和ヲ唱フル者ナリ現時ノ大宰相ハ巧言令色反復表裡ニシテ大臣ノ風ナキ者ナリ弊政更革ノ責吾輩ニ在リ宜ク内閣組織ヲ一變シ官吏糺彈ノ權ヲ議院ニ握リ自由出版ヲ許シ集會演説ノ條列ヲ寛ニシ賦税ヲ輕クシ休養ヲ計リ以テ外、敵國ノ侮リヲ禦キ内、蕭墻ノ禍ヲ防クヘシト議遂ニ決シ老父衆ニ代リテ澳都ニ赴キ之ヲ澳帝ニ請フ澳帝巳ムヲ得ス勅シテ出版言論ノ自由裁判ノ實記ヲ公ニシ陪審官ヲ置キ眞正ノ立憲政體ヲ建ツルヲ許ス之ヨリ先キ貴族郡羅鬼區匈國頑固黨ノ首領トナリ滅廷日苦ト結託シテ以テ私利ヲ恣ニシ舊教ヲ崇信スルモノヲ煽動シテ文運ノ進路ニ抗シ志士撲滅ヲ誓ヒシカ一朝滅廷日苦出奔シ立憲公議ノ眞政ヲ建ツルノ詔出ツルヲ聞キ嘗テ曰ク我レ豈奴輩ト政ヲ議スルニ忍ヒンヤト遂ニ兵ヲ擧ケテ反シ虛誕誣罔亂民ヲ煽亂シテ強暴ヲ逞ウシ良民ノ田宅ヲ占奪シ虐殺屠戮底止スル所ナク家ヲ燒キ麥ヲ刈リ野ニ青草ナシ澳帝竊カニ兵食ヲ送リテ之ヲ援ケ俄國モ亦希臘教徒ヲ煽動シテ亂ヲ作サシメ傍觀坐視殆ント知ラサル者ノ如シ匈都ノ議院之ヲ澳帝ニ訴フ澳帝陽ニ之ヲ納レ邪羅鬼苦ヲ召シテ罪ヲ正ス爲シテ陰ニ斧鉞ヲ賜ウテ以テ何北ノ管領タラシム人民之ヲ聞キ憤激益々甚シ老父議院ニ立テ衆ニ説テ曰ク澳帝國家人民ヲ忘レ約ヲ破リ暴ヲ助ケテ虐ヲ煽ジ我カ自由ヲ奪ヒ我レヲ以テ奴隷ト爲サントス事已ニ此ニ至ル亦何ヲカ云ハン宜ク一國ノ義勇ヲ募リ以テ自ラ衞ルノ策ヲ講セサル可カラス而シテ之ヲ爲スニ兵二十萬金一千萬ヲ募ルニ非サレハ不可ナリ諸公以テ如何ト爲ス滿場覺エス起チテ贊シテ曰ク自由ヲ得スンハ死アルノミ豈焉ソ能ク強暴非道ニ屈ス可ケンヤ焉ソ速ニ徵集セサルト老父其義氣ノ烈烈タルヲ見テ潸然泣下リ覺エス跪テ曰ク議院ニ代リ何國人民ノ愛國心ニ謝スト衆遂ニ老父ヲ推シテ護國黨ノ盟主ト爲シ血ヲ啜テ倶ニ盟フ既ニシテ邪羅鬼苦澳國ノ援兵ヲ合セ歩騎五萬來リ犯ス匈國ノ志士鄒古老ニ迎ヘ戰ヒ大ニ之ヲ破リ殆ント敵ノ全軍ヲ擒ニス邪羅鬼苦夜僅ニ身ヲ以テ免レ維也納ニ奔ル追獲甚タ多シ政府維也納鎭臺ニ令シテ進ンテ邪羅鬼苦ヲ助ケ匈國ヲ伐タシム皆曰ク報國忠義ノ同胞ヲ伐ツニ忍ヒサルナリ今日ノ事曲政府ニ在リ吾輩死ストモ命ヲ奉スル能ハスト政府由テ騎兵ニ令シテ之ヲ伐タシム戰街衢ノ間ニ起リ勝敗久シク決セス維也納ノ學士及ヒ大學ノ諸生之ヲ見テ慨然竿ヲ揭ケテ起リ市民翕然トシテ之ニ應シ挾撃シテ大ニ騎兵ヲ敗リ陸軍卿羅刀ヲ生擒シ罪ヲ數ヘテ之ヲ誅シ街燈ノ上ニ梟ス澳帝出奔シ澳都革命黨ノ掌中ニ歸シタリ然レトモ烏合ノ兵議論紛紛學士諸生兵略ヲ知ラス最モ機變ノ術ニ暗ク遂ニ兵機ヲ失ヒ澳帝ヲシテ再ヒ將ヲ選ヒ大兵ヲ集メ邪羅鬼苦ノ敗兵ト合シテ來リ圍ムノ時機ヲ與ヘシム時ニ城中ノ形勢恰モ水夫カ船將ノ不法ヲ怒テ之ヲ殺シ舟檝ノ全權ヲ握ルモ運用ノ妙ヲ知ラスシテ唯風飄浪泊ニ任スルカ如ク號令百出唯自己ノ動作ヲ爲スノミ波蘭ノ老將辨武ハ嘗テ奈破倫ノ麾下ニ在リ勇略一世ヲ蓋フ常ニ家國ノ俄澳普三國ノ爲メニ滅サレタルヲ憤リ一タヒ仇ヲ敵國ニ報シテ死セント欲シ屈伏時ヲ待ツ者久シ今澳ノ亂ヲ聞キ孤劍來リ救フ匈國ノ名將苦樂武荷モ亦城ニ入リ之ヲ助ク是ニ於テ城中氣ヲ鼓シ壘ヲ高ウシ溝ヲ深ウシテ大ニ守備ヲ議ス既ニシテ澳軍大擧城ヲ圍ム奮戰累日城兵日夜首ヲ翹ケテ匈國ノ援軍ヲ待ツ時ニ匈ノ謀議二途ニ分ル一ハ曰ク事既ニ茲ニ至ル直ニ長驅シテ城兵ヲ救ヒ一擧シテ敵窟ヲ衝キ以テ生民艱難ノ根ヲ絶チ君側ノ惡ヲ淸メ立憲公議ノ良政ヲ組織ス可シト一ハ曰ク我レノ兵ヲ擧クル實ニ防禦ノ止ムヲ得サルニ出ツ今巳ニ敵兵ヲ境外ニ退ク若シ境ヲ

滅エテ兵ヲ動カサハ徒ニ敗名ヲ負フノミ日ツ烏合ノ兵刀鈍ク銃寡ク以テ澳ノ大軍ニ敵シ難シト論議數日ニ渉リ漸ク前議ニ決シ老父兵二萬ニ將トシテ赴キ援ク敵將兵ヲ分チ歩騎六萬大ニ城外ニ戰フ我カ兵敵愾ノ氣餘リアリ而レドモ兵器脆弱陣ニ巨砲ナシ敵彈飛射我カ軍猶ホ顧ミス奮戰半日殺傷過半交々退ク城中之ヲ見テ氣沮ミ食盡キテ降ヲ乞フ會々邪羅鬼苦再ヒ來リ攻ム老父逆戰シテ復大ニ之ヲ破リ生擒數千老父士卒ヲ遇スル優渥ナリ感激爲メニ留マリ戰ハント欲スルモノ多シ未タ幾ナラス敵軍二十四萬四道ヨリ來リ攻ム時ニ匈國ノ精兵僅ニ二萬ニ過キス其餘烏合ノ衆ノミ兵甲完カラス糧食多カラス老父國中ヲ奔馳シテ塗ニ説キ家ニ諭シ士民ヲ奬勵シテ銃砲ヲ鑄硝藥ヲ製シ內國是ヲ定メ而シテ外勁敵ニ當リ鞠躬盡瘁義氣人ヲ動カシ士民皆感激セサルナシ元來舊敎ノ僧侶常ニ改進ノ政ヲ忌ミ守舊黨ニ與スル者亦匈都ニ會シテ外邦ノ爲メニ鄕國ヲ蹂躙セラル、ヲ痛論シ戈ヲ荷ウテ敵陣ヲ陷ルモノアルニ到ル然レドモ衆寡ノ勢敵セス訓練ノ效精シカラス刀槍弓矢以テ巨砲良銃ニ當ル能ハス外援未タ到ラスシテ匈都既ニ陷ル老父衆ヲ麾キ涙ヲ揮テ勵マスニ諸方勤王ノ師皆途ニ在リ救援遠カラス米國革命ノ日三都已ニ陷リ士氣益々堅シ吾輩ヲシテ米人ニ笑ハシムル勿レト將士勇ヲ鼓シ創痍皆起ツ名將辯武義勇ヲ召募シ澳兵ヲ驅逐シ進テ東境ニ至リ豪流勁ハ又精兵ヲ率キテ險塞ニ據リ以テ澳ノ大軍ヲ扼ス二將兵ヲ用ユル迅速朝ニ其前鋭ヲ衝キ夕ニ其後陣ヲ襲フ敵奔命ニ疲レテ而シテ退ク電將軍モ亦波蘭ノ名將ナリ義勇ニ將トシテ來リ救ヒ伐テ澳ノ北軍ヲ敗リ連戰皆勝チ進ンテ夷間絶區ニ大戰シ澳軍敗走我カ兵斬首六千級生擒二千大旗六流ヲ獲匈軍ノ威大ニ振フ邪羅鬼苦風ヲ聞テ遁レ澳軍又戰色ナシ初メ歐洲列國ノ君將相笑テ曰ク匈國烏合ノ民安ソ雄邦訓鍊ノ勁卒ニ當ルヲ得ンヤト是ニ至テ列國匈國ノ義勇ヲ稱シ澳國ノ獨立ヲ承諾セント約シ澳ノ勢威全ク衰フ澳ノ君臣後世ノ大患ヲ知ルノ明ナク俄國辯士ノ遊説ニ陷リ國ヲ忘レ辱ヲ顧ミス敵國ノ兵馬ヲ借リテ以テ同盟兄弟ヲ征服セント欲シ使者ヲ遣シテ俄國ノ援ヲ乞フ初メ俄國富强ヲ挾ンテ無事ニ苦ミ將士劍ヲ撫シテ髀肉ノ生スルヲ歎シ今又澳國ノ敗ヲ聞ク每ニ專制ノ政公議ノ爲メニ縮蹙スルヲ見テ不快ノ感觸ナキ能ハス且ツ隣邦ヲ救フヲ名トシ匈國ヲ征擊シテ再ヒ振フ能ハサラシムルトキハ他日歐ノ南方ヲ幷呑スル難カラサルヲ策シ機ヲ待ツコト久シ澳ノ援ヲ乞フニ及ンテ大ニ喜ンテ之ヲ諾シ直ニ大兵ヲ出シテ匈ノ背後ヲ衝カンコトヲ約シ宣言シテ曰ク匈國ハ反賊ナリ匈ノ人民ハ自由改進ヲ唱道スル者ナリ自由改進ハ俄澳帝室ノ深仇ナリ匈若シ勝ヲ制セハ歐ノ平和ヲ保全ス可カラス故ニ匈亂ヲ戡定シテ首謀ヲ誅シ獨裁ノ政ヲ復シ自由改進ノ迷夢ヲ破ランコト上天帝ニ報シ下人民ニ盡スノ義務ナリト匈國ノ人民之ヲ聞キ書ヲ歐洲列國ニ移シテ以テ俄ノ强暴匈ノ枉屈ヲ訴フ列國俄澳同盟ヲ聞キ傍觀シテ救ハス既ニシテ俄澳ノ大軍五十萬境ヲ壓シテ來犯ス匈國ノ志士憤激泣下リ身ヲ以テ國ニ殉スルヲ誓ヒ遂ニ澳國ト絶チ匈國獨立ノ檄ヲ傳フ實ニ一千八百四十九年四月十四日ナリ（檄文長シ故ニ略ス）

諸將相議シテ先ツ都城ヲ克復シ日ヲ期シテ進戰スルニ決シ澳ノ老將片勢ヲ匈都佛蛇城ニ圍ム血戰苦攻夜半ヨリ天明ニ至ル敵兵善ク拒ク翌朝更ニ勇ヲ鼓シテ進擊シ刀槍相接シ城壁ニ蟻附シテ遂ニ之ヲ陷レ片勢ヲ獲テ全軍ヲ擒ニシ軍氣大ニ振フ然レドモ此ノ役ヤ將士傷亡過半而シテ俄豪ノ援軍日ニ加ハリ四方ノ敗報頻ニ至ル大將豪流勁人ト爲リ勇敢果斷善ク兵ヲ用ニ然レドモ忠義ノ心薄ク久シク異志ヲ蓄ヘ老父ノ民望アルヲ忌ミ屢々其命ヲ奉セス俄軍偵シテ之



白國ノ將士憤恚之圖　（原本插畫）

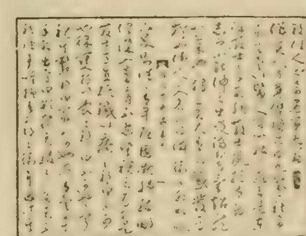
ヲ知リ重賞ヲ以テ之ヲ誘フ豪流勁遂ニ竊カニ麾下精鋭二萬五千ヲ率キテ降ランコヲ約ス麾下ノ將士之ヲ覺ル者ナシ會ミ敵ノ大兵四方ヲ圍ム豪流勁不意ニ出テヽ降リ宣言シテ曰ク恥ヲ忍ヒ憤ヲ抑ヘテ以テ將士ノ死ヲ救ヒ生民塗炭ノ苦ヲ濟フナリト麾下ノ士或ハ忿恚自殺シ或ハ其愛馬ヲ敵ニ委スルニ忍ヒス親ラ之ヲ斬ルモノアリ或ハ劍ヲ折リ旗ヲ裂キ悲憤慷慨ノ聲軍門終夜絶ヘス時ニ名將苦樂武荷ハ堀叢堡ヲ固守ス敵ノ暴將平能ハ軍竊カニ白ノ本軍ノ背後ニ出テントスルヲ諜知シ夜半枚ヲ銜ミ掩撃シテ大ニ之ヲ破ル敵軍狼狽伏尸野ニ滿ツ獲ル所ノ銃砲糧食半年ヲ支フヘシ猶ホ進戰シテヽ敵兵ヲ破リ將ニ澳境ヲ越エントス士兵麾下ニ集マル者日ニ多ク軍勢大ニ振フ依テ將士ヲ會シテ進戰ヲ議ス衆皆奮テ曰ク機失フ可ラス宜ク長驅シテ敵兵ノ備ヘナキニ乘シ澳都ヲ衝キ城下ノ盟ヲ結フハ眞ニ今日ニアリト士卒之ヲ聞テ踊躍勇氣十倍ス即日行ヲ倍シ進ンテ復大ニ澳軍ヲ破リ兵ヲ武羅天湖畔ニ屯シテ軍容ヲ檢閱ス將士高ク氣飛ヒ妖氛消散白國獨立ノ薰風自由ノ祥雲半天ニ靉靆シ澳都維也納震動ス乃チ將士ト宴ヲ張テ明朝ノ戰勝ヲ祝スル時ニ一農夫アリ状貌憔悴形容枯槁踉蹌トシテ苦將軍ノ前ニ進ム之ヲ見レハ則チ下議院長ナリ戰栗言ナシ漸クニシテ涙ヲ揮テ曰ク大事去矣大事去矣豪流勁降ヲ賣リ甘ンシテ降虜ト爲リ僅數千殘兵ヲ率キテ奔テ東境ヲ保ツト諸將士之ヲ聞テ悽愴泣下リ天ヲ仰テ憤然タリ

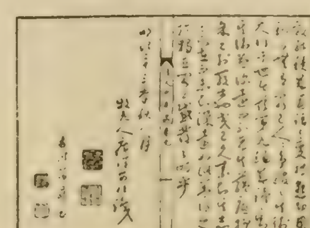
佳人之奇遇

五編

初メ散士ノ佳人之奇遇ヲ世ニ公ニスルヤ天下ノ人敢テ其不文ヲ以テセズ推稱揄揚天涯地角ノ士詩ヲ寄セ文ヲ投ジ後篇ヲ促サルヽノ書机上堆ヲ爲スニ至ル散士ノ幸榮何物カ之ニ加ヘン正サニ深ク其厚意ニ感ジ日夜筆硯ニ從事シ之ニ酬イザル可ラザルナリ然ルニ再ビ歐米ニ西征セシヨリ國事ニ奔走シ塵俗ニ牽連シ漸ク第九卷ヲ發兌スルニ至ル依テ徐ニ首ヲ回シテ顧レバ第一篇ヲ出セシヨリ以テ今日ニ至ルマデ已ニ六星霜而シテ僅ニ十卷餘ノ書ヲ著ス六星霜ノ長日月ヲ費ス是レ豈厚意ニ報イルモノナランヤ蓋シ遷延此ニ至リシモノハ何ゾヤ出版ノ自由ヲ得ザルニ因ルノミ抑初篇ヲ公ニスルニ當リ出版ノ自由ヲ得ザルガ爲ニ稿ヲ更ムルコト十餘回爾來法規ノアルアリテ毎ニ思フ所ノ半ヲモ書スルヲ得ズ稿成リテ之ヲ剞劂ニ附スルニ及ビテ更ニ又之ヲ毀チテ稿ヲ删除スルガ如キ剞劂全ク工ヲ終ヘテ塗抹セザルベカラザルノ不運ニ遭遇スルガ如キ毎卷皆殆ンド然ラザルハナシ且ツ歐人ノ植民策ヨリ東邦ノ形勢ヲ説クノ處ノ如キ事勢到底出版ノ自由ヲ與ヘズ是ニ於テ慨然數十葉ヲ裂キ硯ヲ焚キ筆ヲ茲ニ絶ントセリ然レドモ又竊カニ思ヘラク之ヲ中絶スルトキハ首尾貫通セズ既往幾十萬ノ愛讀諸君ヲ欺クニ似タリト一昨冬再ビ筆ヲ呵シ稿ヲ更メ諸友ノ評論アル原稿ヲ以テ一詩宗ニ送リ其評正ヲ需ム詩宗性檢束ナク猖狂阮籍ノ如シ乃チ稿本ヲ高閣ニ束ネ數月閱セズ之ヲ促セバ曰ク九卷ト十卷トヲ合セテ既ニ之ヲ紛失セリト此稿ヤ幾多諸友ガ勞評スル所散士ガ多少心血ノ濺ギシ所而シテ一朝空シク之ヲ失フ豈懷ニ介然タラザランヤ怏怏トシテ又筆ヲ執ルニ懶キモノ數旬漸ク再ビ舊想ヲ追懷シ梨棗ニ附スルニ臨ミ忽然大津事件起リ尋テ緊急命令下リ遂ニ又出版ノ自由ヲ失ヒ遷延今日ニ至ルモノ實ニ是等カ爲ナリ散士ガ愛讀諸君ニ負クヤ多シ然レドモ若シ此事ヲ知リ情ヲ察セバ或ハ少シク恕セラルヲ得ンカ希クハ焉ヲ諒セヨ

東海散士　謹識





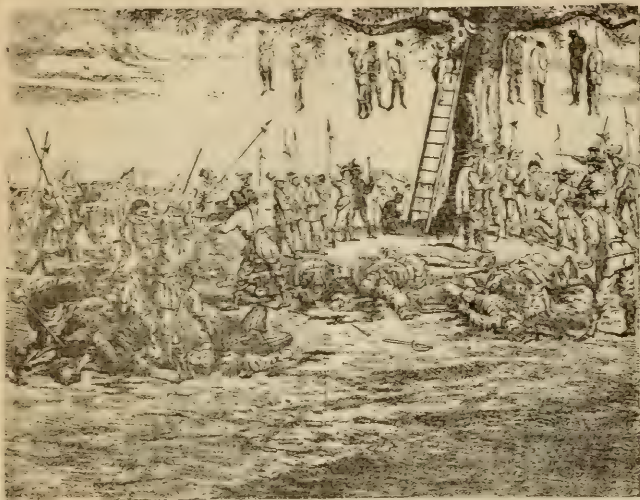
（原本卷九ノ澤安任序）

佳人之奇遇　卷九

骨數斗夫人又語ヲ繼テ曰ク是ニ於テ苦樂武荷慨然衆ニ告ケテ曰ク吾輩國家ノ爲ニ事ヲ興ス素ヨリ死ヲ以テ鴻毛ニ比ス空シク面縛楚囚ノ冠ヲ戴カンヨリハ寧ロ馬革ヲ以テ屍ヲ裹ムニ若カス一息猶ホ存シ膽猶ホ有リ豈賊ヲ伐ツノ旗幟ヲ斬ルノ劍ヲ棄テンヤ然レトモ今日ノ大勢既ニ非ナリ諸子去ラント欲スル者ハ則去レ予亦決シテ之ヲ恨ミサルナリト衆之ヲ聞キ皆曰ク僕等敢テ鄕ヲ辭シ妻子ヲ棄テ將軍ノ麾下ニ從テヨリ

既ニ一身ヲ以テ國家ニ奉セリ豈事ノ成敗ヲ以テ志ヲ渝フルモノナランヤ死生唯將軍ノ命ノミ天道幸ニ正ヲ助ケ義ニ與シ我社稷ヲ存スルニ意アラハ隻手以テ狂瀾ヲ回スヘシ若シ夫レ否ラスンハ潔ク國ト共ニ亡ヒ徇國忠義ノ鬼トナリ以テ後昆ノ義氣ヲ振ハシムヘシト苦樂武荷之ヲ聞キ大ニ喜ヒ輒其衆ヲ率キテ沿道糧ヲ集メ芻ヲ負ヒ胡蒙崙城ニ退キ直ニ堞壁ヲ修メ湟池ヲ浚ヒ礮ヲ壘上ニ列シ自ラ諸營ヲ巡視シ士ヲ撫循シ壯者ハ之ヲ勵シ創者ハ之ヲ恤ミ死ヲ以テ城ヲ固守ス將士ニ檄シテ曰ク夫レ往古一旅一成以テ國ヲ興スモノアリ昔時土耳其ノ亞細亞ヨリ起リテ西向スルヤ輕騎僅ニ四百ニ過キス而シテ能ク羅馬ノ東都ヲ破リ國威翕然歐亞ノ二洲ヲ震動セリ又嚮者拿破倫カ勝ニ乘スルノ兵ヲ以テ東向スルヤ墺都陷リ女帝蒙塵ス而シテ當時我カ匈國忠義ノ士ハ敵愾ノ志ヲ揮ヒ躍然奮起遂ニ國運ヲ挽回セリ今我決死忠義ノ士數千快健ノ馬數百アリ項領間隙ヲ伺視シ主ヲ以テ客ニ對シ一以テ百ニ當ル亦以テ爲スナカランヤ諸子請フ努力セヨ忠良ノ激スル所城ヲ背ニシ殊死シテ守ヲナサハ再ヒ逆境ヲ挽キ坦途トナシ疲兵ヲ奮ウテ勁旅トナス豈難カランヤト衆之ヲ聞キテ憤激血ヲ噬リ天ヲ指シ死ヲ以テ事ニ從フヲ誓フ既ニシテ墺軍砲哮來リ圍ム四面攻擊十五日砲聲雷霆ノ如ク彈丸降雨ノ如シ雉堞盡ク摧隳兵營半ハ燒失ス烟燄四塞上霄漢ニ亙ル敵之ニ乘シ肉薄城壁ニ攀チ苦攻スルモノ三タヒ城兵能ク防キ毎戰之ヲ破リ毫モ屈スル色ナシ然レトモ內ニハ將士日ニ傷亡シテ彈丸糧食モ亦乏シキヲ告ケ外ニハ絕エテ援軍ノ來ルナク攻圍益〻急ニシテ敵兵愈〻加ハリ大勢漸ク將ニ危カラントス墺軍攻圍以來降ヲ勸ムル頻ナリ是ニ至リテ又使ヲ城中ニ遣シ苦樂武荷ニ說キテ曰ク將軍疲散ノ孤軍ヲ提ケ屢〻大軍ヲ破リ重圍ノ中ニ陷リ將士反心ナク死ヲ見ル歸スルカ如シ而シテ將軍意氣自若泰然動カス其忠勇義烈天下既ニ感セサルモノナシ然レトモ闔國盡ク降リ援兵到ラス餘ス所ハ一孤城ノミ即是レ大勢全ク去ルモノナリ而シテ將軍獨リ危城ニ嬰リ固守シテ死ヲ俟ツハ何ソヤ其忠タルヤ則高シ國家ニ益スル所ナキヲ奈何セン願クハ一身ヲ以テ一城ヲ殃シ一城ヲ以テ兆民ヲ毒スルナク速ニ和ヲ講シ兩軍ノ兵勇ヲシテ命ヲ無用ノ地ニ失フヲ免レシメヨト苦樂武荷即應ヘテ曰ク謹テ來諭ノ辱ナキヲ謝ス然レトモ和ヲ議シ戈ヲ投スルニ先チ豫メ請ヒ且ツ約スルモノアリ曰ク我カ麾下ニ屬スル將士ハ所謂名譽ノ降ニシテ戰俘ノ例ニ據ラス其行止自在ナルヘシ又有ル所ノ軍器行李ハ悉ク之ヲ給與シ既往ノ爲メニ罪刑ニ問ハルヽコト無カルヘシ又城ヲ開クノ前大ニ弔祭ヲ執行シ戰士ノ忠魂ヲ城中ニ祭ルヲ許スヘシ此數事ニシテ墺帝ノ敕許ヲ得ハ則兵ヲ收メテ城ヲ出テン若シ其許約ナクンハ唯城ト共ニ亡ヒン耳ト墺軍其力攻スヘカラサルヲ知リ之ヲ墺帝ニ請フ帝已ムヲ得ス之ヲ許ス是ニ於テ苦樂武荷慷慨壇ニ上リ將士ニ告別シテ曰ク咨爾有衆忠勇節烈向フ所敵ナク寡ヲ以テ屢〻大軍ヲ破リ未タ曾テ挫衄セス孤立ノ一城ヲ以テ四十萬虎狼ノ大軍ヲ支ヘ國脈ヲ既ニ絕ツニ救ヒ克復ヲ以テ私ニ期セリ而シテ皇天父母ノ國ニ禍シ諸道ノ敗報踵ヲ接シテ臻リ大勢既ニ去リ孤軍重圍ニ陷リ力竭キ計窮リ元帥豪流勁降ヲ賣リ東境ノ殘援ヲ望メハ遠キ萬里ノ如シ嗚呼我儕此時艱ニ遭遇シ此凶禍ニ際會ス智勇俱ニ困ミ心力交瘁ム天時人事戰ノ罪ニ非サルナリ今ヤ骨ヲ炊キ革ヲ嚙ミ城ニ嬰リ堅守スルモ唯旬日ノ餘命ヲ長スルニ過キサルナリ然ラハ則チ感慨徒ニ命ヲ疆場ニ殞スハ垢ヲ今日ニ含ミ功ヲ異日ニ期スルニ孰若レソヤ此逆境ニ處シ膽ヲ嘗メ薪ニ臥シ誓テ國讐ヲ雪ムルヲ忘ルヽ勿レ嗚呼戎馬久シク勞シ雄心倘ホ在リ相見ル期アリ國家前途ノ爲ニ自愛セヨト三軍之ヲ聞キ咸

流涕ス翌日壙ヲ城上ニ築キ以テ殉節ノ士ヲ祭リ厚ク殯斂ヲ加ヘ而シテ後旗鼓嚴明戎馬ヲ整勒シ門ヲ開キ城ヲ出テ敵軍ノ中央ヲ過ク墺軍之ヲ見覺エス容ヲ動シテ驚歎ス是ニ於テ國内又報國ノ兵ナク全ク墺俄ノ討平スル所トナル而シテ墺俄は則前約ニ背キ親王侯伯大臣上下兩院ノ議長以下十餘人ヲ斬リ上將官十二人將校數十人ヲ銃殺シ暴掠殘虐至ラサル所ナシ良家ノ子女ヲ捕ヘハ則曰ク汝父兄ヲ奬メテ戰ハシメタリト富家ノ老母ヲ視ハ則曰ク汝悖逆軍資ヲ出シ自由ノ賊


墺俄軍悖虐ノ圖

（原本插畫）

ヲ助ケタルハ何ソヤト農商ノ家ニ亂入スレハ則曰ク賊徒ノ潛伏ヲ探ルナリト而シテ或ハ鞭笞或ハ跳踢其婦女ヲ辱シメ其家賄ヲ奪ヒ遂ニ又嘲笑シテ曰ク自由ノ民何ソ狂愚ナルヤ獨立ノ師何ソ怯弱ナルヤト士民切齒咬牙痛憤セサルハナシ然レトモ今ヤ身ニ寸兵ナク士氣解散又如何トモスルコト能ハス豈又慘烈ナラスヤ時勢此ノ如シ故ニ匈國高名ノ士或ハ斬ラレ或ハ刑セラレ或ハ他國ニ漂寓シ又身ヲ全ウシテ故國ニ歸ルモノナシ而シテ獨リ晏然歸ルモノアリ是レ豪流勁及ヒ其黨與ナリ國人之ヲ聞キ憤怨最モ甚シク其肉ヲ食ヒ其骨ヲ炊カント欲ス嗚呼米ノ阿能奴ノ如キ佛ノ藤老ノ如キ又此豪流勁ノ如キ皆其將略才幹一世ニ絕シ名望世ヲ蓋フ而シテ節ヲ全ウシ忠ヲ盡ス能ハス義ニ背キ國ヲ賣リ數年ノ富貴ヲ貪ランカ爲メニ徒ニ臭名ヲ千載ニ遺ス嘆スヘキナリ是ヨリ先キ老父敗殘ノ孤軍ヲ率キ僅ニ國ノ東南ヲ保ツ兵僅ニ五千ニ過キス敵軍吶喊襲ヒ來ル二十萬ト號ス老父且戰ヒ且退キ卑濕ノ地ヲ跋涉シ草行露宿甲ヲ解キ馬ヲ憩フノ暇ナク士卒ハ疲憊殊ニ甚シク邪熱瘴氣日夕發作重ヌルニ饑餓ヲ以テシ死スルモノ什カ七八而シテ敵兵追躡愈〻急ナリ乃僅ニ逃レテ土耳其ノ國境ニ入リ救哀ヲ乞フ土人曰ク匈國ハ我カ祖宗ノ舊讎ニ

シテ且ツ敎法ノ敵ナリ然レトモ窮鳥懷ニ入ル豈殺スニ忍ヒンヤ況ヤ骨一斗孤軍ヲ提ケ强暴無前ノ大軍ニ當リ百難撓マス數盡キ運窮リ猶ホ其志ヲ渝ヘス眞ニ得易カラサルノ豪傑ヲヤト保護懇懃待遇モ亦優渥ナリ澳俄ノ君臣之ヲ聞キ必ス老父ヲ得テ甘心セント欲シ巨萬ノ黄白ヲ以テ土帝ニ賄ヒ且ツ强迫シテ曰ク請フ速ニ我カ逆賊ヲ出セ若シ强ヒテ保護セント欲セハ二國ノ兵馬ヲ合シ干戈ニ據リテ以テ吾カ望ヲ遂ケンノミト土廷赫然激怒シテ曰ク抑〻骨數斗ハ愛國忠義ノ士ナリ豈内賊ヲ以テ目スヘケンヤ夫レ政治犯ナルモノ逃レテ他邦ニ入ルヤ之ニ干渉スヘキモノニ非ス是レ實ニ萬國公法ノ許ス所ナリ然ルニ二國ノ横恣ナル公法ヲ無シ我カ國權ヲ蔑視シ悍然暴威ヲ逞セント欲ス我國衰弱ナリト雖トモ猶ホ相對スルニ足ルヘシ豈手ヲ束ネ國權ヲ枉ケ默默畏服スルモノナランヤト拒絕シテ之ニ應セス是ヨリ墺土ノ交リ甚タ惡ク殆ト將ニ兵馬ノ交涉ヲ招キ東歐再ヒ屍山血川ノ慘活劇ヲ演セントス土京駐劄歐洲各邦ノ公使之ヲ憂ヒ一ハ俄墺ヲ慰シ一ハ土廷ニ說キ一ハ老父ニ勸メ以テ平和ノ局ヲ結ハシメント欲シ畫策至ラサル所ナシ是ニ於テ土ノ大臣從容老父ニ告ケテ曰ク我國實ニ公等ヲ保護セント欲ス然ルニ各國ノ星使

等揚言シテ曰ク敝邦ノ公ヲ保護シテ永ク我地ニ置クハ是レ二國ノ爲ニ敵ヲ伏シ虎ヲ養フモノナリ其意三國平和ノ親交ヲ破ルニ外ナラス若シ三國ノ交際ヲ重セハ亡國ノ敗將ヲ驅テ之ヲ國外ニ追放スヘシ然ラスンハ則以テ禍心ヲ包藏スルノ證トナサンノミト是レ我君臣ノ夙夜憤慨措カサル所ナリ然レトモ今我國勢各國ノ勸告ヲ斥クルノ力ナシ是レ實ニ自ラ憂ヘ且公等ニ對シテ竊ニ慚愧ニ堪ヘサル所ナリ但茲ニ彼等ヲシテ其辭ヲ藉ル能ハサラシムルノ策アリ他ナシ公等ノ回回教ニ改宗スルコト是ナリ回回教ニ入リ土國ニ住スルモノハ我臣民ト同ク他邦ノ干渉スヘカラサルハ我國法ニ明記スル所ニシテ條約ノ公認スル所ナリ公等豈此難ヲ免レンカ爲ニ基督教ヲ棄ツルノ意ナキカ千思萬考他ニ良策アルヲ見サルナリト老父涙ヲ流シ謝シテ曰ク國亡ヒテ身モ亦倒ル是レ男兒ノ志ナリ而シテ未タ引決セサルモノハ微息猶ホ存セハ亦國家ノ爲ニ心力ヲ盡シ歐洲專横ノ本源ナル俄墺ノ敝政ヲ一洗セント欲スルニ在リ窮歸以來貴國ノ優渥謝スルニ辭ナシ然レトモ信教ヲ變スルノ一事ハ高諭ニ從フ能ハサルアルヲ如何セン死ハ固ヨリ恐ルヽニ足ラス名教ハ獨リ惜ムヘシ今若シ難ヲ避ケンカ爲ニ回回教ニ入ラハ後人目シテ生ヲ貪リ死ヲ怖レ心ヲ枉ケ自ラ欺クモノナリト言ハン是レ實ニ余カ忍ヒサル所ニシテ又良心ノ最モ許サヽル所ナリ數盡キ道窮ラハ將ニ命ヲ滄海ノ外ニ託センノミト說諭再三遂ニ聽カス是ニ於テ老父ノ身命始メテ危シ初メ匈國ノ檄ヲ各國ニ傳フルヤ北米合衆國民ハ其義ヲ嘉シ之ヲ救ヒ之ヲ助クルノ議甚タ譁シ然レトモ國是ノ許サヽルヲ以テ敢テ師ヲ出スニ及ハス今ヤ遙ニ老父ノ危急ヲ聞キ之ヲ憐ムノ情之ヲ救フノ論國中ニ延蔓シ新紙ニ演說ニ其義擧ヲ贊揚セサルナク遂ニ一國ノ輿論トナリ之ヲ國會ノ議ニ決シ全國一致ヲ以テ軍艦ヲ土國ニ派シ老父ノ一群ヲ載セテ米國ニ歸ル此義擧實ニ宇内各國ノ稱贊スル所ニシテ俄墺ノ強暴モ亦之ヲ難スル能ハス老父是ヨリ米國ニ來リ居ルコト歲餘到ル所款待優遇皆其高節大義ヲ稱シ永ク此土ニ止ランコトヲ勸ム老父高節公ノ高風ニ愧ツル有ルヲ以ヲ米國ヲ辭シ又英國ニ航シ各方ニ遊說シ故國ノ慘狀ヲ述ヘ俄墺ノ殘虐ヲ痛論シ以テ同志ヲ天下ニ求メ今ニ至ルマテ更ニ其素志ヲ渝ヘスト散士曰ク尊翁ノ經歷其レ此ノ如キカ其崎嶇間關ノ蹟其宿志蹉跎ノ情之ヲ思フモ猶ホ毛髮悚立セントス紅蓮曰ク聞ク往年奇形ノ帽歐米青年ノ間ニ行ハル今猶ホ之ヲ骨數斗帽ト稱ス蓋シ骨數斗公カ戴ク所ノ帽ヲ模スルモノニシテ當時之ヲ被ラサルモノハ正邪忠姦ノ別ヲ知ラサルモノト爲セリト云フ又以テ尊翁カ忠勇義烈天下ノ人心ヲ感動シタル勢力ヲ知ルヘシト時ニ山鷄樹頭ニ叫ヒ東方既ニ白シ衣袖ヲ諦視スレハ曉露既ニ深ク滿身悉ク浥浥タリ三人始メテ夜ノ盡クルニ驚キ岸ニ上リ家ニ入リ相對シテ朝餐ヲ喫ス背上聲アリ連呼シテ曰ク妾ヲテ去ル勿レ妾ヲ棄テ去ル勿レト驚キテ首ヲ回セハ則是レ往日ノ白鸚鵡ナリ散士起テ其頭ヲ撫シテ曰ク嗚呼汝猶ホ且ツ舊時ヲ記憶シ三人ノ會食ヲ見テ昔時ヲ追想シ女史ノ教ヲ服膺シテ敢テ失却スルコトナキカ嗚呼何ソ其レ多情ナルヤ余再ヒ汝カ有情ノ詞ヲ聞キ深ク自ラ慚ツルアリ昔汝ヲ賦スルモノアリ曰ク自然ノ奇姿ヲ挺テ金精ノ妙質ヲ體シ火德ノ明彈ヲ含ム性辨慧ニシテ能ク言ヒ才聰明ニシテ以テ機ヲ識ル采采タル麗容咬咬タル好音族ヲ羽毛ニ同ウスト雖トモ固ヨリ殊智ニシテ異心ナリ鸞皇ニ配シテ美ヲ等ウス焉ソ德ヲ衆禽ニ比センヤ容止閑暇植ヲ守ルコト安停之ニ逼レトモ懼レス之ヲ撫スレトモ驚カス寧ロ從順シテ言ヲ遠ケ違忤シテ以テ生ヲ喪ハス窮ニ歸シ命ヲ委シ群ヲ離レ侶ヲ喪フ閉ツルニ彫籠ヲ以テシ其翅羽ヲ剪リ萬里ニ流飄シ重阻ニ崎嶇ス彼ノ賢哲ノ患ニ逢フヤ猶ホ棲遲シテ以テ羈旅ナ

況ヤ禽鳥ノ微物ヲヤ能ク慰撫シテ以テ安ンス西路ニ眷シテ長懐シ舊郷ヲ望ミテ延佇ス嗟禄命ハ衰薄ナル奚ソ時ノ險巇ニ遭フヤ豈言語以テ亂ヲ階スルカ將タ不密ニシテ危ヲ致スカ母子ノ永隔ヲ痛ミ伉儷ノ生離ヲ哀ミ長吟遠慕哀鳴類ニ感シ音響悽トシテ以テ激揚シ容貌慘トシテ憔悴シ之ヲ聞ク者ハ悲傷シ之ヲ見ル者ハ涙ヲ隕シ放臣之カ爲ニ屢ミ歎シ棄妻之カ爲ニ歔欷シ平生ノ遊處ニ感シ壎篪ノ相須ツカ若ク何ソ今日ノ兩絶セル胡越ノ異區ノ如クナル櫳檻ニ順テ以テ俯仰シ戸牖ヲ闚テ以テ踟躕ス崑山ノ高嶽ヲ想ヒ鄧林ノ扶疏ヲ思フ六翮ノ殘毀ヲ顧ミ奮迅スト雖トモ其レ焉ニカ如カン心ニ歸ランコトヲ懷ウテ果サス徒ニ一隅ニ怨毒ス苟モ心ヲ事フル所ニ竭ス敢テ惠ヲ背テ初ヲ忘レンヤ輕鄙ノ微命ヲ託シ陋賤ノ薄軀ヲ委ス死ヲ守テ徳ニ報センヲ期シ辭ヲ盡シテ以テ愚ヲ效サンヲ甘ス隆恩ヲ既往ニ恃ミ庶クハ彌ミ久ウシテ渝ラサランコトヲ嗚呼汝カ心情モ亦憐察スルニ堪ヘタリ今ヤ女史命ヲ征鞍ニ石ノ間ニ全ウシ生ヲ亂離間關ノ中ニ保ツカ嗚呼又之ヲ知ルニ由ナシト鸚鵡翼ヲ振ウテ悲鳴ス紅蓮蹶起シテ曰ク妾百感湧出胸中裂クルカ如シ既ニ女史カ逆境ニ屯邅スルヲ知ル豈徒ニ安坐スルニ忍ヒンヤ妾カ志正ニ決ス妾ハ是ヨリ將ニ埃及ニ赴キ女史ト死生艱難ヲ同ウセントス蓋シ英國無名ノ師ヲ興シ遠征ヲ事トスルノ時ニ當リ深ク兩軍ノ間ニ入リ英軍ノ擧動ト形勢トヲ視察シ之ヲ同志ニ報セハ未タ必スシモ故國ヲ恢復スルノ助ケトナラスンハアラス然ラハ則チ是レ千歳ノ一時失フ可カラサルノ好機ナリ苟モ躊躇スル瞬間ナラハ友ニ報スルノ期ヲ誤リ國ニ盡スノ道ヲ失ハン妾直ニ身ヲ起サントスト言未タ畢ラス室内ヲ彷徨シ旅装ヲ脩メ且ツ夫人ニ告ケテ曰ク夫人昨此土ニ來ル想フニ未タ好寓所ヲ得サルヘシ頼ニ此隱家ノ在ル有リ請フ暫ク此ニ起臥シテ長路ノ鬱ヲ解ケト夫人色ヲ作シテ曰ク妾カ千里此土ニ航シタル所以ノモノハ恩人ノ依託ヲ重シ令娘ト范老トノ消息ヲ探リ幽蘭女史ノ眞意ヲ達セントスルニ在ル耳范老ノ生死未タ明ナラスト雖トモ既ニ令娘郎君ヲ見ル妾カ行事既ニ了レリ豈又此土ニ留マルヲ要センヤ且ツ老父堂ニ在リ速ニ歐洲ニ歸リ乘スヘキノ機ニ乘シ一臂ノ力ヲ盡サントス是レ妾カ志ナリ令娘今去テ女史ヲ陽九ニ救ハントス妾焉ソ相與ニセサランヤト紅蓮喜テ之ヲ諾シ更ニ散士ノ手ヲ握リテ曰ク事急ニシテ心草草言ハント欲スルコト多クシテ口却テ之ヲ發スル能ハス郎君珍重自愛セヨ妾カ再ヒ郎君ニ此地ニ會シテヨリ今日ノ交ヲ結フヤ潛ニ幽蘭女史ニ差ツル無キ能ハス然レトモ之ヲ我カ良心ニ照セハ纖微ノ疚シキナシ女史モ亦必ス二人ヲ怪マサルヘシ妾此行死ヲ以テ女史ヲ鋒鏑ノ下ニ救ヒ手ヲ携ヘテ再ヒ大西洋ヲ渡リ郎君ヲシテ重ネテ相見ルヲ得セシメン春花啼鳥ノ朝秋風明月ノ夜小舟ヲ艤シ妾等が還リ來ルヲ竢テト散士紅蓮が稟性勁直事ニ臨ム脱兎ノ如ク又羈絆ス可カラサルヲ知リ唯其意ノ欲スル所ニ任シ敢テ之ヲ遮ルノ語ヲ發セス然レトモ今ヤ其言ヲ聽キ其去ルヲ見心動キ氣激シ紅蓮ト與ニ危邦ニ入リ一ハ幽蘭ヲ萬死ノ中ニ救ヒ一ハ埃及ヲ廢衰ノ餘ニ助ケント欲スルノ念勃トシテ禁ス可カラス且ツ紅蓮交誼ヲ重シ軟弱ノ身ヲ以テ猶ホ能ク瘴烟彈雨ノ下ニ投セントス而シテ散士東洋ノ一男兒落落五尺ノ軀ヲ保チ敢テ赴キ援クルノ策ヲ講セス恬然傍觀呑嗟知ラサルモノヽ如



骨數斗ノ像（原木福畫）

シ是レ豈氣節ニ缺クルナカランヤ是レ豈軟弱女子ニ愧ツルナカランヤ 則今日相與ニ身ヲ起シ百事ヲ棄テ、難ニ埃及ニ赴カン歟然レトモ余ハ是レ窮途潦倒ノ一書生ノミ孤笈萬里僅ニ此土ニ遊学スルニ過キス資斧ニ乏シク遠征ニ從フヲ得サルヲ如何セン且ツ老父ハ故國ニ在リ白髪頻ニ添ヘ日夜手ヲ額ニシテ散士カ東歸ヲ待ツ此身又未タ輕ミシク以テ人ニ許スヘカラサルナリ胸臆ノ裡一奮一抑蒸蒸焉夏雲ノ沸クカ如ク拘拘焉羈絆ノ馬ノ如シ漸クニシテ客氣ヲ抑ヘ別レヲ紅蓮ニ告ケ再會ヲ他日ニ期シ二人ヲ慰撫シテ徐ニ身ヲ裝ハシム紅蓮行裝既ニ成ル乃骨數斗夫人ト與ニ散士カ手ヲ握リ目ニ涙ヲ含ミ曲ケテ笑容ヲ作リ悠然トシテ去ル散士欄ニ倚リ目送スルコト多時二人モ亦顧望スルコト數回遂ニ其影ヲ失フ此ニ至リテ悲哀ノ情始メテ混混トシテ生ス首ヲ擧クレハ夏木蒼蒼濤溪四ニ人聲ナク樹梢ニ蟬語ノ響クアルノミ遙ニ南山ヲ望メハ孤雲岫ヲ出ツルノミ絶エテ景物ノ我カ懷ヲ慰ムナルシ傷イカナ水ハ離聲ヲ帶ヒ山ハ別緒ヲ牽キ畔ヲ灞岸ニ凝ス何ノ年カ驛使ノ梅ニ逢ハン手ヲ河梁ニ握ル何ノ日カ臺城ノ柳ヲ折ラン乃悄悄トシテ寓ニ歸ル胸中ノ悲哀語ルニ人ナク唯東西ノ新紙ヲ讀ミ埃及ノ近狀ヲ討ネ亞剌飛侯カ幽將軍ノ策ヲ用ヒ早ク内地ニ退キ沙漠ノ險ニ據リ灘江ノ水ヲ絶チ曠日持久以テ鋒ヲ英軍ト交ヘサランコトヲ祈リ埃及軍ヲシテ英兵ヲ支フルコト一歳ノ永キニ亙ラシメ以テ愛蘭ニ獨立ノ機會ヲ與ヘンコトヲ願ヒ百感胸中ヲ往來スル雨露ノ繁キカ如ク堅氷ノ結ヘルカ如シ

一日新誌ヲ讀ム異報アリ曰ク

海樓ノ埃及營中ニ西班牙ノ一佳人アリ年齒十八九極メテ英語ヲ能クス志操貞潔氣宇軒昂逆境ニ處シテ憂フル色ナシ自ラ望ミテ病院ニ入リ親シク湯藥ヲ把リテ傷者ヲ激勵シ蓐褥ヲ看護ス情深ク愛厚ク病者ニ接スル慇懃兄弟ニ侍スルカ如シ是ヲ以テ將士其一顧ヲ得ルモノハ忽チ皆病苦ヲ忘ル蓋シ曉鶯女史ノ流亞ナリ

ト散士覺エス恍然タリ

炎暑日ヲ逐ウテ加ハリ宛モ甑中ニ坐スルカ如シ心身倦怠加フルニ憂患ノ胸間ニ纏綿スルアリ寓ニ在ル亦書ヲ繙クノ意氣ナシ 乃蹄水ヲ下リ五月岬ニ赴キ日ニ海水ニ浴シ以テ僅ニ炎威ヲ避ク五月岬ハ蹄水ノ下流ニアリ白沙雪ノ如ク海波藍ノ如ク風光明媚都人士ノ多ク暑ヲ避クル所ナリ當時散士ノ知友來リ居ル者甚タ多シ蕭洒ノ士嬋妍ノ女訪問絶エス或ハ車ヲ驅リテ海濱ニ涼ヲ追フヲ勸ムルアリ或ハ小舟ヲ艤シテ波間ニ垂釣ヲ勸ムルアリ或ハ舞踏ヲ誘フアリ或ハ會食ニ招クアリ然レトモ散士概ネ之ヲ謝絶シ唯窓ニ倚リテ萬里ノ碧波ニ對シ獨リ空シク長嘯スルノミ一日窓前ニ大呼スルモノアリ之ヲ見レハ則チ新誌ノ號外ヲ賣ルモノナリ曰ク亞剌飛將軍敗衂シテ埃及全ク平定スト忽チ交友戸ヲ排シテ來リ新誌ヲ示シ弔ウテ曰ク埃軍遂ニ敗レ亞剌飛降虜トナルト散士曰ク今之ヲ街頭ニ聞ク然レトモ想フニ誤報ノミ埃亂以來流言訛信既ニ十餘回ニ及フ今日ノ報僕又未タ輕ミシク信スル能ハサルナリト翌朝五六ノ新誌ヲ閲ス皆亞剌飛敗北ノ事ヲ載ス事蹟甚タ亮然虚傳ニ非サルモノヽ如シ散士悵然自失遂ニ覺エス大呼シテ曰ク嗚呼豎子何ソ亞父ノ大計ヲ用キス此千歳一遇ノ好機ヲ失フヤ國家ヲ誤リ人民ヲ苦メ歐人ヲシテ陸梁跋扈ノ慾ヲ恣ニシ東洋諸國ヲシテ沮喪落膽ノ慘狀ニ至ラシムルモノ豈此一敗ニアラスヤト是レヨリ客ヲ謝シ病ト稱シ快快横臥スルモノ數日一書アリ歐洲ヨリ來ル則紅蓮ノ手書ナリ慌忙封ヲ拆キ其文ニ曰ク

山海阻絶道路通スル能ハス宿望悉ク蹉跎シ女史ノ存亡且ツ知ルニ由ナシ空シク他郷ノ魂ヲ斷ツノミ妾渡歐以來王羅ノ爲ニ窘メラルヽモノ數回實ニ窮苦ニ堪ヘス加之

郎君ヲシテ駭キ妾ヲシテ憤ラシムルモノハ巖龍蛇ノ言語擧動ニ在リ初メ妾彼ヲ見テ英國出師ノ名ナクシテ佛國同盟ノ非計ナルヲ論シ埃及國民黨ノ救ハサル可カラサルヲ説ク然ルニ彼レ卒然答ヘテ曰ク我カ佛人ハ威名ヲ海外ニ輝シ名譽ヲ克復セント欲スルノ外又他ヲ知ラサルナリ英國ノ專横跋扈ハ之ヲ制スル易易タルノミ今ヤ埃及ハ我國


（原本插畫）

人ヲシテ地中海岸ヲ横行セシムルノ好機ヲ與ヘタルモノナリ我豈兵馬ヲ以テ此國ニ干渉シ彼ノ所謂國民黨ナル烏合ノ亂民ヲ鎭平シ彼ヲシテ震慴セシメサランヤト妾反覆之ヲ爭フ彼冷笑シテ顧ミス妾痛憤極リナシ短紙盡シ難シ

散士誦讀再四唯語簡ニシテ意急ニ千差無限ノ感ヲ寓スルモ意ノ詳カナラサルモノアリ巖龍蛇ハ言論果シテ其眞心ニ出ツルカ抑ミ爲ニスル所アルカ又所謂王羅ニ因厄セラルヽモノハ嚮日ニ在ルカ今尚ホ厄難ノ中ニ在ルカ散士カ千憂萬患ノ外又新ニ一憂患ヲ添フ明月窓ヲ窺フノ夜空シク幽蘭ヲ胡沙千里ノ中ニ夢ミ細雨簷ニ鳴ルノ時徒ニ紅蓮ヲ海雲萬里ノ外ニ懷フノミ日往キ月來リ天地落葉ノ秋涼風蕭颯露蘭叢ニ滴リ風枯荷ヲ折ル殘紅日ニ觸テ頻ニ鄕思ヲ縈ヒ明月情ヲ牽キテ毎ニ旅愁ヲ織ル萬里ノ孤客憂ヲ懷クノ人實ニ感慨ニ堪フ可カラス時ニ忽チ飛報アリ故國ヨリ來ル曰ク阿爺逝矣ト散士驚愕唯夢ノ如シ滴涙亦眼ニ浮ハス茫然自失言ナキモノ之ヲ久ウス嗚呼散士幼ニシテ家國ノ喪敗ニ遭ヒ父ト兄弟ト各地ニ幽囚セラレ一家團欒ノ樂ヲ得ス其父ノ側ニ侍スルヲ得タルハ唯戊辰ノ後檻車放謫セラレタル時ニ在ルノミ其日タル僅ニ一歳ニ過キス其後東西ニ飄零シ南北ニ落魄シ壁ヲ切リテ燈光ヲ盜ミ雪ヲ積ミテ讀書ヲ助ケ苦學十年未タ一日ノ孝養ヲ盡サス西遊以來既ニ四歳唯業就ルノ日東歸左右ニ侍シ千里米ヲ負ヒ客前撒ヲ奉シ志餘ノ喜ヲ滿タスヲ以テ畢生ノ願トシ試闈既ニ撤シ遊掉猶淹リ歸志夢ヲ縈ヒ夢裏徒ニ家ニ歸リテ未タ歸ルニ及ハス今此凶報ニ接ス慈母ハ已ニ劒花彈雨ノ下ニ斃レ慈父ハ遠遊萬里ノ日ニ逝ク嗚呼ソ散士カ二親ニ於ケル此ノ如ク其レ不遇不幸ナルヤ風樹ノ憾愈ミ深ウシテ蓼莪ノ情益ミ切ナリ悲嘆數日憂愁ノ極此身モ亦病ニ罹ラントス漸クニシテ自ラ奮ヒ自ラ慰メテ曰ク逝クモノ歸ル可カラス嘆スル亦何ノ益アラン今ヤ一身孤立父母ナク妻子ナク家ナク財ナク更ニ此生ヲ累スモノナク又我カ肘ヲ掣スルモノナシ眞ニ不羈獨立一言一行唯我カ欲スル所ノマヽノミ其身ヲ國家社會ニ盡サントスルニ於テ或ハ世俗ニ優ルコト遠カラント當時徐ニ東西ノ形勢ヲ觀察スルニ歐ノ諸強國平和對峙ノ利ヲ知リ競爭侵掠ノ非ヲ覺リ列ヽ互ニ平和權衡ヲ維持スルニ汲汲トシ唯其餘威ヲ將テ之ヲ東南遠洋ニ洩シ蠶食呑噬ノ慾ヲ恣ニセントス欲シ日清二國ノ未タ大ニ振ハサルニ乘シ藩圖ヲ擴有セント欲スルノ狀アリ即英國ハ其手ヲ埃及

ヨリ南洋ニ延ヘ佛國ハ馬島ヨリ東京ニ獨國ハ南米ヨリ南洋ニ露國ハ土ノ北境ヨリ淸ノ西域ニ迫リ朝鮮ノ北界ヲ窺フコト瞭然火ヲ覩ルカ如シ然ラハ則東洋今日ノ形勢眞ニ積薪ノ上ニ坐シ火機早ク既ニ其下ニ陰伏スルヲ覺ラサルカ如シ而シテ東洋諸國ノ爲ス所ヲ顧レハ脣齒輔車相依ルノ利ヲ忘レ互ニ猜忌娟嫉遂ニ路ヲ假シテ自ラ伐ツノ拙謀ヲ學フニ至ルモノアリ散士之ヲ見之ニ感シ痛慨措ク能ハス乃チ策ヲ杖テ東洋列國ニ遊說スルノ志アリ偶ミ新府ニ遊ヒ一釋師ニ邂逅ス相與ニ天下ノ大勢ヲ痛論シテ列國遊說ノ事ニ及フ師案ヲ拍テ曰ク僕既ニ其志アリ是レヨリ歐洲ヲ經歷シ遂ニ東印度ニ航セントス足下請フ僕ト舟車ヲ同ウシ相携ヘテ列國ヲ巡遊セヨト散士遊意愈ミ動ク然レトモ猶ホ此土ヲ去ル能ハサルモノアリ他日ヲ期シテ別ル後數日一書ヲ裁シテ釋師ニ寄ス曰ク

前日初メテ相見草草袂ヲ分チ遂ニ胸襟ヲ開テ將來ヲ語ルノ暇ナシ遺憾無量當時僕學業ノ累アリ手ヲ携ヘテ遠征ヲ與ニスル能ハス尊師請フ諒セヨ費府ニ還テ以來茫然失フ所アルカ如ク徒ニ惆悵ヲ增スノミ人生世ニ在ル意ノ如クナラサル概ネ此ノ如シ良ニ歎スヘキナリ是ヲ以テ又懷抱ヲ陳ヘ以テ前者ノ缺ヲ補ハントス疎大狂簡採ルアラハ荷甚

聞ク明達ノ士ハ能ク未形ニ視遠識ノ士ハ能ク無聲ニ聽キ經綸ノ道ヲ明ニシ人心ノ向フ所ヲ詳ニシ其必然ノ勢ヲ察シ其必至ノ機ニ乘ス之ヲ以テ能ク功アリト今埃及ノ忠臣亞剌飛將軍楚囚ノ身トナリ遠ク謫セラレテ錫倫島ニ在リ僕常ニ其行爲ヲ慕ヒ其心事ヲ憐ミ一タヒ慇懃ヲ通シ深ク交誼ヲ結ヒ將來東洋諸邦ノ爲ニ大ニ課ル所アラント欲スルヤ久シ然レトモ僕ハ一介ノ書生相見ル必ス期シ難シ而シテ獨リ先生ハ緇衣ノ身相遇フ未タ必スシモ難キニ非サルヘシ夫レ能ク東洋列國ヲ連衡シ以テ西洋諸邦ト頡頏セント欲セハ埃及ヲ以テ其鎖鑰トナシ坐ナカラ地峽ヲ拒カシメ印度ヲ以テ其藩屛トシ進ンテ阿典ノ要害ヲ奪ハシメ土耳其ヲシテ奮テ北向黑海ヨリ强露ノ横ヲ窺ハシメ英露ヲシテ猜忌相爭ヒ以テ歐人ヲシテ歐人ヲ攻メシメ而シテ我國淸國ト相合シ小邦ヲ率キテ其背ヲ拊タサル可カラス先生何爲レソ鐸ヲ飛ハシ一タヒ將軍ヲ見テ明ニ心丹ヲ吐キ具ニ東洋ノ形勢ヲ說キ與ニ國辱ヲ除クノ計ヲ談セサル僕其情ニ堪ヘサルナリ埃及ハ小國薄弱然レトモ將軍義氣ノ激スル所忠義ノ感スル所猶ホ能ク疲散ノ卒ヲ驅リ以テ歐人ノ暴戾ニ抗スルニ至ル一朝兵破レ功成ラスト雖トモ其國ニ報スルノ精神實ニ愛スヘキモノアリ僕將軍ノ心ヲ憐ム豈成敗ヲ以テ其人ヲ論スルニ忍ヒンヤ我カ神州人口三千七百萬疆土十六萬方哩之ヲ英佛ニ較スルニ人寡シト爲サス地狹シト爲サス士馬精强沃野千里古ヨリ武ヲ尙フノ國ト稱ス然レトモ未タ曾テ一人ノ蹶起臂ヲ揮テ眞ニ歐人ノ横恣ヲ憤リ國權ノ毀損ヲ慨シ進ンテ我カ正理ヲ宇內ニ鳴ラスモノアルヲ見ス況ヤ義旗ヲ飜シ忠士ヲ麾キ敢テ誓テ歐人ト兵馬ノ間ニ國權ヲ爭ハント欲スルノ志氣アルモノニ於テヲヤ豈能ク共ニ天下ノ大計ヲ圖ルニ足ランヤ思ウテ此ニ至ル每ニ慷慨激昂覺エス淚下ルナリ今ヤ我國ノ士人徒ニ空理ニ溺レ漫リニ文墨ニ泥ミ筆端口議能ク論スルモ然レトモ其國ニ報スルノ精神凜乎トシテ拔ケス死シテ猶ホ悔イサルモノ果シテ幾何カアル嗟呼口ニ堂堂タル神州ト唱ヒ日本男兒ト稱スルモ豈獨リ心ニ愧チサランヤ僕西遊以來本邦人士ニ接スル尠シトセス然レトモ眞ニ國家ノ將來ヲ憂ヘ意ヲ東洋

政略ニ注キ我カ國權ノ擴張ニ熱心ナルモノ殆ト稀ナリ間ミ能ク字ヲ知リ文ヲ解スルモ優柔不斷木偶ノ精神ナキカ如シ獨リ先生年紀六旬氣豪ニ心雄ニ東西諸邦ヲ周遊シ宇內ノ大勢ヲ通覽シ將ニ以テ爲ス所アラントス何ソ其レ壯ナル哉僕等少壯之ヲ見テ豈激勵セサランヤ今我カ神州三千七百萬滿淸三億萬朝鮮一千萬印度二億五千萬土耳其埃及四千萬ノ生靈アリ而モ頭ヲ低レ手ヲ束ネ僅僅タル外人ノ輕侮ヲ受ケ恬乎トシテ愧チス循循焉偸安苟且敢テ蹶起大呼天下ヲ震動鼓舞シ暴ヲ誅シ亂ヲ平ケ險ヲ夷ケ穢ヲ除キ濁ヲ蕩テ情トナシ危ヲ助ケテ寧トナシ此頽勢ヲ挽回スル雄邦偉人ナシ嗟呼東洋ノ衰ヘタル一何ソ斯極ニ至ルヤ古稱ス印度ハ文物ノ淵叢教法ノ本源ナリト而レトモ一タヒ歐人ト交通スルニ及テ其干涉ノ術ニ陷リ其狡佞ノ計ニ制セラレ亂亡相繼キ風俗敗頽三千年來釋氏ノ政致國家ト與ニ滅絕スルニ至ル今先生足其墟ヲ踏ミ目其跡ヲ觀興廢ノ由ル所盛衰ノ來ル所ヲ察セハ必ス惻然トシテ悲ミ憤然トシテ怒リ釋然トシテ悟ル所ノモノアラン蹂躙破亡彼カ如ク其レ甚シキモ二億五千萬ノ衆豈忠義ノ士ナカランヤ又或ハ正氣ノ凝ル所天數ノ然ラシムル所亞駒馬大王其人ノ如キ英雄アリテ奮然手ニ唾シテ起リ二百餘年間失フ所ノ祖宗ノ山河ヲ恢復スルモノアラサルナキヲ知ランヤ聞ク印度ノ士人輓近日ニ益ミ獨立自治ノ氣象ヲ發生シ竊ニ英國ノ羈絆ヲ脫セント謀ルモノ多シト宜ナル哉英ノ名士武頼土近者人ニ語テ曰ク印度人カ獨立自治ノ政府ヲ建テ我カ英人ノ印度ヲ去ルノ期必ス遠キニ非サルヘシト況ヤ今猶ホ國中五千萬ノ人民依然各ミ其主ヲ奉シ其政ヲ親カラシ全ク英ノ旗下ニ屬セス竊ニ國家克復ノ時機ヲ待ツモノアルニ於テヲヤ一千八百五十七年ノ亂モ亦以テ其一斑ヲ見ルニ足ル然ラハ則チ他日東洋列國ヲ連衡シ印度ヲ助ケテ獨立タラシメ埃及馬島ヲシテ英佛ノ干涉ヲ絕タシメ朝鮮ノ獨立ヲ保護シ淸國ト連合シテ遠ク露人ヲ退ケ亞細亞洲中歐人ノ鼻息ヲ納ルナカラシメ屹然宇內ヲ三分シ亞歐米鼎立シ武ヲ偃セ道ニ仗リ人生安樂四海平和ノ大業ノ基ヲ建ツルハ豈泰山ヲ挾シテ北海ヲ超ユルノ類ナランヤ然リト雖トモ其之ヲ爲スハ宜シク深謀遠慮豫メ其必然ノ勢ヲ審ニシ以テ其必至ノ機ニ乘セサル可カラス而シテ今先生幸ニ印度ニ遊フ其豪傑ト結ヒ其俊秀ト交リ以テ後圖ヲ爲スノ機眞ニ此時ヲ然リトス且ツ夫レ佛法ノ我朝ニ入リテヨリ殆ト茲ニ一千餘年其間高僧偉人少シトセス然レトモ未タ曾テ身親カラ其國ニ至リ敎法ノ本源ヲ討ネ釋氏ノ跡ヲ弔ヒタルモノアルヲ聞カス然ラハ則チ先生今日ノ行眞ニ千歲ノ一時東洋佛法ノ伸縮予此行ニ於テ之ヲトセントス僕亦將ニ遍ク諸洲ニ遊ヒ以テ大ニ計ル所アラントス他年相見ルノ日談論三日先生ノ所薀ト叩クヘシ南北千里氣候寒暑ヲ異ニス請フ國家ノ爲ニ自愛セヨ

是後散士費府ヲ辭シ南墨西哥ニ入リ其風土人情ヲ察ス氣候溫和土地肥沃ナリ唯其山林荒廢田野未タ開ケス 流賊群ヲナシテ橫行シ極目蕭條國運未タ振ハサルノ觀アリ居ル數日居民業ヲ廢シ職ヲ休ミ遊戲スルモノ多シ怪ミテ之ヲ問フ曰ク敎祭ナリ曰ク國祭ナリ曰ク紀念祭ナリ曰ク弔祭ナリ曰ク州祭ナリ曰ク村祭ナリ曰ク家祭ナリト一年ノ休日殆ト其半ニ居ルモノノ如シ祭日ニハ即チ馬ヲ奔ラセ雞ヲ鬪ハシ歌舞淫酗家計ヲ以テ念頭ニ置カサルカ如シ散士圖將軍カ曾テ墨西哥國ノ事例ヲ用シテ大ニ西班牙人民ヲ忠戒セシコトヲ追憶シ新聞記者散多ヲ訪ウテ叩

クニ其國狀ヲ以テス散多ハ此國著名ノ憂國家ナリ嚬蹙シテ曰ク我カ人民剽悍殺伐ノ氣ヲ帶ヒ勇ヲ好ミ鬪狠ス然レトモ五十年間紛擾相繼キ殘殺スル所無罪ノ壯佼老幼胎臏ノ死スルモノ平原深谿ニ滿チ互水積灰ニ赴キ流矢ヲ犯シ白刄ヲ踏ミ加之ナラス凍餓飢寒ノ爲メ骸骨ヲ暴スモノ其數無量今ニ至ルマテ殆ト寧歳ナシ學術殖産之カ爲メニ沈退シ未タ文明國ト肩ヲ比スル能ハス蓋シ學術技藝ノ我カ社會ニ於ケル未タ以テ名利ニ關スルニ足ラス是ヲ以テ功名富貴ハ唯一ノ政府ニ集マリ少ク氣概アルモノハ皆心力ヲ政事ニ注キ空理空論ニ馳カ偏ニ政府ヲ顛覆シ已レ自ラ代リテ其政柄ヲ握リ浮雲ノ榮華ヲ夢ミント欲シ其極ヤ殘暴姦詐到ラサル所ナク在位者ハ公掌ノ財ヲ攫ミテ其私橐ヲ肥シ不義ノ富ヲ積ミ敗後ノ計ヲ爲サントシ互ニ相結託シテ公然ノ祕密ヲナシ護國兵ハ政權ヲ爭フノ具ニ利用セラレ僧侶モ亦舊權ヲ復セントスルノ志アルヨリ頼テ以テ其爪牙トナリ國民ノ多數ハ淺智ニシテ附和雷同唯目前ノ小利ヲ知ルノミ故ニ實益アル遠大ノ事業ハ皆外人ノ掌ニ歸シ名ハ自由民主ノ美國ナレトモ實ハ寡數ノ冒險者カ政ヲ爭フノ弊邦タルニ過キス豈能ク隣邦合衆國ト文明ノ進路ニ競爭並馳スルヲ得ンヤト更ニ又語ヲ轉シテ曰ク聞ク歐ノ諸邦近來頻リニ殖民政略ヲ執リ其志ヲ東南ニ洋ニ傾クト貴國ノ現狀今果シテ如何ト散士曰ク我國ノ内憂ハ小黨分裂シテ相[illegible]軋シ人民確乎タル志操ナク輕佻ニ流レ徒ニ外物ニ心醉シ日本國民ノ保有シタル特性ヲ失ヒ遂ニ獨立自重ノ氣風ヲ消磨シ禍ヲ子孫ニ發スニ在リ而シテ其外、ヲ擧クレハ即チ條約改正未タ成ラサルアリ豈能ク更ニ眼光ヲ大ニシテ歐人カ東南洋ヲ侵掠押領スルヲ防禦スルノ策ヲ建テ以テ東洋ノ沈淪ヲ救濟スルノ俊傑アランヤ散多曰ク條約改正トハ如何曰ク三十餘年前ニ締盟シテ今日ノ時勢ニ適セス弊害少カラサル條約ヲ改正シ彼我共ニ其益ヲ享ケント欲スルニ在ルノミ今ヤ我固有ノ國權ニ據リ殊ニ焦眉ノ急ナル海關税ヲ改正セント欲スルモ然強ヲ恃ミ慾ヲ抱ク歐ノ列邦ハ非理ノ異議ヲ唱ヘ未タ好結果ヲ得ル能ハス況ヤ對等條約ヲヤト散多驚キ且ツ怪ミテ曰ク何ソ萬國ノ公法ニ準據シテ自立セサル彼若シ不正不理ノ口實ヲ唱ヘ日本ノ要求ヲ拒遮スルアラハ斷然之ヲ排斥シテ唯和親條約ヲ存シ以外ノ條件ヲ破棄スルニ在リト散士曰ク方今我士大夫ノ歐人ノ恐ル、コト虎ノ如シト散多曰ク貴國ノ人口疆土之ラ歐ノ強國ニ比スヘシ君見スヤ我報國有爲ノ射烈カ内亂ヲ鎭定シ大統領ノ位ニ即キ弊政ヲ改メ僧侶ノ跋扈ヲ制シ財政ヲ釐メ外人ノ干渉ヲ絶チ就中議會ヲシテ大ニ海關税ヲ増サシメ且ツ國庫窮乏財政困難ナルヲ以テ諸外國債ハ二年ノ間償還セサルヲ議決セシムルヤ歐ノ諸邦苦情ヲ訴ヘ口實ヲ設ケ百方之ヲ妨害セント試ミタリ然レトモ強硬國權ヲ維持シ群議衆難ヲ排シテ之ヲ斷行セリ是ヲ以テ英佛西ノ三國相同盟シ精兵數萬船艦數十隻來リテ海港ニ迫ル我カ外交官奮テ盤根錯節ノ難局ニ當リ一抑一揚右與左奪遂ニ能ク英西ノ兩國ヲシテ兵ヲ收メテ退去セシムルコトヲ得タリ是ヨリ先キ三世拿破倫異志ヲ蓄ヘ別ニ一帝國ヲ米洲ニ建立シ之ヲ保庇羽翼トナシ威ヲ借リ漸ヲ積ミ其帝威ヲ固ウシ以テ天下民主ノ説共和ノ風ヲ抑制シ子孫帝王ノ計ヲナサント欲ス又當時北米合衆國ハ南北ノ大亂ニ際シ隣邦ノ休戚ヲ顧ミルニ暇アラサルヲ見澳ノ王子ト謀リ巴彦ヲ拜シテ大將軍トナシ四萬五千ノ兵ヲ授ケテ我カ國都ヲ攻ム我カ前大統領亞流門款ヲ敵ニ通シ兵ヲ擧ケテ内應シ國都ヲ陷レ保守黨ヲ以テ政府ヲ組織シ共和ノ國憲ヲ廢シ墺ノ王子摩機須美利庵ヲ迎ヘテ帝トナス射烈報國忠義ノ殘兵ヲ率キ僅ニ東境ヲ保ツ國脈ノ絶エサル一髮ノ如シ此時ニ當リ刀折レ糧乏ク而敵聲流言陣ヲ驚シ諸參佐猶ホ降

ヲ勧ムルモノアリ剛烈死ヲ以テ誓ウテ聴カス遂ニ能ク逆境ヲ挽キテ坦途トナシ頽日ヲ既ニ落ツルニ回シ再ヒ散疲ノ兵ヲ驅リ奮戰數回遂ニ王子ヲ擒ニシ國ヲ賣ルノ逆賊ヲ誅シ國家ヲ克復セリ是レ一ハ外人カ不正ノ干渉ヲ憤リタル敵愾ノ氣概ト報國ノ赤心トニ由リ一ハ北米合衆國人民カ古英雄亥老カ欧大陸ノ交渉ニハ米人之ニ干渉セス米大陸ハ米人之ヲ管領シ敢テ欧人ノ干渉ヲ許サヽルトノ謹嚴ナル遺策格言ヲ遵奉ス痛憤ナル檄文ヲ三世拿破倫ニ與ヘタルニ由ルナリ且ツ我カ國英國ニ負フ國債四五千萬萬ノ如キ屢ミ外交ノ難局ヲ醸シ英國ト絶ツ數年堅ク彼ノ要求脅迫ヲ排斥シ遂ニ五分一ニ足ラサル千六百萬ノ新公債證ヲ發シテ彼等ヲシテ屈服セシメシハ各國ノ驚怪スル所ニシテ實ニ昨年ニアルニアラスヤ我國猶ホ此ノ如シ今貴國ノ富強弊邦ニ卓越セリ宇内豈又其正義ヲ救助スルモノナカランヤト散士壯快ノ雄辯ヲ聞キ感憤之ヲ久ウシ厚ク散多ニ謝シ手ヲ握テ再會ヲ期シ馬首ヲ西北ニ回シ黄沙漠漠衰草離離土人抄掠残暴ヲ恣ニスル寂寥タル數百里ヲ跋渉シ桑港ニ出テ十二月樓船ニ駕シテ故國ニ歸ル錦帆風ニ孕ミ金門隘ヲ過ク白鷗舟ニ恠レテ飛フコト遲ク海豹人ヲ恐レス岩ニ眠ル懶ク兩岸ノ風景春色ヲ寫シ碧天恰モ拭フカ如シ首ヲ回セハ連峯ヘ模糊トシテ雲際ニ懸リ市樓ハ明滅煙樹ノ間ニ出沒シ遊子ヲシテ轉情ニ堪ヘサラシム乃チ獨リ甲板ヲ歩シ萬感交ミ集マリ日ノ西山ニ舂クヲ覺ラス既ニシテ雲旗揺揺トシテ飛ヒ風聲颯颯トシテ起リ海荒レ天曇リ逆風乍チ波ヲ捲キ激浪連山ノ如ク澎湃船ヲ蹴リ船ノ將ニ覆ラントスル數回檣傾キ櫓折レ天地晦冥逆轉漂流スル十有餘日風波漸ク收マリ鎌ニ似タルノ殘月光ヲ洩ラシ初メテ蘇生ノ思ヲナス舵樓ニ倚テ幽蘭紅蓮二女史難船ノ慘狀ヲ追想シ一詩ヲ賦ス

誰驅風雲蔽八紘。星光暗澹天地盲。怒濤如山山嶽倒。孤舟飄蕩一葉輕。東海日出國猶遠。前途從此幾萬程。意氣昂然睨天外。舵樓鼓勇叱鯢鯨。海龍有靈風雲霽。渺茫始見區宇清。青山何日歸故國。紅涙又負異郷盟。故國青山異郷友。憶此懷彼一愴情。路悠悠兮海漫漫。遊子胸間感慨榮。起望美人天一方。殘月如眉纖纖明。

漫漫際涯ナキ大洋ニ對シ茫茫無限ノ雲天ヲ望ミ三十餘日絶エテ陸地ヲ見ス氣屈シ心沈ミ無聊言フヘカラス忽チ大呼スルモノアリ曰ク芙蓉峯現ハルト散士急ニ船頭ニ上レハ富嶽旭日ニ映シテ雪ヲ冠シ雲ヲ帶ヒ髣髴天邊ニ在リ大島其前ニ横ハリ煙白雪ノ間ヨリ昇ル藹藹タル山松皓皓タル白壁遠ク我カ眼ニ入ル欧米人ノ諺ニ曰ク家郷ノ眞味ヲ知ラント欲セハ宜シク遠征羇旅ヨリ歸ルヘシト噫實境我ヲ欺カサルカナ陸ニ上リ浴後窓ニ倚リ杯ヲ呼ヒ積鬱ヲ舒ス是日ハ則チ除夕ナリ街頭ノ行人織ルカ如シ小廝ヲ呼ヒ貨幣ヲ交換スルコトヲ命ス一交友側ニ在リ告ケテ曰ク今ヤ銀紙ノ變動最モ甚シ昨夜京城談判破裂スルノ飛報アリテヨリ銀貨頓ニ騰起シ今朝調和ノ色アルノ報アリ又大ニ低下ナリ浮説流言容易ニ信スヘカラス想フニ明朝ニ至ラハ又或ハ昂騰セン暫ク之ヲ待テト散士曰ク僕久シク海外ニ在リ今始テ船ヨリ上ル貨幣ノ低昂ハ問フニ遑アラサルナリ抑ミ京城ノ談判トハ何ツヤト客節ヲ撃テ曰ク嗚呼君未タ朝鮮ノ變亂ヲ知ラスヤ今ヤ我カ國隣邦ト釁ヲ開キ兵ヲ用フルモ亦未タ知ル可カラス皆首ヲ延ヘテ京城ノ確報ヲ望ムノミト

説埃及衰敗而弔亞刺飛將軍之孤忠。論印度形勢而思亞駒馬大王之雄略。意氣凜然。碧血濺墨缸。議論激壯。腥風迸筆端。

讀來使下我有中天山深更聞二胡笳一之感上焉。嗚呼佳人奇遇之本領在レ此而不レ在レ彼也。嗚呼東海散士魯仲連之徒耶。抑亦加厘波地之流耶。輕二封侯一之俠骨。不レ帝レ秦之奇氣。足三以攪二破天下之晏眠一。書レ此以代二總評一。

明治二十三年四月廿九日於麻溪　紫山

敍二敗兵一敍二亡國一。敍二孤城重圍援絕糧盡之狀一。敍二佳人數奇死別生離之情一。都寫二人間生涯千種萬種之苦境逆境悲悽之極慘楚之極一者。吾兄得意腕力。而他人不レ可レ及妙處實在レ此。顧若松城陷之際。父母兄弟。妻子朋友。死別生別。戰死餓死之光景。於二吾兄胸中眼中一。猶有下歷歷現出而夢中幻中不レ能二消去一者上乎。不レ然其敍二苦境逆境一之筆。何特妙絕巧絕如レ此。餘每レ思レ之不レ覺愴然。

明治辛卯六月薩長內閣小變之日　木堂居士　妄評

佳人の奇遇　巻十

散士驚キ襟ヲ正シ危坐シテ客ニ問ウテ曰ク僕久シク異郷ニ淹留シ遙ニ鄉國ヲ望ミ歸心常ニ客夢ヲ牽テ絕期ナク纜ヲ桑港ニ解キ萬里漸ク故山ニ向フヤ竊ニ以爲ラク故山ハ和氣駘蕩寒梅香ヲ發シ黃鸝音ヲ弄セン此春色ノ中ニ舊知ト團欒シ舊ヲ談シ新ヲ話シ暫ク長路ノ鬱ヲ散ス其娯ミ何物カ之ニ若カンヤト何ソ料ラン怨ヲ隣邦ニ結ヒ劍花腥雨ノ慘測ル可カラサルモノアラントハ余未タ其紛擾交涉ノ由テ來ル所ヲ知ラス請フ其概略ヲ語レト客曰ク往年征韓ノ論起リ朝議分裂シテヨリ諸公冠ヲ掛ケ袂ヲ連ネテ朝ヲ去リ民撰議院ノ奏トナリ佐賀ノ亂トナリ變シテ征臺ノ役トナリ又萩ノ叛トナリ遂ニ西南ノ大亂ニ陷ル然レトモ干戈漸ク定マリ鬱屈無事ニ苦ミ強勁功名ヲ思フノ士族ハ屛息聲ヲ潛メテ又非望ヲ兵馬ニ企ツルモノナシ是ニ於テ廟堂內ニ恐ルヘキ敵ナキヲ以テ朝鮮ニ對スル政略ヲ履行シ東洋ノ安寧平和ヲ保持シ以テ侵掠ノ慾ヲ抱キ封豕長蛇荐リニ上國ヲ呑マントスル歐米ノ强敵ニ當ラント欲シ先ツ朝鮮ヲシテ鎖港攘夷ノ舊習ヲ洗滌シ猜忌恐懼ノ疑心ヲ脫却セシメンコトヲ圖ル即チ我カ初テ米國ト締盟セシ事態爾來外邦ト交通親睦セシ情形萬國通義ノ公法兵制學術技藝及風俗ノ進歩改良セシ狀我カ益セシ實我カ誤リシ弊我カ溺レシ害ヨリ所謂國力平均論ナルモノアリテ小國ノ大國ノ間ニ介立シテ能ク獨立スル所以絕交孤立ハ强國ノ爲ニ滅サレ萬邦ノ傍觀救護セサル近史ニ至ルマテ反覆解說シ我カ彼ニ於ケル地位ヲ以テ米國ノ我ニ於ケルカ如ク期シ兩國ノ人心一點ノ疑心ヲ挾マス右提左携互ニ相利シ相親ミ輔車相助ルノ順路ヲ執リ以テ彼國ヲ誘導シ誓テ淸國カ有名無實ノ空權ヲ振フノ路ヲ斷チテ宇內萬國ト對等ノ位ニ立タシメント欲セリ且日本一國ノ勢力ハ俄淸ニ對シテ未タ以テ朝鮮ノ獨立ヲ保護スルニ足ラサルヲ恐レ北米合衆國ヲ介シテ條約ヲ結ハシメ純然タル獨立王國ノ實ヲ備ヘシメタルモノハ最モ我カ勉メタル所ナリ方今我國ノ高麗半島ヲ占掠スヘカラサルハ少シク事勢ヲ通觀スルモノハ能ク知ル所ナリ然リト雖モ我放棄シテ顧ミス其苦樂ヲ共ニセサラン乎塞外秋高ウシテ馬肥エ羯笳急ニ響キ鐵騎長驅セハ豆滿ノ水長白ノ山以テ山河ノ固ト爲スニ足ラス黑龍江ノ藩鎭ハ南ニ遷リ雙頭ノ鷲旗ハ十字形ト釜山山頭ニ輝キ戰艦舳艫相望ミテ良港ニ蟠マラハ神州百年ノ命運豈寒心セサラント欲スト雖モ得可ンヤ遼東ノ鐵騎一鞭鴨綠江ニ飲シ波陵ノ水師鯨浪ヲ蹴テ京城ヲ指シ三韓震動黃龍ノ旗下ニ屬センカ自尊驕慢ノ大國ヲシテ益〻我ヲ輕侮スルノ心ヲ生セシメ客

氣ニ乘シ征臺ノ舊恨沖繩ノ餘憤ヲ洩サントスルモ知ル可カラサルナリ況ヤ十數年ノ後西比利亞鐵路落成ノ日幸ニ能ク平和無事ナルヲ得ルモ東洋ニ於ケル經濟上ノ大激動ヲ免ル、能ハサルヲヤ故ニ我唯誠意ヲ以テ彼腹中ニ置キ彼獨立ヲ堅固ナラシメ彼富强ヲ謀ランコト獨リ隣保相親愛保庇スルノ德義ノミニ非ス實ニ我カ將來ヲ慮ルノ長計ナリ是故ニ孳孳汲汲之ヲ勉メ或ハ我カ駐劄官ノ驕慢輕侮ノ心ヲ戒メ或ハ我カ在留人ノ舊習惡風ヲ掃除シ或ハ士官ヲ贈リテ彼將士ヲ訓練セシメ或ハ有爲ノ士ヲ厚遇シテ開明ノ風ヲ目擊セシメ或ハ新紙ノ發行ヲ奬メ或ハ學事ヲ啓發スルノ道ヲ勵シ加之ナラス十五年ノ變亂ニ我カ蒙リシ屈辱ヲ心裡ニ留メス償金數十萬圓ヲ返與シタルカ如キ其懇情盡サヽル所ナシ且ツ强俄ハ外移住ノ事ニ託シテ徐徐邊境ヲ擾シ內巧ニ人心ヲ懷ケテ其援與ヲ作リ佞英ハ暴戾巨文島ヲ掠奪シ清國ハ虛禮空式ニ賴リ猶藩屬ヲ主張シ控御抑制實權ヲ掌握セント欲スルノ兆歷歷點指スヘキヲ以テ彼ノ士人我カ忠言ノ適中スルヲ見テ上下稍我カ他心ナキヲ察シ慶長ノ舊怨ヲ放棄シ江華ノ新恨ヲ舍忘シ漸ク猜忌嫌疑ノ陋心ヲ解キ倚賴親睦ノ感情月ニ密ナリ是ニ於テ彼土有志ノ士ハ歐米文明ノ餘光ヲ誘引シ我カ勢力ニ賴リテ多年ノ弊政積害ヲ革メ清國ノ干涉ヲ絕チ大ニ國是ヲ定メ東洋ニ獨立ノ一新國ヲ現出セント努力計畫セル一黨ヲ生ス世之ヲ進步黨又獨立黨ト稱ス是ヨリ先キ清人我カ朝鮮ト親睦スルヲ忌疑シ陰ニ離間ノ策ヲ講シ浮說流言人心ヲ惑亂ス朝鮮士民清國ヲ奉戴シ一ニ大國ニ依賴シテ國家ヲ維持セント欲スルモノ一黨ヲナシ進步黨ニ抗スルモノアリ其唱道スル所ニ曰ク幾ヲ見テ作ルハ周易ノ貴フ所小國ノ大國ニ事ヘサルハ春秋ノ誅スル所ナリ是レ則チ吉凶榮辱ノ由テ興ル所載籍既ニ其成敗ヲ記シ古今其智愚ヲ著ス蓋シ周易春秋ハ聖道ナリ聖道ニ從テ國ヲ興スモノヲ聞ク未タ聖賢ノ敎ニ背テ亡滅セサルモノアルヲ知ラサルナリト世此輩ヲ目シテ事大黨又守舊黨ト稱ス清國事大黨ヲ庇蔭シ日本獨立黨ヲ愛護スルハ自然ノ勢ナリ是遂ニ百年ノ大計ヲ誤ルニ至ルノ本ナリト散士曰ク僕上陸匆忙未タ新紙ヲ閱スルノ暇アラス願クハ其詳ナルコトヲ聽クヲ得ント客曰ク近頃歐ノ諸國近交遠取ノ策ヲ取リ聲言シテ曰ク優勢劣敗ハ天數ナリ東洋人ハ智力金力體力三ノモノ共ニ西洋人ニ及ハサル遠シ今ヤ宇內學術技藝ノ發達進步ハ東西南北萬里遼遠ノ地ヲシテ短縮セシメ無人ノ地ニ鐵車馳セ絕海ノ水ニ汽船驕リ强速ナルモノハ勝チ弱遲ナルモノハ敗ル其機年ニ烈ク其徵愈々顯レ亞細亞亞非利加二大洲ノ舊邦人種亡滅ノ跡ヲ繼キ踵ヲ接シ年年强者ノ爲メニ侵滅セラレ今年一地ヲ失ヒ明年一島ヲ喪フ清國朝鮮モ將ニ久カラスシテ西洋諸邦ニ分領セラレントス此時ニ當リ東洋ニ國ヲ建テ遠大ノ雄略卓絕ノ才識ヲ抱クモノハ忍テ隣邦ト連累ヲ絕チ保守究死ノ策ヲ變シ亞細亞ノ風氣ヲ蟬脫シ進取活路ノ計ヲ取リ富强文明ノ西洋諸國ト連結シ機智敏捷ニ其間ニ處シ合從連衡東洋諸邦ノ領土ヲ占掠シ自ラ進テ歐人ト伍シ歐人ノ伴トナリ一ハ國土ヲ擴張シ一ハ歐人ノ憐情ヲ受ケ以テ其獨立ヲ維持セサルヘカラスト我士人中此說ヲ信スルモノ頗ル多シト散士覺エス歎シテ曰ク是レ秦ノ范雎カ遠交近取ノ故智ヲ襲クモノニシテ歐ノ姦雄ノ策ナリ方今我國不世出剛膽不屈ノ豪傑ナシ危哉一敗地ニ塗レ膽落チ氣挫ケ周章狼狽却テ名聲ヲ損セント客曰ク先ツ余ヲシテ語ヲ終ヘシメヨ此時ニ當リ朝鮮兩黨ノ軋轢殆ト其極端ニ達シ先シテ事ヲ擧クル者ハ勝チ後ルヽ者ハ自ラ死ヲ送ルノ勢アリ遂ニ十二月某日郵便局創開ノ典ヲ擧ケ當路大臣皆集ルニ會ヒ獨立黨刺客ヲ放テ事大黨ノ首領ヲ要擊シ之ヲ殺シ之ヲ傷ク事不意ニ出テ京城大ニ亂レ人心洶洶タリ朝鮮國王使ヲ我星使

ニ下シ託スルニ京城駐在ノ我兵ヲ以テ王宮ヲ守護シ人心ヲ鎭スルヲ以テス我兵之ニ應シ直ニ入テ宮城ヲ守護ス未タ幾ナラスシテ清兵事大黨ト連合シテ宮城ヲ攻圍ス我兵防戰之ヲ破ル然レトモ號令一ナラス衆寡敵セス遂ニ王ヲ棄テ圍ヲ潰シテ仁川ニ走ル敵黨忠臣洪英植朴泳教以下數十人ヲ屠斬シ餘黨暴虐勢ニ乘シテ我公使館ヲ亂撃シ國旗ヲ辱メ屯營ヲ燒ク是レ我國民ノ激昂シテ日ニ京城ノ確報ヲ望ム所以ナリト散士愁然トシテ曰ク朝鮮國民我ニ對シ新ニ感情ヲ破リ不快ノ念ヲ起ス十有餘年來日本カ苦辛經營セシ勞力殆ト水泡ニ屬シ曾テ博セシ人望是ヨリ幾多ノ歳月ヲ積ムモ亦容易ニ復スル能ハサラント後數日報アリ曰ク清國我ニ先チテ急ニ艦隊ヲ派遣シ我軍艦ニ對シテ戰ヲ挑ムノ狀アリト又曰ク清兵我良民ヲ營中ニ拘致シ我婦女ヲ凌辱ス我名聲日ニ隕ツト而シテ内ヲ顧ミレハ上流者歌舞遊樂之レ耽リ恬トシテ知ラサルカ如シ散士之ヲ見テ慨然一縉紳ヲ訪ヒ謂テ曰ク僕一介ノ書生ト雖トモ近日ノ事坐シテ見聞スルニ忍ヒサルモノアリ然シテ諸公猶ホ月ニ醉ヒ花ニ眠ル焉ソ能ク機ニ投シ變ニ處シ善後ノ策ヲ建テ東洋ノ大勢ヲ定ムルコトヲ得ンヤト縉紳冷然笑テ曰ク海外留學ノ諸生志氣徒ニ高倘學理ヲ偏信シ

歐米ノ形勢ヲ借リ來リテ直ニ我カ國事ヲ論スルコト常ナリ是レ所謂柱ニ膠シ瑟ヲ鼓スルカ如シ夫レ朝鮮ノ民人其力ヲ計ラス不敬ヲ我ニ加フル數回我之ヲ許容スルコト既ニ大ナリ彼誠ニ伏謝セスンハ兵ヲ擧ケテ征センノミ清國トノ交渉ニ至リテハ和戰ノ妙算我カ胸中ニ成竹アリ復諸生輩ノ容喙ヲ待タス白面ノ書生何ソ兵ヲ知ランヤト散士曰ク史ニ稱ス趙匡胤周ノ世宗ニ事フ功業初メ大ニ顯ハレス將トシテ淮南ヲ征シ清流關ニ至ル驍將皇甫暉十萬ノ兵ヲ提ケテ險隘ニ逆撃シ周師大敗歸路全ク絶エ將士震恐ス會ミ村人告ケテ曰ク鎭州ニ趙學究アリ村中ニ在テ子弟ヲ教ヘ智計多シ訟ヲ爭フモノハ行テ曲直ヲ問フト匡胤微服往テ計ヲ訪ヒ敗ニ因テ勝ヲ爲シ禍ヲ轉シテ福トナシ一戰皇甫暉ヲ擒ニシ遂ニ天下ニ王タリ又曰ク岳飛中原ヲ克復セント欲シ每戰皆勝チ王師北行百姓香ヲ焚キ豪傑響應シ兀朮汴ヲ棄テ去ル時ニ書生アリ兀朮ノ馬ヲ叩テ諫メテ曰ク太子去ル勿レ岳少保且ニ退カンノミト兀朮怪テ曰ク岳飛五十騎ヲ以テ五十萬ヲ破ル京城日夜兵來ルヲ待ツ何ソ守ルヘケンヤ生カ曰ク古ヨリ權臣内ニ在リテ而シテ大將能ク功ヲ外ニ立ツルモノハナシ岳少保免レス況ヤ成功ヲヤト果セル哉飛一日十二ノ金字牌ヲ

奉シ憤惋泣下リ東向再拜シテ曰ク十年ノ力一旦ニ廢スト師ヲ班シ遂ニ害ニ遇フト諸生ノ言何ソ必スシモ輕侮スルヲ得ンヤ夫レ朝鮮士民ノ暴擧ハ我輩モ亦深ク惡ム所ナリ然レトモ自ラ顧ミテ内ニ疚シキ所ナキカ聞ク朝鮮ニ兩黨アリ一ハ日本ニ親ミ一ハ清國ニ賴ル今ヤ我ニ親ム所ノ朋黨敵黨ノ首領ヲ襲撃シ之ヲ殺シ之ヲ傷ク假令外國ノ干渉ヲ憂憤シ純然タル獨立ヲ希望スルノ丹心ヨリ出ツルト雖トモ行事ハ文明世界ノ惡德ニシテ實ニ嫌忌スヘキモノナリ京城大ニ亂ルニ及ヒ僅ニ百ヲ超ユルノ寡兵ヲ以テ一王國ノ首都ヲ守リ國中ノ安寧ヲ保護シ民心ヲ鎭セントス其難キコト識者ヲ待タスシテ知ルヘキノミ我豈他ノ疑ヲ免ルヽヲ得ンヤ且ツ我兵ハ朝鮮國ノ守護ニ非スシテ我カ一國ヲ代表スル國旗星使及在留人ノ保護者ナリ若シ然ラサレハ我焉ソ護リニ獨立國中ニ兵ヲ駐屯スルヲ得ンヤ我將士ハ日本國民ノ守護兵ニシテ朝鮮國ノ兵ニ非サルナリ若シ或ハ我政府豫メ密旨ヲ授ケ非常ノ機運ニ遭遇セハ兵ヲ提ケテ彼ノ獨立黨ヲ助クヘシト命スルニ出ルカ我ハ我カ駐在將士ノ情義一國ノ王侯亂臣ノ爲メニ窘迫セラレ危急在亡ノ厄運ヲ傍觀スルニ忍ヒス寡兵ヲ提ケ死ヲ顧ミス其急ニ赴キ禍亂ヲ未發ニ鎭定シ國ノ命數ヲ將ニ絶エン



京城ニ於テ日清決戰之圖　(原木插畫)

トスルニ支ヘント欲スルノ丹心ニ出テシカ果シテ然ラハ義ヲ重シ命ヲ輕シ日本男兒ノ心膽ヲ發揚シ王ニ奏請シテ賊ヲ伐ツノ詔ヲ下サシメ兩端ヲ抱ク國民ノ方向ヲ定メ國亂ヲ平定シ王ヲ宮中ニ奉護シ反顧ノ憂ナカラシメ以テ我カ國光ヲ宣揚シ芳名ヲ竹帛ニ垂ルヘシ若シ衆寡敵セス城ヲ守ル能ハサレハ勇戰奮闘一條ノ血路ヲ開キ王ヲ守護シテ京城ヲ退キ悲痛ノ檄ヲ傳ヘ忠義ノ士ヲ募リ勤王ノ師ヲ起シ死生存亡王ト共ニシ成敗ヲ以テ心ヲ渝ヘサルヘキナリ或ハ戰破レ刀折レ矢盡キ力屈セハ潔ク尸ヲ戰場ニ暴シ我祖先カ三韓ニ留メタル威武ヲ汚スヘカラサルナリ抑ミ敢士ヲ更ニ驚ク所ノモノアリ此禍機ハ遠ク伯林府ノ夜雨佛將ト鐵公トノ近交遠取ノ密策ニ煽嗾セラレ機ヲ見テ事ヲ擧クヘキヲ暗指セシニ基クモノナリト云フ且ツ私ニ禍亂ノ報ヲ黨侶ノ姦商ニ洩シ投機米穀ノ賣買ヲ爲サシメ萬金ヲ一朝ニ攫盗セシモノアリト傳フ噫乎之ヲ何トカ言ハン今夫レ地ヲ換ヘテ之ヲ我國ニ行ハシメンカ夫ノ徳川ノ末路鎖港ハ文明ノ大潮ニ逆ヒ天道ニ背クモノニシテ攘夷論ハ決シテ行フヘカラサルヲ説クモ朝廷及薩長諸藩鎖港論ヲ執リ幕府ヲ論斷非論スルノ時ニ當リ幕臣之ヲ憤慨スルモノアリテ朝臣及諸藩ノ有力者ヲ暗殺シ常ニ最モ親ム所ノ佛國公使ニ依頼シ横濱ニ屯營スル小兵ヲ借リ來リ江戸城ヲ警守セハ果シテ如何ソヤ天下ノ士民齒ヲ切シ腕ヲ扼シ期セスシテ群起共ニ之ヲ伐ツヤ必セリ且當時ノ勢ヨリ觀察セハ薩長モ亦親ム所ノ英國ノ力ヲ借ルニ至ランカ英國モ亦佛ノ小兵江戸城ヲ占守スルヲ見テ默然已ムヘキニアラス夫レ此ノ如クナラハ佛國寡兵ヲ提ケ攘夷鎖港ノ詭激ナル國論沸湧中ニ奮突干渉シ内ハ國民多數ノ敵ヲ受ケ外ハ各國ノ猜疑ヲ蒙リ能ク其素願ヲ貫徹スルヲ得ヘキヤ今日我國ノ朝鮮ニ於ル何ソ之ニ異ナランヤ散士深ク東洋ノ爲メニ之ヲ慨歎ス然レトモ既往ハ追フ可カラス今ヤ日本ノ將士ハ清韓兵ノ爲メニ襲撃セラレ朝鮮國王ノ目前ニ苦戰シ碧血城堞ヲ染メ彈丸宮壁ヲ破リ互ニ死傷アリ是レ開戰ノ宣布ニ非スシテ何ソヤ然ルニ猶ホ悠悠不斷左顧右支苟モ無事ヲ之レ祈ル何ソ初メニ勇ニシテ後ニ怯ナルヤ諺ニ曰ク斷シテ行ヘハ鬼神モ之ヲ避クト方今ノ國是ハ唯果斷勇往ニアルノミ此激昂セル國民ヲ驅テ之ヲ指揮セハ水火モ蹈マシムヘシ豈禍ヲ轉シテ福トナシ敗ヲ回シテ勝トナシ逆境ヲ挽キテ坦途トナシ譏譽ヲ復シテ讃美トナシ聲ハ嶺表ニ振ヒ功ハ日南ヲ濟フニ難カラサルナリ公何ソ果敢天下ニ示スニ必爲ノ意ヲ以テセサル若シ之ヲ斷行スル能ハサレハ何ソ早ク國ヲ誤ル姦臣ヲ罰シ責任ノ歸スル所ヲ明ニシテ天下ニ謝シ過ヲ改ムルニ憚ルヤト紳縉不滿ノ色ヲ帶ヒ唯苦笑スルノミ

天下ノ人心日ニ益ミ激昂シ或ハ主戰論ヲ新紙上ニ主張スルモノアリ或ハ平和策ヲ演説壇上ニ説クモノアリ紛紛擾擾決スル所ヲ知ス然レトモ國民ノ輿論ハ專ラ開戰ニ傾クモノヽ如シ既ニシテ政府辨理大臣ヲ清國ニ派遣シ交渉ヲ治メシム散士一畏友ヲ見テ問フニ大局如何ヲ

以テス曰ク辦理大臣ハ有才ノ人ナリ其學東西ヲ包ネ事務ニ敏ニシテ群僚ヲ鎭率シ百事ヲ網羅スルノ伎倆ニ於テ方今未タ其右ニ出ツル者アルヲ見ス然レトモ獨リ國家ノ重任ヲ負ヒ身ヲ以テ國ニ許シ毅然動カス敵ヲシテ敬憚我カ顏色ヲ窺ハシメス能ク機先ヲ察シ和戰ノ實權ヲ握リ強國ニ使シテ國威ヲ辱メス我カ國光を宣揚シ我カ國民ヲシテ其望ミヲ充タシムルノ略ニ至テハ我之ヲ知ラサルナリ往時征臺ノ紛議ヲ解カントスルニ當テヤ我既ニ海陸ノ兵ヲ以テ半島ヲ略取シ內ニ無事ニ苦ミ功名ヲ願ヒ髀肉ヲ歎スルノ將士雲ノ如ク林ノ如シ而シテ淸國ハ兵勢振ハス軍艦整ハス加之我カ全權大臣ノ豪膽撓マス忠勇純正國ニ許スノ鐵肝ヲ以テ猶ホ智勇共ニ困ミ心力盡ク瘁ミ漸ク國威ヲ損セサルヲ得タルニ非スヤト客側ニアリテ曰ク吾子其一ヲ知テ未タ其二ヲ知ラス大使實ニ方今第一ノ才ナリ此人ニシテ此任ニ當ルニ足ラサレハ誰カ能ク此任ニ當ルヘキ者ソ布衣ヨリ起リ堅ヲ被リ銳ヲ執ルノ勞ナク淸要ヲ歷遷シ高位ニ昇リテ以テ今日ニ至ル其才識ノ豐富ナル又以テ見ルヘシ且ツ歐米ニ航スル數回或ハ英雄ノ手ヲ握リ或ハ碩學ノ說ヲ耳ニシ歐米ノ大勢文明ノ風潮ヲ熟知スルモノ他ノ老功臣ノ及フ所ニアラス最モ

長スル所ハ調停ニ在リ彌縫ニ在リ甲東死後薩長ニ藩和シ難キノ間ヲ調停シ其權衡ヲ平カニシ巧ニ其間ニ處シ時望ヲ失ハス勢力ヲ損セス隱然重キヲ負フ者非常ノ才アルニアラスンハ能ハス想フニ後年我カ政權ヲ掌握シ位人臣ヲ極ムル者ハ必ス此人ナラン既ニ調停ノ才彌縫ノ智ニ長セリ外難ニ當リ交涉ヲ治ムルハ調停彌縫ヨリ善キハナシ今ノ任ニ當ル必ス能ク樽俎ノ間ニ折衝シ圓滑平和ノ局ヲ結フコト火ヲ覩ルヨリ明カナリ古人言ハスヤ兵ハ凶器戰ハ危事ナリ戰ヲ好メハ自ラ焚ケ兵ヲ佳ムハ不祥ナリ今夫レ戰端ヲ開カンカ我數十萬ノ壯者ハ海外ニ暴露シ數千萬ノ老幼ハ徵發ニ疲レテ饑寒ニ倒レン此時ニ當リテ歐ノ強國間隙ニ乘スルアラハ之ヲ如何スヘキ豈危カラスヤト畏友曰ク子ハ唯平和ノ貴フヘキヲ知テ未タ用武ノ更ニ利ナルヲ知ラサルナリ夫レ淸國ノ我ニ於ケル脣齒輔車相依ルノ勢アリ平和ヲ持シ相親交セサルヘカラサルハ固ヨリ論スルヲ俟タス然レトモ頻年淸國ノ我ヲ猜忌シ我ヲ嫉妬スル一日ニアラス琉球廢藩ノ如キ朝鮮締盟ノ如キ皆其意ニ平カナラス事ニ觸レ應シテ宿怨ヲ洩サント欲ス而シテ其猜忌嫉妬ノ念心腸ニ入ルコト深ク尋常ノ計ヲ以テ醫スヘキニアラス蓋シ良醫ハ大疾ヲ治ムル

ヤ時ニ毒藥ヲ用フ毒藥ヲ用フルハ其病ヲ去ラントスルカ爲ナリ今淸國ト我國トノ間ニ凝結スル痼疾ヲ驅除シ能ク其病根ヲ絕チテ再起ノ憂ナカラシメント欲セハ劇藥ノ力ニ倚ラサルヲ得ス劇藥トハ他ナシ劍戟ニ在ルノミ彈丸ニ在ルノミ爆然一發血ヲ流シ骨ヲ積ム慘ハ則チ慘ナリ然レトモ今日眞正ノ和平ヲ得ント欲セハ遂ニ此劇藥ヲ用ヒサルヲ得ス古聖言ハスヤ若シ藥瞑眩セサレハ其病瘉エスト靜ニ活眼開放シテ彼ノ普澳二國ヲ見ヨ宿怨固ク結ヒテ敵視スルコト數十年遂ニ潰裂シテ干戈ニ訴ヘ呼聲雷霆ヲ動シ流血山野ヲ波ス而シテ積怨全ク之カ爲ニ消散シ往日ノ仇讎ハ今日ノ親交トナリ攻守同盟ヲ結ヒ俄佛ノ陸梁ヲ禦クカ如キ是レ劇藥ノ結果ニアラスヤ又甲子ノ變薩長大ニ宮闕ニ戰ヒ互ニ罵リテ逆臣ト呼ヒ姦賊トナス而シテ今ヤ薩長連衡情實離ルヘカラサルノ政府トナル薩州ノ庄內ニ於ケルヤ憤怨殊ニ甚タシク互ニ其肉ヲ食ヒ其骨ヲ炊キ共ニ存シ共ニ生キサルヲ誓フ戊辰ノ變互ニ干戈ニ據リテ雌雄ヲ決シテヨリ往年ノ怨盡ク消散シテ其親交他藩ノ及フ能ハサル所トナレリ是レ亦戰爭ノ毒藥ニヨリテ醫シ難キノ疾ヲ醫シタルノ效ニアラスヤ大氣鬱結連日濛濛タルノ時ニ當リ積極消極ノ二氣遂ニ相排鬱シテ激

觸スルヤ風雨起リ電トナリ雷トナリ乾坤溟溟日月光ヲ失フ然レトモ須臾ニシテ雲晴レ風收リ碧天忽チ拭フカ如キニ至ルモノハ電雷ノ力ナリ戰爭ノ國家ニ於ル亦此ノ如キノミ且ツ王者ノ兵ヲ用フルハ土壤ノ廣キヲ利スルニ非ス金玉ノ饒ナルヲ貪ルニ非ス將ニ以テ亡ヲ存シ絶ヲ繼キ天下ノ亂ヲ平ケテ而シテ萬民ノ苦ヲ除カント欲スルナリ今後苟モ我カ正當ナル要求ニ應セサルモノアラハ斷斷乎兵馬ヲ以テ決シ而ル後ニ互ニ手ヲ握リテ胸襟ヲ開キ宿怨ヲ洗滌シ興亞ノ策ヲ講シ攻守同盟ノ約ヲ固ウシ北强俄ヲ禦キ西英佛ヲ控ツルノ長計ヲ建ツル亦好カラスヤ徒ニ圓滑平和ヲ望ミ一日ノ安ヲ偸ミ汲汲彌縫ノ策是レ務ムルハ國家貞成ノ良圖ニ非ス外交ノ祕訣ハ戰勝テ彼ヲ利用スルニアリ夫レ使者ノ敵國ニ入リテ大事ヲ論スルヤ兵威ヲ盛ニシ彼ノ海港ニ進入シ事破ルレハ直ニ其都市ヲ屠ルノ氣概ヲ備フルモ猶且ツ志ヲ達シ難キコト常ナリ且ツ清ノ李鴻章ノ如キ一省ノ總督兵馬戰艦ヲ統率シ驕傲自ラ恃ミ屢ミ外交ノ難局ニ當リ强俄狹英驕佛ト辯難應答シテ頗ル外交ニ熟達セリ豈勝ヲ區區タル辯言ニ制スルヲ得ンヤ若シ終始平和ノ局ヲ結フコトヲ期セハ清韓ノ事務ニ通曉スル我カ星使ヲシテ彼地ニ在リテ處理セシムルモ亦可ナリ何ソ必スシモ子カ所謂第一流ノ人物ヲ勞スルヲ用ヒンヤ却テ恐ル三寸ノ舌ヲ揮ヒ蘇張ノ辯ヲ費スモ彼ニ實力ナク彼ノ輕侮ヲ招キ遂ニ日本與シ易シ日本人ナシ第一流ノ人傑猶ホ此ノ如シト言ハシメンコトヲ是レ余カ深ク國家ノ爲メニ寒心スル所ナリト

明日一封ノ書アリ掌中ニ落ツ何人ノ投寄スル所ナルヲ知ラス其文ニ曰ク

夫レ兵ハ活機ナリ神出鬼沒變化極リナク算ノ多キモノハ勝チ算ノ寡キモノハ敗ル兵ヲ行ル運用ノ妙豫メ陳シ難シ然レトモ竊ニ內外ノ狀勢ヲ察シ海陸ノ形勝ヲ按シ遂ニ三策ヲ得テ足下ニ呈ス老奴千慮ノ一得棄ルコト勿ク帷幄ノ謀臣ニ奏達セラル丶ノ榮ヲ得ハ幸甚

兵法ニ曰ク兵ハ神速ヲ貴フト貴國精兵ヲ拔キ行ヲ倍シ敵人ノ未タ備ヘサルヲ襲ヒ疾雷耳ヲ掩フ能ハス釜山ヲ占メ進テ東萊府ヲ徇ヘ鼓行シテ北ニ下リ嚴ニ剽掠ヲ禁シ居民ヲ安撫シ彼ノ汚吏ヲ追ヒ彼ノ苛政ヲ除カハ諸城市風ヲ望ミ戰ハスシテ潰エンノミ而シテ本軍直ニ仁川ヲ指シ京城ヲ搗キ鏖殲清兵ハ韓地ニ駐屯スル五營ノ兵ヲ擒ニシ國王ヲ宮城ニ奉シ士民ニ說クニ順逆利害ヲ以テシ能ク要害ノ山海ヲ扼シ長駐ヲ示シ猛艦ヲ艤シテ襲擊ニ備ヘ大ニ兵威ヲ示シ佛國ト同盟ノ密約成ルト聲言シ然ル後ニ清韓ト和戰ノ談判ヲ開カハ費ス所小ニシテ獲ル所大ナラン之ヲ上策トス老奴遙ニ日本ノ謀臣必ス此策ヲ用ヒ戰ハスシテ全勝ヲ制スルヲ期セリ而ルニ豈圖ランヤ悠悠不斷常ニ遲鈍ヲ以テ憫笑セラル丶者ノ爲メニ先鞭ヲ着ケラレ彼カ兵氣ヲシテ揚張セシム日東男兒ノ爲メニ痛惜スル所實ニ多シトス中策トハ何ソヤ兵艦ヲ以テ仁川京城ヲ封鎖シ清政府ニ迫リ名實兩ナカラ重クシテ且ツ厚キ要求ヲ提出シ彼之ヲ肯セサレハ先ツ一二巡洋艦ヲシテ廣東福建ノ沿海ニ出沒シ市港ヲ虛擊シ彼ヲシテ奔命ニ疲ラシメ更ニ一隊ヲシテ大同河口ヲ遡リ平壤ヲ窺ヒ鴨綠江ヨリ海ニ沿テ牛莊ニ出テ瀋陽ヲ襲フノ狀ヲナサシメハ長江ノ南北動搖シ沿海ノ城市震動シ疑俱百湧智者謀ヲ出ス能ハス勇者戰フ能ハス狼狽進退ヲ失ハン是ニ於テ二十餘年訓諫無事ニ苦ム日東將士ヲ驅リテ太沽ノ砲壘ヲ陷レ天津ヲ攻擊シ犇進城下ノ盟ヲ爲サシムルハ眞ニ此一擧ニアリ議者或ハ曰ハン夫レ清ハ大國ナリ侮ル可カラス兵勇百萬雲ノ如ク

戰艦林ノ如シ而シテ日本兵勇十萬戰艦二十餘隻兵法ニ謂ハスヤ倍ナレハ之ヲ攻ムト今十カ一ニ滿タサル孤兵ヲ提ケ千里糧ヲ裹ミテ深ク敵地ニ入リ客ヲ以テ主ヲ擊ツ勝敗ノ數智者ヲ待テ後ニ知ラサルナリト其レ然リ豈其レ然ランヤ唯兵ノ多寡ヲ以テ勝敗ノ數ヲ定メントスルモノハ趙括ノ兵法ノミ焉ソ能ク運用ノ妙ヲ論スルニ足ランヤ清國兵勇百萬ト號ス然レトモ規律訓練ノ兵ト稱スヘキモノ其數數萬ニ過キス聞ク能ク機ヲ見テ之ニ投スルモノハ力ヲ用フルコト少ウシテ功ヲ奏スルコト大ナリト今夫レ貴國大擧來リ征シ李鴻章ト旗鼓兵馬ノ間ニ智勇ヲ戰ハシメ兵結テ解ケス城壁ヲ攻圍シ平野ニ馳驅スルニ當リ獨リ恐ル、所ノモノハ閩浙ノ軍務督辦老將左宗棠兩江ノ總督曾國荃首尾相應シ麾下ノ將士ヲ引率シテ掩援スルニ在リ其他穆圖善楊岳斌程文炳ノ諸將急ヲ聞キ兵ヲ提ケ北向セハ勝敗ノ算知ル可カラサルナリ然ルニ左將軍大兵ヲ師キテ南ニ下リ福建ノ海岸ヲ鎭撫シ劉銘傳孫開華ガ久シク雞籠淡水ニ苦戰スルヲ觀テ猶ホ趣キ救フ能ハス且ツ曾ハ李鴻章ト權ヲ爭ヒ互ニ成功ヲ忌ミ內相和セス深ク憂フルニ足ラサルナリ曾國荃兄ノ蔭ヲ以テ名望高シト雖トモ強弩ノ末魯縞ヲ穿ツ能ハス且ツ李鴻章ハ安徽人ヲ以テ黨侶ヲ植結シ以テ曾家湖南ノ門閥威[illegible]ヲ抑制セント汲汲タリ故ニ兩家ノ反目內相鬩ク敵ノ如ク互ニ過隙ノ乘スヘキアルヲ窺フ豈眞情義氣以テ其急難ヲ救フノ心アランヤ而シテ鮑超諸將ハ相共ニ力ヲ合セ兵ヲ率キテ黑旗軍ヲ西境ノ外ニ救フ懸軍萬里意トスルニ足ランヤ議者或ハ又曰ハン顧慮スル所ハ清ノ陸兵ニアラス海軍ニアリ天津ヲ陷レ援兵ヲ送リ糧彈ヲ輸スルニ至リ屢ミ洋中ニ敵ノ優艦ニ遮リ容メラル、トキハ懸軍萬里糧乏シク勢孤ニ奈何トモスルコトナシ是レ座上ノ空論ノミ戰機ヲ知リ事勢ニ通スルモノ、言ニアラサルナリ抑ミ彭玉麟再ヒ西湖ノ草廬ヲ出テ戰艦大小百餘隻ト稱スト雖トモ是レ唯廣東諸州ヲ防禦スル海灣河口ヲ通航スヘキ短舟小艦ニ過キス以テ顧懼トナスニ足ラサルナリ清ノ艦隊ト稱スヘキモノハ福建ノ艦隊ト南北ノ兩水師ナリ此三師鵬翼ヲ張リ首尾相應セハ貴國ノ艦隊恐クハ敵シ難カラン然ルニ福建水師ノ半ハ福建港ニ沈沒シ殘餘ハ江ヲ遡リテ僅ニ襲擊ヲ避ケ戰戰兢兢タリ而シテ南師ハ之ヲ統御スルノ將ナク空ク吳淞口ニ泊シ先ニ臺灣ヲ救フノ命ヲ受ケ洋中佛船ノ爲メニ追擊セラレ僅ニ石浦ニ逃ル豈能ク艦隊ヲ驅リテ海洋ヲ橫行シ敵ノ腹背ヲ窺ヒ衝クノ勇アランヤ若シ閩江ヲ出ツル一步ナルトキハ乍チ佛艦ノ爲メニ擊破セラレンノミ是レ佛ノ遠征隊カ日夜苦計シテ誘出セント欲スル所ノモノナリ然ラハ則チ餘ス所ハ北洋ノ一隊丁汝昌ノミ貴國トカ之レアランヤ朝鮮ヲ懷ケ清國ヲ拉キ凱歌振旅威名五洲ニ轟キ勇武四海ニ震ヒ初メテ歐人ノ爲メニ敬憚セラレ東洋盟主ノ實權ヲ握リ興亞ノ大計ヲ建ツル眞ニ此時ヲ然リトス老奴又此機ヲ利用シ先朝ヲ恢復シ三分ノ計ヲ講シ宗廟ノ祭ヲ再興センコト畢生ノ素願ナリ既ニ長白山ノ馬族浙江ノ黃金滿東京ノ劉永福白蓮會及在禮裏員ト密使往來シ計頗ル熟セリ貴國上策ヲ棄ツ豈此中策ヲ取ルノ意ナキヤ若シ已ムナクンハ猶ホ他策アリ日清元是レ兄弟脣齒ノ國ナリ佛勢頗ル猖獗ニシテ清人ノ寒心スル所ナリ此時ヲ以テ貴國唯東洋ノ安危ヲ以テ自ラ任シ私心ヲ去リ舊怨ヲ捨テ大ニ胸襟ヲ開キテ藩籬ヲ設ケス清國ト攻守同盟ノ約ヲ結ヒ歐人ヲ以

テ東洋ノ公敵、ナンゾ一ツ同盟軍ヲ興シテ臺灣ノ封鎖ヲ解キ佛ノ遣洋艦隊ヲ追擊シ東京ヲ克復シ朝鮮ノ保護者トナリ強俄ヲ防キ再ヒ琉球藩王ヲ封セハ清國必ス貴國ヲ德トシ舊來ノ怨ヲ解キ猜忌ヲ脱セン是又興亞ノ大計ナリ唯達觀ノ豪傑ト語ルヘキノミ然ルニ怪哉道路傳フルモノアリ曰ク貴國ノ謀臣此三策ヲ建テス蘇張三寸ノ舌ヲ振ヒ清佛ノ奇禍ニ乘シテ勝ヲ制セント欲スルニアリト是レ道路ノ風說素ヨリ信スルニ足ラスト雖トモ若シ此言ヲシテ實ナラシメハ所謂怨ヲ市ヒ禍ヲ結フモノ日東ノ失計益〻清人ノ猜忌ト憤怒トヲ增シ怨仇解ル期ナカラン聞ク往年清國強俄ト伊犁ノ境界ヲ爭ヒ國家多難ノ日ニ乘シ貴國使臣ニ命シ琉球ノ局ヲ結ハントス清國怒テ之ニ應セス使臣要領ヲ得ス羞ヲ抱キテ歸國セリト老奴甚タ其拙謀ヲ慨シ日東男兒ノ爲メニ惜ムナリ豈又其失計ヲ重ヌヘケンヤ且ツ夫レ天下ノ大勢ニ通曉セサル者ヲシテ清佛ノ交渉ヲ見セシメハ必ス曰ハン清ハ佛ノ敵ニ非ス東京陷リ福州破レ鷄籠淡水又陷リ將ニ日ヲ刻シテ艦隊北ニ馳セハ沿海ノ諸城ハ粉磨セント然レトモ想フニ清ノ痛痒ヲ感スル此ノ如ク其レ未タ急劇ナラス曾紀澤ナルモノアリ一ハ俊傑ナリ歐洲ニ駐リ佛ノ國勢人情ヲ見ル犀ヲ牛渚ニ燒クヨリモ明カナリ永ク兵ヲ隔天ノ遠征ニ用ヒ與ニ天ヲ戴カサル獨乙ノ備ヲ忽ニスルハ佛人ノ歡ハサル所ニシテ戰費ヲ議院ニ課セハ必ス內閣ノ攻擊トナリ爲メニ內閣更迭シ遠征隨テ休マンコトハ豫メ胸裡ニ算スル所ナラン先キニ曾紀澤ノ清朝ヲ勸メテ雄邦ト兵ヲ構ヘシムルニ當リ議者多ク其輕略ヲ譏リ其剛愎ヲ惡メリ然ルニ彼沈思シテ曾テ之ヲ顧ミサルハ大ニ人ニ過キタルノ見識アルヤ必セリ其レ之ヲ顧ミス再ヒ前車ノ覆轍ヲ蹈ミ清人ノ爲メニ輕侮セラレサランコト僕ノ祈ル所ナリ天涯萬里語ヲ交ヘ難シ語冗ク意盡キス時ニ陰風黑雲ヲ吹キ海波天ニ漲リ砲聲遙ニ轟キ山岳震動ス筆ヲ投シ劍ヲ拔テ見レハ靈光瑩瑩四壁肅殺タリ

東海郎君麾下　　白雲山下ノ客

後數日電音アリ曰ク日清兩國平和ノ局ヲ結フ其要ハ日清與ニ兵ヲ韓地ヨリ撤スルニ在リ大使使命ヲ全ウシテ歸ル妖雲變シテ祥雲起ルト是ニ於テ人皆手ヲ額ニシテ相謂テ曰ク英ノ名相美公伯林會盟ヨリ歸ルヤ市民歡呼公ノ門前ニ群集シテ去ラス其一言ヲ得テ甘心セント請フ公邸チ出テ、呼テ曰ク大英國ノ爲メニ名譽ト利益トヲ攜ヘ歸レリト市民萬歲ヲ唱ヘテ散スト想フニ大使ノ攜ヘ還ルモノ亦必ス日本ノ名譽ト利益ナラント既ニシテ朝臣宴ヲ濱ノ離宮ニ張リテ其勳勞ヲ犒ヒ在京ノ富豪モ亦不忍池畔ニ一大盛典ヲ擧ケ其功業ヲ祝ス散士時ニ湖畔ニ寓シテ湖畔ノ一小樓ニ在リ志士三四ト欄ニ倚リ俯觀シテ樂ム畏友清狂居士後レテ至リ叱シテ曰ク吾子此媚樣ヲ見テ樂シキカ余ノ意快カラサルモノアリ夫レ我兵ヲ韓地ニ屯在セシメタルモノハ他ナシ往年我カ朝廷宇內ニ率先シ朝鮮國ヲ尊テ獨立國トナシ公署ヲ置キ商估ヲ送リ親睦交義ヲ表ス時ニ彼頑民天下ノ公道ニ暗ク我ヲ以テ覬覦ノ野心ヲ抱クモノトナシ通商ヲ以テ國ノ富ヲ失フモノトナシ我國旗ヲ汚シ我人民ヲ惱ス是ニ於テ我名譽ト人民ノ生命財産トヲ保タント欲シ已ムヲ得ス兵ヲ送リテ其安寧ヲ護セリ彼ノ戊辰前各藩ノ狂士歐米人ニ暴行ヲ加フルニ當リ彼外人我國內ニ兵ヲ屯駐シタルト更ニ異ナルナシ嚮キニ韓朝不測ノ變アルニ當リ百官狼狽爲ス所ヲ知ラス人心洶洶禁衞軍モ以テ國王ノ信ヲ託スルニ足ラス是ヲ以テ國王手書シテ我兵ヲ請ウテ宮闕ヲ護ラシメ以テ朝廷ノ威望ヲ維持セシム然ルニ彼清兵何者ソ濫ニ兵器ヲ弄シテ我

國旗ヲ射我將士ヲ撃チ我公署ヲ攻メ我商民ヲ窘メ我婦女ヲ辱ム是レ國家ノ公敵人民ノ大讎ナリ其虐ヲ淸メス其仇ヲ報セス漫然唯互ニ兵ヲ撤スルノ約ヲ結フ意氣漠然タリ僕其深意佳謀何邊ニ存スルヲ知ラサルナリ熟ミ五洲ノ勢ヲ通觀スルニ弱肉强食一歩ヲ進ムモノハ進テ奮ヒ一歩ヲ退クモノハ退テ衰フ殊ニ東洋ヲ甚シトス想フニ淸人ノ勢威加ハリ我ヲ輕侮スルノ風增長シ我航海ノ權商業ノ利ニ影響スル所決シテ僅少ニアラサルヘシ況ヤ我韓地ニ於ケル勢力ハ地ヲ拂ウテ空シク多年經營シタル辛苦ハ水泡ニ歸スルヲヤト辭氣激昂坐上肅然タリ

既ニシテ獨立黨ノ領袖朴泳孝金玉均等十有五六人百難ヲ凌キ萬死ヲ犯シ我國ニ渡來ス散士乃チ古筠居士ヲ其寓ニ訪フ居室陋隘衣服粗野六七人ト踞坐ス顏色憔悴形容枯槁形神共ニ憊ルルノ狀視ルニ忍ヒス散士惻然未タ語ル所アラス居士先ツ曰ク敗殘失意ノ徒事業沈頓國家ノ爲メニ死スル能ハス生ヲ偸ミ恥ヲ忍ヒテ流寓シ貴國ノ累ヲ爲ス深ク愧ツル所ナリト散士曰ク成敗天ノミ人事何ソ論スルニ足ラン唯足下ヲシテ壯圖一蹶空シク無限ノ志ヲ抱キ國ヲ去リ家ヲ棄テ此極ニ沈淪セシメタルモノ實ニ我邦人其責ヲ分タサルヲ得サルモノアリ大廈ノ傾覆セントスルヤ一木ノ能ク支フル所ニ非ス然レトモ足下等幸ニ死セス國家ノ柱石ヲ以テ自ラ任セハ猶ホ救藥スヘキノ望ナカランヤ失意落膽ハ尋常人ノミ足下等皆春秋ニ富ミ前途遼遠ナリ願クハ努力自愛セヨト居士慨然トシテ曰ク國君ハ權臣ノ爲メニ凌カレ壯士ハ干戈ニ死シ忠臣ハ毒手ニ斃レ親戚ハ慘刑ニ殲キ師友ハ牢獄ニ繫カレ内弊政ニ艱ミ外强國ニ窘メラル家鄕ノ事知ルヘキノミ而シテ引決自刃スル能ハサル所以ノモノ豈區區タル餘生ヲ惜ムノ故ナランヤ國家ニ報シ死者ニ酬ユル丹心猶消磨セサルヲ以テナリ世人ノ怯トナシ牛馬トナスモ元ヨリ甘ズル所ナリト散士曰ク僕モ亦亡國敗殘ノ餘ナリ其境遇經歷スル所足下ト比スヘキニ非スト雖トモ家人親戚干戈ニ斃レシモノ五十有餘人田園ハ沒セラレ家資ハ掠メラレ艱難困厄萬狀嘗メ盡シ流離逆境ノ苦味ヲ知ルヤ已ニ詳カナリ是ヲ以テ足下ノ境遇ヲ悲シムコト亦殊ニ深シ他日東洋警アリ大ニ奮フヘキ時機ニ遭遇セハ手ヲ携ヘテ與ニ西征スヘシ大丈夫ノ冷面熱腸人ヲ欺クノ語ヲ作ラス足下夫レ僕ヲ疑フ勿レ僕西遊シテ西球亡國ノ義士節女ニ邂逅シ其奇遇ニ感激シテ備ニ心膽ヲ吐露セリ今ヤ足下ヲ得タリ之ヲ毛穎ニ命シ四方有志ノ士女ニ檄セント欲スト居士聞キ終ラス急ニ驚キ起テ呼テ曰ク僕ヲシテ奇遇中ノ人タラシムルモ鄕國ヲシテ亡國タラシムル勿レト既ニシテ徐ニ曰ク弊邦將來淸ノ藩屬タラサレハ俄ノ併呑スル所トナラン淸ノ我ヲ待遇スルノ擧動ハ世人ノ目擊スル所ナリ露ノ謀ハ世人未タ之ヲ探ラスト雖トモ早ク已ニ我カ勢力アル一族ヲ籠絡シ北方咸鏡道ヲ保護ノ下ニ置カントスルノ心アルニ似タリ然ルヲ前車ノ覆ルヲ覺ラス猶ホ後車ヲ驅リテ險路ニ向フ朝鮮ノ命脈之ヲ想ヘハ戰慄スルニ堪ヘタリ祖先箕子三諫シテ聞カレス國ヲ去リ殷ノ墟ヲ過キ麥秀ノ歌ヲ作リテ彼ノ狡童ノ我ト好カラサルヲ慨歎ス嗚呼誰カ又後年麥秀ノ歌ヲ唱テ亡國ノ跡ヲ弔フ者ソト嗚咽又語ル能ハス少焉ニシテ曰ク僕巨族ノ家ニ生レ幼ニシテ不羈卓落産業ヲ事トセス常ニ思ヘラク苟モ士ノ此世ニ生存シ國家經世ノ志業ヲ抱クモノ山河ノ形勢人民ノ疾苦ヲ知ラスシテ可ナランヤト歲十八意ヲ決シテ竊ニ國中ヲ漫遊シ熟ミ我カ風土ヲ視察スルニ金銀ノ寶鑛多カラサルニ非ス地味豐沃ナラサルニ非ス人民寡小ナルニ非ス河海ノ運輸便ナラサルニ非ス而シテ老者ハ窮死シ壯者ハ流離シ目ニ觸レ耳ニ入ルモノ盡ク感慨悲憤ノ媒タラサルナク特ニ縉紳位ニ傲リ權柄ヲ弄ヒ收斂貨殖放僻邪侈至ラサル

所ナク里巷心ヲ痛メ寃ヲ含ミテ訴フルニ所ナシ且ツ國家ノ危キ累卵ノ如キモ肉食者憒憒憂フルナク互ニ援引人ノ爲メニ官ヲ設ケ吏ノ爲メニ職ヲ擇ヒ秀士ヲ叩ケハ書ヲ知ラス孝廉ヲ察スレハ濁ル泥ノ如ク十羊九牧既ニ食ヲ得ス人亦息ヲ得サルノ狀アリ僕之ヲ觀テ初メテ奮激シ弊政ヲ改革シ國勢ヲ挽回スルヲ以テ自ラ誓フ當時國王ノ生父李星應大院君政ヲ攝スル十有餘年威權內外ヲ震動ス大院君人ト爲リ寡慾ニシテ詩書ヲ好ミ東洋豪傑ノ風アリ然レトモ性剛愎刻薄宇內ノ大勢ニ暗ク國家前途ノ大計ナク徒ニ永ク政柄ヲ握ルニ戀戀シ寬宏人ヲ容ル能ハス僕等家居韜晦泰西ノ譯書ヲ繙キ深ク富强文明ノ由テ來ル所ヲ閲シ朝鮮ヲシテ貴國ノ爲ス所ニ習ハシメント欲シ時機ヲ待ツコト蓋シ十有餘年而シテ秕政百出風教日ニ壞レ國勢日ニ凌夷シ之ヲ慨シ之ヲ憂フル志士意氣相投シ肝膽相照シ朴泳孝



（原木插畫）

朴泳教洪英植徐光範徐載弼十餘人ト弊政ヲ改革シ國勢ヲ振作スルヲ以テ自ラ任ト既ニシテ王妃大院君ト權ヲ爭ヒ外戚閔氏ヲ引援シ弟奎鎬等ト謀リ大院君ノ大權ヲ殺キ兄閔升鎬ヲ擧ケテ之ニ代ラシム升鎬死シテ其胤ナキヲ以テ同族台鎬ノ子俊才閔泳翊ヲ以テ其家ヲ嗣カシム奎鎬死スルニ及ヒ泳翊代リテ政柄ヲ握ル大院君閑居三年國中外戚ノ政ヲ喜ハス不平ヲ抱クモノ頗ル多キヲ知リ再ヒ政權ヲ掌ラント欲ス時ニ江華ノ警報アリ繼テ貴邦ト條約ヲ訂結シ交通和親スルヲ聞キ機失フヘカラストナシ絕交ノ書ヲ朴泳孝ニ送リ私ニ在官ノ腹心ヲ嗾シ條約ヲ交締スルヲ非議セシム其議ニ曰ク日本ハ國家與ニ天ヲ戴カサルノ舊仇ナリ今ヤ又我海岸ヲ窺ヒ我城市ヲ陷レ我カ民人ヲ殺スノ新讎ナリ且ツ彼近者蠻夷ト交通シ聖賢ノ敎ヲ棄テ、邪敎ノ政法ヲ慕ヒ文物典章ヨリ衣食器具ニ至ルマテ之ヲ模擬シ之ニ心醉シ國人擧テ狂ノ如ク遂ニ我ヲ勸メテ彼ト通シ彼ヲ師トナサシメント欲ス是レ豈喬木ヲ下テ幽谷ニ入ルモノナラスヤ先キニ國家屢〻佛國妖僧ノ爲メニ民人ヲ誤リタルコト多シ邪敎ハ祖宗典法ノ深ク禁スル所ナリ堂堂連綿タル聖賢ノ國ヲシテ犬羊ト伍ヲ爲シ文武允聖ナル我國王ヲシテ彼深仇ト交ヲ結ヒ彼蠻夷ノ君長ト

位ヲ同ウセシムルニ忍ヒンヤ且ツ往日我國一對馬人ト交通シテ其狡暴ニ堪フル能ハス然ルヲ況ヤ日本ノ大國ト交通スルニ於テヲヤ我力ノ堪ヘサルコト知ルヘキナリト朝野靡然トシテ其說ニ傾向シ新締成ラスシテ又將ニ貴邦ト干戈ノ禍ヲ見ントス幸ニ國王正義ニ左袒シ百官ノ邪說ヲ排シ和親ノ約ヲ締結スルコトヲ得タリ然レトモ百官多ク鎖國ノ說ヲ抱キ貴邦ノ使臣ト來往スルヲ愧ツ僕等其兩情相通セス爲メニ禍害ヲ生スルヲ恐レ竊ニ親友ト謀議シ僧李東仁ヲ貴邦ニ遣シ書ヲ岩倉公ニ奉リ貴國カ弊邦ニ交ル情義ノ厚薄俄淸ニ對スル決意ノ如何ヲ探ラシム東仁等貴國上下人心ノアル所ヲ知リ開明ノ風富强ノ術ヲ見テ大ニ覺ル所アリ歸テ貴邦ノ國情ニ泰西ノ文明ヲ採用スルノ急務トヲ上奏ス是ニ於テ國王ノ意漸ク改進ニ向フ尋テ朝臣ノ俊秀ナルモノ十人ヲ選拔シテ貴邦ニ遊學セシメ革然開物成務ノ治ヲ奏セント欲ス然レトモ侍臣聖明ヲ擁閉シ女謁行閔族政柄ヲ弄シ政事姑息ニ陷リ讒誣頻リニ行ハレ有爲ノ才ヲ抱クモノ或ハ貶竄セラレ或ハ身ヲ潔ウシテ朝ヲ去ル時ニ僕モ亦遠ク邊塞ニ流竄セラル內政愈〻弊ヘテ百姓困憊歲穀ノ登ルコト少ク催吏ノ租ヲ責ムル倍〻酷ナリ饑寒民ノ路傍ニ哀ヲ乞フノ慘極目蕭條鷄犬聲罕ニ

驛程夜冷ニシテ執レカ琵琶ヲ聽カン二十四橋頭是レ當年ノ明月ナラス十三亭畔亦舊日ノ遺風ニアラス地僻ニ風高ク放臣澤畔ニ行吟シ逋客蘆中ニ浩歎シ流水嗚咽落木悲涼夜半寐ル能ハス衣ヲ攬テ起テ徘徊シ一長篇ヲ得タリト散士之ヲ詠スルヲ乞フ居士沈吟シテ曰ク今ヤ十ノ三四ヲ忘ル且ツ憚ル所アリ君之ヲ強フル勿レト更ニ語ヲ轉シテ曰ク既ニシテ僕宥サレテ京城ニ歸ル乃チ朴徐等ト大ニ改革論ヲ唱道シテ當路ノ大臣ヲ諷諫ス年少ニ位高カラス獻替スル所皆用ヒラレス是ニ於テ相謀テ曰ク機未タ到ラサルナリ暫ク時ヲ待ツニ如カス且ツ言ノ行ハレス謀ノ用ヒラレサル所以ノモノハ經歷信望ノ天下ニ重ンセラレサルヲ以テナリ若カス相携ヘテ海外ノ風光ヲ觀察センニハト因テ貴國ニ航シ留ルコト半歳會々京城ノ變アリ是ヨリ先キ大院君外戚閔氏ヲ抑退シ再ヒ政權ヲ掌握セント欲シ機會ノ乘スヘキヲ覦フ時ニ諸道不穀登ラス民人囂囂飢ヲ訴ヘ軍人洋風ノ訓練ヲ嫌ヒ且ツ俸給下ラス飢寒身ニ迫ルヲ怒リ嗷嗷亂ヲ唱テ蜂起ス大院君機ヲ得テ之ヲ指縱シ王妃ヲ殺シ併セテ閔族及ビ己ニ從ハサル黨侶ヲ屠リ盡サント欲シ大闕ニ迫リ殿階ニ上リ大臣閔鎌鎬ヲ殺ス王妃服ヲ變シ亂ヲ忠清道ニ避ク軍人亂民ト勢ヲ合セテ貴國ノ公署ヲ襲ヒ星使僅ニ身ヲ以テ免レ從者死スルモノ多シ大院君勢ニ乘シ國王ヲ脅制シ恣ニ賞罰ヲ行ヒ邦內大ニ亂ル僕此警ヲ聞キ即日舟ニ搭シテ仁川ニ歸ル時ニ清ノ兵艦數隻早ク既ニ泊シテ仁川港ニアリ魚允中ノ艦中ニアルヲ知リ直ニ潛行シテ善後ノ策ヲ議ス蓋シ允中ノ意ハ清兵ノ力ヲ借リテ大院君ヲ拘囚シ天津ニ放謫セントスルニ在リ僕大ニ之ヲ非トシ難ジテ曰ク一時目前ノ急ヲ救フカ爲メニ近隣大國ノ力ヲ假リテ內亂ヲ鎭メント欲ス是レ國家ヲ賣ルニ異ナラサルナリ大院君ハ城狐ノ如シ抑制スル豈策ナカランヤ清ノ力ヲ借ルハ豺狼ヲシテ雞犬ヲ護セシメ獺ヲ放テ池魚ヲ守ラシムルニ齊シ若カス寧ロ國內ノ志士ヲ募リ勤王ノ師ヲ起シ立國ノ策ヲ建テ以テ禍亂ヲ戡定センニハト力爭一晝夜允中危懼シテ從ハス僕其遷延機ヲ失フヲ恐レ直ニ服ヲ變シ面ヲ包ミ京城ニ潛行シ與ニ國事ヲ談スヘキモノヲ訪フ然レトモ我國人傑半ハ黃土ニ歸シ半ハ四方ニ散シ寇氣路ニ充チ烽火天ニ亙リ外兵京城ニ滿チテ黃塵高ク揚リ陰風熾ニシテ白日光ヲ失ヒ內政紊亂シテ妖雨長ク宮城ヲ閉チ王威萎微君王何ノ處ニカアル昔日簪纓ノ地唯殘陽ヲ餘スノミ國家ノ前途ヲ思ヒ身世ノ逆境ヲ歎シ覺エス涕淚雨ノ如ク下ル乃チ書ヲ草シ屢々國王ニ上ル一モ達スルコトヲ得ス後數日貴國公使議協ハサルヲ怒リ兵ヲ引テ仁川ニ去ル人心洶洶市民皆荷擔シテ走ル王妃亂ヲ避ケテ尙山中ニ在リ魚允中金允植等政權ヲ掌握ス時ニ朴泳孝密策ヲ懷ニシ日韓ノ紛議ヲ料理周旋シ水路仁川ヨリ星馳京城ニ歸リ盛服直ニ宮中ニ至リ允植允中ヲ見テ曰ク清兵ヲシテ大院君ヲ拘囚セシメタルハ實ニ是レ我國ヲ傷クルモノナリ將來驕清ヲシテ我國事ニ干涉セシムルノ口實ヲ與ヘタルモノナリ然リト雖トモ今之ヲ悔イルモ既ニ晚シ抑々清兵ヲ以テ我戍衞トナスハ是レ後日ノ大患ヲ遺スモノナリ若カス英米諸國ニ請ヒ同盟ノ兵艦ヲ借リテ暫時警備ノ任ヲ託センニハ果シテ此ノ如クナラハ假令一二ノ諸國不良ノ心ヲ抱クモ又我ヲ奈何トモスルコト能ハス朝鮮ノ形勢タルヤ一國ヲ以テ俄清日ノ一邦ニモ抗スル能ハス清ノ力ヲ借リテ俄ヲ防ク可カラス俄ノ兵ニ倚リテ清ニ抗スヘカラス深ク公明ノ邦國ニ倚賴シ歐ノ瑞西白耳義諸邦ノ如ク各國平均權衡力ニ委ネサルヘカラスト辭氣激勵語語肺腑中ヨリ湧出ス列坐感動セサルハナシ獨リ允中其非ヲ覺レトモ後難ヲ恐レ失權ヲ危ミ固執聽カス越テ明日泳孝詔ヲ帶ヒ命ヲ傳ヘテ僕ヲ國王ニ謁見セシム國王賤臣ニ謂テ曰ク今ニシテ汝ガ意見ヲ用キサルヲ悔ユ

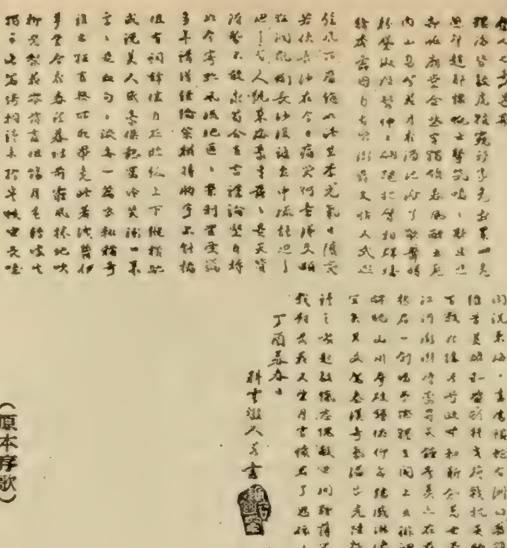
內災纔ニ靖シテ外患迭ニ乘シ實ニ國家危急存亡ノ秋ナリ汝宗祖宗廟ノ爲メニ善後ノ策ヲ建テヨト僕感激死ヲ以テ國家ニ盡スヘキヲ誓フ後卑見ヲ建白スル所多シ然レトモ允中等敢テ僕ノ說ヲ容レス敬シテ遠サクル術ヲ施スノミ日韓約成リ泳孝大使トナリ僕巡覽ニ託シ從テ再ヒ貴國ニ遊ビ留テ歸ラス以テ時機ノ至ルヲ待ツ然レトモ國王屢〻書ヲ賜ヒ召還スルコト頻ナルヲ以テ遂ニ意ヲ決シテ朝ニ還リ國王ニ謁シ治道策ヲ上リ又俊才ヲ海外ニ派シ教育訓練ヲ受ケシムヘキコトヲ言フ國王嘉納直ニ士庶人ノ子弟四十餘人ヲ選拔シ貴國及米國ニ遊學セシム閔氏ノ門葉僕ヲ惡ムコト蛇蝎ノ如シ蓋シ僕ガ國是トスル所ハ貴國ト米國ニ信交シテ國家ヲ振作セント欲シ彼ノ執ル所ハ清國ニ隸屬シテ保守ノ政ヲ執ラントスルニアリ相容レサルコト水火ノ如シ幸ニ國王ノ僕ヲ信任スル厚キヲ以テ未タ貶斥セラルヽニ至ラス是ヨリ先キ魚允中等ノ黨人威權漸ク衰ヘ李祖淵閔泳翊等代リテ政柄ヲ掌握シ秕政前日ニ倍シ官ヲ賣リ爵ヲ鬻キ鄉侶ヲ凌轢シ民人ヲ虐待シ權ヲ憑ミ勢ヲ藉リ倒行逆施底止スル所ナク加フルニ閔泳翊清國ニ倚賴スル迷夢猶未タ覺メス李鴻章ノ幕賓獨乙人穆麟德ナル者ヲ延テ其爪牙トナシ清人ノ力ヲ藉リ清朝ヲ崇拜セサル忠臣義士ヲ刑戮シ其親戚子弟ヲ遠流シ枝ヲ刈リ根ヲ絕ツノ陰謀ヲ斷行セント欲ス其謀稍洩ル泳孝等其非道ヲ慨シ竊ニ國王ニ勸メ姦ヲ退ケ忠ヲ擧ケ英斷ヲ以テ大改革ヲ行ヒ國步ノ艱難ヲ救濟シ此頹勢ヲ挽回セントス國王仁慈斷スルニ忍ヒス是ニ於テ英植光範等ト策ヲ禁中ニ定メ大事ヲ擧ケ王ヲ景祐宮ニ遷シ日本星使ニ託シ其警備兵ヲ擧ケテ王宮ヲ守ラシメ君側ノ惡首ヲ除キ內政外交ヲ更革シ大ニ爲ス所アラント欲ス時ニ清兵來リ襲ヒ王師將ニ潰エントス僕等死生王ニ從ハントス朴泳教諭シテ曰ク空ク死スルハ節ヲ立ツルニ若カス名ヲ滅スルハ恩ニ報スルニ若カス國家ノ前途遼遠ナリ少壯有爲ノモノ徒死スヘキニ非ス汝等王家ノ爲ニ努力セヨト王又頻ニ之ヲ促ス僕涕泣シテ訣別ス賊兵王ヲ圍ミ矢石身邊ニ落ツ英植泳教身ヲ以テ王ヲ扞拒シ奮呼シテ曰ク外臣無禮ナリ堂堂タル朝鮮國王ヲ知ラサルカト賊兵罵リ辱メテ曰ク姦臣ヲ斬レ逆賊ヲ擒ニセヨト泳教免レサルヲ知リ衣冠ヲ正ウシ天ヲ仰テ曰ク皇天若シ靈アラハ朝鮮王國ノ忠臣朴泳教ノ孤忠ヲ鑒ミ我宗祖ノ山河ヲシテ外兵ノ蹂躙ヲ免レシメ我王ヲシテ奴蕘ノ辱ヲ受ケシムル莫レ予稽侍中李侍郎ヲ地下ニ見レハ足レリト語未タ終ラス賊兵群集亂刃ノ下ニ斃ル兇徒猶飽カズ忠臣ノ身體ヲ寸斷シテ之ヲ路傍ニ棄ツ英植以下ノ忠臣烈女ノ慘狀死節豈語ルニ忍ヒンヤト更ニ語ヲ轉シ笑テ曰ク往事茫茫是レ南柯ノ一夢ノミ嗚呼歌舞已ニ前日ノ事トナリ烟霞是レ去年ノ春ナラス敗亡ノ士又何ヲカ云ハン

後月餘率直慷慨ノ徒不平腹ニ滿チ俠氣腕ヲ振ヒ古筠居士ヲ擁シテ海ヲ渡リ爲サント欲スル所アリ政府之ヲ探知シ警羅四ニ張リ法網道ニ塞リ滿ヲ持シテ發セス暫ク放チテ類ヲ集メ徒ヲ募ラシメ機ヲ見テ一擧捕獲セントス散士之ヲ聞キ一日從容居士ニ謂テ曰ク古語ニ謂ハスヤ灼灼タル園中ノ花早ク發ケハ還テ先ツ萎ム遲遲タル澗畔ノ松鬱鬱晩翠ヲ含ム賦命疾徐アリ躁進ハ徒爲ノミト足下年壯ニ氣銳ク才智餘アリテ却テ恐ル才ノ爲ニ使ハレ遂ニ不測ノ奇禍ヲ買ヒ世俗ノ爲ニ嫉厭セラレ識者ノ爲ニ痛惜セラルヽコトヲ昔時伍子胥一タヒ公子光ヲ見テ其他日必ス爲スアルヲ洞察スルヤ退キテ野ニ耕ス五年口ヲ閉チテ又當世ノ事ヲ談セス拿破倫三世輕擧連敗ノ後他國ニ零落スル數年深ク韜晦シテ以テ風雲ノ會ヲ待テリ歐米近世有爲ノ英俊難ヲ免レ國ヲ去リ忍耐涵養時ヲ待ツ能ハス急擧輕動乖僻ニ陷リ或ハ無賴ノ徒ト謀リ或ハ妖冶ノ風ニ染ミ或ハ負

債ノ淵ニ沈ミ貶議ノ爲ニ沈滯坎坷身ヲ終フモノハ擧テ數フヘカラス愼マサルヘケンヤ冀クハ足下深ク之ヲ戒メヨ幸ニ閑地ニ草廬アリ膝ヲ容ルヽニ足ル暫ク韜晦シ人ノ爲メニ忘レラレヨト居士曰ク厚ク諷刺ノ言ヲ謝ス僕幼ヨリ濁世ニ遭逢シ朋黨相殺シ疑獄怨構ノ局ニ當ル十七回蘭死ニ一生ヲ得テ今日ニ至ルモノ豈命ニ非スヤ此零落流離ニ當テ來耜ヲ執ル能ハス僧衣ヲ着クルニ忍ヒス猶ホ日夜栖栖寧處ニ遑アラサルモノ不才惡緣ノ結フ所ノモノアルカ僕生命ノ時ニ鴻毛ヨリ輕ク時ニ泰山ヨリ重キヲ識ラザランヤ足下又謂フ勿レト是レヨリ先キ佛ノ驕兵諒山ノ戰ニ破レ沿岸ノ虛擊皆効ヲ奏セス懸軍萬里遂ニ志望ノ達セサルヲ知リ清國ト和ス清人平生驕傲ノ氣益益長シ大言シテ曰ク鏖戰シテ歐ノ雄邦佛國ヲ敗リ東洋ノ強邦日本ニ勝チ朝鮮ニ於ケル舊權ヲ恢復セリ宇內又恐ルヽニ足ルモノナシト勇氣百倍病獅再ヒ風ニ嘯ク態アリ而シテ我國ノ內情ヲ顧ミレハ通貨縮蹙人民窮厄ノ歎ヲ聞クノミ能ク外事ヲ說キ國威ノ伸縮ヲ以テ念頭ニ措クモノニ至リテハ寥寥晨星ノ如シ散士元是レ一介ノ書生徒手空拳國家社會ヲ稗益スルノ難キヲ知リ歐人カ殖民政略ノ慾熱一時冷却スルニ乘シ慷慨沈痛無事ニ苦ミ無聊ニ堪ヘサルノ志士ト與ニ南洋ニ遠航シ不毛ノ島嶼ニ到リ別ニ一乾坤ヲ開キ以テ遺利ヲ拾ハント欲ス是レ內ニ慷慨不平ノ士ヲ減シ外ニ有爲企業ノ徒ヲ增作シ以テ人心ヲ振起セント欲シ乃チ清狂居士等ト謀リ議熟シ計定ル小人アリ讒誣シテ曰ク是レ不平ヲ抱キ無事ニ倦ムノ激徒ヲ驅リ帝國版圖外ニ一地ヲ相シ不軌ヲ謀ル立脚ノ礎ヲ定メ大ニ爲ス所アラントス欲スルナリト探偵周索豫防嚴酷到ラサル所ナシ是ニ於テ同盟破レ志士散ス散士痛慨策ヲ杖テ飄然東洋諸邦ヲ經歷セント欲ス發スル日アリ偶ミ病痾再ヒ發シ伊豆ノ溫泉ニ浴ス海南古狂將軍書ヲ寄セテ曰ク明春將ニ歐米ニ遊ハントス足下相與ニ西征スルノ意ナキヤト散士固辭スルニ官情ニ意ナキヲ以テス友人來リ說テ曰ク吾子カ常ニ現政府ヲ非難スル所ノモノハ內ニ強傲ニシテ外ニ弱媚ナルカ爲ノミ情實ノ弊多キカ爲ノミ苟且ノ政長スルカ爲メノミ冗員ノ增スカ爲ノミ費用ノ加ハルカ爲ノミ今ヤ政府新ニ官制ヲ布キ大ニ改革ヲ行ヒ責任ノ歸スル所ヲ明カニシ政費ヲ省シ冗員ヲ去ル是レ足下カ常ニ見ンコトヲ願フ所ノモノニアラスヤ徒ニ空論壯語ヲ放チテ親ラ其責ニ任セサルハ經世ヲ志スモノヽ深ク恥ツル所ナラスヤ將軍初メ清狂居士ヲ擧ケテ與ニ手ヲ攜ヘテ遊ハントス居士小人ノ讒ニ遭ヒ不測ノ變ニ罹リ今ヤ疑獄ニアリ將軍足下ヲ知ル足下義俠ヲ以テ自ラ任スルノ志士豈己ヲ知ルモノヽ爲メニ鞭ヲ執ルヲ厭ハンヤト散士其言ノ理アルニ服シ私ニ思ヘラク徐ニ歐洲ノ形勢ヲ通觀シテ後事ニ從フモ未タ遲キニアラス且ツ幸ニ埃及ニ遊フコトヲ得ハ我意中ノ人ノ死生存亡ヲ探ル端ヲ得ンカト意ヲ決シテ舟ニ搭シ地球一周ノ遠征ニ向フ諸友祖道シテ橫濱ニ到ル一縉紳耳語シテ曰ク側ニ聞ク條約改正步ヲ進メ章ヲ更フ尠カラス然レトモ却テ國體ヲ損シ國權ヲ傷クルモノナキニアラスト吾子其レ深ク祕シテ歐洲ニ於テ之ヲ探レ果シテ聞ク所ノ如クナラハ子カ歸ルヲ待テ祖宗山河ノ爲ニ之ヲ爭ハン若シ力能ハサルトキハ冠ヲ掛ケテ子ト與ニ水濱ニ放浪センノミ子其レ之ヲ勉メヨト散士首ヲ擡クレハ芙蓉峯千秋ノ雪ヲ冠シ皎皎トシテ天表ニ聳ユ即チ一律ヲ賦シテ曰ク

半生慷慨付二東流一又駕長風萬里舟。鹿鳴館裏春如レ海。度會祠頭悄似レ秋。誰言歌舞治二天下一。寧識蕭牆藏二百憂一寄レ語芙蓉八朶色。能撐二皎潔一後レ吾不。

佳人之奇遇 六編



(原本序歌)

佳人之奇遇 巻十一

火艦煙ヲ吐キ征帆風ヲ破リ鶱然錨ヲ港ニ抜ク時方ニ三月蒸熱我カ盛夏ノ如シ流汗淋漓氣倦ミ體憊ル須臾ニシテ金電碧落ニ閃キ霹靂蒼穹ニ轟キ風起リ雲飛ヒ驟雨注クカ如シ散士神蘇シ氣旺ス即チ快哉ト呼ヒ雨ヲ冒シテ舵樓ニ上リ小詩ヲ口吟ス

樓船破レ浪叱ニ鯢鯨一。鵬翼搏レ空空有レ聲。落落雄心與レ誰語。雲山ト憶ニ范卿一。

時ニ背後人ノ佇立シテ散士ヲ窺フモノアリ眸ヲ注テ之ヲ視レハ則是レ范卿ナリ散士愕然吁ト呼フ范卿進ミ揖シテ曰ク郎君萬福老奴悪緣未タ盡キス猶餘命ヲ今日ニ偸ム豈愧チサルヲ得ンヤ往ニ一書ヲ裁シ敢テ鄙策ヲ獻ス狂簡ノ言幸ニ電覧ヲ忝フスルヲ得タルヤ否ト散士范卿ノ手ヲ握リテ曰ク貴書囊ニ白雲山下ヨリ飛傳ス僕乃チ之ヲ懐ニシテ廟堂ノ諸老ニ説ク諸老耄聵大策ヲ斷行スル能ハス今日徒ニ時機ヲ誤ルヲ悔恨スルノミ然レトモ余ハ又范老ノ二妃ト共ニ海龍ノ姤ヲ免ル丶ヲ祝スト范卿急ニ問ウテ曰ク郎君何ヲ以テ老奴カ二妃ト地中海ニ溺レシヲ識ルヤ二妃カ怒浪ノ中ニ覆沒セシハ老奴ノ腦裏ニ印シ眼目ヲ遮リテ今尚悲痛ニ堪ヘサル所ナリ今郎君ヲ見テ急ニ當時ノ慘禍ヲ告ケサル所以ハ悲哀ノ念ヲシテ暫ク緩ウセシメント欲セシノミト散士徐ニ語テ曰ク范老心ヲ安セヨ二妃豈空シク海龍ニ汚サレンヤ然リト雖トモ今日何處ニ在ルヲ詳ニセス況ヤ其境遇ヲヤ蓋シ之ヲ既往ニ微シ之ヲ將來ニ推セハ皇天無情ナルカ如キモ亦情アリ范老豈二妃ト再會ノ期無カランヤ請フ是ヨリ往ヲ話シ來ヲ談セン抑ミ范老是ヨリ何處ニ到リ誰ニ適從セント欲スルヤ范卿曰ク僕將ニ東京ニ赴キ亡明ノ黑旗軍ニ投シ彼ヲ説キテ絶ヲ繼キ廢ヲ興シ以テ大ニ爲ス所アラント欲ス然レトモ聞クカ如キハ彼等既ニ淸人ノ術中ニ陷リ其封爵ヲ受ケント欲スト未タ遽ニ信ス可カラスト雖トモ亦危惧スル所ナキ能ハス舟程尚數日ノ閑アリ請フ徐ニ教ヲ稟ケント頭ヲ回ラシテ遙ニ香港ヲ海雲蒼茫ノ中ニ指シテ曰ク老奴少壯萬死ヲ冒シテ難ヲ米國ニ避ケント欲シ放浪徘徊嘗テ彼地ヲ過クルヤ滿山赭禿植ウル所ノ柳樹未タ把ニ滿タス而シテ今ヤ翠梢空ヲ覆ヒ鬱然林ヲ成ス昔時桓温江陵ヨリ北征シ行テ金城ニ至リ少時瑯琊ニ植ウル所ノ柳皆既ニ十圍ナルヲ見テ慨然トシテ曰ク木猶此ノ如シ人何ヲ以テ能ク堪ヘント枝ヲ攀チ條ヲ執リ泫然流涕シ諸寮屬ヲ率キ平乘樓ニ登リ中原ヲ眺矚シテ歎シテ曰ク遂ニ神州ヲシテ陸沈セシムル百年王夷甫諸人其責ニ任セサルヲ得スト乃チ兵ヲ引キ進伐セリト老奴彼柳ヲ見テ豈深ク桓温ニ愧ツルナキヲ得ンヤ抑ミ

英人ノ畫策ヤ遠大ナリ古來海賊ノ巣窟ト號スル此赤地ヲ要脅シ爾後其特性ノ忍耐ト工緻ノ精算トヲ以テ大ニ勢威ヲ東洋ニ張ル猶虎ニ附スルニ兩翼ヲ以テスルカ如シ聞ク露人貴邦ノ唐太ヲ要脅シテヨリ亦大ニ人ヲ移シテ仙炭ヲ採掘シ港灣ヲ浚築シ以テ全島ノ面目ヲ一新スト是レ亦何ソ鷲ニ爪牙ヲ與フルニ異ナランヤ東方日ニ危殆ニ瀕シ英雄已ニ盡キテ徒ニ中原ノ涙ヲ殘ス而シテ臣カ主素ト北渡ノ心ナシ嗚呼其レ誰カ其責ニ任セント時ニ雨過キ雲散シ碧空拭フカ如ク浪靜ニ陸遠ク赤兎西天ニ跳ル范卿天ヲ指シテ曰ク請フ郎君之ヲ視ヨ朝ヨリ午ヲ過キ天氣晴朗四ニ纖雲ヲ見ス忽ニシテ一片ノ雲旗南方ニ動クヤ電閃キ雷轟キ風馳セ雨注キ既ニシテ飄然雲消エ風死スルヤ此清涼ノ仙境ヲ現出ス造化ノ戲モ亦奇ナラスヤ大丈夫此世ニ在ル豈霹靂ヲ混混タル俗界ニ降シ乾坤ヲ震撼シ天地ヲ掃蕩シ以テ永ク姦邪讒佞ノ跡ヲ斷チ至誠ノ公道宇宙ニ彌綸スルノ清世ヲ致ス能ハサル歟ト散士曰ク聞ク英國ノ一名士曾テ國人ヲ戒メテ曰ク印度ニ微雲ノ横ハルハ異日英國ヲ震動スル魔風ノ徵ナリ豈輕忽ニス可ケンヤト范老ニシテ未タ死セスンハ其眇然五尺ノ體亦安ソ他日東洋ニ雲ヲ呼ヒ雨ヲ起シ淸ノ四百餘州ヲ掃除スル一陣ノ魔風タラサル

ヲ知ランヤト范卿笑テ曰ク壯志暮年未タ全ク消磨セスト雖トモ白髮種種トシテ情ナキヲ奈何セン夫レ時ノ反側間息ヲ容レス之ニ先スレハ太タ過キ之ニ後ルレハ則逮ハス故ニ聖人尺璧ヲ貴ハスシテ寸陰ヲ重ンス時ハ得難ウシテ失ヒ易シ機ニ投スルハ達人ノ業ナリト乃チ舷ヲ扣キ朗吟シテ曰ク馬首桓州又懿州。朔風秋冷黑貂裘。可レ憐吹得頭如レ雪。更上安南萬里舟。ト時ニ天宇益〻澄ミ星斗爛然夜色晝ノ如シ范卿曰ク今此風色ニ對シテ轉タ二妃ヲ追懷スルニ堪ヘス僕ノ二妃ト相失スルヤ夜色殊ニ晶ニ以太利ノ山煙島樹依稀トシテ眼中ニ入リ唯瞑雲ノ北方ニ動搖スルアルヲ見ルノミ頓ニシテ風雨來ル老奴性船暈ヲ患フ直ニ室ニ入リ酒ヲ蒙リテ困睡ス既ニシテ海水身ヲ浸スニ驚キ衾ヲ蹴リ室ヲ出ツレハ暗黑咫尺ヲ辨セス踉蹌トシテ甲板ニ上リ小艇ヲ求ムレトモ得ス激浪澎湃甲板ヲ撃チ將ニ此身ヲ捲キ去ラントス乃チ急ニ繩梯ヲ攀チ纔ニ身ヲ檣頭ニ縛ス時ニ船將盛服大呼シテ曰ク沈沒瞬間ニ迫ル萬一ヲ僥倖セント欲スルモノハ浮帶ヲ抱キテ海ニ投セヨ吾人誤リテ無辜ノ人ヲ死ニ就カシム潔ク職ニ斃レ以テ天ノ照鑑ヲ受ケンノミ予ト共ニ天上ニ趣カント欲スル者ハ來リテ手ヲ携ヘヨト是ニ於テ船頭ニ集マルモノ

二十餘人肅然齊列シテ終焉ノ命ヲ俟ツ忽ニシテ山ノ如キ巨浪天ヲ壓シテ落チ來ル船將大聲令ヲ下シ仰テ同音ニ天ヲ祈リ或ハ手ヲ携ヘ或ハ相抱キ船ト共ニ怒浪盤渦ノ中ニ沒ス老奴檣ヲ抱キテ之ヲ下瞰シ其從容死ニ就クノ慘狀ヲ見ル之ヲ追懷スル每ニ未タ竦然髮竪チ肌粟セスンハアラス後常ニ意ヘラク人誰カ死ナカラン男兒死ニ臨ム當ニ毅然此ノ如クナラサル可カラスト老奴齡五旬ヲ踰エ初メテ死ニ就クノ道ヲ彼沈勇ナル船將ニ學フヲ得タリ船體暗礁ニ觸碎シ既ニ深ク水底ニ沒ス唯檣頭纔ニ海面ヲ出ツル數尺ナルヲ得然レトモ巨浪怒號撲然此身ヲ擺奪シ去ラントスルモノ其幾回ナルヲ知ラス飢寒困罷ト共ニ加ハリ卒ニ絕息スルニ至ル既ニシテ朦朧眼ヲ開ケハ風浪漸ク收マリ朝暾正ニ海ヲ出ツ嗚乎茫茫タル洋中奄奄タル氣息ヲ傾斜セル殘檣ノ上ニ保ツ老奴ノ餘命豈啻ニ風前ノ燈艸上ノ露ノミナランヤ眸ヲ定メテ四顧スレハ死體ト行李ト海磯ノ間ニ漂漾スルモノ殆ト算ナシ中ニ妙齡ノ女子衣裳裂ケ身體半摧ケテ岩角ニ懸垂スルモノアリ僕認メテ以テ二妃ノ一トナス酸鼻ノ狀今猶語ルニ忍ヒス適〻背後ニ汽笛ノ響アリ首ヲ回ラシテ之ヲ望メハ一隻ノ巨艦數町ノ外ニアリ艇ヲ下シテ老奴ヲ救ヒ保養到ラサルナシ是蓋

佛國ノ東洋巡察艦ナリ老奴請ウテ艦内ニ留マリ廚房ノ事ニ任ス當時老奴佛國ノ東京ヲ窺フヲ知ル故ニ密ニ謂ラク暫ク忍ヒテ佛人ノ擧動ヲ探ル亦前途ノ計畫ニ資スルナカランヤト是ヨリ東轉西漂以テ今日ニ至ル但二妃カ絶世ノ才貌ヲ備ヘ郷國克復ノ志ヲ懷キ恨ヲ吞ミテ終天不歸ノ人トナリシヲ念フ毎ニ未タ嘗テ人世ノ多恨ヲ慨セスンハアラス然ルニ郎君嚢ニ二妃難ヲ免レタリト曰ヒ而シテ又其境遇ヲ詳ニセスト曰フ豈疑訝ニ禁ヘンヤト散士乃チ紅蓮女史ト波寧流女史ノ家前ニ遇ヒショリ骨數斗夫人ノ談話ニ及ヒ幽蘭女史カ海樓府ニ別離スルニ臨ミ骨數斗夫人ニ託スルニ范老ノ哀悼碑ヲ遭難ノ海岸ニ建テンコトヲ以テセシヲ語ル范卿泫然流涕シテ曰ク僕老來忠孝節義ニ泣クノ外眼中曾テ一滴ノ涙ヲ灑カス而シテ今ヤ伶傳ノ一佳人ニ泣ク噫老奴豈之ニ報スルノ機ナカランヤト古人云フ情ノ至ル所以テ死スヘク以テ生クヘク生クルモノ以テ死スヘク死スルモノ以テ生クヘシ古ニ亙リ今ニ迄リ天ニ蟠リ地ニ際ス忠孝節義聖賢佛仙要スルニ皆一情ノ證果ノミト此六尺ノ老范卿ヲシテ泣カシムルモノ亦唯一片ノ眞情ニ在リ

范卿曰ク其後佛艦埃及ニ至リ歷山港ニ泊ス時ニ埃及ノ内亂已ニ發シ歐人ノ逃レ來リテ救ヲ艦中ニ乞フモノ數十人散士曰ク是正ニ二妃幽將軍ト歷山ノ逆旅ニ投シ亞刺飛侯ノ懇囑ニ感シ義其軍師トナリシ時ナリト范卿憮然トシテ歎シテ曰ク吁若シ老奴ヲシテ當時二妃ノ此地ニ在ルヲ知ラシメハ百難ヲ排シテ以テ死生ヲ與ニスヘキヲ天涯萬里ニ邂逅シテ階前咫尺ニ相失ス造化ノ諧謔亦甚哉後數日佛艦馬島ニ向フト稱シ急ニ錨ヲ拔キテ洲越ニ向フ老奴先ニ謂ラク佛國謀士アリ想フニ當ニ陽ニ埃及ノ形勢ヲ視察スト稱シ陰ニ機先ヲ察シ不意ニ歷山港ニ上陸シ内亂ヲ鎭定シ危急ヲ救フト聲言シ一世拿破崙ノ雄略ヲ襲キ疾驅直ニ海樓府ノ備ナキヲ衝キ入リテ其城堡ヲ守リ亞爾是利ノ堅甲利兵ヲ麾キ以テ英國ヲシテ復手ヲ措クニ術ナカラシムベシト然ルニ佛人徒ニ墻内ニ鬩キ英國ヲシテ灘江河畔ニ游弋シテ專横ノ獵獲者タラシメ遂ニ亞爾是利領封擴張ノ期ヲ失フ夫レ禮可夫ノ約ニ據リ理ヲ説キ義ニ仗リ勇ヲ奮ヒ以テ英ノ艋艟ヲ沮過シテ洲越海峽ニ進ム一歩ナル能ハサラシメハ世界萬國ノ其義ヲ敬憚スル猶孤竹ノ二子馬ヲ叩テ王師ヲ沮ミ武王八百國ノ精兵ヲシテ抗スル能ハサラシメタルカ如クナルヤ必セリ惜哉計此ニ出テサルコト我が艦航シテ亞非利加ノ西岸自由。國ニ泊ス自由國ハ亞非利加大陸唯一ノ新立自由共和國タリ蠻夷ノ群中ニ介立シ獨リ能ク文明ノ光輝ヲ放ツト稱ス乃チ上陸シテ其施政ノ得失民人ノ氣習開明ノ程度ヲ觀察ス耳ニ入リ目ニ滿ツルモノ唯歐人ノ跋扈跳梁ノミ早晩佛ノ蠶食スル所トナラサレハ英ノ藩屬獨ノ保護國タル知ル可キノミト散士曰ク僕往年費府ニ於テ此自由國ノ總代委員ニ邂逅セリ蓋彼總代ハ黑人ナリト雖トモ知識アル憂國ノ士ニシテ一國ヲ代表スルニ餘アルモノナリ其言ニ曰ク抑々自由共和國ノ建立ハ原ヲ北米合衆國ノ奴隸存廢論ニ發ス時ニ志士仁人就中邊利駒驪ノ如キ無辜ノ黑人ヲ禽獸ノ如クニ獵獲シ老弱ハ之ヲ虐殺シ强壯ハ之ヲ驅役スルノ無道ナルヲ慨シ之ヲ縱チテ自由ニ其山河ニ棲息セシメント欲シ豪農ヲ諭シテ奴隸ヲ釋放セシメ富人ヲ説キテ義金ヲ釀出セシメ亞非利加ニ一殖民地ヲ建立シテ新教ヲ布キ殺伐ノ陋習ヲ化シテ文明ノ美風ヲ播キ自由ノ風ヲ移シテ專恣ノ俗ヲ易ヘ以テ新立ノ一自由國タラシメント謀ル風ヲ開テ起ルモノ八十餘人死生苦樂ヲ倶ニシ異域ニ骨ヲ埋ムルヲ誓ヒ富强快樂ノ新府ヲ辭シテ暗黑界ニ航シ瑪須羅陀丘ニ據リテ殖民地ヲ起ス是實ニ六十有餘年前ニシテ時ノ大統領門老カ獎勵保護ノ功德ヲ頌表シ其名ヲ以テ都府ニ冠セリ爾來有志者

ノ義ニ勇ムモノ才ヲ抱キテ用フルニ所ナキモノ漸ニシテ相集リ同心力勵精治ヲ計レリ然レトモ當時土人之ヲ猜忌怨懟シ動モスレハ輒チ襲撃暗殺シテ百方移住ノ民ヲ窘メ又英ノ姦商一國ノ主權者ナキニ乘シ譎詐跳梁横暴到ラサル所ナク約束法律皆爲メニ蹂躙セラレテ遂ニ將ニ統治ス可カラサルニ到ラントス是ニ於テ移住人奮然蹶起シ一萬ニ足ラサル人民ヲ以テ獨立國ヲ建立ス其檄世界ヲ驚カシ其威土人ニ震ヒ卓然此ニ自由國ヲ新作セリ時ニ一千八百四十七年世界擧テ之ヲ稱賛シ對等ノ一新國タルヲ認ム會〻英國博覽會アリ時ノ大統領此ニ臨ミテ大ニ與國ノ友情ヲ惹ク皆云ク亞非利加ノ幽闇ヲ照破シ雲霧ヲ披キテ青天ヲ望マシムルモノハ新立自由國ナリト而シテ時勢一變シ今ヤ將ニ荒亂ノ郷ニ沈淪セントス蓋シ我カ自由國ハ地味肥沃ナラサルニ非ス鑛物富饒ナラサルニ非ス寒暖身ニ適セサルニ非ス建國ノ志士私利ヲ先ニシ公義ヲ後ニスルニ非ス而シテ其沈淪此ノ如キニ至リシ所以ノモノハ何ソヤ蓋シ少數精誠ノ志士意氣相投シ與ニ事業ヲ計畫シ以テ之ヲ經營スルノ初ニ當リテヤ互ニ奮勵シテ精神旺ニ自ラ信スルハ厚キ能ク困窮艱難ニ克チ亦能ク私ヲ遣レテ公ニ徇フ然レトモ日月逾邁シテ氣力漸ク消磨シ之ニ伴フニ情實ノ纏綿ヲ以テスルハ勢ノ免レサル所況ヤ其子孫ニ至リ祖先ノ志氣漸ク委靡シ安ヲ偸ムノ鄙念其胸臆ヲ茅塞スルヲヤ且ツ夫レ米人ハ世々華盛頓以來ノ政策ヲ奉シ領土ヲ海外ニ拓擴シ事艱ヲ繁クスルノ政略ヲ排斥シ偏ニ內地ノ遺利ヲ保護奬勵シテ以テ內ニ充實センコトヲ期シ人民ヲシテ危險ヲ冒シ名譽ト僥倖トヲ海外萬里ニ獲ント欲スルノ志ヲ薄カラシム然リ而シテ英國ハ全ク之ニ反シ海外ニ領地ヲ擴メ貿易市場ヲ增設シ以テ英國ノ富强ヲ進メ威力ヲ保ツニ汲々タリ是ヲ以テ米人ハ己レ自ラ此新共和國ヲ建立セシモ年ヲ追ウテ其國情ニ暗ク感情亦從テ薄ク英國ハ漸漸我國情ニ明ニ干與ノ念日ニ厚シ又佛獨ノ如キモ近者其殖民政略ニ傚ヒテ此自由國ノ薄弱甚タ振ハサルヲ奇貨トシ機ヲ見テ爲ス所アラントスルノ狀アリ唯其レ此ノ如シ外ハ爪ヲ礪キ牙ヲ磨キ虎視耽耽嵎ヲ負ウテ相睥睨シ內ハ黨ヲ樹テ侶ヲ結ヒ軋轢紛擾言フニ忍ヒサル者アリ請フ試ニ其慘狀ヲ擧ケン一千八百七十六年土人邊大統領ノ位ニ卽クヤ外債ヲ起シテ殖產ノ業ニ投セハ歲入直ニ增加スヘシトノ言ヲ信シ外債五百萬ヲ英國ニ起ス然レトモ總歲入百萬ニ充タス今ニ至ルマテ未タ利元ヲ償フ能ハス是ニ於テ國論沸湧シ邊ハ英國ノ術中ニ陷ル賣國ノ姦賊ナリト呼ハレ廢シテ牢獄ニ投セラレ遂ニ白日赤裸市街ヲ牽カレ群衆唾罵蹴踢鞭撻終ニ之ヲ斷崖上ヨリ陷擠ス而シテ其家族ハ老幼男女嬰孩ニ至ルマテ盡ク僇殺セラルヽニ至レリ其酸鼻ノ狀復語ルニ忍ヒス次ノ大統領モ亦在位一月ニ過キスシテ暴卒ス其始メテ獨立ヲ承認セラレシヨリ今ニ至ルマテ僅ニ二十二年ニ過キス而シテ大統領ヲ更迭スル十二人政權爭奪ノ紛擾以テ想フヘシ蓋シ我カ土人ハ米人ノ如キ義氣ナク敎養ナク徒ニ天賦人權ノ說ヲ聞キ過劇ノ政談ヲ喜フ其外人干涉ノ弊ヲ聽クヤ土人自ラ其地ヲ管領シテ毫モ干與ヲ容サヽランコトヲ欲シ其異種混合ノ恐ルヘキヲ聽クヤ妄意揣摩無智多數ヲ賴ミテ公私ノ權ヲ壟斷セントス故ニ其弊ノ到ル所黨ヲ樹テ朋ヲ結ヒ公私ヲ紊亂シテ徒ニ隣保相反目スルニ至レリ且ツ近隣ノ土蠻ト戰爭相踵キ歐ノ强國其間ヲ煽動シ國內ノ黨人外援ニ依リテ各〻勝ヲ制セント期ス英國ヨリ外債ヲ募リ佛國ヨリ應援ヲ借ルカ如キ皆是ナリ而シテ米人冷冷看過シテ知ラサルモノヽ如シ今吾儕ノ華盛頓ニ來リシ所以ノモノハ米國カ初メ自由國ヲ建立セシ情勢ヨリ以テ現勢ニ至リシ所以及ヒ將來ノ趨勢ヲ說キ以テ政府ヲシテ我自由國ヲ保護スルノ方針ヲ確定セ

シメント欲スルニ在リ噫自由民政ナルモノハ進歩開明ノ邦國ニ在リテ猶且ツ政權爭奪ノ紛擾ヲ免レス況ヤ我新立國ヲヤ吾輩既ニ共和爲政ニ氣屈シ故國ノ紛爭ニ魂銷ス今ハ帝王ヲ戴クノ邦國ヲ歆羨スルノミト散士之ヲ聽キ以テ東方諸邦他日ノ殷鑑ト爲シ肝ニ銘シテ忘レス今足下カ目擊ノ談ヲ聽キ益ミ覺ル所アリト范卿曰ク自由共和國ノ現狀ハ實ニ言フニ堪ヘス而シテ又是ヨリ甚シキモノアリ馬島是ナリ其後余ハ馬島ニ航シテ頗ル其狀ヲ詳ニスト散士曰ク馬島ハ嘗テ歐ノ文物典章ヲ採用シテ歐米人ノ嘖嘖歎稱スル所ナリ今日佛國ト交渉シテ未タ事局ヲ結ハスト雖トモ將ニ久シカラスシテ平穩ニ歸セントス然ルヲ其國勢ノ慘狀自由共和國ヨリモ甚シト謂フ噫皮相ノ歐化ハ其レ國ヲ誤ルノ原乎

馬島ハ世界第三ノ大島ナリ土地沃饒ニシテ產物ニ富ミ土人勇剛ニシテ相愛ノ情甚タ深シ其祖先ハ馬來ヨリ出ツ國敎ハ所謂多神敎ナリ萬物ヲ主宰スルノ大神アリ部族各種ノ家神アリ其理論モ亦太タ邃カラス之ヲ奉祀スルニ莊嚴華麗ノ殿堂ヲ以テセス單純潔淨ノ祭祀ヲ行フノミ蓋シ土人ハ神ノ存在靈驗ノ如何ニハ深ク意ヲ留メス而シテ父母祖先ノ靈ヲ拜スルコト甚タ渥シ故ニ上流社會ニハ信敎ノ念太タ薄シ其政治ハ諸侯各ミ封土ヲ領シ一旦警アレハ領內ノ士卒ヲ將キテ戰ニ赴ク實ニ我封建時代ニ似タリ此國ノ希臘人ニ知ラレ又亞拉伯亞人ト往來セシハ一千年以前ニ在リ而シテ歐人ノ初テ此土ニ來タルハ葡人カ東洋ノ航路ヲ發見セシ時ナリ爾來葡人殖民ヲ試ムル百餘年然レトモ葡國ノ衰微スルヤ佛ノ遠征軍ニ掠奪セラレ是ヨリ佛國殖民ヲ計ル又百餘年而シテ未タ志ヲ得ス一千七百年代ノ末一豪傑此大島ニ據リテ其全權ヲ掌握スルモノアリ波蘭ノ敗將辨耶數奇是ナリ辨耶數奇ハ元匈國ノ貴冑ナリ善ク兵ヲ用ユ波蘭獨立ノ檄ヲ讀ミ劍ヲ提ケテ軍ニ投シ屢ミ奇計ヲ運シテ露軍ヲ破ル獨立軍敗ルヽニ及ヒ創ヲ被リテ捕ヘラレ遠ク極東東察加ニ流謫セラレ飢寒萬狀備ニ苦楚ヲ嘗ム曾テ山頭ニ登リ家鄉ヲ山海萬里ノ外ニ憶ヒ楚囚ヲ跼蹐尺地ノ中ニ憤リ慨然トシテ曰ク大丈夫豈空シク老ユ可ケンヤト水天髣髴ノ間日本ノ島嶼ノ横ハルヲ望見シ一夜監守ヲ欺キ漁舟ニ乘シ危難ヲ冒シテ唐太ニ渡リ又淸洲ニ遁レ坎坷躑躅佛人ニ助ケラレテ遂ニ馬島ニ入ル是ヨリ漸ク勢力ヲ養ヒ內亂ヲ鎭定シ全島ヲ征服シ大ニ威名ヲ振フ惜哉一千七百八十六年佛人ニ忌マレテ殘殺セラル

此國民古來南北二大部ニ別ル一ヲ沙加羅窩ト曰ヒ一ヲ法鳥斯ト曰フ沙加羅窩人元勢力ヲ占ム法鳥斯人ヲ擯ケテ外藩ト爲シ殆ト之ヲ人視セス其治下ニ凌辱スルコト久シ法鳥斯人ニ一英傑アリ常ニ之ヲ憤ル乃チ部落ヲ糾合シ威ヲ全島ニ振ハントス大志未タ成ラスシテ病ニ罹ル其子剌多摩ヲ召シ遺命シテ志ヲ繼カシム時ニ剌多摩學ヲ亞剌伯亞ノ鴻儒ニ受ク父ノ遺命ヲ拜シ感泣シテ曰ク吾他日大人ニ地下ニ見エテ遺言ヲ服膺セシコトヲ告クヘシト急ニ群臣ヲ會シテ自ラ王位ニ卽ク時ニ年甫メテ十七法鳥斯王剌多摩第一世ト稱ス王人ト爲リ剛明沈毅卽位ノ日四隣風ヲ聞テ悚動ス王父ノ遺言ヲ奉シ沙加羅窩人ヲ驅使シテ南北一統ノ王タルヲ以テ自ラ任シ雄心烈烈燃ユルカ如ク歐式ニ由リテ精兵ヲ訓練シ銃砲ヲ購入シ彈藥ヲ庀備シ以テ他日ノ備ヲ爲ス時ニ一千八百十年ナリ當時英佛釁ヲ生シ宇內到ル處相鬩ク英ノ海軍佛ノ摹理智閣斯島ヲ陥レ更ニ馬島ニ結ヒテ黨援トナサントス王其時機ニ投シ條約ヲ締結シ佛人ノ盛ニ從事スル奴隸賣買ヲ全島ニ禁遏シ犯スモノハ死ヲ以テ論ス英之ヲ德トシテ每年金錢兵器ヲ贈ル一千八百十

八年英國議シテ宣教師ヲ送ル王書籍ヲ出版シ技術ヲ輸入シ學校ヲ興シ工商ヲ奬勵シ國民ヲ文明ノ域ニ導ク是ニ於テ全島王化ニ霑ハサルモノ僅ニ三分一ニ過キサルニ至ル王素ト西教ヲ信セスト雖トモ亦甚タ之ヲ惡マス乃チ利用シテ以テ開導ノ捷徑ト爲サント欲シ教法ノ自由ヲ公許ス王磊落細行ヲ顧ミス荒樂ノ餘竟ニ病ヲ釀シ未タ鵬翼ヲ振フニ及ハス年僅ニ二十六ニシテ薨ス擧世之ヲ惜ム王ニ寵姬アリ亂母道ト曰フ王殂スルノ夜王ノ親戚近臣數十人ヲ殺シ王母及姉妹ヲ幽シテ餓死セシメ自立シテ王ト爲ル是ヲ羅嚢波路那第一世ト爲ス

女王人ト爲リ頑强ニシテ刻薄ナリ厚ク國教ヲ信奉シ外人ヲ忌ミ外教ヲ嫌フコト蛇蝎ノ如シ即位ノ明年佛國ト釁ヲ開キ大ニ佛艦ヲ坡岬ニ破リ佛將ヲ擒ニス乃チ其首ヲ斬リ之ヲ海岸ニ梟シ以テ佛ト絕チ且ツ兵ヲ出シテ全島ヲ平定ス是ヨリ先外教漸ク盛ニ改宗スル者甚タ多シ是ニ於テ先ツ官吏ノ外教ヲ奉スルヲ禁シ尋テ普ク國民ニ及ホス外人之ヲ憤リ物論喧騰ス女王斷然峻拒シテ顧ミス一千八百三十三年諸學校ニ令シ外教ニ關スル書ヲ讀ムヲ禁シ改宗スル者ハ人間最下ノ待遇ヲ受クヘキコトヲ令ス明年官吏ヲ除クノ外ハ外國ノ書籍ヲ讀ムヲ禁ス時ニ女王ノ婿大元帥總理大臣喇摩尼沙女王ヲシテ益ミ果斷ノ策ヲ執ラシメ國教徒ニ慫慂シテ外教徒不臣ノ罪ヲ大法廷ニ訴ヘシム女王訴ヲ見テ赫然色ヲ作シテ曰ク夫レ朕カ祖先ハ國家ヲ建立セシ神孫ナリ彼等諸神ヲ侮慢ス是レ即チ朕カ祖先ヲ侮慢シ又朕ヲ侮慢スルモノナリ且ツ彼等ハ我歷史ヲ目シテ荒誕不稽ノ僞史トナス故ニ朕カ祖宗ト朕カ信スル教義ト神明トハ皆彼等カ信スヘカラス拜スヘカラス若シ拜スレハ上天ノ罪人トナリ地獄ニ墮落スト唱道セルモノナリ何ソ其不敬無禮ノ甚シキヤト偶ミ女王ノ愛將某女王ニ謁シテ曰ク願クハ臣ニ一口ノ利劍ヲ賜ヘト女王故ヲ問フ某慨然トシテ泣テ曰ク今ヤ外教夷學祖宗ノ聖靈ヲ辱メ國神ノ威稜ヲ汚シ國事日ニ將ニ非ナラントス陛下何ソ憂念セサル嗚乎邪教ノ蔓延ハ猶火ノ原ヲ燎クカ如シ今ニシテ之ヲ撲滅セサレハ其禍竟ニ言フニ忍ヒサラン臣生キテ陛下ノ異鄕ニ蒙塵シ凌辱ヲ外夷ニ受クルヲ視ルニ忍ヒス今將ニ劍ニ伏シテ以テ國家ノ絕滅ニ先セントスト意氣慷慨辭色共ニ決ス女王憮然天ヲ仰キテ長喟スルモノ之ヲ久ウス已ニシテ昂然トシテ曰ク朕誓テ斯妖氛ヲ攘ヒ以テ社稷宗廟ヲ安セント全國ノ民ヲ首府ノ南郊ニ會シ外教ヲ奉スルコトヲ嚴禁ス繼テ大會ヲ開キ兵ヲ觀シ宣言シテ曰ク七日以內ニ自首復宗セサルモノハ論スルニ死ヲ以テセント是ヨリ學校ヲ閉チ集會ヲ禁シ外僧ヲ逐ヒ經典ヲ沒收シ四ニ探偵ヲ放チ禁ヲ犯ス者ヲ捜ル然レトモ外教ヲ奉スルモノ曾テ減セス轉タ其增加ヲ見ルノミ是ニ於テ女王益ミ怒リ意ヲ決シテ千有餘人ヲ刑戮ス而シテ人民ノ反動愈ミ激ニ狂奔迷走戮ニ就キテ天上ニ赴カンコトヲ樂ムモノ肩相摩シ踵相接ス既ニシテ英佛二國ト交渉スル五年遂ニ佛軍ト戰ヒテ大ニ之ニ克ツ乃チ先ニ外人ヲ恐憚セシ者急ニ輕侮ノ念ヲ生シ以爲ラク歐人與シ易シ歐人恐ルヽニ足ラスト其是非善惡ヲ擧ケテ盡ク之ヲ排斥スルニ至ル唯其レ越人ノ射ノ如シ世已ニ變スレトモ仍ホ其故ヲ守リ爲メニ大ニ文化ヲ阻遏シ國運ヲ衰頽セシメタルモノ多シ時ニ外教徒ハ外患ノ隙ニ乘シ暗ニ上下ノ人心ヲ浸潤ス女王又大ニ憤リ貴人ノ外教ヲ奉スル者十五人ヲ宮城ノ懸崖十五丈ノ上ニ繫キ親ラ臨ミテ責ムルニ復宗ヲ以テシ其肯セサル者ハ直ニ繩ヲ斷ツ十五人相續キテ崖下ニ粉虀シテ死ス而シテ此慘

刑ハ却テ外教ノ勢焔ヲシテ益々熾ナラシメ未タ之ヲ奉セサル者ヲシテ密ニ相謂ハシメテ曰ク人生死ヨリ重キハ莫シ而シテ彼ノ徒慘刑ヲ甘受シ從容死ニ就キテ悔イサルモノハ豈冥冥ノ裏感應隨喜スヘキモノ有ルニ非スヤト外教ニ歸スル者漸ク多ク爭テ水火ヲ踏ミ湯鑊ニ就テ顧ミス女王益々憤激シ酷刑ヲ施スコト日夜愈々急ナリ二王子アリ亦西教ニ歸依ス女王怒リテ之ヲ幽シ飲食ヲ絶チ脅スニ餓死ヲ以テス二王子疲困死ニ垂トスレトセ變セス遂ニ柱




馬島西教者迷信ノ圖

(原本插畫)

ニ繋キ生ナカラ之ヲ焚殺ス嗟乎宗教ノ爭亂其慘此ニ至ル古今皆一ナリ國ヲ有ツ者鑑ミサル可ケンヤ在位三十三年力ヲ盡シテ西教ヲ排スルコト二十五年惟原燎ノ撲滅ス可カラサルノミナラス轉タ相激煽シテ其勢焔ヲ熾ナラシメタルニ過キス而シテ其國論ヲ固陋ニシ富强文明ヲ退歩セシメタルモノ實ニ慨スルニ堪ヘタリ然レトモ克ク國權ヲ張リ外人ヲ杜絶シ王ノ世ヲ終ルマテ英佛ノ强ヲ以テ其志ヲ逞スルヲ得サラシメ爲メニ少シク國祚ヲ延ヘシハ亦女王ノ力ナリ太子位ニ卽ク是ヲ刺多摩第二世ト爲ス卽位ノ初メ和ヲ英佛ニ請ヒ大赦令ヲ發シ教徒ノ囚ヲ縱チ英國ノ僧侶ヲ招聘ス是ニ於テ西教ノ行ハル、驛傳ヨリ速ナリ且ツ王洗禮ヲ受ケスト雖ドモ夙ニ歐風ニ心醉シ殆ト自國アルヲ知ラサルカ如シ乃チ妄リニ歐人ノ言ヲ信シテ海關稅ヲ全廢シ廉價ノ毒酒ヲ輸入シ牛羊ヲ濫出シ生民ヲシテ流離顚沛國計紊亂復理ム可カラサルニ至ラシム王佛人嚱別ナルモノヲ寵シテ顧問ト爲ス醉ニ乘シテ嚱別ニ約スルニ全島三分ノ一ヲ讓與シ又諸鑛山ヲ採掘スルノ特許ヲ以テス又少年美那摩蚤ナルモノヲ愛シ其權ヲ弄スルニ任シ一切ハ評議決ヲ腕力ニ取レト令セシム群臣之ヲ諫ムレトモ聽カス荒淫益々甚シ是ニ於テ怨讟國ニ充チ亂民四ニ蜂起シ王及嬖臣遂ニ其刺殺スル所トナル島民刺曾部利那ヲ立テ、女王ノ位ニ卽カシム未タ幾ナラスシテ薨ス其姪位ニ卽ク是ヲ羅囊波路那第二世トス

羅囊波路那二世卽位ノ式ヲ行フヤ式場祖先傳來ノ神體ヲ設ケス玉座ニ邪蘇ノ聖言ヲ揭ケ還宮ノ後外僧ヲシテ祈禱セシメ次日宮中ヲ擧ケテ邪教ニ歸依シ寺院ヲ宮中ニ設ケ女王總理ト共ニ洗禮ヲ受ケ更ニ令ヲ下シテ國教ヲ奉スルモノ、爵ヲ削リテ平民ニ籍シ徭役ヲ賦ス是ニ於テ國教徒慨然蹶起シテ之ヲ諫メ忌諱ニ觸レテ死スル者甚タ多シ王迷亂益々甚シ遂ニ宗廟ノ神主ヲ擧ケテ之ヲ群臣ノ面前ニ燬キ官僚ヲ四方ニ派遣シテ盡ク國社ヲ毀タシム人民之ヲ痛ミ以テ亡國ノ兆トナス而シテ歐人ハ此日ヲ稱シテ眞理ノ勝瑞トナス嗚呼當時ヲ以テ之ヲ四十年前一人ノ西教者ナキ時ニ比ス形勢ノ轉變果シテ如何ソヤ既ニシテ佛人益々暴惡ヲ肆ニシ恐嚇百端嚱別ノ條約ヲ決行スヘシト促シ更ニ半紀前ノ歷史ヲ擧ケテ馬島ハ佛ニ隸屬スヘシト迫リ遂ニ八日ヲ期シテ宣戰ヲ公布ス女王乃チ其要求ヲ拒絕シ國書ヲ神机ニ奉シ泣テ天ニ訴ヘテ曰ク聞ク歐人ハ正教ヲ

奉シ眞神ヲ信シ誠心ヲ尊フト故ヲ以テ寡人亦之ニ歸依ス而シテ今彼凶暴此ノ如シ神若シ靈アラハ請フ寡人カ眞神ニ歸依シ祖先ノ宗廟ヲ燒毀セシ衷情ヲ憐察シ明ニ照鑑ヲ垂レテ此國難ヲ救ヘト尋テ使節ヲ英獨米ニ派シテ國情ヲ訴フ各國之ヲ憐ムト雖トモ然レトモ兵ヲ絶島ニ出シテ其孤弱ヲ扶ケ以テ怨ヲ強鄰ニ結フヲ難カル且ツ英ノ如キハ曩ニ商業傳道ノ全權ヲ馬島ニ占有シ着席ノ意切ナリト雖トモ埃及ニ於ケル佛ノ怨恨ヲ和ケント欲シ陽ニ使節ヲ勞シテ陰ニ内情ヲ佛人ニ餒シ遂ニ馬島ヲシテ孤立シ強佛ヲシテ其狼呑ヲ逞スルヲ得セシム是ニ於テ女王大ニ群衆ヲ會ス會スルモノ十餘萬王親ラ之ニ臨ミ躬ラ佛ノ要求書ト談判書トヲ朗讀シ以テ宣戰ヲ公布ス語語嚴肅言言悲壯聽クモノ咸憤激感奮邦家ノ爲メニ死センコトヲ誓フ一千八百八十三年女王薨ス薨スルニ臨ミ遺命シテ曰ク朕既ニ身ヲ以テ上帝ニ奉ス死何ソ憾ミン願クハ子孫西教ニ背ク勿レ但朕カ祖宗ニ受ケタル馬島ハ尺地モ且ツ佛人ニ讓ル勿レト言終リテ瞑ス女王佛ト交戰スル二歳屢ミ佛軍ヲ窘ム而シテ内克ク政綱ヲ整ヘ軍制法制ヲ建テ奴隷ヲ解放シ教育ヲ盛ニシ外歐人ノ憐情ヲ惹キ馬島ヲシテ文明諸邦ニ伴ウテ優ニ邪蘇教國ノ班ニ入ラシム蓋シ燈火滅セント欲シテ時ニ輝クモノ歟嗟乎鳩桑ノ葚ヲ食フ勿ランノミ王嘗テ道路ヲ修メス諸都府ノ間纔ニ小徑ヲ通スルノミ河ニ舟楫ナク流ニ橋梁ナク商販皆馬背人肩ニ頼ル佛人毎ニ嘲リテ曰ク夫レ交通ハ文明ノ母ナリ馬島母ナシ安ソ對等ノ交ヲナスヲ得ンヤト王曰ク是レ我カ國防ノ策ナリト佛人土蠻ノ兵ヲ知ラサルヲ笑フ後兵ヲ構フルニ及ヒ佛兵果シテ道路ノ梗塞ニ困ミ進退意ノ如クナル能ハサリシト云フ女王薨スルノ夕羅嚢波路那第三世位ニ即ク乃チ大ニ戰テ佛將ヲ斃シ其要塞ヲ陷ル初メ佛人馬人ヲ輕侮シ謂ラク一擧之ヲ陷レンノミト既ニシテ惡疫流行患者十ニ五六而シテ死者十ノ四ニ至ル且ツ兵ヲ出スモ艦砲ノ達スル所ニ止マリ内地ニ進メハ深林叢澤多ク伏兵四ニ起ル加之ナラス英米人ノ暗ニ馬兵ヲ助ケテ之ヲ訓練スルアリ其戰術亦漸ク長セリ故ニ鋒ヲ交フル四年ニシテ佛兵竟ニ克ツ能ハス財ヲ糜スル一億精兵ヲ失フ一萬二千而シテ尺地ノ取ル所ナク一貨ノ獲ル所ナク勇戰ノ譽ナク義軍ノ名ナク内閣爲メニ更迭スルモノ二回ニ及フ佛人毎戰利アラサルヲ見テ更ニ軍費ヲ增シ援兵ヲ議シテ曰ク宜シク首都ヲ陷レ女王ヲ擒ニスヘシト適々英以兩國中ニ居テ和解ス佛軍大勢ノ非ナルヲ知リ即チ其言ヲ容レテ媾和條約ヲ馬島政府ニ提出ス其條款ノ重大ナルモノ三曰ク良港ノ讓與曰ク償金一千萬曰ク外交ノ讓與是ナリ王已ムヲ得ス之ヲ容ル時ニ一千八百八十五年ナリ勢此ニ至ル邦家ノ前途知ルヘキノミ後五月英國馬島ノ佛ノ保護國タルヲ承認ス馬人肯セス交渉三年竟ニ其要ヲ得ス佛國乃チ大擧シテ軍ヲ起シ女王ヲ擒ニシテ之ヲ廢ス是ニ於テ馬島亡ヒテ佛ノ版圖ニ入ル國教ヲ棄テ西教ニ歸シ西人ノ愛憐ヲ乞フモ亦遂ニ亡國ノ禍ヲ救フ能ハス噫

范卿曰ク然リ老奴聞ク國ヲ治ムル常アリ民ヲ利スルヲ本ト爲ス政教經アリ令行ハルヲ上ト爲ス苟モ民ニ利アラハ必シモ古ニ法ラス苟モ事ニ周ケレハ必シモ舊ニ循ハス夫レ夏商ノ衰フルヤ法ヲ變セスシテ亡ヒ三代ノ起ルヤ相襲ラスシテ王タリ故ニ聖人法、時ト變シ禮、俗ト化ス衣服器械各ミ其宜ニ因ル故ニ古ヲ變スル未タ非ルヘカラス俗ニ循フ未タ多トスルニ足ラサルナリ百川源ヲ異ニシテ皆海ニ歸シ百家業ヲ殊ニシテ皆治ニ務ムト文明開化モ之ニ醉ヘハ眼中ノ華ニ過キス若シ夫レ歐華ヲ採取スル蜂ノ蜜ニ於ケルカ如

ク唯其實ヲ取リテ其華ヲ取ラサレハ則チ可ナリ馬島歐風ニ醉ウテ變古ノ術ニ通セス國風ニ拘シテ循俗ノ道ニ達セス故ヲ以テ花ヲ敗リ蘂ヲ傷ケテ竟ニ其蜜ヲ獲ス凋萎シテ以テ今日ニ至ル其レ亡ヒン其レ亡ヒン苞桑ニ繋ルトハ馬島ノ謂カ蓋シ英人ハ魔藥ヲ施シテ漸ク其精血ヲ吮ヒ佛人ハ毒箭ヲ放チテ急ニ其衰體ヲ殪ス今女王ハ手足ヲ縛セラレテ唯佛人ノ所爲ニ任セ忠憤ノ士義烈ノ徒沮洳山澤ノ險ニ據リ荆棘榛莽ノ間ニ伏シ以テ僅ニ千有餘年ノ國脈ヲ奄奄ノ中ニ保ツト雖トモ傷弓ノ鳥屢〻響弦ニ驚キ連綿タル東洋ノ故國既ニ歐人ノ術中ニ斃ル嗚呼文化開明ト稱スル十九世紀ノ終ニ於テ斯豺貪狼饕風悲ミ月泣クノ慘景ヲ見ル慨スルニ勝フ可ケンヤ老奴上陸シテ忠義ノ士ヲ弔セントス會〻拔錨ノ命下ルヲ以テ果サス蓋シ我艦ハ是ヨリ東京及清國戰爭ノ應援ニ疾航セントスト云フ老奴之ヲ聞キ覺エス快哉ト絶叫ス佛人嘲笑シテ曰ク彼清人自國ノ征討セラルヽヲ聞キ却テ之ヲ悦フハ何ソヤ清人ノ愛國心ナキ眞ニ憫笑スヘシト既ニシテ佛艦東京ニ達ス老奴素ヨリ黑旗軍ニ投シテ謀ル所アラント欲ス然レトモ未タ其策ヲ得ス偶〻艦將老奴ヲ通譯ニ任シテ戰地ヲ巡檢ス行〻山澤沮洳ノ間ヲ過キテ兩軍對陣ノ地ニ入リ首ヲ擧ケテ山頭ヲ望メハ黑旗數旒青嵐黃靄ノ中ニ翩翩トシ堡塞三五灌木衰艸ノ邊ニ點點タルヲ見ル俯シテ溪澗ヲ臨メハ髑髏未タ乾カス枯骨肉ヲ帶ヒテ蒼苔白石ノ間ニ亂堆シ腥風時ニ起リテ青蠅ヲ扇キ復人ノ薤路ヲ唱ヘ挽歌ヲ奏シ以テ寃魂ヲ弔悼スル者ナシ

其夜佛ノ幕將老奴ヲ召シテ曰ク汝若シ地中海救命ノ恩ヲ忘レスハ行商ニ扮シテ敵地ニ入リ以テ要塞ノ險易兵馬ノ多寡將士ノ動靜ヲ偵察シ具ニ之ヲ報セヨ能ク其任ヲ盡サハ必ス酬イルニ重賞ヲ以テセント一意老奴ニ依ルモノヽ如シ老奴即チ以爲ラク彼レ我カ敵ト雖トモ厚意ヲ以テ我ニ對ス我豈一片義俠ノ相報スル莫カル可ケンヤ其囑ヲ了シ其任ヲ盡クシ而ル後之ニ敵スル亦丈夫ノ恥チサル所ナリト既ニシテ又幡然トシテ謂ラク吾過レリ語ニ曰ク狐死シテ丘ニ首スレハ本ヲ忘レサルナリト今清佛兵ヲ構フ佛ハ是レ我カ國讎ナリ救命ノ故ヲ以テ本ヲ忘ルハ私情ノ爲メニ公義ヲ棄ツルニ非スヤト乃チ猶豫シテ未タ決セス佛將老奴ノ答ナキヲ見テ大ニ罵リテ曰ク癡奴恩ヲ知ラス唯死ヲ懼ルヽヲ知ルノミト老奴怒氣胸ニ塡チ將ニ躍然蹶起セントス忽チ又怒氣ヲ抑ヘ悄然トシテ答ヘテ曰ク死ヲ懼ルヽニ非ス祇使命ノ達スヘキヤ否ヤヲ危疑スルノミ請フ此ヨリ行カント一將契符ヲ與ヘテ曰ク是レ佛軍間者ノ印章タリ若シ佛軍ニ捕ヘラルルコトアラハ密ニ之ヲ示スヘシ失ハヽ則チ死セント又老奴ヲ縛シ白布ヲ以テ面ヲ覆ヒ告ケテ曰ク是レ我カ軍法ナリ恐ルヽ勿レト更ニ老奴ヲ威嚇シテ曰ク　シ虛報ヲ齎シテ軍機ヲ誤ラハ罪死ヲ免レスト語未タ畢ラス砲聲山澤ニ響キ吶喊四ニ起ル已ニシテ銅銃近ク營內ニ交リ彈丸老奴カ肩上ヲ擦過ス然レトモ此時身縛セラレテ動ク能ハス踏蹐トシテ唯露命ヲ風前ニ俟ツノミ未タ半時ナラス戰聲漸ク收マリ華音喧鬨陣中ニ充ツ時ニ老奴ノ覆巾ヲ去リテ檢索スル者アリ始メテ四面ノ光景ヲ見レハ黑旗軍既ニ此陣中ヲ占領スルナリ死屍狼藉ノ中ニ立チ或ハ敵首ヲ刀ニ貫キ舞フモノアリ或ハ巨砲ニ踞シテ葡萄ノ美酒ヲ鯨飮スルモノアリ意氣昂然目ニ佛兵ナキモノヽ如シ一將老奴ノ此ニ在ルノ故ヲ糺問ス肩上血流レテ腹背ヲ浸シ兩手縛セラレテ痛苦言フ可カレス乃チ早ク免レント欲シ匆卒答ヘテ曰ク僕ハ是レ明朝ノ遺臣ナリ敵ノ動靜ヲ探リ以テ義師ニ報セント欲ス今日忽チ敵兵ノ爲メニ擒ニセラレ而シテ偶〻義師ノ來ルニ會フ何ノ幸カ之ニ若カン願クハ早ク此縛ヲ解ケト一人アリ老奴ノ面ヲ熟視シ叫ヒテ曰ク老猾奴汝昨日佛軍ノ嚮導ト爲リ前驅セシニ非スヤ余樵路ニ偵察

シテ善ク汝ノ顔ヲ知ル且兩手ヲ縛スル緊紮ナラス又白布ヲ以テ面ヲ覆フハ途次信疑相半スル偵者ヲシテ我祕密ヲ探ラシムル歐ノ軍法ナリト一將之ヲ聞キ直ニ一卒ヲシテ老奴ノ衣冠ヲ探ラシム契符襟中ヨリ出ツ群衆之ヲ見テ大ニ怒リ或ハ毆打シ或ハ面唾シ或ハ足ヲ揚ケテ頭ヲ蹴ル一將衆ヲ制シ老奴ヲ叱シテ曰ク汝中國ノ衣冠ヲ服シ中華ノ言辭ヲ解シ甘ンシテ韃虜ノ奴トナリ人間ノ最モ卑ムヘキ間諜ヲナシ我同胞ヲ死地ニ陷レテ以テ己獨リ富貴ヲ博セントス何ソ其憎ムヘキノ甚タシキヤ死シテ尙餘罪アリ我汝カ首ヲ斷タンカ刀且ツ汝カ血ニ汚ルヽヲ愧チン然レトモ刀ヲ愛シテ汝ヲ容ス可カラス寸斷シテ鑑戒ヲ後日ニ示サンノミト晃晃タル白刃ヲ提ケテ老奴カ眼前ニ擬ス老奴口舌ノ辯疏シ難キヲ知リ乃チ大ニ罵リテ曰ク汝等眼ナク識ナク叨ニ我ヲ疑ヒテ偵者ト爲ス汝自ラ汝カ萬里ノ長城ヲ壞ルノミ後悔何ソ及ハント時ニ一騎アリ馳セ來リテ報シテ曰ク佛人前敗ヲ憤リ大軍ヲ合シテ將ニ我背後ヲ斷タントス速ニ本營附近ニ背進セヨト諸軍之ヲ聽キテ潰亂ス一卒僕ヲ牽キテ走ル佛ノ先鋒既ニ左右ノ山間ニ迫リ追擊最モ急ナリ黑旗兵死傷スルモノ太タ多シ少焉ニシテ黑旗ノ援軍來リ救フニ會フ

一老將馬ニ跨リ聲ヲ勵マシ將士ノ軍令ニ背キテ速ニ退軍セス爲メニ敵ノ反擊ニ遇ヒ多クノ良士ヲ喪ヒタルヲ叱責ス一將乃チ老奴ヲ指シ辯疏スルニ時ヲ糾問ニ移スヲ以テス老將老奴ヲ叱シテ曰ク咄ト老奴曰ク唯速ニ吾頭ヲ斬リテ汝カ謀士顧江寧ニ送レ渠レ吾頭ヲ見ハ必ス能ク吾ヲ知ラン恨ムラクハ大計展ヒス徒ニ汝輩ノ刀下ニ死スルヲト老將老奴ヲ睜睨シテ曰ク余ハ江寧ナリ汝何爲者ソ人ヲ欺キテ以テ寸時ノ命ヲ偸マント欲スルト老奴其顔ヲ諦視シ急ニ呼ヒテ曰ク久濶ナリ顧將軍余ハ白雲山ノ鼎泰璉ナリ往キニ米國ヨリ歸航シテ足下カ軍ニ投セントセシ者ナリト江寧急ニ馬ヲ下リ手ツカラ縛ヲ解キ揖シテ曰ク范兄恙ナキヤ幼時屢〻謦咳ニ接ス相會ハサル者既ニ三十年互ニ其面貌ヲ忘ルヽモ亦宜ナリ爾來數〻書ヲ飛ハシテ奇策大計ヲ授ケラル今日ノ事亦兄ノ賜多キニ居ル願クハ此ヨリ左軍ヲ大計ヲ聞クヲ得ント乃チ引テ上座ニ請シテ曰ク朱明ヲ起スモノハ必ス斯人ナリト老奴辭避シテ敢テ就カス其夜江寧宴ヲ設ケテ大ニ老奴ヲ饗ス老奴卽チ燭ヲ剪リテ江寧ニ說キテ曰ク今清佛兵ヲ構フ兩ナカラ勝タシム可カラス佛兵大ニ勝タンカ戰勝ノ餘威ヲ振ヒ東京ヲ根據トシ鐵路縱橫淸ノ西境ニ迫ラハ勢復支フ

可カラス淸人大ニ勝タンカ驕慢ノ氣加ハリテ頑陋ノ風長シ文明ノ政望ム可カラス革新ノ治期ス可カラス吾輩將タ安ニ力ヲ展ヘン往者軍敗レ西征スルニ當リテヤ西南ニ一乾坤ヲ開キテ明祀ヲ存シ淸朝ト倶ニ生キサルヲ誓フ然レトモ敗殘ノ餘自ラ保スル能ハス姑ク和シテ時ヲ俟ツ今ヤ佛人我棲處ヲ犯シ我旗幟ヲ汚ス勢遂ニ戰ハサル可カラス況ヤ歐ノ諸邦近者殖民政略ヲ皇張シ東南洋ヲ併呑セントスルノ危機ニ瀕スルヲヤ義當ニ東洋ノ公敵ニ抗シ安南ノ命脈ヲ存スルヲ計ラサル可カラス然リト雖トモ余佛國ノ形勢ヲ察スルニ懸軍萬里糧餉給セス固ヨリ久戰ニ堪フルモノニ非ス豈我カ前途遼遠ノ志望ヲ抱持スル同志ヲシテ之ト戰ヒ徒ニ死セシムヘケンヤ諺ニ曰ク轡ヲ急ニシテ數〻策ツ者ハ千里ノ御ニ非ス我同志ノ死力ヲ盡シテ事ヲ爭フハ他日ニ在リテ今日ニ在ラサルナリ俠氣ノ爲メニ前途ノ大業ヲ後ニシ淸人ノ術中ニ陷リテ之カ先鋒タルハ豈謬ラスヤ聞ク往キニ黑旗ノ一軍江北ノ一壘ヲ死守シ佛ノ大軍ニ襲ハレ終日終夜奮鬪苦戰死屍枕藉勢爲ス可カラサルニ及ヒ走リテ武庫ニ入リ敵兵ノ圍ムヲ機トシ火ヲ放チテ爆裂シ彼我共ニ粉韲セリト壯烈比ナシト雖トモ是レ徒死ノミ語ニ曰ク人ノ血氣曷ソ能ク久ク煩勞シテ息マ

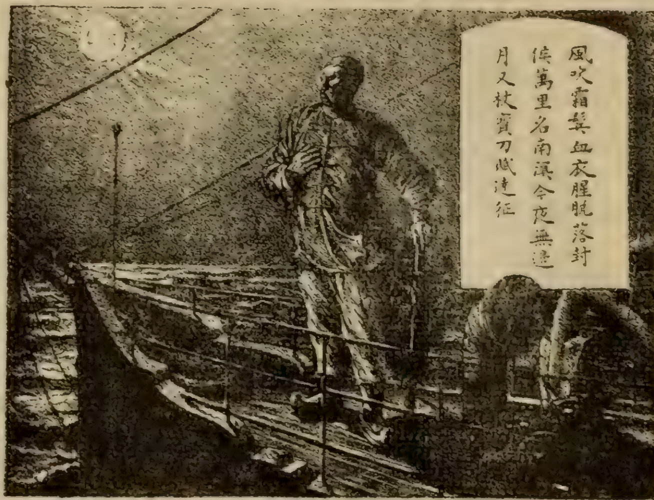
サランヤ精神何ッ能ク馳騁シテ既キサランヤ血氣ハ人ノ華ナリ五臓ハ人ノ精ナリト今ヤ精華ヲ耗盡シテ顯ミサルハ何ソヤ且ツ勇者ハ空ク死セス宜ク防禦ヲ主トシテ險要ニ據リ敵來ラハ退キ敵去ラハ進ミ常山ノ蛇勢ヲ張リ敵ヲ惱マスニ山澤沮洳瘴氛毒霧ヲ以テスヘキノミ況ヤ佛兵ノ勝敗ニ關セスシテ終ニ兵ヲ退クルコト猶火ヲ觀ルカ如キヲヤ此時ニ至リ將軍將タ身ヲ孰レノ地ニ置キ如何カ同胞ヲ處セントスル夫レ狡兎死シテ走狗烹ラレ飛鳥盡キテ良弓藏ル清人果シテ子カ功ヲ賞センカ爵ハ侯伯ニ及ハス富ハ商估ニ如カス僅ニ州督ノ下ニ屈シテ一褊將タルニ過キサルノミ吾子ニシテ大功アランカ智忌マレ略猜マレ遂ニ生ヲ安スル能ハス功ナカランカ幸ニ斧鉞ノ誅ヲ免ルヽモ根據ノ地ヲ失ヒテ身ヲ容ルヽノ地ナキニ至ラン即チ敗卒ヲ引テ清ニ歸モンカ清ノ子ヲ犒スモノ亦知ルヘキノミ此三者皆自ラ勢力ヲ損スル所以ナリ寧ソ復南面シテ王ト稱シ風雲際會東向明旗ヲ飜シ羈ヲ中原ニ爭フヲ得ンヤト江寧大息シテ曰ク余誤レリ之ヲ爲ス如何老奴曰ク頃日日本人歐米ノ利器ヲ採用シテヨリ頗ル清人ヲ輕侮ス且ツ其軍隊ハ佛人二十年來訓練セシ所技癢ニ禁ヘス今日ノ機ニ乘シテ釁ヲ清國ニ構ヘ大ニ爲スアラントスルノ狀アリ若シ其レ勢此ニ至ラハ戰地ハ變シテ雞林トナリ臺灣トナリ遂ニ露英交鋒ノ機ヲ釀スモ未タ知ル可カラス故ニ余ハ是ヨリ密ニ白雲山ニ歸リ憤ヲ抑ヘ蜂ヲ忍ヒ時ノ到ルヲ俟チ福建ノ同志ヲ糾合シ東漢族ニ諜シ以テ事ヲ擧ケントス子ハ暫ク機ノ來ルヲ測リ其間或ハ佛ヲ制シ所ハ清ヲ控シテ巧ニ兩者ヲ揶揄シ佛人大擧シテ領地ヲ侵サハ清ノ大軍ヲシテ邀ヘ戰ハシメ子ハ奇兵ヲ提ケテ横擊シ兵ヲ損セスシテ功ヲ全ウスヘシト江寧膝ヲ拍チテ悅テ曰ク謹テ敎ヲ奉セント蓋シ諒山ノ大捷ハ此策ヲ襲キシナリ

老奴此ヨリ福建ニ歸リ天下ノ動靜ヲ察ス日本ハ雞林ニ向ヒ導火ヲ放チシ勇氣忽チ挫折シテ悠柔不斷ノ間ニ彷徨シ佛國ハ國內溫和派ノ爲メニ掣肘セラレテ數月ヲ和戰未決ノ間ニ消磨シ清ハ廷議紛紜姑息之レ事トシ遂ニ兩邦交綏シ日清佛三國ノ宣戰和議茫漠トシテ其跡ヲ滅スルニ至レリ事既ニ此ニ至ル故ニ老奴ハ今將ニ往テ再ヒ江寧ニ說クアラント欲ス渠若シ清人ノ術中ニ陷リ巢窟ヲ出テ清朝ノ封爵ヲ受クルニ戀戀タラハ豎子與ニ爲スアルニ足ラス唯交ヲ絕タンノミ而シテ再ヒ福州ニ返ランカ孤劍緬甸ニ奔ランカ抑ミ埃及ニ趣キ幽將軍ヲ探ランカ前途未タ決スル所アラス老奴死生ノ間ニ出入スル既ニ幾番ナルヲ知ラス雪下ノ竹ノ如ク河畔ノ柳ノ如ク剛柔ト卷舒シ陰陽ト俛仰シ遂ニ未タ挫折ニ至ラス然レトモ鐸ハ聲ヲ以テ自ラ毀レ燭ハ明ヲ以テ自ラ鑠シ士ハ義ヲ以テ自ラ斃ル老奴復タ玉碎ノ時機ナカランヤト時ニ南溟萬里點塵ノ眼ヲ遮ルナク只氷鏡一輪ノ乾坤ニ横ハルアルノミ范卿一絕ヲ口占シテ曰ク

風吹霜鬢血衣腥。脫落封侯萬里名。南溟今夜無邊月。又杖寶刀賦遠征。

佳人之奇遇 卷十二

船錫崙島ニ泊ス直ニ上陸シテ埃及ノ敗將亞刺飛侯ヲ其謫居ニ訪フ路傍ノ椰樹桂木ハ蒼翠ノ涼蓋ヲ張ルカ若ク田圃ノ奇卉異草ハ千紫萬紅ノ美ヲ競ウテ絢爛ノ華氈ヲ布クカ如シ中ニ半歐半亞ノ衣冠スル者徒跣裸體簣ヲ荷フ者悠悠東西ニ相往來スルアリ風致ノ美配色ノ奇宛然一幅ノ好畫圖ナリ既ニシテ村驛煙絕エ鐘磬聲消エ比丘尼ノ力ナク窣婆塔ヲ負ヒテ荒殘セル卵塔ニ倚ルヲ見ル神足嶺三千年ノ靈蹤ハ法音杳杳タリ無畏山四十丈ノ高塔ハ廢址茫茫タリ誓多林鳳凰宮ノ結構ハ已ミヌ佛陀聖靈ノ菩提樹何クニカ攀チン漸クニシテ侯カ門ニ到リ刺ヲ通ス謁者謝スルニ對客ノ時ニ非サルヲ以テス暫ク門外ヲ逍遙シテ後復



范卿洋上ニ遠征ヲ賦スノ圖　（原本插畫）

タ訪フ門者曰ク既ニ出ツト因テ少時ニシテ訪フ初メテ疎林婆娑タル庭中ノ幽亭ニ導カル待ツコト少焉亞剌飛侯出テ、接ス赤幘黑衣温言三顧ノ勞ヲ謝ス海將軍禮シテ曰ク日本人民擧テ侯カ國ニ報イルノ誠忠敵ニ對スルノ沈勇ヲ稱シ侯カ血誠天ニ達セス侯カ果斷國人ニ忌マレ苦戰運盡キ此萬里ノ敵境ニ放謫セラル、ヲ悲マサルナシ某今ヤ命ヲ奉シテ歐米ノ形勢ヲ視察ス途次特ニ半日ノ閑ヲ偸ミ高堂ヲ訪ヒ一タヒ殷勤ヲ通シ且ツ東洋ノ政略ヲ談セント欲ス元帥願クハ國論ノ紛擾ヲ鎭壓シ疲散ノ卒ヲ驅使シテ英ノ精鋭ト角逐シタルノ戰況及ヒ貴國カ遭逢セシ歐人ノ外交詐術ノ詳ヲ説キ以テ東洋諸邦ヲシテ未タ陰雨セサルニ牖戸ヲ綢繆セシメヨト亞剌飛侯聞キ了リテ悲喜胸ヲ突テ起ルモノヽ如ク蹶起天ヲ仰キ瞑目スルモノ多時漸ク坐シテ答ヘテ曰ク敗軍ノ將何ソ敢テ兵ヲ談セン楚囚ノ身何ソ敢テ經世ヲ論センヤ然リト雖トモ既ニ三顧ヲ辱クス豈一言厚誼ニ報ユルナカル可ケンヤ蓋シ予ヲ此謫居ニ訪フモノ僕ヲ更フルモ數フヘカラス而シテ未タ我カ故國ノ敗殘ヲ憐ミ歐人カ東洋ニ對スル政略ヲ憤ル貴賓ノ如キモノヲ見ス請フ恥ヲ忍ヒ垢ヲ含ミテ前車覆轍ノ戒ヲ陳セン初メ歐人我ニ對スル則チ曰ク天帝ハ一ナリ私親ナシ宇内ヲ照臨シテ一視仁ス四海ハ兄弟ナリ文明ノ世何ソ邦ト人種トノ異同ヲ問ハン智術ノ長短ヲ交スルハ社會ノ職責ナリ有無相通スルハ人世ノ通義ナリ邪蘇ノ本領ハ衣ヲ併キ食ヲ分チ強ヲ抑ヘ弱ヲ扶クルニ在リ各邦平和親睦ヲ締盟セハ萬世亡滅ノ憂ナシ若シ一國不良ノ謀アラハ萬國公法ニ據リテ天下共ニ之ヲ伐タンノミト何ソ其説ノ堂堂トシテ公平無私ナルヤ然レトモ是レ障ヲ隔テ、鬼女ノ彈琴ヲ聽クカ如キヲ奈何セン且ツ其最モ恐ルヘキハ貨幣運用ノ邪説ニ在リ曰ク凡ソ貨幣ナルモノハ物品交換ノ量器ナリ其價ヤ毫モ物品ト異ナラス是故ニ物品ニ需用供給ノ動カス可カラサル原則アリ供給溢ルレハ需用減シテ其價低下シ需用盛ナレハ供給増シテ其價昂騰ス貨幣ノ需用供給モ亦此原則ニ率シテ動カスヘカラス故ニ一國ノ富ハ貨幣ノ多寡ヲ以テ計ル可カラス若シ一國強ヲ圖リ富ヲ増サンカ爲メニ貨幣ノ缺乏ヲ感セハ則チ之ヲ需用寡ク供給多キ他國ヨリ借ル可シ低利ノ資本溢レ來リテ其國ノ産業ヲ振起セン是レ天然ノ數經濟ノ理人世ノ通義ナリト東方ノ人民高尚ノ理アルニ迷ヒ文化ヲ進メ軍備ヲ張ラント欲シ一國ノ貨幣ヲ散シ盡シテ更ニ外債ヲ募ラントス是レ實ニ國家隆替ノ因テ決スル所ナリ凡ソ外債ヲ起スノ邦ハ時勢ト債權トヲ選ハサル可カラス古來弱國外債ノ爲メニ國ヲ誤マラサルモノ幾ト希ナリ若シ一タヒ之カ返償ノ期ヲ愆ランカ邪蘇教國ノ本領ハ忽チ消エテ向キノ巧言ハ遽カニ變シ恣然教法ノ異ヲ喋喋シ種族ノ別ヲ囂囂シ白皙人ノミ獨リ天帝ノ照鑑ヲ蒙リ異教異種ノ人類ハ前世ノ罪業ニヨリテ後禍ヲ免レスト唱ヘ發明技術皆其根原ヲ同ウセストト稱シ衣ヲ剝キ食ヲ掠キ其國土ヲ擧ケテ奪ハサレハ饜カス先キニハ有無相通ヲ人世ノ通義ト唱ヘ今ハ自國ヲ保護スト稱シテ他ノ商品ニ重税ヲ

課シ禁稅ヲ布キテ顧ミス先キニハ貨幣ノ共同通寶ヲ主張シ今ハ貿易輸入超過ヲ防キ貨幣制ヲ強斷シテ金權ヲ握ラントス先キニハ和親ヲ訂盟シ公法ニ準據シ不良不正ノ邦國アラハ天下共ニ其非ヲ矯メント唱ヘ今ヤ利ヲ見テ義ヲ忘レ強ニ媚ヒ弱ヲ凌クヲ知ル耳先キニ俄國黑海ノ盟ヲ破ルヤ天下復タ之ヲ責ムル者ナシ希臘ハ小國土耳其ト兵ヲ構ヘントスレハ強國平和ヲ害スト稱シテ兵威ヲ以テ希都ヲ封鎖シ亞非利加ノ一國少シク盟約ニ疑議スレハ歐洲諸國ハ同盟シテ之ヲ分割ス予ノ將ニ兵ヲ擧ケントスルヤ歐ノ諸邦ハ稱揚シテ義擧ト爲シ應援ヲ約スルモノアリ英國ノ背後ヲ制セント誓フモノアリ善後策ヲ勸ムルモノアリ使者冠蓋相望ム而シテ一旦兵ヲ起スヤ趦趄逡巡會テ一國ノ救援スルモノナシ嗚呼歐米人ノ言ハ聽クヘクシテ信ス可カラス交ル可クシテ親ム可カラス若シ誠ニ人ノ内ニ懷ク所ノモノヲシテ外ニ見ハル、所ノモノト符節ヲ合スル若クナラシメハ天下誰カ國ヲ亡シ家ヲ破ルモノアランヤ關隘一タヒ胡馬ノ鐵鞭ヲ容セハ復タ之ヲ拒ム能ハス我カ埃及及ヒ馬島ノ諸邦皆其實例ナラサルナシ決シテ予カ論ノ奇矯ナルヲ疑フ勿レ抑〻聞ク貴邦ハ數千年來東海ニ屹立シ山高ク水峻ニ土地肥沃ニシテ民人義勇ノ氣ニ富ミ富國ノ策ヲ講シ強兵ノ術ヲ施シ能ク歐米ノ長處ヲ採リ歐米ノ利器ヲ用キ彼言ヲ聽キテ溺レス彼說ヲ聞キテ迷ハスト眞ニ宇内ノ美國ト謂フ可シ余請フ貴國ノ爲メニ唯一事ヲ忠告セン他ナシ外人ヲ顧問ニ備フルモ與フルニ官爵ヲ以テスル勿レ一タヒ之ヲ誤ラハ主權凌夷シテ復タ恢復ス可カラス枉ケテ之ヲ斷行セント欲セハ亂階タラサル者殆ト稀ナリ殷鑒遠カラス邇ク布哇ニ在リ且ツ國家統一ノ要具ハ小事ト雖トモ之ヲ保持シテ破壞變更スル勿レ信義ヲ重ジ正理ニ則リ隣近ノ弱國ヲ撫育保護セハ覇ヲ東洋ニ稱スル日ヲ期シテ待ツ可キノミ嗚呼余ハ日本ノ好位置ヲ羨ミ故鄕ノ逆境ヲ嘆スルニ堪ヘサルナリト音吐沈痛悲憤ノ氣眉宇ノ間ニ溢ル會〻三四ノ埃及人亭内ニ入リ來リ侯ノ傍ニ立ツ侯乃チ其赤幘白衣ノ一人ヲ指シ紹介シテ曰ク是レ將軍某ナリト又黑衣ノ一人ヲ指シテ曰ク外交家某ナリト更ニ左右ヲ顧ミテ曰ク是レ勇士某ナリ是レ豚兒某ナリ此數人皆反逆ノ罪ニ處セラレ死一等ヲ減シテ予ト共ニ此ニ流竄セラル貴賓ノ來臨ヲ聞キ爲メニ來リ謁スルナリト共ニ往ヲ話シ來ヲ語リ談論漸ク佳境ニ入ル時ニ何物ノ俗漢ソ敢テ我カ淸興ヲ割ク一輛ノ馬車門前ニ停マリ官吏婦女諸生十餘輩直ニ庭上ニ入ル侯待ツニ禮ヲ以テス座ニ散士等アルヲ見テ口ヲ極メテ日本ノ近時ヲ揄揚シテ曰ク急ニ衣服飮食ヲ歐人ニ模擬シ複雜ナル國語ヲ廢シ代フルニ羅馬文字ヲ以テセントシ法律ハ佛典ニ模シ法官ハ歐人ヲ採用シ英文ヲ以テ法廷ノ原語トナサント欲シ婦人ノ束縛ヲ解ケ男女同權行ハレ人種改良論世上ヲ壓倒シ歐風ノ演劇舞踏漸ク盛ナルハ實ニ感嘆スルニ堪ヘタリト衆相和シテ贊譽ス一士之ヲ聞キ散士ニ耳語シテ曰ク亂理ノ文脩飾ノ巧刑ヲ刻ミ法ヲ鏤ムハ我カ破レシ所以ナリ貴邦亦此轍ニ習ハント欲スルカト散士覥然冷汗背ニ浹シ是ニ於テ蒼皇別ヲ告ケテ曰ク問ハント欲シ語ラント欲スルモノ宵ヲ重ヌルモ且ツ盡ス能ハス願クハ國家前途ノ爲メ加餐自愛シ天道順ニ復ルノ機ヲ待テト侯曰ク再ヒ貴賓ヲ見ルコト復タ期ス可カラス唯貴賓ニ請フモノアリ若シ埃及ノ新戰場ヲ過キルコトアラハ余カ爲メニ同志ノ墳墓ヲ憑弔セヨト辭シテ門ヲ出ツレハ日景漸ク移リ晩風涼ヲ送リ一路迢迢樹鳥聲ナク唯我カ耳ニ入ルモノハ人ニ媚ヒ春ヲ鬻クノ婦女亡國ノ恨ヲ識ラスシテ英皇ノ德英政ノ仁ヲ讃歎スルノ聲ノミ

紅海ヲ西航シ洲越ニ達ス岸ニ上リテ徘徊スレハ昔日繁華ノ地ハ荒寥寂寞唯廢寺空屋ヲ餘スノミ古昔摩西カ天神ノ默指ニ隨ヒ衆徒ヲ率キテ海南

沙漠ニ飄零シ神授ノ聖泉ヲ啜リシ淸節ヲ懐ヒ波斯大王跎雄斯カ六合ヲ幷一スルノ雄圖ヲ懐キ西征ノ沿道ニ建立シタル天ヲ摩スル大石柱ヲ平沙漠漠ノ中ニ仰キ星移リ物變リ盛衰處ヲ異ニシ千古ノ雄略空ク銷沈シ極目歐人馬蹄ノ蹂躙ニ委シテ東方復タ馬首ヲ西向スル英主ナキヲ慨シ行々亞刺飛最後ノ戰場ニ到ル丘陵起伏シテ沼澤平沙ニ連リ殘壘猶舊形ヲ存スルモノ多シ中ニ英人ノ墳墓ハ碑塔高ク聳エテ英兵之ヲ守衞シ埃人ノ塋域ハ荒草離離ノ間ニ散在シテ一村人ノ弔スルモノナシ散士乃チ跪キテ之ヲ弔シ感慨自ラ禁スル能ハス既ニシテ汽車ニ搭ス汽車將ニ西ニ向テ馳セントス忽チ西ヨリ來ル列車ニ遇フ中ニ翠羅面ヲ覆フノ一婦人アリ暗影楚楚隅ニ向ヒ右ニ白巾ヲ執リ左ニ一朶ノ花ヲ把リ斜ニ頰ヲ支ヘテ憂思ニ沈ムモノヽ如シ我カ車中ヲ一瞥シ將ニ車窓ヲ開カントスルヤ汽車轟轟東西ニ背馳ス散士心沈ミ氣塞カリ一物胸ヲ纏ウテ自ラ消スル能ハス首ヲ回セハ平沙浩浩天ニ接シ戰場ノ丘陵已ニ明滅ノ間ニ沒ス唯餓鳶瘦牛處處ニ點點シテ昨ヲ迎ヘ泥屋三五路旁ニ相接シ驢ニ乘リテ行クモノ田ニ耕スモノ道ニ店スルモノ皆自ラ數千年ノ舊風ヲ存スルヲ見ルノミ

明日三角塔ニ登ラント欲ス鑣ヲ連ネテ塔下ニ到ル大石疊積シテ天末ニ至リ危峭累卵ノ如ク削成砥ノ如ク石角坎陷ノ處纔ニ攀躋ヲ擬スヘキノミ一行相顧ミテ難色アリ遂ニ意ヲ決シテ天鑱ヲ跋ミ鬼工ヲ扳ツ三歩ニ一喘五歩ニ一息胸膜擊鼓ノ如ク流汗面ニ溢ヘ日昆岡ニ燃エ髓腦俱ニ沸ク同行者勞ニ堪ヘス半ヨリ下ルモノ多シ能ク頂上ニ達スルモノ僅ニ三人ノミ絕巓ニ直立スレハ足戰戰トシテ定マラス人間杳渺身遠ク天界ニ上ルノ感アリ是ニ於テ石上ニ危坐シテ矚望スレハ沙波羅ノ大沙漠ハ塔下ヨリ數千里ニ綿亘シ曠蕩冥茫際涯ヲ見ス其間一點青一微白ノ眼ニ入ルナク紅熱目ヲ射テ閃爍迷離混沌未分ノ前ニ似タル乎將タ天破レ地裂ケ世界崩潰シテ劫火洞然タルノ眞象ニ比スヘキ乎時ニ块圠トシテ熱砂ノ起ルハ炎帝ノ火龍ヲ鞭ツカ如ク回飈倏忽旋轉スルハ火車ノ罪人ヲ驅リテ八熱地獄ニ趣クニ似タリ人若シ此境ニ墮落セハ生キテハ生ニ迷ヒ死シテハ魂ノ依ルヘキ莫ケン黯然頭ヲ背後ニ回セハ小三角塔ハ遠近ニ連續シテ丘陵ノ起伏スルカ如ク灘江ノ大河ハ浩浩汩汩トシテ長蛇ノ蜒蟺タルカ如ク天ニ漲リ地ニ際シテ源泉ヲ知ルナク其沿岸ハ草木靑靑原田每每沃野遠ク闢ケ心目倶ニ豁ナリ遙ニ海樓府ヲ瞭望スレハ高閣梵宮丹堊粲錯朱碧陸離壯宏優麗以テ肩摩轂擊ノ繁旺ヲ想像ス

ヘシ父牛ヲ牽クノ童野ニ耕スノ農阡陌ニ從衡シテ蟻ノ動クカ如キアリ奇古ノ老僧群ヲナシ衆人ヲ引導シテ錢ヲ貪ルアリ婦女高歌シテ數千年前ノ廢趾ヲ掘リ寶貨ヲ捜リテ之ヲ賣ルアリ沙中ニ埋沒シテ半面ヲ現ハシ怒ルカ如ク笑フカ如キ絕大女神ノ像アリ左顧右眄低徊佇望奇絕ノ觀ニ堪ヘス古人曰ク天堂地獄ノ眞景ヲ窺ヒ知ラント欲セハ三角塔頂ニ立チテ東西前後ヲ眺臨セヨト信ニ予ヲ欺カサルナリ乃チ石角ニ跨リ喟然トシテ歎シテ曰ク嗚呼昔者歷山大王京城ヲ玆土ニ奠メ以テ諸侯ヲ朝セシムルヤ玉帛ヲ執ルモノ萬國文物典章宇內ニ冠絕シ歐亞人ノ遊學スルモノ年年幾千人蓋シ群后ノ高會スル所四方ノ儀則スル所タリ羅馬ノ盛時久麗王葩都羅カ其妖美ヲ以テ涕泣媚惑獅威撒ヲシテ重圍ニ陷リテ悔イサラシメシモ此土ナリ小勁冬カ王嵯斯多斯ノ自由ヲ蹂躪シ大憲ヲ侵凌シ天位ヲ覬覦スルヲ痛憤シ義兵ヲ擧ケテ勝タス遂ニ棲遲シテ大節ヲ全ウシタルモ此土ナリ安敦仁カ蓋世ノ勇ヲ輝シ狐媚妖冶ニ沈湎シテ武ヲ黷シ亡ヲ招キ以テ恥ヲ千載ニ遺セシモ亦此土ニシテ拿破崙カ歐亞ノ大權ヲ掌握セント欲シテ衆ヲ勵マシ鏖戰セシモ亦同ク此高塔ノ下ニ於テシ明平明土阿梨大王カ布衣ヨリ起リテ全埃ヲ統一シ生齒五百萬ヲ以テ克

ク東歐西亞ヲ攻略シ歐洲諸強ト連戰シテ其威名ヲ宇內ニ轟セシモ亦實ニ此土ニ在リ誠ニ地三大洲ノ咽喉ヲ扼シ四海ノ管鑰ヲ掌ル英雄ノ垂涎亦宜ナル哉況ヤ沃野千里大河浩蕩物產ノ殷庶充溢スル比スルニ所ナキヲヤ今ヤ遙ニ歷山港ヲ望メハ珠簾畫棟已ニ三月ノ灰ト飛ヒ白叟黃童同シク泉下ノ異物ト化ス災孽天ヨリ降ルニ非ス皆自ラ此慘禍ヲ招クト雖トモ此廢頽ノ跡ヲ覩テ滅亡ノ故ヲ推ス果シテ知ル驕ルモノ久シカラス淫威必ス橫禍ニ挫ケ積惡餘殃アリ驟雨必ス朝ヲ崇ヘサルヲ蓋シ聞ク威須明流王ノ朝ニ當リ權臣摩佞ナルモノアリ曾テ歐洲ニ遊學シ叨リニ博學ノ虛名ヲ買ヒ其才能一時ニ冠絕スト稱セラル即チ徒手無功ノ身ヲ以テ累進官ヲ貪リ飜覆常ナク或ハ憸人ニ與シ或ハ勳臣ノ意ヲ邀ヘ假虎ノ威ヲ奮ヒテ座上ヲ睥視シ眉ヲ几間ニ揚ケ袂ヲ案上ニ奮フ其言ニ曰ク多藏ハ厚士ノ券ト何ソ放利ハ衆怨ノ媒ナルヲ知ラン夫レ下ヲ虐スル者ハ必ス上ニ媚フ色莊ナル者ハ必ス內柔ナリ故ニ曰ク棖也慾何ソ剛ヲ得ント彼レ喔咿嚅唲脂ノ如ク韋ノ如ク婦人ニ事ヘテ恥ヲ知ラス歐人ニ對シテ皂隸ノ如ク雅ニ言フ蹇蹇諤諤ハ正道ニ非スト其一旦臺鼎ニ上リテ鹽梅ヲ調スルヤ便僻姦佞ノ徒ヲ嘯聚シテ專ラ政府ヲ挾持シ門下ノ鷄狗皆龍翼

ヲ張リ虎牙ヲ礪キ天下ノ生靈ヲ糜爛シテ已ニ爼上ノ魚肉トナス笑刀ノ利暗箭ノ毒中ルモノハ皆斃ル且ツ嬌亂倫ナク毛嬙西施ヲ物色シ手ニ任セテ花ヲ折ル貴ト賤ト姦ト蒸トヲ擇マス穢德顯彰日月色荒ミ風雲憤ヲ含ミ山裂ケ河溢レ妖孽並ヒ興ル然レトモ痛冤訴フルニ門ナク釁隙乘スルニ路ナク天下唯睊々トシテ胥ヒ議ルニ目ヲ以テスルノミ智者必ス其赤族ノ久シカラサルヲ識リ或ハ蔡澤ノ諷ヲ進メ或ハ趙良ノ諫ヲ呈ス彼陽ニ納レ陰ニ斥ケ遂ニ曰ク志丘壑ニアリ國ノ爲メニ暫ク賢勞スルノミト婦人ト帷中ニ坐シ相服朝ニ戲レ稚子ヲ懷中ニ舐メ紫綬ヲ弄シテ封侯ノ相ヲ譽ム天日ノ畏ルヘキヲ知ラス浮雲ヲ指シテ長ク南山ニ停ルト謂フ豈權花一朝ノ榮ナルヲ知ランヤ是ニ是テ下民啾々ノ聲志士唾罵ノ響上天宮ヲ動シテ上帝ノ目ヲ掩ハシメ罪惡ノ數刑罰ノ條下冥府ノ金札ヲ山積シテ未タ錄シ盡サス五百ノ惡鬼頭上ニ臨ミ厲鬼胸ヲ拊チ怨靈帳褥ヲ纏フ而シテ猶揚揚自ラ喜ヒ己レ天アリ命アリト謂フ既ニシテ烽煙塞上ニ揚リ鐵火墻內ニ起リ硝風彈雨天寒カリ地閉チ六合ノ內唯黯澹トシテ虎狼野干肉ヲ爭フノ聲ヲ聞キ飢民亂徒劍ヲ閃スノ光ヲ覩ルノミ愛妾ハ亂軍ノ中ニ汚辱セラレ愛兒ハ餓鳶ノ爲メニ恣ニ啗嚼セラレ三族六親以テ雞狗ニ至

ルマテ皆慘殺セラレテ復タ噍類ナク而シテ其身ハ八裂シテ市街ニ棄テラル是レ誠ニ盈ヲ持スルヲ知ラサルニ因ルノミ嗚呼報施ノ爽ハサル涓滴遂ニ磐石ヲ穿ツ以テ鑑戒トナスヘキナリ唯顧ミテ此亡國ノ慘狀ヲ見レハ血ハ灘江ヲ漲ラシテ生靈何ノ罪カアル骨ハ三角塔ヲ築キテ顯民何ノ咎カアル昔日簪纓ノ地ハ白起カ坑溝尙腥ク當年棨戟ノ場ハ誰カ又殘骨ヲ餘燼ニ收メン散士此ニ至リ膽裂ケ肝摧ケント欲ス嗚呼天カ命カ思テ此ニ至レハ心目倶ニ憯憯タラサルヲ得ス是ニ於テ眸ヲ轉シテ近ク灘江ノ流ニ對シ神德ノ汪洋極リ罔キヲ劉覽シ埃及人ノ灘江ヲ祭リテ神トナスノ故アルヲ知ル夫レ神ハ至德ノ稱ナリ又不可測ノ謂ナリ若シ灘江ニシテ枯渴センカ此國千萬ノ生靈直ニ飢餓ニ斃レ極目ノ田野俄ニ沙漠焦土ニ化シ生類ノ絕滅朝夕ヲ保タサルヘシ何トナレハ埃及ノ國タル露ナク雨ナク唯赤帝ノ炎威灘江ノ水氣ト陰陽相和シ以テ萬物ヲ化育スレハナリ是レ廷禮氏ノ水ヲ以テ造化ノ原ト爲シ老子ノ水德ヲ上善ニ賛シ孔丘ノ逝者ヲ歎シタル所以乎天下ノ物水ヨリ柔弱ナルハナシ然レトモ其大ナルコト極ム可カラス其深キコト測ル可カラス其長キコト無窮ニシテ其遠キコト無涯ナリ萬物資テ以テ生セサルナク百事依テ以テ成ラサルナク大ハ群

生ヲ包ミテ好惡ナク澤ハ螻蟻ニ及ヒテ報ヲ求メス富ハ天下ヲ贍ハシテ旣キス德ハ百姓ニ施シテ費ヘス之ヲ擊テトモ創ナク之ヲ焚ケトモ燃エス淖溺流遁錯繆糾紛シテ靡散ス可カラス利ハ金石ヲ貫キ强ハ天下ヲ濟ヒ無形ノ域ニ動溶シ蒼穹ノ上ニ翺翔シ川谷ノ間ニ遺リテ大荒ノ野ニ滔騰シ有餘不足天地ト取與シ萬物ニ授ケテ前後スル所ナシ是故ニ私スル所ナク公スル所ナク靡濫振蕩天地ト鴻洞タリ左スル所ナク右スル所ナク蟠委錯紛萬物ト終始ス是ヲ至德ト謂フ豈又不可思議ナラスヤ然リト雖トモ詩ニ曰ク肆皇天弗倘。如彼泉流。無淪胥以亡。夙興夜寐。洒掃廷內。維民之章。修爾車馬弓矢戎兵。用戒戎作。用逷蠻方。ト獨リ江神ノ德ヲ恃ミテ大雅ノ儆戒ヲ忘ル是レ埃及ノ戎ヲ招キシ所以乎日景漸ク移リ靈曜停ム可カラス乃チ傴僂シテ三角塔ヲ下ル

馬首ヲ回ラシテ一丘ヲ超ユ一軍隊アリ鐃管嗷噪旗旆肅肅叱咤シテ至ル道ヲ避ケテ之ヲ見レハ埃及鎭撫ノ英國巡邏隊ナリ嗚呼百餘年前赳赳タル武夫名將ノ麾下ニ從ヒテ歐亞ヲ左馳右驅スルニ當リテヤ飈擧霆擊其鋒ニ嬰ルモノナク雷震風靡雄ヲ宇內ニ誇ル今ヤ英ノ一軍ト一戰支ヘス都城降陷恥ヲ城下ノ盟ニ忍ヒ外兵ニ賴リテ自國ヲ鎭撫スルニ至ル是レ皆國ヲ治ムルノ賊カラサルニ在ルノミ旣ニシテ海樓府ノ逆旅ニ歸ル其夕館主殷勤ニ問ウテ曰ク貴客ノ一行中東海ノ姓アルヤト散士曰ク僕是ナリト館主疑貳ノ色アリ一揖シテ去ル少焉ニシテ又來リ散士ヲ見テ姓氏ノ異ナルヲ難詰ス同座ノ人證明頗ル苦ム館主意漸クニシテ解クルモノノ如ク卽チ書ヲ懷中ニ探リ散士ニ示シテ曰ク貴客果シテ其人ナラハ請フ領收ノ證ヲ與ヘヨト受ケテ之ヲ見レハ封筒唯英字ヲ以テ日本人東海散士ノ數字ヲ書スルノミ何人ノ投贈スル所ナルヲ知ラス封ヲ拆キテ之ヲ讀ム其書ニ曰ク

巢ヲ失フノ旅燕薄命ヲ茅簷ニ託シ栰ヲ摧クノ客舟零丁ヲ孤島ニ悲ム君子ノ高蹤或ハ浪ヲ靑萍ニ逐ヒ騷人ノ遊履倘クハ風ニ敗蕉ニ題スルヤ竊ニ悲ム藍橋路隔リ花洞津迷ヒ復闗咫尺ニシテ阻ル萬里ノ如ク株林遠キニ非サルモ睽ク河漢ニ似タリ天塹飛ヒ難シ飛ヘハ鷙鳥ノ搏スルヲ恐ル孤纜解キ難シ解ケハ憑夷ノ怒ニ觀ハン唯僅ニ端ヲ窺シ跡ヲ匿シ唯カ閉結ヲ解カン伏シテ中情ノ悒ヲ訴フト散士瀏覽再四其意ヲ獲ルカ如ク其情ヲ得サルカ如シ固ヨリ以テ人ニ問フヘキニ非ス心緒紛綸誰ト共ニカ此疑ヲ解カン

明日車ヲ驅リ明平滅士阿梨ノ舊宮城ニ遊フ登臨眺望シテ萬感交ミ集ル此宮城ヤ巍峩崔嵬堅牢匹ナク殿閣ノ莊麗珠ニ人目ヲ駭カス築クニ水晶紫石靑玉ノ瓌奇絢爛タルヲ以テシ萬國ノ異卉珍木絕域ノ寶珠恠石蒐メサルモノナシ而シテ是レ皆諸侯伯ノ獻スル所タリ其城樓ニ懸ル巨大ノ自鳴鐘ハ佛王路易非立ノ贈ル所ト云フ閣ノ中央ニ安置スルハ彼ノ制御シ難キ土豪ノ梟帥ヲ殪シ駕御シ易カラサル佛人ノ兇雄ヲ戮シ以テ歐東ニ帝タラント欲シテ大業就ルニ垂ントシテ英露墺普土ノ歐洲連合同盟軍ニ沮マレ雄圖空シク蹉跎シ限ヲ呑ミテ未タ瞑セサル雄ノ靈柩ナリ散士拜跪シテ英魂ヲ弔シ辭シテ舊海樓府ニ遊フ居民寂寥雞犬聲稀ニ城壁半隳チ梁柱倶ニ傾キ山羊頹石ニ睡リ黃花苔礎ニ亂ル處處ニ白玉玲瓏タル棺槨アリ其四邊ニ彫鏤スル精巧ハ日輪紋ハ酷タ我カ菊花章ニ肖タリ傳ヘ云フ五千年前ノ王公ノ墓ナリト（土中ニ葬ラス棺槨ヲ寺院ニ飾ルアリ）或ハ云フ雄將ノ遺骸ナリト寺主去リテ跡ナク燕雀ノ巢棲空シク堆シ嗚呼昨ヤ今ヤ行ク所到ル處見ルモノ聞クモノ一トシテ感傷ノ媒タラサルハナシ若カス是レヨリ浩浩タル淸江ニ臨ミ萬斛ノ愁ヲ洗滌センニハ去リテ椰朶島ニ遊フ（椰朶島ハ海樓府ノ上流ニアリ風景佳絕情話ノ多ク傳ハル所ナリ）百花亂レ咲キ江魚遊泳萬帆鳥ト共ニ浮ヒ

絳霄寂トシテ纎雲ナシ胸中是ニ於テ初メテ快濶ナルヲ得タリ杖ヲ曳キ歩ニ信セテ江上ヲ逍遙ス忽チ一小層樓ノ前ニ出ツ圍ムニ數尺ノ瓦石ト疎籬トヲ以テス樓上ニ婦女ノ琴ヲ彈シテ讃美歌ヲ唱フルアリ聲低ク樓高ク分明ニ聽ク可カラスト雖トモ瀏亮ノ音自ラ我カ懷ヲ牽クモノアリ乃チ其内ヲ覗ハント欲スレハ窓細ク簾深クシテ唯朦朧ノ孤影ヲ認ムルニ過キス是ニ於テ音容ヲ我カ思フ所ノ佳人ニ髣髴シテ佇立多時遂ニ他人ニ牆ヲ覗フヲ怪マルヽヲ羞チ急ニ歩履ヲ移シテ去



幽蘭海樓府ニ月ヲ望ムノ圖

(原本插畫)

ル遂ニ之ヲ顧盻スレハ仙容簾ヲ捲キテ吾ヲ招クモノヽ如シ躊躇逡巡纔ニ江妃ノ珮ヲ解キ嫦娥ノ雲巾ヲ覘クヲ冀フ時ニ友相呼ヒ連リニ歸路ヲ促ス依依捨テ難ク悵悵方ニ歸路ニ就ク然レトモ細簾思ニ繋リ尺素復タ念ヲ縈ヒ意緒匆忙心情撩亂館ニ歸ルノ後被ヲ蒙リテ寢ニ就ケトモ尙睡ル能ハス夜三更密ニ旅館ヲ出テ歩シテ灘江ノ沿岸ヲ上リ槲朶島ノ對岸ニ到ル時ニ渡頭ノ求ムヘキナク數ミ之ヲ行人ニ問フ言語通セス行人以テ外客途ヲ迷フト爲シ海樓府ヲ指シ歸ルヲ勸ムル者ノ如シ漸クニシテ一渡頭ヲ得然レトモ舟ヲ艤スルノ舟子ナク只河水汩汩槲朶島ヲ廻流スルノミ村荒レテ誰カ居停セン隄巴ノ綠水迢迢客ノ渡ルナシ今ヤ氣屈シ足痛ミ暑ヲ冒シテ汗湧クカ如ク而シテ四顧茫茫人聲全ク絶ユ寧ロ興盡キ棹ヲ返スノ王徽タランカ途窮マリ車ヲ廻スノ阮籍タランカ遇ヒ難キノ好機ヲ空シクシ此良宵ニ幸負スルヲ奈何セン況ヤ一腔ノ熱血ヲ灑シ徒ニ踉蹌志ヲ達セサルハ殊ニ傷心スルニ足ルヲヤ若シ夜渡舟ナキヲ知ラハ先キニ投梭ノ恥ヲ忍ヒ秦鏡ヲ懸ケ温犀ヲ燃キ以テ百疑ヲ消センニ却テ當時ノ覯ヒ易クシテ今ノ行ク可カラサルヲ恨ム徘徊ノ間釣舟ノ泥渚ニ膠スルヲ認ム嗚呼情癡ノ凝ル所何ノ險カ冒サヽラン深夜不測ノ淵ニ臨ミ遂ニ孤舟ヲ迷津ニ放ツ蘆吟シ蟹嘯キ腕疲レ櫂憊レ意覺セテ舟進マス中流ノ困苦名狀ス可カラス既ニシテ漸ク彼岸ニ到ル乃チ舟ヲ枕槲樹下ニ繋キ闇ヲ摸シ路ヲ求メ偎偎トシテ二層樓下ニ達ス西顧闃寂窓隙微ニ燈光ヲ漏ラシ唯大江岸ヲ洗ヒ夜風蘆葦ヲ吹キ蕉葉ヲ搖カスノ響ヲ聞クノミ天漢ヲ仰キ見レハ星象隱映雲霧空ヲ掩フ眞ニ是レ藍橋路隔タリ仙女ニ從ヒテ林ニ入リ難ク花洞津迷ヒ漁郎ノ渡ヲ問フヲ許サス復關ハ咫尺ス一重ノ石牆ノミ森林ハ是レ半扉ノ小門ノミ然レトモ依然タル雲山萬重何ニ由リテカ寸振ヲ撥シテ此無門ノ關ヲ開カン僅ニ進ミテ身ヲ芭蕉ノ下ニ寄セ氣ヲ屛メテ之ヲ窺ヘハ樓上遠ク瑤琴ノ響ヲ送リテ鏘鏘琅琅夜塘ノ水ニ亂ルヽヲ聽ク忽チニシテ琴聲全ク歇ミ萬籟死スルカ如シ樓上撲然聲アリ仰テ之ヲ見レハ仙妃窓ヲ開キ四邊ヲ眺臨シテ吟シテ曰ク懷レ君半夜未レ成レ眠。明月涓涓水一天。妾涙化爲二江上水一。駕レ風和レ雨到二君邊一。ト散士之ヲ聽キ覺エス高吟シテ曰ク據レ丘臨レ水一層樓。中有二東人一學二楚囚一。ト時ニ練ニ似タル微雲風ト倶ニ散シ江月嬋娟明ニ幽蘭カ襴ニ倚ルヲ照ス忽チ背後ニ大喝一聲散士膽裂ケ藹然地ニ僵レテ復タ其後ノ事ヲ知ラス唯耳邊囁囁散士ヲ呼フノ聲アリ夢ノ

如ク醒ムルカ如ク儚乎トシテ身ヲ動カセハ身ハ寢床ノ上ニアリテ人ノ散士ノ頸ヲ抱キ面ヲ拭フアルヲ知ル曰ク郎君請フ恕セヨ郎君果シテ蘇生セルカ妾ハ幽蘭ナリト散士此語ヲ聞キ眼ヲ開ケハ身ハ方ニ衆人ノ中ニ圍マル眸ヲ定メテ熟視スレハ幽蘭睡邊紅ヲ潮シ涙痕雙瞼ヲ濕シ顏色蒼白髮亂レ氣沈ムノ狀アリ散士覺エス起タントス幽蘭止メテ曰ク請フ安臥セヨ郎君創アリ暫ク起ツ可カラスト既ニシテ曰ク跡水ハ一別杳トシテ音耗ヲ絶ツ君ハ東流ノ水ノ如ク妾ハ路傍ノ花ニ似タリ金針海ニ落チテ出ツルニ期ナク消息通セント欲シテ終ニ由ナシ唯日夜竊ニ郎君ノ綏履ヲ祈リシノミト衆散士ノ蘇生ヲ見テ皆喜ヲ陳ヘ罪ヲ謝シテ別房ニ入リ去ル散士身ヲ寢床ニ起シ幽蘭ヲ慰メテ曰ク別來極メテ令孃ノ良苦ヲ知ル往年新紙令孃此地ニ曉鶯女史ノ高節ヲ抗ルヲ報ス祇其詳狀ヲ知ルニ由ナシ既ニシテ埃軍敗衂ノ報アリ心愈ミ安カラス而シテ令孃善ク身ヲ旗影劍光ノ裏ニ翻シ生ヲ砲煙彈雨ノ間ニ全ウス天ノ善人ニ報施スル偶然ニ非スト謂フヘシ想フニ叢君モ亦萬福ヲ此ニ共ニセンカト幽蘭漸ク頭ヲ擡ケテ曰ク老父今大漠千里ノ外ニ驅馳ス未タ其死生ヲ知ル能ハス唯妾獨リ身ヲ叢刃ノ中ニ脫シテ纔ニ玆ニ竄匿スルノミ抑ミ郎君何ヲ以テ能ク妾ヲ此孤島ニ顧ミルヤ恍トシテ夢ノ如シト散士曰ク僕米ヲ辭シテ郷ニ還リ寤寐佳人ヲ懷ウテ忘ル丶能ハス暫ク身ヲ刀筆ノ吏ニ託シ令孃ノ跡ヲ探リテ以テ衷情ヲ表セント欲シ此國ニ入ルノ日令孃ヲ汽車ニ疑ヒ尺素ニ疑ヒ終ニ暗討シテ此ニ至ル豈月下ノ彩繍僕カ足ヲ繋キテ之ヲ牽クニ非サルカト幽蘭悲喜交ミ集リテ語ナキモノ之ヲ久ウス漸クニシテ容ヲ收メテ曰ク嚮キニ埃軍ノ跡留簡流計米ヘ留ニ大戰スルヤ老父阿武跡流侯ヲ右ケ慓悍ノ黑兵ヲ以テ遊擊軍ヲ編成シ戰方ニ酣ナルニ乘シテ橫ニ英ノ中堅ヲ衝ク英軍爲メニ動亂ス忽チニシテ英ノ援軍大ニ加ハリ一齊ニ我軍ヲ猛擊ス陣中報スルモノアリ我中軍既ニ敗ルト卽チ使ヲ侯ニ馳セテ曰ク大勢已ニ去ル侯宜シク早ク走ルヘシ僕請フ殿戰セント兵ヲ收テ且ツ戰ヒ且ツ退ク英軍我頑抗ヲ觀テ敢テ追躡セス是ニ於テ卒伍ヲ全ウシテ海樓府ニ達スルヲ得タリ老父亞刺飛侯ヲ見テ曰ク僕嚮キニ元帥ノ知遇ニ感シ身ヲ元帥ニ捧ケテ死ヲ自由ニ許セリ今全軍悉ク潰ニ此ニ再ビ元帥ヲ見ルモノハ前議ヲ進メント欲スルニ在リ抑ミ僕往者交鋒ノ不利ヲ說キ灘江ノ上流蘇舟ノ地ニ據リ土蠻ヲ招納シテ曠日彌久ノ計ヲ運ラシ戰ハスシテ敵ヲ屈セシメント欲ス然レトモ今前議ヲ復スル已ニ晩シ唯疲散ノ卒ヲ驅ラハ猶數萬ヲ得ン之ヲ統率シテ以テ耐久ノ策ヲ立テハ四方勤王ノ師風ヲ望ミ雲集スルナカランヤ然ラハ則チ國家克復ノ途豈此一戰ニ窮マルト謂ハンヤト時ニ國王英艦ニ投シ亞刺飛侯ヲ征討スルノ敕ヲ傳フ是ニ於テ軍氣沮喪異論沸騰亞刺飛侯モ亦大決斷ヲ下ス能ハス遂ニ降ヲ議ス阿武跡流侯憤然亞刺飛ヲ罵テ曰ク天下ノ事豎子ノ爲メニ誤ラルト刀ヲ引テ自殺ス老父亦其成ス可カラザルヲ見テ部下ノ殘卒ヲ率キ告ケスシテ大漠ノ外ニ赴ク當時妾海樓府ノ病院ニアリ老父來リ語ルニ遠征ノ情ヲ以テス且ツ曰ク余歲已ニ七十豈面縛シテ歐人ニ對スルニ忍ヒンヤ聞ク僞聖魔治ナルモノ土蠻三十萬ニ將トシ自由軍ヲ起スト余之ヲ扶ケテ一快戰セント欲スルナリト妾偕ニ與ニ隨ハント乞フ老父慰諭シテ曰ク夫レ蘇丹ハ此ヲ距ル八千里中ニ大沙漠ノ險アリ婦人ノ能ク到ルヘキ所ニ非ス且ツ土蠻ノ嘯聚スル所鬼魅ノ盤屯スル所安ソ汝ヲ異類ニ投シテ慘死セシメ汝カ骨ヲ韓澤沙漠ノ裏ニ棄ツルニ忍ヒンヤ幸ニシテ恙ナキヲ得ルモ亦且ツ余カ累ヲナスニ過キサルノミ若カス汝ハ此地ヲ遁レ姑ク費府ニ歸リ徐ニ余カ動靜ヲ觀ンニハ唯此地ヲ遁レント欲セハ宜シク歐軍ニ投スヘシ埃人ハ殘暴ナリ

變亂ニ乘シテ凌辱ヲ加ヘント時ニ士卒頻ニ來リテ老父ヲ促ス曰ク密謀頗ル露泄スルニ似タリ早ク去ラサレハ大患アラント老父決然自愛ノ一語ヲ留メ顧ミスシテ去ル妾追ウテ門外ニ至レハ跡塵煙ノ如ク須臾ニシテ杳然影ヲ沒ス父子生別ノ感愴語辭ノ能ク盡ス所ナランヤ既ニシテ妾別ヲ創傷者ニ告ケ匆匆病院ヲ出テントス創病者別ヲ惜ミ皆淚ヲ揮フ妾棄テ去ルニ忍ヒス慰撫遷延ノ間闔院騷然叫喊ノ聲耳ニ徹シ亂徒數百前門ヨリ闖入ス妾驚キテ屋後ニ出ツレハ亂徒ノ首魁追ヒ來リテ妾ヲ縛ス妾覺エス叫ヒテ曰ク願ハクハ創病者ヲ苦ムル勿レト妾死ヲ決シテ默然其所爲ニ任ス衆敢テ非禮ヲ加ヘス然レトモ妾已ニ老父ニ棄テラレ更ニ囹圄ニ投セラル悲憤何ソ禁ヘン然レトモ亦自ラ謂ラク此國ノ法官ハ歐人其半ニ過ク裁判權ハ埃人ノ有ニ非ス故ニ正理ヲ法廷ニ辯セハ身ヲ救フノ望猶アリト後三日獄卒妾ヲ護シテ門外ノ一家ニ到リ主人ヲ禮シテ妾ヲ授ク主人窮ラ索ヲ執リ妾ヲ牽キテ暗室ニ入ル主人相貌獰惡衣冠華麗稍ミ英語ヲ解ス妾ヲ詰問シテ曰ク汝カ父何クニ之ク汝必ス之ヲ知ラント妾答ヘテ曰ク此處法廷ニ非ス貴下法官ニ非ス而シテ無辜ノ歐洲婦人ヲ暗室ノ裡ニ詰責スルトハ何ソヤ妾ニシテモ若シ罪アラハ法廷ニ爭ハンノミト主人聲ヲ勵マシテ曰ク汝カ父大罪アリ今其蹤跡ヲ晦マス故ニ汝ヲ囚ヘテ質トナスノミト戸ヲ鎖シテ去ル妾其不法ヲ憤レトモ亦奈何トモスル能ハス而シテ法廷ニ辯スルノ望既ニ絶ユ妾カ悲果シテ如何ソヤ爾來朝夕僅ニ羊乳ト殘菜トヲ投與スルニ過キス窓戸深ク鎖シテ日光ノ漏ルルナク言語通セス書籍繙クニ由ナク世事隔絶殆ト幽鬼ノ如ク氣結ヒ心鬱シ日永キ年ノ如シ此ノ如キモノ二旬馬車ニ駕シテ一大城邸ノ後門ニ送ラル車ヲ下リ小門ニ入レハ臺榭ノ華麗苑囿ノ壯宏問ハスシテ貴人ノ邸宅ナルヲ知ル門卒妾ヲ一小房ニ入レ鑰ヲ施シテ去ル之ヲ久ウシテ一貴人來リ聲ヲ和ゲテ曰ク貴孃乃父ノ爲メニ寃枉ヲ蒙フリ殆ト死ニ瀕ス今ヤ恩旨アリ命ヲ救ヒ歡樂ヲ與ヘントス唯貴孃其恩命ニ違背スル勿レト既ニシテ食ヲ薦メ浴ヲ命シ衣裳ヲ賜フ對遇ノ頓ニ變スル怪ムヘシト雖トモ房新ニシテ泉石花木ノ目ヲ娛マシムルアリ心身頗ル暢然タリ此夕貴人又來リテ曰ク貴孃安適ナルヤ否ヤト妾曰ク幸ニ厚待ヲ蒙フリ神心舊ニ復スルヲ覺ユト貴人曰ク是レ皆王子ノ賜ナリ王子年壯ニシテ情濃ナリ國中ニ令シテ美人ヲ求ム未タ意ニ適スルモノアラス曩ニ貴孃ノ病營ニアルヤ才色雙美ノ譽中外ニ喧シ王子乃チ戀慕ノ情ニ堪ヘス然レトモ孃ノ嚴父ヲ憚リテ敢テ發セス僕嘗テ之ヲ識ル故ニ貴孃カ死ヲ救ヒテ王子ニ獻センコトヲ密奏ス王子歡悅僕ニ命シテ速ニ此宮中ニ移サシメ將ニ納レテ左右ニ侍ラシメ偕老ノ契ヲ結ヒ寵姬ノ上ニ置カントス僕亦之レカ爲メニ顯要ノ地位ヲ得タリ是レ實ニ貴孃ノ賜ト謂フヘシ敢テ謝セスンハアラス今夜王子宴ヲ宮中ニ張ル宜シク行キテ王子ヲ拜シ恩ヲ御前ニ謝スヘシト妾始メテ術中ニ陷リタルヲ知リ憤恨已マス默然多時徐ニ答ヘテ曰ク妾既ニ所天アリ邪蘇教ヲ奉シテ一夫一婦ノ教ヲ守ル王子ノ恩ハ深ク感佩スト雖トモ左右ニ侍スルコトハ辭セサルヲ得ス豈教理ニ悖リ良心ヲ欺キ王子ヲシテ姦淫ノ罪ヲ犯サシムルニ忍ヒンヤ願ハクハ之ヲ以テ王子ニ謝セヨト貴人笑テ曰ク歐俗外面貞淑ヲ裝ヒ裏面ハ却テ妖淫ヲ事ニス所天アルモノ何ソ情人ナカランヤ王子眞ニ貴女ヲ憐ミ眞ニ貴孃ヲ愛ス終身幽囚ノ罪ヲ救ヒテ之ヲ瓊宮瑤臺ノ上ニ處キ錦衣玉食花月ノ筵ニ携ヘ歡娛ヲ百年ニ偕ニセントス何ソ榮悴ヲ較セスシテ唯教理ヲ執拗スルヤ貴孃若シ王子ノ意ニ戾ラハ再ヒ牢獄ニ投セラレテ徒ニ餓死ニ終ラン耳亦愚ナラスヤト妾決然答ヘテ曰ク妾ハ一夫一婦ノ眞理ヲ知ル苟モ道ヲ直

クシ節ヲ達セハ水火モ避ケス況ンヤ牢獄ヲヤ況ヤ死ヲヤ豈一時苦痛ヲ免レンカ為メニ貞操ヲ破リ聖誡ニ反キ永世天ノ罪人ト為ルニ忍ヒンヤ且妾ハ身ニ犯スノ罪ナシ而シテ妾ヲ私室ニ監禁シテ人ノ自由ヲ奪フ埃人ノ無道ナル何ソ其甚タシキヤ假シ夫レ果シテ罪アランカ宜ク法廷ニ公判シテ刑條ヲ明ニスヘキノミト貴人此言ヲ聞キ怒氣顔色ニ顯ハル徐ニ曰ク貴孃罪ナシト雖トモ父ノ為メニ之ヲ質トス何ソ質ヲシテ遄ニ死セシム可ケンヤ長苦ト永楽ト孰レカ其擇フ所ソ今貴孃心激ス靜慮之ヲ決セヨト又篇ヲ施シテ去ル其後優待舊ニ倍ス而シテ彼來リ説クコト虚日ナク他人ヲシテ説カシムルコト亦幾回ナルヲ知ラス然レトモ妾ハ唯節ヲ全クシ義ヲ重シ堅ク鞏固ヲ持シテ面常ニ壁ニ對ス閔ニ遭フ既ニ多ク侮ヲ受クル少カラス曩ニ鴆毒ニ遭ヒ屢ミ殆經セント欲ス而レトモ猶究轉生ヲ偸ミ荏苒病ヲ獲遂ニ威嚇ト甘言トニ驚動セス以テ數月ヲ鬱鬱ノ中ニ閲セリ一夜王子一老女ヲ從ヘ自ラ妾ガ閨房ニ來リ慰メテ曰ク聞ク貴孃久シク病ニ染ムト少シク間ナルヤ否ヤ寡人ノ心情ハ早ク既ニ之ヲ知ラン君ヲ懐ウテ眠食共ニ廢シ百骸共ニ枯ル昔カ一夜ノ雨露ハ瀟江清灣ノ恩ニ勝ラン且ツ貴孃嚢キニ人ニ語ルニ所天アルヲ以テス然レトモ寡人嘗テ之ヲ貴孃ノ侍女ニ聞ク曰ク娘子所天アラスト西教ヲ奉スルモノハ人ヲ欺キ詐言ヲ神前ニ誓フヤ否ヤト或ハ慰諭シ或ハ脅赫ス妾素ヨリ一死ヲ期ス故ニ默シテ一語ヲ發セス王子乃チ大ニ怒リテ曰ク王汝カ父蘇丹ニ於テ我軍ニ擒獲セラル汝快ク寡人ニ許サハ父ノ死ヲ宥メン若シ猶肯セスンハ父ハ刑場一片ノ露ト消センノミト妾時ニ數月囹圄ノ中ニ在リ復タ世事ヲ知ラス日夜老父ヲ懐フノ餘此言ヲ聞キテ心神昏亂殆ト絶エントス王子之ヲ見テ色ヲ和ゲ明夜ヲ期シテ去ル妾之ヲ目送シ涕涙雨ノ如ク泣テ鶏鳴ニ到ル適ミ戸ヲ推シテ入リ來ルモノアリ妾意ラク王子ノ迫リ辱ルナリト猛然蹶起燈下ニ之ヲ諦視スレハ前ニ王子ト來リシ老女ナリ手ヲ揮テ妾ヲ坐セシメ靜ニ耳語シテ曰ク老婦ハ青宮ニ奉仕シ衆嬪ヲ監スルモノナリ又夙ニ聖教ヲ奉スルモノナリ嘗テ令孃カ妙齢ノ姿ヲ以テ異郷ノ傷者ヲ看護スルヲ聞キ感嘆措ク能ハス而シテ今夜王子ニ從ヒテ高潔ノ志ヲ聽キ妍麗ノ顔ヲ拜スルニ及ヒ敬慕ノ情禁スル能ハス豈微瑕ナキノ明玉ヲシテ空ク瓦石ト共ニ碎ケシムルニ忍ヒンヤ茲ニ一臂ノ力ヲ添ヘ令孃ノ厄ヲ救ハント欲ス願クハ微衷ヲ疑フ勿レ令孃ヲ救フハ亦是レ天ニ事フルナリト眞情色ニ露ハレ聲涙共ニ下ル妾危坐シテ謝シテ曰ク貴婦ノ眞情肝ニ銘シテ忘レス然リト雖トモ身ハ籠中ノ鳥タリ生ヲ偸ミテ辱ヲ見ンヨリハ寧ロ死シテ道義ノ鬼トナリ天上ニ趣キ神前ニ訴ヘンニハ若カス古今薄命ノ者豈獨リ妾ノミナラシヤト老婦曰ク王子令孃ヲ見テヨリ愛慕ノ心火熾クカ如シ其情願ヲ遂ケサレハ令孃死セント欲シテ死スル能ハス遂ニ身ヲ汚スノ厄運ニ遇ハン是レ老婦ノ危險ヲ顧ミス教法ノ為メ烈女ノ為メ力ヲ盡サント欲シテ來ル所以ナリ事急ナリ今宵ヲ保タス早ク衣服ヲ換ヘ砌石ヲ渡リ小門ヲ出テ芭蕉林下ニ潜ミテ以テ時ノ到ルヲ待テ今曉寺院ノ大祭アリ八點鐘ニ至ラハ宮門ノ人馬絡繹セン令孃此群衆ニ混シ城門ヲ出テ大街ヲ歩シ十字街金塔ノ大寺ニ趣キ南隅ノ第三柱ニ倚リテ祈禱セヨ老婦ノ親家擲朶島ニアリ厚ク西教ヲ信シテ頗ル義氣ニ富ム妾人ヲ遣シテ令孃ヲ迎ヘシメン其家ノ女兒嘗テ病院ニアリ願フニ令孃ヲ識ラント妾泣テ謝シテ曰ク妾此宮中ヲ出ツレハ老父ノ命ヲ斷ツヲ如何セント婦笑テ曰ク噫是レ王子ノ脅嚇詐言ノミ心ヲ勞スル勿レト乃チ一襲ノ衣裳ヲ與ヘ起チテ顧ミテ曰ク若シ跡露ハレ事破レハ令孃ト共ニ天上ニ趣カンノミト妾ハ彼ノ老婦ノ義心ニヨリテ遂ニ危難ヲ此家ニ避ケ餘命ヲ今日ニ保ツヲ得タリ唯王子大ニ妾ノ

遁逃ヲ怒リ言ヲ老父ノ質ニ託シ國中ニ物色シテ妾ヲ探索スルコト太ク嚴ナリ近時偵察稍弛ムニ及ヒ竊ニ蹄留猶流計米留ニ赴キ戰死者ノ忠魂ヲ弔ス時ニ汽車窓中髣髴郎君ヲ瞥見ス然レトモ瞬間東西ニ別レテ遂ニ諦視スルノ暇ヲ得ス惘然迷想漫ニ期ス可カラサルノ望ヲ妄討シ遂ニ尺素ヲ家人ニ託スルニ至ル而モ事固ヨリ必シ難ク事端或ハ大事ヲ挑發スルナキヲ保セス故ニ勉メテ其言辭ヲ曚昧ニス故ニ今宵郎君ノ庭中ニ入ルヤ家人誤テ王子ノ探偵トナシ暗殺シテ灘江ニ投シ以テ證跡ヲ滅セントセリト吁危哉郎



魔治夏東夢城ヲ望ムノ圖

(原本插畫)

君請フ幸ニ宥恕セヨト散士曰ク既ニ令孃ノ生ヲ全スルヲ見ル僕何ソ辭セン唯令孃ノ爲メニ妬マント欲シテ妬ム可カラス賀セント欲シテ賀スル能ハサルモノアリ令孃ノ既ニ所天アルコト是ナリ幽蘭曰ク蹄水ノ別ニ臨ミ妾一朶ノ花ヲ以テ郎君ニ託ス曰ク此花凋殘スト雖トモ相棄テ去ル勿レト郎君答ヘテ曰ク凋萎空シク殘リ花神飛テ誰カ家ニ向ハント妾頭ヲ掉テ之ニ應ス今ヤ妾沙漠ニ飄零シ獄裏ニ呻吟シ迷暗重閉隱匿ノ危界ニ沈淪シ而シテ今郎君ニ遇フ郎君妾ヲ飜弄スル一ニ何ソ此極ニ至ルヤト兩人相見テ笑ヲ含ム幽蘭語ヲ續テ曰ク老父去テ後常ニ妾カ身ヲ憂念シ曩ニ密ニ腹心ノ人ヲシテ還リテ妾カ動靜ヲ視セシム妾倖ニ其人ニ遭ヒ頗ル老父ノ近狀ヲ詳ニスルヲ得タリ老父ハ殘卒ヲ率キテ灘江ヲ溯ルヤ陸行ニハ炎風面ヲ烘キ熱砂脛ヲ焦シ乳虎嵎ニ嘯キ餓獅洞ニ吼エ舟行ニハ飛爆檣ヲ摧キ盤渦舵ヲ折リ黿鼉出沒蛟鱷踴躍或ハ土寇ノ輜重ヲ襲フアリ或ハ凶蠻ノ前路ヲ遮ルアリ其艱苦眞ニ名狀ス可カラス而シテ遂ニ千里蘇丹ニ達シ僞聖魔治ヲ見ル魔治ハ黑人ナリ然レトモ自主獨立ヲ重シ能ク蚩蚩ノ蠻族ヲ糾合ス衆蠻之ヲ敬スル神ノ如シ唯天神ノ宣託ヲ主トシ行動皆鬼神ニ聽ク且ツ蠻習ヲ墨守シテ兵ヲ用ユル動モスレハ歐洲兵家ノ禁忌ヲ犯スヲ免レス老父乃チ諄諄焉致誨スル所多シ魔治大ニ喜ヒ延キテ帷幄ニ參畫セシム是時ニ當リ魔治ノ一軍英ノ名將豪流電ヲ夏東夢城ニ圍ム老父書ヲ城上ニ射テ降ヲ勸ム其書ニ曰ク

側ニ聞ク自由ノ民ハ自由ノ爲メニ元ヲ喪フヲ忘レス俠勇ノ士ハ無名ノ干戈ニ馳驅スルヲ恥ツト向キニ將軍ノ孤劍ニ杖リ孤兵ヲ提ケ炎風ヲ冒シ熱沙ヲ蹴リ來リテ夏東夢ヲ援フ將軍ノ俠勇義氣天下皆驚ケリ然レトモ將軍。故國ヲ辭スルノ後英國ノ公論ハ事實ノ眞相ト共ニ動クヲ奈何セン大宰相虞剌怒須屯議院ニ公言シテ曰ク蘇丹ノ民ハ誅求無饜ノ虐政ニ抗シテ自由ノ反旗ヲ飜セシノミ豈他志アランヤト此老偉人ノ言ハ將軍ノ常ニ敬仰シテ拳拳服膺スル所ナリ而シテ將軍獨リ英國ノ公論ニ背キ無名ノ兵ニ將トシテ自由正ヲ踏ミ獨立義ニ據ルノ民ト爭フ私ニ將軍ノ平生ニ於テ取ラサル所ナリ嗚呼將軍將タ誰カ爲メニ孤城ヲ固守シ誰カ爲メニ節義ヲ全ウセント欲スルヤ抑ミ將軍往年清朝ノ難ニ赴キ常勝軍ニ將トシテ清國ヲ傾覆敗殘ノ餘ニ救フ其俠勇ト功業ト天下ノ與ニ欽羨措カサル所然レトモ僕ヲ以テ其跡ヲ見レ

ハ事或ハ然ラサルモノアリ初メ明ノ遺臣清朝ノ虐政ヲ鳴ラシ邪教ヲ棄テ西教ヲ奉シ義ヲ唱ヘ兵ヲ擧クルヤ是レ決シテ草賊民ヲ虐シテ利ヲ圖ルモノニアラス將軍若シ其俠勇ヲ奮ヒテ金陵ノ兵ヲ助ケハ必ス清ノ苛政ヲ除キ赤子ノ倒懸ヲ解キ大刷新ノ改革ヲ斷行シ鴉片ノ茶毒ヲ禁絶スルニ至ル亦庶幾スヘシ而シテ將軍反テ天ヲ助ケテ虐ヲ作スノ行爲ニ效フハ何ソヤ既往ハ追ハス逐事ハ說クヘカラス唯今日埃及ノ形勢タルヤ國脈ノ絶エサル縷ノ如シ埃王昏亂社稷アルヲ知ラス反テ戈ヲ倒ニシテ忠臣義士ヲ滅絶セントス是レ義氣アル者ノ長歎スル所ニ非スヤ且ツ魔治芒芒昧昧ノ變種ニ過キスト雖トモ元ト氣ヲ同ウス況ヤ經典ニ精通シ清廉克己貴賤ヲ慶シ服制ヲ一ニシテ淫酗ヲ禁シ苛政ヲ除キ以テ百姓ヲ何メテ其地ヲ井牧レ賦税ニ供セントス之ヲ埃ノ狂猖歐ノ跳梁ニ比セハ果シテ如何而シテ將軍獨リ埃王ヲ扶ケテ萬里ニ奔命ス僕切ニ將軍ノ爲メニ之ヲ惜ム夫レ內ニ一定ノ操アリ而シテ外能ク詘伸贏縮シテ卷舒物ト推移ス故ニ萬擧シテ陷ラス蓋シ達人ニ貴フ所以ノモノハ唯其能ク龍變スルヲ以テナリ今ヤ圍城ノ中ヲ見ルニ外援兵ナク內糧饟ニ乏ク士卒日ニ傷亡シテ民反心アリ將軍請フ熟慮シテ前圖ヲ改メ門ヲ開キ車甲ヲ全ウシテ英皇ニ報スル所アレ是レ一朝ニ蠖屈シテ萬世ニ龍驤スルノ計ニ非スヤ敢テ血誠ヲ布ク書不レ盡レ言

ト

豪流電復シテ曰ク

惠書ヲ辱ウス感荷ニ堪ヘス將軍苟モ僕ノ虛名ノ信ス可カラサルヲ以テセス漫リニ僕ニ負ハシムルニ四海俠勇ノ名ヲ以テス僕駑鈍ト雖トモ豈感奮セサランヤ抑ゝ僕英皇ノ命ヲ奉シテ懸軍萬里此孤城ヲ守ル豈勢不可ナルヲ見テ降ヲ納ル、ニ忍ヒンヤ正正堂堂旗鼓相見ルハ僕ノ最モ冀フ所將軍請フ焉ヲ諒セヨ且ツ僕將軍ノ爲メニ言ハント欲スルモノアリ夫レ魔治ハ果シテ何物ソ黑蠻ノ尤冒詐ノ徒邪教ノ魁ノミ幻誑譸張敢テ蠢蚩ノ蠻族ヲ鼓扇シテ己カ鴟慾ヲ逞ウス正教ニ抗シ文明ニ敵シ開明ノ世ヲ壞シテ再ヒ暗黑世界ト爲サントスルモノナリ彼レ一朝志ヲ得ハ匈奴惡鬼羅ノ殘毒ヲ歐洲ニ再演スルヤ必セリ將軍何ノ心ソ獨リ逋播ノ臣トナリテ纔延ニ拜趨シ自ラ聖教ヲ圯リテ命ヲ猿奴ニ委シ文明ニ背キ幽暗ニ入リ醜顏命ヲ借リテ異類ノ長ニ驅使セラル、ヤ將軍猶埃國ノ自由此蠻酋ニ繫カルヘシト謂フカ將軍ノ明豈大勢已ニ去リ死灰再ヒ燃ユ可カラサルヲ知ラサランヤ若シ爝火暫ク已マサルモ部落携離シ酋豪猜貳シ僭擬幾ナラスシテ必ス自ラ燋爛シ以テ自ラ首ヲ稾街ニ懸クルヤ僕カ言ヲ俟タスシテ自ラ明ナリ將軍何言フ自由ノ爲メニ元ヲ喪フヲ忘レスト將軍何ソ腥羶ノ自由ヲ重シテ故國ノ自由ヲ輕ンシ僞聖魔治ニ厚クシテ西皇顛加羅ニ薄キ僕亦將軍ニ惑ナキ能ハス嗚呼今ヤ歐洲ハ豔陽春ヲ扇キ花開キ鳥歌ハン將軍歐人ノ旗鼓ヲ見ル豈懷ニ慨然タルナカランヤ將軍徒ニ沸鼎ノ中ニ魚游シ飛幕ノ上ニ燕巢シ苟モ一時ノ快ヲ貪ラント欲スル僕ノ取ラサル所ナリ願クハ首領ヲ全クシ故主ヲ助ケテ再ヒ義旗ヲ擧ケ功名ヲ竹帛ニ垂レヨ謹テ復ス

老父書ヲ獲テ志ノ奪フ可カラサルヲ知リ敢テ強ヒス既ニシテ城中反者アリ夏東夢陷ル老父走リテ豪流電ヲ救ヒ出サントス至レハ則チ已ニ亂軍ノ中ニ殺サル老父深ク其死ヲ悲ミ痛ク埃王ノ闇弱ニシテ空シク此名將ヲ失ヒタルヲ憤レリト云フ其後未タ信ヲ得スト散士其志老イテ益ゝ壯ニ其節窮シテ愈ゝ堅キヲ歎シテ已マス偶ゝ手ヲ擧ケテ劍ヲ摩ス指環燦光ト相映シテ

閃然幽蘭ノ目ヲ射ル幽蘭凝視シテ曰ク何ソ相似タルヤ散士曰ク何ソヤ幽蘭曰ク妾嘗テ骨數斗夫人ニ託シテ指環ヲ郎君ニ贈リシモノアリト散士曰ク令孃遠寄ノ金琅玕今ニ至ルマテ嘗テ腕ヲ離セストス幽蘭愴然トシテ曰ク指環幸ニ郎君ニ達セハ妾カ願半ハ足ル未タ知ラス紅蓮女史ト范老トノ碑ノ建設セシヤ否ヤヲ妾憶ウテ二人ノ事ニ到レハ涕泗ノ滂沱タルニ堪ヘスト愀然小詩ヲ口占ス其詩ニ曰ク

偸レ生悔作ニ籠中鳥一、惜レ死空懸衘レ節ニ人。二十春秋如レ夢過、落花殘月易レ傷レ神

ト散士曰ク令孃之ヲ安ンセヨ紅蓮女史ハ早ク蹄水ノ舊樓ニ歸リ老老ハ今淸國ニ在リト幽蘭之ヲ聞キ憮然語ナキモノ少時漸クニシテ曰ク然ラハ則チ女史ノ赤繩豈郎君ヲ纏ハサランヤ妾カ如キハ既ニ皇天ニ棄テラル山下ノ雲雲間ノ月適ミ妾カ白頭ノ吟ヲ發セシム可キノミト散士笑テ曰ク僕若シ紅蓮女史ニ故アラハ何ソ使命ヲ帶フルノ身ヲ以テ輕ミシク夜渡ノ舟ヲ奪ヒ以テ死ヲ不測ノ淵ニ冒シ水上ノ端蛾ヲ拘スルノ癡態ヲ學ハンヤ令孃請フ疑慮ヲ釋ケ初メ骨數斗夫人來訪ノ日曉鶯女史ノ埃軍中ニ在ルヲ知リ紅蓮女史ハ直ニ旅裝ヲ修メテ令孃ヲ救フノ途ニ上レリ蓋シ此土ニ來ルノ途佛國ニ王羅ノ爲メ窘メラルト云フ其詳ヲ知ルニ由ナキノミ范老ト香港ニ再會シ舟ヲ同クシテ手ヲ西貢ニ分ツ僕語ルニ令孃建碑ノ事ヲ以テス范老泣テ其誠ニ感ス矍鑠舊ノ如シト幽蘭喜ヒテ曰ク兩友世ニ在ル少シク妾ノ悲ヲ薄ウスルニ足ル然リト雖トモ妾カ今日ノ境遇何ノ日ニカ兩友ヲ見テ快心ノ事ヲ語ルヲ得ント散士曰ク令孃請フ自ラ慰メヨ夫レ天道ハ還ルヲ好ム紅蓮女史范老ノ如キ既ニ死セリト爲スモノ未タ死セス令孃亦數ゝ九死ニ瀕シテ遂ニ生キ乃チ今宵ノ奇遇アリ皇天冥冥ノ中ニ於テ令孃ノ枕ヲ棄テ眷祐已ムナシ古人謂ハスヤ情ヲ懷キ質ヲ抱ケハ天モ殺ス能ハス地モ薙ムル能ハスト故ニ世治マレハ義ヲ以テ身ヲ衞リ世亂ルヽハ身ヲ以テ義ヲ守ル死スルノ日ハ行ノ終ナリ凡ソ天ノ大任ヲ此人ニ降サントスルヤ必ス先ツ其心思ヲ苦シメ其筋骨ヲ勞シ其體膚ヲ餓シ其身ヲ空乏ニシ行其爲ス所ニ拂亂ス心ヲ動シ性ヲ忍ヒ其能クセサル所ヲ增益スル所以ナリ故ニ曰ク艱難汝ヲ玉ニスト今ヤ皇兄愛加羅ハ瑞西ニアリ現西班牙王ハ病肺腑ヲ冒シ天壽長カラサラントス騎馬島ノ如キハ米人ノ風ヲ受ケ又不屈自由ノ民タラントス久シカラスシテ必ス獨立ノ旗ヲ飜サン令孃何ソ自ラ奮ハサル僕官命ノ身ヲ縛スルナルナクンハ何爲ソ令孃ヲ救ヒテ倶ニ歐洲ニ赴カサランヤ千恨萬憾唯此一事ニ在リ今僕カ身邊ノ物ヲ以テ悉ク令孃ニ贈リ敢テ行資ニ供セント欲ス願クハ以テ微衷ヲ諒セヨ令孃早ク機ヲ伺ヒ費府ニ遁レ徐ニ時ノ至ルヲ俟テ天道ノ報施アル必ス快ク手ヲ執ルノ日アラント幽蘭急ニ尺素ヲ認メ緘封シ笑テ散士ニ託シテ曰ク郎君之ヲ保シ難之ヲ變シ必ス紅蓮女史ニ贈レト時ニ宿鴉樓ヲ出テ雞鳴曉ヲ報シ東天漸ク紅ナラントス

佳人之奇遇 七編

佳人之奇遇 巻十三

散士歐洲各都ヲ歷遊シ其文物典章ヲ周覽シ將ニ多惱河ヲ下リ何都佛陀ヲ經テ馬留關ノ形勢ヲ巡視セントス當時土耳其希臘互ニ兵ヲ境上ニ屯シ腥風血雨將ニ地ヲ捲テ起ラントシ勃牙利亞國主歷山王ハ露國ノ陰謀脅迫ニ窘メラレ憂憤位ヲ棄テテ故鄕獨逸ニ歸ル正ニ是レ馬留關多事ノ秋ナリ時方ニ初秋淒淒タル楊柳垂レテ藍水ニ浴シ汎汎タル鳧鷗群ヲ爲シテ漣波ニ戲フル顧ミテ岸上ヲ仰ケハ和驪剌夢ノ古戰場倚其墟址殘壘ヲ留メ坐ニ散士ヲシテ拿破崙ノ雄圖ヲ追懷セシム舷ニ倚リ多惱河ノ汪洋浩蕩タルニ對シテ兩岸ノ風色ヲ賞シ惡鬼羅ノ殘壘ヲ慨シ削棠倫ノ衞守ヲ傷ミ行極樂城下ヲ過ク海南將軍詩アリ曰ク

火船如矢破空明。兩岸蜂蝶去又迎。極樂城荒歌舞絕。滿山依舊作秋聲。

且ツ散士ニ語リテ曰ク是レ豈舊時豪者ヲ極メシ所ニアラスヤ今ヤ廢頹數百年ロ碑徒ニ存シテ極樂ハ唯其名ノミ嗚呼驕者必滅古今東西其揆一ナリト散士卽チ韻ヲ次シテ曰ク

人事觀來幽復明。榮枯得失互相迎。當年極樂今何處。殘月空城牧馬聲。

吟咏唱和未タ央ナラス船何都ニ達ス此夕散士風土ノ疾ニ感ス後旬日何都ヨリ馬留關ニ入ラントス會ミ惡疫流行道路梗塞ス卽チ恨ヲ呑テ墺都ニ還ル時ニ報アリ日東ヨリス曰ク金玉均遠島ニ謫セラル有爲ノ將官罷免セラレ條約改正ノ事業日ニ非ニ擧國歐風ニ迷醉スト前途ヲ想像シ感慨ニ堪ヘス詩ヲ賦シテ海南將軍ノ病ヲ加兒斯馬都ノ浴場ニ養フニ贈ル曰ク

庭前蟋蟀泣高秋。回首壯遊跡旣悠。拭去無量慷慨淚。南冥垂釣亦風流。

ト將軍復書シテ曰ク此詩識ヲ爲スモ亦知ル可カラス唯歸朝ノ日滿腔ノ誠ヲ盡シ狂瀾ヲ既ニ頽ルニ回サンノミ噫條約改正ヲ如何セン歐化ノ浸染ヲ如何セント書尾ニ詩アリ中ニ好與佳人携手去欲遊天上自由鄕ノ句アリ此歲杪散士病全ク癒ユ乃チ波蘭ノ舊都ニ遊ハント欲シ行テ北露ノ國境ニ臨ム關吏肆然文書ヲ鴉塗シ我新紙ヲ沒收ス曰ク邪說橫議ヲ禁スルノミト其恣橫驚クヘシ既ニシテ波都ニ入ル宮城ハ敵ノ軍營ニ化シ政廳ハ警吏ノ屯所ニ變シ雄圖ノ古墟義人節士ノ墳墓徒ニ麥秀黍離ノ感ヲ牽クノミ悵然トシテ久シク留マルニ忍ヒス汽車ニ乘シ黑海ノ都府淤鐵沙ニ到ラントス一夕朔風凜烈飛雪空ヲ罩ム乍チ窓外喧囂征馬悲鳴スルヲ聞ク戶ヲ排シテ之ヲ視ヘハ壯者ハ鐵枷ニ縲ラレ婦女ハ縲紲ニ絆サレ或ハ嬰兒ヲ懷クアリ或ハ病羸歩ニ堪ヘサルアリ無慮五十餘人無情ノ鐵騎獰惡ノ警吏其前後ヲ擁シ或ハ鞭チ或ハ蹴リ叱咤シテ之ヲ風雪ノ中ニ驅ル蹣跚艱歩ノ狀眞ニ觀ルニ忍ヒス散士竦然髮豎チ之ヲ傍人ニ問フ傍人額ヲ蹙メテ曰ク是レ虛無黨ノ嫌疑ヲ以ア遠ク東方ニ放謫セラレ終天不歸ノ邊境ニ沈淪スルモノナリト群中一婦人七八歲ノ幼兒ヲ攜フルモノアリ散士菓麪ヲ新紙ニ裹ミ隙ニ乘シテ其前ニ投ス幼兒之ヲ覺リ竊ニ拾ウテ滿面喜ヲ含ム其母天ヲ仰クニ託シ斜ニ散士ヲ見テ感謝ノ意ヲ表ス顧眄一晌盎然眞情ヲ雙眸ニ鍾ム其狀ノ憐ムヘキ今ニ至リテ懷ニ忘ル、能ハス知ラス此母子今能ク餘命ヲ東方亞細亞ニ繫クヲ得ルカ途上ノ寒飢ニ堪ヘスシテ遂ニ空ク斃レタルカ

淤鐵沙ハ露人嘗テ遷都ヲ議セシ所ナリ規畫井
然街衢縱横煥乎トシテ新世界ニ入ルカ如シ閑
ニ乗シテ公園ノ丘上ニ登臨ス一士人ノ徘徊スル
アリ來リ揖シテ誰何ス散士答フルニ東海ノ游子
ヲ以テス士人一石ヲ指シテ曰ク貴客此石ヲ知ル
ヤト散士曰ク知ラス士人即チ說テ曰ク往年一警
視長アリ先帝ノ暴ヲ助ケ暴虐ノ横政ニ狂奔ス妙
齡ノ一少女之ヲ慨シ身ヲ棄テ萬人ノ患ヲ救ハ
ント欲シ自由ノ白刃ヲ揮テ之ヲ此石上ニ斃セリ
是レヨリ此石其芳名ヲ揚ク今吾子虛無黨ノ淵叢
タル茲土ニ遊ヒ表ニ太平安康ノ狀ヲ觀テ虛無黨
ナルモノ果シテ何クニ在ルヤヲ疑ハン然レトモ
帝王ノ側宮府ノ內軍營ノ間市井ノ裏斯氣磅礴蟠
蜒シテ鬱積セサル所ナシ今帝ニシテ自由ヲ與ヘ
サレハ復タ先帝ノ墓ヲ討ネンノミ一夫死ヲ出セ
ハ萬乗輕カラス豈禍ヲ懼レ階端ヲ憚ランヤト散
士耳語シテ曰ク吾子ハ虛無黨ノ流亞カト其人
頭ヲ掉テ曰ク否予ハ露國報國ノ士ナリ苛虐專
横ノ政弊ヲ惡ミ自由公議ノ善政ヲ建テント欲ス
ルノミ今ヤ立憲自由ノ風潮日ニ瀰漫シ漸ク其勢
力ヲ張ル故ニ國內早晚紛擾ヲ致スヤ必セリ蓋シ
露國ノ病ハ外ニ非スシテ內ニ在リト遂ニ去テ之
ク所ヲ知ラス
露船ニ乗シ黑海ニ浮ヒ將ニ君士坦丁堡ニ入ラン
トス漸ク海峽ニ近ツキ首ヲ擧ケテ兩岸ヲ望メ
ハ砲臺丘陵ノ如ク叢樹雲烟ノ如シ鋭意露ノ南下
ニ備フルヤ知ルヘシ露ノ一士之ヲ見テ冷然遙ニ
君府ヲ指シテ曰ク君府ハ實ニ歐亞ノ關鑰世界ノ
咽喉ナリ此關鑰ヲ司リ此咽喉ヲ扼セハ以テ五洲
ニ霸タルヘシ峽中ノ水幾百尺一葦抗ルヘク呼ヘ
ハ將ニ譍ヘントス而シテ深涵瀇瀁潮汐ノ干滿ナ
ク金角灣頭優ニ船艦千隻ヲ繋クニ足ル況ヤ四圍
ノ山丘風浪ノ虞ヲ絶チ氣候中和ニシテ堅氷ノ船
艦ヲ封鎖スルナク炎熱ノ鐵塗ヲ銷鑠スルナク東
ハ亞細亞ヲ控ヘ西ハ歐洲ヲ扼シ南ハ亞弗利加ヲ
拒キ北ハ黑海ヲ抱ク實ニ宇內中心ノ金城湯池世
界帝王ノ必ス當ニ居ルヘキ處タリ惜矣哉百年永
ク邪宗回回教主ヲシテ猥リニ茲ニ君長タラシ
メ以テ此靈域ヲ汚スコト然レトモ我神聖仁慈ナ
ル十字架ヲ彼ノ七丘第一ノ宗比耶寺院ノ塔上ニ
建テ蠢爾タル千百萬ノ生靈ヲ救濟シ我英武威烈
ナル露帝ノ玉座ヲ茲ニ移シ以テ此可憐ノ衆民ヲ
シテ未來ニ現在ノ永苦ヲ脫離セシムルコト當ニ
遠キニアラサルヘシ咄彼ノ守兵何者ソ露帝一タ
ヒ茲土ニ照臨セハ全歐連合我ニ當ルモ復タ懼ル
ルニ足ラサルナリト語氣鬱勃傍ニ人ナキカ若シ
既ニシテ散士ヲ顧ミテ曰ク敝邦貴國ト隣ヲ爲シ
親交比ナシ又未タ嘗テ一諍議ヲ開キ一感情ヲ損
セシコトアラス唯彼淸國ノ近狀突厥ニ類スルモ
ノアリ貴國豈意ナキカ敝邦亦思フ所ナクンハア
ラスト散士答ヘテ曰ク貴國ノ東方亞細亞ヲ經略
スル實ニ我東方ノ君臣ヲシテ危懼ノ念ヲ増サシ
ムルモノ多シ豈今日善隣ノ友義ハ異日變シテ兩
國烽火ヲ觀砲雷東洋ニ轟クノ惡緣タルナキヲ知
ランヤ蓋シ其責貴國ノ東方諸國ニ對スル擧動ノ
如何ニアルノミ貴下幸ニ諒セヨト士曰ク嗚呼是
レ弊邦ノ眞意ヲ誤ルモノノミ弊邦領土已ニ業ニ
廣大ニ過ク奚ソ更ニ無用ノ土壤ヲ東方ニ貪リテ
以テ煩累ヲ重ヌルノ愚ヲ爲サンヤ且ツ古往今來
宇內ヲ一統シ世界ノ帝王タラント欲シ百萬ノ虎
狼ヲ叱咤シテ人ノ領土ヲ蹂躙スルモノ何ソ限ラ
ン而シテ未タ嘗テ其志ヲ達セシモノアラス抑〻
宇內統一ナルモノハ一人ノ力ニ成ル可ラス必ス
國民ノ協力ニ成ル故ニ其之ヲ發揮スルヤ兵力ニ
在ラスシテ貿易ニ在リ宗教ニ在ラスシテ國語ノ
勢力ニ在リ人種ニ在ラスシテ海陸ノ權ヲ攬ルニ
在リ蓋シ今日宇內統一ノ志ヲ遂クルニ庶幾キモ
ノハ天下獨リ英人アルノミ英人ハ世界ノ利ヲ擧
ケテ之ヲ己カ嚢中ニ收メント欲ス故ニ新領土ヲ
得ルヤ宗敎禁セス道德尤メス其人ヲ制スル寛ニ
其利ヲ征スル狡ナリ所謂其肉ヲ咬ハスシテ其血
ヲ吮フモノハ是ナリ而シテ其之ヲ制御スルヤ巧ニ

海陸ノ鎖鑰ヲ握リ寛嚴其機ヲ誤ラス夫レ地球陸其一ニ居リ水其二ニ居ル故ニ世界ニ覇タラント欲セハ先ツ海上ノ主權ヲ掌握セサル可カラス英人既ニ五大洋上ノ大王タリ其宇內ニ雄視スルヤ素ヨリ其所ナリ英人ハ電線鐵路汽船ヲ利用シ全世界ノ交通機關ハ已ニ四分ノ三ヲ占ム且ツ其土必ス要扼ニ據リ攻守ノ形勢ニ便ナリ紛然蛛網ラ地球全面ニ施張シテ秩然一絲ヲ紊サス漸ヲ以テ相連絡シ巧ニ之カ防備ヲ謀ル其遠計人ヲシテ耐久不屈ニ驚カシム女皇維克土利亞即位以來異人種ノ新ニ臣民タル者七千萬今ヤ英國臣民ノ多キ三億八千萬而シテ其英語ヲ操ル者僅ニ一億四千萬ノミ然ルニ英人自ラ信シテ曰ク英語ハ必ス全世界ノ國語タラント英人ノ世界統一ヲ畫策スルヤ玆ニ百五十年印度ヲ略シ北米ヲ取リ海上ノ主權ヲ掌握シ將ニ宇內交通ノ利ヲ專有セントス是レ豈區區兵ヲ弄フモノヽ能ク企圖スル所ナランヤ一千八百七十七年大英帝國成リ女王印度ノ帝號ヲ稱セシ以來英ノ新ニ版圖ヲ拓ク實ニ露佛獨三大國ノ得ル所ニ二倍ス貴客其世界統一策ノ巧妙ナルヲ覺ラス一ニ弊邦ノ東洋經略ヲ疑フ豈謬ラスヤト應對辯難ノ間船君府ノ港灣ニ入ル

散士君府ニ上陸シ周ク城市ヲ觀テ熟ミ其國狀ヲ察ス衰弊實ニ見ルニ忍ヒサルモノ多シ威儀ハ風禁酒ノ俗ハ漸ク消滅シ敗隳淫靡上下相扇キ宮中府中賄賂公行散士ヲシテ公然懷ヲ公吏ノ面前ニ探ラシムルモノ數回腐敗既ニ其極ニ達シ國政紊亂度支節ナク營利ノ業ハ盡ク外人ノ掌握スル所ト爲リ兵士食ヲ呼ヒ下民饑ニ泣ク

聞ク今帝太子タリシトキ常ニ宮府ノ醜穢ヲ憂ヘ大ニ紀綱ヲ振肅セント欲ス位ニ即クニ及ヒ宦竪權ヲ失フヲ恐レ百方革新ヲ阻礙シ勁モスレハ廢位毒殺ヲ企圖スルニ至ルト散士請ウテ歷代帝王ノ府庫ヲ拜覽ス珍寶山積其價幾億萬古人謂フアリ王者ハ民ヲ富マシ霸者ハ武ヲ富マシ亡國ハ庫ヲ富マスト民怨ヲ買フ以アル哉

一日大元帥阿須曼侯等ト語ル侯ハ萬里ノ長城ヲ以テ一世ニ重セラル曰ク露軍ノ伎倆ハ敢テ畏ルヽニ足ラス之ヲ門底寧克郎人ニ比スレハ勇怯殊ニ天淵ノ差ヲ見ル夫ノ門人ハ五百年間亡國ノ恨ヲ呑ミ經營慘澹空山絕谷ノ中ヲ固守シ未タ曾テ一日モ國家克復ノ事ヲ忘レス國民僅ニ十萬其兵ヲ擧ケテ獨立ヲ絕叫スルヤ男ハ干戈ヲ執リ女ハ運搬ニ勤メ劍華ヲ避ケス彈雨ヲ怖レス進ミテ死スルヲ知リ又退キテ生クルヲ欲セス余結髮軍ニ從ヒ大小百餘戰然レトモ未タ勇敢門兵ノ如キヲ見ス唯露ハ大國ナリ雄邦ナリ突厥ノ患ハ獨リ露國アルノミ蓋シ予ヲ以テ之ヲ觀レハ露ノ長スル所ハ兵略ニ非スシテ國是ノ不動ニアリ往年ノ戰若シ予ヲシテ十萬ノ兵アラシメハ必ス露軍三十萬ヲシテ普勒宇那ノ孤村ヲ過クル一歩ナラシメス夫レ露軍ノ進ムヤ激潮ノ湧クカ如ク大風ノ起ルカ如シ然レトモ兩軍既ニ壁マリ死生既ニ決シ鋒鏑交ミ亂レ吶喊激闘スルヤ露軍唯人ヲ賴ミテ自ラ馳突奮闘スル能ハス士官死傷スレハ忽チ混亂潰奔シテ隊伍ヲ爲サヽルニ至ル況ヤ露軍ノ策戰機ヲ誤リ戰闘準備完カラス糧運繼カス凍飢セシモノ萬ヲ以テ數フ故ニ若シ不幸ニシテ再ヒ干戈ヲ交フルニ至ラハ陣旅ニ於テハ尙爲スヘシ恨ムラクハ我が宮府ノ積弊釐革シ難ク軍備擴張シ難キコトヲ而シテ之ヲ改革セント擬スレバ忽チ扞格スル者アリ苞苴公行宮府ノ內外ヲ鼓煽ス乃チ更ニ一方ヲ策スレハ又一人ノ之ヲ阻遏スルアリ故ニ年年改革ニ從事シテ一モ遂行スル能ハス請フ試ニ之ヲ富人ノ癰ヲ患フルニ譬ヘン其疾頗ル重シト雖トモ回春固ヨリ期シ難キニ非ス是ニ於テ一名醫ヲ英國ニ聘ス膿ヲ洗ヒ毒ヲ除キ治効漸ク驗アリ時ニ友人患者ニ告クルニ獨逸ノ名醫英醫ニ優ルヲ以テス患者忽チ之ヲ信シ英醫ヲ辭シテ獨醫ヲ招ク藥石未タ美疢ニ中ラス親戚更ニ佛ノ良醫ヲ迎ヘシム佛醫英獨醫ノ治スル能ハサルモノヲ託セラレ

快刀ヲ執リ腐骨ヲ剜ラントス妻子見テ痛苦ニ堪ヘスト爲シ特ニ露ノ國手ニ託スルニ死生ヲ以テス露醫其將ニ癒エントスル脈口ヲ開キ更ニ片肉ヲ截斷ス而シテ醫ヲ更フル毎ニ別判數回身體惡ソ衰憊セサルヲ得ンヤ病者既ニ醫ノ賢否ニ迷ヒ醫モ亦各ミ名ヲ競ヒ貨ヲ貪リ親戚朋友ニ引援シテ交ミ相稱譽セシム國手滋ミ多クシテ病毒日ニ倍ミ加ハル其レ將タ安ニカ回春ヲ求メン今ヤ此弊殊ニ甚シ遂ニ一家ノ内佛派獨派英露ノ黨アリ以テ互ニ相擠排スルニ至ル突厥ノ大患ハ實ニ此ニ在リ貴國ノ如キ幸ニ國人ヲシテ外國黨派ヲ作ラシムル勿レト

兎烏匆匆殘年云ニ徂キ鳳律正ニ新ナラントス是ニ於テ散士邦友三人ト與ニ酒ヲ載セ舟ヲ浮ヘ歐亞ノ疆界金角灣ニ遊ヒ綸ヲ垂レ鱸ヲ鱠ニシ東羅馬帝國ノ荒敗セル都城ヲ仰俯シ放歌豪飲シテ年ヲ送ル蓋シ亦是レ人世ノ一快事ナリ夫レ君府ハ君斯丹大王カ中興英邁ノ姿ヲ以テ西敎ニ歸依シ要地ヲ相シテ帝王ノ居ヲ遷セシ處タリ其經營ノ偉大ナル地勢ノ雄壯ナル層壁疊疊城郭ヲ廻リ石城巖巖七丘ニ跨リ七門七關ヲ闢キ關毎ニ高塔ヲ起シ巍巍半天ニ聳エ尖尖雲中ニ入ル第一丘神聖宗比耶ノ高塔ヨリ指ヲ屈スレハ一丘一塔逶迤崢嶸坱鬱トシテ紫霞ヲ吐キ金烟ヲ蒸シ離奇明滅光彩煜爍タリ此中ニ居ルモノ孰カ人間ニ盛衰ナルモノアルヲ知ランヤ一塔アリ突厥ノ盛時ニ當リ數回公法ニ背キテ歐洲華國ノ大使ヲ抑閉セシ處ナリ佛國大使三年ノ幽囚モ亦此ニ於テスト云フ前岸ヲ望メハ曉鶯女史ノ經營セシ遺跡尚存ス而シテ極目纍纍墓石ナラサル莫シ蓋シ近時ノ豫言者云フ歐土ハ久カラスシテ歐人ニ蹂躪セラレ邪敎人跋扈シテ墳塋爲メニ辱メラレン宜ク水ヲ渡リテ死者ヲ亞細亞ニ瘞ムヘシ否ラサレハ魂魄永ク憑依スル所ヲ失ハント突厥人之ニ迷フモノ多シト云フ嗚呼往時經典ニ四妻ノ制ヲ立ツルニ當リテヤ意氣軒昂四海ヲ睥睨シ億兆ヲ臣妾ニセント欲ス其三大陸ノ女各一人ヲ娶リ更ニ適意ノ一婦ヲ撰ミテ以テ正室トスルノ法ヲ定メ六合ヲ家トシ弦月旗影馬ヲ躍シ東西南北三大洲ニ馳騁シ揚言シテ曰ク邪敎ノ歐奴正敎ノ馬前ニ出ツレハ霜露旭日ニ消シ羊群猛虎ニ驅ラルルカ如キノミト當時何ソ又墓墳ヲ懷ハンヤ而シテ此勇猛無前又身命ヲ顧ミサル回回敎徒今ヤ魄魂ノ歸處ニ迷ヒ自ラ危殆ヲ帝都ニ懷キ以テ歐人ノ流言ニ誑サルルニ至ル何ソ其衰ヘタルノ甚シキ哉

散士車ヲ驅リテ市外ヲ逍遙シ歸路頽垣斷碑ノ間ヲ過ク路傍墓石亂仆目ニ滿ツ傳ヘ云フ名將勇士ノ行狀ヲ勒シテ之ヲ路傍ニ陳表シ過キルモノヲシテ矜式興起セシメシモノナリト今ヤ物換リ星移リ曾テ人ノ掃弔スルナシ既ニシテ遙ニ絃歌ノ聲ヲ聽ク時ニ夕陽西山ニ舂キ行人漸ク稀ナリ近クニ及ヒテ之ヲ見レハ古城ノ下紫芝ノ上異樣ノ男女五六人胡弓ヲ彈シテ歌舞ス洋洋タル一曲蹁躚タル其態雍雍閑雅園苑ニ遊ヒ瑤池ニ戲ル興愈ミ酣ニシテ態愈ミ加ハリ復タ暮色ノ蒼然タラントスルヲ知ラサルモノヽ如シ嗚呼是レ果シテ何物ソ散士車ヲ駐メ坐ロニ其風流ヲ歎賞ス一群之ヲ覺リ來リテ酒錢ヲ乞ヒ倶ニ與ニ歌舞セントス散士問ウテ曰ク今ヤ滿城百萬歳抄ニ慌忙ス子等何人ソ獨リ歡樂ヲ此寂寞タル空城ニ暢ヘ人間復タ歳月アルヲ知ラサルカ如キヤト其人笑テ曰ク我一群ハ江湖不羈ノ放浪人ナリト散士曰ク放浪人トハ何爲者ソ其人曰ク夫レ放浪人ナルモノハ定主ナク定國ナク家ナク財ナク貨ナク四時ヲ馬トナシ陰陽ヲ御ト爲シ滔滔タレハ春藹藹タレハ夏湫瀏タレハ秋典凝タレハ冬天放自恣東西南北ナク舊都ノ銀泉ニ浴シテ冬科嶠ノ風ヲ知ラス金角灣頭ノ明月ニ嘯キテハ夏鑠金ノ暑ヲ知ラス天道循環陰移リ陽推スモ南燕北雁吾ニ於テ何カ有ラン一簞ノ食一瓢ノ飲俺ケハ臥リ醉ヘハ歌ヒ天ヲ幕トシ地ヲ席トシ江海

ヲ油トシ日月ヲ燈トス神明ノ貴キテ知ラス幽鬼ノ怕ルヘキヲ見ス王侯ヲ輕シ富豪ヲ蔑シ超然トシテ人間ヲ傲睨ス人生五十死セハ則チ北邙一片ノ煙ノミ何爲ソ人ト爭ヒ物ト苦ミ遑遑栖栖心身ヲ役スルノ愚ヲ爲サンヤ天ノ我ニ與フル人人平等偏頗アルナシ然レトモ國ヲ盜ムモノハ王侯タリ貨ヲ偸ムモノハ富豪タリ而シテ今吾一杯ノ酒一椀ノ羹ヲ盜メハ刑罰踵ヲ旋ラサス噫死後前神ノ審判果シテ孰レカ罪人ナルヤ孜孜トシテ身ヲ勞シ人ノ國土ヲ掠メ人ノ財寶ヲ奪ヒ人ノ爵位尊榮ヲ攘竊シ豪奢自ラ競ヒ南面王侯ト稱スルモ死ニ臨メハ片寶寸貨モ攜フル能ハス生前積ム所死後他人ノ有トナルノミ生涯ノ苦樂果シテ何ノ益カアル若カス苦惱ノ藩籬ヲ脫離シ天空海濶花ニ吟シ月ニ嘯キ閑雲野鶴吾天眞ヲ樂ミ好ム我欲スル所ニ從ヒテ浮雲ヲ人世ニ託センニハ胡爲ソ口ニ不羈自由ヲ說キテ其身衣冠口腹ニ役セラレ東西營營日モ亦足ラス社會ノ制裁ニ苦ミ敎法ノ束縛ニ惱ミ劍戟銃砲國ヲ滅シ人ヲ殺シ世ヲ虐スルハ術ニ煩悶スル豈憐ムヘキ迷者悲ムヘキノ昧者ナラスヤ宜ナル哉歐人ノ祖先曾テ上帝ノ禁ヲ犯シテ亞天ノ樂園ヲ放逐セラレテヨリ飢ニ叫ヒ寒ニ號ヒテ終ニ苦界ニ沈淪スルコト是レ彼等ノ信奉スル經典ニ詳ナリ亦宜ク其冥罰ヲ甘受スヘキハミ吾人ノ生ヤ天帝ニ賴ラス吾人ノ死ヤ地獄ヲ煩ハサス吾人ノ行ヤ灑灑落落吾人ノ心ヤ光凡霽月餘アレハ貧人ニ施シ足ラサレハ富者ニ求ム仰テ天ニ愧チス俯シク地ニ怍テス在昔東方ノ古賢左思安一日其友伯老羅斯ヲ訪ヒ其室ノ莊嚴美麗ナルヲ觀テ問ウテ曰ク汝未タ沙夷羅斯大王ノ軍ニ從ハサルノ日既ニ斯ノ如ク富メリヤ伯老羅斯曰ク吾父ハ一賤農ノミ予ヲ攜ヘテ共ニ耒耜ヲ事トセリ予ノ富有ハ皆沙夷羅斯大王ノ賜ナリト左思安曰ク汝眞ニ多幸ナル哉汝既ニ幼ニシテ貧窮苦艱シ然ル後此富貴アリ其樂如何ソヤ伯老羅斯曰ク然ラス予カ天賦ノ樂ハ昔ニ在リテ乏シカラス今ニ在リテ轉タ其減スルヲ見ルノミ飮食貧時ヨリ加フル能ハス睡眠貧時ヨリ多キ能ハス予今奴婢田宅牧畜多シ衣服醫藥飮食ノ瑣末ヨリ雜事紛糾或ハ牧牛ノ崖下ニ墜チ猛牛ノ羊群ニ入ル或ハ盜ノ寶庫ヲ窺フ之ヲ保シ之ヲ護シ暫モ心ヲ安スル能ハス蓋シ予カ富ハ予カ勞力ト苦慮トヲ增スノミ何ノ樂カ之レ有ラン且ツ有ヲ樂ムト失フヲ恚ルト兩相比スレハ初ヨリ無キニ若カス之ヲ失ハンコトヲ恐ルヽノ勞ハ今將ニ有セントスルノ樂ニ比スヘキニ非ス況ヤ多ク有スレハ衆妬ヲ招キ多ク積メハ怨毒ヲ買フヲヤ人皆謂ラク富メハ必ス樂多シト余ニ富矣決シテ樂ハ多カラサルヲ知ル且ツ夫レ多ク有スレハ多ク耗セサル可カラス多ク施サヽル可カラス多ク詐言ヲ用ヰテ我財ヲ利スルモノヲ擯カサル可カラス塵務雜沓煩苛勞劬豈淸貧ノ無爲恬澹放爾ナルニ若カンヤト吾人ハ實ニ伯老羅斯ノ見ヲ信スルナリト滔滔千萬言萬乘ヲ見ル土芥ノ如ク天地ノ間曾テ窒礙スル所ナシ放浪人ノ境遇亦特色ノ興味アリト謂フヘシ噫人生大觀スレハ富貴榮華モ眞ニ一場ノ夢ナル哉

散士小亞細亞觀風ノ情ニ堪ヘス馬留莫刺海ヲ渡リ武留佐ノ舊都ニ遊フ此舊都ハ二千年前頗ル繁榮ヲ極メ後突厥ト羅馬人トノ爭地タリ更ニ盛衰興廢ヲ經テ元吉斯汗ノ曾孫帖木兒都ヲ寨馬兒關ニ奠メ四方ニ雄飛スルニ及ヒ久シク其管領ニ歸セリ故ニ今尙其遺物ノ存スルモノアリ鐵木眞極東黑龍江ノ南斡難河ノ北ヨリ起リ子孫克ク戈壁ノ沙漠ヲ渡リ天山ノ峻嶺ヲ越エ山海千萬程西征シテ此ニ至ル何ソ其盛ナルヤ此都背ニ阿連普山ノ霄漢ニ聳ユルアリ前ニ沃野千里ノ天末ニ際スルアリ人民農工ヲ勵ミ田野桑麻ヲ植ウ到ル處花咲キ鳥鳴キ悠悠鄕國ノ感ヲ牽クモノアリ鞍頭山野ヲ跋涉シ湧沸烈河畔ニ到レハ亞羅刺斗山高ク秀テ天候最モ温和人氣亦優閑駱駝群ヲ成シテ悠遊偃息シ山容水態ノ雄壯秀麗ナル珍

花卉樹ハ目ヲ洗フ頗ル胸襟ヲ敍暢スルニ足ル創世紀ニ曰ク生民ノ初人祖此ニ降誕シ此河畔ニ棲息スト所謂亞天ノ樂園ハ豈此絕美ノ山河ナルカ獨怪ム歐人ノ祖先神譴ヲ蒙リ此樂園ヲ放逐セラレテ子孫河南ニ飄零シ沙漠ノ間ニ困躓シ遂ニ西向シテヨリ以來北スルモノハ凍河氷山ヲ蹈ミ南スルモノハ炎沙熱風ヲ冒シ營營食ヲ求メテ勞劬萬狀復タ此樂園ニ還ル能ハサルヲ地藏菩薩ノ曰ハ我此穢土ヲ轉シテ西方極樂世界ト同シカラシムルハ一彈指ノ間ニアリ然レトモ衆生ノ業報



放浪人舞踊の圖

（原本插畫）

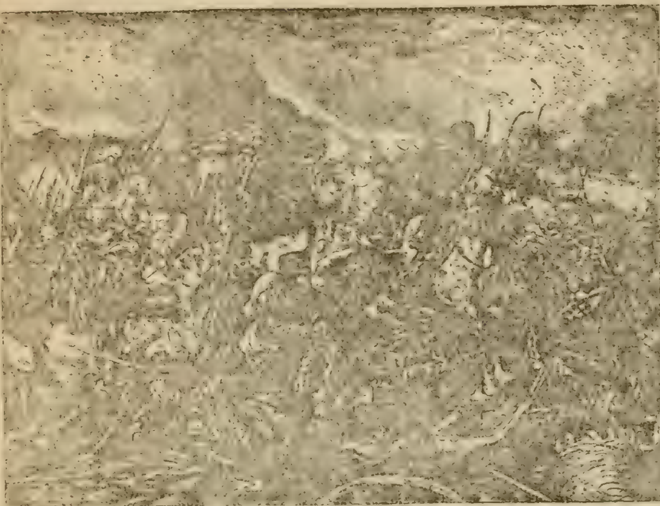
卽チ受用スルニ堪ヘサルヲ奈何セント神意蓋シ亦此ノ如キカ曾テ聞ク亞細亞西境ノ佳人ハ宇內ノ絕美ナリト花下水邊笄珥ヲ載キ玉環ヲ帶ヒ流漫陸離妖嬈婉變皓潔雪ヨリモ白ク細膩玉ヨリモ潤ヒ端麗眞ニ芙蓉ノ水ヲ出ツルカ如シ歐人此花笑ヒ風媚フルノ樂園ヲ棄テ、一去復タ還ル能ハス轉タ悲ムヘシ此地方ハ突厥政治ノ衰頽ヨリ苛税重斂ヲ苦ミ地枯レ人疲レ兇賊横行白日貴人富豪ノ父兄妻子ヲ誘拐シテ質トナシ以テ金銀ヲ強奪スルモ政府之ヲ禁スル能ハス青黛ノ山ハ地骨ヲ露ハシ汪洋ノ川ハ塵沙ヲ揚ク何ソ桑滄ノ感ニ堪ヘンヤ此衰頽セル古都ヲ去リ露領黑海ノ沿岸ニ到レハ滿目ノ風光忽チ觀ヲ改メ沃野千里牧馬群ヲ成ス其新ニ發見セシ石油ハ源泉滾滾西大陸ノ特產ヲ歷ス河海ノ利舟楫ノ便帆檣縱横雲ノ如シ是レ實ニ露國カ十餘年前突厥ヨリ略取セシ所タリ天然ノ富源ニ加フルニ人工ノ精ヲ以テス蓋シ露國南下ノ根底霸業ノ府庫ナル哉露國カ其東方ヲ振蕩スルノ鵬翼ヲ得タルハ高加察經略ナリ高加察ノ地タル裏海黑海ノ間ニ亙リ幅員十八萬四千方里一タヒ之ニ據レハ以テ亞細亞突厥波斯ヲ圖ルヘク以テ阿富汗斯坦ニ進入スヘク以テ遠ク印度ノ寶庫ヲ窺フヘシ實ニ要重ノ鎖鑰ニシテ露人東方統一ノ秘鍵タリ初露帝ノ祖先莫斯古大公カ宗廟ノ祭器ニ拔奏ヲ盡リテ蒙古使臣ノ乘馬ニ供セシ屈辱ノ羈絆ヲ脫スルヤ僅ニ十五世紀ニ在リ其勇敢ノ苛殺克人ヲ操縱シテ遂ニ露國ノ臣民トナシ大ニ疆土ヲ拓擴セシモ近時ニ屬ス今ヤ苛殺克騎兵十三萬夭嬌不屈ナル一大種族化シテ露國皇帝ノ爪牙トナル蓋シ露國ノ高加察ヲ併スル其力ニ憑ルモノ多シ抑ミ苛殺克人種ナルモノハ其性質古代ノ武士ニ類シ馬上長槍ヲ横ヘ勇敢活潑冒險ノ業ヲ好ム而シテ互ニ祖先ノ尊卑ヲ論セス門閥ノ貴賤ヲ問ハス敵ヲ防キ己ヲ守ルニ足ルモノハ待ツニ皆僚友ヲ以テス故ニ羈束ヲ脫セントスルノ奴隸時ノ政治宗教ヲ憤慨スルノ處士俗界ニ蹈蹐スルヲ屑トセサルノ游俠ニ至ルマテ苟モ筋力強健干戈ニ堪フルモノハ皆其喜ヒテ迎フル所タリ是ヲ以テ所謂苛殺克族ナル者ハ亡命浪士ノ避難所四海游俠ノ集會場ニシテ其始露國ノ最モ駕御ニ困ミシ所ナリ爾後露帝漸ク能ク之ヲ操縱シ遂ニ編シテ強猛無比ノ騎兵トナセリ

夫レ高加察山脈ニ住スル種族ハ高山峻嶺ニ窟居シ殺伐戰ヲ好ミ名ハ土帝ノ正朔ヲ奉スト雖トモ統一ノ組織ナク獨リ廣漠絕險ヲ憑

ム不羈自由ノ民族タリ今世紀ノ始ニ當リ露高加察一百萬ノ蠻族カ死守セル幽渺深奥世界最大ノ城堡ヲ攻略セント欲シ高加察山脈ヲ繞リテ長圍ヲ築キ攻戰前後四十八年ニ亙レリ是時ニ當リ蠻族一偉人ヲ出ス戒行衆ニ超エ雄辯才識並ニ儕倫ニ拔キ世ニ秀ツ妙理知崇教ノ開祖加治無留羅魔法滅土是ナリ一身ヲ神託ノ犧牲ニ供シ一息未タ斷エサレハ死ニ至ルマテ異教徒ト戰ヒ必ス俱ニ天ヲ戴カサルヲ誓ヒ高加察種族ノ離群索居セル社會組織ヲ一變シテ國家組織トナシ唯一ノ主領ニ甘從セシメ自由ト信神ト固結抱合鬱レテ後已ムノ決心ヲ猛發セル一團體ヲ作レリ一千八百二十九年神使神託ヲ奉シ一萬五千ノ兵ヲ提ケテ神戰ヲ開始ス其兵勢疾風ノ如ク連戰勝タサルナシ然レトモ一千八百三十二年急ニ露將ニ襲ハレ遂ニ命ヲ戰場ニ殞セリ其敗亡ノ後ヲ承ケ疲散ノ衆ヲ勵マシ心ヲ怒ラシ膽ヲ張リ露人ヲシテ震懼セシメタル者アリ高加察ノ大豪傑車彌兒其人ナリ車彌兒人トナリ剛毅果斷施政ハ才ニ富ミ軍略ニ長シ高加察ヲシテ宇内ノ歷史ニ異常ノ光彩ヲ發セシメ二十四年ノ久キ露人ヲシテ毫モ其慾ヲ逞ウスルヲ得サラシム初メ車彌兒麾下ノ兵太タ少ク危急ニ瀕スル幾回ナルヲ知ラス嘗テ孤兵ヲ率キテ露ノ大軍ト戰ヒ左右親兵一人ノ全キ者ナク其身亦大創ヲ蒙リ僅ニ捕虜タルヲ免ル既ニシテ一千八百四十年卒加西亞民族命ヲ聽クニ及ヒ營ヲ亞烏爾駄爾伍ニ移シ二歳ニシテ二異族ヲ征服シ又テ一歳ニシ露ノ五壘ヲ陷レ砲隊ヲ組織シ鐵騎ヲ精選シ城壘ヲ修メ兵甲ヲ飾シ賞罰ヲ明ニシ號令ヲ嚴ニス是ニ於テ精兵五萬旭日天ニ冲ルノ勢アリ是時ニ當リ露ハ全力ヲ高加察ニ盡シ名將巴斯饗乙將軍ニ授クルニ精兵ヲ以テシ進戰ヲ謀ラシム車彌兒之ヲ嶮隘ニ誘キ大ニ之ヲ敗ル千八百四十八年烏閼倫咄孚親王歩騎砲ノ大軍ヲ引卒シ亞烏爾駄爾伍ノ本營ヲ攻ム車彌兒奇兵ヲ張リ殆ト親王ヲ獲ントス親王僅ニ身ヲ以テ免ル露更ニ大軍ヲ進メテ烏越天王城ヲ圍ム烏越天王ハ黑山ニ在リ車彌兒ノ牙城ナリ車彌兒防戰檣ニ臨ミ變ヲ制ス露軍八面之ヲ攻ムレトモ拔ク能ハス猛戰激鬪兵結テ解ケサルモノ一歳明年四月城中彈丸硝藥盡キ糧食外援俱ニ窮マル露ノ大軍之ヲ窺ヒ四面鼓譟シテ城ニ躋ル烏越天王城遂ニ陷ル車彌兒麾下ヲ率キ圍ヲ衝キテ具禹人ニ走ル露軍追躡之ニ迫ル車彌兒城ニ嬰リ殊死奮戰スルモノ又五閱月遂ニ勢窮リテ露軍ニ擒ヘラル此報露都ニ達スルヤ滿城虛傳トシテ信スルモノナシト云フ亦以テ車彌兒ノ露人ヲ恐怖セシメタルヲ想見スベシ此英雄一タヒ去リテヨリ亞細亞西方復タ露ノ鐵騎ヲ阻遏スルモノナシ一千八百七十七年突厥再ヒ强露ト釁ヲ開キ露ノ第二軍黑海ノ東ヨリ高加察ノ背面ヲ襲フヤ車彌兒ノ一子馬師馬族ヲ中堅ト爲シ卒加西亞人ヲ援軍ト爲シ河流洲ヲ固守シ露ノ大軍咆哮突進スルヲ防禦シ半歳ノ久キヲ支ヘ大ニ敵ヲ破ル二十四回五千ノ鐵騎盡ク死亡シ援絶エ勢蹙マリ潔ク命ヲ戰場ニ殞セリ噫

正月中旬君府ヲ辭シ跎爾多寧流ノ海峽ヲ經テ希臘ニ遊フ群芳春ヲ競ヒ杏桃霞ノ如シ亞古魯市利ノ水晶塔ヲ望メハ皚皚トシテ靑霄ヲ摩シ地ヲ拔ク百丈周圍五十丈雕樑藻梲希臘古代ノ精美ヲ萃ム實ニ雅典人ノ最モ信敬崇拜スル所ニシテ二千二百餘年前ノ築造ニ係ルト云フ塔頂ニ坐シ太陽ノ昇ルヲ觀ル心神寥廓眞ニ千古ノ奇觀タリ塔ヲ下リ歩ヲ轉シテ西スレハ一丘アリ摩兒丘ト稱ス聖師市祢會テ此丘上ニ立チテ雅典ノ都人ニ說教セシ處ナリ丘下ニ古代ノ劇場アリ山ニ據リテ自然ニ高低曲直ノ妙ヲ極ム歐米ノ劇場皆模範ヲ此ニ取ルト云フ更ニ歩シテ女飛土流神宮ノ跡ヲ探ル水晶石ノ大華柱數

荒廢シテ半ハ地中ニ埋沒スルヲ見ル長サ三十五丈周圍十七丈傳へ云フ七百年ノ星霜ヲ經テ初テ成ルト雕鏤ノ壯麗物以テ比スヘキナシ神宮ノ神像ハ黄金ト象牙トヲ以テ成ル精巧古今無比ト稱ス又大馬埒アリ雅典人鬪技ノ場タリ今亦嘖嘖スル所ノ[illegible]ノ樂場是レナリ亞古魯市利丘下ノ[illegible]中ニ瑣格剌鐵ノ幽囚セラレシ石窟今尚依然其舊ヲ改メス嗚呼瑣格剌鐵ハ千古ノ鴻儒ナリ而シテ嘗テ巴底太ノ陣中ニ在ルヤ高弟阿兒貿美鐵斯ガ身數創ヲ蒙ルヲ見テ猛進格鬪敵ヲ殪



車獨兒大ニ露軍ヲ破ルノ圖　(京本拓臺)

シテ阿ガ[illegible]ヲ奪遂シ[illegible]麗安ノ戰ニ雅典人ノ敗北スルヤ自ラ殿戰シテ大功ヲ奏シ善能徳ガ馬ヨリ墜チ將ニ敵ニ獲ラレントスルヤ進ミテ之ヲ扶ケ自ラ負ヒテ戰ヒ且ツ走レリ嗚呼此人ニシテ國ノ爲メ義ノ爲メニ身ヲ輕シテ勇鬪スルコト此ノ如シ宜ナル哉石窟鴆毒以テ其志ヲ奪フ能ハス萬世ノ下其道愈ミ彰レ日月ト光ヲ爭フヤ彼[illegible]花ニ咕嗶ヲ事トシ昂然深奥ノ理ヲ唱フルモ一朝劍華彈雨ニ逢ヘハ魂飛ヒ魄銷スルモノ此鴻儒ニ對シテ焉ソ愧死セサルヲ得ンヤ石窟ヲ拜シ子子トシテ漫歩スレハ一石臺アリ是レ提蒙聖湼斯カ滿腔ノ熱血ヲ懸河ノ雄辯ニ揮ヒ自由ノ爲メニ死シテ雅典人ヲシテ感激奮起セシメタル演壇ナリ古墳墓アリ近時土中ヨリ發掘セシ所其碑面ニ死者川ヲ渡リ津ヲ守ル老婆ニ渡錢ヲ與フル圖ヲ刻スルアリ女神手ニ劍ヲ提ケ頭ニ明鏡ヲ戴キ一鷄統上ニ鳴クノ圖ヲ鏤ム之ヲ覽ルモノ誰カ古來佛說神像ヲ想像スルナキヲ得ンヤ嗚呼此府古代實ニ文化ノ根原技巧ノ淵藪タリ今ヤ漸ク蹶起僅ニ獨立ノ小邦ヲ作シ祖宗ノ雄風ヲ追懷シ古賢ノ遺行ニ感奮シ美由天大國ノ威名ヲ恢復セント數ミ突厥ニ挑戰ヲ試ミ意氣高ク功名燃ユルカ如キモ之ヲ古ニ比スレハ盛衰果シテ如何ソヤ實ニ今昔ノ感ニ堪ヘサリナリ

遙ニ勢留茂平禮ノ古戰場ヲ望ミ斯發多王ノ雄風ヲ追懷シテ感慨措ク能ハス聞ク往時斯發多人ノ勇悍古今宇内ニ冠タルハ實ニ婦人教育ノ力多キニ在リト蓋[illegible]ノ俗婦人ヲ卑ムノ風アリ獨リ斯發多國ハ婦人ヲ遇スル太タ厚ク禮[illegible]賓ノ如シ故ニ庭訓子弟報國ノ義心ヲ發揮シ[illegible]致シテ國風ヲ爲ス愛子ノ戰場ニ赴クヤ其母授クルニ楯ヲ以テシ之ヲ誡メテ曰ク汝此楯ヲ以テ敵ヲ破レ否ラサレハ此楯ト共ニ斃レヨト其子若シ敗歸スレハ母之ヲ見テ恥チ陣亡スレハ以テ榮譽トナス夫ノ斯發多列王耳達斯カ寡兵ヲ以テ勢氣佐斯二百萬ノ大兵ヲ擊破シタルカ如キ實ニ此國ノ庭訓ノ致ス所ナリ勢氣佐斯ノ來リ攻ムルヤ時正ニ國祭ニ屬ス列侯朝儀アリテ猥リニ動ク能ハス斯發多王國命ヲ奉シ手兵僅ニ五百客兵七千ヲ將トシ出テヽ勢留茂平禮ノ隘ニ據リ二百萬ノ群ヲ邀ヘ奮戰格鬪敵ヲ斃ス亂麻ノ如シ既ニシテ反者アリ敵ノ一軍ヲ導キ間道ヲ越リテ背後ニ出ツ客兵顧ミテ潰ユ是ニ於テ斯發多王其兵一千ヲ魚鱗ニ備ヘ殊死シテ戰ヒ呼聲天地ヲ震動シ執ル所ノ劍鋒皆缺折シ徒空拳ヲ揮テ奮鬪シ兩脚ヲ斷タレ怒牙敵ニ吭ヲ嚙ミ手斷ラレ足折ラレ全身氣息僅ニ存スレハ猶敵ニ向フノ狀ヲ爲ス王[illegible]シ

テ華宮ナケ寺ニ籠レテ敵ノ乗ル所トナル詩兵
昔時世界ヲ奪ヒ還スモノ誰ゾ固マヒ五百ノ騎卒
一人ハ生キテ還リ諸ナシ而シテ二百萬ノ衆軍
遂ニ賊軍ヲ撃メ王ノ將ニ陥レントスルヤ英雄フ
所ノ一奴ヲシテ去リテ國人ニ告セシメテ日ク國
王ハ國ニテ王シ國家ニ死シ鮮軍我トセリダ
一謂ハ他ニ成フナシ奴身數個ヲ棄リ諸軍滿目
蹂躪軍ヲ防ニ呼ヒテ曰ク賊軍大敗スト市人之ヲ
聞メニ奮戦ヲ為マントス奴肯セスシテ曰ク已ニ
王命ヲ得フ吾ヨ止ム豈寧リ生ヲ保ツニ忍ヒンヤ
ト竟ニ自刃シテ死ス

希獵ヲ歴シ終ニ羅馬府ニ達ハントス途無何來ス
斯山下ヲ過キ海ニ臨ム大盤石ヲ観テ昔時勢無
佐斯カ此大岩石上ニ黄金ノ胡床ニ踞シ百萬ノ
兵ヲ指揮シ世ニ萬年ノ天子ナク國ニ不朽ノ業邦
ナキヲ慷慨セシヲ懐ヒ又遠ク近國ノ業ミ近世
埃及ノ王子カ希臘ヲ征服セントシ軍艦五十四
隻運送船四百隻精兵三萬ヲ提ケ英佛露ノ連合
軍ト大戦セシ壮志ヲ弔フ此ニシテ一孤村ヲ過ク
絶大ノ橄欖樹アリ周圍數丈枝葉扶疎半空ヲ蔽
フ馬ヲ駐メテ之ヲ覽ル亭長茶ヲ捧ケ語リテ曰ク
ク是レ神皇ノ帝土ニ降臨セシ時清志神ノ植ウ
ル所天神ノ妃蓮ニ戀慕セシヤ化シテ白鳥トナ
リ翺翔此樹ニ憩フト云フ爾来五千有餘年天事

人事ノ變遷一トシテ國サンナキ一トシテ隆カ
サルナシ故ニ古國蹟ヲ訪ヒタル所ノ者モ戀ヒ有
ナリ貴去遠アナハ請フ此ヲ聞賓ニ問ヘト其ヲ訴
リテ曲士ニ贈ル曲士之ヲ受ケテ高シテ日ク遠韓
宜子得運ノ機ヲ得ニ發セリ世ニ傳フ五十ニ浩
ダス劇國ニ五千年前ノ音樂ノ命ヲ保ツヲ知
ラズ希臘子日ク故國ハ香木アリノ罪ニ求スト然
レトモ散士ハ香木ヲ要キ希國ニ感セスンハア
ラスト

呼聲所謂ヲ讃シテ埃太利ニ適ク精ノ小灣ニ泊ス
又モ亦實文乃チ武ハ城址ニ残リ東ハ青嶂ニ宿シ
以テ嗚風ノ情ヲ寄スル時ニ茶煙漂ヲ惟リ蓄悶シ渡
舟ニ遠山ハ一言テ近村ハ楼閣羅置ヲ滴ラシ荒
城廢址ハ羊群ヲ成シ百花ノ間ニ散點シテ青紅濃
淡ノ美ヲ闘ハシ羊ヲ牧スルモノ野ニ祥スモノ吟
唱自得先聖ノ流風遺俗有スルヲ見テ七國ノ業華
自由ノ世ヲ懐想スレハ眞正自由ノ民ナルモノ豈
此ヲ舍スルカ抑ミ亦前ノ放浪人ヲ指スカ稍稍遺
違日モ且ツ足ラス社會ノ為メ道義ノ為メニ盡瘁
スルニ比ス何ソ其悠悠閑雅ノ飲ムヘキヤ散士亦
謂斜タル世塵俗界を避ケ此等ノ民ト天然ノ太平
ヲ樂ム能ハサルヲ嘆スルナリ

羅馬府ニ入リテ聖寺和地岡宮ヲ觀ル巍巍崔嵬
群棄參拜雲ノ如ク蟻ノ如シ叢シ和地岡宮ハ羅馬
法王カ世界第一ノ宮殿ト稱サントシテ創造セシ者
座ヲ擁リ人工巧ノ美ヲ窮メ三百年ノ星霜ヲ費
シテ經營惨澹スル所宏壯華麗上中天ニ聳エ下
四隣ヲ壓キ宮中ノ大殿堂人目ヲ奪ヒ壁畫下ニ在ニ
室ハリ二千ノ寶藏蓄高ク遠リ古物ヲ陳列ヲ貯
ハシ萬里ノ珍寶器ヲ對ルニ天下ノ奇觀タリ
蓋シ羅馬法王ヨリ今王十三世ニ迄ル二百餘六
代法王ハ皆ナ此ノ德ヲ積ムノ人ニシテ基督ヲ信
ムルヤ人跡ノ及フ所普ク流ス所大ノ東西ヲ
問ハス地ノ南北ヲ論セス殆ト其勢力ヲ及セサルモ
ノナシ是ニ於テ法王賞罰ヲ専制スル可ナク其
天他ヲ動サシ五大海ヲ擁レシム法王ニ向レ其遂
下ニ跪ラレテ衆ニ憐ミス終ニ門外ニ跪泣シ以テ
法王ノ一顧ヲ乞フハ帝王タルニ至ル豈シ法王ハ
嘗ニ帝王ノ死命ヲ制スルノミナラス萬國ノ主
宰スルノ特權ヲ有シ天上ノ業土ヲ開クノ權ハ獨
リ法王ノ掌中ニ在リテ放把自在ナレハナリ是ヲ
以テ教會ハ世ノ贅器ヲ以テ衛リ且ツ冠冕ノ式ヲ
法王ニ乞ヒ以テ世人ニ誇耀スルニ至レリ然レト
モ物盛ナレハ必ス衰フ其末世ニ及ヒテハ僧侶ノ
放縦邪淫色ヲ漁シ貨ヲ貪ルモノ漸ク多ク時ニ聖
僧賢者ナキニ非スト雖トモ滔滔タル惡風磯德ヲ
救フ能ハス遂ニ路帝兒カ慨然舊教僧侶ノ罪惡四
十八條ヲ彈劾指摘シ善我カ毅然正理ノ犧牲タリ

シヨリ新教漸ク人心ニ浸染シ舊教ノ威權日ニ薄ク世人ノ信用ニ輕ク嘉武流摩智假富保力ヲ合セ以太利王國ヲ統一シ苛斂ノ弊習ヲ一掃スルニ及ヒ法王ノ領土諸寺ノ采邑遂ニ悉ク沒收セラレ今ヤ法王ハ和無闕方里ノ天地ニ蹐蹐屏息シテ僅ニ其法燈ヲ一縷ノ光ニ繋クニ過キス嗚呼曾テ天地ヲ主宰シタル亞神ノ法王ニシテ其威德ノ凌夷竟ニ此極ニ至ル天意人心實ニ知ル可カラス聞ク法王曾テ近親ニ語リテ曰ク上帝ニ代リ衆生ヲ濟度スル神聖無比ノ法王ニシテ外道ノ爲メニ凌辱セラレ以テ此陵遲ヲ致ス予復タ宮殿ヲ出テヽ外人ニ見ユルニ堪ヘスト是ヨリ足曾テ宮門ヲ出テスト然レトモ各邦ノ使臣今猶其境内ニ駐劄シ親衞ノ兵皆關ヲ守リ嚴然一邦國ノ威儀ヲ具備シ謀士學者林ノ如ク各國ノ帝王皆王ニ謁スルヲ榮トナス古人言フ一薰一成以テ王タルニ足ルト法王ノ寸土方里ニ滿タス猶帝王ニ爭フモノ數法ノ力ニ因ルカ抑モ先聖ノ遺德ニ在ルカ

馬ノ國シ羅馬府内ヲ俯瞰ス該撒大王ノ古宮アリ伍多奚斯カ纂挫ノ血衣ヲ提ケテ公衆ニ示シ悲壯激烈ノ雄辯ヲ揮ヒタル石階猶其址ヲ變セス彼ハ何ニ賢ヲ賢トシテ色ニ易ヘシ者カ千古ノ妖布久麗王巴特羅ハ能ク高祖ヲ意ハシ安敦尼ヲ迷ハシ其傾國傾城ノ容色ヲ以テ嬌笑百媚涕淚恩寵シ而シテ遂ニ彼ノ心ヲ動カス能ハス彼能ク絕世佳人ノ死ヲ眼前ニ忍ヒシハ姐己ヲ斬リ西施ヲ放ツニ勝ルヤ遠シ更ニ歩ヲ轉シテ俊傑豪華詩家志淸老ノ遺址ヲ訪フ豪頭ハ嚴肅自ラ持シ嘗テ國事ニ任スレハ富貴ヲ拋チ功名ヲ棄テ危難ヲ畏レス艱苦ヲ憚ラス必ス之ヲ成ルニ則ス志淸老ハ剛節砥行死ヲ視ル歸スルカ如シ 散士今其舊跡ヲ弔ヒ低回顧望俯仰無限ノ感ニ沈ム聞ク往時羅馬大將時美雄ハ嘗テ勞治ヲ陷ルヽヤ其炎炎タル火焰ヲ望ミ徐ニ國家命運ノ輪環ヲ誦リナキヲ感シ羅馬百歲ノ後ヲ豫測シ端ナク法王詩中土魯亞陷落ノ句ヲ想起シ慨然トシテ涙ヲ揮ヒシト今ヤ散士羅馬ノ故墟ニ登臨シ夕陽ニ對シテ法王ノ詩ノ口ニ上ルヲ禁セス嗚呼誰ト與ニカ此感慨ヲ分タンヤ

以太利ハ嘗テ郷黨ニ山水明媚ノ地ニシテ士風氣節ヲ重ス何國ノ老偉人有數平生ノ英雄ノ匡タラサルヲ誓ヒ聞標ヲ此ニトシテ著書自ラ樂ミ超然世ト離ル齡八旬ヲ踰エテ雄心未タ衰ヘス隱然東歐ノ重ヲ爲ス散士嘗テ雜シ使者ヲ遣セテ曰ク東方ノ年少老偉人ノ英名ヲ聞クヤ久シ嘗テ芙蘭墓畔ニ於テ日ニ泰山ヲ見ス粗野唐突ヲ失スル國ニ歸リテ後毛氈ヲシテ公ノ志ヲ東方ニ傳ヘシム若シ重ネテ眉ヲ拜シ高論ニ接スルヲ得ハ素望之ニ過キスト使者還リ報シテ曰ク閑儒容ノ來ルヲ待タント散士乃チ門ニ抵リテ刺ヲ通シ客室ニ入ル裝飾極メテ質素卓架上書籍ノ堆積セルヲ見ルノミ待ツコト久シカラス一老爺戸ヲ排シテ入リ來ル鶴髮童顏月光煌ノ如シ握手ノ禮ヲ爲シテ曰ク好年少久濶昨新紙ヲ閲シテ日人ノ來都ヲ知ル測ラザリキ是レ曾テ西半球ニ邂逅セシ吾子ナラントハ嚮日家女ノ談ヲ聽キ子カ憂喜ヲ詳ニス家女今家ニ在ラス遠ク病ヲ海濱ニ養フ良醫云フ病膏肓ニ入リ回春或ハ期ナカラント是レ予ノ日夕念トスル所又今子ト會談セシムル能ハサルハ余ノ最モ憾ム所ニシテ家女ノ殊ニ憾ム所亦知ルヘシト瞬間老偉人話頭ヲ轉シテ曰ク壯志茫茫空シク雄謀ヲ嘆シ復タ人生ノ望ナシ然レトモ朝ニ道ヲ聞キテ夕ニ死スルハ人生ノ職責ナリト今日ノ集ミ唯新説ヲ聞クニアルノミ吾子請フ世界周遊ノ奇話ヲ語レト

散士曰ク僕見聞スル所無キニ非ス唯以テ老偉人ノ清聽ヲ煩ハスニ足ルモノナキヲ如何セン今ヤ幣邦歐米ト條約改正ニ苦慮シ上下勞ムカ如シ其爭フ所ハ法權ノ獨立ニ在リ內地ノ開放ニ在リ土地ノ所有權ニ在リ海關ノ增稅ニ在リ僕等ノ主張スル所ハ有司ノ過激行ヒ難シトスル所有司ノ讓與セントスル所ハ僕等ノ國權ヲ貶傷シ國

利民福ヲ殺キ殆ト亡國ノ兆アル者トナス所而シテ有司ハ毎ニ上下ヲ脅カシテ曰ク若シ我要求多キニ過クレハ交戰ノ危難ヲ避ク可カラスト僕等ノ感慨此ニ存ス是レ僕ノ高論ヲ仰カント欲スル所ナリト

老偉人卽チ答ヘテ曰ク今日歐米諸國實兵力ヲ以テ日本ト條約改正ヲ爭フ者有ランヤ或ハ兵ヲ東方ニ出スモノアラン然レトモ何レノ國カ能ク數萬ノ大兵ヲ出スコトヲ得ン請フ嘗試ニ之ヲ論セン

佛國ハ人勇ニ地肥エ富強歐洲ニ冠タリ年年外人ハ佛京ニ遊ヒテ其寶貨ヲ散スルノ數尙且ツ勝ケテ算ス可カラス且ツ敗北ノ後驕傲ノ心ヲ抑ヘ非ヲ悔イ過ヲ改メ内ニ充テ以テ之ヲ他年ノ報仇ニ發セントス故ニ異日他邦ト連合シテ獨逸ト戰フノ時機ナキニアラサルヘシ然レトモ佛人輕躁ニシテ功名ヲ競ヒ個人ノ自由ヲ喋喋シテ外部ヲ忘ル、ノ弊アリ是レ年年内爭ニ紛紜シテ内閣頻リニ更迭シ國是動搖日モ亦足ラサル所以ナリ尙何ソ遠ク兵ヲ絶懸萬里ノ地ニ出スヲ得ン東京ヲ攻メ馬島ヲ伐ツモ拓地殖民ニ堅耐熱心ナラス唯大勢ノ流行ニ伴同スルニ過キサルノミ其將來ノ制御統治ニ至リテハ功ノ成否素ヨリ期スヘカラス蓋シ佛人ハ巴黎ヲ以テ宇内第一ノ樂土トナス故ニ遠ク故郷ヲ離レテ功利ヲ炎熱沍寒ノ地ニ逐フヲ好マス今後一大英雄奮興シ卓然群議ヲ排シテ與黨ヲ收攬シ大策ヲ立テ内事ノ紛爭ヲ外ニ洩ラサハ或ハ以テ雄起スルニ足ランカ然ラサレハ往時ノ盛名ヲシテ永ク存セシムル能ハサルノミナラス佛國祖先固有ノ生齒漸ク減ジテ外人徒ニ繁殖シ佛國ノ特性自ラ變スルニ至ランモ亦知ルヘカラス國勢此ノ如シ豈日東條約改正ノ爲メニ兵ヲ海外ニ出スヲ得ンヤ

英人ハ愼重事ニ處シ能ク物ヲ堪フ故ニ萬里ノ波濤ヲ開拓シ東西南北到ル處地利ヲ制シテ富強ノ資ト爲ス英王ノ領土ニ日沒ニ時ナシトハ實ニ過言ニ非サルナリ且ツ能ク自由ノ理ヲ應用シテ憲政ヲ施行シ保守自由ノ兩黨皆公議輿論ニ從ヒテ行動偏重ヲ制シ外交機ニ投シテ威名ヲ失墜セサリシコトハ歐洲列國ノ及フ能ハサル所然レトモ滿ハ損ヲ招キ盈ハ虧ヲ生ス彼ノ自尊自大傲岸地ヲ輕侮シ弱邦ヲ凌辱シ製造貿易航海ノ利ヲ專有セシ盛時ハ漸ク去リテ天下ノ互利ハ米獨等ノ爲メニ其大半ヲ奪ハレタリ其裏面ヲ窺ヒ其短處ヲ探レハ露獨諸邦ノ如ク英雄手腕ヲ揮フノ餘地ナク全ク輿論ノ奴隷タリ與ニ國ヨリ採ルヘシト雖トモ英ノ如キ領土五大洲ニ跨ルモノ外交ノ張弛操縱緩急活ヲ要スル術數ニ於テハ豈鞭長ク馬腹ニ及ハサルノ憂アルヲ免レンヤ且ツ兵役ノ如キ自由束縛ヲ喋喋シ文臣軍務ヲ握リ兵機ニ疎ク陸軍ノ武名ハ舊時ノ夢ト化シ去ラントス今日海外ニ大兵ヲ出スヲ得サルハ識者ノ共ニ知ル所

殊ニ好意ヲ歐米大國ニ失ヒ孤立無援ノ地ニ立チ内外多事ニシテ尾大掉ハス西顧ノ炎日酷ハ則チ酷ナリ畏レ、ニ足ラス彼亦自ラ之ヲ知ル故ニ勉メテ強國ト兵端ヲ開クヲ避ケ蠻夷小弱ノ國ヲ脅迫シテ以テ虎威ヲ粧フ豈條約改正ノ爲メニ陸兵ヲ日東ニ送ルコトヲ爲サンヤ況ヤ埃及問題ノ焦眉ノ急ナルヲヤ又況ヤ竊ニ亞非利加南北ヲ通貫シテ之ヲ陸領セントスルノ大慾望ヲ有スルヲヤ然レトモ今日ノ力ヲ以テ海外ニ十萬ノ兵卒糧食ヲ充實輸送スルヲ得ルモノハ獨リ英國アルノミ佛人ハ晏然巴黎庭園ノ芳ニ眠ルヲ樂ミテ外ニ出テス英人ハ傲然世界ノ月ヲ賞スルヲ快トシテ出遊ス是豈英佛人ノ外事ニ於ケル氣象事業ヲ寫シ出スモノニアラスヤ

獨乙ハ學術ヲ競ヒ之ヲ實事ニ應用シ戰勝ノ餘威上下相親ミ明君賢相相信シ百業進張殆ト霸ヲ歐洲ニ稱セントスルノ概アリ然レトモ其地ヤ薄瘠

其氣候ヤ寒冷富饒英國ニ亞佛ニ及ハス且ツ北聯邦相親ムカ如クニシテ實ハ相猜ミ外ハ偉人ノ報讎ヲ懼レテ兵備ノ擴張ニ憊レ内ニ社會黨ノ跋扈ニ苦ミテ警務ノ煩苛ニ堪ヘス且ツ壯丁ノ兵役ヲ逃レテ海外ニ奔ルモノ歲歲幾萬夫レ壯丁勞働者ハ國ノ花ナリ資富ノ精ナリ今花ヲ去リ精ヲ殺ク是ノ如シ其國勢ニ關スルヤ實ニ大ナリ年年數萬ノ壯丁勞働者ヲ失フハ年年百萬ノ人口ヲ失フモヨリ甚タシ況ヤ老羸相率テ物故スルノ後獨乙中興ノ偉業頓挫ナキヲ保シ難キヲヤ唯獨乙人性遲鈍ナリト雖トモ故土ニ戀戀セス決心必ス貫クノ精神アリ且ツ傳ハ唯當減少スレトモ獨乙人種ハ世界到處ニ繁庶シ其工商業ノ進張スル最モ著シ是レ將來宇内ノ表面ニ立チテ競爭スルノ望アルモノナリ然レトモ今ヤ偉人ノ復讐ヲ恐レ露人ノ窺背ヲ顧ミ一意平和ニ汲汲タリ又何ノ餘力アリテカ兵ヲ遠東ニ出スヲ得ンヤ陸ニ寸地ヲ蠶食シ海外ニ小領地ヲ得ント欲スルニ過キス故ニ寧ロ東洋ニ與國ノ援助ヲ得ント欲スルノ志望アルヲ見ルノミ貴國之ヲ利シテ以テ其援ト爲ス亦難事ニ非サルヘシ

以太利ハ如何羅馬法王ヲ梵地岡宮ニ閉チ侵地ヲ克復シテ統一ノ政憲ヲ起シ善ク中興ノ偉業ヲ建立シテ苛政ヲ除キ外交ヲ擴張シ儼然ノ海軍ヲ組織シ以テ歐洲强國ノ列ニ入ルト雖トモ中興ノ相將物故シテ文物兵制未タ備ラス財度其宜ヲ失ヒ上下紛擾ニ窮ム且ツ國中文明ノ大事業タル石炭ニ匱シ是レ既ニ將來ノ進運ニ一頓挫ヲトスヘキモノニ非スヤ況ヤ法王隱然敵意ヲ抱キ人心ヲ煽動スルモノアルヲヤ且ツ羽翼未タ就ラスシテ領土ヲ海外ノ末楚亞ニ張ル既ニ其荷擔ニ過ク焉ツ能ク兵ヲ東洋萬里ニ動カシテ其條約改正ニ關渉スルヲ得ンヤ

西班牙ハ領土ヲ東洋ニ占メ貴邦ト密接ノ利害ヲ有ス然レトモ强弩ノ末魯縞ヲ穿タス之ヲ内ニシテハ專制ノ餘風未タ改メス苛察ノ賦稅未タ除カス之ヲ外ニシテハ藩領背反相踵キテ起リ獨立自主ノ國タラサレハ他邦ノ有ニ歸セントスルモノ比比皆是ナリ而シテ西國之ヲ鎭定スル能ハス焉ソ兵ヲ東洋ニ出スヲ得ンヤ且ツ其領土地勢ハ隣國ト利害感情相關スル甚タ鮮シ異日貴邦富强一進海軍優勢ナルノ日ニ至ラハ皆其好鄰地トナリ好與國トナランノミ是ニ於テ老偉人ハ肅然聲ヲ勵マシテ曰ク露國ハ貴邦ノ法權稅權ニ於テ痛痒殆ト相關セス故ニ其改正ニ反對セサルヤ必セリ極力反對センモノハ英國ナラン利害ノ關係尠少ニ非サレハナリ但願フニ露ハ此改正ヲ利用シテ貴國ニ結ヒ貴國ノ歡心ヲ得テ英ノ氣ヲ挫サシメ以テ英ノ異議ヲ壓ハン是レ亦貴國ノ利用スヘキ所ナラスヤ蓋シ貴邦ノ條約ナルモノハ唯國民ノ智識ノ如何ニ在ルノミ國民決議ヲ以テ其心トナシ鋭意ヲ擴張シテ實業ハ公論ニ訴フレハ何ノ就ラサルコトカ之レ有ラント

散士乃チ恭シク高誨ヲ謝シ且ツ問テ曰ク高論ノ如クンハ則チ露ニ結ヒテ以テ英ニ備フヘキカ然レトモ僕ハ露ノ信スヘカラサル英ヨリ甚タシキモノアルヲ恐ルト老偉人蹶然トシテ驚クモノノ如ク急ニ答ヘテ曰ク是レアル哉言ヤ英ハ何カントスルノ夕日ナリ其熱炎炎タルモ猶忍フヘシ露ハ將ニ昇ラントスル旭暾ナリ其光未タ灼灼タラス遂ニ人馬ヲ燎爍セン是レ實ニ事勢ノ吾人ニ教フル所タリ豈親ムヘケンヤ豈親ムヘケンヤ毒藥時ニ死ヲ起ス之ヲ用ユルノ如何ニ在リ余ハ唯之ヲ貴邦ノ條約改正ニ利用スヘキヲ謂フノミ夫レ露人ハ六合ヲ併一シ露帝ヲシテ四海ニ君臨セシメント欲スルヤ久矣露人性深沈ニシテ膽大ニ迷信ニシテ堅忍ナリ仁義ヲ取ルノ士人ナク專恣愚民ヲ管領スルノ侯伯アリ是レ露人カ他ノ邦國ヲ滅シ他ノ宗祀ヲ絕チテ毫モ顧ミス四方ヲ剽掠蠶食シテ倦マサル所以ナリ請フ中央亞細亞ノ侵掠ヲ見ヨ高加索計略ノ後露ノ一意橫行實ニ

憚ル所ナク其司法ヲ蹂躙スルヤ今ヤ十歳以上ノ男子ヲ悉ク之ヲ死刑ニ處シ司直ノ官人ノ權國ニ進貢セントスルヤ深ク其漢業ノ借ニ人ヲ嘯シ苟モ其兵ト共ニ追ヒシテ其八萬ニ至ル島若河南ノ沙ニ屠ニセシメ[illegible]殘ニ高麗婦女童幼ヲ遣サス其ニ其種ヲ惡言フニ若伏セサルヤ急ニ之ヲ黃德帝平ノ域ニ歸ヒ從ヘサルモノハ盟國ナリ韃靼ノ一部ニ突厥古ニ種族ナルモノアリ牧畜ヲ業トシテ生ヲ營ム露人侵シテ曰ク河川ハ國家ノ有ニシテ商業ハ皇室ノ專權ナリ汝等何ソ之ヲ用スルヲ得ント嚴民業ヲ失ヒ困窮ノ極逆ニ兵ヲ擧ケテ露ノ殖民地ヲ侵ス是ニ於テ露ハ大軍ヲ遣ラシ韃靼貴人ノ家族ヲ捕ヘ之ヲ獄ニ下シ韃人ニ告ケテ曰ク爾等宜シク達靼斯坦人ト戰フヘシ戰ヒテ克タスンハ爾等カ家族ヲ擧テ盡ク其頭ヲ刎ネント韃人泣テ兵ヲ執テ漢人ニ當リ遂ニ之ニ克ツ既ニシテ韃人ニ命スルニ壘寨營造ノ役ヲ以テス其誅求太タ苛ナリ韃人苛虐ニ堪ヘス遂ニ反旗ヲ飜ヘス露政府討伐五年部落ヲ焼クモノ千有餘二萬人ヲ絞斬シ其壯丁五千人ヲ西伯利亞ノ鑛山ニ驅使シ婦女童幼一萬人ヲ露都ニ送リテ貴族ニ分賜

ス初メ露國西伯利人ヲ役スルヤ蒙古王國ハ北海ヲ以テ支那ノ境界ニ屬シ悉ク之ヲ驅除セント欲シ遂ニ亞細亞ノ河岸ニ軍艦ヲ造築シ冬日雪丹ノ寒氣ヲ冒シ黑龍江畔ニ至ル其陸ヲ開ヒ遂ニ河流ハ德ニ凍ニ至テ一人ノ進ミ通スルモノナカラシムツ總督露國其國ヲ侵スル慘烈ナル行フ最モ其民ヲ虐ム今ヤ邦國ハ百有餘人ノ鼻ヲ割リ耳ヲ割リテ之ヲ荒里ニ放チ見レモノヲシテ震慄悍伏セシム其律ハ力綱略ノ縱横ニシテ其國ノ慘酷ナル斯ク殘酷ノ如シ盡シ露ノ凌暴ハ必ス已ニ征服スル所ナシテ全黨ヲ傳テシムルヲ以テ是レトセス更ニ其近國ニ黨ヲ樹テ以テ互ニ相制セシム伯德ハ遺言ニ曰ク先ツ瑞典ヲ衰セシメテ而シテ後之ヲ蠶取セヨト是レ其始謀ヲ奉スレ者ナリ鳴呼露ノ經略ヤ三百年間方針確立先ツ羽翼ヲ與土ノ瓜分ニ八面使ヘ二カラサル中亞ノ地ニ張リ深仇ヲ淸ニ結ヒシテ鐵鎖ト爲シ以テ全世界統一ノ遠猷ヲ懲ラシメサラントス其志亦壯レサル可ケンヤ其經東ヲ破害セントスルヤ淸朝カ給亞國庫會(忽必烈皇帝ノ遺約ヲ奪フ)忍ヒ寸尺仲武刺威虜將軍ヲシテ進ミテ黑龍ノ江波ニ驚翼ノ影ヲ映セシムル猶弱ヲ示シテ機ヲ窺フモノ數年遂ニ長髮賊ノ內亂ト英佛聯合ノ外寇トヲ利用シテ巧ニ外交ノ術數ヲ揮ヒ一矢ヲ放タス一卒

ヲ費サスシテ容易ニ黑龍江ノ沿岸ヨリ高麗王國ノ豆滿江ニ至ル一帶ノ千里ノ地ヲ割讓シ以テ淸國ノ出口ヲ梗塞シ遂ニ朝鮮ヲ開港セリ今ヤ又我國ノ樺太島ヲ獲タリハ是レ東洋岸ヲ掠奪シ一擧必爭ノ帝王ノ志ヲ實カントスルニ在ルノミ今ヤ猛悍ナル蒙古ノ古族ハ其國ヲ喪シ復タ舊時ヲ存スル能ハス徒ニ若シ實人ニシテ尚ホ行フ黑人ノ境ヲ過クルカ如クナラシ今ニ至ルマテ空シク觀望シテ顧セサル所ノモノハ陸續北千里ノ地用ホト燃料トヲ費ルノ途ナキヲ以テノミ且ツ吾亦必ス露ノ馬關海峽ニ於ケル關係ヲ知ラン露者嘗テ八里國中ノ要地ト計リテ畫策ニ歷田王ヲ謀殺シテ之ヲ多爾河北ニ放チテ唯タ若シ西藏國王ニ意アラハ旅還ヲ許サスト王猶僞悉位ヲ棄テ、獨乙ニ奔ル其人横暴逆黑シテ如何ソヤト散士曰ク僕頃日露帝ノ歷山王ニ答フル書ヲ讀ミ天地正氣弱キ自由大道ヲ照サス而シテ弱肉強食ノ慘ニ陷リ正義伸フルノ期ナキヲ驚セリ昨秋維也納府ヲ過クルヤ偶々歷山王ノ王位ヲ捨ハレテ歸ルニ會フ與國ノ志士大學學生ハ如キ王ノ逆境ヲ憐ミ期セスシテ聚マル者萬衆王ヲ迎ヘテ萬歲ヲ三呼ス僕之ヲ觀テ又正義ノ必ス與ミスル者ナキニアラサルヲ悦ヘリ且聞ク今ヤ露人陰險ノ干涉ハ弱小勃國人ト雖トモ其舊恩ヲ記

セスシテ却テ新痕ヲ潛スニ至レリト果シテ然ラハ則チ兇暴ナル者亦永ク其志ヲ得ヘカラサルカト老偉人曰ク勃國季ニ一英雄斯丹因老夫アリ果斷豪毅露ノ勢威ニ抵抗シ勃國ノ興敗存亡ヲ以テ己ノ任トナス斯人ニシテ政柄ヲ執リ國民之ニ依頼セハ國ヲ興ス難キニ非ス唯恐ル露人之ヲ悪ム蛇蝎ノ如シ能ク免ルルヲ得ルヤ否ヤ蓋シ露人宇内ヲ統一シ坤輿ヲ家トシ政柄教權ヲ總領シテ帝ヲ世界ニ稱セント欲スルハ寤寐忘ルヽ能ハサル所初メ西伯利亜ヲ經略シ東方海ニ據リ海峡



(原本寫眞)　黑龍江岸露人殘虐之圖

ヲ横斷シテ北ハ阿羅斯加ヲ占領シ急ニ七百五十萬ヲ以テ之ヲ北米合衆國ニ讓與シ飜然東向ノ大策ヲ建テタルカ如キ是レ豈東方人士ノ毛髪悚然タラサルヲ得サルモノニアラスヤ抑モ英ノ加奈陀大鐵道ヲ造リ連絡ヲ東洋ニ通スルヤ露ハ西伯利亜大鐵道ヲ計畫シ其枝線ヲ天竺ノ背ニ向ケ其東端ヲ遼東ノ海岸ニ出サントス而シテ其竣工ヲ千八百九十九年ニ期セリ若シ此鐵道ニシテ開通センカ渤海ヨリ莫斯古ニ至ル凡ソ六千五十哩汽車十二三日程ニシテ達スヘシ而シテ莫斯古龍動ノ間僅六十時間上海渤海ノ間及ヒ貴邦ト渤海トノ間共ニ又五六十時間即チ日支諸國ヨリ英京ニ至ル十有七八日ニシテ足ル之ヲ從來ノ航路ノ[illegible]ヲ過ルノ三十六七日大西洋ヲ經テ亞米利加ヲ横斷スルノ二十七八日ニ比セハ其遲速ノ差二倍有半汽車ノ費亦之ニ準ス故ニ西伯利亜鐵道ニシテ竣功セハ東洋ノ貨物乘客復タ英國ノ有ニ非サルナリ露ノ謀臣ノ議ニ曰ク今我國力未タ以テ今世界ト雄ヲ爭フ能ハス東西兩球ニ力ヲ致シ腹背皆敵ヲ作ランヨリハ先ツ全力ヲ衰殘廢亡セル亞細亞ノ諸邦ニ注キ之ヲ虜囚隷僕セシメ或ハ征服シ或ハ懐柔シ以テ其富源ヲ[illegible]國庫ノ富實兵力ノ精強ヲ得タン國勢茲ニ至ラハ世界ヲ擧ケテ敵トナスモ亦畏ルヽニ足ラサルナリ

況ヤ歐ハ同盟抵抗ヲヤ其仇視スル國ヲ煽揚シ以テ互ニ相牽制セシメハ天下坐シテ定ムヘキノミ米ノ如キハ百年ノ後手ヲ下スモ亦決シテ遲キニ非スト財政困憊名狀ス可カラサルヲ顧慮セス歐ヲ貫通スル大鐵道ノ敷設ニ鋭意熱心ナルハ實ニ此議ニ出ツルト云フト散士曰ク聞ク露國上下人心腐敗シ武人賄賂ヲ公行シテ怪マス殊ニ頻年大飢饉ニ遭逢シ野ニ青草ナク餓莩路ニ横ハルト蓋シ内地ノ田制共有ニシテ農民心ヲ地力ニ用キス稅法苛酷ニシテ豐年猶ホ凶歲ノ重斂ヲ賦ス故ニ民其居ヲ佚フ時ナク穀物ノ輸出多キヲ貪リ播種閑荒ノ時ナク地味年年瘠セテ徴求月ニ急ニ鬱蒼タル山林禿落シ洋洋タル河流凋渇シ寒溫節ヲ失ヒ暴風沙ヲ揚ケ亞高山ヲ崩ス而シテ細民無智火酒ニ耽リ非道ノ金錢ヲ借リ八倍十倍ノ利ヲ賦セラルヽヲ顧ミス其一朝小凶歉ニ會シ飢寒ニ迫ルヽハ素ヨリ其所ナリ且ツ政府財政ノ紊亂セル紙幣ノ信用[illegible]ナク商估ノ困惑言フニ堪ヘス是故ニ强ヒテ經濟ノ理ニ抗シ禁令ヲ以テ紙幣ノ價格ヲ把住シ次テ二年間其價格ヲ動カサヽラシメントシ久金一紙幣二ノ制ヲ立テ更ニ金一紙幣二半ノ法律ヲ定ムルニ至ル然レトモ[illegible]ヒ政府爲メニ大損害ヲ蒙リ又政府ノ貴人ハ六

億萬而シテ公債息ト償還額ト一億三千五百萬軍費ハ一億七千五百萬此兩者ヲ合スレハ既ニ歳入ノ半ヲ占ム其財政ノ難澁ナル亦以テ想フヘシ然リ而シテ財度ヲ量ラス民力ヲ憐マス廣漠無人ノ地ニ大鐵路ヲ敷設セントス果シテ此ノ如クンハ能ク其大志ヲ貫クヲ得ヘキカト老偉人曰ク露國ノ財度窮ハ則チ窮ナリ然レトモ未タ吾子ノ聞ク所ノ如ク甚シカラス吾子豈英人ノ言説ヲ偏信スルニ因ルカ蓋シ其無人ノ地ニ大鐵道ヲ敷設スルモノハ是レ實ニ富源ヲ開キ軍備ヲ張ランカ爲メナリ露ノ封境ヤ大生民ヤ蕃シ大鐵道敷設ノ如キ之ヲ遂ケントスルニ於テ何カアラン況ヤ露國特ニ富資ヲ積ミ不時ニ備フルモノアルヲヤ外觀ノ貧富未タ以テ露國ヲ輕重ス可カラサルナリ往昔馬留闕諸邦ノ突厥ニ叛クヤ露ノ謀士以爲ラク反徒ヲ助ケテ其背ニ拊タハ二軍團ノ兵能ク突厥ヲ覆滅スルニ餘力アラント何ソ料ラン兵ヲ交フルニ至リ露軍死傷スルモノ三十萬此レ實ニ露ノ君臣ノ驚駭セシ所列國ノ私ニ悦ビ且ツ祝スル所タリ是ニ於テ露人其國力ノ未タ足ラサルヲ悔ヒ且凶歉荐リニ臻リ虚無黨間ニ乘シテ兇暴ヲ煽動スルヲ恐レ汲汲全力ヲ富源ノ伸張充實ニ注ク而シテ其業未タ就ラサルヲ隱蔽セント欲シ揚言シテ曰ク今上ハ平和ノ帝ナリ仁慈ノ君ナリ世界ノ平和ハ實ニ我露帝ノ賜ナリト誰ソ知ランヤ此平和ノ幕中仁慈ノ帷影驚天動地城ヲ屠リ國ヲ覆ヘスノ經營ヲナサントハ然ラハ則チ所謂平和ノ賜ナルモノハ露人糧穀ヲ積ミ鐵路ヲ敷設シ海軍ヲ擴張スル爲メノ歳月時間ノミ夫レ露國對外ノ志タルヤ人ノ邦ヲ滅シ人ノ土ヲ掠メ其教法政治ヲシテ皆之ヲ露化セシムルニ在ルコト數百年來君臣上下ノ與ニ肝ニ銘スル所烏拉ノ山崩レテ海トナリ黑海ノ水涸レテ陸トナルモ嘗テ其大志ヲ變スルコトナシ凡ソ他ノ邦國ニ在リテハ時ニ隨ヒ人ニ依リテ必ス其外交ノ國是ヲ異ニス故ニ或ハ退讓機ヲ誤リ或ハ劇進方ヲ失フ而シテ露ハ終始一貫時ト人トニ關セス其半世紀間外交ノ爲メニ宰相ヲ更フルモノ僅ニ三人ニ過キス之ヲ他邦ノ歳歳轉換定マラサルニ比スレハ優劣果シテ如何ソヤ嗚呼此滔滔タル逆波ヲ遮ヘテ其禁遏ノ衝ニ當リ邦國ノ爲メ文明ノ爲メ教法ノ爲メ生靈ノ爲メ奮テ天職ヲ全ウスル者宇内其人ナキ歟ト散士曰ク然ラハ則チ露人遂ニ能ク其志ヲ達センカト老偉人曰ク然リ今日ノ大勢ヲ以テ之ヲ言ハハ露ノ實力ハ歐洲ノ覇權ヲ掌握セン散士曰ク然ラハ則チ萬國唯露ノ成ルヲ仰キ進テ暴慾ヲ禁遏スル能ハサル乎偉人豈成算ナカランヤ願クハ高教ヲ垂レヨト老偉人意氣慷慨激スルモノノ如ク勵聲又説キテ曰ク予カ辛苦萬狀故國ノ父老子弟ヲ殺シテ顧ミス悔イサル所以ノモノハ獨リ露ノ今日アルヲ慮レハナリ嘗テ聞ク清ノ林則徐晩年人ノ英佛ノ強暴專恣ヲ訴フルヲ斥ケテ曰ク英佛ハ與ミシ易キノミ唯他年中國ノ大患ヲ爲スモノハ今日好意ヲ表スル露國ナラン吾老矣幸ニ之ヲ見ルニ及ハスト夫レ爝火縹煙ノ中ニ在ルヤ一指ノ能ク息ムル所塘瀧隄穴ノ若キ一撲ノ能ク塞ク所火ノ大澤ヲ燔キ雲霄ヲ炎シ水ノ九江ヲ決シ大原ヲ漸スルニ及テハ三軍ノ衆ヲ起スモ以テ救フ能ハス林氏ノ如キハ蓋シ達識ノ士ト謂フヘシ余往年ノ擧亦實ニ露ヲ後世ニ畏ルルニ出ツルノミ抑〻余ノ宿志タルヤ馬留闕諸邦ヲ連合シテ鞏固ノ同盟大邦ヲ建立シ波蘭ヲ扶植シ以テ保障ト爲シ以テ北狄南下ノ進路ヲ截チ永ク歐洲諸國ノ權衡平和ヲ維持セント欲スルニ在リ蓋シ馬留闕ハ世界ノ耳目ヲ注集シ歐洲ノ危機ヲ一髮ニ繫ク所突厥ノ能ク帝號ヲ今日ニ存スルヲ得ルモ亦馬留闕アルニ因ル其他日亡滅ニ至ルモ亦馬留闕半島アルニ因ラン而シテ異日露ノ大患ヲナスモノモ亦必ス馬留闕ニ在リ馬留闕ノ露國ニ於ケル癰疽ノ體ニ於ケルカ如シ之ヲ抉キテ其毒ヲ除カスンハ毒血遂ニ其命ヲ短ウセン伯德大帝以來露人ハ一日モ馬留闕ヲ忘レサルモノハ

之カ爲メナリ嗚呼形勢此ノ如ク危機亦此ノ如シ此間ニ介スル者豈手ヲ拱シテ他ノ呑噬ヲ俟ツヘケンヤ語ニ曰ク同病相憐ミ同過相和スト馬留闕及葡牙利ハ古來皆言語ヲ一ニシテ風俗ヲ同ウシ藝術ヲ齊ウス而シテ棊布星羅犬牙相錯リ分土既ニ粲ク分レハ則チ勢渙ケ形弱ク聚レハ則チ勢盛ニシテ氣鋭シ故ニ同道ノ諸邦相聯結シテ以テ先ツ突厥ヲ亞細亞ニ退カシメ其歐土ヲ同盟ノ共有ニ歸シ君府ヲ萬國ノ自由港ト爲シ敢テ他國ノ占領ヲ聽サス而シテ希臘ハ海國ナルヲ以テ海軍ヲ養ヒ勃衙俄利亞門底寧克郎ハ其俗勇敢ナルヲ以テ陸軍ヲ張リ羅馬尼ハ土肥エ多惱河ノ良港ヲ領スルヲ以テ專ラ經濟ノ術ヲ盡シ我カ摩駕斯族自ラ進テ同盟ノ牛耳ヲ執リ其勇悍活潑ノ氣象ヲ以テ塞兒比亞人輕薄ノ風ヲ化シ憲政ヲ建テテ民心ヲ定メ無上ノ形勝ニ據リ以テ國威ヲ張ラハ庶幾クハ露國南下ノ潮ヲ絶スル千仞ノ鐵壁トナリ萬里ノ長城トナリ以テ露ヲシテ多惱河岸ニ出ツル一歩ナラシメサルヲ得ン是レ余カ熟計セシ所其兵ヲ擧ケテ墺國ニ叛シ以テ露國ノ反撃ヲ受ケシモ亦唯之カ爲メナリ然ルニ當時獨墺皆露ノ慾望ト余カ本志トヲ覺ラス余カ義擧ヲ目シテ漫ニ自由民權ヲ主唱シ王室及ヒ邦家ヲ危ウスルモノト爲シ唯英米人ノ同情ヲ表シ僅ニ聲援ヲ爲スアルノミ相與ニ我ヲ憎ミ我ヲ妨ケ前狼後虎遂ニ亡國ノ慘ヲ見ルニ至ラシム噫區利美亞ノ役予等ノ獻策ヲ拒ミテ兵ヲ高加索ニ出サス徒ニ濟城ノ攻圍ニ惱ミテ大計ヲ誤リ拿破倫三世ノ墺ト伊ニ戰フヤ普横對ラントシテ遂ニ來ラス是レ天ナリ將タ誰ヲカ怨ミン荏苒死ニ瀕シテ往昔ヲ回顧スレハ眞ニ一場ノ夢ノミト散士問テ曰ク百餘年來歐ノ識者皆突厥ノ老朽廢滅ノ運ニ久シカラサルヘキヲ豫言ス而シテ今猶依然國ヲ保ツモノハ何ソヤ豈識者ノ見ル所誤レルカ露ノ勢未タ東西兩洋ヲ震盪シテ撼天動地ノ大活劇ヲ演セサルニ因ルカ抑々金門峽ノ開放（突厥埃及ト平和條約ヲ締結スルヤ實ニ露ノ援助ニ依ル是ニ於テ翌年攻守同盟ノ約ヲ結ヒ他國ノ軍艦ヲシテ海峽ヲ通航セシメサルヲ約セリ而シテ再ヒ埃及ト戰フニ及ヒ露ハ自ラ前約ヲ拒セス是ニ於テ倫敦公書再ヒ突ヲシテ外艦ノ通スルヲ禁セシム未タ幾ナラス二六國ハ美國ノ戰ニ據リ英佛軍艦黑海ニ入リテ前約ヲ破ル乃チ四十一年ノ約ヲ結ヒテ又タ海峽ヲ禁シ專テ之ヲ伯林會議ニ確定ス是レヨリ露國ノ艦隊黑海ニ閉チラレ復タ海峽ヲ踰エテ地中海ニ出ツル能ハス此レ實ニ露ノ死力ヲ盡シテ爭フ所歐洲列國ノ治亂此ニ匝ル）セサル突厥能ク其命脈ヲ繫クニ因ルカト老偉人曰ク然リ予少壯突厥ノ美術醫術ヲ禁シ智能ノ發達ヲ杜絶シ婦女ヲ卑汚シ人身ヲ賣買スルヲ見聞シ以テ明世ノ賊ト爲シ久シカラスシテ必ス滅亡スヘキヲ信セリ後戰敗レテ久シク突厥ニ寄寓シ深ク其眞相ヲ看テ予モ亦歐人ノ思想ヲ以テ觀察ヲ誤リシヲ知ル若シ露ヲ控制スルノ英雄半島ニ崛起スルニ非サルヨリハ長ク突厥ヲ扶持シ以テ露ヲ防クノ鐵牆ト爲サヽルヘカラス且ツ突國ノ大學生及ヒ少壯ノ外交家中有爲ノ士亦少カラス英主賢相之ヲ指揮シテ能ク其勇決ノ天性ヲ利用シ三大洲ニ跨ル億萬ノ回回教徒ヲ連ネ教法ノ迷信ニ乘シテ之ヲ驅使セハ水火モ且ツ踏マシムヘシ聞ク亞弗利加ノ沙漠中ニ生息スル回教ノ異人種ノ一族ハ疾足ノ駱駝ニ跨リ奔騰スルコト輕捷飛鳥ノ如ク草實數顆嚢水一杯能ク終日轉戰馳騁スルニ耐フト豈恐ルヘキ種族ニ非スヤ吾子亦駄法味ノ娘子軍アルヲ聞クカ人ノ生血ヲ啜リ狂呼敵陣ヲ衝ク殺伐ノ蠻人猶ホ震恐スル所ト此國兵士ノ將ニ出陣セントスルヤ先ツ數十人ヲ神前ニ屠リテ軍神ニ供シ誓テ曰ク必ス數倍ノ敵ヲ斬リテ再ヒ大祭ヲ擧ケント擧動慓悍ナルモノハ皆轘殺ス故ヲ以テ殺伐性ヲ爲シ陣ニ臨ミ敵ニ對スル兒梟殘忍逆ニ男子ノ上ニ出ツ敵ノ面皮ヲ剝キ敵ノ耳鼻ヲ截シ面ニ敵血ヲ塗リテ功名ノ徽章トナス嘗テ佛軍ト戰ヒ大ニ之ヲ懲罰シ最モ殘忍ヲ極ム佛軍疑テ人類ニ非スト爲ス然レトモ其面貌醜陋ナラス平時ハ婉娩聽從シ溫和ナル尋常婦人ニ異ナラス白布ノ長裾ヲ曳キ藍色ノ衣袖ヲ纏シ弓銃ヲ携ヘ毒箭ヲ帶フト又亞比斯尼亞王ノ如キ英雄ノ姿ヲ備ヘテ心ヲ歐ノ兵法ニ傾ク此種族ニ授クルニ銳利ノ兵器ヲ以テシ歐人

ト炎風熱沙ノ間ニ戰ハシメハ則チ勝敗ノ數知ルベキノミ而シテ此數者皆突厥ノ掌中ニ在ルニ非スヤ同盟ノ實ヤ擧ケテ言フ可カラス雖トモ英雄豪傑能ク之ヲ誘導利用セハ亦以テ國ヲ興スニ足ラント敝士又問テ曰ク歐ノ將來ヲ揣摩スルニ隆替興亡果シテ若何ト老偉人曰ク難哉問ヤ夫レ邦ノ治亂ハ天運地濟輪轉廢ムナク春秋ノ代謝アルガ若ク日月ノ晝夜アルカ若シ終テ復タ始マリ明ニシテ復タ晦ク能ク其紀ヲ得ルコト莫シ故ニ曠古以來未タ嘗テ隆昌不變ノ邦國有ラス蓋シ既往ヲ尋ネテ之ヲ來今ニ推セハ歐ノ繁華ハ新世界ニ集リ更ニ轉シテ濠洲ニ遷移シ循環シテ舊世界ニ復歸センカ且ツ歐洲ニ三大禍ノ陰伏スルアリ其破裂早晩遂ク可カラス三大禍トハ何ソヤ曰ク軍備過大ノ禍曰ク合從乖離ノ禍曰ク貧富懸隔ノ禍是ナリ夫レ歐州各國ノ互ニ競ウテ軍備ヲ擴張スルヤ殆ト其極ヲ知ル可カラス甲國十萬ノ兵ヲ增セハ乙國亦十五萬ノ兵ヲ增シ乙國無比ノ巨艦ヲ築ケハ丙國無前ノ巨礮ヲ備フ是ニ於テ各國億兆ノ資ヲ糜スルヲ顧ミスシテ唯兵力ノ他ヲ凌ク能ハサルヲ之レ憂フ殊ニ海軍ノ擴張ヲ競フヤ其費ス所遠ク陸軍ノ上ニ出ツ北米合衆國ノ如キ尙且ツ億萬金ヲ投シテ大戰闘艦數十隻ヲ造リ以テ自衛ニ供セントスルニ至ル列國ノ軍備ニ急ナル以テ想見スヘシ今試ニ既往三十年來ノ軍事ニ徵スルニ區利美亞ノ役費所ス二十億萬以太利ノ役三億萬米國南北ノ役七十四億萬普佛ノ役三十五億萬而シテ之カ爲メ人ヲ殺スコト三十年來二百五十萬人其財ヲ費シ人ヲ失フノ多キ甚驚ク可キニアラスヤ且現今各國ノ軍費ハ露四億二千百萬獨二億四千五百萬英一億七千五百萬歐洲列國ヲ合スレハ實ニ十三億萬而シテ其平時養フ所ノ兵勇ハ露三百七萬獨五十八萬佛五十二萬嗚乎世人是ヲ平和ヲ維持スルニ缺ク可カラサルノ價ナリト謂フ然レトモ兵豈平和ノ具ナランヤ要スルニ其侵略功名ニ資スルニ過キサルノミ故ニ互ニ侵略功名ヲ畏レ互ニ其兵ヲ加ヘ互ニ漸ク其資ヲ增ス而シテ遂ニ其究極スル所ヲ知ラス其兵ト資トヲ給スルノ人民果シテ能ク永ク其負擔ニ堪フヘキカ人民ノ產限アリ軍國ノ費限ナシ焉ソ能ク困弊勞憊背ヒ傾覆セサルヲ得ンヤ夫伊太利ノ如キ既ニ已ニ揭焉其徵ヲ見ルヘキモノアリ何レノ邦國カ能ク然ラサルヲ得ンヤ是レ所謂軍備過大ノ禍ニ非スシテ何ソ嗚乎殺人滅國ノ費ヲ移シ六百萬ハ壯丁ト十三億ノ巨資トヲ併セ之ヲ利用厚生ノ途ニ用ヰ鰥寡孤獨告クル無キ可憐ノ人ヲ救フハ資ニ供セハ則其人生ノ幸福快樂ヲ增進スル其レ果シテ幾千ソ豈長嘆セサルヲ得ンヤ然レトモ此禍ヤ尙未タ慘烈ナリト謂フ可カラス其恐ルヘキハ合從乖離ノ禍ニ在リ今ヤ各國或ハ利害ニ因リ或ハ地勢ニ因リ或ハ宗敎ニ因リ或ハ人種ニ因リ二國合從シ三國連衡シ僅ニ公法ニ據リテ列國ノ均勢ヲ保維シ陽ニ婚姻ヲ結ヒ親和ヲ表スト雖トモ陰ニ猜擇猜忌是レ專トシ智巧愈々極マリ權詐益々深ク情僞相感シ利害相攻メ禍害ノ來ル氣機已ニ召ス早晩合從乖離シ連衡解散シ和親破裂スルハ免レサル所ナリ若シ其時ニ當ランカ智術ノ角逐未曾有ノ戰闘ヲ暴發シ財ヲ供シ人ヲ殺ス殆ト際涯ヲ測ル可カラス烽燧郊ニ盈チ死亡野ヲ蔽ヒ人民蕩析老弱流離物產凋傷藝術歇絕シ其敗者ハ航海貿易製造ノ諸機關擧ケテ盡ク之ヲ勝者ニ委シ無上ノ重稅ヲ負擔シテ復起ツ能ハサルノ慘狀ニ陷リ各國ノ地位之カ爲メニ顚倒シ文明ノ伸縮亦豫想ノ外ニ出ツルモノアラン歟然レトモ此禍ヤ尙未タ慘烈ノ極ト謂フ可カラス凡ソ慘ノ又慘ナルモノハ貧富懸隔ノ潰裂ヨリ來ル禍ニ在ラン近時發明技術ノ增進スルヤ富者ハ益々富ミ貧者ハ益々貧ニ貧富ノ差貴賤ノ別日ニ以テ漸ク遠ク富者ハ優游逸豫シテ玉ヲ龍盤ニ炊キ貧者ハ役役筋骨ヲ勞シテ尙飢ニ路頭ニ泣ク是ニ於テカ天賦貧富平均說社會黨論勢

力ヲ得ン是ニ對シ富者ハ金力ヲ利用シ法權警察ヲ以テ之カ撲滅ヲ謀リ貧者益ミ不平ニ堪ヘス提携保庇各國ヲ連絡シ脅迫咆哮遂ニ紛擾破裂スルヤ必セリ此禍一タヒ破裂センカ其慘害眞ニ名状スヘカラス上流中流ノ人盡ク其禍ニ沒シ大厦高樓一炬ニ燼シ千年ノ珍寶死灰ニ歸シ都府殿宮ノ址芊芊ノ荒草ヲ生シ富家豪族ノ第宅邸壘ハ敗瓦ヲ留メ空ク是レヨリ一變シテ世界ノ道義社界ノ制裁全ク其面目ヲ異ニスルニ至ラン天下ノ變豈之ヨリ大ナルモノアランヤ此大禍亦遂ニ避クヘカラサルカ但僅ニ一縷ノ望ヲ繫クヘキモノハ學者仁人能ク國家社會主義ヲ以テ貧富ノ間ヲ調和シ之ヲ國家社會ノ事業ニ應用スルノ如何ニ在ルノミト說キ了リテ長嘆スルモノ少時既ニシテ更ニ話頭ヲ轉シテ曰ク貴國維新中興以來僅ニ二十餘年長足ノ進歩ヲ爲シ舊政府ノ鎖港ノ僻說ヲ破リ開國ノ政策ヲ斷行シタルハ宇內未曾有ノ盛事ト謂フヘシ是レ當ニ聖主ノ鑑明英武ニ由ルヘシト雖トモ亦翼贊ノ英雄功臣ノ偉略經世與リテ力アル者アラン願クハ其英雄ノ姓名風采ヲ聞クコトヲ得ント散士答ヘテ曰ク是レ唯先帝英邁今上叡武ノ致ス所佐命有功ノ臣僚ナキニ非ス雖トモ以テ偉人ニ告クヘキノ英雄ナキヲ如何セン蓋シ歐米人片言ヲ聽キ卽斷シテ曰ク日本ノ開明ハ開港ニ基ス開港ハ維新元勳ノ主唱セシ所ナリト是レ全ク其眞相ヲ誤ルモノノミ維新佐命ノ功臣ハ元ト鎖港論者ニシテ舊政府ハ開港ノ主張者ナリ幕府國ヲ鎖ス三百年爲メニ理學ノ智識ヲ啓ク能ハサリシト雖トモ爲メニ昇平ヲ保チテ固有ノ制度文學技藝ヲ發達セシメタルノ功ヤ大ナリ且其晩年歐米ノ文物ヲ取テ利スヘキヲ覺ルヤ或ハ有爲ノ士ヲ奬勵シ外人ニ就テ天文兵學築城航海ノ諸術ヲ學ハシメ或ハ造船所ヲ起シ或ハ學校ヲ設ケ或ハ學生ヲ海外ニ派遣シ其鋭意他ノ長處ヲ我ニ收メントスルヤ力メサルナク到ラサルナシ今日ノ大學及ヒ海陸軍造船所ノ如キハ皆舊政府ノ遺物ナリ舊政府將軍ノ世子巴黎ニ遊學シテ拿破侖三世ニ賴ル亦其開國主義ヲ取リシヲ知ルヘシ要スルニ舊政府ハ西洋ノ文物ヲ採擇シ日本ヲ開明ノ域ニ導キ却テ世ノ非難ヲ受ケ遂ニ顚覆スルニ至リシノミ而シテ新政府ハ元ト攘夷家ノ建ツル所ト雖トモ全ク前說ヲ變シテ開國ノ主義ヲ襲キ更ニ擴張大成シテ今日ノ隆盛ヲ致スノミト老偉人曰ク果シテ然ルカ始メテ其詳ヲ聞クヲ得タリト因テ又問ツテ曰ク貴邦初メ各國ト締盟スルニ當リ何ヲ以テ能ク宗教ノ衝突紛亂ヲ起サヽリシヤ何ヲ以テ封建諸侯外人ニ煽動セラレ國內分裂スルヲ免レシヤト散士曰ク是レ國民權國ノ志氣ト米人公義ノ賜トニ因ル若シ我國ヲシテ初メ歐ノ强國ト締盟セシメハ或ハ拒囘ス可カラサルノ禍根ヲ遺セシモ亦未タ知ルヘカラス嘗テ歐ノ一强國我が國勢ノ危ヲ見テ列國分割占領ヲ計畫セシコトアリ露ハ我對馬島ヲ侵掠セシコトアリ英ハ印度ノ故智ヲ學ヒ德川政府ニ好カラサルモノヲ煽動セシコトアリ然レトモ我邦人互ニ干戈ヲ交ヘテ戰ヒ且ツ敗ルコトアルモ未タ嘗テ外人ヲ援キテ同胞ヲ伐チ猶其望ヲ達セントスルモノナシ是レ大和民族ノ聲カ萬邦ニ秀ツル所アルニ因ルカ且ツ米國正義公道ヲ執リテ常ニ我邦人ヲ啓發シ事每ニ忠告スル有ルアリ故ニ嘗ハ他ノ責積ヲ傷シ國威ヲ損セサルヲ得タリ宗教ノ衝突ニ至リテハ三百年前天主教ノ西南島ニ叛亂スルアリ爾來邦人相警戒シテ輕ク外教ヲ信奉セス且ツ中人以上ハ神州建國ノ大義ト孔孟ノ倫理トニ涵濡セラレテ篤ク忠孝仁義ノ說ヲ信奉シ他ノ宗教ヲ視ル甚タ淺シ況ヤ耶蘇教典ノ如キ我歷史ト相矛盾シ之ニ從ヘハ我二千五百年ノ歷史ハ盡ク虛妄ヲ傳ヘ我四千萬ノ祖先ハ皆無知ノ罪人トナルヲヤ佛教國內ニ弘通スル千有餘年僧侶十二萬ノ多キ國民崇拜信奉スルニ遑キサルノ狀アルハ歐米人ノ想像スル能ハサル所ナラ

ント老偉人釋然節ヲ拊テ曰ク嗚呼是レ天禍ト謂フヘキノミト散士又問ウテ曰ク苦樂武辨ノ諸君子猶健在ナリヤト老偉人稍ミ首ヲ垂レテ曰ク諸友既ニ黃壤ニ去レリ余ト苦樂ヲ與ニセシ者一人此世ニ生存スルナシ嗚呼人ノ此世ニ在ル望ム所アルカ爲メナリ既ニ望ム所ナシ生ハ死ノ勝レルニ如カス余ハ諸友ノ幽冥ヨリ來リテ早ク迎ヘ去ルヲ待ツノミト更ニ語ヲ轉シテ曰ク想フニ子ノ年齒三十ヲ超エサルヘシ努力セヨ男兒ノ事業ハ三十以後ニ在リ夫レ少壯事ニ當ルノ邦ハ興リ老朽責ニ任スルノ國ハ振ハス之ヲ歷史ニ徵スルニ皆然ラサルナシ子其レ努力セヨ聞ク我カ故山今ヤ少壯者多ク事ニ任シ責ヲ負フト聊以テ人意ヲ強ウスルニ足ルト時ニ夕陽西ニ沈ミテ窓影漸ク昏ク傾襟既ニ盡ク散士乃チ恭シク辭謝シテ將ニ室ヲ出テントス老偉人閒ク散士ノ手ヲ握リテ曰ク余年既ニ八十有三復タ相見ルノ期勿ラント散士愴惻悵悵トシテ去ル古人曰ク孔丘墨翟地無クシテ君トナリ官ナクシテ長タリ天下ノ丈夫女子頸ヲ延ヘテ之ヲ安利スルヲ願ハサルナシ明四海ヲ照ラシ名後世ニ施シ天地ニ達シ秋毫ヲ察分スト豈斯老人ノ如キヲ謂フカ

歐大陸ヲ歷遊スルモノ歲餘遂ニ去リテ龍動ニ航ス

時ニ緬甸占領ノ議英國會議場ニ喧シ抑ミ緬甸王朝ノ亡滅スルヤ天下皆謂ラク緬甸王底母暴戾殘忍國民ヲ壓虐シ外人ニ信ナク遂ニ英人ヲシテ干戈ヲ動カスノ已ムヲ得サルニ至ラシムト其實然ラス蓋シ英ノ禍心ヲ包藏スルヤ久シ曩ニ下緬甸ヲ蠶食シ尋テ佛ノ東京ヲ占領スルニ及ヒ印度ヨリ清國ニ通スル最便ノ要路タル辨噶灣ト雲南トヲ連絡スル雷窩泥河ノ主人タルヲ渇望セリ然レトモ釁ヲ開クノ口實ナキヲ苦ミ屢ミ非道ノ要求ヲ爲シ以テ爭端ヲ挑發セントス會ミ英人ノ組織セル孟買緬甸商會緬甸政府ト契約シテ麻栗樹（一名印度柏材ナリ）ヲ採伐ス英人ノ狡猾ナル約ヲ破リ濫伐シテ遺ス所ナシ緬甸政府之ヲ怒リ律ニ照ラシテ材價二倍ノ科料ニ處ス人ノ財貨ヲ盜ムモノ皆其二倍ノ科料ニ處ス其國法ナリ英人以テ不當トナシ印度太守ノ裁判ニ附センコトヲ要求ス然レトモ緬甸自ラ國權ヲ拋棄シ自國ノ犯罪ヲ以テ遠ク他國ノ裁判ニ附スルヲ肯セス是ニ於テ兩國論爭結テ解ケサルモノ數月英政府遂ニ三條ノ要求ヲ提起シテ曰ク第一英ノ使節ヲ優待スヘシ第二森林伐採ノ案ヲ以テ印度太守ノ裁決ニ任スヘシ第三首府萬朶麗駐劄領事ニ一百ノ兵ヲ附シ其護衛ニ充ツヘシ此三條ノ要求ヲ容レスンハ英ハ直ニ開戰ヲ公布シ緬甸全土ヲ蹂躙セント緬甸決然之ヲ拒絕シ援助ヲ佛政府ニ乞フ佛ハ利害ノ關係最モ大ナルモノアレハナリ然レトモ當時佛ハ英ノ感情ヲ害スルヲ怕レテ敢テ援ケス是ニ於テ緬甸ハ遂ニ孤立シテ羸馬弊甲弓ヲ張リ鉾ヲ揮ヒ以テ軍器精鋭ノ英兵ト戰ハサルヲ得サルニ至レリ談判破ルヽヤ英兵直ニ萬朶麗都門ノ砲臺ヲ轟擊シ大砲三十二門ヲ毀チ進テ王宮ヲ圍ミ國王王妃王太后世子四部王文武官僚七十三人ヲ擒ニス萬朶麗ノ宮中珍寶山ノ如ク財貨丘ノ如キモノハ擧ケテ皆英兵ノ掠奪スル所ト爲ル明日英兵王ヲ面縛シテ宮門ヲ出テ降伏ノ式ヲ英將ノ前ニ行ハシメ卽日英船ニ囚ヘテ遠ク英領孟買ノ近傍奈地留ノ僻境ニ放ツ嗚呼腕力能ク正理ヲ壓スルノ確信ヲ服膺スルモノハ世間豈啻獨リ比斯璐克ノミナランヤ後二十日忠義ノ士王子邁陰善ヲ擁シテ勤王ノ兵ヲ興シ萬朶麗ヲ恢復セント欲ス遂ニ其志ヲ得ス其後義ヲ唱ヘ兵ヲ擧クル者今ニ至ルマテ尙踵ヲ接ス然レトモ隨テ起レハ隨テ敗レ風蕭蕭空シク壯士ノ衣ヲ吹キ雲黯黯徒ニ落日ノ光ヲ蔽ヒ復タ孔雀ノ翠旗ヲシテ萬朶麗ノ城上ニ飜飜タラシムル能ハス是ニ由テ之ヲ觀レハ緬甸ノ君臣決シテ狂暴無狀

ナル英人ノ言ノ如キモノニ非ス又怯弱ナルニ非ス萬象蘭陷落ノ日或ハ稽侍中ガ血ヲ染メ或ハ顏常山ノ舌ヲ拔クモノアルヤ必セリ而シテ事英人ニ秘セラレ世人之ヲ知ルニ由ナシ嗚乎千年ノ王廷一朝ニシテ忽チ空シク萬斛ノ積寃愈〻深クシテ愈〻埋マル其悲慘ノ狀之ヲ國ノ縊死ト稱スルモ可ナリ

散士一日英國議會ヲ覽ル時正ニ緬甸占領ノ可否ヲ論爭ス自由黨ノ領袖斯密士大ニ其失計ヲ排斥シテ曰ク緬甸ノ遠征ヤ初メ一萬ノ兵ヲ要シ



緬甸國亡滅ノ圖

今ヤ三萬ノ多キニ至ル其軍費百五十萬ノ豫算ハ超エテ二百五十萬トナリ忽チ將ニ二千萬タラントス其故如何請フ嘗試ニ之ヲ諸君ノ前ニ論セン夫レ大英國ノ兵ヲ緬甸ニ動カスヤ其暴君ヲ廢シテ其民ヲ弔スルニ在リ然ルニ反テ其全土ヲ併呑シ其宗祀ヲ絕チ千年連綿タル邦家ヲシテ亡滅ニ至ラシム故ニ緬甸人民憤慨シテ曰ク英旗ノ下ニ屈スルハ寧ロ死スルニ若カサルナリト擧國聲ヲ同シ戈ヲ負ヒ戟ヲ執ル而シテ英人ノ之ヲ鎭壓スルヤ苛虐殘暴爲メニ益〻其敵愾心ヲ奮起セシム蓋シ緬甸人民國王底母ノ酷虐ニ苦ムヤ尙シ然レトモ宗ヲ覆ヘシ祀ヲ絕チテ外人ノ治下ニ立ツハ終身國王ノ虐壓ヲ受クルヨリモ痛心悲傷スル所タリ反旗ヲ飜ス者前後踵ヲ接スルハ豈コレカ爲メニ非スヤ然ルニ當局者之ヲ辯シテ曰ク緬甸ノ占領ハ印度ヲ保護スルカ爲メノミ印度ヲシテ益〻隆昌ナラシメンカ爲メノミト奚ソ其レ然ランヤ印度國會ノ決議ニ曰ク印度人民ハ緬甸ノ併呑ニ反對ス不幸ニシテ之ヲ英領ニ併合スルアルモ印度政府ノ治下ニ置カシムヘカラスト印度太守モ亦曰ク緬甸ノ占領ハ印度人民ノ意志ニ反スト然ルニ當路者尙言ヲ印度ノ保護ニ託ス其言ノ虛ニシテ事ノ非ナル知ルヘキノミ嗚呼若シ果シテ其志下緬甸ノ安寧ヲ保ツニ在ラン

カ虐主ヲ廢シテ其民ヲ善クセハ則チ可ナリ何ソ七十餘人ノ王族アルヲ顧ミサル何ソ賢ヲ其中ニ擇ヒ王位ニ卽ケテ良政ヲ布カシメサル其志初メヨリ上緬甸ヲ安シ下緬甸ヲ保護スルニ非スシテ全ク占領掠奪ヲ恣ニスルニ在ルヤ知ルヘシ戰ノ將ニ起ラントスルヤ諸新聞紙嘖ニ當局者ノ意ヲ迎ヘテ曰ク緬甸王ハ暴主ナリ約ニ背キ誓ヲ破リテ顧ミル所ナシ此ノ如キ惡王ハ天下ノ爲メニ征服セサルヘカラスト嗚呼約ニ背キ誓ヲ破ルノ國王天下何ソ限ラン遠ク之ヲ緬甸ニ求メサルモ近ク四隣ニ接スルニ非スヤ而シテ近隣ノ誓ヲ破リ約ニ背クノ國君ニ對シテハ敢テ天下ノ爲メニ宣戰ヲ布告シ其君ヲ廢シ其國土ヲ占領スヘキヲ痛論セサルハ何ソヤ彊國ニ屈シテ弱國ニ伸フ是レ豈堂堂正道ヲ行フ大英國ノ行爲ナランヤ若シ吾人ヲシテ緬甸ニ干涉セス其王其民ヲシテ其國事ヲ料理セシメハ未タ亡國ノ慘狀ヲ見ルニ至ラサルヤ必セリ曾テ埃及遠征ノ時ニ當リ我當局者公言シテ曰ク英國若シ之ヲ取ラサレハ佛國之カ機先ヲ制セント何ソ其暴橫ノ憚ラサルノ甚タシキ丹那博士曰ク英人ハ普天ノ下最モ多ク土地ヲ盜ミシ人民ナリト吾人ハ此言ヲ排除スルニ辭ナキヲ悲ムナリ龍動時事ノ緬甸通信ニ曰ク今ヤ英兵緬甸ニ駐屯スルモノ三倍而

シテ盜賊國中ヲ横行シ亂民四方ニ蜂起シ殆ト無政府ノ慘状ヲ極ムレトモ之ヲ鎭撫シテ生民ヲ塗炭ニ救フ能ハス且ツ下緬甸ノ如キ英ノ版圖ニ入ル既ニ六十餘年今ヤ亂民黨ヲ結ヒテ白晝横行シ家ヲ焚キ財ヲ掠メ良民生ヲ聊スル能ハス是レ皆不正ナル上緬甸掠奪ノ餘毒ナリト若シ萬朶府陷落ノ後今日ニ至ルマテ鎭定ニ歸セサルモノハ鎭撫其人ヲ得ス施設其宜キヲ失フニ在リ夫レ萬朶府ノ殆ト攻メスシテ降リシハ緬甸人ノ性怯弱ナルニ非ス國王ノ虐政ヲ厭ヒ之ヲ廢シテ明君賢主ヲ推戴セント欲セシニ在リ故ニ閣僚近臣時ニ反間倒戈スルモノアリ此輩皆謂ラク英ノ來襲ハ今王ヲ廢シ代フルニ賢主ヲ以テスルノ義擧ニ出ツト其陷落後二十日一士ノ我英兵ニ敵セントスルモノ無キ以テ見ルヘシ是時ニ當リ正正堂堂恩威並ヒ行ハハ則チ緬甸ノ國事豈此慘境ニ沈淪スルニ至ランヤ且我將士降人ヲ見ル蟻螻ノ如ク刻薄殘忍薫蕕ヲ分タス寃枉天ニ籲ヒ無辜地ニ哭スル而シテ督府ノ驕傲ニシテ敵状ニ儱侗鹵莽ナル進軍ハ風景ノ賞翫ニ消磨シ四千ノ兵ヲ印度ニ歸休セシメテ萬朶府都ハ殆ト守兵ナク上緬甸ノ守備僅ニ六千ニ滿タス總督ノ都ヲ去ルヤ反徒蠭ヲ旋ラサスシテ起リ城門屢ミ危ク威力殆ト地ニ墜ツルコトヲ致ス我當局者ハ戰爭占領ノ巨費ヲ勞

來懷柔ニ費シ泰然經紀シテ善後ノ籌ヲ運ラスヘキヲ忘レ輕ミシク侵略ノ結果ヲ求メテ直ニ償費ヲ戰敗國人ニ加賦セントス是レ大ニ暗ク國勢ニ通セサルノ甚シキナリ加之我政府ノ戰後ヲ經略スル宜シク經歷ニ富ミ事理ニ通シ毅然トシテ威望アル行政官僚ヲ派遣シ以テ其人心ヲ收攬スルヲ務ムヘシ然ルニ妄リニ白面ノ書生無賴ノ豎子ヲシテ鎭撫ノ大任ニ當ラシム是ニ於テ弊竇百出施政其緒ヲ得ス孳孳晝夜ノ劇務ニ堪ヘスシテ病ヲ發スル者アリ悠悠閑坐食ヲ貪リテ弄牌ニ日ヲ消スル者アリ官職ヲ利用シ商估ト結託シ唯利是レ圖ルモノアリ施政方ナク任用道ヲ失ヒ或ハ監獄ノ看守ヲ擧ケテ判事トナシ或ハ一萬四千方里ノ廣キヲ擧ケテ唯一警部ト一巡査トニ任スルニ至ル豈啻法治國ノ英人ヲシテ寒心セシムルノミナランヤ緬甸人ヲシテ實ニ恐怖ニ堪ヘサラシム百事之ヲ以テ推ス可シ嗚呼緬甸ヲ占領スルノ公義ニ悖ル此ノ如シ而シテ其經營ノ方ヲ誤ルヤ亦此ノ如シ是レ豈大英國ノ名譽ヲ汚スノ大ナルモノニアラスヤト

佳人之奇遇 八編

佳人之奇遇 巻十五

散士英國ヲ辭シ將ニ米國ヲ經テ故山ニ歸ラントス船愛蘭ノ駒印斯蘭港ニ泊ス會〻新聞ヲ閲スルニ一報アリ曰ク愛蘭ノ雄辯家於武刺圖已寧流ノ密使ヲ帶ヒ英領加奈多ニ航シ愛蘭人ノ爲メニ萬丈ノ氣ヲ吐カントス彼岸ノ同志之ヲ待ツ大旱ノ雲霓ヲ望ムカ如シト一友卒然肩ヲ拊テ告ケテ曰ク於氏一行小艇ニ駕シテ乘船ス中ニ絶世ノ佳人アリ紅顏豐肌美ナル玉ノ如ク姿態嫋嫋香露滴ラントス吾子蓋ソ早ク起テ之ヲ觀サルヤト散士笑テ曰ク戯ルヽ勿レト既ニシテ巨鯨殷殷鰲ヲ拔テ大西洋ニ出ツ時ニ天暮レテ纖月眉ノ如シ散士船樓ノ長椅ニ安坐シ遙ニ歐ノ一角ヲ水烟模糊ノ際ニ望ミ我所思行ノ疊句ヲ微吟ス忽チ縠縠散士ノ衣ニ觸ルヽモノアリ顧ミレハ則チ一女子ハ輕裳ヲ微風ニ曳キ散士ノ背後ヲ歩シテ欄頭ニ立チ千里ノ海濤ヲ眺矚スルナリ唯其面ヲ覗フニ由ナシ一友密ニ笑テ曰ク佳人袖ヲ以テ故ラニ予カ背ヲ摩ス豈予ニ意アルカト二三ノ同人相和シテ哄笑シテ散士ヲ揶揄ス散士之ヲ制止シテ曰ク想フニ彼ハ良家ノ娘子淒リニ不敬ノ語ヲナス勿レ若シ邦語ヲ解セハ予等其レ之ヲ如何セント時ニ美人斜ニ散士ヲ眄ル何ソ圖ラン正ニ是レ紅蓮ナラントハ紅蓮笑ヲ含ミ手ヲ提テ徐ニ曰ク妾早ク郎君ノ此ニ在ルヲ知レリト同人此狀ヲ視テ皆倉皇散シ去ル船頭寂寞唯新月ノ雙影ヲ照スアルノミ散士急ニ語リテ曰ク大西洋上嘗テ二妃カ賦スル所ノ我所思ノ詩ヲ誦シテ忽チ令孃ニ遇フ豈奇ナラスヤ抑〻令孃ノ惡魔王羅ノ巣ヲ脱シテ何クニカ在ル紅蓮曰ク嘗テ呈スル所ノ書能ク郎君ニ達セシヤ當時妾巴黎ヲ脱シテ將ニ伊太利ニ走ラントス前途ノ危難測リ難ク尺素爲メニ事情ヲ悉サス唯今ニシテ當時ヲ思ヘハ慄然トシテ再ヒ寒戰ヲ覺ユト散士急ニ問ウテ曰ク願クハ其詳狀ヲ聞カント紅蓮曰ク妾踪水ヲ出テヽ佛京ニ入ルノ夕街上ヲ歩シテ縮日宿スル所ノ旅館ノ娘子ニ邂逅ス是レ實ニ妾カ災厄ノ濫觴ナリ明日薄暮妾旅亭ノ回廊ヲ歩ス階前ニ密語スルモノアリ諦視スレハ則チ王羅ノ僕吏ト耳語スルナリ妾カ此言聞ノ驚キ果シテ如何ソヤ胸襟激動呼吸定マラス周章行李ヲ室内ニ理ムルニ暇ナク躓蹶トシテ他ノ階ヲ下リ疾歩シテ小路ニ入リ一夜ヲ小旅亭ニ過リ翌朝汽車ニ搭シテ伊太利ニ向フ既ニシテ日將ニ午ナラントス一停車場ヲ過ク妾果物ヲ購ハント欲シ窓ヲ開キテ四方ヲ望メハ何ソ圖ラン王羅面ヲ隣室ノ窓頭ニ出タサントハ瞥然見サルカ如ク佯頭冷笑ヲ洩ラシテ急ニ首ヲ窓裏ニ藏ム妾之ヲ見テ胸悸キ足震ヒ殆ト人事ヲ辨セサルモノ少時漸クニシテ自ラ以爲ラク進テ深ク彼ニ面シ西都ノ事情ヲ訴ヘテ彼ヲ折服センカ設令彼遂ニ我言ヲ納レサルモ此地佛境タリ法廷警衛彼妾ヲ如何セン又私ニ思フ班人報復ノ念執拗ニシテ且ツ深シ彼賤丈夫妾ヲ毒スルノ策至ラサル所ナカラン然ラハ則チ身ハ既ニ籠中ノ鳥ノミ窘飛スヘカラス奔逸スヘカラスト忽チ汽車ノ伊太利ヨリ來ルモノアリ其相近ツクニ及テ我汽車亦驀然東ニ向テ馳ス妾以テ神助トナシ挺然身ヲ躍シテ彼車階ニ投シ兩手鐵欄ヲ攀ツ此時奔車ノ爲メニ推擽セラレサランヲ期スノミ其危險知ルヘシ衆之ヲ覺リ喧シク助ヲ呼フ車掌扶掖シテ車中ニ入ラシム時ニ王羅ノ車ハ遠ク東方ニ馳セ去リニ殘煙ヲ止メス胸中ノ愁雲全ク霽レ身體ノ疲勞新ニ發ス遂ニ覺エス陶然昏睡ス此時妾ヲ起スモ

ハアリ目ヲ開ケハ身既ニ巴黍ノ停車場ニ在リ警吏數人妾ヲ擁シ詰ルニ昨夜窃ニ高館ヲ脱シテ隣亭ニ潜ミ今又伊國ニ行クノ車券ヲ携ヘ却テ佛都ニ還ルノ擧動ヲ以テシ遂ニ罵リテ市井ノ妖婦車内ノ拘兒トナス妾其言ニ激シ憤然聲ヲ揚ケテ抗辯ス警吏聽カス妾ヲ引致シテ獄ニ投ス其罪名ニ曰ク西都ニ婦人ヲ毒殺シ巴黍ニ竊盜ヲ爲スト人生ノ汚辱此ニ至リテ極マルト謂フヘシ後旬日法廷ニ出ツ王羅證人ノ中ニ在リ妾ヲ誣告シテ曰ク前キニ予ノ西班牙國警視長タリシ時誤リテ慇懃ヲ此女子ニ通ス此女以テ奇貨居クヘシトナシ遂ニ予ノ正妻タラント欲シ細君ノ病ニ乘シテ毒藥ヲ侑ム其將ニ露レントスルヤ跡ヲ晦シテ遁逃ス其證蹟書ニ詳ナリト卽チ妾カ嚮者贈ル所ノ書翰數通ヲ出シ文ヲ舞シテ罪案ヲ羅織ス而シテ西都ノ旅館主亦妾カ馬ヲ盜ミ旅費ヲ掠ムルヲ彈シ巴黍ノ警吏旅舍ニ遺棄スル物品ヲ取リテ盜品ニ同シキヲ證シ且ツ曰ク旅費ヲ償ハサルハ騙者ナリ伊太利ニ奔ル爲ネシテ巴黍ニ遷ルハ拘兒ノ行爲ナリト妾之ヲ辯シテ縷縷數千言ニ至ル然レトモ妾元法理ニ通セス且ツ一ノ證人ナシ故ニ以テ判官ヲ動カス能ハス蓋判官ノ訊問ニ依テ當時ノ事情ヲ推測スルニ夫ノ邂逅セシ旅亭ノ娘子妾ノ事ヲ以テ其父ニ告ケ其父更ニ之ヲ秘密偵吏ニ報シ偵吏向キニ王羅ノ囑託ヲ受クルヲ以テ直ニ打電シテ王羅ヲ喚ヒ王羅慧敏ナレ巴黍ノ探偵ニ賴リテ妾カ卽夜ノ擧動ヲ探知シ妾ニ尾行シテ汽車ヲ同ウシ妾カ他車ニ投スルヲ見ルヤ各停車場ニ打電シテ妾ヲ捕縛スルニ至ラシメタルカ如シ巴黍探偵ノ機微實ニ聞ク所ニ過ク既ニシテ王羅ハ警吏ノ援ヲ負ウテ判官ニ請ウテ曰ク彼カ拘妾ヲ殺セシハ西班牙ニ在リ刑人遷送ノ條約ニ據リテ之ヲ西班牙政府ニ轉送セヨト初メ妾ノ拘囚セラルヽヤ意激シ氣昂リ更ニ其痛苦ヲ感セス從容自若復タ悲愁ノ眉宇ノ間ニ表ハサス是ニ於テ獄吏相語リテ曰ク妙齡彼カ如ク而シテ人ヲ殺シ貨ヲ竊ミ獄中ニ幽セラレテ泰然其色ヲ變セス豈三犯四犯ナルナカランヤ貌ノ以テ人ヲ取ル可カラサル往往此ノ如シト妾既ニ竊盜殺人ノ重罪ヲ負ハサレ獨リ懸隔セル別房ニ繫カル臭穢厠ヲ銜キ麤食咽ヲ下ラス諺ニ曰ク爨ニ就ク者ハ歲ヲ短トシ獄ニ拘ハルヽモノハ日ヲ脩シトスト終夜陰陰無量ノ妄想胸臆ニ湧キ眠ラント欲シテ眠ル能ハス身心漸ク衰勞シ神經過敏驚キ易ク怒リ易ク動モスレハ則チ獄吏ニ抵抗ス一日法官妾ヲ糺問ス言語過激頗ル脅迫ノ狀アリ妾憤怒ニ堪ヘス罵テ曰ク聞ク脅迫ノ行爲ハ正當ノ理ナシト法官ノ擧動卽チ是ナリト法官妾ヲ叱ス妾覺エス罵器ヲ取テ法官ノ面ニ擲ツ獄吏妾ヲ懲戒ス妾執拗從ハス乃チ妾ヲ拉シテ暗室ニ投ス蓋シ暗室ハ歐洲獄罰ノ最重ナルモノ妾怒氣ヲ押ヘテ謂ラク目ヲ閉チテ平時ヲ默想セハ豈堪ヘサルノ理アランヤト直ニ横臥シテ心ヲ獄外ノ事ニ游ハシメ以テ自ラ慰メントス眼目開キ易ク獄中暗黑ノ感忽チ自ラ眼中ニ浮ヒ胸臆ヲ刺シ我ヲシテ復タ他念アル能ハサラシム更ニ氣ヲ鼓シ或ハ臆裏ニ人世ノ快樂ヲ描キ或ハ故國ノ辛苦ヲ憶ヒ必ス眼ヲ開カサラントス而シテ遂ニ暗黑ノ惡感ニ克ツ能ハス此ノ如キモノ二日身體劇震心氣昏迷殆ト人事ヲ辨セサルニ至ル曾テ聞ク有爲活潑ノ士二十餘人北極探險ニ赴キ暗黑世界ニ在ルモノ數月爲メニ其十八人ハ狂亂セリト暗黑界ノ人ノ精神ヲ亂スヤ實ニ大ナリ後二日暗室ヲ出ツレハ忽チ眩暈ス眼ヲ開ケハ旭曦ノ鐵窓ニ映スルアリ之ヲ見テ覺エス快哉ヲ呼フト散士曰ク凡ソ人ノ此世ニ在ル耳目ノ歡最モ大ナリトス故ニ其暗黑ノ中ニ囚ハルヽヤ養フニ芻豢ヲ以テシ衣スルニ錦繡ヲ以テスト雖トモ以テ樂ムニ足ラス目ノ見ルナキ耳ノ聞クナキヲ以テノミ卽チ隙穴ヲ穿チテ日星ノ光ヲ見風雨ノ音ヲ聽カハ其快知ルヘシ況ヤ戶牖ヲ啓キテ熖熖ヲ見ルヲヤ況ヤ室ヲ出テ堂ニ登リ山光水色ニ對シ日月ノ光ヲ見ルヲヤ

況ヤ大山ニ登リ石封ヲ履ミ以テ八荒ヲ望ミ天都ノ蓋ノ如ク江河ノ帶ノ若クナルヲ視ルヲヤト紅蓮曰ク眞ニ郎君ノ言ノ如シ妾初メテ幽明途ヲ異ニスルノ知言ニ服ス漸ク靜坐沈思自ラ悟リテ謂ラク貴人モ死生ヲ同ウシ愚人モ亦死生ヲ同ウス死焉ソ悲ムニ足ランヤ唯餘生ヲ皇天ニ供センノミト是ニ於テ方寸湛然靈臺寂照心身倶ニ安知タルヲ得タリ數日ノ後復タ法官ノ訊問ヲ受ク妾答ヘテ曰ク我嘗テ罪ヲ犯サス俯仰天地ニ愧ツル所ナシ然レトモ法官視テ以テ罪アリトナス又何ヲカ言ハン唯法官ノ爲サント欲スル所ニ任セ



紅蓮墨器ヲ法官ニ抛ツノ圖　（原本插畫）

ント法官色ヲ爲シテ曰ク法官法ヲ執ル公明正大豈私曲ヲ挾ミテ無罪ノ人ヲ刑スルモノナランヤ汝獨リ罪ナシト云フ其反證ヲ擧ケサルヲ如何セン法ハ證ニ據リテ理ニ決ス汝其居處ヲ告ケス職業ヲ語ラス資産ナク知人ナク而シテ美服ヲ纏ヒテ旅館ニ出入シ船ニ搭シ車ニ駕シテ來往方ナシ是レ之ヲ晰ニセスシテ唯無辜ヲ反覆ス法官奚ソ之ヲ信シテ即斷スルヲ得ンヤト是ニ於テ妾意ヲ決シテ曰ク妾ノ居ト妾ノ職トヲ告ケサル所以ノモノハ國ノ爲メ人ノ爲メ忍ヒサルモノアレハナリ妾カ西都ノ旅館ヲ欺キシハ幽將軍ヲ奪ハンガ爲メナリ王羅ヲ欺キシハ交友ノ志ヲ成サンガ爲メナリト法官少ク驚クモノハ如シ既ニシテ又問ウテ曰ク嘗テ少女ノ王羅ヲ欺キ幽將軍ヲ奪ハント聞ク後其蹤跡ヲ知ルモノナシ汝果シテ其人カ若シ眞ニ其言ノ如クナラハ速ニ其證左ヲ擧ケヨ宇内ノ廣キ何ソ汝ノ知人證言ヲナス者莫カランヤト妾深思多時漸クニシテ答ヘテ曰ク妾嘗テ首相嚴醋蛇ニ謁シ其實話ヲ爲セリ悲哉今既ニ亡シ又他ニ妾ヲ知ルモノナキヲ奈何セント法官起テ曰ク嘗テ之ヲ耳ニス若シ果シテ實ナラハ之ヲ證スル決シテ難キニアラス聞ク嚴公ノ祕書郎詳錄スル所ノ日誌アリ公私大小ノ事記シテ漏ス所ナシト汝カ首相ニ謁セシ月日時刻ヲ擧ケヨト妾詳ニ之ヲ語ル法官禮ヲ加ヘテ法廷ヲ閉ツ是ニ於テ獄吏始メテ妾ヲ慰ムルノ風アリ越エテ三日典獄來リ揖シテ曰ク愛蘭無冠王ノ使者來訪ス宜シク出テ、面會スヘシト妾狂喜之ニ接ス使人曰ク昨日新紙ニ依リ初テ令娘ノ厄難ヲ知リ巴寧流女史ノ意ヲ受ケ急ニ有志ニ代リテ來リ訪フ明日英國知名ノ狀師令娘辯護ノ爲メニ來ルヘシ令娘請フ意ヲ強ウセヨト此日ヨリ獄吏ノ待遇全ク一變シ先キニ妾ヲ罵リ妾ヲ嘲ル者今ハ妾ヲ正視スル能ハス却テ妾ト一語ヲ交ヘテ以テ榮トスルノ狀アルニ至ル佛人輕佻ノ風以テ見ルヘシ後七日法官妾ニ告ケテ曰ク嚴公ノ記錄ヲ閱スルニ令娘ト談話ノ事アリ略ホ娘ノ說ク所ニ同シ然レトモ猶別ニ問ンヘキモノアリト一紳士ヲ呼ヒ來リテ妾ニ問フニ嚴公ニ面セシ時間及ヒ客室ノ狀等ヲ以テス妾記スル所ヲ以テ之ニ應フ紳士首肯シテ去ル蓋シ此紳士ハ嚴公當時ノ執事ナリト云フ法官曰ク好シ證左分明疑フヘキナシ法官ハ深ク令娘ヲシテ久ク囹圄ノ苦ヲ受ケシメタルヲ痛ム又昨王羅ヲ訊問シテ悉ク其實ヲ獲タリ我警吏ノ彼ニ餌セラレテ虛欺ノ證人トナリ正義高節ノ令娘ヲ誣テ罪ニ陷レントシタルヲ知ル是レ我佛國民ノ深ク令娘ニ愧ツル所ナリ然レトモ罪人ハ

既ニ之ヲ獄ニ投ス應ニ日ナラスシテ典刑ヲ正スヘシ令嬢既ニ青天白日ノ身タリ獄ヲ出テヽ保重自愛セヨト乃チ獄門ヲ出ツレハ幾輛ノ車馬幾千ノ群衆妾ヲ迎ヘテ萬歳ヲ歡呼ス嗚呼人生僅ニ五十年千難ノ中百喜アリ萬艱ノ中千快アリ之ヲ經歷シ盡スニ非サレハ誰カ能ク其興味ヲ識ランヤ夫ノ日出レハ起キ日暮ケハ眠リ蠕蠕蚯蚓ノ如ク一喜一憂ヲ知ラス齷齪小利ヲ事トシ焦明ノ蚊睫ニ巢フカ如ク足曾テ海外ヲ踐マス區區トシテ一生ヲ無爲ノ中ニ送リテ空シク北邙ノ煙ト化スモノハ豈憐ムヘカラスヤ是ヨリ妾愛蘭人ニ歡待セラレテ始メテ鄕ニ歸ル會〻雄辯家於氏ノ英領加奈多ニ遊說シ以テ本國ノ聲援ヲ爲サントスルアリ妾之ト同行ノ志ヲ生シ今日此船ニ搭ス而シテ忽チ郎君ニ邂逅ス眞ニ所謂奇遇ト謂フ可シト又曰ク妾獄ニ繫カル半歲獄ヲ出ツルヤ病ヲ發シ呻吟シテ月ヲ重ネ今僅ニ平常ニ復スト散士曰ク豈芳草一夜風ニ打タレ麗色偏ニ憔悴ヲ待ツモノニ非スヤト紅蓮笑テ曰ク郎君復タ妾ヲ弄スル莫レ幽蘭女史ノ奈何セント更ニ悽然襟ヲ正シテ曰ク郎君路埃及ヲ經過ス幽蘭女史ノ消息ヲ探ルナキカト散士答ヘテ曰ク之レ有リ請フ姑ク之ヲ待テト相攜ヘテ階ヲ下リ燈下ニ立チ幽蘭ノ手札ヲ取リテ紅蓮ニ與フ紅蓮封ヲ拆キテ徐ニ

之ヲ讀ム或ハ目ヲ張リテ怒ルカ如ク或ハ首ヲ垂レテ痛ムカ如シ遂ニ紅涙潸潸青衫ヲ濕ス散士曰ク何爲ソ其レ然ルヤ書中ノ消息果シテ如何紅蓮手ヲ掉テ曰ク郎君問フヲ止メヨ後必ス自ラ識ルノ時アラン女史託スルニ深祕ヲ以テス妾豈背クヘケンヤ今ヤ女史虎穴ニ隱レ鰐淵ニ沈淪ス郎君何爲ソ之ヲ死地ニ救ハサル若シ妾ヲシテ之ヲ在英ノ日ニ知ラシメハ必ス攜ヘ歸ルヘシト散士曰ク女史ヲ憐ミテ之ヲ水火ノ中ニ拔カント欲スルノ念僕何ソ令嬢ニ讓ランヤ唯私情ノ公務ヲ亂サンコトヲ恐レシノミ然レトモ女史ノ自ラ歐洲ニ來ル必ス遠キニ非サルヘシト因テ又范卿ニ再會セシヲ語リ骨數斗夫人ノ羸疾ハ人力ノ奈何トモス可カラサルヲ告ク紅蓮跪キテ天ヲ仰キテ幽蘭范卿ノ幸福ト骨數斗夫人ノ平癒トヲ禱ル次日復タ紅蓮ト語ル談巴寧流ノ事ニ及フ散士曰ク僕英國ニ在ルノ日氏ヲ見ント欲シテ訪フモノ三タヒニ至ル每ニ家ニ在ラス遂ニ逢フニ及ハス竊ニ以テ恨ト爲ス或ハ云フ友人王邪ノ宅ニ潛ムト其由ヲ知ラスト紅蓮曰ク妾巴氏ニ說ク所アリ毫モ用ヰラレス氏今得意ノ境ニアリ天下呼テ愛蘭無冠王ト爲ス然レトモ滿損ヲ招ク或ハ遂ニ敗ヲ取ランカ妾獨リ氏ノ爲メニ之ヲ惜ムニ非ス愛蘭百年ノ經營皆爲メニ水泡ニ歸スルヲ憂フ

ルナリト散士曰ク巴氏春秋ニ富ミ位地彼ノ如ク崇高名聲此ノ如ク赫灼聞ク其獄ニ下ル八回嫌疑ニ觸ルヽ幾十回ナルヲ知ラス瑪球斯事件ノ大難アリ若シ他人ヲシテ氏ノ地位ニ在ラシメハ名望忽チ去リテ黨衆結合保チ難カラン然レトモ黨內一人ノ氏ヲ疑フモノナク凝結石ノ如シ且ツ氏言語訥ニシテ論辯最モ拙其議場ニ於ケル演說ノ如キ敵ノ嘲笑ヲ買ヒ世間ノ笑柄ニ資セラル然レトモ其訥言拙辭ハ他人ノ雄辯達論ヨリモ重ク氏ノ一言一動常ニ全院ノ耳目ヲ牽キ社會ノ趨勢ヲ動カシ八十ノ愛蘭議員ハ爲メニ氏ノ方面ニ當リ五百萬ノ愛蘭人民ハ爲メニ氏ノ本陣ヲ守衞ス而シテ東ハ米ノ聲援アリ西ハ濠洲ノ贊助アリ氏ノ諾否ハ愛蘭ノ諾否トナリ氏ノ喜怒ハ一國ノ治亂ニ關ス豈近世ノ人傑ニ非スヤト紅蓮頭ヲ掉テ曰ク世人未タ其眞相ヲ知ラス巴氏ノ淫行ハ公然ノ祕密タリ一朝暴露セハ愛蘭人民ハ以テ天下ニ對スル能ハサラント憤惋ノ色面ニ形ハル散士當時巴氏ヲ信スルコト深シ故ニ紅蓮ノ言ヲ疑ヒ以テ感情ノ激スル所ニ發スルモノトス後數年巴氏果シテ淫行ニ敗レ佛ノ武將軍モ亦婦人ノ爲メニ自刃ス吁家國克復ノ大任ヲ荷ヒ身其局ニ當リ大功就ルニ垂ントシテ婦人爲メニ生命功業ヲ犧牲ニシテ顧ミス古ノ所謂妖冶人ヲ誤ル

モノカ抑〻英雄ノ多情ナル尋常人ノ爲ス能ハサル所ヲ斷シ死シテ復タ悔イサルモノカ散士カ薄志ナル未タ海樓府ニ佳人ヲ救ヒテ亡命ノ客トナリ情死ノ眞ヲ學フ能ハサルモノ愧ツヘキカ誇ルヘキ歟一夜紅蓮ト月明ニ吟ス散士紅蓮ニ謂テ曰ク聞ク頃者愛蘭人英國ノ議院ヲ爆裂シテ怨恨ヲ報セントセシモノアリト散士ヲ以テ之ヲ見レハ甚タ詭激ニ失スルナカランヤト紅蓮曰ク是レ無智暴徒ノ脅迫ノミ意トスルニ足ラサルナリ然レトモ愛蘭ノ自治今ヤ前途ニ望ナカラントスト乃チ一詩ヲ高吟シテ曰ク

爆裂彈兮爆裂彈。勞汝一擊淸天地。分富平權依至公。助弱制強取大義。取義捨生是男兒。依公去私與天期。千古積弊可燒盡。玉帛金寶何得吝。位官爵祿降糞壤。鐵壁堅城亦作烟。帝王之尊不能避。庶民之富安得庇。平等福共爆聲開。自由光從燧火來。天柱爲摧地軸壞。血雨腥風洗濁穢。洗濁穢兮天地淸。從是四海始太平。

散士話頭ヲ轉シテ曰ク王羅今果シテ何レノ處ニ在ルト紅蓮曰ク彼レ曩キニ檻車西都ニ送ラル然レトモ巧言重賂能ク罪ヲ免レ復タ高官ヲ得テ東洋呂宋諸島ノ都督ニ任セラルト云フト

後數月散士米國ヲ過キ海南將軍ト與ニ朝ニ歸ル時ニ我政府列國ト條約改正ヲ議シ先ツ泰西ノ元則ヲ基トシ法典ヲ制定シ條約批准交換後十六月中ニ之ヲ譯シテ外國政府ニ通知シ其泰西法典ノ元則ニ適合スルヤ否ヤヲ監査セシメ全國ヲ八區ニ分チ混合裁判所ヲ設ケ外人ヲ判事檢事ニ任シ陪審官ヲ設ケ內外人ニ關スル訴訟ヲ聽斷セシメントスルノ議アリ外交內事ノ弊言フニ堪ヘサルモノ多シ是ニ於テ將軍封事ヲ奉ル其略ニ曰ク

夫レ道能ク之ヲ用ユレハ百里ノ地以テ獨立スヘシ瑞西白耳義ノ如キ是ナリ若シ能ク之ヲ用キサレハ千里ノ地敵ノ爲メニ役セラル印度波蘭ノ如キ是ナリ國家ノ大鈞ヲ秉ルモノ豈深ク愼マサルヘケンヤ側ニ聞ク條約改正漸ク其功ヲ奏シ締盟諸邦皆其法權ヲ廢シ我治法ニ服從セントスト是レ洵ニ慶スヘキモノヽ如シ然レトモ又聞クカ如クンハ我法典ヲ制定スルニ偏ニ外人ニ適應スルヲ主トシ司法立法ノ大權ニ外人ノ干渉ヲ請セントスト嗚呼此説ヲシテ信ナラシメハ是レ我國家ヲシテ獨立ノ精神ヲ失ハシムルモノナリ蓋シ法典ハ自國ノ安寧幸福ヲ保全スルノ具タリ之ヲ制定スル必ス我歴史ト風俗トニ基カサルヘカラス徒ニ外人ニ左右セラレ其利便ニ供セハ其レ國家民人ヲ奈何セン若シ我法典時勢ニ背クモノアラハ宜ク國運ノ伸張ニ從ヒ愼テ之ヲ改正スヘシ寧ソ我歴史習慣ヲ異ニスル外人ノ言議ニ從ヒ以テ其意ニ適セシムルヲ須キンヤ是レ外人ニ許スニ我神聖ナル大權ニ干渉スルヲ以テシ自ラ國權凌夷ノ階梯ヲ作ルモノニ非スヤ今日一歩ヲ讓リ明日亦一歩ヲ枉ケハ遂ニ將ニ挽回スヘカラサルノ非運ニ沈淪セントス古人曰ク名ト器トハ以テ人ニ假スヘカラスト國家獨立ノ大權ニ外人ノ干渉ヲ受クルハ豈其レ亡國ノ兆ニアラスト謂ハンヤ

論者曰ク開港ノ始メ幕府既ニ國權ヲ傷ケ自治ノ大權ヲ失フ今日改正ノ實ヲ擧クル能ハサルハ其罪幕府ニ在リト然レトモ熟〻當時ノ事情ヲ審案シテ之ヲ今日ノ大勢ニ較セハ未タ必スシモ幕府ヲ責ム可カラサルモノアリ抑〻幕府昇平三百年海外ノ形勢ニ通セス治外法權最惠國條款海關稅ノ如キハ未タ曾テ耳ニセサル所其利害ノ如キ何ソ之ヲ當時ニ曉知スルヲ得ンヤ且ツ當時ノ形勢外人ト對等ノ條約ヲ結ヒ彼ヲシテ我法律ニ服從セシムルコトハ素ヨリ期ス可カラサルノミナラス若シ對等ノ條約ヲ締結セシメンカ國內ノ諸侯各〻其法律ヲ以テ外

人ヲ賞罰シ內地ヲ開放シ居住興業彼等ノ自恣ニ任セハ我遂ニ印度馬島タラサラント欲スルモ其レ得ヘケンヤ故ニ愚以爲ラク治外法權內地制限ハ時勢ニ應セシ良圖ニシテ寧ロ天佑ヲ得タル者ト謂フヘキノミト今ヤ我國文化大ニ進ミ文物典章ノ具備全ク幕府ノ舊態ニ非ス其海外ノ狀勢ヲ詳ニシ外交ノ道ニ熟シ治外法權ノ弊輕關稅ノ害ヲ明カニスルヤ至レリ盡セリ故ニ啻ニ往時ノ締盟條約ニ甘從スヘカラサルノミナラス宜ク進テ之ヲ改正スルニ於テ必ス妄ニ讓歩シテ禍害ヲ後世ニ遺スコト莫カルヘシ語ニ曰ク一念失アレハ遂ニ四海ノ憂ヲ貽ス一事失アレハ或ハ百年ノ患ヲ致スト國家ノ重事豈輕忽ニ爲スヘケンヤ凡ソ事ニ名實ノ反相アリ名美ニシテ實然ラサルモノアリ實美ニシテ名然ラサルモノアリ故ニ名ヲ聞キテ其實ヲ喩ル可カラス實ヲ見テ其名ヲ醜ムル勿レ我治外法權ノ如キ其名譽甚タ美ナラスト雖トモ實利ニ於テ未タ國家ノ獨立安寧ヲ妨害スルニ至ラス是レ名美ナラサルモ實尙忍フヘキモノアルナリ然ルニ今傳フル所ノ如クナラハ反テ自ラ國權ヲ傷ケ名實正ニ相反スルカ如シ嗚呼天下ノ鈞ヲ秉ルモノ名ヲ採ランカ將タ實ヲ取ランカ豈一時ノ名譽ヲ貪リテ百年ノ大害ヲ顧ミス天下後世ノ志士仁人ヲシテ神州陸沈ノ浩嘆ヲ發セシム可ケンヤ然ラハ則チ此條約改正ヲ如何セン曰ク斷然之ヲ今日ニ中止シ現政府ノ組織ヲ一變シ立憲公議ノ新政ヲ設立シ而シテ後外交ノ方針ヲ定メ上下一致內結外競ノ志操ヲ奬勵シ當局者ハ　天皇陛下ノ聖意ヲ奉戴シ立法府ノ決議ニ基キ更ニ上下人民ノ輿論ニ據テ此條約改正ノ談判ヲ開キ更ニ內外ノ新聞演說ヲ利用シ外交ノ智術ヲ揮ヒ以テ是非ヲ歐米ノ公論ニ訴ヘシ而シテ彼尙我要求ヲ聞カスシテ不正不理ノ擧動ヲ爲サハ正義ニ仗リ正理ヲ履ミ斷然交ヲ其諸國ニ絕ツヘキノミ一國ノ意氣此ノ如クンハ何ソ誠精天地ヲ動カシ公議四海ニ輝クノ時ナカランヤ

ト更ニ時事五條ヲ陳シテ曰ク

夫レ邦家ノ病ハ苟安ニアリ苟安ハ情實ニ根ス情實ハ操守ノ節ナク果斷ノ勇ナキヨリ來ル其弊ヤ士大夫ノ間ニ濫觴シテ遂ニ天下ニ瀰漫ス語ニ曰ク君子ノ德ハ風小人ノ德ハ草又曰ク上ノ好ム所下之ヨリ甚シキモノアリト若シ夫レ惡弊一タヒ煽ケハ上下率キテ風ヲ爲シ因襲ノ久キ習性ヲ成シ有爲ノ元氣消耗シ報國ノ精神腐敗シ邦家以テ衰弱委墮復タ振フ能ハサルニ至ルモノ古今東西其揆一ナリ我邦維新ノ初ニ當リ鋭意治ヲ圖リ情實ヲ顧ミス其政略ノ偉ナル功績ノ大ナル天下共ニ驚嘆スル所然レトモ敢爲ノ氣年ヲ追テ挫折シ情實ノ弊時ニ隨テ横發シ浪費漸ク增シ冗官滋ミ加ハリ一改革ヲ經ル每ニ轉タ弊害ヲ增スノミ是ニ於テ明治十八年內閣諸公決然大英斷ヲ行ヒ官制ヲ新設シ職責ヲ明ニシ繁ヲ去リ簡ニ就キ私門ヲ杜キ請謁ヲ斷チ一新政府ヲ創ス上下內外贊稱措カス翕然手ヲ額ニシ相祝シテ曰ク改新ノ鴻功是ヨリ擧リ日本ノ威名是ヨリ揚ラント而シテ未タ一年ナラス綱紀頽弛シテ百弊既ニ舊ニ復ス蓋シ其由來スル所ヲ考フルニ皆情實相牽纏スルノ弊ニ因ラサルナシ嗚呼我邦家前途遼遠施行更張ノ事業枚擧ニ遑アラス豈太平無事ヲ裝飾シ歌舞遊樂逸豫ニ耽ルノ秋ナランヤ苟モ官祿ニ衣食スルモノ夙夜勵精上　陛下ノ聖意ヲ體シ下人民ノ休戚ヲ擔ヒ競競業業唯職責ノ盡クス克ハサルヲ恐ルヘシ情實ニ牽纏シテ忠良ノ心ヲ枉ク豈天地ニ愧チ蒼生ニ怍チサランヤ故ニ愚以爲ラク今日ノ務ハ情實ノ政ヲ絕ツヨリ急ナルナシ情實破ラサレハ邦家ノ隆盛決シテ見ル能ハス且ツ今ヤ訛言百出是非淆亂ス宜ク務メテ事理ヲ公明ニシ以テ世人ノ惑ヲ解

クヘシ設シ擧動ノ間少シク釁ヲ啓クアラハ威望忽チ損シテ駕御ノ微機自ラ伐チ小事大ヲ誤リ樗蒲ニ類スルニ至ラン豈謹戒セサル可ケンヤ

抑ミ我邦君臣ノ間誠ニ密君ハ誠ニ民ノ父母民ハ誠ニ君ノ赤子是レ我國體ノ萬國ニ特出セル所以ナリ故ニ 陛下ノ臣民ヲ視給フ一視同仁政論ノ異同ノ如キ敢テ問ハセ給フ所ニ非サルヤ知ルヘシ然ルニ近時當路ノ執權者 陛下ヲ視ル猶自黨ノ如ク有功勳位ノ人ト雖トモ其政論ヲ異ニスル者アレハ視テ不忠不義トナシ之ヲ遇スル 陛下ノ罪人ノ如シ夫レ政論ハ時ニ應シ事ニ從テ人各ミ其所見ヲ異ニス疾徐相較シ是非相比シ新舊相制シ理否相攻ムルハ是レ學術ヲ啓發シ國運ヲ興隆スル所以ナリ故ニ時ハ執政ト政論ヲ異ニスル者ハ國家ノ藥石ニシテ社稷ノ忠良ナリ何ソ疎外シ厭惡スヘケンヤ蓋シ 陛下ノ臣僚ヲ黜陟シ給フ應時如何ニ在ルノミ決シテ愛憎是非ニ由ルニ非サルナリ故ニ愚以爲ラク宮中ト內閣トハ宜ク之が畛域ヲ嚴ニシ劃然相混同スルナカラシメ而シテ宮中ハ功臣名士ヲ待ツ朝野ノ軒輊ヲ以テ之カ親疏輕重ヲナスナカルヘシト然ルニ今ヤ總理大臣ニシテ宮內大臣ヲ兼ス是レ豈當ニ失當ノ甚シキノミナランヤ累煩ヲ 皇室ニ及ホス實ニ恐ルヘキモノアリ若シ他日政黨大ニ起リ內閣更迭スル時ニ當リ總理宮相ヲ兼任シ 陛下ヲ擁シテ以テ詔勅ヲ發シ以テ他黨ヲ害シ自黨ヲ利セント欲スルモノアラハ其禍害豈竟ニ測ルヘケンヤ

愚熟ミ近時ノ情狀ヲ察スルニ施政ノ方針一定セス朝令暮改輕佻殆ト言フニ堪ヘサルモノ多シ蓋シ明治十八年ノ改革ハ政費ヲ省減スルニ在リ故ニ凡百節儉ヲ主トシ甚シキハ國防軍備ヲ中止スルノ議アリ然ルニ未タ期年ナラス臨時建築局ヲ置キ砲臺築建局ヲ設ケ廳舍ヲ建テ官吏ノ俸祿ヲ增加シ大臣ノ官邸ヲ構ヘ又大ニ各處ノ砲臺ヲ築造ス夫レ數月前ニハ國費ヲ省カント欲シテ急ニ必要缺クヘカラサルノ軍備ヲ中止シ今ヤ忽チ不急ノ土木ヲ起シテ數千萬金ヲ消ス其前後ノ相反スル一ニ何ソ此極ニ至ルヤ殊ニ海軍ヲ擴張セント欲シテ急ニ國債ヲ起スカ如キ敵國釁ヲ伺フニ因ルカ敵艦來リ襲フニ依ルカ抑ミ我國海防ノ一日モ闕クヘカラサルニ因ルカ其是非得失姑ク措テ論セスト雖トモ其擧措ノ輕佻ナル豈國威ニ關スルナキヲ得ンヤ

凡ソ今日ノ政弊數フルニ勝フヘカレスト雖トモ上官職責ナク下吏冗員ノ多キ實ニ弊ノ最モ大ナルモノナリ惟其レ職責ナミ故ニ人民ノ膏血ヲ絞リテ之ヲ功ナク益ナク影ナク形ナキ事業ニ徒銷ス而シテ茫乎トシテ責ノ歸スル所ヲ知ルナク不急ノ官ヲ設ケ無用ノ人ヲ擧ケ而シテ更ニ政績ノ見ルヘキナク又其責任ノ歸スル所ナシ蓋シ今ノ官ヲ設クル事業アルニ因ルニ非ス人ノ爲メニ官ヲ設ケ官ノ爲メニ事業ヲ設クルノミ故ニ功ヲ賞スルニ官ヲ以テシ友ヲ憐ムニ官ヲ以テシ私德ニ報イルニ官ヲ以テシ朋黨ヲ造ルニ官ヲ以テシ遊樂ヲ求ムルニ官ヲ以テシ甚シキニ至リテハ在野有志ノ口ヲ箝制スルニ官ヲ以テスルニ至ル官途仕官ヲ視ルコト私物ノ如ク國家ノ租稅ヲ視ルコト私財ノ如シ是ヲ以テ無用ノ官吏日ニ漸ク增加シ終日不急不要ノ事務ニ從ヒ擾擾徒ニ繁雜ノ弊ヲ釀シ紛紛却テ要務ヲ遲滯ス鳴呼限リアル租稅ヲ以テ限リナキ官吏ヲ養ヒ以テ目前ノ小康ヲ求メントス豈鴉片ヲ喫シテ一時ノ快ヲ貪ルニ異ナランヤ是故ニ今日ノ計ヲナスモノハ斷然無用ノ官吏ヲ一掃シ劃然官制ヲ立テ官吏ノ員數ヲ定メ官吏ノ職責ヲ嚴ニシ以テ夫ノ不才不能ノ徒カ情實諂諛ニ攀緣シテ爵祿ヲ僥倖シ官吏カ專斷橫恣國帑ヲ浪費スルノ

弊竇ヲ杜絶スヘシ
且ツ今日ノ内治上政府ノ最モ速ニ英斷セサルヘカラサルモノハ新聞及ヒ集會條例ノ改正是ナリ我人民此兩條例ノ嚴酷苛察ナルカ爲メニ志忠良ヲ懷キ身罪刑ニ陥ルモノ甚タ多シ其極人民政府ヲ見ルコト仇敵ノ如ク政府人民ヲ視ルコト寇讎ノ如ク互ニ相障閡シテ暗ニ相壞裂セントスルノ狀アリ是豈長大息スヘキニアラスヤ今夫レ新聞條例ヲ改メ集會條例ヲ寛ニシ世人ヲシテ其論議ヲ自由ニセシメハ政府果シテ何ノ不利カアル愚以爲ラク能ク人民ノ意思ヲ明ニシ輿論ノ在ル所ヲ詳ニスルヲ得テ之カ處理ノ方法ヲ案出スルコト却テ其易キヲ得ント若シ此ノ如クニシテ人民過激讒誣ノ言ヲ逞センカ政府ノ官吏自ラ進テ公然新聞ニ演説ニ辯難スヘキノミ即チ官民相磨シテ士氣漸ク振興シ人心漸ク奮起シ惰眠ノ夢ヲ警醒シ腐敗ノ世態ヲ回復スルニ至ラン國家ノ利益勝ケテ謂フヘケンヤ今ヤ政府歐米自由國ノ事物ヲ慕ヒ我法律規則ヲ改革シ我家屋衣服ヲ一新シ偏ニ歐米ノ治ニ倣ヒ歐米人ヲシテ遂ニ我治下ニ服セシメントス而シテ獨リ言論集會ノ自由ニ至リテ反テ其取捨ヲ異ニシ當路ノ意ニ滿タサルノ論ヲ爲ス者施政ノ方向ニ異議ヲ容ルヽ者皆目シテ治安ヲ妨害ストナシ直ニ禁停解散ス是レ豈矛盾ノ甚タシキニ非スヤ夫レ廟議歐米ノ治ニ倣ハント欲セハ決シテ我身ノ利ト不利トヲ問フヘカラス唯當ニ其善ト美トヲ移シテ我福利ヲ增進スヘキノミ奚ソ己ニ利ナルモノハ彼ノ弊習モ亦模型ニシ己ニ不利ナル者ハ美風モ亦取ラサルカ如キノ偏頗アル可ケンヤ

且ツ近者我邦ノ外交ヲ見ルニ圓滑巧妙力メテ葛藤ヲ同盟諸邦ニ結ハサルヲ求ム遽ニ之ヲ見レハ交際日ニ密ニ和親月ニ深ク復タ慮ルヘキモノナキカ如シ然レトモ退テ之ヲ思ヘハ國家ノ前途殷憂ニ堪ヘサルモノアリ夫レ外交政略ナルモノハ常ニ信義ヲ守リ和順ヲ盡シ力メテ圓滑ナルヲ要スト雖トモ一朝國權ヲ爭ヒ自國ノ安寧ヲ保タサル可ラサルニ當リテハ死且ツ避ケサルノ勇ナカル可カラス徒ニ外人ノ歡心ヲ求メ唯唯諾諾以テ國家ヲ萬世ニ維持セント欲スルハ正ニ自ラ輕侮ヲ招キ窺窬ノ門戸ヲ啓クノミ決シテ對等ノ交ヲ固スルノ道ニ非サルナリ蓋シ我國ハ遠ク東海ニ屹立シ地勢雄勝四海ノ沿岸嵯峨タル岩礁多ク天然ノ要害萬國其比ヲ見ス加旃土地豐腴氣候溫和天產ニ富ミ人工ニ長シ人口三千七百萬人種ノ酷雜ナク言語ノ異同ナク敎法紛亂ノ虞ナク藩國屬地背反ノ恐ナク接境敵國ナケレハ大陸諸國ノ如ク一警アル每ニ兵ヲ四境ニ派スルノ累ナク金穀皆本邦ニ資リ英國ノ如ク食ヲ外ニ仰クノ慌忙ナシ故ニ一旦已ムヲ得サレハ退守外ニ絶ツモ數年ヲ支フルコト易易タルノミ嗚呼地勢ノ勝此ノ如ク國土ノ富此ノ如シ而シテ歐人ト對立スル能ハス往往輕侮凌辱セラルヽモノハ何ソヤ物必ス因アリ事豈原ナカランヤ語ニ曰ク人自ラ侮リテ而シテ後人之ヲ侮ルト我國ノ輕侮セラルヽハ自ラ之ヲ取ルノミ夫レ歐洲ノ外交家ハ外慈祥ヲ託シ内傾險ヲ懷キ談笑ノ中ニ劒ヲ包ミ我外交家ハ論爭ノ裏ニ媚ヲ含ム古人謂フアリ曰ク仁ノ過クルハ弱ニ近シ禮ノ過クルハ諛ニ近シト理非ヲ論セス曲直ヲ問ハス唯平和ヲ之レ圖リ絶エテ自ラ主トスル所ナキモノ何ソ他國ニ敬憚セラルヽヲ望マンヤ嗚呼唯外人ニ屈從シ外人ニ依賴シ外人ノ愛憐ヲ買ヒ以テ國家ヲ維持シ又以テ條約改正ヲ行ハントス豈危カラスヤ射利厭クナキノ慾ヲ抱キ虎視眈眈食ヲ萬里ノ殊域ニ求メ好機ヲ覗ヒテ領土ヲ拓擴セント欲ス是レ歐人ノ本志ナリ屈從依賴何ソ以テ此輩ノ情ヲ動カスヘケンヤ會ゝ以テ其暴慾ヲ增長ス

ルニ足ルノミ然ラハ則チ如何セハ可ナランカ曰ク斷然今日ノ政略ヲ廢棄シ方針ヲ確定シ國是ヲ一定シ内ハ政務ヲ刷新シ兵備ヲ嚴ニシ外ハ信義ヲ表シ威嚴ヲ持シ人民ト與ニ此溝渠ヲ深クシ此城堡ヲ高クシ嚴ニ備ヘ固ク守リ以テ歐亞ノ變亂ヲ待ツヘキナリ顧フニ歐亞ノ平和早晩破裂シテ馬蹄中原ヲ蹂躪スルノ期アルヘシ我邦素ヨリ歐ノ變亂ニ干與スヘキニ非スト雖トモ其變亂ノ波及スル所甚タ廣ク爲メニ東洋諸國ヲ搖動スルニ至ルヤ必セリ是時ニ當リ我ニ堅牢ノ兵艦二十隻精鋭ノ陸軍十萬ヲ擁セハ衡ヲ東洋ニ爭ヒ重ヲ歐ノ强國ニ示スニ足ル英露釁ヲ啓カンカ我露ニ與セハ露以テ英ヲ制スヘク我英ニ與セハ英以テ露ヲ挫クヘシ淸佛再ヒ兵ヲ交ヘンカ我ノ兩國ニ於ケル猶英露ニ於ケルカ如シ且ツ我敢テ其間ニ干渉セサルモ病院通信糧食石炭ノ便宜ノ如キ我ニ得ルト否トハ全局ノ勝敗ニ關スル極メテ大ナリ故ニ我ハ坐シテ東洋勝敗ノ全權ヲ握リ諸國ヲ敬憚セシムルコト犀ヲ牛渚ニ燃クヨリモ明ナリ此ノ如クニシテ歐洲諸國ト對峙スルニ至ラハ豈一大快事ナラスヤ然レトモ是レ決シテ依頼主義ノ能ク爲スヘキ所ニ非サルナリ今春獨乙ノ大將毛奇說ヲ議院ニ演ヘテ曰ク一家人其家ヲ保タントス尙且ツ他人ニ依頼スルヲ不可ナリトス況ヤ堂堂タル大國ヲヤ焉ソ他ニ依頼シ以テ平和安寧ヲ保ツヲ得ンヤト英主アル獨乙ノ如ク賢相名將アル亦獨乙ノ如ク乘勝ノ勢アル亦獨乙ノ如ク而シテ且ツ其國家賴他ノ弊ヲ論辯スル此ノ如シ我豈以テ省ミサルヘケンヤ古人曰ク外ニ交テ援トナシ大ニ事ヘテ安ヲ爲スハ内ヲ治メテ時ヲ待ツニ若カス寶幣玉帛辭ヲ卑ウシ以テ成ヲ行フモ己ヲ恃ムノ道ナケレハ以テ自ラ全ウスル能ハス若シ誠ニ外交ノ策ヲ釋キテ其境内ノ事ヲ修メ地力ヲ盡シテ其積ヲ多クシ其民ノ死ヲ勵マシテ其城ヲ牢クシ上下心ヲ一ニシ君臣志ヲ同ウシ之ト共ニ社稷ヲ守リ死ヲ效ヘテ民離レスンハ則チ必全ノ道ナリト愚敢テ諱避スル所ナク赤心ヲ吐露スル此ノ如シ

ト省セラレス乃テ骸骨ヲ乞ヒテ故山ニ歸ル詩ヲ賦シテ曰ク

爭取錙銖一費若塵。絃歌湧出滿城春。
金殿煌煌夜似晝。不照寒村菜色人。

ト是ニ於テ政論朝野ノ間ニ紛起シ國ヲ憂ヘ世ヲ慨スル者上下相和シ廟堂ノ政略ヲ非難シ條約改正ノ未タ成ラサルニ中止セントス城西ニ一元老アリ學深ク識高ク誠忠世ノ推ス所タリ一夜密ニ散士ヲ招キテ問ウテ曰ク子等ノ政府ニ要望スル所ノモノハ何ソヤ願クハ之ヲ詳ニスルヲ得ント散士乃チ大要三條ヲ陳シテ曰ク第一神聖ナル帝室ハ永ク其威嚴ヲ保チ民ヲシテ神ノ如ク敬シ親ノ如ク懷カシメ決シテ怨嗟輕侮スルコト無カラシムヘシ故ニ大赦養老爵勳獎學ノ事ノ如キハ帝室ノ職ニ歸スヘシト雖トモ他ノ行政機關トハ全ク相隔別セサルヘカラス然ルニ今ヤ行政府ノ首相宮府ノ大臣タリ豈無知ノ臣民條約改正ノ過失行政ノ諸弊重稅ノ苦楚言論集會ノ苛刻ヲ擧ケテ之ヲ宮中ニ歸スル無キヲ知ランヤ即チ早ク此組織ヲ一變シ斷然宮相ヲシテ首相ヲ兼ヌルコトヲ罷メシメサル可カラス第二名ト器トハ以テ人ニ假ス可カラス條約改正ノ成功固ヨリ其速ナルヲ欲スト雖トモ何ソ堂堂タル日本帝國神聖ノ司法權ヲ以テ之ヲ外人ニ委スルニ忍ヒンヤ何ソ外人ヲシテ我立法ノ大權ニ容喙セシムルニ忍ヒンヤ曾テ密ニ條約改正會議錄ヲ讀ミ痛憤淚下ルモノアリ是レ閣下ノ諒スル所宜ク條約改正ヲ中止シ別ニ善後ノ良策ヲ建ツヘシ第三軟弱依頼ノ外交政略ヲ改メ强硬自主ノ方針ヲ定ムヘシ之ヲ斷行セント欲セハ當局者自ラ責ヲ引キ以テ内外ニ謝スヘキノミ昨廟堂諸公昂然散士ヲ威嚇シテ曰ク我邦自ラ

進ンテ條約正改ヲ提出シ各國使臣論難交渉數歲ニ亙リ漸ク十ニ七八ヲ成效ス今ニ及ヒテ我ヨリ之ヲ中止セハ是レ信義ヲ中外ニ失墜スルナリ後再ヒ要求スト雖トモ各國何ソ之ニ應セン是レ國家ヲ擧ケテ不信不義ノ境遇ニ陷ラシムルモノナリト散士改正條款ノ不利ヲ指摘シテ再考ヲ促セトモ皆聽クヲ欲セサルノ色アルヲ奈何セン是レ諺ニ所謂病深ウシテ醫ヲ忌ムモノニ非スヤ方今ノ形勢邪說横行忠言隱蔽ス誰カ流涕長大息セサルヲ得ンヤ今ヤ我有司國語ヲ廢シ換フルニ羅馬字ヲ以テセントシ不動產ニ制限ヲ設ケス外人ノ所有ニ任シテ以テ其同情ヲ博セントシ立法司法固有ノ大權ヲ殺キテ之ヲ外人ニ讓ラントシ甚シキハ外競ノ振ハサルヲ以テ大和民族ノ罪ニ歸シ牛馬ノ交種ニ擬シ東西混合ノ雜民ヲ造ラント欲スルニ至ル其說ニ曰ク然ラサレハ體格劣弱以テ歐米人ト競爭スル能ハスト又輕浮ノ學者相鼓煽シテ曰ク宮中府中ヲ擧ケテ邪蘇教ニ改宗スルニ非サレハ萬國公法上司法權ヲ復シ對等ノ交ヲ獲ル能ハスト事玆ニ至ル復タ何ヲカ言ハン語ニ曰ク首ヲ畏レ尾ヲ畏ル身其レ餘ランヤト此三事ニシテ皇天ノ眷ル所トナリ閣下ノ擇フ所トナリ以テ國民ノ志ヲ達スルヲ得ハ國家ノ慶事ナリ若シ遂ニ斯志ヲ達スル能ハサランカ匕首ヲ懷キ鐵椎ヲ提ケ身ヲ鼎鑊ニ投センノミト元老曰ク方今上驕リ下媚ヒ附和雷同條約改正ノ功ヲ謳歌スルモノ都鄙ニ洽シ即チ其一事ヲ中正スル尙且ツ難シトス況ヤ三大事ノ斷行ヲヤ然リト雖トモ國家盛衰興廢ノ因テ別ルル所吾亦何ソ坐視スルニ忍ヒン當ニ奮テ此衝ニ當リ誓テ此厄運ヲ挽回シ以テ陛下優渥ノ鴻恩ニ報ユヘシト更ニ諭シテ曰ク老拙世故ヲ經盡シ餘命幾モナシ而シテ此ニ發憤爲スアラントスルモノ是レ一ニ吾子等ニ感激スルアレハナリ若シ不幸效ヲ奏スル能ハスンハ冠ヲ掛ケテ故山ニ歸ランノミ吾子ノ帝都ニ在ル反テ讒誣疑惑ノ媒タリ宜ク速ニ帝都ヲ去ルヘシト散士謝シテ曰ク謹ミテ教ヲ奉スト即日辭表ヲ上リ紅塵萬丈ノ都門ヲ出テ飄然居ヲ東海ノ淸見寺ニトス此地山秀テ水翠ニ背ハ八朶ノ芙蓉ヲ負ヒ面ハ三保ノ沙嘴ニ對シ絳雲紫雪ノ奇ヲ朝暉夕陰ニ仰キ青松白沙ノ美ヲ晴樓雨窓ニ會ム一律アリ曰ク

暫斂中原逐鹿心。枉尋山寺解塵襟。
海浮帆影平如鏡。風送泉聲清似琴。
淨几研朱刪舊稿。明窓納月寫新吟。
最歡遠跡人來少。蘭若僧空寂梵音。

未タ久シカラス一報アリ曰ク條約改正中止シ外交當局者責ヲ引キテ職ヲ辭シ宮內大臣亦職ヲ罷ムト

此時ニ當リ沈滯鬱屈セル政海頓ニ活氣ヲ生シ悲歌慷慨ノ士劒ヲ杖キテ都下ニ集マル者千百或ハ權門ニ迫リ或ハ要路ヲ脅シ政弊改革ヲ論シ民力休養ヲ呼號ス政府懼レテ遂ニ保安條例ヲ布キ志士ヲ逐ヒ論客ヲ囚ヘ青年百餘名ノ運動會ヲ抑壓スル爲メ長官馬ニ跨リ五百ノ巡吏ヲ指揮セシカ如キ蓋シ當局者ノ外ニ怯ニシテ內ニ傲ナル大抵此ノ如シ

既ニシテ天下ノ大局一變シテ世ハ昏睡ノ中ニ入ル歐洲ノ風雲將ニ急ナラントシテ漸ク靜ニ東洋ノ煙雨已ニ到ラントシテ忽チ霽ル晴レテ而シテ雲未タ去ラス陰リテ而シテ雨未タ來ラス陰陰濛濛氣ハ小康ニ屈シ體ハ偸安ニ倦ム是ニ於テ交友四散或ハ節を折リテ轅下ノ駒トナリ或ハ志ヲ變シテ牙籌ヲ執リ或ハ時ヲ慨シテ超然遠ク海外ニ遁レ或ハ世ヲ憤リ鬱鬱客舍ニ病ム視聽ノ聞物トシテ感ヲ惹カサルナシ時ニ忽チ訃音アリ曰ク淸狂居士費府ノ大學病院ニ歿スト散士愴然自失スルモノ之ヲ久ウス乃チ弔詞ヲ作リ其靈ヲ祭ル詞ニ曰ク

維時明治二十年月日日本奇傑ノ名士淸狂君米國費府大學ノ病院ニ卒ス嗚乎哀哉夫レ

蘭ハ芳ヲ以テ摧ケ玉ハ貞ヲ以テ折レ物ハ堅芳ヲ忌ミ人ハ明潔ヲ諱ム君ノ如キ拳猛嚴肅節ヲ砥キ行ヲ礪キ道ヲ直シク辭ヲ正シク傑操明達困ミテ彌ミ堅ク彼ノ松柏ノ霜ヲ懐キ雪ヲ負ヒ凋マスシテ而シテ折ルルモノカ非耶 回顧スルニ君ト初テ握手相見テ肝膽ヲ吐露シ筑ヲ撃テ慷慨シ共ニ國家ノ爲メニ身ヲ致サント誓ヒシハ大津條約方ニ成リ縉紳公卿宴ヲ濱ノ離宮ニ張リ大使ノ勳功ヲ祝セシ日ニ在リ越エテ數日君ト不忍池畔ノ樓上ニ登リ東京府民又大使ノ功勞ヲ慰ムル爲メノ競馬角力ヲ俯觀シ



（原本插畫）　青年運動會解散ノ圖

與ニ涕泗ノ滂沱タルヲ覺エサルモノアリ嗚呼上下擧テ大平ヲ謳歌シ洋洋トシテ燕舞スルノ秋ニ當リ君ト散士ト獨リ憂憤世ヲ慨シ時ヲ悲ムモノハ何ソヤ是レ唯君ト散士ノ心之ヲ知ルノミ嗚呼君逝矣其レ誰ト與ニカ此心情ヲ語ラン嗚呼哀哉君幼ヨリ志節ヲ負ヒ氣高ク志遠ク學識深邃舌鋒火ノ燃ルカ如ク人敢テ其鋒ニ嬰ルナシ君此有爲ノ利器ヲ懐抱シ未タ其鋭利ヲ試ミス中年ニシテ溘焉世ヲ辭ス嗚呼哀哉君人トナリ美ナル冠玉ノ如シ散士嘗テ戯レテ曰ク君ノ容色ヲ以テ伉儷ナキハ豈才子佳人ニ配シ難キカト君色ヲ變シ容ヲ易ヘ慨然トシテ曰ク東洋ノ形勢日ニ危シ男子既ニ身ヲ以テ君國ニ許ス豈身家ヲ思フノ暇アランヤト其語猶耳ニアリ嗚呼哀哉君偃息明時ニ事ヘス產ヲ傾ケ家ヲ破リテ英豪俊髦ニ結フ散士其間ニ交遊談論毎ニ竊ニ思ラク他年功成リ志達シ班白手ヲ携ヘハ何ノ歡カ之ニ加ヘンヤト何ソ料ラン宿志未タ酬イス中道ニシテ君遠ク異域ノ鬼トナラントハ嗚呼哀哉君一日凄然トシテ曰ク世事蹉跎心ト違ヒ日月逾邁我ヲ待タス社會ノ空氣腐敗シテ爲メニ病ヲ釀サントス若シ今ニシテ新鮮自由ノ空氣ヲ吸ハサレハ精神衰耗永世不歸ノ人タルニ至ラント散士慰メテ歐米ノ遊ヲ勸ム行ク日アリ嗚呼俗ハ俊異ヲ惡ミ世ハ奇才ヲ忌ム有司其心反覆小人君ヲ誣ヒ君苛禍ニ陷リ憤ヲ闔國ニ發シ遂ニ病ヲ釀ス此レ蓋シ君カ今日ノ凶アル原因ニ非サル歟嗚呼哀哉君高潔自ラ持シ危ニ臨ミテ撓マス貧ニ迫リテ憂ヘス家ニ妻子ナク居ニ僮僕ナシ古ノ烈士ト雖トモ過クル能ハス曾テ聞ク神ハ正ヲ助クト胡爲ソ皇天無情此名士ヲ奪フノ疾カナルヤ嗚呼哀哉贊府大學ハ散士が螢雪三年苦學セシ所其西南ノ丘ハ散士カ愛蘭ノ烈女巴寧流女史ヲ弔ヒシ地タリ嗚呼誰カ此學校ヲシテ親友ノ身ヲ喪ハシメ此丘ヲシテ烈士烈女ノ骨ヲ埋メシムルヲ期セシンヤ嗚呼哀哉前感未タ弭マス後感荐リニ至ル日往キ寒襲ヒ零露凝結勁風凄其庭樹驚キテ落葉地ニ落チ月影空ク照シテ散士カ心益傷ス嗚呼哀哉君ノ存スルヤ爵ニ匪スシテ却テ貴ク君ノ死スルヤ勳ナクシテ益ゝ顯ハル散士貧饌ヲ備ヘテ君カ孤魂ヲ祭ルニ忍ヒス唯友情懐舊ノ涙溢レテ盡キサルアリ嗚呼哀哉尙クハ饗ケコ

散士意益ゝ無聊世事又心ト違フ會ゝ不慮ノ傷ヲ負フヲ以テ暫ク世煩ヲ有馬ノ温泉ニ避ク澡浴旬日樓ニ坐シ山ニ對シテ詩酒自ラ娯ミ倦メハ則チ杖ヲ曳キテ郊外ニ八景ノ奇ヲ探ル優遊自適

羽化登仙ノ概アリ詩ヲ賦シテ曰ク

群巒競二奇容一。撑出白芙蓉。迥斷絶二塵俗一。泉靈洗二心胸一。近郊探二遺蹟一。澤畔櫻花濃。磊磊澗中石。鬱鬱陵上松。鼓瀑冷二嵐氣一。遠寺響二暮鐘一。鳴鹿踏二紅葉一。仙寰白雲封。多病慵二世事一。欲レ追二隱者蹤一

病ツク痾ニ乃チ居ヲ函山ノ南熱海梅園ノ上ニトシ自ラ草萊ヲ剗除シテ一小廬ヲ抖擻ス是ニ於テ昔日蒙茸ノ地今ハ則チ茂林茂リ脩竹秀テ奇石出テ清泉湧ク且ツ廬ヲ距ル數弓ニ風瀑アリ層ヲ爲ス三下ヨリ之ヲ仰ケハ白絲紛絮巖ニ觸レ石ニ激シ斷續飛騰欄ニ凭リテ之ヲ聽ケハ風雨ノ驟ニ至ルカ如ク琴瑟箜篌並作ルカ如シ首ヲ矯ケテ天末ヲ望メハ海雲變幻七島依稀或ハ蒼波紅暾ヲ吐キ或ハ氷輪潮ト湧キ以テ曠如ノ懷ヲ暢フヘク以テ奥如ノ目ヲ娛マシムヘシ寄傲偃蹇或ハ一竿滄海ニ釣リ或ハ黃犬ヲ牽テ狡兎ヲ逐ヒ或ハ短檠ヲ剪リテ古人ノ書ヲ讀ム其中自ラ南面王者ノ樂アリ古人曰ク都邑ニ遊ヒテ以テ永久ナレトモ明略ノ以テ時ヲ佐クル無シ徒ニ川ニ臨ミテ以テ魚ヲ羨ムモ河淸ヲ俟ツ未タ期アラス蔡子ノ慷慨ニ感シ唐生ニ從テ以テ疑ヲ決ス諒ニ天道ノ微昧ナル漁父ヲ追ウテ以テ嬉ヲ同ウス時ニ乃チ澤畔ニ龍吟シ山丘ニ虎嘯シ仰テ纖繳ヲ飛ハシ俯テ長流ニ釣リ雲間ノ逸禽ヲ落シ沈淵ノ鯋鰡ヲ懸ク時ニ曜靈景ヲ俄メ繼クニ望舒ヲ以テス老氏ノ遺誡ニ感シ將ニ駕ヲ蓬廬ニ廻シ五絃ノ妙指ヲ彈シ周孔ノ圖書ヲ詠シ翰墨ヲ揮ウテ以テ藻ヲ奮ヒ三皇ノ軌模ヲ陳フ苟モ心ヲ域外ニ縱テハ安ソ榮辱ノ如ク所ヲ知ラント境遇我ヲ欺カサルナリ

佳人之奇遇 巻十六

一日一異人アリ散士カ磊磊軒ノ閑居ヲ叩ク容貌魁偉怒目長髯曾テ一面識ナシ散士迎接シテ曰ク子カ尋訪ヲ勞謝ス願クハ緒言ヲ聞テ以テ茅塞ヲ啓カント其人左右ヲ憚ルカ如ク敢テ言ハス手ヲ以テ空ニ書シ紙筆ヲ求ムルノ狀ヲ爲ス乃チ敢テ之ヲ給ス其人書シテ曰ク僕ハ福建ノ人姓ハ朱名ハ鐵、叔平ノ密命ヲ帶ヒ千里來リ訪フ者ナリト襟ヲ割キテ封書ヲ與フ散士之ヲ讀ム曰ク我カ祕密血約ヲ探リテ淸朝ニ通スル者アリ宿昔ノ志謀爲メニ暴露シ刑刃將ニ我カ頭上ニ臨ム曰莫ラン積未タ熟セスト雖トモ勢以テ已ム可カラス將ニ兵ヲ南北ニ舉ケ成否ヲ天運ニ問ハントス今ヤ國内固陋ノ士外敎ノ蔓延ヲ憤リ濫ニ浮說流言ヲ信シ浮浪ノ徒ト相和シテ敎會ヲ毀チ外僧ヲ屠リ外人ヲ逐ハント欲ス余此時ヲ利シ此勢ニ乘セントス請フ我カ爲メニ劍槍ヲ贈リテ以テ聲援ヲ與ヘヨ若シ貴國遊俠ノ士顧ニ此風雲ノ會ニ際スルヲ得ハ我カ奮振ノ力ヲ増スヤ大ナリ請フ幸ニ之ヲ策セヨト散士筆ヲ執リ問ウテ曰ク范卿今何クニ在ルヤト其人書シテ對テ曰ク范先生病ヲ獲テ白雲山中ニ高臥ス且ツ其垂老ノ身ヲ以テ常ニ持重ヲ說キ我輩少壯ノ言ヲ用キス故ニ今先生ノ病ニ乘シテ事ヲ舉ケ而シテ後先生ヲ要セント欲スト散士曰ク危哉其レ必ス敗レン范卿ハ卓識奇智實ニ東洋ノ雄才ナリ今其人ニ謀ラス其言ヲ聽カス其病ニ乘シテ事ヲ舉ケ要シテ其擧ニ與ラシメントス何ソ其浮躁淺露ナル往年我カ薩南健兒ハ西鄕南洲ニ於ケル亦此ノ如シ而シテ遂ニ敗滅ニ歸セリ天下ノ大難ヲ發シテ兵ヲ起ス名正シカラサル可カラス名ナキモノハ必ス破ル叔平等何ソ明朝ノ恢復ヲ唱ヘ義旗ヲ擧ケサル何ソ淸朝ノ苛政ヲ鳴ラシ汚吏ヲ追ハサル何ソ自由ノ正理ヲ說キテ同情ヲ五洲ニ求ムルノ策ヲ建テサル昔時洪秀全ノ兵ヲ擧クルヤ名ヲ西敎ノ神信ニ託ス故ヲ以テ外人同情ヲ表シ密ニ策ヲ授ケ軍器ヲ贈リテ大ニ其聲援ヲナセリト今ヤ固陋浮浪ノ徒輩ト相和シ排外ノ氣勢ヲ煽キ敵ヲ内外ニ受クルノ愚ニ出ントス是レ想フニ少壯血氣ニ驅ラルヽノ致ス所豈ニ一敗地ニ塗レ

サルヲ得ンヤ況ヤ事急ニ策應スル能ハサルヲヤト朱鐵沈思多時遂ニ書シテ示シテ曰ク謹テ高諭ヲ領ス唯時機既ニ去リ悍馬ニ鐵鞭ヲ加ヘ矢ノ絃ヲ離レシヲ奈何セント是ニ於テ散士直ニ一友ヲシテ朱鐵ト與ニ清國ニ赴キ以テ其形勢ヲ視察シ且ツ無謀ノ擧ヲ止メシム後數月其友還リ報シテ曰ク渡航ノ日亂既ニ發シ匪徒四ニ起リ道路梗塞ス故ニ范卿等ヲ見テ意ヲ通スル能ハス纔ニ南京ニ入リ其形勢ヲ視ル當時鈕等軍統一スル所ナク號令行ハレス烏合喧譁而シテ遼燕呼應ノ兵モ亦時機ヲ愆リ聲息相通セス加之徒ニ外人ヲ殺シ教堂ヲ燒キ恣ニ良民ヲ剽掠ス故ニ天下響應スルモノナク義士ノ同情ヲ表スルモノナク遂ニ清軍ト戰ヒ一敗果シテ地ニ塗レ鈕僅ニ身ヲ挺シテ廣東ニ走リ捕吏ノ爲メニ縛セラレテ斬ニ處セラル聞ク其死ニ臨ムヤ喟然トシテ天ヲ仰テ曰ク大丈夫事ヲ擧ク成レハ則チ王成ラサレハ則チ死死固ヨリ惜ムニ足ラス唯地下范先生ニ見ユルノ顔ナキヲ慚ツルノミト從容自若死ニ就ケリ而シテ老范卿ノ死生ハ茫トシテ知ル可カラスト

曩キニ我國數々條約改正ニ失敗シテ國威外ニ伸ヒス憲政ノ組織ニ疲憊シテ上下内ニ軋轢スルヤ朝野常ニ其見ヲ異ニシ政府議會ヲ解散スル每ニ百揆叙ヲ失ヒ物論恟然政府施政ノ道ヲ誤リ國民適從スル所ニ迷フ是ニ於テ西人相語リテ曰ク立憲政事ハ東洋諸國ニ適セス日本ヲ誤ルモノハ外患ニ非スシテ内憂ナラント清人亦我現狀ハ斯ノ如クナルヲ見相和シテ嘲リテ曰ク橘淮北ヲ逾エテ枳ト爲ル倭人徒ニ泰西ノ文明ニ眩惑シ妄リニ其俗ヲ易ヘ風ヲ移サントス豈沐猴ニシテ冠スル者ニ非スヤト乃チ我國内ノ擾擾上下相鬩キ相軋ルノ時ニ乘シ朝鮮ヲ併呑シテ清ノ一省トナシ琉球ヲ復シテ大ニ勢威ヲ東洋ニ張ラント欲シ先ツ天津條約ヲ蔑如シ密ニ數百ノ兵勇ヲシテ服ヲ變シテ朝鮮ノ京城ニ入ラシメ彼ノ勢道ニ啗ハシムルニ利ヲ以テシ土民ヲ煽動スルニ浮説流言ヲ以テシ我ト韓トヲ暌隔シ貿易ノ全權ヲ擧ケテ盡ク清人ノ手ニ收メントス我政府ノ此ニ對スル殆ト知ラサルモノヽ如ク優柔不斷唯其逆ハサルヲ期ス故ニ未タ數年ナラスシテ雞林半島ノ實權ハ清ノ掌握ニ歸シ我カ通商ノ勢力全羅以北ニ及フ能ハサルニ至レリ

會々朴泳孝金玉均等日本ニ流寓シ交ヲ朝野ノ人士ニ結ヒ故國ノ爲メニ盡瘁スルノ念一日モ輟マス金ハ卓磊ノ士素行修マラサルヲ以テ屢々人ノ累ヲナセトモ亦縱横ノ才ヲ揮ヒ計畫スル所鮮シトセス朴ハ重厚ノ人故國ノ子弟ヲ薫陶シ以テ開明ノ風ヲ移養シ徐ニ地歩ヲ作ラント欲シ學校ヲ建テ育英ノ事ニ從ヒ内外ノ贊稱ヲ得タリ是レヨリ先キ朝鮮ノ政權全ク閔族ノ手ニ歸シ金朴ノ再擧ヲ恐ルヽコト最モ甚タシ今朴カ教育ノ事漸ク其勢力ヲ得ントスルヲ見ルヤ恐愕倉皇青天ニ霹靂ヲ聞クカ如ク之ヲ未萠ニ撲滅シテ以テ後難ヲ絶タント欲シ我國威ヲ侮リ我國法ヲ顧ミス頻ニ刺客ヲ遣テ二人ヲ殺サントス時ニ清韓人玉均ニ勸ムルニ遊清ノ擧ヲ以テスル者アリ玉均素ヨリ敢爲ニ勇ム忽チ其言ニ從フ蓋シ其意清ニ入リ李鴻章ヲ説テ以テ大ニ爲スアラントス交友之ヲ聞キ其行ヲ危ミテ之ヲ止ム玉均肯セスシテ曰ク韓人何ヲカ爲サン其來リテ吾輩ヲ覘フハ是レ官ヲ求メ利ヲ弋センカ爲メノミ若シ身ヲ殺シテ吾ヲ刺スカ如キ氣概ノ士アラハ豈三韓萎靡此域ニ沈淪スルニ至ランヤ且ツ清韓相謀リテ我ヲ拘囚スルコトアラハ日本ノ輿論必ス傍觀坐視セス予カ此行却テ禍ヲ轉スル東洋ノ導火線タルモ亦知ル可カラスト遂ニ航シテ清國ニ入ル初メ韓人李某ナルモノアリ閔族ノ密命ヲ承ケ言ヲ巧ミニシ色ヲ令クシ朴金等ニ親近ス散士一日李ト語ル必ス其異志アルヲ察シ朴金ヲ戒メテ之ヲ遠サケシメ又其徒ニ勸メテ早ク之カ備ヲナササシム然レトモ金朴等陽ニ之ヲ然リトシ

陰ニ李ト親ムコトニ深シ既ニシテ玉均上海ニ航シ忽チ李ノ術中ニ落チ兇徒ノ刺ス所トナル我邦人其死屍ヲ收メ之ヲ本邦ニ送致セントス清韓人相謀リ之ヲ横奪シテ清ノ軍艦ニ載セ警護シテ韓廷ニ贈ル是ニ於テ韓廷ノ百官賀表ヲ上リ六斷ノ刑ヲ具シテ之ヲ揚花鎭ノ河畔ニ梟ス血痕斑斑タル日本服ヲ襲キテ其傍ニ暴シ榜書シテ曰ク大逆無道金玉均ト内外人ヲシテ縱覩セシム此ノ如キモノ旬日更ニ腐肉ヲ八裂シテ八道ニ函送シ偏ク之ヲ城市ニ徇フ韓廷ノ我ヲ凌辱スル茲ニ至テ極矣兇徒ノ金朴ヲ圖ルヤ先ツ朴等ヲ浪華ニ誘致シ船中ニ密議スルニ託シ騙シテ以テ韓船ニ載セ去ランス然レトモ其計畫遂クル能ハス依テ更ニ玉均ヲ上海ニ殺ス同日ヲ以テ朴等ヲ東京ニ殺サントス計略具ニ備ハリ事既ニ明日ニ迫ル朴等諜シテ之ヲ知リ警護ヲ我政府ニ請フ政府顧ミス適〻兇徒來リ覘フ朴等直ニ捕縛シテ纔ニ危難ヲ免ルヲ得タリ而ルニ我政府目スルニ擅ニ人ヲ監禁スルノ罪ヲ以テシ遂ニ之ヲ獄ニ投シ加フルニ刑ヲ以テス而シテ兇徒既ニ罪ニ服シ證跡昭昭トシテ火ノ如クナレトモ法理以テ罪ナシトシ之ヲ本國ニ送還ス嗚呼兇徒ヲ敎唆シ人ヲ殺害シタル者ハ免サレ自ラ衞ラントシタル者ハ罪セラル當時外交ノ軟弱以テ見ルヘシ

夫レ法ヲ治ニ作ル其做猾亂ル法ヲ亂ニ作ル誰カ能ク之ヲ治メン朝鮮ノ虐政日ニ甚シク八道皆倒懸ノ苦ヲ叫フ蓋朝鮮ハ八政ヲ失ヒ（洪範九疇ニ曰ク八政一ニ曰ク食二ニ曰ク貨三ニ曰ク祀四ニ曰ク司空五ニ曰ク司徒六ニ曰ク司寇七ニ曰ク賓八ニ曰ク師）五過ヲ重ネ（書ニ曰ク私ニ徇ヒ法ヲ玩ブ者其類五一ニ曰ク權勢ヲ畏テ敢テ法ヲ執ラサス之ヲ官ト謂フ二ニ曰ク恩怨ニ報ヒ公ニ出ス之ヲ反ト謂フ三ニ曰ク婦言ヲ聽ク之ヲ内ト謂フ四ニ曰ク賄賂ヲ受クル之ヲ貨ト謂フ五ニ曰ク干請ヲ聽ク之ヲ來ト謂フ此五者皆私心ヲ以テ法ヲ壞ル情尤モ惡ムベシ）晦蒙否塞階闔壅ク擾レテ四海已ニ沸キ上下ヲ離スヤ一日ニ非ス耒耜ヲ提ケ席旗ヲ掲ケ苛政ヲ除キ暴吏ヲ誅スルヲ名トシテ起ルモノ概ネ虚歳ナシ韓廷視テ以テ常事ト爲シ敢テ政ヲ修メス是ニ至リテ東學黨機ニ投シテ暴起シ勢猝ニ悍獗全羅慶尙ノ諸道風ヲ望ミテ應シ韓兵之ヲ鎭壓スル能ハス原燎炎炎漸ク將ニ京畿ニ迫ラントス韓廷始テ驚キ爲ス所ヲ知ラス抑〻壬辰ノ役明兵ニ依リテ我軍ヲ卻クルヤ國内新ニ朋黨ノ禍ヲ生シ分レテ四五トナリ合シテ二三トナリ南人北人相敵視シ西人東人相容レス其紛爭ノ甚シキ暗殺トナリ毒害トナリ讒誣トナリ酷刑トナリ外ハ太平ヲ桃源洞裏ニ粧ヒ色情淫靡是レ耽ルト雖トモ内ハ蝸牛角上ノ爭ニ堪ヘス其塗毒ヲ生民ニ流ス戰爭ニ勝ルコト幾倍而シテ其所謂朋黨ナルモノハ漢時ノ淸議ニ非ス歐米ノ政黨ニ非ス門戸ニ攀援シ異族ヲ排擠シ以テ互ニ政柄ヲ爭フニ過キス怨毒相結ヒ祖ヨリ孫ニ至リ其弊愈〻牢クシテ拔ク可カラサルニ至ル且ツ朝鮮ノ政體ナル國王無上ノ權アリト雖トモ南面垂成ヲ王妃ニ仰クノミ故ニ立后ノ日ニ當リ領議政先ツ更迭シ百官皆妃ノ兩族ニ非サレハ則チ其黨類ヲ以テス此レ萬國ノ無キ所牝雞晨ヲ告ケテ之ヲ能ク愼ムナシ陰惡結黨爭ノ劇甚ヲ極ムル亦唯是レニ由ル今王登極ノ初メニ方リ大院君王族ヲ以テ攝政ト爲ルハ實ニ異數タリト大院君已ニ今王ヲ擁立シテ勢權ヲ擅ニシ其親黨閔族ヨリ王后ヲ册立シ益〻己カ勢力ヲ固クセントス然ルニ閔后ノ新ニ立ツヤ勢力漸ク閔族ニ歸シ更ニ二大黨派ノ軋轢トナリ相爭擾スルコト二十餘年搏殺暗刑虐殺幽囚甚シキハ彈丸御簾ニ集リ玉座血ヲ見ルニ至ル而シテ此間ニ於テ更ニ一黨ヲ平民間ニ生ス東學黨是レナリ全羅慶尙兩道ノ境ニ雲峯山アリ道人崔濟愚ナルモノ此山ニ苦練シ初メテ東學ノ宗義ヲ唱フ蓋シ東學トハ東方ノ學ナリ儒ニ據リテ儒禮ヲ固執セス佛ニ據リテ佛法ニ拘泥セス道ニ據リテ道術ニ偏倚セス三敎ヲ圓融シテ新儀式ヲ作ル全羅慶尙ノ民靡然トシテ之ニ從ヒ數十年間ニシテ敎徒十餘萬ト稱ス崔濟愚年三十韓廷ニ忌マレ刑ニ死ス然レトモ其高足崔時亨全琫準ノ徒學統ヲ繼テ益〻盛ニ布敎傳道ヲ力ム明治二十六年韓廷謂ラク全羅諸道亂民蜂起

スルハ東學黨カ大院君ノ意ヲ承ケ暗ニ之ヲ煽動スルニ因ルナリト遂ニ盡ク其首領ヲ捕ヘテ獄ニ下サントス東學黨既ニ閔族ノ跋扈ヲ惡ミ先師ノ冤死ヲ憤ルコト茲ニ年アリ而シテ今又此大難ニ迫レ何ソ手ヲ拱シテ空ク刃ヲ受ケンヤ二十七年ノ春全琫準ノ徒先ツ起リ訴願三十餘條ヲ作リ大院君ヲ奉シテ朝政ヲ釐革セント誓ヒ全羅道白山ニ據リテ檄ヲ八道ニ傳フ教徒響應念珠ヲ掛ケ銃劍ヲ提ケ會屯スルモノ雲ノ如ク崇敬神ノ如シ是ニ於テ屯所ヲ濟衆義所ト稱シ十二旒ノ旗幟ヲ作リテ十二條ノ軍令ヲ書シ郡府ニ入リテ暴官ヲ追ヒ倉庫ヲ開キテ貧民ヲ賑ハシ罪囚ヲ聽斷シテ寃枉ヲ伸理ス嚮フ所四民帖服シ郡邑敢テ其兵ニ抗スルモノナシ韓廷大ニ驚キ兵ヲ發シテ之ヲ伐ツ勝ツ能ハス琫準時ニ年四十謹愼ニシテ謀略アリ屢〻奇計ヲ放チテ官兵ヲ破リ頻リニ郡縣ヲ陷レ遂ニ長驅シテ全州城上ノ山嶺ヲ出テ曉霧ニ乘シテ急ニ完營ヲ襲フ完營ノ兵未タ敵ノ近キニ在ルヲ慮ラス倉皇城ヲ棄テ戰ハスシテ潰奔ス全州城ハ三道ノ要樞ナリ韓廷上下色ヲ喪フ是ヨリ先キ淸使遠世凱甘言ヲ以テ勢道閔泳駿ニ說キ援ヲ淸國ニ乞ハシム泳駿之ニ從フ是ニ於テ淸兵來リテ牙山ニ營スル時ニ皇軍亦名ヲ居留民保護ニ託シテ京城ニ入ル淸將乃チ恩ヲ東學黨ニ賣リ訴願ヲ紹介スルヲ約シ以テ兵ヲ解カシメントス琫準陽ニ之ニ從ヒ陰ニ益〻兵備ヲ修メ必ス閔族ヲ殲シ朝政ヲ革メスンハ已マサラントス太平道人ナルモノ有リ祕計ヲ齎ラシテ雞籠山中ニ入ル其賦スル所ノ太平歌ニ曰ク

太平唱來五百年。厝火積薪坐貪眠。歷數有讖恩鄭氏。八道誰當解倒懸。隴畝未見嘲燕雀。唯有妖星纏靈躔。鷄聲一夜須蹴起。底事撫枕徒慨焉。東學道主崔夫子。道統會自雲峯傳。教綱新提仙儒佛。學徒十萬擔一肩。名士從來多忤世。汚吏誣人自古然。念珠在手提銃起。老雄心事轉堪憐。全州北指朝天闕。南之嶺湖勢可連。韜略獨推全琫準。萬馬啣枚鳳頭巓。曉霧未醒夜宴酒。一城倉皇驚響弦。鳳紀爛爛十二幟。完營城上明旌再。鎭南徒是馬服子。屢怯鶴淚徒廻邅。三南已非貪官有。好向京師勒鞍韉。烈焰四面萬雷迸。新軍傳詔下日邊。濟衆之義誠殺伐。退軍且見秦法悛。日東兒子義膽千里赴難不顧身。錦囊祕得偉靈術。短袖吏藏蚊蚋拳。揭纛金陵雨暗夜。歃血廣寒月明前。八道山河在指顧。一朝轉坤又旋乾。鳥嶺南去三百里。行〻馳羽檄望狼烟。全州北去十五驛。暫屯手兵候風雲。八將星羅如隱電。相揖拜吾梁仙壇。指天指地誓皦日。談兵論道風生筵。大道不怪行大逆。密謀先天不違天。再徇州郡張形勢。忽放危計入京阡。汝上雲峯立汝馬。萬縣傳檄下靈寰。吾入雞籠閟吾室。七初拔鞭亂濟川。奇中有奇奇生奇。約中有約約更堅。隱顯離合運是密。神變譎敢倪其端。東學黨兮東學黨。動九天兮潛九淵。願建斯無前鴻業。大平長歌大朝鮮。

ト其句隱晦盡ク曉リ難シト雖トモ東學黨當時ノ心事ヲ見ルベシ

已ニシテ韓廷日本ノ要求ニ依リ大院君ヲ擧ケテ執政トナシ閔族ヲ逐斥ス是ニ於テ琫準等其志望ノ漸ク達セントスルヲ悅ヒ日本ノ爲ス所ヲ傍觀シテ敢テ動カス後未タ幾ナラス大院君我ト隙アリ蓋シ日本ノ威力韓廷ヲ壓シテ大院君權勢ヲ擅ニスルヲ得サルニ由ル而シテ招聘ノ顧問徃徃選擇ヲ誤リ法令紛糾シ人民令ヲ奉セス朝政ノ及フ所近畿幾里ノ間ニ過キス盜賊蜂屯蟻

集シ皆名ヲ東學黨ニ假リテ良民ヲ掠略ス時ニ二人ノ乞丐慶尙道洛東ノ日本兵站部ニ來リテ食ヲ乞フ我兵以テ間諜トナシ捕ヘテ之ヲ殺ス土民其故ヲ詳ニセス謂ラク日兵無辜ノ民ヲ虐殺スト憤起シテ兵站部ヲ襲フ我兵亦之ヲ知ラス以テ東學黨ノ爲ス所トナス卽チ急ニ黨魁崔時享ノ家ヲ圍ミテ之ヲ燒ク時享ノ生死詳ナラス是ニ於テ琫準慨然蹶起シテ曰ク日本名ヲ義ニ假リ虐ヲ我ニ恣ニス壬辰ノ事鑑ムヘキノミ且今ヤ日人我カ政柄ヲ左右シ國王在レトモ無キカ如シ是レ豈君辱ラレテ臣死スルノ秋ニ非スヤト兵ヲ雲峯ニ嘯集シテ全羅慶尙ノ間ニ出沒シ屢〻我守備兵ヲ襲ヒ以テ諸道ノ亂民ヲ煽起ス是レヨリ東徒一瞬一散一起一落容易ニ鎭靜ニ歸セス二十八年四月琫準其徒孫化忠等ト服ヲ變シテ密ニ京城ニ入リ大院君ト謀ル所アラントス路淳昌ヲ過キ忽チ韓兵ノ圍ム所トナリ傷ヲ被リテ遂ニ擒セラル韓兵之ヲ遇スル無狀ナリ琫準噤嘿一語ヲ發セス日本義俠途上ニ相遇ヒ深ク其落莫ヲ慰藉ス琫準初テ口ヲ開キテ曰ク閔族政ヲ專ニセショリ天物ヲ暴殄シ烝民ヲ害虐ス僕輩此ノ妖氣ヲ肅淸セント欲シテ義ヲ唱ヘ兵ヲ興シ疑念猜心日本ノ眞意ヲ解セス以テ大事ヲ誤ルモノハ僕カ罪ナリ然レトモ僕亦烏合ノ兵ヲ提ケ弊盾慶弓以テ精銳ノ日軍ニ抗ス豫メ其勝敗ヲ知ラサルニ非ス唯人臣ノ君ニ事フル子ノ父母ニ事フルカ如シ父母疾アレハ甚タ爲ス可カラスト雖トモ豈藥ヲ下サヽルノ理アランヤ是レ僕カ微軀ヲ鎬鋒ニ委ネテ悔イサル所以ナリト後旬日遂ニ斬ラル琫準刑セラルヽノ前夜日本ノ義俠竊ニ窓ヲ破リテ携ヘ遁レントス琫準辭スルニ瘡劇シク起ツ能ハサルヲ以テシ終ニ從容トシテ死ニ就ク古ヨリ達人賢士亂世ニ生レ大節ヲ懷キ無窮ノ智ヲ抱キ口ヲ鉗ミ說ヲ竊メ遂ニ言ハスシテ死スルモノ衆シ琫準ノ如キ豈其人ニ非スヤ

是ヨリ先キ李鴻章此機ヲ利用シ多年ノ慾望ヲ遂ケント欲シ名ヲ韓廷ノ請ニ託シ大兵ヲ韓地ニ派遣ス曰ク天兵屬邦韓王ノ急ヲ救フナリト愈〻其侵凌ヲ肆ニシ益〻其傲戾ヲ逞ス我國民金朴暗殺ノ事ニ纔クニ此ノ報ヲ以テス焉ソ淸韓ノ無禮ヲ憤リ我外交ノ軟弱此ニ至ルヲ慨セサランヤ新紙ハ政府ノ爲ス無キヲ責メ議會ハ書ヲ闕下ニ奉シテ進退ヲ決ス政府殆ト爲ス所ヲ知ラス先ツ兵ヲ朝鮮京城ニ派遣ス敢テ戰ヲ海外ニ開カント欲スルニ非ス其意兵ヲ朝鮮ニ觀シ以テ國民ノ慍ヲ和ケ以テ軍人ノ心ヲ收メント欲スルニ過キス然レトモ室ヲ脫スルノ劍復タ收ムヘカラス騎虎ノ勢自ラ制スル能ハス遂ニ日淸兵ヲ交フルニ至レリ故ニ日淸戰爭ノ起ルヤ朝野ノ宿老皆勝敗ヲ以テ念トナス曰ク豐太閤不世出ノ雄ヲ以テ二十萬ノ貔貅ヲ驅リ之ヲ輔クルノ名將猛士林ノ如ク猶且ツ平壤以北ヲ徇フ能ハス其末路纔ニ敗軍ヲ全ウシテ歸ルヲ得タリ血氣ノ將士白面ノ書生國家ヲ誤ル古今ノ通弊今日ノ擧果シテ能ク功ヲ收ム可キ歟ト

散士淸國膺懲朝鮮扶植ヲ唱呼スルヤ年アリ是ニ於テ其風雲漸ク將ニ急ナラントスルヲ見テ孤劒雞林ニ入ル漢江ヲ渡ルニ臨ミ小詩ヲ得曰ク

悲歌撫レ劍亂ニ中流一 落日西風一葉舟。滿目荒涼千古恨。漢江秋冷水悠悠。

宣戰ノ鳳詔出テ牙纛廣陵ニ進ムヤ將士奮勵スル所轉靡勢ヲ異ニシ王師ノ向フ所我 皇ノ神武ト天祐トヲ得テ海陸戰テ克タサルナク攻メナ破ラサルナク暮氣驕兵一蹶シテ振ハス鞭ヲ鴨綠ニ投シ馬ヲ遼河ニ飮シ旭日渤海ニ輝キ黃龍形ヲ潛メ簞食壺漿ノ民我 皇ノ仁威ヲ謳歌ス蓋シ我國振古以來兵ヲ海外ニ出スモノ少シトセス而シテ其遺算ナク鴻功偉烈未タ斯ノ如キ大捷アラサルナリ然レトモ退キテ細ニ之ヲ尋繹スレハ是レ范卿カ十四年前ノ獻策ト符節ヲ合スルカ如シ嗚呼亦奇ナリト謂フヘシ

散士雞林ニ入ルモノ一歲四回微力ヲ王師ノ征

清ト朝鮮ノ獨立トニ致サント欲ス曾テ我執權者ヲ見テ說テ曰ク開ク功ハ約ヲ厭ハス事ハ省ヲ厭ハス功約ナレハ成リ易ク事省ナレハ治マリ易シ墉基ハ倉卒ニシテ成ス可カラス大功ハ一朝ニシテ立ツ可カラス皆之ヲ爲スニ漸アリ之ヲ建ツルニ素アリ之ヲ樹ヲ種ウルニ譬フ若シ造次ニ山林ノ大樹ヲ徙シ宮闕ノ下ニ植ヱ之ヲ壅クニ黑墳ヲ以テシ之ヲ暖ムルニ春日ヲ以テスト雖トモ猶枯槁ヲ救フ能ハス何ノ暇アリテカ繁育センヤ今我國ノ朝鮮ニ於ケルヤ宣戰ノ大詔ヲ遵奉シ之ヲ扶植シテ以テ獨立ノ基ヲ建テシメサル可カラス而シテ其尤モ急ナルモノハ攻守同盟ノ誓約ヲ堅クシ疾風卒ニ至ルモ摧拔ノ憂勿カラシメ弊政更革ノ費用ハ我ヨリ之ヲ貸與シ以テ上下ヲ繋絆シ永ク相離ル能ハサラシメ鐵道電信航海拓殖ノ諸業ハ其機先ヲ制シ以テ兩國互惠ノ約ヲ締シ海關稅局ヲ改革シ半清半韓ノ外人ヲ解雇シ更ニ良吏ヲ擇任シ厚ク在韓有爲ノ外人ヲ懷ケ兵馬ヲ訓練シ訴訟ヲ公明ニシ警察ヲ嚴肅ニスルニ在リ然ラハ則チ姦邪迹ヲ滅シテ政績日ニ擧ルヲ得ンカ夙ニ興キ夜ニ寢ネ兢兢業業簿書推裏ニ刑ヲ刻ミ法ヲ鏤メ典範ヲ制シ歲計ヲ定メ八道ニ日本紙幣ヲ通用セシメ一朝ニシテ千有餘年ノ制度風俗ヲ一變シ之ヲ皇化セシメント欲ス是レ豈其道ヲ得タルモノナランヤ光化門外八省ノ組織外觀ニ孳孳タランヨリハ寧ロ正使ヲ八道ニ派シ民ヲ虐スル汚吏ヲ罰シ國ヲ蠹スル苛政ヲ除キ反側ヲ安シ蒙昧ヲ啓キ邪說流言ヲ禁遏シ以テ列國ノ疑惑ヲ避ケ恩威並ヒ行ヒ以テ大國寬宏ノ度量ヲ失ハサルニ若カサルノミ語ニ曰ク振興ノ機影響ヨリ捷シト願クハ國家大計ノ爲メニ三省セヨト執權者邈焉聽カサルモノヽ如シ散士退キテ人ニ謂テ曰ク古人云フ德義以テ天下ノ民ヲ懷クルニ足ラス事業以テ天下ノ急ニ當ルニ足ラス選擧以テ賢士ノ心ヲ得ルニ足ラス謀慮以テ大勢ヲ知ルニ足ラス忠言ヲ用ヰスシテ剛愎自ラ任スルモノハ敗ルト當局者他日覺ル所アラント爾來我カ對韓策ハ或ハ干涉主義トナリ或ハ放任主義トナリ或ハ閔黨ヲ抑ヘテ朴氏ヲ勸メ或ハ朴氏ヲ遠ケテ金氏ヲ擧ケ或ハ金氏ヲ斥ケテ閔黨ヲ推シ東轉西搖更ニ定マル所ナシ既ニシテ日清ノ戰局馬關條約ニ收マリ遼東半島臺灣諸島償金二億ヲ併セテ我有ニ歸シ日本ノ武威將ニ八荒ニ震ハシトス而シテ未タ數日ナラス忽チ露佛獨三國ノ干涉ヲ受ケ百戰ノ山河ヲ擧ケテ空ク清國ニ還ス噫

一夜交友十餘人酒ヲ置キ月ヲ賞シテ各〻其懷ヲ吐ク議論縱橫雄辯四筵ヲ驚カス俠遊子曰ク初メ日本ノ兵ヲ出スヤ外ハ清國ノ横恣ヲ懲シ韓民ノ懸倒ヲ救ヒ內ハ民心ノ携離ヲ收メ政黨ノ反抗ヲ絕タントス蓋シ機ニ投シテ勢ヲ制スル其宜シキヲ得タルモノト謂フヘシ然レトモ其東匪ヲ征伐スルノ一事ハ最モ策ヲ錯レルモノナリ夫レ東學黨ナルモノハ閔族ノ積惡ヲ憤リ生民ノ塗炭ヲ救ハント欲スル者固陋ノ僻說ヲ懷キ過激ノ擧措ヲ爲スト雖トモ其志節ヤ愛スヘク其氣概ヤ稱スヘシ善ク說キ克ク諭シ能ク之ヲ利導セハ渠レ何ソ半島革新ノ元精タラサランヤ蓋シ大ニ我カ往時ノ尊王攘夷ニ類似スルモノアリ惜哉日本政府偏ニ之ヲ敵視シ粉虀シテ孑遺ナカラシメント欲シ遂ニ三南ノ元氣ヲ撲滅シテ怨ヲ八道ニ買ヒ以テ北胡ノ蹂躙ニ委スルニ至ル是レ豈一大失計ニ非スヤ且ツ日本獨力扶植ノ大義ヲ唱ヘ弊政改革ノ要求ヲ聽カサルヲ名トシ兵力ヲ以テ王宮ニ迫リ其君臣ヲ脅スヤ唯清國ト兵端ヲ開クノ辭柄ト爲スニ過キス名ヲ公義ニ借ル其策不可ナルニ非ス然レトモ我カ帝國ニシテ眞ニ韓廷ヲ扶ケント欲セハ宜シク快刀ヲ揮ヒテ亂麻ヲ絕チ以テ先ツ其大綱ヲ擧クヘシ何ソ局促徒ニ末節ノ改革ヲ事トスルヲ爲サン開國以來ノ大改革ヲ强請シ而シテ朝鮮ノ疲弊其極ニ達スルヲ傍觀シ當局者ノ手腕ヲ掣肘シ議院ヨリ迫ラレテ後漸ク政費ヲ貸與スル爲メニ有爲ノ韓人トシテ竊ニ日本帝國我カ

獨立扶植ノ爲メ十萬ノ兵ヲ起シ億萬ノ金ヲ投スト稱スト雖トモ高麗半島根本的改革ノ最大必用ルナ數百萬ノ金ヲ遲疑スルハ野心陰謀ノ其間ニ伏在スルニ非スヤノ念ヲ起サシメタリト寄嬌生曰ク初メ日本政府大院君ヲ幽閉ノ中ヨリ起シ委スルニ政權ヲ以テシ日韓政守同盟ノ約ヲ結ヒ力ヲ竭セテ清軍ヲ驅逐セントス爾來未タ旬日ナラス大院君却テ我ヲ德トセス私慾ノ行ハレサルヲ怨ミ我ヲ國王ニ誣奏シ陰ニ背盟ヲ慫慂シ密書ヲ平壤ノ清將ニ贈リ早ク軍ヲ進メテ京城ニ迫ランコトヲ乞ヒ又東匪ヲ煽動シテ腹背我カ軍ヲ攻撃セシメ時機ヲ窺ヒ內ヨリ相應セントス是レ豈皇天ノ好權ヲ我ニ與フルモノニ非スヤ唯此一事背盟ノ罪狀ヲ數ヘ右ニ寶劍ヲ提ケ左ニ證左ヲ提リ以テ叢然之ニ臨マハ李氏五百年ノ宗祀ヲ絕ツモ何ノ辭カ能ク之ヲ救解スルヲ得ン書ニ云ハスヤ德ヲ樹ツルハ滋ヲ務メ惡ヲ除クハ本ヲ務ムト然ルニ優柔不斷其跋扈ヲ制スル能ハス韓人ノ奸謀ヲ覺知スル能ハス再ヒ得難キ機會ヲ失シテ百年ノ憂ヲ遺ス豈痛惜ニ禁ヘンヤト沈淪子曰ク諸子ノ言豈政府ヲ責ムルニ酷ナル莫カランカ蓋シ我國人ノ輕佻ナル獨リ朝鮮ノ改革ニ於テ然ルニ非ス征清ノ擧ノ如キ殊ニ甚シキモノアリ見ヨ初メ王師ノ過クル所秋毫モ犯サス僅ニ一雞

ヲ掠メ一菓ヲ盜ムモノ亦罰セラレ而シテ其勝ニ驕ルニ當テヤ旅順ノ剽掠モ猶且ツ制セス戰勝ニ醉ヒ高言シテ曰ク四百餘州蹂躪スヘシ十八省占領スヘシト甚シキハ則チ曰ク宜ク歐人ト赤縣州ヲ分割スヘシト軍人之ヲ唱フル猶可ナリ學者謀士公然之ヲ口ニシテ憚ラサルニ至リテハ豈其自重ノ心ナキニ驚カラサルヲ得ンヤ傳ニ曰ク治ヲ未タ亂レサルニ制シ邦ヲ未タ危カラサルニ保スト學者謀士之ヲ思ハス徒ニ排外誇張ノ血氣ヲ煽揚シ淺智ノ徒ヲ驅テ空談横議世界ヲ敵トスルモ恐ルヽニ足ラスト呼號セシム故ニ夫ノ外人恐怖シテ謂ラク日本人ハ亞細亞大陸ヲ紛爭ノ渦中ニ沈メ一波萬波ヲ搖盪シテ世界ノ大亂ヲ激發セント欲スル者ナリ東洋ニアル歐人ノ生命利益恐ラクハ救フ能ハサラント遂ニ我ヲ羽翼未タ成ラサルニ控制シ清國ヲ命脈未タ絕エサルニ救回セントス蓋シ干涉ノ端ヲ開カシメシハ我疎放ノ致ス所ニ非スシテ何ソヤト達觀道人曰ク夫レ百里ヲ行クモノハ九十里ニ半ス徒ニ一時ノ戰勝ニ安セス尺進尺守漸ヲ持シテ怠ラス以テ餘力ヲ蘊蓄スヘシ北京ヲ陷レテ城下ノ盟ヲ爲ス快ハ則チ快ナリ然レトモ是レ決シテ國家百年ノ長策ニ非ス戰有レハ勢必ス和有リ善ク和ヲ爲ス者ハ必ス能ク之ヲ制シ以テ後日ノ患ヲ爲サヽラ

シム故ニ先ツ朝鮮ヲ懷柔シ以テ北疆ノ藩屏トナシ遼東ノ如キ土瘠セ人鮮キ寒冷ノ地ヲ併呑シテ徒ニ奔命ニ疲ルヽコトヲ爲ス可カラス即チ普ノ墺ニ於ケル故智ヲ襲クヘキノミ往年普軍ノ墺兵ヲ破ルヤ實ニ積年ノ怨ヲ報スルニ在リ而シテ鼓行シテ將ニ其城下ニ入ラントスルニ當リ忽チ佛國ノ異議ニ遇ツ是ニ於テ憤ヲ忍ヒ軍人ノ激怒ヲ制シ和ヲ講シテ以テ已レカ援ト爲ス是レ實ニ獨相比公ノ勇斷ニ出ツ而シテ異日師丹ニ佛王ヲ擒ニシ巴黎ニ闔國ノ降伏ヲ盟ハシメタルモノハ實ニ良圖ニ非スヤ故ニ我亦力メテ露英ノ猜忌ヲ避ケ鋒鋩ヲ斂メテ潜ニ第二ノ軍備ヲ爲シ徐ニ他日ノ時機ヲ待ツヘキノミ然ルニ將士功名ヲ貪リ宰臣英斷ヲ下ス能ハス遼東ヲ取リテ忽チ又失ヒ永ク國民ヲシテ國辱ニ泣カシム豈失計ノ大ナルモノニ非スヤト後樂隱士曰ク露人カ極東ヲ經略シ大鐵道ヲ貫通シ軍港ヲ浚築シ以テ圖南ノ鵬翼ヲ張ラントスルヤ一朝一夕ニ非ス唯其軍港冬氷早ク鎖シテ船艦ヲ繫ク能ハス是レ露人ノ夙夜痛心スル所タリ是ニ於テカ謀議ヲ凝ラシ鐵道ヲ渤海灣頭ニ突出スルノ計ヲ定ム其意ニ曰ク終歲氷結セサル良港ヲ渤海灣內ニ得テ連絡ヲ鐵路ニ取リ軍艦ヲ繫キ東亞ノ艦ヲ集メ以テ平時ト戰時トノ要ヲ扼セハ清ノ東北

三省ト雞林半島トハ鐵路ノ環内ニ包容スルカ故ニ力ヲ用キスシテ自ラ露ノ領土ニ歸スヘシ何ソ區區ノ政策ヲ半島ニ施シ以テ列國ノ媢嫉妬忌ヲ求ムルノ徒勞ヲ要センヤト然ルニ風雨倏忽半島ヲ捲キ渤海灣頭怒濤天ヲ衝キ露ノ密計一朝ニシテ我破却スル所トナラントス露人豈愕貽セサルヲ得ンヤ蓋シ謂ラク日本ノ遼東ヲ占領スルハ露ノ死命ヲ制スルモノナリ日本恩威ヲ以テ遼東ヲ懷柔セハ遼東ノ民汚吏ノ苛政ヲ免レテ隆隆興起シ朝鮮半島獨立ノ名ヲ存シテ日本藩屛ノ實ヲ表シ清韓爲メニ麻痺セル神經ヲ刺撃セラレテ昏夢ヲ覺醒シ日本ノ誘導督勵ニ依リテ此ニ牢乎タル同盟ヲ結ヒ兩翼相搏テ輔車相待チ以テ露國ニ對峙スルニ至ラン而シテ其東方慓悍殺伐ノ氣焔ヲ西方ニ吐カント欲スルヤ必セリ況ヤ日本ハ此外征巨萬ノ資ヲ費シテ而カモ外債ニ賴ラス經濟界ヲ紊サス能ク財政ヲ維持シタルノ恐ルヘキ潜勢力アルヲヤ勢斯ノ如シ露國百年ノ苦心忽焉泡沫ニ化センノミ然ラハ則チ滿州ノ野ニ戰ハンカ懸軍萬里地勢隔絶兵力敵セス粮運繼カサルヲ奈何セン渤海ノ濤ニ雌雄ヲ決センカ日本海軍疲勞ノ狀ナキニアラサルモ乘勝ノ餘威勇氣舊ニ倍シ地理供給ノ便利ヲ占ムル露國ノ遠ク及フ能ハサル所英國ノ擧動亦測リ易カラス故ニ露都ノ軍議ニ曰ク若シ佛國ニシテ日ト絶チ露ト同盟セハ以テ日軍ノ大擧北向ヲ防禦スヘシ然レトモ防守ヲ變シテ攻勢ヲ取ルコト能ハスト是ニ於テ露國歐洲ノ危勢ヲ利用シ先ツ利ヲ以テ獨ヲ誘フ獨帝佛露ノ交情ヲ薄カラシムルヲ慮リ自國ニ利害ナキ東洋問題ヲ好機トシ喜ヒテ露ニ應ス佛モ亦露ト絶チテ以テ深仇ノ獨國ヲ助ケシム可カラス故ニ意ヲ枉ケテ之ニ應シ同盟ノ秘約ヲ訂シ時機ヲ窺ヒ我空虛ニ乘シ遼東占領ニ干渉ス蓋シ露國虎視鷲睨機ノ乘スヘキヲ伺フ伊レ朝夕ニ匪ス今ヤ清國ノ爲メニ其將ニ城下ノ盟ヲ成サントスルノ屈辱ヲ救ヒ既ニ他國ニ歸スル祖宗墓墳ノ地ヲ恢復シ自ラ進テ億萬ノ償金ヲ保證シ謀リテ到ラサルナク力メテ盡サヽルナキモノハ是レ豈公義ニ出ツルモノナランヤ取ラント欲シテ先ツ與フ露人從來ノ慣用手段焉ソ報酬ヲ預期スル勿カランヤ昔道光ノ役露使英佛ノ間ニ周旋シ清ノ爲メニ盡ス所多ク其報トシテ東方ノ地數千里ヲ掠奪ス是レ實ニ其好例タリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ異日清國山海關外ヲ露ニ失フハ智者ヲ待テ後ニ知ルヘキニアラス且ツ露帝ノ猶皇太子タルヤ世界ヲ周遊シテ日本ニ來リ好誼ヲ重ネ與ニ東洋ノ大事ヲ謀ラントス忽チ兇徒ノ爲メニ傷ケラレ帝都ニ入ルヲ得スシテ歸ル是露人ノ憤怨スル所當時露ノ朝廷大國ノ宏量ヲ示シ幸ニ無事ナルヲ得タルモ太子親ラ鋤ヲ執リテ極東ニ大鐵路開業式ノ盛典ヲ擧ク此間豈幾微ノ消息ヲ漏スモノナカランヤト孤憤士曰ク遼東ハ東洋ノ重地タリ清ニ在リテハ屋廬ノ屛藩ノ如ク露ニ在リテハ門牆ノ障塞ノ如ク日韓ニ在リテハ江河ノ隄岸ノ若シ露國之ヲ得レハ以テ日清ヲ制スヘク日本之ヲ得レハ以テ露ノ南下ヲ支ヘ覇ヲ東洋ニ稱スヘシ議者曰ク其地瘠セ人少ク氣候寒冷海路險惡之ヲ獲ルモ益ナク之ヲ失フモ損ナシト然レトモ予ヲ以テ之ヲ見レハ其大連灣ノ如キ四通八達ノ要衝ニ中リ渤海冰結半歲ノ日此灣獨リ船舶ヲ通スルヲ得我之ヲ占領シ鐵路ヲ清ノ山海關ト露ノ大鐵道トニ連絡シ港灣ヲ浚渫シ通商ニ便セハ冬期半歲北京以北及露ノ東方ノ交通商業皆此地ニ集合スヘシ其利源ノ大測ル可カラサルモノアラン況ヤ遼東鑛ニ富ミ林ニ富ミ人情寬和柔朴ニシテ甚タ治メ易キ南方慓悍ノ比ニ非サルヲヤ且ツ我之ヲ取ラスンハ露必ス之ヲ取ラン其大鐵道ヲ通シテ海陸關鎖東西呼應スルニ至ラハ智者アリト雖トモ將タ之ヲ奈何スヘキ故ニ厚ク其藩籬ヲ樹テ嚴ニ其防衛ヲ飾ヒ用テ彼ノ狡然逞ヲ思フノ懷ヲ杜カサルヘカラス唯余ハ遼東割取ノ日ニ方リテ宰臣其術ヲ誤リタルヲ憾

トス夫遼河以東ハ昔者隋煬帝百三十萬ノ衆ヲ興シ遼ヲ攻メテ亡ヒ唐世民之ヲ征シテ勝タス自ラ悔イ魏徴ヲ祀ル高麗ノ故土ナリ我征清ノ擧朝鮮ノ獨立ヲ扶植スルニ在ラハ宜ク清ヲシテ此故土ヲ朝鮮ニ還シ以テ其他意ナキヲ表シ其富強ニ資セシムヘシ日本自ラ之ヲ取ルハ名ト義トニ戻ルアリ唯朝鮮素ヨリ自ラ之ヲ治ムル能ハス是故ニ日本暫ク代リテ之ヲ管領シ其經營ニ任スヘキノミ此ノ如クンハ則チ外人復タ喙ヲ遼東占領ニ容ルノ辭莫カラン然ルニ我宰相謀此ニ出ツルヲ知ラス足曾テ海外ヲ蹈マス尊大傲岸南面王者ヲ以テ自ラ居リシ白髪垂老ノ李鴻章カ節ヲ折リ遠ク海ヲ超エテ來朝スルヲ見テ直ニ清國ノ爲スナキヲ侮リ條款ヲ通商シ遼東ヲ割カシメ而シテ彼カ外國ノ干渉ヲ豫期シテ容易ニ之ヲ承諾シタルヲ覺ラス傲傲然自ラ謂ラク樽爼ノ間ニ大功ヲ奏スト何ソ料ラン數日ナラスシテ取リテ復タ還スノ屈辱ヲ生スルニ至ラントハ三國ノ干渉國勢遼ヲ還ス、已ムヲ得サルモ何爲レソ將來ノ趨勢ヲ觀破シ東洋永遠平和ノ爲メ三國モ亦誓テ山東山西ヲ占領セサルノ條約ヲ提結セサルヤ機ヲ失ヒ國ヲ誤ル爭フ所ハ原ト毫髪ノ間ニ過キス是レ所謂危ヲ目前ニ救ウテ禍ヲ日後ニ貽スモノニ非スヤ王師十萬朔風ニ苦闘シ骨ヲ碎キ血ヲ流シテ漸ク其土ヲ得而シテ一朝空シク敵手ニ餒シ租税ヲ免シ歸化ヲ勸メテ我民ニ籍シ忠ヲ盡シ義ヲ盡サシメシ者忽チ棄テテ殘忍暴虐ノ清ノ治下ニ復ラシム異日不幸ニシテ再ヒ軍ヲ進ムルモ孰レカ復タ王師ノ先驅ヲ爲スモノアランヤ聞ク日軍ノ營口ヲ衛フルヤ一富家アリ我カ將以テ幕營ニ充ツ一女アリ芳紀十九才色絶倫日夕箕箒ヲ左右ニ奉ス遼東皇土ニ歸スヲ聽キ喜顔色ニ顯ハル卒然旋師ノ詔下ル女悲痛ニ堪ヘス詩ヲ賦シ水ニ投シテ死ス其詩ニ曰ク

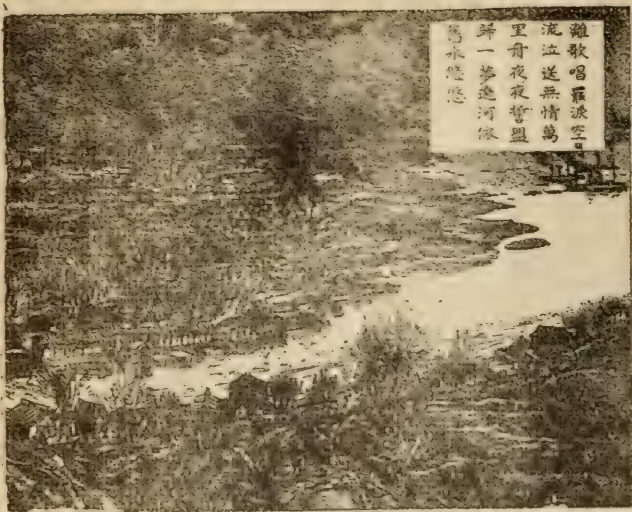
離歌唱罷涙空流。泣送無情萬里舟。夜夜誓盟歸一夢。遼河依舊水悠悠。

ト日東ノ有髯男兒此詩ヲ讀ミテ何ノ感カアル嗚呼北ハ茫茫タル荒原陰颼短草ヲ吹キ青燐髑髏ヲ照スノ夜何ヲ以テカ地下ノ寃魂ヲ弔フヘキ南ハ則チ劍氣天ヲ掠メテ光芒長ク垂レ將星地ニ墜チテ聖駕震駭ス而シテ宰相怵惕中夜以テ興キ心ノ憂危虎尾ヲ踏ミ春冰ヲ渉ルカ如ク厥徳ヲ免ルヽヲ思ハス徒ニ遼東還附ヲ論議スルヲ禁壓シ宣戰ノ大義ヲ忘レ朝鮮ノ敗亡ヲ顧ミス厚賞ヲ徴ヘ太平ヲ謳歌シ武臣錢ヲ愛シ文官賄ヲ貪リ新邸ヲ築キ別莊ヲ營ミ燕遊之レ事トシ奢侈ノ風ヲ煽キ投機ノ業ヲ長シ國民カ臥薪嘗膽ノ壯志ヲ消磨セシメントス何ソ嘆スルニ堪フヘケンヤト青雲閑人

曰ク諸君ノ言皆其理ナキニ非ス然レトモ徒ニ是レ毛ヲ吹キ疵ヲ求ムルノ説功ヲ嫉ミ寵ヲ羨ムノ毀ヲ免レス初メ日本ノ兵ヲ出スヤ長駐久屯懼ルヽ所アルカ如ク憚ル所アルカ若ク容易ニ戰ヲ開クノ色ナシ故ニ内外ノ人皆以爲ラク日本政府固ヨリ戰意アルニ非ス唯外強ヲ示シテ以テ國内ノ反抗ヲ鎭セントスルニアルノミト又曰ク日本ハ小國ナリ輕佻ニシテ猛進スレトモ耐久ナル能ハス清ハ大國ナリ鈍遲ニシテ怯懦ナレトモ耐久ノ力甚タ強シ故ニ日本ノ清國ニ於ケル猶韓盧ノ大象ヲ吹ユルカ如シ殊ニ外交ノ伎倆ニ至リテハ遠ク清國ニ及ハス故ニ縱ヒ出征ニ大勝ヲ奏スルモ終局ノ外交ニ失敗セント當時英國ノ擧動疑フヘキモノ多ク他ノ列國ノ去就亦未タ測ル可カラサルモノアリ故ニ當局者小心翼翼機ニ應シ變ヲ慮リ趑趄逡巡ノ間詳ニ各國ノ向背附離ヲ覗ヒ以テ一遺算ナカランコトヲ期セリ是レ蓋シ少シク大局ニ達スルモノノ能ク知ル所固ヨリ非難スヘキノ迹アルヲ見サルナリ若シ列國ノ擧動ヲ顧ミス世人ノ嗷嗷ニ從ヒテ漫然戰ヲ開キ列國干渉直ニ其後ニ生シ強鄰敵國機ニ乘シテ其側ヲ伺ハヽ羝羊藩ニ觸レ跋尾疐胡笑ヲ招クモ亦知ル可カラス何ソ億萬ノ償金ト臺灣トヲ獲ンヤ況ヤ三國ノ干渉實ハ露ノ煽動

ニ非スシテ獨帝ハ年少功名ヲ好ミ外交ノ詐術轉變端測ルヘカラサル我當局者固ヨリ之ヲ豫知スルノ難キニ於テヲヤ又況ヤ沈靜熟慮ノ時ニ當リ黃語危詞人民ヲ簧鼓スルヲ抑制シテ敵情ヲ和ラケ默化潛移平和ヲ保全セシニ於テヲヤ予故ニ謂ヘラク日本外交家ノ經營苦心ハ最モ多シト爲ス遼東還附ヲ英斷シテ北守南進強國トノ爭ヲ避ケ後日ノ大患ヲ除キシハ百戰ノ功ニ勝ルモ劣ルナシ是レ皇上ノ錫寵群ニ超ユル所以ニ非スヤト孤憤士鯨飲一杯詩ヲ吟シテ曰ク

已令二我馬飲一遼河一遺恨宰臣漫唱レ和。



遼師ノ送ニ美人入水ノ圖（原本插畫）

惜ハ若ニ龍兎ニ終ル也女。龍頭蛇尾今ニ於テ何ソニ省老人漸ク口ヲ開キテ曰ク既往ハ追フ可カラス遼事ハ說ク可カラス唯恨ム半島ノ改革早ク效ヲ奏シ人心ヲ收攬シ上下ノ親倚スル所タル能ハサルヲ若シ早ク其效ヲ奏センカ遼東ヲ還附スルモ宣戰ノ大義貫徹スヘシ遼東ニシテ我カ管領ニ在ラシメンカ朝鮮ニ失徹スルモ猶爲スヘシ書ニ曰ク大邦其力ヲ畏レ小邦其德ニ懷ク山ヲ爲ル九仞功一簣ニ虧クト今ヤ兩ナカラ之ヲ失フ堤塘四潰逆浪天ニ漲ル其レ誰カ之ニ任シテ其後ヲ善クセンヤ嗚乎日本帝國自ラ奮ヒ絶ヲ繼キ廢ヲ興シ弱ヲ扶ケ暴ヲ誅シ以テ列國ノ盟主トナリ朝鮮ノ獨立淸國ノ刷新東洋ノ振興ヲ大呼シ四海ノ表ニ騰躍シ却テ滿淸二十一省雞林八道ノ山河ヲ擧ケテ露國ニ委シ遂ニ露國ヲシテ五洲ニ帝タルノ念ヲ深カラシメ歐洲列國ヲシテ愛親覺羅氏ノ實力ヲ窺知シ他日分割占領セント欲スルノ野心ヲ增サシメ遂ニ淸國ヲシテ大旋渦中ニ陷ルノ時機ヲ促セリ諺ニ曰ク愛導セント欲シテ却テ之ヲ顚ス嗚乎千秋萬古誰カ此職責ニ任スル者ソ聞ク初メ東洋永遠ノ平和ヲ維持シ敗者ヲシテ再ヒ復仇ノ念ヲ起ス能ハス環視ノ強國ヲシテ覬覦ノ志ヲ絶タシメント欲シ帷幄ノ神算遼東半島ト山東ノ一帶トヲ取リ旅順港威海衛及ヒ膠州灣ヲ占領シ而シテ遼ノ東北ヲ朝鮮ニ與ヘ之ニ代フルニ高麗海峽・忠清・黃海ノ沿岸ノ要險ヲ以テシ南ハ臺灣澎湖島ヲ併セ全ク洋上ノ霸權ヲ掌握スルニ在リト然ルニ樽俎兒徒時ヲ失ヒ機ヲ誤リ北方ニ大患ヲ遺セシハミナラス臺澎間我領海ノ主權防禦ヲ擧ケテ外國ノ干渉ニ屈從スルニ至リ外人ヲシテ豫メ將來ニ備フル所アラシメ戰艦ヲ增加シ以テ之ト相對抗セサル可カラサルニ至リ而シテ國民ノ負擔隨テ重シ國力充實ノ策豈容易ナランヤト詞氣沈痛衆爲メニ竦動ス

遼東半島ノ還附ヨリ後韓人俄然我ニ對スル擧動ヲ異ニシ我ヲ輕侮シ我ヲ厭忌シ時事日ニ非ナリ閔后近侍ニ謂テ曰ク日本ハ我カ姻戚ヲ仇トシ我カ怨家ヲ友トシ先王ノ法言法服ヲ變シ社稷宗廟ヲシテ夷狄ノ風ニ汚サシメントス縱令我祖宗ノ山河ヲ割キテ一二強國ニ讓スルモ誓テ此深讎ヲ報イサルヘカラスト遂ニ露廷ヲシテ公然我ニ問ハシメテ曰ク聞ク貴國ノ朝鮮ニ於ケルヤ唯其獨立ヲ扶植シ弊政ヲ釐革スルニ在ルノミ又他意アルナシト而シテ今其獨立國ノ宮中ニ干渉シ以テ兩后ノ心ヲ痛マシムルモノ多シ敢テ其事由ヲ聽カント我政府忽チ宮中ニ干渉スルヲ止ム初メ我政府韓廷ニ忠告シテ宮中府中ノ別ヲ

明ニシ閔后ヲシテ政事ニ容喙スル能ハサラシム流言アリ曰ク露國撤兵ヲ日本政府ニ迫ルト韓人以テ信トナシ漸ク日本ヲ疎ス是ニ於テ我忽チ前論ヲ變シ閔后ニ媚ヒテ政治ニ豫ラシム是レヨリ政綱愈〻紊亂シテ百事舊弊ニ復リ昨是今非新舊混淆韓人ヲシテ皆竊ニ日本政策ノ變轉常ナキヲ嗤ハシムルニ至ル爾來閔后ノ勢威獨リ熾ニシテ倚露排日ノ氣韓廷ヲ覆ヒ浮言百出我當局者殆ト手ヲ下ス能ハサラントス是ニ於テカ政府戎馬居士ヲ莵裘ニ起タシム居士意見ヲ陳シテ訓令ヲ乞フ略ニ曰ク某命ヲ半島ニ奉ス宜ク征清ノ詔敕ニ則リ朝鮮ヲ視テ同盟獨立王國トナシ我レ獨力其責ニ任シテ其改革ト禦備トヲ負擔スヘキカ將タ古領保護ノ雄心ヲ抑制シ歐米列國中ノ公平ナルモノヲ撰ミ之ト相謀リテ共同保護ノ獨立國タラシムヘキカ抑ミ我國一二强國ト早晩紛擾ヲ朝鮮ニ生スルヤ必セリ是故ニ大難事ノ未タ紛起セサルニ先チ今日之ヲ勇斷スヘキカ某既ニ難局ニ當ルヲ顧ミス素ヨリ政府ノ方略ニ容喙スルノ意ナシ但三者其一ヲ採決シ某ヲシテ方針ニ迷ハシムル勿レト政府依違シテ答ヘス之ヲ促ス再三漸ク答ヘテ曰ク宣戰ノ大詔ニ遵ヒ獨力扶植ノ初志ヲ貫クヘシト後幾ナラス十月八日ノ變アリ

散士廣陵ノ獄ニ繫カル陰房僅ニ數笏殆ト身ヲ横フニ過キス坐臥無聊以テ悶ヲ排シ鬱ヲ遣ルナシ一夜更闌ケ人靜リ萬籟倶ニ寂タリ忽チ李豐榮・古筠居士ノ枕頭ニ來ルアリ先ツ居士ニ謂テ曰ク君昨既ニ冤ニ遇フ僕又今冤ニ陷ルト古筠居士曰ク請フ詳ニ之ヲ語レト豐榮曰ク曩ニ閔后ノ黨與再ヒ大權ヲ掌握スルヤ先ツ日人ノ訓練セシ近衞軍ヲ解散シ大院君ヲ毒殺シ大宰相金宏集以下日人ト交結セル要路者數十人ヲ屠戮シ北疆ヲ露國ニ割キ保護ヲ彼ニ託シ舊政ヲ復セントス是ニ於テ吾黨密ニ祕計ヲ運ラシ去歲ノ政策ヲ襲キ以テ機先ヲ制セントス間者走テ外人ニ告ク外人大ニ驚キ急ニ細作ヲ四方ニ放ツ然レトモ吾黨ノ擧動平日ニ異ナラス公使親カラ日館ヲ訪ヘハ日星使談笑自若館内殊ニ寂寞ヲ極ム因テ相詰リテ曰ク昨年日人ノ事ヲ擧クルヤ人馬結束居民踴躍將ニ戰ニ赴カントスルノ狀アリ今寂寂此ノ如シ豈異圖アランヤ其夜我名士觀月ノ宴ヲ張リ吟詩朗詠ノ聲四ニ達ス閔黨之ヲ聽キ益〻以テ流言ノ信スルニ足ラサルヲ知リ私ニ笑テ曰ク豎子未タ我カ大謀ヲ覺ラサルカ宜ク明夜ヲ以テ一擧豎子ノ族類ヲ殲滅スヘシト是ニ於テ彼亦觀月ノ宴ヲ張リ舞踏醉歌月ノ天心ニ傾クヲ知ラス夜將ニ三更ナラントス僕同志七八人日人十五六大院君ヲ孔德里ノ別墅ニ訪ヒ事ノ急ナルヲ告ケ輿ヲ擁シテ大闕ニ向フ時ニ月星明朗畫ノ如ク柳影地ニ在リ萬戶閴寂人馬聲ナク仰テ月中ヲ望メハ飛雲忽チ動キテ嫦娥光ヲ斂メ斗柄低ク垂レ金露天ニ滿ツ夜未タ全ク明ケス大事既ニ定ル而シテ何ソ圖ラン閔后此夜ヲ以テ殂落セントハ是ヨリ將ニ進テ大ニ國家ノ前途ヲ經綸セントスル時ニ京城在留ノ米人等私利ノ爲メ感情ノ爲メ相引援シ譸張虛大ノ報ヲ傳フ日本當局者之ヲ聞キ惶恐シテ曰ク局外正義ノ米人猶此ノ報ヲ爲ス事體知ルヘキノミト倉皇狼狽殆ト其爲ス所ヲ知ラス而シテ米人ノ虛報素ヨリ信ス可カラサルヲ悟ラス米國政府ハ官吏ノ對韓策ヲ論議スルヲ詰責シ人民ノ公論ハ牧師等カ陰謀ニ關與スルヲ攻擊スルヲ探ラス事ノ眞相ヲ究メテ而シテ後徐ニ其宜キヲ制スル能ハス遽ニ星使軍人五十餘人ヲ捕縛シ律スルニ死ヲ以テシ以テ政府ノ責ニ非サルヲ衒ヒ且ツ陰ニ一二强國ニ謝セントス鳴乎疇昔ノ事即チ夢ナル勿ランヤ今日ノ疑獄觀劇ニ侔シキノミ爾來本國ノ形勢亦一變シ僕等小人ノ猜忌ヲ受ケ姦人ノ毒舌ニ罹リ閔后殺逆ノ首魁ヲ以テ目セラレ遂ニ極刑ニ處セラル初メ我ガ同志之ヲ聞クヤ竄匿シテ皆其蹤跡ヲ晦マス然レドモ僕年既ニ耳順ヲ過ク再ヒ日本ニ走リ

テ生ヲ偸ムニ忍ヒス且ツ自ラ以爲ク國王殿下ハ久シク悍后ノ御シ難キヲ知リ動モスレバ國難ヲ釀スヲ恐ル故ニ其殂スルヤ廢シテ庶人トナシ京城市民モ亦以テ天道ノ報施トナシ士民哀ヲ擧ケス商賈市ヲ輟メス且法廷ニハ日人ノ顧問アリ執政者ハ我カ與ニ事ヲ謀リシ人ナリ縱令一タヒ捕ヘラル丶モ其辯解難キニ非ズト焉ゾ知ランヤ人情ノ反覆測ル可カラザル遂ニ罪ヲ僕ニ嫁シ僕カ魂魄ヲシテ永ク漢陽宮裏ニ迷ハシム僕ノ赤心血ヨリモ紅ニ僕ノ節操霜ヨリモ白シ而シテ人ノ之ヲ知ルナキヲ奈何セント慨然起テ宮中紅ノ一絕ヲ壁上ニ書シテ曰ク

絃聲聲絕寂王宮。傾國傾城一夢中。
昨夜陰房靑鬼火。幽魂何處弔殘紅。

ト右錡居士豐粲ニ謂テ曰ク夫レ世治マレハ愚者獨リ亂ルヲ得ス世亂ルレハ智者獨リ治ムル能ハス身濁世ノ中ヲ踏ミテ道ノ行ハレサルヲ責ムルハ是レ猶騏驥ヲ兩絆シテ其千里ヲ致サスコトヲ求ムルカ如シ天下大ニ亂レハ安國アル無ク一國盡ク亂レハ安家アル無ク一家皆亂レハ安身アルナシ火崑岳ニ炎レハ琬琰礫石ト俱ニ焚ケ嚴霜夜零レハ蕭艾芝蘭ト與ニ盡ク嗚乎吾子カ三日三夜御前ヲ去ラス以テ諫ヲ進ムルノ日却テ罪ヲ獲ス今同僚ノ讒口ニ罹リテ舊主大院君之ヲ庇護スル能ハサルモ命ナリ僕カ九死ヲ毒香彈雨擲霧蒸ノ中ニ免レテ遂ニ豎子ノ兇刃ニ斃レ八裂八道ニ徇セラレシモ亦天ナリ散士カ常ニ禍ヲ避クルニ巧ナル且此獄ニ繫カルモ亦時ナラスヤ夷叔ハ淑媛ノ言ニ斃レ子輿ハ臧倉ノ訴ニ困メラル聖賢猶此ノ若シ而ルヲ況ヤ庸庸タル者ヲヤ何ソ天道ノ是ト非トヲ問ハンヤ今ヤ散士ト幽明途隔ツ君ノ一死ハ以テ散士等ヲ照スノ白日トナラン唯夫ノ獨立扶植弊政釐革ノ事悉ク烏有ニ歸シ日人一敗地ニ塗レ遂ニ恣ニ天下ノ骨肉ヲ戕ヒ勳家ノ腹心ヲ毒シ名ヲ釣黨ニ竄シ意ヲ闒葺ニ授ケ擠排迭ニ出テ誣構互ニ讒シ義士忠臣寃獄ニ充チ貞婦烈女教坊ニ入リ國王蒙塵靑衣酒ヲ行リ萬家流離八道荆棘ヲ生スルニ至ラン人力ノ如何トモス可カラサル所ナリ然レトモ老子曰ク天下ノ至柔ハ天下ノ至剛ヲ馳騁スト余唯國家ノ爲メニ一脈ノ望ヲ繫ク所以ノモノハ朝鮮ノ至柔能ク强國至剛ノ間ニ介立シテ祀ヲ存スルヲ望ムニ在リ是レ天機ナリ漏ス可カラスト散士之ヲ聽キ竦然驚キ起テハ正ニ是レ鐵窓ノ一夢覺メ來レハ風雪怒號四壁闇黑長夜漫漫唯警邏劒履ノ響錚錚タルヲ聞クノミ

佳人之奇遇跋

佳人之奇遇一出。紙價爲貴。豈俟余文而後輕重哉。況内外名士。序之評之贊揚至矣。今復何言。請提每卷之要。以與讀者論之。夫南海惟諠。轟雷努風。驟雨日至。滊灑乾坤者。香港海上之奇觀也。兩雄執手。對立船首。睥睨風雲。闘胸中之蟠龍。開卷輒有迅颶捲紙之快。於是指柳樹乎遠岸。顧魔風乎天末。何其壯也。方其夜深波恬也。懷二妃于無邊海上。而死者幸未死。一情證果。亦爲天緣。桅檣摧殘。纔支奄奄之微息。爲佛艦所救。而航于篙里。九死一生。心算早成。鼎老眞機智哉。其經歷山港也。憫佛國無謀士。過自由國也。憤自由之戕殘。觀馬島也。悼妄信西教。而斷千年之宗祀。論議卓然。皆足以殷鑑焉。而其歸淸國也。爲佰者。爲浮虜。爲上客。瞬間變化。妙如觀劇。及與顧江寧剪燭而談。則詭辯横發。使蘇張瞠若其後。嗚呼若而人轗軻落託。無地於投足。亦何天道之幽昧。此第十一卷之要也。騰突撑拒。犇蚜鬱怒者。三角塔之鬼工也。于于汨汨。湍淬洞踏。出千無門。而行千無垠者。灘江之天造也。極目萬里。不見一物。熱沙閃爍。黯然憯悴人目者。大漠之偉觀也。散士踞塔上。左顧右眄。騁懷於九垓之外。寓感於埃及五千載之興亡。於是乎詭

特之戹言。放流迸出騂所窮極。叙六朝。僕秦漢。其論旣雄。其文亦煒。而起之以廢謫之英雄。終之以屛居之美人。骯髒老雄。可以上下議論。變兮淑姬。可與晤語。遂感別時之片言。乃弔戰場之新鬼。迷於羅幃。惑於尺素。疑於倚闌之仙容。而迴回朶島之流。若夫婆遇靑宮之戹。而堅持窮袴。阿翁入漠外。射書夏東夢城者。此佳人之所訴。綺語如織。中不可犯。此爲第十二卷之要。經佛跎。下多惱河。極樂城下。感盛衰之無常。異域得病。懊惱于鄉國之時事。吟蟋蟀於高秋。繫想魏闕。亦何忠愛之情藹如也。觀於魯都。不堪其虐。遊於亡國。不堪其憤。士官之傲慢。誇金角灣口之勝。强鷲南下之志。其揣摩英人之野心。鑿鑿可聽。土將之慷慨。亦察突厥之危急。亦見露兵之怯恇。而露人伐謀之譎詐可畏。所謂眼光如炬者也。放浪人之曼言。曠蕩冲漠。汪洋恣肆。可謂擷南華之髓。小亞細亞之觀風。羅馬之按古。情思悠邃。文彩璀璨。如遊盤古氏之初。如入閬苑上丹丘。車彌兒之雄略。斯發咤之壯烈。英風颯爽。可起懦夫。至都林見老偉人一段。則一篇大眼目。改訂國約之中止。實根于此。故議論起第十三卷。而過第十四卷之半。忖度列强之心。揣摩改約之不足懼。猶睞諸掌。而寀萬國之形勢。明英露之情狀。以及馬留關半島建聯邦之得失。與存突厥築保障之可否。該博閎大。萬言不窮。隱括三才。鑄鎔造化。遂說歐洲將來之三災。論世運輪環之理致。雄辯博議。今古罕比。是可以少緩蟋蟀之吟乎。遊龍動。不復說其繁旺之狀。乃記國會議場。一黨魁。論亡緬何王朝之可否。以明新版圖之不可饞倜。亦作者之達識矣。情感之所激。欲懷匕首就湯鑊。高踏之所勇。忘塵世于海隅。如將以終身者。而改訂之國約。一旦中止爲功不淺。抑紅蓮之罹奇禍。朱脣能罵。其終也。窈窕淑女扼皓腕。而歌爆裂彈之歌。可以觀愛蘭之自治。竟無以成也。而海南將軍之精誠。獨能廻狂瀾挽沒日亦快矣哉。旣而志士四散。元氣凋傷。哲人亦亡。哀辭極悲。要之第十五卷。起佳人之獄。而終才子之隱矣。于顚悍目。不足以起隱士。高麗風雲。鵬翼始張。名士叔平。不躁于鼎老。而敗死。才子古筠不聽於忠言而八裂。皆不自重之過也。朴氏之蹈危機。何我宰臣之庇懦。韓山之荒澤。倘且有慷慨草檄之異人。雲峯山中。呼雲起風。滂沛勃崒。膚寸而震憾三國。瑧準之大節。何其磊磊。而太平道人。竟無由知其蹤也。漢陽市上。嗚嗚擊筑。高談激論。奔湧軼越。如層嶺爭秀。驚瀾競倒。慨援韓之無名。憤還遼之無顏。悲國威墜地而四鄰仄辱。以觀我侮之不可以禦於韓人。而强露之威約。獨擅於明禮宮中。無復回八道之頹波也。苑袞起于潛龍。抑是何事。廣陵之大獄。亦復異矣。李周會之語夢。淋淋漓漓。慘惻慄慄。古筠之恢譎。竟不變其故。而宮中紅一閃。使人心境恍忽。不可方物。人鬼感交。天機未泄。劍履錚然。破鐵窓之幽夢。幽夢之爲眞乎。鐵窓之爲夢乎。抑達觀人世。亦皆夢乎。夢乎夢乎。此第十六卷之結穴也。夫奇遇之篇。自獨立閣上。一打自由之破鐘。聲覺天下之昏睡。慨時傷世之言積成一部十六卷。而大夢一覺。郭然亡象。其文瓌詭靈怪。卓犖雄狀。槩非常途之談。倏而見之。驚瀾怒濤。澎湃洶濤。蛟鼉騰躍。濤立天飜。然平心而察之。則皆不可不行而行。不可不止而止。本諸道義。切諸人情。未始有意于彼奇矯也。讀者觀其瀾而無眩於其奇幻變怍。則庶幾乎善讀此書歟。

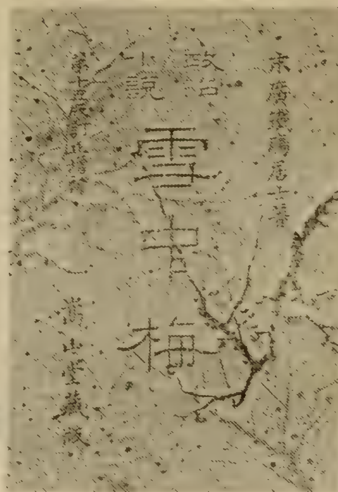
丁酉夏七月　雲外道士誌

政治小說

雪中梅

末廣鐵腸

政治小説 雪中梅（上編）



（原本表紙）

第十版雪中梅序

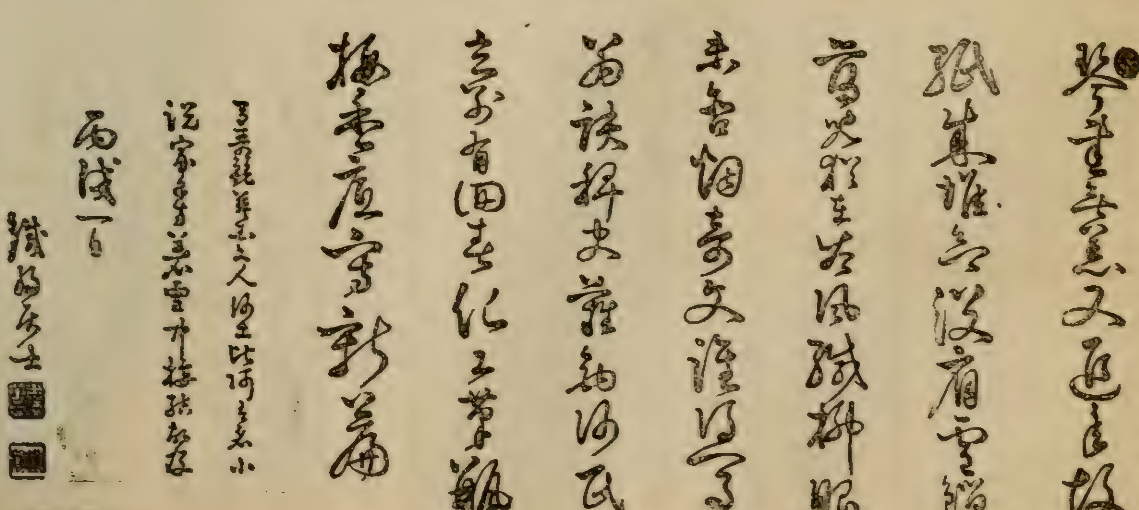
雪中梅ノ版ヲ改ムルモノ玆ニ十回ニ及ブ余ハ之ニ因ツテ深ク感ズル所アリ嚮ニ余ノ此書ヲ著スヤ國會開設ノ前ニ於ケル政事ノ有樣ヲ寫出シテ世人ノ注意ヲ喚起サントスルニ過ギズ以謂ラク氷雪全ク解ケ春風和融ノ時ニ至レバ梅花飄零シテ復タ之ヲ顧ルモノ無カルベシト圖ヨリ流傳シテ今日ニ至ルベキヿヲ豫想セザリシナリ因テ詩一首ヲ題ス

玉骨氷肌獨自奇。春風十度上二南枝一。
雪埋二岡谷一鶯喉澁。惆悵春皇廻レ駕遲

明治二十六年三月　　鐵腸記、

訂正增補雪中梅序

余ノ政治小説雪中梅ヲ著ハセシハ今ヨリ五年前ニアリ當時深ク世態ニ感憤スル所アリ情話ニ託シテ政治上ノ有樣ヲ描出スルノ意ニ出デシガ其書ノ成ルヤ料ラズ世人ノ喝采ヲ博シテ四方ニ流傳シ遂ニ大阪ニ於テ之ヲ歌舞伎トナシ東京ヲ始メ地方マデモ之ヲ演ズルニ至レリ其間ニ同名ノ僞書ヲ發兌スル者アリ爲メニ此書ニ向テ多少ノ損害ヲ及ボセシニモ係ハラズ版ヲ改ムルモノ上篇ハ五度下篇ハ四度ニ及ビ發兌ノ部數三萬ノ上ニ出ヅ余ヲシテ一ケ年ノ海外行ヲ爲スヲ得セシメシハ多ク此書ノ力ナリ頃日大阪書肆嵩山堂新タニ鉛版ニ附シテ之ヲ合本トナサントシ余ノ訂正ヲ請フ蓋シ余ノ小説ヲ



（初版本題詞）



（原木 繪）

著ハスハ此書ヲ以テ最初トス故ニ今日ニ於テ之ヲ讀メバ頗ブル其體裁ヲ成サヾルヲ覺ニ或ル人此書ヲ評シテ政事論ノ上ニ小說ノ粉ヲ振リ掛ケシモノナリト云ヒシハ誠ニ適評ナリ今ヤ脚色上ヨリ大ニ變更ヲ加ヘント欲セシガ一ハ政事上多事ナル日ニ際會シテ心ヲ文學ニ潛ムルノ閑日月ナキガ爲メ一ハ角ヲ撓メテ牛ヲ殺シ却ッテ此書ノ眞面目ヲ失フニ至ランヿヲ恐ルガ爲メ原作ニ就テ其ノ文章語句ニ改正ヲ施シ又ハ增減スル所アリ其ノ一二ヲ擧レバ第一發端ハ喇吧ト大砲ノ聲ヲ以テ起シ一時大ニ批評者ノ賞賛ヲ得タリシガ事情ニ適セザル所アルヲ覺ユルヲ以テ全ク之ヲ修正ス第二井生村樓ノ演說ハ文章體ニ記セシガ其前後ヲ削リ之ヲ言語體ニ改ム第三前年此書ヲ草スルヤ條例ノ施行頗ブル嚴峻ナル時ニアリシヲ以テ記事中往々曖昧ノ言語ヲ用ヒ獄中ノ一段ノ如キ其夢ヲ以テ結ビシハ少ク憚ル所アルニ出デシナリ今盡ク之ヲ變更ス第四山中ニ地方ノ形勢ヲ談ズル處ニ一ノ演說筆記ヲ引用セリ是レハ今日ニ於テ陳腐ニ屬シ且ツ前回井生村樓ノ演說ト相犯スヲ以テ之ヲ削去ル其他ハ一々玆ニ擧示スルニ暇アラズ其ノ趣向ハ舊ニ因レドモ頗ブル文章ヲ修飾シテ稍ヤ小說ノ粉ヲ增加セリ然レ圧是レ余ガ一部ノ政事論ナリ讀者之ヲ普通ノ人情小說ト同一視セザレバ幸甚

鐵腸居士末廣重恭大阪ノ寓樓ニ於テ記ス時ニ欄外寒梅始メテ開キ淸香馥郁タリ

雪中梅序

跡富んで頑貧しく美人薄命にして才子多病なり大聲は里耳に入らず陽春白雪の歌は人の和するもの少なし天下何の處か遺恨なからん人生何の時か不平あらざらん設ひ聖人世に出でて自ら政事を行ふも人は神明に非らず何ぞ四海の內に於て百事の盡く權衡を得るを望むべけんや惡の罰せられざるあり善の賞せられざるあり國家の爲めに盡力して世間の擯斥に逢ふものあれば一身の私利を營んで百年の榮華を受くるものあるべく混々沌々黑白の顚倒するもの指を屈するに暇あらざらんとす是れ古より高人畸士の動もすれば山林に放浪し詩酒に流連し自ら世外に出でて快樂に一世を經過せんとする所以なり夫れ耳熱して烏々と呼び杯を擧げて天を睨み將た情を丘岳に寄せて其閑適を樂むもの丶如きは耳目の塵世の事物に觸れざるを以て其の怨恨不平を發するの道なく境遇に從うて自ら適然たるを得べし亦缺陷世界に處するの一方便なりと云ふべし然れども是れ特に消極的の快樂にして積極的の快樂にあら

ざるなり若し夫れ一筆一硯几に倚り紙を展ばし以て一の世界を造り出だし忽にして雨露降り忽にして雷霆起り金鼓鳴り絃歌響き或は宴會たり或は鬪爭たり佳人に才子を配し名主に賢臣を與へ志士仁人の流離艱難する者をして天下の政柄を掌握せしめ兒童婦女の心情より小人卑夫大姦巨猾の狀態に至るまで其笑ふべく悲むべく泣くべく怒るべきもの一々之を寫し出して紙上に躍如たらしめ與奪意の如く生殺自在なるは是れ眞に造化の權力を掌握する者にして其快樂たる殆んど名狀すべからざるものあり而して世の憂患あるもの雨朝月夕之を讀んで奇と呼び妙と叫び恍惚無何有の鄉に遊んで其身の不愉快なる天地に在るを忘る亦何ぞ愉快なるや之に加ふるに小說の上乘なるものに至りては能く世人を感化し想像を以て造り出だせる世界に向うて歩を進めしむるの利益あり蓋し今日の社會は高山の如く其の山麓を成す下等人民の部分は太だ廣大なれども其の山巓たる上等人民は極めて狹小なり而して難を避けて易に就き苦を捨てゝ樂に趣くは普通人間の天性なるを以て若し嚴格なる文章を以て高尙なる道理を說く時は之を讀むもの數行にして睡を思ひ其の卷を畢る能はず熱血を吐露して著述したる書籍も遂に覆瓿と爲りて復た之を顧みるもの無きに至る若し平易の文辭を以て普通の感情に訴ふれば愚夫愚婦と雖も亦喜んで之を玩味し知らず識らず我が誘導する所に從うて其步を進むるに至るべし是れ所謂る因緣生法ものにして其功たる何ぞ石を鍊つて天を補ふものに異ならんや鐵腸居士は我が鄉の人なり人となり嚴毅方正其出でて政事世界に奔走する玆に年あり或は長江の筆を揮ひ或は懸河の辯を皷し以て社會の人心を提醒する一日に非らず近頃適ま政事小說を著はして雪中梅と名く余之を閱するに其の行文の流暢にして趣工の新奇なるは固より論ずるを待たず其の寓意の時勢に剴切なる讀者をして爲めに感動に禁へざらしむ知らず宋廣平の再來を以て自ら任ずる人にして何の思ふ所ありて此の遊戲三昧を爲すや蓋し數年以來我邦政事世界の漸く沈睡の有樣に陷り懸河の辯長江の筆も亦十分の效用を奏する能はざるものあるを見て竊かに憤懣に禁へず乃ち余の所謂る一の世界を造り出だして自ら樂み併せて其の樂を他人に及ぼし以て社會の間に在る不平の氣を解散せんと欲するものに非ざるなきを得んや然らざれば居士の才高く志大なるを以て何ぞ時風を趁うて兒女の好に投ずるが如きことあるべけんや世人若し筆墨なき所の處に於て一種の淸香を嗅ぎ出さば則ち善く雪中梅を讀むものと云ふべきのみ

明治十九年八月　南海の一書生二宮孤松
駿臺の僦居晝羨人樓上に記す

發端

祝砲震ㇾ天國會逐㆓百五十回開期㆒
斷碑出ㇾ地父老想㆓十九世紀名士㆒

秋の空イト晴れ渡つて一點の雲も無く廣き東京城中は家毎に日章の國旗を飜へし街上を往來する馬車人力車はサナガラ織るが如く折柄練兵場の原にて打ち出す祝砲ドン〱と鳴り喇叭の聲も嚠喨として耳に澄めり今或る家の內にて二人の紳士が對座し一人は年頃五十ばかりに見え此家の主人と思はるゝがイト喜ばしき顏付きにて　△「イヤ祝砲が始まりました今日は丁度明治一百七十三年十月三日國會の祝日で御座いまして本年度の帝國議會も今日開會



（版木浦畫）

となり　天皇陛下は群臣を率ゐて議場へ御臨幸になると云ふことですから定めて上下兩院の議院は盛んな儀式を備へて　陛下を奉迎し萬歳を祝する事で御座いませうと云へば一人の頭に白髮を戴くイト上品なる紳士が〔一左樣々々お互に此繁榮の世の中に生れて安樂に老年を過すのは誠に仕合な事で御座います此四方四里餘りの東京は一面に煉瓦、高樓となり電信は蛛の巣を張つた樣にて汽車は八方に往來し路上の電氣燈は白晝に異りません其の上東京港には萬國の商船を繫いで商賣の盛大なのは龍動巴里も三舍を避け陸に數十萬の强兵があつて海に數百の堅艦を泛べ世界中日章國旗の飜らぬ場處もなく敎育全國に普及して文學の盛なる萬國中肩を比ぶる者もなく政治上の有樣を視れば上に　至尊至嚴の帝室が有りて下には知識と經驗に富む國會があり改進保守兩黨の競爭で滑かに內閣を交代し憲法確定して法律よく整　言論も集會も盡く自由であるのに少しも弊害のないのは古今の歷史上に於て比類なきことと思ひます百年前迄は亞細亞中貧弱の邦國と云はれて歐米諸國の爲めに輕蔑せられましたが暫時の間に國勢が一大進步をなしたのは畢竟天皇陛下が聖明の君主にましまして夙に立憲政體を立る　聖詔を下し遂に明治二十三年の本月本日に國會を御開きになり夫れから次第に世運が進步して今の樣に成つたのですから御互に子々孫々迄　皇室に忠義を盡さねば成りません△〔誠に君の御說の通りであります去りながら私が幼少の時分に祖父抔から話に聞たことがありますが明治十三四年の頃には政府と人民の間に種々の軋轢がありまして十六七年より十八九年に掛けては世間が大不景氣で民間の政治思想がなくなつて仕舞つたト云ふことで丁度其の時分の人が書た二十三年未來記と云ふ書を讀で見ますに夢に託して政治社會の有樣を示し屹度不完全な國會が立つに違ひないと斷言してありましたが如何して其事情が一變して目出度世の中に成つたのですか古い事だからサッパリ私共に譯が分りません○〔御尤の御不審で御座います百年前の歷史も世に傳らぬものが多いから當時の事實を尋ねるには太だ不都合ですが古語にも云ふ通り隱顯有時で私は不思議なことで國會開設前後の事が精細に分る奇書を得ましたト云へば一人は膝を前め△〔ハテ夫れはドンナ書で御座いますか○〔マアお聽下さい先日の大雨で上野博物館の後に當る鶯谷の崖が崩れると其中から一の石碑が出ましたのを繪入朝野新聞で電氣銅版に寫して掲載しました久しく地中に埋つて居たと見えて碑文には磨滅した處が多いが篆額の鶯溪先生之碑と云ふ處丈けは明白に讀めましたソコデ記者が鶯谷と云ふは此石碑から名を得たものであらうと說を付けましたが是れは大層な間違で明治維新の時よりも前に出來た書物に上野の鶯谷と云ふ名前が見えますから百四五十年以來の地名とは思はれません此節では大廈高樓が軒を接する



（初版本挿畫）

繁盛の場所になりましたが昔は随分閑靜の地であつたと云ふことですから國會開設に盡力した人が功成り名遂げて此地に隱れ鶯溪と云ふ號を付け其後有志者が有りて記念の爲めに石碑を立てたものと思はれます今日の新聞で昔の事を論ずるには兎角附會の說が多いから容易に從はれません卜話し立つるを一人は頻りに耳を傾け △「夫れは妙です貴君は其新聞を御所持ですか」主人は側にある金唐革の箱の中より一ツの新聞を取出し ○「是れであります」相手の老人は一寸標題に目を付け △「ハテ繪入朝野新聞第四萬九千五百三十號ヨク古くから續いたものです卜云ひながら懷中より眼鏡を取出し大なる洋紙四ツ折の新聞を披いて視れば細密なる插畫が幾ツも有りて其間に古碑の寫眞を掲げり

△「ナル程これは妙です文體と云ひ書風と云ひ百年前のものに相違御座いません殘念なことには闕文があるので何分にも讀めぬ處が多い樣ですが前後を推して考へて見ますれば鶯溪と云ふ人は如何にも豪傑の士で夫婦ながら社會の爲めに盡力したものと思はれます何うかして此の人の傳記を見たいもので御座いますダガ此碑文の樣子では兼て祖父などから承はつて居る國會開設前後に名のあつた彼の何野とか云ふ先生のことかも知れません ○「此の碑文中に先生の事蹟は雪中梅花間鶯の二書とあつて其の上の一字が闕けて居りますが多分載の字か詳の字でありませう此の書があれば定めて當時の事情が分るであらうと思ひ方々聞き合せて見ましたが何分にも古いことだから知つて居るものが御座いませんソコデ不圖考へ付き上野の書籍館へ參り色々と搜索してヤット見付けましたから數日筆耕者を頼んで先づ雪中梅丈けを寫し取らせました文章も中々面白い上に談話の模樣をありの儘に書たものですから能く人情を寫し出して明治二十三年前の政治社會を眼前に見る樣であります名士賢女が種々の艱難を忍んで國會の設立に盡力する處などは時代の違ふ今日の人にまで非常の感動を與へますと云ひつゝ「テーブル」の上の鈴を鳴らして書生を呼び書齋にある一册の寫本を取り出して老人に渡せば老人は押し戴き △「ソレは有り難いナ雪中梅鐵腸居士著と夫れでは著者は矢張り二十三年未來記と同人ですな定めて國會開設前の有樣が善く分りませう何樣國會百五十年の祝日に此の樣な古書が手に入ると云ふのも誠に不思議なことで御座いますハテ目錄は漢文で書てありますな

雪中梅上編目錄

第一回　老母憑枕示遺訓　少女揮涙告素懐

「コン〱コンお春や一寸來てお吳れお春は居ぬかえト五十餘りの婦人が病氣と見えイト痩せ衰へたる顏を縛り枕の上に置き苦しさうに咳を

し乍ら呼び立る聲に應じソット唐紙を開き立ち出でたるは年の頃十六七の少女にて靜かに枕元に座を占めソット病人の顏を眺め「御母さん何の御用で御座います先きまでお側に居りましたが餘り能くおよツて居らツしやるから一寸彼方で新聞を讀んで居りましたワモシ四時で御座いますからお藥を召し上りませんかと云へば老母は顏を振り「マア藥は止しませうお春や此樣な事を云ふと お前が猶ゝこと心細く思ふだ



（初版本挿畫）

らうが私の體はモウ長い事は無いヨ」小女はハット思ひ少し眼中に涙を持ち乍ら左あらぬ體にて詞に力を入れ「御母さんナゼそんな弱い事を仰しやいます昨晩もアノ先生が御歸りの時に玄關まで送って參りまして御病氣の樣子を聞きましたらネ御母さん長い御病氣の事でもあるし隨分お弱りではあるが未だ左して御老衰と云ふ程でもないから今に御全快になるに相違ないと云はれました御母さんサウ力を落したものでは御座いません 老母「ウソ〳〵 昨日山本さんが御歸りの時にお前が玄關へ出て何かヒソヒソ話しをする樣子だから耳を立てて聞いても話しの模樣はサツパリ分らなんだがお前が茲へ來た時に眼中がうるんで居たので山本さんの云つた事も大抵分りました 少女「いゝエあの時は勝手で『サン』が御飯を焚て居て餘り煙りましたからツイ涙が出たので御座います 老母「さうでは無いヨお醫者はなんと仰しやつたか知らないが早や一年越しの肺病で此の樣に痩せるばかりだもの如何して癒るものかネと云はれて少女は聲を震はし 御母さんの御病氣が此の上お惡い時には私は獨りで如何なりませうソンナ心細いことを話して下さいますな老母も眼中に涙を浮べ「コン〳〵私も死たくはないが壽命のないの

は仕方が無いではないか私とお前は御國から來て未だ一年もたゝぬ内に御父さんは彼のやうにおなりなさるし賴みに思ふ梅次郎さんは今に行方が知れず其の上に私が此の通り大病になつたからお前はどの樣に心細い事だらうと私は夫れ許りが氣にかゝるよコン〳〵眼をねむらぬ内にお前に話してコン〳〵さうしてお前の心を聞て置きたい事がコン〳〵コンと咳にて詞も絶々になれば少女は氣遣はしき顏付にて「御母さん其の樣なお話しはお止なさいヨ大分お咳が出ますゼ山本さんも長い話しは成るだけなさらぬ樣にと云はれたでは御座いませんか『サン』やお藥を持てきなサア横におなりト云ひつゝ老母を臥かせてソツト蒲團を掛けしが程なく老母は病の疲れにスヤ〳〵と寢入りたり少女は枕上にて悄然と物思はしげの顏付なるが色は白雪を欺き鼻筋通り眉秀でゝ眼中も冷かにして何處となく愛嬌あり數日前に結びしと思はるゝ島田髷は少しく亂れて黑髮面に垂れ母の寢顏を窺ひてハラ〳〵と涙を落し手巾にて之れを拭ふ有樣は梨花一枝春帶レ雨の風情なり姑くあつて老母はコン〳〵咳をして目を開き「オヤお春はまだ其處に居るかえツイウト〳〵と睡つた内にまた御父さんの夢を見たがなんぞ浮言でも云

ひはせなんだか　少女「いゝエ何にもお言ひはなさいません　老母「お春モウ私は迚も長いことはあるまいお前は今梅次郎さんに逢たら其の面貌が分るであらうかト問はれて少女は顔を赤くし「ハイ彼の寫眞は仕舞て御座いますが餘りよく寫ツて居らぬと御父さんが仰しやいましたから一寸途中で逢ひました位では分りますまいヨと云ひつゝ何事か思ひ出だし胸を傷むる模樣なり　老母「さうかお春も知ツて居る通り御父さんはアノ御氣象で當世の女は昔し風では行かぬ琴や三味線は大抵で善いから十分に學問をさせると仰しやるしお前も書物が好きでトウ〳〵女教師にまで成つたから早く養子をしたいと思つても御父さんは國の若い者には一人も氣に入るものがないから東京へ出た上で善い人を見立てて知らせようと云ツて御出京になり其の後ち梅次郎さんの人品を委しく手紙に書き先き先き見込のある男だから養子にしたいとて寫眞まで御送りになりお前も此の人ならと云ふから其の返事をして程なく二人で東京へ來て見れば梅次郎さんは其前に北海道とやらへ往ツて其れ限り行先が分らぬ樣になつたが聞けば犯罪の嫌疑とやらで身を隱されたと云ふ事で私は落膽したがコン〳〵コン　少女「御母さんまたお咳が出ますからソンナお話しはお止めなさいナ　老母「いいエ先刻からいつもになく氣分がいゝから言ひたい事を皆んな話して置くヨところが御父さんは梅次郎は學問もあり分別もあるから暴動などにたづさはる筈はない是れには何か譯があることヂヤとて誰れが何と云つてもお聽入れが無かつたが御父さんの御隱れ後早や二年越になつても梅次郎さんの音沙汰なし母子二人で杖ともなり柱ともなつて暮す内に私は明日も知れん大病になつたからお前が能く覺悟を極めて呉れねばならぬよコン〳〵コン　少女「御母さん夫れは何の事をおつしやるので御座います　老母「サアお前は何ぼ發明でも女のことだから何時までも一人で此の富永の家を持つ事は出來まいから私がどうかなつた跡で早く身の落付をせねばなりませんヨだがお前は何時までも梅次郎さんの音信を待つ心算か私の聽いて置き度いと云ふのは此の事サお春默つて居てはお前の心が分らぬではないかト問ひ返されて小女は面を赤くし手にて袖を採みながら姑し思案の體なりしが「深谷さんは宅の養子に定つたと云ふではなし只だ御父さんの口約束ばかりで御母さんさへお逢なされぬ程ですから何も私が義理立てをして深谷さんを待つには及ぶまいと思ひます夫れでも前々から御父さんのお話しも聽て居りますし私も深谷さんの書きました物を持つて居ますが大層文章も面白う御座います上に學問もある樣でして中々並の人とは思はれませんワ私も此の先き洋學をして見たいと思ひますから御母さんに萬一の事がありました時には内の事は叔父さんにお頼み申して置きまして私は何處かの女學校へ往つて勉强しようと思ひます二三年立つても深谷さんの行方が知れませねば其の時になつて叔父さんと御相談をしても宜しいでは御座いませんかとイト決心したる答を聞いて老母は喜ばし氣に娘の顔を打ち見やり「お前の考へを聞いて私も大安心をした御父さんもお隱れの時まで梅次郎さんの事を氣に掛けてお出ででがあつたが寫眞を見れば何だか目容が威ろしい樣でもあるし其の上色々の評判もあるからお前がどう思つて居るかと内々心配をして居たがマア夫れで御父さんの念が屆くと云ふものだお春何卒二三年は外から養子を取らずに居てお呉れ其の内には深谷さんの行方が知れるかも知れないからアヽ安心した草臥たドリヤ寢ませうト云ひ乍ら又少しく聲を上げ「お春まだ言ひ遺した事があるヨ　少女「モウ今日はお話しはお止しなさいナ　老母「外の事でもないがネお前も知つて

居る通り彼の叔父さんは本統は他人でもあるし私の邪推かは知らんがどこか安心の出來ん人の樣に思ふよッシテ内の地面や公債證書は皆んな御父さんのお骨折で出來たのだから能く氣を付けて人に取られぬ樣におしョと話しの内に天德寺の夕暮の鐘の聲ゴン〳〵響き渡り秋風に散る木の葉パラ〳〵と窓を打つにぞ　小女「オヤお話しをして居る内に最う暮れかゝりました

第二回　壯士懸試辯論正義社員　少年初露名聲井生村樓

頃は三月の末にて天氣も殊の外麗らかなれば淺草橋の邊は人出も多く馬車人力車の往來繹るが如く非常に雜沓せり今や洋服を着たる二人の紳士は迭先きになり馳せ來る車を右左に避け橋を渡つて三四町も歩みしが一人がフト立ち止まり横町の入口に大きな紙札を揭げ今二十日午後一時より井生村樓に於て正義社政談演說會とありて其の脇に許多出席辯士の名前を筆太に認めてあるを見認め後より伴れの男に聲を掛け「オイ中村君今日は井生村で演說會があるぜ往つて見ようヂャないかと云へば一人は後を向き○「今朝朝野新聞に演題が出て居たのを見たが聽く程のものはないぜ其の上少し時間が後れたから止めよう　△「早く出る奴はどうセ駄目だ丁度いゝ時分だ奥山へ往つて見るものはあるまいヨ井生村へ行くべし　○「仕方がない十錢散財して御突合をしよう二人は踵を轉じて横町に入り　△「大分人が出掛けたネ久しいこと演說が無かつたのに今日は一二人上手の名前が見えるから遊歩に出た奴は皆來るだらうアレ又巡査が入口の前に居るぢやアないか　○「政談もいゝが巡査の劍つくを喰ふには閉口サ　△「自分が法律を犯しさへせにやア何も巡査が怖いことはない筈サと云ひつゝ今二三人の書生風の男が不平らしき顏付きにて歸り來るに行き逢ひ一人の紳士は小聲にて　△「彼奴等は門口から追ひ歸されたのヂャ彼の風俗では誰が見ても學校の生徒と鑑定が付くから胡麻かさうと思ふのが横着ぢやと話の内に早や井生村樓の門前に到りしが方さに室内に入らんとして庭口に立つもの七八名あり巡査は一々之を呼び留めて姓名を問ひ書生風の者に至つては一々其の寄留する町名番地屋號を尋ねて之を手帳に書き留め其の官私學校の生徒に非らざるかを聞き質し然らざることを辯明せしめ始めて通行を許す若し學校生徒なりと思ひ之を說諭すれども聽かずして強て入場する者ある時は電報を最寄の警察署に掛け其宿所に就いて之を取調べ愈よ生徒に相違なき時は之を警察署に拘引して裁判所に告發し集會條例に照して罰金を命ずる事あり其の外當時孰れの政談演說にても會主より一々其の論題及び演說の大意を屆け出でさせ治安を妨害すると見做すものは之れに認可を與へず又演說の場には警察官の出張あり其の言論の詭激に涉る時は之れを中止して聽衆を解散し其の上地方官又は内務省より辯士の公衆に向つて政談を爲すことを禁止することも間々あり蓋し明治十二三年頃は日本國中一時に政治の思想を發達し言論の勢力も太だ熾盛なりしが辯士の内には時に過激の說を吐くものあり大に政府の警戒を引起し遂に集會條例の制定あり其の後更に數回の改正を經て條例の施行は愈よ嚴重となり東京府下にて辯士の淵叢なりと云はれたる國友會嚶鳴社の如きも數度の中止解散に逢ひ十八年の春より冬に掛けては一時盛大なりし演說會も多分は廢止となり氷雪の野を蔽ひて草木の枯槁せしが如く如何にも慘憺たる有樣なりしが群陰窮つて一陽を生じ方さに一の豪傑の士有つて社會の間に出で誠心を以て上下を感動し社會の政治思想を喚び起さんとす氷雪の艱苦を凌いで百花の先魁を爲す誰か其の高節を欽慕せざらんや閑話休題二人の紳士は巡査

の許可を得て堂上に入れば百餘疊の廣座敷は聽衆充滿して立錐の地もなく正面には一脚の卓子あり一人壇上に立ち辯論方に央なりと見え笑ふ者あり叫ぶ者ありノー〳〵ヒヤ〳〵の聲相間雜して最も雜沓を極む辯士の右方には警察官二名劒を帶び正服を着して儼然と椅子に倚り書記一名鉛筆を手にして頻りに辯論の大意を筆記す東の方の壁には六七張の張紙ありて辯士の姓名と論題とを掲げり第一には奮起せよ國民天野權次郎とあり其の次ぎは同胞兄弟に望む所あり秋野鶴三郎最後の三張は同等の權利武田猛社會は行旅の如し國野基誰か政黨の競爭に權變を無用と云ふや川岸萍水にて其餘は紙尾風に飜へり又は辯士の背に隱れて一々讀み取るべからず壇上の辯士は既に三四十分も演述せしと思はれ面上に紅色を帶び稍や逆上せし氣味合にて瓶中の水をコップに移して一時にグットト飮み干し再び說き出だして曰く

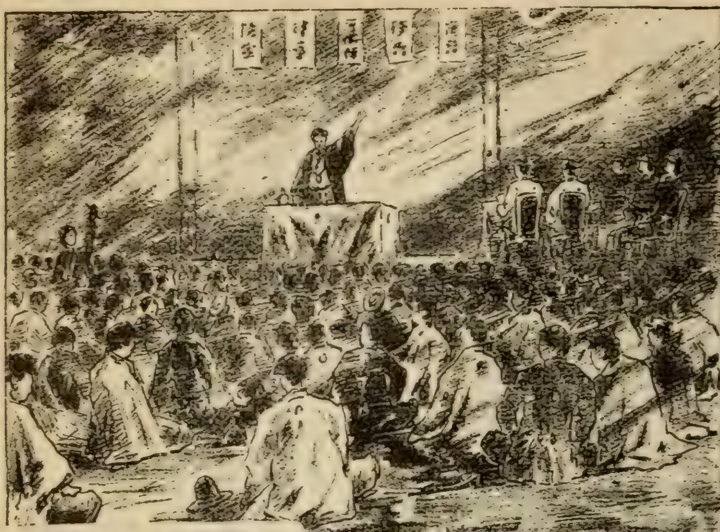
エヘン僕が反覆の辯論で權利の同等であることは諸君も既に御了解になつたであらう、エヘン然れば他日國會開設の時に至り財產や知識が、エヘン乏いとて下等人民を政權の外に擯斥するの理由なきは誠に明白であります(ヒヤ〳〵ノウ〳〵)歐洲にても英米諸國の如きは(ハ、ア〳〵ハ、ア〳〵)皆同等權利の主義が實際に行はれて(ノー〳〵)居りますが獨り壓制な獨逸などはエヘンウンビスマルクと云ふ專斷家があるから憲法上は立派でも人民の權利が十分に擴張しません諸君よ我邦二十三年の國會をして英米の如くならしめて魯西亞や獨逸の如くならしむる勿れ

握り拳にてドンと卓子を打いて壇を下る座上拍手の聲パチ〳〵パチ ○、武田は中々熱心の樣だが何を言ふのかサッパリ分らんヂャないか ○、皆んな差して甲乙はないサ時に今度出て來る國野と云ふ男は是れまで一度も名を聞たことも無い樣だネ ○、左樣サ論題は立派ヂャが多分此節田舍から出て來たのであらうから感服する程なことはあるまい數百人の聽客は彼處に譚じ此處に話し滿堂囂々たり程なく緣側の玻璃障子を開け一人の少年シヅ〳〵聽衆の間を通つて壇上に登れり年齡は二十四五なるべし肉少しく痩せ顏色白く眉黑く脣紅にして眼光銳く威儀堂々として犯すべからざるの勢あり去れどもイト古びたる銘線の絮衣に鳶色の羽織を着し「メリンス」のへコ帶を締めたるは問はずして其の零落書生たるを知るべし卓子の上にある眞鍮の瓶より水をコップに移し聽衆に目禮して方さに口を開かんとす處々に二三の拍手あるのみにて堂上の喧嘈未だ定まらず此の少年は意氣殊に安閑として毫も急遽の狀なく先づ百里を往くものは九十里に半ばすと云ふ古語を引き一の旅人が一日地方を出で其の日の夕方に或る都府に達する考へなりしに道路は普請中にて人力車も意の如くに進まず其の上中途より大風雨に逢うて困難を極めトウ〳〵夜半まで掛つて十里ばかりの道を往きしことを說き忽ち眉を舉げて玲瓏の音を發し

一日數十里の行旅すら此の通りであります別して十年の歲月を期して萬里の遠征を試みるものは十分の覺悟がなければなりません早や五年の星霜を經過しながら一の高山を踰えず一の大川を涉ることが出來ませんならば將來五年の間に於て最初に豫期した遠征を成就することは思ひも寄りません夫の如くなれば二十三年の國會を如何いたしませうか

此の時少年の容貌儼然として音聲次第に高く喝采四壁を震動し數百人の眼睛は皆少年の面上に注射す少年は徐々コップの水を飮み干し少しく喝采の靜まるを俟ちて更に說き出して曰く

諸君七八年前を回顧せられよ我が同胞兄弟は大に政治上の熱心を增加し國會々々と叫



井生村樓演說會之圖(初版本挿畫)

ぶの聲は全國の間に反響し恰も百雷の落るが如く地方の有志者は幾百人又は幾千人の總代と稱して東京に出掛け大政官の門前に立つて國會の開設を請願し風砂に觸れ炎暑を冒し番兵の爲めに叱責せられ一步も門內に入ることが出來んのをも更に意とせず涕泣號哭して必ず願意を貫徹せんとしたではありませんか程なく明治十四年十月十四日の聖詔が出ましたが國會の開設は實に十年の後でありますから前途を考へて見ますれば丁度旅客が始めて家を出で百里の雲山を有無渺茫の間に望む樣な想ひがありました(ヒヤヒヤ)去れども世の有志家は益す奮勵いたし此の十年の間に於て十分の準備を整へて國會の設立に應する積りにて第一着手として政黨を組織しましたソコデ自由黨改進黨を始め立憲政黨とか九州改進黨とか多くは數萬少なきも數千の人員を結合して運動を試みました凡て如何なる事物にても最初より完全を求めることは出來ません今日から此の時に成立した政黨の有樣を回顧しますれば隨分色々の弊害があり情實に因つて結合したものもありますれば封建の精神を帶るものもあり破壞主義を抱き虛無黨社會黨の所爲を學ばんとしたものもあつた樣です去り乍ら是等は一時の弊害でありますから數回の改良を經て純然たる政黨と爲し國會の必要に應ずる望みの無いではありませんから私も當時竊かに改良の道を計畫しました(謹聽々々)第一は小團結の解散して大團結となし第二は博く學者と實際家を黨中に網羅して活潑なる運動を試み第三は空漠にして事實に基かず激烈にして破壞の性質を帶ぶる言論を制止して全國の政治思想を呼び起し第四は黨中に課を分けて立法行政の事務を調査いたし何時にても國家の大事を擔當する準備を整へるのであります民間に此くの通りの政黨が無い時には假令國會が設立になつても十分の利益を實際に視ることは出來まいと思うたことであります(大喝采)然るに一時に成立した政黨は空中の蜃氣樓の樣に忽ち消え失せて仕舞ひ二十三年の準備は一も整頓せずして早や五年の星霜を經過しましたのは丁度二十里の旅行を爲すものが僅かに六七里を往きて既に日中になつたと同樣であります(ヒヤ〳〵)今より車を驅つて疾行せようと思ひましても前途には高山もあれば大川もあり不意に風雨の變に出逢ふこともありますから能く注意をせねば遂に闇夜を冒して長途を奔る樣な危險がないとは申されません

此時喝采四方に起り雜ふるに能辯の隊長と呼ぶ聲を以てす而して少年は面上に愁慘の色を現はし來り

一時熾盛であつた政治思想の俄に退步に就いたのは其の原因がなければなりません數年前に遡り民間志士の短處を指斥するは私の心に忍びん所でありますが將來の注意の爲

めには過去の弊害を知るのは隨分必要なことでありますから忌憚なく陳述いたしませう固より政府が一時施行せられた政略も我國の政治思想を退歩せしめた一の原因ではありませうが(ヒヤ〳〵)私は今之を論ずる暇がありませんから專ら民間の志士が自ら失敗した事實を擧て進んで前途に疾驅するものに覆車の戒を示さねばなりません

空理空論を主張して實際家の同意を得ることの出來なんだのは政治思想の退歩を致した第一の原因でありませう前年來社會に率先して民權自由の論を唱へた人々は氣象も高尚にあれば精神も中々活潑でありましたが其の議論の根據とする所に至つては隨分空疎杜撰の議を免かれません當時專ら社會に流行した議論の要領を擧ぐれば曰く天賦の權利曰く平等の自由曰く全く政府の干渉を廢止せざれば最大幸福を得べからず曰く政府は我々の權利自由を保護するに止まり社會の福利を增加せんとする所爲の如きは其の適當なる職掌に非らずと甲唱へ乙和し萬口殆んど一に出づるが如くルーソーの丸呑でなければスペンサーの假聲であります(ノー〳〵)諸君暫く靜まつて私の說を御聽下さい一二の先輩が哲學上の理論を引用して政治上の改革を主張しました處が世間は一時に之に風靡し英佛政治哲學の說は一時の人心を支配し遂に我が政治上の議論は丸で空想となり事實に就て利害を比較するものを擯斥して因循姑息の陳言を爲し大聲をして權利と呼び自由と叫べば非常に世間の喝采を得ました夫れ故に世の民權家は一部の哲學書を以て六韜三略と爲し又政治上の萬病に效能ある金丹の樣に思ひ做し實務の利害得失を不問に付し去るに至つたのは不思議なことであります元來哲學は學者の講究すべきものでありまして政治上の改革を主張するものが之を以て反對黨を攻擊する手段と爲すのは亦一の政略と云はねばなりませんが歷史上の關係を度外に置き風土人情の如何を究めず徒に想像の政治社會を論ずるときは遂に實際家の爲めに擯斥せられねばなりません(然り〳〵)往日慷慨悲壯の士が四方に奔走して民權自由の說を主張しました時に世故に熟練ある老成家は後進子弟が意氣の盛んにして辯論の巧みなるに驚き乍ら其言論の空理にのみ馳せて實際に施行すべからざるのを歎息いたし政治思想の單純なるものは最初其の議論を聞いて精神を引き起し自ら民權家の一人とならんと思ひ立つものの其の辯論家が說き去り說き來る所は天賦の權利とか平等の自由と云ふのみにて千言萬語一の狹隘なる圈中を出でませんから自然に之れを厭ふの意を發したに違ひ御座いません夫れ故に私は議論の空漠に流れしを以て政治思想の退歩に就きし一の原因と斷言せようと思ひます(大喝采)

言談擧動の激烈粗暴にして中等社會に在る人々に危險の感情を引き起さしめたのは政治思想の退歩に就いた一の原因でありませう下等社會に在るものを煽動いたし其の聲援に依つて勢力を得んとするのは亦政治家の一手段と云はねばなりませんが財產ある者と勞力社會とは利害を異にし敎育あるものと知識なきものとは感情が違ひます故に一方の贊成を受くるときは必ず一方の爲めに反對せられねばなりません夫の一時に流行した自由平等の議論は歐洲哲學家の說を學んで席上の談柄としたのでは無く國會開設の上は此の主義に基きて政治上の組織を定める積りであつたに相違御座いません若し論者の希望に從へば今日の我國に於て普通選擧を行ひ下等社會の財產もなく知識もなきものに迄も政治上の權

利を與へねばなりません此くの如き過激の改革は中等以上の社會に如何なる影響を及ぼすものでありませうか論者の間には社會黨の主義を奉じ口を極めて上等社會を攻撃し財産平均論を主張したものがありました此れ等は勞力社會の喜ぶ所でありますけれども財産あり知識あるものが不愉快の感情を起し正面に立て反對する様になつたのは自然の勢であります其の上に奇異の擧動を爲して世人を驚かし或は腕力に倚頼して一敗地に塗れ自ら法律上の罪人となり老成の人々をして一部少數の人を擯斥するが爲めに自由論全體までも有害視せしむる様にならしめたのは是非もなき次第と申さねばなりません言談擧動の激烈粗暴なりしを以て政治思想の退歩に就いた一の原因と申すは之れが爲めであります(喝采)

更に一歩を進めて論じますれば民間の政黨員が自ら結合を務め先づ自ら堅固にして動かすべからざる組織を立つることを知らず輕擧して政權を爭ひしが如きも政治思想の退歩を致した一原因でありませう元來社會は優勝劣敗の作用に出づるものでありますから民間の政黨に强大の勢力があり公議輿論の贊成を得ました時には廟堂の君子も甘んじて之れに政權を讓り渡さるゝに違ひありません(ヒヤヒヤ)去れども英國などの様に輿論の風潮に因つて容易に内閣の交迭を生ずる習慣のあるものを除き他の邦國に於て民間の政黨員を以て優者の地位に立たんとするには勢力知識の現在政府に一倍せねば容易に目的を達することは出來ません四五年前一時社會に成立しました政黨は内部の秩序も整頓せぬのに正面に立つて政府を攻撃し其の反動に因つて自ら分裂潰散したのは誠に是非はない次第であります當時の有様を以て戰爭に喩へますれば玆に一つの堅城があり野武士等は其城中に金銀財帛のあるを聞き傳へ彼處より二三人此處より五人と次第に集まり來つて數萬の同勢となり此の城を遠卷きしました元來生存競爭の法則に於て平時は自衛の不十分なものにでも外面より刺衝するもののある時には忽ち之れに應ずる準備の出來るが自然の勢であります政黨は旗鼓を整へて八方より政府を圍繞しましたから政府は胷壁を築き大砲を備へて防禦の手配りをなし夫れと同時に四方を圍繞した政黨の軍勢中に内訌を生じ四分五裂に就き自ら甲兵を放棄して遠く奔竄したのは誠に氣の毒千萬のことであります

ノー／＼官權黨の假聲を爲す勿れと叫ぶものあり少年は袖の中より手巾を出だして面上の汗を拭ひながら座上を見渡し諸君の内には耳の惡き人もあると見えると一言し笑容掬すべく更に語を次で

政府は一時の警戒に因つて大に内部を整へ再び外敵の襲來するとも屹然として動かぬ様になりました私の考へますには明治十三四年の頃に當り政黨が四方より起つて政府を攻撃したのは政府の爲めに此の上もなき利益で所謂る雨降つて地固まるの喩の通り此の四五年間に全國中の警察は驚くべく進歩を爲しましたが民間の有志家は敗軍の兵士の如く全く氣力を失亡して容易に恢復することが出來ぬ様になりました其の上世の民權家と稱するものの間には全國を結合し平和手段に因つて己れの主義を政治上に試むることをなさず動もすれば粗暴の擧動を爲し或る人が曾て評せしが如く數年來濟崩しの國事犯(ヒヤヒヤ／＼)が頻りに世に行はれ前途に於て國家の大事を擔當する希望のある身を以て獄窓の下に呻吟し世間の人をして羹に懲りて虀を

吹き一般の民權家を目して粗暴の徒と見做し之れを擯斥する樣に至らしめました是等も亦民間に於て政治思想の退步に就きし原因中の重なるものと謂はねばなりません（喝采）

少年は手に持つ所の手巾をテーブルの上に投げ忽ち眉を張りて大聲を發し

嗚呼諸君今より四五年前政黨の四方に起り國會の準備に奔走しました時には諸君も今より五六年を過ぐれば一國を擧げて大結合を爲し何時にても國會の必要に應ずることが出來ると思はれたでありませう然るに今日の勢は如何にも案外千萬にて喩へば日輪は既に西天に傾くも旅人は途中の茶店に午睡して其の側らに大呼するものがあれども更に目を覺さぬと同樣であります（然り〳〵）此の通りにて何れの時にか國會の停車場に達することが出來ませうか社會の誘導者を以て自ら任ずるものは今日に於て前途の方向を定めて運動を爲さねばなりません今試みに私の考へる所を擧げて諸君の御參考に供へます（謹聽々々）

第一、學者實際家の溶和を求めねばなりません前年政黨の四分五裂して結合の出來なんだのは學問のあるものと世故に慣るゝものとが互に水火氷炭の勢ひをなしたからであります小異を棄てて大同を求むるは後來社會の爲めに奔走するものの最も注意すべき所であります第二、は務めて封建の迷夢を破らねばなりません我々は九州男子である我々は奥羽の人物であると云ひ土地に因つて相結合したのは明治十三四年頃の有樣でありますが此の習氣を打破らねば眞正の政黨の成り立つ氣遣はありません第三、に激烈の言論に因つて下等人民の熱心を引き起すのは亦政事家の一時の方便でありますが之れが爲めに毒害を後日に流し意外の結果を生ずる患がありますから世の有志家は十分に御注意がなければなりません第四、は空漠の議論を排斥して實際の事業を調査し我々の主義を實地に貫徹する準備を整ふるのは最も今日の急務かと思ひ哲學上の空理は姑く政事上に關係のない學者先生に任せて置いて宜しう御座います地方の民情を知り海外の形勢に達し制度法律を始め軍政警察より鐵道電信等の處置に至るまで十分に之れを取調べて實務に應ずるの用意がなければ國會が設立になつた所がトテモ政事を改良することは思も寄りません故に私は諸君が今日より此の四者に注意し二十三年に至りて日暮れ路遠しの歎息を發せられることの無い樣に願ひます

如何にも熱心を以て演べ畢り聽衆に一禮して壇を下れば滿堂の喝采姑く鳴りも止まざりけり程なく幹事は壇上に出で川岸萍水氏は病氣にて出席なきにより是れにて閉會する旨を告げしかば數百の聽衆は一時に起つて互に歸りを爭ひ井生村の門前は蟻の穴を出づるに異ならず一人の少年は前にある男を呼び止め―松本君待ち給へ―オヽ君は先きへ出たかと思うたに迹だつたか今日の演說は隨分面白かつたネダが川岸の出なかつたのは殘念ヂヤ「アノ國野と云ふ男は中々辯者で其上精神のあるのには感心する併し君にはアノ演說も耳に入らなんだらう―ナアニ―ダッテ君は演說の最中にも北の窓の下に居つた別嬪の方ばかり見て居たぢやアないか―馬鹿を云ふナ―君ではあるまいし―だが彼の女は中々の美人だぜ僕も些ツと喋舌る稽古でもして彼樣美人に聞かせたいものだ―ハア、君でもソンナ大望心があるかネ演說の巧拙は吾輩之を保證せず君歸りに湯屋の二階へ上つて姿見で自分の御面相を點檢するが善いぜアハ、ハ〳〵

第三回

鳥兒讀レ書獨傷ニ情懷一
赤心對レ客大談ニ形勢一

蘇秦說ニ秦王一。書十上。而說不レ行。黑

刻之裘敝。黄金百斤盡。資用乏絶。去レ秦而歸。羸レ縢履蹻。負レ書擔レ橐。形容枯槁。面目黧黒。狀有二愧色一。歸至レ家。妻不レ下レ紝。嫂不二爲炊一。父母不二與言一。蘇秦喟然歎曰。妻不三以レ我爲二夫。嫂不三以レ我爲二叔。父母不三以レ我爲二子。是皆秦之罪也。乃夜發レ書。陳二篋數十一。得二太公陰府之謀一。伏而誦レ之。簡練以爲二揣摩一。讀レ書欲レ睡。引レ錐自刺二其股一。血流至レ足。曰。安有下説二人主一不レ能下出二其金玉錦繡一取中卿相之尊上者上哉。朞年揣摩成。曰。此眞可三以説二當世之君一矣と一人の書生が戰國策を讀み掛けて痛く心を動かせじ様子にて何うも名文だ蘇秦が落魄の模樣を寫し出だして眞に適つて居る三寸の舌頭で一世を動かす豪傑でも四方に飄泊して學資の盡きた時には婦女子にまで輕蔑せられ頭を擧ることが出來んから氣の毒千萬のものヂャ古今の人情は同じものと見える此の廣い世の中に我が大志を知るものがなく是れまで何事を爲しても失敗するばかりで遂には下宿屋の主人にまで低頭平身せねばならぬのは殘念至極のことである艱難苦勞は大業を成就する基であるに相違ないが世間には名を知られず功名を成すの時期も容易に到來せず國許の御兩親にまで一方ならず御心配を掛けたのは是非もないことであると稍や愁に沈み」又思ひ返し「イヤ是れ位のことで屈託してはならん蘇秦も一時の困難に逢うて志を勵ましトウ〳〵六國の印を佩る程になつたと云ふから我が膽力才識を以て辛苦を凌ぎ大事業を成就する事の出來ぬ筈はない古人の歌にて「憂き事の猶ほ此の上に積れかし限りある身の心ためさん」とあるサウヂャ〳〵」と獨り几上に向ひて或は歎息し或は憤發するは前章に見えし國野基なるが其の居る所は六疊半の小さき二階にて古き備後疊は處々に破損を生じ紙窓風に吟じて日光を席上に注射し鼠色の壁には許多墨の斑點があり古びたる火鉢の上に鐵瓶を置けども火消え灰冷かにしてマッチの焚屑と紙卷煙草の吸殼あるのみ牀の上に洋籍六七卷と唐本五六帙を不規則に列べ其側らに幾つともなく捻ぢたる紙のあるは既に讀み了りたる朋友の手紙と文稿の書損ならん柱に羽織を掛け衣替へ細き本箱の上に横はり机上には眞つ黑になりし赤間石の硯の側らに紅色の墨汁あり筆筒に數枝の禿筆と一本のペンとを立て其の間に封を切りたる郵便數通を插み一枚の赤洋氈を四つ折にして敷物となしたるは憐れ貧しき下宿屋の有樣と知られたり折柄ドン〳〵階子を登る聲があり障子を開いて入り來るは須田龍之助と云ふ國野の朋友なり身には「スコッチ」の洋服を着して胸に銀の鎖を垂らしキョロ〳〵した眼にて四方を視回して席に就き「君相變らず御勉強ヂャナ」國「イヤ誰かと思うたら須田君かマア此處へ入らつしやい」ト云ひながらハチ〳〵手を拍つて下女を呼び國「お松どん火を持つて來てソシテお茶を入れて下さい」須「お構ひ下さるなトキに先日は失敬君の演説は兩度とも世間で大評判の樣です君は好男子の上に辯舌が旨いから實に羨やましい先日井生村樓へ二度つづけて別嬪が來て君の顏ばかり詠めて居たから定めて君に『ラブ』したに違ひないと云ふ評判ぢやゼハヽヽ」と云へば國野はイト眞面目な顏付にて「僕は婦人が來て居たのには少しも氣がつかなんだ」須田は笑ひ乍ら「君だつて彼の美人が目に付かん筈はない」國「須田君僕は不肖ながら演壇に立つて婦人の爲めに心を奪はる樣な無精神の男では無い」ト不興氣に云ひ放てば須田は少しく顏を赤くし須「ナニ君が『ラブ』したと云ふのヂャない君に『ラブ』はせぬかと云ふ想像話をしたまでだが君のお氣に障つて甚だ恐縮します時に先刻から君のお顏付を見るにどうも只ならぬ御樣子ヂャが何か御心配の

事でもあるのではないかナ　國「何も心配と云ふ程でも無いが些と不平なことがあるのでト云へば須田は得たりと思ふ顔付にて「不平は有志家の常である今の世の中に少しく氣慨があつて國事に慷慨切齒せぬものは無い筈ぢや別して君の様な有爲の士は世に容れられず凡庸の奴等が得意の顔をして居るとは實に顚倒極まることぢやダがお互に志を成す機會の來るのも最早や遠くはあるまいとイト慷慨らしき顔付にて説き出だしチット國野の顔を視れば國野は更らに動ずる様子もなく少しく笑を含み一ナアニ僕の不平は君の云ふ様な大層な事ではない　須「ウーン夫れでは何の不平かネ　國「お話し申すも餘り馬鹿馬鹿しいから……　須「君の身上のことなら何もお隱しにならなくつても善いぢやアないかカウ御懇意になつた上は僕も出來る丈けは君の爲めに盡力しようから　國「實は僕も是れまで諸方を飄泊して爲すこともなく歳月を經過し東京へ出てからは飜譯で活計を立てて居るが先月近代史の草稿を或る書林が出版すると云つて持て歸つたぎり幾ら催促しても原稿代をよこさんから大分目的が違ひ先月から下宿料が滯つて居るので先刻も茲の主人に大層失敬なことを云はれ些と不平に思つて居る處へ丁度國許から郵便が屆いたから讀んで見ると兩親は僕の職業に就かぬのを氣遣ひ官途にでも出ることが出來ねば一日も早く歸國せよと云うて來たが今日の處では誠に兩親に對して申譯もない次第チャ僕は飜譯や著述で自分獨りの活計を立ることは出來るが兩親は老年の事であるから早く身を立てて月々の小遣でも贈つて安心させたいと思へども何分物事の齟齬するには閉口する　須「ハア君にも御兩親が在つて干渉を受けらるるかネ僕の親父などはドウモ頑固で仕方がない僕の取る少々の給料イヤナアニ小遣を送れとか早く國へ歸れとか云つて來るから近頃は碌に返事もせずに居るが元來天保時代の人間は誠に厄介ものサ丁年に達した男子を子供の様に干渉して進退を自由にさせぬ計りでなく自分は隱居して子弟の奉養を求めようとするのは不心得千萬チャ君も知らるゝ通り西洋抔では父母は子に財産を讓る義務はあるが子から隱居料を出さす權利は無い君も社會の改良を主張せらるゝ人だから自分の獨立さへ出來れば國許の御兩親が何と云はるゝとも氣に掛けるには及ばんチャア無いかト得意になつて曉舌り立つれば國野は姑く詞なかりしがヤヽアッテ一須田君の御說には同意することが出來ん實に君の云はるる通り今日我邦にて父子の關係は全く支那の道德に支配せられ家庭の間に不都合の事が多いに違ひない父母は子女を奴隷の様に思ひ勝手に其の身體を使役し財産婚嫁のことまでも自由にさせず折角志を立てて職業に從事するものを呼び返して先祖の遺産を嗣げとか左右に侍養せよとか云つて終身の方向を誤らすのは世間一般のことで社會の發達上に餘程の妨害があるから我々は此弊習を一掃する様に盡力せねばならんシカシ夫れを實行するには順序があるもので輿論の注意を呼び起して一般の感情を變更するのが必要である父母は亞細亞の慣習を當然と思つて居らるゝ内に子の方から西洋流儀を持出して往くと雙方の考へが違ふから一家の間に風波が起り遂には天然の親愛心を失ふ様になるではないか別して我々の子供の内に父母が多くもあらぬ家財を費して教育をして下されたのは我々が生長の後に一家を立て老後の養ひをするであらうと云ふ考へであつたに違ひない夫れに自分の一人立ちが出來る様になると昔のことを忘れて仕舞つて直きに西洋風を一家の間に行はんとするのは些と無理と云はねばなるまい尤も我々が子供を持つた日には勝手に職業に就かせ自分は自分の財産で終身の活計を立て少し

も子供の奉養を求めぬが相當だけれども亞細亞の慣習を以つて天然の規則と思つて居らるゝ老親に向つて歐洲諸國に行はるゝ父子の關係を説くことはドウモ僕には出來ん今日西洋のことは何にも知らず專制政治の無上の政體と心得たり自分では東洋一種の『モルソン』宗が信向で一夫一婦の制度すら守ることを知らぬ癖に文明とか開化とか云つて高恩を受けた父母を棄てて顧りみぬ人の多いのは困つたことでは無いか父子の親愛すら無いものが社會の爲めに一身を犧牲にすることが出來るものかト辯舌爽かに説き示せば須田は心の中に遣り損うたなと思ひ乍ら左あらぬ體にて「只今君の御議論を承はつて僕も始めて夢の覺めた樣な心持になりました君は實に孝子と云はねばならんダガ只今も社會の爲めに一身を犧牲にすると云ふ御口上であつたが君には御兩親があつても已むを得ぬ場合になつたら國事の爲めに一身を棄てる御決心でありますかト問掛けられて國野は屹度須田の顏を眺め「是れは改つて御尋ねのある程の事でも無い我々が社會を組織する以上は多數の幸福の爲めに必要な時には一身を棄ても社會の爲めに盡力せねばなるまい區々たる目前の艱難を畏るゝ樣では子孫の爲めに自由幸福の社會を造り出だすことは出來ん僕も及ばずながら政事社會に出る上は如何なる不幸に出逢ふとも決して志を變ぜぬ積りであるが何分今日の有志家は當てにならん一時は餘程熱心の樣でもイツの間にか節操を變じて我々の反對に立つ樣な事物が多いから仕方がないト云へば須田はイト熱心なる顏付にて膝を進め實に君の御説の通りぢや以前から政黨などと云つて騷ぎ立てる奴の内輪を探つて見ると大方は腰拔けで第一番に命を棄る決心が無いから大事を遂げる氣遣はない一通りのことで社會を改革しようと思ふのは大間違と云ふものヂヤ我々は公然の運動ではトテモ目的を達することは出來んから決死黨を組立て祕密手段で遣り付ける外は無いト云ふを遮り國野は嚴重なる顏付にて「須田君餘り聲が高いぜ今の御話しでは君は過激の手段を喜ぶ人の樣に聞るが僕は輿論に因て政事の改革を成就する決心だから前後を顧慮せぬ粗暴の事は眞平御免だ」須田は忽ち顏を眞赤にして「君は又因循なことを云ではないか我々が眞誠の自由を擴張するに普通の手段で目的が達せらるゝものか國ノアー君も三四年前自由黨の壯士が云た樣な言を吐がマア能く考へて見給へ明治政府には許多の常備兵がある上に全國に巡査が配置してあるから民間に何程の不平家があつても差向き腕力の競爭に打勝つ事は六ツケ敷からう元來社會の關係は全く優勝劣敗の作用であるから政治家を以て任じながら政權を熱望せぬ者はない筈である勝利を得て政府の地位に立つものは務めて權力を維持し他人の爲めに奪はれぬ樣に注意し又民間に在つて志を得んものの機會に乘じて政權を掌握せんと欲するのは取りも直さず生存競爭の自然と云ふものヂヤ有體なところが英國などの政黨政治も此の競爭心を實地に利用するまでで實は理窟も何にも無いことと思ふダ立憲政體の場合と違ひ專制の邦國で優者の地位に立つものが能く基礎を固める時は政府を保護する屈強の城壁があるから民間に在るものは容易に競爭することは出來まい政府は勝手に法律を制定し勝手に租税を賦課することが出來るし兵隊も巡査も皆政府の指揮に從らて動くから危險の手段を以て政府に抵抗する者を制止することは世話も無いことである現に福島事件や加波山の暴動などは世の民權家の爲めに不利益な結果を生じたでは無いか腕力家の諸方に飛び出すのは大方失望から起るので社會に勢力があつた政黨がメチヤ／＼になつた結果であるから社會の率先者を以つ

て自ら任ずるものは能く注意をせねばなるまい須　世間では君を激論家の樣に思うて居るが御説を聞いて見ればサウでも無い樣チヤハア〱ダガ君の御議論では世の中の事は皆んな政府に打ち任せて置いても善い譯ですがソシテ今日の模樣では二十三年にはドンナ國會が立つ御見込みでありますか御説を伺ひたいものです　國　人民が奮發せねば國家の維持が出來るものか輿論が一致さへすれば不完全な國會の立つ氣遣はあるまい　須　君の御説は能く分つたが正義社員は皆な君と同意かネと問ひ掛くれば國野は如く考へ乍ら「川岸は權謀家だから心情は容易に測られぬが時世を見る才氣があるから馬鹿なことをする氣遣はあるまい其の内才子に似合ず金錢に心を奪はれるのがアノ男の一大缺典だ武田は感心に正直な男だが議論の粗暴なのには些ト閉口サと云ふを聞きつゝ須田は風と何か思ひ出せし樣子にて時計を出して一寸眺め―イヤ四時が過ぎた今日は三時から武田君と外へ往く約束があつたにツイ話しに身が入つて忘れて居つた誠に御勉强の御邪魔をしましたト立ち上り暇乞して歸り去るを國野は下まで見送つて元の座に返り手を束ねて考へ乍ら口の内にてアノ男は學問は無いが諸方を步行て色々なことを聞き出して來るから面白いと思うて交際をして居たが今日の話しの模樣では何だか怪い處がある樣チヤ出放題に粗暴なことを云ふ奴には胡亂なものが多い兎角人を煽動して釣り出さうとするから劍吞でならぬ同志の樣な顏をして居る正義社員の内にも隨分須田の樣な奴が有るだらうト言ひ掛けて風と後を顧りみれば障子の外に人影があり聲高に旦那は御出でですかと云はれて何故か國野の顏色忽ち土の如くになりたり

第四回

一數月逋債店主罵二窮生一
一字誤寫郵書釀二奇禍一

今室内に入り來たるは此の家の主人吝藏と云へる男にて年齡四十五六とも思はれ何處となく顏に澁味がある人に嫌はるゝ人相なるが木綿袷の上に縞の絮入れ羽織を引掛けイト横柄に國野の前に座を占め腰より大きな烟草入を取り出だし長き眞鍮の烟管にて烟を輪に吹きコン〱烟草盆を敲き乍ら屹と國野の顏を眺め―旦那は餘りヒツコイと仰しやいませうが私も商賣柄の事で御座いますから又々御催促に出ました今朝御話し申した一件は如何仕舞を付けて下さいます御積りかネと云はれて國野はハツト思ひ氣の毒さうなる顏付にて―貴君に對して申譯の無い事だがドウカ今一兩日お待ち下さることは出來まいか其の内には原稿料が來るであらうと思ふから―吝藏はヘタ〱笑ひ乍ら―國野さん此の間中から原稿料々々々と口癖の樣に仰しやるがソレハ何時お手に入るので御座います私も本屋には隨分知る人があります此の節の不景氣で學者の書いた書物でもメツタに賣れませんから書生さんの手から出たのは「ロハ」でも取合人がないさうです旦那は定めて能く御出來なさるでありませうが失敬ながらマダお年が御若う御座います先刻も用事があつて隣の間まで參つて聞けば大層御朋達と御議論をなさいました此の節の書生さんは口計り達者で腕が無い樣ですナ私も數年此の商賣をして居りますから隨分書生さんにも當り合せましたが初めは國から學資が來るとか同縣の人の世話になるとか云つて二三ケ月は下宿料もどうかかうか下さるものの段々と滯りが出來ると何處へか逃げて仕舞つて往き先の分らぬ樣になるのが幾らもありますト云ひつゝチツト國野の顏を眺め―旦那についてはソンナ事は御座いますまいが私も商法のことですから何時までもお心安立てをして居ることは出來ません今日にも半金お入れ下さることが出來ませねば誠にお氣の毒ですが滯つて居る金子は慥かな受人をお立てなさつて御懇意

な先へでも御轉居を願ひますト詞するどく述べ立てられ國野は少し顏を赤くし「御亭主の云はるゝのは御尤も千萬だが只今の處では一寸外へ行く先もなく甚だ當惑します少々外へ頼んで置た事もあるからドウゾ暫時の御猶豫を願ひたいものだがお聽き下さることは出來まいか吝藏はムツトして懷中より一ツの書付を取り出し乍ら聲を荒らげ「旦那積つて御覽なさい最初お出の時に一ケ月五圓五十錢の處を五圓にお負け申して蒲團も上等の分をお貸し申したが先月から下宿料を頂戴しません上にお客のあつた時の酒代や牛肉代に時々お立替申して置た郵便印紙まで合して見ると此の書付通り八圓九拾六錢になります何ぼ諸色が安いと云つたつて家税も出れば地代も出るし又此節では溝浚が八ケ間敷から家を持つて居ても割に合ふ話しではない旦那今お拂が出來ねばソノ眞黑な表紙の付いてある書物でも御渡し下さい二圓か三圓にはなるだらうと此間から鑑定を付けて置たト机の上を指させば國野は迹を振り向いて「ウン此の『ウエブストル』の辭書かネ 之れをなくすると今日から飜譯をするにも困るから是れ丈けは御免を蒙りたいものだ 吝「夫れでは旦那の方の御都合は善からうが 私が困ります金を下さることが出來ねば今から御立退き下さい是れだから書生さんは大抵斷わるのだ金のない癖に能く人の内の飯を食つて居ることが出來るものだト怒に乘じて惡口雜言を列べ立てられ流石の國野も一度は憤然とせしが其の身に金を拂はぬ落度があり理窟を云ふべき場處でなければ講壇に立つて數千人を感動せしむる雄辯家も舌が滯りて返す辭がなく心中の怒を抑へ顏色を赤くし差し俯く吝藏は眉間に青筋を出し又もや何か言ひ出さんとする所へ靜に障子を開いて此間へ入り來るものあり誰ならんと見ればお松と云ふ此家の下女なるが年は十六七にて身に纏ひし衣裳は粗末なれども容貌もサマデ醜くからず氣轉のきく風なるが大きな封狀を手に持ち一寸國野の前に膝をつけ「國野さんお手紙が參りましたト差出すを手に取り見れば表に「國野先生へ無名氏より」とあり國野は心に不審を抱き封押し切れば白紙に包みしものズロ／＼と膝の上に落ちたり上封に「金子三十圓」と認めてあるにぞコハ合點の行かぬことと思ひ乍ら書狀を引き出し展べて讀めば書風もイト優美にて左の如く認めたり

我が意中の人よ身を棄てて國に許すは丈夫の事なり君の素志を達する豈遠きにあらんや君に日下の必須あるを聞き失敬を顧みず別封を呈す今や我身に於て明言すべからざることあり已むを得ずして暗投に出づ他日青天白日興に談話するの時あるべきなり他人の目を忍んで此の書を認む文意を達せず萬に御諒察を禱る
草々

五月　日　　無名氏

國野先生
侍史

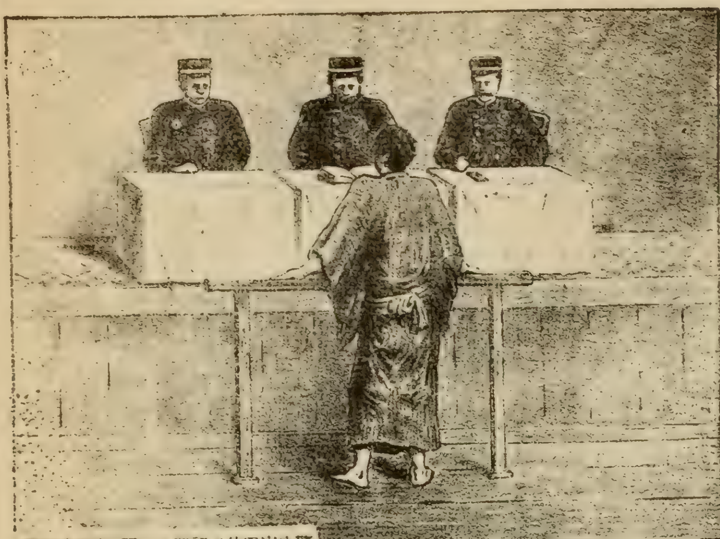
國野は再三讀み返せども誰れの手迹とも分らず別封を取り上げて中を改むれば三十圓の紙幣があり餘りの不思議に姑し眉を蹙め「お松どん此の手紙は何處から來たのかネ使が居るなら委しう聞いて下さい」お松はニッコリとして「何處から來たのか分りません使は車夫の樣でしたが差置きて宜しいからト云つて直ぐ歸つて仕舞ました 國「夫れは殘念な事をしたなト云ひつゝ又も手紙を展べ「ドウモ見慣れぬ書風だが文章も簡短で妙だ誰れだらう少しも考へが付かぬ是の時まで吝藏はキロ／＼として側にて模樣を窺ひ居たるが面に笑を含み大きなる口を開き「アハハヽヽ旦那お近附でもない人からお金が參りましたのですか夫れは豪氣な事だ」國野はイト落付たる聲にて「左樣受けて善いか惡いかは知

らぬがチャント此方の名前が書てあるからヨモヤ間違でもあるまい御亭主此の金子の內で下宿料をお取り下さいト紙の上に載せたる紙幣を吝藏の前に投出せば吝藏はニコ〳〵して「ハハア旦那は豪氣な者だ名前を隱して金子を贈すものが滅多に世間にありますものか旦那は御若いに能く御勉強をなさるので內の者も皆な譽て居ります其の上世間の評判では旦那は演說とやらもお上手だと云ふことですから今に御出世が出來ませうハア、お松下へ往くならお茶を替て來なソシテ御火鉢の火も消えかゝつて居るぜお召をアー放つて置くと云ふ事があるものか些トお疊み申せト俄かに變る追從輕薄も紙幣の力と知られたりお松は立て下に往けば吝藏はパラ〳〵紙幣を數へ乍ら「旦那折角のお思召で御座いますから此の三十圓の內で前月分五圓丈を頂戴して置きまして跡は又此の月末の御勘定に致しませう是れは有り難う御座います時に此間から旦那に御相談を致さうと思つて忘れて居ましたことが御座います御存じの六號の書生が先日國へ歸るとき下宿料が拂へなかつたもんですから書物を五六册置て往きましたが極安くしますから御入用の品がありますればお買ひ下さい近頃は調べが八ケ間しいので滅多に古本などを買ふ人がないので困ります　國「アノ山本とか云ふ男の持て居たのなら碌なものはありまいが序に一寸見ようか　亭「どうか願ひますト云ひつゝ今受取りし紙幣を紙に卷き起つて下に往き持ち來りしは七八册許りの古本なり國野は手に取つて表紙を見ながら「コレは振氣篇に山陽詩稿だ彼の男も詩が好きであつたと見える英書は何だ『ユニオンリードル』第三第四『カクケンボス』『米國史』『英和辭書』『ダイヤモンド』是れ限りか僕には一ツも入用がないが友人の武田と云ふ男が近々旅行するので此の『ダイヤモンド』と云ふ本を尋ねて居たから五十錢位なら僕が買つて置いても宜しい　亭「お見せなさい誠に細い字だ是れでも讀めますものかネ旦那何とか仰じやいましたナ　國「『ダイヤモンド』と云ふ字引サ　亭「よろしう御座います五十錢で差上ませう　國「ソレハ有り難い早速武田に知らせて遣うから御亭主一寸御免下さいト几に向うて引出しの中より卷紙を出だし硯に水を注ぎ手紙を認め掛れば亭主は其處に撒き散したる書籍を取納め乍ら　亭「エーそれダイ〳〵『ダイナマイト』の外には御用は御座いませんか　國「差向き此本の外に……ア、仕舞つた御亭主が傍で『ダイナマイト』と云ふからツイ手紙にも『ダイナマイト』と書た『ダイナマイト』が手に入つたと云つたら何だか破壞黨の樣に聞える能く消して置かねばなるまいと筆を取つて又々五六字書き入れて封じ袋に入れ一先づ是れで宜しい御亭主は如何して『ダイナマイト』と云ふことを御存じだネ　亭「ヘイ先達て內の御客さん達が新聞を讀では『ダイナマイト』を註文したとかせぬとか云ふことを話して居らつしやツたのがツイ〳〵耳に留つたので御座いますと云ふに國野は覺えずハ、、と笑ひ「成程サウであつたかアノ公判も隨分世間で色々評判をしたが無罪放免になつたのは誠に仕合なことであつたダが君子は嚴牆の下に立たずデ大志を抱いて居るものは嫌疑を避けることに注意をせねばならぬ御亭主下へ御出でなら此郵便をお賴み申しますソシテ行燈を點ける樣にお松どんに云ひ付けて下さい古語に曰く禍福は常に人意に及ばざる所に出づト此の時一大厄運は將に國野の身上に落ち來らんとし今點す行燈に夜風の吹き入るに異らざるを知らざるは神ならぬ身の是非もなし

第五回　書生閲㆓新聞㆒驚㆓志士拘留㆒　警官擧㆓證佐㆒繇㆓囚徒首服㆒

△「河田君起きんか朝寢も程かあるモウ九時だぜと呼び立てられ一人の書生が蒲團の中より首

を出し「アー昨晩夜更しをしたから睡くてたまらん何時君が來たか少しも知らなんだ △「起きべし起きべし今朝の新聞には大變な事があるゼ○「又人を吃驚さして迹で笑ふ積りだらう △「虚言ではない此の新聞を見給へト云はれて書生は蒲團を卷つて起き出で新聞を手に採り「ナニ國野武田の二氏拘引せらる　近來正義社中にて名聲ある國野基氏は昨日午前十時ごろ愛宕下二丁目の寓居より拘引せられたり又武田猛氏は



警察官囚徒ヲ訊問スル圖(初版本插畫)

九州邊へ赴くとて横濱まで出掛けたるが汽船宿にて取押へられ直ちに警視第二局へ送致せられたり風説に據れば武田氏の居宅に容易ならぬ書面もあり國事犯の嫌疑とか云へど眞僞は保證せず』ウン是れは大變だが些ト思ひ當ることもある此間から須田蝿之助が頻りに國野と武田の擧動を探る樣子であつたから何か事件があつて證據の出たのと見える君は委しいことは知らぬか △「今新聞を見た計りで直きに飛んで來たのだ松本君に聞いたら委しい事が分るだらう○松本は昨晩遅くまで歸らなんだが内に居るか知らんト云ひつゝ次ぎの間に向うて松本君松本君と呼び立つれば「オーイ今其處へ往くわト答へて一人の書生が出で來り「藤井君お早う國野と武田は飛んだ事をしたぢやアないか △「左樣僕も新聞を讀で驚いたが君は別して二人に懇意だから定めて事情をお聞きだらう □「イヤ僕は昨日夕方に兩人の拘引になつた事を聞いたから懇意な新聞社を始め方々飛び歩いて見たが何分色々な風説で取留めたことが少しも分らんダガ先づ確かな處から出た話しに國野が武田から頼まれて爆裂藥を買つたとか註文をしたとかで證據になる書面もあると云ふから僕も實に驚いたことサ ○「ソレが實説なら誠に困つたことヂヤ武田は隨分腕力家と聞いて居るから無理もないが國野君は學者でもあるし平生から着實で粗暴な事が嫌ひだと云ふ評判の人だにナゼそんな馬鹿げたことを思ひ付いたのだらう□「どうも人は見掛けに因らぬものと見えるト彼處の下宿此處の樓上も二氏が拘引の取沙汰のみなれども確かな事實とては絶えて知る人なかりけり却説國野基は五月十日朝用事ありて外出せんとする處へ一名の巡査が探索掛り一名を伴ひて寓樓へ入り來り國事犯の嫌疑に因り拘引する旨の令狀を示し其の儘車に乘せて警視第二局へ送り其の跡へ又々巡査が來りて家主に立會を命じ室内を捜索して書面數通を取押へて持ち行きたり國野は身に罪を犯せし覺えなけれども如何なる嫌疑によりて斯くは拘引せらるゝことゝなりしかと種々に疑惑を起し乍ら二時間ばかり拘留所に留め置かれ遂に取調所に呼出されたり國野は手を木檻に掛けて上を視上ぐれば長き「テーブル」を前に置き黑の制服を着したる警官三名相列んで泰然と椅子により「テーブル」の上には筆硯の外に許多の書類があり警官は孰れもイト嚴重に構へたり若し他の場所にて逢ひしなれば普通の顏付なるかも知れざれども拘引せられて取調べを受くる國野の眼に

は其の容貌の非常に猛悪なる様に見えしならん中央なる警官の主任と覺しく屹と國野の顔を眺め靜かに口を開き國野の身分職業より平生交際するものの名前等を委しく取調べたる上にて「其方は本月二日に武田猛へ宛てて郵便を出したる覺えがあるか」ト問はるゝにぞ國野は一寸考へて「二日でしたか三日でしたか慥に日は覺えませんが本月差入りに武田へ向けて手紙を差出したことは記憶致して居ります 警「さうであらうそして其の用事は如何ことで手紙は如何な文體であつたかネ 國「文體は慥に覺えませんが武田の兼て所望いたして居りました書物が手に入りましたから其の事を報知致したので御座います」ト云へば警官は少しく笑を含み「イヤ夫れ許りではあるまい其方が武田に何か決心をする様に勸めたことがあるだらう」ト問はれて國野は姑く首を傾け勘考の體なりしが稍やあつて「御尋問に因つて思ひ出しました武田は九州地方へ遊歴に參る考へでありますのに同社中で差止めるものがあると承はりましたから他人の爲めに制止せられずに早く決心をして出掛けるが善いと申す様な主意を認め置きましたかと存じます 警「夫れならば其の手に入つたと申す書物はドンナ本であつたか 國「極く小さな英語の字書で御座います 警「愈よ相違ないか 國「相違御座いませんト云ふにぞ主任の警部は左右にある同役と顔を見合せて何か細言き机上にある一通の手紙を出だし「此れは其の方の書いたのに違ひあるまいネ」ト問はるゝにぞ國野は手に受取りて之れを見れば一度紙屑籠にでも入りしと思はれ皺付き油染み紙の迹の方は半分ばかり裂けたれども紛ひもなき己れが武田へ與へし書簡にて

前略御決心の事は同志中にも異論可有之候得共御斷行可然候兼て御望みの ダイヤモンド 手に入り候間御知らせ申上候餘は面談に讓る草々頓首

五月二日　基　拜

武田君

是れがドウシテ其の筋の手に入りしかと驚き乍ら「是は私の武田に差出しました手紙に相違御座いません」ト云ひつゝ紙面を返せば警官は面を正し嚴き聲にて「然れば書物を買ひし抔とは跡方もなき僞りであらう前には同志に異論あるとも決心の事を斷行せよと書いてあり跡の墨にて抹殺してある所を透して視れば「ダイナマイト」の文字が明らかに見え其の傍らに「ダイヤモンド」と書直してあつても申譯の立たぬは高が下宿屋に居る一書生で一顆數千金の價のある金剛石を買取る筈はなからう若し愈よ金剛石に違がなくば其品は誰の手から出たのであるぞ其の後愈よ武田に手渡したか又は其の方が所持して居るか有體に申立よ」ト嚴重の調べに國野は少しも屈せずカラ〲笑ひ乍ら「前後の事情を御承知なき御方が此の手紙を御讀み取りに爲りましたなら御不審の起るも無理では御座いませんが決心と申すは前に述べました通り九州遊歴のことであります「ダイナマイト」とあるは全く一時の誤寫でありまして其の書き直してあります「ダイヤモンド」と申すは英語の袖珍字書で御座いますト夫れより國野は手紙を認めし時の模様を委しく陳べ立て爾々の事情なれば武田を始め下宿屋の主人を御調べあれば分明に相成るべしと辯說滔々水の流る如くなれば三人の警部は案に相違し互に顔を見合せ姑く詞なかりしが又々一通の書面を出だし此の手紙は誰れから受取りしものであるかト問はるゝにぞ國野は手に取て之れを一讀し 國「矢張り其の當日に誰れとも知れず匿名にて金子を贈り越しました書面でありますと答ふれば警部は冷笑ひ「名を知らぬものから金子を差贈りしと云ふは些と受取り難い話しヂャないか其の上に此の文面に就いて考へて見れば前々から交際があつて能く其の

方の心底を知つて居るものゝ様に思はれる其の方は此の暗投の文字を如何に解釋いたすか無名生とあつても其の方の心には誰れが書たのであると云ふことが十分に分つて居るだらう　國「イヤ暗投と申すは支那の熟語で御座いまして明珠暗投壯夫按レ劍と云ふ熟語から出たもので交際のない人に書を贈る時などに使用する文字であります又此の手紙は見慣れん書風でありまして文字は四角でありますが何處か孱弱な處があつて婦人の手蹟の様に見えますから私も今日まで不審が晴れませんト云へば中間にある警部はソット同僚に目示しながら「善く分つた夫れで宜しい今日の取調べは是れ限りに致す就いては其方に申し聞け置く事がある此の手紙の出處に就いては只今其方も明白に辯解が出來ぬと見える又武田に贈つた書面も同様である假令墨にて抹殺したにもせよ國家の大法にては其の職業のものゝ外は取扱ふことの出來ぬ爆烈藥即ち『ダイナマイト』の手に入りしト書てある上は本官に於ても十分に取調べを致さねばならぬに因り取調中監獄へ留め置く間左様心得ョと申渡されて國野はハット驚き何か言はんとせしに警部は再び辭を繼ぎ「扨て是れからは本官の職權を以て申すのではないが貴公は隨分世間へ名を知られたる人では無いか若し當今の政事上に就いて意に滿たぬことがあつて何等の企てを爲し事の失敗に就く上は包み隱さず明白に申立るが大丈夫の擧動と申すものであらう國野基とも云はれる男が小人匹夫の如き詐僞の申し立を爲し跡から事實が現はれる様なことがあつては已れの良心に背く計りで無く世間に對して後日までの恥辱であらう證據物を引き揚げ引合人も夫れ〳〵取調べてあるから此の場に及んで如何に陳述するにも證據のあるものを飜案することは出來まいから篤と精神を落ち附け勘考せらるゝが善からうとイト懇ろに説き諭し恥を知つて自服せよと勸むるは國事犯人を取扱ふに經驗ある警察官と知られたり國野は身に犯したる罪はなけれども嫌疑を招く形跡もありて一時に辯解することは出來難からんと思へば頭を抵れて一言も發せず腰繩に掛り獄丁に引き立てられ悄々として監獄に赴きしぞ憐れなる

第六回

斷レ腸獄中半日雨
激レ志巾上一首歌

東京の未決監は鍛冶橋内警視廳の構内にあり四方二重に高き黒塀を繞らし巍々として雲表に聳ゆるの勢あり其の中央は圓形にて二層樓四方に張出して十字形を爲し樓上樓下とも圓形室を看守人の詰處となし獄舎は左右相對して都て四十房に分ち房の四方は板張にて白き脂膠を塗り前面に井字形に組み立てし開き戸ありて大なる鐵鑰を卸し後面高さ五尺許りの處に硝子窓を設け麻索を以て之れを開閉し其の内部に鐵檻を設く一房の廣サ四疊半にて半疊はながし兼帶の雪隱なり其の上に黒色の小桶あり大少便の用に供す其傍らに水桶を置く水一升ばかりを入るべし五六人にて盥漱滌水とも一桶水の外之れを使用するを許さず夜は燈火を點ぜざれば暗黒にして咫尺を辨ぜず三冬の嚴寒にも室内には火氣なく蟣蝨の集りたる二枚の毛布にて寒夜の長きを凌がざるべからず其の北風を受くる所にては一ガラス一障子の隙間より飛雪を吹き入れて手足皆な凍裂せんとす又三伏炎熱の際には少しも風を通さず其の南に向きし房に至りては日中鐵窓より日光を射下すれども之れを避くるの場所なく宛ら鼎中に煎らるゝに異ならず看守の劍を帶び洋服を着して儼然と倚子に倚る有様は閻魔大王と見え獄丁は虎の皮の犢鼻褌を結ばざれども囚徒の之れを怕るゝ赤鬼青鬼の如く病室に病者の呻吟するは亡者の叫喚かと怪まれ眞に是れ生きながらに陷る現世の地獄とこそ云ふべけれ茲に樓下の一房は表面に三十號と記して

側らに囚徒五人の名札を掲げり房中に居列ぶものは孰れも一癖あるべき面相にて肉相せ眼凹み顔色青白く衣裳の汚穢なるは繪に畫ける餓鬼に彷彿たり獨り其の內の一人は二十四五と見え人品の善き少年なり今や此檻中に午飯を分ちしと覺しく穢れたる白木の辨當箱に極の下米と割挽麥を混ぜたる飯を低く盛り惡臭き香物を二切れ計り付けたるを四人ながら舌を鳴して食ひ終れども少年は一寸箸を付けたる計りにて側に置くを見て年齡四十五六に見え眼中のするどき男は少年に向ひ「お前さんはマダたべられませんか召食らにゃ私が頂戴しやせう二人前喰つても腹が滿くれりやアしないハヽヽ— 少年「茲に來た時から嫌な臭がするので早や三四日立つても未だ十分に食氣が出來ん此の狹い處で五人が順番に大小便をするから臭氣があつて胸が惡うてならん君方は皆な能く物が食べられるナと云へば側らに在る男が「食はずに居れば死んで仕舞はア朝は水の樣な味噌汁で晝は此通り香物が二切れ夕飯は蓮根か燒豆腐で身になりさうな者は一つもないが慣れて見れば是れも御馳走サ仕合せにお前さんの樣な人と同檻になつて時々差入れ物を少しづつでも分けて貰ふのが何より有り難いダが牛肉や玉子に鹽を付けて喰はうとすると看守が見付けて齒を磨く爲めに渡してあるのだから喰ふ事はならぬと云つて叱るから仕方がない 少年「食鹽は人間に一日もなけりやならぬものだのに此の節差入れの出來ぬのは譯の分らん話しだソシテ茲にある鹽を食物に付けて喰ふのを止めるは餘り苛酷と謂はねばならん運動は一週間に僅かに十分あまりしかなく檻中で立つて居れば小言を喰ふ膝を崩せば叱られるし二六時中正坐をして居らねば成らぬのは健康に善くない事である是れが外國人であつたら半時間も堪へて居ることは出來まい看守を呼んで申したてて見たら如何だらうト云へば一人が「滅太な事を云ふと何時でも良民を妨害して政府の御手數を掛ける身であり乍ら勝手な事が云はれるものかと散々に叱られます私も德川時分から隨分臭い飯を喰つたことのある男だが御一新になつて牢の中の模樣がサッパりと違つて少しは善くなつた樣だが隨分此の比では嚴重で困る事があります先比までは髮が延れば剪んで吳れるし鬚が長くなれば剃て貰ふとが出來たが今では皆んな御廢止サ其の上前方は每號に石盤と石筆が渡して有つたに取り上げて仕舞つたから一寸何か申立る事も六ツかしうなりました 少年「左樣か監獄のことだから我儘の出來ぬは當然のことで取締りの嚴重なのは尤も千萬の事だが未決囚は禁錮や懲役になつたものと違ひ國法上でも有罪人とは見做さぬことだから出來る丈は囚人に便利を與へても善かりさうなものだ懲戒するとか改悟さすとか云ふは既決監のことで未決人を取扱ふ道ではあるまい是れと云ふも百人が九十人まで惡黨で目の離されぬことが多いものだから自然に規則が嚴重になつて來るのヂャと云ひかけイヤ失言したト氣が附き急に辭を更へ「お前方は何んな嫌疑で茲にお出でになつたのか些トお話しを聞きたいものだト云へば前の四十五六の男は冷笑「此の檻には碌な奴は居ません氣のきいて居るのは熊公計りだお前から話しネエと云へば顏に痘痕があつて筋骨の逞ましき男が熊「私や靜岡もので子分が十餘人もあつて人も殺せば强姦もするし命が二つあつても足りネエ男だ丁度牢へ這入つたのも今度で五度目サと云へば少年は吃驚して熊の顏を眺め「今日まで能く無難に濟んだナア 熊「何時も破牢サ田舍の牢を飛出すのは世話も苦もないが此の監獄は中々堅固だから手が付けられネエだが仕合なことには今度も靜岡へ送られさうだから箱根山で美事に繩脫をして見せる積だ娑婆へ出たらば又お前さん方

に御目に掛る事もありませう　少年「ヘヱー夫れでも護送の途中では兩手を縛られて巡査が付いて居るではないかネ　熊「繩をスリ切つて巡査を谷底へ蹴落す丈けのことだソレはさうと小田原の大工さんは口書が濟んだと云ふから明日にも市ケ谷へ行くだらうから此の間の話しを能く聽いて置かねばならんが御前の敎へて呉れた小田原の丸持は彼の通り筋から見える白壁のある內だネ戶締の模樣はお前の話しで大抵分つたが召使は幾人居るかネ　大工「確か五人と思ふヨ　熊「五人位なら大丈夫だ時に金太手前今朝の呼出しは如何だつた」十七八計りの一寸小利口さうな小僧は「ウーン仕方がねえから皆んな云つて仕舞つた　熊「アレ程己れが言つて聞かせて置いたに白狀すると云ふことが有るものか利口な小僧でもまだ場所に慣れネヱから仕方がネヱナソシテ金太貴樣の樣に奉公先の金を盜だ位では市ケ谷や佃島へ往ても頭が上らネヱから今度出たら己れが敎へてやつた通り些つたア大きな仕事をするが善いぜト話すを聽て四十四五の男が「旦那牢の中の話しは何時もこんなものだが旦那方は吃驚するだらうネ」少年は笑ひ乍ら「昔から牢屋は惡事を習ふ學校だと聞いて居たが誠にそれに違ひない昔は西洋も同樣であつたがベンサムと云ふ人が出掛けて來て獄屋の建築方や囚徒の分け方に法則のある論を立て各國政府も其の說を採用して獄屋の風を一變したので次第に罪人の數が減じたと聞いて居るが日本でも早く獄制を改良したいものだト云へば熊は目を剝出し「此の內に居てソンナ馬鹿な事を云ふ奴があるものか　少年「左樣お互に一つの鎖に繫れた猿の樣なものだから　熊「お前さん檻內で猿と云ふことは禁句だぜお氣を附けなさい」此の時房外に忍び廻りの巡査が居たりしと見え大聲にて「三十號は騷々しいぞ些ト靜に致せ」（編者曰く此の處にては四十四五の男は如何なる人物なるやを知るに由なけれども蓋し維新前一の博徒にて屢ば獄に下り近來は改心して正業に就き人力車夫仲間にて親分と仰がるゝ一の俠客なるが子分の犯罪により連累の嫌疑を受けて玆に下りしなり其の姓名は花間鶯の中編に至つて說き出だすべし）此の一聲に每房談話の聲を絕ち寂寥として人なきが如し方さに是れ六月中旬にて霖雨數日絕間なく陰霧窓に入りて囚衣爲めに濕ひ點滴の蕭條たる人の腸を斷たんとす折から聞ゆる遠寺の鐘聲ボーン〳〵少年は默然として頻りに悲哀の情を催し獨り熟ら思ふ樣　我れ生中に政事家となるの志を立て四方を奔走すれども更に事業のならざるのみか一朝の不注意よりして獄中に入り盜賊博徒と起臥を同うする身となり犯せる罪はなけれども二通の手紙が嫌疑の基となりて度々の吟味を受け此の身と同日に拘引せられて此の樓上にある武田を始め證據人と思つて居る吝嗇などは何と申し立てたか模樣は少しも分らず萬一も辯解が立たずして有罪と極つたらば輕くも三四年以上の重禁錮を受くるであらう然れば此の虛弱の身で獄中の鬼となるに違ひない早く兩親の命に從うて國に歸るか左もなくとも前年機會のありし時彼の家に養子に行つたなら斯る不運に出逢ふこともあるまいと思へば誠に殘念なことである國許の御兩親は此のごろ御無事であるか此の身の災難をお聞きなされたらサゾ御愁傷の事であらう古語に疾風に勁草を知ると云へど高き枝は折れ易きの喩へに洩れず嗚呼身を處するの道を誤りしト天質剛毅の身なれども獄屋の苦痛に壯心も摧け目に持つ淚を同囚に曉られまじと側にある手巾取つてながしに臨み數滴の水を掌に灑ぎ顏を洗はんとしたる時如何なしたりけん手巾をペツタリながしに落せば手巾の水に濕ふに從ひ墨き文字の現はれ出るにぞ是れは不審と目を定めて能く見れば一首の歌なり

霜雪のおもきにたへて男々しくも
　はるをばまつの猶たてるかな

少年は繰り返して讀み乍ら「此の手巾は昨日是れまで名前を知らぬ松本某から牛肉に添へて差入れて呉れたのであるがサテは我が危難に逢うて志を變ずることもあらんと思ひ明礬にて書寫し規戒の意を寫せしものと見える如何にも松柏は雪霜に逢ひて其の節操を現はし丈夫は困難に當る毎に愈よ其の志を堅くする譯だ昔より英雄豪傑の事業を大成せしは皆艱難辛苦の結果だと云ふことは是れまで内外の書を讀んで能く知つて居ながら女々しき心を起せしは我れ乍ら不覺千萬なり扨ても勇々しき此の歌は何人の吟咏なるか知らねども我が身に取つては一生の良師ヂャ天下の人に先きだつて政事を改革せようと思うて社會の風潮に當る上は一度や二度獄中に陷るは當然のことだ一時の艱難の爲めに志操を變ずる樣ではトテモ大事業を成就することは出來まいト自ら心を勵まし乍ら「ハテ此書風はドコヤラ見覺えがある樣ヂャがドウモ親友の内には是れ程な和歌を咏む男はないハテ誰れだらう早く青天白日の身になつて歌の本人に逢うて禮を言ひ度いものぢやがドウカ明日も呼び出しがあればイヽがト腹に手を入れ虱の刺せし迹を搔きツヽ壁に倚り姑く詞なければ熊は傍より「旦那モウ玆へ來たらナンボ悔よ悔よ思うても仕方が無いソレトモ娑婆にある色のことでも思ひ出しやつたのかネハアヽ

編者曰く此の章に記する所は余が十年前獄に下つて自ら目擊せし所と一二の朋友より聞く所を參取せしものなるが監獄の制度も次第に改良に就きし由なれば今日の事情に適當せざる所も多からん讀者之れを諒せよ

第七回

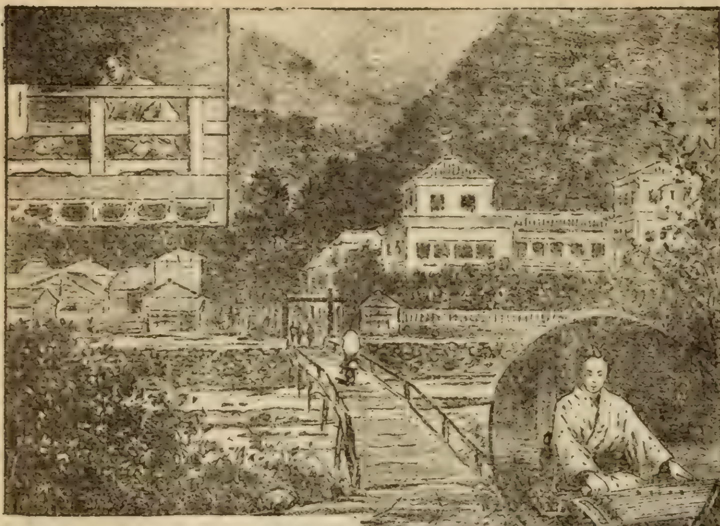
少女動二名士心一十三絃
秀才認二恩人書一冊一字

高山峨々として蒼翠を含み其の麓を流るゝ谷川は石に激して飛湍となり其の響き洶湧として風雨の如し玆は箱根七湯の一なる湯本なるが溪に臨んで二ツの西洋風の三層樓あり屹然として相對するは世に名高き福住樓なり頃は七月の末にて都會の炎暑を避けんとて此内に投宿するもの數知れず樓上樓下とも大方は明き間の無き程になれり右の方の下座敷を借切りしは如何なる人なるか軒に掛けし簾に蔽はれて顏は見えねども滔々と流るゝ瀧の音に和して妻琴をきみ鳴らすも奥ゆかし

　ゆかりよしあるはつ草のわか葉のうへをみつるよりいとゞかわかぬ袖の露なほうきまさるたびねかな」うつゝなやひとりねよはのまくらにふきまよふみ山おろしに夢さめてなみだ催す瀧の音」いざさらばみや人にゆきてかたらん櫻ばな木の間のけしきことなるを風よりさきに見せばや」かくれがふかきおく山のまつの戸ぼそをまれにあけてまだ見ぬ花のかほばせをみるよりぬるゝ衣手」たそがれすぐる折からほのかに見てし花の色にまよふ心はあさがすみ立ちわづらふぞものうき」いつしかにくみそめてくやしと聞し山の井のあさゝながらもさりとてはたえぬちぎりをたのまん

と風に傳ふる若葉の一曲を一方の樓上にて餘念もなく頤を支へて聽き居たる一人の書生が「此の高山流水の間に琴聲を聞く時は伯牙鍾子期の故事も思ひ出される聲と云ひ調子と云ひ誠に妙だが何處の女だらうと獨言ちつゝ廊下を通る下女を見認め「オイ〳〵お初どん〳〵」下女「ハイ何御用で御座います」書生「鐵瓶に湯を入れて來て下さいソシテ向うの下座敷で琴を彈くのは誰れだ」下女「アレハ昨日から御逗留になつて居ります御女中であります慥か東京の御方ですヨ

書生「サウ別嬪かネ」下女「ハイ御年は十八九でありませうか誠に上品な上に温和な方ですワツシテ琴がお上手な計りでなく御歌とやらが能く出來ますと先刻も此樓の隱居が大層譽めて居りましたト聞いて書生は心にうなづき「ソレハ妙だ夫んなら先刻拾つた咏草も彼の女のだらう同伴は御亭主かネ」下女「イヽエまだお娘子の樣でして御母さんか叔母さんか知れませんが五十計りの人が御一緒にお出でです」書生は「さうかト云ひ乍ら暫し勘考の體なりしが「お初どん一寸と云ひつゝ耳に口を付けて何やら細語けば下女は點頭きて「承知しました慥か御女中は旦那を知つて御出でなさる樣ですからお目に懸け度いものがあるからドウゾ御逢ひ下さる樣にと申して見ませうト立ち掛けて書生の顏を眺め「旦那そのお顏では別嬪さんには逢はれませんヨ」書生「ナゼ〳〵」下女「ソレでも其處で御晝寢をなさいましたと見えて額へ疊の跡が付いて居ますからサ早くお湯を召してお出でなさいオヤ御茶の事を忘れて居たト鐵瓶を手に下げドン〳〵と階子級を下り往く抑も此の樓上に在る書生は彼の國野基にて五月の初め手紙に書きし文字の行違よりして警視第二局へ拘引せられ一通り吟味の末掛官も多分無罪ならんとは考へしものの容易ならざる嫌疑事件にて匿名書の出所も分明ならず其の上連累人の武田猛の陳述に少しく不審の處もあれば自然に國野の取調べも捗取らず之れが爲めに一月餘りも獄中にありしが國野の口述と引合人の申立てと一々符合して別に疑はしき事跡も見えねば七月の中旬に至り武田と共に放免となりたり炎暑の時節にて獄中の疲勞もあればとて湯治を思ひ立ちしが二三年前箱根に遊びしことありて此の家の主人とも別懇なれば五六日前より此の地に來り山水の眺望よき一間を借り切りて靜かに保養を爲し居たるに風と向うの座敷にて調ぶる琴の音の耳に入り本人を問へば己れが好める文雅の道にも闇からぬ少女の由にて且つ少しく心に思ひ當ることもあれば話しをして見んものと思ひ下女に賴んで面會の儀を申込みしに今風呂場より出でしまゝなれば程なく此方より御尋ね申しますとの對へなりしかば取り散して置くも失敬なりと思ひ其處にある書物や「カバン」などを片付ける内に「御免下さいましト優しき聲にて唐紙を開き徐に茲に入り來る一人の女を視れば世に珍らしき美人にて白き浴衣に黑繻子の帶を締め髮を銀杏返しに結び湯上りの素顏にて涼やかなる眼元に少しく紅を帶びたるは桃花の今咲き初めし趣きあり國野は心に驚き乍ら膝を正して差向ひに座を占め雙方一通りの挨拶終り少女「私は昨日から貴君の此處へ御出のことは承知して居りましたが御目に掛ることを願ひますのも御迷惑かと存じまして差控へて居りましたが貴君も先達ては誠に御災難で御座いましてドノ樣にか御難儀で御座いましたらう私は是れまでシミジミ御挨拶を致したことは御座いませんが御名前と御顏は能く存じて居りますから蔭ながら


溫泉樓上美人琴ヲ彈スル圖（初版本插畫）

お氣遣ひ申しましたがマア宜しい御都合で御座いましたソシテお顔に少しもお勞れの御容子が見えませんヨと愛嬌ある眼にてソット國野の顔を眺むれば國野は覺えず少しく顔を赤くし「誠に馬鹿なことを致しましてお話しにもなりませんそれで貴女は私を知つて居ると仰しやるが何處で御目に掛りましたらうネ」少女は手を口に當ててホヽ〳〵と笑ひ「何處でも宜しう御座いますわ貴君の樣に御名前があつて世間の廣い御方は誰も存じて居りますト云はれて國野は首を傾け「ドウモ不思議でなりません貴女の御宅は何方で御座いますソシテ親御の御名は……」少女「宅は築地で御座います兩親とも疾く無くなりまして只今では叔父の世話になつて居ります」國「左樣なら今度の御同伴はどういふ御方ですか」少女「ハイ叔母で御座います」國「失敬ながら貴女の御名前は」少女「春と申します」國「さうで御座いますか先刻下で琴をお彈きなさるのを聞いて居て感心しました琴は誠に上品なものですが此の溪川の音につれます時には別して感動を引起しますソシテ貴女は餘程御上手の樣ですから」春「アレ御串戲ばつかり私は餘り琴は好きませんが下座敷の牀の間に置いてありましたから徒然の餘り彈いて見たので御座いますが中絶して居りますから調子も合ひませずサゾ御八ケ間しう御座いましたらう」國「八ケ間しいどころか誠に面白う御座いましたソシテ貴女は和歌もお詠みなさるさうですネ」お春はニッコリしながら「イヽエそんなことは存じませんヨオホヽヽヽ」國「何もさうお隱しなさるには及びませんト云ひつゝ側の机の上にある短冊をお春に示し是れは貴女の御詠草では御座いませんかト問はれてお春は不審顔「夫れがどうして貴君のお手に入りましたか」國「先刻風呂場の上り口で拾ひましたが見れば女の手の樣でもあるしハテ誰が落したのだらうと思ふ内に下女の話しで乾度貴女の御詠歌であらうと考へ付きましたから御目に掛けたいものがあると云つて御面會を願つたのですト云ひながら再び短冊を手に取り上げ

玉くしげはこねおろしや早からじ
雲のゆくへもさだめかねつゝ

「失敬ながら誠に御秀吟と思ひますト云はれてお春は心がイソ〳〵として「オホヽ、誠に腰折れでお譽に預かる樣なものでは御座いません國野さんは定めて玆へ御出になりましてから澤山に御詩作が出來ましたで御座いませうドウカ拜見を願ひたう存じます」國「イヤ二三首作りはしましたがどうも未だ推敲が足りません何卒御正刪を願ひたいものですト云ひつゝ硯を引寄せ膝の上に卷紙を置きサラ〳〵と認め差出すは七言律詩には

獄窓幾度夢二函山一。好脫二囚衣一濯二澗泉一。
近レ枕水聲時訝レ雨。入レ窓雲影却疑レ煙。
半生孤介心如レ石。一病清臞骨欲レ仙。
堪レ喜眼前相識在。孱顏不レ改翠依然。

お春は口の内にて再三讀み返し「私には十分なことは分りませんが前聯は此の地の實景でありまして第五句は貴君の御精神第六句は御出獄後の御風格で御座いますそして結末は御自分を箱根山に比らへて雪霜に逢うても色を變へぬ松柏にも勝る御節操をお寫しなされたものかと思はれますト聞いて國野はさてはト思ひ「只今の御口上で私の心に當ることがあります『霜雪のおもきにたへて男々しくもはるをばまつの猶たてるかな』此の一首は慥かに貴女の御詠歌で御座いませうがな」お春は國野の顔を眺め何か言んとしてオホヽヽと笑ひ「イヽエ私は存じませんヨ」國「御承知のない筈はありません猶御聽き申さねばならん事がありますト云ひつゝ一ツの蝦口の中より一通の手紙を取り出してお春に示し「お春さん此の手紙は男子の用ふ

る文體に認めて無名氏と書いてはありますが短册の御手蹟と能く似て居る樣ですから若しや御心覺えは御座いませんかト云はれてお春は顏赤らめ差し俯いて辭なければ國野は覺えず歎息し「夫れで何もかも分りましたがお春さん此の手紙では隨分苦勞しましたト是れより下宿屋にて手紙を受取りし時の有樣より警視にて取調べを受け辯解に困りし等の事情を委しく話せばお春は氣の毒さうな顏付きにて 春「國野さんどうぞ堪忍して下さいまし女の淺智慧で濟まぬことを致しました此の上は何にもかも打ちあけて御話しを致さねばなりません元と私は田舍で女敎師をして居りましたが東京へ出て見ますれば女の風儀を改正するなどと世間で八ケ間しう云ひますが上等の婦人方さへ少し計り英語を習ひなさるとか舞踏の稽古をなさるが勢一ぱいでして其の餘のことは誰も心掛る人が無い樣で御座います此の世の中で男子を助けて歐米諸國と肩を比べる樣にするには女でも少しは政事上のことを知らねば成らぬと思ひましたから一兩度井生村の演說會へ傍聽に參りましたが貴君の御演說を承る度に感心をいたしましてお慕はしく存じます內に不圖御難儀の筋があるとやら承りましたから及ばず乍ら御力に爲つて上げたいものと思ひましたが私も母の遺言を守つて尋ねる人のある身の上ですから浮かと名前は出されませず其の上貴君の御氣質では近づきもない女の癖に差し出がましいことをするとお憤りなされまして金子をお返しなさるは必定と存じましたからワザと名前を隱して男の手紙の樣に書いたのですが夫れが御嫌疑の一ツになりましてサゾ御迷惑なことで御座いましたらう又アノ歌とても同樣で御座います貴君の樣な御人でも長い牢屋のお苦しみで御志の屈することがありはすまいかト思ひ過しまして前後の考へもなく致したことで御座います馬鹿な女と御蔑視の上定めてお腹も立ちませうが幾重にも御勘辨を願ひます 國「何して腹の立ちますどころではない彼れと云ひ是れと云ひ貴女の御親切は一生忘れは致しません別して一時の困苦の爲めに節操を變へはせぬかと松柏に寄せた御詠歌は十分に私の肝に銘じました今の世に珍らしい女丈夫の御心底國野基などの及ぶ所では御座いませんシテ只今尋ぬる人のある身と仰しやいましたが夫れは又何處の何と云ふ御方ですト問はれお春は「ハイと言掛けて口籠り「其の人の名前は只今少し御話し申し兼ますが早や三四年立つても行方が知れませんから迚も逢ふことは出來ますまい私は兩親も兄弟もない身で御座いまして叔父と云ひますも實は他人の事ですから何時も苦勞が絕えません爰で貴君に御目に掛りましたのは此の上もない私の仕合せで御座います色々お話しを申しまして御思召を伺ひ度いことも御座いますから何卒是れを御緣にして親しみ少ない私の身を不憫と思つて下さいましト話し乍らに少しく淚ぐむは類まれなる才女にても其の身に掛る災難に當惑することありと知られたり今や此美人才子が差向ひにてヒソ〳〵語ふを蔭にて聞きしなれば誰も妬ましく思ふならん折柄向うの下座敷より「お春〳〵と呼び立つるにぞ 春「オヤ叔母が歸つて來たと見えますドレお暇を致しませう茲の御座敷は能く風が通りますネアヽ涼しいこと些ト彼方の座敷へも御遊びにト……云ひつゝ起んとして又坐りしが又もや「お春〳〵と呼ぶ聲の聞ゆればお春は「誠に御邪魔をいたしましたト心殘して歸り行く後姿を見送り乍ら國野は姑く梯子段の上に立ち「容貌も美な上に驚く程發明な女ヂャなア

政治小說 雪中梅（下編）

末廣鐵腸居士著
政治小說 雪中梅 下編
東京 博文堂藏版

（初版本扉）

雪中梅序

身を百億に現して隨時化導の方便を施すは是れ菩薩乘の所說に非ずや今日吾人の期する所は此の民を化導して國家の福利を增進するに在り其職任の廣大重要なる豈に啻に佛徒の衆生濟度のみならんや故に今の政治家たる者は固より身を千萬億に變現して隨時化導の方便を施さゞる可らざる也然らずんば何を以てか三千年來昏々睡眠する三千餘萬の蒼生を攪起して富强文明の新世界に入らしむることを得ん此故に政治家は亦新聞記者たらざる可らず亦學者著述家事業家たらざる可らず亦道德家たらざる可らず特に身を小說家に現し錦心繡腸を鏡花水月の幻境を發露し以て大聲をして里耳に入り易からしむるが如きは今日我國の政治家たる者の最急方便なりとす末廣君鐵腸早く玆に見る所あり旦には身を新聞記者に現して侃々諤々時弊を痛論し夕には身を小說家に現して世人をして拍案快を呼ぶの際知らず識らず政界の妙味を嘗めしめんと欲す其意を國家人民に用ゆること寔に深しと云ふべし

同く小說なり之を分てば Novel. Romance の二大品類と爲る Novel は何ぞ人情を基本とし新奇喜ぶべきの言行を構造して之を潤飾し而も荒誕不經に流れざる者則ち是れ也 Romance とは何ぞ忽ちにして驚天動地の奇談忽ちにして拔山倒河の言行巧みに之を連綴して敢て荒誕不經に流るゝを忌まざる者則ち是れなり此書の如きは Novel の品類に屬すべき者にして意匠使按措辭奇警固より尋常小說家の企て及ぶ所に非ずと雖ども一言一行悉く根底を世間實在の事態に占め絕て空漠荒唐に渉る者なし蓋し政治小說中の最も時事に適切なる者乎

邦人未だ小說の何者たるを知らず動もすれば之を視て婦女子消間の玩具にして士君子の手にだも觸るべき所に非ずと爲す焉ぞ知らん小說（今妥當の譯語を得ざるが故に暫く小說二字を以て Novel に充つ以下單に小說と記する者は是なりと知るべし）は近世文學上の一大發明にして其文化を贊育せること實に少小ならざるを古の歷史は荒誕怪奇にして編者の想像に成れる者多しと雖ども尙ほ是れ歷史にして小說に非ず支那の古に飛燕外傳穆天子傳等あれども復た一部の小說と稱すべき者なきに非ずや希臘、羅馬、波耳西、亞拉比亞皆な怪譚奇話に富めり而して古昔復た一部の小說と稱すべき者なかりしに非ずや其の之れあるは近世に創まれり試に英國を以て之を例せん始めて小說の名に恥ぢざる者を生ぜるは十七世紀の初めに在り始めて當世現存の事實

と人物とを敷衍して小説を作れるは同世紀の央に在り始めて理論上の主義を小説中に寓せるは今世紀の初めに在り之に尋で政治小説あり又之に尋で科學小説あり將に萬有を網羅して遺さゞらんとするは是れ近時小説の進歩に非ずや小説決して輕視すべきに非ざる也

小説の品類此の如く其れ多しと雖ども概して之を論ずるに虚に過る者は怪譚と爲り實に過る者は歴史と爲り傳記と爲り學藝書と爲る巧みに虚實を湊合し人をして開卷手を釋くこと能はざらしめ而も稗讀の間覺えず益を得せしむる者にして始て有用の小説と云ふべき乎書して以て鐵腸學兄に質し併せて江湖博雅の君子に問ふ

明治十九年十一月　學堂居士　尾崎行雄撰

雲中梅下編目錄

第一回　天縁未熟暁窓讀告別書　人事無常山店逢相識客

國野基は箱根湯本の福住樓にて圖らず一人の少女に出逢ひ風呂場にて拾ひし短冊の手跡よりして己れが是れまで尋ねて居たりし恩人なるを知りしが其の容貌と云ひ氣象と云ひ世間に稀なる婦人なれば獨り熟ら思ふ樣「我れ男子と生れて社會の爲めに盡力する志を立て世間の婦人は眼窩に入らぬがアノ樣な才色兼備の女の爲めには鐵石の心も碎けねばならん左れども先刻の話の達先を考へて見れば一家の主人である上に兼て契約した人を尋ねて居る樣子ヂャそして多少資財もあつて中等以上の家に生れたものに違ひ無いが此の身は色々な不幸が續き四方に流落して身を立ることが出來ず今では下宿屋の二階に栖籠りヤット飜譯で糊口をする程だからトテモ近い内に一家を持つことは出來まい左すれば他日功業を成就してもあの女は早や綠葉成陰子滿枝と云ふ樣になるに相違ない誠に殘念なことぢや左れども同志の少い今日にあつて[illegible]中に一の知己を得たのは誠に愉快のことである彼の婦人は何處の出生であるか些し心に掛ることがあるが先刻は外の話に紛れて聽て見る間が無かつた當分此の樓に逗留する樣子だから又徐々話をすることも出來るであらうト獨り燈に對して種々の事を考へ十二時過に至り始めて枕に就き一寢入りして眼を開けば旭日窓櫺を射て昨夜投宿せし旅客は概ね出立せしと見え樓上樓下とも寂寥として獨り早川の溪聲のみ洶湧として枕に響けり國野は欠伸をしながら枕元に在る烟管を把つて烟草盆を引寄せ續けて二三服烟を吹き居たる内に樓婢は一寸唐紙を明けて内の樣子を窺ひ「旦那今朝は珍らしくよく御寢ましたネモウお起になりますなら御床を上げませうか　國「朝日がさして大分熱くなつて來たがモウ何時かネ　下女「今八時の時計が鳴りました　國「夫れでは大變な朝寢だつた　下女「先刻下座敷の御女中が御出立になりましたが……と聞いて國野は吃驚し蒲團を卷ツて側へ突き退け　國「ナアニ彼の女が出立したの東京へ歸つて仕舞たか　下女「イヽエ木賀へ御上りになつたのです何だか旦那に御用がある御樣子でしたから度々私が茲へ參つて見ましたが餘り能く御寢て入らつしやるから御起し申しませ

んでした　國「夫れは殘念なことをした無理にでも起してくれゝば善いに出立掛に何か傳言はなかつたか　下女「旦那のお目が覺め次第差上げて呉れる樣にとて之れをお賴みになりましたト帶の間より一通の手紙を出だすを國野は受け取り急ぎ封押し切つて之れを讀めば其の文に曰く

昨日ははからずお目もじ致しうれしく存
じ參らせ候尙ほ逗留中はゆる〳〵御話し
を承はりいろ〳〵お賴み申上げ度こと
も御座候處叔母儀急に木賀へ參り候
とて昨晩已に駕籠を申付置今朝は日の
出ぬ内に出立いたし候樣差急がせ候
まゝ御暇乞も不申上誠に失禮仕候是
非歸りには此の内にて御目もじ可仕
候得共木賀も至て靜の土地の由に承
はり候間御前樣も御都合出來候得者
同處へ御上り被成候而は如何に御座候
哉御勸め申上げ候取急ぎ候まゝ何事も
書き遺し御目もじの時に讓り申候あら
あらかしく

月　日　　　　　　　　春ゟ

國野先生
　　御もとへ

國野は再三手紙を繰り返し何故其の叔母が急いで此の地を出立したのだらうか不思議なことヂヤと思ひ姑く考へて居たりしがヤヽあつて心にうなづき「お初どんアノ女の伴の婆さんはどんな風の人かネ　下女「何だか意地の惡い樣な御方でして御女中も大層お氣兼をなさつて御出での樣に見てますワと聞いて國野は笑を含み「ハア、さうかそれで分つたお初どんお世話だが下へ往く序に御亭主にさう云つて宿帳を借りて來て下さいドレ淨水を遣つて來ようと手巾を携へて風呂場に赴けば下女は其の間に寢床を上げ室内を掃ひ程なく宿帳を持ち來れば國野は帳面の跡の方より繰り返して之を視るに止宿の客は每夜數十人なるが筆太に正何位何某同じく從者何人ト書きしは府下の貴紳にやあらん華族には家扶の隨從あり官員豪商は妻子と下女を召連れ同行十餘人とあるは富士詣か大山參りなり單身の書生あれば俄か出來の夫婦あり四五枚目に東京京橋區築地三丁目藤井タカ五十一年三ケ月同じくハル十八年五ケ月と細く書き記せり國野は心の内にて「是れだ〳〵シテ本籍は長野縣平民とあるネ名前が春と云ふ上に音聲に何處か西國訛りがある樣だから兼て氣に掛けて居る女ではあるまいかと思うたが氏が藤井で長野縣なら矢張り別人だと獨り語りつゝ手帳を出だし町名番地を書き留めて下に向ひ「私は是れまで上の方へ登つたことがないが爰から木賀まで里數は何程あるか　下女「一里半餘りと聞て居ります　國「さうか止宿帳はモウよろしいから下へ持つて行つて御飯を出して下さい」國野は已に一週間近くも湯本に滯留し少しく退屈したれば徐々外の場所へ轉ぜんと思ひ居たりしにぞかた〳〵意中の人の跡を逐ひ急に木賀に登らんと思ひ立ちしに此の日の夕方より小雨降出だして殊の外冷氣を催し少しく感冒せし樣に覺ゆれば心ならずも出立を見合せたり國野の爲めには久しく耳に慣れし谷川の水聲も何となく物寂しき樣に聞え夜々燈下の夢は白雲を追うて木賀に飛びしなるべし四五日を經る內に病氣も全快したれば宿の主人に賴んで人足一人を雇ひ之れに革手提と毛巾包を擔はせて案內者となし己れは浴衣の上にへコ帶を結め草鞋を穿ちて一本の蝙蝠傘を携へ曉方の淸凉に乘じて福住樓を立ち出でたり湯本より早川の河流に沿ひ五町許り登りて塔の澤に達す此處も一の浴場にて許多の浴樓あり此處を行き過ぐれば七曲と呼ぶ峻坂あり愈よ登れば山高くして谷深く樹木鬱蒼として處々に飛瀑あり水聲鏘々として溪間に鳴り風景イト幽邃なり一里餘にして大



(初版本挿畫)

平臺に出れば一の村落にして許多の人家あり湯本近傍の諸山は脚下に出沒し遠く數里の外に相模洋を望む海色鏡の如く白帆の往來歴々として數ふべし路傍大樹の下に一の茶店あり店前に井欄を据ゑ飛泉潺々として其の間に噴出す里人之を姫の水と名け箱根山中第一の清泉にて山坂を上下するもの多く此の處に休憩す編者嘗て湯本を發し宮の下に赴く途中の五古一首あり左に錄す

曉雲籠二溪水一。紅日未レ出レ山。獨乘二早涼爽一。
短筇試二躋攀一。逶迤踰二丘阜一。人家傍二碧灣一。
炊烟幾縷白。柴荆門尙關。一徑入レ山細。
行步漸險艱。羊腸八九折。峆岈石露レ拳。
懸巖何峭峻。皴裂如二劉瘢一。巖腹貯二乳水一。
逢レ隙則潺々。或瀉爲二飛瀑一。樹梢素練懸。
或瀦爲二碧潭一。微風起二淸漣一。脚下鬧泉響。
鏗鏘鳴二玉環一。高低又屈曲。路出二碧林間一。
松杉皆合抱。鬱蒼不レ見レ天。寃藤長蛇動。
古木怪獸蟠。竹外黃鸝囀。嬌喉自綿蠻。
山菓已成熟。離々紅紫斑。枝高無レ由レ摘。
口渴流二饞涎一。林盡逢二平曠一。我意殊安閑。
回顧渺茫外。海色碧成レ彎。飛鴻影滅沒。
白帆入二蒼烟一。乞レ火就二野店一。松下屋一椽。
獨究二溪山勝一。登臨興未レ闌。思我在レ家日。
衰羸良可レ憐。出レ門僅數步。喘息已蹣跚。
溫泉有二靈效一。一澡醫二病孱一。頓覺兩脚輕。
健步逐二飛鳶一。行與二猿狙一伴。不レ辭山履穿。

國野は案內者と四方山の話をしながら此の店前に來りしが遠き山坂を歩み非常に喉の乾くにぞ杓にて飛泉を酌み幾度となく口を嗽ぎ帽子を脫いで緣側に腰を掛け手巾を出だして面の汗を拭ひ十分許りも休息し木賀までの路程を問へば最早や二十町許りと云ふことなれば何となく心も勇み「ドレ熱くならぬ內に行かうかと云つゝ錢嚢より銅貨二三錢取出だして茶盆の上に置き身を起さんとせしが忽ち「エイサア〱ト云ふ聲が聞え一の山駕籠を此の店前に擔ぎ入れたり駕籠の中にあるは若き女なるが國野と顏見合せ「オヤ貴君はト言ひながら立出づるは別人ならずお春なり手拭を以て衣裳の上の塵を拂ひながら國野の側に腰を掛くれば國野は急がしく「マア貴女は何處へ入らつしやいますか 春「ハイ急に東京へ歸らねばならぬ樣になりました貴君も木賀へお出でになりませうかと今日まで御待ち申して居りましたに爰で御別れ申しますのは誠に御名殘り惜しう御座います 國「ハテ夫れは至急のことですな先日は御出立掛に御手紙を下さつたので直にお後から參らうと思つて居ましたが天氣の惡い上に少々風邪の氣味合でしたから今日まで湯本に居りましたがマア貴女は何故至急に御歸京になるので御座いますかネと問ひ掛けられてお春は近傍を見廻しながら「今朝東京から叔父が急病と申すことで電報が掛りましたが氣遣ふ程の事はあるまいと思ひますけれども病氣と聞きましては湯治をして居る譯にも參りませず急いで歸ることになりましたマア貴君は何時頃御歸京になりませうネ 國「模樣に據

ると友達が尋ねて來るかも知れませんから多分二週間位は逗留になりませう叔母さんはどうなさいました 春「下女と一緒に後から參る筈で御座います 國「叔母さんが附てお出ならば途中も御安心でせうト云ふを聞いてお春は悔しと思へる顔付にて「イヽエ叔母さへ居ませねば徐々貴君と御話しをすることも出來ますし此樣に急いで歸るにも及びますまいに殘念なことをしました國野さん御歸京の上は……ト云ふ内に又々二挺の山駕籠は此處へ來掛り前の駕籠に乘れるはお春の叔母にてイト憎氣のある老婆なるがお春が國野と差向ひにて休み居るを見認め苦々しき顔付にて此方を睨みながら小聲にて何か輿丁に囁けば輿丁は點頭いてニッコと笑ひ此の時まで樹の蔭にて煙草を吹き居たるお春の輿丁に聲を掛け「オイ若い衆急ぎだとヨ酒代が出たゼ早く行かねえかト云へば叔母も駕籠の中より半身を出し皺がれ聲にて「お春やぐづ〳〵すると途中で日が暮るヨと呼び立てられお春は氣の進まぬ顔付にて立ち上り右の手にて鬢のホツレを撫で乍ら一寸樹者に氣を付け國野に目禮し小聲にて「孰れ御近い内にと言ひながら徐かに駕籠に乘り移れば輿丁は竹笻を力にして聲を合せ二挺の駕籠の跡に從ひエッサ〳〵飛ぶが如く走り去れば國野はツト立ち上り林樹の蔭に見え隱れとなるを目たゝきもせず名殘り惜氣に見送り居たるが誰とも知れず背後より肩を打ち「國野君何をボンヤリして居るのダと聲を掛けられ後を振り向いて 國「オヤ吃驚した誰れかと思へば武田君かマア君は能く出掛けて來たネ

第二回

醉步倒レ屏妨二隣房奕棊一
閑坐傳レ杯談二地方形勢一

懸巖相對して屏風を立つるが如く其の深さ幾百尋なるを知らず澗底樹木鬱蒼として其の下に水聲の洶湧たるを聞く一逕屈曲して巖角を繞り兩崖の狹き處に一の危橋を架し道を前山に通ず橋下水色藍の如く側らの巖石より熱泉を噴出し硫氣飛騰して烟霧をなす里人之れを太閤風呂と名く豐太閤小田原征伐の時湯槽を設けて此の地に浴せしと云ふ前面の峭壁上より數條の水簾を瀉下し轟々として雷の吼るが如く又一匹の白練を曳くに異ならず仰げば高山突兀として頭上に墮落し來らんとし幾條の小飛瀑あり碧樹の間に隱見す是れ箱根底倉の景色なり巖下に軒を列べ許多の湯戸あり梅屋と云へるは層樓巍々として山に對し溪に臨み箱根山中にて二三を爭ふ大樓なるが今や昨年新築せし二階の一間には壁に山水の軸を掛け瓶中に百合の花を插み火鉢に鐵瓶を掛け其の側に炭斗茶盆を置き二人の書生は今脫ぎしと覺しき衣裳を欄干にかけ浴衣の儘にて座蒲團の上に寢轉び一人の書生が一武田君善い風が來るナア此處は湯本から見ると大分涼しい樣だソシテ景色も面白いではないか先刻姬の水の茶店で君に逢うたは實に意外であつた君は又どう云ふ都合で茲へ出掛けて來たのかネ 武「途中でも一寸話した通り出獄後伊勢へ歸つて見ると母の病氣と云ふは全く譃で實は僕を呼返して國へ置く積りの樣子だから僕は大議論をオッ始めヤット再び出京する都合になつたのサ最初は久し振に歸省をしたのだから一二月は逗留しようと思うたが國の書生は皆んな因循で一人も話せる奴がない僕の獄へ這入たのを聞て國事犯でも遣り掛つた樣に思つて畏れて居るから面白いぢやアないか國野君此の節地方にぐづ〳〵して居る奴は駄目だッシテ警察でも僕の擧動を探索する樣子だから猶のこと大言を吐き散してやつたト言ひ掛け今火斗に火を入れて持ち來りし下女を見て 一オイ姉さん先刻吩咐て置た酒を早く持て來てお吳れ何をぐづ〳〵して居るのだ」下女はニッコリ笑ひ「お待ち遠さま只今御肴をこしらへて居ります 武「待遠いから催促をするのだ冷でもいゝから

早く出して呉れいト云ふを國野押し止め一寸聞に酒を飲むことは止めようぢやアないか君の酒癖も通りものだが獄中に居た時の不自由を思へば少しは辛抱が出來さうなものだ武田は些と急き込みし顔付にて「大丈夫が酒を飲まぬと云ふことがあるものかソシテマア聞き給へ二三人昔の友達を引出して酒樓に登つた處が隣り座敷に郡役所の奴等が藝者を上げて騒いで居るから僕は不平でたまらず障子越に罵詈をしてやると


（初版本插畫）

向うからも惡口を言ふから友達の止めるのを突き除けて其の座敷へ飛び込み其邊に居る奴に拳固を喰はせ皿鉢を投げ付けて追散し其の夜は大醉で寢て仕舞たが……國「君の亂暴には困るヨ社會に立つて事業を成さうと思ふものが酒で本心を失ふ樣ではいけない些ト謹み給へ 武「ナアニ糞蟲の樣な奴は敺き倒してやつたつて構ふものかダガ其の翌日になつて聞くと其の内に警察署の探偵なども居つて告訴すると云つて騒ぎ立てる樣子でもあるし誰かが親爺へ其の事を話したと見えて散々小言を喰つたから殘りの旅費丈を持つて内を飛び出したが其の前に君の東京から出した郵便が屆いて箱根へ湯治に出掛けると云ふことだから東海道をぶら〳〵遣て來て一昨日箱根の宿から蘆湯を通つて茲へ宿を取木賀宮下堂島まで一軒々々尋ねて見ても君の居先が分らぬから屹度塔の澤か湯本だらうト思つて下り掛けた處であつたト話の中に下女は大きな塗り盆の上に一瓶の酒と一皿の鯵の鹽燒を載せ杯洗に二ツの猪口を浮べて持ち來り二人の前に置き 下女「お待ち遠さま一つ御酌を致しませう 武「手酌の方がいゝ置て往て呉れい此樣小い猪口では飲んだ樣にないト云ひながら側らにあるコップを取つて滿々と酒を注ぎ一息に飲み干し舌を鳴らせば下女は驚いて武田の顏を眺め「旦那お代りを持つて參りませうか 武「知れたこと一本位で足るものか國野君一杯どうだ―國野は笑ひ乍ら一日中は眞平だマア横になつて居て君の御手際を拜見しよう 武田は下女の梯子を下り行く後影を見ながら「アノ女は眞黒な面へベタ〳〵白粉を附けて丸で妖怪の樣だダガ茲の内は何事も淡泊でいゝぜ君は木賀へ往く積りであつたト云ふが木賀や宮の下は上等客が多いから君の樣な錢のない男はハヽヽヽ是れは失敬ゲーッ書生には此の内位が丁度いゝぜ茶代が少い時は何ぼ有名な國野先生でも厚遇氣遣はないと眞赤になり獨り得意に喋舌り國野の肱を枕にしてウツ〳〵睡るを見て「オーイ先生因循だの―一杯飲んかオヤ姉さん代りの酒を持て來たか是れは熱燗で有り難いト手に取て前後「コップ」に六七杯を傾けア、善い氣分になつたドレ小用に往て來ようト立ち上りしが已に十分の醉を催し頭重くして脚輕く蹌踉として倒れかゝり間の唐紙に突き當れば此の時まで隣り座敷には甲乙二名相對して碁を闘み輸贏を爭ふ眞最中なりしが忽ち唐紙外れて枰上に倒れ石子バラ〳〵ト席上に散亂するにぞ兩人は不意に驚き飛立てば武田も蹌踉する足を踏み直し

目を見開き掌にて口を拭ひ二人の顏をジロリと睨め一是れは失敬ト云へば一人は二十二三許りなる屈強の男なるが眼を瞋らし拳を振り上げ失敬にも程がある勝ち掛つた碁をだいなしにして仕舞たト云ふを聞いて武田も大聲上げ「斷りをするに聽かぬと云ふことがあるものか打つなら打つて見よト臂を捲つて飛び掛らんとす國野は隣席の騷動に目を覺し此の體を見て飛び起き一武田失敬をするなト後ろより抱き留むれば今一人の男も遽てて少年の前に立ち塞がり「さう短氣を出すものではないト云ひつゝ國野と顏見合せ「オヤ貴君は國野先生では御座いませんかと云へば國野も一田村さん是れは御珍しう先づ此處へお出で下さいト先きに立つて己が座敷に案內すれば武田と一人の少年は俄かに喧嘩の勢が拔け兩人の後に付き澁々ながら座に就く抑も此の田村と云へるは三十四五とも覺しく面色黑くして八の字髭を生し浴樓の貸し浴衣の上に小倉帶を緊めたり音聲少しく鼻に掛り其の言語風俗とも未だ都會の風に慣れぬと知られたり田「國野先生一別來御堅勝で御目出たう先年縣下へ御遊歷の節は一通りならず御引立に預りました近頃は東京にて色々御盡力の由に承まはつて居ましたが二三月前出京致し新聞紙にて

御災難の一件を承知いたして誠に驚愕しましたト云ひ乍ら武田を指し「此御方は先生の御連れで御座いますかと問へば武田はツカ〳〵進み出で「ウン僕は武田猛であります 田「左樣なれば國野先生と御一緒に御入獄なされた御方ですな 國「失策の棒組ですハヽア此の壯士は田村さんの御同鄕ですかな 田「イーエ福島縣の島田と云ふ御方です先年自由黨の盛んな時分に東京で交際をしましたが四五年振に圖らず此の樓に落合つて御一處になりました 島「田村君御話の間だが其處の御兩人は先日新聞で大評判だつた國野武田の二先生かな 田「左樣々々 島「夫れとも知らず先刻は實に失敬をしましたト云へば武田は得意な顏付きにて「ハア、僕が蹌踉いて唐紙を倒したから騷動が起つたのぢやが今になつて見れば却つて大出來であつたト言ひながら前にある酒瓶を振て見て「どうだ御兩君御近附の爲めに此の『コップ』で一杯づつ飲まうぢやないか 國「君は復た飲む積りか此の上過ぎると唐紙を蹶倒す計りでなく階子段から落ちるも知れんぜ 四人「ハヽヽヽ夫れより國野は下女を呼び新に酒肴を命じ四人一座となりて盃を廻らし府下地方の形勢などを談じ孰れも微醉を催したり國野は盃を下に置き「先刻からのお話では田村君は相變らず縣會に御盡力の樣子だが御縣下の議會は近頃どんな有樣ですな 田「イヤハヤお話にならぬことで御承知の通り前年は我々の同志を以て議會を組織し百事都合能く行き掛りましたが二三年跡より非常の干涉を受けて之に抵抗することが出來ず今では議員の多數が行政官のお味方となつて何樣な議案が出てもサッサと通過して仕舞ひ議會はあつても無い樣なもので誠に歎息に堪へません 國「隨分政黨の盛んにあつた御縣下が左樣に手を鱗へす樣になつたは意外千萬のことぢやが是れも所謂波瀾と申すもので一時の反動なれば致方もないが選擧人の多數は御同志に反對して御味方黨を贊成する樣になつたのですかネ 田「イヤハヤ地方官の處置に就ては反對を爲すものが多く一時に土木費の增加するには縣民も困却して居る樣ですが何樣人民は少しも選擧に注意しません上に今日の地方の組織にては郡長や戶長の干涉で隨分投票を支配することが出來るには閉口します現に昨年議員半數の改選のときも私は一郡內を奔走して同志者の選擧される樣に盡力しましたが選擧人の過半は馬耳東風で少しも感覺がなく戶長などが郡長の內意を受けて此の人が善からうと云ふと大方之に雷同して

投票をするから何共致し方が御座いません島田君などの御轄下は如何ですなと問はれて島田は目ジリを釣り上げ膝を立て直し荒らゝゝしき聲にて「イヤ御同様な事で縣會は大方行政官の奴隷となつて仕舞つて少しも顧みにならん議員の内で屈指と思ふものでも知事の御馳走になると涙を流して難有がり都合よく郡吏か戸長、を拜命すると總理大臣にでもなつた様に思ふ奴等だから話にはならぬ僕は局外に居つても不平で堪まらぬが何かして此の風潮を一變することは出來ぬものか知らん些ト國野先生の御説を承まはりたいものだ」國野は先刻より耳を傾けて二人の話を聞いて居たりしが如何にも落付きたる顔付にて「今日の府縣會の制度にては代議士には權利と名譽が少いから何分にも思ふ様に一地方の人物を議會に網羅することが出來ず十分の成績を見ることの困難なるのは是非もない次第ギャが今日各地方とも府縣會の無勢力なのは畢竟民間に政事思想の乏しく議會に向つて刺衝を與ふることのないから起つたことと思はれます代議政體に經驗なき人民なれば深く政事上に感覺のないも無理はないが輿論の微弱なのは誠に歎息するに餘りあることと思はれます民間の政事思想が進歩して議會を刺衝する輿論が強大にならねば如様な法律を設けたとて實際に利益を見ることは出來ますまいト云ふを遮り武田は憤然として「國野君は何時も老成じみた事を云ふが今日府縣會の振はぬのは人民の罪ぢやアない其の規則の良くないからサ地租十圓以上を納めるもので無ければ議員になる事が出來ず議場で論議することを許すのは地方税の支出入ばかりで會議の議決した事件でも知事の氣に入らぬと何時でも不認可と出掛けるから人民も議員も精神が入らず奮發氣のないのが當然ではないか此の眼目の改正を主張せずば人民が不注意なとか輿論が薄弱なとか云ふは不都合千萬ぢや僕は何分にも君の説に同意する事が出來ぬト膝を叩いて論じかくれば國野は姑しと押止め「ナルホド武田君の御説も尤も千萬で制度法律は重大の影響を人民の感情に及ぼすものである自由政治の下でなければ十分に人民の政治思想を養成することの出來ぬは勿論だから規則の改正が必要なのは言ふ迄も無いが之を應用する人民に知識氣力のない時は如何樣に文面の立派な規則でも利益を國家に及ぼすことは六かしからう今日地方官の容易に議會を左右するのは畢竟議會が孤立して輿論の聲援がない故ではあるまいか議會は多數人民の意見に從つて運動し若し地方官の政略が議會の見込みに反對すると人民から當然の抵抗を受ける様になれば規則には何とあらうとも地方官は容易に特權を使用して議會を左右することが出來ぬから實際の慣例からして議會は漸次に權力が出來純粹の立法官となつて終には成文上の改正をも促す様になるに相違ない英國などで議院の發達したのは皆な此の實際の效力であつて成文上の改正から來たものではない若しも行政官の干渉で議員の多數を支配することが出來たり代議士の意見を拒絶しても人民が無感覺で居る様では幾ら規則を改正しても自由政治の實地に行はれる氣遣ひはあるまい尤も府縣會のことは僅に一地方の利害に限るから別に心配をする程のこともないが國會設立の後になつて地方の人民に政事思想の乏しい時は國會は孤立して聲援がないから勢力の強大な政府と對立して人民の權利幸福を保護することの出來ぬのは云ふ迄も無く議會も輿論の制裁を受けぬと自然に腐敗して國家の利益を妨害することがないとも言はれまい地方の有志家などは今から能く注意して人民の政事思想を引き起して有爲の人物を國會に出して強大の輿論を造り出だす様に盡力せねばなるまいと云ふに島田は膝を進め

「國野先生の御說は能く分りましたが先生は地方の有樣を歎息せられて自分の御住みなされる府下の事情にお氣が付かれんと見えます東京に在つて學者とか政事家とかと云ふ人は學問もあり知識もあつて他日國會の議場に立つて政治上の改革を成就する積りであらうが我々から視れば何分にも無氣無力で大丈夫の精神がなく其の上銘々大天狗で他人を輕蔑するからドウしても結合が付かぬ今の樣では國會が立つても强大な政黨を組織することが出來まいと思ひますが先生は如何お考へなされますか 國一實に府下の形勢は僕も君と同感であります先年政黨組織の論が盛んに有つた時に妙な都合から自由黨と改進黨の二つに分れて大軋轢を始め雙方ともメチャ〳〵になつたものだから今に有志者の間に猜疑心があつて協力一致の出來ぬのは困つたことぢや其の上にグラッドストン氏はたんと無い樣だが小パトネルや小チャンバレインが幾十人もあつて銘々に一方の隊長にならうト云ふ氣だから何分にも多數の才力經驗を集めて國會の準備を爲すことが出來ぬのは困つたものだ何程の才子學者でも憲法を始め內政外交理財軍務より教育警察衛生までも一々調査して改正の方案を立つることは迚も思ひも寄らぬ譯

だからドウしても多數の團結が必要である或る先輩に聞けば明治十四年の春であつたが東京に在る人々が小異を棄てて大同を取り一大黨派を組織する考へで上野の精養軒に會合して會議を開いたが種々の事情ありて目的を達せずトウトウ分裂して諸黨軋轢の端緒を開いたと云ふが畢竟時運の未だ熟せなんだ故で是非もない次第だ此の後國會準備の一大急務は府下に在る諸有志を結合して漸次に地方に聯絡を通ずる外はあるまい僕も不肖ながら社會の爲に十分に盡力する積りであるけれども府下に出てからまだ一年も立たず世間に名前を知られぬので志を達することが出來ぬ僕の社中の川岸は才氣もあつて中々老成家だから此度東京に歸つたら川岸を說き勸めて府下の聯合に盡力させたいものだト云ふを打消し武田はカラ〳〵ト笑ひ「國野君夫れは駄目だぜ僕も前年から川岸とは一通りならず懇意にして見たが君抔とは性質が違ひ權謀が好きで人を欺くから信用が出來ぬ彼樣な男と一緒に事を謀るのは危險だから僕は眞平お斷りだ 國一皆んなが君の樣な考へで居るから一つも結合が出來ぬのぢや今の世の中に完全な人が澤山にあるものか才氣のあるものは品行があしく學問のあるものは經驗に乏しいと云ふ樣

な工合で誰れも長處と短處とあるから備はるを一人に求むる時には天下の間に我が意にあたるものはあるまい僕も能く川岸の人物を知つて居るが其の心術品行の上から視れば隨分缺點も澤山あるが人並に優れた才氣あつて他日頭を政事上に出だす人と思ふから一ッの短處を擧げて之を棄てることはない廣く同志を四方に求めようとすれば自分と臭味を同うするもの計りでなく婦人なり子供なり身を屈して下らねばならぬ自分獨りで功名を成す樣な考では多數と共に運動を試むることは出來まいト泰然として說き諭せば如何にも細流を撰ばざる河海の度量ありと粗暴過激の武田島田も深く感心し暫し話しは途切れたり稍あつて田村は國野に向ひ一婦人と云ふ御話しで思ひ出しましたが僕が先日木賀の龜屋に參つたとき向ひ座敷に居つた十八九計りの女は漢文の無點本や六ケしさうな洋書を讀んで居りましたから樓婢に聽て見たら東京の人だと云ふことですが今の若い婦人には隨分學者があるから馬鹿にはなりませんト云ふを聞き國野は姑し忘れし意中の人のことを思ひ出し覺えずハタと手を拍ち「ハヽア夫れでは彼の女は洋學も出來ると見えるなアト叫べば田村は傍より「國野先生はアノ婦人と御知り合ひで御座いま

すかト問はれて國野は少し顔を赤め 國「イヤナニ知る人と云ふ譯でもありませんが先日湯本で逢ひましたのがその婦人であらうと思ひますから と云ふに武田は何の氣も付かず「夫れでは今朝大平臺の上で休んで居た時に駕籠の中で本を讀みながら下りて來た女だらう女が少々學問をすると生意氣になるから困るぞ 國「婦人の教育に就くのは社會の爲め最も必要ではないか武田君は洋書を讀む癖に時々議論に『エシャチック プリンシプル』があるから可笑い 武「外の女のことはどうでも善いが此樓の奴等は銚子の代りを持て來ぬから仕方が無いオイ姉さん酒だ〳〵 田「モウ頂戴が出來ません 島「私も大醉をしました 武「酒に掛つては誰も僕に敵對の出來る人はない樣だ

第三回　論劇場改革暗陳感慨　聞新聞評論竊惱心情

田「今朝は大層冷氣である樣に思ひましたが到頭雨になつて來ました先生マア御覽なさい向うの山に雲が掛つて微かに其間から飛瀑の見えるのは何と善い景色では御座いませんかイヤ風が出たと見えて雲が此の樓へ飛んで來ます 國「山中で雨に逢ふと運動も出來ず日の消しやうのないには閉口です今日は八月十日ですネ武田と島田とは昨日前橋へ着た筈ぢやが此の雨では定めて困るでせう島田君が前橋で政談演說會を開くと云ふから僕も出掛けたいと思つたけれど身體の工合がまだ十分にないから武田を勸めて遣つたがアノ男は相應に漢學が出來る上に近年は英書を勉强して大分進歩をした樣子でもあり物に熱心なのは中々感心だが前から大酒家であつて近來は世の中の事に不平を鳴らし兎角大醉をしては亂暴を働くには閉口します能く忠告はして置きましたが演說會で粗暴の言を吐き又失策をせねば善いがと思ひます 田「イヤ其の氣遣ひは御座いますまい有志家でも虛飾の多い世の中に武田君の樣な心口一致で淡泊の人は珍らしう御座います 國「左樣々々尤も人の氣象は地位に因つて變るもので今日髭髯を生し四輪の馬車に乘つて老成家を氣取り民間に在るものを過激とか粗暴とか云ふ人も維新前國事に奔走した時は隨分荒々しい擧動が多かつた樣です武田なども志を得て上等社會に立つ日には氣象も自然に溫和になり何時までも今日の樣にはあるまいが元來平等の自由とか貧富の平均とか云ふことが好きな男だから惡くすると激烈黨になるかも知れません歐洲諸國でも下等人民の社會黨を組んで社會の秩序を紊亂するのは皆んな志を世の中に得ぬ學者の煽動に出るのだから才力があり氣象のある者に不平を起させる程世の中に無理な事はありませんイヤ話の間に早や雲が晴れて窓に日が差して來た僕は茲へ來て早や一週間になるから大分退屈しました東京も先日からの雨で大分涼しくなつたらうから一兩日内に徐々出立をしようか知らん 田「先生が御立ちになりますれば私も小田原まで御同行を願ひたいものですが 國「此二三日東京の暑さはどんなものか知らんト云ふ中樓婢の來るを見て「オイ姉さん〳〵まだ新聞は來ないかネ 下女「只今參りましたト一つの新聞の帶封をしたるを差出すを田村は手に取り押開いて標題の處へ目を注け「△昨七日正午十二時寒暖計八十八度」先生是れではまだ熱う御座います論說は何だな『工業論第一』一ツの事を幾度繰返すか知らん此節新聞紙も種切れと見える雜報も此の節では虎列剌騷で面白い種がないイヤ兼て風聞のあつた劇場改良のことが出て居ります「劇場改良の趣意書或る有名家の主唱により貴顯紳士等相謀り大に演劇の陋習を改良せんとて其の同志を求められしに贊成の意を表する貴顯紳士新聞記者等夥多に及びたり云々』是れでは愈よ發起者が出來たと見える芝居の舊習に

拘泥して居るのも隨分不都合だが今日政事上や社會上に改良をせねばならぬものが澤山あるから何も紳士達が此樣ことに騷ぎ立つるにも及びさうもないものだ 國イヤ〳〵さうでない演戯は小說と同樣で如何にも重大の感覺を世人に與ふるものだから其改良は誠に必要なことと思ひます歐洲などでは上等の芝居は其建物の壯大美麗なは勿論作者には相應に學問があつて事理を辨じ古今に通じて居るから脚色が巧にあつて能く時勢を穿ち俳優も敎育を受けて上等社會に交際し自然に氣品が高く中々婦人の玩弄物になる樣なものではないから劇場は上等社會の精神を樂ます場所になり各國の帝王や王妃までも公然と見物に出掛けられ我が邦の芝居の樣なものでは無いと云ふことです我が邦の演劇は何分にも進歩が遲く近來新富座などでは頻りに西洋風を模擬する樣だけれど止だ表向ばかりの改良で其の脚色の精神は矢張り二十年前武斷政治の時に出來たものと大同小異である自由幸福の氣象は少しも舞臺の上に現はれず士族の兩刀が巡査の『サーベル』と爲り拷問の場が警察署の留置所と爲る位では新らしき敎育を受けた人を感心さすことは出來まい是れも畢竟は作者に學問がなく東洋古來の風習を善いものと思ひ込んで居る上に見物人にも矢張り封建時代の頑物が多いから仕方がない役者とても同じことで中等以下の無見識の奴等は論ずるまでもないことで大立物の内でも家柄で地位を保つて居るのが多く上手と云へば成田屋とか音羽屋とかに極つて仕舞た樣なのは不思議なことぢやないか今日でも兎角門閥の弊習が除かぬものだから善い親方の弟子にならねば御注進や馬の脚まで幅が利かず昇進も遲ければ善い役割に當らぬので藝のあつて氣象のある奴は不平を起して引込んで仕舞ふから面白い芝居が出來ぬ筈ぢや一日も早く脚色や役者の風儀を改良せねば見物人に滿足を與へ外國人にも日本の演劇は妙ぢやと云はすことは出來まい 田「御說を聞いて見れば劇場の改良も太だ必要な樣ですから私も贊成者の一人になりませうダガ一番大切なのは其の脚色です世の中が段々開けて來ると忠臣藏や伊賀越のやうな趣向では面白くなく西洋風を眞似てもシイザア奇談や佛國革命の傳記なども餘りゾツトせぬから新狂言は如何な工合に造り立てたら今日の人氣に合ひませうかなト問はれて國野は面に笑を含み「僕には兼て一ツの考案があります紀元前何百年とかに希臘に一の王國があつて其の王は賢明の聞えある人ですから『アゼン』や『スパルタ』の風を學んで國民會議を開いたのです當時國中に政府黨と國民黨の二ツがあつて國民黨は次第に勢力を增し政府黨も此ト持て餘し兼ぬる樣になつて來たものだから宰相は内閣會議を開き二十年も維持した政權を國民黨に渡すのは遺憾の樣なれど古語にも之れを取らんと欲すれば先づ之れを與へよと云ふこともあり國民黨には一時人望があれども政事上の經驗に乏しいから迚も十分に内閣を組織することは出來まい一度之に地位を讓つて其の爲す所を見るが上策ならんと衆議一決し一同辭表を出だし國民黨の内閣になりましたが果して新内閣には人物が乏しく何事も纏りが付かず再び政府黨の勢力を得る樣になり新陳交代の間に制度法律も大に改良が出來國民黨も最初の失敗に懲りて自ら實力を養ひ遂に政黨政治の端緒を開き一國次第に繁昌して人民は盡とく國王の寶祚萬歲を祝するト云ふ筋書ですが此の趣工はドウですト云へば田村は覺えず膝を拍ち「ナールホドそれは面白い御趣向だ然し下手な作者ではさう旨く筋を立てて仕組みを付けることが出來ますまい私の考へには其の國民會議には名題下の役者が澤山出掛けて來て何か騷々しい所作事がありトヾの詰り『サーベル』

を帶びた警察官が議場を取り圍み威力を以て議會を解散して數人の議員を拘留すると云ふ樣な筋書になりはしまいかと思ひます 國「此の十九世紀の末に百年前歐洲諸國に流行した樣な芝居を始めると云ふことがあるものかダガ外國人に觀せて笑はれぬ樣にするには作者は勿論舞臺に上る者も餘程注意をせねばなりますまい 田「飛んだ活劇の話しになりかゝりましたハ、ハ、、と迹は兩人とも大笑となりたり國野は欄干に掛けたる手拭ひを取り「大分暑うなつて來たドレ風呂へ入つて來うかト云ひつゝトントン梯子段を下つて風呂場に至り衣裳を脫いで湯桶の中に入りしが兩人の書生らしき男が今入浴を畢りしと見え板間にて一人は濡れ手拭にて體を拭き一人は「ガラス」鏡に向ひ櫛にて髪を分け乍ら 口「サウ夫れから其の女はドウしたネ △「隨分別品の上に學問も出來るがドウモ品行が惡うて是れまで幾たび新聞に出されたか知れんが先日も箱根へ湯治に來て居る內に情夫を拵へて妙な騷動をやらかし旨く連れの婆を欺かして東京へ歸つたが此の節も色々もめて居るさうデャ其の新聞の書き方が何んでも委しい事實を捜つたものに違ひ無いと思ふヨ △「ソレは何處の女かネ 口「ウン築地邊とある計りで町名は書いて無いが君と此間木賀へ往つた時に逢うた女かも知れんぜ △「ソーサ隨分彼の女は別品だつたネ御先へ失敬食事が濟んだら僕の處へ話しに來給へと戶を明けて前後に出で往きたり國野は風呂の中にて二人の話しを聞き心の中て「築地邊の女で箱根へ來たと云ふからはアノお春と云ふ娘のことでは無いかしらん夫れでも學問があつて發明なアノ女に限つては猥りがましいことのある筈は無いイヤ〳〵人は見掛けに寄らんものであるからドウかも知れん今も書生が木賀で逢うた女であらうと云うたがシテ見ると愈よ夫れに違ひ無い夫れでは此節新聞紙では迹形も無い事を書いて人に迷惑を掛けることがあるからウカと信用は出來まい若し此身と話して居つたのを誰れぞが聞き傳へて構造したのであるまいか夫れなら實に迷惑千萬なことであるから辯解をして遣らねばなるまいそれでも色々騷動があつたと云へば事實が違ふ樣ヂャがドウモ何んだか氣に掛るから一日も早く東京へ歸つて樣子を聞き合して見たいものヂャと心はムヤ〳〵として闇に迷ふ心地がすれば風呂場にある內にも氣が急がるれば其の儘飛び出し衣裳を着けて二階へ上り緣側に出て空を眺め一田村さん愈よ天氣になつた樣です今から出立しませうぢやないか 田「餘り至急ですな明日でも善いぢやア御座いませんか 國「考へて見れば東京に色々用事もある上に明日になると又熱くなるかも知れん雨後が却つて涼しくつて宜しいト云ひつゝ革提箱を開いて讀み掛けの書物などを取り片付けながらパチ〳〵と手を拍ち「姉さん姉さん 樓婢「何の御用で御座います 國「エーなんだつたかネアーさう〳〵一昨日賴んだ洗濯物は出來たらうネ今から立つから勘定を持て來て下さい 樓婢「マア善いぢやア御座いませんか明日になさいませ 國「イヤ〳〵急に用事が出來たから徐々しては居られぬ

第四回

讀二稗史一少女欽二貞婦一
出二遺書一老猾强二新婿一

六疊敷の小座敷に廻り緣があつて軒には幾つともなく風鈴を吊し庭前の小さき池には金魚が波に浮び建仁寺垣に牽牛花を這はせて飛石の上に盆栽を二ツ三ツ列べたるは如何にも風流の棲居と知られたり違ひ棚には帙に入りし書物と四五卷の洋書を列べ側らに大きなる書箱ありて表に湖月抄と書せり年の頃十八九計りの婦人が洗ひ髪には本薩摩の單物に黑繻子と博多の腹合せの帶の上に淺黃縮緬の帶上を結め机に凭りて西洋の小說を讀みながら口の內にて一何處の國

でも女の情と云ふものは同じものと見える此のミッセスマレーの情人に別れて色々辛苦をする處を讀むと涙がこぼれる樣ぢやダガ此の身は兩親に別れ尋ぬる人は行方が知れず是程不運なものはあるまい其の上に叔父さんと云ふもホンの名ばかりで親切な樣でも内心が分らず何處か怕しいところがある樣ぢやソシテ春からは色々と言ひこしらへて預け金の勘定も見せては下さらずおッ母さんの御遺言があつて深谷さんの消息を待つて居ると云ふことも承知でありながら此の節になつて急に亭主を持てと度々異見をなさるのは不審でならぬ何か御父さんの御生前にお書きなさつたものがあると云ひ乍ら今日まで其の書面を見せて下されぬのは如何云ふ譯であるか知らん朋輩は何人あつても女ばかりで仕方がないアノ發明で親切らしい御方が此の土地に居らるゝならお松に賴んで御目に掛り何もかも打ち明けて御相談をして見たいものヂヤに今の樣子では當分お逢ひ申すことは出來まいテモ心細いことぢやト讀み掛けし書物を下に置き帶の間より紅染の手巾を出だし涙を拭ふ折りから下女は緣側に手をつき「お孃さま御茶を入れて參りました貴女も此頃は築地の學校へもお通ひなされませず一間にばかりお立籠りで

御座いますからお氣が塞ぎますワ御天氣のイヽ日には近邊でも御歩行遊しませんかアノネ只今叔父樣が貴女のお氣分がよろしければ一寸御座敷までお出で下さる樣にと仰しやいましたト聞いて少女は氣の進まぬ顏付にて「ア、又例の話しだらう一寸顏を拭くから銅盥へ湯を入れて來てソシテ叔父さんに只今參りますと申し上げてお吳れ 下女「畏まりました御湯が冷めましたらうから序に入れて參りませうと鐵瓶を携へて立つて往く开も此の内は看客も已に推知し給ふらん築地一丁目藤井權兵衞と云ふお春には義理ある叔父の家にて權兵衞は以前長野縣の士族にて十四五年前岡山縣に奉職中お春の實父富永庄左衞門の妹を娶り其の後ち免職になつて東京に出でしが隨分山氣の有る男なれば手廣く商法を營み居る内に家内は病氣にてなくなり今は後妻の事なれば實の親類と云ふではなけれどもお春の實父が東京に出でし時世間に知るべがなければ昔の緣故を以て懇意に交際をなし其の病中にも吳れ〴〵お春母子を權兵衞に賴み一家の後見を任したれば權兵衞は婦人と侮り親切を表に示して内實には金錢上にも不正を働き老母の世を去りし後は相談の上にてお春を宅に引き取りしがお春は發明なれども未だ

年弱き婦人の上に其の性質も至つて温和にて近き親類のなきを心細く思ひ叔父々々と敬ふに付け上り非道の振舞も多かりける却說お春は權兵衞に呼び立てられ心は少しも進まねども小さき團扇を左の手に持ち鼈甲の櫛にて鬢のもつれを搔き揚げながら庭の飛石傳ひに表座敷へ至れば權兵衞は緣側に座蒲團を敷き頻りに扇を揮ひながら手箱の中より數通の紙面を出だして取調べ居たるがお春を見て聲を掛け「お春暑いではないかマア緣側へ出るが善い少しは風があつて涼しい樣だソシテ氣分は如何だ 春「大きに宜しい方で御座います—權兵衞は禿げし頭を搔き乍らニコ〳〵した顏付きにて 權「夫れは何よりの事だ時に玆へ呼んだのは外の用事でもない此間中から二三度話し掛けたお前の身の上の事だが實は内々己れの處へ懇望をして來た人もあるからお前の内心を聽て見るのぢやが何と程よい口があつたら嫁に行く氣はないかト云ひつゝお春の顏を視るお春は心の内にてゾットし乍ら色にも現さず 春「其の御話は先達て内から度々窺ひましたが私の樣な者でも一家の主人で御座いますし其のうへ御承知の通り親の存生中に養子の約束をいたした人も御座いまして其後ち行方が知れませんけれど母もなくなります前


（初版本口畫）

に呉れ／＼も遺言を致しますし私も此の上マア一兩年は亭主は持つまいと思つて居りますト云へば權兵衛は猫撫で聲にて一ハテ惡い了簡だ己れもお前の内で二三度深谷に逢つたことがあるが兄さんの御見立は些ト間違て居る樣で餘り氣の利た風の男でもないぜそして何だか怖ろしい巧をして出奔をして仕舞ひ今では生て居るやら死んだやら樣子が分らんぢやないかアンナ不都合な奴に義理立をせよと云つた姉さんの

氣が知れぬッシテまア能く考へても見るがいゝお前は自分で何程學問が出來發明な積りでも世間知らずの生娘だから自分で一家の支配をすることは六ツケ敷から實は他人の此の己れが引き取つて世話を燒き後見人の樣になつて居るものゝ年を取つて見ると込み入つた事をするのが嫌になりまだ此の半ケ年の計算書も出來ずお前から催促を受けて困つて居る樣な都合だお前も早く身を極めて自分で家を持つがいゝぢやないか今では戸主の事だから他家へ往きたくなければ相談次第で此方へ養子に取る樣な都合が出來るだら夫れも學問もあるお前のことだから一通りな人なら己れが勸めはせぬ人品が善くて金がありソシテ世間に名前もある人でお前も多分一兩度は逢つて顏を知つて居るだらうト思ふが若し此の緣談が間違ふと此の權兵衛の爲めに不都合イヤナニお前の爲めに善くないから强情を張らずに己れの云ふことを聞くが善いトくり返して說き勸められ「愈よ叔父には何か巧のあつて此身を强ふることならん如何にも憎き口上と思へども元來温和の性質なればチット胸を鎭め一叔父さんの思召は誠に難有う御座いますが私は先程も申しました樣な都合ですから先方が如何樣な人でありませうとも只今緣付心は御

座いません西洋では氣の合うたものが夫婦の約束を定めまして夫れから表向に兩親に相談をするさうで御座います御恩を受けました叔父さんの御辭を返しましては濟みませんが亭主を持つ事丈はどうか私の心に任せて下さりませと云へば權兵衛は少し急き込み一「スリヤ如何あつても此の叔父の言ふことを聞かぬ氣か　春「マア左樣なもので御座いますト判然云ひ放てば權兵衛は顏に青筋を張り手に持てる煙管を以て荒々しく煙草盆を叩き「此の强情阿女奴と言ひ掛けしが何思ひけん俄に聲を和らげ「ナル程お前の心掛けは感心ダ女と云ふものはさうなけらねばなるまい就ては能く聞いて置きたいがお前はさう云ひ出したからには何樣な事があつても其の口上を變へはしまいね　春「ハイ　權「夫れではお春お前は富永家の財產を自分のものと思ふことは出來ぬぞと云はれてお春は顏色を變へ「是れは叔父さんの御辭とも存じません女ながらも亡くなつた親の跡を續ぎました私が自分の財產を自由にすることが出來ぬト仰しやるのは如何いふ譯で御座います　權「そんな氣樂な考へで居るから强情張つて己れの云ふことを聽かぬのだ子を視るは親に若かずとやらで兄さんの前見のあつたのには感心するお春此れを見

よと四角な額をフクラシテ口の中にてブツ〳〵云ひつゝ手箱の中より一通の紙面を取出してお春の目の前に突き付くればお春は不審ながら手に取りて之を披き視るに亡父の生前に認めしと思はるゝ遺言狀なり

遺言狀之事

拙者死後娘春ヲ戸主ニ立テ貴殿後見人トナリ一家ノ財産御管理可被下候先年深谷梅次郎ト申スモノ拙者ノ養子ニ致シ娘春ニ娶ス樣契約相結ビ置キ候處其後梅次郎儀失踪致シ行方相分ラズ若シ拙者死後三ヶ年ノ内ニ梅次郎歸家致シ候得者同人夫婦ヘ家財一切相譲リ可被下候若シ此ノ期限ヲ過ギ梅次郎歸家致サズ娘春儀他ヨリ婿ヲ取ル事ヲ相拒ミ候得バ家産十分一ヲ渡シテ別居致サセ家名ハ慥カナル養子ニ譲リ永遠ニ富永家ヲ維持スル樣幾重ニモ御注意可被下候遺言狀因テ如件

年　月　日　　富永庄左衛門　印

藤井權兵衛殿

如何にも不意の事なればお春はハツト驚き一時は眼も暗みし程なりしが固より思慮ある婦人ゆゑ心を鎭めて二三度も繰り返し元の通りに疊み推し戴いて權兵衛に返し「叔父さん此通り御父さんの御遺言が御座いますれば此後貴君の御辭に從ひませう其の内お父さんの御病中には私と御母さんが看病いたしまして外に色々御遺言も承まはりましたが斯樣な書き付けを貴君に御渡しになつた事は私は勿論御母さんも御聞きなさつたことが無い樣に思ひます」ト話す内にも兩親が病中の事など思ひ出し早や涙ぐむを權兵衛は見ぬ風にて「丁度御死去になる四五日程前に御見舞に往つた時お前もお母も側に居なかつたが此の書き付けを枕の抽斗ではない皮文庫の中から出して色々跡の事を御頼みになつたのが今に目の前に見る樣だ何ぼ氣丈夫な人でも大病になると平生とは違ふからツイお前達に話すことを忘れて仕舞はれたのだらう」お春は少し笑を含み「叔父さん夫れでもお父さんの御病氣の時には貴君は宇都宮へお出でになつて居まして御父さんのお隱れになる前の日に御歸りになつたでは御座いませんか」と問詰められてイヤ是れは遣り損うたと思ひしが中々澁トキ老人なればヌカラヌ顏付にて「左樣々々三年跡のことだからツイ考へ違ひをして居たが矢張り此の書き付けも其の前の日に受け取つたのであつた」ト聞いてお春はデツト權兵衛の顏を眺め「叔父さんマア一度其の紙面をお見せ下さいまし」ト再び遺言狀を手に取つて押し開き「叔父さんマア能く御覧下さいまし此書は能く親父さんの御手蹟に似ては居りますが前の文章は御親父さんの御名前を書た處と少し墨色が違ひますし跡から書き入れたものの樣に見えますから何だか不審でなりません」ト云はれて權兵衛は聲を荒らげ「此の立派な紙面を謀判とでも思ふのか人を馬鹿にするにも程があるお春能く聞いて置け己も昔しは小役人もして些トは世の中の事も知つて居る男だ其の上この紙面は此の間中より二三人も法律に精しい人に鑑定をして貰うたがお前が何にほど強情を言つても遺言にある三年の規限が過ぎて居るから己れが貴樣を追出して外から養子を取り富永家を自由にするのも勝手次第ぢや若し裁判沙汰になつたら代言をしても屹度勝して見せると云ふ人が幾人もあるぞ夫れも餘り好んだことでもないと思て親切心で婿を取るのを勸めるに難有いとも思はず慥かな紙面を僞書であると云はぬばかりの口上は此の叔父へ對して失敬な申分ではないか」と噛付く樣に怒鳴り立つればお春は差俯向て詞もなかりしがキツト思案を定め「私が惡う御座いました何卒御勘辨を下さいまし此の通り御父さん

の御遺言も御座いますればお思召に從ひまして早く身を極める樣に致しませうト聞いて權兵衞は占めたと思ひ一さう穩かに出て來れば何も理窟を云ふことはない其口上を聞て大安心をした婆さん〳〵ト呼び立つれば權兵衞の後妻おたかは障子の蔭より出で來りお春の側に座を占め黑き入齒をムキ出してゲタ〳〵笑ひ乍ら「お前は孝行者だから誠に感心するヨお前のお親父さんも草葉の蔭で何の樣にか御喜びなさるだらうオホヽヽ其の內何も急いで婿を取らねばならぬと云ふ譯でもないから徐くりと相應な人を尋ねるが善いお春ちつと笑つてもいゝぢやないか何故其の樣に考へ込んでお出でかネと云ふ內に一人の下女はデット次ノ間の襖を開き疊に手を付き「お孃さんアノ松田のお秋さまのお兄さんが何かお妹子から御言傳がありますとかで御玄關まで御出でになりました　春「オヤ何の用だらう私もお目に掛りたい事があるから私の居間へお通し申してお呉れ叔父さんモウ御用は御座いませんか左樣ならト起つて行く背影を見送つて權兵衞夫婦はホツト一息　權「女でも生意氣に本などを讀んで居つて細かな處まで氣が付くから中々骨が折れて己れは大汗になつたが實印の押してある遺言狀には閉口したと見える川岸の智慧に感心なものだ此の上松田が旨く謀し付けて三四度も川岸に逢はしさへすれば九分九厘思ふ樣になるだらう是れで質入れにした公債證書の尻が割れる氣遣もない上に千圓と云ふ大金が手に入るのは有難いヂャ無いか婆どん前祝ひに一杯遣うから下女に吩咐て須美屋から二三品取り寄せてお呉れ「モシ〳〵奥樣「オヤ吃驚した何ぞ用があるのかえ　下女「八百屋が參りました「今日は何にも入らないヨお前の樣に人の耳の側へ來て大きな聲を出すものではない女は靜かに言をいふものだト罪も無き下女を叱り付くるは餘程六ヶ敷老婆と知られたり

第五回

閑室閉レ棊竊談二詭計一
小人設レ弈將レ陷二秀才一

盤上に石を下す音パチ〳〵　甲「サア當だ　乙「一寸お待ち下さい　甲「生死の界になつて俟つて堪るものか　乙「夫れでも先刻僕の方からも待つたぢやありませんか　甲「よろしい如何とも打つべしモウ助かる手はあるまい　乙「マア喧嘩をせずに出と打たう　甲「サア此れで切れた一隅みんな死んだモウ恢復の望みはあるまい投げべし投げべし　乙「此度は大失敗閉口々々何も先生の碁は狡猾だからツイ欺されてならぬ　甲「イヤ君の手も餘り御上品の方ではない樣だハハヽ、一今局に對する一人の年齡三十內外にて鼻高く眼大きく面色雪の如く堂々たる偉丈夫なるが鼻下に少しばかりの髭を生し物を思慮する毎に眉間に川字の皺を寄する癖あり是れ別人ならず此の家の主人川岸萍水にて鼠色フラネルの浴衣に水色縮緬の一ヘコ帶を結め白き鹿皮の上に黑革にて造りし圓形の座蒲團を敷きて之に坐し床には狩野家の古畫を掛け瓶中に百日紅數枝を插み架上に數十卷の洋書を列べ朱檀の唐机の上には類聚法規二三冊あり傍らに數十葉づつに束ねたる許多の紙面を積み重ねたるは鑑定を賴まれたる書類にやあらん今一人の木綿の浴衣を着して小倉帶を結め丸顏にて矮小なる男なるが名を松田肇と呼び四五年前川岸の內に食客と爲り昨年より自ら代言に從事し常に川岸の手先となりて奔走せり　河「碁も好いが氣を結めるから熱くなつて來る樣だ暫時休息しよう夫れはさうと松田大分夫の一件は都合が善いぢやないか僕も當春井生村樓の演說會に大の女の來て居るのを見付け隨分イヽ女と思うたから段々探索をして見ると築地の英語女學校に通學をして居ることが分り幸ひ君の妹が一つの學校に往くと云ふので君に事情を打ち明て素生を調べて貰ふと父母も兄弟もない と言ふことだ

から占めたと思つて君から藤井まで内々に縁談を言ひ込んでくれたが今では一家の戸主で失踪をした男を尋ねて居るから如何程說諭をしても承知をしまいと云ふので少し宛が違ひ夫れでは何とか謀略を廻らさずばなるまいと思ふ内に藤井が借金の引縺れで願ひ立てられ君の紹介で僕に鑑定を頼んで來たので能く取調べて見ると夫の女へ證書を入れて預つて居る公債を抵當に置いてあるから此れが知れると外の預金の私用まで發露して仕舞ふ樣になり困るによつてドウか善い智慧を貸して吳れろと云ふに付け込んで僕の懇望を話し夫の女を吳れゝば千金やらうト云ふと藤井は一も二もなく承知したものゝ一ッ困るのは夫の女が當分嫁入りをする氣のないのであるが藤井も中々手に合はぬ奴で女の親が生きて居る内にフトした事で手に入た印形付の紙面は何かの時の用に立つ事もあらうからと思つて持つて居る樣子だから一ッの謀略を考へ付き……ト云ひッヽ四方を見廻して小聲になり「遺言狀の僞造とは旨く出來たではないか夫れから君の周旋で夫の女を此の内へ二三度も誘き出して十分に僕の親切心を見せて置いたからモウ表向に掛合つても大抵間違はあるまいと思ふが此の上とても君の御盡力を願はねばならぬぜ　松「イヤ前日先生の御申付があつたから國へ歸つて居る妹の傳言があると云つて藤井へ尋ねて往くと直き出掛けて來て貴君は代言をなさると云ふことだから御尋ね申しますが獨り娘が親の迹を嗣ぎ戸主になつて二三年も過ぎて後ち遺言狀があると云つて後見人が別に養子を取つて其の女を別居させる樣なことが戸籍の規則上出來ますかと問うたからソラ來たと思ひ吹き出しさうに爲つたが知らぬ顏をして委しう事情を尋ね何樣法律上では隨分入組んだ事件でもあり僕には容易に判斷が出來ぬから有名な川岸先生に鑑定をして御貰ひなさるが宜しいと辯に任せて說き込み御宅へ伴れ出して來て御懇意にして仕舞たのだが我邦の現行法では佛蘭西などと違ひ裁判所では何事も遺言通りに執行さすからアノ策略は上出來でマア立派に陷し穴に入れた樣なものですナンボ發明でも謀書に氣が付かぬのはサスが女で可哀さうなものヂヤ其内先生の樣な守錢奴ナアニ金の取締の善い上に度々細君を取替る人が何程美人で教育があらうとも千圓出さうと云ふ御奮發はどう云ふ氣か私共にはサッパリ分りませんト云へば川岸は髭を捻り乍らカラ〳〵笑ひ「是れには色々思慮のあることで先妻は國に居る時兩親の娶つて吳れたのであるから所謂る糟粕の妻で容貌が惡い上に不意氣でならぬから追ひ返して仕舞たのぢや夫れから柳橋のお紋を落籍して圍つて置く内子まで出來たから表向に家内にしようかと思つたが能く考へて見れば社會の風潮が進むに從つて段々婦人の權力が盛んになり公會などにも多く婦人が出掛ける樣になる傾きがあるが今では維新の際に士人の品行の亂れた結果で泥水あがりの者でも何々夫人と呼ばれて貴婦人の間に入ることが出來るけれども遠からぬ内に西洋風が移つて來て素生の正しくない婦人は上等社會で擯斥する樣になるに相違ないから藝者などを家内にするのは不都合ぢや我々も他日志を得て弘く内外の紳士に交際をしようと思へば成るべく時勢の分る婦人を見立てて置かねばなるまい夫の女は風俗も卑しくなく教育があつて英學も相應に出來ると云ふから妻にしても不都合はあるまい其のうへ隨分親の遺產がある樣子だから別して妙だ夫婦の間に財產を區別する法律の確定せぬ我邦では勢力のあるものが都合の善いと云ふ樣な譯で一度婚禮さへすればアノ女の所有品を利用することは世話も苦もない話しサソシテ事が成就した處が千圓出すに及ものかホンの口約束で證據のない上に藤井

も謀書を造つたと云ふ後ろ闇いことがあるから如何して僕を相手取て訴へ出る事が出來るものか　松田はイト感心せし體にて　先生の　ポリシイ　は妙です政事家の考へは違つたものヂャ併し先生少し困つた事が出來掛つて來ましたから御注意がなければなりません　川「夫れはまた何の話しかネ　松「イヤ先生の策略は大抵成就したものの藤井は五百圓の口で出訴せられても居るから能く話しの纏まるまではお春さんを外へ出して置く方が善からうと云ふ相談で病氣の保養をするが善いと親切ごかしに湯治を勸め込み藤井の婆さんに作れさして箱根へ遣つたのが些ト失策で昨日木賀から婆さんの手紙が來ましたさうだが其の文面の樣子では彼の國野某が其の前から湯本の福住に居つてお春さんに出逢ひ一時間餘りも密々話をするから婆さんも不審に思ひ立聞きをして見ると泣くやら笑ふやら何でも前方から交情のあつたものとしか思はれぬから其の翌朝無理にお春さんを勸めて木賀へ往つたと云ふことですが夫れで考へ合はして見ると當春から演説會のある度に夫の女が傍聽に來て居たのは多分先生の演説を聽く爲めであらうト思つたにさうではなくて國野に心があつてのかも知れませんト話しの中に川岸は眉間を川の字になし　ハテ國野も中々油斷のならぬ奴ぢやの　松「マア御聞きなさい　ソコデ　先づ處を替へては見たものの何時國野が尋ねて來るかも知れんから心配でならぬト婆さんから報知がありましたから藤井の老人も驚いて早く作れて歸る樣に電信を掛けて置いたと先刻彼の内へ參つたとき話がありましたが愈よ婆さんから云つて來た通りに違ひがなければ折角の謀計も皆んな畫餅になつて仕舞ひさうだ先生此後如何なさる御心算ですかト云はれ川岸も少しく意外の體にて姑く手を束ねて思案を爲せしが忽ちカラ〳〵と打笑ひ　相手が馬鹿正直な國野と一人の女だもの何とでも處置があらうぢやアないか松田君一寸耳を貸せ斯ダ分つたか　松「成程面白いアノ新聞紙は先生に緣故がある上に譏謗が好きだから直に夫れを書くに相違ない今歸り掛に頼んで見ませう　川「イヤ〳〵まだ用がある斯ダ善いか　松「妙計妙計　川「夫れから斯するのだ　松「ウン〳〵ハテ夫の梅吉と云ふ奴は此の間賣茶で逢た女ですネ彼れか成程フーン以前國野とナールホド夫んなら能く吹き込んだらヨシ〳〵ナール程ソーダ　川「分つたかさうして其の費用は斯するのだ　松「夫んなら纏頭まで書付にして藤井に拂はせるのですか　川「知れたことヨ　松「如何も先生の處置は嚴酷だから對手になつた人は隨分難儀だ　川「些々たる人情に係はる樣では何事も出來る氣遣はない君が一方さへ煽動して呉れたら女は僕が旨く欺し付ける心算だ　忽ち門外に鈴の音がチリン〳〵と聞え新聞賣の聲にて今日每夕新聞繪入朝野新聞　川「政事上のことは言ふまでもなく何事を爲すにも機關がなければならぬものだ其の内國野も少しは世間に贔屓のある男だから能く氣を付けて外の新聞紙に嗅ぎ出されぬ樣に注意せねばならんぜ

第六回

一紙新聞巧離二間佳人才子一
三杯醇酒將レ腐二爛石心鐵腸一

端歌「春雨にしつぼり濡るゝ鶯の羽風に匂ふ梅が枝の　合「花に戯れしをらしや子鳥でさへも一筋に寢ぐら定めて氣はひとつ　合「わたしや鶯ぬしは梅やがて氣儘身まゝになるならばサッサ鶯宿梅ヂャナイかいナ」「チョイト貴君少し御發しなさいな　△「三味線は騷がしくて話をすることが出來ん少し止めて呉れんかト云へば玉助と云ふ藝妓が三絃を側へ置き「ケッコウ私も先刻から仰しやつて下さるだらうト思つて居りましたヨ松田さん一拳願ひませう　●「オイキタシャン〳〵〳〵そら勝たシャン〳〵〳〵又勝たサア飲まぬか　玉「松田さん人が惡くつていけ

ませんョと云ひながら傍を向き「貴君一つ御酌をしませう △「久し振で大層酩酊をした 玉「未だ少しもお顏に出ませんワ後生ですから一つ御酌をさして下さいな △「イヤ此の大杯にさう注がれては大變だ 玉「竹村さんお猪口の中に孑孑が湧きますョ些ト頂戴しませうお竹チャン是れは憚りさま未だ誰れぞ外に來ますかト問へば此樓の下女お竹は「いゝエ姉さんお一人ですョ 玉「松田さん餘り寂しいぢやありませんか誰ぞお呼びなさいな ●「玉助一人で三人前の代理が出來るぢやないか 玉「オヤ技倆のよいことネ △「イヤお前の腕ぢやアないョ臀の大きいことがサ 玉「オヤマア口の惡いこと貴君の御口にはドウシテ叶ひませんョ △「さう言ふ先生も餘り口の善い方ではない樣だハゝゝ 玉助一寸耳を貸して吳ンナ善いか 玉「アノ烏森のですネ分りましたト下女を手招きして次の間に至り何か私語き座に返るは跡の藝妓を掛けしと知られたり此の處は新橋の或る船宿にして玆に會合せる客を何人と問ふに松田肇と竹村某と云へる松田の朋友と國野基の三人なり竹村は猪口を國野に獻しながら「國野君御入湯中は嘸面白いことが御座いましたらうネ今朝湯本から御歸りでしたか」國野は手に持つ猪口を下に置き「左樣でした湯治場は隨分混雜で閉口しましたが圖らず武田に出逢ひ妙な都合で一二人同志を得て時勢を談じ誠に愉快でありました就も正義社員になりたいと云ふから近い内に兩君を始め川岸君などへも御紹介を致しませう 竹村「夫れは妙だ我黨の多くなるのは何よりのことですト話すを松田は傍から押止め「兩君は酒席でも政事上の話しをするから野暮でならぬ玉助チット御酌をせんかダガ國野君は此んな老婆では飮めぬと云ふだらう 玉「竹村さん可哀さうに斯う見えても當年が十九年ですワ 松「ナール程十九年八十八ケ月かねハゝゝゝ 玉「そんな惡口を仰しやると言ひ付けますよト云ひつゝ松田の肩を叩く眞似をして國野に向ひ「サア旦那注ぎました 國「先刻から一つ飮むト直に注がれるからツイ大醉になつた竹村君先刻から君に聞て見ようと思つて居たが武田はまだ上州から歸つて來ぬかネ 松「國野君はまだ夫の騷動を御承知がないのかト聞いて國野は少し驚きし樣子にて「箱根から歸つて來るト直に君の御手紙を見て出掛けて來たのだから何にも聞く間がなかつたが何ぞ失策でもあつたのかネ 松「前橋の同志からまだ報告がないので委しいことは分らぬが何でも懇親會の席上で大議論があつて武田を始め兩三人警察署に拘引になつたと云ふ事が今日の諸新聞に出て居るので川岸君などと寄合うて先刻まで相談をして居たが君が御歸りになつたと云ふことだから此の樓へ參つて呼びにあげたのだ」國野は眉をひそめ 國「又例の酒から起つたのではないか知らん困つた事だ其處の姉さん此家に新聞が來るかネ 下女「ハイ殘芳新聞が參ります 國「一寸貸して下さい 下女「畏まりましたト云ひつゝ帳場へ行き一枚の新聞を持來るを國野は手に採つて之を讀み「成程この新聞にも一寸出て居るが未だ委しいことは分らぬと見えるな 竹村「君濟んだら一寸御見せなさい此の新聞は隨分賣れると云ふことだが今日の紙上に何か面白いことがあるか知らんナ『美人の浮氣』些ト色氣がありさうだぞト云ひつゝ一寸松田の顏を見れば 松「竹村君皆んなに聞える樣に讀んで御覽 竹「先づ玆で一杯頂戴ソラ讀むぞ靜かに聽くべしエー「築地邊とのみにて町名番地は聞き洩らせしが紫の花に緣ある家の内にて夏とか冬とか云ふ樣なる名前の女は年ごろ十八九にて閉月羞花の美貌なる上に當世風の學問も相應に出來るので隨分近邊にての評判娘なるが色は思案の外とやらで是まで度々艷聞を流せしこともありしが先日病氣にて箱根


(初版本挿畫)

に湯治に赴き』ト讀みながら横目にてチット國野の模樣を窺ふに國野は少し驚きし樣子なり竹村は一層聲を張り上げ『其の歸りに一ツの馬車に乘りし美少年に思を掛け生意氣に少々知つて居る洋語にて思を通じとう〳〵車上にて密かに約束を定め歸京の後も大逆上せであると云ふ評判なり何ぼ別嬪で書物が讀めても此の御品行では花咲く春に』ハヽア春の字に○點が付て居る『逢ふ事は出來ますまい』ト讀み畢りて新聞を膝の上に置き 竹「築地邊とあるので考へて見れば松田君の此の間話した女の事では無いかしらん」松田はヘタ〳〵笑ひ乍ら「前後の文で能く分るではないか僕は事情を能く知つて居るから今に新聞に出されはしまいかと心配をして居たが隱れたるより顯はるゝはなしで何も仕方がない譯サと話すを傍にて聞き居たる玉助が「何處の御人だか知りませんが其樣な事を書れては溜りませんネ 松「自分のことが度々新聞に出るものだから『シンパシイ』(同情相憐れむの義)が起ると見えるハヽヽヽヽ 玉「なんですえ 松「分らんで仕合せサ」此の時まで國野は手を束ねて思案の體なりしが何となく不快の顏色にて松田に向ひ「君は其の新聞に出て居る女を御承知かネ 松「ウン僕の妹と一つの學校に行くから能く知つて居るが容貌は左まで惡くもない樣だけれど女の癖に演說などが好きな飛び上りもので其のうへ品行が惡く少し氣に入つた男と見ると色々な手管で引掛けては情婦になるかと思へば直に厭が來て又外の男をこしらへるので是れまで幾度騷動があつたか知れん實に女と云ふものは見掛けにはよらぬものだ此の節生中洋學などする女は兎角品行が善くなくつて困るが夫れに欺される男も隨分馬鹿だ」ト誠しやかに饒舌り立て乍ら風と氣の付きし樣子をなし「箱根へ往つて居つたと云へば國野君は何處でか其の女を見掛けはせなんだか」ト問ひ掛けられ「ナアニそんな女に逢ふものか」ト口では云へども心中さながら火の如くクワット怒を發せしも亦無理ならぬことにて才氣の勝れし國野にてもお春とは是れまで深く交際せしにも非ず一度其の談話を聞いて才氣を感心せしまでにて深く人物を知るに由なく其の上に曹參の人を殺せしことを告ぐるもの三人に及べば其の母も機を投じて奔ると云ふ喩もある如く前には箱根にて二人の書生の話を聞き今や新聞にて不品行の模樣を委しく書き立てしのみならず松田までも其の素生を知つて新聞の訛傳ならぬことを保證せし程なれば自ら其の疑心を解くに由なく何となく不愉快なる感情を起せしが其の氣色を人に曉られまじと話を外に紛らせども憤怒の色は自然に顏に現はれ「アー何だか胸が惡い」ト云ひ乍ら前にあるコップを採り手酌にて酒を注ぎ一口に飮み干すを竹村と松田は横目にてジロリと睨み心の內にて旨く行き掛つたトこの時次の間の唐紙を靜に開き「皆さん今晩は有り難う」ト挨拶をして此の席に入る藝妓は二十の上を二ツ三ツ越せしと見ゆるが數寄屋の衣裳に淺黃博多の帶を締め

白雪を欺く顔色の燈火に映ずるを見れば又棄て難き容貌なり國野と顏を見合せてオヤと言ひながら四邊に氣を兼ねし容子にて前に在る銚子を手にして松田に向ひ「貴君先日は：：一つお酌を致しませうト云ひ紛らせば松田は笑ひ乍ら「今の樣子では梅吉は國野さんとお馴染の樣だねえ 梅「いゝエ先日一度御目に掛つた計りですワネ貴君ト云ひつゝチット國野の顏を視る國野はホロ醉機嫌にて「左樣々々ト云ひつゝ肚裏には「まあ茲でアノ女に逢ふとは意外千萬ヂヤ」是れより新たに肴も出で藝妓二人の取持にて孰れも興に入りしが國野は元來下戸なれども此の夜は料らず醉を過し座に堪へ兼て蹌踉階子を下り手洗場に赴けば梅吉は迹に從ひ金燈籠の影に佇み國野の出るを待ち杓を把つて水盤の水を汲み國野の手に灑ぎながら「貴君誠にお久し振でしたネ私も田舍でお別れ申してから色々難儀な目に逢ひまして二三ヶ月跡東京へ歸つて來ましたが先日賣茶で大勢の御連中に出ました時に何とか云ふ御方が頻りに國野々々と仰しやるので能く聞いて見ますと貴君に違ひ御座いませんからくれ〴〵お傳言を致して置きましたが能くマア掛けて下さいましたネーオヤお危う御座いますト云ひつゝ國野の肩に手を掛くれば國野は燈籠の光にて梅吉の顏を眺め 國「お前が此地へ來て居ようとは夢にも知らなんだから先刻顏を見た時は吃驚したがお前に逢つたのは何年程跡であつたつけの 梅「慥か三年程になりますワ旦那今晩は急いで御歸りには及びますまいネ私は色々お話をいたしたいことが御座いますマア貴君此處へ入しやいませト下座敷の今客が歸りしと思しく蠟燭の影の薄暗くなりし内へ伴ひ入れしが程なく此樓の下女が雪下燈を手に持ち緣側を歩み乍ら二人の話を聞き付け「アノー國野さんは爰に入しやいますか梅吉さん參つてイヽですかと云ひつゝホット笑ひ乍ら障子を明けて內に入り「旦那御內から御人が參りまして此の御手紙を差上げて御返事を戴いて呉れいと申しますト一つの手紙を差出だせば國野は手に受取り「燈が暗いネ蠟燭の心を把つて御呉れと云ひつゝチガ〳〵する醉眼を開いて手紙の上書を見れば「國野樣春より」とあり國野は醉に紛れて姑く先刻の不平を忘れて居たりしが今や春と云ふ文字の眼に寫りしより怒氣忽ち心中に起り面上宛から朱を灑ぐが如く手紙を把つて封のまゝ二つに引き裂けば梅吉はアッケに取られ「旦那夫れはどうした御手紙で御座いますト云ふ內に國野は二ツの切れを口の中に押し込み左も腹の立ちし樣子にて齒にてムシャ〳〵嚙み緣側に投げ出だせり下女は不審さうに國野の顏を眺め「旦那如何なすツたので御座います御返事はどう申しませう」國野は荒ら〳〵敷聲にて「狸やら狐やら分らぬものに返事は致さぬと云つて呉れえ 下女「さう申して宜しう御座いますか 國「それで宜しいそして使はどんな奴かネ 下女「ハイ二十計りのお女中で御座います 國「茲へこんな手紙を持つて來る奴も隨分馬鹿だアー睡いト云ひ乍ら臂を枕にして前後も知らず其處に睡入れば梅吉はニッコリとして「姉さん憚りですが枕とカイマキを持つて來て下さいナ」是時二階にては松田と竹村は玉助を相手にして頻りに騷ぎ居たるが松田は風と氣が付き「國野はドウしたかネ 玉助「下座敷で御寐て御出でナサル樣ですト聞いて松田はソット舌を出だし竹村の耳に口を付け「梅吉が吞み込んで居るから大丈夫ヂャダガ奥二階に居る奴は秋野の連中の樣だから見付られると惡いモウそろ〳〵引揚げようヂャ無いか

第七回

忠婢談㆓事實㆒明徹㆓疑惑㆒
淑女說㆓心情㆒陽約㆓婚姻㆒

二階にて手を打つ音パチ〳〵 ハーイと應じながら一人の下婢がトン〳〵階子段を昇り

「國野さんお目覺になりましたか昨晩は大層御機嫌でしたネと笑ひ乍ら云へば國野は蒲團の中から重さうに頭を擧げ「下戸の癖に何云ふ譯かツイ醉すぎて大失策をしたお松どん喉が乾いてならぬから水を一杯持て來てお呉れ　お松「オヤ昨晩お枕元へ鐵瓶に入れて置きましたが取り換て參りませうか　國「イヤさうかト水を「コップ」に瀉してグット飮み「お松どん此家へ歸つたのは何時頃であつたかねソシテ歸つた時にはどんな都合であつたのか少しも覺えて居らぬが何も失策をしはせなんだかネ　お松「彼れ是れ一時で御座いましたらう餘りお歸りが遲いものですからお氣遣ひ申して居りましたら秋野さんと御合乘でお歸りになりました秋野さんも誰れかと新橋へお出でになつて居りまして旦那の醉つて一間に休んで御出でのを無理に起して車に乘せて來たとて門口までお立寄りになりました旦那は平生お謹しみの善いのに昨晩の樣なことは不思議だと皆んながさう申して居りますよソシテ私が藤井にお出でなさるお孃さんの御手紙を持つて參りましたら犬や猫には返事をせぬと仰しやつたさうで御座いますから私も腹が立つて其の通りお孃さんに話しますとお孃さんは大層御心配の御樣子で御座いました貴君は御承知ではありませんかお孃さんは平生から貴君のことを御心配なさいまして蔭ながら貴君の御世話をなさつたことも御座いますから貴君もあの樣な事を仰しやると罰があたりますヨ　國「夫れではお前は是までアノ女を知つて居るか　下女「知つて居りますとも私は昨年まで藤井へ奉公をして居りましたものト聞いて國野は首肯き乍ら「さうか夫れで分つたそれならお前はお春さんの人柄を善く知つて居るだらうネ　下女「誠に御本がお好で御座いまして學問が御出來なさると申すことですが平生御內輪の上に奉公人などへ御優いものですから誰れでも譽めんものは御座いませんそして義理のある叔父さんなどへ能くなさることと申したら蔭で見て居て淚が流れる樣で御座いますト聞いて國野は姑く首を傾け「夫れでも世間の評判では是れまで度々浮氣なことがあつたと云ふヂヤア無いか」お松はイト殘念と思ふ氣色にて「貴君までがそんなことを仰しやるから仕方が御座いません此の頃新聞で色々なことを書き立てますのは屹度意地の惡い藤井の旦那とアノソレ何んとか云ひましたつけお孃さんを貰はうと思うて居る人が新聞屋に賴んで出したのに違ひ御座いません私は腹が立つて新聞屋に嚙付いてでもやりたい樣に思ひますお孃さんも國野さんがあの新聞を御讀みになつたらどの樣に私をお蔑視になるかも知れんと大層心配をして入らつしやいます昨夜も旦那の仰しやつたことを話しましたら國野さんは餘程御立腹なさつたと思はれるから明朝御樣子を見て內々知らして呉れいとくれ〴〵も仰しやいました旦那何卒一筆お手紙を出して下さいませんかト云はれて國野は暫し考へ「さう聞けば猶のこと此方から手紙を出すも極りが惡い樣だ　下女「構ひますものか夫れとも今朝は先刻滿さんの御膳も濟みましてお晝までは暇で御座いますから茲の御掃除をして置いて築地まで一寸往つて參りませうか　國「御苦勞だがさうして貰はうか」それより國野は起き出でて淨水を遣ひ腹工合惡しとて白粥二三杯を啜り枕を出して横になり獨り熟ら思ふやう「我れ四五年前までは大酒の癖がありて度々朋友からも忠告を受けし程なりしが遂に大病を引起し一命をも失はんとする程になり幸に醫藥の力にて恢復したれば心に誓つて酒を廢し止むを得ぬ時ならでは杯を手にすることもなかりしに昨夜は旅行の勞れの上に朋達に強られ前後を忘るゝまでに至りしは我身ながら不覺千萬ヂヤ其の上今お松の話によれば夫の新聞の一件も何か込み入つた事情が

あるかと思はれる貧生の松田竹村の兩人が用事があると云つて此の身を酒樓へ誘引し不相當な散財をなしたるも一つの不審である夫れのみならず大勢の前で新聞を讀み上げ口を極めて彼の女を讒訴し我が以前田舍にて逢ひし藝妓を古馴染とでも思ひしか竊かに口を掛けて置いて此の身に酒を強しは何か巧みのありし事ならん深く事情も取り糺さず煽動に乘つて憤怒を起し恩義ある人を罵詈せしのみか不平の餘りに酒量を過し婦人に心を奪はれんとせしは返す〴〵も淺慮の至り我れ國家の經綸を志し此の繁雜な社會に立つて事業を成さんと欲しながら一書生の權謀に陷る樣にては有爲の政治家となることは思ひも寄らぬことぢや畢竟此まで讀書にのみ精神を費し世態人情を察することに注意せざりし過ちならん何程内外の書籍を讀みたりとて經歷の足らぬ時は多數の人を支配して力を政事上に展ぶる事は出來まいと頻りに心に感發せしは是れぞ國野が其の身を立てゝ熟練なる政事家と爲る端緒にて天晴れ前途に賴みある少年なり折から車の音ガラ〳〵と門口に響き階子段の上り口より下女の聲にて「國野さんお孃さんが入つしやいましたト云ふを聞き國野は枕を隅の方へ突き寄せて出迎へばお春は靜かに座に就き互に一別以來の禮を述べお春は溢るゝ計りの愛嬌にて 春「國野さん能くマア早く御歸りでしたなアさぞ途中はお熱う御座いましたらうト云へば國野は頭を掻き「イヤ昨夜は疲勞の處へ酒を強られて大醉になりましたから御手紙を下されたに甚だ失敬なことを申したさうです誠に面目次第も御座いませんト覺えず顏を赤らむればお春はニッコと笑ひ「いゝエ何も御氣にお掛けなさることは御座いませんが國野さん昨晩は古いお馴染に御逢ひなされて嘸御愉快でしたらうネ 國「愉快も何もありませんが何して左樣なことをお聞になりましたかト眞面目になつて云へば 春「今朝委しい事を知らして吳れた人が御座いますオホヽヽ國野は姑く首を傾け「ハテ不思議でならぬそれはさうとお春さん叔父さんの御病氣は如何ですな 春「病氣でも何でも御座いません全く私を貴君の御側へ置くまいと叔母の巧んだ事で御座います 國「夫れはまた如何云ふ譯でト問ひ掛くればお春は少し愁を含みし顏付にて「マア私の身の上を御聽きなされて下さいませト是れより數年前母に別れて叔父の内に同居し母の遺言を守り許嫁の男を尋ねて居ることは叔父も承知でありながら二三ケ月跡より急に緣談を勸め遂に思も寄らぬ亡父の遺言狀を出だし叔父の言を用ひぬなら是非に及ばず別居をさせて外から養子を取ると言ひ出したることまで掻い摘んで話しサテ云ふ樣「其の遺言狀は無くなりました親の書いたものでないことは一寸見ても分ります若しも夫れが本統のものですなら三年も立つ内に一度も話しのない筈は無いヂャありませんか夫れを證據にして訴へ出られましても私が負けようとは思ひませんが名ばかりでも叔父との間に裁判沙汰となるのも餘り面白いこととは思ひません上に叔父は後見人で私の家の金錢まで預つて居ますから若し荒立てますと色々引縺れが起るに違ひ無いと思ひます夫れゆゑ叔父の辭に逆はずして私の身を立てる樣にする外はないと考へ付きました處へ貴君も御知り合と思ひますアノ松田さんが尋ねて參られました此の度のことには叔父に跡押しがあるに違ひ御座いませず大抵其の人も突き留めて置きましたから何にも知らぬ風で松田さんに相談をして見ますと餘ほど入り組んだ事件だから川岸さんへ賴むが善からうと御勸めですから松田さんの紹介で二三度逢つて見ましたが流石は世間に名のある御人だけお取廻しの御上手なことで此の證書があれば如何しても強情を張ることが出來まいから本年中

には亭主になる人を極めることにして夫れまでに向ふから預り金を引渡し遺言狀を返すことにして雙方證書を取替して置くが善からうと御勸になりまして其の親切と申すものは喩へやうのない程で御座いましたから却つて川岸さんの心の底が見えました罪な樣ではありますが茲が裏をかく處と考へまして其の通りに證書までも書て叔父に渡して置きましたト云ふを聞いて國野は不審に思ひ「イヤ飛んでもない御心配なことが出來たものです今の御話しの通りですなら貴女は之れから如何なさる御積りですかナ

春「外に考へも御座いませんが何か私の……ト言ひ掛けて少し口籠り「私を不憫と思つて下さる人に御目に掛りまして心を打ち明けて御相談をして見たいと思ひます內に湯治に參る樣になりまして箱根の湯本で御目に掛りましたが貴君は世間で御名前のある御人の上に此の內のお松から委しう御性質を承まはつて居りますから何か身の上を委しくお話し申して御思召を承まはり度と存じます內の叔母は貴君と私が打ち解けて御話しを致すのを立ち聞きをして邪推をしたと見えまして翌朝急いで木賀へ參りまして何か叔父と打合はせ至急の電報で東京へ呼び返したのですがそれからと申すものは新聞紙の上で度々私のことを色々と書き立てますがアレは何でも貴君に疑心を起させる積りで川岸さんの考へから出たものではあるまいかと思はれますソシテ先日も川岸さんが御尋ねになりまして新聞は自分が引受け正誤を出さして遣るとて大層親切らしい御話しのありました跡で浮氣なとか御身持が惡いとか大層貴君の讒訴が出ましたソシテ今朝も御出になつて貴君が昨夜新橋の梅吉と云ふ舊い御馴染をお呼びになり御連中を先きへ歸して獨り御宿りになりましたと問はず語りに饒舌て御歸りになりましたが何も川岸さんは利口で手に合はぬ御人で御座いますと話すに就いて國野は心の內にて「憎き川岸の仕方ヂヤと一時はムットせしが元來大量の性質なればチット心を押し靜め「夫れは迷惑千萬の話です昨晚十二時頃に歸つて來たのはお松も能く知つて居りますソシテ是れまでの事はお考へ通り川岸の策略に違ひありますまいダガ證書まで叔父さんへお渡しになつた上は此の後貴女は如何なさる御心算ですかネ

春「貴君に夫れ等の事を御相談致さうと思ひましたから昨晚貴君の箱根からお歸りになつたのを聞きますと早途手紙を差上げて御樣子を伺つたので御座います國野さん貴君の御疑念が晴れまして私を不憫と思つて下さいますなら何卒私の願ひを……ト云ひ掛けて再び口籠れば國野はお春の顏を眺め「貴女の御願ひと仰しやるのはな ト問ひ返されてお春は顏を赧らめモジ〳〵として居たりしが茲が大切な處ぞと思ひ直し「國野さん貴君は今日まで外に御契約をなされた御方も御座いませんなら誠に御迷惑ではありませうが私の身は只今もお話し申しました通りで御座いますから何卒一人の女を助けると思つて貴君と私が夫婦になる契約をしたと叔父へ表向に掛合つては下さりますまいかト思ひ切つて言放ち顏を赧らめ袖にて面を掩ふ此の時國野は覺えず滿身に冷汗を流し胸もドキ〳〵として姑く答ふることを知らざりしが稍やあつて威儀を整へ「お春さん世間に稀れなる貴女の御人品一度お目に掛つてからは誠にお慕はしく思ひますが才學もなければ資財もない國野基貴女と御緣を結ぶことは思も寄りません固より私の爲めには一通りならぬ恩義のある貴女のことですから水火に入つても御力にはなりませうが先日貴女より承はつた處では御母君の御遺言もあつて以前御契約なされた御方を尋ねて御出でなさるでは御座いませんか差違つた御禮儀のあることですから夫婦の約束をしたと叔父さんへ申して置きまし

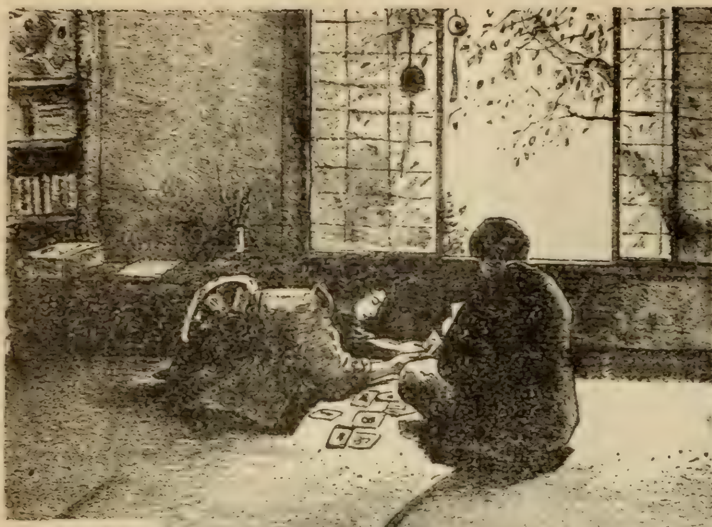
て倶々に其の御方の所在を捜して貴女の御宿志を晴したいもので御座いますト聞いてお春は少し悔しさうな顔付にて「いゝエ前に私の内へ養子に參る筈の人は私も逢つたことは御座いませず家出しましてから早や五年になりますから兩親が生きて居りましても何時までも其の人に義理を立てよとは申しますまい夫れとも足らぬ勝ちの私ですから貴君の御思召に協ひませねば致し方は御座いませんが…と云ふを遮り 國「只今の御話で私も能く心に合點が行きました其のうち私も只今は書生の身分ですから當分家を持つことが出來る譯でも御座いませず才氣の勝れた貴女が永の年月お尋ねなさるる人は定めて非常の秀才と思はれますが一時行方が分らぬとも其の内には御所在の知れることもありませう元來日本では男女が一度か一度顔を見たばかりで同穴の契を結ぶから其の後に風波が起つて終身の幸福を全うすることが出來んのです貴女と私は御互に心を知り合つて居ると申すものの御目に掛つてからまだ日も立たぬことですから先づ私と貴女とが夫婦の約束を結んだことにして置いて實際は學問上の交際を結ばうでは御座いませんか三四年も立つ内には私も何とかして一身の方向を立てる積りでありますから其時迄に貴女の御尋ねなさる人の消息がなくて愈よ御互の心が合ひましたら其の時になつて大禮を行つて同居をしても宜しいぢやありませんかト 情義に協ふ金言にお春も同意を爲し兩人にて後々のことなど打合せ叔父へは國野と夫婦の契約せし樣に告げ男女の禮を紊さず互に親しく交際せしは實に得がたき節婦良士と云ふべけれ

第八回

淺顰雪氷姿長立寒風
遂春風金羽將遷喬木

春「オヤ入らしやいませ大分朝晩は暮し能くなりました今日はお出でにならうかと思つてお待ち申して居りましたと丁寧に挨拶すれば國野はニッコリ笑ひ「先日向島の七草を御一緒に見に參つて途中で川岸に逢うた時には彼の男も妙な顔をして居たぢやありませんか夫れはさうと此節叔父さんの御樣子は如何ですな 春「ハイ最初は餘程困つた樣子で御座いましたが御心付の通りに預け金の事を嚴しく掛合ましたうへ事實損失のあつた分は引棄てる樣に申しましたら大分心が打解けました樣です叔父と叔母とが俄かに私を邪見にしましたのは一時金に困つて人の煽動に乘つたのですから別に憎むことは御座いません 國「支那の學者は無好人の三字は有學者の言に非らずと申したこともある樣なもので此方から誠實を盡せば世の中に惡人は少いものですト話しながら几の上に目を注け「お春さん大層寫眞がありますネ 「先刻お隣の坊ちやんが遊びに來て寫眞插みを傷めましたから直しに遣らうと思つて寫眞を取り外して置いたので御座います大方古くて好いのは御座いませんヨ 國「些ト拜見ト云ひつゝ一枚の寫眞を取り「此西洋の女は頗る美人だ 春「何とか云ひます佛蘭西の女役者ぢやさうです 國「成程さうらしい是れはグラッドストン氏だなア何樣立派な顔ぢや歐羅巴の政治家は七八十になつて愈よ氣象の盛んなのは實に感心ヂヤ日本人の五十にもなると老衰て仕舞ふのとは比べものにならぬお春さん一寸夫れをお見せ是は木賀ですな如何も好い景色だなア 春「慥か七湯が揃つて居りましたが何處へ行つたらうオヤ一つありました湯本の福住は一番綺麗ですネ此の間私が玆の座敷に居りまして貴君が彼方の二階でしたネ 國「左樣な樣此の半身形は誰れだらうアヽ分つた○○だ近來は大層顔が肥滿して立派になつたダガ此樣な粗末な髯なら生さいでも善かりさうなものだ 春「隨分利口な御人の樣に聞いて居りますが何だか寫眞では重みがない樣に見えますト云ひ

つゝ一つの寫眞を取り此方は△△さんですなア國「左樣です鋭敏の氣象が顔に見えて居るが如何も惡相だ民間の人もありさうなものだあつたあつた□□は立派好の人に似合はず顔の落ちて居る所は貧相に見えるが何樣一の政治家には違ひないイヤ是れは●●ぢやな隨分長い顔サ正直な人ではあるが度量の乏しいのが缺點で面相にも氣品がない樣デャイヤ別品の寫眞が澤山ある是れは柳橋の斑八是れは新橋のお赤かネ


(初版本挿畫)

是れは芳町か知らん何處でか見たことのある樣な顔ぢやト云へばお春は笑ひ乍ら「イヽヱ矢張り新橋の藝妓で何とか云ひましたツけ國野さん梅吉の寫眞がないのが殘念ですネオホヽヽ國「夫の藝妓は私が田舍に參つて居る時二三度逢つたばかりで少しも怪しいことは御座いません貴女に疑られて誠に迷惑千萬な譯サ　春「オヤ串戯に申したのですものを眞面目に御なりなさらないでも宜しいぢや御座いませんか　國「お春さん是れは何人ですか　春「なくなつた母です　國「成程何處か似て居らつしやる處がある樣だとジロ〱お春の顔を見る　春「さう顔を御覧なさいますと穴が明きますヨと云ひ乍ら袖にて顔を掩ふ國野は一枚の寫眞を手に採り「オヤ此の裏には洋字がある『マイデヤア』(我が愛する人の義)貴女の御手の樣ですなト聞いてお春は遽てて手を出だし「夫れを御覧なさつてはいけませんヨ」國野は身を反らし「マアお見せなさいト裏を返せば一の少年の半身形なれば國野は目たゝきもせず眺め居たりしが姑くありてお春に向ひ「貴女は如何して此の寫眞を御所持ですか」お春は少し氣の毒さうな顔付にて「國野さん夫れはいつかも御話申しました先年私の方へ養子に參る筈であつた人の寫眞で御座いますかト聞いて國野はハツト驚き姑くお春の顔を打眺めて居たりしが「お春さん夫れでは貴女の御姓は藤井でなく富永でありますネそして御親父さんの御名は正左衛門と云はいたしませんかト問はれてお春は不審顔「如何して亡父の名前を御存じですか　國「夫れを承知致さいで如何しませう此の寫眞は慥か五年前私が淺草で寫して御親父さんに差上げた品で御座いますト聽いてお春はハツト思ひ姑く詞も出でざりしが稍あつて「夫んなら貴君が深谷さんで御座いますか　國「如何にも以前は深谷梅次郎と申したことが御座います私の素性を貴女が御存じなく又私は貴女が富永の御娘子とは知らず今日まで斯樣に御懇意にして居つたと云ふもマア不審なことですト云へばお春は再び寫眞を手に取りて打眺め又國野の顔をヂツト見詰め「さう承はつて見ますれば是は貴君の寫眞に違ひは御座いません實は私も井生村樓で初めて御目に掛りました時に何處か此の寫眞に御恰好の似た處がある樣に思ひましたが能く氣を付けて見ますれば御顔付きが違うて居ります計りで無く別の御姓名でもあるし昔と違ひ今では姓名を取替へることの出來ぬ世の中ですから御同人であらうとは夢にも存じませなんだが四五年も大切

に仕舞ひ置きました寫眞で昔の御名前を知る樣になりましたも矢張り盡せぬ御縁と思ひます其の内能く比べ合して見ますれば寫眞の寫りが惡いせゐか御面相が大層御變りなされた樣に見えますがドウ云ふ譯で御座います又貴君はナぜ御名前計りで無く御姓までも御改めなさつたのですか何もかも夢の樣で私には未だに不審が晴れませんト云ふにぞ國野も覺えず歎息し「委しいことをお話し申さねば御分りにはならぬのも御尤も千萬です實は國野基が私の本姓であります六年程前に學問の修業に東京に出で都合が能くば歐洲へ留學に參り度と思ひ兩親に話しをして見ても幼年の時から叔父の内に養子に遣る内約があり先方の娘も年頃になることだから早く引越をして家を持たねばなるまい勝手に他處へ出ることは成らぬと云はれ何程お願ひ申しても御聽入れがないので今から妻帶をする樣では事業をなす妨げになると思ひ錦を衣ねば再び古鄉へ歸らぬと云ふ主意を書き置き竊かに國許を出立して東京へ來ましたが同鄉の者に私の所在が知れると何かと面倒と思ひましたから假に深谷梅次郎と改名して身の落ち付を尋ねても思ふ樣に行かず學資が盡きて當惑の處へ風としたことから貴女の御親父と御懇意になり食客同樣に御世話になつて居ます内に國許に兄がある事なれば此の内の養子になれ若しも洋行に志があるなら四五年の内には何とかして學資の工面も付くであらうとの御話しが出たものですから前後の考へもなく御相談に乘りましたが其の後御國許には一人の御娘子があつて近々に出京になり直に私へ婚禮をさす御積りであることをチラと聞き込みましたから考へて見ますれば夫では私も國許の兩親へ申譯が立たず其の上顏も氣象も知らぬ人を押し付けて家内にせよと云はるゝは迷惑千萬でありますから用事があると云ひ立てて北海道へ參り夫れから陸羽の間を遊歷して居る内に夫の名高い國事犯事件が起つて私にも嫌疑が掛る樣子でありましたから越後の方に身を忍び態と御親父へは文通もしませなんだが其の内に嫌疑事件で拘留になつた朋友も大抵は放免になりましたから安心をして東京に出で早速神田の御宅を尋ねて見ると早や家主の二三人も代つて居るので愛宕下邊へ御引越になつたと云ふ計りで町名も分りませんから不本意ながら止だ折り〳〵御引越先を捜して居りました私は其の前から國許の詫が協うたものですから舊の姓名に復しました其の上以前は此の寫眞の通り隨分太つて居りましたが越後に潛伏中胃弱の氣味合で大病を起し一時は骨と皮とになつて仕舞ひましたので全快の後も昔の樣に肉が付かず五六年前懇意にしたものでも途中で逢うた時には取違へる程でありますから貴女が寫眞を御覽になつた計りで私を御見覺えのなかつたのは無理では御座いませんソシテ御親父樣は何時御死去なされたのですか

妻「丁度貴君が函館とやらへ御出でになりました翌年で御座いましたが亡くなりますまで貴君のことを氣に掛けて居りました夫れから二年ばかりしますと母も大病になりまして是非とも貴君の御歸りを待つ樣にと私に遺言をしてト言ひ掛けてハラ〳〵と涙を灑し「とう〳〵彼世の人になりましたから私は今日まで貴君のお行方を捜して居りましたので御座います國野さんドウゾ私を不憫と思つて下さいませト說き立つれば國野もイト愁傷の體にて「承まはれば重ね重ねの御不幸で何とも申樣の無いことです實は私も函根で御目に掛つた時に御名前と云ひ御音聲にも西國訛りがある樣ですから御出立の跡で宿所附を調べて見ましたが長野縣平民藤井とあるので夫れでは富永の御息女ではなからうと思うたことでありますアレハどう云ふ譯でしたネ

妻「福住で叔母の本籍姓名を書いて

其の跡へ私の名ばかり附けて置きましたから貴君が長野縣のものと御思召たのは御無理では御座いませんト話の央へ隔ての障子を押開きて出で來るもののあるにぞ誰れならんと見れば此の屋の主人藤井權兵衞なれば二人ともハット驚きしが權兵衞は靜かに座を占めて國野に向ひ「イヤ國野先生誠にお久し振でした五年前兩度ほど富永の宅で御目に掛つた事があるが頓と御樣子が替つて御見違へ申した程だからお春の取違へて居たのは無理ではない實に先刻國野君が御出になつたと家内から承はつたから何樣な御人であるか又どんな御話が出ることだらうと思うて次の間へ參つて立聞きをして居ましたら貴君が富永へ養子に來られる筈であつた深谷君であると云ふことだから誠に吃驚しました私もお春の爲めには義理ある叔父である上に富永の老人夫婦から呉れ〴〵賴まれた事のあるのに一時金錢の差支へより人の煽動に乘つてお春に色々な難儀を掛けたのは今更申譯のない次第だお春は何も角も知つて居りながら私夫婦へ對して惡い顏色もせぬと云ふは驚き入つた心底である此權兵衞は穴へでも入りたい樣に思ひます富永老人の見立てた程あつて御年の若いに似合はず才氣と云ひ分別と云ひ世に比類なき國野君と容貌も心立ても十人並に勝れたお春とは一對の梅櫻と申しても善からう此の上は權兵衞が懺悔の爲め媒妁を致すであらうから一日も早く御婚禮があつて富永の家を御嗣下さるれば無くなつた老人夫婦も嘸や地下で喜ぶでありませうト云ふを遮り　國「イヤ御親切の御思召では御座いますが緣談のことは今四五年御見合せ下さる樣に願ひます斯樣に申せば何か私に外の考へでもあるとお疑も御座いませうが修業中である上に自分には財産も所持しませんから素封の家に成長なされたお春どのを娶つて一家を持つことは：：　權「イヤ〳〵夫れは御心配に及びますまいお春いつかもお前が話したことがあるが御親父さんの御隱れになる前に御書き置きになつたものがあるではないかト云ふにお春は心もイソ〳〵として身を起し　春「ツイ取紛れて御目に掛けることを忘れて居りましたト云ひつつ起つて用箪笥の抽斗より桐の箱を取り出し蓋を開いて一通の手紙を國野に渡せば國野は手に採つて之れを視るに上に深谷梅次郎殿富永正左衞門とあり封押切つて之れを讀めば

　拙者儀老病ニテ最早餘命モ無之ト存候故一筆認メ置キ候貴君ヲ養子ニ致シ候儀口約ノミニテ未ダ表向ニ御國許へ掛合等モ致サズ候内貴君函館表へ參ラレ其後蹤跡相分ラズ定メテ國事犯嫌疑ニ因テ一時身ヲ隱サレ候事ト相考候拙者一女アリ不氣量ニハ候得共幼年ヨリ少々讀書等モ致サセ置キ候故國許ヨリ呼寄セ貴君ニ御引合セ致シ若シ貴君ノ御見棄ナキニ於テハ往々巾櫛ニ侍セ度志願ニ候處拙者儀今日老病ニ差迫リ餘命之レナシト覺悟イタシ候拙者ハ貴君ノ大志アツテ國家ニ盡力スル爲メニ資財ノ必要アルヲ知ル因テ拙者所有ノ金子一萬圓地面三ケ所貴君ニ讓與致シ候春女儀ハ貴君ノ妻ニ被致候共他ヨリ養子ヲ取リ富永家ヲ相續致サセ候共拙者ニ於テ異存無之何卒貴君拙者ニ代リ春女ノ御世話成シ下サレ候樣重々御依賴申候也

　　　明治年月日　　　富永正左衞門

　　深谷梅次郎殿

國野は幾度も繰り返して之を讀み眼に涙を灑ぎながら「不肖な國野を斯くまでに深く思召し下さるとは御禮の申樣もありません此の御遺言もあることとなれば御老人の御勸めに從ひませうが御老人の前でお春さんに篤と御相談を致して置かねばならぬことが御座います私も五

年前には次男の身でもあつて止だ洋行がしたい計りで富永家を嗣ぐことを御約束をしましたが昨年國許の兄が病死しまして今では私が國野の相續人でありますソシテ私も少しは世の中に名を知られ及ばずながら社會改良の志を立て時々論壇に上つて我が邦養子法の道理に合はぬ事をも演説したものが遺産を讓り受けて他家を嗣いだことが世間へ聞えては後々出身の妨げともなりませう又私は一通りならず父母の高恩を受けた身でありますから一家を持つときになれば是非とも郷里より兩親をむかへ取つて孝養を盡したいと思ひます固よりお春さんも御承知の通り父母が家婦を下婢同樣に取扱ふことは東洋古來の弊習で私も常に歎息して居りますから兩親が參つたとて別居異產の暮方をする積りですが出來る丈は兩親の安心をする樣に致したいものと思ひます貴女は私と心を合はせて孝養を盡くして下さる事が出來ませうか此の二條さへ御承諾を下さるれば取敢ず手紙を出して兩親へも相談致し日を期して合卺の禮を行ふで御座いませう 春「只今の御話しは御尤も千萬のことですから私は一々承知を致しました就きましては私も貴君へ二つの御相談が御座いますが少し差し出ケ間しい口上の樣では御座いますが是まで私の見まする所では書生の内には氣象もあれば節操もあり天晴れ先々は世の中の爲めになる人と評判さるゝ程でも少し地位が出來たり妻子を持つ樣になると自然に昔の氣象がなくなりまして止だ上手に世を渡ることを考へる人が幾らもある樣に思はれます何卒貴君は一家を御持になりましても是れまで通りに書生の積りで御勉强になりまして大事業を成されるが私の一つの御願で御座います今一つは私の親は御承知の通りの氣質でありまして自分は世の中の益に立つ樣なことは出來ぬが國家の爲めに有用な事業と見たなら財產を遣ひ棄てても苦しくないと平生から申して居りました私の讓り受けました遺產だけで此後一家の暮方をつけることが出來ませうから貴君は親より差上げました財產で國事に御奔走をなさるゝ資本に充て有志の人々を御結合なされますれば親の念願も通りますし貴君の御名譽にもならうかと思はれますが貴君のお思召しは如何で御座いますかト聞いて國野はイトゞ感心し「如何にも御相談の儀は一々私も同意をいたしますト云へば權兵衞は傍より「イヤモウ愚昧の老人などは何も云ふ事はない兄貴が生きて居て此樣な話しを聞かれたなら何程喜ばれることであらうに夫ればかりが殘念だト頻りに手拭にて涙を拭ひながら「マア此樣な御目出度ことはないオイ誰れか居らぬかお竹御酒を持つて來いそして奥さんに一寸お出でなさいと云てお吳れ お春マア此の寫眞を仕舞つては如何だ」

夫れよりお春の叔母も出で來りて國野と近づきとなり四人にて酒宴を催し國野は夜に入りて下宿屋に歸り數日を經て巨細の事情を認めて國許の兩親に報知して其の恩人なる富永正左衞門の娘春女を娶るの承諾を得たれば番町邊にて相應なる家宅を見付けて引移り十一月の某日を以て愈よ婚禮を行ふことを約し其の心中の樂みは明治十八九年頃に當り我國の人民が二十三年の來るを待つにも勝る程ならん嚴冬の積雪に埋れし寒梅も今や其の香を春風に洩して黄鳥の谷を出る時節に逢はんとす此の二人の前途に就て尙ほ許多の談話あり且つ此編に名前を出だしたる川岸武田を始め强盜俠客の身上に關する事柄は「花間鶯」に於て之を書き綴るべし

雨窓漫筆

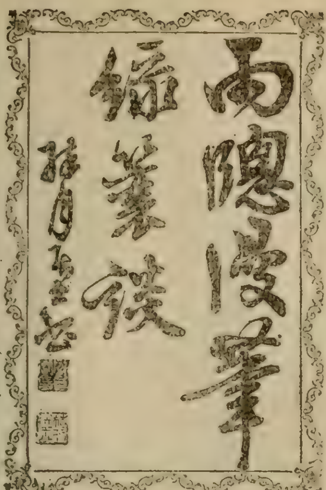
緑蓑談

須藤南翠

雨窓漫筆 綠蓑談



（原本表紙）



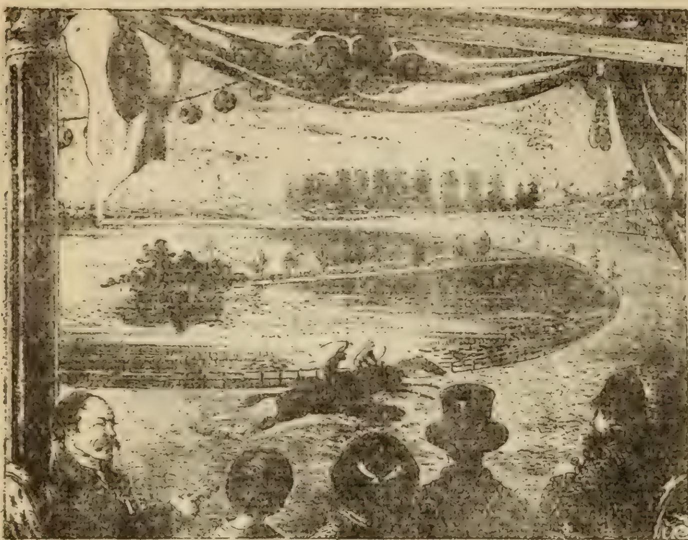
（原本題字）

外史未だ教の庭に在りつる頃米人リーバー氏が著はす所の自治論(Self Government. 一名 Civil Liberty.)を讀みて聊か感ずる所ありつる儘を筆に止め一篇の小説として其が儘篋底に藏めたりしが頃日社會の氣運を觀るに良や日を政治上に注ぐ者多かるを以て政治小説(Political Novel)の如きも大に密接の關係を有つの傾きあるやに思考せらるゝより偶ま篋裏に探り之を把出しこゝを削りかしこを補ひ骨を留め肉を人情に假て全體を粧ひ見に彼鷄肋愛を割難きと云へる類にや又捨難きの想ひあり依て題號も元の儘に「綠蓑談」と稱へて茲に紙上の餘白を借ることとはなせり其主旨專ら中央集權と地方分權との問題に係れるとは雖も皮相よりして味ひなば通篇總て情史ならざるはなく退いて之が氣骨を味へば滿卷悉とく政論ならざるはなし然はいへ外史學び淺く才薄く分筆最も拙きに而も舊時の起草に成れるものなれば吾身ながらも倦厭の嫌ひなきに非ず此を人に示さんは愧なきの甚だしきに似たれども編輯人の督促餘りに切なれば纔に端を啓く事となしぬ看客幸ひに其の拙陋を嗤ひ給ひそ

發端　兩枝の若葉

熱鬧狂顚の桃櫻は梢の雪と下布きて都門の紅塵纔かに治り閑邃幽棲の新綠は雨の旦に色榮て雅客の詩腸切りに騷ぐ首府東臺の新風光昨日までも滿山を覆ふと見てし白雲は今日靖雲の嶺とぞなりぬる一瓢を携へて筇を二本杉に曳くは初郭公の聲またるゝ俳人なるべく愛兒を誘うて歩を日永の原に運ぶは教育博物館の縱覽を終りしなるべし全體より評する時は花落て人罕に人罕にして趣き靜雅なりと云ふべし根津の舊廓は毀たれて亞細亞大博覽會場の新築は未だ工事の半を竣らず日本鐵道會社の新線路は今や都府の半を通じて汽笛の聲良や盛んなり時に二千五百四十九年四月二十八日は不忍共同競馬會社にて春季競馬會を催すべき第二日目に相當して此日は貴夫人令嬢の一致合力に成立たる婦人財囊賞の當日なれば曾て新聞紙の廣告に據りて其の盛況を一覽せばやと在府の貴顯紳士は固より遠近より集ひ來る看客は肥馬に鞭ち

馬車を驅り人力車を急して上野公園に走すること宛然一點の中心に百多の光線の蝟集するに異ならず上野大路の雜沓は實に鼎の沸くに等しく眼界の達する限りは一塊の土をだも見ること能はじ遠く不忍の池畔を望めば四圍到る所の彩旭風のまに〳〵池水に映じて汀頭花を漂はせり中島の長駝亭には天をも淩ぐべき日章の大國旗を飜へし馬見所の樓上には深紫の幔幕をうち張り眞紅の總角もてたゞ中をしぼり揚げ樓



（原木口繪）

下にも赤紅白の段幕に和風を包ませてうたせたり貴夫人令孃の正客は今日を曠ぞと粉黛を凝し膩が上にも化粧して靚を競ひ綺を鬥はし肅然として樓上に居流れたる其の態一樣ならずして或ひは里昂絹の娟華なる洋服を纏ひ白鷺のボンネットを戴きたるあり或ひは朱繻の袴を穿ち綾羅の袿を襲ねたるあり或ひは小紋縮緬の紋服に白綸子の衿を重ね古金襴の帶ゆたかに結びたるあり染の振袖絓の被布隅田の春深うして百花の色を爭ふが如く瀧の川の秋殘りを惜みて紅葉の錦を織るが如し此の夫人淑女等が餘財を積みたる錦囊を手づから受くる紳士こそ誠に名譽の至りなれ中原の鹿孰れの手に歸すべきにやと萬人の思想こゝに注ぎて勝負如何と待儲けたるは寔に泰平の昌事といふべし此雜沓を厭へるにや果餘に見る所ありけるにや年の頃は二十四五なるべく色黒く鼻隆からず頭髮薄く赤みたるが其の割合には眉秀で口唇は薄くして齒は綺麗に揃ひたり眼光やゝ銳き方にて思ひを凝す事ある每に兩眼を閉ぢ眉を顰めて兩手を頭に加ふる癖あり丈は高き方ならねど一體に瘦たるが故に一人にて直立すれば聊か高きに過るの見あり紺羅紗の獨逸背廣に蘇格の古びたるズボンを穿ち黑羅紗の低き帽子を戴きて法蘭西皮の半靴を履き右手に自然木の杖を携へポッケットに一卷の洋書を入れて徐かに山王臺を逍遙しながら時々競馬の喝采を聽きて苦笑ひをなしつゝも冷笑ひて口の裏に

（卓）士氣を鼓舞して馬匹を慣す爲だといふから競馬も財囊も惡くはないが教育もない「レヂー」から貰つた處が名譽でもなからう、夫よりやア…、地方の困憊でも救ふ方に注意をすることは出來ないか知らん

ト獨り言て櫻臺なる新葉光を覆ふまで最と靜逸の地をトし徐かに榻を拂ひつゝ腰うちかけてポッケットの書冊を把出し讀居たるが軈て思想を費すべき至難の章句のありけるか書物を膝に置たるまゝ兩眼を閉ぢ眉を顰め雙手を首に押當て切りに考へ居る折から第四競馬も勝負を判ち婦人財囊の名譽ある勝賜も既に果けるが紳士と覺しく綾羅紗のイヴニング、コートを纏ひたるとフロック、コートの左の臂へ競馬會社の徽章を懸たる二人に續いて商人なるべし赤毛の入りたる蘇格の背廣を着たる一人の男憚り氣もなくうち語うて側に設けし榻子へ並びて座を占めリチモンドの紙卷煙草を吹しながら

（甲）何です僕の慧眼には恐れ入たらう、此の勝負は何と言ても綠野に極つてるのサ都

なんざア名馬でもモウ先が知れてる老馬だから那なものに懸るのは僕の先見が明かのではない君達の目が見えないのサ、何でもいゝから出し給へ（乙）恐れ入たヨネエ君仕方がないサ受渡しをしッちまはうエ、（丙）私ぢやア實に馬鹿を見ました（乙）ナニが（丙）何がぢやア有ません競馬：：エーお恥かしい事ですが競馬は實は始めて出ッ會したのですから（乙）だッて夫は仕方がないサ、其代り今度の次は物の美事に向うの鼻ッ柱をぶッ挫いて遣るから大丈夫だヨ、綠野：：綠野が可笑い、アノー都は當時日本第一の名馬だから田舍の瘦馬なんぞに負る馬ぢやアないンだけれど出遲れたのが此方の不運サ、ナアニ重量さへ平均なら何して〳〵負やアしないヨ、ウム、ナニ乘人：：乘人だッて久保田だとか下村とか林だとか云名人とは何せ太刀打の出來る人物ぢやア有やアしない、一體那の山田文治といふ人間は民權家の鼻棒で馬なんぞの飼る人物ぢやアなかつたが、ソレ來年の一件で無闇に法螺吹演說をやらかして田舍の莽家を瞞着しちやア體裁よく取込んだので漸と紳士らしい面が出來て來た位な男だサ偶にやア、財囊の一つも惠んで遣るのが都人士の花になつて宜らうアハヽヽヽヽ（甲）ヘン敗た悔しンぼに馬鹿に惡く言ふぜ夫な講釋は何でもいゝから約束の金を遣し給へ、ナアニ些と位惡く言れたッて金さへ儲かりやア商賣人の職分は濟ます（乙）惡く商人根生を出す奴だ（丙）是りやア嚴しいお差合が有ますぜ（乙）イヤ失敬失敬併し君のやうな純粹の商人の事ぢやアないヨ、コヽ此奴が惡く慾張るからサ

ト自暴が誘ふか惡聲を出して頻りに詈罵つゝ裏がくしより夾囊を澁々ながら取出し銀貨と紙幣を取交て出すに一個の商人も口の裏にて囁きながら是も幾干か揃ひたる兌換紙幣を取出して共に彼方のイヴニング、コートを着せし男に遞與に莞爾と笑みて額を改め

（甲）慥かに五十圓受取たヨ、其の代りにやア君達に夜食を僕が驕るとしよう、ネ、宜からう（丙）夫れ位な事はなすッてもネエ旦那衆ぢやア有ませんか（乙）無論々々言なくッても當然の事だ、一體競馬なんぞといふものは國威を輝かす爲めの道具だから一個人の損德は何でも宜しい、精養軒へでも行て夜食と出かけ身體を肥して日本人種の改良に着手すべしサ（甲）飛だアリストートル（學士の名）だ、今時國を先にして人を後にする見を立ると書生さんに參られるぞ（乙）何でも、宜しい何せ今日丈は田舍馬に勝れたから都人士は默つて居るヨ（甲）ドレ御案内申し上ようか

ト勝利を得たる其の人が先に立てぞ歸りける後を見やりて件の書生苦笑ひして去もせずポッケットより明煙社の脂拔煙草を摑み出しマッチを探れど何れへか落せしと見え更にあらねば若し此邊に休息して喫煙する人なからずやと回看す向うに一個の淑女妙齡二八可ならんか伊太利織の華美を極めし最も綺々たる洋服して薔薇の花を飾りたる伯林製の帽を戴き擬製の葡萄の衿飾に濠洲金の環を穿ち左の無名指右の中指にダイヤモンドを彫めたる獨逸美鏤の指環を嵌めし其の服裝の美しきに風致の婀娜たる芙蓉に似たり玉顏拭ふが如くにて形は卵の體を備へ雙眼瑠璃を彫めしに似て蛾眉半輪の月の如し朱唇最も嬌態深く白鼻甚だ愛すべし頰温かに髮厚く久しく人の中に在りて聊か上氣したると覺しく眼下の淡紅色良や濃きは却つて愛掬するに堪なん怜悧の才は兩眼の間の狹きに顯はれたるが人相學士に見せしめば是れ薄命の相なりと判斷するやも計り難し全體よりして評する時は窈窕の語を用ゐんより寧ろ嬋娟なる方なり執れの令嬢か知らねども品格特に高くして自然

に威儀を併へたるが今此の書生の憩ひたる側の榻に休らひたるは負抱の才の對不對を姑く措て外形より虚心に之れを觀る時は白皙人の側らに亞非利加人の侍するが如く不權衡にぞ見られける

淑女は書生の風體を仔細に諦視し側らなる書物の記名に目を留めて無聊を消さん詞敵になさまく欲き色ありしが書生の片手に紙巻烟草を持たるまゝにて喫みもなさぬは全くマッチを失念して渇を覺ゆるものなるべしと敏くも推して懷中より專賣特許附の蠟のマッチを出して微笑を帶ながら

（艶）貴下、甚だ失禮ですがお烟草を召上るならマッチを御用立ませうか（卓）夫れは何より難有うございます實はマッチを失念したので困却を極めて居ましたが生憎外に人もなく火を借る譯にも往きませんから其處等まで往て求めて參らうかと存じて居た處でしたが早速是れは難有うございます何も甚だ失敬（艶）眞個にお烟草を喫あがる方が火のない程お困ンなさる事は有ませんツてネエ、アノー……エ、つかない事を伺ひますが貴下は何方の學校へ入ツしやるンでございますか（卓）ナアニ私共は修業なんツて中々專門には出來ませんが田舍に居たヤア見聞も狹し大家の高説を聽くことも出來ませんから何か東京へ參つた上縱令何をしてなりと一修業致したいと出京は致したものの御存じの通り此節は一體地方が疲弊して納租の爲めに勞働してると言たやうな慘状ですから……何も致し方がございません（艶）サウ仰しやつたものでも有ません天は自ら助る者を助けるとスマイルスの格言もございますから志ざし一で何でも成業致ませう（卓）根據さへ確かなればナニ少々困難があつても打勝て參りますが生活といふ困難に打勝れては實に何も方が付ませんテ（艶）貴下は彌仰しやいますが獨逸邊でも依然富有な人の子が學者になつて貧賤の者の子が愚になると云ふ定則は有ませんヨ、モルトケ公でもビスマルク公でも最初ツから榮爵を持て出といふ譯でもございませんから（卓）へエ夫ぢやア貴女は獨逸へ御洋行になりましたか（艶）洋行といふ程では有ませんが父が彼方へ參つた時伴て行て貰ひまして三年ばかり留學を致しましたノ（卓）夫は何もお羨ましい私も何か英國邊へ留學といふ程な事しなくツても一體の慣例から政治上の運動を實際に見て參つたらと心がけて居りますが不幸にも伴て行て呉れる人もありません、獨逸は如何でございますナ學術の泉源と言れる國ですから見たばかりでも隨分利益が多うございませう（艶）妾どもは學校にばかり居りまして美術の事にかゝつて居りましたから一體の事は存じませんが何でも父なぞの申しますのには政治といひ法律といひ陸海軍制定といひ日本には適切の美風があるから日本人の政治家は是非とも獨逸へ往なくツては政治家の眞價が出ないと倚様に申して居りましたが、斯申しては何ですけれど、妾なぞの思ひますにも帝王が主權を握つて萬機御親裁をなさるのは至尊の御勤めといふもので御國の臣民も徳に懷き忠誠の心が起つて自然と上下の間が親しみ宜い鹽梅に國内が無事靜謐に成りませうト説出すを聽居たる書生は少しく冷笑して

（卓）上流社會にやア獨逸風が專ら流行すると聞ましたが成程夫に違ひはない至尊を神聖の者として威儀尊榮を有つには推て政治の責任を宰相に委せるのが第一でせう、私輩は純粋の議院政治を望む者ですから立君獨裁のお話しは承まはらずともの事ですサ今の獨逸は維廉老帝の大偉勳とビスマルク公の戰功とで聯邦を成立したから是非なく民權を縮

めて居ますが今に御覽なさい二豪傑が斃れた日にやア今の儘で永く國是を立る事は出來ませんぞ、マア貴女のお心では誰がビスマルクでございませう、ビスマルクが斃れると後にビスマルクの出ない時は忽ち國體が變るやうでは何と困つた話しでせう、グラッドストーンが斃れてもソールズブリーが退いても國と政治の動かないのは何と英の名物では有りますまいか



（原本挿畫）

ト語氣や〻鋭く說破るに淑女も聊か怒りを含みて論駁せんず氣色なりしが何思ひけん微笑して親しく握手の禮を施し元來し方へ立歸る此時までも木蔭に居て兩人の談話を聽居たる山田文治といへる紳士の突然書生が肩を敲き

(文)君、君、愉快だツたヨ、最つとやツつけりやア宜かつたのに(卓)貴下は(文)吾輩か吾輩は山田文治といつて競馬道樂の一人サ(卓)ア、爾でしたか夫んなら先刻第四競馬に綠野といふ馬に乘て婦人財囊を得られました(文)如何も如何も、而も今のレヂーが遲與たのだが實の處は那のレヂーの宅の都といふ馬に遣りたかツたのを吾輩が勝たからクサ〲して此處等へ散歩と氣を柊たのだらう(卓)へ、エ爾でしたか

ト猶も懇話に遷らんとする時競馬の終りしか此の林陰まで雜沓して遂に后日を心に約し我が指す方へ別れ去たり

第一回　螢火の窓

早天續きの三伏に驟雨欲しき庭園には殘る方なくうち水して松柏色や〻蒼みを加へ雫も止めず炎陽に我れから萎靡し雜草も自然に苗を起せども戰りともせぬ乾蒸に團扇遣ひもいとゞ猶懵き盛暑の夕納涼親は袒易兒は裸體にて二合半酒に暑を攘ひ夕顏棚の下風に半夜を守る者あれば侍婢千人に冊かれ團扇車に風を招び氷の屛風雪簾明るを蚤しと恨むあり貧富賢愚の差多き同じ國内の民艸の榮枯盛衰定めなく赤土を厭ひ豐饒なる都に集まる千萬の人種々のたゝずまひ其の中坂に程近き麴町區飯田町二丁目に住み官民の間に身を處き代言士を營業とする學士あり以前は法科大學にて硏究琢磨の業を遂げ法學士たる學位をも身に戴きて大學院の學生とまでなりたるが猶吾が心に滿足せざるか餘財を抛ち寶器を沽り海外萬里の波濤を越え大英國に留學しつ三年にして業を卒へ英國狀師(バリストル、アト、ロー)の榮位を得て白毛錦囊賞牌を胸に光らせ獨佛より北亞米利加の法廷に已れが伎倆を顯はしつゝ輓近漸く歸朝せし中島博智といふ人なり固より富る身ならねども亦貧しきといふにもあらず父母は駿州靜岡の故園に遺せし山水の朝夕親しむ友を慕ひて安くより都を遠かり我が兒の榮えを仄にも聞て餘生を樂しめば家には阿今と名を稱びて二九の盛りの花よりもいや麗はしき妹のみ博智旣に三十を遠くも距らぬ齡なれども未だ伉儷を結びもせで家には書生を養ふのみ奴婢さへ僅かに二人を雇ひ

吝かならず華奢ならず其の中庸を尙ぶは了得に氣高き心なり然はとても野俗の者ならず都雅の心は自から家屋の構造庭園の形容にても明かなるべし訴訟の事務を專務とする書生二人の其の外に客歲より此に食客して學びの窓に螢雪の勉勵を積む書生あり新潟縣下越後國苅羽郡三俣村の農夫にて越山卓一といふ者なるが李密の學び深くして先の年より政治學を攷究せん爲め出京したれど洗ふが如き貧家の子弟學資とすべき餘財なければ或ひは商家に奉公し或ひは牛馬に身を落して車を路頭に輓きなどしつ專ら餘暇を偸みては書物に眼を晒し居つるを圖らず中島博智に値遇してより養はれて衣服を惠まれ書物を與へ家事の暇に勤學を今猶怠らざりけるなり今宵も外の兩人は訴訟用にて他出せし孤燈に對して卓一は獨り此頃舶來せしスペンサーの新說を餘念もあらで讀居る處へ隔の硝子戶憂然と開き麥藁帽子に花色の甲斐絹の帶をさせたる前に「大學」といふ徽章を附し納入羅紗の背廣を着て左に少し古びたるハンカチーフを摑みながら右手に帽子を摘上て腮もて禮を施しつゝ

（孝）越山君、君早く歸省し給へ、遲々して居るとモウだめだゼ（卓）ハヽヽヽ齋藤君の粗々ツかしいのにも困りもンだ、君ア何日歸京したノ（孝）オヽ未だ逢なかつたつけネエ、さうださうだ今日歸つたヨ、ウム三時の汽車で先刻上野へ着たから下宿へ寄て直ぐに君の處へ知らせに來たのだ（卓）アヽ那だものヲ困つた人物サネエ（孝）君のやうに糞落付に落付て居ちやア石の上の住居は出來ねえヤ、何でもいいから主人に暇を貰つて歸り給へ、大變だヨ、言憎けりやア僕が言て遣うか（卓）馬鹿、戶棚を開けて何をするンだ（孝）ホイ仕舞た、眼鏡を忘れて來から飛だ戶迷ひをした、君、案內して吳給へヨー（卓）何處へ（孝）何處へぢやアねえ主人公の居間へヨ（卓）君は氣が違つてるナ、マア少し落付て詳しい話しをして吳れ給へ、國は何な鹽梅だヨ相變らず苦しんで居るだらう、些とは景氣が直つた樣子か

ト頻りに故鄕の景況を問かけらるるに齋藤孝は粗忽無類の者なれど致つて心の正直にて感情最も深き性とて茲に至つて何事をか思ひ出してや兩眼に淚を浮て差俯しが元來孝は柏崎の船積問屋の長男にて有德に育ちし者なれど幼稚頃より學問を好みて父母に東京へ遊學したしと請けるが孝は性質柔和にして身體最も虛弱なれば優形にして色白く女にしても見まほしき美男子なるゆゑ父母の寵愛とても餘の子に勝れ荒き風にも當ずして固より物に事缺ぬ富豪の家の事なれば心の儘に育てしより遠き旅路に出し遣り艱苦をさするが愛らしさに事に託して許さゞりしを孝は殊にもどかしく我が小遣とて貰ひたる貯金の額かあるを旅費となして一封の書を止めしまゝ出京したる其の熱心に兩親も初めて心を勵まされ父が自ら上京して學資を與へ大學へ遂に入校したりしなるが素より知らぬ卓一なれど同縣人が窮迫を見るに忍びず幾度も學資を願つて惠みしより無二の知友となりけるなり

斯く實直の者なれど唯一癖ともいふべきは至つて精神急しく人に勝れし疎忽な性質故往々事を仕損じては後悔する事多けれども然ればとて輕燥浮薄の心は更にあるものならねば暑中休暇に歸省の折にも自ら家苞を購需めて三俣村なる越山が家に到りて卓一の無事に勸學する由を詳さに傳へて卓一より依賴されたるものの如くに彼の品物を贈りなどしつ歸京の途にも故さらに三俣村へ立越して傳言すべき事を聞き總て越山卓一が有爲の才を懷きながら素志を伸るの機あらぬを眞心よりして愛憐し崇信の意を表するより諸事信實に關旋せるなり這時孝はハンカ

チーフに汗と涙を倶に拭ひて

(孝)越山君、君は未だ知らなからうが、斯う言ては失敬だけれど君の一家は非常な……

(卓)非常なたア何んな事でだ (孝)實に君が喫驚するだらうと思つて僕は君の心中を察しるヨ、マア聞給へ、君の處の親父は拘引されたヨ、サア夫だから君の心中を察しるのサ、マア驚かないで聞給へ、夫んな事ア知らないから例のそゝくさで飛び込んで見ると驚いたネエ、母親は大病で寐てるシ妹君は枕上でメソメソ泣てるだらう、ハテナ此間まで壯健であつた作左衞門(卓一の父の名)さんが何して急に死なれたらう京阪地方や神戸の方にやア虎列剌病が流行といふから若しや……、だから驚いたのも無理はなからう能く〳〵聞て見りやアお氣の毒な噺しサ (卓)眞個かエ君、欺ぐと承知をしないヨ (孝)馬鹿な事を言ひ給ふな何で僕が君を欺ぐものか、人面白くもない君は僕の心中を知らないか今まで君に計りやア內密の事をさへ打明て云ぢやアないか

(卓)夫んなに怒ッちやア困るよ、餘まり意外の談話だから夫れでア、言たのだから惡く思つて呉れては困るヨ、エ、君、君は定めて其の仔細を妹に聞たらうネ (孝)ウム聞たヨ、全く賊の嫌疑ださうだ (卓)親父が賊だとエ、何で夫んな嫌疑が係つたのだらう實に不思議だ (孝)夫が實に不思議な話しさ、僕も判然分らないが何でも租稅の事から公賣處分にも成る處を何處で計算して來たのか作左衞門さんが幾干かの金を上納したさうだが、此が記憶して置く處だヨ、丁度其の時に戸長役場の金が幾干だか紛失したさうだ、ネ、機會が惡かつたものだから何でも……、といふ譯で、ソラ、馬鹿な話しぢやアないか

(卓)ヘエー

トばかりに答へもなく腕拱きて尋思に呉れ目を閉ぢ眉を非常に顰めて頻りに吐息を吻居たるが十分間程經過して俄然眼を睜きつゝ瞳を膝の上に注ぎ

(卓)齋藤君、能く聞て來て下すッた、書信一つない處から僕は些とも知らず居た、宜しい明日の一番汽車で直に僕は歸省するヨ、君も知つてる通り僕の親父は極正直だから決して夫んな事をする氣遣はない、併し家の先生にも相談して是非とも無罪になるやうない考案を付けて貰はう、君の信義は忘れないヨ (孝)夫んなに禮を言ふにやア及ばない。失敬だが金は (卓)先生に愁訴するより外手段なしサ (孝)さう〳〵主人の世話にも成れまいから僕が餞別をしよう、ツー、パウンドでは足りないか (卓)拾圓か、夫んなに旅費が入るものかソシテ君に夫れを借りては (孝)馬鹿律儀を言給ふな、是を其方へ納め給へ (卓)實に何とも……〇ト少しく涙聲になる (孝)左樣なら、明日は一番汽車だネ、上野で逢ふヨ、ア、痛い (卓)何したエ (孝)ナアニ頭が柱と鉢合せをしたのサ、痛エ (卓)氣を付けて往き給へ、ア、また夾囊を忘れて行た、實に疎忽かしい男だ、併し年は往ないが那んな親切な朋友もないものサ

ト獨り言つゝ齋藤より送り呉れたる拾圓の紙幣を袂へ押入れて孝が忘れし夾囊を手早く革盤の中へ納め浴衣の前を搔合せてランプを少し引込せ緣側傳ひに主人の居間へ到りて見れば博智は妹お今と睦まじく棊盤を中にさし對ひ團扇遣ひも他所にして

(博)ソレ お今さん當りだヨ (今)オヤ〳〵お兄いさん、アレいけませんヨ (博)夫れぢやア一手待う、此方のわたりを先におしな (今)鳥渡待て下さいましヨ誰か來たやうでございますから、オヤ誰かお客樣かと思つたヨ 何か御用ですか、お兄いさま越山さんが (博)オ、越

山、マア此方へお出で、大層色が惡いが何うかしたのかエ時候が惡いから食物に注意せんでは成ませんぞ、將來に望のある身は身體の健康を第一に保存しなくツてはいかん、何か內用でもあるのかエ（卓）へエ少々伺ひたい事がございまして（今）妾はお茶を入れて參ませう（卓）イ、エ、內用ではございません、先生、御暇を願たうございます（博）暇を吳ろツて、雇ひ入れの契約をした者ではなし何も改めて暇を取るの遣るのといふ理窟はない、夫りやア外へ往きたけりやア强て私が干涉する權もなければ君の自由に任せようが信義上から考へると君の方向とか行先とかの善惡に由つては隨分止めないとも言れんサ、何か君、口論のでもしたのではないか、腹藏のない處を言て御覽（卓）ナニ口論などを致した譯ではございません實は至急に歸國をしなくツては濟ない事が出來まして（博）何だツて、歸國をせんでは…、夫りやア何いふ仔細で（卓）へエ、唯今大學に居ります朋友が歸省をした、申して訪ねて吳れましたのに漠とした話談ではございますが父が官金竊取の嫌疑だとやらで拘引をされましたさうでございます、母も大病で危篤な容子旁々妹一人に家事を任して置といふ次第にも參りませんから先生には一方ならぬ御高恩を受まして、朝夕御敎育も受ましたのに突然お暇を願つて歸國致しますのは如何も遺憾に思ひますれど右の譯ゆゑ惡からず御承引を願ます（博）夫れは飛んだ事だ、定めて御心配だらう、マア兎も角も至急御歸鄕が第一だが併し一寸といふ譯にも往くまい、エ、ツ阿今さん彼方の支那革盤を持て來てお吳れナ（今）ハア

ト阿今の起て行く後に中島博智は仔細に越山卓一の面色動靜倚々と打守りて居たりしが膝立直して聲を低め

（博）越山、君は東京で得た知識を東京で活用しようといふ精神か夫れとも地方へ輸出して權衡を得ようといふ精神か（卓）未だ中々運用する丈けの知識を得ませんうちに斯いふ事が出來まして實に不幸の限りでございます（博）ナニサ、得る得ないに構はらず全體の精神はサ（卓）目的などと申しては生意氣な言分ですが一體私は都會にばかり學者を集めるのが專制の一原因と信じて居ります（博）ナアル程、さういふ君の精神なら及ばずながら向後とも私が御世話をしようから一旦の失敗に挫折せず一層勉强をするがい丶、必ず屈しちやアいけませんぞ、ソシテ何日發足のお積りだエ（卓）へエ一時間を爭ふ事ですから明朝の一番汽車にて（博）碓氷はまだ鐵道が通るまいから一日はむづかしからう（卓）イ丶エナニ北越鐵道の間にさへ合ますれば何にか角にか一日に參れませう

ト いふ折阿今は支那革盤を下女と二人で持來り

（今）お兄イさん是でございませうネ（博）ア丶夫だ〳〵鍵がついてるなら開てお吳ナ（今）ハア、オヤマア大層な埃だ事（博）越山、甚だ失敬だが少々旅費を進ぜよう、イヤ辭退は廢すべしだ私は君を憐れんで進ぜようといふのではない君と密着の關係がある才識に餞別するのサ、是れは米國の友人から送つて來た社會學の高尙な書だから持て行て讀むがいい、今まで御用立た書物も衣服も最初ツから上げる積りであつたから悉皆持て行くがい丶ヨ、若し法律上の問題があつたら利益になるやうな考案を付けようから遠慮なしに問合すとし給へ、今夜は一酌くむ筈だけれど君の精神を察しるから離杯はモウ廢にしよう、氣が急くだらうから遠慮しないで早く荷造をおし（卓）一方ならぬ御厚情に預りました上また過分な頂戴ものを…難有うございます、左

やらなら先生、御孃さん何も永々御厄介になりましたエー、何れ後程お暇乞ひに參りますが誠に何も種々と難有うございます

ト別れ惜氣に兩人は幾回となく挨拶なし惠みの金と書物とを押戴きつ緣側傳ひ小腰に子房へ立歸れど未だ二人の者は歸らず此間にこそと成業を誓つて鄕關を出し折笈とも見てし古行裏開くも力なさけなき世をしかすがに假歎つゝ主人が惠みに寒を攘り暑を避たりし洋服と和服の種々疊み換へ收めし上に我が身には千萬金にも換難き書册を列べて荷造も央了りし其の處へ廊下に人の跫音して障子を開き入り來るは餘人にあらぬ阿今なり卓一急ぎ席を拂ひてランプを少しく明るくして

(卓)取散かしましてマア此んな、不潔處へ、少し片付ませう(今)ナニ夫れにやア及びませんヨ、アノー越山さん、貴下は愈々明朝お發足なさいますノ、誠に飛だ御心配が出來ましたッてネエ嘸マアお心懸りで入ッしやいませうと存じましてお留申す譯にも參りませず、眞個にお名殘惜うございますヨ(卓)お世話にばッかり成りまして些ともお役に立ないうちに此んな出來事が……、先生へ何ぞ宜しう(今)兄も左樣に申して居りましたヨ何ぞ早く御心配な事が落着て直ぐ御出京になればいゝッて、越山さん、妾も何かお餞別を上げたいと存じましたがネ御邪魔になる物を上ましてもと思ひましてアノー誠にお恥しい物ですが是は此次の慈善會に出しませうと思つて拵へました手製の下着ですが醜うはございますけれどお持なすッて下さいナ、夫から此半襟と簪兒はネまだ一遍も用ゐませんのですから御妹子さんに上て下さいまし、眞個に碌なンぢやア有ませんヨ

ト心を籠し贈り物置て別れを惜みつゝ阿今は奥へ入りけるが思ひの外に卓一は幾多の物を惠まれて最いと厚意をうち悅び其の翌る朝第六時の上野發車にうち乘て越路の家にぞ急ぎ去りぬる

第二回　襤褸の錦

根底の張らざる樹木は必らず枝葉の繁茂することなし農は國の根底なり農富ざれば國を富さんとするも得べからず枝葉をのみ徒らに繁茂せしめんとして其の根に培はざる橐駝師は裝飾に意を用ゐて柱礎の崩るゝを顧慮ざる建築師と一般なるべし國の富源と仰がれたる農家の果して富めるや否や細かに眼を止めて觀察れば金を鑠す炎天に面を炙かれて一介の日を覆ふべきものもなき田畑に鍬を弄そび粒々辛苦に屈せず撓ゆまず星を戴いて家を出で月を步んで家に入る長の終日勞働して室に入れども渴を醫するに醇酒佳釀のあるにあらず飢を凌ぐに滋味膏粱のあるにもあらで唯僅かに澁茶を啜り麥を咬み綾羅錦繡は日にだも觸れず手織の木綿を幾十回洗ひ洒して絲針の及ぶ限りは縫綴り粘のみ强き荒布を纏ひて月洩る檐に夜を眠る夫れすら近年うち絕て今は草根木實を食み或は蓬を土に和し少しの米を搗交て一家の口を肥すまで約やかに日を送れど調租の代にも足らずして田畑を失ひ家に離れ餓莩は路に橫はり妻子は溝壑に轉ずるてふ慘況名狀すべからず餓に泣く子の聲を聞く母は餘生の徒らに盡ぬを憾むの外はなく渴に堪かね呻吟する良人の狀を看る妻は血を搾りても與へたかるべし良田沃野はなきにあらず五風十雨の順を得て豐登の秋のなきにあらねど細民のみぞ多かりける此の憐れむべき細民の中に其の身を算へられたる彼の越山卓一は多年研究の學才を空しく瘠土の下に埋め三俣村の伏家に在りて耒耜を把る手の間もなく朝な夕なに慣親しみし書物に疎く離れつゝ憂を憂しとも思はずして田畑に月日を送り行く果敢なき人の身の上を憐れ


（原本挿畫）

む者はありながら是れさへ奔走勞働して衣食するより外あらねば唯其の心を通はすのみまた詮術もあらざりけり頃及夏も盛りなる八月下浣の事になん越路は苗の生長も他國に比すれば較や晩く何方にても二番草とる手も勞るゝ停午過ぎ小晝といひて小歇みの間を偸む書見の眼たどり勞れぬ勉勵は賤心なき田舍人の身にも感を起しけん鍬を杖き兩三人

(甲)アレ見さッせえ越山の若いのは何とも魂消た書物好きぢやアねえか、己が處の餓鬼なんざア學校へ上げるといつたら聞ッせえマア斯だ、エ、學校なんぞへ上る位なら泥棒して懲役にいつた方が增しだッて何とマア呆れて口も听れやしねえ、卓一さんの爪でも煎じて飲してえわサ（乙）お前の言ッしやる通りだ此んな人を戶長さんにしたら何なにか下が樂をするだらうによ、考へて見りやア卓一さんも誠に薄命な人ぢやアねえか折角東京へ行て學問をしてござッしやッたのに作左衞門どんが那した譯になんなすッたもんだから直と歸つて來なすッても親父さんには遭れないシ老母どんは大病だし警察へ行たり戶長役場へ行たり苦勞ばかりさッしやる中に東京から持て歸らッしやッたお金も皆インな費つて仕舞まだ足ねえッて衣服を賣り、イヤハヤ可哀さうに何も彼も手ッぱらひで今ぢやア人に追使はれ我田の事も手一つに遣てござる彼の子の了簡が己らア不憐でならねえヨ（甲）然だ然だ、高い聲ぢやア言れン事だが作左衞門どんの一件も何だが人の噂ぢやア戶長野郎の弟どのが遣付たのを隱さう爲めに附會けたンだといふ事だが日頃正直な作左衞門どんに曇り霞みのねえ事ア己ア達も知てるけれど證據がねえのは一番困る（乙）人事よりやア自分の上だドレ早く遣付べいか

ト四方構はぬ高噺し人の善惡事言棄て我が指す方へ往く後に本讀さして卓一は蓬頭亂鬢肩に垂れ顏垢づきて青黑く兩眼凹みて瞳鋭く肉落たるや頰骨現はれ凄然とせる眼を閉て嘆息する事良や久しく問ふ人なければ一語だも發しもなさで急がはしく書物を收め鍬を携へ元の蒼田に飛入りつゝ畔の破損を繕ひて稻の間を搔分けては草を攘へる太股に田蛭の吸着き然でだに蔬食に瘦する血を奪ふは憎みても亦餘りあり時も五時にや近づきけん日脚の低る頃までに全く仕事の終りしか手速く耒耜を取收めて檐も傾く我が家に歸るを背戶に洗濯せし妹阿雪は目敏く見て

(雪)兄さんお歸りなさいまし、今朝貴兄がお出ましなすッた後では母上さんも大層御氣分がいゝッてお藥も澤山上りましたシ、そしてアノー米のお粥が上りたいと仰しやいましたからお隣の叔父さんに爾いつて御無心申した上拵へて上ましたらネ珍しく二杯召上りましたヨ

ト常に變らぬ愛々しき妹が顏を見るにつけ大志を懷く卓一も斯る貧窶を憂しとせで最老實に立

働く心を酌みて心中に酸鼻めるを押包み鍬を下して汗を拭ひ

(卓)爾か、夫れはマア宜い鹽梅だ其の分で漸々と御食氣が付いたならモウ近々に御全快なさるだらうヨ是といふもお雪さん汝が能く朝晩の御藥から何からに能く氣を着けて御看病を申した效しだ汝も定めし看病の仕榮があつて嬉しからうアノ、母さんはお目が覺てるか(雪)イヽエ今能く睡眠て入ッしやい升から(卓)夫ぢやア後でお目に懸らう、其處の着物を出しとイてお吳れ私は納屋で一と仕事するから(雪)ハイ畏まりました

ト急しく起て母屋の方上る妹に納屋の方入る卓一に引違へて是も同じく野良歸り貧を知つても富むといふことを圖らぬ小作人銜へ烟管に鋤鍬を一荷に肩へあげ泥の凹凸路を拾ひつゝ親類うちの甚太兵衞干庭口から莞爾と手ばなかむ手に烟管を持ち替へ上框に腰掛話し

(甚)お雪坊いつも能く働くな、何だ母公は些たアいゝか己もチョコ〳〵見舞うと思つて居ながらツイ〳〵貧乏暇なしで此の四五日はえらい無沙汰をしたッけなう(雪)オヤ〳〵叔父さん入ッしやいまし久しくお出なさいませんから何なすッたかと存じましたヨ、マア此方へお懸なさいまし(甚)何だ阿母は寢てるかナ、オヽよし〳〵起さねえ方が話がしよいサ、而して兄イはモウ歸ッたか(雪)ハア今納屋で仕事をして居ますが鳥渡呼んで參りませう(甚)ナニ〳〵夫れにも及ばない兄イは大した學者といふから己のやうな土百姓は何だかドギマギして口が昕憎いお前に話しをしとくから後で兄イに話して吳んな(雪)ハイ〳〵畏まりました何だか知りませんが妾に言へる事なら(甚)ナアニ六かしい事ぢやアねえ斯いふ譯だヨ聞て吳んな、此方の家の作左衞門どんなウ、何した惡魔がさしたのだか聞ても慄とするやうな戸長役場の官金とやらを盜ましやッたとて嫌な事、巡査さんに警察署へ伴れ往れたのはツイ此間の事のやうだにモウ、エヽッと、丁度今日で百日餘だが烏の啼ねえ日はあつても作左衞門どんは何した事やら三度の食事はお賄ひで樂々と食べられても家に居るやうに自駄落ッ返して寢轉んでも居れまい嘸窮屈な事だンベエと毎日々々案じて居たが今日鹽澤まで行た人が歸ッて己に話すには作左衞門どんが警察署から縛られて出て行くのを見たから何なつたのかと思つて聞て見たら概略罪科が極つたので長岡の支廳へ送りに成たのといふ事だがマア可哀さうに瘦衰へて見る目はなかつたと知らして吳れたヨ己の考えぢやア萬一すると貧に迫つた出來心で遣かした……イヤ〳〵此な事は滅多に言へないが送りに成ると何するものだか何でも兄イに篤くりと話しをした上宜い分別を出して貰はなくッちやア成ぬわエ、ヨーお雪坊合點か、夫はさうと病人に斯な事を聞したら一倍病氣が重らうから必ず默言て居る事だぞ(雪)エー〳〵親父さんの事は何にも聞せはしませんヨ、叔父さん夫は眞個ですか(甚)何で譃を吐くものかョ能く兄イに話して吳んな晩に聞に來ませう

トお雪が出せし狗姑茶の煮出し一と息グウと飲干て挨拶さへも匆々に元來し路へ立歸る叔父が談話の安からぬに阿雪は獨り左思右考胸に尋思もくれの空吻とつき出す入相の鐘に驚き取散せし洗ひ布子や切々の戸張の布のおくび形曲り挫りし板敷を下て手早く取入るゝ納屋の裡には卓一が藁うつ杵を投棄て蒼む門田を眺めつゝ腦を痛むる感慨は轉熱度を加へ來けん思はず識らず口の裏

(卓)アー〳〵考へりやア考へる程世の中の物事程思ひ通りに往かンものはない、エー日本

に新知識を輸入してから人心の變動は一方ならない事だッたが先づ維新の大業が何か斯か緒に就た時大久保が遷都の議を上つたのは維新の大業を成就せしめようといふには京都の樣に地勢が狹隘で別に一疆をなした處ぢやア所詮天下の大權を握つて四方に號令する事が出來ないから大阪へ都を遷して御親裁の實を行はなくッちやア成らないといふ處から先づ東京を帝都と定めて百般の政令を出す中央都府としたのは當時に在ては誠に此上もない上乘の策で我も人も大久保の先見を賞賛した事であつたが荏苒知らずに中央集權の弊が出て來て政權は勿論智權も金權も皆な東京へ集ッちまッて少し資本を持たり事業でも興さうといふ見識のある者は一人も地方に居ない事に成たが元々地方が幹で東京が花だから今の樣に那なに榮えてるやうでも肝腎の幹が此んなに枯ッちまッては花も永くは榮える譯には往くまい

夫でなくッてさへ此の越後といふ處は貧富の懸隔が甚だしくッて恰好今の東京が榮えて各地方が疲弊してると言た樣な形で何の村へ往ても一人づつは必ず富豪家がある代りにやア多數の人民は皆な酷い細民で粒々辛苦の膏血は一人の富豪家を富ます爲めに絞り出す始末とは何考へても歎はしい事だ、ウム―此んな青々と成長した米穀も苗のうちから育上げて植付から肥うち一番艸から二番艸三番艸を仕舞た後も蟲を燒たり鳥を追たり夜の目も合さないで登を待ちソラ秋の收穫と成た段が男女擧つて稻を刈るわ穗を干すわヤレ籾摺だソレ石造だと目の廻るやうに立働いて漸と苞に造つた揚句が皆な富豪の藏へ收めて偶々自分の物となつても租稅の爲めに捨賣同樣賣てしまへば一家の口へは一粒たりとも這入ないが夫れも或人の說の通り以前怠惰たり奢侈たりした酬いだといやア夫れまでの事だが、マア何も困るのは折角の富豪家どのが今の分で居て呉れりやア未だしもだけれど萬一とすると富豪家どのまで倶潰れと成た日にやア當路者は何するだらうか、夫丈にはならないまでも斯年々に貧富懸隔の度が甚だしく成ると細民が食ふに困つて一揆でも起しかねない氣象に成た處へ疎暴過激の徒が加はつて煽動でもされた日にやア社會黨を見たやうなことが起つてボーイ、コッチングと言たやうな事でも始まるか一歩を進めばドンナ擾亂を起すかも知れない併しマサカに斯るイヤらしき事をするまでにも至らず其内にはドウかなるだらうと思ふが死者狂ひといふ奴と此んな事を好機會として煽動する奴が折々あるから夫れが何より憂ふべき話しだ先年來から新潟新聞や日々新聞高田新聞などへ東京から來た先生達が筆を秃らして論じたり舌を爛らして辯じたり種々に此の點に向つての高說もあつたから及ばずながら一身を犧牲に供して中央集權の弊害を破り地方自治の制度を立ようといふ決心をして東京へ出て見た處、幸ひにも中島先生のやうな有志家に世話を受け又齋藤を見たやうに其の身富豪の家に生れながら貧富平均の說を懷いて分權制度に熱心な朋友を得たから必至に素志を遂たいと思つた精神の貫ぬかないのみか、父は鐵窓の下に繫れ母は九死の中に在り素志を伸る處か恩賜の物まで食盡して今では腕を食ふに至る、嗚呼天道は是か非かだ、噫

トばかりに浩歎して國を懷ひ師を想ひ父母を思ひ友を念ひまた妹が上を憐れみ我が身を思ふ憂愁に幾多の感慨胸を衝き凄然として頭を擡げ睨瞳む眼に紅淚を泛べし悄慨悲憤せる情態は他の見る目も悲愴なり時に表に覺然と遽だしげに人音して納屋の戸口の繩簾半ば捲げて妹の

阿雪尋常ならぬ顔色しつ

(雪)兄さん、一寸、アノー戸長さんがお出なすツてネ(卓)戸長さんが來た、私に會たいと言てか(雪)ハア今日は何でも會て談判をしなくツてト土間へ立跨つてサ(卓)母公さんは未だお目は覺まいネ(雪)モウ先刻からスヤ〳〵と(卓)止し〳〵

ト塵うち拂ひ今はしも只一枚なる單物肌に纏ひて帶引締め起上りしが何事か胸に支ふる事ありけん兩眼を閉ぢ眉を顰めて霎時思想を凝せしのち漸く母屋に入り來り挨拶なして座敷に上るを宛も獰惡なる眼光にて睥睨したる此の戸長は當村第一の富豪家にて名を森村剛藏といひ本年四十二歳なり心事は未だ知るを得ざれど顏方にして頭大きく頰骨尖りて頰肉薄し鼻は隆く眼は大に眼光最も鋭き方なり頭髮短く眉毛薄く脣厚く口廣し色は赤き方にして丈昂く肥太れり瞳を眼の上部に止めて仔細に人を見るの癖あり吐音銅を鳴すに似て聲甚だ清からず肩を峙て胸を張て眦を時々動すは癇ある人と見られたり總じて偉大なる方にて人を侮どる風あるは歩行の姿に著るき

(卓)是は旦那お出なさいまし、此方が風が能く通りますから(剛)イヤ〳〵爾優長にはして居られんコレ卓一貴樣は東京へ行て學問をして來たといふが生意氣な口ばかり听くのが學者でもなかろう、ヨーコレ、地租を納めるのは國民たる者の義務だぞ其の義務を怠つても宜いものか、アー何だ未だ、夫ばかりぢやアない家屋税は何時納めるのだ、貴樣の樣に爾遲々〳〵して居ちやア役場の事務が上らんワ、收税屬樣の御廻りにならん中早く片を着たいと思やア貴樣の樣な邪魔が出て困るぢやないか、ウン、夫だから書記を催促に遣しても小理窟を云といふから今日は己が出て來たのだ、サア公賣處分を受る氣か租税を立派に納めるか頑固(斷乎なり)とした返答を聞う(卓)成程地租も家屋税も納める積りでは(剛)コレコレ、゜では濟さぬぞ夫だからいふのだ、僅ばかりの地面家作を持て居ないで己の方へ賣渡せば宜い樣に支配をして遣うとサ、第一少し位なものを分持にして居るから面倒が起るのだから己が一手に持て村中總體に己の支配道理に仕さへすれば些とも不都合が起るものではない公賣處分が否なれば已に人權(全權)を任せるとしろ、理窟も條理もあつたものか

ト漸次に募る高聲に阿雪は母の目な覺そと案じに隔つ破屏風外には戸長が强談に卓一怒り心頭に發する胸を鎭めても納まりかぬる必迫に唯慨氣のみ腔に滿ち說破られぬ煩悶は如何苦しき事なりけん觀人宜しく推測すべし

第三回　歌吹の臺

玉簾深く垂れて風徐ろに薫り瑤臺席淸らかにして涼自ら來る三層の石樓雲宵に聳え無數の樹亭水園に望む食前方丈侍婢三千出る時は輕車を驅り入る時は綾羅に臥す門外十步塵を止めず後園十畝花絕えず白堊赤石色鮮けく碧沙蒼松相映じて一日富有の家とぞ知れぬる此處なん麴町區土手三番町なる貴族春川俊爾が新第なり近日樓閣庭園の新築全く落成したれば公務の頻繁身も足らざる寸暇を偸んで夜會を催し知己朋友を招待せんとて數週前より京濱間の內外人へ招待劵を發送したりし其の數の夥多しきにて此の貴族が名譽の門地に久しく在り最も盛んに交際を結ぶ人とは知られたり該の筵會は專らに歐米風を旨として招待劵も夫人より多くは發送せられしが中には令孃艷子の名をもて招かれたるもありけるにぞ既に夜會を行ふべき九月第三土曜日の午後五時頃となりければ阡陌を走る車馬の轢り東道を求むる電機の響き轟々錚々賑ひて休憩所として設けたる溜座敷

の長崎子は全く空隙なきに至れり招待せられし種類を見るに止ん事なき方様より内閣諸卿は秘書官を伴ひ陸海の諸將は傳令使を隨す顯官貴族外國公使及び御雇外人あり中に就て獨逸人は過半數を占めたる如く佛蘭西人と亞米利加人は交際官の其外には誠に稀に見受らる京濱間なる紳士の種屬は保守主義を持つ學者著述家新聞記者と商人のみ主人が平素抱持せる政治の主義を知るに足りなん唯其の中に一人の自由家彼の中島博智は主人が獨逸に在し頃偶々知己となりけるより今日の筵に招待せられ妹阿今は貴女艶子と英學會の學友なり且は慈善會の會友にて交際のある中なれば共に招待せられしなり婦客は多く伴侶にして夫人の外は結婚なき紳士の假に誘ひ來し令嬢のみと見られたるが此方の席には春川の夫人と艶子が歡待して來會せられし厚意の程を深く悦び苔未だ乾かぬ前栽に粗日の陰るを見定めて幾ケ所となく設けたる珈琲の茶亭へ誘引し種々の球戯をなし抔しつ男女互みに打混じて最と睦ましく時刻を送れる快樂の中を周旋する艶子は頻りに紳士のうちなる年齒弱きを注目したれど用ある人を認め得ざるか阿今を招きて莞爾に手を握りつゝ四方を見遣りて

(艶)今日は能く入ッしゃられましたね、態々お招待申しましても未だ普請が漸と出來ましたばかりですから殺風景とやらで困りますワ(今)何も大層お美事な御普請でございますヨ鹿鳴館や何かは立派は立派ですけれども唯大きい計りで間毎の粧飾が中々御邸のやうには參りませんヨ定めて御前が獨逸で御覽になつた建築で御在ませうネエ(艶)ナニネ誠に面白くない建築ですけれども那のボックマンが懇意なもンですから製圖をして戴いたのを其儘建させたので御在ますが何いふものか日本の建築は訝アしく成て巴黎や白靈にある恪イな商館程にも見られませんネエ(今)爾でございますかネエ兄なんぞは那なに永く歐羅巴や亞米利加へ參つて居まして種々な處を見て參りましたから妾の服などにも氣を着て呉ますが妾なんぞは築地や濱へ行て拜見するばかりですから斯な御立派な御邸を拜見しますると何なにか喫驚致しませうアノー、甚だ自由ケましい事ですが少し御邸の中を拜見させて下さいませんか(艶)エー〳〵、御案内致しませうとも、眞個に未だ仕方が御在ませんヨ

ト艶子は阿今を誘ひて芙蓉の花園を過行くに下萌茂る萩桔梗尾花に交る女郎花艶を競ひ媚を爭へど有情の花に氣壓れて集き初たる松蟲も聲恥かしき風情なり艶子が姿は既に說たり阿今が風采如何といふに斯く並行びたる處を見れば艶子の丈より低けれども肉附誠に相應しく鼻隆くして赤唇は常に笑ひを含める如し半輪の蛾眉柳絲の如く瑠璃色の玉眼重瞼ならず隠較や短かく頸細く肌膚は最も緻密にして純白の色照を持り唯頭髮の濃からずして毛際少しく薄らかなるぞ瓊瑛の微瑕ともいふべきか才氣の表に發せざるは幼少よりして嚴格なる教を受しと性質の沈靜なるに基くならん人に詞を交ふる時は微笑を帶て下を向き兼て他人の面を見ざるは奥床しくして優かなり妙齡二八の春濃かにて艶子に比すれば初々しく交際場裏は賑しからねど人に依りなば月旦の先づ第一に置くべきか艶子は頻りに談話を挑みて花を手折蟲を追勤めて阿今の心を得んと種々にして慰さめつ智辯を振つて談笑するを阿今は常に微笑して一歩を艶子に讓りつゝ僅かに詞敵となり榭亭泉水芝原など普ねく見巡り樓閣のうちに徐々歩みを運びぬ

樓上樓下隈もなく艶子の誘引する儘に阿今は室毎の結構美麗魂飛び眼眩むまで見物なして二階なる艶子の爲に設けある書齋に入りて軟か

き椅子に等しく腰うち掛け壁上にある扁額の半身像を指ざして
(艶)此の寫眞繪はネ 妾が獨逸に居りました時畫學の先生に願つて描て貰ひました 妾の師匠の一人でございますが 一寸見ると日本人のやうですネエ、此の方はネ永アく英國の法學院とかへ留學をしてバリストルに成たお方でございますが未だ三十か其邊で羨ましい程名譽のある先生でございますサ(今)左樣でございますかネエ何しても彼方の人は立派でございますすネ(艶)オヤマア貴女は歐羅巴人がお好で入ッしやいますか 妾なんぞはオ、嫌な事、唯學問と智慧が慕はしいばかりですワ 妾なんぞは日本人が依然宜しい○此の時阿今は眞面目に成て少しく形を正しつゝ(今)アラ爾ぢやアございません貴女だッて爾ぢやアございませんか近い話しが文明の先進國丈に服裝から建築まで日本より立勝つて居るからこそ斯なに立派な御普請もなすッたし不斷洋服を召して入ッしやるンでせう夫御覽なさい教育にしろ學問にしろ所詮日本は遠く及びませんぢやア御在ませんかお政治向から交際法から法律でも兵制でも一から十まで皆んな西洋風を模すのでございますだらうネエ、貴女、妾が立派だと申したのを直に訝アしくお取遊さなくッても貴女だッて其邊の事は 妾なんぞよりは能く御存じで入ッしやるのに……
ト顏を赧めて俯向たる儘正面よりして說破るに艶子は意中の齟齬したれど怜悧の才に氣を轉じて故らに笑を粧ひつ
(艶)オホヽヽヽヽ眞個にお今さんは正直で入ッしやるに串戲ですからお腹をお立なさらなくッても宜う御在ます、エヽー貴女の仰しやる通り所詮未だ〳〵西洋人と一緒にやア申されませんから猶更の事日本人の氣象を引立るやうに 妾輩もマア、ネエ、旦那樣の發明な人を撰んで文明國の女中方程には往なくッても切ては力に成合つて外を勵すやうな事に仕たいもんだと、存じて居りますのサ
(今)御免下さいましョ 妾は誠に一徹なもんですから人樣に失禮を申し上て毎度兄に叱られますが自分でも愛想が盡ますワ、眞個に貴女の仰しやる通り慈善會だの舞踏會だのッて追々男の性質を知るやうな會が御在ますのに未だ干涉結婚とやら計りですから百年の苦樂他人に因るとか申す通りございますネエ
(艶)併し貴女は何いふ方にマア其の、ナニサ百年の苦樂を任せようと思し召す(今)妾ですか何いふ人だッて夫な事は……(艶)夫なにお隱しなさらなくッても宜しう御在ますヨ誰しも斯いふ人とか那いふ人とか思つてる事が御在まさアネ、ネエお今さん 妾は法律家が一番男らしくッて面白からうと存じますヨ、アノー先達て競馬のあつた時に精養軒の前でお目に懸りましたネエ那の時貴女はお兄イ樣と御一緒に何處へ入ッしやいました(今)アヽラ貴女でございましたか、何だかお馬車の中で些とも分りませんもンですから誠に失禮を致しましたヨ(艶)ナアニ夫はお互ひ樣ですヨ未だお兄イ樣はお獨身で入ッしやいますか(今)嫂でも出來ますと 妾も世話の仕て吳人があつて宜うございますけれど少し洋學の出來る女でなくッては子の教育を任せる事が出來んからと申して(艶)エ何でございますテ夫ぢやア歐羅巴風の教育を受た女が欲いと仰しやるの……眞個に嬉しい事ネエ
ト思ひ焦れし我が胸に會うて嬉しき笑ひ顏明て意中は語らねどかけて告げなん傳語機の知せに心も止らずして阿今を敬愛する念慮は此に倍々加はりつゝ肉身分たる姉妹より猶も親しく懷しき誠を疾に運ばしたく
(艶)アノー阿今さん、妾は大變に貴女を信

じて居ますが貴女に心が通じますか（今）斯申しちやア上手を遣ふやうで何でございますが人と申します者は妙なもので御在まして貴女とお交際を申しましてから妾の様な至らない者を能く御親切に成ツて下さいますので眞個に貴女を實の姉の様に存じまして常々父や母の處へも妾には女の姉妹がなくつて心細く思つて居ましたに斯いふお方があつて誠に御深切になすつて下さると申して遣るので御在ますヨ夫だもンですから兄も常始終春川の艶子さんは了得に洋行まで成ツた程あつて感心だお前も能く見習へと申して居ますワ（艶）エー眞個に……夫なに煽動ちやア否でございますヨ夫なら是から姉妹の約束をして下さいナ宜しうございますか

ト語を變ふる其の内に無量の意味ぞ籠れるなるべし折しも遙かの舞踏室にて俄然ピヤナの聲起るに餘談を惜みて相携へ急ぎ階梯を降り行く時しも既に黄昏て無數の銀燭燦爛と鏤彫め飾る金光に映じて虚空に花を織り翠藍更に鮮たなる苑には小埠の中央に一千有餘の燭光ある電機燈に千種を照させ雄趣壯觀また更に日を慰さむるに餘りあり三層樓の中心に故ら設けし舞踏場にはピヤナの調節面白く瀏朗として澄渡り男女互ひに相携へ賓主交も打混じて手を把り足を踏揃へ「謡」君が御苑の松に栖む。千年の友の田鶴の聲。泉水の淵に維游ぶ。今日の團欒ぞ樂しかる。續高かる人の身は。仰がるゝこそ愛たけれ」と唱歌に伴れて歩を運び環の端の限なく踊り旋れる其の中にも艶子は意中にある人とともに携へ踏らんと我が手を握る其の人には心も注らで一向に彼方へとのみ身を寄するに又も歌吹の節高く「謡」花に囀るも鳥の。聲にも春の色見えし。君に思ひをかけ橋の。渡り遂せる樂しさよ。續高かる人の身は。仰がるゝこそ愛たけれ」と聞く身は最ど切なくて寄らまくすれば生憎に中を隔の父が組み亂れては合ひ會てまた亂るゝ間遠ざかり念ひ續るゝかた絲のよりも着かれず徒らに燃るは照す花瓦斯の花なき君が心かな那方の玉手に依る人は如何なる果報のある人ぞ妬しきよと目を注て見れば中島博智は妹阿今を敵手に踊り戯れ折々に此方を見やる體なれば艶子の妬心も半去り半嬉しく悦ばしき舞踏の筵も音樂の聲倶々に收まりければ是より更に樓上なる饗應室へ誘ひて山野河海の珍産佳殽に舌を鼓して厚意を謝し和英普佛の醇酒美釀に醉を買つゝ愉快を談じ再び舞踏を催すあり又は庭前數十の茶店に渇きを醫するあり或ひは交友相集り烟を吹て笑話する中にも中島博智は此の日朝より法廷に立盡したる事なれば痛く疲勞を覺えし上銘酊の度を超過したるが主人の未だ放たざるより阿今も久しく相見ざる友垣輩と談笑して歸心の出ぬを促さんも了得に心なき業なりと交際場裏に熟練せる人の心は和かにて最と靜かなる樓上の一室を借受け長方形の椅子に身を凭せ休憩ひ居るを艶子は先の程よりして切ては握手を施して心ゆかせを爲さんずと頻りに中島博智の行方を索め居たるうち侍婢よりして博智の休憩しつゝ在ける由を告るに艶子は悦ばしく珈琲を製して持往きつ左の方に腰うち掛け

（艶）中島さん嘸御迷惑でございませう珈琲を一つ召上りませんか（博）イヤ御孃さんでしたかお使ひ柄誠に恐れ入ます實に愉快な御盛會で存外頂戴しましたからツイ銘酊致しまして頻に渇を覺えた處へ何よりの珈琲○ト飲干て舌鼓なし（博）アヽー何もお蔭様で凌ぎます（艶）宜しくばモ一つ差上ませうか（博）イナ、エヽー貴女にはかけ違つて未だ緩々と拜顔を致しませんでしたが誠に妹が種々お世話に成まして、御存じの通り妹は那の通りな人



（原本插畫）

間ですから交際にも慣ませんのを貴女が御引立で何やら斯やら手離して交際の出來るやうに成ました（艶）夫なに仰しやいましては誠にお恥かしうございます　妾だツて何にも存じませんけれど皆さんに教はりまして眞個に何して何して阿今さんの様には行屆きませんで困りますワ　（博）御串戲を仰しやツちやア否ません貴女なんぞが夫な事を仰しやツちやア日本のレヂーで歐羅巴風の交際をする方は有ません（艶）アラマア眞個にお口が惡うございますヨ、アノー中島さん（博）何です（艶）就ん事を伺ひますが貴君は自由結婚が御好で御在ますか（博）エーエー固より私は立派に自由結婚の先覺者となる精神ですサ、何しても干渉結婚では肉體の樂しみも十分に充る事が出來ますまい肉體の樂みは充るにしても無形上の快樂といふものが薄く一體夫婦の情合も冷かになり勝だらうと思はれます（艶）夫ぢやア歐羅巴風に御交際を願つたら遊歩や何かにも一緒に：：（博）私が申さなくツても御承知でせうが元來男女の間といふものは男の方から先方の父に交際の事を賴んで其の親父さんが那の者なら娘と交際をさせても大丈夫だらうといふ所を見極めて一旦之れを許した以上は最早好惡は娘に任せるといふ風ですから此間に十分男女の好意も通じ互の心術も能く分るから底で夫婦に成た後の情合も一層深い譯ですテ、私も實は左様して終生の快樂が買たいと思ひます（艶）夫ぢやア若し阿今さんと心の合た人が貴君に交際を賴みましたら其通りになさいますの（博）無論（艶）夫からアノー妾見たやうな者でも貴君は御交際をなすツて：：：（博）此方から願つても父君が許されますまい（博）イヽエ：：

ト後は口籠りて紅顏色濃く耳熱く顏を背ける艶子が風情素り才器と容色とを聞くとだに早や慕はしく見まほしくとぞ思ひける艶子が心情ぞと愛たく風致都雅なる夫のみか利發にして且學才あり千年の友と身を爲して愛兒を之れに託するとも夫人の職位を貶すべき者にあらずと思ひしかば怜悧に過て多辯なる瑕瑾を發見す暇なく一意に可憐の情起り親しく握手を施したるを玻璃窓外にて俊斎が認めたりとは知らざりしならん

第四回　涙の洪水

人の上には不定の憂ひなきを免かれず天の數には不時の災ひなきを保たれざること世にある數とやいふべけれ憂災併せ來せしは越山卓一が身の上なり憐れむべし父は鐵窓に繋がれて無聲の獄に呻吟し母は旦暮を測られざる病ひの蓐に煩悶せり家に三日の糧を止めず身に釐錢の蓄へなし兄妹無事に苦しみて餓死を竢より外ぞなき斧の下なる枯木風の前なる燈火の敢果なき言ん方なきをも更に屈する色あらで兄卓一は專らに活計の爲に營々し妹阿雪は氣を細かに母が看護を齷齪し樂しからざる世を過す伏家の廂雨洩

りて襤褸の袖に受兼るを老母は見もし聞もして我が子〳〵が憂苦樂思へば增る難病に疾く死ねかしと思へども思ふに任せぬ命數の未だ生憎に盡ざるか苦腦は募れど死に難て九夏の空も風に過ぎ秋去り冬の初候となりぬ越路は雪の蚤くして時雨に交る玉霰胸も板屋に降しきる十一月の頃なるべし都は今ぞ小春とて最とも長閑き折なるに昨日も今日も霙して孰れの家も冬籠りの準備に油斷あらぬども越山のみは家居さへ抵當に入れ我が有にあらざる程に貧窮して戶長が切りに垂涎し僅な金にて買取らんと種々に計畫なし居たる田地も早晚恩借の金の代りに假渡しをなしては猶更作德の我が手に殘る物はなく片手に稼ぐ日傭とて力役者のみ多ければ需用者の數少くて賃錢其の額少なきのみか殆ど使用者なきに至れり此頃村の小學より教員にとて撰擧をなしたる者のありけれども何故なるか戶長より故障をなして事修はず然れども文化の進む度は或る障礙者の力を壓し水の石下を潛り出で發して江河となるが如く今將石下を右に潛り左に流るゝ時にあり寺院の庫裏を借用ゐ少しく餘財のあるべき子弟が三人五人集會して英書を修學せんものをと卓一を聘び夜を籠めて勸學するに卓一も圖らず些の金を得て母が藥餌の代を補ひ二人が口を僅かにも糊する[illegible]を賄ひつ藁束なくも生たるのみ寒を凌がん衣とてもあら布を綴る破布子襤れ無數の疆界はいつ脫さんとも見えざりき一日新潟輕罪裁判長岡支廳の命達あり父作左衛門が請求に依り證人として出廷すべしと公判判事の召喚狀に取る物さへも取り敢ず病ふの母を妹に託して急ぎ發足したるが此日は朝より空雲り密雲更に解やらで今にも雨雪を洩すべき情態なるに地氣暖かく急ぎて道を往く時は肌に汗する程なりしに六里有餘も過たる折忽然霙の降り來るに彌々熱して家々に積り初めたる薄雪の一時に解くるを見るよりも必定山の雪解て洪水あらん氣候なるべし春の雪解は洪水の難ある事の常なれど雪降り初る頃にして憖る天災當てあらねば若し告ずして止なんには母も妹も瀑浪に命を沈むる事なるべしと遽然に踵を旋らしつゝ息をも繼かず三俣へ歸り着たる頃及は日もはや既に暮盡て四方小闇き夜なれども諸川の水の暴漲して堤防崩れ田や畑へ澗々として浸入し見る〳〵水の嵩を增し洪水氾濫たる慘狀恐しなんど愚かなり越山一家の住居といへるは平野の中にて凹形なる處に在るゆゑ他の家より此の水害を被ること非常に激しく速かにて卓一の今駈着たる時には既に四圍八面水に卷れて道もな床さへ浸りし如くなれば上着を脫で其の儘に水へ飛入り半身を浮せて我が家に漕着つゝ見れば阿雪は精悍しく疊を積て其の上に臥たる老母をうち臥させ助けを待る如くにて表の火影を目護つめ氣を揉焦りてありけるを認めしまゝに卓一は聲を限りに喚はりて

(卓)オ、ーイお雪さん今歸つたから氣を大丈夫に持てお出ョ大事な物を片着てお前の腰へ着けて置ナ

ト呼かくれども水音と近所の人の口々に罵る聲に隔られ聞えぬものの如くにて答もあらぬに卓一は益々勇氣を勵しつ辛くも我が家に入る兄を見るより阿雪は雀躍なし

(雪)オ、兄さん歸て來て下すッたか、モシ阿母さん兄さんが歸てお出だからモウ御案じなさる事は有ませんョサア兄さん疾く來て阿母さんを‥(卓)いゝとも〳〵サア〳〵阿母さん私が背負て上ますから確りとお手をお掛なさい、ソレお雪さん夫な詰らない物をひろ。。。ちやくして居ないで襷でも何でも早く〳〵

(雪)アレ白烈たい、是でようございますか、アア兄さん蒲團を一つ(卓)蒲團處の話しちやアないやネ今は命の有無を爭ふ處だお前も此手

に聢りとお掴まり、イヽかえ大變に深いヨト母を背中に妹の手を聢りと挾さみ我が冠りたる破笠を母に被せる遑もなく遙かの丘に點したる戸長役場の高張を目當に辛くも脱れ行く

折しも再び降る雨に伴れて霰の礫さへ國颪の颯々と往方を遮る天地の洪水卓一勇氣を鼓動して風に鬥ひ雨を敗り足下知れぬ深水をば彼方へ運び此方へ辿り渉り苦しき水勢に押流さるゝ阿雪を扶け老母を水に浸せじと漸くにして丘の上に昇りて見れば闔村の老若男女うち群て我れより先に逃たる者は板戸を以て圍ふあり疊を積んで援らすあり誰一人として夜具蒲團着替膳椀何呉れと持出ぬものもあらざるに此の越山が一類のみは箸さへ持たず其の儘に出來りたる事なれば恰も乞丐に異らず然らでだに家貧うして器具のあらぬに今はしも遺孑なきまで家に置き僅に親子三人が命一つを拾ひ得し危急の折と餘の事を仔細に顧ふ遑なく戸長役場の設けたる打付小屋の避害所に母を下して藁蓆の上に自身の上着を脱ぎ夫れを蒲團の代りに敷き靜かに臥さする其の上に阿雪は己が前垂を外して藁を押包み枕となして宛行つ唯一枚なる剥綴の布子を脱て夜着に代へ兄と妹が右左背撫擦り介抱の手には小歇のあらざりけり母はさしもの難病を俄かに動かせられたる故苦痛に目さへも見え分ず卓一阿雪が薄衣にも心着ねば寒熱に勞れて睡る面影を兩人更みにさし覗き言合されど目に涙

(雪)兄さん是を御覽なさいマア情ないぢやア有ませんか貴兄の布子を敷蒲團にして妾の小さな布子を夜着かなんぞの樣に寒いのも御存じなくスヤ〳〵と御寢なるお顏を見ると妾ア何だか胸が一杯に成りますヨ(卓)夫りやアお前が言なくッても愚癡ぢやアないが餘りだと私も心で泣てるヨ、何たる因果か知らないが親父さんは彼の通りだシ母親さんの御難病に搗て加へて此の洪水何したら宜ンだかモウ方角が着なくなッた(雪)力に思ふ兄さんまでが夫なに心細い事を仰しやッては猶々妾は哀しくなりますワ(卓)是は私が失策だッた今更夫んなに愚癡を溢してる處ぢやアない、お雪さん、お前私が居なくッてもモウ大丈夫だらうネ(雪)斯して役場からの小家も出來ましたし皆さんが一緒に居て下さるから妾一人だッて夫んなに困る事は有ません(卓)然うお前が聢りとしてお呉だと私も誠に氣丈夫だから後の事はお前に任して直と是から往つて來るよ宜しいかヱ(雪)而して今時分から何處へ入ツしやるノ(卓)何處へ往くものかネ、お前も知ッてる通り明日は大事な親父さんの公判ぢやアないか夜通しにも長岡へ往つて明日の證人に成なくッては往けまいぢやアないか(雪)オヽ左樣でしたッけネヱ此の騷ぎで親父さんの事を悉皆忘れて居ましたヨ眞個にマア勿體ない(卓)何方かといへば向うの方が肝腎だから夜通しに何でも斯でも駈付けよう此の樣子ぢやア水も大して增しさうはないから今夜は安心をしてお出何の道明日は沙汰をするか直きに飛で歸るとするから母親さんがお目が覺たら宜やうに……(雪)ア、宜うございますヨ夫んなら御苦勞樣でも(卓)賴んだヨ

ト上に纏ひし破布子は母が敷寐の蒲團となし身に着くものは股引と袢纏さへも濡しまゝ乾す間もあらで一散に堤傳ひに捷徑を長岡さして急ぎ行く彼うち見やりて妹阿雪吹雪を凌ぐ荒蓆垂れても四方を照すべき燈火もなき假小屋に難を避け來し人々の寐る聲すれど我のみは臥すべきものもあらずして身に着る衣もあら妙の一重襦袢に夜を寒み母が邊りに徹宵守り明して翌る朝施行の粥に母娘腹は肥せど天災の藥劑に手宛は露程もあらぬを何とせん行の涙に吐息吻

くのみなる懸る處へ巡視として戸長森村剛藏が書記筆生を隨へて肩を峙て胸を張り傲然として入り來り阿雪が老母を勦りつゝ薄衣に慄ふ手を離さず指の龜まり面色の薄紫に變り行く朱唇の蒼く淡黑なる寒威は四大滿身の溫度を全く奪ひ去り人事をだにゝ辨へぬに屈せず撓まぬ孝養を瞥一瞥と尻目にかけながら通り過んとする裾を押へて阿雪は頭を下げ

(雪)モシ旦那さまへお願ひでございます御覽なされます通り母が永々の煩ひで一日もお藥を飮しませんと誠に病氣が重りまして困りますから切て合藥丈けでも持て參らうと存じましたがツイ取急ぎまして忘れましたから困り切て居ります何か何なりともお藥を下さる譯には參りますまいか(剛)何だ、藥が貰ひたいと、貴樣は母を何と心得てるコリャ、母が一命に係はる程の大切な藥なら何故夫んなに粗略に扱ふのだ、第一斯樣に水害の中から小家掛をして立退所をして下さるゝのは政府の御慈悲にて且は拙者の注意であるぞ夫れを未だ不足らしく藥を吳ろの何のツて不埒な申し分だ左樣な事は相成んから藥が買たくば自費を以て醫師に賴め拙者は夫んな取次はしないぞ、馬鹿な奴だ

ト例の殘忍獰惡なる圓な眼を怒して思ひの儘に言懲し得意顏にも往き過るを老母は幽けき目に認め苦惱のうちにも子を思ふ心に小歇あらざるか重き頭を半擡げて

(母)コレ〳〵阿雪モウ何にも願つて吳れるな成程戸長樣の言ツしやり通り水浸しに成つて死んだツて仕方がないのを斯して小屋まで建て下さるのは勿體ない政府のお慈悲に妾もマア何やら氣分がいゝやうだから卓一の歸るまでお藥は飮ますまい家に居りやこそ汝なり卓一なりが孝行にして些とも粗略にして貰はずにお藥も戴けばお粥も啜つて寒くなく空腹くなく日がな一日寐て居るやうなものの作左衞門どんの事を思へば地獄だといふ牢の中で暑い寒いも言れまいシ何なに難儀をしてござらツしやらうに妾は誠に仕合だ勿體ないと思つてるから又御無理な事を願つて叱られない樣にして居て吳なア、死にたい〳〵(雪)アヽアレまた母公さん緣喜でもないモウ〳〵夫んなに死ぬ〳〵と言て下さるなヨ風が當つて冷ませうからドレ此方を閉つて上ませう

ト阿雪は淚押包み藁の簾を垂籠て喘咳に苦しむ母の背撫る手先に觸るゝのは日に〳〵著き骨とみと瘦衰へしと見るにつけ口には夫といふ間漏る淚の間にも物思ふ如何貧窶に迫ればとて須彌若海の恩高き母の病氣が看護さへ思ふ心の十分一屆かせもせで碌々に上りものとて上はせず醫師も招かず藥餌とて纔に憑む買藥夫も三度に一度は煮出しの殼を種々に煎じ詰たる赤貧は如何なる星に祟られてか唯さへ弱る玉の緒を此出水に箸片箸持たずに落る乞丐の此の慘狀は何事ぞと了得婦女の愚癡淚返らぬ事を本縮襷かゝる處へ再びまた靴音高く森村が先に立つつ入來るに阿雪は何か我が上を咎らるゝが恐ろしやと見向もやらで老母が背只一心に撫擦るを戸長が東道に巡覽せる新潟縣令何某は昨夜頸城の極東にて水害ありたる電報を得ると其の儘今朝の一番汽車にて出張なし水害地方を實視の序避害場をも一覽せんとて今しも此へ出來りしなり

(剛)コレ〳〵令公の御巡覽だ御拜を致さぬか

(令)森村森村、其の儘にして置け、コレ森村其の少女は何者だ(剛)ハア〳〵此の者にございますか是はエヽー何ソレ當郡三俣村千二百十五番地平民越山作左衞門長女ゆきと申す者で(令)此の病人は母か(剛)左樣でございます

(令)作左衞門は如何した人足にでも出て居るのか(剛)イエ作左衞門儀は官金盜用の嫌疑

で拘留中の者でございます、夫に卓一と申しまする長男が一人御在ますコレ〳〵お雪卓一は何した(雪)ハイ兄さんは公判とやらがあると言て昨夜ッから長岡へ參りました(令)ゆき、汝の母は何時から病氣に成た精しく申せ(雪)ハイアノー母でございますか是れは一昨年の二月から加減が惡くッて臥ッて居りましたが此の七月に父が御拘引に成りましてからドッと惡く成りまして今では口も碌々聽けないやうに成りました(令)左樣か、三ケ年の間誰れが母の介抱をして遣はしたナ(雪)甚だお恥しう御在ますが家が貧窮でございますから父は年を取ましても家には些とも居られませず兄さんは東京へ參って留守ですから妾が看病を致して居りました(令)森村、今聞く所では至っての孝女のやうだが何故狀を具して上申せんのだ如何なる事情があるかは知らぬが其方が職務の不注意であらう加之此の大病人に醫藥の手宛も致してないが縱令衞生主任の者が他に事務の都合で注意の屆ぬ事ならば其方が注意を致すのが至當な事だらう然るに斯る患者を見棄て置くのは不都合千萬だぞ急遽の際だから不問には置くが即時手宛をして遣せ(雪)何分お藥をお願ひ申ます

私怨を以て公道を左右したりし森村も長官自ら實狀を探りて之れを責詰られ唯恐れ入るのみにして再び開かん口もなく衞生係の主任者に懈怠を責めて罵りつゝ即時醫藥の手宛を施し猶水害所を巡覽せり此の夕刻に卓一は自ら父を車に乘せ先に進んで輓き歸る後に續いて立派の紳士是も車を急がせて該の避難所に入り來る顏を見るより阿雪は飛出で兄と父とに取縋り淚に曇るおろ〳〵聲

(雪)オヽ兄さん、お父上さんマア能く御無事で歸つて下さいました眞個にマア何成つたかと・・・(作)お雪お前が嬉しいより己らは丸で蘇生つたやうだ(卓)父上さん貴父は牢勞れがございませうマア其處で御休息をなさいまし、先生此の通りな水害で誠に困却極りました(文)實に驚いたものですネエ僕は洪水の實地を始めて見たが滲憺目を掩ふと評するも中々及ばない(卓)マア此へお掛なさい、お雪さん此の方は東京の每朝新聞の記者で山田文治と仰しやる先生だが先刻鹽澤の停車場でお目にかゝつたからお伴申したンだが施行の茶も何にもあるまいネヱ(文)ナアニ夫よりやア早く此所置を付なくッちやア仕方がない、公判の事も種々聞たい事もあるシ中島君の傳言もあるが夫等は先づ後にして寺院か何かに一先づ移轉し給へ、ナアニ宜しい一切僕が承知だヨ宜しい〳〵

第五回　言葉の巷

芝公園地の一隅なる紅葉が丘に設けある紅葉館の樓上には帝國大學の得業生自費洋行の送別會とて各自思想を口に發し祝文を誦し演說をなし拍手喝采の音のうちには庭前の紅葉錦を散し主賓が滿腔を盡したる慷慨悲壯の答詞には欄間に掛ける黃金の紅葉風を含んで落るが如し絃聲歌調妙にして梁の塵耳欲つれば歐洲風の詩歌の節吐音凜々として玉盤踊る正午よりの讌會も甲去り乙散り席靜かに杯盤廚に退くまで猶席上に眠り轉て前後を知らぬ一書生あり服裝を見制帽を見るに大學校の生徒なるが滿面朱を濺ぎし如く十二分の醉を貪り酣睡幾ど人事を絕ゆるに同窓の友一人として之れを扶け誘はざるは平素の交誼の厚からざるか人に忌るゝ癖あるか或ひは酒癖の劇しきなるべし若し平日にてあらんには然とて棄は置まじきに今日日曜日の休日なれば歸校の時刻を急がぬより斯は放擲する者ならん中に就て齋藤孝は親き疎きの差

別なく一意に實義を施す質とて外の生徒と倶に切通しまで出往きたる後の方を顧視れども未だ睡の覺ざるか歸り來ざるに齋藤は彼の心事の如何しても不愍なるより同窓の學友們を慰めて其の儘後へ取て返し元の座敷へ來て見れば一個の藝妓が持餘し搖覺せども起ざるを見るより孝は側へ行き背中を敲けば起直り吹く息鼻を劈くばかりに跡は再び高鼾聲容易に覺る氣色なきにぞ孝は性急なる例の持病萌して聲高やかに

(孝)オイ起給へ〳〵大變だよ火事だ〳〵早く起ないと燒死んぢまふぞオイ起給へといふ事ヨー、姉さん宜しいヨ僕が佶と起して伴て行くから眞個に厄介ものだネエ、起ろとツてば起ないか方の付ない醉どれどのだ、ヤウムートコショ、サア〳〵お目をお覺し遊ばせ

ト右の手を持ち引起すに此方は幽かに目を睜きて片手に瞼を擦りながら頻りに四方を看迴しつつ

(生)齋藤君か、ア、アーーアー睡いモウ少し寐かして吳れ給へ(孝)馬鹿を言ひ給ふな皆なモウ歸ツちやツたヨ、君が餘り能く寐てるから寄て集つて置去りにしたらぢやアないか、睡たくば飽まで睡れ棺の中サ、サア往き給へヨー君(生)コリャア驚いた誰れも居ないぢやアないか(孝)オイ〳〵又寐るのか困らせるぜ、サア往き給へ、ネエ君(生)ア、往くヨ、夫んなに性急な事を言ひ給ふな、姉さん濟ないが水をお吳ナ(孝)ア、自烈たい僕の氣が短ツかいのは知つてるぢやアないか早くし給へ早くし給へ(生)相替らずの火急が始まつた五生だから水丈け飮して吳れ給へ(孝)能く種々な熱を吹男だなア、ソラ水が來たヨ醉覺の水だサッサと飮んで早く〳〵(生)君のやうに彌急いちやア水も碌に飮めやアしないア、いゝ心持だ夫ぢやア往から、姉さん大きに御厄介樣(孝)忘れ物はないか、サア早く〳〵(藝)モシ貴君おハンケチが(生)ソーレ見給へ人の氣を着けるより自分を能く注意し給へ(孝)一番反詰がへしか、難有う

ト孝は書生を誘ひて紅葉館を立出れば未だ醉覺ぬ一人の書生は孝の肩に手をかけて亂るゝ足元蹌々〳〵と中心さへも碌々に定まらねども目を据て頻りに口を尖らしつ

(生)オイ〳〵齋藤君僕は今日の宴會が甚だ不滿足であつたから無闇に仰飮たんだマア道理を考へて見給へ今日のやうに馬鹿々々しい送別會があるものか、誰かマアソノ名譽のある仲間で三人か四人幹事を拵へて夫れに全權を任せて入費の徵收から席上の規律を立たら他は皆な其の中央集點に依賴するから規畫が立て宜さそうなものだに何だ馬鹿々々しい、各科から幹事を撰出して一科毎の自由に任じるツて、マア人數が揃つたからこそ宜い樣なものの缺席員が多數であつた時は第一主賓に失敬だらうぢやアないか、君は何と思ふヨ一科に出費の額まで遊つて其の科〳〵の出金を合算した上若しも勘定が立なかつたら可笑なものだらう、演說だツて其の通りサ自分々々の專門で送辭を作るもんだから肝腎な主賓が專門と持說とを擧て別意を表したものは僅々ぢやアなかツた之れといふのも主宰者を置て其の人に悉皆全權を集め、會衆には各自之れに服從すべき義務を負せるがいゝのサ、何でも一人のビスマークがなくツちやア此な大勢を支配して嚴然たる規律を立る事は出來ないヨ、僕はモウ最初ツから癪に障つたから無性に飮んで遣ツた、醉て言んぢやアないけれども彼れの洋行からして僕は不同意だヨ、ムウ、未だ學位さへ取らないうちに何だ生意氣な來年は國會が開けるから英國へ行て憲法上の慣習を實地に視察して夫から

瑞西國を遊歷して有名な地方自治制度の完美な處を取調べ之れを應用して故鄉の人氣を勸奬すると、那な奴の言柄は極つてらア僕なんざア彼奴位の金があるなら獨逸へ行くなア、ネエ君

ト酒を力に滿身の不平を切りに訴ふるを唯々諾々と受ながら思はず路を踏誤り

(孝)オヤー、君が餘り饒舌るもんだから大門へ出ツちまツたぢやないか (生)ウム、なアる程(孝)なアる程もないもんだ此方へ來ちやア皆なと一緒に歸る事が出來やアしない君が餘り饒舌るからサ (生)恐れ入たヨ、ネエ君醉てるから許して呉れ給へ其の代り僕が鐵道馬車を驕らう (孝)ナアに君に驕らしちやア氣の毒だ夫んなら些と早く步き給へ、僕は氣が短かいから遲々すると打遣ッて往ちまふぜ (生)宜しいがネ君未だ時間が早いから此まで來たものだ神明を一番冷却て往き給へ○齋藤はチト怒りたる聲態にて (孝)否々 (生)君の樣に爾一刻な事ばかり言ちやア困るヨ些たア僕に交際給へ (孝)否々 (生)ヨー君、いゝぢやアないか(孝)否だツたら夫なに言なくツてもいゝぢやアないか僕が君に交際て矢場を冷却すのは極譯のない話しだけれど君は其の帽章に對して恥かしくないか、書物を讀むばかりが學問ぢやアなからう品行を方正にして大學の名を潰さないやうに注意するのは學生の義務だ、元來僕は君のやうに醉ぱらツた人物と一緒に步くのさへ面白くない、だから見給へ、君が餘り泥醉したから皆なが君を同行したくないツて先へ歸ッちまツたんだらうぢやアないか併しながら夫では君が後で迷惑するだらうと思つたから僕が後へ引返して君を迎したのだのに未だ夫んな贅澤を言ふなら僕もモウ同行は謝絕しよう、左樣なら (生)オイ〳〵齋藤君謝罪〳〵待て呉れ給へ〳〵オイ君モウ何にも言ないよ此んなに醉てる者を獨り殘して往くとは夫りやア君餘りだぜ恐れ入たから同行して呉れ給へ (孝)夫んなら決して神明へは往かないか、夫ぢやア早く來給へ (生)難有い〳〵 (孝)サアー、遲いなア

ト孝が火急の性質に泥醉したる一生徒は苦しきながらも手を曳れ蹣跚として定めなき足を引摺り新橋まで來りて見るに鐵道馬車は三輛ばかり出車する趣きなるより齋藤は一層足の度を早め拔へし腕に力の籠れば

(生)痛い〳〵君痛いヨ夫なに引張たツて步けやしない未だ馬車は出ないから、ア、苦しい(孝)苦しけりやア馬車の中で緩り休み給へ君は足が遲いから途中の飛乘は中々險難だから (生)何ぞと言ふと君は壓制主義を出すから困る (孝)ビスマーク精神は君の特有だ、僕は人も壓さなけりやア人にも壓せられない積りだが夫とも君が壓せられると思つて嫌ならば宜しいから君は君の自由に任じよう僕も亦君と分離して馬車に乘るから、却つて其の方が僕の希望する處だ (生)アまた御機嫌を害ねたか決して左樣いふ譯ぢやアないから彼の車に乘ますヨ (孝)イヤ故らに思想を枉て御同車では恐縮致します (生 左樣仰しやらずに是非御同車を……

ト上野行と認めたる第何號かの馬車に乘り三橋に達する切符を購ひ孝は伴と並び坐しポッケットより烟草を取出し手づから卷て喫しながら

(孝)君、些たア醉が醒たか (生)醒處か君が無性に引張て步かしたもんだから此へ這入ると一時にクワッとして來た此んなに醉ぱらツたので思ひ出したが君とソレ日外富士見軒で一酌した時に君が誘引して來た、エー何ッてツケー、越山、越山君ナ彼の人にやア久しく會ないが何したヨ (孝)人の上程障碍の多いものはないヨ君も一遍會たから知てるだらう越

山君は學識といひ才智といひ實に僕なんぞと同日の論ではないが幾干素志は厚くッても金權のない人は仕方のないもんでマア然して東京に居るうちも僕の學資を割て遣たり何かして少しづつ書見もしたシ中島先生に庇護せられて永く食客もしたが天彼の學才を嫉むとでもいふ譯か僕が暑中に歸縣して往復ともに同家を訪れてやッた處何した事だか親父が拘引されて行たといひ親母は大病といふので少妹が一人で困ッてるから其の次第を越山君に話説をしたのサ夫だから越山君も中々修業處の話しぢやアなく直に翌日の一番汽車で歸鄉したが今以て何とも書信がないから大變に案じて居るのサ（生）夫なやうな事を聞たッけネエ、爾だ〳〵君が火嚢をなくした時に歸國しただらう（孝）ア、能く君は知つてるネエ

僕も那の朝停車場まで見送りに往かうと思つたが旅勞れでスッカリ寐忘れッちやッたから實は約束をして置ながら不德義な事をしたと後悔して居るのサ、夫だから越山君も怒つて書信をして吳ないのぢやアあるまいか中島先生の處へ聞に往たら委細の事も知れるだらうと思ふけれど那家の貴女が美人丈けに何だか氣が咎めて往き憎いから渴を忍んで抑へて居るのだ（生）エヘン出ましたナ、越山君は附たりで實は貴女さんの顏が見たいけれども豈夫にネエ、ソラ人目があるから渴を忍んで居給ふのだらう（孝）馬鹿、馬鹿、馬鹿な事を言給ふな何で僕が夫んな事を、君は實に驚いた事を言ふ人だ〇眞實に成りて忿懣るに（生）アハ、、、串戲だヨ怒り給ふな、併し越山君は幾干鐵面皮でも君の處へ書信はし惡からう（孝）何故々々何いふ譯で書信が出來ないのか（生）君は夫だから困るマア能く前後を考へて見給へ越山君を君は切りに信じて居るが越山君は必ず君を信じて居ないだらう（孝）君は奇怪な說を吐くが何いふ理由で越山君が僕に不德義であるといふ事を斷定したヨ縱令越山君は信じないにした處が僕は十分越山君を信用するサ（生）夫だから君は正直に失して權謀術策に乏しといふのだ君怒り給ふな決して腹を立ては否ないヨいゝかエ、怒らなけりやア話さうか、君、越山は賊をしたヨ、驚かないでマア聞給へ君の深切を無にして君に害を加へたヨ（孝）何だとエ君夫りやア實說か實に奇怪千萬な事だ譃だらう〳〵君また夫な事を言て僕を遊ぶのだらう越山君は夫な人物ぢやアない譃だ〳〵決して僕は信じないネエ、ウム夫は何か君の誤解に違ひない（生）ア那んな事を言てらア困つた人だなア何で僕が君に向つて譃言を構へるものか、君と越山とを離間して何ぞ僕が漁夫の利を逞しうする事があるヨ、鷸蚌の鬪ひを望む譯があるなら夫りやア隨分離間を試みるかは知らないけれど斯言ちやア惡いが越山君なり君なりに交際を斷たが爲めに僕に大變な利益があるといふ譯ぢやアなしッマル處一人でも二人でも親友を棄る丈けが僕の不利益ぢやアないか畢竟僕の精神は君を重んずる、ウムー君の爲を思ふから面を侵して面白くもない話談をするのサ、ネエ君、君は何と思ふよ元來越山は決して不正な事をする精神のある男ぢやアないけれど所謂貧の出來心でした事だらうと思はれるが併し一旦破廉恥をした者には往々之れを再びする病を生ずる者だから君も僻いふ者と交際イヤ、親友と言れるのは畢世の不得策と考へるから忠告するのだが夫とも立て僕の言ふ事は譃で飽までも越山を信じるといふなら夫れまでの事サエ、君何と考へるヨ、君ォイ君

斯く再三も繰返して說付けらるゝに齋藤も其の性、神にあらざれば半信半疑に迷ひ初め恍惚と

して判斷を下し難るに一生徒は猶傍らより辯を研ぎ
(生)君は餘程疑心が深いネエ現在自分の夾嚢を奪はれながら未だ其の人を信じて同窓の僕を疑るのか、いゝや君は愈よ僕を佞奸な精神だと思ふンだな、君が其の精神なら僕は是より自分の潔白を立なくツては成ないから……宜しい歸校次第宣誓をして諸君に此の判決を訴へよう君も法學を修める生徒ぢやアないか是ンばかしの事に斷定力を活用する事が出來ないか(孝)怪しからん、僕は君を信じない事はないけれども越山は何考へても夫んな人物ではないから實は判斷に苦しんで居るのサ(生)君未だ夫な事を言てるのか夫ぢやア夾嚢は何したと思つてるのだ(孝)ナアに僕は粗々ツかしいから何も……(生)那の晩現在君の口から越山の處へ忘れて來たと言たぢやアないか(孝)ウム實に何も變だヨ(生)三諫して聽かざれば死すだ、僕はモウ寐ツちまはう(孝)君、君は何處までも夫れを確めるンだネ甚だ失敬だけれど君がまさかに僕を欺きもしまいシ串戯なら眞向になつても言ふまいから……成程前後を照合して見ると夾嚢を屆けて呉ないといひ書信をしないといひ何も君の言ふ所が實說だらうダガネ君越山君も全く惡意でした事ぢやアあるまいと思ふヨ斷金の間柄だから濟ないが借て置く位な處だらうと思ふが君の判斷は何だネ併し幾干親友の中でも至つて宜しくない所爲だ夫んな男たア思はなかつたが如何も君の言ふ通り交際を遠ざかるやうにしようヨ爾して居るうちには越山の精神が實際腐敗したかしないかも分るだらうからネエ君、ネエ爾ぢやアないか、オヤ〳〵今まで饒舌て居たのにモウ寐入たか酒といふものは奇體な魔睡劑だイヤ〳〵酒よりやア金の方が餘程精神を魔睡させる、人を見たら賊と思へか皮相には分らないものだ
ト信惡乍ち地を換へて吾が友愛なる越山の心事を疑ひ訝しむと同時に渠が有爲なる知識を持つ道德を全うせざるを哀惜し併せて之れが原素たる渠の生來貧賤なるを憐れむ心の生じたる齋藤孝が正面には萬世橋より乗車せし下婢を伴ふ淑女あり二人が談話を注意して今まで仔細に聽居たるが孝の始めて正面するを見るより會釋を施すに孝は之を見ると均しく最も倉皇し顏色にて
(孝)オ、中島先生の妹君是は何も實に失敬失敬、エ、ー孰方へ上野……夫りやア何も如何も失敬、飛だ事を……(今)オホヽヽヽ齋藤さん些とも入ツしやいませんネ唯今のお話しは眞實ですか(孝)實に恐縮實に驚き入つたお孃さん何も私は困ましたネエ(今)貴郎毎朝新聞を御覽に成ましたか(孝)イヽエ今日はまだ
此時馬車は上野へ着して車掌が告る止車の鈴チーン

第六回　戀積る雪

初雪とて詩にも作り歌にも詠じて其の風致を愛歡ぶは都人の上にぞある我が北越にては初雪の降れりと聞て人々の恐れを懷くこと蛇蝎も啻ならず彌が上に降積りて家居を潰されまじと人あるも人なきも皆屋の上の雪を掃ひ之れを道に積むなり其のあさましきこと實に名狀すべからずと鈴木牧之が北越雪譜に記し付しは去る天保の往昔ながら代は變はるとも天時は變らず本年も時を違へずして霏々と降る雪掃へども漸次漸次に氷詰め瀰天滿地際涯なき白銀を以て張詰たる世界となりて家々の烟のみこそ色はありけれ三俣村なる越山は彼の洪水に家を洗れ壁落ち疊の流失しを顧みるべき暇もなく兒卓一は公判の期に後れじとて長岡へ走り行きたる後とて

は妹阿雪が手一つに母の看護を怠らで我が身は寒に凍ゆれど厭へる色もなよ竹の節を籠たる孝養は權家まで貫ぬきて母が醫藥も役場より手厚く受つる其の折しも兄卓一は人力車に父作左衛門を乘せながら東京每朝新聞社の主筆記者たる山田文治とともに等しく避難所へ歸り來りて父母父子の愛に再會せしのみならず山田が厚き惠みにて一先づ寺院に居を轉じ水の減ずる時を待ち元の家居に歸りて見れば家といへるは名のみにて膝を容るべき場所さへなきを之れをも山田が修理を加へて更に數月の食料を惠み遣はし袂を分ちて漫遊の途に就きたりけり畢竟ずるに山田文治は競馬を好み馬匹を飼ひ文壇の餘暇馬に鞭ち尙武の遺風を尋ぎて居たるに此の二三年打續きて競馬に多くの勝利を得つ既に本年春期の馬場には初日に優賞三百金を獲第二日目には春川伯の都といへる駿足と競奔なして名譽ある婦人財囊賞を獲たり第三日目には百五十金を獲番外競馬に尙勝て若干金を手に入れしかば忽ち地方を漫遊して我が主説たる地方自治の制度を建つべき原材を求めんとし決心して當越後路へ來りしに圖らずも上野公園地にて一面したる越山卓一が父を乘せたる車を輓きて歸る途中に往會たれば其の何故に洪水あ

る鄕地を棄て此の邊に車を輓くかと尋ねしに父作左衛門が公判廷の證人として召喚あり即ち夜一夜路を走りて長岡支廳に出廷したるに證憑如何にも分明ならず遂に免訴し放還の判決下りたりしに依り片時も早く歸鄕して案じ煩ふ母妹に安心させんと車を借り自ら輓いて歸途に就たる趣きなるに山田文治は本心義俠を好むの癖あり且卓一が同主義を持し有爲の氣象言外に顯はれたるより哀憐の仁心切りに止め難く義財を擲ち斯くまでに救助を施したりけるなり是に依りて越山一家は人の情に身を容るゝ家さへ出來て其の上に數月の糧すら貯へつ母の治療も手を盡して愁ひは全く家内より除却したるにあらねども聊か憂の度を減じて笑ひを顯はす事さへありき斯く引續きて積年の貧窶を水に洗ひ去られて身心倶に聊かは餘裕の愛に生ぜしかば卓一も較や己が得し力を伸ぶる機の來りしに戶長森村剛藏の祕愛の一子權一郞は此の程よりして卓一を村會議員に推撰せばやと陰然力を盡し居たるを卓一夙くも傳へ聞き今村民の代議士となり土地の利益を料ることは最も易き事ながら現に仇敵視せられたる森村一家の推撰に應ずる事は好ましからず聊か日々の炊烟に辛苦を凌ぐ如くなれども皆是れ山田其人の惠愛

に基く所なれば中々心を安んずべき所にあらねば是よりして田地も屋敷も受戾さんと心を勞する其のうちにも雪は晝夜を廢ずして一しきり每降積り今は空より降歇めども地氣の溫熱稍や薄らぎ雪洞中の穴籠り耕作すべき術あらねば卓一は唯一室に燈を剔て中島より授けられたる社會學を飜譯すれば妹阿雪は雪に洒せし綿縮苧を機にかけつゝ織出すに父も安居の氣もあらねば折々鮭を窺ふに時期漸く熟せしかば晝夜漁業を始めたり此の頃よりして權一郞は時々深切に訪來り富有の身とて病ひに在る老母が許へ珍しき滋味を贈りて一向に一家の者に欵みを通じ閑話を燭に乘るさへありけり一日雪氣の空合なるに父は雨雪を凌ぐべき道具を持で往きたるに其の青潭へは程遠ければ助獵がてらに往きて見んと留主を阿雪に託しつゝ卓一獨り藁靴に畠を欺むく積雪を踏しだきてぞ出往きける後姿を見送りたる阿雪が前に權一郞突然出て柔和なる口に幾多の笑を顯はし

(權)お雪さん卓一さんは　(雪)オヤ森村の若旦那樣ですか兄は唯今チョイト其處まで　(權)ちやア一足遲かつたか知らん　(雪)今に歸つて參りませうからマアお這入なさいまし

ト誘はるゝ儘權一郞は足駄に積る雪塊を傘の柄

をもて碎き棄て板戸を手づから引閉つゝ圍爐裏の側へ座を占むる其の容貌より形容を此に詳さに寫し出さんに年齡二十三四なるべし色白くして皮膚細かに髮飽まで黑くして毛の剛きこと椶梠の如し面は長きに過る方にて口元自然に愛を含めり目涼しく黑點勝にて鼻は著るく隆き方なり長短肥瘠中庸を得て音聲靜かに辯密なり大體よりして評する時は品格高き美男子なれども然ればとて艷嫋ならず寧ろ男らしき風采にして所謂苦み走りたる好男子とは此の事なるべし態度頗る溫藉なる權一郎の側らに意を約やかにして款待せる阿雪は抑も如何なる婦女ぞ顏圓く宍着て色は白きといふを得ず頭髮薄く柔かにして頸脚誠に美事なり鼻は隆き方にあらで柳の眉は稍や細し其の最も愛らしきは生際の富士形にて軟毛鬖鬡と之れを隈取り明晰鮮かに大なる方にて畫くが如き重瞼に睫毛の長く球子を覆ふは嬌態最も深く見ゆべく半月の口色愛たく未開紅の匂ひあり軀幹小さく規模薄きを惜める人のあるべきか額の狹きは才を表せど人に依りなば短命なる人相なりと評しやせん兄卓一の面貌と誠に恰好したれども幼少よりして貧窶に育ち心を小さく氣を約やかに唯翼々と屈折せる習ひが今は性となり口數とては能く昕得ず諸事控へ日に柔直を主として氣兼をすること多ければ天より與ふる活潑の氣象を活用すること能はず妙齡既に十九なれども風致も擧動も漸くに十四五歲の小女なり美女の部內に數ふべき阿雪ならねど精神の美しきには人をして其の顏色まで美しく欣慕せしむる事あるものにて乃ち森村權一郎も孝養厚く柔順なる心を愛して此の日頃親しく出入なすうちに坐作進退の優美なるより今まで然までの感情なかりし阿雪が容貌さへ村醸の人を醉しめ野末の花の日に麗はしく戀慕の情の發せしかば其の孝養なる誠心に感ぜしめんと心を碎き老母を厚く勦はりて善といふなる善物を惠みなどしつ宛然に生の親をば養ふ如く實義を盡し一向に阿雪が心を動かす日を意中に期して今日とても斯くは故ら來りしなりけり阿雪は煮出せし茶を薦め母が寐覺の徒然にと手製へなる小麥の餠の甘み薄きを取添へて數の珍味と恥かし氣に侑め榮なき缺茶碗日光盆も緣破れて木地を隱すの術もなし阿雪は手持無沙汰にて少しく顏を赧らめつ

（雪）折角貴郎入ツしやいましたのに生憎兄が留主でございましてお談話敵手がございませんから御退屈で入ツしやいませう（權）なアに何せ風來々々遊んで居るから別段退屈を覺えないのサ、お雪さん母公さんは何だエ今日は空から落ないけれど大變寒氣が嚴しいから出來のよくない方ぢやないかエ（雪）イヽエお蔭樣で良いお藥を頂きましたので今日はモウ熱もズッと減まして大層氣分が宜さそうに先刻からスヤ〳〵寐んで居りますヨ（權）爾かエ夫はマア私もお藥の進め榮があつて嬉しいヨ、お雪さんお前お機樣にかゝつてるぢやアないか遠慮しないでサッサとお織ヨ（雪）ハイ難有うございますモウ少うしでございますから夫ぢやア御免下ないましナ

ト阿雪は會釋匆々に起て勝手の鹽壺より取出す鹽に身內を淨め燧石もて切火をかけ機を上げたる別間を掃ひ心に神を念じつゝ髮に織地を潰せじと色氣もあらぬ染手拭自暴に結び頰冠りの端も短かく莞爾と笑つて上る機のうへ結ひ廻したる注連繩を搖り動かして織出す投杼と筬の調子能く小千谷の市には鬻がねども揮て越後の縮緬機其の織女の習慣は今の代までも變らざりけり

（權）何時來て見ても〳〵お前のやうに精を出す人は今時滅多に有りやアしないヨ眞個に感心なもんだ（雪）また若旦那が……、幾干精を出したくッても出來ないから仕方が有りませ

んワ（權）夫丈け出來りやア澤山だ其の上何かが出來た日にやア村中の壯客は皆な氣違ひになツちまふだらう（雪）何故ですエ（權）逆上てサ（雪）オヽさら〳〵氣が違ふと言へば此縮緬機を上げてる時に男と出會をして氣違ひになつた女が有りましたツてネエ（權）夫れは大方婦女子の教誡だらうが私やア何だか氣違ひになりかゝツたヨ（雪）眞個に面白い若旦那だ事、何故貴郎が氣違ひにお成んなさるんですエ訝しいぢやアありませんか（權）人といふものはネ、此方で、ニヽー何だか何も氣が變だネエ（雪）妾にやア更ぱり分りませんよ（權）分らないから困るのヨ、一體お雪さんは何んな人が一番好だネ（雪）何んなたア何なノ（權）サア先づ御亭主に持にはお金のある人を持らと思ふか夫とも立派な男がいゝか此んな人ならと思ふ人があるだらう何だエ、エ何なんがいいネ

ト情を含んで權一郎がうら問かくれど春も何淺き阿雪が心中には愛惡の念を蓄はへず力と憑み最惜と思ふは兄卓一の外なければ揮ての思想も此の範圍の外に出づべきやうもなく今權一郎の問ひかけたる深き心を味ふべき念慮の其處に出ればこそ咄嗟の間に答へを設けて

（雪）妾の好な人ですか妾の好なのは內の兄さんばかりですけれども兄さんには他所からお嫁さんが來るから仕方が有りませんワ（權）大笑ひだ兄弟で夫婦に成る奴があるものか、眞個に罪のない可愛い事をいふ子だヨ實に此の初な處が價値だ（雪）若旦那は何んな內儀さんをお貰ひなさるノ（權）私か、私やア此の近在で貰はうと思ふ人は只た一人しかないけれど先で思つて吳れないからダメだヨ（雪）又那んな事ばツかり若旦那を見たやうに御標致が美くツてお心立が善く誠にお優しくツて入ツしやるものを誰が嫌ふ人があるものですか（權）煽動たツて何も驕りやアしないヨ（雪）イイエサ眞個によ（權）夫ならお前も嫌やアしないか、マア私が大變にお前の事を思つて居て是非女房に仕たいと言たら其時お前は私の內儀さんに成て吳るのだネ、屹と爾かエ（雪）オヤ、否な若旦那だ、妾やア夫んな事は知りませんヨ

ト此の時初めて時ならぬ紅葉を額に散しつゝ秋波を轉じ一心に縮緬織る手の小歇なき後姿を倩々と見れば思へば愛らしき娘盛りを憂といふ憂に思ひを勞らせつ可惜深山に朽さするは不便の者よと戀情の彌加はりて權一郎は精神宛然恍惚と迷ひ入りては猶更に晴れぬ念ひをうちつけに言說ん術もならの葉の廣き世界に數多き婦女の中に是のみと凝結んだる一心に今は恥をもうち忘れ思ひの丈けを口づから寫して何か胸に積む愛慕の情を遂なんと分別さへもなか〳〵に膝立直して一室の口身を倚凭て眞面目になり

（權）お雪さん否な若旦那だたア餘り酷いぜ外の人は何だか知れないが私は親父の片意地を張つて無理な事を言出すのを蔭になり陽になり出來る丈の力を盡して何かお前の家の爲に成るやうと心配をして居るのを些たア察して吳たツていゝぢやアないか、恩に被せるやうぢやアあるが爾言ちやア何だけれど母公さんは永々の難病だシ阿父さんは那んな厄難にお遭だシ卓一さんとお前さんが必至と困つてお出だから餘計なお世話のやうではあるが及ばずながら何やら彼やらと氣をつけて上げるのがお前の心にやア通じないかエ（雪）アレ勿體ない通じるの通じないといふがあるもんですかネお若いにお似合なさらない御深切な方だと家中皆なで何なにか難有がツて居ませう斯して先づ〳〵樂に致して居ますのも皆な貴郎のお庇護樣で　ざいます（權）爾お禮を言れちやア困り切るがネエお雪さん、人を思へ

ば思はるゝといふぢやアないか是程までにマアその私の方で思ふのを察してネヱ、ソレ私の内儀さんに成て下さる氣はないかヱ
ト思ひ切てぞ述べにける阿雪は今の一語を聽き滿面朱を濺ぐが如く怒氣心を衝き平常の口の重きに似もやらず唯一言に言破り恥を與へて此の後とも再び淫猥き言の葉の萌るを止めんと口までは已に出しを斯までに前後を顧ふ暇なき折にも性は之れを制めて彼の捺へ日なる心より倩々慮ひ運せば日頃よりして恩惠を被る人に親邊り恥辱を與へ仇々しく思ひを胎すは屑よからず恩と義理とのなからずば思ひの儘に言懲さんに心を曲るも世の中の人の務めぞ是非もなきと僅かに胸を擦りつゝ態と怒りを押包み苦しき笑を粧ひて
(雪)何を仰しやるかと存じましたら又若旦那の御串戲ばッかり妾のやうな至らない者を御串戲にも爾仰しやッて下さるのは誠に難有うございますが緣邊の事は當人同志の納得づくでも出來ませんから若し夫んな事なら何ぞ親共へ仰しやッて下さいまし○半言さし笑ひを含んで(雪)眞面目な顏をしてお冷却なすッちやア否ませんヨ
ト愛嬌多き目元にてジロリと見やり其の儘に顏を反向て取合ねば權一郎も今はしも押ていふべき詞もなく心中怒りを含みつゝ暮なんとする空を幸ひ挨拶さへも匆々に歸途に就たる權一郎は何か再び尋思をなし遽だし氣にまた元の越山方へ歸り來つ如何欺き誘ひしか阿雪を伴ひ雪道を二町餘り往く向うへ明松照して歸り來る父作左衛門が往會ひさま火影に透して認しかば合點往かじと呼止むる聲聞き着けて駈寄る阿雪を然はさせじとて權一郎は支て持たる傘に明松うち消し往かんとするを遣じと止むる作左衛門面倒なりとうち掴て後をも見ずに阿雪を引立て何處と先はしら雪の凍道傳ひ逃去りたり

第七回　思ひ出草

逝なんとする歲月を止めんと思ふは常に人の情慾ながら明るを待しき今茲のみぞ短かき冬の日脚ながら殘んの日子の疾く去れかしと一刻をだも待るゝなるべし道理なるかや新なる曆とともに開け初むるものは一つ二つのみにあらず亞細亞全洲の大博覽會は駘蕩たる忍ケ岡の百花とともに開かるべく千古未曾有の國會議員は一敕詔の出づるとともに開會の典を仰がるべき建國二千六百載無比の新禧を迎ふる歲暮の餘日を遲しと感ずるは寔にさもあるべき事になん其の年既に師走中旬東洋諸國の事務官は更なり印度西貢濠洲諸國及び太平洋群島なる殖民地の名を借りて歐米諸國の各政府より出品人の管理として委員を漸次に派遣なし出品人も日を逐て京濱間に到着するより常なる歲暮と異にして金融誠に圓滑に商業社會の繁昌は古今に例もあらざるべし殊に憂國愛民の士は一日三秋の思ひにて國會議場の容子を見ばやと夜に日に出京するものありて府下無數の旅籠舍は內外客の宿泊にて早や春來ぬと思ふべし取分け麴町芝京橋の三區は旅客の充滿せる其の中心と見受らる然はいへ外櫻田の大建築は未だ全く功を奏せず永田町に序を逐て建設けたる官宅のみ白壁の色閃々たり此れを視彼れを想像るに明年第一期の開會は先年以來新聞紙の屢々報道なせるが如く元の工部大學校なる中堂を以て假議場に充らるゝ方正說なるべし斯く憂愛の志士が焦思と其の趣きは異なれども其の本心を解剖せんには猶幾層の熱心を加へて慮ひを焦せる人あり其は殊人にあらずして貴族春川俊斎が最愛の貴女艷子なりけり逢見ぬ前より風采を慕ひて一とたび聲咳に接せんものをと思ひつゝ未だ見ぬ人を戀わたり心を空に葛城や久米ぢの橋の中絕し胥に絕せぬ假歎草根ざしの

堅く張りてにや青葉若葉の上野にて圖らず他に見そめたる獸師中島博智の聞しに増して温雅なる容姿にいとゞ猶堪ぬ戀慕に面痩てうちも煩ふ程なれど世に勝れたる嚴格に家政を統る父の大臣が常に眼を配り居て我が儘とては聊かも行はれぬに檢束され心の悲哀を訴ふる術さへなきに唯獨り憂を呑つゝ居たりしが幸ひなるかな新築の落成したる祝ひにとて去る頃夜會を催せし其の折中島博智と一室にまで同席して我が海外に遊びたる見聞を擧げ此の夜頃思ひ寐にまで結びたる夢か現か幻の後や先なる物語りに彼方も心なきにしもあらぬ言の葉聞得たる夫のみならで眞實より出たる握手を施して後日を約し別れしが其の折父の後裔が硝子を隔て認めしとて未だ緻密なる戀情の其の一點をも碌々に語り盡さぬものをさへ怪しき契を籠めたる如く嚴しき譴責かにかくと言解かんも口重く後は外出も自由を得ず翼を伸ぶる甲斐もなき身は籠禽の餌を食むも今は懶く覺えつゝ憂が中にも憂といふ秋を過しつ冬籠り木々の紅葉見るにつけ早晩赤き我が胷を彼方に運ぶ機やある味氣なの世といへばえに岩うつ波の碎けては落る涙も玉霰年さへ殘り少なくなりける一日父なる春川伯は横濱表へ出張して今宵は一宿すべしといひ母なる夫人宴會に召されて尊きわたりに伺候し留主には家令の嚴重に締りて居るを樣々に賺し拵へ親族に急用のある體になし唯車夫一人に腹心なる侍婢のみを伴ひて間も然まで遠からぬ飯田町なる中島が住居の前に車を駐め阿今に逢ふを名目に門を窺ふ出會頭佛蘭西革の靴音ゆかしく革嚢を片手に出來たる主人中島博智と面を合せて互ひに會釋し

(博)何方かと存じましたら艷子さんでございますか能うこそ入ッしやいました恰好お今も宅に居りますマア〳〵此方へお這入なさい

(艷)オヤ誠にお久しう……今日は何方へかお出ましに成りますので御在ますか、鳥渡御近所まで參りましたからお初にお尋ね申しました(博)夫はマア能くお出で下さいました別に差急ぐ用でも御在ませんから御遠慮には及びませんサアお這入なさいお伴の衆も此方へ何か

ト世辭に碎けし中島が解たる詞を聽くにつけ思ひは胸に彌增しつ交際場裏に事馴たる艷子も今は赧顏みて捗々しうは返答も得せず唯面はゆげに會釋して誘はるゝ儘うち通る茶の室の口より妹阿今が立出で來つゝ夫れと見て俄かに奧の客の房を掃ひ淸めて裀を布き自ら此に東道する饗應けも正首しく菓子を薦め茶を點じ滿面笑を傾けて

(今)マア何もお珍しい御客樣だこと眞個に能く入ッしやいましたネエ、モウ〳〵狹い處で仕方がございませんヨ(艷)お今さん決してお構ひ下さいますなヨ、夫なだと又度々上る事が出來ませんから(今)ナニ貴女お構ひ申したくッても御口に合ふやうなものはございません、是にお懲なすッては否ませんが例時は此んなぢやア有ませんヨオホヽヽヽ(博)お今さん其の茶は餘りひどいから釜が沸ッてるだらう一服點てお出な(艷)イヽエモウ御無用になさいまし爾しては居られませんから(今)だッて貴女お初に入しッて下すッたんでございますものマア御緩りなさいまし夫ぢやア御兄いさん湯加減を見て參りませう

ト阿今は起て茶室の通ひ襖撤きさへ尋常に襖を開て出て往く後には二人對向ひ艷子は辭のあやさへも別ち難たる戀慕の闇何れの道より說くべきか初の山ぶみ迷ふより外に栞もなかりけり元此の艷子は累世の槐門武侯の後園に養はれたる者にあらず父にて在する俊胤伯は中國邊の國主の臣にて身分も輕き者なるが勤王黨の巨臂となりて大いに維新の革命に力を盡せしのみな

らず數年の功績あるものとて天寵も亦一方ならず去る年貴族に列せられ榮爵をさへ賜はりけるなり艶子は新橋の狹斜なる愛妓の腹に孕りし者にて未だ胎內に在りける頃母倶侶に若干の黃金に其の身を贖はれ金春屋敷の新道より初めて瑤臺玉樓に產所を移して生れしなるが生育の期は儼然たる權門紳士の手に養はれ普通に比すれば高等なる教育をさへ受たる上父に隨ひ獨逸に赴き伯靈の一女學校へ留學なしたる者なるゆゑ日本女流の上に比すれば教育の度は進步したれど媚を獻じ色を衒ひ浮薄を常なる紅裙の母が意想を感ぜしにや性質多情に走り易く德行も亦高からず尙小學にある時より衣裳を評し男子を品し輕躁の風ありけるに歐洲文明諸國を見て專ら自由結婚の行はるゝを羨やみ思ひ我が邦男子と女子との間の懸隔殊に甚だしく男女七歲不同席の支那教育の行はるゝを痛く心に歎きつゝ男女の中を密接せば樂しき事の多かるべしと一意に之れを念ひけるは卽ち深意のある事にて彼の同權を主唱しつ淸操美德を有ちたる歐米女子が男子より尊信せらるゝ長を擇まず皮相を以て其の心事も男女の中の親しくて喃々の語を公然と漏す者よと思へるなるべし否我が心の鄙猥なるより彼れをも斯くと認めしなるべし已れを以て人を測るは特り此の貴女のみならねど互ひの心を印刷して世に刊行すると雖も唯一點の淫字てふものなき自由結婚も東洋女子の惡德なる心事に型を製造されなば忽ち自由の二好字は放恣となり淫逸と化し春書を露店に公賣すると同一般の結果を得べきか斯る不德の分子より成立ける女子とも知らねば主人中島博智は夜會の折に同席して聊か意中を探り見るに歐洲風の教育ありて思想も日本女流には得難き價値のありと見え切りに自由結婚を唱道するは我が持說と符を合したる如くにて殊に風致の窈窕たる其の才智だも慧敏なる一生涯の伴侶となし偕老同穴を契るとも愧ぢなきよりは無量なる快樂あらんと思ひ居たれば歐洲風の交際を結びて若しも結婚の媒介を得ば畢生の苦樂を與に共にせんと心を許せし折柄とて仔細に擧動に注目しつ尊信の意を顯はして

(博)其後は意外の御無沙汰を致しましたが大臣には定めて御繁忙で入ッしやいませう來年は實に日本の歷史に於て一大記念となるべき年となりましたから萬端何も御心痛と想像されますテ (艶)左樣でございますョ、妾輩は女の事で何にも存じませんけれど何だか內閣の御用だと申して每晩十二時過ま　も祕書官と二人で何か調物をして居りますが愈々國會でも開けましたら貴君なんざア定めて名譽のある事でございませうと存じまして妾輩までが待遠しいやうでございますヮ (博)所詮私などは何をする事も出來ますまいが何にしろ地方自治の制度を起して其の地方々々で一政務を所理して往くやうになれば自然に利益が上るやうに成て久しい間の不景氣も些たア救濟の方が付きませう (艶)心持の合た人同志が銘々に何かをする樣になりますと都合が好なるでございませうネエ (博)夫りやア爾ですとも何しても事の運びが早くなるから萬事に手が注屆いて好結果を得る道理ですサ (艶)マア是が夫婦の中にしても親が干涉をしないで當人同志の好合た者を添して思ひ通にさせると何しても家が圓く納ると言たやうなものでございませうか (博)左樣々々、實に夫なものです

話頭漸く竿步を進めて艶子が意中を徐ろに漏さんとする折も折下手に設けし瓦燈口を靜かに開きて恭やしく阿今は抹茶を捧げ來つ艶子の前に薦むるに央口まで涌出せし喃語は空しく胸に下りて泡と消え行く樂燒の茶碗取り上げ啜干しつゝ

(艶)誠に結好なお服加減でございます(今)何だか解りはしませんが宜しければ今一服差上ませう(艶)夫ぢやア濟ませんが(今)お安い事でございます(博)後で私にも一服たてゝ貰はうか(今)ハア畏まりました

何とか此の場を霎時なり遠ざけたさに好みもせぬ薄茶を褒て阿今をば思ふが儘に退けても一旦詞の納りては再び說くも新にて艶子は情味を呈すべき媒介もがなと見廻せど話頭を誘ひ出すべき器も容易見當ず兎角するうち先の程啜殘したる煎茶茶碗の底に澱みし色を見て俄かに緖を發見しけん心嬉しく遽だしく今まで表を粧ひたる溫藉都雅の優美を剝ぎ我が本質なる輕躁の色を乍ち顯はして

(艶)ア、爾々、珈琲鋪々々々(博)珈琲鋪が何かしたンですか(艶)イ、エ、ホラ貴君も御存じでせう、アノー〇と言さして稍心着き俄かに顏を打赧めて(艶)エー西洋で那の親達の許しを受た男子の御友達と遊步や何かに參ります時ネー、ソレアノー公園地の遠い處や何かでは能く市街の珈琲鋪へ行て休息しながら種々なお話しを伺つたり申し上げたりして大勢のお友達衆と一緒に打解て遊ぶンでございますツてネエ(博)左樣サ、一帶珈琲鋪は日本でいへば上野邊の茶店の高尙で便利に出來て居るンですから言ば手輕な、クラブ、ハウス」といつた樣な形ですのサ(艶)日本には爾いふものが求め憎いのでマアソノ貴君が妾を見たやうな者でも互ひに親密な交際をして見て心に滿足したら結婚の誓ひをして遣うと思召しましても世間體はあり便利を與へる媒介もなくツてチョイと困るぢやアございませんか(博)凡て物事は人に先んじて仕遂ようといふには何れ其の當時の多數から非難されて笑はれたり譏られたりするのは當然の事ですから卒先して自由結婚を行はうとすれば多少の譏譽は甘じて受なくツては成りますまい、私の精神は世評に頓着しない積りですから若し貴女も心に許し大臣もお許しなさる事なら折々靖國神社へ散步に御同行を願ひませうし又夜會其の他へも歐羅巴の慣例通りに御同伴申して縱令人が鼻ツ垂しと申さうが鷄と申さうが夫んな事は更に顧みまいと思ひます

我が意に同じ戀人の意の中を聽よりも艶子は胸も轟の橋を渡りて今はしも思ひの岸に着したる嬉しき情を細かに伺聞えんと語尾を繼ぎ語を既に口頭まで運る折に又再び阿今に舌を押られ渴きは薄茶に醫すれども靴を隔て痒きを搔く思ひの最ど堪やらで從來愛慕の切なりし阿今も此に中島と親く詞を交る度の昇騰するに隨ひて漸く妬き想ひに變じ斯再度まで價値ある談路を遮り隔られ遂には憎惡の心を生じつ彼方の最も柔順なるは却て奸佞諂諛の手段と見らるる迄に化し餘談を全く後會に讓り艶子は無形の身體を止て有形肉體のみ邸を指して還り往きぬ阿今は下婢と倶々に客の去たる席上を取片付て淨んと艶子が坐したる褥を上れば下より出る一葉の洋紙のあるを訝しく手に把上て披きて觀ば英文を以て譯したるヴヰクトル・ヒユゴーの戀詩にして筆の尾りに H.H. と略記したるは言ずして其頭字に其人を知ては若も書生等の目に觸たらば騷がしく兄の榮譽を毀くる事のあらんも測られずと八重にも十重にも折たる儘帶の間へ聢と納め素知ぬ體に掃除を終りて兄の居室へと行て見ば火鉢を前に柱に凭れ髭を捻つて何事をか頻りに思ひ居る體なるに阿今は前に座を占めて

(今)お兄いさん貴兄は何いふお心持で入ツしやいますか(博)何いふ心持とは(今)妾が此んな事を申しましては生意氣だとお叱ンなさいませうが歐羅巴人の皮を冠つた日本の下等

處女に貴兄は生涯を託さうといふ御了簡でございますのか（博）何故（今）何故ぢやアございませんやネ、皮相には優なしい顔をして居ながら心のうちの卑劣いの位見ツトモない者はございますまい、爾申しちやア悪うございますけれども眞實其の人の知識とか德行とかといふものに思ひを懸たのなら生涯を託しても宜ございませうが、少し目端が利く丈けに諂ふ先を見て彼の人なら人品もよし職業も望みがあるしいまでも立派な紳士だから身分も慕しいと云ふ處で一途に生涯の快樂を得ようと一つは鼻元思案一つは情慾一つは心慾此の三ッから成立た戀慕は誠に價値がないぢやアございませんか夫に自由結婚自由結婚と言て居ながら何かして自分の淫慾を遂ようと日本でもレヂーとか何とか言れるものが仕方にも似合ない古風な手段をするやうでは面白くないだらうと妾は思ひますワ（博）何だかさつぱり私にやア解せない（今）分るやうに申しませうか

ト平素無口が一心に辯ずる實證を博智の頭腦へ十分押印せぬ時書生が此へ入り來り襖の此方に手を突て

（書）先生、唯今猿樂町の角田眞平さんから御使でございます、先刻から御待申して居りますから御手透次第早速お出下さるやうに舛島さんもお待なすッてお出なさるからと申して參りました（博）左樣かヱ、ア、直に往くヨ、車夫に支度をさして吳んナ

第八回　梅一輪

一と昔といへる十年前の十一月より日本全國の志士論客が指折摟へ足を蹺て頸を延いて待焦れつる二千五百五十年の暦をこゝに啓き初めたる一月としも成にけり年毎の常として萎靡泯滅せる人の氣も一夜を境に一間は活潑爽快を感ずるものにて都鄙遠近の差別なく門外堂裏に鮮衣を纏ひ喜悅を面に現して遊戯に奔走する士女等と俱に新しき笑を含みて禱を謠へる新年なるに今年は同じ空ながらも瑞氣洋々として滿地に瀰り祥雲靉々として中天を覆ふかと怪またれ祝賀の聲も歡呼の如く贈答の音物も佳色に富めり解知らぬ賤の身にも一新天地の今日始めて開闢されたる想ひを感じて瀕年うち續く不景氣も一時に脫却したるが如く愛たしと述る言の葉に枝を交へ萌芽を加へて俄かに繁茂せるものに似たりき東京の春や如何ならん日比谷の松竹如何ならん都人士の氣は宛然に視官の感觸速かなれば滿腔の思想一洗して今や掌裏に寶玉を握りたる思ひやすべき將聽官の迅速なる爲め破鏡を擲つの感はあらずや分子は何れの點に向って最も多くの物體を造るや將此の集點の物體が如何なる作用を爲さんとするや新聞紙の報道こそ斯る時の憑みなれ每朝新聞の主筆記者たる山田文治先生には非常の眷顧を辱けなうして日毎に新紙を熏まるれども人工を以て排除しがたき雪に通路を遮られ彼のワット氏の賜のなる蒸氣の力も打勝難きかステベンソン氏が遺澤を仰ぐ汽車の通路はありながら月の中には幾回も運轉せざる事もあり現に舊臘三十日には雪潰に軌條を埋められ未だに通路の開かぬ由にて去年より絕て新聞を讀得ぬ身こそ憂たてけれ中島先生の許よりも久しく書信の達せぬは我が身を疎んじられはるか齋藤よりも一介の雁信なきは何事か意に隔る事あるにや婦女子なれども阿今どのは沈靜にして道理を看破る事の銳敏なる貴女にて在せば居ならぬ我れをも同窓友愛なる友の如くに思はれつるが今は如何に悲臥し給ふ天の產たる國色あり玉を研ける穎才ありて淸操淑德水の如く得難き佳人の事なれば既に伉儷の約ありしか將合巹を遂られしか京の便りの聞えぬさへ公情私情二つながら斷腸せざるこ

となきに妹阿雪は去年の冬森村權一郎と相通じて病たる老母を無情にも獨り殘して亡命せる不孝不德は怨るとも心の達くにあらねども常に婦道を守るべき敎訓を垂れて和漢歐米榮ゆる貞節義婦烈女の傳記を詳さに諳んじさせ側ら淫逸毒慝なる婦女が終りの全からぬを說て膺懲おきつるに諳んじたるを打忘れて膺懲たりし害惡に心醉したるぞ情けなき孝女と言れて閭門にまで旌表されたる身でありながら身を過ちしは如何ぞや一家の私事まで我が胸に合ねば剝てや公道の意を貫かぬも道理よ自治の制度は緒を啓けど名のみ聞えて其の物の實に面接せざるこそ誠に遺憾の極みなれ嗚呼三千年に一遇せる此の新年に際會しながら我れのみ獨り憂愁に心緖の多事には紊れたる噫我れにのみ天帝の此の快樂を吝み給ふぞと心裏切りに快々たる越山卓一が家宅を叩きて忽ち書束の飛來したるを手速く把て披き見れば是も憂苦の材料なるべし戶長森村剛藏より至急の來車を待つとある唯簡單なる書箋なりけり卓一は唯端然と書箋を膝の上に敷伸へ首を垂れて片手を加へ忽ち例の持癖を出して太き眉を密接せしめうち顰めつゝ兩眼を堅く閉して口を締め沈默したるは簡單なる此の一書箋の與へたる至大至重の問題を熟考すると思はれたり三十分時が程を經て漸く眼を開けども口も開かず眉も開かず最と不愉快なる顏色にて徐ら其の身を起したるが書箋を其の儘爐の側に廣げて茶碗を押に置きしは父が歸宅の後に於て往きたる場所を知る爲めならん老母の方をうち見やれば能く熟睡してある體ゆゑ土間に下立ち藁靴を穿ちて笠を手に携へ出入の締を堅くして隣家といへど隔りたる家に赴き斯々と詞短かに仔細を告げ戶長役場へ赴きたるが役場の方へは用なき事か同じ家なる森村の勝手口より來意を通じ下婢を案內に藁靴を脫で足なる塵を拂ひ廊下傳ひに奧二階の階梯の外まで往きたれば軈て二階の段階に音をさせつゝ下來たる女房が此方へ立出來つ常に變りし笑顏にて

(女)卓一どのか寒いのに遠々の處へ御苦勞樣サア〳〵此方へお這入なさいアノ昨晚から東京の御客樣がお泊りになりましてネ今旦那も其の御方とお對話中だから暫時此處で溫つて居て下さいヨ、コレ〳〵お茶を持て來ナ

前回の下艷子及び博智の言語中珈琲鋪の英語に鋪の字に對して Shop なる假名を施したるは鋪なる字義に拘泥し虛心に記せし誤りにして這は Coffee-house なる熟語あれば宜しく鋪と正すべし猶此外にも如此誤謬のなきにあらねば看官宜く御推讀を仰ぐになん

ト女房が世辭も耳煩く唯宜き程に應答をして火桶の上りに膝行寄り手を溫むる卓一の聲を聞より二階にて主人森村剛藏が鳴す呼鈴二三點應と答へて炊婢は階梯の央を昇りしが乍ちにして降り來り主人が面會する旨を傳へも敢ず先に立ち東道する儘卓一は二階に昇りて一室に入れば年の頃四十有餘の紳士體たる客ありて傲然として上座なる裀の上に坐し居たり遙かに下つて森村は敬意を表する體なりしが今卓一の入來るを見るより例の獰惡なる眼光中に笑を交へて少しく席を上に進み

(剛)卓一、イヤ早速の入來で難有い其處では談話が出來ないから障子を締めてヅッと此方へ寄たがいゝ火桶は己と相持にしよう年が明ても寒い事でモウ老人は大閉口だ病人は何ぢやな些とは宜い方か寒さが劇しいから定めて抗る事だらうの—(卓)へイ難有うございます例時何も同邊でございまして……エヽ—今日お招きに成ましたのは如何な事でございますか宅も病人一人で御在ますから御用辨次第早速歸つて遣はしませんと藥餌にも差支ますが甚だ自由ケ間しくは御在ますれど何か御

用談の程を希望致しますで御在ます（剛）ム、成程、道理至極々々々々實は外の用事でもないが是にお出なさるのは東京の貴族春川樣の御家從で水野昌好と仰しやる方だが（昌）森村氏此の先生がお噂のあつた越山卓一君と仰しやる方かネ（剛）御意にございます（昌）ア、越山君僕は春川家の家從……エ、豫て御高名は此の森村から承まはつたが初めして拜顔

（卓）コレハ／＼痛み入ました御挨拶私は越山といふ田舍漢でございます以後は又何か御知懇に（昌）何ぞマアお互に、さて今回は圖らず拜顔を得て僕も甚だ滿足です、ナニ森村氏足下から詳しくお談判を（剛）宜しうございます、イヤ卓一別に用といふでもないが先達てから屢々地面の事で表面からも說諭をし又內實にも立入て種々と懇談もして見たがお主ばかり不承知をいふのでさつぱり埒が明んぢやテ夫れ故マア此の雪中を此方が遙々とお出向になつて萬事御取極に成らうといふのだが切角御買上に成た田地もお主の持田を始めとして權十、善八等の田地で水を拔かれる爲め何にも成らぬといふ始末だ、よしか能く道理を聞て呉な、夫で先達ても御前からの御達には水理の爲に折角の良田も作徳が薄いやうでは困るに依て假令非常な高價を食られても致し方がないから近傍の田地を殘らず買上て呉れるやうとの事で御出張の序とは言ながら態々農務局の御役人樣が御見分に成た上此は斯樣开は何樣と朱引までして御歸京に成たのだ、よしか、其處で己も新耕地の方は冥加がてらに進上して地劵の書替もした位だ外の者は誰一人故障を言立るものはなけれど卓一どんが不承知なら己もハア不承知だと皆ながお主の顏色を見てるから、よしかよ、人は當つて碎けろだ萬更損の往く話しでもなし估劵を上て賣るといふお主の返事が聞たいのだテ、ノー卓一常からお主にも言ふ通り此の三俣一ケ村は大概己の地面だけれども間に些ツとばかりづつの畦田やおくみ田を村中が大勢して分取りをして居るからこそ畢竟地租が滯ほつては每年大騷ぎを遣らにやアならぬのぢや、だから己に賣渡して元々通りの作德は遣らうから小作をした方が氣樂だらうと言つたのだが僅少ばかりの物を賣惜みをするとは物知のお主にも似合ない切斷（決斷）のない話しぢやアないか、コー／＼此れを見なせえ此の通りお主達から願つて拜借金もしてあるのに昔日でいへば御領主も同樣な春川樣抵抗するのは至つて宜しくない事だ、ウム、甚だ穩かならぬ事だお主がウムとさへ言ば後はまた說着るから何だ別に否やはあるまい、ヨー卓一宜しからうネ（昌）承まはれば君は東京へ御留學に成て居たさうだが御承知の通り僕の主人は廟堂にも立て居られる事だから無理押の壓制は甚だ好ましくない譯ですテ、マア此の御示談が屆くものなら御相談を願ひたいと存じて實は出張した次第ですから十分な御見込も承まはつて又何とか當作の御相談にも預らうが到底今の儘では困るから男子らしくなア何か其の確答を聞たいテ

ト互に迭りに說出るを目を閉ぢ頭に手を加へ眉を顰めて聽居たる語句の切に卓一は銳き眼を一時に睜き俄かに體を直立して聊か語氣を迅速に

（卓）不條理千萬な御談判です蠢愚朦昧の土民ならば其の甘言に服すかは知りませんが卓一には逐一不服を感じます、元來此の御談判は國家の大臣たる春川伯の御職權を以て御命令に成たのか夫とも國民といふ點に就ては我々と同等なる春川伯の御詞であるか又森村君も戶長の職で此の談判を取次れますか但しは一個人の周旋口か此の大體からして曖昧

ですから御明答を願ひませう夫に應じて私も御確答を致すでせう、如何ですか如何ですか

ト銳き語氣にて卓一が詰問するに昌好剛藏當座の答へに往き迫り今若し渠を怒らせては是まで心を小くして計較したる事柄を舉て畫餅に屬すべし可及的言語を卑うし其の甘心を得るには及じと口には夫を謀合させねど目に通信の自由を得るより忽ち無聲の傳話機を架け心と心に契約を結びけるまゝ昌好は溫和の眉を動かして

(昌)成程御道理の御質問ですが固より一個人の契約上に職權を以て左右する理由も有ませんから唯春川俊裔が越山君に對して同等の御示談を逐るので有ませう(卓)夫れは然もあるべきことで詳細了解致しましたが然らば何ゆゑに直接の御談じはなさいませんぞ戶長の係はるべき筋もないのに故ら戶長を媒介人として威力の行はれ易いものに部理を委任なすつたのは私の最も不愉快を感ずる所です(昌)衛意を邀へての御詰論では甚だ辯明に苦しむが、凡て物は便利に就くのが常態であるから一面識もない人に突然話しをするよりは一村内の事に與る戶長其人に託せば事の運びも速かでせうと想像して勿論是が例のない事ならば嫌疑を犯して何も爲はしないけれど從來東京の大臣が土地を買ふに戶長を依賴する事は慣例であるから則ち是なる森村氏に委託したのですが(卓)夫は至つて宜しくない慣例ですなア、元來戶長といふ者は何が職掌でありますか森村さん(剛)何がたア何だ戶長はその一是丈の事をソレ詰り昔日の名主だ(卓)名主とはエ(剛)庄屋サ(卓)庄屋とはエ(剛)分らんぢやアないか村の世話役だ世話役だから何事に依らず世話をするのサ(卓)誰が世話をして吳れろと賴んだのですネ(剛)困るなアお主には、斯ういふ職掌を設けて令公が命じたのだ(卓)夫なら斯いふ事まで世話をしろといふ御命令がありましたか(剛)ナニ〳〵何だツて(卓)イヽエサ土地賣買の公證をするのは御職掌でもありませうが相互ひの間に賣う買うといふ豫備の契約に立入る御職權は有ますまい全體戶長などといふ者は人民の公撰に依て村中の稅金を取次だり戶籍帳を預つて出入の世話をしたり地券狀や家屋を公けに證明したりして村内の利益を保護し公邊の庶務を便じて縣廳へ對するまでの總代人の外は有ません官撰戶長でも元々此性質に相違はあるまいと思ひますから土地所有の自由權理といふ者は貴君が十分に保護をして下さるのが至當でせう然るに人の權理内に立入て夫は不都合の是は成らぬと職權を利用して自由を妨げられるのは如何な御精神であるか春川伯の御委託があつて森村剛藏といふ一個人が此のお世話をなさるのなら買方卽ち貴君が客にて賣方の我々が主であつて見れば買たいといふ願望心を以て賣うと賣るまいと十分の權理のある我々へ下手から出て示談をすべきが至當でせう夫に何ぞや業々しく役場へ呼付て彼の地面を貴樣が持て居ちやア向うの田地が困るから是非賣て仕舞とか何とかと求めて此方が妨害でもしたやうに命令を下されるのは取も直さず土地所有の權理を奪ふといふ者でせう法律の境を踰ない以上は自由の消滅する者では有ませんから良民として貴君に夫な强奪を受る理由は有ません法律を犯した罪人すらも公判以前には保釋の自由もなり公廷に於る言論の自由を持て居るのは既に今日に始まつた事でも有りませんから貴君方も御存じの事でせう然れば此の賣買の御談話は改めて承まはる事として今日はお暇を戴いた方が宜しからうと存じます(剛)お主のやうに屁理窟ばツかり言ち

やア困るだらうぢやアないかマア怒らないで拝借物もあるものだから慈愛な話しをネエ水野樣（昌）誠に御道理の事のみで實に恐縮千萬併し森村氏を一個人として拙者は中人に立てたのだから先生　其お積りで願ひたいものです（卓）又申すやうでございますが其の拝借金は共有の村債も同樣な譯で何も地所に關係を及ぼすものではありますまい效力のないものを以て賣買の機關に利用させては困ります夫は貴君も御存じの通り小川の鮭漁を盛んにしようといふので村内共同して拝借したものですから返償の途も別に立て居るぢやア有ませんか（剛）オヽ爾だノー（昌）イヤ決して利用する譯ぢやアないのサ

此の談判の結局如何を未だ窺ひ知り得ざるうち俄かに門外騒がしければ剛藏速くも南表の硝子障子の内よりして見れば此程賣買の示談を概略遂置たる農民們の何事をか罵り狂うて押來るに心に怖るゝ事のありけん顔色宛然土の如く俄かに阿諛の色を粧ひ言を卑しく卓一に説諭を頼むに背きもならず是を立端に卓一は暇を告げて立出る門の外には農民が今にも闖入なさんとするを見るより卓一大手を擴げ無理に一先づ引上げさせぬ

第九回　花に啼鳥

寒蕾和風に破られて香雪影疎らなる時花の幽芳を遠く誘ひて金衣公子は邃谿を離れ枝に衣笠を縫んとす苔石衣鮮やかにして下萠出づる若草も纎手に摘るゝを待ち顔に見ゆめり窓外の呉竹綠更に深うして猗々として銀芭に映じ檐頭の古松翠藍を新しうして亭々として紅藻を照らす後園の春色觀良や完からんとするに三五の素娥光を研きて淡霞の羅衣に媚を洩し色をも香をも細かに寫せり造化が密作の丹青には魏武の子孫も生面を覆はん文彩風流の秀逸なる誰か此を能く描き出さん天筆の畫圖斯の如き春川伯が園に臨める三層閣の中樓に美善を盡せる一室あり暖爐の火は軟温を呈して適度の熱を斷えず造くり米國製の姿見鏡は一點として曇りなく常に嬌面を寫すが如し龍動製の競馬時機は古將軍の立像に模し暖爐の上邊に勇威を顯はす唐木彫の卓子は刀痕無數の雅致を存して里昂織の天鵞絨に浮出したる薔薇の花も卓氈となる匂ひなし黒檀の椅子に是眞翁が伎倆を吝まず卷畫したるは品位の最も高尚にして露西亞革の滑かなる座臺の覆も直なからん大小三個の窓の内には瑞典國の淑女が手に成る白紗を普く揭渡し印度木の書架の上には獨逸製の金工花瓶に室咲なる櫻花を活けたり羅馬美術の石工像は亞非利加礦石の上に坐し土佐繪の軸は脂煙畫の額と對して壁に懸れり大凡我が地球上到る所の名產美術は此の一室に羅列したりき又此の書齋の橫の方には方四間ばかりなる緣の如きものありて花氈を一體に敷詰たるは雨の爲に妨げられて庭を逍遙し能はぬ時運動すべき場所なるべし斯く壯麗なる玉樓に居て常に愉快に讀書する主は誰かと尋ぬるに伯が最愛の令孃なる艷子が身を處く房にぞありける常住坐臥に斯ばかり愉快を與へられながら心の慾は是を以て未だ飽べき度に達せぬにや獨り房に在る時は氣の凝結れたる者の如く鬱々として娯しまず總ての事に懶きか常には好みて繙きたる書物も筐に投入れて塵をも拂へることあらで時々詩を書し歌を詠み僅に心を行りながら夫れさへ多くは引裂て故紙筐底を埋めるのみ今宵も夜食の終ると其の儘此の一室に垂籠めて景色愛たき月下の梅の影をも眺むる氣色なく斜めに椅子に倚りたるのみ筆をも操らず書をも啓かず目眩きまでに燦爛たる瓦斯の火影に壁上なる半身像の額を眺めて屢々吐息をつき出す其の吐く息を分析して仔細に原素を調見んに戀情といふ

舍密の作用に成立ちたるより外はあらじ艶子は獨り脂烟畫の顔をつく〴〵打目戍てあゝ我ながら斯ばかり迷ふは宿世の因縁か忘れんとせば生憎に思ひの最どます鏡うつして見たき我が胸を彼方は知るやしら眞弓はる來る毎に梅が香を慕ひて遠く谷の戸を出で訪ふ鳥もあるものを偶には東風の音信をし給ふとても身に高き香をりを散す事はあるまじ誰が詠じけん一見染ずてあらまし物をから衣たつ名のみして着る夜なきかな一歌の心も身にぞ知る斯く難面らば始めより難面くなしもし給はゞ思ひ斷つべきものなるを愁じひ物を思はする優しき言の葉を添へて獨り枯れよとし給へる君が心をいく度かいく田の浦に立かへるなみだの間に汲分けて見れども見えぬ山の井の底の心を朧にも告げ給ひなば人知れぬ憂を去る夜やありけんを難面もあらず然ればとて優しくもなく身を責て髫兒の弄ぶ蛇の活も得やらず死にもせで憂を見よとは何事ぞ身は守る人に隔られ通ひの關の閉づるとも心は常に君が側離るゝ時のあらなくに君は夢にも覽はさずや我が思ひ寐の夢にだも解けて語らせ給はざる情の剛きに釣舟のこがれ渡るぞ切なかる名のみは世にもたち花の香を占む節のなからずば君がならびの池にこそ身を投つとも聞せめと亂れ苦しき憂思ひの早晩口の外に出で

（艶）マア何したら中島さんの樣に人を苦しませる事が出來るだらう御自分も自由結婚の先鞭者になるから貴女さへ御承知なら折々靖國神社へでも遊歩に御同道申しませうと仰しやつて置ながら唯の一度も誘ひに來て下すつた事はないし餘りだからお尋ね申して見ると御留守だと言て阿今さんとばツかり遊んで來るのは眞個にお嫌ひなさるのやら何だやら些とも譯が分りやアしないワ、男らしくもないお方だと恨む程猶忘られないからイヤ〳〵爾でもない御商賣のお忙しい方だから此方で思ふ通りにやア往かないだらう萬一すると今晩邊りはお出なさるかも知れないと思つては毎晩々々お化粧をしたり種々として待て居るのに影さへ見えないのは眞個に餘りだヨ、事に寄ると那なに體裁のいゝ事は言て居てもお今さんの口からヤアおてんばだとか氣が多いとか陰口をして否がらしたのぢやアないか知らん考へりやア考へる程何だか心細くなるばかりだワ「玉の緒のたえて短かき命もてとし月長き戀もする哉」と紀の貫之が詠んだのも斯んな事だか知らん、エヽ何だかじれツたく成た

ト轉思ひの加はりて恨みにからむ獨り言聽く人とては扁額と競馬時辰の裝飾なる立像とまた大理石の置物の他にあらずして是等三人の人と雖も形は生るが如くなるも元人工に成れるを以て精神魂魄ともにあらねば五官の働きあるにもあらず聽くべき鼓膜も備へねば言ふべき舌をも持ざるより傳へて漏るゝ事あらじと思ひの外に密閉して聲の通路を遮斷せる硝子の窓の隙を趨りつ一秒時間に千九十尺の遠きに到達したりけり斯ても窓外餘地多く石を疊みし壘壁ありて聲の進路を打返すべき備へ十分堅固なるより傳へて人の耳に入る間道とてもあらざりしが時なる哉俊胤は食後の運動を試みばやとて今しも此なる運動場を徐かに散歩なし居たる虚心の耳に感ずる獨語は咿唔の聲とも殊にして怨氣を含める音吐なるゆゑ思はず耳を欹てゝ窓に片肱凭れつゝ彼の菅公が詩を追懐し月輝を眺め晴雪を観て聽くとはなしに聽く父の咫尺の間にあるぞとは心も着かず見えやらぬ透明體の玻瓈窓ながら夜は内部のみ光力劇しく外部よりして透入すべき光線極めて微弱なるより形をさへも見る能はず人なき事よと自ら信じてまた繰返す苧環のはしなく出る喞ぐさ

（艶）人の迷ひといふものは考へりやア考へる

程段々種々な事が疊まつて來るものだ、眞個に此の脂煙畫を見ても腹が立ワ忘れもしない去年此の家の新築が出來た祝ひに夜會を開いて日頃交際のある人を招だ折だッたがお今さんと一緒に内を歩行て此の書齋で休息しながら浮世話しの序に中島さんの事を聽て見るとお世辭だか何だか知らないけれど中島さんも妾の事を何だとか思つてお出なさるとお言であつたから譃にも何なにか嬉しかつたら夫から中島さんと見懸たから直と珈琲を持て行て言憎いのを我慢してお話しをして見るとお今さんの仰しやつた通り種々な英國の自由結婚のお話しをなすつて交際をしようの何のと體裁のいゝ事ばッかり仰しやつたけれど今と成ちやア夫も依然當座のお世辭だッたか知らん彼の時は何ういふもんかお今が可愛くッて眞個の妹でも此んなに可愛いものぢやアなからうと思つて居たのに今ぢやア思ひ出してもモウ〳〵憎らしくッて腹が立て仕やうが有りやアしないヨ人の心といふものは何して此んなに迷ひ易いものか自分ながら何考へても分らなくなつた

と言も終らず歎息する風情を逐一認めたる俊胤伯は赫然と怒氣滿面に顯はれしも何をか尋思し替けん再び色を改めて故さら笑を含みつゝ戸を押開きて室内に入り來る父を見るよりも艷子は椅子を離れしまゝ傍の隅にかい遣りたる椅子の上覆引取りて塵打拂ひ適宜の場所へ据うるを取て腰うち掛け常に變らぬ面色にて

(俊)何ぢやナ何か文章でも出來たか此の節は一向學校へも往かないやうだが何か調物でも始めたかエ(艷)イヽエ此節は何だか勝れませんで唯風來々々とばかりして居ります、御父樣貴君は未だお召替もなさいませんが何方へかまたお越に成りますので御在ますか(俊)何アに過刻永田町まで行て歸つたばかりだから着替もせなんだのサ、時に艷子其方に内密話しをして置んでは成らぬ事があるが夫れとも節(夫人の名なり)にでも聞いたか(艷)イヽエ未だ御母樣は何とも仰しやいません(俊)左樣か、ナニ外の話しでもないが實は其方もモウ年齡が年齡だから何時までもお孃さんでも置れまいから良縁を見て結婚させなくては成らんがさて何も世間に人は多いけれども孰れも吟味をして見ると長し短しには困り切るマア己の精神を安んじるし其方も一生を託して苦しくないと思ふ者でなくッては到底結果を見ることは出來ないものであるぢやに依て己も此の點には種々に心痛をして一昨年以來逢ふ人毎に就て注意をして居つたが漸く是ならばと思ふ人を探り得たヨ、ウムマア何やら斯やら適當な人物を發見した、アー

ト欣々として喜色を顯はし得意顏なる父が詞に艷子は驚き一と方ならず縱令父君母上の御心にしも適へりとて狹布の細布胸合ぬ人に我が身が百年の苦樂を背で託すべき人は不孝といはゞ云へ淫婦と誹謗を爲さばなせ一たび心に誓ひたる自由の婚儀を先んじて結ばず空しく已むべきぞと既に抗抵なさんずと半口まで出たるが又倩々と考ふるに斯くまで慕ひ斯まで恨む中島氏の精神は愈よ我を厭へるか又愛憐の情あるか仔細に未だ心腹を洞觀すべき顯微鏡を持たざる上は一概に爭ひし後其の人に排御られなば如何せん今まで經驗なしたりし事實に照して彼の心は此方に思ひ居る其の誠心の一分子だも腦裏に寫りてあらざるものと假定めんには面當にも父が許せし其人と契りて彼方を辱しめんか如何せまじと岐多き戀の山路に踏迷ひ指南を發見すに苦慮したり俊胤伯は眸を定めて艷子の色の變動を仔細に觀察なし居たるが直ちに語を繼ぎ語りも出ず該の室内の片隅へ設け付けたる傳話器の側に立寄り何事をか音信しつゝ又元の椅子にう

ち
掛け和かき面に少しく忿怒を帶びて
(俊)艷、親の撰んだ聟は其方の心に落ないか否とも應とも返辭をしないで唯もじ〳〵として居るのは恥かしいのかは知らんが、マア能く心に分別をして確とした答へをしナ(艷)夫はモウ御父樣の仰しやる事でございますから背くの何のと言ふ事はございませんけれど未だモ少し修業を致したうございますから(俊)馬鹿ア言ふナ縱令二年でも三年でも洋行までさせたからモウ婦人には澤山だよし又嫁した上にても志ざしさへあるならば幾干でも修業は出來るワ大概程といふものが有つたものだ
ト稍尊長の權力にて壓倒せんとする折から今傳話機にて呼ばれたる夫人節子は此時に始めて茲へ入來り二人の談話の容子に依て了得に粹の果なれば大概夫れと推測しつ艷子の側に香匣を乗せたる丸き椅子を取り二人の中に座を占つ
(節)何のお話しかと存じましたらアノ此娘の御縁談でございますか誰しも若い時には此んなお話しを聞くと嬉しいのが二分怖いのが三分恥かしいのが五分で胸ばツかりどき〳〵するものですから貴夫のやうに仰しやつちやアお答へが出來やアしませんね最少と穩りと言て聽せなさいヨー(俊)イヤ夫は慶應年代の娘の子の事だ今時の娘が何で恥かしいの何のといふ事を知るものか餘り歐羅巴思想にばかり趨つて居るから些と謹愼の情が發しるやうに支那傳來の婦道を演說して聞せよう第一婦人には三從、五不取 七去、三不去、四德といふものがある大載禮に之れを解說して三從とは家に在ては父に從ひ人に適ては夫に從ひ夫死しては子に從ふをいひ五不取とは逆家の子は取らず亂家の子は取らず世に刑人あるは取らず世に惡疾あるは取らず父を喪ふの長子は取らずをいふなり七去とは父母に順ならざるは去る子なきは去る淫なるは去る妒なるは去る惡疾あるは去る多言なるは去る竊盜なるは去るをいふとあるが曲禮全經といふ本に河倚遷といふ人が說をなして曰ふに夫れ不順淫妒多言竊盜の五者は自ら之れを爲す出すべきや疑ひなし子なきと惡疾とは命なり義として去る處在るも禮として宜く處するあるべし故に禮に四十にして子なきは出て居を異にす之と居を專らにせず以て嗣續を廣むるなり・惡疾も亦出して獨居せしめ更に娶つて以て宗廟を承く故に皆去と云ふ也と記してあるが此んな窮屈な敎育を受た事がなければ宜い氣に成て夫んな我が儘をいふのだらう又三不去とは取る所あつて歸する所なきは去らず與に三年の喪を更ふるは去らず前に貧賤にして後に富貴なるは去らずといふ三つにて四德とは周禮禮記等に所謂言は辭令、德は貞順、功は絲麻、容は婉娩なるを言つたものだ是は婦人の美德を言たもので前の三從五不取七去とは全く反對のものだが西洋風の婦道でも少し自由があるのと窮屈なのとの相違許りで大した懸隔がして居る氣遣はあるまい全體左樣な我儘をいふのは敎育が嚴格でなかつたからだ是からは其方の精神を父母に順なるやう貞順の德を供へるやうに敎育をし直して遣らう、節も左樣心得ろ不埒千萬な娘ぢやアないか
ト常に變りて支那風の說を頻りに採用なし不平の色を顯はして最と長々と說附ける父が詞を聞くよりも內部の煩悶一と方ならず外の刺激は鼓膜の外にて殘らず之れを打卻けて一語隻句も引入れざれば父の言語を咀嚼せる間も更にあらずして心緒最も多岐に彷徨ひ然るにても彼の君は眞實如何なる精神を持るゝものか戰とだに風の音づれし給はゞ今親あたり父上の尋ねに逢ふも右とでも左となりとも答へんに答へもならぬ我が身こそ電氣に四肢を纏まれし人と異なることなけれ孰れの岸に寄らんとも定め難たる棚な

し小舟漕ぐ櫂絶て漂泊る身とはなしつる彼の君の難面心ぞ憂てかる思ひに死ねとや斯くまでに身を窘しむる彼の人に逢うて恨みも聞え上げ愈よ始めの言の葉の僞りならば佛蘭西に得て行はるゝ決闘をも試みばやと一向に閉がる胸を知る父は益々怒りの度を增して忽ち忿氣色に出で言語の速度を非常に加へつ

(俊)艶々、其の卽答が出來ないか成程夫れは出來ないだらう中島如き輕薄男子に執心する根性では所詮先の認めがない明日からは唯今申した支那教育を斷行するから、節も甘い心を出すな　(節)夫も人の噂ですから　(俊)慥かな證左は上げて置た慈愛の道が夫れぢやア遂はア　(艶)證據と仰しやるのは　(節)何した譯でございますエ、眞個に此の娘には困らせるヨ　ト母の語よりも意中の人を指名したりし父が心を測量しかねて艶子の憂慮は猶一層の憂慮を增して坐に怨みを進める時しも幸ひ本夜宿直の家扶が此の室へ入り來りて小腰を屈め慇懃に(家)御前、唯今新潟から電報が參りました

第十回　思ひの沫雪

土地賣買の委任を帶て新潟縣下に出張中なる家從水野昌好より春川伯に送りたる電報文の如何なるかは讀者の知らんと欲する所また本篇の大切なる最要點と之れを爲して其の實況を寫し出さんは必要的の談條なるべし抑も春川が買んとて百方力を盡し居る三俣村の田地といへるは當村一の沃土にして字を神田といふ土地なるが小川の流れ中を流れて水利極めて宜きのみならず如何なる旱魃の年と雖も常に水の涸るゝ事なく如何なる洪水の時と雖も苗を洗ひ流さるゝことなく土質の肥饒なる爲めにも登は他に三倍して穗に穗を疊ねる事もなし天然自然の良田なれば誰いふとなく神田と稱へて竟に字となりけるなり此の良田は幸ひにして豪農の手に握られず其の往昔より細民の僅に分ちて持傳へしかば年頃重なる惡年を得難き奇貨とし豪族なる彼の森村剛藏は種々の手段を運して此の利を壟斷せんものをと試みたれども細民等は死力を盡して之れを守り縱令家をば失ふとも此の良田に離れては生て露命を繫ぐの術なく死して祖先に合する面なしと固く信じて動かざるより森村も亦此の良田を所有すること能はざれば是のみ他人の物となせるを遺憾に思ひ居たりけり殊に客歳洪水の氾濫たりし其の折にも戶長が所有の田畑は悉皆水に洗はれけれども神田に限りて肥料をさへ更に減ずることあらぬより益々涎をこゝに垂れ頻りに我が手に落すべき奇策もがなと考ふるうち水害地方の視察として巡回ありし春川伯が此の良田を見ると均しく所望の念の萌しけれども容易に手放し賣却すべき氣色なければ森村が近來開きし新田の神田に接續したる高地を求めて家產とせられたり此の折三俣一村の人民中より森村の紹介を以て春川伯の私金若干を拜借なし小川の鮭獵の備へとしたるが則ち這般相互ひの間に一の葛藤を與へる基礎とはなりけるなり斯く森村は最初より自己の手中に握らんと計りし慾を遂得ざりし其の遺憾こそ忽ちに變じて今は細民に彼の沃田を分持るゝを妬く口惜く思ひ立ち遂に春川伯の爲めに力を盡す心となり先づ智慧淺きものよりして大臣の威を假用ゐ權力をもて箝ねは調印すべき運びとなり是より水野と同席にて彼の卓一を說諭さば如何に思慮あり學問ある卓一なりとも高貴の所望違背をすべき遁辭に窮して必ず成就致すべし卓一既に承諾したれば自餘の愚民は求めずして賣んと競ひ來るべしと我が精神に比較べて其の談判に着手しに却て彼を激さしめ再度の策の浮ばざる折先に概略承諾せる農民們の押寄來るを莫越機會と卓一に鎭撫を託して自らは額を鳩め頭を疾しめ最後の策を講じ居たり此

の時より四月を經たる四月中旬の頃にぞある今年は雪の深くして未だ消んとも爲し初めぬ越山方に村中の口听と呼ぶ十四五人居爐裏を中に閑發して

(甲)何でもはア已が心にやアお役人樣の爲ッしやる事が落ねえョ、マア考へても見さッせえ此の正月の事だッたが此の卓一樣の理窟ウ言て居さッしやる間に已達の田地へはア無闇と標杭を打ッしやるから其の書記樣に聞て見ると未だ地券の書替はしねえが約定書に調印したからにやアモウ賣買の約束は出來たもんだ、夫だアから木杭イ立て測量するだアと言ッしやッたからの一(乙)如何にも爾だアよ、其の譯聞べエと思つて押掛て往く處へ卓一樣が來て止さつしやるから外の人なら知ンねえ事お前樣の言ッしやる事だに依て一と先はア引上げやしたョ(丙)お前樣にも種々とマア御苦勞の一掛申して聞て貰へば那んちふ事だ承知をするやうに規定に判の一捺と言ッしやるから戶長どんの仰しやる事を背いちやア惡かんべエと思ひやして名前の下へ判の一捺たを約定たア餘りの事だ(丁)其處ではア何でも是やア戶長どんが騙しなされたのに違えねえと思つて日頃は御恩のねえでもねえが背に腹は代られねえとお前さんにお願ひ申して手筈を着て貰ひ申しましたがイヤハア呆れた向うの强談是ぢやア中々明ねえからと長岡まで出向て裁判沙汰にも成た處で十のものなら九分九厘まで此方の勝利と思ひの外に(己)何してはア間違つたやら卓一樣の言立は通らずに此方の負公事に成たのは甲作どんの言ふ通り已が胸にも符にも落ねえのよ(庚)モウ斯成ちやア仕方がねえから戶長野郎を擲き殺して已達も死んぢまやア夫で市が榮えるといふものだ(辛)一同揃つてモウ一度戶長さんが處へ押かけべエか(壬)卓一樣お前樣の考へぢやア何なものだネ、(癸)彼處の田地がなくなつちやア何せ生ても居られねえ是より外に分別はねえの一皆の衆(皆々)爾だとも〳〵

ト詞を揃へて一同に然るべしとぞ贊成なしける卓一は唯默然と腕拱きも居たりしが客氣に逸る農夫們の平素の優柔不斷なる懦弱の氣象に引替へし憤怒の憾氣激烈にて大事を起し兼まじき血相なるに卓一は若し急躁過激の徒の煽動したるものにはあらずや果して先祖傳來の神田を人に奪はれたる怨恨の今は堪難く勢ひ爰に迫りしものにや我れとても亦詐僞手段に陷りたるを他に見て重きを逃るゝ心にあらじ一村落の全土を擧げ全權を委し森村に任ずる旨は疾にも知れるを何とて躊躇なすべきぞ次第に依らば詮やうありと心に尋思を一決して滿座の人を一々に見渡しながら咳一咳しつ

(卓)始審の訴訟で敗たからモウ何する事も出來まいと思はれるのも無理はなけれどマア篤り私の智も聞分て貰はねば成りません、治安裁判で不調に成た時にも一同へ申し上げて置たと思つたが私は一體政治學を學んだので法律の方は專門でないから込入た法理は分らないけれど條理には二つあらう筈がないから此の訴訟に敗を取る氣遣ひはなからうと信じた處が何した譯だか始審廷で原告の請求相立ずといふ裁判を下されたのは實に失當の裁判だらうと不服に思はれるから御一同の御存意を承まつた上で東京へ行て控訴をしようと私は考へて居るのです今もお談話申し上げる通り私は畑が違ふから今日本でも幾人といふ指折株の代言士で中島博智といふ先生には先年御世話を受た事もあるから此の先生にお願ひ申して見たらば必ず此方の勝利と成るは知れた事だし又此の柏崎の豪家の息子で齋藤孝といふ人は法科大學の生徒で至つて懇意にして居るから能く之れにも縋つて見ようと

思つて居ますが併し是をするには入費も係る事だから篤りと分別をして貰はなくツちやア否ん、縦令マア何いふ事があらうとも亂暴な事をしちやア正理があらうとも非分に落るは當然ゆゑ一揆がましく押駈て往くの殺して此方も死ぬのと夫んな過激な事を必ず言ないやうに……是から控訴院で敗ようとも大審院といふものがあるから此方の權利を恢復するまでは不屈不撓の精神を惹起して正々堂々と道理を楯に取つて戰つて貰はなくツては困ります何な事があらうとも一旦私に委任をしたものだから自分達は一切知らない面をさへして居て下されば宜しい忘れても粗暴な事をしない樣に呉々も賴みましたぞや、夫さへ委細御承知なら直に控訴の手續に着手モウ明日だらうが今だらうが談話が纏まり次第に發足致しませう篤り一考へして下さい（甲）イヤ成程騷ぐのは惡かんべヱ是りやア何でも卓一樣にお委せ申すより外はねえの—（乙）乘かゝつた船だから入費は幾干かゝらうとも控訴とやらをして貰ひ土地を取るより外はねえ（皆々）己達も同意だから今夜のうちにも入費を集めて總代人にお願ひ申す事にするのが何よりだらうよ（卓）御承知をして下さらば私が斯樂があるといふものです（吉）夫ぢやア己達は村を廻つて入費を集めて來ますべヱ（卓）御極つたら私も直と支度をして置きませう

ト物和かなる卓一が說諭に服せし農民們は挨拶さへも匆々に暇乞ひして立歸りしかば卓一も亦東京へ旅行をなすべく準備を整へ書類を調べなどする程に雪消も近き時候にも異變は免かれ得ざるものにや昨日も今日も中天に結んで解けぬ密雲を洩れて降來る沫雪は泡とし消で氷りたる深雪が上に積れるを拂はで置かば家潰れんと稍昏かゝる空うち眺め卓一は先づ納屋に行き雪搔取り出し屋根に昇りて積れる雪を集めては拂ひ下せど霏々として小歇もあらぬ大雪の拂ひし上にまた積りて果しなき間に日も暮れつ遠く望めば家々の燈火雪に映ずるより何時まで屋根にや立盡さん明日の朝こそ復搔めと思ひ止まり下來れば早總代の甲乙が集めし金と總代の連署をしたる委任狀とを携へ來りて手遞與するを受納め然らば明朝拂曉に發足なさんと誓言するに然らば村より甲乙が橇車を備へて迎へんと談條のこゝに一締して別れ行く後見送りつ卓一はまた年老し父と病ひに臥せる母に概略仔細を語りて夜餉の膳を告別の盃に替へ倶侶に食畢りて臥床を設け夜を種々に語り明せば生憎に夜は明易く背戶屋の鷄曉を告れば遠く香華院に寢覺を訪へる鐘の音が枕を兎角に安からしめず父母の目覺ぬ其の先に起て結束をせんものをと衾を離れ厠の方へ徐かに起て往きたりし

南翠まをす予不幸にして天性の孱弱なるに頃日又た宿痾發して精神甚だ不快なれば隨つて筆も澁滯勝にて我ながら倦厭の思ひあるに嘸かし看客の讀苦しう思し給はん然ればとて休筆もなり難ければ霎時が程を忍ばせ給はんことを乞ふ

老母は病ひに寢られぬ儘はや卓一が起出て厠に往きしを夫れと覺れど身體自由ならざれば自ら起て朝餉の準備何呉となくして遣りたきも氣のみ焦躁て起臥さへ從意ならぬ身はいとゞ窮心敦困のせらるゝなるべし漸くにして作左衛門を呼覺しつゝ卓一が厠に行きたる事を告るに作左衛門は忙はしく衾を離れてかい搔る爐灰はあだに折るゝのみ火の發さぬも氣の焦れて竈の下を探らんと出會頭に厠より歸る倅の卓一に鉢合せして目と鼻の間よりこそ徒らに無形の火光を放ちけれ軈て火を點け湯をも沸して朝餉も全く果たれば旅裝ひもせんものをと昨日よりして洗ひ置たる股引脚半の足拵へして書類と金子を一纏めに肩へ確と結び着け母の臥したる枕屛風

の外に形を正しつゝ

(卓)母公さん、御病人の貴母をお老年の親父さん獨りにお委せ申して東京へ參りますのは何だか不孝をする樣で心には安じませんけれど是は私事といふではなし言ば村中の大事に係はつた事ですから聽て私が望みを達して歸村するのを樂しみに何ぞマア御氣永に御養生をなすつて下さいまし是が縣下で濟む事なら態々東京まで參りはしませんけれど此の新潟は東京控訴院第二局の管轄ですから何でも出京を要する事に立至つたので殊にまた大審院へ上告する樣な事にでも成ると是非とも東京でなければ辨じませんから少々の處の御不自由を御免なすつて下さいまし親父さんには何とも恐れ入りましたけれど村の衆も彼の通り申して居りますから惡いやうにも致しますまい永い事もあるまいと思ひますから家の事も母公さんの事も恐れ入りますが宜しうお願ひ申します(作)夫れに心配は入らない事だ言ば村中の大事件だからお前が此で一と奮發して物の見事に勝て見ろ夫れこそ大した評判にならうヨ己は夫れを樂しみにして居るから内の事や母親の事には氣を置ないで一心に盡力をしな、アヽ物識と言れりやア矢張夫れ丈けの心配をせにやアなるまい此の寒いのに御苦勞千萬だ能く煩はないやうに氣を注けなヨ(卓)難有うございます東京へさへ參りますれば困る事は有りませんモシ母親さんマア御大事になさいまし(母)オヽ卓一モウ往くのか日頃からお前は孝行が過ると言れる樣だから親父さんの事も苦勞であらうしまた業病で死切れない妾の事も案じるだらうが今も親父さんの言ッしやる通りナア村の衆の爲だから親を棄ても立派なものだ、ヨー合點かエヽ併しマア他國へ出たら村に居る格には往くまいから何でも物事を控へ目にして人に憎まれたり醋められない樣に身を謹むのが肝要だぞ(作)コレ／＼婆阿どん何を言ッしやるのだ初旅でもしやアしまいし東京へは永らく行て居て此の節柄の事は何も彼も辨へて居る物識だ、なアんの己達が言つて聞せる事があるものか夫な事は案じなんなよ(母)オヽ爾であつたネエ、年を取ても子供の樣に學者へ無學の母が講釋はコリヤお釋迦に說法だ夫はさうと卓一ヤお前東京へ行たならアノソレお雪が事をの—マア道々も氣をつけて……(作)大事な首途に何をいふのだ親を棄て逃るやうな不孝者は子とは思はぬ先でも親とは思ふまいに夫れを尋ねて何にするのだ(母)お前さんは一徹だから衛言ッしやるのは無理はなけれど那の權一郎どのに勾引された娘は定めて苦勞をして居るだらうと……(卓)不孝な奴ではございますが只た一人しかない妹ですから私もマア氣を着けて成行き丈でも認めたいものでございます、夫なに御苦勞をなすつては御身體の毒に成ますから氣を樂に持てお出なさいまし

ト須臾の間も慰めつ破れ毛布を縱楯の代りに纏ひ菅笠の紐の切しを小縒にて繕ふ間もなく表の方

(農)結束が宜ければ參りませう橇車を輓て迎ひに參りました、村の衆もお寺の前で見送りをすると言て待て居ますぞ、雪も些とは降休んだから此の間に早く

ト言ふ聲に惜き別れを裂れつゝ挨拶さへも匆々に毛繻子の傘を杖代り草鞋の紐を結びもあへず急ぎ表へ立出れば乘れよと供へし橇車の上雪を拂うて乘移り輓れ行く人見送る人また一しきり降る雪に互ひの面を隔られはや遠ざかる山抱に往違うたる一人の男が卓一なりと見るよりも直ちに道を引返して宿ある方に到りしが是ぞ則ち水野にして控訴の爲めに卓一が上京した

るを親たり認めて電報したるなりけり

第十一回　馬醉樹の陰

野艸暖かに萌出て百花漸く春を報じ綠陽の塘に烟り立迷ひ紅桃の原に瓢の底を顚にする艶陽の靄氣都門に充滿して士女の遊心稍繁忙ならんとす東京首府は市區改正の工を全く奏するに至らねば公園の地尠きにはあらねども芝といひ愛宕といひ星ケ岡といひ忍ケ岡といひ飛鳥山といひ淺草といひ富ケ岡といへるも皆中央の市街を離れ其他勞働の骨を休め逍遙の淸を弄ぞばんとする八景園の小丘は數里の外にあり龜ケ岡赤城牛天神は山の手に在りて路遠く靖國神社の神苑は稍中心に近しと雖も市區よりは步を向るに懶し神田明神湯島天神高燥幽媚の觀あるも僅かに神田下谷の客に笻を曳くに便なるのみ根岸の里橋場の津隅田堤の勝區あるも故らに風光を探るべし木下川といひ龜戸といひ皆往復の時間を消費す晩餐の箸を投じて新鮮の淸氣を呼吸し適度の運動に終日の勞苦を醫して健康を保全するに格當せるは獨り濱町三丁目の地先なる大川中流の中洲町なり此の遊園は三箇に分れて北南中央の三區あり中央に在るは廣くして南北は皆な卵形をなせり今を距る四年前則ち二千五百四十七年(明治二十年)に築造全く落成せるにて苔の花は最と薄けれども松籟の聲は琴を彈ずるが如く潺湲は歌を唄ふに似たり日本流の橐駝術と歐洲流の造園術とを折衷して築きたれば雅に拘んで步行を妨ぐることなく俗に流れて眺望を失ふことなし殊に中流の小天地自然に汚塵を拂ひ去りて最も精神を爽快ならしむ桃に櫻に咲初めて菫花蒲公英種々に地を彩ると聞しより日曜日の休暇を幸ひ狀師中島博智は龍動留學以來の學友增島六一郎氏を濱町に訪ひ其の歸るさに唯だ一人中洲町に散步して先づ中央の遊園を彼方此方と逍遙なし巍然と建たる記念碑を眺めて文を讀了り其の儘片手を鐵柵に凭せて景色を觀望しつゝ氣を養ひてありける處に向うの方より毛織の絹に小鳥の細毛を彩りたる美々しき洋服を着飾りて周圍を花にて纏ひたる帽子を戴き來る貴女あり風俗格好を見るよりも中島急に色動きて襟の飾りを改めなどし頻りに形を繕ふは意中の人の來りしなるべし軈て彼の貴女近づき來るを先づ此方より帽子を脫して敬禮するを認め得にけん貴女は滿面笑を含み少しく顏に紅を注ぎて足を非常に疾め愛嬌最も匂やかに纖手を出し中島の出す手と堅く握り合ひ二三度動かし手を解きて

([illegible])オヤマアお珍しい、眞個に久しくお目に懸りませんでございましたネエ(博)實に其の後は意外の御無音を致しました過日鳥渡承まはれば何だか御病氣ださうでしたがモウ判然と御快復ですか、ハヽア成程、併しマア夫は何より結構でした、而して今日は何方へ、お伴も連ずにお一人の御散步ですか([illegible])エヽ、實は少々用事がございまして貴君のお宅へ伺ひました處濱町の方へお出になつて今日は殊に寄るとお今さんが小學校の生徒を連れて中洲の遊園へお出になつたから其處へ行て御一緒に御歸んなさるかも知れないといふ事でしたから私も未だ一度も參つた事がございませんから見物がてらお今さんをお尋ね申してお話しを致して置うと存じまして夫れ故參つたので御在ましたが宜い都合にお目に懸りまして此んな……(博)アヽ爾でしたか夫は失禮を致しました何か妹に御用ですか([illegible])イヽエ貴君に(博)夫れぢやア是から歸宅して伺ひませうか([illegible])なアに夫んなに今が今といふ程の事でもございませんが實は父が少々貴君に御鑑定を願ひたいと申して居りましたが態々お呼立申すのも未だ事の極りもしないうちに餘まり廉立て宜しくないから其内にはお出な

さるだらうと心待にお待申して居りましたから入らざる事の樣ではございますが、アノ一妾も少々お目に懸つて伺ひたい事もありますし鳥渡上つて御都合を窺つたらと存じまして幸ひ築地の教會まで參りますので夫れ故上つたンでございましたヨ（博）鑑定と仰しやるのは訴訟上の事でございませう、夫んなら素より職業上の事ですから御通知さへ下すつたら參堂しましたものを態々貴女のお出向では實に恐縮致しました（艷）夫んな事は何でも宜うございますが未だ直に御歸宅ではございますまい若し御散歩をなさいますなら御同行は願はれませんか（博）エー〳〵何せモウ少々散歩をしたいと存じますから御同行を致しませうとも、併し貴女が御否でせう

（艷）また那んなお人の惡い

北の方なる遊園には中島阿今が小學校の幼年生徒を引率れて運動の爲め園内を生徒と倶に遊戯なしつゝ他日は無心に見ゆれども肉を剖き心肝を出して之を寫眞せんには森羅萬象限りなき妄想中の多數を制すは情慾といふ物なるべし謹愼の性擧くして輒く外より誘導する刺衝に心を動かさゞれども人の知識を慕の念慮は幼少よりの薫陶と兄博智が海外より歸り來て歐米の貴女が所行を詳に聞き常に英米貴婦人の側に在て一般の志想を意中に映し來りしかば先づ良緣を得るまでに我が一身を生涯まで保つに足るべき財產を造らんものをと學校の聘に應じて教師となり宅に在りても毛絲を編みレースを綴りなどしては貯蓄に心を用ゆるは全く架空の準備にあらず我れのみは疾く心に許す良人あるが所以なりき开を誰れなるやと尋ぬるに曩に父母の災厄に能く素志を貫ぬくを得で中道にして學を棄て故鄉へ空しく歸りたる彼の越山卓一なり骨高く色黑く鼻低くして眼鋭き美男子部類の外にある彼れ卓一を如何なれば常に念の圜に置かを撰擇せんには彼の知識の穎敏にして自から意氣の投合するあると性質最とも老實にて規約を守るに鋭ければ彼れに因て百年の苦樂を託すは父母を安んじ兄にも心を勞させず最も一家の和親を得て心に樂き事あるを自ら期したるものにして彼の皮相を見て心を動かす淫猥卑褻の少女とは固同日の論にあらず阿今は袂を分ちてより忘るゝ暇のあらざれば思ひ出さん術もなく四六時中に心をのみ彼方の側に侍らして貞操美節を呈すれども同身同體ならぬ以上は彼方の心も亦常に來りて阿今を保護するや否やは容易斷定し難し斯く淑德ある貴女なればば生徒の尊信非常に厚く野に咲く花を摘みては生徒に之れを分ち與へて其の問答をさせるなど遊戯のうちにも自から植物學を講究させ傍ら修身道德を教へて餘念もあらざりしに突然後の方よりして

（孝）お孃さん〳〵中島先生の御令妹、御存じですか

ト詞をかくる人あるに阿今は驚き回視れば是ぞ例の粗忽者なる齋藤孝が此に來りて阿今を見るより我れ獨り承知をなして問かけたるなり阿今は少しく笑ひを含みて

（今）オヤ誰殿かと存じましたら齋藤さんで御在ましたか不意にお聲をおかけなすッたもんですから眞個に喫驚致しましたよ、些とも存じませんで失禮を御免下さいまし（孝）イヤイヤ僕の方が大失敬相替らずですからマア平に御海容を……、エヽーモウ御宅へ上りましたか（今）誰殿でございますエ（孝）誰殿ぢやアないソレ例の惡德野郎、ウムー賊だ〳〵アノ泥棒先生です（今）オホヽヽヽヽ何を仰しやると存じましたら何ぞ兄に依賴された賊の辯護の事でございますノ（孝）なアにサ何も困つた〇ト少しく考へて眞面目になり（孝）恐縮恐縮實に濟ません恐れ入た決して御立腹な

すッちやア否ませんョ實に何も：：（今）何でございますネェ其樣にお訳んなさる事がありますものかネ（孝）マア貴女周章ないで仔細を御聽下さい

ト「ポッケット」より取り出せしハンカチーフに汗を拭ひ小さき洋紙を把り出して時計の飾に附屬しある鉛筆を以て何をか認ため阿今に示して少しく落付き

（孝）コ、、此の人物がお宅へ窺ひましたか

（今）イ、、ヱ那の夫んなら越山さんは御上京に成たんでございますか、些とも夫んな事は存じませんでしたが而して何方へお出なさるんでございますエ（孝）上りませんか、愈よ怪しい（今）何故エ（孝）何處は何でも先生の御宅へは直と上らなくツちやア成らないのに、爾いふ奴ですからモウだめだ、愈々モウ腐敗して仕舞た、到底彼奴は否ませんョ必ず欺かれちやア否ませんから御忠告を申します（今）何いふ譯だか存じませんが貴君の處へは何日お出になりましたエ（孝）彼ン畜生が何で僕ン處へ來られるものですか幾千面の皮が千枚張でも夫りやア出來ますまい若し洒蛙々々と遣て來りやア猶以て仕方が有ません實に殘念だ何も口惜い（今）夫れぢやア貴君は日外アノ鐵道馬車の中で窺つた事を眞實だと思し召して爾仰しやるんでございますネ（孝）固より／＼僕は深く信じないけれども彼れが之れを確信せしめるから何も仕方が有ません、彼れの所行が愈よ夫れに對つて信實であるといふ證明をする以上は何も夫と此方にも信ぜざるを得ずでせう（今）妾は越山さんの辯護に立たうございますネェ（孝）否々、夫な馬鹿な事

ト我れを忘れて高聲にて打消しながらも心着きけん苟にも日本帝國の大學生徒が貴女に對つて禮儀も盡さず相互ひに談話をするか何ぞの如く餘りといへば輕忽なりきと思ひ返して形容を遽だしくも繕ひつ聊か威儀を改ためて

（孝）實に失敬を申し上げました貴女が幾千辯護をして遣らうと思召しても渠は必ず報酬を致さんで有ませう、イヤ致さぬばかりなら未だしも宜けれ貴女の辯護を恐らくは破壞するであらう、實に僕は一友を失ひました（今）一體マア何いふ譯でございませうネエ、日外も申し上ました通り毎朝新聞などでは山田さんの周遊紀のうちにも「北越の避村にて驚くべき美玉を發見せり誰れか野に遺賢なしと云ふものぞ余は今日にして實に其の言の妄誕なるを知得するの幸福を得たりき頸城郡三俣村は三國峠の山麓に在りて恰も別に天地を造せるが如く土民を叩いて事を問へば其の史學上に於て著るしき實驗を與ふべしと雖も進んで文明の談を爲さんには木石に對して道を諭ぬると相距る遠きにあらざるなり斯の如き僻邑にして斯の如き美玉あり余豈一驚を喫せざるを得んや」とて大變に越山さんの事を賞て書て有りましたが妾やア何考へても那の方が何ぼお困んなすツたからと言て夫んな不正な事をなさりはしないだらうと存じますョ（孝）成アる程爾ですかなア、何も不思議だ：：

ト兩人未だ疑心を散ぜず越山卓一が精神を善惡二説の間に置き孰れの方に最も多き重量あるかを測り得ざるに時しも中島博智は艷子とともに中央の遊園よりして北園に來りて阿今と齋藤が談話を概略聞取りつ側へに餘念もあらずして戯ぶれ遊ぶ子供の手を把り後の方より阿今の裾を引せば阿今は驚いて首を速くも背後に向け

（今）何をおしだョ、オヤお兄いさんでございますか眞個に惡戯だ事、オヤ／＼艷子さんお珍しく御散歩でございますか（艷）久しくお目に懸りませんでしたネェ妾も此の節些とも英語會へ參りませんが慈善會の事は何とか

お話でも出ますか　今イヽエ未だ（艶）さう（今）齋藤さん兄にも判斷をして貰ひませうかネエ（孝）然ればサ、先づ先生輓近は大分御缺勤勝で久しく人權論の講義が打絶て居りますが此節は餘程御繁忙でございますか（博）中心會へ力を盡さんと言て穗積君や鳩山君が頻りに逢ふと責るけれど私だッても一個の商賣がある身體だから學者やお役人樣のやうには往ないサ併し首唱者の一人であつて見れば不深切にしようといふ譯ではないヨ（孝）切て隔月にやア御出席を願ひます夫でないと切角の會を誠に氣乘が薄くなつて困りますから（博）來月は勤めて出席しよう（今）お兄いさん越山さんが御出京に成つたさうでございますヨ（博）ナニ越山が來た、何處でお逢だツたネ（今）妾も今齋藤さんに其のお話しを伺つて居る處ですヨ

ト談話のうちにも何事やらん艷子は越山卓一の名を同胞が親し氣に呼べるを聽て不審に堪ず獨り無言の境に居て子供の方を表となし聽くとはなしに聞居れば今我が父の敵手となり訴訟中なる越山に疑ふ節もあらざるのみか其人こそは去年の四月共同競馬の二日目に山田文治へ財囊を與へて心の不平なるまゝ去て上野を散歩する折櫻臺にて榻を一つに物語りをせし書生ならんと想像したるを一語隻句に憶め來たれば彼の人こそ貴族の繁榮中央の權力强きを心に憂ひて地方分權の自治制度を渇望なせる人物なれば斯る異主義を懷ける者に近かせては我が爲ならずと爰に一個の慾情が戀慕と怨意に加はりて離間をなさんと試みる念慮を少しく張りたりしが此の一群と倶供に南の園を逍遙すべしと促さるゝに否みもならず中島兄妹に孝を加へ四人に後は生徒にて外部を廻り南園をうち連立ちて遊歩なしつゝ小高き丘に設けたる六角堂の茶亭に至りて暫らく足を休めんと子供に菓子を與へなどして珈琲を命じ四方八方の雜話に笑ひを催したるも艷子は獨り娯しまず離間なすべき術策を心に脚色すると覺えて他人の話しをしかゝる毎に生返事して居たりしに手段の心に成就したるか突然撲地と膝を拊たる響きに孝が片手に持居し珈琲の器の手を離れて膝に墜せば

（孝）ア大變々々大變を遣ちやツた（艶）オヤ何致しませう濟ません御免遊ばして・・・

時に三時の休憩か製煉場の汽笛の音ピユーー

第十二回　北に行雁

貧富の懸隔の著明なるは獨り地方と中央首府とのみにあらず齊しく帝都のうちにして少しく市區を遠ざかれば忽ち貧民群をなして一枚の衾に一戸五人の寒を凌ぎ一椀の飯に三口の饑を禦ぐなる無慙の彊界を見ることあり彼の全世界に比類なき英の首都龍動の如きすら夕陽斜にかゝる時去つて小巷に足を容るれば忽ち一種名狀すべからざる臭氣來つて鼻を駭かし眼を放つて之れを望めば矮小不潔の陋屋に棲み眼凹み髭に光澤なく額に垢づきて痩たる男の長方形の柱に凭りて卷莨を喫しながら瞳を瞼の上部に着けて往來人を諦視するあり家屋は一室に過ずして窓高く室内暗く粗造の棚を設けたる外寢臺と覺しき物もなく衾に代ふるものもなし妻は惡聲を出して良夫を罵れば脣を翻へして之れを責め兒は饑に泣き母は寒を訴ふること戸々相連なりて鯨波を擧るが如く誤つて歩を容るゝさへ身體の健康を害するに常に斯る陋巷に住居たらんには所詮天命を全うすること能はざるべしと思はるゝに猶龍動橋の下に到れば穴居する貧民ありて常に市街の下水を探り遺財を集めて糊口を送る者あり此の輩には陰然巨萬の富を重ぬる者ありと雖も斯る者は實に萬中の一なりと合衆國の博士が實見して書述したるに見たれば剰て東京の如き都府の幅員こそ世界第三の都府なれ

繁昌の點に至りては龍動の千分一に達しかぬる京なれば中央市區にすら貧民の雜居する場所あるに去て芝の新網若くは下谷山崎町萬年町などいへる處に至りて見れば邊陲僻土にも多くあるまじき慘憺の狀を見るを得べし下谷萬年町と聞えしは前に述たる如くにて府下の著明の貧市なるに又此の裏屋に步を容るれば棟割長屋左右に分れて九尺二間を一戶となし千破たる上總戶は半朽たる閾に在りて開閉最も難澁を極めり九尺二尺の落間には下流の板稀に遺りて蟲を生ずるに便なるべく手の折たる手桶はあれども水瓶と覺しきも見えねば米炊桶と見ゆるもなく唯手づくねの土竈に缺たる土鍋一個あるのみ上框に障子はあれども風を凌ぐべき紙とてもなし四疊半の破疊は全く座敷を覆ふに足らず床の藁の顯れたるが僅かに三疊餘りあり戶棚といふものもあらねば怪しき夜の物などは皆割板の棚を吊て粟ゆる物を之れに乘せたり米櫃といふ物あらずして古葛籠と小箱あるのみ今戶燒の睾丸火鉢とかいふものに口の缺たる土瓶をかけたるが是とても亦滿足ならず火鉢は荒繩もて鉢卷をなし土瓶は寒飯の膏藥を貼りたり其の外の器といへるは茶碗と箸と缺碗に足の取れたる膳あると燻りたる手ランプとのみ行く家として總て皆斯の如くならぬはあらず此の境界に住める者は多く家に在ることなく辻講釋に出るもあり說教祭文に法螺を吹くありチョボクレ坊主にカッポレ踊門附を鬻ぐあり假色を賣ふあり或は立場に至りて鐵棒笊を借り紙屑を買ふ者あり或ひは賣捌所に至りて半纏と鈴とを借り今日新聞を賣步くあり又は香具師となりて流行を追ふ者あり又は行者に變じて癡人を惑はすありランプの毀れホヤの毀れフラスコ德利のお拂ひを買ふあれば莨宇や煙管のすげ替と呼步くあり男は男に相應しき業を營なみ女は力に堪得る丈けの事をなす子供と雖も容易く手を休むる者はあらず此のうち一個の親分ありて之を貸元と稱し商賣の道具衣類を貸與へて其損料に口を糊す這は多く表店に住て見せかけの稼業をなせるが下谷にては山崎町に一軒と此萬年町に一軒あるのみ其次にて自分に道具を所持する者を自前と稱へて此の群の長者たり日稼ぎあり夜稼あり甲乙の月行事を定め十戶に一個の釜を備へて交番に飯を炊ぐ此の預りより釣瓶の元締にて皆月行事の務めなり中には炊ぐべき飯なくして燒芋に饑を凌ぎ溫飩蕎麥に腹を肥すもあり汁も賣り菜を販ぐ家ありて煮賣は總て三厘よりあり飯の如きも一握五厘一碗八厘と皆少しづつ商ひて貧民の需用には充るなり人界にして確も大都會の市內なるに斯の如き處あらんとは思ひもかけぬ事なるべし此の裏店の井の側に晝稼して歸りたる女房二人に井戶脇の主人を併せて三人が世間話しの聲高く

(甲)チョイとお前聞てお呉か內の宿碌位方の付ねえブン太郎はありやアしないョ妾は知らねえ事たが昨日の料錢が拂へねえッて貸元の旦那が今日は何にも貸て呉ないのサ呆れ返るぢやアねえか夫でサ平氣だといふ事ョ(乙)だッてお前ン處のは男がいゝから我慢をおしよ(甲)オヤ否だ事お前宜きやア上ようョ(乙)イイエサお前は宜い御亭主を持てるから僥倖だ那れぢやア稼ぎ榮があるだらうッて皆なで評判をして居るのョ此の小兒せえねえなら眞個に妾はお前ン處のを泥棒するにョ(甲)オヤ否だマア、お前夫んなに欲きやア勝手に盜みねえ(乙)ト口ぢやア言ても可愛い證據は齷齪稼いだ身錢を出してソレ見ねえ清酒を買て來るぢやアねえか(甲)お前の口にやア恐れるヨ妾なんざア夫なでもねえがアノ自前のお雪さんを見ねえ每日々々一緒に歩行て歸つて來るとお酌をしたり肩腰を採だりして何なにか亭主孝行だらうョ(丙)獨身の居るめえで人

面白くもねえ亭主の噂かモウ宜い加減に宜して貰ひてえ(乙)オヤ願人の丙六さんお前さんにア濟なかつたネエ(甲)夫れでも斑犬がお傍に居るから夫れでお前一對にならアネ(丙)畜生阿魔め酷い事を言やアがるなア併しマア聽きねえアノ奥の自前は已が田舍を廻つてるうち慥かに逢た旦那衆だヨ、エ、旦那衆が乞食に成たが可笑いと、マア聞ねえ斯いふ譯だ、那れは越後の頸城郡三俣村といふ處の大金持で、エー何てたツけー、オヽ爾だ爾だ森村森村其の森村の長男の權一郎といふ人に違えなし、エ、能く知たか振をすると、已ア諸國を大概廻ツてるだらうぢやアねえか、何いふ譯で那んなお大盡の子息が此んな乞食の境界へ落たのかと思つて聞て見たのヨ、エ、餘計なお世話だ、イヤ爾でねえサ斯して井戸番をして居りやア長屋中の人の身元位を知つて居なくツちやア成ねえ、夫からマア段々と聞て見ると實に色戀情懲えもいはねえヨ、ウム、那の内儀さんのお雪坊のー、那の孃に大層惚込だ處から種々とマア金に明して張込んだと思ひなせえ處が向うが大の孝行者と來て居るから何してツウ椋鳥ツかにや出來ねえので病人の母公に餘計な實義を盡したり生物識の兄貴に上手を使つたり出來る丈の方便も廻したが餘つ程馬鹿堅い娘と見えて訝な目元もして見せねえから底で今度は手を替て引攫ひと宗旨を替へ親父と兄貴が鮭取りに行た留守を幸えと何だか甘く欺らかして表へ那の孃を伴出したまゝ宅へも歸らず夜橇車を雇つて三國峠を一歩飛び直ぐに汽車にて一笛の音をば後にぞ見棄つゝ東京投て來たりけりだ○ト祭文の調子にて言ふ(甲)お手許へは廻りませんか(乙)マア冷却さずに聽てお出ヨ(丙)處げ片々は田舍にばかり燻つて居たゴツゴツの頑固娘だらう夫れに肝腎な本尊樣も村に居ちやア生意氣な口も聞たらうが一天萬乘の君の輦轂下へ來ちやア何ぼ戸長の倅でも依然椋鳥は椋鳥だから元々旅費の澤山あるんぢやアなし懷中に在つた小遣だけを杖とも柱ともして來た事だから何する事も出來なく成たが夫かと言て目指す女が打說たといふではなし鳥渡でも隙があつたら手紙を書て田舍へ出さう夫も成らざア駈出て警察署なり派出所なりへ駈込うといふ權幕だから勤めや雇に出ようといふ都合にも往かず夫かと言て脫走して來た者が國へ無心を言て遣るといふ譯にも往ないから友達を賴んで少しばかりの金を借出して貰つた上宿屋住居で那の孃の番人サ、エ、何に、鼻の下の長さ加減が知れないと、大きに爾だが夫れ程辛抱したからにやア旅の空の事ぢやアあるシ女も外に便がないから定めし甘く出來さうなもんだのに何しても婦の心が金石よりも堅いと來ちやア眞逆に強姦も出來めえだらうシ常時お雪さんの尻の番をして風來々々遊んで暮して居たが代も殆ど危く成たので三四年前にジャッパン木村屋の勉強のパン／＼と夫婦連の洋服パン屋の話しを聞て越後名物の越の雪の製造を知てるので夫に文明パンといふパンを交てお雪さんに三絃を彈せ越後の追分を躍ては市中を賣步行たのが元で到々此の島へ落て來たのだとヨ、だからアノ亭主孝行は些とも難有い事はないのサ(甲)オヤ那の人がネエ(乙)オヤ／＼願人の親父さんの仕方話しを聞てるうちに日がタップリと暮て仕舞たヨ宿祿が歸つてまたお權突頂戴かクサ／＼するヨ(甲)ドレ妾も早く歸らう(丙)ドリヤ聲色の夜稼と出懸ようか

ト長家の女房は我が家へ已が勝手に歸り行く後に願人丙六も夜食の膳をかい遣て開閉苦しき上總戸を毀すが如く引閉て裏道傳ひに貸元の臺所より銅鑼をかり受け出行く路次にて往合ふ

人影

(雪)オヤ丙六さんモウ夜稼ですか大層御精が出ますネエ (丙)イヤ麵包屋さんの内儀さん唯今お仕舞でございまするか (權)親父さん夜晝稼いぢやア金の置場が有ますまい (丙)何んなら預つて上げませうかアハヽヽヽヽ

ト世辭を上座に裏表別れてこそは往にけれお雪は先に我が家の戸口かけ錠外して内と外心を籠し世辭愛嬌も慣るれば恒れて兩隣家向う三軒一樣に

(雪)お隣のお内儀さん難有うございますお向うの御隱居さん唯今歸りました留主に誰か參りはしませんでしたか、オヤさう、誠に毎度お世話樣難有う……

トいふは心に憑むなる若しや田舍の人なりと尋ねて來なば荒鷲の爪にかゝりし我が身の上を語りもしたし告もして故鄕に還る雁にだも言傳遣らん所存ぞと邪推ながらに量り知り權一郎は苦々しく面膨らして睨つけつゝ

(權)非人小家を見たやうな此んな宅へ誰が尋ねて來るものか餘計な世辭やア入らねえヤ早く明りでも着やアがれ (雪)夫なにツヽ慳貪に仰しやらなくツても宜いぢやアございませんか (權)何ー、諄々言ねえで早くしろエ、お饒舌い阿魔め (雪)ハイ〳〵畏まりました

ト身を脱れ得る夫までは寄らず障らず身體を全うするに及ことあらじと怜悧き心に思ひ諦め帶の間に所持したる燐燧を出して手ランプの灯を點し家のうちを掃ひ清めて夕膳の支度をすれば權一郎は衣服を脫替髭を拂ひ前かき合せて座に直るをお雪は心得德利を振試むるに今朝買し酒にはあれど何故か僅に一杯二杯より外になければ不審立ち何故なるを知るに由なく我れ誤つて翻せしか但しは鼠の惡戲なるか何にてもあれ此の事の知れなばまたも喧しからんに聊か今日の貯へあれば一趨りして買來らんと袖に德利を打掩ひはや戸の外に立出るを權一郎は逸くも認めて直ちに心頭何れの時も去ることあらぬ疑惑心に這は郵便を投ぜん爲めに人の氣息を伺ひて出往く者と覺えたり憎さも憎しと咄嗟の間にも始めは慕ひ次には迷ひ中途にして恨みを生じ今は却て憎惡を生ぜし卑見の腦裏に纏れば大いに怒つて聲銳く

(權)ヤイお雪人にも斷らずに何處へ往く氣だ、ナニ、酒を買に往く、酒を買なら酒を買ふで何故判然と爾言て往かねえンだ、第一近所へ買掛りを拵えられちやア後で遣切が着ねえだらうぢやねえか、酒がなきやア己が買て來らア德利を渡しやアがれ (雪)夫んなに酷い事をなさらなくツても宜いぢやア有ませんか何も買がかりをすると言やアしませんシ妾に少しお錢があるから夫れで調へて參らうと思つたのでさアね、惡きやアモウ〳〵謝りますから外聞の惡い高聲丈けを廢て下さいまし (權)コリヤア己の地聲だエ誰が大きな聲をしちやア惡いと言たンだ、何だ妾にお錢があるから調へようと思ひましたお錢があるならあるやうに何で己に出さねえンだ貯蓄錢をしやアがるなア何か了簡があるンだナ、よし〳〵今に歸つて糺明して遣るから其所を一寸でも動きやアがるナ

ト戸の開閉も荒々しく權一郎は德利を片手に提げて杉の葉の酒屋が門を音づれたる後にはお雪が唯獨り思へば果敢なき身の成行病ふの床に枯がてなる在しに變りしはゝそ葉の母を振棄てちちの實の父をも後に心なき佞けし人に勾引され東の空に來りしは雁も此の地に來る頃なりしに早晩冬も過行きて春去りぬらん雁がねも元の越路に歸るものを何とて我れを伴はざるや母上のみは我が胸を詳に知りもし給はめ律儀を以て身を立給ふ父上及び兄上は嘸かし我が身を疑ひて不埒のものよ不義ものと心に憤らせ給ひなん

言葉の寫眞はありとし聞ど心のうちを寫眞して三國の山の彼方まで照せるものゝあらんには我が潔白を見すべきに愁ひ皮膚に覆はれて見えぬ心の甲斐もなき此の薄命を如何せんと思ひの涙に案じさへ綾なき折しも歸り來る權一郞が荒々しく戸を引開けて内に入り

(權)サア燗をしろ早くしろ遲々すると打擲るぞ

ト何が心に障りしか邪慳の詞も柳に流し命ずるまゝに調理して燗の加減を試みつ侑むる酒を一口飲み干し

(權)お雪手前は酒を飲むナ(雪)何で妾が……

(權)飲ねえ事があるものか一體此の燗のしツぷりが氣に食ねえ酒を飲もしねえものに此の鹽梅が分るものかエ、夫が證據にやア今朝買た酒のなく成たのが何より明白だ飲なら飲とぶちまけろ酒を吝みやアしやアしねえ(雪)だツても妾は(權)飲み隱しをするにやア及ばぬサア茶碗で一杯遣れ、ナニ、否だと此ん畜生夫まで人を馬鹿にするか

ト持たる箸を投打にお雪は除んと身を捻るを直ちに髻を取て押へ拳を堅め毆つ手に縋るを突飛し非常の噪ぎの折しもあれ密行巡査の斯くと聞き表を叩いて

(巡)オイ御用だ此を明ろ／＼エ、何したンだ

エ

第十三回　雲の架橋

印刷局の汽笛長く聲を洩らして柱上の時辰機午下四點を報ず庭前の紅綠色稍深うして庖廚の炊烟一層熾んに昇る頃麴町區土手三番町なる伯爵春川大臣が玄關口に軋音を傳へて忽ち取次の電信を報ず內玄關の受付に控へし家從見習は遽だしく扉を開いて出迎ふれば儼然たる一個の紳士「ポッケット」より名刺を出して主公に面謁を請ひたしとあり春川伯は先日より政治上の累ひに腦部の病ひを惹起せしとて內閣へも出る事なく人に面談も謝絶して百事を舉て祕書官に委ね閑散病ひを養へども一種の病ひは醫するに由なく常に身體を圍繞して腦部を刺戟すると見えたり家從見習の其の人は刺を見るよりも謝絶をなすべき顏色少しく顯れたるが急に何をか點頭つゝ最と鄭重に會釋をして中にも美麗の椅子を撰み這を其の人に薦めし儘奧の方へと這入りけるが三分時間が程にして再び來りて東道をするに紳士は導く方に至りて庭に向たる廊下に出るに此には旨を受たるにや艶子が美々しき被布を纏ひて嬌面一體笑を頷みつ腰を屈めて迎ふるにぞ紳士は進んで握手を施し

(博)今日は誠に結構なお天氣で……過日は存外の失敬を致しました妹からも宜しく(艶)先日は何も失敬ばかり致しまして……今日はまたお繁忙い處を遠々お呼立申しまして恐れ入りました能くマア早速に入しツて下さいましたネエ(博)御主人も御繁務の事ですから今夜にも上らうと實は存じて居ましたが生憎夜分は種々取調物があるので御約束の時刻とは少々違ひましたけれど歸宅をしては些と出かねるかも知れんと存じましたから控訴院の用を仕舞と直に參邸致しましたが御主人は未だ御退閣に成ませんですか(艶)イ、エ父は此間から少し勝れませんで引籠つて居りますから丁度宜い都合でございました(博)オヤ／＼御病氣で……夫は何も……併し大してお惡いのでは御在ませんか(艶)イ、エ大した事でも御在ませんが相替らず腦病でございまして誠に氣むづかしくツて困りますヨ(博)併し御休みに成て居るといふ程でもございませんか(艶)ハイ唯だ風來々々と致して居りますので……夫ゆゑ甚だ失禮ではございますが唯今鳥渡面丈け洗つてお目に掛ると申して居ますから暫時此で御休息を願ひます、夫は爾と

中島さんアノー此の頃に貴君方の御組合で夜會があると申す噂が新聞に出て居りましたが那の御催しは新聞の通でございますか（博）なアに立派なソワレーでも有ませんけれど追々國會の開期も近寄て參りますから大分地方から人も出ましたので歐米風といふ程でも有りませんがマア男女打混じて極睦しい會合をして見よう先づ都會の人と地方の人とが入交つて互ひに種々の話しをし合たら第一目下の輿論となつて居る中央集權と地方分權との可否善惡に就ても大いに得る所がありませうし夫れにまた私共の商賣上に就ても目に見えぬ利益があるに違ひないといふ發企の精神で近日廣告をしようといふ運びにまで纏りました（艶）夫ぢヤア御當日は孰れお今さんをお同伴なさるンでせうネエ、夫ともまた外に「Lover」がございまして其の方をお連なさるンでございますか

ト笑ひの中より洩したる一語のうちには皮相より量り知られぬ眞情の籠れる意味の通ぜぬか但しは外に思慮ありてや

（博）何致しまして私なぞは．．．．

ト極淡白なる挨拶に艶子は話頭の方向違ひて手持無沙汰に見えたるが透さず談路を直接に運せんとや媚を呈して

（艶）夫なら貴君はお獨身でお出なさる方でもございますまいネエ中島さん、エ、切て爾いふ宴會にでもお伴なさるのを心待ちに待てる人がございますヨ、貴君餘り夫ぢやア酷うございませう男の性質は浮薄な者かは存じませんけれど女は一體身體の構造からして軟弱な者ですから自然に此の愛嬌といふ者を與へて男に愛させ夫で腕力のある男の庇愛を受て世に立つ變りに貞節を盡して男に酬いるのが女の持前、ネエ、男は强壯であるから軟體の女を勦つて之れに深切を盡し剛柔相倚て一生を全うしようといふのが男女の原質でございませうネエ、貴君、最初の口約をお忘れなさりもしますまい未だ契約の證書がないと仰しやるかは存じませんが口頭の契約も證券に寫すまでの豫備契約だと申すぢやアございませんか、人の心情を知らない顏をしてお出なさるのは如何何だツて餘り．．．．

ト艶子が久しく相見ざる戀慕の情の度を過て今は怨みの極點にまで沸騰したる想像力の鋭き語氣を耳には聞ど愛憐の情中島が四肢五官にまで充塞したれば却つて淑女が斯くまでに打明して言出るは非常の心に忍びたる非常の艶語と我よりして價値を與へ最も愛味を聲に含めて

（博）爾お恨みなすつちやア辯解に苦しみますが全く左樣な譯では有ません唯今氣のないお返辭を申したのは實は心中に少々混雜た問題があつたので飛だ失敬な語を吐きました私の精神は全く過般から屢々申し上る通りで貴女の清淑な御氣質よりも艶麗な御姿よりも最も千金の知識と歐洲教育に薰陶されてお出なさるのを愛敬する次第ですから貴君の眞情は既に私の腦髓に附着して居りますのサ恐くは唯私眞情を貴女がお知りなさらないだらう、私の外形は中島家の遺傳で極無骨に製作されて居て內部の喜憂を映寫す事が甚だ鈍い、至つて形體を以て人を敬愛する作用に富で居ませんから每度是では失錯を致しますテ（艶）イ、エ夫れは貴郎の遁辭とやらでございませう夫んな御容子のいゝ事ばツかし仰しやらないでお否ならお否のやうに男らしく仰しやいましナ、何も是が無理押に何斯と申すのぢやアございません互ひの合意を要さなけりやア成立ないものでございませう（博）剛義に理窟を仰しやるぢやア有ませんか決し



（原本省畫）

て左樣な[illegible]はない、素より生涯の伴侶と精神に誓つてある、併し御親父の御許諾を得るのが一大難事でせう（艶）中島さん夫れは貴君眞個の事でございますか、夫なら精しくお話し申しますが父も最初は貴君を大變に忌で居りました、斯申しちやア失敬でございますけれど父は一體黨派心に制される癖があつて「コンニングスビー」（小說の名）を見たやうな譯で妾を貴君に許すまいと種々干渉を試みましたが妾も大變に我が儘を言張り母も貴君の事を種々と幇けて呉ましたので夫ぢやア誰に嫁かせるのも同じ事ゆゑ中島の性質が何んなであるか篤り己らが吟味をした上で若しも望みに適中したら己らの方で意を枉て汝の自治に任ぜようと申しまして幸ひ此に訴訟があるから實は外の人に依託する積りであつたが之れを中島に賴むとしようといふ丈けにマア話しが運びましたから先日鳥渡敎會へ參ります序にお尋ね申した譯でしたが……貴君の方こそお今さんが何とか妾の事を仰しやいましたらうネ（博）エ、お今か、那が何を申すものですかネ、爾いふ譯だと今日は花婿さんの試驗と言た形ですネ、宜しうごアす……

折から奧にて呼鈴の音二三點漏れ聞えて五分時間が程を經過し小間遣の女中なるべし侍婢一人走り出で兩人が前に手を突て主人が結束の整ひたる旨報じ來るに中島は一禮なして艶子が東道の後に續て奧まりたる三層樓の應接所へ通りて適宜の椅子に憑り艶子を還せし其後へは侍婢一人が持出しゝ珈琲を飲んで器を返し獨り室を見渡すに旋轉體の圓テーブルには印度緞子の美しきを掛け紫檀の函に露西亞製の紙卷煙を入れ上に置たり其の側らには支那製のプラチナ燈を供へ着けて煙草を喫むべき火に充つ佛蘭西製の啖吐器を三個適宜の位置に据たり正面には長方形の椅子を置きて安居に便にし今また一個の通常椅子あり別に裝飾とてはなけれど甚だ美麗に見受る折から側の戶を開きて入り來るは春川伯なり續いて家從水野昌好書類の箱を携へつゝ主人の後に扈從して立たる儘に三人が親しく握手の禮を施し春川伯は椅子にも凭ず病中なる故脫帽ざるかナイト、クロスの衿のみ折て

（伯）中島君、甚だ失敬ぢやが御覽の通り不快ぢやけにマア許して呉れ給へ、寐卷の儘紳士に接する法はあるまいが病ちふ奴には何も勝んぢや

ト一禮なして長方形の椅子に凭れて髭かい撫で乃公こそは東洋の新ビスマルク其の人なれと言ぬばかりに霎時が程は對ひ坐したる中島の面を目戍て何事をか心のうちに尋思を凝し瞳を下瞼に注がせつゝ漸くにして咳一咳なし

（伯）早速ぢやが中島さんチト地所に關する訴訟の事で足下に代言をお賴み申したいぢやテ私がマア自身の鑑定ぢやア民法上何しても正當の理由が存しちよると思量するが餅屋は餅屋ぢやに依て十分鑑定をした上で承諾をして貰ひたい失敬ぢやが成功謝金は君の最

も好む者を進ぜる精神ぢや、コリヤ水野手前が關係ぢやけに能く明瞭にして說明せんか(昌)畏まりました、中島先生一體起訴の成立といふものは新潟縣下越後の國東頸城郡三俣村字神田と申す處に沿て手前主人の田地がございますのですが此の田地は神田より甚だ地盤が高いので何分にも水利が宜しく有ません底で同村の戸長森村なる者に神田買入の事を委任致しまして種々方法を旋しました處該地は村民で少々づつ分持にして居る田地ですから一人々々に買取るといふのも不都合だシ若し中に苦情でも唱へる者があつては相成んから連帶に關する公債に此の神田を抵當にさせた方が宜しからうとの事で卽ち神田添小川鮭獵維持費を當主人より貸付ました折別證にして若し本證書の契約に違背至し候ふ節は相當の增價を以て神田御買取被下候ふとも一切苦情等申す間敷といふ卽ち始審裁判にて甲第一號證に呈しました此の證書を取置ましてございますが昨年の暮第一期の返濟期限に全く契約を履行しませんから主人代理として私が出張致しまして段々戸長とも熟談の上戸長役場に預つてある地券を此方へ引上げ重立た者を呼で懇々と談じた處イヤモウ夫は御契約上の事であれば是非もないが實は地租の未納などもあり土地に對する負債もあるから夫を御負擔下されば別に異存はございませんと申すので是を卽座に二通の證書に認めて調印をさせましたから最早異存はない精神で精細の反別を測量させまた其の中で一人承諾を得させない越山卓一なる者を招いて彼の存意を尋ねた處がイヤ夫は甚だ意外の話しだ元來此の御談じは大臣の御資格で御下命になつたのか但しは一個人の御相談か戸長の職權あるかないかなぞと種々の難問を起して破壞しようと試みますから私も證據立を以て爭ふうちに愚民は誠に致し方のないもの(俊)コリヤ〳〵道行は何でも宜いワ控訴の趣意と證據物件をお目に懸ろ(昌)ハッ、然るに突然調印取消の訴へを起しまして斯の如き裁判の結果に成りました證據書類は之を一覽下すつたら大概御了解に成りませう、さて今般右原告人越山卓一より控訴致す旨書面を以て通報致しましたから甚だ御面倒な儀ではございますが先生の御鑑定は如何なものでございませうか又控訴被告の代言が頼れませうか其の邊の處で御繁忙中御足勞を願つた儀でございます(俊)民法上から論じても控訴をしようといふ原由はない樣ぢやがパリストルの御鑑定は何なものかマア獨逸邊の立法の原理から言ば土地合有は人の富豪に任じてあるので法律は之が破壞を企てるものをこそ彈劾すれ所有者は飽までも保護せんではならんのぢやシテ見ると司法官が私に法を制して證據以外に斷定を下す事もあるまいから事實に照しても法理の上にも何も私は宜えぢやらうと思ふがなア、一體此な裁判は何なものぢやな

ト頻りに證據に依賴して原裁判を信用する主公が詞を逐一に聽了りたる中島は唯其の首を低るのみ返辭はなさで慧眼に原被の口供兩造の證據物を審查して尙また長岡裁判所の宣告書をも仔細に見つ忽ち心中笑ひを生じ

(博)水野さん此の證據物は何號證にお出しに成ました(昌)ヘイ慥か乙號證に：：(博)宜しうございます何もチト私の鑑定には及びかねますから篤と相談をして(俊)コレ〳〵遠慮をさッしやるな可否の判斷が付ん事はあるまい先生に鑑定の出來ん者なら日本に之を裁判する法律家は猶更有りませんぞ(三)爾仰しやられては甚だ恐縮致しますが法理を精しく說立るのも無益な話しですから事實に照して

一度對審をして見た上孰れ確たる御返答を申しませう（昌）爾願れるなら何より難有うございます夫なら此一件書類を（博）宜い、證據物件證本を頂戴して參りませう（俊）御如才もあるまいが身分柄ゆゑ餘りパッとせんやうになア（博）エー〱御配慮には及びません宅の書生に對審させて見ますから夫ぢやア何れ近日（俊）病中甚だ失敬をしました（昌）何も御繁多の中を態々何も……（博）モウ夫に何ぞ夫で（俊）夫ぢやア勝手ながら失敬

ト茲に中島博智は別れを告げて螺旋形の梯子を前後二段下りつ元の溜りに來て見れば艶子は今の物語りを洩聞たるか恨みを含みて心地宜からず控へしが唯簡短の挨拶に互ひの情を手に握りて軈て以前の內玄關に待せ置たる車に乘り門外遠く出て行く後の方より聲をかけ頻りに我れを呼ぶ人あり中島あやなく車を止めて待つ間程なく此方へ來るは是なん每朝新聞社の記者山田文治なり

（博）僕を呼だのは君か（文）當然の事サ、君今夜は宅に居るか、エ、居ない、明日の晩は（博）明晩、ア、多分……（文）君に少し話しがあるから明日の晩は何處へも往ずに待て居て呉れ給へ（博）宜しい〱承知だよ

ト會を約して別れ行くを山田は見やりて苦笑ひしつ

（文）膽力のないビスマークの處へ出入るからは若しや甘く嘗込れたのぢやアあるまいか、貴女がござつてるから夫れとも緣談かな何だか何も變だぞ

ト獨り呟き是も亦市ケ谷城門の方に往きけり

第十四回　草まくら

孤衾冷かにして華胥逆旅久し故山雲遠くして懷舊の情轉た切なるは羇旅に在る身の常態なるべし本鄉三丁目の角店なる越後屋といふ旅店の二階に四疊半の一室を借り語敵きの友もなく一人旅魂を慰めかぬるは彼の越山卓一なり雪を凌ぎて上京したるは其の精神に固信する地方自治の制度の爲めに最も障碍を與ふべき土地合有の無理押を破りて權理を伸張せんとて安危を我が身に負擔しつゝ慨然として出京したるが素より訴訟は長所ならねば恩人なり且師匠なる狀師中島博智を尋ねて助けを仰がんものと征衣も解ず靴をも脫せず直ちに飯田町三丁目の中島方に赴けるに書生一人執次して主人博智は故鄉なる靜岡縣に往きしと云へり然らば阿今に逢んといへど是も親父の大病を看護ん爲めに主人倶々歸省したりと言放つに賴みも此に半絕え再び去つて本鄉なる法科大學の寄宿舍を叩き齋藤孝に面晤を乞へども課程のうちに在りと謝絕し第二の望みも絕果たり斯く輕薄なる人の心に悄然として步を旋らし旅店に歸り來りしが然ればとて此の鑑定を他の代言士に託する時は直ちに金の費る事なれども之れに充べき費用なければ若ず自ら死力を盡して控訴廷に戰はんには縱令法理には暗くとも條理の二つあるべき筈なし苟にも多少の書物を讀み且狀師の家に居て聊か訴訟法をも知れるに臆する事のあるべきや鳴呼堂々たる一男子誰をか賴み誰をか憑まん依賴心程世の中に卑劣なるはあらざるべしと奮然こゝに蹶起して十分力を筆に寫し軈て控訴狀を認めつ直に自ら控訴院に出頭なして奉呈し其の歸途に山田文治を尋ねて仔細を縷述なし宿所に歸り沙汰を待ちつゝ十日餘りを送りたり一朝聊か心ありて各新聞の輿論を見ばやと店に立出で待ち居たるに軈て鈴の音遠く響きて此に來かゝる配達人あり卓一急に呼止めて

（卓）オイ〱新聞屋さん改進新聞があるか、エ

（配）エ、改進新聞、お生憎樣何も改新は非常に賣ますから悉皆賣切て仕舞ました（卓）夫ぢや

ア毎朝新聞は（配）毎朝、お待なさい慥かア、有ました、ヘイ〳〵難有うございます（卓）四錢あるよお吊を呉な（配）ヘイ難有うさま夫ぢア一錢…毎度難有うございます

ト世辭を遺して歸り行くを見棄て獨り卓一は己が借り切る一室のうちに閉籠りつゝ新紙を開きて我が親愛なる山田文治が主幹なし居る新聞なりと思へば一層敬信の心を生じて社說より順次に紙面を讀碎き

（卓）成程「國會に於る第一問題」か先生が得意の地方自治論だナ、ヒヤ〳〵「人各々自身を主宰すべき權り力あ誰か能く之れを奪ふものあらん」素より〳〵、ナニ「グラッドストーン氏は一千八百八十六年の失敗を挽回せん爲め再び自治案を國會に下せり」ハヽア老政治家の不屈精神實に驚くべしだ、オヤ〳〵「自治案は一人の反對者もなく其第一讀會を通過したり」フヽム是は先年も此通りであつたな、二次會は何なるか如何英人の守舊の心に制せられて居るとは言ながらモウ大概愛蘭の自治を許すのが正當の理であるといふ事が了解たらう、雜報に何か面白い事はないか知らん、何だ「夫婦喧嘩にあらず」前號に下谷區萬年町十二番地の麵包商森村權一郞「前號に金一とせるは誤聞」が女房お雪を打擲したる末引致されたる事柄を記し付しが右は事實に相違せる廉少からず昨日更に聞得る所に據れば此の權一郞は新潟縣」ウムーー

ト其の餘の文は默讀しつゝ顏色忽ち怒を帶び或は愁を含むが如く變動一方ならざりしが喟然として洪歎なし

（卓）是は何も不思議だ、先づ是を事實と假定めて見ると妹は實に悲愍な者だ、駭くべく憎むべきは森村だ彼れのお雪を勾引した後に調て見ると全く戸長役場の官金を竊取したのも權一郞の所業に相違ない、だから森村が曖昧のうちに償還方をつけて置たといふ事だが元來甚だ性質の宜しくない奴だけれどもアアして深切に出入りをするシ夫に男ッ振がいいから若しやお雪も何時の間にか…夫で期を約して亡命をしたのだらうと信じて居たが夫ぢやア依然苦節を守て居たのか

ト獨言つ時廊下より下婢が例の粗忽聲にて

（婢）越山さん〳〵お客人が參りやしたヨー

ト廊下に立て呼立るに卓一急ぎ身を起して出迎へんと障子を開れば既に山田は上り來りて夫れと見るより目禮し

（文）イヤ過日は遠方まで難有う早速御依賴に成た一件を搜索して申し上ようと思つたが何分にも社務が繁忙で意外の御疎遠相替らずの失敬だからマア許給へ（卓）何致しまして私こそ疾に尊宅を伺ふ筈でございましたが實は過日も摘要んでお話し申し上げた通り未だ控訴院から出廷の御沙汰がございませんので少しにても調べて置ないと辯論の種に窮するであらうと考へまして毎日書籍館へ參つて取調を致して居ますから夫ゆゑ存じながら御無音を申しまして濟ませんでした、今日は何方へかお出に成ましたンでございですが

（文）ナアに何處へ往くものか一本槍に君を尋ねたのサ（卓）夫は誠に恐縮の次第ですが何か御用で…（文）小々内密で君に聞たい事があつて來たのだが若し差支へがあるなら何處へ往かうか、エ、隣室には誰も居ないと、夫ぢやア言ても宜しいネ、チョイと其處にあるのは社の新聞か拜見、ウム、是だ此の件は定めて讀んだらうネ（卓）ヘエ唯今一讀しまして實に不審を起して居る處です（文）爾だらう夫りやア道理だ、昨日は僕も少しく用事があつて番町のイーストレーキ氏の許へ行たから雜報の方は檢閲を怠つたが今朝見ると悉皆前號の事實を打消して詳細に記載してあるから

早速社へ行て聞て見ると全く下谷警察署の刑事巡査から聞たのだといふから事實に於て相違のあらう筈はないが何にしろ已に前號へは誤つて妻とも認め全く密通して亡命をしたものと記した位だから君を初め御兩親に於ても此の相像の區域は免れまいと考へたヨ、ウム、夫れ故斯いふ潔白な事情は早く御兩親に報道して令妹の身に一點の淫心のないことを證明しようと思つて直ちに一葉を遞送させたが森村の長男といふ奴は實に憎むべき奴だなア、エー衛ぢやアないか（卓）左樣でございます私も平常の志操では決して夫んな猥褻な事をするやうにも思はれませんでしたが是ればかりは何も皮相から見られぬものですから大方不埒を働いて亡命をしたに相違あるまいと存じて居ました一體私は物事に干渉するといふ事が大嫌ひな性ですから固より互ひに心の合たものならば其の事を尋常に相談さへすれば不滿足ながらも獨立して遣て行る丈の資産を分て公然夫婦にして遣らうといふ精神ですが何をいふにも先方が富豪家であつて何かすると此の縁談を奇貨として彼是干渉を試みようといふ陰惡の性質があるものですから大體に不承知でございましたが實に此の久しい間も節操を守つて苛酷非道の折檻に逢ても更に其の身を潰しもしませず唯一身を全うして自由の境界に遷られるのを心に待て居たといふのは妹ながら感服致しました（文）就て君に聞うと思ふのは此の新聞で見ると面部へ疵を付けたとか腕をぶッくじいたとかいふ事だから孰れとも權一郎は處分を受るだらうと思つて居たが今日探訪者が歸つて來たのに聞て見ると近隣からの歎願もあり當人も私和したいといふ事で警察でも強て求刑するも本意でないといふ處から全く懇篤に說諭して放還したさうだが此に僕の心配といふのは大方其の權一郎といふ奴は陰險の性質のある奴だから幸ひにして私和して貰つたのを難有いと思はないで必ず一層お雪さんを憎むに相違ない、若し彌だといふと實にお雪さんの一身に取て憐れむべきの至りだから何も棄て置た日には生れも付ぬ不具の身體となるに違ひなからうと思ふが幸ひ君も在京の事であるから熟議の上で其の處置を付んでは否なからうと思つて餘計なお世話だけれど一應相談に來たのサ君の精神はマア何んなものだエト常に淩らぬ山田文治の實誼も深き言の葉に卓一思はず感泣して恩義を厚く懐ふにつけ一議に及ばず首を低け（卓）別段是といふ縁故もない私どもを唯一面の識に依て夫程までに御親切にして下されるのは實に私どもの一家の幸福として長く家記に止めるより外に御謝儀の申しやうもございません、モウ先生の仰しやるまでもなく斯樣な事實を承知致します以上は必ず不人情にも度外に放擲して置く譯ではございませんが：：何にしろ何にか處分方を付けなくツては成りますまい（文）君が全く疑念を散じてお雪さんの眞情を憐れむ心なら僕も實際の存じ寄を吐露して君の賛成を得なくツては濟ない、僕は去年のエーツ、四月だ、四月の競馬の折上野の公園で君と初對面をした時から斯言ちやア諛ふやうだが當時空理に走つて兎角極端に走る人物が多いのに着々と歩を進めて地方自治にのみ熱心する君の精神が實に僕の精神に入つて十分に友愛の情を惹起さしたから正直な話しは彼の時まで僕は先づ蓄財をして根柢を鞏めなくツちやア所詮僕の思想を達し得る事は出來ないと思考して、マア幸ひにも若冠の頃から全く父母兄弟の覊絆を脱して不十分ながらも獨立孤行で商業社會に交り種々な事業に首を突込だお蔭には何

か彼か一家の生計には差閊へず新聞社の方も追々利益が見えて來たから閑暇の乏しい身體には遊獵も出來ないから健康を保全する爲めに馬にでも乘らうと思つて幸ひ秩父から來た人が雜種馬の三歳駒を買へと進めるので伯樂を氣取てマア夫れを相したのサ處が至極の名馬だから直に買取て緑野と名づけたのも實は地方自由の制度を希望する處から號けた譯で何か花々しい勝負をして見たいと思ふ處へ幸ひ婦人財嚢の日に春川伯の都と組合に成たから是で一番彼の中央集權說を主唱する都の持主を驚かして遣なくッちやアと思ひ立たので餘程勉勵して競走したが二十英尺以上の勝を得たから大變に愉快で堪なかつた、處で君に逢たから、實に此の時の感情は今に始終腦裏に附着して居る程だから畢竟漫遊の砌り君に逢て餘計なお世話をしたのは此時既に蓄財の精神を轉じて君の如き不幸の域に沈溺する人を救濟しようといふ俠氣を起したので獨り君に限るといふ譯ではないが就中君の一家を憐哀むのは則ち爲にする所があるのでも何でもなく其の主義上から親しい血胤以外の緣族であるからです、夫れ故お雪さんも直ちに僕が引取て幸ひ細君が世話好だから此の方の着くまで御世話を申さうといふ精神を起したが、元來權一郞とかいふ奴は餘程姦譎に富で居るに違ひないから君の委託狀があるとか何とかでなくッては容易に手渡しはしまい、夫も條理を以て押せば決して恐れる事はないけれども夫な此で逡巡してるうちには屹と彼の娘を匿すとか又は略賣するとかといふ危險がないとも言れまい、ネエ、夫れを實は協議するのサ、君何だエ、僕の考案は（卓）願ふといふのも餘り人に甘えるやうで恐縮致しますが唯今の樣に大體の御履歷を伺つて見れば之れに背くのも御本旨に悖る譯ですから甚だ自由ケ間しうはございますが夫ぢやア左樣いふ事に一つ……（文）宜しい宜しい、今夜は少し用事があるから

ト言つゝ何をか思ひ出しけん急に膝をうち拍て

（文）オ、爾だ、一方の話しで悉皆忘れッちまッた、君逢たかエ（卓）誰にです（文）中島君にサ（卓）イ、エ先生は靜岡へ（文）ナアに靜岡へも何處へも往きやアしないョ現に僕昨日逢た（卓）へーエ何處でお逢なすッた（文）昨日土手三番町で面會したから今夜は是非尋ねる約束して置たから夫れ故お雪さんの方へは廻つて居られないのサ（卓）何して私が行た時に留主といひましたら實に不思議な譯で……何か是にやア原由がありませう（文）サア何も變な譯だが實は君の今度の訴訟の敵手たる春川伯の處へ親しく出入る樣子だから若しや些と臭みが着きやアしないか知らん（卓）へエ春川伯の處へ……夫ぢやア殊に寄ると公廷の敵手が先生に成りやアしますまいか、此りやア困つた（文）何だか保證が出來難いネエ、實は彼家の令孃が非常に戀慕して居るから僕の考へでは緣談でも取極りやアしないか知らんと思ふョ（卓）アノ艷子とか仰しやる方ですか（文）左樣サ、ホラ日外君が獨逸制度と英國制度の事を論じて破々說破た令孃サ、であつて見ると君を突然今夜同行するのは最易い事だけれど又宜しくない場合もあるから兎も角僕が今夜行て悉皆事情を探つた上明日は日曜だから早朝に萬年町の方へ行て歸りに君の處へ來るからマア夫まで待て居給へ（卓）何か宜しう……（文）萬事僕が引受たョ決して心配し給ふな、エーッと、オヤ〳〵モー十八時（子午線は明治二十年に改正せり看客疑ひを抱くべからず）だ、夫ぢやア孰れ明日、左樣なら

茲に山田は別れを告げて直ちに店より車を急が

せ飯田町へご軋らせける義侠の心腸涼々たるべし

第十五回　腔の雪消

自治政府の設立なき邦國に於る人民は常に恐懼の中に在りて自ら本末を明かにすること能はず唯政府なるものを以て國となし政府は國の爲めに成立れたる所以の道理を忘失せりとは學士リーバーの金言なり寔や多數の小民は官吏を目して同等の國民なるを明め得ず之れ一群の種族にして其の集合の行爲を稱けて政府と呼べるものと思ひまた人民は其の政府を建築すべき土木なりと誤り認むる者多くして是等の愚民に圍繞まれて別に頭角を顯はしたる彼の越山卓一も俊秀の才幹如の氣を自ら培ひ養ひて今の此の大事を負擔するとも一歩を讓るものならねども法は全く不羈なりや裁判官は獨立を公然保ち居るや否やを精しく推究すること能はず集權政府の下に立つ自由に乏しき身の果敢なさは權理の消長縮伸に聊か恐懼の念を抱き益々中島博智を慕ふ念慮は一層の重量を茲に増加したるが斯く愛敬する其人の心は漸く反對の針路に進めるかの如くまた一臂とも憑みつゝある齋藤孝は何故にや面晤をするさへ厭へるに卓一頻りに嗟嘆に堪へず只管山田文治をのみ力となして居たりけるに圖らず文治が義膽を以て先づ博智に面會を得一年が稈足を容れざる應接室に座を占めたる卓一は未だ心中に種々の問題輻輳して口を開くに及ばざるを夙に夫ぞと察しけん磊落紳士は語を發して

（文）中島さん、君に今日のお土産といふのは即ち此の人物だが君は此の蓬頭垢面肉落ち骨顯はれたる處を見て何な感覺を起したかネ、定めて憂鬱の情に活潑の精神を奪ひ去られた憔悴枯槁の態を見ては此んな不潔な人物と席を同じうして談しをするのは不愉快を感ずるだらう、何方かといやア窈窕婉籍たる令孃と玉榻を同じうして語る方が愉快だらうネ、エ、何だエ、併し能く物を考へて見給へ、元は同等同權の國民だらうぢやアないか、夫が今日に至つて貴公子や令姬に對すると恰で反對の感觸を與へるといふのは決して誰の惡いのでもない自分達が馬鹿だから此んな結果を招いたのだとマア一概言切て了ふ譯のものぢやアなからうと思ふヨ畢竟農民といふ者を馬鹿にさせたといふのは誰の罪だネエ君言新しく論ずる程の事でもないが大體日本には遊民が澤山あつて公卿諸侯武士は勿論商人とか工匠とかといふ特別保護者が十分の六可を占めて居て纔に十分の四強位の農夫が是等の厄介者を引受け食しても遣れば商賣もさせて遣り政府を立させて保護を受させて遣たといふのは先つ農力を疲勞させた一大原因であらう、夫から此方に平等税說が行はれて地所に割當たはいゝが依然農民は氣の休る席がなく物成といつた時分よりは税率こそ下つて居ようが出し前に行たら種々の原因で依然五分々々、何かすると餘計になるといふ一件だ、今こそ爾でもないがお互ひに此の農民を疲弊させて幾分づつか身代を肥したのサネ、其の遺産の爲めに教育も幾分か進んで居るのだが、此の反對點は始終農民に附着つて居て全く今日不平均の現象を呈したのに相違はない、だから都人士の綺麗なのは農民が窮して居る商標で決して跨るに足りない譯サ、併し君の精神では僕の說を容れないだらう、何だエ何と思ふネ君は（博）失敬な事をいふぢやアないか、君は吾輩を官權臭氣が付たと思ふンだネ（文）當然サ、何せ君抔ぞに話したツて贅だタアト思つたけれど越山君が頻りに君を慕つてるから今日は同道して來たのサ、オイ越山君夫なに隅ッ子にゐなくツてもいゝや、

此方へ寄り給へ(博)怪しからん事をいふ君は何でも變だョ(文)僕よりやア君の方が餘ッ程變だ第一君は何いふ精神だか知らないが過日越山の來た時に何故留主を使つて逢なかつたのだエ、エ、譃も餘り素々しいぢやないか親が病氣で妹君と一緒に看病に行たッ、マア是から糺問しよう(博)頓だ豫審にかゝつたものだ吾輩は誓つて夫な事は言ないねエ、ムウ、今まで憚りながら人に留主なんぞを使つた事はないネエ(文)だッて現に越山が來た時夫れ故空しく歸つたらうぢやアないか(博)些とも何も覺えない、卓一さん左樣かエ

ト初めて語針の越山が方に向ふに卓一は悦び言ん方もなく此にて我が意も彼方に通じ彼方の深意を採らんと

(卓)モウお尋ねまでもございません何處を措、ましても出京次第先生をお尋ね申さないやうに未だ精神が腐敗しは致しません早速御尋申しましたが‥‥(博)何だとエ、君實際來たに違ひないか(卓)事情を盡しませんと私の精神も御了解に成ますまいが先生の御恩澤を一日片時でも忘却しては人間の德義に悖るといふ感情は常に腦裏に附着して居りますから正直のお話しは口を減じても必ず筆紙と郵便切手を供へて置まして毎月一回づつは常不斷御起居を伺つた程の事情ですからモウ出京致しますと直きに此方へ伺ひましたが唯今山田先生の仰しやる通りで實は今般の訴訟の成行も氣遣だし甚だ落膽致しました(博)實に奇怪だ、吾輩の許へは唯の一度も書柬の達した事はない、吾輩も妹も常に君の事を案じるから折々手紙を出したのでも大概君から通信の達さない事は知れさうなものぢやないか(卓)何と仰しやいます、時々お手紙を‥‥イヽエ手前輩へは歸村ののち東京からと言ては更に郵便の來た事は御座いません唯毎朝新聞を山田先生から御惠送になるのが達しるばかりで御座います(博)吾輩の書信も屆ないッて山田君何だエ、實に不思議な仔細ぢやアないか(文)左樣サネエ、書狀往復の自由は甚だ大切なもので元來郵便局を設けて政府が往復の媒介をするといふ趣意は唯速達の便利を圖るばかりぢやアない其の書狀を滯ほりなく先方へ屆けるまでの間之れを保護して決して通信の自由を害ねないやうにして遣る譯だから政府を潔白なものとして人民も之れに依賴するのだらう、シテ見ると屆んといふのは實に訝しい譯で若し何か事情があつて竊かに私狀を開封するとか又は押收するといふ事があつた日にやア政府は人の心事祕密を探偵するもので丁度先年新富座で演た文明東漸史の時代を笑ふ處か私書を訐いて罪を構造する鳥居の政略と毫とも違つた處はありやアしない、英國なぞには何か此の自由を保護するに足る丈けの慣例法があるだらう(博)夫りやアない事はないが別段憲法上の正文はないのサ、是といふのも英國では人民の信用を敗るやうな官吏がなかつたからで羅馬には親不孝者がなかつたから羅馬の古代律には親殺しの刑罰がなかつたと一般の事サ、若し查理第一世の時代に千八百五十年代の佛蘭西の樣な事があつたなら必ず「ペチション、オフ、ライト」(人民の權を明かにする書)に公然と通信自由の條項を掲げたであらうョ、併し彼の英國に居住する他國の國事犯人の書狀を開封しろと言て總理大臣が命令をした時に國會が嚴しい論責をしたので總理大臣は忽ち之れに答へて「格外の事情ある時に臨んでは書狀を檢査することも行政府の習俗にないではないが以後は必ず此の習俗を廢すであらう」と公言したのが即ち今日の法律と爲り來つて居るのサ、米國なぞは最も此の彈劾

法が嚴しく立て居るが日本では驛遞總監の時分から開封の權が與へてありはしなかつたか知らん、縱令權限があらうとも言ば是は取除の場合で平時に此權を使用する筈はないから此の一事に就ても吾輩が浮薄でないといふ事の證明に立たらう、何か孰れ仔細があつて越山君と吾輩とを離間するものが内外にあるに違ひないが山田君、君の考案は何なものだネ(文)人間の自治を妨害するたア奇怪な奴だ、宜しい君の精神は判つたが春川伯の代言を承諾したか(博)誰が那んな知れ切て申理の立ない訴訟の被告代言に成るものかヨ、全體向うが法外な仕方だものを(文)夫ぢやア大丈夫だネ、越山君何うだエ(卓)唯今の御一言で誠に安心致しました

此の談判を漏聞きてや但しは虚心に來りしか阿今は美茶を入れ替んと銀瓶携さへ出來る隔の一間に先頃來たる一個の書生が慌忙駈來つ阿今の前へ身を置て

(書)お孃さん〳〵、僕が參りませう、エー、貴女がヅカ〳〵彼なお座敷へ出ちやア安ツぽく成まさアネ、僕にお委せなさい〳〵(今)だツて知らない方ぢやアなし行たツて宜いぢやアございませんか、何か妾が出ちやア惡い事でも御在ますノ(書)惡い、エー、何アに惡いといふ事は有ませんけれど儼然たる若婦人が書生風情のお給仕に、ネエソラ、品格が落まさア、お廢なさい〳〵惡い事は言ません(今)オホヽヽヽ、何も御華族方のお姫樣か何かぢやアなし夫なに見識ぶらなくツたツて宜いぢやア御在ませんか、知らない方なら何ですけれど山田さんなり越山さんなり些ともお逢申したツて不都合のない方ですだらうぢやア、御ざいませんか、却て御挨拶に出ない方が失禮でございませう(書)宜しい、實は僕が出たいからですサ、宜うございます(今)オヤ〳〵女の腐つたやうに可笑しい事ネエ、御遠慮なしにお出なさいナ

阿今が虚心の應答へに件んの書生は面を赧めて意中の不平を漏すに術なく怫然として立去しには心の濟くべきやうなければ阿今は其のまゝ一室に入り最慇懃に會釋して在り合ふ煎茶を入れ替つ更に主客に相應め

(今)山田さん昨晩は誠に御匇々さま今日は何方へか御散歩にでも入らツしやいますか、越山さん誠に良久く、貴方にも御機嫌宜しう、能く御出京に成りました(卓)何も先年は存外の御厚配を、エ、追々暖氣に向ひました此方樣にも御健祥で今日はまた突然に出まして相替りませず御厄介を……(今)眞個に御無事で結構でございますヨ、彼ツ切り御便りがないもんですから何成つたかツてネエ兄と常住御噂を申して居たんですヨ(文)お今さん昨夜貴女に話しをした事ネエ(今)ハア彼の下谷のですか(文)ウム今朝行つたがネ困つた事にやア轉居先が知れないヨ(今)オヤ爾うでございますか夫は誠にいけない事でございますネエ(博)お今さん越山君は久し振のお客樣だ何か御馳走をしないかエ、エ、越山君今日はマア緩り遊んで行ても宜からう未だ此の訴訟の事に就ては種々と話しがあるが御覽の通り關係の依賴者や鑑定人が彼の通り待てるから十二時までは應接をしなくツては成らない、些との間奥で遊んで居て吳給へ、未だ君は見ないだらうが妙な庭が出來たヨマア行て見給へ、山田君、君は未だいゝだらうネ(文)ア、宜いとも今日は君が手が隙たら三人で龜戸の藤でも見て時間が早かつたら三圍前の淸水東谷の處へ行て狸の見物がてら得意の半身寫眞でも寫さうと思つて居るのサ(博)至極可からう東谷の寫眞なら歐米人に見せても恥しくないから吾輩も幸ひ澤山寫して英國や米國の

朋友に送つて遣うョ、夫ぢやア待て居て呉給へ（文）其の代り午餐は食倒すョ（今）山田さんの食倒すく\も久しいものでございますョ、越山さんマア此方へ來て御覽なさいナ（卓）へイ難有うございます

ト此に至つて中島は訴訟人に應接の番號札を取出すを後に見なして三人は奥の住居に來しが山田は固より懇親の間柄とて遠慮もなく主人の書齋にうち通りて近來新築ましたりと覺しき洋書を繙き居る茶室の縁に卓一は新に設けし庭の風致を見るにも故山の想はれて等しく生を人類に稟たる身なるに賢不肖其の差ありとはいふものゝ斯くも境を殊にせるにや同じく兄に就く人も阿今の如く幸福を得て天性とはいへ智育もあり德育もある其の上歐米風の體育に其の健全を保てるにや髮艷かに肉厚く紅顏色を加へたる夫には引替へ妹お雪が數奇のうちに沈溺して貧窶の淤泥を脱し得ず卑屈の岸の高うして快樂の陸に上る能はず自ら我が身を濆せるは正に兄なる我自らが才器の鈍きに依るならんか將積年の累弊の今猶脱し得ざるにやと坐に感慨胸間を來往なせる其の中にも亦一種の分子より組立られたる思想ありて喜憂交々身に餘る多岐の心緒を知るや否お今は庭の前栽に盛りを誇る白木蓮の花を手折て此方へ來り枝を携つゝ腰うち掛け

（今）越山さん貴君は齋藤さんにお會なさいましたか（卓）イヽエ實は數度大學校へ尋ねて參りましたが卒業試驗前だとか言て一度も面會致しませんです（卓）爾でございませう妾は貴君の精神を能く存じて居りますから辯解こそ致しましたが決して疑念を懷きは致しません貴君は齋藤さんに大變不德義な人だと思はれてお在なさいますぜ（卓）へエ、何いふ譯で（今）貴君は齋藤さんが忘れてお出なすつた紙囊とかを何なすつたんでございますョ（卓）アヽ那の紙囊ですか那りやア此方から上野の停車場へ參る途を態々森川の方へ行て慥かに同宿の人に遞與して置ました其の人は齋藤と同窓の朋友で至つて彼と懇意ではあるし殊に私も富士見軒で一酌した事が有りますから疑念なく遞與して來たンですが夫が何か致しましたか（今）左樣だらうと思ひましたョ、實はネ去年の事でしたが鐵道馬車の中で此んな事がありましたのョ〇ト書生が讒間の三虎を信じて齋藤の心情全く變じ再び中洲遊園にて邂逅したる其折には確信したる疑ひに捺印したる事實を說き（今）でございますから妾は何なに悔しうございませう（卓）夫で悉皆判りました、實に貴女程能く私の心術を御存じの方は有ますまい憚りながら私も貴女の御親切は固より總ての御志想を能く存じて居る精神でございます何故といふに貴女は私の身體に絕ず附着してお出なすつて私の心では貴女に每日每夜お目に懸つて居りますからです、是を御覽下さいまし

ト肌着を示して沈着せる心の裡に親密なる愛慕の念のあることを心を定めて打出せば合意は誠に不思議なものにて花顏忽ち眞紅を染め瞼重うして視線斜に靜默の中幾層の艷語を心に畫きけん之れを知るは兩人のみと思ひ設けず無聲にして悉くも月下氷翁を全く感動せしめたりけり

第十六回　旱の白雨

木摺の壁を唯一重隣家の境を隔れど鼠は常に嚙破りて交通自在の洞道あり背合せの裏隣家は棟の半を分ちつゝ密話も自在に聞得べし路次の通路は四尺にして對門と雖も一家に同じく上等長家といへる方には九尺に二間を一戸として竈を構へ流しあれども鍋釜などと言へるものなく雪隱といふものもなし中等といふ處には九

尺四方の四疊半を土間にも使用ば座敷に用ひて竈の類を見ることなく唯些かなる火鉢のあるのみ下等といへるに至つては三疊敷に一家九人の家屬を集めて住ふあり或ひは二戸をうち貫て三戸の之れに同居するあり炊烟とては上らねども夕暮よりは家毎に蚊遣の烟賑はひて半霄月の影を埋むる恰も英のマンチェスターかリバープールを望むが如し彼れは日夜の製作に蒸氣の烟の絶ざるにて是は蚊帳を垂るゝ錢なく睡を安くせんが爲めに燻す烟の絶ざるなり烟は等しく烟にして彼の黒烟は流動體たる此の濃烟は固形體なる差別もあらで同一の氣蒸體なる煙なれども利益を起すと貧窶を示すと榮枯得喪如何ぞや斯の慘憺なる貧國を何處の境と尋ぬるに前回一たび描き出せし下谷區萬年町より一等の上位を占めたる最貧鄕同區山崎町の裏洞なりけり時猶ほ炎暑といふにはあらねど六月中旬の事なれば一雨ごとに暑を增加し稍衣の薄きを願ふ時候も同じ緯度ながら此の貧鄕は格別にして汚熱矮屋の裡より發し蒸氣塵埃の上より騰り大氣の流通閉塞するより熱度を攘ふに所なく陰鬱として暑を造れば單衣を纏ふ者も罕にて男は犢鼻褌唯一つに赤くして脂染たる肌を露はして軒頭に立ち女は麻の葉の下帶にて腰より下は掩へども膨よかなる乳房を垂れて粗造の皮膚を恥る事なく上框に匍匐をれり兒は全體赤體裸にて男女ともに打混じ頭の虱を捻りつゝ遊戯す偶々肩に穴の開て縞か形かを分難き單衣を纏ふ者あれば是れ此の社會の富豪家なり人間界の中央にも禽獸昆蟲に劣りたる生活をして餘生を貪る斯の貧鄕には用あるまじと鑑定さるゝ一個の紳士絽塗の車を二輛並べて先づ一輛は乘たる人を其の儘表に駐めさせ一人此へ入り來るに一種名狀すべからざる臭氣の鼻孔に闖入するにや香氣を含めしハンカチーフを鼻に押宛兩三軒歩みを進めて立留まり

（女）チョイと物を尋ねたいが此の長家に先頃萬年町から移轉て來たものはないかネ（男）オイ細君ア萬年町から移轉て來た者が此の長家にあつたツけノー（女）爾サねエ、萬年町とは御親類合だが……オー有るよ〳〵ホラ那の上等の眞中頃に（男）ウム越の雪の夫婦者か、ヘイ此の五六軒先の向うツ側で尋ねて御覽なせえやし慥か權一郎とか何とか言ましたツけ（女）アヽ森村權一郎といふ者だツレ〳〵是夫に違ひないが女房といふなア內に居るか（男）何だか私どもにやア詳しい事ア解りやせんが萬年町に居た時分其の嬶々めが間夫をしたとやらで打擲つたのが當り處でも惡かつたといふものか毆痍を起してモウコレ三月越に成りやすが未だ不貞腐れて寐て居やアがるか面を見た事も有りやせんのサ（女）詳く物を聞く樣だが今時分行ても夫婦ながら內に居るだらうかネ（男）左樣サ、越の雪やアモウ歸つたらうか（女）未だ見かけねえやうだツたネエ、歸つた處が隣家で屹と例のを遣てるに違えねえヨ（男）內儈かア、なアに旦那山の神は慥かに居りやすからマア行て御覽なせえ（女）爾か是は何も難有う

ト見る物毎に珍しく奇怪にもあり慘忍にもあり一眼球子に映ずる事物の一種不思議の感觸を與へざることあらざれば斯る紳士の常として最も仔細に觀察しつゝ軈て今しも敎へられたる權一郎が住家に至りて內の容子を窺ひ見るに一間四尺の板の間に沓脫に代る落間あり二尺三尺の流臺ありて一ツ竈を飾り付けたる破け煤けし障子の間より住居の模樣を見透すに厂字形を顚倒せる奇怪に堪へざる座敷ありて一人側に臥したる者あり一個は長家の女房なるべし枕上に居て何事をか頻りに喋々喃々する言葉のうちに阿雪といふ文字の耳に入りたれば今は疑ふ方あらず直ちに進んで詞をかけ

（文）御免よ、此方は慥か森村さんの御宅だネ、ハイ御免ヨ〳〵（女）ヘイ入らツしやいまし森村は此方でございますが何方様から‥‥（文）私は市ケ谷の山田文治といふ者だがお雪さんは居なさるかエ（女）ヘイ何御用で（雪）御ばさん宜しうございますヨ餘りひどいけれど何ぞ此方へお通し申して下さいナ（文）オヽお雪さんイヤお珍しう、何モウ加減の惡いのに出なくツても宜しい、夫ぢやナ上つてもいゝのか眞平御免（女）貴君お靴を此方へ（文）成程地犬が澤山ゐるナ

ト山田は不潔極りなき陋屋をしも厭へる色なく衾といふも名のみなる損料蒲團の側らに自ら座を占め

（文）イヤモウ夫で必らず構はぬが宜しいさて先年は誠に失敬をしました如何です、御鹽梅は、實はナ私も疾くに彼の一件を聞込だから早速に萬年町の方へ行て見たがモウ御移轉に成た後で差配人に就て轉居先を聞合して見たけれど何も判然とした處が分らないので甚だ當惑をして居たが昨日漸く探訪者が此處といふ事を聞出て來て呉れたから今日は社務を仕舞と直にお尋ね申したのサ、なアに恥る事は些ともない詳しい事情は悉皆知つてるヨ、ウム、飛だ難儀をなすつたネエ、併し一心の堅固なものには常に上帝が守護して居ると耶蘇坊主もいふから必らず幾分の惠みがあるに違ひない、何でも氣を落しちやア否ませんぞ（雪）左樣に御存じさまで入ツしやいましては何も申し上る處は御ざいまん是といふのも約束事の災難だと思ひまして妾の身の處は諦めも致しますけれども御存じ樣の通り父は彼の通り年を老ては居ますシ母は永々の大病で嘸かし妾の斯成ましたのに力を落しましてございませう若しもの事が有りはせぬかと存じましても郵便一本端書一枚出す事は出來ませんし誠に夫れが案じられて心配で成ません兄は彼の通りな氣象でございますから定めし妾の不身持でもあつたやうに思つて怒つて居るに相違はございませんが唯今仰しやります通りの譯で彼の事がございましてからは猶更世間に知れぬやうと此んな處へ移轉まして人樣には些とも逢しませず療治は固より其の日〳〵の食事だッても滿足には宛行ません位でお隣家の内儀さんにも漸と昨今御心易く成つたのでございます（文）アヽさうかエ、マア泣なさんな〳〵ヨー夫なに歎いちやア身體の爲に宜しくないから（女）モシ旦那エ、お雪さんは眞個に憫然でございますヨ、是がネエ貴君夫婦だといふなら腐れ縁だと思つて又諦めやうも有ますけれど勾引された上に人にも會さなけりやア表へも出さずに現在此の女が優しいお蔭に人一人罪に落すでもないと思つてもサ言たい事も控へめにして歎願をして遣たからこそ世の中にも居られるンぢやア有ませんか、ネエ旦那、其恩は棚へ上げて置てマア何といふ奴でせう犬猫だつて恩は着るといふのに眞個に〳〵仕方がねえ畜生野郎だヨ、妾がお雪さんなら睾丸へでも何でも喰ひ着て、サッサと埒を明ッちまふのに餘りお雪さんが優しいもんだから、妾やアモウ〳〵齒切くツて〳〵成りやアしないヨ、考へても自烈てえワ、南瓜野郎南瓜野郎絲瓜野郎河童野郎死ばり損なひの穀潰し畜生瓢男盜賊野郎メ眞個にサ彼な奴は犬の糞でツン俯倒て乞食馬車にでも曳れやアがると米の直が安くなつて世の中が穩かになるヨー、オヤマア旦那御免なさいヨ、餘り腹が立もんですから眞個にサ、オヤ〳〵お釜の番を廻すのを悉皆忘れツちまつたヨ、薪までが彼の野郎の肩を持て惡く人を馬鹿にしやアがる、イケ好ねえ燻り

方だヨー、旦那マア御免なさいまし（文）サアサア遠慮なしに、チョイと内儀さん少しだが鼻紙でも買な（文）何ですネエ旦那此な事をなすつちやアオヤ〳〵旦那是りやア二十錢のダラですヨマア何せう此んなに頂いちやア濟ませんネエ、お雪チヤン何しよう（雪）夫なお心使ひをかけましちやア、爾でございますか、お内儀さんア、仰しやるもんですから頂いてお置なさいナ（女）妾やア眞個に喫驚したヨ旦那濟ません誠に有り……（文）お雪さん、森村は未だ歸らないかネ、歸らんけりやア宜い實は今日お前の嫂さんを伴て迎に來たのだ（雪）嫂さんと仰しやいますのは（文）斯う唐突に言ては解るまいが實の處は越山君も幸ひ東京へ來て居るからお前の身の上に云々いふ事があつたと委細に僕から話しをして兄さんの精神も悉皆氷解したといふものサ（雪）エエ那の兄が此方へアノ參つて（文）ウム居るよ、底で森村に懸合にやア卓一さんが來ては不都合の事もあるだらうと思つたから總て委任狀を僕が受取て迎ひに來た一件だが併し一人ぢやア不安心に思はれてもと思つて兄さんが精神で結婚して居る中島博智の妹お今といふ則ち向來お前の爲の嫂となるべき人を連れて來ました（雪）左樣でございますか

ト捗々しくは應答も得せず唯窶れたる面を垂れ潸然として千行の涙に聲も出かねるは誠に欣喜の胸に溢れし情の切なるものなるべし登下表の溷板に音たてさせて來る人あり文治は背らの小窓より首さし伸てうち點頭ば

（今）御免下さい、山田さんモウ、お話しは濟ましたか

ト詞をかけて入り來るは嬋妍とする淑女なるゆゑ阿雪は大いに鼻白て涙に腫る重瞼を恥かはしげに押包む襤褸の衣のいと厚き針目を漏れて紅涙は瘦たる膝に灌ぐなるべし阿今は當時の才女なり少き辯にも愛嬌多く思ひはかりに敏ければ阿雪を兎に角慰さめて我が本心の誠實を彼方へ發送せんものをと故ら我よりうち解つゝ

（今）貴女にはお初にお目にかゝりましたがお噂は豫々御兄イさんに伺つて居りましたヨ此度はまた不慮な御難儀をなさいますツてねエ、眞個に人事とは思はれませんヨ（文）お雪さん是が今話しをした中島のお今さんだヨ（雪）ア、左樣でございますか誠に不潔處でお恥かしうございます、毎度兄が御厄介に成りますさうでございまして兩親も貴女の處の御深切を始終お噂申して居りますが宜い折からお月に懸りました（文）イヤ面倒な御挨拶だ夫此するうち日が暮ると困るからお今さん貴女は逸くお雪さんに結束をさせてお吳れ、エヽッと内儀さん〳〵（女）ヘイ何か御用で（文）外の事でもないが今話しをした通りの次第だからお雪さんは私達二人が連れて行くヨ併しまた默口で連て行てはお長屋の衆の迷惑にならうからお前が後に殘つて居て森村が歸た時に詳しう話しをして貰ひたい夫も無證據ぢやア困るだらうから此へ私の名刺を證據に留めて置くが若し權一郎が歸つて來て諄々言たら私の處へ來るやうにさう言てお吳れ宜しいかエ（女）ヘイ〳〵畏まりました

此の問答の終る頃一方にては中島お今が携へ來たりし白飛斑の單衣を取出してお雪に衣服を改めさせ猶我が平素の結び料なる南京繻子に絹縮を腹合せし帶をも與へ吾が鬢櫛に水つけて眠亂れ髮を後から綺麗に搔梳遣しつ卒とて二個が誘ふに阿雪は夢か幻かを自ら判つ暇なくまた今更に感涙に嗚咽より外詮方もなく〳〵前後を促され憂に棲ける家ながら恨みに假歎し涙の痕を殘り惜氣に顧盻り視る目も霞む鐘の音は幡隨院の十九時か上野淺草鬮けくも東西かけて撞終る時こそ忍ぶに便りある誰兮彼空を幸ひに朽

て蚊を吐く濁液を三間ばかり歩み行く例時破落戸が集合所の奥より夫れと認めたる權一郎は曾てより歸りて委細の談判を殘らず傍聽したれども憤懣を胸に疊みつゝ評ふ擬勢は正道の寡勢に全く蹂躙せられて結局如何成行くやらん口惜しき事よと思ふのみ亦詮術もあらざれば集合所へと身腰を据ゑ切めての事の腹癒せに口を極めて罵りつ彼れ等に當座の恥辱を與へ再び勘考したる上如何かなしてお雪を奪ひ彼方を窘しめ遣んものをと小人凝漢の常として定に淺慮なる妬心を生じ往き過るをぞ待ち居たるゆゑ多數を藉りて亂暴なる惡聲を出し口々に種々の侮辱を加へしのみか權一郎は身を起して有合ふ鹽笊取るより早く大手に摑み阿今にまでかゝれよかしとうち撒つゝ一同濁たる聲を合せて吶とばかりに嘲笑したり然れども山田は言ふに及ばず阿今も斯る人間世界の以外に等しき境界へ一たび足を容れしより禽獸にだも劣りたる野蠻の土人が巢窟よと思へば毀譽にも褒貶にも更に心を措ざれば今此の憎むべき憤るべき嘲笑罵詈に遭たれども一笑に附し聊かも怒る色なく往過るに實たる喧嘩の容を失ひ目算全く齟齬したる森村よりは吾ゆゑに紳士淑女を辱しめたる無禮を心に恥思ふ阿雪が胸は如何なりけん言出べき機會もなければ淚を呑で後に従ひ木戸の表に待居たる車に乗て漸くに虎口を脱れ狼足を免かれ得たる再生の阿雪は如何なる面をして彼等と共に立去るや表に到て今一度恥辱を與へ呉んずものをと權一郎は執念も後に續いて表に出れば逸くも車のかげだも見えず何地に向ふて走り去りしか苦心の資本も爰に盡ぬ權一郎が容貌風俗訝しとや思ひけん目戍詰たる一人の生徒獨り頻りに點頭て

(孝)成程何うも見た事がある人だと思つたヨ、森村君、森村君、君は越後の森村權一郎君だネエ、何サ喫驚し給ふな僕は柏崎の齋藤だヨ、お珍しう君何時出京したエ、例の訴訟事件でか、エ、君(權)イヨー齋藤の若旦那か、實に良久く何も悉皆見忘れたヨ、私か、私は少し仔細があつて昨年(孝)エ、昨年から出京してるのか成程始審の裁判が孰にならうとも控訴院の終審を受る所存で、是は爾もあらうヨ而して此節越山とは對審したかエ、被控訴者は添川大臣だけれど君達も孰れ證據人として出廷するだらう、越山は何な辯論をするエ、君マアいゝから遊びに來給へ(權)控訴控訴といふが君何いふ譯だエ(孝)惚け給ふな些と僕も聞て置たいからいやゝネ一緒に來給へヨー久し振だサ

第十七回　雲間の月

むら肝の心てふものは凡て感覺を支配すべき萬能の政府にして百端千緒を統轄する中央點なれば麻の木の直にてあらんには斯ばかり淸く樂しきはあらざめれど曇り夜の惑へる節出來たらんには朝露の我が身を過さん術もなくて常に晴にし天に遭はず濁れる潟に舵を絕ちて止めん胸もいかり綱くるしき限りに泣渡るべし況てかほ花の戀に紊れ迷ひては賢不肖無差別にて饑渇に迫る動物の死を知らずして飽を貪るに異ならず我が邦現時の女流には敎育の進步著るしく時めける大臣が愛孃とて折々は巳ごとなきわたりにも咫尺し奉る名德高き令姬なるに如何して斯くは迷ひ出けん春川俊胤伯爵の淑女艷子は一たび英國狀師中島博智を慕ひてより夢幻の境にも靄然たる其の容貌の眼界を去らず麗朗たる共音聲の聽官中に固着して常住坐臥にも去ることとあらねば無數の心緖意を銳うして皆悉く此の點に急進し萬能政府の國會は此の問題を討議するのみ苟にも之れに反對する意見を提出する者あらば忽ち滿堂激動して事の善惡當否を論ぜず說の正邪適非を問はす最大多數の勢力にて身

體意外に挫折し餘響を遺さゞらんとするなり然りけれども此の熱心なる急遽に遇て十分なる秩序を履むに遑あらねば破壞手段の間に乘じて此の目的を悞つものあり愛慕の念もかた絲のより着き難きに焦れつゝ半は怨みに懷ひ着し何とて斯は頑固なるや斯まで人に物思はする君が心の恨めしと實間嫉妬を起せしも却て今は憎惡と變じ最後の熱度は愈よ騰りて他より之れを視る時は恰も狂するものゝ如く中島といひ博智といふ人あらば倏焉に眦逆に柳眉立て白面濃厚の朱を灌ぎ富嶽形の雪の額に青き血脈を現して炎に均しき息を吐き絲髮動きて瞳動かす修羅妄執に怒りを含んで妾の斯まで念へるをなど難面は打過るぞ然る浮薄なる人とし知らば何とて幾層の思ひを碎かん憎き男に會もせばともに死すまで此の怒りを遷さで徒に過さんやと心中沸騰するが如く煩ひ勝に在りければ俊胤伯は然までにあらねど夫人節子は恩愛の情に棄も得置かずして芝浦に在る別邸に往き暫時がほど保養させたる其の上にて何とか心を慰むる便宜を更に求めんものをと自ら艶子を伴ひて芝浦へは移住みぬ一週間が程を過たる一土曜日の夕刻より俊胤伯も暑を避けて涼を件の別莊に納らるゝ報知のありけるが政治上の紛雜は伯が水

光月色の眺望を掩ふ雲となりてや未だ車輪の音を通ぜず今宵は滿月なるを以て宵より水天髣髴たる袖ケ浦の風光を斯の高樓にて望まんものをと夫人は艶子を室より伴ひ聊か古びし建築ながら西洋閣の樓に上りて隈なき月を愛れども艶子が目は雲ありて清光無二の水月も眼界中に入らざるなるべし

（節）艶、其の兩眼鏡でチョイと御覽那處に大層明りの見えるのは根津から轉つた洲崎の廓だらう高い處に只た一つ灯の見えるのは大八幡の五層樓か知らん涼納をかけて月を見ながら嘸繁昌なる事だらうネエ、品川も中々景氣がいゝヨ、オヤ〳〵那の汽車は大變に列車が多いが、ア、成程名古屋の上り列車だネ眞個に何も彼も便利に成て今の人は僥倖だヨ

（艶）些とも僥倖な事は有りませんワ、妾やア眞個に此んな不自由で腹の立つ世の中はなからうと思ひますヨ（節）オホヽヽヽヽヽまた此の娘の一徹が久しいものだヨ是が昔しであつて御覽此の母さんなんぞが伯爵夫人だとかと夢にでも言れやアしない娼妓衆がお妾に成た話しはあるけれど藝妓が御奥へ上つた事は昔話しにもあるまい、夫はマア難有い事には立派に夫人と言れて參內の出來るやうな世の中に成たのは實に自由自在な時代だらうぢやアないか、夫でないとお前依然左褄を取て四十島田でヘイ今晩はと苦しい勤めをして居なくちやア否ないヨ、是はマアお前だけへの話しだけれども（艶）夫りやア貴母は樣でせうけれど妾やア此の世の中が大變に氣に入りませんノ、ハア、何故だツて阿母さまに斯申しちやア惡うございますけれど薄々御存じだから恥も何も放擲てお話し申しますが中島さんネエ、眞個に誰が憎いツて那の人位憎らしいイと思ふ人は有りませんヨ御父樣に仰しやツちやア大變ですからモウ……（節）オヤ〳〵此の娘はいやだよ外のもんぢやア有るまいし母さんに言たツていゝぢやアないか、母さんだツて以前は種々な事をして來たらうぢやアないか年をしたツて酸甘いは知つてらアネ、ヨー今の後を言て御覽胸に疊んでる事を話すのが一番の藥だヨ（艶）だツてネ阿母樣、實は中島さんとネ、マア詠しな話しですけれど西洋のネエ、ホラアノー、ネ彼方の風俗をお話し申しましてネ、マア種々と那れはいゝの是は何のと言てるうち自由結婚のお話しが出ましたのサ、モウ廢ませう何だか詠アしいから

了得に處女の氣象とて縱令以前は如何にもせよ

今は嚴然一貴族の夫人と稱るゝ母に向つて淫猥卑褻の物語を爲し能はずして面を覆ひ語尾を霞むる艶子が胥を夫人節子は推し遣り態と自らうち解て子を教ふるの道をさへ踏違へるとも知ざるか恥る色なく側に寄り

(節)アラ何だネエお前夫な事言ちやア何だけれど妾なんぞも隨分高島屋に岡惚をして屁もしツかけられなかつた事もあつたし一度なんざアお相撲と昔噺家とを情夫にして大變な葛藤が出來たッヨ夫な事ばツかしして居たンだけれど斯して身分が極つて見ると昔しの事は何でもないからお前ンなんざア浮薄といふぢやアなし母さんの氣ぢやア何とも思やアしないワ(艶)夫りやア母樣は御商賣で成つたンですから何とも思召しは致しますまいがマア考へて見て下されまし苟にも令孃とか何とか言れるものが外聞も思はないで押付がましう交際を求めて自由結婚の主義に基き何しようの斯しようのと口約束までしたのぢやア有ませんか是が先の人が何も彼も知ない人なら諦め方も有ませうけれど何から何まで御存じの大した紳士ぢやア有りませんか此人なら生涯を任しても宜いと見込を着たのは萬更妾の目違ひでもなからうと思ひますヨ

(節)爾だとも／＼眞個にお前が怜悧だから好い處へ日が注つたのサ(艶)斯申せば中島さんの方では夫りやア依然癡情の區域は脫れない眞實自由結婚を願ふものなら何故遙々兩親の許しを受ないのだ縱令ば夫を受たにしろ外國では寺院へ行て結婚の帳簿に姓名を記して貰ふまでは離別は其人々の自由にあつて離婚裁判の管轄を受る限りでないと仰しやいませうが夫は未だ日本に例のない事で今の分では到底宗教の勢力が其處まで及ばないだらうと思ひますからモウ口約束の成立が丁度帳簿に名を止られたやうなもので御在ませう、爾して見ますと妾やア何しても中島さんの所置振が男らしくないと思ひます(節)眞個に其通りお前のいふ事に一つも理窟に合ない事はないヨ、アヽ、第一ネエ此の春御前(俊嵐を指す例の地金と知るべし)が喧しい事を仰しやつた時に母さんの氣ぢやア男振はよし働きはあるでお前のお聟さんにやア極似合だと思つたからマア種々と執爲して夫なら今度の訴訟を那の男に賴んで見よう若し以前の樣に己へ反對する精神がなくツて眞實艶を愛する情も見え春川家の爲には隨分骨を折て見ようといふ成蹟とかが見えたら艶の望み通りにして遣す然もなくツては所詮父子が敵味方に成て爭ふことの免かれぬ中だから決して許すことは出來ないと仰しやつたから妾も何なにか嬉しかつたらう(艶)母樣には種々なお世話に成りましたけれど人の了簡が爾でないと云ふものは何も致し方のないものですヨ、妾は今度の訴訟のお敵手の越山卓一と申す者に昨年の春季競馬の時公園で逢ましたが何なに生意氣な奴でせう大體なら何あつても此方の代言をして那んな奴はミシ／＼と駁擊て下さるのが當然だのに夫をマア私は此の訴訟の代言を受る事は出來ません何故と仰しやれば申しませうが元來始審の判決が其の當を失したもので到底申理の立べきものでない故でございます寧ろ訴訟をなさるよりは正當に示談を御遂なさる方が御利益でございませうと夫りやア法律には勝れて精しい方だらうけれど色氣も想氣もない返答をして却て越山の肩を持つてお出なさるのは餘り中島さんでもあるまいと思ひますワ、未練のやうぢやア御在ますけれども何あつても此の憎いと思ふ心を直接つて言て仕舞ないうちは忘れる事は出來やアしません眞個に體よく欺されたかと思ふと夫は／＼口惜ツて／＼慾も德も入

なく成て仕舞ますヨ（節）妾も夫は察して居るのサ是が昔日の身分なら彼處のうちへ我鳴込んで思ふさま叩き下して面の皮をヒン剝て遣るンだけれど、オヤ〳〵餘りお饒舌をして居る中お月樣に悉皆雲が懸つたヨ、アレチヨイと御覽馬車の音がするぢやアないか屹と御父樣に違ひないヨサア下へ行てお出向ひをしませう

ト節子は遽かに衣紋を繕ひ猶鬱然と心中に焰の消る遑なき艷子の手を把り誘ひて今樓閣を下る折轍の音の轟きてお入と呼はる先觸の馬丁の聲侶俱に一輛の馬車蹄を止れば二輛の人車も轅を止め夫人淑女の出迎ふ間もなく春川伯は日本服に最輕々しく打扮て日耳曼帽子を冠り儘悠然としてうち通る後に續いて警部補一人巡査二人の護衛の外に今一人の見知らぬ男も此に漸く首を上げ詰所の方に退きたり春川伯は袴を脫して近來新に營なみたる日本形の便室へ古體の火屋に風を避つる玻璃燈幾多點じさせ打寛ぎて坐を構へ先づ葡萄酒に渇きを醫して

（俊）艷、誰か居らんか今一緒に來た男を是へ呼べー（艷）アノー誰か參つて居るのでございますか（俊）來て居る〳〵過刻邸を出る處へ參つたから之れへ同道して來たのぢや、越後から森村剛藏の長男權一郎ちふ者が來て居るのぢや（艷）夫なら直と之れへ通しましても宜しうございますか（俊）大じないはやく呼べー

ト父が指令に淑女艷子は徐かに次の一室に至り傅女們に旨を傳へて席を設くる間もなく權一郎は何時のほど左右衣服を新調したるか白地の帷子に細麻の水淺黃の衿を襲ねつゝ嘉平次平の袴を着し黑絽の羽織に威儀を正して小腰をかゞめ入り來たり末座に平伏なしたるのみ頭を擡ぐる氣色もなく威嚴に咫尺し心中に恐懼したる乎但しはまた尊敬の意を飽まで表し阿諛の資本を費して愛護の値を騰貴せんとや未だ輙く內情の如何を判斷し難けれども俊胤伯は詞を和らげ

（俊）權一郎、近う來い遠路の處を嘸勞れたであらうが一刻も逸く聞たいのは彼方の內情ぢや貴樣の父も中々人心を收攬する事は得意ぢやから好結果を得たぢやらうナ（權）恐れ入まして御在ます實は私も東京、エー當春より新潟表へ商用に參つて居りまして詳さに事情は存じませんでございましたがツイ先頃歸村致しまして承まはりますれば御上の御所望に應じませず身分柄をも顧慮ずして卓一が訴訟を起しましたと申すことでございまして誠に村内も穩かで御在ませんから父も種々と心痛を致して居ります儀でございます就ましては控訴の景況が如何相成ましたか夫れも親しく御伺ひ申し上げ何も御役には立ますまいが訟廷の御用も達さうし且は御參考までに卓一の人となりを申し上て置やうと卽ち私に申まして出京致しました儀にございます（俊）アヽ左樣か夫は重々大儀であつた時に村民の模樣は何ぢや控訴に勝たら異議なく地所を渡しさうな決心が見えるかな（權）ヘイ一體北越は貧民の多き處でござりまして動ともすれば多人數集合して苦情はまをし立ますれど何をいふにも氣力に乏しいものでございますから到底一揆を起すなどといふ事は御在ませず殊に三俣村などは數年來父が就職して居ります故別段に世の熱に浮された事も御在ませんでした處アノ越山が歸鄕致しましてから先年中の自由黨主義を持て居まして自分の家が貧困な處から表は穩和に見せかけながら常に社會は平等なものであるから貧富を平均するのが正理だとか純正なる社會に在りて均一の幸福を享有せんには宜しく現社會を破壞して新社會を作るべしなどと詭激の論を唱へましては何かすると社會黨な

どを煽起しようといふ精神を頻りに働かして居りますので愚夫愚婦は皆自分達の勝手な事ばかりを聞ものですから一向卓一に心を傾けて居ます處へ今度の一件でございます元來同人は御當地の代言人中島博智の處へ食客を致して居て法律の片ッ隅を聞嚙つて居るものですから村民の衆望を集めるのは此に在り機失ふべからずとでも存じましたか例の貧富平均論を擔出して體よく愚民を欺き遂せ控訴まで致した儀でございますから村民は只管越山に託したら最早大丈夫なものと信じて居りますので父も是れには實に當惑して居ります、卓一は唯今も申し上ます通り輕躁過激の徒でございますから品行上には甚太しい事がございまして現在同人が無二の親友でございます栢崎の齋藤孝と申しまする大學の生徒には幾度となく恩誼を被つて居りながら剰さへ其者の金圓を持逃致せし位の者ですから此度の訴訟も心底條理を認て必勝を期した譯ではなく全く御上の御威勢に抵抗して一時虚名を博さうといふ精神に相違ございません（俊）ハヽア夫な人物カナ日本の人民には兎角其の種屬が多いので上下の權衡が保てなくツて困るぢやテ、イヤ大方夫な人物ぢやらうマア喜んで貰はう控訴院の終結でも今日全く私が方の勝利ぢや併し卽日上告屆けをしたちふからモウ一裁判せにやならんか、コレ艶、中島は奇怪な奴ぢやのウ、申理が立んから廢ると言居つて今日判決になると今度は上告代言を引受たげな己の先見は違ふまいが何ぢや驚いたか（艶）アノ控訴は御勝利に成ましたか、エヽ中島さんが越山の‥‥ヘヱー爾でございますか（俊）權一郎、貴樣の內へも直に水野から電報をかけたから剛藏も大方承知しつらう（權）ハヽア夫は何より御恐悦にござります御執行は直となさいますか（俊）到底上告しても贅ぢやから急いで執行するにも及ぶまい神田はモウ私のものぢやヤサ

ト物に動ぜぬ春川伯も歡喜に色の動き初め月の嬋娟を友として夜を杯盤に明さんと席を轉ずる父母の懐ひに反して淑女艶子は彼の中島が斯まで反對するに憎惡加はり今は恨みを散ずるに手段も盡て決鬪を挑まんものをと決心せる戀慕の闇の銃砲に口火を添ふる森村が竊かに推して激烈なる煽動をしも試みけるとぞ

第十八回　底の玉藻

佛蘭西形の石墻に鐵柱の門を設け玄關口は和風なれども門內一樹の老松を基とし二岐に分れる途ありて其の一線は西洋館の二層樓に通ふべし廐車室の排置宜しく些細なれども馬繋あり伴待所ありて來客の常に繁きを知るに足りなん家の結構裝飾とも虛美空裝を極めしならねど百事型を置るが如く結束整然として缺點なく巍々宏壯と言はんよりは寧ろ淸爽といふ方なるべく洒掃の周到せる一片の落葉だも見えざるは主人が潔癖の注意なるべし總ての構置華美ならねども亦是れ紳士が邸宅として恥ることなく見受られたり此の邸宅は那邊にして如何なる人の住居なる乎とゝなん市ケ谷佐內町の坂より濠に臨みたる山田文治が住宅なりける一家の者の居間に充たる日本室の便室より廊下を隔し西洋風の裝飾室に閉籠りて紛黛化粧を凝す處女あり身には白紗を縫綾し西洋服を美々しく纏ひ頭は最も愛を含みて瑠璃を欺く前髪に波をうたせて額に垂れ三に組たる束髪の毛頭を散して前後に亂し護謨にて製せる薔薇の花を横より前に向て插したる紅顏艶麗といふにはあらねど娉婷の性なきにしもあらず西洋化粧は不鍛錬にや頻に衣紋を改めて各種の飾りに意を籠る室の扉を突然と開きて此に來かゝながら非常に駭き慌てけん閉しもなさず出往きしが再び何を

か案じ出しけん歸り來りて會釋を施し(孝)エ、唯今は何も誠に失敬例時ながらの粗忽ですから何かマア悪からず、また今日は御招待に預りまして難有うございます、エ、モシ御新造相替らずで實に恐縮ですが唯今御玄關から案内をしようと仰しやつたのをなアに宜しい存じて居ると言て直さま飛込んだのは應接所だと思ひの外御化粧室へ踏込んだので是は如何も失敬をしたと思つた故か悉皆見當を忘れて仕舞ましたがネエ御新造應接所は何方でしたツけ、斯匆々粗々し始めちやア何處へ行つても途惑ひばかり致しますから失敬ながら鳥渡御案内を願ひます何も誠に濟みませんが(雪)オヤ貴君は柏崎の齋藤さんでは御在ませんか(孝)左樣……オヤ〳〵今まで細君だとばつかり思つて居たがエー君はドドどなたでしたツけネ(雪)アノ御見忘れでございますか妾は越山卓一の妹ゆきでございますヨ何も誠に良久(孝)エ、、お雪さん、成程〳〵左樣々々爾仰しやりやア覺がある如何も是は何も是は、實に見反申しました、何も否ませんヨ始終性急々々して居るもんですから大の粗ゝツかしやが直りませんで、眞個に思も着ない處で御面會申しました、何して此方へ、何時此方へ、何もマア能く御出京に成ました(雪)何も前々は度々御厚情に預りまして誠に難有うございますお話申せば長い事でございますが實は妾も昨年の暮妙な事で東京へ參りました處此方の旦那樣と中島のお孃さんに種々お世話に成りまして去る六月の中旬に御當家へ引取れ御新造樣も娘かなんぞの樣に言てお優しくして下さいますから夫は〳〵大安心でございます先達ても御新造樣の仰しやるには此の八月一日には改進新聞の第七改稱節に旦那も妾も招待を受て居るが女だッても交際を廣くしなくつては否ないから妾の名代に行て御覽と仰しやつて此の樣な美しい洋服や腕輪まで悉皆拵へて頂きまして讌會の場所へも初めて出て見ますシ毎日明治女學校へ通學をさせて頂きますのも皆んな此方樣の御蔭でございます(孝)ア、爾でしたか僕もマア素願通り先日全科卒業試驗を受て漸く卒業しましたが實は當夏も歸省したいとは思つたけれど試驗前で大變に氣忙しなかつたから歸省を見合はしたのでとんと國の事情も知らんであつたが一體お前さんの出京は卓一さんの事に就てといふ譯かネ。(雪)イ、エ誠にお恥かしいお話しですけれども森村の倅に拐引されまして(孝)エ、何だツて權一郎に拐引された夫りやア何も怪しからぬ、イヤ實に殘念だ、ハ、ア爾かエ、悉皆那奴に一杯欺られたかエ、忌々しい飛でもない事をしたなア(雪)貴君、權一郎にお逢でございますか(孝)逢た處か立派に一杯喰されました、何して遣らう實に何も、どう考へても馬鹿々々しく愚弄されたもんだ(雪)貴君、何か那の男に(孝)何か處ぢやアない恐れ入た次第サ、ド、何も餘程僕は馬鹿だ(雪)何いふ事を致したのでございますエ(孝)何の斯のも有りやアしません餘り馬鹿氣サ加減が解らないのでお話しにも成らない一件サ

直なる人心餘程喜怒の感情甚だしきものゝあらねば齋藤は滿腔怒りに閉塞せられて他に顧みる暇もなく唯點を裁判すべき條理を探りて側らより案じて頻りに詰問する阿雪に答ふる詞さへ口頭よりのみ發し居たり

時しも主人山田文治は客に面接せんが爲め今此の室の廊下を歩むに阿雪が親しく男に對して懇話の聲の漏れしかば心竊かに訝疑て歩みを止め所爲るやう儒教を以て徳育に制劃されたる昔へすら闕隙を裁り墻壁を踰え密會野合の醜聲は社會の上を包藏したるに今は男女同席して

互ひに親しく交らふを最も珍重せる時なれば或ひは淫奔多情の男女は德義を破り禮節を亂りて智德の未だ涵育乏しく爲めに通義を奇貨として社交を瀆すものなしとせず阿雪の如きも一年足らず見るも鬱悒臥家に在り男女膝を交へつゝ心の欲せざるばかりに契りを籠でありける者ゆゑ一朝自由の天地に出で心に欲する男に會ひなば下流の女子が醜を學びて恥辱を忘るゝことなしとも唯一概には定め難し果して然るや否ざるやは今此の二人が問答を聞ば直ちに知り得べしと心に諮ねて心に裁し扉に耳を欹て居たるが嚮に心に訝疑しは幸ひにして徒勞と化り敵客は豫て淸廉にて淡白無類の齋藤なりしに知覺の餘りに敏捷なりしを獨り肚にて失笑し戶外に在りて齋藤を呼立たれば例の如く大きに周章したる體にて阿雪に禮をも施さず卒然として出來りしを文治は頻りに微笑しつ自ら先に東道をして風入の好き應接所へ伴ひ入れつゝ座を分ち親しき中の禮儀も淡く

(文)イヤ誠にお暑い所を態々お呼立申して甚だ失敬でした別段御招待申すと云ふほどの御馳走もないンだけれど君もマア滯ほりなく卒業したから一つは夫れを祝ひ一つは又少々內談もあつたから夕景からの風を先づ饗應心で實は鳥渡葉書を上げた譯で、なアに別にお合客といふ程の人もないのサ外に二人來る人がある筈だが是も皆君の知己ばかりで少しも遠慮な人は來ないヨ、ア、(孝)夫りやア何も恐縮しました疾うから實は先生をお訪ね申さうと思つて居ましたが思つたり仕たりは出來ないと原則で不本意ながら意外の御無沙汰何うかマア惡からず(文)夫なに改まつちやア暑くツて堪るまい僕は性來の磊落であるのに夏は實に恐れる方だからモウ此の通り君もマア其の上着でも脫給へ君、君は今、化粧室で一處女と何だか頻りにスピーキングして居た樣だツたが宜しく求婚の下組ぢやアないか夫んなら爾で祕密手段は廢し給へ公然と言へば隨分僕も盡力しないものでもないヨ(孝)馬鹿な事を言ふ人だ此りやア何うも實に恐れ入つた先生は餘程邪推深い人だ、那りやア君僕の朋友の令妹だ(文)朋友の妹だツて必らず女房に出來ないといふものぢやアあるまい、夫りやア何でもないが君が既に那の女と親密の語を交へる以上は彼の兄と君との間は最早和解したらうネ(孝)何故(文)爾ぢやアないか那れ程現在の妹に親密な話しをする位だから越山君と君との間も定めて和解したらうと想像されるヨ(孝)夫りやア否ない越山は君恩不知だものを、僕は卓一に面會することを好まんから今日まで決して面接しないネ、第一僕の處へ來ようといふのがモウ爾して瞞着しようといふ精神だから僕は誓つて那の人物に逢ふのは謝絕する氣です(文)夫ぢやア何か君、君は立派な法學士でありながら片言を以て訴へを定めようといふ精神だね、エ、然もなけりやア何も其人に逢て果して心術が腐敗してるか但しは却て是が潔白であつて告訴人が何か爲にする所があつて誣告したのであるかを判定しようともせず唯自分の信用してる人が前後同じく斯々言たから全く越山は恩不知だ德義上の罪人だ法律の罪人だ那んな者には接近ない方がいゝと任意の口供も取らずに微弱な證據物件を憑んで直ちに判決を下すのは甚だしい苛刻の裁判だらうぢやアないか、君は聞けば學位を取ると直に田舍へ歸つて代言士になり十分に地方人民の權理を保護して自治權を與へようといふ目的だといふ事だが夫ならば猾吏の事那れ程地方自治に熱心して集權の弊害を怒り東京に居れば隨分何處へ向けても恥しくない腕を持て居ながら自分が卒先して地方の平均を得ようといふ精心で

困難にも驚かずに田舎へ引込んで居る越山君と結合を堅くして置かないのは萬事につけて不利益だらうと考へるヨ、殊に越山の公明正大なることは僕が何處までも保證するから實は君と越山との間を調停しようと思つて今日君を招いたのサ、マア能く熟考して見給へ此の判決は何しても君が精神にある擬律の錯誤に相違ないから

ト篤實といふ二字の他に聊か混淆するものなく齒に衣着せぬ山田文治が熱心の意を面に表はし力を極めて勸解するに固より孝も曾てより山田が淸廉潔白にて殊に義俠の心に富み文壇上の老將たり輿論の泉源たるに足る志士なることを信ずる上に我が目的なる自治論の同感なるより十分に信用したる人なるゆゑ內心少しく動き初めたる色を早くも山田は見て取り起て戸口の處に到り

(文)越山君々々々、少しく用事があるから來て吳給へ(孝)先生人が惡いなア越山君が來て居るのかエ(文)構ふものか却て君の精神が分つて互ひに腔底を叩くのに便利ぢやアないか僕は好んで仲裁人の勞を取るのだから決して雙方の不利益に成る事はしやアしないヨ(卓)先生、夫へ參りましても宜しうございますか

(文)オ、越山君、サア是へ掛給へ〳〵(卓)御免下さいまし、イヤ齋藤君其後はかけ違つて御目に懸りませんでしたが先づ君にも御壯健で何より(孝)ハイ〳〵君もマア例時健康で……(文)何となく言語にまで爾確執があつちやア困るなア、仕方がない僕が一應齋藤君の疑惑を解うヨ、齋藤君、君が越山君を道德のない人だと信じたのは彼の夾嚢の所在が不分明になつたのと越山君が歸鄕以來葉書一通送らないとの二點にあるだらう就中夾嚢の一件が根本となつて手紙の來ないのが則ち君の心に向つて越山君が盜用したに違ひないといふ確信を與へたのだらうが併し此を能く考察すべしサ、ネエ君、一體越山君の人となりは君も既に了知して居るだらう然るに君が其の精神を熟知して居るにも拘はらず一人の離間策に乘じて之れを確信したといふのは餘り輕薄な話說ぢやアあるまいか、元來書信の事は僕も實に不思議に思つて居たが全く三俣驛郵便局に疑ひかゝつたので內實是れを搜索して見ると案の定森村剛藏の手に悉皆落て仕舞たのサ此の事に就ちやア異日公然たる處置を施す積りだが夫れよりか此の大疑團の原則たる夾嚢の事件を仔細に吟味して見ると其の罪の第一はお氣の毒だが齋藤君、君に推さなくツちやア、成ないネエ、何故と言ひ給へ君の性來が如何粗忽だとはいへ夫れを置忘れさへしなければ畢竟此んな疑問も起りやアしないのだらう併し斯言ちまつては餘り酷に渉るから第二の罪犯を首として糾問して見るに是も越山君の罪ではなく全く君が無二の信友離間者其の人の罪で現在其の人物は君が信用して居たにも拘はらず法科大學を放逐せられて中島君の處へ書生に住込んだが此處でも不正の所爲があつて過日遂に放逐サ(卓)齋藤さん、君に向つて僕から辯解するのも可笑な譯ですが僕は全く彼の先生に屆けたに違ひは有ません彼の先生は何故か僕を恨んでると見えて現に君と僕とを離間したにも飽足らず僕を中島先生に會せるのをも妬んで先生も阿今さんも靜岡へ入ツしやつたと言て一時交通の道を斷たのでも大概其の心術は分りませう僕は御承知の通り貧窮はして居るが大變自己の名譽といふものを重んじて居るから天地に誓つて德義を破るやうな事はしない精神です俯仰天地に愧ず瀟洒洗ふが如しと云ふ行爲を保つて居る積りですから決して自ら惡名を買ふことは致しません退いて考へて見ると全く

彼の先生が放蕩であつた履歴に就て見れば若しや一時の融通に私借したのではあるまいかと思はれるが求めて人の非を訐くでもないから此の點は宜しく君の判斷に任せませうト顰めし眉を少しく開きて微笑を帶つゝ演述する吐音朗々澱みなければ齋藤も亦再應再四の辯解といひ殊に其の證據の至つては微弱なりしと告知者が身の方正ならぬと阿今が再度の辯護とを彼此思ひ比ぶるに斯く人身の毀譽に係れる一大事件を輕信せし我が精神のうたてくして白く艶ある顏色の俄かに赤く成ゆきて額に出る冷汗をハンカチーフに拭ひも敢ず瞳を膝に注ぎしまゝ

(孝)何も自分ながら僕には愛想が盡ツちまふ、了解したヨ、分つたヨ、悉皆滿腔の疑團が氷解しました、其の罪僕にあり〳〵決して人を疑ひもしなければ又恨みもしない到底僕の精神が惑つたからの事だと始めて此に悔悟し．たヨ、就ては今慚悔をしなくツちやア成らない事があるマア聞て呉給へ實は森村權一郎に會た節君の事から訴訟の成立を語つたのサ、處が彼奴のいふにやア私も其の事で至急春川伯に面謁を願ひたいと思つて來たのだが不案内の田舍漢は仕樣のないもので東京へ着た晩にポン引に欺かれて此の通りの體裁に成つたと、哀れッぽい談話をするから僕も氣の毒だと思つて少々金を貸て遣たが先刻お雪さんに逢て聞て見りやア全く僞りださうです、是も畢竟君と相結託すべき身が呉越の思ひをして居た失策で今更非常に後悔して居るのサ(文)其いつア悪い事をしたなア併しマア宜いワ時に爾和解さへすれば僕は甚だ滿足だから何にもないが仲直りに一杯遣給へ(卓)夫は何も種々御配慮を(孝)エヽッ先生過日お話しのあつた同志園遊會は愈々準備が整つたかエ(文)オ、爾だ丁度いゝや、其節は君歐洲流でお雪さんを同伴して行給はんか越山君も阿今さんを同伴する積りに成てるから(孝)エ、何だか極りが悪いネエ(文)なアに構ふものか

君子の交り水の如く其の淡きこと斯の如し人あり若しも竊見せんには果して何と評すべきか

第十九回　こぼれ萩

喝采の聲忍ケ岡の杜の木の葉を飛すが如く、拍手の音不忍の池の汀を決すに似て精養軒の庭園に響き渡るは曾てより各新聞紙に廣告ありし公同園遊會に於て今しも辯士が適切なる演說をなし了りたる最後の拍手喝采なるべし時十月の下旬にして秋色全く山野を彩り金風未だ猛烈ならねば落葉霜に朽んとせず紅葉しても黄ばみたる儘叢に交りて興を送りぬ孤雲獨鳥斷腸を促せど荷葉廢れず清韻を呈せり東籬に菊あり南苑に芙蓉あり西岸北丘錦を織る千種の花は色鮮にして蓓蕾厚く深き所に候蟲の聲蕭瑟たり眺望に富む精養軒の堂裡前栽隈なきまでに參會したる紳士淑女は今演說の果たるに一齊國歌を朗詠して各自に席を離れつゝ知るも知らぬも刺を通じ握手を施し慇懃に知懇を求めてありける此一團の紳士淑女は何等の點より斯く速に集合したりと尋るに各自の最も渇望する地方自治といへる心の口入人たりしに過ず會主と覺しき二三の紳士自己の夫人と倡倶に晩餐に意を用ふる如く仕童に命じて園中に多くの卓を排置せしめ花を飾り菓子を盛り各種の酒を瓶に湛へて皿を適宜の處に置き此の多勢なる會衆を一先づ卓の前に起しめ羹汁の皿と食匙とを一人毎に渡せしのち「ナフキン」の裡に麪包を包みて小刀と肉刺とを取揃へ盞と共に以前の如く一人一人に配布なしさて鹽梅せる羹汁を配るに手順整ひ注意盡して最も客を感動せしむ次には巨大の器に盛たるビーフ、テーキにキャベツ

捲、フライ魚に鳥のコロッケ及びサラダに充るが爲め牛肉ロースと亞米利加チサとを堆かきまで盛上たる盤を適宜に排置し終れば此の時會員一同に羹汁を食し終りし折とて直ちに好める食物を已れが皿に取入るゝに此際非常の混雜あるは總て普通の立食に免かれ難き所なれど會衆孰れも慇懃にて各々夫人淑女の爲に先づ食物を取入れしかば整然として混雜せず菓子菓物をポッケットに收めて孰れも座を撰み酒食の間に談笑しつゝ日の傾くをも知らざりしは最も愉快の盛讌なりし山田文治と中島とは今日會主の一人なるゆゑ直に伴ひ難ければ齋藤孝と越山とは阿今と阿雪を誘ひ適宜に取たる皿を携へ山の半を下り往きて池に臨める四阿に人のなきこそ幸ひなれとて四人齊しく此に會しつ羨ましきまで睦じく

(孝)越山君、君の今のスピーチは非常に能く出來たヨ中島君の評には國會の演説として聞くべき價値がある英國の新議員が敕旨に奉答する時の演説なんざア到底是れ程の價値はないと言て居たが實に力があつて穩當で殊に品格の正しかつたのにやア敬服した「此の有力なる中央政府の都下に土着する者百萬有奇とは決して之れが繁華を表するに足る丈けの人口とは申されません面積の廣大なる四方里に達せるは世界果して幾ケ所か有りませう實に世界第三に位する都府ではありませんか試に一方里五十萬人を以て適度とすれば此の東京には二百萬の人口を持なくては成ますまい然るに僅々百萬有奇而も貧民無産業者を除かば纔に四十萬口に過ざるに諸君果して如何なる原因の依て來る所と想像せられますか」と疑問を設けて置て直に「都會殊に中央首府は一國の冷熱を知るの寒暖計である如何温度を裝飾して上騰せしめませうとも元々時候の冷かなるものなれば須臾にして水銀は本位に復し其の寒狀を示すや當然なり諸君は佛帝拿破翁がボナパート家の威福を永續せんが爲に全國良民の血を以て巴里全都を染たる事を記憶せられませう拿破翁の目的たる學者紳士の地方に在るを忌み何か喧しき小理窟を言ふものを田舍に置ないやうにして中央都府に集めて仕舞ば最早我が一世の事業は成就するであらうと思ひ民力を勞らして此の大土木を興したもので有ますが巴里全都の裝飾は全く佛國疲弊の商標と化し去りしを如何せん我が賢明なる内閣大臣は民情を採るに鋭意熱心なる方々でありますれば我が輩は必ず中央都府の人口繁殖せず商業の萎靡衰退せるを見て地方自治の今日に忽諸ならぬことを察せられるであらうと信じて居ります然れば名譽あり知識あり資力ある紳士の幽谷を出で喬木に遷ることをのみ計られず宜しく都會に於て得たる知識を蠢愚憐むべき吾々の父母の州に齎らして親愛なる故人を進め中央首府と其の權衡を均うして國本を培養するに盡力せられたであらうならば彼の寒暖計も眞正の温度を進めて日本帝國の富强なる商標を掲ぐるに至りませう越鳥は南枝に巢をくひ胡馬は北風に嘶く鳥獸ですら瞬時も故郷を懷ふの情は歇みませんに焉ぞ鳥獸に恥るなき人の多きや」と說進んで行た時は思はずヒヤ〳〵と叫んだョ、如何も實に何とも言へない愉快であつた、ア、愉快々々々々

ト我が精神に適合せるまゝ頻りに之れを賛賞する齋藤孝が友愛なる言語を側へに聽居たる阿今は意中の良人が其の貧困にも拘はらず卓犖の見更に渝らず斯く名譽ある集合に斯く價値ある演說をなしたる事の喜ばしく足らぬながら我が得たる知識を叩いて此の人に貞操節義を盡さんと誓へる心は一層より又一層を進めたり阿雪も兄が艱難にも挫けず撓まず自治主義を貫徹す

るに嬉しくて之れを稱へし齋藤の詞に黄金の色を研たる思ひをなせば贊成者の富贍の才の懐しく慈愛の厚き此の人に心を籠て事へなば兄の伎倆も益々れ父母も心を安んずべしと其の目的は異れども敬愛の意の厚きこと同一線に注ぐなるべし卓一はまた齋藤が贊賞の語の甚だしきに阿今の笑ひを招かんかと最むくつけき顔色に笑ひを含みて圓なる鋭き眼を半閉ぢ

（卓）久しく公會の演説をしなかつたから實は一生懸命に述たけれど席上の規律が儼然として居たので何も悉皆場臆れがして呑れッちまつたからモウ何を言たンだか眼も昏めば精神も錯亂して順序も論點も支離滅裂に成たけれど所謂騎虎の勢ひで中から下る譯にも往ず何やら斯やら乘着てしまつたのサ、君も何か述りやア宜つたに（孝）僕か、僕は裁判上の自治と罪囚の自由を論じようと思つたが何かすると成法誹毀に渉る嫌ひがあつたから廢ッちまつたが何して君の演説のやうに論理を正しくして實例を統計學から引出して來て自治は獨立の基である事交通の自由所有の權利に論及して自治は天理であるといふ段まで仔細に論辯する事は中々出來やアしないヨ、中島君が瑞西國の實況を説て其の人民が自己の地方あることを知て瑞西國あることを知らない樣に成ても餘り僻し過て困るといふ議論は一寸頂門の一鍼で面白かつたが瑞西國の政體が斯も美事であつて蕞爾たる山間の一小國でありながら歐洲平和の中心となつた原因をも少し詳しく論じて貰ひたかつたネエ、右も左之れが懸賞演説であつたなら君は第一の賞金を得るに違ひないヨアヽ爾ですネエ阿今さん（今）何も譯りませんけれど何だか大層皆さんが感じ入つてお出に成ました樣でした

（雪）兄の演説よりやア齋藤さんのお褒なさり方が餘程大出來の樣でございますワ（孝）此りやアい驚いたお雪さんもモウ隅へは置ませんナ（雪）イヽエ眞個ですヨ正直のお説しはネ今日の演説はモウ外日からか考へて居たンでございますアノー齋藤さん貴君が兄と始めて御面會に成ました時ネエ、日が蔭つてから妾が兄と一緒にお庭を散歩致しましたらう、那の時倩々番町の方を見て居まして向うに見える三階造は何だと申しますから那れが春川さんの御邸だと申しましたのよヨ、底で何かまた考へて居りますから妾の了簡では控訴院の裁判も敗訴とやらに成ましたのでお邸を見ても腹が立ンだらうと存じましたらネ全く爾ぢやアございませんで今日に成て見ると皆な演説の下組でございました（今）爾でございませう何して（孝）成程々々實に妙だ

此の噂にて携へたる酒も概ね盡たる頃山の上より中島博智頭に白毛の假髪を頂きフロックコートを正しく着せし上には錦の「ガテン」（羅馬古代の法衣にして法官狀師等の正式に着する物）を纏ひ左りの胸には龍動の法學院にて受領せる名譽の輝く金牌を掲げ徳望翻き形装ながらに手に一瓶のシャンパン酒を持ち皿に溢るゝ七面鳥のガランデ燒を小脇に抱へて靄然とせる容貌に笑ひを含みて下り來つ此の四阿の天然臺に酒肉に置いて空榻に憑り

（博）諸君は大層いゝ處を發見したな吾輩もお仲間入をさせて貰はう其の代りシャンパンとガランデを上納しよう（孝）今日は會主で定をしお骨が折れよう（卓）貴婦人が交る宴會は何しても洋行をなすつた方でないと失敬な事が有て否ますまい（博）併し英國の樣に敬意を表さなくツても宜から別段氣骨も折ないのサ（雪）英國では夫なに女の勢ひが強うございますか（博）女尊男卑といふのは米國の風だけれど英國では女の徳を高くしようといふ精神で中等以上の婦人は公園の散歩とか已を得ない

用向とかでなゝッては餘り外出をしない事に成て居て市中を素見て歩いたり茶屋小屋へ這入たりする者は殆どないと言つていゝ位な氣風サ夫かと言て歐洲一般に此の風俗があるかと言ば佛蘭西の婦人は夕方公園へ往くのを日課に加へて居る位だシ白耳義のブリュセーム府邊では珈琲鋪といつて其實酒も賣れば料理もする鋪へ婦人連で押込で硝破戸の裏から往來を見ながら愧る景色もなく酒食してゐるのを見かけたが龍動に居た目で見ると餘程野卑に見えたから大方是は下等の婦人だらうと思つて聞て見たら是が上流婦人の風習ださうだ、マア何方かと言ば英國の風を學んだ方が宜さゝうだネエ、オヽ餘計な事を饒舌て居て肝腎な事を忘れて居た諸君聞て呉給へ吾輩は淑女から決鬪狀を附られたヨ（孝）何ですと エ淑女から決鬪狀を附けたッて（雪）オヤマア夫な強い女が日本にもございますのネエ（今）お兄イさん氣遣ひな事はございませんか（博）なアに大丈夫だから決して案じないがいい（卓）先生、其の婦人は何でございます佛蘭西臭氣のある女でなけりやア夫んな狂氣じみた事は言ますまい（今）大概モウ其の人は了解て居りますヨ艶子さんでございませう（孝）エ

ニ那の何時だッけエー、ア、中洲の遊園で面會した春川の淫奔娘ですか那の反ッ返りぢやア隨分決鬪位な事は言出し難まいヨ（卓）中々輕々しく論じ去る問題では有りません艶子とかいふ處女には慥か一度面會した事がございましたが洋行をした丈けに中々活潑な氣象があつて餘程獨逸政略に熱心なやうに思はれました（今）何にしろ内閣大臣の御娘さんですから政治上の事も能く種々と御存じでございますが實の處をお話し申しますと斯いふ譯でございますヨ、平素は何でも物事は手の屆くだけ干渉して十分に世話をするものがないと總て放恣に流れ易く折角の事業も秩序が整はないで皆な廢絶て仕舞ものだから干渉政略でなければ文明も進まないし國を富ますことも出來ねば軍備を擴張して國威を輝かす事なんぞは猶更出來るものぢやアないと仰しやつてでしたが何いふ譯だか御普請が落成つた時後招待を受まして兄と一緒に上つた節には男女の間に立入て親が干渉するのは恐く夫婦の天緣を害ねて子孫にまで其の卑屈精神が遺傳するものだから何でも自由結婚でなくッては人種の改良も六かしい妾は先じて自由結婚の模範になる積りだと仰しやいまして訝う妾の

氣を取るやうな風が見えました處全く兄に氣があつて（博）およしヨ後で解ることだアネ（孝）オッと言論の自由を破るまい〳〵、ナ、成ほど夫れから（今）那んなに申しますけれども兄も其實彼の方のお美しいのに瞞着せられて一時は精神に許して居たンでございますヨ、其後も兄が參らんからと言て宅へお尋ね下さいました節竊とヒュゴーの戀詩を遺して入しッたものですから手段が面白くございませんので兄に遠廻しに意見をしましたヨ、ですけれども内心の愛情が十分盛んなものですから妾が爲を思つて言た事も惡く人の精神を干渉するとか何とか言て大層腹を立て居ましたが側で支へるものが有る程敢爲の勇氣を增すものと見えまして常に艶子さんの事が心に絶ませんけれども急がしいので先樣に滿足を與へる事が出來ませず自分も氣を散じることがないやうに見受けましたが訴訟の鑑定を賴まれた時に彼の方の仰しやるには今日の御鑑定一つで天緣が定まるのですから何か其お積りでとの事を伺ひまして兄も實は先樣の引力に程餘引寄せられて居たに違ひ有ませんが（博）餘計な事を言なくッても宜しい、モウ僕が自白すらア、夫りやア正直な處は


（原本插畫）

知識も進んで居り新道德に育られて居るから生涯の苦樂を頒つても苦しくあるまいと信じて居たのサ、然るに今の一詭で到底勝訴の目的も就ず殊には越山君を敵手にするのは甚だ好ましくもなし第一若し僕が代言に成て勝て見ると取も直さず集權家の砲彈となつて分權家の本營を破壞するやうなものだから固より僕の好んで爲ざる所サ、夫ゆゑ斷然たる答書を送つたから艶子の目的は全く相違して如何も忿懣に堪ないのが發して此の慘劇を演じようといふまでに及んだのだらう何も其の外に怨みを受る覺はない（卓）私故に夫な事が有ましては誠に當惑致しますが（孝）夫りや、ア入らざる心配だから廢給へ先生、先生は何する積りかヂスレーリに於るオーロンネールを氣取る精神かエ（博）なアに應不應の答へはしなくツても又臨機の處置があるサ

如此談話に日も昏れて月なき空に星辰の光は小珠を散すに似て東叡山頭白露滿ち小西湖邊萬蟲鳴く時刻を計りて來りけん肥馬に鞭ち輕車を驅りて袴腰まで走させつ此處より車を下る男女の風俗如何と觀察するに婦人は黑く折立たるボンネットを頭に戴き栗色緞子に横ヒダを茂く取りたる背割の服着て黑地に藍を織交たる衿飾りを簡略に結び留針とても用ゐぬは光を避る爲なるべし然れども面の白くして天の生せる麗質のみは夜目にも覆ふこと能はず男も美男の相に見ゆれど服粧いたく劣りしは淑女が侶伴にあらずして全く從者と見受られたり

（艶）暗くツて能くは分らないが向うの方から大分歸る人があるやうだから能く氣をつけて呉なヨ（權）大丈夫でございます中島の風俗は晝間のうちに悉皆見て置ましたから人違ひなんざア決して致しません併し過日から申し上ます通り最早此場に迨んで未練なぞをお出しなすツちやア否ませんぞ（艶）宜しいヨ妾に違約した計かりか御父樣へ抵抗人だものを一生懸命だアネ（權）度々申し上ましたから御存じでもございませうが實に彼の男は社會を惑亂する人物ですから茲で威力を示し損なふと何な事に成るかも知れません宜しうございますか（艶）靜かにしてお出、「ガヲン」を掛て來たのが爾だらう（權）ヘイア、那でございます

ト囁き示す間もなく心に思ふよしありてか狀師中島博智は妹阿今を伴ひて唯二人のみ一歩後れつ車にとても乘ずして稍山内を出外るゝ折前途を遮る男女二人

（權）少焉御控へ下さいまし（艶）艶子でございます御約束の通り決闘の御用意を願ひます

と言ふ詞さへ畢らぬに曳固めたる拳銃の引金落て轟然と一發放ちし彈丸は腕の戰ふに高く反れ空しく松樹の小枝を折らせて唯徒らに怨みなき宿鴉の眠りを駭かしたり

第二十回　還樂城

鹿鳴を以て館に號く既に樽俎を設けて遊飲歡

食の場たるを知るべし千里の萬客を一堂に會して款みを通じ交りを結ぶは文明世界の一美事にして擴張すべき事業なれば此の會堂の設けあるは日本社交の風采を示すに亦必要のものといふべし園外千歩紅青を織り墻内千歩紫黄を綾る呦鹿白鳥人を友とし燕雀鴻鵬嘴喙を交ふ巍然たる樓閣白亞光りを放ち邃爾たる樹亭蘿壁翠深し殊に頃日は名譽ある貴婦人令孃の會衆を募りて共立病院養育院福田會育兒院等無告の窮民を救濟すべき諸院へ義捐せんが爲めに化粧を減じて原材を贖ひ修家育兒の餘暇を偸みて玉腕を勞し織手を瘦しめ製作したる物品を鬻がん爲に開きたる婦人慈善會の開會中とて日章の國旗軟風に飜めき綠葉彩花匂ひ芳しく嬋娟たる婦人窈窕たる淑女青襟を誇り錦裳を襲ねて靚を鬪はし綺を競ひ儼然犯すべからざる風致のうちに笑ひを賣り媚を衒ひて紳士を待つ休憩所より賣店に入り降つて茶店の設けあり富有の紳士は此に至りて價を論ぜず金を散して仁惠慈愛を剳くるを榮譽と爲せるは東西とも其の情濃なることあらずや務めて慈善會に車を趨れば鹿鳴館の繁昌は形容すべき詞もあらず富貴國色を發して萬蝶恣に聚まる香風十里に芬々として貨を一館の裡に拋つ有髯男子の群に加はり狀師中島博智に妹阿今の會員となり茶店を設けて人を待より一回多少の金錢を棄んと約束したりければ歸縣の日限切迫せる學士齋藤孝を伴ひ歩みを爰に運びたり

(博)齋藤さん君も先づ目的を達して法學士になつたからモウ言ふ處はないが君の性質が至つて輕卒だから何かすると事を過つ事がないとも言れないが外の事と違つて代言士といふ者は自分の一擧一動が人の權理義務に大關係を及ぼすものだから能々謹しんで性來の粗忽者を改良しなくッては否ないョ夫れに田舍へ行つたら餘程君の身體が人民との關係を厚うするから第一信用を害さないやうに能く着實に沈靜して溫厚に事を取らんと困ることが出來するぜ是れは僕が第一に君への餞別だ(孝)イヤ何も難有に先生の御厚意は何か空しくしない積りで何事も十分に落着て事を取る精神だが何か此の後も忌憚なく御忠告を願ひます、夫れは爾うと彼の激烈なる諍鬪の結果は何うなつたネ(博)那れか實に馬鹿な話しサ人の毀譽に渉ることだから大きな聲では言ないことだが祕密主義は妙に甘い關係を持つたものでマア聞給へ彼がスプリング、リヴアー(春川の英語)の娘でなけりやア必ず謀殺未遂になつたに相違あるまいが教唆者も共に無事息災サ、元來合意を得ない諍鬪を挑んだといふものは一つは彼の處女が遺恨から起つたのだけれど一には又上告事件にも大關係があつて森村權一郎といふ奴が父の代理者だと僞つて亞細亞的比馬克(是も春川を指す)に阿諛んだ折から彼女が僕の越山を助ける事を聞て恨み日頃に百倍して居るのを奸智に長た丈に逸くも推測して頻りと煽動したのだとサ、馬鹿な話しぢやアないか僕が越山の代言となりさへしなけりやア此の上告も必らず勝と見込だ處が爾いふ次第だから彼の一發の彈丸には種々無量の意味が含蓄して居たのが空しく反て歸する所を知らずとは先方の恨みも其の歸する所を知らずだらうヨ、併し署での申し立には艷子は發狂した譯で森村は全く看護を怠つた不注意から斯いふ次第に及んだといふ事に出來上り表面は先づ是で落着したといふものサ(孝)奇怪々々實に奇怪だ、夫ぢやア固より彼女の戀慕も全く廢絶して君は意中の羈束を脱却したといふものだネ、エ、爾だらう、時に彼女も此の會衆の一人であるから今日は此へ出店してるだらう、ナニ、亞細亞的比馬克も來て居るとエ、

其奴ア訝しい、夫は爾と今日は慥か宣告がある筈ぢやアないか何したエ大審院は（博）越山を出頭させて置たから宣告次第に此の茶店まで來る約束で入場劵も遣て置たから今に否やは知れるだらう（孝）何だナ甘く行たか知らん眞個に此んな事が例になると地方といふものは恰で日本の愛蘭國に成ちまふが串戯ぢやアない惡い例程行はれ易いものはないから若し間違つた日にやア益々集權の資本を拵へて遣るやうなものだ（博）なアに大丈夫だよ被上告者にもつと混入た辯論があるかと思つたら實に薄弱極る論點を後生大事に保護してゐるのだから十分に破り盡して置たのサ、だから僕はモウ必勝を期して居るのだ、君決して案じなくつても宜しい

ト我が信じたる所を述べて答へをすれど齋藤は心中如何なる問題の俄かに湧出したるにや點頭もせず聽もせず放心したるものゝ如く花園を觀ては何をか考へ樓閣を望んではまた考へ群集の紳士貴婦人を諦視しては思考しつ遂には其の儘歩を止め踵を揃へて直立なし洪歎するのみ少焉は瞳も旋轉せずなりぬ

（博）齋藤さん君は何を夫なに考へて居るンだ

（孝）ナニ何でもありません（博）訝しいぢやアないか突然考へ込んで頻りに溜息ばつかり吻て居るから僕にやア判然譯が分らない、エ、何したンだ爾言たまへ（孝）別段是といふ廉もないンだけれど妙な事はフツと神經に感じたのサ相變らずで珍しい事もないけれど此の慈善會の性質から鹿鳴館の繁昌な處を見るにつけて思ひ出すのは越山君の精神サ、那れ程分權主義を固執して動かない人だから若し此の盛況を見せたならば果して何樣な感覺を起すだらう、私の心に之れを問うて見れば越山君の精神には非常の感動を與へるだらうと思量するネエ中央集權の首府とは言ながら不景氣不景氣といふ中から斯して先づ慈善會などを企てる人があつて千金の客を待つはいゝが若も之れが眞正に不景氣で人心が沈淪して居る時であつたならば僕は必ず此の慈愛なる企ても畫餠に屬するだらうと考へる、固より地方の景氣が直つて殖産興業も熾んになり一體が潤澤になつた曉明に東京の繁昌するのは至當の話しだが、今は看給へ、地方では豐年だらうが滿作だらうが夫な事にやア頓着なく一體に萎靡枯凋して居て往處として飢餓凍餒の歎聲を聞ざるはないのに此の影響が爰ぞといつて嚴しく東京に及ぼして來ないのには何か原因がなくツては濟まい、歸する所が國民の最大多數即ち地方人民が夙に星を戴いて出で夜に月を踏で歸り雨雪を冒して風旱を凌いで席更に温かならず煙笠綠蓑乾くに遑あらぬといふ艱難辛苦を以て最少數なる東京を肥すからであるだらうと考へる三千六百萬の人民が力を協せて三十六分の一なる府下一百萬の同胞を養育して遣るから全く東京の盛衰が地方と相伴はない原因に相違ない、マア物を積つて見給へ、年々一たび東京へ輸入する歳入は平均七千五百萬圓で是が皆な平等に租税を納める者としても一人頭に一圓七十二錢餘だから首府の者は纔に百七十二萬圓しか負擔しないだらう、然るに其の金の重もなるものが何かといふに内國税六千四百八十萬圓の内四千三百二十萬圓といふものは地租ぢやアないか面積から言つた日にやア東京は誠に狹い處だからマア雜と積もつて百分の，以下に位して居るに違ひないが其の代りに他の國税を納めるものが多いから是は平均を得て居るものとして其の七千五百萬圓の内直接に割戻して貰ふ地方廳の定額金が警視廳北海道を加へて六百八十五萬圓だから實際中央政府へ納めるのは六千八百十

五萬圓即ち百分の九餘りを取つて後とを中央政費へ納めるといふ形ちサネエ、斯いつた處が僕は政府が多いといふのぢやアないヨ集權政府だに依つて此の金を使用する場所は多く東京だもんだからいきほひ夫丈けの潤霑を得る道理だらう、若しも之れが自治政度であつたならば其地方々々へ散じて同じ金を集めるにしても人氣も違へば譯も違つて直接に此の經濟から生ずる利益を享るといつたものださ底で僕は越山君がまた第二の感覺を起すだらうと考へるのは外でもないが東京は成程繁華だ、繁華には違ひないけれども其割に事業が興ない、事業が起らないから商勢の活機がない、是は抑も何いふ譯だらうといふに唯六千八百十五萬圓の幾分かが繁華を助けて吳るので實際政費が少くッて政府でも十分手を廣けて吳る事が出來ないから地方に至つては殖産興業の道が立ないに依て東京へ送り込で事業を振起させる原質が乏しいのである、併しながら何でも六千八百十五萬圓の中心だけに學生だの事業家だのといふ至つて平均を得るに大切な業を賣たり知識を活たりする者が悉く集まつて仕舞地方には無能無力の者ばつかり殘るから猶更權衡を失して來たので貧民ですら首府の者は病院を建て貰つたり育兒院だの養育院だのといふ者があつて其の資本を輔けるが爲には婦人が斯やつて慈善會を開くのだがさて是が妙なもので貴顯紳士が此へ集まつて居るから一體の不景氣にも拘らず此會へ金を棄る人もあるンだらう、マアサ是は至極いゝ事だが此の貴婦人の目に若し地方といふ二字があつたなら何か男子を獎勵する法がありはしまいか、到底處が一にも東京二にも東京々々々々で東京以外に日本なしといふ一般の人氣を些と地方といふ廣大な金穴に轉じて貰ひたいものサネエ、實に越山が過日演た演說を聽て忽ち此の感情を惹起して來たのです（博）君のやうに衛理窟ばッかり言ちやア困るヨ、マア兎も角も賣店へ行て美人の顏でも見て不平心を和げ給へ

（孝）ハヽヽ、ア、何も理窟ッぽくて困るぢやア

（博）ウム行て見よう

此に始めて兩人は足を轉じて館内に入り先づ號を追て賣店を見るに數年前には大いに增りて婦人の動作熟練なし嬌態あれども卑猥ならず婦德の進步を示せしかば博智は先づ已を得ぬ知人の許にて四五點の品を贖ふに齋藤のみは貴族の夫人の物品を買ふを厭ひて故らに服裝質素の夫人を撰み金を棄るも最をかし時に多くの夫人に圍まれ此方に薔薇を進むれば彼方に毛絲の靴下を進め右に牡丹の花を出せば左に小兒の頭巾を捧げ金囊口を閉るに暇なく手に其の品を受る暇なく莞爾としたる容貌中に當惑の色顯はれたるを兩人誰かと之れを觀れば伯爵春川俊胤なり中島故と知らざる如く齋藤孝を促して足に速度を加へつゝ此の一區域を立去て各賣店を縱覽なし最後に金を抛たんと望みを懸て來りける茶店に下り來りけり兒の姿を見るよりも阿今は椅子を離れ出で最と慇懃に會釋を施し

（今）お兄イさん大層お早うございました、オヤ齋藤さん入ッしやいまし珈琲を上りますか御茶に致しませうか西洋菓子でもカステーラでも外の御客樣と違ひますから何なりともお好なものをお望み遊せ其の代り御茶代は澤山戴きますから（孝）如何も何も實に何も是りやア何も……（今）何でございますネエ何も盡しぢやア譯りませんヨ（孝）恐れ入た固より何も

（博）マアいゝかしら排給へ（孝）感心々々お茶の出しッ振から御菓子の出し方女禮式で行く茶店の姉さんだから御茶代の高いのも無理はない唯モウ何も無闇と恐れ入た、エーッとお今さんスヽプリングリヴアーは何處の茶店

で……

ト例の調子で尋ぬるに阿今は艶子の先刻より此方を頻りに眄り居る故聞えやせんと心を配り目を以て注意を促せど無聲の詞は齋藤の心裏の鼓膜を動かさゞる乎益々詰問の急なるに阿今も今は堪り得ず玉手を持て齋藤の視線を彼方に導けば艶子も今まで一心に恨みを籠て中島の唯一點に注射せる瞳を轉じて齋藤に遷せし時とて雙方とも一時に顔を反對の點に正しく音もせず脳裏に無量の意味を蓄へ知らざるものゝ如く爲したる形狀郊外秋盡き……陣の金風芒野を蹂躙して分倒したる趣きあり春川伯は辛くして其の身を脱れ得たりしか登下始めて茶店に來り艶子が設けの椅子に凭りて髭の邊りを掻撫つゝ

(俊)今日は酷い日に逢うた誰も彼も己を見ると無理に品物を持て來て押付居るから一つ買始めるとサア大變ぢや往先々々でも通さんから到頭平等に權利を與へて來たぢやテ實は一纏めにして夫人の處と其方の處へ置うと思うたが闔中央へ集て仕舞ふ事は出來んものかイ(艶)夫りやマア御殘念でございましたらう妾も今日は腹が立て／＼仕やうがないンで御在ますヨ、アレ御覧遊せ外の茶店へは那んなに御客がございますけれども妾の處へは少しも參る人は御在ませんから外樣の御助手ばかり致して居ますワ(俊)構ふ事はない強迫して賣付るがよい夫はさうと未だ權一郎は來んか慥かぢやあるが判決書を見んうちは氣が休まらぬテ

此の問答を聞取て孝は何か喜悦の色を徐に面に表はしたるが判決といふ一言に阿今は越山卓一が今日を最後の落着の如何爲るかと案じ出し最も聲を低くして

(今)お兄イさん大審院の模樣はお分りに成ましたか(博)實は此へ來る筈だから少々休息をして待合して居るのサ(今)何か都合よく參れば宜ございますがネエ(孝)地方の權理を殺ぐべき悪例を出すか細民の土地所有權理を正當に保護するかとの境だから豈夫杜撰な裁判をしやアしないこと言つゝ俄に高聲にて(孝)來た來た、オイ君此だ／＼、オイ越山君此所だよ此所だよ來た／＼

ト雀躍なすに衆人は何事なるかと目を屬す中にも艶子と春川伯とは心漸く動き初め彼方の擧動に注意する處へ越山が挨拶さへも爲さゞるに遑くも孝はポッケットの判決狀を取出して眼鏡を手早く掛る間に博智も亦側に來り

(博)ドレ／＼……上告原告曰ク正當ニ賣買ノ契約ヲ爲ザルニ先チ戸長ニ於テ地券ノ書替ヲナシ且其ノ地所ニ向ツテ側量標ヲ施シタルハ不當ノ所置ニシテ之レヲ稱シテ賣買ノ實アルモノト云フベカラズ原裁判及ビ控訴院ハ鮭川保存費トシテ原告ノ起シタル村債ノ別證ニ字神田ヲ抵當トス云々ノ明文アル以上ハ賣買ト云ンヨリ寧ロ流質地ト云フベキモノナリ被告ガ其地券書替ヲ促シ且測量標ヲ施コシタルハ決シテ不當ノ所爲ニ非ズト判定シタルハ錯誤モ亦タ甚ダシト云フ可シ抑モ該地所タル一村聯合ノ共有地ニアラズ各其地主ヲ異ニスルヲ以テ共同鮭川ノ類ト同一視スベキ者ニ非ズ況ンヤ別證ニ捺印セザルハ委任ナキ惣代兩三名ニ〆神田所有主一同ノ果シテ之ヲ承認セルヤ否ヤヲ識別スル能ハザル者ニ於テヲヤ是卽チ上告ヲ爲シ原裁判ノ全部ヲ破毀シ更ニ適正ノ判定アランコトヲ希望スル要點ナリ」(孝)ヒヤヒヤ、被告の言柄は(博)鮭川貸金ノ性質タル單ニ鮭漁保續ノ爲ノミニ非ズ同川ノ一岸低〆時ニ神田ニ灌漑スルノ憂アルヲ以テ堤防ヲ修築〆一方ニ漲溢ヲ防ギ潭ヲ多ク〆一方ニ漁業ニ便ナラシム名ハ鮭川保存ニアリト雖モ實ハ神田ト相聯關スルモノナリ故ニ別證ヲ徵〆本證ニ相應セシメタ



（畫插本京）

ルニ付原告ニ於テ該質地ノ讓與ヲ拒ム權理ナシ且神田ハ公共ノ合有ニ非ズト雖ドモ元來一村ノ力ヲ協セテ之ヲ開キタル田地ニシテ當初ハ實ニ平等均一ニ之ヲ割有シタルモ貧富差ヲ生ズルト共ニ其ノ廣狹ヲ來シテ遂ニ今日ノ狀態ニ及ベルモノナレバ事實上全ク公同タルヿ鮭川ト一般ナリ左レバ原裁判ハ至當ト云フベシ」(孝)チョイと〳〵判決の處を僕に讀し給へ、ナニ○○○○、黙讀シ「凡ソ契約ナルモノハ其契約者雙方合意ニ成立シニ非レバ無效ナルベキハ固ヨリ論スベカラザルノ法理ナリ然ルニ本件審理ヲ遂ル所上告者ニ於テ被上告者ト約セシ所ノ主旨タル只鮭川保存費返償ノ目的ヲ確實ナラシメン爲ノミト信ジ差入タル傍證ハ全ク其意ニ反シタル神田ノ地ヲ讓渡スヤ否ヤノ疑問ヲ惹起スベキ意味ヲ合有シタルノ文字アリトハ后日ニ於テ之ヲ知リタルモノニシテ事實ノ順序證據ノ照應ニ於テ傍證ト事實トヲ相違セルヿ判然タリ凡ソ證書ハ事實ヲ寫シ出スベキモノニシテ事實ニ勝ヿ能ハザルモノトス既ニ本件ニ於テ極メテ必要トスル所ノ神田御買取云々ノ傍證ハ契約者ノ一方タル上告者ノ意思ニアラザル文字及ビ事實ニ反セシ意味ヲ記載セシモノトセバ其調印ハ錯誤ニ由テ爲シタルモノト決定スベキハ勿論ナリ然ルニ原控訴院ニ於テ此事實ヲ誤認セシハ不法ノ裁判ナルヲ以テ原裁判ノ全部ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ直チニ終審ノ判決ヲ爲ス左ノ如シ」宜しいか謹聽し給へ、エヘン「前條ニ辯明セシ理由ニ依リ上告者ニ於テ請求スル如ク上告人共ノ該證ニ爲セシ調印ハ被上告者ニ於テ速ニ取消スベシ但シ訴訟入費ハ始終審及ビ上告入費共被上告者ノ負擔タルベシ」(卓)誠に中島先生の御蔭で十分に權理を恢復致しまして此な愉快な事は有ません(博)先づ是で宜かつた(孝)宜かつたとも〳〵我黨の爲に祝すべした(今)越山さん、御安心でございませう、ネエ山田さんやお雪さんも何なにか御悦びなさいませう(孝)自治權萬歳々々々々

と彼方は俊胤艶子の二人が色なきまでに口惜く手も戰かるゝ情態に反して頻りに喜悦を發し常には笑顏を見せし事なき卓一が唯滿面に笑を含んで眞實に阿今の手を取り握手したるは再び得難き快樂なるべし

附言本稿幸ひにして江湖の喝采を受けたり未だ訂正を得ずと雖も例に依て博雅諸君の批評を請ふ幸ひに一言を送り給へ

南翠外史敬具

新東京

歳月流るゝが如く、物換り星移りて幾春秋を經たりけん、日本帝國の中央首府たる東京の模樣一變して品川の海は浚渫を竣り、さしも聞えたる遠淺は千尋の深き灣となりて、如何なる巨艦大船も幾百といふ限りを知らず皆な海岸より斗出せる棧橋に碇泊して、貨物を橋上に卸す時は、棧橋會社の汽車來りて直ちに市場へ之を送り、洲崎十萬坪の遊廓より品川驛に至るまでは新月形をなせる海岸なれども、隅田川の大江は其の央を貫通して自然に南北の區畫を作せり、大小無數の運河の位地は恰かも櫛の齒の如く灣に對つて疎通したれば、此の新築地は互市場よりも堅牢なる砲臺と鞏固なる倉庫より組立てられたるものゝ如し、其の昔し海岸たりし鐵砲洲、築地、芝金杉に至るまでは、隅田川の大流、江をなして倫敦のテームス河に於ける巴里のセーヌ河に於ける伯林のスプリー河に於けると一般にて、便利風光二つながら首都の偉觀を供へたり、市區の改正も成就したれば、道路の排置整然として家屋も漸やく改良に就き長方形に屹立するあり、圓筒形に突聳するあり、石造は土藏と接し、煉瓦は鐵柱と對して舊形の木造は場末の町に至らざれば今は見受くること能はず、去れば數年以前までは四里四方と稱へしも今は六里の餘に達して製造所の煙筒より立昇る黑煙りは都門の冷熱を量るべき寒暖計となり來りて、麻布、赤坂、四谷、牛込、小石川の部分に到れば火は變じて水となり、熱鬧は化して閑靜となりつ、更に別天地の想ひあらしむ、殊に淺草の北端なる山谷近傍に至りては宏壯なる家屋とては製革會社の大建築と其他二三の歐米人に清國人の商店あるのみ、是とても尚ほ壯麗の數に入るべきものにあらねば餘は皆舊形の木造を少しく改築したるもののみなり、去て橋場今戸に至れば在しよりも都雅にして幽邃の趣き最も深く建列ねたる別業のみ檐を排べ、門を連ねて道路の清潔無類なるべし、斯く紅熱を避けたる地なれば、中央市區には關係薄き商人、職工の住む者多く、山谷吉野町の街道筋には食用品を除くの外店を開きし家も罕なり、

（『新社會之佳人』の冒頭の一節）

藪椿

三筋町の通人

驅落の驅落

饗庭篁村

藪椿

第一回

貧は諸道の妨げと歎く者あれば窮は文章を巧にすと臆忙して水を飲む者あり歎く者は廣き世界を狭く見たるなり樂むといふは空とぼけ葡萄は酢はいの負惜みならん自ら甘んずるといふには有らねど辛き世間の付合に習はぬゆゑに習ひ得し畫に魂も入谷の里深見魚淵といふ貧き畫師あり元は文人畫を悦びしが西京に遊びて土佐の古風を學び中ごろ前賢故實に感じて容齋派となり今は諸流を折衷して別に自ら一機軸を出すと高く止りし枯木寒鴉先生是では餘り淋しうございますから最う二三羽お飛ばせ下さいと無雅なる顔人の詞に筆を捨て溜息吐くことも多しとぞ梅まだ咲かぬ南窓押開けて打眺むる其人柄は四十に足らず痩たる顔に笑を含み萬象を筆下に走らせ天地を紙絹の間に包む樂み有りとは知られたり女房お鈴は朝より夕まで襷を外さぬ綺麗好き夫は机の廻りを紙屑籠同樣にする穢好き是で睦しきが不思議なり近所の女の子が二三人遊びに來て居たりしが姉樣事のお客ゴッコのと取散らす事のみなればお鈴はホッと持餘しヽアお前達は今其所を掃いたばかりなのに最う其樣に塵にして困りますネお榮さんの御家はお庭も廣し日あたりのよいのに何故此家へ來てお遊びなさる日陰で寒うござんせうにと云へばお榮といふ十一二の遊び頭が飯事の手を止めて此方を振り向きデモ伯母さん伯母さんの家は暖たかで有らうと思ひますワ、何故、アノ私の目には見ませんが他の人が伯母さんの家は火が降ると云ますよト跡先構はぬ口まめ鳥囀り散らして立歸ればお鈴はションボリ立たまゝ坐りもやらず涙ぐむ此方に聞居る夫もギックリ折から表にお頼み申しますと音なふ聲ハイと答へて襷を外し取次にとてお鈴は立ぬ

第二回

衣服は着こたし裁縫方と俗諺に云ふ如く其品柄の高下によらず身に適ひ柄に合うて誠に其人の飾り毛と見え、目安からん寒暑を凌ぐに足りなばと云消すは趣きなし又是を以て富貴を示すの看板とするは殊に拙なし其撰み方好みの色銘々が持ッた趣味意向を隠さず顯はすものなれば少しは心を用ふるも吉川速雄と聞えしは或る富豪家の次男にてもとの商法學校を卒業せし後米國へ三年ほど留學し同所へ支店を設くるの計畫も調ひよき伴ありて歐羅巴諸國を漫遊し昨年の秋歸朝せしが彼國に在て學者紳士と對話の折り我邦の風俗地理の事など問はれても詳かには答へ兼ね初めて自國の事を疎かにせしを悔い其後は京阪地方へ旅行し家に在りても頻りに學問に凝り元より好の狂文俳諧交はる道も風雅と洒落泥まぬところが一つ持つ本尊樣の光りなり光澤を消したる絹羅紗の西洋服も横濱へ行きわざ〳〵支那人の裁縫職に好みの誂へ金皮時計に絲紐の目立ぬところに小さなる曲玉管玉を飾りとしたり一人の連は三十一二唐桟の衣服に絹紬の羽織羽二重金巾の裾廻しに摺れて白革の鼻緒は鼠とかはり足袋は皺だけを白く殘して藍に染りたり更に怪むべきは羽織の新しき割には乳の痛みたるなり沈思默考すれば是はこれ夏羽織と兼帶に羽織の紐一本なる爲め彼を着る時は是を外し是を着る時は彼を外す其が爲めに乳のみかく痛みたるならん案ずるに店の手代或ひは

出店の主ならんか深川公園地より木場へ渡す渡しの岸に立止りて遠離は此方を見かへりながら民造此所等は閑靜で宜いナ誰やらが句に一橋臺に菜の花さけり無渡しと有ツたが此所等の景色だ東京のうちでも此川を越すと別世界だナ、デ御座いますよ、此ごろ藪が大そう開けたと聞たが夫より此の川岸通りを眞直に廻ツて扇橋へ出ると仕よう、夫が宜ござりませう、何だか勢ひが無いノ今まで饒舌つゞけて居たくせに急に元氣がなくなツたが如何した最う草臥たのか全體遠足に駒下駄に着流しとは不届だ、ナニ草臥たのではありません實は落膽したので、落膽した先刻渡しを上るときモヂ／＼して居たが紙入れでも落したのか、デモ無いので、ハヽア分ッた此間の催しに酷く投げられたのを思ひ出してか一體お前の考へは拵らへ過ぎるからいけない何でも其身を其所へ置いて實情を寫さなくッては人が感じない杉風の何だッけ一川の音藪の起臥年くれぬ」としたは此の深川の實情をよく穿ッて有では無いか、ナール程ネ、氣になるナ此の垣越しの梅や鶯の聲は耳にも目にも入らないか、入りますがネ實は鼻の先へ入ツたものが有るので、何が入ッた、實は少し時間は早いが松本で御神輿が坐るだらうとの腹づもりが違ハ甘い香ひを横に殘して渡しへお出なすツたのでガックリと氣が落ちました此所等には迚も咽喉を通るものが有りますまいと思へば風流は一入寒いものになります、ヤレ意地の穢ない男だ最う少し我慢しろ扇橋からは車と仕ようと打戯ぶれて行ノ先は梅見の事と知られたり、此方は龜井戸天神の門を入る彼方は境内より出んとする出合がしら吉川君かオヽ千本先生是は暫らく、誠に御不沙汰、學校以來昨年御歸朝とは承はッたが、早速拜趨致すべきをと互ひに忙しき應對此の間傍へに立ちしは十六七の束髪沓に踏まるゝ草にもなりたしと願ふ人のさぞ有らん容貌一つか二つ上ぐらゐ小包を持ちしは是また礎かぬお玉といふ下女二人の挨拶濟みしを見て一寸會釋してチョコ／＼と行過たり民造は跡を見送りながら何と思ッてかチウッと舌打しナント如何です綺麗ではございませんか、左樣サ美しく咲いたナ、串戯ぢやアございません梅ではない今の娘サ、大きな聲をするなお梅さんといふ千本の妹だ、此奴は不思議だ時に今大そうな音が響きましたが彼は何です、壁訴訟は止しなよ己も腹が減ッたから彼の小橋を渡ッて直に鹽の辛い鯰で繕うと思ッたが前へ一足踏み出す柏子にバタ／＼と景氣に團扇を鳴らされたのでグット氣になッて通り越した橋本といふのが無いでは無し最少しの我慢だ瓢箪ので補ッて置けば宜い、如才なく狹に補ッて最う雫も有ません

第三回

噂と云へば臥龍梅の事だが此の小村井は周邊が廻れるから趣きが有る民造詰め替への瓢箪で大分元氣づいたやうだが杯を下に置いてチト眺めないか左樣飲むばかりなら家に寢て居て御花宜しうを二錢で濟ませた方が宜からう、是は酷い實は花より酒の方ですが又た梅も捨られない風流もよし食氣もよし當時の世界で偏ッては立行きません何でも脫さず嚙り付いて喰取る覺悟アーメンも謠へば南無阿彌とも唱へます、何處までも慾心で押通すとは不埒な心得だお前の樣な者に逢ては梅も泣くだらう、併し私などは少々欲がるといふだけ夫も斯う名乘かけて居ますから不埒も輕いフラチナ鍍金ぐらゐだが世には隨分主人を葛籠の底へ押し込めて自分は密と簞笥の抽引へ手掛ける忠臣もあり迷子を横町へ連れ込んで衣服を剝ぐ道德家もあるから私などは同じ不埒でも情狀を酌量して無罪放免御褒美五圓と宣告に成ッても苦しからずだ、偖々蟲の好い男だ夫でも親達が育てる時分

には惡い蟲が有ッて困りますと云たか知らん、能い蟲エ、能い蟲めといふのが入ッて來ます能い娘と聞えませう、聞えるよ聲が大きいから向うへ聞えるオヤ又千本君是から木下川まで夫は御奮發また歸りは向島あたりで御目に掛るで有りませう左樣丁度見ごろでト挨拶濟んで別るれば民造は眼を据ゑて跡を眺め丁度見ごろが怖しい梅が取持つ緣かいナと來て仕舞ッた若旦那否はず跡から繰出しませう、コレサ茶代を如何した、ホイ忘れても大事ない事を忘れた御連が能いから五錢と氣ばれア、惜しい事だ、時に今のは美しいの、實に美しいの何のと云ッて愛敬がボタ〳〵垂れる杯は常のことドット流れて御住居の町内だけが水撒入費が助かるといふ程だ凄いスッパラシイ豪勢ステキ、是さ人が振り返ッて笑ふではないか慾氣ばかりか柄にない色氣まで加味するとは隨分始末の惡い代物、だ旦那若旦那、何だな異な聲をして、橋本は後日として彼の跡を追ひませう、頼むよお前は機嫌が直ッたが今度は己の方が怪しくなッた怪しいと云へば今一途に居た下女の顏は此間岩田先生かゝ來た幅物の靈照女に似て優しいうちに氣高いところが有る彼の畫工の魚淵といふのは岩田先生の近所に居るとか近年の上手の樣だが餘り世間に知られないのは氣の毒だ何でも古びさへ付けば出來不出來に拘はらず大事がッて年數で價を極めるやうな馬鹿な事が云はれるうちは現在の畫師は立つ瀬がない可なり見識の有る人までが古の字からは後光でもさすやうに有難がるところが異な譯だ自分が産れて今生活して居る此時を何で左樣輕蔑するかお前の口癖ではないが實に分らないオイ歩きながら跚かソレ足元に氣を付けな川へ落ちるよ

第四回

人來と告ぐる鶯も債をはたる前觸れかと聞て首を縮め話しかけた聲も一段低くするとは偖も貧は苦しき者なり左れば皆な此の重圍の中を出んと西に當り東に走り勇を奮ひ力を盡す事なれどよく勝鬨を揚るもの少なく鎧に立つ矢は蓑毛の如く反ッたる刀を押直しホッと一息吐くほどの手負のみ多し敵が此の大敵に勝つの計略は節儉の二字に在るのみお賴み申しますとの案内にハイと答へて立つ女房が心の中では早や云譯の考へとは氣の毒にもまた憐れなり深見樣は此方でございますかと云つゝキョロ〳〵四邊見廻すは十三ばかりの丁稚なりケゲンな顏をしながら大鯛一尾を魚籠のまゝ差出し是は粗末でございますがとの口上にお鈴は案に相違の悦び是は美事なものをシエ何方樣からと問へば丁稚は何ほキョロつきへエ神田鍛冶町の吉川から參りましたと云ふに心當りはなけれども深見と尋ねてわざ〳〵と遣物大かた畫のことについての禮か二人のたかへ此の大鯛は過たれど常から夫の好のもの久しぶりで嬉しやと思へば其まゝ請取て斯くと夫に知らすれば魚淵もさし當り覺はなけれども先日表の岩田の周旋にて正月の祝ひに用ふるとて賴まれた鯉の繪の挨拶はまだなければ大かたは夫なるべし近日收入の少なきより魚屋は我前に盤臺を下さず呼ばねど用を聞て呉れるは豆腐屋のみなれば骨離れする夫婦の精進是は誠に有難しと其のまゝ請取りて禮を述べさすれば丁稚は何か思案顏見かへり勝に立歸りぬ跡にお鈴はいろ〳〵と貴方の好な此の鯛是を下物に一杯上れ細かな寫しもので御氣が盡きませう今日は最う四時半過ぎ机を片寄せてお仕舞なさい私は一寸鍵屋まで、酒を買にか夫は御苦勞左らば久ぶりで庖丁の手際を見せようか

錦魚屋の垣根の際に殼の魚籠を提げし以前の小僧首傾ぶけて獨り言ドウモ怪しい何でも變だ

此間も呉服屋の小僧が下宿屋へ反物を負背ッて行ッて裏から逃げられたと新聞に出て居たが油斷をして鯛を棒に振ッては小僧の名折れだ彼樣な汚ない家へ何で此樣な包み物と立派な魚なんぞを遣るだらう表の岩田さんへなら此間内儀さんが掛ッたから禮は當然だが彼の貧乏に鯛は可笑い珍しいものだから闇雲と禮を云ッて居やアがッたが家間違ひで喰はれては堪らぬ包み物だけは出さずに來たが彼も取返して聞直して來よう左樣々々岩田さんの裏で深見といふのではない深見といふ家の表で岩田さんだと云ッたのだらう意地の悪い番頭だから教へ方が反對だ此奴は大變大事だと顏色かへて取て返し、お賴申しますとせき込んで案内乞へば今鯛を料理せんと錆たる出刃を砥に掛りし主人の魚淵が誰君ぞと立出れば丁稚は一生懸命の詞もしどろ誠に相濟みませんが只今の魚は間違ひました何卒お返し下さいましと云れて魚淵は驚きもし怒りもし又面目なくも思ふにぞ物も云はずに鯛を持ち出れば丁稚は手早く魚籠へ押し込みて逃げるが如く立去たり

第五回

跡見送りて魚淵は眼を閉ぢ偖情なし淺猿し我心にも恥かしや貧に饑ても心は饑じと思ひし事もいつしかに淋しくなりて我物ならぬ物を獲たりと糠悦びも夢に等しく覺め來ればよくも尋ねず一旦受けたる大膽さ汚なさは笑ふに堪たる事なりし左るにても女房の歸りていかばかりか打詫ん我は樂みを富貴の外に求め書を讀み書を寫せば黄金の屋珊瑚の盃自からにして胸裏に在り窮もまた其分なりと安んずる所あれど世の理もよく知らぬ女の身にては其の憂を何に晴さん不便なり我妻ながら氣の毒なりと獨歎ちの折からに勇みて歸る女房お鈴オヤ其處に何をしてお出なさいます久しく使ふ用がないので庖丁が錆きッて居りましたがお研なさいましたかオヤ鯛を何處へ魚屋が來たので拵へにでもお遣んなすッたの貴方何を立てお出なさる考へ事でも有りますか一杯上ッてからになされば宜いにと云ふ顏眺めて溜息吐きお鈴彼の魚は間違で丁稚が取返しに來て持ッて返ッた、エヽ間違ひアノ門違ひ夫でも確かに深見と云ましたに、夫も間違ひ皆な間違ひ惜く思ふは愚癡といふもの、夫だと云ッて折角悦こんだのが口惜い夢のやうな憎い小僧でございますと涙はら〳〵俯向けば魚淵は上を振仰向き左樣思ふのも最も至極隣りの家の催しか面白さうな義太夫節夫は土佐坊是はまた土佐の又平夫ならで同じ繪筆を持つ身の貧苦業は御影の石をも透すと心密かに誇れども世の賞鑑家の眼に上らず人の好みに適せねば跡も微かな燒筆の消ぬ間空なゝ苦樂より名こそ惜しけれよし斯くても知己を後世に待たんものと思ひ上りし我も折れた誠に身後の譽れとて生前一尾の鯛には如ず鳴呼上野淺草の花の雲居ながら遙かに望めども其方は快よく出ても遊ばずかゝる世帯の苦に染みて憂とも泣かぬ心のうち察しられて最惜い併し此まゝのみにも果まじ華さく春を待て呉れと思ひ屈した夫の詞にお鈴はわざと笑顏を作り詰らぬ事で澁りが來ました先達て佛蘭西とやらから山中樣の御便りでは大層宜いやうな御噂ホンニ華といへば鉢の梅が三輪ばかり綻びました是を下物に御燗を付けませう綻びたと云へば紅梅町の千本樣へ參ッて居る妹から袷を一つ綴ッてと賴まれました彼の御主人も繪はお好で大そう立派な御幅物が有るとのことと夫の好な其道へ話しを外らすも機轉な、、オヽ左樣かお玉も最う十九嫁入時では有るけれど此方からでは實家が立派過ぎて能い所へも片付けまい御主人が惡い樣にはせぬと仰有るは仕合せ宜しくお賴み申すが能い併し流行らぬ畫師の所へは御斷り申しますと

念を押て置く事さアハヽヽヽと笑ひ聲思はぬ鯛の跳ね込みしより夫婦の胸に浪を立てしももとにかへりて澄む水のいとも靜けき有様は濁りもなくて安げなり

第六囘

醫は意なりと覺え込んで機轉ばかりの御手の筋脈は見るより聞いて察しナルナル矢張時候のお中りでお熱が少々お有りなさるナルナル兎角御養生が肝要でナルナル水藥はお嫌ひナルナル飲みにくいでナルナル宜しい御煎藥を抔とはくらんの藥ははくらん病が買ふ俗諺舊弊な病人は舊弊の醫師を信じまた家業には成り行けど老人ばかりの得意なれば先が見えた追分大津上りにならぬうち分別を仕換んと手前療治に見とめを付けし岩田得庵といふは是までの貯へを纏めて公債證書とし其身は古い馴染の病家だけを病人がなくても遊びながら廻り好から目利の骨董の才取氣樂に洒落た話し好き此の魚淵とは合口にて同人が腕は有れども世に持囃されぬを氣の毒に思ひ何彼につけての信切はさすがに醫者の人柄なり、庭から廻ッていつもゆッたり先生如何と來る人が此日は劇たゞしく表より入り來たりまだ五時半にもなるまいに最うお夜食か偖先生深くお詫申さねばならぬ事が出來致したイヤハヤ申譯もない儀で我輩から平にお詫申すトいふ一件は定て御立腹でござらうが先刻の小僧でイヤハヤとんでもない奴彼の吉川から進物の鯛を何か自分で註釋をつけて取返して持ッて歸ッたとイヤハヤ呆ました定めて御立腹我輩もいくらか關係があり御内方も嘸驚きイヤハヤ恐れ入ッた次第で吉川でも驚いて他の者が直に御詫ながら先日御揮毫の潤筆料と共に彼の鯛を持參しましたが此方へは參りにくいので我輩が代脈と出ました諸事御勘辨を願ひたいイヤハヤ誠にと頭を掻くに魚淵は却ッて氣の毒になり御丁寧な御挨拶で痛み入ります隱さず申せば先刻は驚きました尾頭揃ッた鯛一尾我等が俎板に上ッたは今日が始めて是は飲るわと勢ひよく庖丁を取り上げたところで其物を取上げられ左ながら鳶に攫はれた心地大きに愚癡を並べましたが夫が矢張我等への賜り物とは忝けなし何か味の拔けたやうではござれど手料理を仕れば、我輩も押て御相伴を願ひませうか何にしても例の御心廣くサッと押開いての御詞に愚老も安堵致しました偖御潤筆は持參致しました御請取下さい魚は今持たせてよこしますナニ次手に庖丁も宜しい承知致しましたナニサ過分ではないサ彼の給が大層先の氣に入ッたさうで我輩も嬉しい内方も氣を張ッて今日はチト奢り玉へ先生の技倆も追々光彩を發して來ますイヤハヤお獨樂の御邪魔を致した然し御料理が出來ましたら一寸御聲をと氣さくに饒舌ッて歸りぎは振り返ッて夫に先生何とも鑑定の下しかねる珍器を得ました置上げの菊の模様常人の手になッたものとは思はれぬ只今携へて來て先生の御説を伺ひませう是は怪しからん掘出し抔と左様な野卑な事は致さぬテ只一寸ナ樂しみに買ひ取ました

第七囘

蛟を吞むと夢みて母が妊みし臍の緒に添書が有るか見たし此人加はれば一座に臭氣を發し伸たる眉も忽ちに皺み花の香みつる團居をば罪重き牢屋の中に在るが如く厭はしむ笑ふ事あるも其笑ひは嘲けりなり悦ぶこと有るも其悦びは人の不幸なりいかなる多くの恨みを此世に持ちて生れけん名さへ鬼島昆山といふ畫師文字もなくて文人畫をのたくらせ芋か山か樹か石か分らぬ寢言を書散し人をなやめ紙を費して尚ほ幾許の錢を取らんとする曲者惠みも廣き君が代

の有難さ斯る者も大八洲の外に追ひやり玉はず一つ光りの下に照さるゝぞ冥加なれ年は三十を越えたれど高言亂醉して未だ一家を持たず氣韻俗を離れて世に疎きかと見れば左にあらず卑劣欲深くしてまた色をも好む只表面をば作り文人擬ひ八丈のなえばみたる小袖に繩の如く綯れたる帶を捲付け當もたく出る友達倒し、コーと是から別に驚かす所も無いナ深見は例の貧印だから襲ッたところが獲物はなし有たところが垣根の傍へ小便をかけて手作りの菜の浸し物ペッ恐れるぞ併し彼所の内儀の妹とか此間來合せて居た女は凄い出來だ此前小鍋の賴みで贋作した仇英のものに彼の面貌が有ッた左樣いへば彼の時は三日も掛ッて骨を折ッたのに出來が惡いの通用しないのと捏ねてわづか一圓半で追拂ひをッた彼奴は不埒な奴だ越後へ被せに行ッた歸り追剝に逢ッて身ぐるみ奪れたとはよい氣味で有ッた兎も角も御夕飯の刻限となッた無益として魚淵方へ御立寄あらせられよう若し彼の妹が來て居れば夫こそ此方の圖にはまッた事だどうか深見を煙に卷て彼の妹を……極ッた家が無いので先づ筆を下すに困難するが其所が働きだ、ヤ、大分深見の笑ひ聲が聞える客來かしらん彼男も貧乏のテレ隱しか何を見ても笑ふ男だが彼所が御目出度しるしで此方の切り込み所だと腹に問ひ腹に答へ垣根の外より勿體らしき咳拂ひエヘン大人御在宅か鬼島昆山でござるヤアお珍しや先づ此方へ幸ひ隣家の方と對酌の折からサア挨拶は跡として一つ上れと差されて此方は心憎く此樣に奢るところを見ると近ごろ景氣が宜いと見える畜生太い奴だと羨む胸を隱してのセヽラ笑ひ是は大分御盛宴でナニ鯉を書いた禮に鯛を貰ッた鯉で鯛を釣るとは御手際な事だ貴公の繪は俗受けが好くて御仕合せだ何でも俗受けの事サ全體風韻だの氣韻だのといふことを貴むは馬鹿な譯で錢にさへなれば盆提灯を書いても差支はない僕などは妙な癇癖が有るで夫が出來ぬ馬鹿な次第サ些と君の御傳習をうけて鯛でも釣る事を心掛けませう兎角俗受けの事だ染物屋の手間取を兼ねなくては共進會へ出しても有名なる審査官方の御意には入らぬ全體他人の評判を待ッて我畫の價を知る抔とは不見識な事だと云ふのが馬鹿の始まりサ御意に入らなくても鯛は釣れないハテ俗受けの事でござると人の好事を嫉み羨やみの塊り不平の破裂丸を投げ出したので いと面白く興じ居たる二人の醉も醒にける

第八回

失路の人は物を毀つ己れ勉めずして估れざるを怒り掛構へなき他人をも低みに落して聊か腹を愈んとする心中病といふ難治の症目に觸るゝものに非をつけて憚りもなく云放つ我慢無法に逆らはぬ其用心も深見魚淵先づ鬼島さんお重ねなさい例に變らぬ君の直言餘り調が高いと俗耳には入らぬたとへ最少し低くなされては如何だ兎角粗放の支那風を帶びて賴まれた絖を羽織の胴裏に用ひて磊落物に構はぬ抔といふ間違が多いが君などは腕が有ッての上ゆゑ人も許すが我輩などでは竈の灰が暖かになりませんハテサ世に賞されぬは仕方がない只何處までも深切に書く事にしたら其うち同臭味の人が出まいとも云れぬ元より畫をかく人々は我樂しみより此業を撰みしにて錢の高を數へて繪具を舐めたわけでもなければ金にならぬとて世を怨む筈はない唯我畫の賞されぬを憾としてます〳〵業を勵むが肝要八十の婆も斯うでは果ぬとやら我等は今も稽古中潤筆に係はらず賴人があれば夫を力にして古人の跡を追ふつもり賴人がなければ盆提灯も手習草紙何をしても恥とは存じません只恥とするのは折角斯の繪の道に志して

其繪が繪として用ひられず徒らに紙や絹を汚す誇りを取る事であります君はまだ我輩より若し今より心を潛めて業を研かれたら金印と共に世の賞賛を博する事は易い事でござらうと云へばいよ／＼鬼島は喙を尖らせ泡を吹き天下擧ツて盲目なり其の盲目に探られて褒められたとて嬉しくなし我輩は只彼奴等を驚かして一笑とするのみなりと放言するに岩田は驚き長く同席せば喧嘩にもならんと挨拶そこ／＼立歸れば魚淵も口を閉ぢて相手にならぬにさすが鬼島も草臥て、魚をあらし酒を浴び禮さへ云ず立出る後影を見送ツて彼男も惡い癖だ誰にでも逢へば癪を云ひ書畫會に出れば口論を始めるが夫も業が拙ないからの人羨やみ嗚呼羨やみといふ事も善く用ふれば己れの及ばざるを知りて人の高きに傚はんとする進歩の母即ち歆羨といふ善きものなれど不平を加味して彼樣なツては此上もない惡いこと他の事より我誡め怖しいは人の心惡魔の宿とも天人の府とも持ちやう次第で變るもの愼しむべしと歎じけり

第九回

朝の雨は塵をしづめ夜の雨は心を靜む同じ降るのもしめやかなる春の夜の雨に遊びに來る友もなくお梅は讀みさしたる新聞を下に置きお玉やそれを仕舞たら早くお出よそして是をお讀み又束髪の事を惡く云た投書が有るよ憎いねマア此の口の惡いことホンニ腹が立つよヤレ格好が惡いの可笑いのと何處までも女は男の玩弄物だと思ツて居るよ自分達の見る目さへ美しければ女の迷惑不便利は構はないといふ風だから男は憎いよ動ともすると生意氣と一口に云消して女の身分を底の底へ押し付けて置かうとは自分勝手な事ではないか學問をしたり便利に就くのが生意氣なら日本中皆な生意氣だよ今まで女といふものは御雛樣の人形と同じだと思ツた目から見ればこそ少し活潑に動く者はオテンバの樣に驚くのだが女も同じ人間と思へば何も不思議は有はしまい今の眞實の學問をしない昔し者ばかり女を一等下ツた者と蔑視なら其人が道理を知らぬからだと此方で蔑視で相手にはしないが立派な學者が併も洋行もした人が腹の中では男女同等と知りながら自分の都合が惡いものだから矢張東洋の舊習に任せて置いて夫のみならず尤もらしい道理を拵へて自分の風除にする者が有るから憎いよお玉やお前も束髪にお成りよ私と一途の頭つきでも宜いではないかお前は遠慮が過ますよ主從の關係なんといふ事が有りますものか米國などでは雇女は其家族の中に入れて待遇するかまたは客分として取扱ふと云ふよ私はお前とは姉妹と思ツて居るのに禮儀ばかり述て丁寧では氣が置るよ、お孃さま貴方はお顏にも似合ぬ強いことを仰有いますよ其樣に男は憎い／＼と御腹を立て御婚禮はどう遊ばす、オヤ否だ婚禮は婚禮何も殘らずの男が憎いといふのではなし私の心に適ツた道理の立ツた眞實の男子を撰みます、マアむづかしい夫なら何樣のが御註文に合ふので有ります、お玉や最と此方へお出話しが面白くなツたからそして其の急須を取ツておくれお前は私より一つ上だからマアお前はどんな方を撰むつもりだか先へお話し否なら私も話しませんアレ大きな聲だと親父さんに聞えますよ此の向うへ來てお當りよ他人がましくしては否と睦み寄りたる火鉢の傍灰かきならし埋火と共に話しをおこしけり

第十回

撰む、一千八百萬人中より唯一人を撰むなり、求む、源氏平氏華士族平民士農工商坊さん神主種々雜多の中より唯一種を拔取るなり、彼か、此か、目移りのする花の枝男女に拘はらずつまで定めこそ心づかひにも又樂しきものなれ是を

始めに慎まざれば末の涙は拂ふとも乾かじ一期の浮沈半生の苦樂此の一擧に定まるなれば各々撰む處を詳かにせざるべからず女同士の馴れ睦み火鉢を中に取り卷いてお梅はお玉の顏を眺め宜いではないか誰も聞はしまいし思ふだけを話しておしまひ、夫なら申しますが私は學問の深い見識の高い人は否ですよ何でも信切な人が宜うございます先日馬車で入らしッた河隈樣は御立派な方ですが眼が見はッてキットした御顏付態ッとらしくッて眞向には見られないほどでしたが定めて奥樣が何かお話しをなさッても女童の知ッた事ではないと睨み付けてお仕舞ひなさいませう怖いの氣味が惡いのと云ふやうでは身柄はどんなに上ッても嬉しくないと思ひます彼樣に立派な顏を拵へて窮屈がるのは苦い物ばかり食べて生れたので有ませうか、オヤお前は夫では何時でもゲタ／＼笑ッて取しめのない鎌田さんの樣なのが宜いの否だ私は彼樣な饒舌で顏に締りのない議論に極りのない人は嫌ひサ、誰も鎌田さんが宜とは申しません貴方は竹束さんのやうな強情なムッツリがお好、彼樣な粗暴な人は嫌ひこれを花にたとへて云へば梅の蕾の寒さにめげず今馨を放さうと凜とした所が好き、私は麗かな風に誘はれ蝶が舞ふかと思ふやうに花片の散る時分が眺めと思ひます梅と申せば先日梅見に御供をしましたとき旦那樣の御友達とかで天神樣で御目に掛ッた方は御年頃と云ひ御樣子と云ひ貴方によい御人柄と存じました、アヽ彼方は吉川さんと仰有ッて學問もあり洋行もなすッたとやら立派な方で有るけれども一寸お見掛に申したところが樣子の宜い意氣な方だから……、樣子の宜い意氣な方跡のだから分りませんネ、デモ彼樣な洒落た方は多く移り氣なもので女を器物と同じに玩弄ぶから否よ、勿體ない彼方でもまだ御氣に適ひませんのマア

第十一回

借方は借方より記憶強しとはいへど又借方は貸方より逃げること早し深見を立出たる鬼島昆山は銜へ楊枝の獨り言ドウモ奴も話せぬ彼所に居合せた藪醫者めも氣に喰はぬ奴だ何だ業を勵め己を繪師と心得て居るか跡を世に晦してしばらく繪に隱れて居るのを知らぬか豆のやうな眼孔で己の眞面目が見えるものか馬鹿な事だ併し左樣は云ふものゝ實は窮したごまかし付た蘭竹では迚も世は渡れず急に眞面目なものも書ず共進會の美術會のと見せ物ばかり殖るので人の眼が肥えて贋が利かずやッて見たところが細かな物では工手間が掛ッて其割には彼奴等が渡しをらず遊歷と出かけたいにも田舍者が利口になッて滅多に屏風や襖は汚させて呉れず遊歷者物貰ひ等入るべからずと村口に癪に障る榜杭を建てた舊弊と演説者招待に奔走するお先者と何方にしても此方の懷中には重みを付けず熱海あたりの湯治場では大分文事に託せて賭事が流行るといふが是も餘り器用には出來ず書畫會を催さうにも是まで出さぬゆゑ寄はしまい池の端の家でも少し飽氣味で待遇が惡し據所ないから國へ歸るとしようか夫にしてもせめて褒狀にでも有付いて行かねば餘り氣が利ぬ此前の出品も甘くごまかし課せるところをアノ何めが是は斯うした原圖が有ると尻を破ッたので掃出された彼奴憎い奴だ斯う此節の樣に實地の腕競べが有ッては迚も協はぬ出して赤恥を掻くより例の通り罵り倒して出さぬ方が奥が知なくて都合が能い、ヤ・都合の惡い所で善助に出合ッたが是から山へも逃上がれぬよし先んずれば人を制すで此方から詞を掛て驚かして追拂はうオイ大人善助先生何方へお出だナニ根岸、宜では無いか左樣稼いだら置所がなからう僕の例物かあれは近日イエサ間違なし近日返濟するよ確かな

當が有るのだ當があればこそ斯うして機嫌で居るのサ惜しい事で有ッた今新坂の伊香保で馳走になッて大廣間へ掛ける見付の宜い物を急に書けと彼處の主に賴まれた外なら斷るのだが舊來の馴染ゆゑ能はと引受けたのでまた肴を替へて飮ませられた貴公が來ると腹を痛めずに馳走をしたもの最う一遍歸るも可笑い三橋際の牛店は如何だ突き合ふなら奢るよイヽサ屹度確かな返濟の當が有るよ宜しい承知したエーイ馬鹿め眞に受けて例の愚癡も並べずに御辭儀をして行きをツた併し彼口へも如何かしてやらねば氣の毒だと云ッて如何にもならぬ此方も氣の毒確かな當といふのは貴樣が頓死するより外には無のだ金錢などの事に頓着する鬼島昆山ではないぞ馬鹿〳〵しい

第十二回

晴れたる空ゝ宵月の西へ落ちたる跡暗く光めく星は川水へうつりて砂子を蒔たる如し黑く高きは待乳山遠く白きは不夜城と空にもしるき吉原なり漕ぎ行く船の櫓の音と風の傳ふる騷ぎ唄蘆の若芽に堰の水かゝる寂しさ靜かさも使ひの道のいたく後れて一人淋しき隅田堤後を振り向きまた前を三圍前に立止り今日が暮れたばかりなのに何だか急に夜が更けたやうなエ、氣味の惡い早く暇を申せばよかッた櫻の時分は賑かで押し返されぬ人の出も花のない頃の暗の夜は此の通りの淋しさ同じ堤の草も木も人の心は賴まれぬと定めて笑ふことで有らうア、花は僅時の眺めだのにと獨り言ちつゝ右の手の包みを左に持ち替へて急ぐ向うへ酒臭き汚き男が立塞がり姉さん淋しからう送ッて上げよう遠慮をしなさんなどうせ吾妻橋まで歸るのだ否でも送るよ其の包みも持ッて行ッてやらうと出す手を拂ひキットして昔しと違ふ今の夜道淋しい事は有りません御深切は有難いが送ッて吳れずと一人で行きますと云放して步みかゝる袖を摑んで何だ此奴が折角送ッてやらうといふのに否なら否で宜い異に云廻して難癖を付けやアがるサア一途に屯へ來いと取つく男を突倒し迯げんとすればまた取つく折から來かゝる一人の男が物取なりと見るよりして走りかゝッて醉漢の領上取ッて後ろへ引けば女は前へ二足三足倒れんとして足を止め誰君でございますか有難う存じますと腰を屈めて手を合す顏は夫れとは見えねども物腰もいとしとやかにて斯る折にも詞の落ち着き、禮には及ばぬ氣を付けて早くお出なさい此奴めまだ懲りぬかと摑みかゝる醉漢を身をかはして腰を突けば土手から下へ轉げ落ち溝へ陷りて蠢めく樣子すかし見れども下暗し强て捕へても手柄にならず誠の物取でもあるまいから此まゝ許す 仔細はなからう今の女は何所でやらと首傾ぶけて立去りけり

第十三回

隔てぬ友の樂しさは隱す事さへ打明けて夢を話しに畫き出す住田亮といふ官員吉川とは學友の中にても心合ひなれば座敷へ通るも案內なし吉川は今女文字の手紙を讀み居たりしが相變らず御勉强カネといふ聲を聞て劇しく其手紙を卷きて本の間へ挾み住田君か近々何所へか御出張のやうな噂を聞いたがいよ〳〵出かける積りか所に依ッては僕も行だけ御一途に參ッても宜いがと云ひつゝ反古にて火鉢の端を拭き住田の前へ押し遣れはギゴハな手にて煙草を捲きながら行かぬ積りサ夫より此方に居て二三年また學校生徒になる積りだと話す間も途切れ途切れ吉川君君は器用だから此樣な事は手綺麗にやるだらうが僕には出來ない膝の廻りが煙草だらけだ牧田は上手に捲く話しをしながら左の手ばかりで一寸捲くが彼は餘ほど妙だ何でも左樣だが其人の性質に有る事で勉强して至

るといふは難い話しだ千本などは何時習ツたか字をよく書く彼では書家でも世が渡れるだらう僕は其處へ來ては手細工は閉口サ、手細工はといふはの字はもの誤りか何も別段君の長技として承はツた事はないやうだ、まだ茶も出さんで惡口を始めるよ能く煙草を上手に捲たら何の益が有ると云出さなかツた夫は左樣と今本の間へ隱した假名の會の建白書のやうな手紙は何だ賢人顔をして僕などを叱るが怪しいぞ怪しいぞ、君のやうに兩つの眼が猥褻の雲に掩はれては何を見ても其の感じが起るが彼は何サ、何だ、靜岡に居る伯母の手紙サ、澄したものだ今顯はれるまで知らぬ顔とは恐しい外交政略だしかし伯母さんの手紙にしては字が大き過ぎる容易ならぬ國事犯の嫌疑サア見せた〳〵、五月蠅男だ跡で見せるが何故君は出張を嫌ふのだ萬卷の書を讀みて千里の道を行とは詩や文章を作るばかりの話しではない處世の要務を學ぶには旅をするに如くことはない今に家累が出來て思ふとも實行するは難い獨りのうちに驅け歩いて見る事サ僕も今年は松島見物といふ目的を立て奥州の方へ行ツて見るつもり君の出張先も彼方の見當と聞いたが、所が出張を見合せるに仔細が有る是れは漸やく僕の了簡の中で固まツたばかりで未だ手酷い攻撃を受けると崩れて仕舞かも知れぬが話して見よう五六日前の事で有ツた例の通り出勤かけ萬世橋から右へ切れるトタン洋装の婦人が一寸會釋するからハテナと振り返れば千本の妹よオヤと聲を掛けようと思ふうち心なき車夫の五助めが暗雲と驅けたので帽子を取ツて挨拶もせぬ失禮それが氣になツてとう〳〵先づ出張の內意を願ひ下げた、ハテ大層禮儀正しい人になツた學校時代には人の菜まで切り込んで履物は自分ばかり共同主義を唱へた者が帽子を取らぬだけが夫ほど氣になるとは天晴さすがは交際家煙草の捲方も演習する譯だ、夫だけの解釋かハテナ學校時代には眼光紙背に透ると云れた君で有ツたが天晴さすがは商法家儲け一方に凝り固まツて外の話しには感覺が薄い所が有難い、薄いといふのは忌詞といふ次第か早く左樣云へば宜いに遠廻しに云ふから此方も少し意地が曲る、謀ツたお察しの通り所で君を崇めて月下氷人結ぶの神と齋祀る次第サ、有難い氏子の方から御託宣善哉々々一骨折りませう夫に千本も君を信用して居るから是は整ひませう成程彼の妹御は柔和さうだ左樣いふ譯なら明日にも千本へ出かけませっと話しのうちに酒肴が出て歡を盡して歸りけり

第十四回

紅梅町の千本と聞えしは或藩にて有力の家柄父は一時高き司に上りしが若き人々が劇しき詞の中に揉まれなか〳〵堪へ得べきに非ず斯に戀々として後進の望を閉づるより早く退ぞいて道を開けるに如ずと元より資産饒なれば其所に心の引かゝる事なく仕を辭して或る會社の顧問となり手を後に組みて倅が前途を眺むるのみ倅芳郎も會社員となりやゝ糸篇に申の仲間見ること聞くこと花美なれば妹お梅も今を春べと咲くや此花馨りゆかしと下陰に立寄らんことを願ふ者あれどお梅は顔のやさしきに似ず心は兄にも立越えて雄々しく東洋婦女子の卑屈なるを慨き自ら卒先して此の弊風を去らんと期し音樂裁縫等の事は身を入れず高尚なる學問に心を委ね其身と同じき男子に合體して素志を果さんとする望みあり左れどまた情といふ軟かき風に吹かるゝことなきにしも非ず心に思ふいろ〳〵を心で叱り窘めて人は見ねども我が顔を書物で掩ふ折もあるべし吉川は身に副はぬ役目なれど親友の賴み否とも云へず或日の午後五時ごろ此門前に車を止め案內乞うて名刺を出せば取次の

者より先へ芳郎は立ち出でよくこそ來玉ひし先づ此方へ幸ひ只今歸りしところ偖其後は先日はと互の挨拶時ありて吉川は用事を云出んとせしが他人の事なれど恥らひて何となく云出し兼ねまた雜談に間を繋ぎぬお梅は吉川が來りしと聞き出て挨拶したけれど胸の鏡に面影の殘りて消えぬ意中の人はしなく出んも用意なき者とや云はれん生憎今日はお玉も居ず付端なければ間を隔てて他の腰元に茶の事などを差圖して不圖聞耳を引立れば話しのうちに我名が出づるに思はず胸に浪を打ち平生の氣性は俄かに失せて仔細を聞かんと襖際身を縮めてぞ居たりける吉川は幾度か云んとして云も切らず額へ手を加へて詞の調子もいと低く何事か話せし末「是非妻君に貰ひ受けたしといふばかりが立付よき襖を越して聞えたればお梅はいとゞ面ほてりして心の絲は亂れたり

第十五回

ヤ女權伸張論者は此所にお出か先刻お玉と一途に出かけたかと思ッた、兄さんの串戲ばッかり私は學校から直歸りましてお玉を毛絲を取りにやりました今お歸りになッたは先日龜井戸で御目に掛ッた、オヽ吉川君サお前がお出ならー寸挨拶をすれば宜かッた夫に付てお前に話す事が有るが例の伸張論は後にしてお吳れ、兄さんまで私の云ふことを馬鹿になすッて何處までも女は劣等の者と輕蔑して、マアサ宜い輕蔑はしない併しお前の議論の鉾先も幾分か鈍らねばならぬ時節となッたと兄の詞にお梅は推し偖はいよ〳〵彼人より我身へ婚儀の話しありし、彼人とても文明の新思想を貯へたる方なれば婦女を奴隸の如くせらるゝ事は有るまじけれど又同等のことに熱心とも見えず寄らず障らずと、ふ事は一種の輕蔑にて共に談るに足らずとする心より起るなれば其點は誠に賴もしからねど左れど風采と云ひ擧動と云ひ學問は兄上も感服なさるほどなれば最好ましき縁組なり迚も我心と同じ心の人を求むるとも得られずば彼方にこそ身を任さめ愚者に尊まれんよりは寧ろ賢き人に壓せられんといふ俗諺もあるものをと脆くも情に負けんとして其の云譯さへ作りしが俄かにまた常の心に復り否々わづかに愛慕の雲にくらまされて平生持ちし精神を失ふべくも非ず我身まだ其人を撰ぶに遲き年にあらず嗚呼危ふし此身を戀の犧牲とせんとせし事よと雄々しき心を振り起せば胸の動氣も收まりて何やら氣になるお詞どんなお話しでございますと兄の居間の緣側の方に坐し悟られぬようト息を吐きぬ千本は膝の廻りを探りて煙管を取り此話しは親父さんがお歸りの上と思ッたがお前の心を聞てからと夫で呼んだのだが今吉川が來たのはお前の事でと云かけて詞が途切れたれば偖こそとお梅はまた更に動氣がするを顏の色にも現さじと念じて堪へる苦しさは夕ぐれ方の薄暗きをわづかに楯となしたりけり千本は詞の跡を繼ぎお前が毎度磊落で面白い人だといふ小石川の住田が是非お前を妻君に貰ひたいと吉川を以ての云込みだがお前の心は如何かまた串戲と云れるも知れぬが隨分住田はお前の薰陶で一かどの女權保護家と成る男だと云れてお梅は算用違ひしばし詞に當惑しさし俯向くに夫と察し可否の返事は今急な事ではない先づ話しだけして置きます最う親父さんもお歸り後に緩くりお玉も歸ッて來た樣子だと兄の詞をよき機會に立上りながら心の中には五月蠅世の定めや尼ともなりて獨り過さんと何やら失望の有樣なり

第十六回

女の奉公も口多し華族方の奥向きに仕へまゐらせ薔薇の香馨るお姫樣の御傍にありて遊び事の相手に永き日を笑ひ暮すゝあれば御新規さんロ

ースで一合と叫びながら重きを擔ぎて階子段を昇り降し短かき夜を更くるまで働くもあり或ひは太き井戸綱に攫まり氷を碎きて米を精げまたは新道の格子作りに看守の役を兼るもあり精勤功現はれて商家の後妻に擧げられ相思緣熟して馬丁の女房に果るもあり雇人受宿もとより誰彼に依怙なく雇ふ者雇はるゝ者また始めより相識る者ばかりに限らず其身々々の廻り合せ善きも惡きも働きぶりと深切の心一つなり千本の召仕ひお玉といふは父は三州吉田の藩士にて祿輕けれど義は重く昔しづくりの嚴疊なりしも六七年前頓死して跡には便る者もなく深見へ嫁したる姉の許へ來て一二年世話になり十五の年より五年ごし此の家へ雇はれて娘お梅とは姉妹も同じ睦み學問稽古の傍に置かれて習はぬ事も聞覺え元より賢しき者なれば却ッてお梅より學識は立優りて有れど愼しみ深く何事も内端にて貧しく育ちたれば望みは淺くたゞ快活に世を送る人に伴はれて良全の妻戀愛の母とならば足れりと思へり左れどもまた心の一部分を情といふものの宿にかしたる以上は幻しの影のいろ〳〵を空中に畫くことなきにしも非ず吉川速雄の姿形を見しよりお嬢樣には似合の御方鳴呼私も其身であッたならと想ふが胸に疊まりて及ばぬ事とは知りながらも忘られず先日の品定めにお梅が其人を大切に思はぬと云ひしよりいよ〳〵其身の戀は募れど家さへ有らぬ此身にて斯る方に願ひを掛るは我ながら榮耀らしいと叱ッて僅に堪へけり今日は主人の云付にて日本橋邊まで編物に使ふ毛絲を買ひに來り立歸らんとする本町通りにて上野の方より來る鐵道馬車淺草の方より來ると二輛續けさまに來りしに耄祿頭巾を冠りし田舍者が殼車を曳きてグヅグヅと來る其間へ日本橋の方より矢の如くに走せ來る人力車アレ危なやと思ふうち十二三の小僧を供にしたる五十餘りの女が避けんとして東側の軌軌に躓づき倒るゝにお玉は我知らず力を出して田舍者の車を突きやり老女の手を取ッて引立る此の時早く人力車は走せ拔け鐵道馬車も驅け過たり老女は慌てながら片脇に寄り偖も危ないところ貴君のお蔭で助りましたが貴女の右の手の御怪我は と云れてお玉は始めて心付き見れば車を推しやるとき輪で摺り剝きしか血が出て痛も强きに驚ろきしが手拭にて其處を押へイエ何ともございませんホンニ危ない事でございましたと一寸會釋して別れんするを老女は引止め此處で怪我がございますと私の身より伜の心配また名前にも拘はりますに貴女のお蔭で助かりましたゆゑ此禮を申したうござ。ます私の宅は最うわづか彼方へお歸りなれば何のこと是非お立寄り下さいまし、何のお禮に及びませう主人の使で急ぎますゆゑ、デモ御座いませうが是非に平に直鍛治町でございますから、夫なら御近所まで御一途に、心を破らず連れ立てば老女は悅びサア妾が手前の宅見苦しくとも先づ奧へ、イエ〳〵是でお暇と押問答の折から立歸る伜の速雄は見るよりオヽよい所へ歸ッた今本町の通りで車に敷れる所を此の御方に助けられましたよく御禮を申して、オヽお前さんは、貴方は、たしか千本さんの、ハイ召仕ひの玉と申します、マアお上り下さい、イエ使の道でございますからと俄かに顏を赤くして迯ぐるが如く馳せ行けり

第十七回

子は三界の首械とは惡い方の奧を云ひし俗諺子に增す寶世にあらめやとは善い方の上なし歌首械なりとて出來るものを防ぐもならず上なき寶といへど求めて作らるべくもなし荷と思へば荷寶とすれば寶それは作りし上の育て柄によりて差別はあるなり千本の父は男の子は其身にも優り賢く心術我恥かしきまで正しく且つ健か

なり娘はまた姿形うるはしきのみか心ざまも雄々しく花の盛りの年にまで達したり二人揃うての孝行に何足らぬ事はなし只人知らず涙の催さるゝ事は斯くまで子供等の立派に成長せしを見果ずに先に身没りし妻の今あらば如何にとの思ひやりなり是ほどの不足は誰が身にもあらんと自ら慰むれば其他の事は皆な打笑まるゝ事のみなるは目出たし今しも玉とも花とも見る二人の子等を我前に呼び火箸を灰に固くさして夫に雙の手を掛けて二人の顔をいと悦ばしげに打眺めいよ／＼お梅の婚禮話しの蓋が開きましたナ實は疾から其事は思ツて居たが何事もお前に任せて私はホンの傍觀の助言お梅も世間の娘子供よりは立優ッた氣性なれば心配する筋の事はなし我が夫を自身に撰むだけの見識は有ると思へば結句世話をやくよりもと口出しをせずに居ました如何せ此の一二年に極めねばならぬ事ゆゑお梅もよく考へるが宜い併し今の話しの住田氏は如何やら氣に入らぬ顔付だが外に誰ぞ目的は有るか私の考へでは久しぶりで先日見えられた吉川氏が至極似合と思ッたがと云ひかけて娘の顔を見しがまた急に倅の方を向きて詞を繼ぎ其人が今度の口入では住田さんは止して貴方に致しませうとも云れぬ義理また吉川氏も承知も成りにくい譯だが芳郎お前は何と思ふ、左樣幾許妹が伸張論を 私 に立付けてもさすがに此事に付ては例のやうに議論もされますまい住田はチト輕薄といふ難は有りませうが彼は見たところフハ／＼して居ますが内心はなか／＼固い男交際も上手なり學問も遂げた事はありますまいが何へでも博く渉ッて居ります妹とは反對な性質だけ却ッて善いかと思ひます吉川は 私 も最初に夫とは思ひましたが業に似合はぬ哲學家で細かく氣が付いて云へば妹とは同性質ゆゑ始めは兎もあれ終始の爲は如何ありませうか人物は上かも知れませんが實地役に立は住田でございませう 私 は住田なら宜いと思ひます、兄さんの御鑑定通りでございませう併し如何やら 私 は考へが決しません、夫なら先づ二三度逢ッてよく氣質を糺したうへとしたら如何だ吉川も媒妁人となる譯ではない只話しの中次だけだから妹御が住田と直接の交際をなして下さるまでに至れば使命は果したといふものだと云て歸ッたから、夫ではアノ、左樣としろ左樣としろ

第十八回

一筆しめしまゐらせ候其後は御變りもなく御勤めなされ候か追々春めき候につき例の齒のいたみは如何にやと御案じ申候先だッて御賴みの衣類誠に／＼不手際に候へども仕立上げ候ゆゑ持たせさし上候綿は薄くとの事には候へどもまだ餘寒も去りやらぬ程の事なれば肌寒くなきやうと能いのを撰み チト多く入れ申候我家に居ると違ひ俄かに寒しとて心のままに重着をなさる事もなるまじく無理に堪へて寒氣にてもお引込みなされてはと心づかひ致し候くれ／＼も御身大切に御勤めなさるべく候來月十四日は母上の七年忌何とぞ二人うち揃うて御參り致したく候御存じの如く宿にても心に任せぬ事ばかりに候ところ先頃お話し申候ふらんすへ送り候綺大そうあちらの人の氣に入り候よしにて其御方此ほどお歸りにて多分の悦び下され誠に／＼嬉しく定めてそもじ様も御悦びの事と存じ候それゆゑ夫も元氣よく跡註文の綺を毎日々々精出し居られ傍にて 私 もいかほゞか嬉しく嬉しく氣も引立申候近々に其御方の御世話にて池の端とやらへ引移る都合にもなるべくやとのこと少しは住居なども

綺麗になり候へばそもじ様の榮にもなるべく候其の御方と申すはそもじも御存じの黒門町の山中様に候それゆゑ來月の年回には夫も一途に參るべくと申され樂しみ居り候私一寸まゐりて御目もじのうへ御話し申したく候へどもそれゆゑ隙なく使に頼み文にて申上候かしこ

尙々仕立あまりのきれは此方に取り置き申候古き襟はお貰ひ申し洗うて私のにかけ候

駿河臺紅梅町　　入谷村
千本さまにて　　姉より
おたま様

御手紙拜しまゐらせ久々にて姉上様に御目に掛り候やうにて嬉しく有難く存じ候御いそがしの中をも憚からずいつも我儘の願のみ御叱りもなくわざ〳〵御屆け下されしんから〳〵御禮申上候夢のやうに過ぎ候月日もはや七年とや母さまの御年回には是非此の御仕立下されしを着て參るべしと今より其日をかぞへ居り候何より結構なる御使りは兄上様の御出世我身の事より嬉しがりまゐらせ候定めて姉上様にもいかばかりの御悦び尙ほ此上に一き御出世を祈り上げまゐらせ候爰許御嬢様も御目出度御話しにて何や角や賑はひ一寸姉様兄上様の御機嫌を伺ひたしと存じながら參りかね候私も少し御話し申したき事御座候がいづれ御目もじの上と書殘しまゐらせ候しかし御心配の事にてはなく候此事兄さまへは先づ御話しなく願候御たづね下され候簡のいたみは今年は忘れ候やうにて嬉しく是も姉上様御いつくしみの餘光と有難く存じまゐらせ候急ぎ候まゝ廻らぬ筆の尙さらなれば宜しく御推もじ願上候かしこ

此の御菓子只今御奧よりいたゞき申候餘り見事ゆゑ御返事に添へてさし上まゐらせ候

姉上様まゐる　　たまより

第十九回

神田鍛冶町の吉川の母は先ごろ室町通りにて車に敷かれんとせし驚きよりか心地例ならず飲食平生の半ばにも及ねば孝心深き速雄は日夜看病怠たらず其身も痩せるばかりなり今日も外の用の次手風月堂にて菓子を求て歸り母親さん如何でございます何か上りましたかソップが幾ら滋養になると夫ばかり上ッて力が付きますものか此間民造が持ッて來た蕎麥饅頭が宜いと仰有ッたから取て來ましたナニ喰りませんマア御覽なさい肌が綺麗で甘さうだお先へ一つやりますお竹私に茶をお呉れ母親さんどうでございますと喰べて見せるも母の食氣を催させんの心遣ひ夫と察して笑顏を作り其様に心配してお呉れでない只少し胸が痛いばかり夫も絶えず痛みはせず喰物は平生とて此のくらゐなもの今も新聞を讀ませて聞いて居ました併し私の榮耀に云ふのではないが斯ういふ時にお前のやうな優しい氣性の嫁が居たら尙さら樂で有らうと思ひます私の都合でお前の了簡を枉ても惡いが何處へも出ずに退屈まぎれ其様な事ばかり思ひますと嬉しき話しも老のくせしみ〴〵として涙ぐめば速雄は大いに打笑ひ母親さん夫だから頻りに私も探して居りますが目うつりがして極めが付きません寧そ貴方が御見立なすッて下さい曩日私が母親さんの代りに臺所へ出て魚常が來たときグッと通のつもりで手鉤で比目魚を引かけると旦那とんだ所へ疵をお付けなさる魚は斯うして此處へ打込むものですと講釋を聞いたらへ柔かいのを押付られましたどうでも目

利は母親さんが御上手だと戯れるに元氣よくお前とした事がいかな事でも魚と嫁とは一途になりません私が貰ふお嫁では有るまいしお前が貰ふのだからお前が目利をするが宜い買被りの無いやうにオホヽヽホと打笑へば速雄は眞面目に頭を搔き其の買被りが恐しい衣類や道具なら諸方當ッて見て直を極るといふ事も有りますが是ばかりは一寸本直が分りません柔和て無口と見えるが馴れて見ると存外ハネで饒舌で有ッたり束髮で編物稽古が獨りの時は針をなくして呪ひの歌を詠むから見かけばかりでは踏込んで直が付けられません併し身分の低い者は其の付加への飾りをして居られないから自然と天眞が顯はれます夫に始終感謝の心持が有ッて宜からうと思ひます世の中に一種何でも惡く云ふ質の者があッて今居ない昔の人や面と向ッて辯駁の出來ない人までを恨もないに惡く云ふのが有ッて聞くが否でございます其樣な者は果は天氣の晴陰まで一人の便利の爲に褒貶致します何でも有難いといふ氣のある者をと心掛けます、其の詞ではお前もまた掛かまひの無い人を惡く云ふやうだ串戯は措いて私も左樣思ひますお前の氣に入るか入らないか實は心當りが私に一人有ります、母親さんの御意に入るか入らないか實は私にも心當りが一人ございます。

第二十回

櫻が美しと云へば木瓜が面白しと云ひ沈香に寺臭いと鼻を摘む者あれば石炭の臭で食が進むと悅ぶあり痩たを意氣と褒めれば肥ッたを愛くろしいと賞す心々の別ちあれば萬人同好といふ事は難し難いところに妙味あり吉川速雄は千本の侍女お玉を一日見しより何となく其容貌心に忘れず一二度同家へ行きたる折り見かけたれど未だ詞は交さずたゞ其の擧動を窺ふに迫らず綏かならず愛敬ありて物つゝましき樣子なれば斯る婦人なれば總て家內の事を託しても過ちあらじとまで思ひたるは我母をいたはり呉れたる折の話しに深切の程も知られぬいでや其禮も述べ千本にもよく平生を聞き親許を尋ねて差支なくば妻にせんと早速千本へ行きて知り合の中なれば心のうちを隱さず話せば千本は悅び左樣なれば彼の仕合は妹にも增したり彼の親許は云々にて彼の氣質は斯樣斯樣學問は口に出して人に示さねど生中の學生は爪を喰ゝなるべし親許が不都合と思召さば拙者方より諸事見にくかず取計らふべしと云ふに否夫までの御配慮にては痛み入る餘所ながら當人の存意をお聞き置き下されいづれ其うち參上せんと賴みて歸りし後母の病氣に脫れがたき用事の外は家を明けねばしばらく千本へも行かざりしが今母との話しに付き此事を云んと思ひしが先づ母の了簡よりと問へば母は悅ばしさに膝を進め私の嫁に欲しいと思ふは外では無い此間車に敷れようとしたとき救ッて呉れた千本樣の腰元名はお前に聞てお玉と知ッたが親許は何所か何者か知らぬ夫を糺して不都合なくば彼娘が可愛いと思ひます斯う云ッたからとて屹度夫がと云ふのではない私の思ふ所は斯うだがお前の考へはと割符を合せたやうな詞に速雄は少し面を赤め是は不思議私も實はそれで、オヽお前も彼娘が宜いと思ふか夫こそ緣の有るといふもの少しも早く併しお前が自身では何ぼ構はぬ心でも異なもので有らうから民造に云せたが宜からう、先づ千本の詞を聞て其上で親許への掛合は民造に託すと致しませうと母子睦まじく相談を極めて夫なら是から千本へ行ッて參りますと速雄が立出たる跡にて母ははやお玉を迎へ取りし如く悅び奉公するほどなれば支度も整ふまい彼の小袖を直して着せませう彼の帶もやりませう昔し物だから氣に入るか如何だか頭の物も讓ゝませうお竹や暦を一寸イヽエ夫ではない正眞本

になッた暦オ、それ〳〵と眼鏡を掛て病も忘れいそ〳〵するも倖の可愛さ親の心ほど世に有難きものはあらじ

第二十一回

同じ使にても吉事と凶事とにては骨折の生死あり借金の催促などは我物にもならぬに借人の否な顏を見て理窟の出やうに依ッては立ずともの腹も立ち怖らしい眼付もせねばならず知らぬうちに我が相好も惡くならん夫にはかはりて民造は目出たき中の目出たき婚姻の掛合も下話しは千本方より届いてホンの表向の使の役目只氣を詰らす一事は萬一不緣起な無益口が我が咽喉より出づるも知れじ自分と嗜んでも平生の饒舌不用意にヒョイと出ては大失策身で身の取締りが自由にならぬ斯ういふ時には咽喉佛峠に巡査派出所を設けたいものだと我手で口を押へ池の端の深見へ來り聲づくろひして私は神田鍛冶町の吉川より出ましたがと云入れゝば深見にても兼て期したる目出度話千本よりもお玉からも悉く聞き今日使が來るといふ事も薄々知て有れば其處は端近まづ〳〵二階へ階子段が急でございますと丁寧のあしらひ二階の座敷の唐紙際へイエ是で宜しうございますとヘタ〳〵辭儀をして陣取つて動かず魚淵は出來りて先づ彼へと云へど身を固めて隅へ寄るゆゑ據ろなく上座へ着き初對面の挨拶終れば爰ぞ晴がましき場所なりと扨今日上りましたは兼て紅梅町様から御沙汰もござりましたか御妹御を手前主人の妻女に申し受けたく御相談に上りましたと何十遍か道々繰り返して來た短かい口上を述れば夫は冥加に餘りました儀何はしかれ麁酒一つと用意せし饗應に民造は役目をしまうての後なれば安心して數杯傾けイヤ斯樣申すと何か仲人口で申すやうなれど手前主人は若いに似合はぬ篤實にて兼て書畫器物などを愛しますれば定めて貴方とも御話しが合ふことで老母もまた至ッて情け深い〳〵で定めて妹御を大事がります事で前の事でござりました仲働きに置きました女が下り際に涙を流し隨分私諸方渡り歩き少し主人が叱言でも云ふといよ〳〵胸氣になッて麁相のやうな顏で大切な品など打破て腹愈せを致したものですが此方へ參ッてから一度も暴いお聲を頂かず先度御親類から硝子の湯沸しが參ッたとき私が仕舞はうとして取落しハット當惑の心の中では定めて嚴しいお叱りと思ふに違ッて御隱居様は御腹立の顏もなくオヽ危ない怪我をせぬやうに碎を集めて捨てな斯ういふ毀れ易い品は毀れて仕舞ふまでは氣遣の物だと仰有ッたばかり生れて始めて眞實に麁相をしたと御詫び申し夫が骨に染みて物事が丁寧になッたは有難いと朋輩に話しました中々渡り者の下女などが心から降參するものでは有りませんが此の一事でも御推察と身振をまぜて饒舌しが下女といふ詞は緣女へ差合此奴は一番出損ひウカ〳〵此の上何を込み上げるかも知れぬ襤褸を出さぬうち歸らんと心づいて俄かに暇を告げいづれ取交せの日取等は近日打合せ致すべしとヒョロ〳〵として深見方を立ち出でアヽ能い心持に醉つた燈のついたのをチッとも氣が付かなんだ眞黑な上野の景色もまた能いわエおッと危ない石に躓づいて此の流れへ落ちては大變、テナ是は不思議だ紙入がないオヤ袂にもなし若し今の家へ置いて來たか知らん紙入はございませんかと歸れもせず彼處に殘してあれば屆けて呉れるだらうイヤ左樣は云て居られぬ彼中には地代の集めが十八圓餘コリャ大變餘り目出たくないぞと醉も興も醒果て深見方へ取て返しぬ

第二十二回

白き富士を黒く殘して西の空の雲の色紫色に輝くと見るうちやゝ色濃くなりまさりて終に富

士が根も空の色も同じになれば谷中上野の森へ歸る鳥も影を不忍の池に止めず家々の火の影星なき夜にも照りて宛がら油繪の額なり鬼島崑山は根津の方へ行かんとして通れば胸惡くも深見の二階に蠟燭の影明るくさゝめき笑ふ聲に耳を塞ぎ眼を閉ぢんとせしが生憎に彼の民造の高聲障子を洩れて妹御といふ詞が續けて二つ三つ落ち來れば崑山の足は誰れ命令せねど自づと窓下に止まり耳は正月飾りのソギ竹の如く頭はいつとなく斜めに傾きて十分に力を入れたり眼は當分非職を仰せ付けられて見えゝせぬ地面を見つめ肝腎の時に到れば閉ぢられてありしがしばらくすると耳はまた非職となり眼は時めきて勇ましげに瞬き二つ三つして二三歩跡に退きて光らせしは正に今民造が暇を告げて魚淵の家を立ち出づるところなり跡より七八間離れ足音を忍んで塀際を傳ひながら様子を伺へば民造は何か小唄を唸りながら半町ほど行きしが小石に躓づいてヒョロ〳〵と三四間先へけし飛んだり何か呟やきながら其邊を探り居しが頓て忙がしく元來し方へ取て返しぬ彼奴生醉め煙草入にても落せしか云ば己の望を妨げんとする邪魔の片われ落ちて有らば拾ひ得としてやらんと地を透し見れば物こそあれ取上ぐれば紙入なり元より贋物を書いて口を糊らすほどの横着者なれば四邊を見かへりてチャクと懐中へ收め足を早めて我住む家へ歸りけり

此跡へ提灯點して出來たりしは民造と魚淵にて此所等で轉びかけましたが若や其折でも落しましたか何でも此邊と存じますがと往來を照して探せども無きは道理今拾ひ行きし者ありとも知らず魚淵は眉をひそめ宵暗の此の道落したを知ッた者でも手輕くは知れまい殊更人も多くは通らぬ今の間ハテ不思議な、ハテ不思議な貴君の御宅で何も紙入を取出した事もなしハテ不思議な、兎も角も其筋へお屆け成されたが宜しからう正しい人に拾はれてはや紙入は警察署へ參ッて居るかも知れません、成程左様致しませう併しお目出度の御使に參ッた今日夫も如何しいハテ酒は怖いものだ、左様仰せられると御强ひ申した我輩が痛み入るハテとんだ事でござッた

第二十三回

釣り落した鯉は大きく買ひ外した品は安し侈諦らめても出るは愚癡それを抑へて上を塗る世の交際の美しさ花を並べし千本の家には妹が婚姻の下約束住田も今が土俵際投げ出されてはと四十八手の祕術を盡し求めて氣を取らぬ振も氣を取る一つの咳拂ひも迂濶にせず眼づかひも方角を兼ね萬事を抛ッて此一事に取掛りたれどお梅の取口大いに違ひ此ごろでは住田が來ても避けて逢はず逢うても兎角口重く進んで話しを仕掛ければ泣出しさうな日和ぐせ女の心は春の空なり、お梅は女權擴張の雄々しきにも似ず鬱陶として物思ひ顔なるは中よきお玉の悦びに付てなり之を嫉むといふにはあらねど一たび我が胸の鏡に寫せし人が召仕の者の太陽となりては其身は此世の光りを失ひし如く嗟嘆の聲の思はずに出で手足も萎えて何も懶く身を投げかくる安樂椅子安樂のみはなき世なりお玉はまた主人より吉川の事を聞しとき飛立つほどの嬉しさを隱して頻りに辭退せしが浮氣ならぬ眞實話し此事が整うたら我身の上ばかりでなく姉さんも嘸やさぞ悦びも仕玉はん世間に肩身も廣からん及ばぬ願ひ雲の梯屆きし事の嬉しやと思ふにつけて何とやらお孃様の浮かぬお顔解せぬ書物にかこつけてはお出なされど如何やら私の今度の事が御心に掛る御様子たとひ此身は出世しても御恩になッたお梅様の胸の惱みの種となッては何より罪の深いことハテ能い思案を姉様にかりそめならぬ身の定まり氣を弱くはせられぬところ人の恨を受けようとも此身の出世

を：：イヤ〳〵如何いふ身分になツたとて中夜の夢に魘はれて汗に襖を浸すやうでは此の結構な世に住む甲斐がない身は低くとも心を安く明らさまに送りたい寧そ此事は堅く斷り餘り違ツた望みを斷らか：：左は左りながら吉川様のやうな御方に連れ添ふは女の中でも女の面目入らぬ義理立は思ひ過し障りなくて婚禮を遂ぐるやう亡き父母に祈りませうと彼方此方へ瀬を分けて心は千々に亂れても末は一つの愛の海波安かれと願ふなるべし

第二十四回

勢ひ抜けて立歸りし民造は様子いかにと待ち居たる速雄母子の前へ出で滯りなく御使の事は濟みました先方様でも兼て紅梅町様から委しい御話しで殘らず御承知大層お悦びでござりましたと云ふに母子も安堵なし夫は大きに御苦勞であツた竹や膳をお運び先づ一杯骨折休めにと云れて民造は頭を搔き酒は懲りました當分禁酒の覺悟でござります、如何したものだ話しをしても涎を垂らすお前が禁酒とは思ひ切ツた事だ何かまた失策でもしたか、先づ其形でござります、民造お前の見たところで姉聟の方は能い方らしいかヱ、左様正直らしい人で住居もなか〳〵立派にしてお出でございます、何だか様子が異しいが何か氣になる事でも有ツたか、實は飲醉まして何處へやら紙入を紛失致しました、ヤ夫は大事だ澤山でも入ツて居たか、ヘエ例でございますとお宿を申す惠比須様も少ないのですが生憎地代の集めを御納め申すつもりで十八圓ほど入れてござりました夫に紙入は貴方からの拜領で夏雄の金物あれを取ツて小ぶりでは有るが煙草入に付けようと思ひましたにとんだ事をしてしまツて實に力が抜けました殊更御目出度の御使で此の失策夫も是も酒の爲でございますから以後禁酒を致しますつもり誠に實に恐れ入りましたとショゲ返るに母子は氣の毒に思ひ今に大かた拾ひ人が出て戻るで有らうそして失くしたは何邊だ、其處がサツパリ分りません池の端の深見様を出まして十間とは歩かぬうち心付いて懷中を探ると無いので行違ツた人もなし是は不思議と深見様へ取て返して若し置忘れたかと聞合せ夫から深見様も提灯を點して共々お探し下されたが御座りません厄落しとも諦らめ兼ねます儀でと溜息つくに速雄母子も何となく心地惡く詞も途切れて民造は立ち歸りたる跡に母子は顔見合せ是だから酒を呑む者は表立た使ひなどに出せません先様でも嘸御心配をなされたらう酒といふものは何に付てもよくないもの失策の種は皆な此滴に滋うて芽を出しますと世間話しに移りけり

第二十五回

千丈の堤も蟻の穴とやら拵へる話しは面倒なれど毀すは早し杉形に積みし俵も隅の一つを外せばグズグズと崩るゝが如く好事魔障多しとやら折角天縁熟せんとせしお玉と速雄の身の上に思はぬ事こそ起りけれ夫は兩人の中にはあらで彼の鬼島昆山なり左せる恨の深見一家にあるにはあらねど只魚淵が元は我と同等の貧究なりしに突然身を抜いて時めく者となりしより其嫉ましさと二つには口には未だ云出さねどお玉を兼て女房にせんと頻りに魚淵夫婦に取入し事の無益となりし恨より何とかして彼の一家を困らせ元の貧究に落し婚姻破談させあはよくば再び我望みを達せんとの悪心に民造が落せし紙入を拾ひ久しぶりの神功皇后忝じけなしと紙幣は着服せし後ち其晩更てまた魚淵の家の様子を窺ひ塀の外より殼の紙入を庭へ投げ込みて立歸れり翌朝お鈴が是を見つけマア御覽なさい昨晩お出の方が失くしたといふ紙入が爰に在りました、成程是に相違ない帛紗、包んで結

び目もしッかりして有るに自まゝに開いて中も改められぬがまだ先方の御當人母御にも御目に掛らぬに己が持ッて行ッて屆けるも異なものだ併し彼方は心配してお出だらうから是は確かに使を撰んで吉川樣までお屆け申さう横町の角に出る車夫の中なら間違もなからう正直さうなを呼んで來いと下女に命じて其身は手早く書簡を認め今朝心づけば庭のうちに落ちて有ッたゆゑ其儘差出す旨にて小風呂敷にて外包みし大事な品ゆゑ請取を貰ッて來いと云つけやりたり吉川方にては此手紙と包みを請取り夫見よ民造めが醉の紛れに庭へ落して此の手數と心配を掛けたり困ッた者よと早速に呼にやり車夫には祝儀を與へ風呂敷包み一つ確かにと請取を渡して返したれば深見方にては是にて仔細はなき事と安心し噂に出るは酒の事のみなりし紙入が來たといふ知せを聞て民造は飛で來たり誠に申譯もござりません全く私の麁相でへイ是から直に池の端樣へ御詫に參りませうヤレ〳〵有難い又お前さんにお目に掛りますと幾度か紙入を押し戴き念の爲めなればと結び目解いて開けて吃驚オヤ、オヤ、オヤとキョロつくに如何した金でも不足して居るか又途中で遣つたのを忘れたのではないかと云れて民造は顏を眺め不足したなら泣ませんが紙幣だけ皆無ございません是はマア如何した事か夢のやうだと手を組むに速雄も不審の眉をひそめ庭に落て居たと其まゝ屆けてよこした中に紙幣がないとは使の者が途中で拔たか上包みの封は其まゝ左樣した事は有さうも無がと云に民造は横手を打ち斯う申しては如何なれど考へた事を申さぬもまた如何實は五六日まへ私共から足袋の下縫を受て行く女が金澤町邊にございまして夫が牡丹の繪をかいた羽織の胴裏を持ッて參りまして一圓だが買はぬかと云ふに紬もよし一圓は格外安うございますから何處から出たのだと聞ますと又頼まれゆゑ委しくは知らぬが池の端で上手な繪師で頼まれた絹や紬を賣こかして知らぬ顏は度々のこと隨分惡い事をする者ださうですが盜み品では有りませんといふに身戰ひして歸しましたが若や夫が、コレ何を云ふ人が聞かぬから能いが無暗に饒舌ものではない、デモ急に工面を善したなどは怪しうございます綺麗には云て居ますが何だか度々金が欲しいといふやうな口振もございましたから

第二十六回

住田亮は吉川の紹介にてやゝ心ざす花の下まで至り付き爰ぞ一世の伎倆の顯しどころとわざとお梅には夫ほどに近しくせず先づ兄に説き父と論じ徐ろに我が才學の程を示せば父はいたく感心し今の若き人は我等の時代と比べては頭腦を三つ四つ餘計持ちて生れしやら驚くべき事なりと舌を捲けば兄もまた三年逢はずば刮目して見よとは此男の上なり妹婿として賴もしと心を傾けけるがお梅は未だ信用せず成ほど少し輕躁なるは敢爲勇壯の精神より沈思默考せられざるならんと察しらるれど何かにつけて妾の旨に適はんとする風情有るは英雄の氣象にあらずいかに妾に心ありてなりと自ら屈して媚を求むるは卑しき業なり斯る人は色衰へ熱冷めては常の者より無情なる振舞をなすものなれば敬して之を遠ざけ また別に良人を撰ぶに如ず殊さらお玉は吉川氏に戀られて目出たき縁を結ばんとするに我身夫より品下りたる人に伴はんは恥しき事なり今一二度近しく逢うてよく〳〵住田の本心を探り其上にていづれとも身の納りを決せんと密かに胸を定めたり住田はまた種々に工夫をなし下手に容貌を作り急に衣服など花麗にせば却ッて疎んぜらるゝ基なりト云て彼も春待づ花目に麗しきを好まざらんやめかさず穢からず其中を執らんものと骨折りしが御祈禱賴み

の病人の如く始めの樣子より次は惡く四度目は三度目よりむづかしく追々否氣な風模樣見えるにぞ沖釣に出て颶風に遭ひしほど驚き何とぞ是を追手に吹き返させんと一夜まどろまずして肝膽を碎き二三日措いて左あらぬ體にまた出かけると此日はお梅もよく住田の本質を知らんと思ひし時なれば先とは變りて愛想よく話しかけるに機を得て住田は得意の辯舌を振ひ諸種の改良論の批評を始めしが終りに至りて近ごろ女子が俄かに目を醒して男女同權など云ふは片腹痛し我輩元より女子を同等ゝ者とは認むれど同權とは意義違へりと口を極めて同權說を駁せしにぞお梅は美しき瞳を見はりていと口惜げに辯解すればまた住田は打ち返し互ひに面を赤め合ふに千本は苦々しく思ひ傍らより詞を交へて外の話しに移らせしが住田は不興氣にて其日は歸り又一日おきて千本を音づれお梅の顏を見ると彼の非同權を繰り返せしがお梅も先の日には我ながら危ふかりし節もありしゆゑ尙ほ熱心に我說を繕ひ置きし所なれば得意に女權を主張して是まで敢て人には云はぬ學びの底を倒まにしたれば流石の住田も辭屈し呼吸もいとゞ急しげにてさし俯向きしがやゝ有りて面を上げ感服したる體にてお梅の顏を眺め敬慕の情を顯はせばお梅も始めて愛慕の情起り手を携へて庭へ出るに千本は案に相違なし跡見送りて獨り言これは妙な事だ今まで喧嘩のやうで有ツたが急に中が直ツた如才ない男に似合はず住田が妹に禁物の議論を向けたは如何した譯かと思ツたが毒藥變じて藥となツた、ハテナ、

第二十七囘

障子の紙一枚隔てゝも早や人の影は見えず詞を他人に移しては間違なしとも信ず可からず人傳ならで云ふよしも泣て涙の瀨も盡きてなかなか今は袖滿れぬお玉の身こそ氣の毒なれ吉川よりの下話しに後來朋友の妻となる人と知りては呼び遣ふも憚りあり且つは其支度等いろいろの用事あるべしと千本にては急ぎ代りの女を置きお梅よりは小袖一重ねに兼て秘造の手箱を與へ千本よりもそれぞれ心付けまた向島に居るお梅の伯母もお玉を可愛き者と云ひていろいろ贈物あり悅びに送られて姉の家へ戻り每日吉川より再度の挨拶を待ちけるが五日過ぎ十日經てど更に沙汰なし魚淵も氣を揉めど此方より催促にも行けず若や紅梅町の方へは話しありしかと夫となくお梅の機嫌を伺ひながらお玉が行きて見れど其の樣子は氣振にもなくお梅は以前と變りて住田と親しみお前のお目出たは何時ごろ私も彼の……何方が先になるだらう先の者が敎師だよといそいそしての物語りイエ此方は何の沙汰もございませんとも云へず悲しみを隱して姉の家へ歸れど何とやら面伏せ又魚淵夫婦も妹の心を汲み分けては其の事を話し出すも氣の毒にて二階の障子明放しても心は寒がる三人が胸のウヤモヤ立こめて上野の山は霞まねど霞て見ゆる折からに彼の民造が先生は御在宅でござりますかとの音なひ鶯の初音と聞なしてサア此方へ漸やく春らしく先づ是へと挨拶やら口誼やらまだ茶も出ぬうち杯盤の響きへイお誂らへと臺所までが俄かに勇み出しぬ魚淵は例の取交せ物などの打合せ又は婚姻の日取りならんと片唾を飮んで其詞を待てど民造は頻りと眺望の景色を褒めまた書かけた枠張の畫を賞し少し途切れて再び時候の挨拶となり元へ戻ツて辨天の境內蓮の時分はさぞ御見事で御ざらう抔と捕へ所なき言を並べ其の合の手に煙草を捻るばかりなれば魚淵は心中大いに不審し此人先づ時候の挨拶濟まば兎も角も此間落せし紙入の一禮を述べ夫より用談あるべきに紙入の事を一句も云はずまた用事も述べざるは偖は緣談變改の使と見えたり此方より求めたる事にてはなく其方より强

て云込みながら今となりて破談などと云ば其分には置くまじきぞと急に身體中へ青い筋が顯はれ吐く息は比良山下しの如くキッと民造の顏を眺めしが幸ひにも此時民造先生は詰ッた煙管の脂を取らんと右の手に遣ひかけの小楊枝を持て下を向き灰吹の蓋を取りし時ゆゑ我が頭の上へ如何なる妖怪が顯はれしかを知らざりし魚淵はわざと面を和らげトキに民造殿定めて今日の御用は結納の儀また日取の御相談で御ざらうが此方は一刻も早きが宜しい總て貴家の御都合にお任せ申す餘の儀と違ッて婚姻は人生の大事遊び事や串戯と一つにされねば我等方にても分相應の用意は早や致しました定て貴家にも御用意は整ひしならん偖何日と御極め下さるぞと嚴格に出られて民造はおびえ上り土氣色と面はなりぬ

第二十八回

疑ひの雲心を掩へば石燈籠も鬼と見え天井の木目も人の顏となる民造はいづれにて聞來たりけんお玉は兼てより鬼島昆山と約束ありしが今富貴の家より婚儀を云入れたるゆゑ俄かに昆山を疎んじ約束を破りたるに昆山は怒り切ゝの突くのと大悶着掛合中にて候と速雄の母に告げたるにぞ母は大きに驚きて姿形は優しいなれど慾德づくでは鬼ともなる世の中若し左樣したものでは有ッては大變ゆゑよく平生を調べて呉れよと頼みたれば爰ぞ御奉公の仕時と我家を飛び出したれどチト物が承はりたうございます此方の御隣家の畫師は如何いふ者で彼の妹は色男でも御ざりますかと頭から尋ねもならずハテ智慧の有りさうなものと上野の腰掛より池を越して魚淵の二階を遠く眺めながら腕を組んで居ると叩き出しの二子唐桟裾のところの捲くれた羽織白金巾の小包を背負ッた男と半纏股引出立の者が話しながら連れ立て來たが昆山といふ聲が不圖聞えたので跡について行くと二人は廣小路より三橋へ掛りながら昆山め何で當たか近ごろメッキリ工面を直した深見さんのは腕が有ッて……(此うち水撒に驚いて半纏の男はチョッと揚出しの前の方へ飛びたるが忙がしさうに橋を越して辻雪隱へ立ちて反り身となりぬ)民造は話しの蔓をなくしてはと思へど出たくもなきに小便の連となりては怪しまれん左りとて先へ行き過ぎては惡し立止まッて居るも異なものと思へば入りもせぬ張子の龜の子辻賣の手遊を一錢五厘散財し丁度頃合を計ッてまた跡から付くと先の話しは續かずして豪氣と美しい近ごろ歸ッて居ッてメッキリ器量を上げた彼をサ昆山めが目がけて居る、及ばぬ鯉の瀧登り今度出た應擧物は誰が拵へたのだ……是ぎりにて跡は何の事やら民造には分らず併しながら昆山といふ者とお玉と關係あるは相違なく先端緒を得たりと早速立歸りて此話しに少し味を加へて復命したので母は少し疑ひ出したれば速雄は取らず先日の紙入の事から何となく民造が不快に思ふよりいろ〳〵の妄想を起すは無理ならねど左樣な事はない婦人だ馬鹿を云へ惚れ込む抔といふ事が有るものか併しだん〳〵考へると深見魚淵といふは入谷の岩田さんの御近所に居た人で既に一度店の藤兵衛が云付て竹松を使にやッてとんだ失禮をした人なれば何事も岩田さんが御存じで有らうと實は此間入谷まで尋ねたが生憎熱海へ湯治に行かれた跡で有ッた疑ふなら岩田さんの歸りを待ッて仔細をお聞き申すが宜い人の噂は聞所に依ッて違ふもの況して通りすがりの話しなどは迂濶に信じらるゝものでないと云破りたれど母親が危ながりて大事を取るにぞ然らば四五日期を延し岩田さんのお歸りを待たうと偖こそ民造を魚淵方へ使によこしたるなり民造は甘く文どッて日延させいよ〳〵惡き時には破談にする下地を作ッて置かんといろ〳〵

軍略を貯へて來たりしなれど魚淵の樣子に氣を呑れグット詞は支へて實はナニ母親樣が實は御病氣に付きまして御目出たい事ゆゑ實は御床上げイエ夫ほど重病でもござりませんが夫ゆゑ實は今日は其事を御斷りの爲め參上致しましたいづれ近日改めて申上げますと逃ぐるが如く同家を立ち出で冷汗を拭ひながら吉川へ來て其の模樣を話す折ふし岩田善庵でござる久々御不沙汰仕ツたといふ聲オヽ幸ひと奥へ請じたり

第二十九回

トント打絶えてイヤ誠に御無沙汰御母公も御壯健何とか申すものゝ醫師などは餘り近しく參らんが御目出たい仰せの如く……御詞の通り……イヤモ相變らずで然し此の元氣が衰へては岩田善庵も永くはござらぬ左樣いつ上りましたかナニアノ御兄樣が米國へお立ちのとき伺ツたぎり卜申せば御兄樣も御健勝で夫は何より何時ごろ御歸朝ハヽア本年中は夫はなか〳〵シテ貴方もナル御兄樣と御交代イヤ中々御緩りとは參りませんな併し我々から思へば何か海外へ參るといへば生を變へる程に存ずるが貴君方では天涯比隣いかさま夫ほどの大腹中で在らせられなくては成程ハヽア、で、ござりますか…左樣—愚老も熱海入浴全快醫師が湯治に參るといふはチト異な譯でござるが自分の病氣は自脈ではいけません夫にナ實の所を申せば未熟な者に試されるよりは柔かに湯治などの方が宜しうござる自家撞着と申せば昨夜戻りました年々によくなりますは湯治場イヤモ大繁昌此うへ鐵道の便が付きましたら尚さらの事でナニ、其事で……ハヽ……拙宅へお尋ね下された……生憎不在で恐縮千萬……是は目出たい……定て悦び……夫はとんだ……ハヽア……と云お話で……成程……是は怪しからん……どうも不思議……其お話しで皆分りました……よい所へ參り合せた……彼の深見と申す者は誠に感心な者で決してどう致して成ほど仰有る通りお玉といふ妹これも感服な者で拙の宅へは毎々遊びに參ツてよく存じて居ります御隱居ナニ御母公御安心なさい彼の娘なれば斯く申す岩田善庵何所までも御請合申す憎い奴は其の鬼島昆山と申す者で愚老も兩三度魚淵方で出合ひました業體に似合はぬ奴で實は不在中度々魚淵より尋ねて呉れましたので今朝池の端へ參りましたところ丁度其の昆山の噂でお聞きなされ繪を書いては迚も世を過ぎられぬと思ツてか恐しい事を巧みましたナニカ紙幣を描改て十錢を半圓に遣ツたとやらで昨夜捕縛になツたとのこと苟しくも風流韻事の片端をも解した者がいかに窮すればとて情ない譯で憎い奴で中々妹と關係が有る抔とは以の外怪しからん事必竟間の話しが屆かぬからの間違御母公御安心なさい不肖ではござれど是は愚老が御媒酌申す事に仕りませう然し此の御席へ參り合せて斯く事情がサラリと分るといふも御緣のある事で……成程……其邊も承知致しました……成程大きに左樣で……宜しう御ざる善は急げ……夫では深見方でも嘸立腹イヤナニ心配致して居りませう斯樣な事は隱さずに手違ひの次第を申すが宜しい直に池の端へ參ツて是にも安心させませうイヽエ夫はイヽエ御酒はまた立歸ツて緩り頂きませうアヽお送り下されては恐れ入る御母公は其まゝに是は民造殿大きに失禮ナニ車をお命じ下されたか恐縮な儀で

第三十回

一度は己も彼樣した事が有ツたツけと油團の掛ツた釣臺を見て懷舊の水涕を啜る老人も彼樣にせうか此の女と極めようかと先は知らぬに獨極めの若者も一寸ふうちやん御覽なさい立

派だことどれがお嫁さんだかツイ顔を見ませんでしたよとけなりがる娘もマア綺麗に頭の物ばかりでも大變な直打だよと下卑た所へ氣の付く年増に至るまで一種いふべからざる趣きを此の婚姻といふ事に置くは面白き事なり傍で見るさへ斯ばかりなれば其の當人の胸の中いかなる烈女豪傑もドキリと洪濤の打ち寄せて紅の潮美しき面にさすこと一度は有るべし有るべかゝりの式作法爰に申すも管といふクダは目出度此の宴席に憚りある事なれば高砂の尉の熊手をかりて松の葉ならねどザットかくべし

岩田善庵の骨折にて事はサッパリと埒明き夕立の跡の空と晴れ渡りたれば又もや雲のかゝらぬうちと日取を定めて深見方より練り出せば吉川方にも待ち女郎介添酌人居並びていと賑はしき座敷の飾り親類縁者きら星と輝く中の月と日の速雄お玉はまばゆくて互ひに顔を見合せ得ず初々しさも座の花かその玉椿の八千代までと祝ひ納めけるとなん

お梅は西洋の法式に倣ひ兼て信ずる耶蘇教師の前に於て婚姻の禮を誓ひ夫より盛んなる祝宴を開きて親族知己に披露せんと其の催しの支度に手間取れ且つは住田の現在の住居は多くの客を招ずるに適せねばお梅が爲の資産金六千圓のうち三千圓にて西洋風の家を建築せんと専ら地所を撰むうち住田は俄かに海外派遣の命を請け幸ひお梅も一たび歐洲の地を踏みて彼の國の貴女の風儀を見んとの念ありしゆゑ盛宴は歸朝の後ちの事となし吉川方の悦びよりわづか後れて結婚の禮式だけを濟せ夫婦手を携へて雲煙萬里の濤の上蒼茫千重の山を見る遙けき旅路へ出立けり是も目出度し是もめでたし

三筋町の通人

第一回

當らずと雖も遠からん者は音にも聞き近くば寄ッて目に三筋町東か西か水無瀬何某といふ好男子あり尤も自稱なりと念入りの但し書がつく棒叉股袖搦みより金といふ得物を携へたれば向ふに敵なき勢にまかせ世の中の女に己の心に從はぬといふ者は母親と光明寺の住職ばかりだお茶挽藝妓が詮方なしに木で刻んだ日朝さまをせがまうよりは肌の温い生た色道の祖師へ來い利益は的面明日から座敷の口が斷りきれまい己の寫眞を緣起棚へ飾らぬが第一の心得違ひだ愛敬のお守りは是から出ますと萬世橋の際へ開帳札を建て國益の親玉へ蕎麥を配らうかと思ふくらゐだが夫も却ッて賣出す氣だと思はれてはと引退いて宇内の形勢を窺へば不便や花柳社會は常闇の有樣だ今にも氣が付た奴があれば己の家の門の外へ集ッて三味線太鼓の調子に合せて東京中の藝娼妓殘らずが踊でも催して先生どうかと引出しに來るだらうが然し僅かの不景氣に驚いてシャックリを止める輩だから思ひ兼の尊を勸める働きはなからう一番世直し人助けに金庫を押ッ開いて世間億萬の俗物共を驚かせてやらうか夫にしても目指す敵相手にして馬を乘り出さうといふ張合のある女が一人もないとは藝娼妓の相場も下落した話しサ少しは己が手を組んでハテナ此納りは何したものだと首を横に片向けるといふ珍な妖怪が現はれて吳れなくては可笑しからず盤根錯雜に逢はざれば利器の用は知れずで近ごろの女のやうに己の顏を見たばかりでゴロ〳〵と首を投出されては脆エ奴等だと思はずギックリ睨みたくなる嗚呼腕が見せたい腕が鳴る此腕を見て吳れる者がないとは眞に怨みだと渡邊の綱が羅生門の歸りに熱に罹ッたやうな譫言を吐いて一人脂下ッて居る處へ先生御在宅か是非君の智慧を借用しなくては跋の付かぬ一大事件が出來といふ寸法だと是も當世には間延びの連中日本人同士でも通辯が付かなくては眞面目な用は辨じ兼さうな粹にて跳り込みしは古代な洒落で聞れた恐れ入谷の鬼子母神の傍に住む石榴といふ變り者なり

第二回

憎まれ口を達者に叩くを通人と心得否味に氣取るを色男と覺えたる粹敎外の自稱粹士尊とい寺は門からとて異に捻ッた格子戸に古い木彫りの雲形を嵌め込み二間の庭は松葉を敷き詰めて緣日出の蘇鐵を有難げに苞入りにしたる拵へ地袋つき床の間の飾り宜しく變物盡しと察すべし石榴はポンと膝をはたいて其手で腰の煙草入を拔きトキニといふをキッカケに香のする角彫の筒より早いを自慢か脂止めの煙管を取出しソレ君も御承知のと云ひかけて手烘りの火鉢を引寄せ例の隱れ家へネで切ッて煙草を吸ひつけ火鉢の緣をトンと叩いてドウモ君に見せたい嬋娟窈窕たる者が顯はれやした實にお目に掛けたいよと云ッて羽織の紐を結び直す眞似をしてわざと跡を言はずに澄し切ッて居るといふ體て容體を寫すに餘ほど手數が入谷の石榴子衣裳付なども書たけれど警視廳の品觸を恐て爰に省く水南瀨もグッと落付き自慢是は石榴子の御詞とも思はれず我輩に見せたいとは定めて曲玉古鏡の奇品ならんと存ぜしに凡俗を脫せぬ婦人

の醜美などを論らひ玉はんとは宮戸川の流で耳が洗ひたい耳といへば大阪の十萬堂にあッた來山のお山人形を東京の者が五圓で買ッたといふ話しを耳にしましたが彼の來山の人形も正成の驛路の鈴の形で先ごろ身まかれた柳亭翁も由緒の正しいお山人形しかも來山の例の折るとも高根の花や見たばかりの短冊を添へて珍藏されたし品川町の萬林にも古くから來山のお山人形を傳來して居るといふが兎角名高い物となると類品が殖えるは脱れがたい事と見えますと知ッたかぶりの高慢口此方もまけぬ空笑ひ大きにサお說の通りだ然し小倉色紙も類色紙といふがあるからお山人形の類の多いはその筈サもともと伏見街道で賣ッた數物を來山が手に取ッたばかりで名品となッたのだから其の愛翫する者の心々で皆な眞物とするが宜いのサ風來山人の天狗の髑髏の鑑定にも世間で天狗といふなら天狗で通せといッたは腹が大きい只惜むべきは本文も見ずに來山の文を保名の狂亂から覺えた連中が同じやうに喙を尖らせるのだ此等は彼の謝肇淛が所謂一棒に打殺すべき輩だハヽヽハヽヽと何處で聞いたか大きな風呂敷を擴げるに水無瀨は倘曆にかゝつて咸しを云はんと腹の中で工夫中下女が運び出す廣蓋に盃洗の音チリン〱

第三回

詞多きものは品少なし肝腎の用は云はずに互ひの天狗競べ酌かはす酒も熱鐵となッて焰や立ん膳に並べしは何々ぞ皆な普通の人間が口にすれば嘔吐を催す異味にして一つ〱に講釋付きわざ〱錢を出して買ひながら是は伊勢の友人から送ッてよこしたの夫は北海道の知己から到來のと貰ひ物にして世間の廣いを吹聽顏なればまた是を馳走になる男も腐ッた豆腐を飲み込み顏是は奇品だ實に妙味だ前日或る方より松藻を精製した海苔を得ましたがイヤ其の味ひの珍なること君に半ばを獻じたかッたが博物家の君なれば何だ是がと賤めらるゝを恐れて差出しませんでしたと油を掛ければ水無瀨はうなづき松藻の海苔は宜い物です我輩も一度向島の古怪の宅で嘗めた事があッたがなか〱變ッた味ひで得がたい品サ態と御謙遜で御分配の無ッたはお怨み申す全體藻の類ひは皆な製すれば食されます人智が未だ進まぬので斯樣な有益なものも僅かに金魚の住ひにもてあそばれて用ゆる所なしに棄るは歎かはしい我輩かねて此事に感ずる所あれば今まで世俗が食することを知らぬものを味ひて世に示す心得サと神農の生れがはりのやうな高慢よく是まで中毒で死なかッたが不思議なり石榴は膝を進めトキニ君の智慧を拜借といふ肝腎の用は他ならず今演說した彼の隱れ家の嬋娟たる婦人に付ての一條サ實は少し慾心の趣向だから君に斥けらるゝかも知れないが事花柳界に關していづれ君が御支配內の筋ゆゑザット本讀に取掛れば先づ其嬋娟たる婦人がいろ〱の事情あッて今度戀の港へ船卸をしようといふ場合に至ッたところが是が世間通例の押出しでは面白からず何か目先の變ッた事をして通客の眠りを醒させようといつたばかりで其軍用金は前借金ばかりでは迚も足りず何か工夫がと僕に女將軍から御下問であッたからオット來り引受けた一ト勘考して見ようと無暗と受込んで歸ッたには仔細あり爰が一番見かけた山の鳶鳥阿房な奴を出し拔いて攫み込む儲け口卑劣なやうだが趣向の種サと煙管で話しの調子を取り獨り承知で述べ立たり

第四回

愚にして金多きは不幸の第一といふ通り此の三筋町の水無瀨といふ變物も無事に我家に居れば商家の旦那樣で世を送るべきを下手な俳諧

の古池に陥り世間は俗だと與に見識るも身に不自由の無いからの贅澤骨董屋の古狸書畫屋の曲者が旦那ほど私共が目が利けば疾に藏を建並べるのでございますがと嬉しがらせて後手物を背負せ是れは先づお宅へお預け申つもりでございます先日納めた光琳の屏風は出ますまいか一割利付で私共を潤はして下さいエ何五割なら放す夫は殺生然し今は少し寢入り時ですから思ふ所へ行きませんが彼は乾度踊りますよ抔と慾氣をまぜた油を掛けとう〱祭りあげてお山の大將一人天狗としてしまひ蔭にて舌をはく情盡し油斷のならぬ世の中なり石榴も亦一個の藥物己れが錢を遣はずに茶屋料理屋を遊び歩かんと心掛くる氣樂人同氣相求めるではなくて同慢相比べるの突合とは賴みなき世の酒宴かな偖此石榴が蓄計といふは此ほど或る止事なき方の落し胤なるおまつといふ女が仔細あッて吉原へ身を沈めるについて同人の手道具衣類の中に目ぼしき品もあり且つ父の形見の白檀佛は稀有の製作なるうへ白毫に嵌めたる玉はたしかに金剛石なれば同人が金が入るといふを幸ひそれを欺して買ひ取ッて一ト儲けせんとの考へそれにはまづ二百圓ばかり夫を形に取ッて金を貸しそれから徐々に趣向をせんとの話しに根がオイソレ者で色氣と慾氣が充滿たる水無瀨なればそれは近ごろ珍なら摩護羅金より先にその嬋娟たるものに引導を渡し跡で工夫はさまざま宜さ我輩が腕にある夫だけの筋立を聞けば跡の狂言は面白く書き上げて見せるよ何にしろ其婦人の出所が奥床しい實に此掘出し物は君にしては大出來提灯眞赤いなだ宜しい利益は二ツ割評定場の九太夫ではあるまいし否に割方に念を入れるではないか何も洒落だネお互ひに強ち儲けようといふばかりが主義でない大丈夫宜しい漕つけるまでの入費は我輩一手持ち宜しい諸事は覺えの腕にありサと無暗と一人で宜しがつて石榴に口を開かせず乘氣になッた猪氣がかり橋の杭にやあたりなん

第五回

藏と藏とのあひ〱傘樂書無用と樂書すれば溝板剝すべからずを見て木拾ひの入る昔しと違ひ今は裏々新道とも光りまばゆきランプ燈に徒ら者も跡を收め煙草の粉をまかずして犬の糞を違ざけ人の提灯を借らざるもよく泥濘へ陷らず世は斯く開けて見つきは淸潔なれど人の心の塵埃は依然に積りて汚なびれたる行ひに足を濡すもの少しとせず左れば怪しのけだもの新道出入る怪物はコソ〱として人の蹤を隱めヒソヒソとして立ちて囁く中にも一番奥まりたる二階作り手斧目の板塀船板の歩み飾の手に折廻して切戸あり待合に似て待合にもあらず藝妓屋らしくして藝妓屋に異なり此處に訪ひ來る人々も俗かと見れば僧に似たり、士族かと思へば商人たり一中節を越中節とうなる通人煎抹を啜るが子と飲み込んだゝ茶人反身と澁味こきまぜて否味ぞ惡の出立なりける石榴を先に水無瀨は入り來り師匠家かとおとづれば　オヤ三筋町の旦那久しく絲をお斷んなすッたネどうせ宿坊が多くて入らッしやるから私共へ御運座はありますまいと思ひましたに今日はどういふ風の吹きまはしでオヤ石榴さんも御一途嬉しいこと庭から直によう御座いますヨお常やお梅をと老鶯の音も並ならず石榴は切戸を押しながら例も綺麗にお掃除が屆きますネ夫も其筈か主婦が綺麗事だからと世辭をそらさぬ高調子石榴さん聞えましたよ澤山惡口を仰有い今敵をとりますからと姿も見えぬに間を合せ互ひに油をかけ合ひ臺詞水無瀨はツウーと茶がかッて高足で踏荒します御免下さいと馬鹿慇懃眉毛をあげて襖を撫りチンと極つて座敷へ通り何だ床は相替らず文鱗の蕪か久しいものだヨ近日施主に付いて玉田

に小原女でも書せようと頼みもせぬに餘計なぜイロから高野こんな事から食ひ付かれるとも知らず石榴も例の知ッたかぶりウム玉田とは御懇意か共進會に銅印を得ただけ腕もいゝが第一人物が面白いたしか當時は成程〳〵新肴町に來て居ますかと外見を云ふうち主婦のお柳何か後ろを振向いて下女に用事を云ひ付けながら誠に失禮今日は是非見て頂きたいものがあるのですからイヽエ御面倒なものではありません文句さへ間違がなければ一寸手を付て見ようかと思からですハイ何時かお話し申た上方唄ですと云ひかけてオヤマアまだ御挨拶も申ませんでサと改まッて禮儀を述るも親類附合と嬉しがらせる手術なり

第六回

挨拶紛々高慢欽々しばらく無益を云ひ合ふうち主婦お柳は後ろを振向きお常やお君さんに一寸お出でと云ッておくれと云切らぬうち又此方を向き三筋町の旦那貴君に御目に掛る子があるのですヨ石榴さゝは最お近付になりましたといふうちしづかに足音して内儀と外から初音をもらすにぞスハヤと水無瀨は襟かき合せ咳拂ひさへ勿體ぶればサアお入んなさいと主婦のお柳が引明くる隔ての襖の霞幕あらはれ出る美人あり是を馬琴翁の筆に假りて云へば顔は彌生の櫻花の吉野山に馨れる如く眉は中秋の新月の赤石の浦に出るに似たり秋波眄にして愛敬溢れ蓮歩輕くして羅綺にも堪ざるべし何彼とむづかしく形容に手間の取れる尤物なれば水無瀨は相好を崩して涎の腮に傳はるを忘れ平生の高慢も何處へやら藁で束ねし海鼠の如くグタ〳〵として他愛なく何を請合しやら諸事よし〳〵と引受けて其日は歸りしがつく〴〵物を案ずるに彼ほどの美人を只勤めに落すも惜しきものなり我先づ手に入れて所持の物をまき上んか昔し石山寺で觀音の開帳ありしとき或男が日參して深く祈誓の體なりしが御戸帳が餘り古びたれば私寄進致したし苦しからずば京の錦織に命じ早速調へ申さんと云ふに寺僧は大きに喜びて其信心を褒めたれば男は其後十日ほど經て目ばゆきまでの錦一卷を持參し古き御戸帳は御本尊と思うて日夜拜し奉りければ賜りたしとて古きを頂きて歸りしが是れ其男の謀略にて其の古き御戸帳は世にも稀なる名物製なれば新しき錦とかへて大きな儲けをしたりとか我も先づ彼の女に衣服帶など今めかしき流行のものを拵へてやり此間締て出た唐織の帶を手付ず此方へ取りだん〳〵說きつけて彼の白毫の金剛石も捲き上て石榴には少しの分前を握らすれば手に付て下働きは十分にするであらう是は近ごろ仕合せを吹き寄せるワイと慾と色との二罠三筋町の我が宅にて一人笑ひの白癡喜び隨分太い男なり

第七回

賣物にははなはだしい飾り言今度鞍替へのおいらんは長持五棹簞笥が十重ね馬の背で運んだの船に積んで廻したのと大業に觸れ込んでも其實は着替へも持たぬ有樣何が面白くて不自由ならぬ身が此淵に沈むべき虚喝とは天から知れた事を慾に塞つた耳にとめて商法する氣で遊びに出るとは數の知れぬ白癡どもと今まで嘲ッた水無瀨何某も口と腹とは大きな違ひ華族の落し胤がこれ〳〵だと昔しの小說に有ふれた手術にフワと乘ッて其後は矢鱈と彼の隱れ家へ泳ぎ出し海老で鯛を釣るつもりさりとは淺い御了簡と先は鼻唄で居るとも知らず先づ金にて欺さんといろ〳〵な品を贈りし末いよ〳〵勤めに出るに付ては父の形見の惜しけれど是を賣りて五丁町へ花を降し誠に天女の天降る極樂淨土と云はせたし御身よきにとあてやかなる詞に水無瀨

は有難きまで忝けなく是にて大願成就せりと佛像を引取ツて金二百圓貸し渡し元より證書を取らばこそ只己が手より美人の手へ渡したままで悦んで居たが其うちお君は何處へやら行きて何の便りもなかたツところ此ごろ或る方より先日貸したる佛像を此者へ渡して呉ろとの使ありしに不審はれず夫は何かの間違ならんと使を返して早速彼の隱れ家へ出向いてお君は如何したと聞くと主婦のお柳はニコ〲顔でマア三筋町の旦那お聞きなさいよ世には隨分變りものもある者です御存じの通り彼の娘は瓜實顔で十軒店仕入れときて居ますから私が案じで華族の落し胤と洒落に觸れ込んだのですよ左樣すると夫を正眞と思ツてか埼玉縣の酒屋だとかいふお目出度い人が是非權妻によこせと話しをつけて百圓の支度金を差したので羽を生して行きましたがネエ旦那世の中は廣いものでござりますと云はれて水無瀨は仰天し俄かに變る顏色を悟られまじと咳にまぎらし其奴餘ほど珍な話しだと云ツたぎりの二の句は出ずパクリ〲としてゐると彼の娘が串戯に貴君へお貸し申た佛樣は下岡さんの預りもので先刻お使が取りにお出だから貴方の所へ上ましたといふにいよ〲仰天し偖は石榴めもグルになり己を一杯堀へはめたか南無無念と腹は立てど怒ツては儕恥の上塗りと思へばお柳に顏を見られるも恥かしく挨拶もそこ〲立歸り佛像も戻して三百圓ほどの穴恨めしくさすがの高慢も聲を止どめ戸を閉ぢて引籠ツて居るといふが安達が原の黑塚ならずと鬼のこもれる處諸所にあり恐るべし愼むべし嗚呼恐る可し愼む可し

驅落の驅落

第一回

古代形の更紗の襖節のまゝの杉の床板幅物は蒲鉾形にそッた伊川院のはなれ物燒錆のやうな古銅の花活に萎れかへッた女郎花煙草盆には燃さしのやうな煙い名香がくゆッて居るといふ結構なる料理屋の小座敷に差向ひの通仕立一人は灰吹から龍の如く立昇る煙草の煙に咽せて飲みかけた茶を注ぎかけ夫で漸やく消口を取ッたところ一人は何か物思ひありげに散髪の割目を右の手で押へ市區改正後の往來は斯う眞直に行くだらうかと云さうな顔色折から水屋口ともいふべき太鼓張の襖をスーと開て女中が無暗としとやかにして杯盤を並べるをジロリと横眼で見て頭へ堀割をと考へて居た若い方が花ちやん例も美しいが今日は格別にきらびやかだね、オヤ有難うございます暫らく貴君入ッしやいませんでしたが今日は如何いふ天氣豫報で、ヘン概ね曇天には驚くよ、胸の曇りの晴やらずかね花ちやん例も美しいねと云うと思ふが專さんに云れたから別段御挨拶は致しません、是は〳〵御丁寧に御念の入りました事でオホヽヽホ彼の今日は誰君に致しませうと承まはるも野暮ですかね、オット今日は祕密事件が有るのだから君といへども、お席にはお邪魔なの夫なら臺所へ入ツて嚏でもして居りませう、コウ三つなら僕だと思ひ玉へ、四つなら肩を叩き玉へ、五ならお泊りだ、宜ございます覺えて入らッしやい、古風な樣だが手を叩くまで、立聞はしても宜うございませうねオホヽヽホと愛敬を廊下へ溢して立ッて行く跡に年嵩のが膝を進め專さん何だい話しといふのは何だか大層大事件らしいから聞く事があるなら醉ないうちに役を濟せたいものだ、先づ一二杯景氣を付けて呉れ玉へ少し素面では云出し惡いと云ッて醉ては尚ほいけないといふ一件だ、何だなハテナむづかしいな、それほど心配の筋ではないが御存じの通り少し我輩もかぶり中だから、御斷りに及ばず、左樣腰を折るから話が長くなッて困る、腰を折るので惡ければ起ッて居て聞う、コウ橘さん君は朋友の心痛を、誤ッた〳〵トコロで其仔細といふは、實は君に隱して居たが新宿の或る貸座敷へ二子の鮎の歸に引かゝッて實は夫か何サ緣は不思議なもので實は何さ實は申込に承諾を與へて完全なる契約が整ッたといふ譯だが立派に夫を如何する事も出來ない今の身分だから實は夫を連れ出して當分身を隱して其間に計策を廻らすつもりだが此心中の機密を打明けて力を借るべき者君をおいて天下になしだ元より非謀サ非謀だけれど夫の一策に決心して向うにも打明けてあるのだから斯う云出した上で君が反對説を唱へるなら決闘と覺悟はきめてあるのだ、危ない反對しないよ煙管を持て最う決闘の用意に取掛られては恐れる今さら仕方が無い卑怯に決を恐れてではないが據所ない同意して力を貸さう其かはり僕もまた類似のことを賴みたいが其跡で否とは云ふまい、橘さん僕は男だ君が火の中へ飛込めと號令すれば直に飛び込むよ此杯洗の水を一息に飲めと命じるなら忽ち、コレサ飲んで見せなくても宜い誰も何とも命じやアしない君は餘程逆上て居る君が其位熱心になるのだから相手は定てすばらしからう、橘さん君は冷淡だね、冷淡、デモすばらしからうは冷淡だ最と口をつぼめてスッパラシカラウと力を入れ

て云て呉玉へ、工數の掛ッた事だ其スッパラシイのは何所の何とかいふのだ、元近江のお絹さまと仰有るね　ナニ元近江、左樣サ元近江、お絹といふ娼妓か、お絹といふ娼妓サ、あの元近江のお絹、左樣安く呼付にしないでもだ

第二回

始終を聞て橘太郎は膝を組み眼を閉ぢて太き息をホット吐けば專吉は膝をすり寄せコウ橘さん男らしくして呉れ玉へ何も大した迷惑をかけるのではない左樣腕を繩に綯らずとウンと返事をして下さい高で趣向は斯うだ僕がすまして元近江へ揚る例の如く程よく遊ぶネヨシカ澄して床へ廻る時刻を謀ッて二階座敷の窓を明け屋根傳ひに塀際へ來るお絹は山繭縮緬の胴抜に白縮緬のシゴキ手拭を吹流しにして一寸銜へたといふ拵へネヨシカ僕が上から抱き下すスルト君は兼て下に忍んで居て合圖を待て天水桶を足代に塀へ上る其肩へお絹が足をかけるオット心得たと君が抱き止める僕が手を放す間髪を容れずといふ細工だ僕も其時の形には少し好みがある君も同じ事なら少し氣取る方が役德だらう危なさ怖さ嬉しさのなどと口三味線でやッて呉れると大きに引立といふものだそこで僕は諸事知らぬ顏窓を〆めて床の中に一人で居る男が來る娼妓は如何したと少しチン〳〵氣味で云ふ男は驚いて貴方の所に娼妓が居ないとはつひぞ無い事だ如何も今年は磐梯山以來不思議な事が續きますか何か云ッて障子の外へ出るお絹さん〳〵と呼んで見る居ない居ない筈だよと此方は鼻唄だが其所は萬事抜目なくお絹が居ぬとはとんだ事だ探せ探せと和事師から出て宿禰太郎を勤めるサア大變だの娼妓紛失上を下へと返す中で僕は萎れかへッて彼のお絹に限ッてはよもやよもやと思ひしに起請も空と鳴る鐘のとか何とか恨みッぽい事を云ふ朋輩娼妓も來てホントにお前さんにお氣の毒ですネエ彼人も何といふ氣まぐれだらうこんな優しい實の有る人がありながら如何して駈落をしたのだらう相手は誰だエ誰だらうネ專さんお前さん彼人が居ないからッて是ぎり來ないと恨ますよか何か直に取込む氣で乙に來る其所を調子を合せてあんな不實な奴の事は何とも思はないが何だか踏臺にされたかと思へば皆さんにも面目ないこんな面でも友達の前へ立ませんか何か並べるホントに夫も左樣ですよ私が最ちッと如何かして居ればお否でもお絹さんの身代に願ますが何かで向うは夫と知らないから眞實に持て來る僞にも左樣でもして呉れば鉛の代りに銀といふものだか何かでチョッピリ罪を作る是れ計略の一つなり夫から此まゝでも歸られないか何かで俺まで落付を見せて一直し景氣を直して何か後ろ髪の所で飛び出した跡は此方のもの僕の狂言は是までサ君はお絹を抱き下し直に用意の半纏に人目を忍ぶ月の暈朧々と雁の聲たよりの文を言づけてや何かで他日には一寸道行と見える儲け役だそこで彼所を出はなれ直に人力だが君が義理が堅ければ此所は一人乘別々と願ひたい朋友別ありの本文もあるから其所でお絹の方を連行く先といふは市が谷八幡前の僕の伯父の所ッラ君と雜司が谷へ行ッたとき歸りに寄ッてソレ君が薩摩の名產だといふ鰹の鹽辛を勸められて海苔へ卷いて眼を眠ッてグット呑んだソレ意氣な爺さんの家だ彼所へ連てザット仔細を云て呉れば宜しと直に受込んで呉れるに違ひないドウです大した野暮の役廻りでもなからう此は一番肩を入れてウンと得心して下さい其樣な氣の重いウンでは安心がならないウンとしッかり左樣た〳〵有難いオイ花ちやんお銚子を二三本一所に賴よ

第三回

天龍寺の鐘の聲が二時を報ずる頃に座敷々々の

騒ぎは靜まッた、サッサ浮いたの三味線太鼓は茶立蟲に音を讓ッて今まで賑かであッただけ夫だけ淋しさが增した、乳の足りない狗子が夜廻りに出る母犬の跡を追てキャン〳〵と吠るをコレ靜かにせぬかと屋根と屋根の間からさし込む下弦の月が睨んだ、大木戸を廻る鍋燒うどんの尻聲を十二社の森の梟が引とッて陽氣を押へ付た、車井戸の釣瓶が人も汲まぬにギーと音をさせるに驚いたかしてヂー〳〵と啼て居た螻蛄がだまッた、庭から咲き餘ッた萩の花の下に光るのは露かと思ッたら硝子の欠であッた、俄に暗くなッたは庇の下へ來た故かと仰向たら雲が月の鏡の掩となッたので有た、跡先を見廻すにも見えぬほど暗のに矢張見えぬながらも見廻して來たのは橘太郎といふ友達に異な信義の厚い一個の好男子です、伸上ッて見たり俯いて見たり又は向を透して見たり獨言を云として口を押て見たり二階の便所樋の傍へ袖を擦て鼻を摘で見たり又は思ひ出した樣に反身になッて見たりして內藤新宿の或貸座敷の二階下へ忍び寄ッた、二階の雨戶の溝に水をさしてズート半分ほど音がせずに戶が開た、エヘンと云へばエヘンと小さく外には聞えずに其人たちだけ聞えるやうに合圖をした、井戸まゐッたといふ工合に帶へ結んで小包が下ッた、解いて其帶を振るとそれを椽側の手摺へしッかり結び付けてそれへお召縮緬の半纏を着た手拭を被ッた小棲を端折た化物が摑まッて怖さうに塀の方へ傳はッたツルリドンと少し音がしたが首尾よく受け止めた、上から覗きこんで宜か賴むよと自分の耳へも聞えないほどに叫んだ、下では只うなづいた、帶を手ぐりあげて二階の戶はスーと締ッた、下は無言で黑い化物が黑い化物の手を引いて無暗と表へ出て其所に客待をして居たイヤ此所に見張をして居たといふ方が適當な車夫に腮で指圖をして直に乘せて自分も直に乘ッた餘ほど慌てたか被ッた手拭も取らずに、二階から降ッた化物は窮屈さうに車へ乘りながら手拭を取ッたのを車夫が心を切らうとした絲心の光りでチラと見れば泰宗寺の焔魔でも涎を垂しさうな美人であッた、車は急いだ、石に引きかけてガタリとすれば車中の二人もカタリとした、曲り角を急に曲れば車中の二人も中で衝突した、車は只走りに走ッて橋を越し坂を上り凡そ二里もと思ふ頃ガタリと止ッた、所は何處か一面に蟲の聲で埋ッて居るので考へれば賑はしい市中の氣遣ひはない、手拭を被ッたのは先へ下りて美しいの手を取て垣根を入ればお出ですかと聲をかけて婆さんが手ランプを持ながら戶を明けると此光りに此時手拭を取た人の顏を女は見てオヤと云たばかり、蟲の聲は明を見て一際高くなッた

（評者曰く。たの字の韻を踏だ言文一致體凄し凄し）

第四回

專吉は氣もうは〳〵來かゝる伯父の家の前ナア如何も不思議だ貧の盜みに戀の歌とかいッて妙に智略の出るものだ我ながら名策なるには驚いた金の生る木ともいふべきものを引攫はれて却ッて向うでお氣の毒に樣をつけるとはいかにも上鹽梅一杯まゐッて重疊々々と太田了竹の臺詞はこんな時だ特に萬事に拔目のない己だから彼所から車へ乘ッて途中で下りてまた乘り替へそれも二三町前で下りたから此へ跡の付く氣遣ひはない然し此方が斯う落付くのは謀計の極意とも知らずお絹は待詫て居るだらう併しそれも伯父さんが苦勞人だから心配をしなさんな昨夜は定めてよくも寢まいから一と寢入するが能い其うちに專吉も來ようから何かで小抱卷に枕を添へて小座敷へ一人置いて寢つくまで是でも見なさいと有合す小本か何か貸してやッ

て呉れるだらう併し勞れては居ても己の事が心配だから中々寢る譯にはいかない其小本を讀むともなく讀んで見れば身につまされて我しらず本の上へ涙が落ちるオヤと思ツて袖で拭いても最う染み込んでしまッた譯だ此から紙魚が生て本を皆な喰ふア、貸本屋には濟ない譯だな、オイオイ專吉ではないか何處へ行く、ヤ伯父さん誠に如何も面目次第もございません、如何した如何した何かまた失策たか面目ないとは何だ、伯父さん如何も恐れ入りました面目ないとは何だとは恐れ入りました左樣氣を通して云て下さると伺ほどうも何ですイヨさすがは僕の伯父さんほど有ます、煽てるな樣子が異しいな少し如何かしやアしないか、いづれ如何かして居りますへエ如何かしずには居られない譯ではありませんか、有りませんか有ますか己は知らないが又何だらう洲崎が珍しいなんぞと家を有けて親父に嚴しく叱られたのだらうコレよく考へなさい親父が叱るのは貴樣が可愛からだ打つ杖は撫る手だといふ事を思ひなさい、捻る手は喰つく手ですかな、手で喰付かれるか何か莞爾々々そはそはして居るが金でも拾ッたなら直に屆けて出るが宜いよ、金を拾ふ異に仰有いますね拾ッたか貰ッたのか跡でゆッくりお話し申しませう

マア貴君は何處へお出なさるのです、今湯へ行からと思ふところだ貴樣は何處へ行くのだ己が所へ來たのか、己が所へ來たのかと仰有れるとイヽエと申したらございますね、云たければ云なさいな、云たくツても云れません伯父さんモシ伯父さん如何もいろ〳〵お世話樣でしたが彼さへ首尾よく行けば屹度生れかはツた樣に辛抱致します、彼とは、伯父さん謎を弄るのは犬にチン〳〵をさせるより罪だとお釋迦樣も仰有いました其樣に氣を揉ませずに確に己が預ツて桐の箱へ仕舞ッて置いたと安心させて下さい、ウン彼の事か、其事で斯う浮身をやつして居るのでございます、變ッた男だな直は上ツてもまだあんな蒟蒻本なら幾計もあるにサ今日彼本を取に來たのか、本、桐の箱へ仕舞ッたかと云ふからよ、伯父さん手を合せます此通りですどうぞ左樣トボケないで安心させて、如何も變だ爰でそんな事を云て居ると人立がするマア家へ入んなさい婆さん大きな物へ水を一杯汲んで來てやツてお呉れサア少し氣を落付けるが宜いそれを飲んで、伯父さん、能よ伯父さんは斯して傍に居るよ氣を落付けなさい例より餘程親父に嚴しくやられたと見える能わ心配するな己が詫をしてやるわサ、伯父さん夫では參りませんか否何來ては居りませんか、誰が、お絹が、お絹とは、伯父さんコリヤ如何したんでございませう、己が知るものか泣ては何ほ分らない如何した譯だ、夜中だから家を間違たか知らん、ナニ朝だもの家も間違はず確に己の家だナ、夫でも若しや、確だといふ事よ、如何も樣子だ、コレサ何處へ行く婆さんコリヤア大變だ醫者を呼んで貰はう

第五回

調練場を前にして右隣りは貸地の札、左は英漢數學教授と札を打ちて學問も定めて奧深の破れ家、此の間の一軒家は橘太郎が乳母の家なりお絹は今連れ出されし專吉の友達といふは是れも二世講中の橘太郎なるに吃驚したれど左れど手馴れし事なれば翠川の朝の茶にとはしけて置いた臺の魚を猫に取られた程には慌てず澄して手を引かれて奧に入れば橘太郎は眼の色を變へヤイ手前はよくもよくも己を踏付にして人もあらうに友達付合の中の專吉と言交したなヤイ手前は何時か己に連て逃げて呉れと云ツたのは僞だナコレなんぼ泥水の濁ツた心だと云て少しは義理を考へて見ろ忘れもしない去年の三月二十四日だ小金井の櫻といふのを知らないのも殘念

と友達に誘はれて出かけたところが時が早くツて莟も堅く枯木を眺めたうへ寒い風に小雨交りで閉ぢ付られ景氣直しに飛上ツた彼の家で引付が極ツた手前が座敷となると他の者と變ツて居たが偶に來る所といひ初の家で文句も云へずとグット蟲を押へて濟すと床になツてまた手前が出た其時手前は何と云ツた遣手が皮肉で一旦私と極ツたのを平生胡麻を摺るおみめと振り替へられ口惜くツてならないところ今おみめの馴染で切れの能い客が來たので又私を貴君へ出したのですよ私は嬉しいが貴方は無御不足でせう貴方も何とか云ておやりなさい餘り氣が能過ますよとコレ手前が齒をギリ〳〵と云せながら云たヂヤアねエか其時己が何と云た夫は左樣した入込んだ事が有るか知らないが最初から目星をつけたお前が出て吳れたのだから文句はない所か大悅びだお前も左樣した意氣張があるなら向うへ見せつけに一騷ぎやらうと五圓何某の大散財をしたのを忘れもしめえ其時手前は何と云ツた私の屆かないばかりに此樣な冗をさせて濟まない然し斯花美にして見れば尙更お前さんが是限りにして下すツては私の顏が立ちません何卒實があるなら助けると思ツて續けて來て下さいしがない身だが私も少しの働きはしますからとうるみ聲で云ツたのを忘れたかヤイ其時己が何と云ツた己も男だ斯いふ羽目になるからには跡へは引かないよく明日來る抔と口では云ふものだが己は其樣な事は云はない實があるか無いか仕打で見て吳れと云ツたら手前は嬉し泣に泣ながら何と云ツた私も元からこんな身では有ません川越の方の士族の娘です恥をかゝせられてノメ〳〵生て居られません今貴君の其の一言で胸の支へが下りましたと云ツたのを忘れたかヤイ此の畜生其の翌晩己が如何した武士の娘の思ひつめてどんな事でもあツてはと用を缺いて一里半もあるところを駈け付けたのを忘れたか其時手前は何と云た最う他人がましいから口で禮なんぞは云ない貴方も恩にして下さるな殺したければ今直に殺して下さいと云たのを忘れたかコレ其口で云ツたのをよもや忘れはしまいヤイ此の女め夫から己が通ひ出して注ぎ込んだ金はどの位だと思ふ彼の金が今あれば百年だの五十年だのと濟崩しを云ないで東京市區改正は己一人の獻金で立派に出來るわそれを少しのうち遠ざかればとて彼專吉に見かへるとは云うやうない人でなし己々どうしたら腹が癒るだらうと拳を握りて詰め寄ればお絹は顏をぢッと見て橘さんお前最う云ふ事は夫切なのと落つく顏に倘ほ急込みナ、何だと云ふ事は夫切りかとコレ云ふ事は鐵道の荷車に積み餘る程あるが胸がグラ〳〵して順よく出て來ないのだ此の三平二滿め、左樣サおたふくサ夫だから只では迚も望は協はないから如何かしてお前さんに實を見せて添遂たいと思ツて命がけで今度の狂言を書いたのですわネ、ヱ、何だと

第六回

虛から出た虛出まかせの間に合ひ口も濕ツぽく泣を作ツてお絹は仰向き恨めしさうにチット見る眼元の潮に橘太郎は握り拳も緩みけりサア橘さん打ちたければ打て下さい生て此樣に苦勞をするよりお前さんの手は掛ツて寧そ殺された方が餘程增だよ實に如何したら男といふものは斯う實が無いのだらう私の思ふ百分一もお前の心に有るならば少しは察して下さりさうなものだのに夫を反對に私の心が變ツたと自分勝手の小言ばかり亭主と思ふお前さんの事だから何樣な無理を云れても仕方がないが夫では餘り酷過ぎますマア積りにも知れさうなもの彼樣な否味な靑脹れに私が何で心までを許しませう夫もお金でも澤山ある人なら又疑はれても仕方がないが家を出された宿なし同然いかに私が物好

でもマサカ彼樣な者に、ヤイ〳〵夫なら何故驅落をしようとした、夫が皆なお前の爲め平生の利口にも似合はない大抵推量でも知れませうに、知れないナ、ダカラお前さんは餘りですよ、先日ソレ迚も見拔きは出來ないから連て逃てと相談を掛けたときお前さんは捗々しくも返事をせず夫限り十日も來ないから是は一途に連れ出しては跡の掛り合になると夫を恐れて手を引いたので有らう夫なら誰ぞ踏臺を拵へ一旦其人に浮名を儲けさせて置いて左樣して其所を飛び出してお前さんの所へ便ッたらナンボ氣強いお前さんでも少は不便と思ふ氣が出て萬一したら夫婦にもと思ふばかりを力草縋ッて下りた帶留の切れぬは二世のえんやッと危ない所を脫れたもお前さんのお蔭とは餘ほど深いと悦んだ甲斐もない薄情お前さんに見捨られゝば元より外に便りはなし私は覺悟を極めて居ます其變りお前さんが女狂ひをする度に屹度恨みを云に出ますよ、エ夫ぢやア何か彼の專吉と驅落の約束は彼奴を踏臺にして矢張己の所へ來る積りか、來る積りかとは情ない夫ほど私を實のない者と思はれたのが口惜いから私は死んで此の恨を、トンダ事だ取付れて堪るものか己はお前の知ッての通り極臆病だからソレ何時だか夜中に小便に出てお前の上着を借りて引かけて行たもんだから便所の戸へ挾んで取れないのを中で化物が引張るのかと思ッて吃驚してキャッと云ふ機會に枇杷の種に辷ッて左樣々〳〵去年の六月であッた氣絶した事があッた程だから化てなんぞ出て呉れては困るお前を元から疑ふ譯はないが左樣した深い事を知らないから、夫がお前さんの薄情といふもの察しのないといふもの分らないといふものですダカラ私は生て居ても詰らないから、コレサ己が惡かッたと云ふに氣が早いな己も實は己を捨て專吉なんぞに見變へるとは有るまじき事だと疑ッたのだがナ其所がソレ凡夫の淺猿さだテ、ダカラお前は實が、イ、サ己が惡かッたから謝るといふのに能ぢやないか然し專さんはさぞ驚いて居るだらうイ、二本棒とは彼男の事だ

第七回

コウ專さん血眼になッて何所を廻るのだ、君は橘さんを知らないか、君は橘さんを知らないのか、君は橘さんの居る所を知ッて居るのか、君は橘さんの意氣事を知らないのか、意氣筋とは何だ彼奴は何處に居る早く話して、豪氣に急くな僕が意氣事といへば君は勝手に意氣筋と直して一人承知して居るが筋と事とは大きに違ふね先づ筋とは意氣らしいといふ疑ひの有るうちの事だが橘さんのは美しいのを取り上げて早く既に懷中へ入れてしまッたのだから、氣が急くのだ此通り息が苦しいほどだ惡いところは跡で誤まるから橘公の居所を、敎へて呉るか夫はいけない或る馬鹿者が廓へ出さうとしたのを橫取ッたのだから當分沙汰なしと賴まれたものをナンボ君だッて居所まで明しては朋友の信誼でないからアイタ、コレ何をする專さんお前は氣が違ッたのか突然私の咽喉を苦しい馬鹿力だナ何だか知らないが惡ければ誤まるから助けて呉れコレサ左樣酷く〆めては息が止るよ、ヤイ手前も敵の片破だぞ馬鹿者とは誰の事だ斯なれば皆な冥途の供だ覺悟をしろ、專さんコレサ專さん本氣で左樣な事を云ふのかコレサ苦しい馬鹿者とは誰の事だか私は知らないよ只馬鹿者と聞たから馬鹿者と、よく馬鹿者だの馬鹿力だのと云合せて己を踏潰すなサア死にッこだ覺悟をしろ、コレサ堪忍して呉れナンボ決鬪論が流行と云ッて譯も云ず突然咽喉を〆める奴があるものか苦しいから放して、引搔ても放さない敵の加擔人思ひ知れ、敵の加擔人だとそんな事は知らない橘さんの居所を敎へるから、屹度か

屹度なら赦すが譃を吐くと咽喉管へ喰ひ付ぞ、オヽ苦しかッた專さん串戯にも程があるぜ、串戯とは何だ、血相を變へて危ないねお前どうしたのだナニ馬鹿者とは君の事で有たか失敬知らないからツイ馬とやッたのだ夫なら何か君のウヽ成程君のウヽ左様か君のウヽ君の何を畜生酷い奴だ宜しい僕も君の加勢を仕よう友達の者を横取りするとはよくない奴だ生皮を剝いで座蒲團にしてやらう居所は知て居る案内しやす、夫は有がたいオイ車夫大急だ早く、旦那何處へ參るのです

乳母の家には橘太郎が一人淋しく腕を組みアヽ如何も不思議だ彼程實の有るお絹が昨夜湯へ行くと云ッて婆さんと二人で出た道で何處へか見えなくなッたといふが大かた貸座敷の者に見付かッて引戻されたのであらうダカラ二三日は外へ出るなと云たのだが然し夫ならば今朝婆さんが様子を見に行たとき知れさうなものだが事に寄ッたら爰に潛れて居る事を專吉の鈍漢が悟ッて途中から……夫だと鈍漢の名は此方へ歸ッて來る譯だ一體彼は己の方へ來る譯なのだから專吉が誘ひ出すのは不埒だ横筋だよし〳〵是から己が出て様子を窺はうハテ氣の揉めたと立上るところへドカ〳〵押し込む二人橘さん男らしくしてお目に掛らうと專吉の諍ひ橘さん餘り筋が惡いね僕も專さんの介添人だ文句はないからお絹さんを出しなさいと詰め寄るを睨みかへして立上り筋が惡いとは其方の事だ先約の己が連れて來たのをまた横取に連れ出して逆捻とは呆れかへる、隱して置て連れ出されたとシラを切るとは卑怯な事だ、夫では全くお前の方では、夫では全く此家にはといぶかる雙方表に郵便

專さん橘さん誠に濟みませんが私は外の宜人の所へ行きますよお前さん達に惚れたいのですがお前さん達はお前さんにお前さんが惚れて居て私の惚れてあげる隙がありませんから義理にも惚れられません二人ともアバヨ　　きぬより

両人は讀み下して思はず一齊にアバヨとは酷過ると尻餅搗くを木の頭此所よろしく拍子拔け

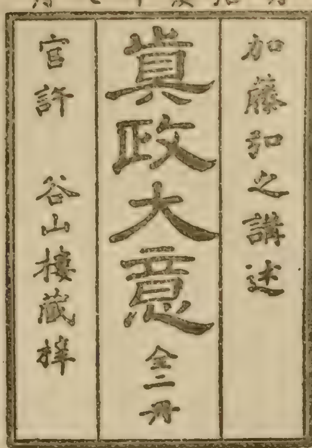
眞政大意

加藤弘之

眞政大意



（原本　表紙）



明治庚午七月

加藤弘之講述

眞政大意　全二冊

官許　谷山樓藏梓

（原本　見返し）

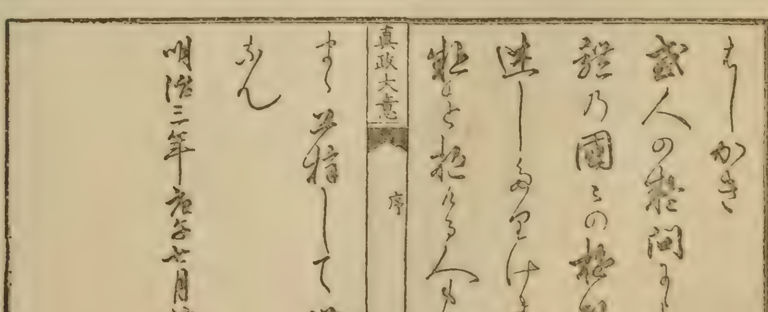
眞政大意序

恭惟。
諸冊二尊。孕産國土。生育人物。
天孫繼承。一統萬世。故天下者。
天皇之天下。而非天下之天下。是我國體之所以卓越萬國。而無比例也。然至于臨撫之道。豈有以臣民爲輕之理哉。故愛臣保民。則君位益重。臣民離則天下思亂。而亂臣賊子。因以肆其兇暴。有若北條氏者出焉。此自然之勢也。古聖帝明王之所以待民如此。
故
仁德天皇有言曰。天之立君爲民。由是思之。重君者。爲我國之國體。保民者。爲我國之政體。修明政體。所以維持國體也。頃大學大丞。加藤弘之。著眞政大意。講述泰西政體大綱。或云。泰西國體。與我異。取之不可。殊不知。其政體有與我合者。譬諸一匹布。有表有裏。取以爲我用。何爲不可。論者蓋未及詳之也。嗚呼地球間立國如林。各無不有自愛之心。凡所以富且强其國者。無不互資。獨我國拒而不容。以梗開化文明之路。而使彼卓越萬國者。退安固陋。豈神聖之意乎哉。是爲序。

時

明治三年庚午七月

從四位秋月種樹撰


はしかき

眞政大意　序

谷山樓藏梓

（原本はしがき）

眞政大意 卷上

足下。拙著立憲政體略ヲ讀マレテ。所謂立憲二政體ノ大槩ヲ知リ。凡ツ其公明正大ニシテ。大ニ他ノ諸政體ニ優ル所以ヲモ。承知致サレタガ。併シ夫レハ唯制度上ノミノヿ。何是右等ノ國々ニテノ。政事ノ施シ方ヲモ。共ニ論ゼナンダトノ疑問。實ニ尤ノヿデゴザル。乍去素國政ニ治法ト。治術トノ二通リガアリテ。治法トハ。所謂治安ノ基本タル憲法制度ノヿヲ云ヒ。治術トハ今日施行スル治安ノ術ヲ申スヿデ。元來二樣ノヿ故。政體略ニハ此治法ノヿノミヲ論致シタヿナレド。併シ此二ツハ國政ノ上ニ於テ。所謂車輪鳥翼ノ如キモノデ。決シテ一ツモ缺クヿハ出來ヌデゴザル。何故ト申スニ。治法ナル憲法制度ガ全ク備ハラヌ時ハ。治術ノ基本ガ確乎ト定マラヌ故。動モスレバ。暴逆ナ政事ヲナス樣ニナリ。又縱令結構ナ治法ガアリテモ。治術ガ拙クシテ。治安ヲ營ムニ足ラヌ時ハ。折角結構ナ治法モ。遂ニ畫餅トナリテ行ハレヌデゴザル。當時歐羅巴南方ノ各國。葡萄牙ヂヤノ。西班牙ヂヤノト云フ國々ハ。其治法ガ強チ立タヌト云フ訣デハナケレ圧。治術ガ拙クシテ。其精力ガ足ラヌモノヂヤカラ。治法モ殆ド畫餅トナリテ。眞ノ治安ヲ得ルニ足ラズ。又例ノ君主專治ノ國々ニモ。儘其治術全ク拙カラヌ國モゴザレ圧。肝心ノ治法ト申スモノガ確乎ト立チテ居ラヌ故。動モスルト。國君ノ威權ガ暴ニナリスギテ。遂ニ酷虐ノ政ニ陷ル樣ナヿニナルデゴザル。夫故此二ツハ始終優劣ナク揃ウテ參ラネバ。眞ノ治安ヲ得ルニ足ラヌヿヂヤカラ。先ヅ能ク此理ヲ知ラネバナラヌデゴザル。其上又治術ノ實ニ大切ナト申スハ。素治法ヲ定制シタリ或ハ改更スルノモ即チ治術デ殊ニ其第一ノ急務ト申スベキモノデゴザル。夫故治法ノ善イモ惡イモ。即チ治術ノ巧拙ニ拘ルワケデ。善イ治法ヲ定制スルノハ。即チ治術ノ巧ナルモノ。惡イ治法ヲ立ツルハ即チ其拙イモノデ。國家ノ安危存亡ハ。全ク治術ノ巧拙ニヨ、ヿデゴザル。

偖治法治術ノ訣ハ。唯今大凡論ジタ通リデ。二ツ共ニ能ク揃ハネバナラヌヿヂヤガ。治法ノヿハ。既ニ政體略ニ槩論致シタカラ。左ニ治術ノ大槩ヲ論ズルデゴザラウ。併シ治術ト申スモノハ。縱令立憲二政體ノ國々デモ。治法ノ如ク。チヤント確定シテ居ルト云フ訣デハナク。多クハ事ニ方リ時ニ臨ミテ。其宜シキヲ制スルヿ故。專ラ政柄ヲ執ル人ノ智略才能ニヨルヿデ。治法ノ如ク。規則ノツカマヘ所ガ確乎ト立チテ。學ベバワカルト云フ訣ニハ參ラヌデゴザル。併シ左樣ナラバ。少モ基ク規則ガナイカト申スニ。決シテ左樣デハナイ。丁度擊劍ヤ圍碁ノ樣ナモノデ。桃井ヤ千葉ハ擊劍ノ達人。本因坊ハ碁ノ名人ニハ相違ナケレ圧。サア左樣ナラバ。如何イフ所ガ。達人名人タル所以ヂヤト問ウタレバトテ。如斯イフ所ガ達人名人タル所以ヂヤト。委シク答ヘル訣ニハ參ラヌヿデ。夫レニハ云フニ云ハレヌ味トイフモノガアル故。其門人トナリテ。始終先生ノ手並ヲ見馴レネバ。迚モワカルヿデハナイデゴザルガ。併シ左樣ナラバ。擊劍ニモ圍碁ニモ。少モ定則ト云フモノハナクテ。唯練磨ノミニヨルモノカト云フニ。決シテ左樣デハナイ。桃井ニハ桃井ノ法則アリ。千葉ニハ千葉ノ法則アリ。又本因坊ニモ其通リデ。自ラ其流儀々々ノ規則ト云フモノガ。一通リハアル故。夫丈ノヿハ學ベバワカル樣ナ訣デ。治術ニモ亦碩學鴻儒ガ追々研究シテ。大體ノ所ニ於テ大凡一定シタ規則ガ。一通リハゴザルガ。夫迚モ中々一朝一夕ニ論ジ盡サレルヿデハナイカラ。玆ニハ。唯此規則ノ極大意ノミヲ論ズルデゴザラウ。猶委シイヿヲ知ルニハ。隨分諸大家ノ色々論ジタ治術ノ書モアルヿ故。

夫レヲモ讀ミ。且ツハ古今ノ歴史等ニテ。明君賢相ノ治術ヲ穿鑿イタサネバナラヌデゴザル。偖追々。治術ノ定則トモ云フベキモノヲ。荒増論ズルデゴザラウガ。ソコデ此定則ヲ學ブニハ。先ヅ第一ニ治國ノ本意ト云フモノヲ知ルガ肝心デ。是レガ即チ治術ノ眼目ニナル。ソコデ治國ノ本意ト申スト。頗ル六ケ敷様ナレドモ。決シテ六ケ敷事デハナイ。申ス迄モナク。唯安民ヨリ外ニハ何モナイヿデ。是丈ノヿサヘ出來レバ。乃チ治國ノ本意ハ達スルワケデゴザル。夫故治術ト云フモノハ。偏ニ此安民ヲ一大眼目トシテ。屹度此眼目ヲ達スルニ足ルベキ術デナケレバナラヌヿデ。實ニ其通リニ參リサヘスレバ。眞ニ治安ヲ營ムニ足ルヿデゴザルカラ。箇様ナ治術ハ即チ眞政トモ申スベキヿト存ズルデゴザル。然ルニ多クハ其眼目トスル所ハ安民ニアリナガラ。治術ガ甚ダ拙イタメニ遂ニ其眼目ヲ達スルヿ能ハヌノミナラズ。却テ民ヲ苦メル様ナヿニナルモノデ。箇様ナ政事ハ眼目ニ於テハ。聊カ間然スベキ所ハナケレドモ。其實治安ヲ營ムニ足ラヌカラ。決シテ眞政ト申ス名ハツケ難イデゴザル。況テ其眼目カラ違ツテ。絶エテ安民ノ心ハナク。唯獨リ國君ガ威權ヲ恣ニシテ。私利ヲ營マントスル様ナ政事ニ至リテハ。固ヨリ論ナイヿデゴザル。ソコデ右様ニ。只管安民ヲ眼目ニ立テヽ。偖此眼目ヲ達スルニ足ルベキ治術ヲ得ント欲スルニハ。先ヅ第一ニ心得ネバナラヌ一大要件ガゴザル。譬ヘバ醫師ガ療治ヲスルニハ。其人ヲ以前ノ健康ニ復スルノガ眼目デ。偖此眼目ヲ達スル爲メニ療治ヲ施スノガ。即チ其術デゴザルガ。併シ夫レニハ先ヅ病人ヲ診察シテ。其病性ヲ知ルノガ一大要件デゴザリテ。若シ此病性ヲ見違ヘテハ。縱令如何程骨ヲ折リテ療治シタレバ迚。何ノ詮モナク。却テ容易ニ治スベキ病人モ。遂ニ殺ス様ナヿニナルヿデ。庸醫ノ療治ト云フモノハ。實ニ恐ルベキモノデゴザル。治國ノ上モ。是レト同ジヿデ。治術ヲ施スニ付テハ。必ズ先ヅ心得ネバナラヌ一大要件ガアルガ。偖夫レハ先ヅ如何様ナヿヂヤト云フニ。決シテ六ケ敷ヿデモ何デモナイ。即チ人ノ天性ト及ビ國家政府ノ起ル所以ノ天理トヲ知ルヿデ。此二ツヲ知ラズシテ。漫ニ治術ヲ施シテハ。動モスルト。此人性天理ニ戻リタヿニナルカラ。丁度庸醫ノ病性ヲ見違ヘタノト同ジヿデ。啻ニ其眼目タル安民ガ出來ヌノミナラズ。却テコレガ爲メニ。心ニモナイ虐民ニ陷ル様ナヿニナル。併シ庸醫ノ拙治ハ。其度毎ニ誤リテ人ヲ殺シタ所ガ。僅ニ數百人カ數千人ニハ過ギヌヿヂヤガ。政府ガ治術ヲ誤リテハ。遂ニ億兆ヲ困シメル様ナヿニナルカラ。實ニ世ノ中ニ。是程恐ロシイヿハナイデゴザル。夫故此人性天理トイフモノヲ知ルガ。治術ノ大基本ト申ス訣デ。決シテ忽セニハナラヌデゴザル。仍テ是レカラ是等ノヿヲ荒増申スデゴザラウ。

天人ト申スモノハ。今更贅言スル迄モナク。天ノ尤モ愛シ玉フ者故。人ニ限リテハ。萬福ヲ與ヘ玉フ天意ト見エテ。都テ軀幹ノ組立方カラ致シテ。其精神才智ノ靈妙ナルヿト申スモノハ。決シテ禽獸ノ類デハナク。其上ニ又天性ニ種々様々ノ情ト云フモノガアルガ。中ニ就テ。不羈自立ヲ欲スル情ガ第一ニ熾ナモノデ。殊ニ是レガ一身ノ幸福ヲ招クベキ紹介トナルモノト見エル。譬ヘバ吾人共ニ。自分ノシタイト思フヿヲ。思フ存分ニスレバ快ケレドモ。若シヒヨツト他人ノ爲メニ。妨ゲラレル様ナヿガアルト。直ニ不快ノ心ヲ生ズルハ。誰シノ人モ同様ナヿデ。是レガ即チ。此情ノ天性ニアル確證デゴザルガ。然ラバ何故此情ガ幸福ヲ招クベキ紹介トナルト申スニ。此情ガアレバコソ。誰シノ人モ。務メテ束縛拘制ヲ避ケ。各々其欲スル所ニ從テ。幸福ヲ招クヿヲ勉ムルナレドモ。萬

一此情ガナクテ。如何樣ニ束縛拘制サレテモ。何トモ思ハヌ樣デハ。迚モ幸福ヲ招クト申ス場合ニハ。至ラヌデゴザラウ。ソコデ箇樣ニ。結構ナ情デゴザル故。又此情ヲ施ス權利ト云フモノガアリテ。凡テ人タル者ハ。貴賤上下貧富賢愚ノ別ナク。決シテ他人ノタメニ。束縛拘制セラルベキ筈ノモノデハナク。己ガ一身ノ事ト云フモノハ。皆其欲スル所ニ從テ。出來ル訣ノモノデゴザリテ。ソコデ。今日ノ交際上ニ於テ。種々ノ權利ガ生ズルデゴザル。併シ左樣バカリ申スト。人ハ善惡ニ拘ハラズ。如何程不羈自立ノ情ヲ恣ニシテモ。ヨイモノヽ樣ニ思ハレルガ。決シテ左樣デハナイ。造化ト申スモノハ。實ニ奇々妙々ナモノデ。又別ニ一ツ結構ナ性ヲ賜ハリテアルガ。夫レハ又何ヂヤト云フニ。所謂仁義禮讓孝悌忠信抔云フ類ノモノデ。人ニハ。必ズ是等ノ心ガアルモノ故。人々今日ノ交際ニ於テ。各々盡スベキ本分ト云フモノガアリテ。己獨リ都合ヨキヿナレバ。何ヲシテモヨイト云フヿハ決シテナイ。己ニ權利ガアレバ。他人ニモ亦必ズ同樣ニ權利ガアル。左スレバ決シテ己ガ權利ノミヲ恣ニシテハナラヌ。必ズ己ガ本分ヲ盡シテ。以テ他人ノ權利ヲモ敬重シテ。敢テ屈害セヌ樣ニセネバ。人タル者ノ道ハ立タヌト云フ理ヲ辯明スル。ソコデ。箇樣ナ道理カラ。各々自己ノ本分ヲ盡シテ。他人ノ權利ヲ敬重スルハ。即チ義務トモ稱スベキモノデ。人タル者ノ。須臾モ忘レテハナラヌヿデゴザル。左樣ナ訣故。今日ノ交際ニハ。必ズ此權利ト義務ノ二ツガ。實ニ缺カレヌモノデ。權利義務共ニ相須テ。眞ノ權利ニモナリ。義務ニモナル。若シ一ツモ缺ケタトキニハ。權利モ眞ノ權利ト稱スルニハ足ラズ。義務モ眞ノ義務トハ稱セラレヌデゴザル。ソコデ右申ス如ク人ノ天性ニハ。必ズ不羈自立ヲ欲スル情ト。又自己ノ本分ヲ盡シテ。人ノ不羈自立ヲ敬重スル心トノ。二ツガ必ズ備ハリテアリテ。實ニ奇々妙々ナ。調合方デハゴザレ𪜈。兎角玆ガ六ケ敷所デ。動モスルト人々互ニ其本分ヲ盡シテ。人ノ權利ヲ敬重スル心ヲ失ヒテ。獨リ己ガ不羈自立ノ情ヲ恣ニスル樣ニナリ易イ。左樣ナリテハ強ハ常ニ弱ヲ凌ギ。大ハ常ニ小ヲ倒スヿニナリテ。今日交際ノ道ト云フモノハ決シテ立タヌ。今日交際ノ道ガ立タヌ時ニハ。人々幸福ヲ求メテ。其生ヲ安ズルヿハ。決シテ出來ヌデゴザル。玆ガ先刻モ治術ヲ施スニ付テハ。先ヅ第一ニ人性ヲ知ラネバナラヌト申シタ所以デ。元來國家政府ノ起リト云フモ。億兆ヲ統一合同スル者ガナクテ。人々思ヒ思ヒデハ。迚モ權利義務ノ二ツガ並行ハレテ。人々ガ其幸福ヲ求ムベキ土臺ガ立タヌトイフ。自然ノ道理ガ。第一ノ根元トナリテ出來タモノデ。ソコデ元來不羈自立。敢テ他人ノ制馭ヲ受クベキ道理ノナイ。民人タル者ガ。是ニ於テ此政府ノ臣民トナリテ。其制馭バカリハ。必ズ仰ガネバナラヌデゴザル。乍去此制馭ト云フモ。決シテ政府ノ爲メニ束縛驅役サルヽ訣デハナク。唯統一合同ノ爲メニノミ。其制馭ヲ受ケルヿデゴザル。夫故右申シタ人々相互ヒノ權利義務ノ外ニ。又政府ト臣民トノ際ニモ。矢張互ヒニ權利ト義務ノ二ツガ生ジテ參リタヿデ。玆ガ即チ天理ノ然ラシムル所以デゴザルカラ。此人性ト天理トニ基イテ治術ヲ施サネバ。例ノ所謂眼目タル。安民ハ決シテ出來ヌヿデ。例ノ庸醫ガ病性ヲ見誤リテ病人ヲ殺ス樣ナモノデ。遂ニハ心ニモナイ虐民ニ陷ルデゴザル。偖然ラバ。此人性天理ニ從テ。治術ヲ施スト云フハ如何樣ノヿヂヤト申スニ。下ニ追々論ズルデゴザラウ

偖唯今。人ノ天性カラ國家政府ノ起ル所以ノ天理ヲ荒增論ジテ。偖此人性ト天理ニ從テ。治術ヲ施サネバナラヌト云フヿヲ申シタカラ。是

レカラ此治術ノ施シ方ヲ大畧申スデゴザラウガ。ソコデ度々申ス如ク。人々交際ノ上ニハ。權利ト義務ノ二ツガ。互ヒニ行ハレテ參ル樣デナケレバ。民人ガ幸福ヲ得テ。其生ヲ安ンズベキ土臺ガ立タヌ故。先ヅ治術ノ一大急務トスル所ハ。今日人々相互ヒノ際ハ勿論。又政府ト臣民トノ際ニモ。此二ツノモノガ都合ヨク行ハレテ參リテ。臣民各〻他ノ屈害ヲ受ケヌ樣ニ。臣民ノ生命ト權利ト及ビ其私有ト。此三ツヲ保護スルヿデゴザルガ。偖然ラバ。權利ト義務ノ二ツガ互ヒニ能ク行ハレテ參ル樣ニスルニハ如何樣ニスレバ出來ルト云フニ。先ヅ第一憲法ト云フモノヲ制定スルノガ肝心ナヿデ。憲法ト云フモノハ。政府ト臣民トノ際。及ビ臣民相互ヒノ際ニ於テ。彼此互ヒニ自己ノ本分ヲ盡シテ。他ノ權利ヲ敬重スル樣ニ。且ツ各〻自己ノ權利ヲ安保シテ。他ノ屈害ヲ受ケルヿノナイ樣ニ。都テ彼此諸業ノ規律ヲ定ムル所以ノモノデ。早ク申セバ即チ權利ト義務ノ規律ヲ設ケテ。此二ツノモノガ互ヒニ並ビ行ハレテ。參ル樣ニ立チタルモノデゴザル。ソコデ政府ニハ。政府タルノ權利アリ義務アリ。臣民ニハ臣民タルノ權利義務ガアリ。又臣民相互ヒニモ。權利ト義務ノ二ツガアリテ。決シテ互ヒニ自己ノ權利ヲ屈害セラルヽノ憂ナク。又他ノ權利ヲ屈害スルノ弊ガナイデゴザル。偖ソコデ彼此互ヒノ權利義務ト云フモノハ。種々樣々ニアリテ。枚擧スベキヿデハゴザラヌガ。中ニ就テ。唯尋常ナル權利義務ノ二三例ヲ擧ゲテ見レバ。譬ヘバ政府ノ權利ト云フハ。第一臣民ヲ制馭シテ。其命令ニ服從セシムベキ權利。又ハ天下ノ公費ヲ贖フタメニ。臣民ヨリ租稅ヲ取ルベキ權利。或ハ天下安危ノ秋ニ方リテハ。億兆ヲ盡ク兵トナシテ。其防禦ヲナサシムベキ權利等ノ如キ類。又其義務ト云フハ。臣民ノ生命權利私有ヲ保護スベキ義務。又ハ天下ノ同利ヲ興シ同害ヲ除クヿニ從事スベキ義務。或ハ天下ノ爲メニ內患外寇ヲ防グベキ義務等ノ樣ナルヿ。ソコデ又臣民ノ權利トイヘバ。政府ノ保護ヲ受クベキ權利。或ハ天下ノ同利ヲ共ニ受クベキ權利等。又其義務トイヘバ。政府ノ制馭ヲ仰テ其命令ニ恭順スベキ義務。或ハ政府ノ費ヲ贖フタメニハ。自己ノ產ヲ割キテ。租稅ヲ納ムベキ義務等ノ如キモノヲ云ヒ。又臣民相互ヒノ權利ニ付テ。一二例ヲ擧ゲテ申セバ。譬ヘバ甲ガ乙ニ金ヲ借ルレバ。甲ニハ之ヲ償フベキ義務ガアリ。乙ニハ之ヲ取ルベキ權利ガアル。又丁ガ丙ノ從僕トナレバ。丁ニハ丙ノ指揮ヲ受ケテ。其用ニ服事スルノ義務ガアルガ。其代リニハ又丙ヨリ給俸ヲ取ルベキ權利ガアリ。ソコデ丙ニハ丁ヲ私用ニ使役スベキ權利アレ𪜈。又其代リニハ。之ニ給俸ヲ與フベキ義務ガアルト云フ樣ナ訣ニ。其外種々樣々ノ權利義務ト云フモノガアルヿデ。都テ箇樣ニ其規則トナルベキモノヲ確定スルノガ。即チ憲法ト申スモノデゴザル。茲ガ即チ政體略ニ論ジタ三箇權柄ノ中ニ於テ。所謂立法權柄ト司律權柄ノ肝要タル所以デゴザリテ。都テ箇樣ナ憲法ヲ制立スルノハ。即チ立法府ノ職掌。

偖此憲法ガ立ツタ上デ。今日交際諸業ノ是非曲直ヲ折斷スルノガ。所謂司律府ノ職掌デ。臣民即チ權利義務ノ互ヒニ行ハレテ參ル樣ニ。臣民ノ生命ト權利ト及ビ私有ノ三ツヲ保護スルハ。專ラ此二箇權柄ノ掌ル所デゴザル。ソコデ又憲法トイフニモ色々ガアリテ。政府ト臣民トノ際ノ權利義務ノ。規律ヲ定ムル所ノ憲法ヲ國法トイヒ。又臣民相互ヒノ權利ト義務ノ。規律ヲ定ムル憲法ヲ民法トイヒ。其外刑法商法抔種々アルガ。皆必ズ右申ス權利ト義務ノ規律ヨリ外ノモノデハ。決シテナイデゴザリテ。都テ立憲政體ノ國々デハ。此ノ如ク立法司律ノ二箇權柄トイフ者ヲ。施政權柄ノ外ニ立テ。獨リ國君ノ恣ニスル樣ナル弊ヲ防ギ。殊ニ立法權柄ト

申スモノハ。政體略ニモ論ジテ置イタ如ク。實ニ大切ナル權柄デゴザル故。必ズ天下億兆ノ名代人トナルベキ。代議士ト云フ者ヲ公選サセテ。之ヲ立法府ノ官員トシテ。國君ト此官員ト共ニ。立法權柄ヲ執ルト云フ制度ヲ立テタモノデ夫故憲法制度廢立ノヿニ至リテハ。決シテ國君ノ恣ニスルト云フヿニハ參ラズ。必ズ天下ノ公論ニ基クモノデアリ。又司律權柄モ右申ス如ク大切ナモノ故。獨リ國君ノ手ニアリテハ。動モスレバ暴虐ニ陷ル弊アルヲ恐レテ。是亦別ニ一府ヲ設ケテ國君トイヘドモ。大抵ハ預リ知ラヌヿト致シタモノデ。即チ全ク例ノ權利ト義務ノ二ツガ並ビ行ハル、所以。所謂生命權利私有ノ三ツヲ保護スルヿ。實ニ至レリ盡セリト申スベキモノデゴザル。偖右申ス如ク。立憲政體ノ國々デハ。必ズ先ヅ憲法トイフ者ヲ第一ノ基本ト致ス訣デ。實ニ之ヲ大切ニイタスヿヂヤガ。既ニ先刻モ治法ヲ定制スルノガ。治術ノ一大急務デヤト申シタハ。即チ此訣デゴザル。然ル所ガ他ノ政體ノ國々ト申スモノハ。大ニ相違シタヿデ。既ニ政體略ニモ荒增論ジテ置イタ通リ。殊ニ君主擅制ノ國々デハ。天下億兆ハ國君ノ私有僕妾ト云フ論故。其臣民タル者ハ。國家ノ事ニ付テハ勿論。自己ノ事トイヘドモ。自在ニ處置スルト云フヿハ。決シテ出來ヌヿデ。所謂不羈自立ノ權利ト云フモノガ少モ立タズ。善惡邪正ノ論ナク。唯命是レ從ハネバナラヌヿデゴザル。夫故第一政府ト臣民トノ際ニ。權利義務抔云フ論ノアラウ道理ハ夢ニモナイ。是レデハ實ニ例ノ人性天理ニモ全ク戾リタヿデ。億兆ノ爲メニ一君ガアルト云フ訣デハナク。却テ一君ノタメニ億兆ガアル訣ニナル。實ニ淺マシイ道理デハゴザラヌカ。但シ斯樣申スト或ハ難者アリテ。億兆ノ爲メニ一君ノアルト云フハ。異邦ノ國體ニテ。決シテ我皇國ノ國體ニハアラヌヿナリ。畏クモ皇國ノ如キハ。伊佐那岐命。御子須佐男命ニ詔玉ウテ。汝命者所レ知二青海原潮之八百重一焉ト仰セラレ、又天照大神ノ。御孫邇々藝命ハ詔玉ウテ。豐葦原水穗國者。吾御子之嗣嗣可レ治國也。汝皇御孫命就座而。爲安國二平然。安然所二知看一於三此之天ツ嗣之高御座一而云々。ト仰セラレシモ天地ノアラン限リ。皇國ヲ天孫ノ御國ト定メ玉フ所以ナレバ。外國ノ如ク億兆ノ爲メニ一君ガアルト云フ訣デハナク。却テ一君ノタメニ億兆ガアル訣デ。茲ガ即チ皇國ノ尤モ貴キ所以。彼異邦ノ國體抔トハ。天地懸隔ノ差ヒヂヤ抔申スデモゴザラウカ。併シ夫レハ心得違デゴザル。何故ト申スニ。固ヨリ皇國ハ天神天祖ノ詔ニヨリテ。永ク天孫ノ御國ト定メ玉ヒシヿナレバ。皇統萬古一姓ノヿハ。論ジ奉ル迄モナイヿナレド。素其天神天祖ノ右ノ如ク定メ玉フ所ガ。即チ殊ニ億兆ヲ御愛憐遊バス御心カラ出タヿデ。彼ノ唯今擧ゲタ詔敕ノ中ニモ。其確證ガアル。然シテ見レバ取リモ直サズ。億兆ノ爲メニ一君ヲ置キ奉ラセ玉フ訣デ決シテ一君ノ爲メニ億兆ガアルト云フ訣デハナイデゴザル。ソコデ其確證ト云フハ何ヂヤト云フニ。天照大御神ノ天孫ヘノ詔ニ。汝皇御孫命就座而爲安國平然安然云々ト仰セラレシ所デ。取摘ミテ申セバ天孫皇國ノ君トナラセ玉フカラハ。永ク皇國ヲ安泰ニ御治メ遊バセト仰セラレル詔デ。即チ億兆蒼生ノ爲メニ一君ヲ天降ラセ奉ラセ玉フヿ。聊カ疑ヒ奉ルベキ筋デハナク。殊ニ又人皇ノ御世ニ至リテモ。仁德天皇ノ詔ニ天之立君本爲百姓。故君以百姓爲本。ト仰セラレタルヿモゴザレバ。彌々以テ億兆蒼生ノ爲メニ一君ノアル訣デ。決シテ一君ノ爲メニ億兆蒼生ガアルト云フ道理デナイヿハ。實ニ明瞭ナヿデゴザル。併シ唯皇國ノ萬國ニ卓越スル所以ハ。右詔敕ノ通リ。幾億萬年ノ

今日ニ至ル迄。皇統一姓決シテ他姓ヲ。仰ギテ君トナスヿノナイ所デ。實ニ是程貴イヿハナイデゴザル。俗話ガチト横道ニ這入リタガ。ソコデ君主擅制ハ。右ノ如ク實ニ惡ムベキ政體デゴザルガ。又君主專治ノ政體ト申スハ。擅制ヨリハ餘程開化シタ政體デ。憲法制度モ全クナイト云フ訣デハナイ故。君民ノ際自ラ權利義務ノ二ツモナイデハゴザラネ圧。併シ矢張天下億兆ハ。一君主ノ私有僕妾ト云フ論故。臣民ノ權利トイフモ。唯私事ニ關係スル權利ガ不十分ナガラニアルノミノヿデ。固ヨリ所謂公權トテ。國事ニ參預スル權利抔イフモノハ夢ニモナイ。夫故憲法トイヘ圧。例ノ立法府ト共ニ。定制シタ様ナ立派ナモノデハナク。申サバ唯國君ノ私法デゴザル故。都テ臣民タル者國事ニ付テハ。固タリ唯君命是レ奉ゼネバナラヌ訣デ。國君ノ權利ガ自ラ强大ニスギル故。矢張君民ノ際權利義務ノ二ツガ。都合ヨク行ハレテ參ルモノトハ申サレズ。到底安生ノ土臺ガシツカリト致サヌ故。眞ノ治安ハ甚ダ覺束ナイデゴザル。倚様ナ訣故。此ノ如キ政體ヲ立テタ國々ノ治術ト云フモノハ。多クハ例ノ眼目タル安民ト申ス場合ニハ。何分ニモ參リ兼ルヿデ。茲ガ卽チ治術ノ一大急務ハ先ヅ憲法ヲ確立シテ。權利義務ノ互ヒニ行ハレル様ニスルヿヂヤト申シタ所以デ。縱令如何様ニ安民ノ志ガ篤クテモ。此一大急務ヲ指置キテハ。迚モ其眼目ノ屆クベキ道理ハナイデゴザル。荀子ニ有治人。無治法。トイヒ。又法者治之端也。君子者治之原也。抔トイフヿモアリテ。至極尤ナ論デハゴザルガ。併シ幸ニ明君賢相ノミアルモノナレバ。法ハナクテモ。スム様ナモノヽ。先ヅ暴主姦臣ノ方ガ多イモノヂヤカラ。ソコデ此憲法ト云フモノガ猶更ニ大切ナワケデ。憲法サヘ確立シテアレバ。暴主姦臣モ自ラ法ナキ國ノ様ニ勝手ナヿ計ハ出來ヌヿデ。已ムヲ得ズ。此法ニヨラネバナラヌデゴザル。然テ見レバ法ト云フモノハ。自ラ暴主ヲモ明君トナラシメ。姦臣ヲモ賢相トナラシムル種トナルワケノモノデ。所謂治ノ端タル法ガ。又治ノ原トモナルデゴザルカラ。呉々モ唯治人ヲ俟テ治法ヲ忽セニスルハ。大ニ誤リタヿト思ハルヽデゴザル

右申ス如ク憲法ト云フモノガ立タズ。保護ノ道ガ不慥デ。何モ角モ其時ノ國君ノ存意次第ニナルト云フ様デハ。偶々明君ガ出タトキニハ大ニ宜シイヿモゴザレ圧。唯今モ申ス通リ明君ト云フモノハ滅多ニハナイモノデ。兎角暴君ガ出テハ獨リ其威權ヲ張リ。妄リニ一身ノ欲ヲ恣ニシテ。生民ノ膏血ヲ竭ス様ニナリ。又暗君ガ出タトキニハ。姦臣貪吏ガ時ヲ得テ君命ヲ矯メテ。勝手次第ニ私欲ヲ恣ニシ。頻リニ酷虐ナ政ヲナス様ニナルヿデ。是レデハドウモ億兆ガ幸福ヲ求メテ。其生ヲ安ズルヿノ出來ル道理ハ決シテナイ。實ニ倚様ナ國ニ生レタ民人程不幸ナモノハナイデゴザル。都テ仁政暴政ト云フ。此二政ノ境界ト云フモ。專ラ此保護ノ有無ニアルヿデ。憲法トイフモノガ確乎ト立チテ。保護ノ道ガ慥デサヘアレバ。其外ノヿヲ政府デ少シク怠リタトテ。ソレデ大ニ民心ノ離叛スル様ナヿハナイデゴザル。劉子ガ除天下害謂之仁。ト申シタガ。實ニ感服ナ論デゴザル。當今印度邊ニハ英國ヲ始メ。其外歐洲各國ノ屬國ガ多クゴザルガ。其土人ガ始終其支配ヲ受ケルヿヲ好ンデ。決シテ獨立ショウト云フ念ノナイト申スモ。全ク以前屬國ニナラヌ時分ニハ。國君ノ政ガ暴逆デ。聊カモ其臣民ヲ保護スルドコロノ訣デハナク。却リテ獨リ私慾ヲ逞ウシテ。妄リニ生殺與奪ヲ恣ニスル故。臣民ガ實ニ怨望シキリテ居タ所ヘ。幸ニシテ歐洲ノ屬國トナリテカラハ。先ヅ第一ニ臣民ノ保護ニ力ヲ盡スヿ故。例ノ安生ノ土臺ガ確乎ト致シタモノヂヤカラ。大ニ其政令ニ懷イテ。萬一此後獨立デ

モシタナラバ。矢張以前ノ如キ暴政ニ苦メラルルデアラウト。心配スル所カラ。實ニ屬國ヲ甘ジテ居ルデゴザル。兎角愚民トイフモノハ。名義ヂヤノ條理ヂヤノ。ト申スヿハ少シモワカラヌ者故。屬國ニナラウガ何ニナラウガ。唯安ジテ其生命ヲ保ツヿサヘ出來レバ。難有心服スルモノデゴザルカラ。政府トナリテハ。能ク能ク此道理ヲ知リテ。何分ニモ民心ヲ失フ様ナヿノナイ様ニ。心ヲ用ヒネバナラヌデゴザル。茲ガ所謂尙書ニ民罔常懷。懷于有仁。トイヒ。又撫我則后。虐我則讎。ト云フ所以デ。此有仁トイヒ撫我トイフモ。卽チ先ヅ保護ノ道ヲ盡シテ。其安生ノ土臺ヲ與ヘルノガ第一ノヿデゴザル。併シ個様ナヿハ皆君主ノタメニ戒メルヿデ。敢テ臣民ノ口實トスベキヿデハ決シテナク。且ツハ先刻モ申シタ通リ。畏クモ皇國ノ如キハ　天孫天降リ玉ウテヨリ。皇統天地ト共ニ窮極ノナキ御國ナレバ。個様ナ患ノアルベキ道理ハ決シテナケレ𪜈。漢土ヲ始メ諸外國ハ。素　天孫ガ天降リテ。其帝王トナリ玉ウタヿデハナクテ。固ヨリ建國ノ本カラ異ナリテ居ルヿ故。動モスルト易姓革命ガアリテ。天下ノ衆望ノ歸シタ仁人ガ君主ニナルヿデゴザルカラ。實ニ君主ノ戒愼イタサネバナラヌ所デゴザル。ソコデ唯今申ス如ク。仁暴ノ相分レル境界ト云フモノハ。第一保護ノ行屆クト行屆カヌトニアルカラ。呉々モ政府トナリテハ。此事ヲ等閑ニシテハナラヌ。縱令心ハ如何様安民ニ切デアリテモ。此事ヲ指置キテ他事ニ從事シテハ。其本末緩急ヲ謬ルヿヂヤカラ。決シテ眞治ハ得ラレヌデゴザル。漢土抔夙ニ開化ニ向ウタ國デ。其政敎ノ行屆イタルヿト云フモノハ今更申ス迄モナク。殊ニハ君臣ノ際。義ト云フヿヲ第一ニ重ズル所抔。實ニ感服ニ堪ヘタルヿナレ𪜈。惜ムラクハ唯義ノミヲ專ラニシテ。例ノ權利ト云フヿヲ確乎ト定メヌ風俗故。暴君抔ガ出テハ動モスルト。唯臣民ノ己ニ義ヲ盡スヲ責メテ。自ラハ却テ臣民ノ權利ヲ屈害スルヲ何トモ思ハヌデゴザル。茲ガ卽チ權利ト云フヿヲ立テヌ流弊デゴザリテ。立憲政體ノ國々ノ如ク。政府ニハ政府タルノ權利義務。臣民ニハ臣民タルノ權利義務ト云フ様ニ。共ニ此二ツガ確乎ト定リテ居ル國デハ。縱令暴君ガ出タカラトテ。政府ガ己ノ義務ヲ盡サズシテ。唯臣民ノ義務ヲ責ムルト云フ様ナヿハ出來ヌヿデ。臣民ニモ同様權利ト云フモノガアル故。若シ政府タル者其義務ヲ盡サヌ𬼀ハ。必ズ例ノ立法府ト云フモノカラ。政府ノ處置ヲ糺スヿガ出來ルデゴザル。

偖ソコデ。話ガチト委シクナリスギルガ。茲ニ一ツ話サネバナラヌヿガアル。旣ニ政體略ニモ論ジテ置イタ通リ。立憲政體ノ國々デハ。臣民ノ政府ニ對シテノ權利ニ。公私ノ二通リガゴザルガ。其私權ノ內ニモ。殊ニ結構ナモノト云フハ。萬民同一ノ權利ト云フ權利デ。天下億兆貴賤尊卑貧富大小ノ差別ナク。憲法ノ上ニ於テハ皆同一ノ臣民ニシテ。皆共ニ同一ノ保護ヲ受クベキ權利デ。匹夫匹婦トイヘ𪜈。縉紳貴介ト露程モ親疎ノ相違ト云フモノヽナイ制度デゴザル。夫故天下兆民皆相應ニ自在ニ自己ノ所業ヲ營ミテ。決シテ他人ノ爲メニ限制セラルヽ様ナヿノナイ訣デ。眞ニ保護ノ道ノ行屆イタ處。所謂人々ノ不羈自立ヲ慥ニスルニハ。是程肝心ナヿハナイ。實ニ此權利ガナクテハ。一視同仁ノ政トハ申サレヌデゴザル。然ルニ他ノ政體ノ國々デハ。此權利ガ立タズシテ。縉紳貴介ニ特準ノ權利ト云フモノガアリテ。庶民トハ全ク人種ノ異ナル程ニ其權利ガ違フ故。縉紳貴介ノ庶人ヲ御スルヿ。殆ド牛馬ノ如ク。其甚シキニ至リテハ。動モスルト一朝ノ怒ニ恣ニ殺戮スル様ナヿガアリテモ。何トカ角トカ。コジツケ理窟ヲ付ケレバ。ソレデ濟ムヿデ決シテ罪ヲ受ケル様ナ

ヿハナク。却テ次第ニヨリテハ殺シ榮ニモナル位ノヿデゴザル。歐洲各國トイヘ𪜈。中世開化ノ進マヌ頃ニハ。隨分箇樣ナヿモアリタデゴザル。殊ニ往古印度ヤ埃及ニ。カストト申シテ。國民ノ品種ガ幾等モアリテ。殊ニ印度デハ。波羅門。刹帝利。吠舍。戍達羅ト四等ニ分レテ。釋迦抔ガ卽チ波羅門ノ品種ヂヤガ。此波羅門ノ先祖ハ。天神ノ口カラ生レ。第二ノ刹帝利ノ先祖ハ。天神ノ腕カラ生レ。第三ノ吠舍。第四ノ戍達羅抔ノ先祖ハ、天神ノ足部カラ生レタモノデ。夫故ニ天然ニ尊卑良賤ガアルト云フ論デ。嫁娶ハ勿論今日ノ交通トテモ。唯同等ノ外ハ大抵ハセヌ位故。下等ニ至ル程權利ガ少ク。上等ノタメニハ。實ニ牛馬同樣ニ驅使サレタヿデ。甚以テ天理ニ背イタヿヂヤカラ。是レデハ迚モ眞治ハ得ラレヌデゴザル。其外昔時歐洲ニ賤奴ト云フ者ガアリテ。既ニ希臘抔デハ碩學ノ人デサヘモ。箇樣ナ者ノアルノハ天理當然ノヿデ。賤奴ニハ天神ガ人ノ半分丈ノ才智ヲ賦與シ玉フ抔云フ論ヲ立テタ位ノヿ故。實ニ牛馬同樣ニ驅役サレテ。又勝手次第ニ賣買サレタリ。或ハ殺戮サレル樣ナヿデアリタガ。其後漸ク文明ニ赴クニ從テ。追々此事ノ天理ニ背クト云フ議論ガ起リテ。次第ニ此賤奴ヲ庶民トシテ。其權利ヲ與ヘルヿニナリタデゴザル。併シ亞米利加デハ近頃迄モ黑奴ト申シテ。亞弗利加人種ノ賤奴ガアリタガ。今ヨリ七八年以前ニ。此賤奴ヲ庶民ニスル。セヌト云フヿニ付テ。南北兩部ノ戰爭ガ起リタ所ガ。遂ニ之ヲ庶民ニセネバナラヌト云フ論ヲ立テタ。北部ノ方ガ勝利ヲ獲タモノヂヤカラ。追々ト此賤奴ガ人間並ノ權利ヲ得ルヿニナリタヿデ。誠ニ此上モナク結構ナ儀デゴザル。併シ皇國ニハ太古ヨリ箇樣ナモノノナイド云フハ。實ニ萬國ニ勝レタ所以デゴザル。其外歐洲ニモ。貴賤尊卑ノ品等ト云フモノガアリテ。或ハ敎化師。貴族。都人士。鄉民ト云フ四等ノ國モアリ。或ハ貴族、都人士。鄉民ノ三等ヲ立テタル國モアリ。其外色々樣々デ。又其一等ノ内ニモ少數等ガアリ。既ニ英國抔デハ、貴族ノ内ニモ五等計モアルガ。是レハ例ノ印度ヤ埃及抔ノ品種トハ違ヒテ。互ニ人種ノ異ナル樣ニ隔絶シタモノデハナイトハ云フモノ、併シ中世封建ノ時分ニハ。貴人ノ權ト云フモノガ頗ル熾デ。上ハ國君ヲモ凌ギ。下ハ都人士鄉民抔ヲ恣ニ苛虐シタヿデアリタガ。其後漸ク知識ノ闢ケルニ隨テ。追々ト貴族ノ權威ガ衰ヘ。就テハ封建制モ破レルヿニナリテ。遂ニ當今ニ至リテハ。大ノ抵ノ國デハ僅ニ此品等ノ名ガ存スル計デ。其實ハナクナリテ。例ノ萬民同一ト云フ場合ニ至リタデゴザル。尤モ瑞士國抔。其外ニモ箇樣ナ品等ノ名目ヲ全ク廢シタ國モアルデゴザル。此萬民同一ト云フヿハ。既ニ數百年前ヨリ碩學鴻儒ガ追々ト論ジタヿトハ申シナガラ。殊ニ詳ニ其理ヲ論ジテ尤モ主張シタルハ。大凡二百年前程ノ日耳曼ノ碩學烏兒富ト云フ人デゴザリテ。夫レヨリ又佛國ノ孟得斯咎。或ハ盧騷抔云フ學者ガ。之ニ次デ益々力ヲ極メテ此論ヲ主張シタルヨリ。遂ニ當今ノ如ク眞ニ此權利ガ行ハレルヿトハナリタ訣デ。茲ガ卽チ歐洲ノ文明ニ至リタ所以デ。所謂治術ノ開ケタノデゴザル。實ニ段々申ス通リノ訣ヂヤカラ。何分ニモ此同一ノ權利ト云フモノガナクテハ。眞ニ臣民ノ權利ヲ保護スルモノトハ申サレヌヿデ。臣民安生ノ土臺ハ立タヌデゴザル

其外猶色々結構ナ權利ガ澤山ゴザレ𪜈。唯治術ノ先務ト云フハ。第一憲法ヲ制立シテ權利ト義務ノ二ツヲ慥ニセネバナラヌト云フ。道理ヲ說クノミヲ主旨ト致スヿ故。諸權利ノヿハ。又別ニ論ズルデゴザラウガ。併シ今一ツ論ゼネバナラヌ權利ガアル。夫レハ何ヂヤト申スニ。所謂公權ト申スモノデ。既ニ政體略ニモ概論シテ

置イタ通リ。是レハ臣民ガ憲法ノ制立ニ參預スル權利デ。例ノ代議士ト申ス者ニ公選セラレ。立法府ノ官員トナリテ。憲法ヲ商議スル權利。又此代議士トナルベキ者ヲ選擇スル權利デゴザルガ。是レガ卽チ民ノ心ヲ以テ民ヲ治ムル所以デ。例ノ君主專治ト上下同治ト相殊ナル所ハ。殊ニ此權利ノ有ルト無イトニアルヿデ。往昔ヨリ漢土抔ハ勿論。其外君主專治ノ國々ニモ。明君英主ノ世ニハ隨分ヨロシイ政事ノアリタヿモゴザレ𪜈。未ダ臣民ニ此權利ガナカリタヿ故。如何イタシテモ立憲政體ノ樣ニ行渡リタヿニハ參ラズ。殊ニ如何樣ナ仁政モ多クハ其一代限リノヿデ。其次ニ闇君カ又ハ暴君ガ出レバ。忽チ其政事ノ模樣ガ變リテ。全ク民心ヲ失フ樣ナヿニナルデゴザル。堯舜ノ蒭蕘ニ諮詢スルト云フヿモアリ。又唐ノ魏徵ノ語ニ。明君暗君ノ相分ルヽ所ハ。偏信ト兼聽ニアル抔イフヿモアリテ。漢土抔ハ往古カラ大ニ他邦ニ優リタ政事モアリタナレ𪜈。其蒭蕘ニ諮詢スル制度モ。兼聽スル制度モ。確乎ト立チテ居ルヿデハナイ故。其時代ノミノヿニナリテ永續致サヌデゴザル。臣民ニ此公權ノアルノハ。卽チ蒭蕘ニ諮詢シ。或ハ兼聽スル制度ノ確乎ト立チタノデ。下情ニ通ジ民心ヲ得ルニ。此上ノ良法ト云フモノハナイデゴザル。尤モ先刻モ申シタ通リ。此ノ如ク臣民ニハ公權サヘアレバ。縱令暴主闇君ガ出タカラトテ。決シテ憂フルニ足ラヌト云フ訣デハナイ。隨分立憲政體ノ國々ニモ。大ニ名實ノ齟齬シタモノモアリタナレ𪜈。併シ一度箇樣ナ政體ノ立チタカラニハ。如何間違ウテモ。マサカ桀紂ノ暴逆ニ陷ル樣ナヿハ先ヅハナイ訣デ。到底追々ト公明正大ノ政ニ赴クハ必然ノヿデゴザルカラ。夫レ故實ニ是程結構ナ權利ハナイデゴザル。畏クモ　朝政復古以來。博ク公議輿論ヲ採リ玉ハントノ　聖旨ニテ。集議院ヲ設ケサセ玉フモ。卽チ追々此權利ヲ起シ玉フ所以デ。實ニ仁政此上モナイヿデゴザル。

偖段々申シタ樣ナ訣デ。立憲政體ノ國々デハ。必ズ先ヅ公議輿論ヲ採リテ憲法ヲ制立シテ。臣民ノ生命權利及ビ私有ノ三ツヲ保護スルヲ第一ノ要務トスルガ。併シ右ノ國々ノ內ニモ。自ラ開化文明ノ遲速モアリ。又國々ニテ人情風俗モ自ラ相違シテ居ル故。宜シク時ト處トノ二ツニ注意シテ。時勢人情ノ宜シキニ適スル憲法ヲ立テ。又追々ト改革シテ參ルヿデ。縱令如何程結構ニ見エテモ時勢人情ニ協ハヌモノデハ。何ノ益ニモ立タヌノミナラズ。却テ害ヲ生ズルヿモアルデゴザル。往古希臘ノ一賢人梭倫ト云フ者ガ。其國法ヲ改革シタ時分ニ。或人ガ足下ハ萬世不朽ノ良法ヲ立テタリヤト問ウタルニ。梭倫之ニ答ヘテ。吾ハ萬世不朽ノ良法ト云フモノヲ知ラズ。唯現今ノ時勢人情ニ適スル良法ヲ立テタリ。ト申シタル由デゴザルガ。實ニ此答コソ不朽ノ確言デゴザル。元來歐洲デ第一番ニ立法府ト云フモノガ立チテ。右ノ如ク保護ノ行屆ク樣ニナリタ國ト申スハ。所謂英國デ此國ハ實ニ奇妙ニ結構ナ國デ。既ニ數百年前ヨリ追々ト右樣ノ手續ニ運ビテ。夫レヨリ追々ト時勢風俗ノ變遷ニ應ジテ。程ヨクソノ憲法ヲ改革致シテ。遂ニ今日ノ姿ニナリタデゴザルガ。尤モ其內ニハ暴君抔モ出テ。度々騷亂モ起リ。又殊ニ一度抔ハコロムエルト云フ大英傑ガ出テ顚覆ガ起リ。一旦政體ノ變ジタヿモアリタナレ𪜈。到底其氣運ガ宜シイ方ニ宜シイ方ニト向ヒテ。始終學者ノ議論ト政府ノ舉措トガ。大ニ齟齬スルヿナク並ビ進ミテ。遂ニ今日ニ至リテハ確乎不拔萬世不易ノ政體トナリタヿデ。實ニ他邦ノ人サヘモ感歎致シテ。元來英國人ノ性ハ。格別ニ善良ナ所カラ。自ラ箇樣ニナリタモノチヤト申ス程デゴザル。併シ其外ノ國々デモ。今ノ政體ノ起ル萠シト云フモノハ。數百年前カラノヿデアリナガラ。此英國ノ

如ク早ク其運ビニ參ラナンタヿヂヤガ。是レハ固ヨリ開化文明ノ進歩ガ遲カリタ故。其頃ノ政學者ニハ。君主專治ノ政體ヲヨシトスル人ガ多ク。殊ニ佛國抔デハヘネロン。ボシュエ抔云フ教化師。拔群ノ政學者デゴザリタガ。皆君主專治ヲ無上ノ良政體トスル論デ。此論ヲ以テ國王路易第十四世ニ信任セラレテ。大ニ此王ノ專治ヲ輔翼シタ位ノヿデアリタ故。久シク其政體ノ改革モナカリタヿヂヤガ。其後例ノ孟得斯咎或ハ蘆騷抔。其外多クノ大學者ガ出テ。追々公明正大ノ議論ヲ唱ヘテ。專治ノ政體ヲ覆サントスル勢ガ盛ニナリ。夫レカラ遂ニ大顚覆ガ起リテ政體ガ一變シ。又夫レガ追々ト各國ニ波及シテ。各國共ニ種々ノ騷亂ガ起リ抔シテ。之レガ爲メニ遂ニ此八九十年前頃ヨリ。追々ト英國ニ倣ヒテ立憲政體ヲ立テル樣ニナリタデゴザル。乍レ去何分ニモ英國ノ如ク。能ク其時勢人情ニ適應スル憲法ヲ立テタ國ト云フハ甚ダ少イヿデ。實ニ六ケ敷ヿト見エルガ。併シ吳吳モ此時處ノ二ツヲ知ラズシテ。唯書生論デ政體憲法バカリ立派ニ立テタ所ガ。決シテ何ノ詮モナイノミナラズ。却テ害サヘモアルヿデゴザルカラ。尤モ愼ムベク尤モ恐ルベキヿデ。夫故未ダ全ク開化文明ニ進マズシテ。愚昧ナ民ノ多イ國デハ。立憲政體ヲ立テヽ。博ク公議輿論ヲ取リタトコロガ。唯頑愚ノ議論ノミデ。却テ治安ノ害ヲナスデゴザルカラ。倘樣ナ國デハ已ムヿヲ得ズ。姑ク專治等ノ政體ヲ用ヒテ。自然臣民ノ權利ヲモ限制シテ置カネバナラヌヿモアルデゴザル。佛國抔頗ル開化文明ノ國デハゴザレ𪜈。兎角英國ヤ聯邦抔ノ樣ニ。全ク其臣民ニ不羈自立ノ權利ヲ與ヘテハ。却テ眼目タル安民ニ害ノアルヿト見エテ。當今トイヘ𪜈。右ノ二國等ニ比スレバ。臣民ノ權利ヲ限制スルヿガ多イデゴザル。既ニ百年程前ノ普魯士國王ナル非的利大王ト申ス人ハ。頗ル賢君ナル上ニ王公ニハ稀ナル學者デ。政學ニ付テ著書モ澤山アリ。殊ニハ力ヲ極メテ君主ノ專權ヲ痛斥シタ程ノ人デゴザルガ。其位ノ人デサヘ。別段專治ノ政體ヲ廢シテ立憲政體ニ改メタト云フヿモナク。又大ニ臣民ニ不羈ノ權利ヲ與ヘタト云フ程ノヿモナク。唯漸ヲ以テ追々ト宜シイ方ニ赴ク樣ニ。少シヅツ改革ヲシテ參リタト云フハ。即チ能ク時處ヲ知リタ所以デ。其頃ハ普魯士ノ開化文明ガ猶淺イヿ故。俄ニ政體ヲ變ジテ臣民ニ十分不羈ノ權利ヲ與ヘテハ。却テ大ニ治安ノ害ニナルト云フヿヲ知リタモノヂヤカラ。決シテ左樣ナ迂濶ナヿハセズ。唯追々ト民ノ知識ガ闢ケルニ從テ。漸ヲ以テ政體憲法ヲ變ジテ參ル樣ニ。其道ヲ付ケタノミデゴザル。實ニ政柄ヲ執ル人ハ。決シテ此所ヲ忘却シテハナラヌデゴザル。乍レ去茲ガ甚ダ六ケ敷所デ。又追々ト開化ガ進ミテ參リテモ。何時迄モ因循姑息ニ安ジテ。政體憲法ヲ改革スルヿヲ知ラズ。猶古制ヲ墨守シテ居ル樣デハ。是亦治安ハ出來ヌデゴザルカラ。吳々モ時ト處トニ注意シテ。夫レニ相應スル政體憲法ヲ用フル樣ニイタサネバナラヌデゴザル。乍レ去開化ノ淺イ國デハ已ムヿヲ得ズ。專治ノ政體ヲ用ヒテ。且ツ臣民ノ權利ヲモ限制セネバナラヌトハ申シナガラ。倘樣ニスルト云フモ。元來姑ク已ムヲ得ザルニ出ルヿデゴザルカラ。其心ハ須臾モ安民ノ眼目ヲ離レテハナラヌデゴザル。

眞政大意 卷下

偖段々申ス如ク。先ヅ第一憲法ヲ立テヽ。偖臣民ノ生命權利及ビ私有ノ三ツヲ始終保護スルノガ。治術ノ第一急務デゴザルガ。左樣ナラバ此事サヘ慥ニ出來レバ。夫レデ政府ノ職掌ハ濟ムカト云フニ。決シテ左樣デハナイ。是レカラ

又追々ト政府ノ職掌ガアルデゴザル。尤モ此政府ノ職掌ニ付テハ。古來ヨリ學者ノ議論ガ。色々ニ分レテ居ルナレ𪜈。先ヅ大要三通リニ歸スルヿヂヤガ。其第一論ノ大意ヲ申シテ見レバ。政府ノ職掌ト云フハ。臣民ノ生命權利私有ノ三ツヲ慥ニ保護スルノミデ。始終此事サヘ怠ラネバ。外ニ政府ノ職掌ト云フハナイ。此外ノヿニ色々ト政府ガ世話ヲヤクハ。却テ臣民ノ權利ヲ束縛羈縻スルヿニナリテ。治國ノ本意ニ背クトイヒ。又第二論ノ大意ヲ申セバ。政府ノ職掌トイフハ。決シテ保護ノミノヿデハナイ。其外又都テ今日臣民交際上ノ諸事。悉ク政府デ世話ヲヤイテ。其幸福ヲ得サセル樣ニ致サネバナラヌヿデ。何一ツトシテ臣民ニ任セテ置イテ、ヨイト云フヿハナイト云フ論デ。此二論全ク氷炭ノ相違デゴザルガ。併シ到底互ヒニ僻論ト申スモノデ。取ルニ足ラヌヿデゴザル。何故ト申スニ第一論ノ樣ニ。政府ガ唯臣民ノ保護ニサヘ力ヲ盡セバ、臣民安生ノ土臺ハ確乎トシタヿナレ𪜈。併シ夫レハ唯土臺ノミデ。未ダ其安生ノ術ト云フモノガナイ故。所謂幸福ヲ得ルヿハ出來ヌ訣デ。ソレデハ眞ノ治安ヲ營ム場合ニハ參ラズ。又第二論ノ樣ニ。今日臣民交際上ノ諸事ハ。何事ニヨラズ政府デ世話ヲヤイテ。何一ツトシテ決シテ臣民ニ任セテ置イテハナラヌト申ス樣デハ。遂ニコレガ爲メニ臣民ヲ束縛羈縻シテ。大ニ其權利ヲ限制スルカラ。縱令其心ハ安民ニ切デアリテモ。遂ニハ心ニモナイ虐民ニ陷ルヨリ外ニ致シ方ハナイ。茲ガ即チ此二論ノ氷炭ノ相違ハアリナガラ。共ニ僻論タルヲ免レヌ所以デ。箇樣ナヿデハ。迚モ眞政トハ申サレヌデゴザル。偖ソコデ然ラバ第三論ハ如何樣ナヿヂヤト云フニ。是レハ自ラ前ノ二論ノ中庸ヲ得タモノデ。即チ至當ノ論ト云フベキモノデゴザリテ。固ヨリ臣民ノ生命權利私有ノ三ツヲ保護スルヿノ肝要ナヿハ。既ニ論ジタ通リノ訣ヂヤカラ。先ヅ之ヲ第一ニ務メルガ。併シ夫レノミノヿデハ第一論ノ樣デ。國家ノ治安ヲ營ムニハ足ラヌヿヂヤカラ。ソコデ又教化撫育等。都テ今日臣民ヲ勸導シテ。其幸福ヲ得セシムルヿニ至リテモ。固ヨリ政府デ精々力ヲ用フベキヿデ。殊ニ此事ハ專ラ施政權柄ニ屬スルヿデゴザルガ。併シ第二論ノ樣ニ今日交際上ノ諸事。何一ツトシテ臣民ニ任セルヿナク。悉ク政府デスルト云フ訣デハナイ。都テ臣民ニ任セテ置イテ出來ルヿハ。成丈ケ政府デ手ヲ出サズ。唯臣民ニ任セテ置イテハ出來ヌヿノミハ。已ムヲ得ズ政府デ世話ヲヤクヲ。本意ト致スデゴザル。夫レハ又何故左樣スルト申スニ。度々論ジタ通リ。素治國ノ眼目ト申スハ。唯安民ヨリ外ニハ何モナイノニ。猥リニ何モ角モ政府デ力ヲ盡シテ。決シテ臣民ニ任セヌト云フ樣デハ。縱令心ハ如何程公明正大デモ。所謂唯束縛羈縻スルヿニナルカラ。既ニ申シタ如ク。今日臣民ノタメニ。政府ガアルト云フ道理ヲ失ヒ。却テ政府ノタメニ臣民ガアルヿニナリテ。彼國家政府ノ起ル所以ノ天理ニモ背クデゴル。帝範ニ民者國之先。國者君之本。ト云フヿガアルガ。誠ニ感服ナ語デゴザリテ。實ニ此道理ヲ失ハヌ樣ニ致サネバナラヌデゴザル。偖右申ス通リノ訣ヂヤカラ。政府ノ職掌ト云フモノガ。二段ニ分レルヿデ。第一段ヲ保護ト云ヒ。第二段ヲ勸導ト申シテ。第一段ノ保護ト申スハ。即チ前ニモ申シタ通リ。憲法ト云フモノヲ立テヽ。之ヲ以テ臣民ヲ保護スルヿヲ云ヒ。又勸導ト云フハ、教化撫育等ノヿヲ都テ申スデゴザルガ。第一段ノ保護ノヿニ付テハ。既ニ大槩ヲ論ジ了リタヿデゴザルカラ。是レカラハ即チ勸導ノ一段ヲ荒増論ズルデゴザラウガ。度々申シタ如ク。保護トイフモノハ、治術ノ第一ノ急務デゴザルカラ。此事ヲ指置イ

テ。先ヅ勸導ノヿノミニ心ヲ用ヒテハ。決シテ眞政トハ申サレヌヿデゴザルノニ。兎角開化ノ足ラヌ國デハ。所謂保護ノ急務タルヿヲ知ラズシテ。只管勸導ノヿノミニ從事シテ。夫レヲ至極ノ仁政ト思ウテ居ルヿヂヤガ。甚ダ先後緩急ノ序ヲ誤リタヿデ。夫レデハ譬ヘバ基礎ヲ置カズニ家ヲ建テル樣ナモノデ。折角仁政ト思ウテスルヿモ。何ノ益ニモ立タヌヿニナルデゴザルカラ。呉々モ此順序ヲ忘却セズシテ。先ヅ第一ニ保護ノ術ガ慥ニ立チタ所デ。ソコデ。第二ニ勸導ニ移ラネバナラヌデゴザル。偖勸導ト申スハ右申ス如ク。敎化撫育等ノヿデ。先ヅ今日知識ヲ闢キ。倫理ヲ明カニシテ。風俗ヲ整ヘルヿカラ致シテ其外百工技藝ヲ闢イテ利用厚生ノ術ヲ盡スヿ。及ビ養病濟貧等ノヿ。都テ臣民ヲ勸導シテ。其幸福ヲ招カシムルヿデゴザリテ。是等ノヿモ。固ヨリ政府デ等閑ニ致シテハナラヌデゴザル。就中第一知識ヲ闢クヿガ肝要デゴザルカラ。先ヅ庠序學校ト云フモノヲ設ケテ。遍ク敎化ノ行屆ク樣ニ致サネバナラズ。又第二ニハ百工技藝ヲ闢クヿモ肝要デ。此二ツガ開化致サネバ。眞ニ安民ト申ス場合ニハ參ラヌヿヂヤカラ。又是等ノヿヲモ同樣ニ盡力セネバナラヌヿデ。夫故歐洲各國デハ此二ツノ開化ヲ勸メルヿヲ。專一ニ務メルデゴザル。例ノ保護ノ道ガ確乎ト致シタ上ニ。此知識ト百工技藝トノ二ツガ闢ケテ參レバ。最早安民ノ術ニ於テ遺憾ハナイ。乍レ去茲ニ宜シク心得ネバナラヌヿノアルト申スハ。既ニ論ジタ如ク。人ニハ必ズ不羈自立ノ情ト權利トノ二ツガアリテ。是レガ卽チ一身ノ幸福ヲ得ル第一ノ基礎トナルモノデゴザルカラ。憲法ヲ制立スルニ付テハ。先ヅ能ク此情ト權利トヲ限制セヌ樣ニ致サネバナラヌト云フヿヲ申シタガ。又勸導ヲナスニ付テモ。能ク此道理ヲ知ラネバナラヌヿデ。勸導ノヿガ縱令如何樣ニ肝要ナヿニモセヨ。例ノ第二論ノ如ク。餘リニ政府デ世話ヲヤキスギテ。何一ツトシテ臣民ニハ任セヌト云フ樣デハ。大ニ右ノ情ト權利トヲ束縛羈縻スルヿニナリテ。却テ勸導ニハナラヌデゴザル。夫故勸導ノ本旨トスベキハ。都テ天下一般ノ爲メニ已ムヿヲ得ズ。臣民ノ權利ヲ限制セネバ出來ヌ筋ノ事柄ハ。無據全ク政府ニ引受ケテ從事セネバナラヌガ。其他ノ事ニ至リテハ。臣民ノ力ニ及ビ兼ルヿヲ。先ヅ政府デ端ヲ開イテ。追々ト臣民ガ之ニ倣ヒテ。自ラ其事ニ從事シテ參ル樣ニ。其嚮導トナレバヨイヿデ。其他ハ都テ臣民ノ爲スニ任セテ。可成丈ケハ例ノ情ト權利ヲ伸バセル樣ニ致サネバ。臣民ガ其幸福ヲ招クト云フヿハ出來ヌカラ。所謂眼目タル安民ニハ參ラヌデゴザル。夫故能ク此道理ヲ忘レヌ樣ニイタシテ。安民ノタメニ已ムヲ得ザルヨリ外ハ。決シテ右ノ情ト權利ヲ限制シテハナラヌ。然ル所ガ腐儒俗吏抔ト云フモノハ。箇樣ナ道理ヲ知ラヌモノヂヤカラ。動モスルト。第二論ノ樣ニ。天下ノ事ハ悉ク政府デ世話ヲヤカネバナラヌモノヽ樣ニ心得。ヤレ是レモセネバナラヌ。彼モセネバナラヌト。ヤカマシク云ヒ立テ。漫リニ世話ヲヤキスギテ。例ノ情ト權利ヲ束縛スルヿヂヤガ。實ニ困リタモノデゴザル。兎角腐儒抔ノ論ト申スモノハ。動モスルト。太古ノ質朴ナル風俗ヲ慕ウテ。今ノ世モ其樣ナ風俗ニ復スル樣ニ致サネバナラヌ抔云ヒ。或ハ近世ハ聖人ノ制度ヲ用ヒヌ故。民ノ貧富ガ兎角同樣ニ參ラズ。富ム者ハ益々富ミ。貧シキ者ハ益々貧シクナリ。夫レカラ隨テ風俗モ頽敗スルヿヂヤカラ。古ノ井田均田、或ハ口分田抔ノ制度ニ基イテ。今時ニ相應スル制度ヲ立テ。成丈ケ民ノ貧富ヲ均シウセネバナラヌ抔申スヿヲ論ジ。又厚本抑末抔申シテ。農ハ國ノ本ナル故、可成丈ケ務メネバナラズ。又工商ハ其末ナル者故。可成丈ケ

抑制セネバナラヌ抔云フ論ヲ立テ。其他或ハ穀價ノ平均ヂヤノ又ハ利權ヲ官ニ操ルヂヤノト。其外樣々ノ事ヲ云ヒ出スガ。多クハ皆間違ツタヿ計デ。大ニ不羈ノ情ト權利ヲ抑制スルカラ。甚ダ害ガアルデゴザル。何故ト申スニ。先ヅ第一太古ノ質朴ナ風俗ヲ。今ノ世ニモ復シタイト云フヿノ甚ダ間違ツタ道理デ。大ニ開化ノ妨ゲトナル所以ヲ大略論ジマセウガ。既ニ此事ハ僕ガ小民ノ知見ヲ聞カンタメニトテ。著述イタシタ交易問答ト云フ書ニモ。增荒論ジテ置イタ通リ。凡ソ人ノ知識ト云フモノハ。後世程追々闢ケテ參ルモノデ。夫レニツレテ世ノ中ガ。段々ト開化文明トナリテ。都テ百工技藝利用厚生ノ術ガ。次第ニ進ミテ參ルノハ。萬國自然ノ道理デ。歷史ノ上ニ明瞭デゴザル。ソコデ左樣ニ漸々ニ闢ケテ參レバ。如何致シテモ。往古ノ蒙昧ノ世ノ樣ニ。質朴ナ風俗ト申ス譯ニハ參ラヌヿモ。是亦自然ノ道理デ。當今ノ世迚モ。都會ト僻邑トノ人情風俗ノ。霄壤ノ如ク懸隔シテ居ル所ヲ見テモ。直ニワカルヿデ。箇樣ニ相違シテ居ルト申スモ。唯即チ開化ノ捗取リタト。捗取ラヌトノ相違デゴザル。夫レヂヤカラ人ノ知識技藝ガ闢ケテ參レバ。迚モ太古ノ樣ナ風俗ハ續カヌモノデ。即チ夫レガ誠ニヨイヿナノデゴザル。太古ノ質朴ナ風俗ト云フモノハ。チヨツト聞イタ所デハ。頗ル慕ハシイ樣ヂヤガ。實ハ人智ノ闢ケヌタメニ愚直ナノデ決シテ取ルニハ足ラヌ風俗デゴザル。併シ左樣申スト質朴ナ風俗ガ失セテ。輕薄ナ風俗ニナルノガ。宜シイト申ス樣ニ聞エルガ。決シテ左樣デハナイ。素輕薄ナ風俗ニナルト申スハ。惡ク開ケタノデ。眞ノ開化デハナイ。眞ノ開化ト申スモノハ。開ケレバ開ケルニ從テ。自ラ風俗モ淳正ニナルモノデ。玆ガ即チ敎化ノ道ガ行屆イテ。眞ニ知識ガ闢ケルカラノヿデゴザリテ。當今ノ歐洲各國ガ先ヅ大凡此眞ノ開化ニ赴イタノデゴザル。然ルニ古風ナ學者ト申ス者ハ。何分ニモ此理ヲ知ラズ。兎角太古ノ質朴ナル風俗ノミヲ慕ウテ。何デモ角デモ古ニ複スルヿヲ。此上モナイ結構ナヿト心得。時勢ノ變遷ヤ。知識ノ開明抔ニハ少モ目ヲ着ケズ。今ノ世ノ中モ。矢張其樣ニ參ルモノト思ウテ。ヤレ衣服ガ立派スギルノ。飮食ガ奢侈ニスギルノト。所謂重箱ノ隅ヲ箸デ掃除スル樣ニ。漫ニ世話ヲヤイテ。夫レヲ太古ノ質朴ナ風俗ニ復シタガルヿデヤガ。實ニ困リタモノデゴザル。尤モ奢侈ト云フヿハ。決シテヨイヿデハナイニ。相違ナイカラ。務メテ之ヲ防グ樣ニ致サネバナラヌヿデハゴザレ𪜈。乍レ去元來世ノ開化ニ從テ。此奢侈ノ度ト申スモノモ。追々變リテ參ルモノデ。千年前ニ奢侈ヂヤト申シタヿハ。百年前ニハ平常ノヿニナリ。又當今ニナリテハ。却テ節儉ニスギル位ニナリタヿガ多イデゴザル。然ルニ唯今モ申ス如ク。例ノ太古ノ質朴ナ風俗ヲ。萬世不易ノ良風俗ト。心得テ居ル腐儒等ガ眼カラ見テハ。今日ノ事何ニヨラズ奢侈ニ相違ナイ。到底箇樣ナ人ノ氣ニ入ルノハ。所謂酒屋へ三里豆腐屋へ二里トカ申ス樣ナ。山ノ奥ニ住ンデ居ル人ヨリ外ニハナイ。是等ハ實ニ質素節儉ヲ極メテ。太古ノ良風俗ヲ失ハヌ者ヂヤト申シテ。定メテ稱歎スルヿデゴザラウガ。左樣ナ眼デ此ノ世ノ中ヲ視テ。ヤレ奢侈ヂヤノ立派ヂヤノト云ハレテハ。實ニ迷惑千萬ナヿデゴザル。到底箇樣ナ腐儒等ガ議論ト云フモノハ。都テ右樣自然ノ道理ニ背イタヿ計デゴザルカラ。國政ヲ執ル人ハ能ク〳〵此道理ヲ知ルガ肝心デ。時勢モ何モ考ヘズニ。漫ニ箇樣ナヿニ世話ヲヤキスギテハ。縱令心ハ實ニ安民ニ切デアリテモ。遂ニハ心ニモナイ虐民ニ陷ルデゴザル。又右申ス如ク。世ノ中ノ貧富ヲ均シウシヨウト存ジテ。井田均田又ハ口分田ニ基イテ。今時ニ相應スル制度ヲ立テタイ抔思フ腐儒モ儘アルヿ

ヂヤガ。元來世ノ中ノ貧富ヲ均シウショウト申スヿガ以テノ外ノ心得違デ。甚以テ安民ニ害ノアルヿデゴザル。何故ト申スニ。段々申ス通リノ訣デ。例ノ不羈自立ノ情ト權利ノ二ツハ。成丈ケ伸バサセル樣ニ致サネバナラヌモノデ。誰シノ人モ此情ガアレバコソ。各々我負ケジ劣ラジト競ヒ合フモノデ。此競ヒ合フ情ガアレバコソ。人々自在ニ其幸福ヲ招クヿガ出來ル。ソコデ。此情ガ卽チ自然ト世ノ中ノ開化ヲ進メルノデ。コレカラ百工技藝奇器良巧モ追々闢ケ。隨テ利用厚生ノ術モ備ハリテ。遂ニハ國家ノ富ト云フモノガ段々ト增シテ參ル。夫故政府ガ此情ト權利トヲ束縛羈縻セズシテ。人々ガ相競ウテ其幸福ヲ求メラレル樣ニ任セテ置ケバ。自然ト所謂安民ノ場合ニモ至ルデゴザル。併シ立憲政體ノ國々デハ。斯我負ケジ劣ラジト競ヒ合フ情ニ任セテ置クトテ。決シテ我儘勝手次第ヲシテモ。構ハヌト云フヿデハナイ。夫レニハ必ズ例ノ憲法トイフモノガアルヿ故。決シテコレニ背イテ他人ノ權利ヲ屈害スル樣ナヿヤ。或ハ風俗ヲ傷ル樣ナヿ抔ヲ許スデハナイガ。併シ倘樣ナ弊サヘナイヿナラバ。其餘ハ都テ人々ノ働キ次第ニ任セテ置イテ。各々負ケジ劣ラジト思フ志ヲ勵ミ遂ゲサセルヿデゴザリテ。玆ガ卽チ眞ノ政事ト申スモノデゴザル。然ルニ貧富ヲ均シウショウ抔云フ論ハ。チョット聞イタ所デハ至極仁政ノ樣ニ聞ユルヿナレ圧。右申ス不羈ノ情ト權利ヲ束縛羈縻スルヿ故。如何程才力ノアルモノモ。其才力ヲ伸バスヿガ出來ヌヿニナリ。又愚昧ナモノヤ。懶惰ナ者ニハ。倘樣ナ政事ハ至極難有イヿノ樣ニ思ハレルデアラウガ。是亦熟考シテ見ルト。倘樣ナ輩ノタメニモ實ハ不仁政ニナル。何故ト申スニ。右ノ如ク各々負ケジ劣ラジト。競ヒ合ウテ勉强スレバスル丈ケ。己ガ富ヲ增シ。又勉强セネバセヌ丈ケ其貧ヲ增スト云フ樣ニシテアレバコソ。愚昧ナモノヤ。懶惰ナ者モ。自ラ勉强スルヿニナリテ自然ト天賦ノ才力丈ケハ磨キ出シテ。各々相應ノ幸福ヲ得ルヿガ出來ル筈ノ所ガ右ノ如ク貧富ヲ同ジウショウト云フ樣ナ制度ガアリテハ。倘樣ナ輩ハ終ニ愚昧懶惰ニ止マルヿニナリ。就テハ益々其貧困ヲ增ス道理デ。到底國家ノ困窮。風俗ノ頽敗ヲ生ズル根本トナルデゴザル。既ニ歐洲ニモ往古希臘ノ盛ナ時分。之ニ類シタ制度モアリ。又其後ニ至リテハコムミュニスメヂヤノ。或ハソシアリスメ抔申ス。二派ノ經濟學ガ起リテ。二派少々異ナル所ハアレ圧先ヅハ大同小異デ。今日天下億兆ノ相生養スル上ニ於テ。衣食住ヲ始メ都テ今日ノ事ヲ何事ニヨラズ一樣ニショウト云フ論デ。元來此學派ノ起リタ所以ト云フモノハ。天下ノ人民ヲ各々勝手ニ任セテ置イテハ。其才不才ト勤惰トニヨリテ。大ニ貧富ノ差ヒヲ生ジテ。富者ハ益益富ミ貧者ハ益々貧シクナリ。就テハ四海ノ困窮モコレヨリ生ズルヿヂヤカラ。今日衣食住ヲ始メ。其外私有ノ地面器物及ビ産業等ニ至ル迄。都テ人々ニ任セルヿヲ止メ。各人ノ私有トイフモノヲ相合シテ。悉ク政府デ世話ヲヤイテ。右ノ如ク貧富ノナイ樣ニショウト云フ。所謂救時ノ一法デゴザリテ。素勸導ノ心ノ切ナル所カラ出タヿニハ相違ナケレ圧。其制度ノ嚴酷ナルヿ實ニ堪フベキニアラズ。例ノ所謂不羈ノ情ト權利トヲ束縛羈縻スルヿ。此上モナク甚ダシイヿデゴザルカラ。實ニ治安ノ上ニ於テ。尤モ害アル制度ト申スベキノデゴザル。

又厚本抑末抔イフ論ガアリテ。農ハ本。工商ハ末ヂヤカラ。農ハ務メテ厚ウイタシ工商ハ務メテ抑ヘル樣ニイタスガ。治國ノ要務ヂヤ抔云フヿモ。能ク腐儒抔ノ口僻ノ樣ニ申スヿヂヤガ。是又不羈ノ情ト權利ヲ束縛スルヿデ。甚ダシイ心得違デゴザル。何故ト申スニ腐儒ノ論ハ。制底例ノ太古ノ質朴ナ風俗ヲ萬世不朽ノヿト心得

テ居ルカラシテ。箇樣ナヿヲ申スノヂヤガ。既ニ交易問答ニモ論ジテ置イタ通リ。世ガ闢ケテ人ノ知識ガ增シテ參レバ。自ラ人ノ嗜好ト云フモノモ多クナリテ來ルカラ。都テ今日ノ求需モ隨テ多クナルハ自然ノ道理。卽チ天ノ然ラシムル所デゴザル。ソコデ今日ノ求需ガ多クナレバ。工商ト云フモノガ盛ニナラネバナラヌモ。是亦當然ノヿデ。決シテ憂フベキ訣デハナイ。却テ國家ノ爲メニ賀スベキヿデゴザル。乍レ去玆ガ腐儒ノ見ノ愚ナ所デ。兎角質朴ナ風俗ノミガ好デ。世ノ開化抔申スヿハ夢ニモ知ラヌ所カラ。知識ガ闢ケテ求需ガ多クナル抔云フヿハ。以テノ外奢侈ノ增長スルヿト心得ル故。工商抔ガ盛ニナリテハ追々風俗ガ華靡遊惰ニ流レテ。國家ノ本タル農サヘモ遂ニハ其風俗ニ染ミテ。漸々ト地力ヲ盡スヿガ粗ニナリ。到底コレヨリ國家ノ衰弱ヲ招ク樣ニナル抔イフヿヲ主張シテ。只農ノミヲ務メテ。工商ハ可レ成丈ケ抑制スル樣ニショウト思フノヂヤガ。實ニ謬リタヿデ。甚ダ治安ニ害ノアルヿデゴザル。元來農工商ノ三ツト云フモノハ三鼎ノ樣ナモノデ。三ツガ相須ツテ今日億兆養濟ノ用ヲナスモノヂヤカラ。此内一ツデモ缺ケテハ。跡ノ二ツモ矢張盛ニ參ラヌハワカリ切リタヿデ。殊ニ世ノ開化ガ進ミテ參レバ參ル程。三ツガ三ツ共愈々必用ナモノニナル。然ルニ箇樣ナ道理ハ少モ知ラズシテ。唯農ノミノ盛ニナル樣ニ骨折リテ。工商ハ成丈ケ衰ヘル樣ニショウ抔トスルノハ。譬ヘバ洪水ノ爲メニ田地ノ水害ヲ除カント思ウテ。唯田地ノ近邊計ノ川浚ヲシテ。下流ヲ打棄テヽ置クヤウナモノデ。縱令如何程上流ノ川浚ヲシタレバトテ。下流ヲ其儘ニシテ置イテハ。流通ノヨクナル氣遣ハ決シテナイ。却テ水害ハ益々大キクナルデゴザル。厚本抑末ノ論モ丁度コレト同ジヿデ。本タル農ヲ如何程骨折リテ。盛ニショウトシタレバトテ。農ノ作リ出シタモノカラ。色々ノ物品ヲ製造シタリ。或ハ賣捌イタリスル工商ヲ抑ヘル樣ニシテハ。其本タル農モ自ラ抑ヘラルヽ道理ニナルデハゴザラヌカ。夫レヂヤカラ政府デハ。箇樣ナ愚ナヿヲセヌ樣ニ。唯三ツガ三ツ共互ニニ盛ニナル樣ニト心掛ケ。大抵ハ自然ノ勢ニ任セテ。惡ク世話ヲヤカズ。唯其障碍ヲ除クヿニ注意致サネバナラヌデゴザル。尤モ開化ノ淺イ國デハ。兎角農税ガ重スギテ。商税ハ殆ド無イ位ノヿ故。自然農ヲ嫌ヒテ商ニ轉ズルモノモアルガ。是レハ甚ダ宜シクナイヿヂヤカラ。箇樣ナヿハ成丈ケ改革シテ。租税ノ平均ニナル樣ニセネバナラヌデゴザル。乍レ去其改革ト申スモ決シテ急ニ致シテハ。宜シクナイ。漸々ト程ヨク改革シテ參ラネバ。却テ虐民ニ陷ル樣ナヿガ出來ルデゴザル。

又其外例ノ慕古先生ハ。動モスルト。穀價平均ノヿヲ唱ヘテ。所謂常平倉抔ノヿヲ主張シ。或ハ又利權ハ官ニ操ラネバナラヌ抔。種々ノ議論ヲ唱ヘルガ。是亦多クハ其名ノミ美ニシテ。其實ハ却テ國家ノ害ヲ生ジ易イデゴザル。尤モ往古質朴ナ世ノ中ニハ。政府ノ費トイフモノモ瑣細ナヿ故。常平倉ヲ設ケルヿモ。格別難クハナカリタデゴザラウガ。當今ノ樣ニ追々開ケテ參リテハ。政府ノ費トイフモノモ。中々容易ナヿデハナク。英佛等ノ如キ富强ノ國國デスラ。毎年尋常ノ物入サヘモ償ヒ切レヌ程ノヿデゴザルカラ。況テ餘ノ國々デ。右樣ナヿヲショウト云フニハ。自然常ニ民ヲ收斂セネバ。迚モ出來ルヿデハナイ訣デ。夫レニ付テハ又隨テ種々ノ弊モ生ジテ參ルヿ故。多クハ却テ仁恤ノ本意ニ背ク樣ナヿニモナルシ。且ツハ當今ノ樣ニ萬國ノ交易ト云フモノガ盛ニナリテハ。縱令國内ニ如何樣ナ大飢饉ガアラウトモ。外國ノ米粟ト云フモノモアルカラ夫程心配スル訣ハナイヿデ。常平倉ガナクトモ困ルヿ

ハナイ。夫故箇様ナヿハ先ヅ打棄テヽ。夫レヨリハ成丈ケ國家ノ開化文明ヲ促スヿニ。隨テ國家ノ富ガ多ク費ヲカケル様ニサヘスレバ。増スヿ故。穀價ノ貴イ位ハ。夫程苦ニナラヌ様ニナルデゴザル。併シ其上ニモ貧困ニ迫ル様ナモノハ。已ムヿヲ得ズ。貧院ヂヤノ。病院ヂヤノヲ建テヽ。世話ヲ致シテヤラネバナラヌヿヂヤガ。乍去此等ノモノモ多クハ其名美ニシテ。其實ハ弊ガ多クアルヿヂヤカラ。餘程其制度ヲ宜シク致サネバ。却テ民ヲ懶惰ニ導ク様ニナルデゴザル。ソコデ又利權ヲ官ニ操ルト云フヿ。是亦甚ダシイ心得違デ。凡テ利權ト云フモノハ。民ノ能ク操ルベキモノデモナク。又官ノ能ク操ルベキモノデモナイ。所謂自然ノ勢ニアルデゴザル。交易問答ニモ荒増論ジテ置イタ通リ。都テ米穀金錢ヲ始メ。凡百ノ物品共ニ。其價ノ因テ生ズル所以ト云フモノハ。申ス迄モナク其物品ヲ求需スル人ト。其求需ニ應ズルベキ物品ノ。多少ノ相違ニヨル訣ノモノデ。求需スル人ガ多クテ。其求需ニ應ズベキ物品ガ少ケレバ。其價ハ自ラ高クナリ。又求需スル人少キニ。求需ニ應ズベキ物品多ケレバ。其價ハ卑クナリ。又人ト物ト。其數大抵多寡同ジケレバ。其價モ自ラ中等ニ止マルハ。

自然ノ道理故。即チ利權ハ民ノ能ク操ルベキモノデモナシ。又官ノ能ク操ルベキモノデモナイト申シタハ。此道理デゴザル。乍去茲ガ所謂憲法ト教化ノ大切ナ所以デ。憲法ガヨクナカリタリ。或ハ教化ガ行屆カナイデ。風俗ガ宜シクナイト。兎角姦民ガ人作ヲ以テ。此自然ノ低昂ヲ妨ゲテ。獨リ利權ヲ竊ム様ナヿガ。隨分出來ルデゴザルカラ。第一憲法ヲヨク立テ。且ツ教化ニ力ヲ盡シタ上ニ。又コレニ背イテ私利ヲ營ムタメニ。他人ノ權利ヲ屈害スルヿノナイ様ニ。始終心ヲ用フルガ。政府ノ要務デ。所謂保護ノ肝要ナル所デゴザルガ。此事サヘ行屆イテ居レバ。利權ノヿハ自然ノ勢ニ任セテ置イテ。決シテ害ハナイデゴザル。然ル所ガ右様ナ愚論ヲ吐ク人ハ。姦民等ガ。利權ヲ竊ミテ。自然ノ低昂ヲ妨ゲルノハ。憲法制度ノヨクナイ故ヂヤト云フヿニ。氣ガ附カヌ所カラ。務メテ利權ハ官ニ操ラネバナラヌヿヂヤト思フノヂヤガ。是レガ以テノ外ノ心得違デゴザル。以前歐洲ニモノポリート申シテ商買柄ニヨリ。專賣ノ權利ヲ許サレタモノガアリテ。其商買ハ此權利ヲ有スル人デナケレバ。出來ヌヿデアリタガ。是レハ甚ダ宜シクナイヿデ。即チ利權ヲ其者ノミニ與フル訣デゴザル。尤モ又バテン

トト申シテ新規發明ノ奇器良巧或ハ其外ノモノニ。年限ヲ定メテ。其間ハ其者計ニ專賣ノ權利ヲ與ヘルヿガアルガ。是レハ即チ百工技藝ヲ勵マスヿデ。尋常ノモノポリーデハナイカラ。實ニ宜シイ制度デゴザル。本邦デモ從來諸商買ニ株式ト申スモノガアリテ。其株ヲ買ハネバ。其商買ヲスルヿガ出來ヌ法デアリタガ。是レガ即チモノポリーデゴザリテ。甚ダ宜シクナイ。例ノ利權ヲ民ニ奪ハレルト云フヿモ。即チ是レカラ起ル訣デ。物價ノ低昂ハ。其仲間ノ申合セデ自由ニスルヿデ。自餘ノ輩ハ何ト思ウテモ致シ方ハナイデゴザル。然ルニ官吏ハ箇様ナ株式ノ害ニナルト云フヿニハ。氣ガ附カズ。兎角利權ガ下ニ移リテハナラヌト氣ヲ採ンデ。米相場ヲ始メ。薪炭酒油ノ類ニ至ル迄。政府デ其定價ヲ定メテ。夫レデ利權ヲ官ニ取リタ積リデ居ルヿヂヤガ。甚ダ心得違デゴザル。何故ト申スニ。素株式ト云フモノガアリテ。唯其仲間同士相談シテ預メ價ヲ定メ。夫レヲ以テ政府ニ願ヒ出スヿ故。元ガ株式仲間ノ定メタ價デ。實ニ所謂自然ノ價デハナイ。ソコデ此人作ノ價ヲ元ニ立テヽ。政府デ貴イノ。高スギルノト云ウテ。色々ト下ゲサセル工夫ヲスレ𪜈。元來官吏ト云フモノハ。如何程ノ才子デ

モ自ラ利ノヿニハ暗イ故。ドウカ。カウカ。例ノ株式ノ者等ニ欺カレテ。大抵ハ申立テノ通リニ。定價ヲキメル。又夫レデナケレバ。姦曲ナ奴デ何モ角モ承知シテ居リナガラ。株式ノ者共カラ賄賂ヲ貪ツテ夫レデ大凡ハ其申立テノ通リニキメテヤルト申ス樣ナヿニナルカラ。何ノ益ニモ立タヌヿデゴザル。尤モ又實ニ淸廉ナ官吏デアルト。唯世間ノ難澁スル所計ニ着眼シテ。元價抔ノヿニハ少モ頓着セズニ。迚モ引合ハヌ價ニキメル樣ナ弊モ儘アルヿデゴザルカラ。何レノ道宜シイヿハ出來ヌデゴザル。茲ガ即チ株式ノアルノト。且ツ政府デ世話ヲヤキスギル弊害デゴザルカラ。能ク此道理ヲ辨明イタサネバナラヌ所以デ。此株式ト云フモノヲ立テズシテ。誰デモ其商買ヲシタイト云フモノハ。一通リ官ノ免許サヘ受ケレバ。出來ルト云フ樣デアレバ。相談シテ姦曲ヲ働クヿノ出來ヌ所カラ。諸人ガ各々負ケジ劣ラジト競ヒ合フ樣ニナリテ。ソコデ直段ガ自ラ下直ニナル。譬ヘバ茲ニ甲乙丙三人ノ商人ガアリテ。甲ハ元價一兩ノ品ヲ一兩一分ニ賣リテ。一分ヅツノ利ヲ取リタガ。買主ガ僅カニ百人ノミ故漸ク二十五兩ノ儲ヲ得タ。ソコデ乙ハ又夫レヲ一兩三朱ヅツニ賣リタラバ。買手ガ二百人ヤ三百人ハアル。左樣スレバ。一人ノ儲ハ三朱ヂヤガ。二百人ニ積レバ三十七兩二分ノ儲。三百人ニ積レバ五十六兩一分ノ儲ガアルカラ。廉價ニ賣リテモ。數ヲ賣ル方ガ德ヂヤト云フ樣ニ競ウテ來ル。ソコデ又丙ノ了簡デハ二朱ヅツノ利ヲ取リテモ引合フノニ。三朱ヅツノ利デハ高スギル。此方ガ一兩二朱ニ賣リタラバ。四百人ヤ五百人ノ買手ハ屹度アル。左樣スレバ六十兩ヤ七十兩ノ儲ハ。訣ハナイト云フ樣ニナリテ。都テ箇樣ニ各々負ケジ劣ラジト競ヒ合ウテ參ルカラ。自ラ廉價ニナラネバナラヌデゴザル。茲ガ即チ人ノ不羈ノ情ニ任セテ置イテ。政府デハ彼是ト世話ヲヤカヌ方ガ宜シイ所以デ。箇樣デアレバ利權ト云フモノハ。縱令民ガ如何程操ラウト致シタトテ。決シテ操リ得ベキモノデハナイ。復古以來右等ノ所追々、御改革ガアル樣子デ。誠ニ結構ナヿデゴザル。都テ右樣ナ訣デ兎角腐儒俗吏ト云フモノハ。箇樣ナ道理抔ハ夢ニモ知ラズ。天下ノ事ハ大小トナク。何デモ角デモ政府デ世話ヲヤカネバ。政府トハ云ハレヌ樣ニ思ウテ。右樣ノ諸件ヲ悉ク仁政ト考ヘ。偶々要路ニ任用サレルト。ヤレ仁政ヂヤノ國益ヂヤノト。漫ニ四方八方ニ手ヲ出シタガルガ。大形ハ例ノ不羈ノ情ト權利ヲ束縛羈縻スルヿヂヤカラ。遂ニハ國家ノ開化ヲ妨碍スルヿニナリテ。到底虐民ニ陷ルデゴザル。歐洲デモ往古ハ勿論。種々右樣ナヿデ治安ヲ誤リタヿ枚擧スルニ暇モアラズ。政學者ノ論トイヘ𪜈同樣ノヿデ。既ニ前ニモ申シタル。烏兒富抔云ヘル大學者サヘモ。種々右樣ノ論ヲ唱ヘタヿモアリ。又近世ニナリテモ。隨分右樣ナ愚政ヲ施シタ例ガ如何程モアルガ。茲ニ二三例ヲ擧ゲテ申セバ。今ヨリ大凡百年程前ニ。英國ヤ荷蘭デ毛布ヤ木綿等ヲ始メ。其外種々ノ物品ヲ他國ヨリ輸入スルヲ禁ジテ。國內デ製造シタ品デナケレバ。用フルヿヲ許サヌト云フ令ヲ出シテ。若シ此令ニ背イタモノハ嚴刑ニ處スベシ抔云フ。法度迄モ立テタヿデゴザルガ。是ハ元來國內デ製造スル諸物品ノ捗方ヲ多クシテ。國內ノ工人ニ利ヲ得サセ。且ツハ物品ノ製造ヲ勵マサウト云フ仁心ヨリ出タヿデハゴザレ𪜈。其甚ダ間違ツタ訣ト云フハ。ソノタメニ仁惠ヲ受ケル者ハ唯工人ノミデ。右等ノ物品ヲ求メル者ニ於テハ。外國ヨリ輸入シタ物品ナレバ。廉ニシテ且ツ其品モ精巧ナルモ。此精巧ナル品ヲ求メルヿハ出來ズ。不廉ノ上ニ劣性トハ知リツヽモ。嚴令ナレバ餘儀ナク。國內ノ物品ヲ求メネバナラヌト云フ樣ナヿニナリテ。却テ民ノ苦ミ

ヲ生ジタデゴザル。唯今モ利權ノ論ニ付テ物價ト申スモノハ。商賈ガ各々負ケジ劣ラジト競ヒ合フ所ヨリ。自然低下スルモノヂヤト申シタガ。工業ノヿモ是レト同樣デ。工人ガ各々負ケジ劣ラジト競ヒ合フ所ヨリ。自然ト物品ノ製造ガ精巧ニナリ。且ツ價モ自ラ廉ニナリテ參ル道理ヂヤカラ。精巧ニシテ且ツ廉ナル外國品ヲ輸入スレバ。啻ニ國內ノ買主ノタメニ宜シイノミナラズ。亦大ニ國內ノ工人ノ勵ミニモナリテ何デモ外國ノ品ヨリハ精巧ニ製造シテ。且ツ廉價ニ賣ラネバ利ヲ得ルヿハ出來ヌト云フ樣ニ。一生懸命ト勵ンデ參ルカラ。追々ト國內ニモヨイ物品ガ出來ル樣ニナル。然ルニ國內ノ工人ガ利ヲ得ル樣ニ。且ツ國內ニ物品ノ製造ガ多クナル樣ニト。存ジテ輸入ヲ禁ズルノハ。却テ國內ノ製造ヲ衰ヘサセルニ當ルデゴザル。

其外又外國輸入品ノ價ヲ國內ノ物品ヨリ貴クナラシメテ。其賣レ方ヲ惡クシヨウトテ。輸入品ノ運上ヲ高クシタヿモアルガ。是亦國內ノ物品ヲ能ク賣レル樣ニシテ。工人ニ損ヲサセヌ志デゴザリテ。至極仁政ノ樣デハゴザレド。天下ノ爲メニハ勿論。矢張工人ノタメニモナラヌヿデ。遂ニ其志ハ達セラレヌデゴザルへ

其外又右樣ナ主意デハナクテ輸入ヲ禁ズル論モアル。ソレハ又何故ヂヤト申スニ。一體外國ノ物品ヲ輸入スルニハ。必ズ國內ノ金銀貨幣ヲ外國ニ輸出スルヿニナルカラ。追々ト金銀ガ減少シテ遂ニハ國家ノ貧困ヲ招クヿニナリテ。甚ダヨロシクナイト云フ論カラ起リタヿデ。既ニ經濟家ノ語ニモ。國ノ富ヲ欲スレバ買フヿヲ止メテ。賣ルヿヲ專ラニ致サネバナラヌト申スヿガアル位ノヿヂヤガ。是亦大間違ナ理窟デ。金銀抔云フモノハ元來飢渴ヲ救フモノデモナシ。暑寒ノ凌ギニナルモノデモナイヿ故。今日交際ノ上ニ於テ。實ハ衣食ノ如ク一日モナクテハ。ナラヌト申ス程ノモノデハナイ。唯今日ノ賣買交易ヲ便利ニナス所カラ。必ズ缺クベカラザルモノニナリタノデゴザル。夫レヂヤカラ貧富トイフモノハ。決シテ金錢ノ多少ニアル訣ノモノデハナイ。唯其求需スル物品ノ足不足ニアル訣ノモノデゴザル。然ルニ常ニ金銀ノ多少ヲ以テ貧富ヲ論ズルト云フハ。金銀ヲ多ク持チテ居レバ多クノ物品ヲ買フヿガ出來。又金銀ヲ少シ持チテ居レバ。少シノ物品ナラデハ買フヿガ出來ヌカラノヿデ。其實ニ目指ス所ハ。金銀ニハアラズシテ物品ニアルノデゴザル。左樣シテ見レバ。縱令金銀ヲ如何程外國ニ輸出シタレバトテ。唯棄テヽ仕舞フ訣デハナシ。其代リニハ諸物品ヲ國內ニ輸入スルヿヂヤカラ。即チ國家ノ富ガ增ス道理デ決シテ憂フル訣ハナイデハゴザラヌカ。夫レニ又國內デモ諸物品ノ製造ヲ勵ミテ追々ト增シテ來レバ。矢張是レガ外國ニモ出ルカラ。外國ノ金銀ガ望次第ニ。國內ニモ這入リテ來ル訣ノモノデ。決シテ心配スベキ筋ハナイデゴザル。然ルニ例ノ經濟家ノ語ノ如ク。買フヲ止メテ賣ルヿノミヲ勉メテ。金銀計リ國內ニ殖エタトテ。何ノ爲メニナルデゴザラウ。飢饉ノ時金銀ヲ食ウテ腹ガ滿チマセウカ。極寒ノ時分金銀ヲ體ニ纏ウテ居タラバ煖カデゴザラウカ。又外寇襲來スル時ニ方リテ金銀ノ臺場ヲ築イタラバ。防禦ガ出來ルデゴザラウカ。國家ノ富ト云フモノハ金銀ニアラズシテ物品ニアルト云フヿハ。實ニ明瞭ナ訣デハゴザラヌカ。

又輸出ヲ禁ジタ例モ多クアル。夫レハ又何故ヂヤト申スニ。國內ノ物品ガ追々ト外國ニ出テハ物價ガ益々貴クナリテ。國家ノ困窮ニ至ルヲ憂フルカラノヿデ。是亦仁心カラ出タニハ相違ナケレド。實ハ甚ダシイ了簡違デゴザル。元來諸物品共ニ其捌方ガ多クナレバナルホド。其製造モ隨テ增加スル道理デ。即チ國家ノ富ヲ增ス訣ヂヤカラ。外國交易ノ始マリタ爲メ抔

デ。一時物價ノ沸騰スル時分ニハ。諸民ノ難澁スルハ當然ノヿナレ𪜈。コレガ爲メニ追々物品ノ製造ガ殖エテ國家ノ富ガ增スカラ。決シテ患フル道理ニナイデゴザル。既ニ交易問答ニモ荒增論ジタ通リ。物價ノ低昂共ニ善惡ノ二通リガアリテ。外國交易抔ノ爲メニ。一時物價ノ騰貴スルハ。唯今モ申ス如ク。國家後年ノタメニ甚ダ賀スベキヿ。又國内ニ騷亂ガアルカ。或ハ疾疫等ノ流行ニヨリテ。物品ノ製造ガ滯リテ其品ガ乏シクナルト。之レガタメニ遂ニ大騰貴ヲ生ズル樣ナヿガアリ。又貨幣ノ性ガ追々ト劣リテ參ルト。之レガ爲メニ又騰貴ヲ生ズル樣ナヿガアルガ。是等ハ甚ダ以テ宜シクナイヿデ。之レガ爲メニ諸民ノ難澁ト云フモノハ一通リノヿデハナイ。實ニ國家ノタメニ悲シムベキ訣デゴザル。ソコデ又低下スルニモ。善惡ノ二通リガアリテ。唯今モ申シタ通リ外國交易抔ノ爲メニ。物品ノ捗方ガ追々ト增加スルニ隨テ。一時ハ其騰貴ヲ生ズレ𪜈。之レガ爲メニ其製造ガ增加シテ。追々ト居リ合ヒガツクニ從テ。又自然ト低下スルモノハ當然ノヿデ。箇樣ナ低下ハ甚ダ賀スベキヿデゴザレ𪜈。又自國或ハ外國ノ騷亂。又ハ疾疫等ノタメニ物品ノ捗方ガ惡クナリテ。既ニ仕入レタ物品ノ價ガ。之レガタメニ突然低下スル樣ナヿモアルガ。箇樣ナ低下ハ實ニ悲シムベキヿデゴザル。倚其樣ニ都テ低昂共ニ善惡ノ二通リガアルヿヂヤカラ。唯低昂ノミニ着眼シテ。彼是ト申スノハ甚ダ間違ツタヿデゴザル。夫レデヤカラ外國ニ物品ヲ輸出スルタメニ。一時物價ノ騰貴スルハ。後々ノタメニハ。却テ喜バネバナラヌヿデ。輸出ヲ禁ズル抔ノヿハ。實ニ以テノ外ノ愚政デゴザル

猶此外ニモ色々ト。政府デ世話ヲヤキスギヽ。大ニ誤リタ例ガ何程モアルヿデ。都テ開化文明ノ淺イ國デハ皆一樣デゴザルガ。歐洲各國ハ近今ニ至リテハ。大ニ開化ガ進ミテ參リタヿ故。箇樣ナ愚政ハ追々ト止ミ。當時デハ成丈ケ例ノ不羈ノ情ニ任セルヲ本意トシテ。務メテ政府デ世話ヲヤカヌヿヲ貴ブデゴザル。併シ右樣ノ間違ツタ筋ノ外ニ必ズ政府デ世話ヲヤイテ。臣民ヲ勸導セネバナラヌ筋ノ事モ多クゴザルガ。乍レ去縱令此正シイ筋ノ勸導トイヘ𪜈。矢張憲法ノ條ニ論ジタ通リ。先ヅ第一ニ其國ノ開化ノ淺深ト及ビ其人情風俗トニヨク注意シテ。然ル後ニ從事セネバナラヌヿデ。開化ノ進マヌ國ホド政府デ多ク世話ヲセネバ。遂ニ安民ト云フ場合ニハ至ラヌヿヂヤガ。ソコデ此勸導ノタメニ追々ト開化ノ進ムニ從テハ。又追々ト其世話ヲ減ジテ民ニ任セル樣ニ致サネバ。縱令其心ハ如何程安民ニ切デアリテモ。遂ニハ虐民ニ陷ルデゴザル。當時英國或ハ聯邦抔デハ敎化ノ第一タル庠序學校スラ。政府ノ世話ヨリハ民ガ私ニ學校ヲ設ケテ。世話ヲスル方ガ却テ多イ位ノヿデ。其外何事ニヨラズ。大抵ハ臣民ニ任セテ出來ル樣ニナリタデゴザル。福澤氏ガ西洋事情外編ニ。龍動府（英國の京師）ノ政治ヲ反顧スニ。其政治ノ趣旨ハ府内物品ノ需要ヲ助ケ勸ムルニモアラズ。亦其供給ヲ制スルニモアラズ。往クヲ止メズ來ルヲ防ガズ。唯人間自然ノ勢ニ任スルノミ云々。ト記シタガ。實ニ此通リノヿデゴザル。乍レ去唯今モ申ス通リノ訣デ。第一時處ノ二ツニ注意セネバナラヌヿヂヤカラ。開化ノ淺イ國デ歐洲各國ノ眞似抔ヲシテハナラヌヿデ。先ヅ敎化ノ道ヲ專一ニシテ倫理ヲ明カニシ。風俗ヲ正シウスル等ノヿハ勿論。其外都テ百工技藝利用厚生ノ術。何クレトナク關ケル樣ニ盡力スルノガ肝心デ。是等ノヿヲ唯民ニ任セテ置イテハ民ガ愚ナモノヂヤカラ。何時迄立チテモ太古ノ風俗ヲ去ルハ出來ズ。遂ニ開化文明ノ域ニ至ルト申スヿニハ參ラスデゴザル。歐洲各國ノ當時ノ如ク。開化文明ノ邦

ニナリタト申スモ。實ニ教導ノ行屆ク所カラ。遂ニ輓近蒸氣ヤ電氣等ノ學術ガ闢ケテ。奇器良巧ノ發明ガ殆ド枚擧ノ出來ヌ程ノヿデ。之レガ爲メニ百工技藝ガ日々盛大ニ赴キ。遂ニ殆ト利用厚生ノ術ヲ盡シタ場合ニ至リタカラノヿデ。實ニ世界ガ一新致シタ程ノヿデゴザルカラ。他ノ開化ノ淺イ國デハ先ヅ是等ノ所ニ能ク着眼シテ。之ヲ手本トシテ偏ニ政府デ心ヲ用ヒテ。臣民ヲ勸導セネバナラヌノデゴザル。乍レ去右申ス如ク。呉々モ此勸導ニヨリテ開化ノ進ムニ隨テハ。政府デ世話ヲヤキスギルト云フ弊ノナイ樣ニ。成丈ケハ民ニ任セル樣ニスルヿヲ忘レテハ決シテナラヌヿデ。夫レデナケレバ眞政トハ申シ難イデゴザル。併シ又一段惡イヿト云フハ君主擅制ヤ專治ノ國デハ。動モスルト安民ノ心ハ露程モ抱カズ。唯政府ノ私利ヲ營ムタメニ或ハ國益ヲ開クトカ。又ハ國家ノ利ヲ興ストカ名ヲ付ケテ。兎角商賈ノ業抔ヲ官ニ取リテ民ノ利ヲ奪フ樣ナヿヲ致スガ。是レハ實以テ惡ムベキノ極デ。今更申スモ愚カナヿデゴザル

跋

孫武云知彼知己孟軻云乘勢待時今弄假山謂山不足仰弄盆水謂水不足畏播稻於冬播麥於夏而望其成熟焉嗚呼是豈足與計天下之大事乎哉天下之亂雖其所由來有千情萬態要之陋儒不知時務俗吏不知彼己樂枯燥之理窟守陳腐之繩墨而不知人情之倦怠奔逸既久也夫人情既倦怠奔逸則彼理窟繩墨將無所施焉友人加藤大學大丞蓋有概於此嘗著立憲政體略一編記歐洲政治之大綱尋講述其餘意又著此編余受讀拍案歎曰嗟天地之理豈有窮乎儒稱太極佛稱虛無而其所謂太極虛無者亦姑假以表其妙而已歐洲輓近之學實踐驗妙器械發祕愈出愈新較之彼太極虛無之空言其霄壤大有逕庭矣故其政簡易齊整人々得保自主權利文明開化之說殆不虛也大丞學博識高故其論理不落枯燥論法不屬陳腐能吸彼腦髓補我臟腑於施政之術可謂無遺蘊矣余於洋文不能讀一丁字而得詳其政事學術之大綱者抑大丞之賜也於是乎書

明治庚午天長節

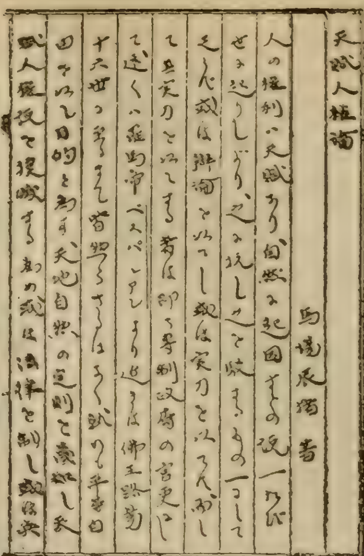
權大史生田精撰

天賦人權論

馬場辰猪

天賦人權論

人の權利は天賦なり、自然に起因すとの說一たび世に起りしより、之に抗し之を駁するもの一にして足らず、或は辯論を以てし或は實力を以てす、而して其の實力を以てする者は卽ち專制政府の官吏にして、遠くは羅馬帝ベスパシアンより近きは佛王路易十六世に至るまで皆然らざるはなく、孰れも平等自由を以て目的と爲す、天地自然の定則を蔑如し天賦人權說を撲滅する爲め、或は法律を制し或は兵馬の力を用ひたりと雖も、奈何せん自然定則のある所專制政府の權力も終に之を撲滅すること能はざるのみならず、其の企圖は却て適〻政府に災し人間社會を害するに至りたるの例は皆世人の熟知する所なり、故に天賦人權主義の權力を用ひて容易に撲滅し得べきものにあらざることは自ら明白にして復た更に喋々の辯を要せざるべし、


天賦人權論　馬場辰猪著
人の權利ハ天賦なり自然ニ起因すとの說一たび
世ニ起りしより之ニ抗し之を駁するもの一にして
足らず或は辯論を以てし或は實力を以てす而し
て其實力を以てする者は卽ち專制政府の官吏にし
て遠くハ羅馬帝ベスパシアンより近きは佛王路易
十六世ニ至るまて皆然らさるはなく孰れも平等自
由を以て目的と爲す天地自然の定則を蔑如し天
賦人權說を撲滅する爲め或は法律を制し或は兵

(原稿第一頁)

又た辯論を振ひ理論を以て往々此天賦人權說を駁撃せし學者古今其人に乏しからず、往時に溯て之を尋ぬればマチヤベリー及びホーブス等の如きを以て其最とし、又近時にあつてはベンサム及びオースチン氏の如き卽ち是なり、而して某々の如きは今姑く措て論ぜず、先づベンサム及びオースチン氏に就て論ぜんに、ベンサム氏曰く、天賦人權の說は論理の結局の目的と爲すに足らず、何となれば實利に據て判斷するに、平等自由は唯だ人間の最大目的なる幸福を求むるの方便にして、決して其目的とする所の者にあらざればなりと、然りと雖も今日人間社會の組織を觀察すれば、自由と幸福とは恰も車の兩輪あるが如く須臾も離るべからざるのみならず、實に相俟て生長するものなり、試に看よ、古今人民の幸福を失ふは上に專制政府ありて人民の自由を妨害するに基するものなり、佛王の國民の自由を妨げ英王の平等權を害したるが如きは皆一國禍亂の源にして、若し英佛の王をして蚤くより人民に平等自由の權を與へしめなば、彼の如き慘憺たる狀況を呈することは萬あるべからず、然りと雖も亦時あつて自由と幸福と相合體せざるの例なきにしもあらざれども、然れども自然の道理に據て推究せば自由と幸福とは應さに合體すべき筈の者なるはベンサム氏も亦許す所なり、而して適〻合體せざることあるも是は唯格外なる非常のことと爲して可なり、

オースチン氏は法律學を分て、法律は何であるか又法律は如何にあるべき筈のものなるかの二問題と爲したり、而して始めの一問題に就ては、法律は唯主治者の命令なれば假令道理に於てあるべからざることと雖も、一旦其命令する所となれば法律と爲らざることなく、亦法律となれば有效の者ならずと云ふことなしと論じ、彼のブラックストーン氏が自然に反したる法律は無效のものなりと云へるを駁したり、然れど

も是は唯だ主治者の命令なる法律を基とし論じたるものなれば、假令現行の法律自然の道理に反するも、法律となるからには有效なるは勿論のことにして怪むに足らず、然りと雖も若しブラックストーン氏をして自然の道理に反したる法律は無效となるべき筈のものなりと云はしめなば、オースチン氏も亦異論なかるべし、故に理論上より論じ來るも人の權利は天賦なり、自然に起因すとの說に就て直接の反對はなかるべき筈なり、然るに近時本邦に於て一の反對論者あり、之を駁せんが爲め人權新說と題する一書を著したり、此書の出るや世上の辯士論客往々之を評論するもの鮮からず、然り而して今此書をして唯一個の書生が奇を好み新を競ひしより著述せし者ならしめば、余は敢て之を問はざるなり、又世塵を避け山谷に遁れ獨樂む隱者の著述せし者なれば、迂濶にして世事に通ぜざるは固より當然にして敢て責むるに足らず、將た世の俗吏が一時政略上の爲めに之を著したるならんか、此の如き卑劣の策略を以て人心を籠絡し得べきものにあらざれば、余は又唯だ之を一笑に附し去らんのみ、然るに今其著者に於ては然らず、一個の書生にあらず、隱者にあらず、又俗吏にもあらず、世人の目して通觀達識の學士と爲し、殊に當時は辱くも我　叡聖文武天皇陛下の叡慮により特選せられて大學の總理に任ぜられたる加藤弘之君なり、今君の如き人にして此著あり、或は一時影響を世間に及ぼすことなきを保すべからず、是れ余の之を默々に付すること能はず、敢て一言を呈せんと欲する所以なり、

元來進化主義と云ひ天賦人權說と云ひ、實に重大なる問題にして頗る精密の考案を要するものなれば、若し之を論辯せんと欲せば殆ど一大書册にも至るべき筈なるに、今此の人權新說の如き唯片々たる一小册子にして、其議論の粗略なる實に讀者をして驚愕に堪へざらしむ、然り而して今先づ其の順序を擧ぐれば第一に妄想說の有害を說き、而して天賦人權說の如きも其妄想中の一に居るものとして一概に之を排擊し、次に權利進步の狀況を說き、最後の結論に於て容易に權利を伸暢するを不可となし、且つ今日我邦民權家の主張する所は皆妄想臆測なり、急躁過激なりと斷言せられたり、凡そ學者の事物を論辯するに方てや、先づ初めに其理由を說き、次に例を擧げて實を證し、然る後始めて之れが是非曲直を斷定せざる可らず、故に自然の確證を擧げて實理を研究せんとするの學者は必らず皆此の規矩に從ふを以て常とす、然るに今著者の如きは然らず、唐突にも理由を說かず確證を示さず、漫りに臆測妄斷を以て一概に妄想說は有害無益なり、天賦人權なる者は決して實存する者にあらずと斷言したり、何ぞ議論をなすの容易にして且つ輕躁なるや、夫れ天賦人權は決して妄想に非ず、然りと雖も今假りに一步を讓りて之を妄想とするも、凡ての妄想は果して悉く人間社會に有害なるや否やを論じ、然る後著者の論說は能く古來の事實に適合するや否やを判決せんと欲す、

試に看よ、天文學の如き其の極々の最初に溯つて之を視れば、太古蒙昧なる亞刺比亞人の間に星辰の異變に因り人生の吉凶を卜すと云ふ一種の占星說行はれ、爲めに人々星の運行に注意せしより遂に天文學を發明するに至れり、現に一千七百年頃日耳曼の天文學者ケプラル氏の如きも、幾分か此の說の力に藉て天文學の研究をなせりと云ふ、故に今日の天文學も其始めに溯れば全く占星學の力に由りて起りし者と謂はざる可らず、舍密學の如きも亦然り、其始めは亞刺比亞及び埃及地方の人民等が諸金屬を鍛錬して黃金と爲さんと欲し、種々の物品を錬化せしより、遂に一種の結果を發生し爲めに密

舍學の端緒を開くに至れり、其の後ち紀元千二百三十四年の頃に於て、レーモンドリウレー及びグローバー氏の徒輩出し、此の端緒に續で種々の藥品を發明するに至れりと云ふ、然らば則ち今日完全に至りたる天文舍密兩學の如きも其始めは皆此の妄想說に基したるものなりと謂はざる可らず、然るに著者は此れを是れ察せずして一概に妄想說を排擊し去り、妄想說は必ず社會の安寧を妨げ人生の幸福を害するが如く視做せり、著者の如きは妄想の害あることを知りて其の利益あるを知らず、噫何ぞ眼孔褊小にして其一を知つて未だ其二を知らざるの甚しきや、

更に又一步を進めて之れを論ずれば、著者が議論の精神なる達賓氏の進化論の如きも、其の始めは一個の妄想說より出でたる者也、抑も達賓氏が進化主義を發見せし濫觴を尋ぬるに、(達賓氏の進化說を駁すと題せる無名氏の著書に據る) 一千七百年代に於て達賓氏の親族中にエラスマス・ダーウヰンと云ふ人あり、此人元來醫を業とし兼て詩を能くす、最も本草學に長ぜり、故に常に閑に乘じて詩を賦し華蕚の斜めに開くは胡蝶の飛ぶに似たり、樹枝の横に臥すは野獸の躍るに類す抔と形容せしを、達賓氏は幼少の頃より之を聞き習ひ、動植物の互に相因緣して進化するの關係を悟り之が穿鑿を始め、終に進化說を著述するに至れり、其他今日の語學の如きも其始めを尋ぬれば、獨逸の詩家が歐羅巴の言語と印度の言語との關係を詠じたる詩に藉つて遂に大成を致せし者なりと云ふ、スペンサー氏嘗て曰く、凡そ想像は確說の基礎となる者なりと、然れば即ち進化の主義に據て之を考ふれば人間社會の事物は概ね始めより完全なる者有ることなく、亦動植物の如きも其始めは極めて不完全なる者にして、漸々其進化するに隨ひ形體を具し然る後始めて完備するものなり、思想上のことと雖も亦然り、其始めは朦朧たる妄想說に起り、進化して上達し、終に確乎たる一大主義に至るものなりと謂はざる可らず、果して然らば著者が天上天下無二獨尊と尊信する進化說の如きも、要するに又著者が稱して妄想となす者より出でし者なるべし、然るに之を是れ察せずして妄想は國家の大計を誤り人生の幸福を害する者なりと云ひ、而して自己が尊信する進化主義は何れの者より發見せしかを問はず、妄想の二字は著者却て自ら之を甘受して可なり、

著者は其第二條に於て痛く天賦人權說を慷論し、自由自治若くは平等均一の權利なる語を示す爲め諸外國の原語を引證したるは誠に煩勞の至りと云ふべし、然れども其殊更に引證せられし原語中に誤謬あれば、余は本意ならずも之を摘出して其謬點を正さゞる可らず、佛語にて人間の權利と云ふ語は左の如く記する者なりと聞く、Droits De l'Homme, 然るに今著者が引證せる佛語を視れば Droits の下 De l' を變じて d'l となしたり、又著者が引證せる人權と云ふ佛語即ち Droits と Humains の間に句讀を設けたるは果して何等の意味なるか、余が聞く處に據れば此くの如き者は決して正當なる綴字法と云ふ能はざる也、元來斯くの如き字句の間に關し其誤謬を指斥するは余の甚だ屑よしとせざる所なれども、苟も一國大學の總理たる者にして書を著さんとするときは十分の精確を要すべきに、却て斯の如き杜撰あれば不本意ながらも茲に一言を附せざるを得ざるなり、

著者が天賦人權說の起原を說くや、誠に奇怪なる說のみ多くして余は殆んど之れを辯駁するに堪へず、然れども誤謬を正し眞正に歸せしむるは學者の任なれば、余は止むを得ず聊か其謬點を摘示すべし、著者が其の著書第三條に於て

『羅馬の興るに及んでも猶未だ天賦人權主義の生ずるに至らざりしが、紀元後に及び彼の有名なる烏備比安氏が始めて人は皆生れながらにして平等の權利と及び自由の權利とを有すと云へる主義を講述せり』と云々、其他釋迦や耶蘇の說を引證して、人は皆貴賤貧富の別なく或は來世に渉り或は上帝に對し平等の權利を有するものなりと云ひしも、未だ確實なるものに非らずと述べられたり、耶蘇釋迦の事は姑く措て論ぜず、獨り烏爾比安氏を以て平等權利自由權利の新主義を講述せし鼻祖なりと云ふに至ては、實に疎漏千萬と謂ふべきなり、

抑も希臘の「ストイック」哲學史に據れば、（「ストイック」とは玄關のことなり、希臘に於てゼノ氏が自然說を主張するに當り、我邦の玄關前に類する所にて講述せしより、爾來ゼノ氏の說を奉ずる派を稱して「ストイック」哲學派と云ふ）紀元前二百六十三年の頃希臘にゼノと呼ぶ人あり、此の人や大に自然主義を主張し、『人間の自然に從て生活するは卽ち人生の目的なり、自然の感覺は極めて至公至平なり、之を詳言すれば人間の自然に欲望するは必ず其自己の利益を謀りて禍害を避くるの傾きを顯はす者なり、例へば赤子の母を見て喜び見慣れざる者を視て恐るゝ如きは、蓋し母は己れを撫育する者にして、其見慣れざるものは己れを害するあらんかの感覺を惹き起すに因るなるべし、必竟するに此の如き感覺を起す所以のものは、其身を保護し其禍害を避くるに在り、是れ上天より賦與されたる自然の良心より起るものと謂ふべし、草木の如きも亦然り、草木の暖氣の方に向て枝を長じ、水氣の在る處に向て根を長ずるが如き、人爲を施さゞるも必ず斯くの如くに趨く者は、自然に自己の生活を保つ爲めに出づるものなり、智識の上に於ても、小兒が新奇の事を聞き新奇の物を視んと欲し、卽ち眞正の道理を知り智識を擴張せんと欲するは天地自然の賦性に出づるものと謂はざる可からざるなり』と言ひ、五十二年間アゼンに於て門徒を集め終始一の如く大に此の主義を教授したりしが、其後ち紀元前百三十六年頃より此の學派を奉ずるの徒其說を羅馬に移し、彼の有名なるシセロ氏も大に此說を主張したるより、羅馬の法律家も亦之を學び、遂に紀元後二百二十八年比に及び此の主義甚だ盛昌なるに至れり、又羅馬に於て烏爾比安氏の未だ出でざる前卽ち紀元後七十九年ベスパシヤンの帝の代に於て、ヂミストリヤスの如き「ストイック」哲學を奉ずる人々大に此の說を主張して政事上の自由を求め、其の政府に抵抗するに至れり、是に依て之を視れば自由平等の說は烏爾比安氏の創始に非らずしてデミストリヤスの時に行はれ、デミストリヤスの時に起るに非らずして、蚤く紀元前二百六十三年頃希臘のゼノ氏の時に發生せしと謂はざる可からず、然るに著者は其の本源を忘れて其の末流を逐ふ、何ぞ其の考證の謬れるや、

著者は又更に誤謬を重ね、『西暦一千五六百年の頃に及び一種性法學派なるもの起り、哥路志氏哈比氏布番多氏等其他の碩學專ら之を主張し、凡そ人生の法は全く人の天性に淵源し、人の權利は全く造化の賦與に出づる所以を論ぜしが、遂に此學派より古來未曾有の妄想論者を產出することになりけり』云々と大層らしくも說き出されたり、西暦二百二十八年頃に於て烏爾比安氏の如きは業に已に此の主義卽ち性法說を主張したることは前にも述ぶるが如し、然れども余は猶其議論を確定せんが爲めに左の一例を示すべし、紀元後五百年頃羅馬のヂョスチニアン帝が編纂したる羅馬律編纂書第一卷第二章中烏爾比安氏の說を揭ぐる左の如し、

Jus na urale est, quod natura omnia ani-

malia docuit: nam jus istud non humani generis proprium est, sed omnium animalium quae in coelo, quae in terra, quae in mari nascuntur.

之を英語に譯すれば卽ち

The law of nature is that law which nature teaches to all animals. For this law does not belong exclusively to the human race, but belongs to all animals, whether of the earth, the air, or the water.

なり、之を我が邦語に譯せば、「自然法なる者は自然が凡て動物に敎ふる所の法律なり、此の法律は獨り人類に屬するのみならず、凡そ地上、水中、空中に生活する動物は皆此の法律の支配する所のものなり」と云ふに在り、左れば性法學派の淵源は紀元二百年頃に於て業に已に羅馬に發生したるを視る可し、之れを是れ顧みず、性法學派は西暦千五六百年代に於て始めて起りしものなりと斷言するは誠に驚く可き謬見と謂ふべし、

且つ著者は其の第四條に於て痛く蘆騷を排斥し、佛國千七百九十三年の革命は世間に天賦人權說の信用を得たるに原因せしもの丶如くに斷言せり、是れ亦觀察の適當を得たるものと謂ふ可らざるなり、蘆騷の說は固より完全無缺の者と謂ふ可らざるは余も亦之を信ずと雖も、蘆騷の爲めに佛國の大革命を惹起せしと爲すに至りては原因と結果とを混同したるものと云はざるを得ず、試みに看よ、上に明君賢相ありて寬大自由の政を布き、人民鼓腹擊壤して泰平を樂むの時に當れば、如何なる悖戾の主義を唱道する者ありと雖も決して勢力を世間に逞くすること能はず、苟も然らず、政令民心に背違し一國瓦解せんとする時に方ては、天賦人權の說なしと雖も其の滅亡を免るヽこと能はざるや必せり、桀紂秦皇及び隋の煬帝の如き人權同等說の爲めに、其舊物を失ひしに非らず、一二の英雄豪傑が民怨に乘じて奮起し之れに由て革命を成就せしに外ならざるなり、若し當時佛國に於て政令法律其宜きを得人民の自由幸福を完うし政府に憤怨することなからしめば、百の蘆騷ありと雖も決して民心を激動する能はず、之を要するに蘆騷は當時の弊政に憤懣して自由平等說を唱へ、其國人は著者の云へるが如く如何にも專制抑壓に苦む時なれば、一時に之に風靡し遂に勢力を政事上に及ぼすに至りしのみ、然らば何ぞ革命の原因を以て獨り蘆騷の民約論に歸するを得んや、凡そ學者の事を論ずるや前後の事情を比照し、普く事實に就て原因の在る所を搜索し、以て之が結論をなすべき筈なるに、著者の如きは事茲に出でず容易に之れが判斷を下し、佛國の革命は天賦人權主義の妄想に出でしと云ふに至ては、學者に不似合なる議論と謂ふべし、余の見る所を以てするに、佛國の革命は人民が進化主義に從て自然の活動を爲さんと欲する際に方り、政府は却て之を抑壓して自然の進化を防遏せんとしたるより發生したるの結果なりと謂はざる可らず、元來人間の自然に進化して權利の平等を熱望し自由權利の伸暢を企圖する場合に臨めば、政府は必ず其の世間の風潮に從うて轉化せざるを得ず、是れ則ち優勝劣敗生存競爭の法則なり、然るに著者の如きは人力を以て强て世間の風潮を抑遏するの危險なるを知らず、自ら進化の主義を說きながら却て進化の主義を辨ぜざる此くの如し、亦憫むべきの至りならずや、

第六條以下第十五條に至るの間は萬物自然進步の狀況を說きたるものにして、卽ち歐洲諸學士の進化說を直譯せしものに過ぎざれば、余は敢て之を論ずるを要せず、直ちに進んで第十六條に就て論駁する所あるべし、

古今の經驗に據れば社會の動植物は皆生存競爭優勝劣敗の定則ありて、總ての動植物は決して此の定則の外に出づる能はず、故にバヂホット氏の如きも此優勝劣敗の說を唱道して曰く、『古今各國の人民が戰爭するに當り、互に自己の勢力を强大ならしめんが爲め或は武器を精練にし或は身體を强壯にし、又從て種々の工夫を運らし、爲めに大に智識を發達せり、又甲乙兩國の戰爭を開き、若し甲國人民の勝を得て乙國を奪ひしときは、甲乙異種の相婚嫁するよりして人種の改良を促せしが如きは皆此の進化主義に從ひたるものなり』云々と、而して現に著者の如きも亦大に此の進化主義を主張せられ、其の書中に於ても優勝劣敗は永世不易の自然の規律にして、即ち萬物法の一大定規なりと斷言せられたり、是を以て之を觀れば、世界の動植二物は必ず此の生存競爭優勝劣敗の天數を免るゝ能はざる者なり、然るに著者は奇怪にも第十七條中に於て、此進化主義中良正のものと不良性のものとを區別し、『吾人人類精神上の優勝劣敗は決して悉く良正の性質を有するものに非ざるのみならず、或は大に邪惡のものあり』云々と述べられたり、是れ果して如何なる理由に基きて然るものなるか、元來進化主義なる者は優等者が勝を獲て劣等者を制し、所謂優勝劣敗して進化するの謂にして、是れ固より天然上より認許する所のものなり、然らば則ち斯かる競爭の世界に於て此競爭は良正にして彼の競爭は不良正の者なりと區別するも果して何の益か之れ有らん、故に余を以て之を視れば、社會の改良進步を害する者は寧ろ進化主義の良正不良正に由るに非ずして、人爲を以て自然の優勝劣敗の活動を妨害せんと欲するより起る結果と謂はざるを得ず、古來謬妄なる政事家が社會の進步に抵抗するの政略を行ひ、之が爲めに上下の軋轢を惹き起したるの例は世に鮮なしとせず、是れ皆人民の自然に生存競爭せんと企圖するの際に於て、强て人力を以て之れを防遏せんと企てたるより起る現象に過ぎざるなり、此れを是れ察せずして、進化中に良正の生存競爭あり不良正の生存競爭あり、將た邪惡なる優勝劣敗ありと云ふに至ては、不思議千萬の斷定と謂ふべし、若し斷然と其正邪を區別し得るの基礎あらば、請ふ幸に明示を吝む勿れ、

更に眼を轉じて第十六條を視れば、著者は「歐洲今日の上等平民は概して智識才能德義品行學藝財產農工商業等の淵叢とも云ふべき者にして、國家の元氣は專ら此種族に存し社會の輿論習俗は專ら此種族より出づる者なり、此種族は中古の封建割據を壞り、貴族僧徒の擅恣抑壓を制し、人民の自由自治を創始し、邦國の秩序を保護し、進步を誘導し、社會の德義品行を矯正し、學藝農工商業を振興せしものなれば、歐洲今日の開明は蓋し多くは此種族の賜なり」云々と說かれたり、古今學者の事を論ずるや往々實際に疎く事實に違ふ者なきに非ず、蓋し著者の如きも亦歐洲今日の實況を知らざるより此の謬見を生ずるに至りしならん、試に問はん、著者が歐洲今日の上等平民とは果して如何なる種族を指すか、英國の貴族僧徒の如きものを云ふか、蓋し然らざるべし、何となれば著者既に第十六條に於て、歐洲今日の上等平民は中古に於て封建割據を壞り貴族僧徒の擅恣抑壓を制し自由自治の基礎を創始す云々と述べたる上からは、則ち此上等平民とは無論英國の中等平民の如き者を稱するならん、若し然りとせば著者の說の如きは大に其の實際と相背反するものあるを以て、余は茲に英國の一例を擧示すべし、英國に於て中等平民と稱する者は所謂政事上の權利を有する者にして、其の政事上の權利を定むるが如きは僅かに十二磅の價値ある

土地若くは家屋を有し、或は之れと同樣の價ある土地若くは家屋を借る者は、皆國會議場に出席する代議士を選擧するの權を有する者なり、英金十二磅は僅に我金貨六十圓許に過ぎざる也、而ても之を彼我物價の權衡に比較すれば一磅は我一圓許に相當すべし、我邦の下等人民にても苟も一家を有する者の土地家屋を併算せば必ず十二圓の價に下らざるべし、我邦の下等人民に比すべきものを指して歐洲の上等平民と謂ひ、歐洲今日の上等平民は概して智識あり才能あり學藝ありて品行方正なる農商工業等の淵叢なりと爲す、亦奇と謂ふべし、實際此等の人民中には隨分不學無識の者もあり、品行汚穢の者もあり、何ぞ之を一概して品行方正智識才能共に完全なる人民と云ふを得んや、良しや一歩を讓り之を完全なる人民と爲すも、著者の言は到底正鵠を得たる者に非らず、何となれば著者が其第十七條に掲ぐる所に據れば、曰く「我邦近日の有樣を以て視れば、士族一般の勢力は日に衰耗して、今日に至りては士族若くは平民中より出でたる少年客氣の輩、若くは急躁過激の徒、妄に權力を貪り良民を煽動して社會を壓倒せんと欲するが如し、此輩多くは學識廣博なるに非らず、財産富裕なるに非らず、世故に練熟せるに非らず、品行良正なるに非らずして妄に此くの如き大事を謀り、以て人民を誤らんとす、國家の大害蓋し之より大なるものは有らざるなり」云々と、前條に於ては「歐洲今日の人民は中古封建割據を壞り、貴族僧徒の擅恣抑壓を制し、人民の自由自治を創始し」云々と贊稱しながら、本條に於ては卽て我が國民を排斥する此くの如し、其意果して何くに在るか、夫れ歐洲中古の人民が進んで今日の地位を占め、且つ一國文明の精神とも稱すべき者となりしは果して如何なる理由に原因するか、是れ所謂自然主義の天然法に則り、互に生存競爭して遂に封建政治の暴横を壞り、貴族僧徒の專恣を矯正したるに因るに非らずして何ぞや、要するに著者が所謂進化主義に適合したるものと云はざる可らざるなり、左れば從來我邦に於て政權を占有し來たりし士族は既に其勢力を失ひ、而して人民奮て生存競爭の主義に則り、舊來の弊政を矯正して善美なる政體制度を設立し、以て是より上等人民たるの位置を占有せんとするの情態は、恰も中古の歐洲平民が封建制據を壞り貴族僧徒の擅恣抑壓を制したると一般の有樣なりと謂はざる可らざるなり、均く是れ進化主義に出づる者にして、歐洲に在つては是なりと云ひ、我邦に在つては非なりと云ふ、自家撞着たる孰れか玆より甚しからん、若し著者をして歐洲封建中古の世に在らしめば、著者が今日に贊美する所の封建制度を壞り、貴族僧徒の擅恣を制したる人民の行爲の如きも、亦之を不可として擯斥せらるゝならん、果して斯の如くなれば進化主義の主意は其れ何くに在るか、

更に一歩を進めて之を論ずれば、著者は痛く我邦今日の民權家を排斥して、『此輩多くは學識廣博なるに非らず、財産富有なるに非らず、世故に練熟せず品行方正ならず』云々と、如何にも傍若無人に說き出されたり、是れは著者が嚮きに掲げられたる夫の歐洲中古の封建割據を壞り貴族僧徒の擅恣抑壓を制したるの種類に比較しての立論ならんと信ずれば、余も亦學識廣博世故熟練品行良正の點に付、現今我が國民の狀態を歐洲中古の人民に比較して其優劣を定め、著者が議論の當否を判別せんと欲すれども、之を爲すの前に於て豫め著者が所謂中古なる者は如何なる時代を指すかを問はざる可らず、史家の說に據れば、中古とは羅馬帝國の亡びしより土耳古人がコンスタンチノープルを略奪せし迄の時代なりと云ひ、或は羅馬の滅亡に就きし

より歐洲諸國に於て宗敎改革の時限に至ると云ひ、或は又其時より米國發見の日迄を指し、或は又活字發明の時代迄なりとす、而して又ハラム氏の說に據れば、紀元後四百八十六年クロビース王が佛蘭西王國を創始せしより、千四百九十五年佛王チャーレス八世が伊太利亞のネープルを略取せし迄を限りとす、歷史家が中古の說に就て異同ある概ね此くの如くして、紀元後三四百年頃より同千四五百年に至り其間殆んど一千年に跨れり、然れども此等數種の說に據て視れば、此年代は皆貴族僧侶の平民と軋轢競爭せし時代にして、其封建割據の倒れしは則ち此の時代の終尾に在り、而して此の中古と稱する時代に就き其情況如何なりしかを述べんに、其の始めの程は殊に蒙昧に屬せしを以て、或る史家は其の最初の年代を評して暗黑世界と稱せり、其後平民等が貴族僧侶の專橫を制止するの時代に至りても、國に中等人民なるもの無く、唯貴族僧侶と下等平民のみなりき、左ればにや學問の如きも至て開けず、偶々力食すること無く學事に從事して下等平民等と伍を異にする者有るときは、世人は頗る之を怪み魔術を施すものなりとして、却て之を苦境に陷れ、種々の拷問を爲すの有樣あり、故に當時の人民は上等社會と云ふものと雖も、猶ほ日記を誌し書狀を認め得る者の如きは殊に稀なりしことは諸國の歷史に散見する所なり、然らば當時歐洲人民の智識の開發せざることは此の一端を以て其他を推知するに足るべし、然るに眼を轉じて我邦現今の有樣を見るに、勞力社會と雖も日記を誌し書狀を認め得る者は決して鮮少ならず、殊に中等社會に立ち民權を唱へ自由を說くの士に至りては、皆相當の敎育を受け相當の智識を具へ略ぼ內外の事情に通達する者なり、然れば卽ち之れを封建政治を破却せし歐洲中古の人民に比較せば、其智識才能の長ずること素より日を同うして語る可らず、之れを是れ顧みず、一方に於ては口を極めて歐洲中古の人民を賛美しながら、一方に於ては我が國民を罵詈して無學無識なりと云ふ、識らず著者は何の據る所有つて此くの如き比較を爲し、此くの如断定を下したるものか、苟も然らずして著者の民權家を卑視したるは、人民と官吏社會との比較に出でんとせんか、余は益々之れを默々に附する能はざるなり、今日の政府は誠に賢才の淵叢なるべきも、學識を以て之れを論ずるに至つては容易に著者の說を賛成する能はざるなり、試みに思へ、財務を理むる人々は皆經濟學を以て世に知られし人なるか、法律を司どる人々は皆法學專門の大家先生なるか、而して今日民間に於て民權自由を說くの士學識廣博なるもの決して其人なしと謂ふべからず、若し單に學識の二字に就て之れを言へば、不肖余の如きものすらも敢て多く今日の肉食者に讓らざる所あるを信ずるなり、又民間に在る志士にして富裕を以て聞ゆる者亦殆んど屈指に暇あらず、唯だ月給に衣食して一時の豪華を競ふの士果して幾許の財產有るや、一朝官を去るに及では淸貧の君子と爲るは猶少く多くは喪家の狗の如き窮鬼のみ、而して又簿書に長じ刀筆に慣るゝは俗吏の業のみ、社會の大勢を觀察するの慧眼ある者に非ずんば之を稱して世故に練熟すると謂ふに足らざるなり、殊に其の今日民間に在る志士を一概して品行方正ならずと爲すに至つては誠に驚くべきの妄斷と云はざる可らず、事實を舉げず證據を示さず、惡名を以て天下の士に加ふ、豈是れ學者の口より發すべき言論ならんや、故に余は喋々之を論駁するを欲せず、若し著者にして偏頗の意見を止め公平の思想を以て內に自ら反省せば庶幾くは其の慙る所あるに至るべきなり、又其末段に至り、平民中財產に富で稍々豪農富商の稱を得るに足る者なきに非

ざるも、多くは不學無識にして淺近の事理をも解すること能はざる者のみなり、是を以て是等の輩敢て社會の權力を占有する能はざるのみならず、却て動もすれば彼少年客氣の輩急躁過激の徒に煽動せられて遂に倶に事を誤まるに至らんとすと云ふに至つては、多數の平民社會を目して半文錢にも當らざる者と爲すものなり、誠に失言の極と謂ふべし、之を要するに、著者は歴史上の事實を辨ぜずして誤謬の説を吐くのみならず、社會今日の現象を視るに於ても亦公平の觀察を失ひ、濫りに大言を吐いて民間に在る者を罵詈し、揚々として得色あり、余は著者が貴重なる學士の地位を占めながら、此くの如き輕易の論斷を爲すを惜まざるを得ざる也、

余は既に著者が引證の不完全なると、其の觀察の誤謬とを指摘して逐一之れを辯破したり、去れば著者とも雖も自己の著書に意外の誤謬有ると不適當の觀察を下せしことを發見し、爲めに悔悟する所あるならん、然れども余は猶進んで其最も甚だしき謬點を正さゞる可らず、先づ第十八條に掲ぐる所の大意を擧ぐれば、曰く「吾人人類世界は實に千種萬類の競爭を以て組織せる一大修羅場と云ふも可なる者にして、此一大修羅場に在りては必らず體質心性に於て遺傳と變化の優良なる者が遂に捷を獲て其劣惡なる者を倒し、以て之を制するを得るは彼の動植物世界と全く異なる所あらずして、此事たる實に永世不易なる萬物法の一大定規と云ふべきなり」云々、又曰く「然るに妄想論者の妄に天賦人權説を説くは宛も昔日加里勞、牛頓等諸氏が天體地球の實理を發見せし時に方り、僧徒等が猶天動地靜の妄想説を主張して明々白々爭ふべからざるの實理に抗したると一般なり」、余を以て之を視れば天賦人權主義は猶蜃氣樓の如し、人をして一時其の奇を悦ばしめしも、既に消散滅盡の時到れり」云々と、余は茲に至て著者が謬點の根柢を見出したり、謬點の根柢とは何ぞや、曰く天賦人權主義は蜃氣樓の如しと斷言したる者卽ち是れなり、抑も天下の事物は鹵莽滅裂にして毫も一定の規則無き者なるか、決して然らず、宇宙間には自然の定規在るありて、天下の事物は皆此定規に從はざる者なし、而して其自然の定規とは何ぞや、曰く萬物の世界に生ずるや必ず一定の自然力あつて、天下萬物皆力に因つて生ぜざる者あらず、例へば風の起るは空氣の力に因り、華葉の茂生するは草木發動の力に因り、人間の活動するは自然の生活力に依るが如し、此等數種の作用は各〻其の形態を異にすと雖も、然れども之れが根原に遡りて細かに視察すれば、皆一定の力有りて其力に歸納せざるもの無し、試に思へ、汽船の運轉するは其の器械の發動力に因り、器械の發動は蒸氣の膨脹力に發し、蒸氣の膨脹は石炭の焚燃力に出で、石炭は則ち曾て太陽の熱光を植物に注射し、其植物の地中に埋沒し數千年の久しきを經て變生したるものなり、故に其の汽船の運轉し器械の發動し蒸氣の沸騰し石炭の生出するも、極めて其の最初に遡れば自然に生じたる太陽の一力に歸するものなりと謂はざる可らず、而して人間の此の世に生活するも亦此の理に外ならず、人の家屋を構造するが如きは人間の腦力の發動に由り、其の腦力の發動は生活力に基き、其の生活力は滋養力に出で、其の滋養力は植物の力に起り、其の植物は太陽の熱力に發起するものなり、故に其の人間の家屋を構造するが如き、腦力の發動するが如き、滋養物の發生するが如き、植物の生育するが如き等、能く其の根原を尋ぬれば亦皆是れ太陽の一力より起因せざるは無し、然らば則ち天下事物の根原たる自然力なるものゝ作用は實に千變萬化にして殆んど端倪すべからざるが如しと雖も、其の根本とする力に

至つては毫も消滅死廢に屬するものに非らず、理學家の所謂元素無盡の說は則ち此の理に外ならざるなり、然り而して其の根本たる自然力なるものは未だ世界に存在し、其の分子の無盡なるのみならず、花卉となりては美麗ならんと欲し、菓實となりては成熟せんと欲し、水となりては流動せんと欲し、熱となりては膨脹せんと欲し、以て各〻其の保持する所の性質を發達して其の目的を達せんとするの傾向あるものなり、余は既に天下の事物は皆自然定規の活動力に由て作用を爲し、且つ其の活動力は終始無盡にして消滅せざるのみならず、各〻其の變形變狀の際に於ても亦其の己れが保有する所の本性を顯はし、十分に其の目的を達せんとするの傾向ある者たるを辯明したり、左れば猶玆に一步を進めて其の變形變狀の際に於て必ず一定不變の定規あることを辯說すべし、試みに看よ、玆に一隊の製造に係る甲乙の砲銃あらんに、同量の火藥に同量の砲丸を盛り、而して空氣の抵抗力若くは其他の事情も亦同一なる時に於て之れを放發せば、甲乙共に同樣の距離に達すべし、又玆に同一の製造に係る甲乙の鼎に同一同樣の水量を盛り、又之に同樣の熱度を與ふる時は、甲乙共に同時に同樣の有樣を以て沸騰すべし、是れ果して何等の理由に原因するかと尋ぬれば、是れ即ち自然法の定規の相一致するに外ならざる也、之れと同く、自然法に出る活動力の進行に於ても亦必ず一定の方向有るものなり、其方向とは何ぞや、曰く物の進行するや其最も妨碍鮮き地に向つて進行する是れなり、例へば樹木の其根を長ずるや、或は瓦礫に遇へば其瓦礫の少なき地に赴き、或は乾燥なる處に至れば更に轉じて水氣の在る所に向ひ、又種々の妨碍物に遭へば其間隙の在る所を求めて長ずるが如き、其狀猶動物社會と一般なる有樣なるに非ずや、人亦實に此くの如し、喩へば人有りて枝上の菓を摘まんとするときは必ず其之を取るに最も便利なる手段を用ふるならん、此等數種の者各〻相異なると雖も可成的障碍を避け、可成的平易の處に就くに至ては皆一なり、是れ即ち避難就易の定規と謂はずして將た何とか謂はん、

夫れ斯の如くなるが故に人類社會の運行も亦常に此くの如き者なり、喩へば野蠻人が水草を逐て轉住するの際に於て、東方には大敵野を蔽ひ西方には大河の橫るあり、北方には峻山峨峨として上ぼる可らず、獨り南方のみ障害鮮き時は必ず南方に向うて奔るならん、是れ人間なる者は必ず自然の生存を求めんと欲するの性あるに因るなり、然るに間〻危險の地に陷り非常の災害に遭遇するものあるは他なし、智識經驗の乏しきより或は其危險なるを知らずして其害に陷り、或は利害の比較を知らず誤つて失敗を招くに外ならず、是れ人間の自然に存する所の性質にあらずして唯だ人間の誤りて出でたる奇禍と謂はざる可からざる也、

斯の如く論じ來れば、(第一)宇宙の萬物は不消不滅の自然力に由りて生じたるものなること、而して人類も他の動植物と共に此の自然の變化力より生じたる現象に外ならざること、(第二)既に變化して人間たるの現象を現はしたる以上は必ず其目的を達せんと欲すること、他の動植物に異なることあるに非ざること、(第三)其目的を達すべき道理に於ては何れの邦國の人民と雖も必ず相一致すること、(第四)其目的を達するに就て運動する所の方法は常に障碍の最も少き地に向て進行せんことを求むる者なることは已に明々白々なるに非ずや、前段說く所の如きは獨り有形上の事物に止らず、人類無形の精神上或は道德上に於ても亦必ず此くの如き者なり、玆に一個人の此世に出づると假定せよ、其人は必ず自己の生存を保持

せんと欲するならん、其生存を保持せんと欲せば必ず之れが幸福を求むるならん、之れが幸福を求めんと欲せば必ず其の幸福を求むるに就て最も障碍の少なき手段に賴るべし、之と同く苟も一國社會を組織する人類は必ず其の己れ等が組織したる社會の生存を保持せんと欲するや又疑を容れず、既に其社會の生存を保持せんと欲するか、必ず之れが幸福を求めざる可からず、之れが幸福を求めんと欲するか、復た必ず其社會を生存するに障碍の最も少なき道に賴て之を求む可し、然り而して其障碍の最も少なき道とは何ぞや、人民の自由平等即ち是なり、若し夫れ人類に自由平等なる者無かりせば、社會の生存幸福を得るの際に於て常に障碍の起ること多かるべし、試に思へ、一人の力を以て多數人民の生存幸福を圖ると、多數人民の力に任せて其の生存幸福を圖らしむるとは其の困難孰れか多く孰れか少なき、而して又其の生存幸福を圖るには、其の人民をして自由に活動せしむると、之を束縛牽制するとは孰れか果して障碍の大なるやは敢て識者を俟たざるべし、是故に太古野蠻人民の有樣を視るに各人皆武器を携へて自己の生存を圖る如き、殊に婦女子に至る迄各武器を携帶せしめたるが如きは、既に各人各個に自由を有して十分に活動せしむるの便を知るが故に非ずして何ぞや、且つ又敵人と戰ひ敵手の寶玉家財を奪ひしとき平等に之を分配したるが如き、土地を共有して生活を圖りたるが如き、要するに皆是れ自由平等の主義に基くより起りたる者と謂はざる可らず、然り而して余が所謂自然法とは則ち此れ是の謂にして、又此の自然法に從て請求すべき權利を自然の權利と云ふなり、故に曰く、其の人類が自然の權利を求むるは則ち平等自由を求むるが爲めなり、其の平等自由を求むるは則ち人類の生存に障碍の寡き道を求むるが爲めなり、其の人類の生存に障碍の寡き道を求むるは、則ち人類の生存を求むるが爲めなり、其の人類の生存を求むるは則ち人類の幸福を求むるが爲めなり、其の人類の幸福を求むるは則ち人生の目的を達せんが爲めなり、其の人生の目的を達せんと欲するは則ち自然力の變化を全うせんと欲するが爲めなり、其の自然力の變化を全うせんと欲するは則ち不消不滅なる自然力の作用に從ふものなり、左ればこそ此の自然法より生ずる權利は人爲の製作にあらずして天賦人權なりと謂ふべし、何ぞ之を稱して蜃氣樓と謂ふを得んや、

說を爲す者あり、曰く「古來世界の有樣を視るに人類の性質は常に其の生活をなすに平易なる地を選ばざる者の如し、例へば野蠻人の相鬪爭して敗走するや、其の生存に障碍の少なき方に向うて進行せずして却て自ら困難の地に陷るが如き、又野蠻人の群居して生活を爲すや、常に相搏噬して互に其の生存を害するが如きは、是れ人類の天性は決して生存に障碍の少なき地を求むる者に非ざるの一證ならずや、此の如き例は古來內外の史乘に其跡を絕たざるなり、然るに之れに反對して、人間は自然に生存を全うせんとするの性質を有すとは抑も何ぞや」と、噫是れ亦粗漏の見解と謂ふべし、夫れ草木と人類との生存を求むる有樣を比較して之を辯明せんに、草木は生存を求むるの性質を有すれども利害を判斷する判斷力を有せざるを以て、單に其本性に從ひ必ず其生育に障碍の寡き地に就くものなり、而して人類も其生存を求むるの性質を有することは、恰も草木と一般なりと雖も、然れども人類は獨り自己の生存の利害を判斷する智力を有するが故に、往々其判斷を誤り障碍多き道に就くことありと雖も、始めより判然として其自己の進行する道に於て障碍多くして且つ其の生命に害あるを知らば、誰

か故さらに進で危險なる障碍の地に陷る者あらんや、又野蠻人の群居して鬪爭するが如きも、若し其の野蠻人にして始めより搏噬ある障碍の道よりも他に平易なる生活の道あるを判知せば、何ぞ喜んで此くの如き危道を進行することを爲さんや、然らば則ち障碍多き道を避けて障碍寡き道に就くは實に人類の本性なりと謂はざるべけんや、而して古來野蠻人民が屢〻危險の地に陷るが如きは、之れを要するに畢竟此等人民には智識研究の乏きより其の自己の判斷を誤り、遂に困難なる道を以て却て平易なる道なりと信ずるに出づるものなり、何ぞ之を以て人生の障碍寡少なる地に向ふは其の本性に非ずと云ふを得んや、故に人類の生存を求むるの道に於て其の障碍最も寡少の方向を選ぶは人類自然の道理にして、亦た人間此の世に生存せんと欲せば、必ず此の道に由らざる可らざる者とす、苟も人類にして此の道に由らずして困難の地に陷らざるものあることなし、障碍の寡き道を求むるは則ち人類の生存を全うする所以にして、障碍の多き道を求むるは則ち生存を害する所以なり、是れ即ち所謂天地自然の一大定規なり、

故に野蠻人の進行する際に在て或は障碍多き地に陷り、或は群居して搏噬するを以て常とせば、人類は漸次に減少して遂に滅絶するに至るべし、良しや假令滅絶に至らざるも、野蠻の陋習を蟬脫して開明の天地に進歩する能はざるや復た言を俟たず、然るに著者は古來野蠻一二の例を擧げて人類に天賦の權あるの證跡なし抔と妄斷を下したるは輕躁も亦甚だしからずや、余は既に前段に於て古來野蠻人と雖も平等自由を愛慕尊崇したる實跡を繼述せり、苟も一歩を讓り古來の野蠻人民は悉く著者の說の如くなりとするも、平等自由を求めずして互に相搏噬せしに止まれば、何を以て今日の如く億萬の人類を繁殖して開明の天地に達したるか、今日を社會は人類が自然に其の生存に障碍の多きを避けて其の寡き者を選び、而して自由平等を求むるより發生したる結果と謂はざる可らざるなり、之を要するに、著者の如きは唯に古來の人類が其の生存を求めんが爲めに偶ま過て進行したる事蹟と正に人類の進行すべき道とを混同し、其の進行したる道を擧げて他に進行すべき道なしと推測するに過ぎざるなり、之を詳言すれば、野蠻人が走馳するに當り誤りて障碍の多き道に就て危害を蒙りたる者の例を以て、他に人類の進行すべき障碍の寡き道なしと斷言し、人類が互に相搏噬して其の同類を減少したるの事實を擧げて、他に開明に進歩せんが爲めに求むべきの道は絕て無しとするに異ならず、是れ皆人間の生存幸福を求むるに於て必ず遵奉すべき天地自然の一大定規あるを知らざるに坐するのみ、噫自ら社會の事理を解せずして妄りに天賦人權は蜃氣樓の如し抔と斷言するは又迂濶の論者に非ずや、

天賦人權主義の自然に出生せしことは余が既に前章に於て辯明したるが如し、然れば今日の世に於て天賦人權說を主張するは固より怪むべきに非らず、然るに著者は頗る之を怪しみ、其の第十九條に於て痛く歐洲今日の天賦人權說を主張せし學士を誹毀したれども、是れ著者の妄測以て誹毀したるに過ぎざれば、余は深く之を咎むるを止め、直に第二十條に移り以て著者が議論を一評する所あらんとす、今其の大意を擧げんに、曰く「余も從來天賦人權主義に心醉せしかば、曩に眞政大意國體新論等を著して其中に大に此主義を主張せしかども　近日始めて進化主義の實理を信ぜし以來、頗る天賦人權の實存に疑を生ぜしかば、諸氏の書に就て天賦人權主義を駁擊せし說はあらざるやと穿鑿せしに未だ一の駁擊あるを見出す能はざりき、然れ

ども余が駁説の稍ゝ條理あるを覺えしかば、明治十二年十一月東京愛宕下靑松寺に開きし講談會、竝に十三年三月七日東京東兩國中村樓に開きし講談會に於て始めて天賦人權論を駁すと云へる講題にて所見を演じたり、然るに同年五月の頃なりけん、加爾尼氏が著せる道德と進化主義の關係を論ぜる書を讀み、余が所見の偶ゝ一碩學の主義と暗合せしを知り、果して駁説の謬らざるを悟り、其の歡喜譬ふるに物なく、殆ど雀躍の思をなし』云々と、此一條を讀むときは著者が今日唱道せる人權新説なる者は誠に昨今の發明に係れる者たるを知るに足るなり、何となれば著者も自ら明言する如く、明治十二三年頃迄は全く天賦人權主義に心醉し、漸く十三年の五月頃に至り二三の書を看て始めて此の進化主義を發明したる者なればなり、夫れ學者の天賦人權説に反對せし者從來少しとなさず、ベンザム氏オースチン氏の如きは既に實利主義を以て盧騷氏等の説に反對せるに非ずや、又イーリング氏の權利競爭論の如きも其の出版既に十五年の以前に在り、現に米國に於て此書を飜譯したるより今日に至ては最早十二年の久しきに至れり、然れば著者が明治十三年の五月頃に至りて始めて進化主義の書を看るを得たりとは少しく學者に不似合なるならんか、然れども蘧伯玉は六十にして五十九年の非を悟り、陶淵明は歸去來の賦を作り昨非を悟りて今是を知りたれば、亦以て著者が過ちを改むるに吝ならざるを賞すべし、然れども僅に一二の歐洲人の書を讀み其論の持説と暗合せしと云ふを以て歡天雀躍の思ひあり抔とは余が甚だ怪しむ所なり、何となれば假令白晳人種の智識は進歩せりとは云へ、神ならぬ人間なれば實に千種萬樣にて、賢も有り不肖も有り、君子も有り小人も有り、强盜も有り竊盜も有るならん、去れば歐洲人とても色々の説を唱へ容易に信ずべからず、然らば何ぞ一二歐洲人の説に暗合せしとて歡喜雀躍するに足らんや、著者の此言や亦輕躁の至りと謂ふべし、

余は既に著者が議論の第一章の論駁は玆に其の全局を結べり、請ふ是れより進んで第二章を辯駁すべし、著者が人權新説第二章は權利の始生及び進歩を論ずと云ふ題にて、人間の權利は邦國なる者立て始めて生ずることを説きたるものゝ如し、今其の大意を擧ぐれば、曰く凡そ吾人の權利なるものは先づ如何なる原因より始めて生じ、而して如何なる理由を以て漸く進歩したるやを論究せんに、凡そ權利なるものは吾人が始て稍ゝ鞏固なる社會を成すに至りし時、即ち邦國の體裁稍ゝ立ちたる時に於て共に生じたりとなせる者にして、蓋し最も確實なる説と思はる』云々と述べ、次に『邦國の體裁なるものは固より一朝俄然として生ずるに非ずして漸く徐々に起りしものなれば、人民の權利に至りても亦一朝俄然として生ぜず、蓋し戰爭若くは已むを得ざる原因より衆多の協力同心を要する場合の生ずるに際し、最大優者が其の權力を用ひて漸く諸親族諸部落を合して稍ゝ鞏固なる社會を設け、遂に邦國の體裁を立つるに至りしなるべしと思はる』云々と説き、而して之れが引證には、第一には『太古一家眷中にありて兄弟姉妹が互に爭訟を生ずるに方ゝ、家父が其權力を以て曲直を判じ、曲は其罪を譴責し直は將來を諭戒し、以て其爭訟を止めたるが如きは即ち兄弟姉妹を保護し、互に凌辱妨碍を受けざらしむるの道なれば、兄弟姉妹は既に稍ゝ自己の權利を有する者と云ふも或は可ならん歟』云々と家政の有樣を述べ、第二は『野蠻社會に於て酋長の權力假令微弱なるも、稀れには其部衆の小爭を制止するを得しこともあるべければ、是亦其部衆は既に稍ゝ酋長の保護を受け、幾分か自己の性命の權利財産の權利

等を有して妄に他人の爲に凌辱妨碍せらるるの害を免れたりと云ふも可ならん」云々と野蠻社會の情態を説きたり、而て終りに「イーリング氏の權利競爭論に於て、凡そ權利は競爭に因て進歩する所以を論じ、即ち人民が治者の保護に由て權利を得るも、人民が能く之れを保有して妄に他の爲めに毀損妨碍せらるゝを防禦し、幷に其の足らざるものは更に之れを得有せんと欲する氣力と、幷に此の權利を保有若くは得有するに耐ふべき知識なかる可らず」云々との引證を以て之れが結論を爲せり、以上掲ぐる所は之れを要するに、法律上の權利にして著者が所謂天賦の權利に非ず、抑も天賦の權利なる者は余が既に前章に述べたるが如く實に天地自然に生ずる者にして、權力の大小時世の異同に由て生ずる者に非ざるなり、故に卷首に論じたる如く、古今の法律家は法律上に二問題あることを説けり、其の二問題とは何ぞや、曰く其一は法律とは何であるかと云ふ問題即ち是れなり、凡そ法律なるものは主治者有て始めて生ずる者なり、故に國に主治者なる者有て之を施行するときは、假令如何なる壓制束縛の命令なりとも悉く稱して之を法律と云ふ、例へば昔日一枝を折る者は一指を斬ると云ふが如きにても、一國人民に必ず之れを守れと命じたる以上は則ち其國の法律なり、而して又其一は法律は如何にあるべき筈のものかの問題即ち是れなり、法律なる者は元來人民の幸福を大にするを以て目的と爲すべき者なれば、可成的人民の生活に障碍なき樣、可成的人民の生存を全うせしむる樣に制定すべき筈なり、例へば智識を發達するに必要なるの書籍は何人も之を讀み得るの自由を許し、生活に有用なる品物は何人も之を製作し得るの自由を保護するが如きものを云ふなり、之れを要するに、一は古來より存在し來りたる法律の有樣にして、一は自然法に基きて生じ來たるべきものなり、即ちイーリング氏の如きは古來より人類の相競爭して其の權利を請求したるに由り法律上の權利の伸暢せしことを説きしものなり、然れども其の法律上の權利の基くべき基礎は即ち人民の幸福を求むるの自然法に非ずして何ぞや、

然るに著者の如きは之れを辨ぜず、イーリング氏が主張したる者を以て、人間の權利は邦國立て始めて生じ、而して邦國未だ成立せざる以前は人類に於て生れながらにして天然の權利なきが如くに思惟せしは、蓋し法律は何であるか法律は如何に有るべき筈なるかと云ふ此の二のつ者を混同したるの過ちに原因するものと謂はざるを得ざるなり、

凡そ他人の著書を引證せんと欲せば宜しく其の起る所以と其の著書の目的とを説かざるべからず、若し之れを説かずして漫然之を引證せば全く其書の本意と相撞着することあるべし、故に余は茲にイーリング氏が説の起りし所以を擧げ、著者が議論の誤謬を正すべし、

千六七百年代に當りて歐洲各國にて壓制束縛の政治大に行はれ、現に那勃列翁一世の如きは佛國古來の習慣人情を顧みず、僅々の時日を期して世の所謂六法なる者を編制したり、此くの如きは獨り那勃列翁の政府に止まらずして日耳曼の立法官の中にも大に此の主義の流行して殆ど立法を以て人民自然の性質を變改し得るものゝ如くに思惟したりき、故を以て千八百八年頃に至り、サビニーなる者起り大に之に反對の説を爲したり、今其の大意を擧ぐれば、「元來法律なる者は天地自然に生じたる習慣より起る者にして、立法官が人爲を以て之を破壞せんと欲するも到底行はれざるものなり、何となれば元來法律は各個人民の間に行はるゝ自の習慣なる者が形を變じて顯はるる者なれば、假令立法官が人力を以て強ひて之れを變更せ

んとするも、徒費徒勞に屬するのみならず、間ま却て國家に弊害を與ふるに至るべし、故に都ての法律は自然の發生に任せて可なり」と云ふが如き說を講じ、其の門人ヒウター氏も復た此の主義を主張し、之れが爲めに更に一種の弊害を惹起し、後世人民は恰も無爲自然にして其の權利も伸暢し其の法律も改良するものと思惟する者あるに至れり、是に於てかイーリング氏は復た此弊害を矯正せんが爲め起て、生存競爭に非ざれば以て權利を伸暢す可らざることを唱道せり、今其の其大意を擧ぐれば、『茲に甲乙二人有らんに、甲一人のみ自己の權利を主張し、乙は毫も之れと相競爭せざれば、乙は遂に甲の奴隸たるに至らん、又茲に丙丁二國有らんに、丙一國のみ常に自國の權利を主張し、丁は嘗て丙と相競爭して自國の權利を保護せざれば、丁は遂に丙の屬國たるに至らん、一國政府と人民との關係に於ても亦此くの如く、政府獨り大權を握りて政治を執る時に當り、人民は毫も之れと相競爭せざれば決して權利の伸暢を求むべからず、宜しく奮て之れを伸暢す可し、而して之を爲すには十分に權力を養成す可し、然らずんば決して十分の目的を達する能はざるなり』云々と大に生存競爭の利益を說けり、蓋し是れ當時日耳曼官民一般の氣風は殆んど自然にして其權利の成長する者なりとの思想を懷き、敢て生存競爭して自己權利の伸暢するの思想なき者あるに至れるが爲めに此論を吐きたるなり、然らば則ちイーリング氏の主張する所の說は、列國相互の權利は列國相互に競爭して之を伸暢し、各人相互の權利は各人相互に競爭して之を伸暢し、政府と人民とに關係する權利は政府人民互に相競爭して之を伸暢すべき者なることを論じたるを知る可し、則ち此理に據て推論せば、何れの邦國の人民と雖も進んで其の政府と競爭するは則ち天地の公道なる自然法に從ひ、以て其の自己の權利を伸暢する者に非ずして何ぞや、既に余が前章に述ぶるが如く、新說第二章の意を推衍するときは、我邦の人民は益々相競爭して其の權利を伸暢せざる可らざる者なり、蓋し天地の公道なる自然の定規に基き生存競爭の手段に訴へ各人進んで自己の幸福を求むるは天人倶に許す所なり、故に今日我邦に於て再びイーリング氏を生せしむるも、亦必ず自然の定規に基き人民相互に生存競爭して其の權利を伸暢すべき者なることを唱道するや疑なし、然るに著者は嘗て其の第二章に於てイーリング氏の權利競爭論を引證して生存競爭の大義を說き、其論旨を推究するは恰も方今我邦の人民をして開明の天地に向はしむるの有樣ありて頗る我々の愛情を惹起せしが、本章に至り始めの生存競爭の說は一向に忘失せる如く、俄に變轉して痛く我邦人民が進んで其の權利を伸暢することを非難し、大に此の生存競爭の主義を抑制せんと欲するは其狀恰も巧手老練なる俳優が早替りを爲し、最初には婀娜たる紅梅の蕾を開かんとするの處女となり、其場を一轉すれば忽ち變じて奸佞邪智の老猾と爲り姦惡を極め看者をして其面に唾せんと欲せしむるの有樣あり、亦巧妙の早替りと謂ふべし、請ふ試に著者が第三章に於て如何なる言を述べしかを示さん、其の第三章は權利の進步を謀るに就て要すべき注意を論ずと云ふ題にて、之が要領を擧ぐれば、其の誤謬は一にして足らざれども、余は先づ其の大概を摘示し、一謬毎に序を逐うて之を辯破すべし、曰く『人間の權利の進步を謀るに就ては大に注意せざる可らざるものあり、決して輕忽にする能はず、邦の開否文野若くは其の民情風俗の異同に由て進步を謀るの術も亦異同なくんばあらず、例へば英國が印度及び濠洲太利等の藩屬地に本國と同じき法律を施行

し、其の人民に本國人と均しき權利を許さゞるは必ずしも其の藩屬人民を壓制するにあらず」云々と、著者が實際を知らざるは深く怪むにも足らざれども、印度と濠洲太利を混同するに至ては亦頗る笑止なれ、

抑も英國が藩屬地に對する政策に三種の別あり、第一に官屬植民地にして、此種の屬地に於て英王は立法の全權を有し其行政官吏は凡て英國内務省に於て統轄す、第二を代議政體の植民地とし、此地に於て内務省は猶ほ行政官吏を統轄すと雖も、然れども立法に對し英王は唯だ否權を有するのみ、又第三は責任政府の植民地にして、爰には英王唯だ立法に就て否權のみを有し、而して内務省は唯だ其省より派する所の代理を管轄するの外復た他の行政官吏の上に統轄權を有することなし、夫れ英國が其屬領地に對する政策に此くの如き區別あり、而して其印度に對するの政策は此第一種に屬するものにして、其立法行政の兩權とも總て英國政府の手中にあれども、然れども濠洲に至ては然らず、濠洲は右の内第三種に屬するものにして、其内治に關する立法權行政權の如きは概ね濠洲人民の自治に任し、英政府は敢て之に干渉せざるなり、然らば則ち内治に關する立法の權行政の權の如き概ね濠洲人民の自治に任せて英政府は敢て之に干渉せざる也、然らば之を以て印度人民の十八年未滿に至らざる前に英國に來て精密なる試驗を經ざれば官吏たるを得ず、又武官たるも上長官たるを得ず、又輸入稅の苛重なるより廣大なる器械を据ゑて十分に製絲の營業をなし能はざるの事情に陷らしむる者と同一に論ず可らざる也、加之、英國の印度人民を壓制する此くの如く甚きを以て、印度人民は大に英國政府を怨恨し、若し一朝機會の乘ずべきあらば直に反旗を飜して英國政府に抗抵せんとするの兆候有り、現に余が英國に在りしときは、印度人の話を聞くに、若し一朝英露の間に干戈を興すの時あらば、印度人民は其本國なる英國を助けずして却て露國に應援すべしと云へり、故に英國政府が其本國と區別して印度人をして代議士を出さしめざるが如き、且つ文武官たるの自由を與へざるが如き、是れ則ち英國が印度を壓制するの手段より出でたる者にして、何ぞ自然の道理に適合せし者と云ふを得んや、之を要するに、著者の如きは英國の印度に對するの政略は果して如何なる者か、印度人民は爲めに如何なる感想を懷き居るか、濠太利と印度とは如何なる差異あるかを知らざるにより、遂に此くの如き謬論を爲すに至りしなり、此れを是れ察せず、徒に臆測妄斷を以て英國が印度に對するの處置は壓制に非ず抔と喋々するは、自ら世人の笑を招く者に非ずして何ぞや、

更に其の臆測妄斷の甚しき者を擧ぐれば、曰く『東洋各國と歐洲各國とは大に開否文野の等差民情風習の殊別あれば、歐洲各國の安全幸福を進むるに足るべき法律權利は未だ以て東洋人民の安全幸福を進むるに適せざるなり、故に當路者若くは學士論者に至りては決して此事を輕忽に看過すべからざるは勿論なり、然るに彼妄想論者なる天賦人權者流は只管人民の權利の強大なるを天理に合するものと誤認するより、邦國の開否文野及び民情風習の如何をも察せずして只管人民の權利の擴張をのみ謀らんと欲す、歐米人民が數十百の星霜を積み漸次に得有せる諸權利を擧げて一朝にして之を東洋に移さんと欲するは、今日我邦の妄想論者が本旨とする所なり』云々と、亦粗漏千萬の議論と謂ふべし、我邦現時人民の智識の開達長成せしことは既に余が前にも述ぶるが如く、決して歐洲中古の人民に讓る所あらざるなり、回顧すれば歐洲各國が立憲の制度を創始せしより茲に數百

年の久しきに亙れり、現に英國の約翰王が「マグナカルタ」に調印せし時の如きも今日より之を視れば既に六百七十一年の以前に在り、其他佛獨蘭等の諸國に至ては蓋し少くも二百年を下らざるべし、然らば則ち我邦の人民が歐洲中古の人民の創始したる者を今日に創立せんと欲するに於て何の不可なる所あらんや、試に一歩を讓り、我邦現時人民の智識は未だ以て歐洲中古の人民の智識に達せざる者とするも自然の道理に從て生存競爭して以て其の權利を伸暢せんと欲するは所謂進化主義に適合する者なり、著者の如きは大に此の進化主義を主張する者にして、却て之れを排斥せんと欲するは抑も亦何の心ぞや、且夫れ今日民間に在て有志と稱せらるゝ者は從來皆立憲政體を創設せんとするの輿論を養成せんとせし者なり、有志者既に輿論を養成して輿論既に國會の開設を望むに至れり、何ぞ之れを目して急躁なりと爲すを得んや、彼の外國の法律を直譯して直に之を我邦に實行せんと欲する如き急躁者は蓋し他に之れあらん、著者自ら同舟の社會を看られよ、

更に一歩を進め之を論究せんに、進化の上に進化を重ねて事物の便利を謀るは即ち進化主義に從ふものなり、夫れ上等動物の進化は下等動物の進化に比すれば、其の順序は頗る簡單にして且直接なり、看よ下等動物の胎子に於ては五體既に具するも腦髓を有せず、左れども上等動物の胎子に於ては形體未だ具はらざるに蚤く既に腦髓を具し、將に思想を發動せんとするの用意を爲すの有樣あり、人間社會に於ても亦然り、上等社會の棲息する國に於ては形體より先に腦髓を具するを以て常とす、例へば米國の如き未だ人の住居せざる漠々たる曠原に於て早く既に鐵道を布設し、人家寥々たる山村に於ても郵便局あり、旅籠屋あり、禮拜堂あり、又始めて蒸汽車を製造せし時に於ては種々の失錯をなし樣々の困難を經て漸く製造したる者なればとて、今日の人民が之を製造するには敢て昔日之を製造せし時の如く失錯と困難とを重ねざる可らずと云ふの理あらんや、政體上より之を論ずるも亦然り、既に開進したる人民が新に外國より一種の政體を移さんと欲する時は、始め外國人が其の政體を創始する時に於て、爲したる順序を一々襲踏するを要せざる也、然るに著者の如きは歐洲に於て立憲政體は數百年の星霜を經て始めて成りし者なれば、國會を開いて立憲政體を創設するには亦同じく之れと同樣の順序を踏まざる可らずと云ふが如き議論を爲すは、何ぞ其の進化主義の眞理を知らざるの甚しきや、若し其れ古來の經驗と同一の順序を踏むべしとせば、我邦にして國會を開くも亦英佛の如き慘憺たる修羅場を演出せざる可らざるの條理なり、著者は我が社會の爲め將た我が　皇室の爲めに此くの如き不祥なる事あるを希望するか、

著者が妄想臆斷の言語を吐露して自ら己れの粗忽を示すは今更事新らしく尤むるに足らざれども、其の附會の説を放つて世人を瞞着せんとするが如き者あるに至ては決して之を放過すべからざるなり、著者は其の第三十二條に於て私權と公權との區別を立てて曰く、「人民の私權利に至りては素と各個人の一身上に止まるものなれば、其の擴張或は少く急激に過ぐることあるも其害甚だ大ならざるべしと雖も、特に參政權利の如きに至りては、其の許與の方法纔に急激なるも忽ち社會の盛衰興亡に關すること甚だ大なれば、其の注意最も周密鄭重ならざる可らず」云々と、夫れ古今法律を説く者往々私權と公權との區別を爲すを以て常とす、抑も私權と公權との區別は前に引證する所の羅馬律にあるものにして、羅馬律には之を區別して公　法、私　法とす、而して

公法は羅馬政府の關する所にして宗教及び國政を支配し、私法は一個人の利害に關し一個人の權利義務を定むる者とすとあり、而して英國の法律家も亦之に倣ひ私權の部には身體の權、財産の權及び一家族中に於て行はるゝ權を掲て、公權の中には國政宗教及び社會の經濟等を收めたり、然れども是れ唯だ文字上に於て其名を異にする者にして、實地學術上より之を推論するときは殆ど之が區別を爲す能はざるが如し、凡そ人類の社會を爲すや一人一個より集合して始めて一社會と成りたるもの也、故に學術の上より視れば、一人一個に關する彼の私權利なる者も遂に相集合して一體となるときは則ち公權なる者の起るに非ずや、然れば公權の本原は則ち私權にして、私權の合體せし者は則ち公權なりと謂ふ可し、果して然らば人民各自が互に私權を伸暢して法律となし、以て之を社會に實行するに至れば則ち公權の上にも影響を及ぼすに至るものなり、去れば私權と云ひ公權と云ひ、唯文字上に於て異名を顯はすのみにて其實決して之が區別を立つる能はざるものとす、然るに著者の如きは故さらに之れが區別を立てゝ、私權利の擴張は急激にするも害無く、參政權は其許與の方法緩に急激なるも忽ち社會の盛衰興亡に關する抔と云ふは抑も如何なる基礎に由て之れが區別を爲したるか、刑法民法等に於て十分に身體の權利財産の權利を鞏固全安にせんとせば、必ず國憲上に於て之を明記せざる可らず、若し憲法にして之を明記せざるときは人民の私權利は全く其功を失ひ、遂に身體財産の安全を鞏固ならしむる能はざるなり、然らば則ち私權と公權とは固より精密に其區別を立つる能はざる者にして、私權の擴張を可とせば亦之と同時に公權を擴張せざる可らざるもの也、此を是れ顧みず一方を急にするも一方を緩にせよと云ふ、亦奇怪なる言語に非ずや、

著者は參政權の妄りに伸暢すべからざるを説き、遂に現今社會に普通選擧を主張することを排斥したり、其の大意を擧ぐれば、『元來議員は才能ある者を要する者なれども、彼の天賦人權主義の妄想論者は、只管公平の道をのみ求めんと欲して普通選擧法を立て、以て一般人民をして議員を選擧せしむるの術を用ひんと欲すれども、是れ才能ある議員を選擧せしむるの道に反するものなり』云々と、議員選擧法に就ては世間種々の議論あり、然れども進化主義の上より論ずれば決して此の普通選擧論者を擯斥すべからず、何となれば人類が生存競爭して以て自己の幸福を求むることは正に天理上に於て公認する所なり、則ち國民多數の人々をして自由に生存競爭し、平和の手段に據て優勝劣敗をなさしむるは即ち普通選擧にして、彼の多額の財産を以て制限を立て國民の多數をして之が競爭をなさしめざるが如きは、決して生存競爭なる進化主義に適合したるものと云ふ可らざるなり然らば則ち著者の議論の如き第一章第二章に於ては頻りに生存競爭の利益を説きながら、本章に於ては却て普通選擧を非難す、何ぞ其自家撞着の甚しきや、且つ著者は「國會議員は才能あるを要す、才能ある議員を選ぶには才能ある選擧人を要す』云々と頻りに喋々すれども、是れ亦實際を知らざるに出づ、何となれば世間如何に普通選擧を好む者と雖も、婦人小兒の如き瘋癲白癡の如き、其他尋常一般の感覺なき者は之を除くならん、既に此等の徒を除き通常一般の人を以て國會議員を選ぶとせば、縱令普通選擧を許すと雖も何ぞ深く其の弊害を憂ふるに足らんや、況んや國會議員たるものは獨り智識才能のみに非ずして、亦方正實直を要するに於てをや、若し夫れ國會議員は單に智識才能をのみ之れ要すとせば、國會は一奸雄の爲めに

不良を逞うするの器械となるも亦保す可らず、故に議院を以て正直にして且つ民望有る者の淵叢たらしむるには、敢て故らに智識才能ある選擧人を要せざるなり、之れを要するに、英國にて議員選擧の財産制限に於て僅に十二磅に過ぎざるは、非常の智識才能を備ふる者を要せざるの爲めならん、何となれば若し英國國會にして非常の智識を備ふる選擧人を要すとせば、猶一層の高度の制限を置くべきや敢て疑を容れざる所なり、更に其第三十四條を視れば、曰く、保守と漸進とは社會邦國を興すの道なり、急進と守舊とは社會邦國を倒すの術なり、我邦今日の民權者流の如き、其論ずる所其說く所を視るに概して急進をのみ是れ喜び、我邦をして未だ曾て歐米にも見る能はざる所の理論社會たらしめんと欲するものなり、因て余は此輩に社會の遺傳變化の實理を知らざる妄想論者の稱を與へざるを得ざるなり云々と、噫妄斷も此に至つて極まれりと謂ふべし、夫れ天下の事物は必ず定數有つて變轉するものなり、故に其の盛なるや定數有り、其の衰ふるや亦定數有り、治亂盛衰興亡の事跡に就て細かに之が原因を尋ぬれば必ず一定の自然法規に基かざるは無し、何を以て之を云ふ、曰く余が前にも述ぶるが如く、人類は皆生活せんとするの天性を有するが故に、苟も其生活に妨害なる者の出づる有らば必ず之を排除せんとする反對者生ず、是れと同じく一方に於て非常なる守舊黨あり、其の勢力を逞うして改進の進路を遮斷せんと企つることあれば、之に反對する改進の黨派は益す相抵抗して其進路を急にし、或は爲めに意外の變を來すことあるなり、若し之に反して一方に改進の主義を執るの黨派あるも、一方に於て強ひて之を抑制せざれば其の改進黨派は亦從つて徐々と運行すべし、之を要するに過激の民權黨の興るは守舊の黨派あつて之れが進路を妨害するに基く者多しとす、夫れ因有て而して果を生ず、其果に就いて其因を尋ぬれば、今日社會言論の急激なる者は獨り世の民權家を罪すべからざるが如し、著者にして虛心平氣以て內に自ら反省せば蓋し思ひ其半に過ぎん、且つ著者は最後に於て、英國にて共和政治を羨慕するの徒も、太子が大患に罹りしとき名刺を王宮に呈して其の快癒の一日も速ならんことを祈るの赤心を表したり、以て英國人民が愛國の心情最も深厚にして容易に過激主義の爲めに動かされざるのみならず、更に能く之を制するの力あるを證するに足れり、我邦の過激民權者流須く猛省すべしと斷言して其の議論の結局と爲したり、以て著者が徹頭徹尾謬誤の意見を懷き內外の事實を觀察するの識力なきを證するに足れり、凡そ同情相憐むは古今人情の常なり、語に曰く『兎死して狐悲む』と異類猶然り、況や人間に於てをや、故に苟も同類の疾病憂苦に陷るを聞けば誰か之が爲めに惻隱の心を起さゞる者あらんや、殊に一國首宰の地を占め玉ふ國王太子が危險の疾病に罹る時に於て、如何なる主義を執る者と雖も名刺を投じて快癒を祈るは普通の人情のみ、之を以て英國人民が愛國の心情に厚きを證せんとするは豈に笑止の至りに非ずや、今日我が邦人の熱心して憲法を設け國會を開かんとするは、即ち上は帝室の尊榮を全うし下は人民の幸福を圖り、百年の久しき奸雄梟將をして毒を社會に流さゞらしめんとするの誠心に出づるに外ならざる也、然れば萬々一我邦に於て英國太子の事件の如きあらば、世の民權家は皆之が爲め仰いで上天に祈禱するならん、豈に英國共和黨の所爲の如きに止まらんや、曩に余の英京に在りし際實地に就て其國の有樣を觀察するに、其の王家に對する心情の如きは決して我邦今日の人民が我が

帝室を尊崇するの比に非ざるなり、現に英國下流の新聞紙が屢〻女帝の醜行を公布する一事を以ても之を知るに足るべし、此くの如き人民を引用して却て忠厚なる我邦人民を規諭せんとするは抑も亦何等の囈語ぞや、抑も我邦人民は今日に在て實に　帝室を尊崇するの心情に厚き、英國人民と同日にして語るべきに非ず、然れども若し政府にして著者の如き無稽の説を信用し強ひて人力を以て人類自然の競爭を妨害せば、此の忠厚なる人民中に於て如何なる心情を懷く者を生出す可きや未だ知る可らざるなり、著者須らく自ら猛省する所あれ、

斯くの如く論じ來れば、著者の人權新説の謬點は昭々として明かなりとす、然れども余は猶世人の注意を惹起さんが爲め、玆に余が議論の重なる要點を列序し、且つ著者が議論の重なる謬源を摘示すべし、

第一　進化主義に從へば妄想も確説の基礎となる者にして、必ずしも有害に非ざること、

第二　天賦人權主義を唱道したる鼻祖は紀元後のウルヒヤン氏に非ずして、紀元前のゼノ氏の説に基くこと、

第三　性法學派の起原は西暦千五六年比の哥路志氏哈比氏等に非ずして、紀元二百二十八年頃に於て既に羅馬に行はれしこと、

第四　佛國の革命は人類自然の競爭を抑壓せしより起りしこと、

第五　優勝劣敗中に良正の者と不良正の者とを區別するの基本明瞭ならざること、

第六　生存競爭は邦國の種類と時代の異同とを以て區別すべからず、故に歐洲中古人民の生存競爭を以て可とせば、我邦今日人民の生存競爭を以て不可とすべからざること、

第七　我邦現時人民の智識は概して歐洲中古の人民の智識に比較するも、將た我が今日の官吏に比較するも敢て劣る所有らざること、

第八　天賦人權主義は宇宙の萬物と共に不消不滅の自然力より生じたること、

第九　著者の引證したるイーリング氏の説に據れば、我邦人民は益〻進んで其權利を伸暢すべきものなること、

第十　新説第二章の意は生存競爭して其權利を伸暢すべきに、第三章に至ては却て之れを抑制せんとして前後相撞着すること、

以上は余が議論の重なる要點を擧げし者なり、而して著者が議論の謬妄を指摘すれば、一にして足らずと雖も、其重要なる謬源を擧ぐれは左の如し、

第一　學者が議論を爲すに方り最も探究すべき原因を極めずして輕忽に議論を起せしこと

第二　歐羅巴諸國の實際の有樣に迂濶なること

第三　我邦今日の實際の有樣を知らざること、

第四　天賦人權主義は必ず進化主義に反對せるものと思惟せしこと、

右の條款に就て此書の要領を示し、著者をして自ら信ずる所の怪僻なるを省悟せしむるに足るべきと信ずるなり、抑も著者は一個の書生にも非ず、遁世の隱者にも非ず、又尋常贋鼎の俗吏にも非ず、世人も認めて通觀達識の學者と爲す所の人にして、現に　天皇陛下の特選を以て大學總理の重職に居れり、然るに自ら意見を天下に公布するに及び考證を失ひ事實を誤り、其論ずる所は一として荒唐附會ならざる無し、而して世の起つて之を駁撃する者も亦擇んで精しからず、語つて審かならざるの憾みなき能はず、是れ余が之を默々に付すること能はずして、敢て一言するの已む可らざる所以なり、聞く著者は嚮きに眞政大意、國體新論なる書を著し之を世に公示せしが、何故か後進を誤まることありとて之を絶版し、代つて世に出だせし者は此の人權新説なり、然れども其の眞正に後進を誤まるは其の前の者に多きか、其の後

なる者に多きか、著者にして自ら良心の發動するに逢ひ再び此書を絶版して過ちを天下に謝するは、蓋し遠きに非ざるべし、余は刮目して之を待つのみ、

西國立志編

（第一册）

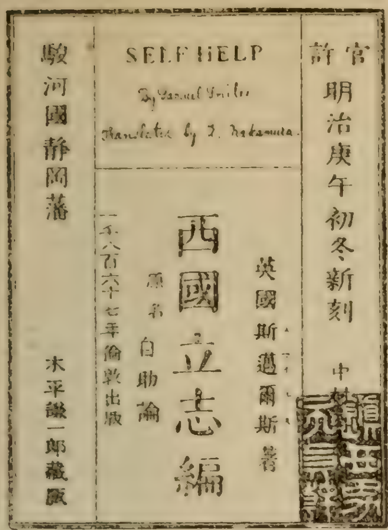
中村正直

西國立志編（第一回）

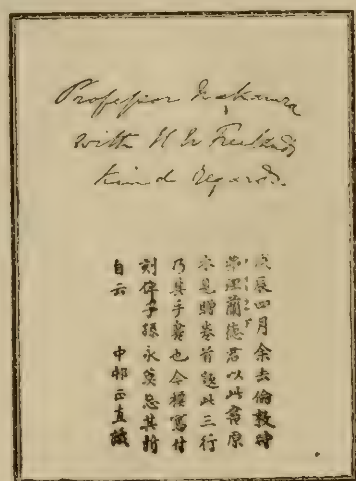
原名　自助論



（原本表紙）



（原本扉）



（原本扉裏）

序

歴下観古今來立二一事業一之人上。皆抱二百折不レ回之概一。把持牢。立レ志確。勇往直前。一切不レ問二世間毀譽褒貶一。亦且不下以二一敗一挫中其鋭氣上。然后所二期望一之事始成。是豈尋常發憤所二能屆一耶。故凡百術藝。以至二人之爲レ聖爲レ賢。其成否全存二于本身一。更不レ干二別人事一。所レ謂豪傑之士。雖レ無二文王一猶興者。乃是也。頃者。友人中邨敬宇出下所二譯述一自助論上。屬二予序一。受而讀レ之。編中歴舉下西國辛苦立二一事業一之雋傑上。予抵レ掌曰。彼邦亦有二此説一乎。至二裒之成一。此書則妙。士大夫立レ身骨子。實在二此處一。此處捉住不レ失。後來所二植立一。必有二卓然可レ見者一。自助之爲レ言。殊與二予興氏不レ動レ心之旨一合。蔵二擧年少人一。孰如レ此。敬宇著眼極好。予老矣。莫二能爲一。所レ望尤在二後生一也。感慨之餘。遂題二簡端一。庚午秋仲下浣。

沙蟲翁　古賀增　題

天地のはしめ潮の沫の凝りて成れる國〻多なりけむを荒潮の八鹽路たち〻たて遠き境のことはしも古き御史ともにもしるされすそのくに〳〵の人らまゐ來しことも聞えす大かた唐土天竺わたりを遠きかきりとしそか餘なるをはな〻て陸奥の蝦夷の千島のひとしなみになん思へりけらしそも〳〵西洋人の御國に渡りこしことは今より三百年餘むかしそ初めなるへきをいくほともなくてと

とめられひとり阿蘭陀の國人のみ肥の國のかたほとりに來りて物學ふるわさをはゆるされにたりされとことゝふ人しも多からすまいてあたし國〻の有さまなと聞も傳へさりしをその天の下にありとある國〻のこととももかつ〱も物にしるし傳へられしは新井君美のぬしなん始めなりける其後くさくさの書ともやう〱數そひにたれと大かたの世の人は心とむへきものとしも思ひたらすなむあまたのとしをはへにけるかくて近き十年あまりこのかた外國人多くまうてき御國人はたかなたにも往かふ道ひらけしより今ははるけき異國ふりもよろつおほろけならす成きつる物から猶えみしとたにいへはひたふるに大は小をかね强は弱をしのきて獸のくひあふかことき ものとのみおもへる人しもそ多かめるこゝに中村大人のものせられし自助論といへる書を見るに何某の大人のいひけむ今のえみしは古へのえみしにあらすとの言の葉もしるくけき其說すへて和漢のかしこき人〻にもおとらすあはれあたし國人にもかはかり誠實なる心のあれは有けるよと打なけかるゝまてめつらしともめつらしきふみになん有けるいでや

此書世に行はれてこを讀みむ人〻其道〻につきておのかしゝ健く雄〻しき志をたて事にあたりてたゆますくつほれす萬の事業一つの眞心もてなしおほすへき日本魂ふるひおこさむたよりともなりなましかは大人のいたつきむなしからすいみしき世のをしへくさともなりなましおほよそ天地の間に人とあらんかきりたとひ國をへたて境をことにし打見るすがたうち聞く詞はさまさまなりともひとしくみな産靈の神の御靈によりて生れつるものにしあれはおのつから直く正しき眞の道は一すちならで有へしやはそを思はてわたくしの心せはくあらぬ小みちに迷ひなんはあちきなきわさなりかしされは掛まくもかしこき天津神の大御こゝろのまに〱天の壁立かきり谷蟆のさわたる極み天の下四方の國人睦み親しみ船腹乾さす棹檝干さす渡りまうてきつゝ物多に滿ち足らはせる大御國もいよゝます〱榮え行なんものぞとおのが心に思ふことを大人にきこえしかはさらはそのよしいかさまにも書しるして此書のはしに添へよといはるゝかいなみかたくて拙きことの葉くたくたしくかいつけたるになむ時は明治三とせといふとしの長月ばかり三田葆光

自助論第一編序

余譯二是書一。客有二過而問者一曰。子何不レ譯二兵書一。余曰。子謂二兵强則國賴以治安一乎。且謂三西國之强由二于兵一乎。是大不レ然。夫西國之强。由三于人民篤信二天道一。由三于人民有二自主之權一。由二于政寬法公一。拿破崙論レ戰曰。德行之力。十二倍于身體之力一。斯邁爾斯曰。國之强弱。關二于人民之品行一。又曰。眞實良善。爲二品行之本一。蓋國者。人衆相合之稱。故人人品行正。則風俗美。風俗美。則一國協和。合成二一體一。强何足レ言。若國人品行未レ正。風俗未レ美。而徒汲汲乎兵事之是講。其不下陷而爲中好レ鬭嗜レ殺之俗上者幾希。尙何治安之可レ望哉。且由二天理一而論。則欲レ强之一念。大悖二於正一矣。何者。强者對レ弱之稱也。天生二斯民一。欲下人人同受二安樂一。同修二道德一。同崇二知識一。同勉中藝業上。豈欲二此强而彼弱。此優而彼劣一哉。故地球萬國。當下以二學問文藝一相交。利レ用厚レ生之道。互相資益。彼此安康。共受中福祉上。如レ此。則何有下乎較二强

弱競優劣哉。夫人知天命之可畏。以眞實之心。行良善之事。一人如此。一家如此。一國如此。天下如此。愛日仁風。四海合驩。慈雲和氣。六合呈祥。如此。則亦何有乎甲兵銃砲之用哉。古不云乎。兵者凶器。戰者危事也。仁者無敵。善戰者服上刑。一人之命。重於全地球。匹夫之善行。有關係於邦國天下者。乃以貪土地之故。使至貴至重之人命。横罹極慘極毒之禍。其違皇天之意。負造化之恩。罪不可逭矣。西國近時。大省刑罰。然猶未能全戢干戈。豈其教化有未洽者耶。抑宇宙泰運之期未至耶。嗚呼。六合之際。禮教盛而兵刑廢。當有日也。恨余與子未及見之也已。客唯唯而退。遂書以辯卷首。歲次上章敦牂、孟夏上浣。

中村正直識。

自助論原序

此書ハ、既ニ英國并ビニ他國ニ博ク行ハルヽモノヲ再校スルモノナリ、彌利堅ニ數種ノ板アリテ印行シ、和蘭、法蘭西、日耳曼、領墨ノ人、各〻ソノ邦語ヲ以テ譯セリ、」コノ書ハ、前人ノ行狀ヲ載セタレバ、讀者必ズ前人ノ勞苦ヲ經、試驗ヲ積ミ、難事ニ耐ヘテ、大業ヲ成就スルヲ觀テ、奮發ノ意ヲ生ズベキナリ

此書、既ニセルフヘルプ「自ラ助ク」ト名ヅケテ、世ニ行レタレバ、今マタ改ムルヿヲ爲サズ、然レ𪜈一言ヲ述ベテ、讀者ノ誤解ヲ防ガザルヲ得ズ、如何トナレバ、モシ、人タヾ表題ニ由リテ、セルフイシネス「自ラ私スルノ意」ト混淆シ、自ラ私スルノ事ヲ讃美スル書ナリト思フトキハ、作者ノ意ト、正ニ相背反スルヿナリ、」蓋シ作者主トシテ、少年ノ人ニ、自ラ勤メテ當然ノ志業ヲ做シ、勤勞ヲ惜マズ、辛苦ヲ厭ハズ、淡薄ヲ以テ自ラ奉ジ、（或ハ清廉ノ節ヲ守ルト譯ス）ツヒニソノ志業ヲ成就シ、自己ノ功勞ニ倚仗シテ斯ノ世ニ自立シ、偏ニ他人ノ扶助恩顧ニ倚頼スベカラザルヿヲ勸メンガ爲ニ、コノ書ヲ作ルト雖𪜈、然レドモ亦文人、學士、工藝ノ人、新術新器ヲ發明スル人、教育を掌ル人、仁慈ノ事ヲ行フ人、傳道ノタメニ遠方ニ行旅スル人、傳道ノ爲ニ身ヲ殺シテ仁ヲ爲ス人、此等ノ人ノ遺セル標準典型ニ由テ觀レトキハ、ソノ自ラ助クルノ職分ヲ盡スノ中ニ、他人ヲ助クルノ意ヘ、自ラ包含スルヿ明カナリ

或ハ難ジテ、コノ書、自ラ助クルノ力ニヨリテ益ヲ得タル人ノミヲ多ク擧テ、ソノ敗レヲ取リタルモノニ及バズト言フモノアリ、コレニ對ヘテ曰、タヾ敗レヲ取リタルノミノ事ハ、言フニ足ラズ、然レ𪜈、次ノ書頁ヲ讀ムトキハ、失敗ノ事ハ、眞成ノ勉強スル人ノ爲ニ、極善ノ教訓トナルヿヲ知ルベシ、蓋シ試ミ爲スノ事、幾回トナク敗ルレバ、ソノ回ゴトニ、益〻奮發シテ、精力自ラ生ジ、自ラ己ヲ治メテ、智識益〻長ズルヿヲ得ベキナリ、」コレニ由リテ觀ルトキハ、失敗ノ事ハ、「苟モ能ク堅忍耐久ノ心ヲ以テ、コレニ勝チタランニハ、」利益トナリ、教訓トナル事ナリ、故ニ我カクノ如キ例ヲ多ク擧テ、コノ事ヲ明ニスルヲ務メタリ、

人或ハ功ナクシテ敗ル、モノアリ、然レ𪜈善事ヲ企テ、成ラザルモノハ、善人タルヿヲ失ハズ、故ニ敗ル、ト雖ドモ貴ブベシ、不善ノ事ヲ爲シテ、一時或ハ成就スルトモ、タヾニ汚名ヲ流スノミ、故ニ人ノ事ヲ爲スハ、善惡如何ト問フヲ要ス、ソノ跡ノ成敗

ノミヲ觀ルベカラズ、」然リトイヘドモ、善事ヲ志シテ成就シタランハ、失敗シタルニハ遙ニ勝ルベシ、」凡事ノ成就スルハ、人ノ定志アリ、勉力アリ、忍耐アリ、勇氣アルヿノ結果效驗ナリ、古人曰ク、人ハ、成敗得失ヲ使令シ、己レノ意ニ從ハシムルノ權ナシ、然レドモ勉强シテ已マザレバ、天賞トシテ、成就ノ賜ヲ受クベシ、

コノ書ヲ作ル主意ハ、約シテコレヲ言ヘバ、昔ヨリ言傳フル善敎ヲ、少年ノ人ニ申戒セント企テタルモノナリ、曰ク、少年ノ時、勞苦セバ、暮年ハ安樂ヲ享クベシ、曰ク、天下ノ事、勤勉學習セズシテ能ク成就スルモノハ、決シテコレナシ、曰ク、學者宜シ難キノ事ニ逢フト雖モ、ソノ志ヲ折クベカラズ、忍耐恆久ノ心ヲ以テコレニ勝ツベシ、就中最要ノ敎ニ曰ク、人タルモノハ、ソノ品行ヲ高尙ニスベシ、然ラザレバ才能アリト雖モ、觀ルニ足ラズ、世間ノ利運ヲ得ルトモ貴ブニ足ルヿナシ」我コレ等ノ敎ヲ、世ノ少年ニ曉サント志シ、コノ書ヲ作レリ、モシコレニ由リテ、發奮勉强ノ人生ジ來ラザレバ、我ガ著書ハ功無クシテ敗レタリト云フベキノミ、

斯邁爾斯自助論

一名　西國立志編

第一編　邦國及ビ人民ノ自ラ助クルヿヲ論ズ、

彌爾（彌爾英國當今碩學名家文化三年生）曰ク、一國ノ貴トマルトコロノ位價ハ、ソノ人民ノ貴トマルモノヽ、合併シタル位價ナリ、

垤士禮立（垤士禮立英國當今參國事者文化二年生）曰ク、世人ツネニ法度ヲ信ズルヿハ、分外ニ多ク、人民ヲ信ズルヿハ、分外ニ少キヿナリ、

（一）自ラ助クルノ精神

天ハ自ラ助クルモノヲ助ク（Heaven helps those who help themselves.）ト云ヘル諺ハ、確然經驗シタル格言ナリ、僅ニ一句ノ中ニ、歷ク人事成敗ノ實驗ヲ包藏セリ、自ラ助クト云ヿハ、能ク自主自立シテ、他人ノ力ニ倚ラザルヿナリ、自ラ助クルノ精神ハ、凡ソ人タルモノヽ、才智ノ由テ生ズルトコロノ根原ナリ、推シテコレヲ言ヘバ、自ラ助クル人民多ケレバ、ソノ邦國、必ズ元氣充實シ、精神强盛ナルヿナリ、

○他人ヨリ助ケヲ受ケテ成就セルモノハ、ソノ後、必ズ衰フルヿアリ、シカルニ、內自ラ助ケテ爲ストコロノ事ハ、必ズ生長シテ禦グベカラザルノ勢アリ、蓋シ我モシ他人ノ爲ニ助ケヲ多ク爲サンニハ、必ズソノ人ヲシテ自己勵ミ勉ムルノ心ヲ減ゼシムルヿナリ、是故ニ師傅ノ過嚴ナルモノハ、ソノ子弟ノ自立ノ志ヲ妨グルヿニシテ、政法ノ群下ヲ壓抑スルモノハ、人民ヲシテ扶助ヲ失ヒ勢力ニ乏シカラシムルヿナリ、

（二）人民ハ法度ノ本（士農工商ヲ統テ人民トイフ農ノミニアラズ下コレニ傚ヘ）

邦國ニテ立ツルトコロノ法度、タトヒ美ヲ盡シ善ヲ盡スト雖モ、人民ノ爲メニ眞實ノ助ケトハ成ラザルヿナリ、蓋シ人民ヲシテ、ソノ自己ノ爲ストコロニ任セ、ソノ志ヲ伸ブルヿヲ得セシメ、ソレヲシテ自己ニ勉勵進修セシムレバ、スナハチ人民ノ爲ニ眞實ノ利トナルヿナリ、然ルニ、何ノ世ノ人モ、ヒトヘニ誤テ、己等ノ幸福ヲ受ケ、平安ニ日ヲ度ルヿハ、法度ノアル所以ニ由ルヿ多クシテ、自己ノ所行ニ由ルヿ少シト思ヘリ、且ツ人民ノ開化ニ進ムヿハ、法度ヲ立ツルヿニ由リテ得ラルヽモノト思フヨリシテ、法

度ヲ立ツル事ヲ、分外ニ貴メル通俗ノ說トハ成リタルナリ、各府縣ヨリ三年或ハ五年ノ中ニ、一二人ヲ薦擧シ、立法院ニ入ラシメ、國法百萬分ノ一議立シ、或ハ議革スルヿ、タトヒ十分ニヨク其職ヲ盡ストモ、人民ノ立身制行ノ上ニ於テ、眞實ノ利益トナルヿハ甚ダ少シ、○且ツコレノミナラズ、昔ヨリ今ニ至リ、日ニ益々顯然トシテ證知シタルヿハ、政黨憲署ハ、陰虛ニシテ陽實ニ非ズ、奸ヲ禁ジ亂ヲ遏ムルノ用多クシテ、善ヲ勸メ行ヲ勵スノ用少シ、蓋シ保護ノ用ノミナリ、人民ノ生命ヲ保護シ、人民自主ノ權ヲ保護シ、人民ノ産業ヲ保護スルマデノヿナリ、○律法ハ、タトヒ極善ナルモノト雖𪜈、人民ヲシテ、ソノ或ハ心ヲ盡シ、或ハ力ヲ盡シテ得タルトコロノ果實ヲ享用セシメンガ爲ニ、コレヲ安穩ニ保全スルマデノ功用ノミ、」律法ハ、タトヒ極嚴ナリト雖𪜈、懶惰ノ人ヲシテ勉強ナラシメ、奢侈ノ人ヲシテ儉節ナラシメ、爛醉ヲ好ムモノヲシテ酒ヲ禁ゼシムルヿ能ハズ、カクノ如キモノハ、特ニ人民各箇ニ身ヲ修メ、家ヲ治メ、又己私ニ克タント欲スル志、發生スルニ非ザレバ、改化スルヿ能ハザルナリ、且ツ他ノ風俗ノ善美ナルモノ、ソノ能ク人民ヲシテ觀感興起セシムルヿハ、律法ノ權力ニ比スレバ更ニ大ナリ、

（三）國政ハ人民ノ光ノ返照ナリ

邦國ノ政事ハ、特ニ人民各自一己ノモノヲ會集シテ放ツトコロノ回光返照ナリ、」蓋シ人民ハ政事ノ實體ニシテ、政事ハ人民ノ虛影ナリ、譬ヘバコヽニ一國アリテ、人民ノ品行劣惡ナレバ、一時ソノ政事優美ナリトモ、幾何モナクシテ、ソノ政事必ズ退キ下リテ人民同等ノ位ニ至ルベシ、又一國アリ、ソノ人民ノ風俗優美ナレバ、一時ソノ政事劣惡ナリトモ幾何モナクシテ、ソノ政事必ズ進ミ上リ、人民同等ノ位ニ至ルベシ、」元來邦國ハ、人民ニヨリテ成リ立チタルモノナレバ、人民ノ性行ノ集レルモノ、結果成就シテ、律法トナリ、政事トナルヿナリ、サルカラニ、人民ト、政事トハ、ソノ善惡ノ位價ハ同等ニシテ優劣ナキヿナリ、譬ヘバ水ノ如シ、ソノ昇降トモニ、各ミソノ自己ノ水平ニ至ルヿヲ求ムルナリ、品格尊キ人民ハ品格尊キ政事ヲ以テ統治セザルヿヲ得ズ、蚩愚ニシテ壞惡ナル人民ハ、自ラ愚ナル政事ヲ以テ管理セラルルヿナリ、歷ク古今ヲ察シ、成跡ヲ案ズルニ、邦國ノ優劣強弱ハ、ソノ人民ノ品行ニ關係スルヿ多クシテ、ソノ國政ニ關係スルヿ少シ、」何ニトナレバ、邦國ハ、特ニ人民各自一箇ノモノヽ合併セル總名ナレバ、所謂開化文明ト云フモノハ、他ナシ、ソノ國ノ人民男女老少、各自ニ品行ヲ正シクシ、職業ヲ勉メ、藝事ヲ修メ善クスルモノ、合集シテ開化文明トナルヿナリ、

（四）邦國ノ盛衰

邦國ノ昌盛ハ、人民各自勉強ノ力ト正直ノ行トノ總合セルモノナリ、邦國ノ衰退ハ、人民各自懶惰ニシテ自ラ私シ、及ビ纖惡ノ行ノ集合セルモノナリ、」是故ニ邦國ニ於テ最モ大害トナスベキモノハ、人ノ性行壞惡ナルナリ、此風漸ク長ズレバ、タトヒ律法ヲ以テ一時コレヲ剗除ストモ、再ビマタ萌發長育スルヿナリ、コレ人々自己ニ過チヲ悔イ、行ヲ改ムルニ非ザレバ、ソノ弊風惡俗ハ、決シテ除キ去ルヿ能ハズ、然ルニヨリ、忠愛ニ厚ク、仁惠ヲ好ム人ハ、特ニ法度ヲ變ジ政事ヲ修ムルヲ事トセズシテ、專ラ務メテ民ヲ勸勵化導シ、ソレヲシテ自ラ能ク樹立シ、主張シ、良心ヲ崇ウシ、善行ヲ修メシムルナリ、凡ソ人、外ヨリ統治セラル、ヿニ由リテ生ズルトコロノ利害ハ、ソノ關係スルトコロ、甚ダ小ナリ、蓋シ人間萬事、ミナ人々内自ラ治メ自ラ主ルヿノ上ニ關係スルモノナリ、是故ニ、君上權ヲ擅ニスルノ國ノ人民ハ、タトヒ惡政ヲ

以テ治メラル、ト雖ドモ、コレヲ稱シテ奴隷ノ最モ卑シキ者トイフベカラズ、人民ノ徳行ヲ修ムルヲ知ラズ、自ラ私スルノ心、及ビ邪惡ノ心ニ使役セラル、モノヲコソ、眞成ノ奴隷ト名ヅケテ、當レリト云フベケレ、カクノ如ク、人民ノ心中ニ私欲生ジ、コレガ爲ニ奴隷トセラル、モノハ、タトヒ如何樣ニ法度ヲ變ジ執政ノ人ヲ改ムルトモ、コレ等ノ事ノミニテハ、コノ奴隷ヲ救ウテ、自主ノ人ニ化セシムルヿ能ハザルナリ、ソノ國ノ政府ニテ、自由ノ權ヲ專ニシ、人民ヲ抑下スルヿヲ以テ善シトスル不祥ノ謬說行ハル、間ハ、官吏ヲ換ヘ政事ヲ變ズル等ノ事ヲ爲シ、イカホド力ヲ竭ストモ、サラニソノ益アルベカラズ、譬ヘバ玻璃鏡ニ顯ハル、畫影ノ種々ニ變動流移スルガ如ク、ツヒニ著落セル實形トナリテ、永續スル功效ハアラザルナリ、邦國ニ自主自立ノ權アルヿナレドモ、ソノ自主ノ基礎ハ、人民ノ性行ノ上ニ在ルナリ、而シテコノ人民ノ性行ハ、實ニ衆志ヲ合セ、保全ヲ謀リ、邦國百事ヲシテ上進セシムルノ擔保ナリ、

彌爾(John Stuart Mill)曰ク霸政ノ國ト雖ドモ、ソノ人民ニ箇々自立セルモノアル間ハ、極惡ノ徴候ヲ生ゼズ、且ツ何ノ政體ヲ論ゼズ、凡ソ人民ノ自立ヲ壓壞スルモノハ、コレヲ霸政ト云フベキナリ、

(五) シーザリズムノ一派ト、自助ノ說ト反對ナルヿヲ論ズ

人世ヲ治ムル道ヲ論ズルニ、古ヨリ謬說互ニ轉ジテ主トナリ、週シテ復始マルヿナリ、或ハシーザルス〔羅馬古代ノ帝ニシテ、國權ヲ己レニ專ニスルモノナレバ、權勢ヲ人君ニ歸セント欲スル政學家ノ名トナレリ、〕ヲ主トシ、或ハ人民ヲ主トシ、或ハ英國君民協議シテ定ムルトコロノ律例ヲ宗トセリ、然レドモ、自立ノ根元ヲ論ゼザレバ、皆迷謬ヲ免カレズ、「シーザルスハ、人民ノ己ヲ認メテ君主トナシテ順從スルモノハ、コレヲシテ福利ヲ得セシムルヿヲ務ム、コノ教派ハ、人民ノ爲ニ、百事ヲ具ヘント欲ス、人民ニ由リテ、一事ヲ成スヿヲ欲セズ、コノ教派ヲ師トセバ、必ズ衆民天良是非ノ心ヲ強ヒテ、霸政ニ陷リ入ラントスルノ患アリ、」シーザリズム(Caesarism)ハ、極劣ノ神像ナリ、ソノコレヲ拜跪スルモノハ、特ニソノ勢力ヲ怕レ、ノミ、ソノ甚シキニ至リテハ、特ニソノ財貨ヲ利スルノミ、」自ラ助クル說ハ、コレニ比スレバ、遙ニ平穩ニシテ弊害ノ生ゼザル教ナリ、世人コノ說ヲ能ク理會シタランニハ、シーザリズムハ、廢棄シテ再ビ興ラザルベシ、コノ兩說ハ、互ニ相容レザルノ仇敵ナリ、維久爾・休哥筆ト劍ヲ論ジテ、彼レ此レヲ殺スニ非ザレバ、此レ必ズ彼レヲ殺ス」トイヘルハ、轉用シテコノ二說ノ反對スルモノヲ論ズベキナリ、

(六) 維廉。大互自立ノ事ヲ論ズ

國政ヲ論ズルモノ、或ハ人民ヲ主トシ、或ハ君民協議ノ法ヲ主トス、然レドモ自立ノ根源ヲ論ゼザレバ、皆眞成ノ治道トイフベカラズ、維廉。大互(William Dargan)ハ愛蘭ノ忠愛ノ心深カリシ人ナリ、都伯林〔愛蘭都府〕ニオイテ、百工藝業展覽會ヲ開キタルヿアリケルガ、ソノ收場ノ時、言ヒタルコトヲ今コヽニ引クベシ、○我イマ眞實ヲ語ルベシ、我毎ニ人ノインデペンデンス〔自主自立〕トイフ語ヲ聞クゴトニ、吾國ト吾人民ノ事ヲ想ヒ出サズトイフヿナシ、夫レ自主自立ノ源、吾邦ヨリ生ズルモノアリ、又外國人ノ吾國ニ來レルモノヨリ得ルモノアリ、然レドモ、我深ク吾心ニ悟レルハ、インダストリアル。インデペンデンス〔工事ヲ勉強スルヨリシテ生ズル自主自立ノ權〕ハ、全ク吾等自己ノ力ニ依賴スルヿナリ、」我思フニ、邦民ノ勉強シテ工藝ヲ爲スニ由ツテ、今日ノ如キ昌運ニ至リ、光輝ヲ發シタルハ、未曾有ノ事ナルベシ、然リトイヘドモ、コヽニ止マルベカラズ、邦人既ニ一層級ヲ進メタレバ、コレヨリシテ、恆久

堅忍ヲ以テイヨ〳〵成就ノ功ヲ奏スベキナリ、

我思フニ、邦人鋭意ニ勉強センニハ、今ヨリ後、久シカラズシテ、邦人盡ク同等ノ安寧ヲ得、同等ノ福祉ヲ享ケ、同等ノ自主自立ノ權ヲ得ベキ地位ニ至リ、又外國ノ人民ト、同等ニカクノ如キ福運ヲ受クベキ時、至リヌベシ、コレ予ノ深ク望ムトコロナリ、

（七） 貴賤ニ限ラズ、勉強忍耐ノ人、世ニ功アル事

凡ソ諸邦國今日ノ景象ニ至ルモノハ、皆幾世幾代ヲ經テ、諸人或ハ心思ヲ勞シ、或ハ肢體ヲ苦シメテ成就セシモノナリ、」忍耐恆久ノ心ヲ以テ、職事ヲ勉強スル人、尊卑貴賤ノ別ナク、「土地ヲ耕犂スル人、礦山ヲ檢尋スル人、新器新術ヲ發明スル人、工匠ノ人、品物ヲ製造スル人、詩人、理學者、政學家」コレ等ノ人、古ヨリ今ニ至ルマデ、次第ニ工夫ヲ積メルモノ、合湊シテ盛大ノ文化ヲ開ケルナリ、」夫レ文藝ノ事、百工ノ業、コレヲ勉強學習スル人、常ニ相繼ギテ絶エザルニ由リテ、ソノ始メ混沌タルモノヨリ、頭緒ヲ見出シ、秩序ヲ定メタルナリ、故ニ今世ノ人ハ、祖先ノ智識勤勞ニ由リテ、學術ノ産業ヲ傳ハリ受クルモノナレバ、コレヲ補修闡明シテ、後人ニ遺ルベキナリ、

（八） 英人自ラ助クルノ精神アル事

英國ノ人民ハ、自ラ助クルノ精神アリテ、勢力ヲ奮起シ、百事ヲ勉ムルヿ、昔ヨリ風俗ヲ成シタリ、群衆ノ中ニ崛起シテ、其名ヲ顯ハシ、元來貴顯ナル人ノ上ニ出ヅルモノ、何レノ世ニモ常ニアラザルヿナシ、而メ英國ノ勢力ハ、實ニコレニ由リテ生ズルヿナリ、」然レドモ、コヽニ亦著眼スベキヿアリ、我邦ノ上進スルヿハ、獨リ有名ノ人ノ功ニアラズ、微賤ノ民ソノ名モ知レザルホドノモノト雖ドモ、衆力ヲ合セ邦國ヲ助クルヿ、ソノ利益、マタ思ハザルベカラズ、」史冊ノ上ニ、大合戰ヲ記スルニ、大將ノ名ノミアリテ、歩卒ノ名アラズ、然レドモ、歩卒箇々ニ英雄ノ氣象アリテ、善ク戰フニ由リテ、捷ヲ奏スルヿナリ、」且ツ人民ノ生涯モ、マタ歩卒ノ戰鬪ニ比スベシ、ソノ姓名傳ハラザルモノトイヘドモ、傳記ニ名ヲ留ムル大人豪傑ト、共ニ世ノ開化文明ノ上進ヲ助クルヿ、甚ダ多キナリ、」至微至賤ノ民ト雖ドモ、ソノ職事ニ勉強シ、平生ノ爲ルトコロ、正直、忠厚、節廉ニシテ、他人ノ儀表トナレバ、ソノ國ノ治化ヲ裨クルコト、獨リ當世ノミナラズ、後代ニマデモ及ブベシ、何ニトナレバ、一人タリトモ、ソノ行狀良善ナレバ、自ラ他人ニ傳染シ、ソノ模範ヲ互ニ相師法トシ、後代マデ廣ク行ハルヽヿナレバナリ、

（九） 實事習驗ノ學問

凡ソ、人ノ精力ヲ出シ、職事ヲ務ムルヿハ、最モ善キ實事習驗ノ學問ナリ、而メ又大ニ他人ヲシテ、奮發興起セシムルノ益アルヿナリ、」彼ノ大小學校鄕塾ニテ教フルトコロノモノ、如キハ、コノ實事習驗ノ學問ニ比スレバ、特ニ入門ノ初歩ニ過ギザルノミ、」我等、毎日ノ閲歷ヨリシテ、得ルトコロノ實益ハ、遙ニ學校ノ教ノ上ニ出デタリ、サレバ、我家ノ中ニモ、街衢ノ間ニモ、帳櫃ノ後ニモ、店鋪ノ中ニモ、織機ノ上ニモ、犁鋤ノ下ニモ、寫字房ノ中ニモ、工場ノ中ニモ、凡ソ大衆熱鬧、事務紛繁ナル處、ミナ親歷實驗ノ學問ノ在ルトコロニアラズト云フヿナシ、」カクノ如ク學問スルヲ、昔爾列爾(Schiller)名ヅケテ人類ノ教道トイヘリ、即チ日用ノ品行擧動ノ上ニテ、自ラ身ヲ修メ、自ラ己ニ克ツヿニ力ヲ用フルナリ、カクノ如ク眞實ニ學ブトキハ、人々一生ノ間、各〻ソノ當然ノ職分ヲ盡シ、事務ニ應ズルヿヲ做シ得ベシ、彼ノ特ニ書册ヨリ學ビ、文字ヨリ得タルモノトハ、霄壤ノ差ナリ、」倍根(Bacon.)(倍根英國ノ理學大家永祿四年生寛永三年卒)曰ク、尋常書册上ノ學問ハ、人ヲシテ、コレヲ眞實ノ用ニ供セシムルヿ能ハズ、又

學バザレドモ、才智アル人アリ、然レドモ眞實有用ノ學ハ、獨リヲブセルヴェーション〔實事實物ニ就テ熟觀審察スル〕ニヨリテ、贏得セラル、ヿナリ、」コノ說、人生實學ノ要領を握ルノミナラズ、又心靈ヲ修養スル道モ、コレニ外ナルヿナシ、故ニ斷ジテ曰ク人ノ自ラソノ身ヲ成就スルハ、作勞ヨリ得ルヿ、讀書ヨリ多ク、閲歷ヨリ得ルヿ、藝文ヨリ多ク、行事ヨリ得ルヿ、學習ヨリ多ク、人品ヲ觀ルヨリ得ルヿ、言行錄ヨリ多キナリ、」

（十）言行錄ノ人ニ益アル事

然リト雖モ、豪傑ノ言行錄、就中、善人君子ノ言行錄、最モ他人ヲ補助シ、倡導シ、勸勵スルヿナレバ、ソノ教訓トナリ、裨益トナルヿ、甚ダ多シ、ソノ極善ナル人ノ言行ハ、殆ド福音書ニ均シク、ソノ高潔ノ生涯、高潔ノ志念、幷ビニソノ己ヲ善クシ又天下ヲ善クセント欲シテ爲ルトコロノ邁往剛烈ノ行狀、ミナ世ノ教トナルヿナリ、」言行錄ノ中ニ載セタル前人ノ模範〔即チソノ自ラ助クルノ力、耐久ノ志、堅忍ノ作業、信實ノ行〕ヲ觀ルトキハ、人々自己ノ體面ヲ存スルノ力、幷ビニ自己ニ依賴スルヿノ力ハ、能ク極卑微ノ人ヲシテ、自ラ該得ノ富貴ヲ造リ出シ、不泯ノ名聲ヲ建立セシムルヿヲ知ルベキナリ、

（十一）大人豪傑ハ貴賤貧富ニ拘ラザル事

學術文藝ノ大家、大志ヲ抱ケル傳法教師、及ビ寬仁大度ノ爵位アル人ハ、固ヨリ定マリタル地位ヨリ出ヅルニアラズ、又限リタル種族ヨリ出ヅルニアラズ、コレ皆或ハ學校ヨリ、或ハ工場ヨリ、或ハ農家ヨリ、或ハ貧民ノ陋屋ヨリ、或ハ貴人ノ大館ヨリ出ヅルヿニシテ、差別アラヌヿナリ、」有名ノ傳法教師トナレルモノニシテ、歩卒ヨリ出デタルモノアリ、―蓋シ貧苦艱難ノ二者ハ、決シテ人ノ進路ヲ妨グルモノニアラズ、何ニトナレバ、極貧ノ人、時トシテハ極高ノ地位ヲ占ムルヿアリ、又踰越スベカラザルガ如キ艱難アリト雖モ、終ニハソノ障礙スルモノヲ除キ去リテ、必ズ享通ノ路ヲ得ルナリ、且ツ此レノミナラズ、艱難ノ事ハ、毎ニ人ヲシテ勞苦忍耐ノ力ヲ惹起シ、非常ノ才能ヲ發生セシムルヿナレバ、補助ノ最モ善キ者ト稱シテ可ナリ、古ヨリ障礙ヲ踰越シ、奇勳ヲ捷得スルモノ、ソノ例甚ダ多キヲ觀ルトキハ、一人、一志ヲ以テ萬事ヲ爲シ得ベシ」（With will one can do anything.）（光武帝曰有志者事竟成正與此諺同）トイヘル諺ノ謬ラザルヲ知ルニ足レリ、」ソノ著シキ例ヲ擧ゲテ、コレヲ證スベシ、上帝道學士ニシテ詩人ナル惹列迷。泰洛爾、紡絲機器ヲ創造シ、製棉工場ノ元祖タル力査。阿克來、司法官ノ有名ナル典的兒田、山水畫工ノ絕技ナル篤爾涅兒、已上數人ハ、皆始メハ剃頭業ヲ成セシモノナリ、

（十二）舌克斯畢ノ事

英國詞曲ノ名家ナル舌克斯畢（Shakespeare.）（舌氏永祿七年生元和二年歿）ハ、元來何ナル種族ヨリ出デシヤ、ソノ說種々ニシテ定マラズ、然レドモ、卑賤ヨリ發達シタルヿハ疑ヒナシ、ソノ父ハ、屠者及ビ牧人ニシテ、舌克斯畢幼時獸毛ヲ梳スルヲ業トセリ、或ハ曰ク、舌氏始メ鄉塾ニ在リテ助教タリ、後ニ一人家ノ書辦トナレリ、舌氏ハ、凡ソ所有人類ノ事ヲ知リタレバ、人間萬類ノ撮要錄（人間萬類ノ事ヲ一身ニ藏シタルユヱカク比象シテイフ）ト名ヅクルモ可ナリ、ソノ舟人ノ諺語ヲ用フルヿ切當ニシテ謬ラザルガユヱニ、或ハ舌氏ハ必ズ水手タリシヿアルベシトイヘリ、ソノ著書中ニ、傳法教師ノ事ノ委曲ヲ盡シタレバ、舌氏ハ必ズ牧師ノ書班タリシヿアルベシト考論スルモノアリ、又ソノ馬ノ皮肉ヲ能ク分別定斷シタレバ、或ハ馬商ナリシトモ云ヘリ、然ルニ、舌氏ハ切ニ優人ナリシナリ、ソノ年時ヲ送ル間、平

生試驗觀察ニ由リテ得タル學識ヲ、盡ク戯曲ニ顯ハセリ、蓋シ舌氏ハ深沈ナル書生ニシテ、勉强シテ業ヲ做セル人ナルヿハ疑ヒナシ、ソノ著ハストコロノ書、人心ヲ感ゼシメ、我英人ノ品行ヲ造リ成スノ益アリ、今日ニ至リテ、盛ニ世ニ重ゼラル、

（十三） 貧賤ヨリ出デタル豪傑ノ人

日工ヨリシテ起レルモノハ、量地官タル伯倫德例、航海ニ長ゼル古克（古克安永八年生文政十一年歿）詩人薄爾尼斯等ナリ、○坊者磚人ヨリ出ヅルモノ、中ニ、便。戎孫ハ、手ニ鏝ヲ持シ、懷中ニ書ヲ納レテ、操作セシトイヘリ、ソノ他、量地官タル義德瓦圖、及ビ的爾福德、地學博士タル休。彌爾列爾、著書家及ビ雕像匠タル亞蘭勘寧舍、ミナ坊人磚人ヨリ出デタル人ナリ、○木匠ヨリ出デタル卓犖ノ人ニハ、建造工人タル意尼顏。若涅士、時辰標ノ有名ノ工人赫利孫、人物ノ體質ヲ察スル學者戎。翰他、畫家洛模尼、及ビ窩比、東洋ノ學ヲ通ズル李、彫像匠タ。ル戎寄伯孫等ナリ、○織工ヨリシテ起レルモノハ、算學家西模孫、彫像工倍根、上帝道學士米爾納兒弟二人、亞坦。話兒客兒、上帝道學士戎。福士時爾、禽學者維爾孫、傳法教師立賓士敦、詩人丹納喜爾等ナリ、○工ヨリシテ起レルモノハ、有名ノ水師提督古勞垤士禮。叔夫爾、電氣博士斯打戎、文章家撒母耳。德留、「クヲートルレイレビュー」名ヲ著セル吉福德、詩人伯路模非爾德、傳法教師維廉。加禮等ナリ、勉强刻苦セル傳法教師穆禮孫（馬仕遜往支那二十五年天明二年生天保五年歿）ハ、履法ヲ作ル工人ナリシナリ、

近キ數年以來、蘇葛蘭ニ托馬士。義德瓦圖トイヘル草木鳥獸ヲ究ムル深奥ナル學者、マタ鞋匠ヨリ起レリ、ソノ職業ヲ爲サル餘暇ヲ以テ、コノ學科ニ、心ヲ盡シケルガ、小蟹ノ類ヲ查究シテ、新ニ一種ヲ看出シタリ、學士家因リテコノ蟲ヲブラニザエドワルジアイト名ヅケタリ、

裁縫匠ヨリ、亦卓犖ノ才ヲ顯ハセル人出デタリ、史家戎。斯到、畫家若孫、嘗テコノ業ヲナセリ、好古斯吳德ハ、波都（地名）ノ戰ニ、功名ヲ顯シ、義德瓦第三ヨリ恩賞トシテ、奈的ノ爵ヲ賜ハリシガ、少年ノ時ハ、倫敦ノ裁縫匠の徒弟ナリシナリ、」水師提督河伯孫（Admiral Hobson.）ハ、一千七百二年士班牙未額港ノ戰ニ、水閘ヲ破リシ勇將ナリシガ、亦コノ業ヲ爲セシナリ、「河伯孫少時懷的ノ裁縫匠ノ家ニアリケル時、英國一帮ノ軍艦、コノ島ヨリ出帆スベキ新聞ヲキヽテ、急ニ海岸ニ走リ往キ、ソノ光景ヲ見タリシガ、コノ小童、忽チ大志ヲ生ジ、水軍ノ人トナラント思ヒ、一小舟ニ跳リ入リ、軍艦ノ處マデ漕往キ、船將ニ乞ウテ、義兵トナリタリ、」數年ノ後、功名ヲ荷ウテ、故鄕ニ歸リ、昔賤業ヲ爲セシ小舍ニ來リテ飮食セシトナリ、」然レドモ、裁縫匠ノ大豪傑ハ、安德留。戎孫（Andrew Johnson.）ニ如クモノナカルベシ、卽チ當今合衆國ノ大頭領ニシテ、卓絕ノ行、心思ノ力アル人ナリ、邑中ノ長老タル時、大會ノ中ニ於テ、立法ノ事ヲ辯論シゲルガ、衆中ニ呼ハルモノアリテ曰ク、彼ハ裁縫匠ヨリ起レリト、戎孫コノ譏刺ノ言ニ答ヘテ曰ク、「誰ヤラン相公予ヲ裁縫匠ナリト云ハルヽヿ、予ニ於テハ、少シモ妨ゲトハ思ハヌヿナリ、何ニトナレバ、余コノ職業ヲ爲セル時、良工ノ名ヲ得タリ、又主顧ノ客ニ約シタル期限ヲ違ヘズシテ、善クソノ衣ヲ製成シタリ、」ト言ヒシトナリ、

カルヂナル（法官ノ長）烏爾西、垤夫、亞堅屛德、客爾古。懷的ハ、皆屠家ノ子ナリ、伴陽ハ、補鍋匠ナリ、淑瑟弗。蘭加斯德ハ、籃匠ナリ、蒸氣機器ヲ創造シ、大名ヲ顯ハセル牛國民、瓦德、士堤反孫ハ、ソノ始メ、牛ハ、打鐵匠、瓦ハ算具ヲ造ル工人、士ハ火器ヲ運用スル人ナリシナリ、」說法者翰丁同ハ、煤炭ヲ擔フ人、木版ニ畫ヲ雕

ルヿヲ始メタル伯維格ハ、煤炭ヲ掘ル者ナリシナリ、」獨德士禮ハ、歩兵ヨリ、河爾克洛弗的ハ、圉人ヨリ起レリ、航海者拔欣ハ、ソノ始メハ、船檣ノ前ニ供事スル人ナリ、古勞垤士禮。叔夫爾ハ、船房ノ小厮ナリシ、花設爾ハ、軍隊ノ中ニテ、オボウ（笛類）ヲ吹ク人ナリシ、長托禮ハ、旅行スル雕工ナリシ、壹逮ハ、旅行スル印書匠ナリシ、托馬士。老連士ハ、酒家ノ子ナリシナリ、」彌開爾。發拉第ハ、打鐵匠ノ子ニシテ、二十二歳ニ至ルマデ、釘書匠ノ徒弟トナリ、ソノ業ヲ爲セリ、今ハ上等ノ理學者トナリテ、窮理科ノ深奥ニシテ解シガタキモノヲ、明カニ辨析スルヿハ、ソノ師輪弗禮。大未ト雖モ、コレニ及ブヿ能ハズト云ヘリ、

（十四）有名ナル天學者

天學ヲ以テ名ヲ顯セルモノ、中ニ、哥白爾尼加士ハ、波蘭ノ麪包ヲ燒ク者ノ子ナリ、客不列爾ハ、日耳曼酒家ノ子ニシテ、ソノ身ハ、給事シケル小厮タリシナリ、亞連白爾士ハ、冬夜ニ巴理ノセン ジョン ル ロンドノ寺院ノ石階ニ棄テラレシ孩兒ナリシヲ、鑲玻瓈工ノ婦、拾取リテ養ヒシナリ、牛董ハ額蘭覃ノ小農ノ子ニシテ、拉不禮士ハ、紅弗留爾ノ貧民ノ子ナリ、コレ等ノ卓越ナル人、イヅレモ、幼少ノ時、甚シキ患難ニ逢ヒタレドモ、ソノ英才ヲ以テ力學セシニヨリ、普ク天下ノ財貨ヲ以テモ買ヒガタキ程ノ不朽ノ大名ヲ得タリ、」貨財ニ富メルモノハ、却テコレガ爲ニ、進修ヲ障礙セラル、モノナレバ、ソノ害タル、貧賤ヨリ大ナルヿナリ、拉額蘭日ハ、天學及ビ算數ニ明カナル人ナリ、ソノ父、株林（以太利地）ノ武庫ノ官タリシガ、臆リシ事中ラズシテ、產業ヲ敗リ、極貧ニ至レリ、拉額蘭日常ニソノ後來名聲及ビ幸福ヲ得タルヿヲ、少時貧困ナリシ事ニ歸シテ「予ヲシテ、若シ富人ナラシメバ算學者トナルヿハ得ザリシナラン」ト曰ヘリ、

（十五）クレヂーメン（牧師ト譯ス法官ナリ）ノ子ヨリ名ヲ顯ハス人

クレヂーメンノ子ヨリ、史冊上ニ名ヲ顯ハセルモノ、特ニ著シトス、德勒克、納爾森ハ、海上ニ於テ功名ヲ立テタル人ナリ、售拉斯敦ハ、上帝道博士ナリ、雍額ハ、農學ノ書ヲ著ハセル大家ナリ、普禮揮爾ハ、算學ノ名家ナリ、白爾ハ、蒸汽船ヲ創造セシ人ナリ、烏連ハ、建屋ノ名工ナリ、禮諾爾圖、維爾孫、維爾啓ハ、イヅレモ、有名ノ畫工ナリ、索兒婁、堪不白爾ハ、ミナ律學ノ大家ナリ、闕垤孫、托模孫、哥獨德斯密士、格列立地、典涅孫ハ、詩人文士ノ最モ著シキモノナリ、」勞爾德（爵名）哈爾定日、參將義德瓦爾垤士、守備何德孫ミナ印度ノ戰ニ功名ヲ顯ハセル人ナルガ、亦クレヂーメンノ子ナリ、印度ノ英領ハ、實ニ中等種族ノ人ニ頼リテ勝チ得ラレタルナリ、卽チ屈來武、瓦爾連。哈斯丁士及ビ其他コレニ繼グ者、ミナ久シク商家鋪店ニアリテ、職事ヲ作セシモノナリ、

（十六）アットルネース（狀師ノ卑キ者等）ソノ他、卑賤ノ人ノ子ニテ名ヲ顯ハス人

アットルネースノ子ヨリ、卓越シテ名ヲ成セルモノハ、以德門。拔爾古、斯彌敦、斯格的、窩圖窩士、索末爾士、哈德維克、段寧等ナリ、以上三人ハ、勞爾德ノ爵ニ上レリ、」維廉。伯拉克士敦ハ、賣絲商ノ子ナリ、勞爾德吉福德ハ、德夫爾ノ雜貨商ノ子ナリ、勞爾德田曼ハ、醫者ノ子ナリ、按察司答爾福爾德ハ、釀酒家ノ子ナリ、勞爾德波爾洛克ハ、鞍匠ノ子ナリ、禮亞德ハ、尼尼微ノ故跡ヲ搜出セル人ナリシガ、倫敦狀師館ノ書辦ノ子ナリ、維廉。亞爾模斯倫ハ、水力機器及ビ新製ノ大砲ヲ發明セルモノナルガ、亦嘗テ法律ヲ學ビ、アットルネーノ事ヲ爲セリ、彌爾敦ハ、倫敦ノ代二寫呈狀一者ノ子ナリ、波伯及ビ掃請ハ、賣麻商ノ子ナリ、學師維爾孫ハ、沛士禮ニ住スル製造工ノ子ナリ、

勞爾德馬高禮ハ、亞弗利加ニ旅スル商人ノ子ナリ、基寸ハ賣藥商ノ子ナリ、翰弗禮。大未ハ、始メハ藥鋪家ノ徒弟タリシナリ、大未嘗テ云ク「予ノ今日ノ遭際ハ、予ノ自己ヲ造リ成シタルモノナリ、コレ虛飾ノ言ニ非ズ、心中ノ實ヲ語ルモノナリ」ト云ヘリ、○力查。窩蘊ハ、金石草木鳥獸ノ學ニ明カナル名家ナリシガ、少時ハ、軍艦中給事ノ人ニシテ、中年以後ニ至リテ、始メテソノ業ヲ修メタリ、」十年ノ間、醫科學校ニ在リテ、約翰。翰他ノ集メタル、宇宙萬物及ビ術藝器物ノ目錄ヲ編著セルニ由リテ、ソノ博學ノ基ヲ造リシトイヘリ、

（十七）卑賤ヨリ起リテ大名ヲ得タル外國人ノ事

自己ノ勉强ト、才能トニヨリテ、卑賤ヨリ崛起シテ大名ヲ世ニ揚ゲシモノ、外國人ニ於テ、ソノ例、マタ少カラズ、畫家日勞德ハ、麵包ヲ作ル者ノ子ナリ、雕像工奇弗士ハ、麵包ヲ燒クモノヽ子ナリ、畫家留波爾德。羅伯ハ、時辰標匠ノ子ナリ、樂歌ヲ作レル有名ノ海曇ハ、車匠ノ子ナリ、始メテ影相ヲ金版ニ留ムルヿヲ發明セシ達蓋爾ハ、戯臺ニ用フル風景ヲ畫ケル者ナリシナリ、」羅馬法王トナリシ額列鄂禮第七ハ、木匠ノ子ナリ、希臘ノ理學家瑟克新丟斯ハ、牧人ノ子ナリ、羅馬法王亞獨利安第六ハ、和蘭ノ船ヲ漕グ者ノ子ナリ、亞獨利安童子ノ時ニ、學問スル爲ニ、蠟燭ヲ買フヿ能ハザルガ故ニ、寺門或ハ街中ノ燈アル處ニ就キテ課業ヲ爲セリ、カクノ如ク忍耐勉强ナルニ由リテ、後來卓絶ノ人トナリタリ、」金石學者荷壹ハ、織工ノ子ナリ、器學家荷的弗列ハ、阿連士ノ燒麵者ノ子ナリ、算學者約瑟弗。大理爾ハ、窩吉士耶ノ裁縫匠ノ子ナリ、建屋工丟蘭德ハ、巴理ノ蒔工ノ子ナリ、金石草木鳥獸學者ナル惹士納爾ハ、時立克ノ皮工ノ子ニシテ、ソノ學業ニ從事スル間、貧苦疾病及ビソノ他ノ災難ニ遇ヒタレドモ、コレガタメニ、ソノ勇氣ヲ失ヒ、進脩ヲ怠ルヿナカリキ、古諺ニ曰ク、「許多ノ做スベキ事アリテ、コレヲ勉メ做サント欲スル人ハ、必ズ許多ノ光陰ヲ尋ネ出スベシ、」ト、惹氏ノ生平ヲ觀ルトキハ、コノ言ノ眞確ナルヿヲ知ルベキナリ、法國理學算學ノ名家ナル比爾列拉繆士ハ、必加爾第ノ貧人ノ子ニシテ、童子ノ時、牧羊ヲ業トセシガ、コレヲ爲スヿヲ屑シトセズシテ、巴理ニ逃レ往キ許多ノ艱苦ニ耐ヘ勝チテ後ニ、拿華列ノ學校ニ入リ、奴僕トナルヿヲ得シガ、ソレヨリ幾時モナク、當時有名ノ人トハナリニケリ、

（十八）製煉家卯格林ノ事

製煉家卯格林（Vauquelin.）ハ、加爾華德士法國地名ノ農民ノ子ナリ、鄕學ニアリテ學童トナリシ時ニ、衣服襤褸ナリシガ、ソノ聰敏ノ才ヲ顯ハセリ、ソノ師ノ讀書作文ヲ教フル者、卯格林ノ勉學ヲ譽メテ、「童子努力學習セヨ、他日汝聖會保長ノ如キ衣服ヲ着クルニ至ルベシ」ト云ヘリ、一ノ藥鋪主人コノ學院ニ至リコノ童子ノ身體壯强ナルヲ嘆美シ、ソノ己ノ店鋪ニ至リ、藥材ヲ秤量センヿヲ勸メケレバ、卯格林コレヲ承允シケリ、然ルニソノ家ニ移ルノ後、學問ヲ爲ルノ暇アラザルヲ以テ、遂ニコヽヲ去リテ巴理ニ赴キ、藥鋪家ニ給事セント欲シ、コレヲ覓メシガ、尋ネ得ザリケレバ、卯格林大ニ勞憊失望シテ病ヲ發シ、病院ニ入レラレ、命ヲ失フベシト思ヒシ程ナリ、然ルニ、幸ニシテ快復シ、後ツヒニ夫爾克雷ト云ヘル有名ノ製煉家ニ知ラレ、私室ノ書辦トナリシガ、多年ノ後、夫爾克雷沒シテ、卯格林コレニ繼ギテ、製煉學ノ學師トナリタリ、千八百二十九年ニ、加爾華德士ニ於テ、民委官ヲ選ビケル時、卯格林ソノ選擧ニ當リソノ職ヲ盡シテ後榮名ヲ荷ヒ、昔貧賤ナリシ時、離レシトコロノ故鄕ニ歸リシトゾ、

（十九）法國ニ於テ步卒ヨリ登用セラレシ人

法國始メノ變亂以來、軍中ノ卒伍ヨリ貴顯ノ武官ニ陞ルヿ、尋常ノ事トナレリ、英國ニ於テ、コレニ比スベキ例アラズ、諺ニ曰ク、「功名ノ路ハ才能ノ人ノ爲ニ開ク」ト、實ニコノ言ノ如ク、若シ登庸ノ路ノ開ケタルモノアランニハ、我英人モ、マタ必ズ彼ニ雙ブベキナリ、何西、含白爾士、比斯領魯ハ、皆步卒ヨリシテ、ソノ閱歷ノ路ヲ始メタリ、何西ハ、王ノ三軍ノ中ニアリシトキ、常ニ短衣ヲ刺繡シ、コレニ因リテ金錢ヲ得テ、兵書ヲ買ヒタリ、含白爾士ハ、幼年ノ時ニ放逸ナリシガ、十六歲ニ及ンデ、家ヲ出デ、南西ノ商家又立翁士ノ工人ノ家ニ奴隸トナリ、又ハ兎皮ヲ販スル人ニ給仕シケルガ、二十二歲ノ時、義兵ノ籍ニ入リ、一年ヲ過ギザル中ニ營將ニ至レリ、古禮倍爾、路費伯爾、蘇爾、維克士爾、蘭納士、瑣爾的、馬士色納、仙。細爾、德亞倫、漢拉的、窩熱羅、白西列士、内、以上ノ將帥、ミナ卒伍ヨリ起レリ、然ルニ、或ハ速カニ超拔セラレ、或ハ擧擢セラルヿ遲クシテ、一樣ナラズ、仙。細爾ハ、多爾ノ皮匠ノ子ニテ、始メ戲子トナリシガ、得ニ輕騎ノ兵籍ニ入リ、一年ノ内ニ、甲比丹ノ職ニ上レリ、」白荷蘭ノ公維克士爾ハ、一千七百八十一年ニ、銃隊ニ入リシガ、法國變亂ノ事、未ダ起ラザル以前ニ、ソノ籍ヲ脱セラレタリ、既ニシテ、戰爭起リケレバ、再ビ兵籍ニ入リ、數月ノ間ニ、ソノ才略勇氣ニ由リテ、アジュタント。メージョア「副都統」及ビバタリヨン「一旅人五百」ノ長トナレリ、」漢拉的ハ、百律臥德ノ酒家ノ子ナリ、始メ輕騎隊ニ入リシガ、航髒ニシテ、人ニ服セザルガ故ニ、ソノ職を罷メラレケリ、然ルニ、再ビ兵籍ニ入リ、幾何モナク、參將ニ至レリ、」内ハ、十八歲ノ時、輕騎兵營ニ入リ、次第ニ位級進メリ、古禮倍爾、忽チ内ノ軍功ヲ看出シ、ゼ。インデファティゲブル「疲倦ヲ知ラザル人」ト名ヅケテ、コレヲ副將ニ擢デタリ、時ニ僅ニ二十五歲トイフ、」以上ノ諸人ハ、カクノ如ク、登進甚ダ速カナリシナリ、然ルニ、瑣爾的ハ、始メテ兵籍ニ入リシヨリ、六年ヲ經テ、纔ニサアジャント「軍吏」ト爲レリ、ソノ後、次第ニ登進シ、コロネル「參將」、ゼネラル。ヲフ。ヂヴィション「一隊提省」、マーシャル「總兵官」ニ至レリ、瑣爾的曰ク、予軍吏ノ職を得タルヿハ、多少ノ勞苦ヲ積メリ、ソノ後得タル他ノ位級ニ比スレバ、尤モ難カリシナリ、」法國ニ於テ、卒伍ヨリ將領ニ登進スルヿ、今日ニ至ルマデ相踵グリ、商額爾尼ハ、拿破崙第三ノ對手ナル大將ナリ、一千八百十五年ニ、王ノ侍衞兵ノ籍ニ入リシトイフ、」マアシャル蒲紹ハ、四年ノ間、步兵ヲ爲セシ後、一官ヲ得タリ、」マアシャル蘭同ハ、當今法國軍務ノミニストルナリ、ソノ掌鼓卒ヨリ起リシ故ニ、閉爾西ノ集畫閣ニアルトコロノ畫像ハ、ソノ手ヲ、鼓上ニ置ケリ、コレ蘭同ノ需ニ應ジテ、カク畫キタルナリ、」コレ等ノ例ニ因リテ、法國ノ步卒ハ、元帥ノ持テル杖ヲ、衣糧袋ニ帶ブベキ望を以テ、戰鬪ニ勇志ヲ奮フヿナリ、

（二十）伯洛沙敦ノ事○以下四章專心勉力ニ由リテ卑賤ヨリ高位顯職ニ至リシ人ノ例

英國幷ニ外國ニ於テ、專心勉力、久シウシテ倦マザルニ由リテ、卑賤ノ業ヲ爲セルモノヨリ、高位顯職ニ至リ、國家ヲ裨益スル者甚ダ多クシテ、世人ノ耳目ニ珍ラシカラヌヿニナリタリ、」カクノ如ク卓絕ナル人ノ生平ヲ觀ルトキハ、ソノ早年ニ艱難ト戰ヒ、災禍ニ敵スルヿハ、後來ノ享通利達ノ爲ニハ、必用ニシテ少クベカラザルヿヲ知ルベシ、英國百姓議院ニハ、常ニ自己ノ力ニ賴リテ發達シタル人甚ダ多シ、

元來職業ニ勉強スル人民ニ由リテ、選擧セラレ、議士トナルヿナレバ、然アルベキ道理ナリ、英國人民立法ノ權アルヿノ信證ト爲シテ、コノ議院ニ於テ、各部落ヨリ薦擧セル民委官ヲ歡接シ尊敬スルヿナリ、」近キ比約瑟弗。伯洛沙敦（Brotherton.）ハ薩爾福德ノ民委官ナリシガ十時議單ノ事ニ因リテ議論セルトキニ、嘗テ自ラ綿磨ノ工場ニ在リテ小僮タリシトキ、勞苦困難ヲ受ケシヿヲ委曲ニ述ベテ、予コノ時ヨリシテ、他日モシ運會ヲ得タランニハ、務メテコノ情勢ヲ改メ好クスベシト志シタリキト、ソノ眞情ヲ云ヒケレバ、惹迷士。額拉含、直チニ座ヨリ起チ、閤院喜色ヲ形セルノ中ニ於テ、次ノ言ヲ出シテ、「伯洛沙敦君ハ、カク卑賤ヨリ起ラレシニヤ、余ハ今日マデ知ラザリケリ、ソモソモ新起ノ人ニシテ、世襲ノ紳董ト、肩ヲ比ベ、位ヲ同ジウセラル、ヿハ、元來議院ニ在ル者ヨリハ、榮光遙カニ勝レルヿナリ」トゾ言ヒケル、

（二十一）福克斯、林德西ノ事

福克斯（Mr. Fox.）ハ、阿爾譚ノ民委官ナリシガ、昔年ノ事ヲ憶ヒ出シテ、常ノ習ニ、「余諸維古ニ在リテ、織匠ノ小僮タリシトキニ云々」ト云ヘリ、ソノ他、今日巴力門議士ニ、カクノ如ク卑賤ナリシ人尚ホ生存セルモノアリ、」林德西（Mr. Lindsay.）ハ、舟ヲ有テル有名ノ人ニシテ、近頃マデ、散垤爾蘭ノ民委官ナリシガ、嘗テ政論對敵ノ黨ヨリ林德西ヲ誹謗シケル時、衞毛士ノ民委官ヲ選ブ人ニ向ッテ、ソノ生平ノ事ヲ朴實ニ語リケリ、」十四歲ノ時、父母ニ別レ、額拉士哥ヨリ、立抜普爾ニ赴カントテ、蒸氣船ニ入リケルガ、船賃ヲ償フヿ能ハザルガ故ニ、ソノ代リニ煤炭ヲ積ミ入レンヿヲ船主ト約シ、コノ勞事ヲ爲シタリ、既ニ立抜普爾ニ着シテ後、四十九日ノ間、職業ヲ求メ得ズシテ、辛ウジテ雨露ヲ凌ギ、時日ヲ過セリ、後ニ船中ノ小斷ト爲ルヿヲ得タリシガ、ソノ堅固ナル善行ニ由リテ、十九歲ノ時、船主トナリタリ、」年二十三ニ及ンデ、洋海ノ職ヲ休メテ、海濱ニ居住ヲ定メケルガ、其後ソノ身顯達スルヿ速カナリキ、自ラ曰ク、「予ハ着實ニ勉強シ、常ニ勞作シテ怠ルヿナク、又人ヨリ施サレンヿヲ欲スル事ハ、我コレヲ他人ニ施スベキノ大道理ヲ常ニ目存シタルニ由リテ、福運ヲ得タリシナリ、」ト云ヘリ、

（二十二）維廉。若克孫ノ事

維廉。若克孫（Mr. W. Jackson.）ハ、當今北達比社ノ民委官ナリ、ソノ遭際甚ダ林德西ニ似タリ、ソノ父ハ、蘭加斯德ノ醫士ニシテ、子十一人ヲ遺シテ死シケルガ、若克孫ハ、ソノ第七子ナリ、ソノ子ノ既ニ長ゼルモノハ、父ノ生存ノ時ニ、敎育ヲ受ケタリシガ、ソノ幼ナルモノハ、父死シテ後、各々離散シテ、自己ニ衣食ヲ圖ルヿトハナレリ、若克孫コノ時十二歲ニテ、鄉校ニ在リケルガ、コヽニ居ルヿ能ハズシテ、一舟ノ傍ニ於テ、曉六時ヨリ夜九時ニ至ルマデ勞事ヲ爲シケリ、既ニシテ、ソノ主人病ニ臥シケレバ、若克孫ニ命ジテ、ソノ寫字房ニ在リテ、事ヲ司ラシメタリ、コヽニ於テ、頗ル餘暇ヲ得テ、英國博物全書ノ卷帙浩瀚ナルモノヲ、首メヨリ終リニ至ルマデ通覽セリ、晝間ニモ讀ミタレドモ、大抵ハ、夜中ノ業ナリシナリ、」其後貿易ノ業ヲ爲シケルガ、ソノ勤勉ニ因リテ、贏利ヲ得タリ、」今ハ若克孫ノ帆船四方ノ洋海ニ駛セ、地球上ノ萬國ト、互市ヲ通ゼリ、

（二十三）力查。格伯田ノ事

力查。格伯田（Richard Cobden.）（格氏文化元年生）マタ卑賤ヨリ起リシ人ヨリ、索塞ノ小農ノ子ニシテ、幼年ノ時ニ、倫敦ノシテイ（交易繁盛ノ市街）ニ送ラレ、貨物棧房ノ小斷トナレリ、格伯田勤敏ニシテ、ソノ行正シク又甚ダ見聞ヲ廣ムルヿヲ好ミケリ、ソノ主人ハ、昔鄉校ニ在リテ學ビタル人ナリシ故、格伯田ノ書ヲ讀ムヿノ過度ナルヲ

見テ、コレヲ戒メケルガ、コノ童子己ノ嗜妙ニ任セ、書中ニ遇フトコロノ寶貨ヲ、ソノ心ニ貯フルヿヲ勉メタリ、」コレヨリ次第ニ發運シ、後ニ滿遮士打ニ住シ、白布ニ花ヲ印スルヿヲ業トセリ、格伯田常ニ公衆ノ疑問ニ心ヲ用ヒ、就中民衆ノ教育タルベキ事ニ意ヲ注ギタリ、抑モ古ヨリ英國ニ於テ穀物入口ノ税ヲ收ムルヿ、立テテ法制トナリシガ、格伯田コノ法ノ公益ナラザルヿヲ熟知シ、コレヲ廢セント欲シテ、錢財ヲ費シ、心力ヲ竭シタリ、既ニシテ巴力門公議協同シテ、コノ法ヲ廢セシハ、實ニ格伯田ノ力ナリ、」格伯田始メテ公會ニ於テ宣說セシトキニハ、言辭拙クシテ、敗レヲ取リタレバ、發憤シテ言辭ヲ學習シ、久シウシテ怠ラズ、後遂ニ談說勢力アリテ人ヲ勸誘スル宣論者ト稱セラレ、羅伯。比耳（比耳ハ、始メ穀稅法ヲ廢スル說ヲ駁セルモノナリシガ後ニハ格伯田ノ說ニ同ジケリ、）ト雖モ、コレヲ稱譽スルニ至レリ、」法蘭西ノ國使德路温。埀。路維士巧ミニ格伯田ヲ評シテ、「彼人ハ、凡ソ人ノ耐久勞苦ニ由リテ事業ヲ成就スルヿヲ得ベキ生存セル明證ナリ、彼人ハ、自己ノ賢能功力ニ由リテ、極卑賤ヨリシテ至高ノ地位ニ至ル者ノ中ニ於テ、最モ善キ模範ヲ具ヘシ人ナリ、彼人ハ、英人ニ賦スル堅質ノ性ノ最モ著レタル表様ナリ」云ヘリ、

（二十四）勤勉ニ非ザレバ百事工妙ニ至ル能ハザル事

何等ノ情事ニ限ラズ、專精ニシテ勤勉ナレバ、必ズ卓然タル大名ヲ以テ價銀トナシテコレニ償還セラルヽヿナリ、何等ノ藝業ニ限ラズ、ソノ絶妙極美ノ地位ハ、懶惰ナル人ノ能ク達スル所ニ非ズ、人ヲシテ富饒ナラシムルモノハ、他ナシ、勤勉ノ手、勤勉ノ心ノミ、人ヲシテ、才智ヲ長ジ、事務ニ當ラシムルモノモ、マタ此ノ二者ノミ、」タトヒ富貴ノ家ニ生ルヽト雖モ、凡ソ眞實ノ聲名ハ、心ヲ專ラニシ、力ヲ用フルニ非ザレバ、贏得ルヿ能ハズ、何ニトナレバ、田畝ノ產業ハ、先祖ヨリ傳ハリ受クルヿヲ得ベケレドモ、學問及ビ才智ノ產業ハ、傳ハリ受ケラルベカラズ、」貨財ニ富メル人ハ、己ノ作業ヲ他人ニ爲サシメ、之ヲ償フヿヲ倣シ得ベシ、然レドモ他人ヨリ思慮ノ力ヲ己ニ得テ、コレヲ償フヿ能ハズ、又自ラ修養スベキノ事ヲ買ヒ得ルヿ能ハザルナリ、」故ニ、「凡百ノ事業ノ絶妙極美ニ至ルヿハ、特ニ專心勉力ニ由リテ贏得セラルベシ、」ト云ヘル教語ハ、貧富ニ通ジテ皆用フベシ、蓋シ德留及ビ吉福德ハ、補紩工ノ藥店ヲ以テ學校ト爲シ、休。彌爾列爾ハ、古格馬底ノ採石礦ヲ以テ學校ト爲セリ、カクノ如ク苦學セザレバ、富人ト雖モ、百事ソノ妙處ニ至ルヿ能ハザルナリ、

（二十五）富貴ノ人マタ自助ノ力ヲ要ス

富貴安逸ハ、人ノ才德ヲ修養スル爲ノ必須ノモノニハ非ズ、故ニ古ヨリ今ニ至ルマデ、天下ノ利、邦國ノ益ハ、極卑賤ヨリ起レル人ノ力ニ賴ルヿ甚ダ多シ、」蓋シ安逸驕侈ニ生長スル人ハ、艱難ノ事ト爭賽スルヿ能ハズ、又人生ニ缺クベカラザル奮勉剛猛ノ力ヲ生ジ出スヿ能ハザルナリ、故ニ貧苦ニ逢ハザルハ、人ノ不幸ナリ、然レドモ、能ク自ラ助クルノ勢力ヲ發シ、安逸ノ事ト戰ヒテ、コレニ勝チタランニハ、不幸ヲ轉ジテ幸福ト爲スベシ、蓋シ安佚ト才德トハ、兩立セザルモノナリ、故ニ、人往々己ノ才德ヲ貶シテ安佚ヲ買フモノアリ、然レドモ、正直誠實ナル人ハ、安佚驕侈ト戰ウテ、自己ノ勢力ヲ生ジ、自己ニ信仗シテ、遂ニ凱勝ヲ奏スルヿナリ、倍根曰、「世人、富ト力ト二者ヲ能ク理會スルモノ少シ、故ニ、富ヲ以テ、力ヨリ重キモノト思ヘリ、其實ハ、然ラズ、自己ノ力ニ倚仗シ、自ラ澹泊ヲ守ル（又自ラ儉節ヲ守ルト譯ス）コノ二者、實ニ人ヲシテ、自己ノ井水ヲ吞ミ、自己ノ麵包ヲ喫セシメ、又人ヲナシテ、職事ヲ學習シ、勞作シ、及ビソノ當ニ爲スベキ善事ヲ行ヒ遂ゲ

シムルヿナリ、

（二十六）　富貴ニ生レテ征陣ノ苦ヲ甘ンズル人

富ミテ財多キハ、人ヲシテ、安逸ニ誘カシメ、自暴自棄ニ惑ハシムルモノナリ、故ニ、大產厚貲ノ家ニ生レテ、遊樂ヲ蔑視シ、勤勞ノ事ヲ務メテ時日ヲ送ル人ハ、ソノ榮名、最モ大ナルヿナリ、英國ニ於テ、富饒ノ人ニシテ、國家ノ事ニ勤勞シ、危難ノ任ニ當ルモノハ、甚ダ世ニ崇敬セラル丶事ナリ、ベニンシュラノ戰ニ、加比丹ノ次官ナル人、ソノ隊伍ノ傍ニアリ、深泥ノ中ニ、艱難行步スルヲ見テ、或人コレヲ稱贊シ、「彼ニ一年ノ產一萬五千金ノ人歩行セリ」ト云ヒケリ、今時ニ在リテ、色拔斯土ト兒ノ寒地、及ビ印度ノ熱度ニ於テ、爵位アリ資產アル人、己ノ國ノ爲ニ戰鬪ニ勇ミ、生命ヲ拋チタルモノ、多ク芳名ヲ不朽ニ傳ヘタリ、

（二十七）　富貴ニ生レテ有名ノ學士トナレル人

富貴ノ人ニテ、理學或ハ工藝ニ從事シ、卓絕ノ名ヲ得タルモノ少カラズ、「ソノ例ヲ擧グレバ、理學ノ父ト稱セラル丶倍根ノ如キ、藝術ノ士ニ於テハ、烏斯德、倍爾、加便垤西、咨爾樸、洛斯ノ如キモノ、是レナリ、洛斯ハ爵位アル家ニ生レタル器學ノ大家ト稱スベシ、然レドモ洛斯モシ爵位ノ家ニ生レザレバ、必ズ上等ノ創造者ト稱セラル丶ニ至ルベシ、」嘗テ一ノ大ナル工場ニ於テ、衆人操作セルヿアリ、一ノ工人、洛斯ノ爵位アル人ナルヿヲ知ラズシテ、強ヒテ洛斯ニ請ヒテ、ソノ頭人トナセシコトアリ、又、カク迄工事ニ明カナリシナリ、「洛斯ノ自ラ製スル望遠鏡ハ、古來ヨリ比類ナキモノナリ、

（二十八）　名門右族ニ生レテ政學文章ニ長ズル人、附羅伯。比耳

政學家文章家ニ、名門右族ヨリ出ヅル人少カラズ、コノ學科ニ於テモ、亦タ勉強學習ノ功ヲ積マザレバ、成就ニ至ルヿ能ハズ、故ニ巴力門ノ頭位ニ在ルモノハ、必ズ皆勉強勞苦ヲ極メタル人ナリ、巴麥斯敦、大伯、拉設爾、垤士禮立、額拉特斯頓ノ如キ、皆是レナリ、「以上諸人ハ、巴力門ノ繁劇ナル時ニ當リテ、晝夜トモニ勉勞ヲ作セリ、羅伯。比耳ハ、今世ノ最モ勉強ナル人ナリ、比耳、精力常人ニ絕レ、常ニ心思ヲ用ヒテ、吝惜スルヿナシ、ソノ履歷ヲ觀ルトキハ、中等ノ資性ヲ具フル人ト雖モ、勉強シテ心ヲ用ヒ、勞力シテ倦ムヿナケレバ、許多ノ事業ヲ成就スベキヿヲ證知スベキナリ、」比耳四十年ノ間、巴力門ノ議士ニ列シ、ソノ功勞甚ダ大ナリ、」常ニ良心ニ從ヒテ諸事ヲ行ヒ、必ズ貫徹スルマデニ爲シタリ、」凡ソソノ論辯スルモノ、必ズ豫メ詳カニ學習シテ、然ル後或ハ言ヲ發シ、或ハ文ニ書ゼリ、ツヒニ倉卒ニ出ヅルモノナシ、」ソノ自ラ心力ヲ勞スルヿ、殊ニ過甚ニシテ、人ニ接見スルニモ、各々ソノ人ノ器量ニ隨ヒテ、コレニ體貼將就シテ、餘力ヲ惜マズ、」且ツ又實事習驗ノ智ト、志向堅定ノ力ト、及ビ、兩目兩手ヲ著實ニ運用スルノ才アリ、」就中一事尤も他人ニ超絕スルモノハ、ソノ持論、歲月ヲ閱スルニ隨ヒ、開拓擴充セリ、」一年愈々進ムト雖モ、ソノ氣象たゞ衰縮セザルノミナラズ、益々粹美純熟ニ至レリ、」一死ニ至ルマデ、新見異說ヲ聽納スルヿヲ爲セリ、人多ク思ヘラク「比耳ハ謹愼ニ過ギタリ」ト、然レドモ、比耳實ニ從前ノ見識ヲ以テ自ラ善シトスルノ心ナシ、蓋シ自ラ善シトスルノ心ハ、學問ノ癱瘋ニシテ、老年ノ人ヲシテ、復タ進境アラザラシムルモノナリ、

（二十九）　勞爾德（爵名）伯路塞

伯路塞（B. O. Brlum）（伯路塞安永七年生明治元年歿）ノ強勉ニシテ倦ムヿナキハ、世人ノ遍ク知ルトコロナリ、」ソノ公務ニ勤勞スルヿ、六十年ニ過ギタリ、ソノ間、或ハ法律或ハ政事、或ハ藝術ニ從事

シ、何レモ卓然衆ニ超エズトイフコトナシ、」何ナル工夫ヲ用ヒテ、カクノ如ク、許多ノ事ヲ成就シ得タルヤ定メテ祕密ノ方アルベシ、ト疑ハル、ホドナリ、」或人、嘗テ撒母耳。羅彌爾禮ニ向ツテ、一ノ新功ヲ企テ爲サンコトヲ請ヒケレバ、羅彌爾禮推辭シテ、「我ハ、コレヲ爲スノ暇アラズ、然レドモ伯路寒ナラバ、暇アルベシ、彼ノ人ハ、何事ヲ爲シテモ、暇アラズトイフヿナシ、」所謂祕密ノ方ハ、他ニアラズ、伯路寒ハ、一ミニュートノ暇トイヘドモ、空シク過スヿナシ、并ビニ、ソノ身體剛強ニシテ、鐵ノ如シ、」老年ニ至リ、尋常ノ人ナラバ、世間勞苦ノ事ヲ辭シテ、安逸ヲ消受シ、床榻ニ凭リテ瞌睡シテ、時日ヲ送ルベキニ、伯路寒ハ、コノ時ヨリ、光線ノ法ヲ始メテ考究シ、心力ヲ勞シ、終ニソノ功夫ヲ成就シ、倫敦、巴里ノ碩學名家ヲシテ、集會論定セシムルニ至レリ、」且ツ此時マタソノ著ハセル「若爾日第三ノ時代文藝學術ノ人」トイヘル書ヲ印行シ、又公侯議院ニ於テ、律法及ビ政事ノ議論アル時ニハ、必ズコレニ預リシナリ、」細尼德。斯密士、嘗テ伯路寒ニ勸メテ、「精強ナル人三人ノ爲シテ成就スベキ事功ヲ以テ限リト爲シテ、ソレヨリハ過シ給フベカラズ、」ト云ヒケレドモ、伯路寒ハ、勉強スルヿヲ好ミ、久シク習ウテ癖ヲナセリ、故ニ何ホド專精ニ心ヲ用フトモ、コレニテ大過ナリトスルヿナシ、」ソノ爲ルトコロ、何事ニ限ラズ極善極妙ニ至ルヿヲ務トセリ、故ニ、世人評シテ、「モシ伯路寒ヲシテシューブレッキ〔鞋ヲ擦スル人〕ナラシメバ、英國第一ノシューブレッキトナルヿヲ得ザルウチハ、勉強シテ止マザルベシ」トイヘリ、

（三十） 律敦ノ事

伯爾空。律敦（Sir E. Bulwer Lytton.）〔律敦文化二年生〕ハ、マタ貴族ニ生レテ、彊志勉學ノ人ナリ、ソノ著ストコロノ書、小說アリ、詩アリ、戲曲アリ、史類アリ、文章アリ、盡ク世ニ稱セラル、又辯論ニ長ジ、政學ヲ善クセリ、律敦、安逸ヲ嫌ヒ、熱心勉強シテ妙處ニ至ルヿヲ務トセリ、」故ニ當時英國著書家ノ中ニ、律敦ノ如ク著書ニ富ミ、盛譽ヲ得タルモノハアラズ、」抑モ、射獵ヲ好ミ、安逸ヲ事トシ、屢ゝ宴會ニ赴キ、演劇ヲ樂ミ、倫敦千百ノ歡娯ヲ極メ或ハ遠ク巴理維也納羅馬ニ遊ブコトハ、大產ヲ擁シ、樂事ヲ嗜ム人ノ通常ノ習ヒナルニ、獨リ律敦バ、一意ニ藝文ノ事ニ努力シ、更ニソノ他ノ嗜好アラザリケリ、」ソノ始メニ著セル書ハ、歌詩ノ體ニテ、ウイーヅ エンド ウアイルド フラワース「野草野花」ト云ヘルモノナリシガ、世人ニ毀レタリ、」次ニ作レルモノハ、小說ニシテ、ファルクランド〔書名〕ナリシガ、マタ敗レヲ取レリ、」弱志ノ人ナラバ、必ズ著述ノ業ヲ抛廢スベキニ、律敦ハ、勇敢ニシテ進ミ、堅忍ニシテ撓マズ、益ゝ博ク書ヲ讀ミ、務メテ工夫ヲ下シ、終ニ敗レヲ轉ジテ功トナシタリ、」ファルクランドヲ著セシ後、一年ニ滿タズシテ、ペルハム〔書名〕世ニ出デ、ソノ後三十年ノ間、陸續トシテ書ヲ著シ文場ニ名ヲ震ヒタリ、

（三十一） 垤士禮立ノ事

垤士禮立（Mr. Disraeli.）〔垤士禮立文化二年生〕、マタ勉強學習ノ力ニ由リテ、盛名ヲ世ニ得タル人ナリ、ソノ首先ハ律敦ト同ジク、文場ニ馳騁セシガ、マタ屢ゝ敗北シタル後ニ、功績ヲ奏セリ、」ソノ著セルウインドラス テイル ヲフ アルロイ 及ビレヴォルショナレイ エピック俱ニ世人ノ誹笑ヲ受ケ、文辭ノ顚狂ト稱セラレタリ、然レドモ、垤士禮立廢沮セズシテ、功夫ヲ續ギタリ、其後著セル、コニングスベイ、サイビル、タンクレッドハ、果シテ妙絕ニシテ世ヲ驚カセリ、」垤士禮立マタ辯論ニ長ゼル士ナリ、始メ百姓議院ニ於テ大聲壯語ヲ以テ宣說セシガ、一句ゴトニ大衆ニ笑ハレタリ、然ルニ收場ノ一

語、後日ノ讖ヲ爲シタリ、「予平生幾度モ、許多ノ事ヲ爲シ始メタリシガ、終リニ至リテ必ズ功績ヲ成就セリ、予今コノ席ヲ退クベシ、然レドモ、諸君吾ノ議論ヲ聽カレン時ハ、必ズ來ルベシ、」ト云ヒケルガ、果シテソノ時來リテ、垤士禮立、公會ノ中ニ於テ、大ニ衆人ノ視聽ヲ驚カシタリ、」垤士禮立ハ、尋常少年ノ一度敗績スレバ輒チ退縮シテ氣ヲ喪ヒ歎息シテ悶ヲ發スルガ如クナラズ、却ッテ益々艱苦シテ功ヲ用ヒタリ、」常ニ心ヲ留メテ、己ノ短所ヲ改メ、聚聽ノ時ノ儀觀ヲ學ビ、言語ノ法ヲ習練シ、又務メテ巴力門ノ典故事實ヲ記憶ス、カクノ如ク積久ノ勉力ヲ經テ、方ニ始メテ其志ヲ達シケリ、曩昔敗績シタル痕跡、盡ク抹シ去リテ、巴力門辯論家ノ最モ完全ニシテ最モ效能アルモノト、一世ニ許サル、ニ至レリ、

(三十二)

窩圖窩士ノ論、幷ビニ多克未爾ノ事

上ニ記スルトコロ、及ビコノ下ニ錄スル所ノ古今人ノ例ヲ觀ルトキハ、人タルモノ、自己發奮勉勵ノ力ニ由リテ、許多ノ事業ヲ成シ得ベキコトヲ理會スベシ、然レドモ一生ノ間、他人ヨリ、輔助ノ益ヲ得ルヿ亦大ナレバ、コ、ニ着眼セザルベカラズ、詩人窩圖窩士(Wordsworth)〔窩士安永三年生弘化三年歿〕曰ク、「コ、ニ二事アリ、互ニ相背反スルモノ、如クニシテ、相並ビテ行カザルベカラザルモノアリ、即チ堅ク人ニ倚賴スルト、堅ク自己ニ倚賴スルトノ二事ナリ、」凡ソ人、幼年ヨリ、老年ニ至ルマデ、身體ノ養育ト、德性ノ修養ト、皆共ニ他人ヨリ裨益ヲ受クルコト、少カラズ、故ニ最モ良善ナル人、及ビ最モ剛強ナル人、常ニ他人ヨリ助ケヲ得タルヿヲ、最モ速カニ招認スルヿナリ、」亞歷西士。德。多克未爾(Alexis de Tocqueville,)〔多克未爾文化二年生安政六年歿〕ノ履歷ヲ引イテ、コレヲ證スベシ、多克未爾ノ父ハ、法國ノ爵位アル人ニシテ、ソノ母ハ有名ノ馬爾士海伯ノ孫ナリ、ソノ家世隆赫ナル故ニ由リテ、僅ニ二十一歲ニ及ンデ、華悉爾士ノ聽訟官ニ任ゼラレタリ、然ルニ自ラ思フハ、予コノ職任ヲ受ケ得タルヿハ、吾身ノ功勞アルニ由ルニ非ズ、故ニ、コレヲ辭シ去リテ、今ヨリハ、自己ノ力ニ由リテ、後來ノ榮達ヲ取ルベシト、遂ニ毅然トシテソノ任ヲ罷メテ、合衆國ニ遊ビケリ、ソノ有名ノ書デモックラシイ、イン、アメリカト云ヘルモノハ、コレニ由リテ成就シタルナリ、」ソノ友哥士體復。德。菩門的ハ、多克未爾ト偕ニ旅行セルモノナルガ、多克未爾ノ旅中勉強ニシテ倦マザルヿヲ記シテ曰ク、「ソノ性質、甚ダ懶惰ナルヿヲ嫌ヘリ、行旅スル時ト、休歇スル時トヲ論ゼズ、ソノ心ハ、ツネニ工夫ヲ用ヒタリ、亞歷西士ト談話セルモノ、中ニ、ソノ最モ愉快ナルモノハ、乃チソノ最モ緊要ナルモノナリ、曰ク、「凶日ハ、失ヒシ日ナリ、即チ惡シク費セシ日ナリ、分毫モ光陰ヲ失ヘバ、懊悵ニ堪ヘズ」多克未爾、嘗テ一友ニ書ヲ與ヘテ曰ク、「人一生ノ間、全ク作用ヲ止ムルヿヲ得ル光陰ハ、アラザルヿナリ、蓋シ自己ノ外ヨリ得タル力ト、及ビ自己ノ內ヨリ生ズル力トハ、共ニ缺クベカラザルモノナリ、余嘗テ斯ノ世ノ人ヲ、沍寒ノ地ニ行旅スルモノニ比喩シタリ、寒氣愈々甚シキ地ニ至レバ、行歩愈々速カニセザルヲ得ズ、人心ノ最モ大ナル病害ハ、寒氣ノ如シ、故ニコノ怕ルベキ病害ニ抵抗セント欲セバ、人マサニ心思ヲ運用シ、又朋友ト共ニ職事ヲ勉メ、暫クモ間斷ナカルベシ」ト云ヘリ、

(三十三)

多克未爾他人ヨリ助ケヲ得タルコトヲ招認スル事

多克未爾ハ、自己勉強ノ力ヲ出シ、自己ニ憑賴スルヿヲ、最要ノ目的ト爲セシ人ナリ、然レドモ、亦他人ノ資助及ビ扶掖ヲ重ンジ、コレヲ招認スルヿ、最モ深カリシナリ、蓋シ天下ノ人、

全ク他人ノ助ケヲ受ケザルモノナシ、特ニ多少ノ異ナルアルノミ、」多克未爾、ソノ友德。客兒臥爾及ビ斯士弗爾士ヨリ裨益ヲ受ケタルコトヲ招認シ、ソノ恩惠ニ感ゼリ、コレソノ神志ノ助ケヲ、客氏ヨリ得、ソノ德行ノ助ケヲ、斯氏ヨリ得タレバナリ、ソノ客氏ニ與フル書ニ曰ク、余ノ信任スルトコロ、獨リ足下ノ心アルノミ、足下ノ余ヲ感化スルコト、實ニ深シトイフベシ、零細ノ行事ニ於テハ、他人ヨリ裨補ヲ得タルモノ多シト雖モ、志意ノ基礎ヲ創メ、品行ノ根本ヲ立ツルニ至リテハ、獨リ足下ノ力ニ頼レリ、」多克未爾マタソノ妻馬利ヨリシテ、己ノ志意ヲ保存シ、學問ヲ成就スルコトノ助ケヲ得タルコトヲ招認セリ、ソノ說ニ思ヘラク、心志高潔ナル婦人ハ、ソノ夫ノ品行ヲシテ、自ラ貴カラシメ、性質卑汚ナルモノハ、必ズソノ夫ヲ化シテ自ラ賤シカラシムルモノナリト云ヘリ、

(三十四) 人ハ自己ノ身ヲ以テ第一ノ幇手トナスベシ

人ノ品行ハ、無數ノ精美ナル事物ニ由リテ、感化甄陶セラルヽコトナリ、卽チ或ハ古人ノ儀範及ビ格言ニヨリ、或ハ、吾身ノ遭際ニヨリ、或ハ文字ニ由リ、或ハ朋友ニ由リ、他人ニ由リ、或ハ今日ノ世上ニヨリ、或ハ祖宗ノ遺ストコロノ嘉言善行ニ由リテ、甄陶養成セラルヽコトナリ、」蓋シコレ等ノ感化ノ力、誠ニ大ナリト雖モ、然レドモ、人々自己ノ福祉、及ビ自己ノ德行ハ、皆身自ラ主宰トナリ、勤メテ做スコトニヨリテ得ルコトナリ、故ニ智者仁人トナレルモノ、他人ノ助ケヲ得タルコト多シト雖モ、ソノ主要ハ、ソノ自己ノ身、卽チ絕好ノ幇手タルベキコト是レ亦實ニ疑ヒヲ容ルベカラズ、

論曰、國所以有自主之權者、由于人民所以有自主之權者、由于其有自主之志行、今夫、三二十家之民相團、則曰村、數村相聯、則曰縣、數縣相會、則曰郡、數郡相合、則曰國、故如曰某村風俗純實、則某村人民之言行純實者爲之也、曰某縣多出貨物、則某縣人民之力農勤工者爲之也、曰某郡藝文蔚興、則某郡人民之嗜學講藝者爲之也、曰某國福祚昌盛、則某國人民之志行端良、克合天心者爲之也、蓋總稱曰國、分言曰民、始無二致也、試揭輿地圖而觀之、自主之國幾何、半主之國幾何、羈屬之國幾何、如印度、古爲自主之國、今則盡統於英矣、安南古爲自主之國、今則半屬於法矣、如南洋中諸國、莫不爲西國之屬者、人或祇謂、西國有英主良輔、故勢威加遠方、殊不知西國之民、勤勉忍耐、有自主之志行、不受暴君汚吏之羈制、故邦國景象、駸駸日上、蓋有不期然而然者、且不獨此也、西國之君、大用其智、則其國大亂、小用其智、則其國小亂、載在史冊、歷歷可徵、方今西國之君、不得以己意輒出一令、不得以己命輒囚繫一人、財賦之數、由民定之、軍國大事、非民人公許、不得擧行、蓋西國之君、譬則御者也、民人、譬則乘車者也、其當向何方而適、當由何路而進、乘車者之意也、御者不過從其意、施控御之術耳、故君主之權者、非其私有也、闔國民人之權、萃於其身者、是已、唯然、故君主之所令者、國人之所欲行也、君主之所禁者、國人之所不欲行也、君民一體、上下同情、朝野共好、公私無別、國之所以

昌盛者、其不由此歟、余嘗記、童子時、聞清英交兵、屢大捷、其國有女王、曰維多利亞、則驚曰、眇乎島徼、出女豪傑乃爾、堂々滿清、反無一箇是男兒耶、後讀海國圖志、有曰、英俗貪而悍、尙奢嗜酒、惟技藝靈巧、當時謂爲信然、及前年遊於英都、留一載、徐察其政俗、有以知其不然、今女王不過尋常老婆、含飴弄孫耳、而百姓議會、權最重、諸侯議會、亞之、其被掄於衆、爲民委官者、必學明行修之人也、有敬天愛人之心者也、有克己愼獨之工夫者也、多更世故、長於艱難之人也、而權詐儇薄之徒不與焉、慢神欺心之人不與焉、酒色貨利之徒不與焉、喜功生事之人不與焉、其俗則事上帝、尊禮拜、尙持經、好賙濟貧病者、國中所設、仁善之規法、不遑殫述、姑擧其一、貧家子女所往學之學院、通計三萬餘所、學徒二百萬人、晝間有職務者所往學之學院、名夜學院者、二千有餘所、學徒八萬人、凡此係民人公同捐銀而設者、官府不與焉、凡百之事、官府之所爲、十居其一、人民之所爲、十居其九、然而其所謂官府者、亦唯爲民人之利便而設之會所耳、如貪權勢擅威刑之事毋有也、抑以通國之廣、人民之多、豈不無姦宄不法之徒乎、然審其大體、則稱曰政敎風俗擅美西方、可也、而魏氏之書、徒稱其貪悍尙奢嗜酒、是蓋見西國無賴之徒、居東洋者、而槪言之耳、何其謬哉、余又近讀西國古今儁傑之傳記、觀其皆有自主自立之志、有艱難辛苦之行、原於敬天愛人之誠意、以能立濟世利民之大業、益有以知彼土文敎昌明、名揚四海者、實由其國人勤勉忍耐之力、而其君主不得而與也、嘗聞、善馬有駕車者、不加鞭策、而自能行、不待控御、而自能馳、及御者妄引韁繩、多加撻責、而其馬扞格牴牾、頓致不能行、嗚呼、坤輿之內、何國不善、何民不良、由于御者之喜功滋事、而致不遂其性、不能存其天良者、蓋亦多哉、

自助論第一版序 斯邁爾斯（改版本所載）自序

この書を著す所以の原由は、如何にといふに、去ぬる十五年前の事なりし、北方の村落に於て、有志の者、數輩相會ひ、夜中講談を聽かんとて、我を招き請ひし事あり、その詳は、次に敍するが如し、○極めて卑賤なる少年二三人、或年の冬の夜、相會し、互ひにその知るところを語り合ひ、學問を交易して、知識を開き、進益を得ばやと思ひ立ちたり、始めて會合せし場所は、その結びし社中の一人の貧しき住家なりしが、幾程もなく、其外に、又同志の者加はり、その場所忽ち席を入るゝに足らぬこととなりたり、既にして、夏日炎暑の天となりしかば、同社の朋輩、この家の外なる廣庭に集まり、その朋輩は、園中にある小亭を圍み、露に暴されて座を占め、教師となれるものは、その小亭に在りて、算題などを出して、夜中の教課を授けたり、天色淸朗なる夜は、更深るまで、かくして業を勤めしが、或時は、一陣の驟雨俄かに降り灑ぎ、石版に書したる數目を洗ひ去り、已むを得ず、その夜は散會して、各〻不興に

思ひしことも間ありけり、冬天の時候近づき來たれば、いかにして庭中に寒夜を過ごすべき、且朋輩次第に增して、尋常の民家にては、其人數を容る能はざれば、何にもこれを庇蔭する居所を求めざるべからざることとなれり、この朋輩、孰れも貧しき少年にして、一週七日に、甚だ些少なる工錢を得ることとなれども、一屋を賃し借らんと思ひ立ち、此よ彼よと、尋ねたれば、遂に一の汚穢なる大屋を看出したり、この大屋は、「コレラ〔霍亂〕」流行せし時、これを病院に用ひしものなれば、なほ瘟疫その中に藏れりと思ひ、人々これを嫌ひ避くるものから、この地の主も、誰やらん知るべからず、然れども、この朋輩の少年、これ等を恐れず、相議し、一週七日に幾程といへる賃錢にて、この大屋を借り、椅子及び書机を安置し、冬課を始めしが、この場所は、忽ち夜學紛繁にして、而も快樂たる景象を顯はすこととなる、この教課は、甚だ粗陋にして完全ならざれども、堅忍定力を以て爲したり、されば、朋輩中、少しく知る者は、己より知らざるものを教へ、自から修め善くする間に、他人を修め善くし、總べてその爲すところの事、一箇の勉作する儀範を立てたり、かくして、この少年相互ひに、讀書作文、算術地學を、或は教へ、或は學び、中には、數理化學、及び諸國の言語を教學するに至れり、同志の少年、大約百人に滿ちしかば、その志願、益々大いになり、教師を招き、講談を聽かんと企つる折しも、我〔斯邁爾斯〕この事を聞くに與かれり、同志者中の人、我が家に來り、我が講說を爲して彼等に與へんことを請ひ、今まで爲ししこと、この後爲さんと欲することどもを、備さに述ぶるその言辭、極めて謙遜なり、せめて我に敍引の小話にても、說き給へかしといふにぞ、我も彼等の自助くる精神あるに感動せられ、竊かに思ふには、通俗の言語を以て、講說することは、我の所長に非ず、されど些少の言語にても、勸勉の意、忠直の意、眞實の意より發して、講說を與へなば、後來に至り、或はこれより善果を結ぶことも、あるべければ、未だ必ずしも裨益なくばあらずと、因りてその請ひを許せり、我この精神を以て屢自ら成就したりし諸人の遺範を講說し、人各々大小に限らず、自己に賴りて、萬事を做すべきことを語り聞かせ、及び後來の福祉安寧を望まば、各自一箇の人、たゞ自己にのみ依賴すべし、詳かにこれを言へば、自己の勤勉なる自修の力、及び自己の定むる規法、及び自ら檢束する行事に依賴すべし、就中その最要なるものは、人たるもの、各々その職分を盡すに、正直誠實なるべし、これ實に男子品行の尊榮なるものなりと、これ等の事を諸人の例を引いて、指示したりき、この教訓は所羅門（古へ以色列賢王の名）の箴言（バイブルの中のプロバルブス）、と全く同じくして、少しも新らしきことなく、又別に造り出したるものなし、我が教誨、舊に仍るに過ぎずと雖も、甚だこの少年に悅ばれ、接受せられたり、さて、この少年、各々堅志勉力を以て、その生涯の道路を行き、大人となるに及び、各々種々の方向に進みしかば、この輩、多くは、有用の職事に任ずる人となりたり、この教訓を爲しより以來、數年を經、その事、忘れたるが如くなりしに、或夜忽ち一人の客、鑄鐵場の工場より、新たに來るものと覺しきもの、訪ひ來り我に語つて、某は今工人を使ひ、富饒なる人となれり、抑も昔年、先生懇に我が輩

を敎誨し玉ひし事を憶ひ出し、感恩の情に堪へず、某生涯の路を行き利運を得たるは、實に先生の訓導の力に賴れり、先生の吾が輩を勸勉激勵し玉ひし精神に負くまじと、常々志し、遂に利達を致したりと言へるを聞きしことのありにき、

中村敬宇先生自叙千字文（改版本所藏）

天保壬辰。月建丙午。廿六平旦。
生于江戸。幼名釧太。祖妣攸命。
後改正直。中村爲姓。父母鞠養。
哺乳諄誨。猶犬李梅。忠孝仁義。
如斯等字。次第認記。非是夙慧。
濡染所致。髫亂挾策。論孟學庸。
登樹捕蟬。披草求蛩。棗栗勸奬。
汪識恩深。毎念到此。涕涙霑襟。
燈下針黹。霰雪夜嚴。談話故事。
内寓良箴。鼓舞誘掖。頼茲妙法。
叱咤靡聞。鞭笞奚及。疆圉協洽。
入井部塾。惑溺小説。水滸成癖。
就桂甫周。竊習蘭籍。師輒覺察。
隨加呵責。迨十七齢。寄宿若黌。
偶庵捐館。一齋主盟。官給薪米。
書壓棟楹。春誦夏絃。伐木嚶鳴。
吐露肝膽。親似弟兄。講究渾噩。
互務提醒。旁嗜文章。蘇潮韓海。

興意相會。拍案呼快。盧陵歐九。
愛其情至。紆徐曲折。磅礴浩氣。
亦喜震川。簡古醇厚。尤重餘姚。
具三不朽。眼高手低。遡矣鵠的。
欲從末由。瞻望憤激。癸丑乙科。
濫竽合式。僥倖拔擢。卑比秉鐸。
地占爽塏。聖林翠綠。慈闈健康。
庭院肅穆。宕陰息軒。薫陶受益。
門有嘉客。趨迎倒屐。佳時令節。
交觴迭酌。好吟杜詩。愈於絲竹。
禍福循環。治亂反復。蕃舶競臻。
率土驚愕。恬熙已久。賢俊鬱抑。
廟議翻覆。僉懷怵惕。藤森吞冤。
吉田死獄。烈公幽囚。排雲竄逐。
亥歳秋冬。扈駕京洛。擬聚侯伯。
君臣輯睦。豈圖世局。弗可收束。
以啓鼎革。皇猷恢廓。象山鉅儒。
識量超卓。旅亭訪尋。綴獨更僕。
惜哉被刺。嫠乎道側。踵吾蒙譏。
殆罹災厄。擁夾喧騰。扼腕怒目。
或緣衷赤。多出計略。乃倡開港。
明白磊落。曷怪衆怨。輻輳擠簇。
萱堂見背。將軍薨逝。垢面蓬髮。
憂愁隱蔽。忽思壯遊。馳觀域外。
吸噓沆瀣。蠲滌濁穢。應慶二載。
凌跨大洋。遂抵龍動。術藝之場。
伴侶秀邁。麒麟鳳凰。蒹葭倚玉。
鬢毛帶霜。朝課暮繹。較短角長。
錐股懸梁。何暇憶鄉。初謂島微。
眇蕞越裳。詎料規模。宏闊盛昌。
虔奉眞神。振整紀綱。德善慫慂。
姦惡隄防。鰥寡孤獨。盲啞癲狂。
救恤醫療。條例審詳。厥民活潑。

峻偉雄剛。忍耐阻他。驚悍奮揚。
格物探賾。抉摘祕藏。崇尚實驗。
分析毫芒。倍根碩匠。尸祝舞香。
牛董引力。自暗發光。豪傑挺起。
斬闢鴻荒。各誇創造。孰甘襲常。
樓閣閎麗。崔嵬嶙峋。街市洞達。
貨財充塡。綺羅駢闐。車馬殷轔。
若夫富强。宇宙誰倫。烏兎迅速。
再踰暑寒。桑梓戰作。鴈魚寂然。
蒼黄趣裝。過佛郎西。風俗奢侈。
金帳寶釵。祇恨期迫。叵暫留稽。
美景勝蹟。空付渺迷。歸舟安穩。
團圓酒杯。歡極而泣。征途忘疲。
回顧既往。領異攬奇。鯨濤鼉浪。
屢犯險危。乾坤寧謐。胥仰宸威。
遷住靜岡。種菜灌畦。農樵爭席。
鷗鳥無猜。芙蓉當牕。著述掩扉。
王室維新。方急用材。明友聯翩。
翺翔瑤池。我也東旋。城北擇栖。
設同人社。敎育英才。遠近來集。
謬得譽虛。女子範校。俯瞰茶溪。
承乏攝理。誓竭駑駘。幸免罪戾。
寔憑僚儕。制度稍備。辟雍轉移。
五品敍爵。未報涓埃。嗟爾兒輩。
謹聽訓言。勇猛進修。勿憚艱難。
寛弘誠敬。恭謙粹温。懲忿窒慾。
止妬克慳。沈湎淫佚。貪樂瞬間。
招殃惹咎。貽悔窮年。咀嚼華葩。
爛熟典墳。莫沿支流。宜溯淵源。
持志須堅。攻業要專。博綜廣採。
禁黨戒偏。縹緗萬卷。心血存焉。
百家縱横。經史紛綸。願與汝曹。
勤讀終身。

柳橋新誌（二編）

成島柳北

柳橋新誌 二編

成島柳北戯著
柳橋新誌二編

（原本扉）

柳橋新誌題詞
燈火樓臺簇洗潮湘簾蕪澤秋芙蓉繞四時無日不
三月十步有華爭一橋才子替名歸白傳美人重
艷歷紅箱本江潘事揚州記之入新篇潘楚依
竹枝聲在水樓間春入綠波洗碧灣柳線織成叢
羽色雲語是浮游魚從柳橋記裡多紅袖畫舫錦
中收筆裝成六朝宦情膩史欲將彤管寫眉山
三溪菊池純草稿 雪江關敬書

（原本題詞）

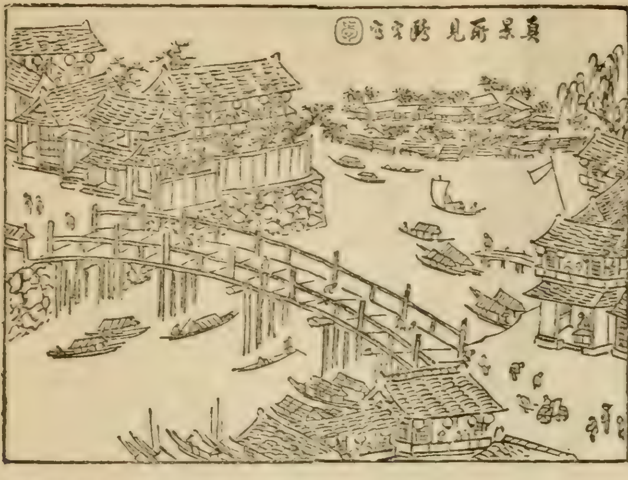
序

余與何有仙史飲於柳橋巴樓而別僅指既經三載頃日仙史郵寄其所著柳橋新誌二編曰我今爲無用之人故著無用之書以自樂耳抑子亦好無用之辨者盍爲我一言題之余受而讀之行文譎詭使人噂噂笑而不已然細玩其味則寓諷刺于其間者有焉插感慨于其中者有焉不特令讀者知柳橋之遊趣如何也併知東京今日之事情如何也不特知東京今日之事情如何也推知海內將來之形勢如何也其可不謂之一大奇書乎然仙史固自以爲無用之書而世之讀之者亦必以爲無用之書則謂之一大無用之書亦無不可也仙史才鋭學博而不肯檢束任意而行世或譏仙史之才之學而未識其志操卓然其事業亦有可稱者也仙史往歳失職于洋林窮臥于家當時人皆輕視之龜嵓相公獨奇其才擧而用之仙史將于陸軍也恩威兼行讋悍驁之士皆服制馭至若兵制習泰西之法一新其制則仙史之力居多矣當幕朝之末帑藏空竭仙史統轄金穀之權內外費用畢給而海陸將士賴而無饑色矣仙史亦知生財之道歟戊辰變後仙史致仕而隱于市放逸自汚然視其在窮阨困蹶之地標懷爽然毫無憂色其亦有所過人者非耶噫仙史抱有用之材而自棄著無用之書以自樂者其情豈不哀乎雖然仙史棄其有用而樂無用者仙史之所以爲仙史也余不得不爲讀此書者一言之而仙史視余文必唾而曰老奴饒舌又復以無用之辨俗了我書則余將甘受其唾焉

明治辛未暮春碧雲山人識于芙蓉峯下僑居
六十老人堯田大島信書

余曾て柳橋新誌を著す、今を距る既に十有二年。當時自ら以爲らく、善く其の新を記せりと、而して讀む者亦或は其の新を喜ぶ焉。爾來、世移り物換り、柳橋の遊趣一變して新誌も亦既に腐す矣。德川氏西遷の後、東京府內朱門粉壁變じて桑茶の園と爲る者鮮からず、而して柳橋の妓輩依然として其の業を失はず、管絃を操つて風流場中に馳逐す。諸を幕吏の兎脫鼠伏して

牛を偸む者に比ぶれば、豈優らず哉。蓋し王政一新して柳橋亦一新す。而して未だ好事の者其の新を記する有らず。聞く頃日我が柳橋新誌を偸み刻する者有り、而して風流子弟多く買ひて之を讀むと。余此の維新の日に方つて、彼の既腐の書を讀むを慨く。柳橋新誌二編を作る。



（原本口繪）

慶應以降百貨の鋪皆其の産の半を耗し、而して割烹家獨り酒屋の富を擅にするは何ぞや。府内の人口其の半を減じて、遊客其の數倍するの故也。人口減じて遊客倍する者は何ぞや。人々王化の美を樂んで、後世子孫の計を爲さず、一錢を獲れば則ち食ひ、一緡を獲れば則ち飲む故なり。柳橋の酒樓、皆勢を往日に殊にす、河長、梅川、盟を橋の南北に爭ひ、萬八亦將に衰頽の氣を一振せんとし、龜淸、柳屋は新境を新柳街に拓き、而して旗幟色を添ふ。蓋し新柳街抹築一たび成りて、柳橋の繁華益加はる焉。大中村（新宿に中村有り故に土人此の樓を呼びて大中村と云ふ）災後一大巨閣を起し霸を水東に稱す。而して柏屋青柳亦修繕して雄を競ふ。深川柳光、幾稻大橋の若き、皆廉を以て勝を制す。有信亭の友白髮、松中菴の小環蒸、共に奇を以て鳴る。柳升の甘味を以て客に啗はしむるは則ち其の甘に託して其の苦を免るゝなり。余其の味を知る、故に其の汁を歠るを欲せざる也。各樓華を競ひ美を鬪はし、頃年各樓冷熱互に換つて巴屋其の間に興る。氣燄徒らに熾にして、動もすれば其の飾を華にして其の實を美にせず、其の價を貴くして意を客に用ゐざる者多し矣。若し豪を耀し快を揮はんと欲せば則ち宜しく中河龜、柏梅柳の樓に就いて飲むべし。若し割烹の眞味を論ずれば則ち二州の樓巴屋の右に出づる者無し。巴屋の叟今の易牙と謂つ可きのみ。余春風秋月の佳候に方つて二州の樓に酌む者年有り、而して未だ賓客の盛なる今日の如く建築の美なる亦今日の如くなるを見ざるなり。蓋し之をして這の盛美を爲さしむるの人有るに非ざれば安んぞ能く玆の如きを得ん乎。余謂ふに、方今の權貴皆孟嘗にして客は皆馮驩、何ぞ其れ逐うて食の美を求むるや。而して柳橋の諸樓、特に春申平原の徒、珠履寶劍にして、至るのみならず、寔に齊楚燕趙の主をして、亦親ら駕を其の門に枉げしむ。噫亦盛なる哉。

四區の船宿亦沿革有り、其の表街に於けるや、尾本竹屋戶を鎖して三河糸中村之に代る。新上總亦稱を松葉と改む。其の裏岸に於けるや、福吉去つて丸屋出づ焉。新若竹家を故柳橋に移し、米澤街の播磨變じて翁屋となる。其の他貧富冷熱相移ると雖も、皆舊慣に仍つて、而して升田伊豆鈴木三家、盛閥猶ほ四區に冠たり。夫れ酒樓船宿趣を曩昔に異にせずと雖も、而も酒殽の費、舟舫の價、皆十年前に四五倍する者は金貨濫惡にして楮幣之に代るに因る耳、固より怪みを爲すに足らず。或ひと仙史に問うて曰く、當今柳橋の妓大小二百餘名殆んど古に

倍して船宿酒樓獨り其の戸を增さず、各家妓を聘するの多寡、諸を舊簿に照せば則ち亦相伯仲するもの其の故何ぞやと。仙史曰く、柳橋往日の妓は姿色無ければ則ち技藝有り、技藝無ければ則ち才識有り、三の者一無くして婢子と致を同じうする者甚だ希なり矣。今は則ち否らず。姿なく藝なく才なく徒らに其の面に粉し其の身に錦し、而して是れ妓と稱する者十の七八は啻に有眼の客鄙んで之を遠ざくるのみならず、傖父癡漢と雖も亦或ひは其の妓にして妓ならざるを疑ふ。故に名を掲ぐる月餘、未だ一招を蒙らざる者往々あり焉。故に妓籍日に殖すと雖も、而も各樓をして能く其の利を倍せしめざるなり。蓋し頃年商賈罷弊、閭巷產を失ふ者、數無し。皆百計活を求む。故に女兒鼻目稍ゝ具はつて、宵待曉怨（よひはまち）の一曲を彈じ得る者は爭つて妓籍に入る。是れ妓にして妓ならざる者の日に殖するの原なり。夫れ姿なく藝なき者自ら客を獲るに由なきを知る、故に濫轉巧衒唯利を之れ視る。其の風一たび播き、中等以上頗る名聲有る者と雖も亦漸く其の習に染む。噫ゝ柳橋聲妓の風一たび壞して、其の醜言ふ可からざるなり。然らば則ち柳橋其の盛を往日に加ふると雖も、而も其の實は大に衰へたる者と謂ふ可き歟。抑ゝ客も亦罪有り焉。遊戲其の道有るを知らず、風流何者なるを辨ぜず、沈湎耽溺して其の妓たると妓ならざるとを問はず濫轉を喜んで以て己を戀ふとなし、巧衒を信じて以て己を愛すと爲す者甚だ多し。偶々淑良にして輕浮ならず、能く柳橋往時の遺風を存する者有れば、則ち皆罵つて以て癡頑事を解せざるの老婆と爲す。夫れ客にして此の如くなれば、則ち安んぞ能く妓輩の日に淫風に趨くを過むることを得ん哉乎。

往昔北里盛なりと雖も、柳橋熱すと雖も、未だ名公鉅卿一遊して以て其の情味を嘗むる有るを聞かず。蓋し文政天保以還幕府禁網極めて嚴、麾下の士と雖も遊べば則ち譴あり。天朝其の弊を矯め、小過を赦し賢才を擧げ、其の大綱を正し、其の大典を修め．花を擁し柳を抱く瑣末の事の如きは、釋して問はず。故に駟馬高蓋、時有つて蘇小の家を三顧す。彼の公子王孫深閨中に在り畢生狹斜の郷に入る能はざる者、一朝にして放縱其の之く所に任す、野鶴の籠を出でて飛び洪水の堤を決して進むが若し、其の快知る可きなり。校書幇間媚を捧げて來り頤を朶れて候つ、一酌百金一彈千金眞に是れ一曲の紅綃數を知らざる者、夫れ下情に通じ人事を解する者は遊びに若く莫きなり。貴介縉紳深意を遊戲に寓し以て閭巷の情態を察せば、則ち治を爲すに於て益無しとせず。且つ泰西諸國の若き、帝王遊を民庶に同じくす、花旗聯邦〻若き、貴賤等を殊にせず、皆是れ所謂文明開化なるもの。頃歲本邦日に舊弊を除き力めて政教を新にす、美事と謂はざる可けん乎。然りと雖も徒らに酒樓の遊び娼妓の樂を以て文明開化の道と爲す者は、余は肯じて其の祖を左にせざるなり。

某侯酷だ某妓を愛し情啻に膠漆のみならず。余兩ながら其の人を識つて、而して兩ながら其の名を忘る。侯將に其の國に歸らんとす、眷戀の情に堪へず、駕を發するの日竊かに侍臣に命じ書を其の妓に寄す、妓一讀して絶せんと欲す、諸を其の懷に藏し旦暮釋てず、之を珍とする拱璧の如し。余一日其の書を偸み讀む。文に曰く、

愛卿、別後恙無きや否や、孤卿に別るゝの日より、情思恍惚卿の容姿常に目に彷彿とし、卿の私語每に懷に往來す、綿々の恨絶ゆる期有るを知らず、卿其れ諸を察せよ。晝は卽ち卿の寫影を掲げ、夜は則ち卿の手書を誦す。孤の身卿と離ると雖も、

魂は猶ほ卿の側に在り。墨水の遊、二州の宴、回顧すれば一夢、悽然愴然、卿其れ諸を察せよ。袒衣一領、此は是れ家制重臣と雖も輕々しく與へざる所のもの、孤卿の故を以て制を壞つて之を贈る、請ふ祕して人に語らざれ。至囑々々。且つ孤闕心の事有り、竊かに恐る雲雨長く痕を留め熊蛇或は夢に入らんことを。若し然らば書を侍臣に投じ速々告知すべし。孤來歳東行必ず卿の身を贖ひ、離宮を作つて以て偕に老い嬌絃を高閣に弄し遊舫を曲池に泛ぶ、豈に樂しからず乎。孤誓つて此の盟を渝へず、卿其れ諸を察せよ。情緒悉さず、只此を寄知す。

愼名不具

余讀み了り覺えず潸々涕下る。樂譜傳ふる所、在納言須磨の浦に謫居し情を松風村雨と云ふ者に鍾む其の事閑雅、其の情悽惋、千載の下、其の曲を聽き其の舞を觀る、猶人をして愀然泣を催さしむ。近世風俗薄醨、人心狡黠にして、斷へて情事の古に肖たるもの無し。今此の書を讀む、宛然古人情癡の風有り、何ぞ其れ思ひの切にして哀きや。余好んで演劇を觀る、毎に賴兼高尾の事を嘆ず。三叉一刀渭水血を流す、何等の殺風景、寔に此の侯の情事と日を同じうして語る可からず焉。

新味有り曰く、一六休暇大に宴を張る（一六どんたく）と。蓋し一六の日、泰西日曜日の制に倣ひ各省皆閉ぢ官員休沐す。或は盛宴を設け或は遊舫を泛べ、酣暢以て平日鞅掌の勞を慰む。妓輩毎に杯杓に侍す、特に其の名姓邸宅を識るのみならず、併せて官爵の高低俸祿の多寡を知る。職員錄官位表の如き熟諳せざる靡し。一日、余某の樓に飲む。隣席二妓客を待つ有り、甲、乙に語つて曰く、卿宜しく一大牢を設け以て饗すべし（たんとおごり）と。乙曰く、何の緣故あつてぞや。甲曰く、聞く情郎（ちとい）頃日某の官に拜す、卽ち是れ奏任第一等、俸は三百を超ゆ、賀すべし賀すべし。大圓の錦繡、丸利の珊瑚、唯卿の欲する所、大牢々々（かんちやろ）、卿宜しく福を分つべしと。乙頭を掉つて曰く、否々、彼れ歩を雲途に進むると雖も、其の實は阿諛によつて得、脅肩と諂笑は妾と雖も惡る所、且つ彼れ性鄙吝にして出遊の日、舟子箱奴に於ける一楮を投ぜず、動もすれば人をして肚を割て以てその臀を拭はしむ。況んや彼れ擧止倨傲、毎に人を婢視す、寔に忍ぶべからず。縱令彼自ら賀すも妾に於て何ぞ賀せん、乾魚の一串も亦買ふを欲せず、姉其れ諸を諒せよ。且つ姉聞かず乎、裏岸の狡兒、山の手の大將を擒にす、玩弄三月、宿債三百圓を償了す。眞に是れ强腕、後生畏る可き者。妾常に謂ふ、眞情は情を要し假情は利を要す、若し利を要せば、則ち宜しく敕任以上を擇ぶべし。否らざれば則ち知事華族、彼の奏任判任貴しと雖も未だ以て吾曹の腹を飽かしむるに足らず焉と。言未だ畢らず、樓外人あり高く叫んで曰く、三劇俳優給金表と。妓忙しく箱奴を呼びて曰く、榮與、請ふ彼の官員月給表を買ひ取り來れと。

一書生、學校に入り、頗る英語に通ず。一夕柳光亭上に飲む。妓と言ふ半は英語を用ふ。妓曰く、郎君獨り英語を識る。奴輩解せず、是れ甚だ趣き無し。願くは奴に敎ふるに英語を以てせよと。書生、意甚だ得、曰く、卿才子卿才子、若し之を學べば數月必ず大家と爲らん。僕英語に於て通ぜざる所なし、知らず卿の學ぶところ何を先にせんと欲するやと。妓曰く、儕輩相呼ぶ、常の語を用ふる風致無きに似たり。願くは郎君先づ敎ふるに妓輩の名を以てせよと。書生曰く、妙々。妓阿竹を問ふ、曰く蠻蒲、阿梅を問ふ、曰く哱啉、阿鳥を問ふ曰く弗得、阿蝶を問ふ、曰く洒孛と。應答響の如し。妓又美佐吉を問ふ、書生首を俯して百考得ず、又

阿茶羅を問ふ、書生益々困す。汗を其の額に拭うて曰く、今者僕辭書を携へず、近日將に英語箋一部を懷にして來りて以て卿等百般の問に答へんとすと。

金銀銅を注する多くして物價騰る。金銀の楮に變じて物價逾々騰る矣。而して妓の身價獨り往昔に同じ。故に纏頭古に倍せざるを得ず。方今客の大妓に投ずる二方を下と爲し一圓を上となす。小妓と雖も亦一二方の間にあり。若し或ひは舊制に遵ひ、妓に投ずるに一方を以てし、奴に投ずる二銖を以てすれば、卽ち皆其の吝を罵る。夫れ百物の價皆騰る四五倍、妓等の衣食も亦然らざるを得ざれば則ち纏頭のみ獨り諸を往日に同じくする豈に理ならん哉。若し吝を以て智と爲さば、則ち遊ばざるに如かず。妓の纏頭を客に獲る、盡く諸を鴇母の手に付すれば、則ち復た我が有に非ず。故に偸攫して以て私費に充つ、三にして一を攫し五にして二を攫す。眞の母子と雖も攫せざる者は鮮し矣。一雛妓有り、未だ狡獪の風に熟せず。一日先輩の説を聞き、始めて攫の妙を悟る、急に一楮を攫して歸る。鴇母の性聰察にして家に楮を匿すの地なし。千思萬慮忽ち一計を生じ、樓簷少しく壞るゝ處を認め、竊かに楮を板間に插み、自ら謂ふ神智妙算、眞に是れ萬全の策なりと。一日、驟雨乍ち晴れ、雛妓家に在り鴇母は出て浴す。妓楮を出し錫を買はんと欲す。屋板を抉し楮を引くに、楮濕つて中斷す。妓錯愕色を失ふ。偸かに其の半片を持し隣嫗に問うて曰く、一方の楮中斷す、猶二銖に値べきや否やと。聞く者笑つて之を憫む。

某藩の武弁數名某樓に置酒す。殺核排列し絃歌沸騰す、興太だ高く氣太だ旺す。隊長特に屢々諸を樓婢に促す。婢曰く、令寵今日客に陪して舟行す、歸期或は慢からん、公宜しく他を擇ぶべしと。隊長怫然鐵扇を按じて曰く、西京の妓若し狎客の招きに遇へば、卽ち他席を辭し速々來り侍す、柳橋何ぞ獨り律なき此の如きぞ。婢曰く、東西風を殊にし俗を異にす。且つ柳橋の校書、或は私事あるも而も西京の公然忌まざるに同じからざるなりと。隊長怒氣勃發し、大喝して曰く、賤婢何ぞ多言する、失敬々々（方今の通語）巨盃を取つて婢の面上に擲つ。誤つて燈臺に中り鏘然一聲盃碎け燈滅す。婢愕いて逃る。隊長將に刀を執つて之を追はんとす。衆益々吃驚し、壯腕前を遮り纖手後へを抱き、且つ慰め且つ謝し、震雷漸く收り怒浪僅に定る。

婢脫して廚下に到り、庖丁に語つて曰く、當今の客多くは是れ狂暴、酒を使ひ無道理の論を吐き、或は碗碟を擲ち或は刀を拔いて柱を斫り、每に人をして憤悶に堪へざらしむ。酒殺の價その二三分を加て之を奪ふも未だ快と爲すに足らず、眞に是れ被髮夷人、攘ふ可し攘ふ可しと。仙史氏曰く、太平久しければ則ち士風怠惰、干戈の後は士氣自ら壯なり、戊辰以來、殺氣未だ平かならず、項莊項伯、動もすれば青樓に劍舞し、亞父老たりと雖も亦時に怒つて玉斗を碎く、其の勢當り難し。近來酒席新法あり、盃を人に獻ずる多くは擲げて之を其の掌上に送る。李太伯桃李園の序に云ふ、羽觴を飛ばして月に醉ふと。當今の士人古を好む者多し、所謂新法も亦典故を此の飛の字に取る耶。蓋し觴を飛ばし盃を飛ばす、古は則ち古、新は則ち新、奇は則ち奇、達は則ち達ならんも、畢竟額を破り眼を傷つくるの變を生ぜんのみ。（所謂飛んだ事）器も亦碎け易きもの、寧ろ常禮に遵つて獻酬するに如かん哉。余諸を老妓に聽く焉。一妓絃を按じて歌つて曰く、其の章桐及び菊、此は是れ官家の章（もんはきくきり、あれはだいじやうくわんのごもん）と。客聽いて歎じて曰く、廣い哉熈々乎たり。曲にして直體あり。其れ天朝の德か。隆を周文に比し

て大雅の音有りと。妓又歌つて曰く、其の章洛陽花、此は是權郎の章（ごんちやんのこもんはなでしこあれは）と。客懌ばずして曰く、權十は俳優なり、俳優は乞食なり。卿は乞丐を以て　天子と並べ歌ふ、何等の不經ぞ。妓徐かに答へて曰く、君歌曲の事を知らざる乎。妾聞く溱洧桑中は民間淫奔の詩なり、聖人採つて之を雅頌の前に列す、君聖人を咎めずして妾を咎む、何等の不經ぞや。且つ君、大友の章を見ず乎、薩侯と一樣、夫れ薩侯は三藩の首にして天下の畏るゝ所なり。然れども未だ薩侯の大友をして避けて其の章を變へしむるを聞かず。薩侯俳優に怒らずして君獨り妾に怒る、何等の不經ぞや。客赧然として退く。

仙史氏曰く、頃歳柳橋の妓俳優に私するもの多くして、角觝者と私する者亦尠からず矣。三代吉の訥升に於ける、小花の田之助に於ける、阿季の高見山に於ける、同じく其の志を成す者なり。千吉身を相生に委ねて死す、相生之が爲に哭すること十日なりと。夫れ俳優は粧飾塗抹し、艷麗の姿婀娜の窕女子と一般、妓輩の眷戀思慕するもの固より理無しとせず。若し夫れ力人は狀貌魁偉、筋骨鐵打、雷公の如き者有り。夜叉の如き者有り、而して俳優と同じく紅裙の情客となる。余大に之を怪む。蓋し所謂四十八手有りて善く之を擒するか、抑ゝ亦相撲膏藥の如く粘着力有つて然るか、余將に諸を西洋窮理の諸先生に問はんとす矣。

兩雛妓混堂より歸る。手に炒豆一囊を携へ且つ嚼み且つ歩す。甲、乙に語つて道ふ。妹昨怖るべきの事に値ふ。乙道ふ、何ぞや。甲道ふ、昨翁屋の客に陪して墨陀に遊び、翠を拾うて嬉しむ。乍ち見る斷髮の士人二個、各大馬に騎して來る。其の疾きこと風の如し、衆皆四避す。妹狼狽殆んど彼の爲に蹴られんとし、喜介翁の援けに頼つて僅かに免る。怖るべし怖るべしと。乙道ふ、怖る可き哉。頃聞く、天王橋畔騎人一嫗を踏殺し眼睛迸り出づ、騎人烟遁して獲ずと、憎む可き哉。自ら其の目を拭ひ祝し道ふ、鶴龜々々（女兒の詞。）甲道ふ、方今騎人何の故に律無き、或は跣して騎り或は履して騎る。傘を執つて乘る者有り、手を懷にして乘る者有り、奇々怪々曲馬と一樣、且つ飈奔電馳稠人中に叫ばずして過ぐ、何ぞ其れ無狀なる。往日公子の馬に乘るを觀るに整々肅々、謂つ可し眞の士人と。且つ今の斷髮は狀夷人と一般、憎むべし憎むべしと。乙道ふ、妹の家に春畫本三册有り、阿姉祕して示さず、昨阿姉の在らざるに會ふ。妹偸覽一過中に標致訥升の如き者有り、獰惡仲藏の如き者有り、其の髻鼠尾の如き者有り、糞船の束藁の如き者有り焉。然れども徹頭徹尾一個の斷髮丈夫と女子と寢ぬるものを見ず。妹竊かに疑ふ、斷髮人嘗て好事を幹せざる歟と。甲道ふ、胡亂說くを休めよ、卿記せず乎、佳節の客亦斷髮頭顱。彼れ甚だ淫泆、衆姉皆厭ふ焉。妹謂ふ、斷髮人諸を平人に比すれば却つて是れ好色、劇場扮する所の法界坊と一樣なり。湊屋の斷髮の客も亦是れ厭ふべき的動もすれば人に迫つて裳を剝す、厭ふ可し厭ふ可しと。嫩舌滑を弄し、喃々喋々。乍ち見る囊底綻裂し炒豆霰迸するを。甲錯愕して道ふ、叱壞せり矣と。乙道ふ、此は是れ斷髮を罵るの罰哩と。

妓にして夫ある猶酒中に水を注ぐがごとし、其の味薄くして醇ならず。妓にして兒ある猶酒中に糖を加ふるがごとし、其の味重くして冽ならず。往時は妓の孕む者皆羞怍の心を懷く。藥を尋ねて胎を打する者有り、從良して籍を脫する者有り。頃年風習一變し、妓等兒を産む人家と一般、多く乳母を傭うて之を育す。賓客席上亦公然之を話して恬乎愧づる無し、亦怪なる哉

一妓既に孕む。狎客十人有り、其の父誰なるを審かにせず、乃ち一客を招いて其の孕を告ぐ。

客の曰く、卿數客を擁す、何ぞ獨り我を目すや。又一客に問ふ、答へて曰く、卿は數客を擁す、何ぞ獨り我を目す。歷く十客に問ふ、答一口に出づるが如し。妓甚だ惑ふ焉。乃ち清正公の祠に禱る。曰く、妾娠む有りて其の父を識らず、願くは神其の人を誥げよと。清正の神夢に見えて曰く、汝十夫あり均しく枕席を同うす、神も亦其の主の誰なるを辨ぜず。汝が腹內の兒、當に自ら其の父を識るべし。汝其れ諸を問へと。妓醒めて悟る、夜深うして人無し。妓盥漱し香を焚き坐して其の腹を撫で俯して其の×を窺ひ從容として語つて曰く、神命有り、汝をして我に語るに汝の父の名を以てせしむ、汝其れ其の實を告げよと。忽ち肚裏聲有つて曰く、阿孃×ぞ疑ふ。阿孃に十夫あり、兒が體は則ち十人の力を協せて造る所に係る。一人首を造り、一人腹を造る、胸を造る者有り、背を造る者有り、兩人兩手を造り、兩人兩脚を造り、臀と××と亦各分つて之を造る、故に兒が父は十人有るなり。豈に諸を一人に歸するを得ん耶。兒の十指は別に之を造る者有り、阿孃之を忘れたる耶。未だ阿孃の室に入らずして徒らに××××××染むる者往々有り焉。是れ吾が指の父なりと。

一妓口に長じて才に短なり。人皆命けて饒舌兒と云ひ又無眼娘と曰ふ、一日衆妓と某公の宴に侍す。酒闌なり、妓從容として公に問うて曰く、聞く公卿の西京に在るや皆合花牌を造つて以て業となすと、知らず殿下も亦曾て之を造る耶。公愕然語無し。少頃して答へて曰く、往時諸子閑散知らず或は戲れに之を造れる歟、縱これあるも亦官爵適かに孤の左に在る者耳。近來國家多事復た一人の這樣の閑事を爲す者無き必せり矣と。妓膝を拊つて曰く、解せり矣解せり矣。近來坊間花牌甚だ乏し、價も亦隨つて貴し。阿爺每に之を嘆ず、妾も亦其の故を知らず。今者殿下の話を奉承して宿疑氷解す、夫れ之を生す者は寡く之を用ふる者衆ければ則ち牌恆に足らず、價の貴き亦宜なる哉と。滿座皆汗を其の掌に揑る。

士人二個錦袴を穿ち金刀を佩び、某樓に對飮す。酒數行談宇內の形勢に及び、竟に郡縣封建の得失を論じ辯駁刻を移して決せず。口角火を吐き舌頭血を噴く。酒冷かに殽爛れて顧みざるなり。數妓侍座傍聽して倦む。妓あり起つて厠に如く、一妓之に從ふ、廊下に相會す。甲曰く、今日の客何等の癡漢ぞや、酒も亦飮まず殽も亦食はず、齗々半日解すべからざる事を談ず。奴、性所謂議論と云ふものを喜ばず、之を聽けば則ち懊惱瞑せんと欲すと。乙頗る氣力あり曰く、阿姉悶するを休めよ、奴將に彼の兩癡を壓せんとすと。乃ち相携へて席に反る。兩個舌戰猶劇し。乙進んで兩客の間に離坐し、一大白を擧げて問うて曰く、公等論ずる所は果して何の論ぞや。客曰く、僕等論ずる所は天下の政體郡縣封建の利害得失なり、卿等何ぞこれを問ふ焉と。乙盃を屬して曰く、公等何ぞ謬れるや。夫れ郡縣封建の得失は、秦漢以來先哲論じて遺すこと無し、今復何ぞ公等呶々の言を俟たん。妾聞く米國に共和の政あり、極めて公極めて明、極めて正極めて大、唐虞の治と雖も過ぐる能はず焉。公等宜しく古人の糟粕を棄て、兩ながら郡縣封建の說を廢して共和の美を狥ふべし矣。且つ夫れ遊びなるものは最も共和して樂むを要ふる。今公等既に酒樓に在り、酒肉を置いて食はず、管絃を擲つて奏せず、空論妄言妾等をして隅に向つて唾を催さしむ。之を共和して樂しむと謂ふ可き耶。公等眞に遊びを知らざる者、妾將に大統領と爲り此の衰頽の勢を一振せんとす。請ふ先づ此の罰盃を吸へと。是に於て二客大に慚ぢて、兩首並肯して謝して曰く、謹んで女王殿下の令を奉ぜ

んと。

聞く頃日客あり、一妓を贖ひ去る。余其の客を識らずして其の妓を識る。妓名は阿辰、年紀十七八、余が眼を以て之を看れば、姿色は中等の上に在り、技藝は中等の下にあり。其の贖金を問ふ、曰く七百圓と。余一驚倒れんと欲す。夫れ十餘年間、柳橋の校書未だ七百金を獲て從良する者有らず。阿辰は後進なり、籍を掲げて未だ一歳に滿たずして此の若き豪客に邂逅す、至幸と謂ふ可し矣。而して特り阿辰の幸ならず、乃ち亦柳橋の爲に一片の光彩を生ずる者歟。昔阿幸（今大幸と稱す）五百金の聘を本阿彌氏に辭す。本阿彌氏之を慚ぢて名聲阿幸の右に在る者を擇み、阿金を獲たり。當時、人皆本阿彌の豪を稱して阿幸の達に服し、以て一美談となす。今を以て之を視れば、五百の聘、五百の辭、奚んぞ豪且つ達と爲すに足らん乎。蓋し人材軒輊有るに非らず、世態變移有るが故なり。方今聲妓上等に位する者、皆一月獲る所概ね五六十金、諸を往年に比すれば霄壤の異有り。妓籍も亦蕃殖して二百餘名に及ぶ、然れども其精を擇べば則ち大半は糠粃耳。壬戌の夏、余柳春三と戲れに柳橋二十四番花信評を作る。阿金は梅花に比し、阿幸は櫻花に比す。阿久は李花、小勝は杏花、美代は海棠、阿紺は桃花、阿兼は菊花、阿淸は牡丹、小繁は拒霜、阿竹は蓮花、菊壽は紫薇、梅吉は藤花、政吉は燕子花、千吉は芍藥、阿蓮は水仙、小照は躑躅、其の他增吉小糸阿常三代吉阿輕久吉阿角阿直亦各〻衆芳に比す。而して當今存する者は唯阿幸菊壽政吉（阿今郁と稱す）阿蓮四人耳。阿淸千吉久吉の三個は、旣に艷名を鬼錄に載す。餘は皆四散して、其の在る所を知らざる者亦多し。噫嘻十年の久しき、一浮一沈一枯一榮豈に獨り紅裾のみならん哉。

輦に似て輦に非らず、轎に似て轎に非らず、乘る者は仰いで踞し、推す者は俯して奔る。鐵輪木轅、轣轆聲を作して來るものは人力車なり。一酒樓上數妓欄に憑つて觀る。一妓左右を顧みて曰く、陋なる哉車や。近來此の車街衢に遍滿、東輾西轟、咄々怪事たり。往時遊客皆街輿を傭ふ。街輿の物たる便にして快、輿夫も亦健捷連叫して勇を鼓す。其の聲淸亮、能く人をして遊意を勃發せしむ。眞に是れ江戸兒の氣象。此の車醜陋殆んど乞兒の膝行車と一轍なるに、方今客多く輿を捨てゝ車を取るは其の價を論ずる耳、何ぞ其れ鄙なると。老妓側にあり一笑して曰く、卿は妙齡未だ氣運の變を知らず。往年都內侯伯の往來を觀るに、傔從雲の如く、雙槍前に在り鞍馬後に在りて威を張り華を競ひぬ。今は則ち否らず、單騎奔馳、簡易風をなし儉素是れ尙ぶ、却つて是れ美事。聞く官家頃日鉅萬金を捨て以て鐵路を造り、將に蒸氣車を通ぜんとす。蒸氣車の疾きこと、一瞬に十里、一刻に百里、橫濱に往還するが如きは一飯時限耳。大阪長崎一日にして至るべく、卽ち漢土天竺亦三日にして達すべし、眞に是れ所謂妙々車なりと。一妓忙しく問うて曰く、天竺に往く可き耶。曰く然り。曰く然らば則ち妾將に其の車に駕し、銀河の岸に遊びて一たび牽牛織女の會合を觀んとす、若何ぞや。一妓其の背を拊つて曰く、休めよ焉。卿の美貌、往かば則ち牽牛に一瞥戀着されん。奴恐る織女の吃醋、必ず留車柵を烏鵲橋に建つる兩國橋と一般ならんと。大笑大笑す。

天心月高うして樓丁樓を鎖し、水面風涼にして舟子舟に眠る。夜發蕎麥が鏦錚の鈴已に遠く茶飯豆腐が黯淡の燈全く滅す、四街寂たり矣。狗も亦聲無し。一小樓內醉客床に在り、睡らんと欲して睡らず語らんと欲して語らず、懊惱の氣有るが如し。一妓悄然として枕頭に端坐す。客壁に向つて煙を吹き、唾壺を擊つ。一擊說き出して曰く、日來僕汝の爲に多少の思慮を費し、

汝の爲めに多少の金錢を擲ち、縷々の中情も亦吐き盡して明白なり。昨來又此樓の主婆に託して、懇切に說諭して而も汝肯かず、汝も亦事を解せざる哉、何すれぞそれ執拗の甚だしき。現今天地間、一人の汝が如く愚を守り古を師とする者あらず。汝若し幡然として慮を換へなば、則ち特り汝が便宜を受了するのみならず慈萱も亦老境の樂みを得ん、汝盍ぞ諸を思はざると。妓首を俯して默す、雙眼淚を堆し皓齒袖を嚙む。良久うして曰く、主公何故に心を醜惡妾の如き者に注し屢々懇誨を賜ふ妾豈に木石ならん哉。寔に公の情に感じ公の惠を荷うて奉謝するに辭無し、而して肯じて命を奉ぜざる所以は抑々亦故有り、具に以て告げん。妾身を淤泥に委すと雖も固より娼婦と業を同じうするを願はず、絃歌興を賣つて以て母を養ふ耳。妾が父元武弁、食祿五百。父歿して兄嗣ぐ。兄少して文武の業を勸め、略々忠孝の道を知れり。往年の變、都下洶々同僚數百皆錯愕措を失ふ。妾が兄獨り憤を發し食を忘れ執政に建言するもの三たび、而も行はれず、慷慨の餘り妾に遺言し以て老母を託し、同志の士と東陲に走り、百戰撓まず竟に節に鋒鏑の間に死せり。爾來親戚奔竄して在る所を知らず、朋友も亦去つて顧みず。妾獨り母と處り惸々依る無し。邸宅は官に沒し器什は賊に殲く、飢寒日に迫つて計の支ふ可き無し。妾が幼年幸ひに歌舞を習ふを以て、此に來りて籍を揭げ耻を忍び醜を賣る、諸君の惠に賴つて以て僅に母に衣食す。妾今命に從はゞ、定めて涯り無きの福を享け老母も亦安く餘生を送らん焉。然りと雖も獨り父兄の名を汚すを奈何せん、祖先の靈を辱しむるを奈何せん。主公幸ひに諸を諒せよと。言終つて一掬の紅淚自家の膝上に向ひ、滴々揮ひ來る。時に聞く、隣猫鼠を捕へ鼠聲哀を送るを。其の音忡々。

滄溟暗き處白帆懸る、知る是れ柑を載する南紀の船。（おきのくらいのにしらはがみえるあれはきのくにみかんぶね）此は是れ舊曲。近來其の聲を變じ其の手を新にして、以て之を彈じ之を舞ふ。其の調促にして婉、其の音佻にして雅、其の兩手を輪にして舞ひ其の一足を蹇げて跳る亦一奇觀、今盛んに宴席に行はる。世に傳ふ、紀文なる者颶を侵し海を渡り、南紀の柑を鬻いで以て大利を獲、漸々貨殖し、陶朱の富竟に大都に冠たり。彼れ狹斜の遊を好み、豪を極め奢を窮むること前人に軼えて後世を壓す。兒童と雖も今に紀文の名を識る、一快男兒と謂ふ可し矣。方今東京の商戶一の氣燄ある者無し、知るべし其の產日に耗し其の財日に匱きを。力めて外面を飾ると雖も、而も內情は疲餒を免れず、噫亦衰へたる哉。而して橫濱開港以來、商賈外國と互市す。策を失し產を破る者有りと雖も、而かも赤手にして往き、三五年間大に其の家を興す者亦少しとせず。當今柳橋、商にして善く遊ぶ者橫濱の客多きに居る。後進の妓、頗る名聲有る阿倭小鳴の若き者亦皆濱人の爲に贖ひ去らる。聞く前年濱の一商、產傾き將に戶を鎖して去らんとす。適々楮幣の行はるゝに會ふ、百方金を借りて以て楮を買ふ、一朝利を獲る三萬。爾後米を買へば則ち米騰り油を買へば則ち油貴く當今家產十萬の上に及ぶと云ふ。余謂ふ、橫濱の互市益々昌なれば則ち豪奢の徒亦將に益々冶遊を競はんとす、而して天亦將に紀文の如き者を出さんとする乎。夫れ亞孛英佛の船、百貨を載せ陸續として來らば、即ち南紀の柑船何ぞ復歌ふに足らんや、何ぞ復舞ふに足らん乎。袁子才硯を守るの詩に云ふ、摩挲して釋せず相愛憐す、十五の眞嬋娟より劇しと。凡そ愛憐の二字、之を少婦に下す可くして、而して二十以外の女に下すべからず。然れども遊びに熟し情に練れたる者にして、而も三五二八の了鬟

を擁するは、畢竟些の風致無し、泥孩兒を弄する一般。笄年以上、稍々情味の甘酸を嘗むる者に非ざれば、即ち與に語るに足らざるなり。今の人、或は孩兒を弄して其の甘酸を解せざるを責め、或は猥りに愛憐の二字を以て諸を老妓の××に插む、兩ながら其の道を失ふものと謂ふ可し。夫れ百文の錢を溝中に投ずれば、猶淘乎として聲を作す。若し夫れ其の味を問はず其の情を認めず、徒らに財を娼妓に費すは亦何の益か有る。豈に彼の家中在る所の金穀器財を取つて一併に之を大洋に擲てば、則ち淸然として一大響を作すに若かんや。彼の金を欺騙の語に失ひ產を耽湎の心に破る者、之を癡漢と謂ふ。抑ゝ又人有り、多年花柳の鄕に往來し、腹裏一點風流の情懷を蓄へず、詐を插み術を弄し倒まに財を娼妓の懷に奪ふ者、之を惡漢と謂ふ。癡漢固より笑ふ可し、而して惡漢も亦憎む可きなり。夫れ癡と惡と共に是れ過不及、遊びに善き者と謂ふ可けん乎。若し能く其の中を癡惡の間に執り、而して其の財を失はず其の名を醜せざる者は、則ち是れ風流場裏の盟主、吾も亦間然する無し矣。

一妓二狎客あり。一は商にして一は士、士人婦ありて商家未だ娶らず妓意を商に屬し、而かも好みを士に絕つこと能はず、頃日、意を決して將に商に從良せんとす。一夕士人と酌み、酒熟して將に寢ねんとす。妓曰く、妾君の眷顧を蒙る久し矣、死生忘れず、妾は長く箕帚を執つて以て君に事へんと欲す。而して妾が母許さず母商家に生長し、士流と親を結ぶことを願はず。且つ君は令配の故國に在る有り、縱妾をして紅拂を學び以て其の願を成さしむるも、竊かに恐る、銀瓶繩絕え玉簪の中より折れんことを。却つて是れ君を煩はす耳。賈人某久しく妾を愛す、每に招いて以て酒を侑む。彼未だ嘗て一回も妾に說くに枕席の事を以てせず。頃日人を倩ひ、母に請うて以て妾を娶る。母既に諾す焉。妾拒む能はず。妾君に請はずして去るに忍びず今告ぐるに實を以てす、君〻騙ざる所以なり。願くは君快く一盃を飲み快く一夕を眠り、以て永訣をなさん。君若し遊時好耦を欠くを患へば、則ち幸に新妓の名を揭ぐる者有り、嬌艷愛す可し、妾君が爲に媒して以て恩情に報ぜん、君の意若何と。士人艴然色を作して曰く、卿曾て僕と誓ふ、天に在りては比翼、地に在りては連理と。僕も亦刀を鼓して、以て誓を神に獻ぜり。今卿、盟に背き言を食み僕を棄て以て情郞に嫁す、僕何ぞ默して之を遣るに忍びんや。且つ僕が心之を肯ずるも此の雙刀を若何せん、彼の神祇を若何せん。卿若し果して往かば則ち僕も亦策あり、我が藩に精兵十大隊有り、僕將に指揮して卿の家に迫らんとす、若何と。妓曰ふ、君も亦無理、妾今身を賣り以て活す。妾は賣り君は買ふ所謂賣物買品、妾唯君の命に之れ從ふのみ。妾一朝籍を脫すれば、則ち賤と雖も一家の孃子なり笄も亦隨意、嫁も亦隨意、自由自在、君何ぞ關らん焉。縱令貴藩の兵何十隊有るも、將に妾を奈何せん。且つ各藩兵を養ふ所以は、豈に大小參事の私情を成し、私威を張る爲にして用ひん哉。若し兵來つて妾に迫まらば、妾將に一走諸を官に鳴さん、知らず君の藩大と雖も、君の兵強しと雖も、安ぞ能く王家に抗することを得ん哉。錦旗一たび出でば、亦潰ん而已と。啞然大笑階を下りて去る。

俚曲詞に云ふ、吹け兮水風颺れ兮簾、多情見んと要す舫裏の客（ふけよかはかぜあがれよすだれなかのおきやくのかほみたや）と。盛夏の天、紅日將に傾かんとす。水色愈ゝ綠に、長風一道南溟より來る。遊舫數百隊を作し、二州水心に向つて驀進し來る。青々の簾、淸冷風に翻る金絃空に響き紅羅波に映じ、人をして神爽かに氣蘇へり、焦熱地獄を出て淸

涼世界に入るの想あらしむ。蓋し往時遊舫の制士船は障を着け市船に簾を着く。輓近其の制一壞し、各舫皆簾を廢し障となす。雪晨暖を鎖し風夕春を護するは便宜に似たりと雖も、而かも青々の簾、清冷風に飜へるの快は復得べからず。去年故柳橋の前に一大船を浮ぶ、錨して動かず、中に筵席を設け艙内に割烹す、小酒樓の如し。遊客皆舟を繫いで上り、酒を呼び殽を命ず、酒も亦洌、殽も亦美なり。其の船扁して柳船と曰ふ。柳船の名一時都に鳴る。然れども舟舫は熱に忙くして寒に閑なり、秋風颯然柳船も亦廢す矣。昔者軒轅氏の舟楫を造るや蓋し諸を漁に取る、今人舟を造るや取る所一ならず、諸を花に取り諸を月にとり諸を酒食に取り諸を娼妓に取る、知らず後來別に何樣の奇船を造つて、以て遊戲に供する耶。余豫め諸を今日に筮するを得ざるなり

一客あり、坐して待ち臥して竢つ。燈影滅せんと欲して復明かに、酒味酸に似て又苦し。孑身影を吊し怏々として樂まず。婢來り慰めて道ふ、本日は一六なり、各樓盛開衆校書皆忙し。然れども柝已に戌を報ず想ふに令寵早晩歸り來らん請ふ暫く諸を忍べと。客道ふ、待つこと久し矣。肩頭血凝る、儞按摩師を招き來れと。婢諾して去る。乍ち見る、瞽人階に及ぶを。客道ふ、某は此に在りと。瞽客背に坐し、撲々肩を拍ち軟々腕を握る。瞽道ふ、尊筋頗る硬し、定めて時氣に感ずるならん、徐々結を解いて可なりと。客道ふ國手頃日新聞あり耶と。瞽道ふ、無し焉、江戸も亦太だ衰へたり矣と。客道ふ、何を以て之を知ると。瞽道ふ、世人皆道ふ、衰へも亦極る矣と。而して奴の眼其の衰へを視る能はず、然れども奴も亦一事以て其の衰へを證するもの有りと。客道ふ、何の證か有ると。瞽道ふ、奴日に出て手を售る、家に歸る毎に其の履を嗅ぐ必ず糞臭有り、乃ち其の齒を濯ふ。近來履を嗅ぐ臭を聞くこと甚だ罕なり、想ふに街衢に狗矢も亦少し。それ狗口既に減ず人口の減ずる知る可し、衰ふるに非ずして何ぞや。客道ふ、理有りと。瞽道ふ、近年此の地猫員（都俗戯れに藝妓を稱して猫と曰ふ、三絃皆猫皮を張るを以てなり）日に殖す。亦狗の減ずるに頼る耶。奴宅四隣皆猫窟。聞く往年同閭の左次平なる者、四國を巡りて狙となる、方今一坊の女兒皆坐して猫となる、何ぞ其の術の捷也。奴思ふに公亦猫を愛する者、聞く近來猫の價頗る騰る。一隻を買ふ必ず一圓金を費す。諺に曰ふ、猫に圓金と。豈に信ならずや。今日猫の盛んなる驚く可し。小猫は論ぜず獨り大猫を算するに一百五十名有り、試みに一名一日一圓に値るを以て之を計るに一月の金四千五百圓、噫亦盛なる哉。奴の先師赤西檢校遺訓あり、曰く、神佛は其の道を信ずべからず、衣食は其の美を擇ぶべからず、親戚は相愛すること勿れ、朋友は厚く交ること勿れ、夙に興き夜に寐ね爪に火して以て金に算せよ、唯利是れ貪れば則ち一生安樂なりと。眞に是至言、奴輩不肖にして遺訓を守る能はず、今に至つて赤貧半文錢を貯へず、人にして猫に若かざるもの、毎に隔壁の猫輩が食ふ所の鰻香を嗅いで以て飯する耳と。忽ち聞く、婢階下より報じて道ふ令寵來ると。瞽忙しく道ふ、猫の話此に盡く、尊筋亦頗る弛む。速々寢に就いて可なりと

二少年あり、滿身の龍文帨して帶せず。二州橋上に立ち欄に倚つて臨眺す。橋下遊舫、蟻聚絲竹を涼風に奏し盃盤を淸潮に洗ふ、眞に是れ一區の歌吹海。甲、乙を顧みて道ふ、畜生、那處の怪獸ぞ喧騷人を擾す。當今藝妓大に行はる、全く士人の之を好む甚しきに頼るなり。本地の溺臭妓、近來皆驕傲孺人尊姐と一般、動もすれば人を人視せず、所謂藝妓藝妓と口自ら說く、歸來也似たり良家の子（げいしやげいしやとく

（くちではいへどうちかへればみちやうさん）聞き得て愕了す、到底猫耶猫耶、君道ふを休めよ、紋染浴衣も（ねこちやねこちやとおしやますなし）（はりのゆかたも）亦是れ客の纏頭、訊き得て違はず哩と。乙道ふ、諸を置け。近來彼等錢を獲る多し、故に奢侈風をなし、卷毛鬢上漫に黃金釵を插す。惜むべし惜むべし、早晚拐兒に遇つて抽了されん醜瞼泣を上す、那瞼蜂兒も亦肯て蹉さず、其の態見るべしと。甲道ふ、否々彼の輩鄙吝にして、夜歸常に簪釵を撤し楮生に併せて卷いて之を懷にす、何ぞ其れ黠なる也。乙道ふ、汝聞かず乎、去年房八婆書畫會を中村樓に開く。當日諸先生皆臨む焉。賓客の盛なる賀金の夥しき近來比無し、人皆其の會を稱して滅法會と曰ふ、豈に妙ならず乎。余屢〻彼宅に往く、未だ嘗て彼の墨を摩り毫を舐め所謂漢字と云ふものを抹するを見ず、而して書畫會の先生となる、眞に是れ不可思議、妓にして書畫の先生となる者、古今有る希なり。後來妓にして官員となる者世間に生ずるも、亦測る可からざるなりと、相視て大に笑ふ。乍ち見る巡邏兵隊、整々銃を荷ひ叱咤して來る。兩個匆忙橋を下りて去る

天寶の後闈、三千の妃嬪、美ならざるに非らず麗ならざるに非らず、而して明皇獨り太眞に戀々たるものは何ぞ也。蓋し傾國絕世の尤物は、碩德奇才の士と一般一生能く幾人に撞着するを得ん耶。余、十年間識る所の柳橋の紅裙を歷算するに、其の色藝皆相伯仲し、未だ一個の佳人、一笑百媚、多少の粉黛をして顏色無からしむる者を見ざるなり。然れども强ひて之を其の中に求むるに一人有り焉、名を阿淸と曰ふ。麗質天成にして沈靜言寡し、之を望むに瑩然なる美玉、之に接するに溫然たる春風、余初め之を友人永芳山の家に見る。年紀三五。余詩有り云ふ、

天桃花上露無聲。深鎖仙扃夢不驚。
他日劉郎若相訪。丹脣一笑始相迎。

阿淸の名、一時敎坊を傾倒し、而して常に多病に苦しむ壬戌の秋痲疹盛に行はれ、阿淸も亦病んで床に在る數旬竟に起きず、年僅かに十七。芳山之を弔するの詩に云ふ

國色古今相遇稀。多情涙盡血沾衣。
夕陽人弔孤墳下。野菊香殘老蝶飛。

余其の韻を次いで以て之を哭す

舊情欲說聽人稀。涙滴當年舊舞衣。
借問嫦娥何處去。夢魂長向月中飛。

芳山亦月を隔てゝ歿す。噫才子佳人天之に年を假さず、眞に痛む可き哉。近來老輩中獨り阿園有り、阿園少時お榮と並び立つ、雙美の名久しく二州に冠たり。往時は柳橋の妓風、新橋金春諸地と太だ異る無し。而して輓近服飾聲調一變して淸高幽雅を尙び、其の致他方に同じからざる者は、蓋し二人より始まる焉。蓋し阿園は色藝兩全、之に加ふるに中年故に自ら抑損し客に驕らず、善く後進を誘導す。是を以て人皆之を賢とす。妓中の君子と謂ふ可きなり。後進中名聲頗る鳴る者は、阿鳥を推して首となす。阿鳥中其の才を蓄へ而して他其の行を圓にす。親に事ふる孝順、人に接する溫淑、未だ嘗て其の怒を聲色に發するを見ず、亦良妓なり。阿園既に客臘に落籍し阿鳥亦今春に從良す、知らず方今誰を以て群芳の魁と爲ん哉を。余未だ其の公論を得ざるなり。余昔竹西坡と故柳橋の某樓に飮み、詩を其の壁に題して云ふ、

嬌歌侑酒醉高秋。無限歡情卻惹愁。
門柳蕭疎美人去。他年追感在此樓。

今を距る僅に七八年にして西坡は老病北地に流離し、當時の紅裙は皆凋落して晨星の如し。余も亦餘生を風塵中に託す。故柳橋を過る每に仰いで老樹樹を見、愴然として舊に感じ、桓氏が金城の歎有り。嗚呼遊人多し矣、其れ孰れ

か斯の感を同うする者ぞ、其れ孰れか斯の嘆を同うする者ぞ。

二州は繁華の地、柳橋は狹斜の鄉、文士墨客多く之を俗視す。然れども淸夜更闌に各戶人定まるの時、舟を水心に泛べ、南江口を望み北墨河を顧れば則ち皎月波を射て金龍忽ち奔り、涼風衣を吹いて羽客翔らんと欲す。漁火數點、綠莎洲外に明滅たり。酒燈の一穗、畫樓簾內に黯淡たり。その境華にして俗ならず、其の景幽にして慘ならず、眞に是れ三都第一風流の地。況や又酒は美に魚は鮮に、名媛麗妹、絃を按じ舞を調し、飄颻宛轉、人をして神融し氣暢して以て襟懷萬縷の愁を一洗せしむ。若し香山樊川の徒をして一たび此の地に遊ばしめば、必ず當に長歌を裁し新詞を製し、以て其の勝を賛し其の奇を鳴らすべし矣。世の之を俗視する者、亦唯其の皮相を見て其の眞を認めざる耳。余曾て二州雜詩數篇を作る、今其の二を錄し以て證と爲す。

絃歌惱殺幾多人。此地繁華世絕倫。簾影橫樓烟曖々。櫓聲近岸水粼々。梅薰羅袖梅川夕。柳映金絃柳屋春。姉妹新粧爭嫵媚。風流誰學李湘眞。

秦淮山水未嘗遊。其勝想當輸二州。明月長臨才子宴。淸風常滿美人舟。迸空煙火搖銀漢。倚閣涼衫映白鷗。此際好呼坡老帚。爲君一掃十年愁。

余曩昔、晴蓑楊江諸子と每に二州に會飮す。當時見る處の女兒、年皆十歲前後、蛾眉未だ畫くことを知らず、鼻涕口端に垂れ、泥孩を抱いて蠢然遊戲する者今皆成立し、紅裳を褰げ金絃を按ず。其の態度見る可く其の歌曲聽く可し。余之が爲に悽然として感ずる所有り。夫れ業は勤むるに精しく嬉むに荒む。昌黎諸を千載の前に言へり。蓋し娼妓は賤女子なり、歌舞は小妓なり、然れども勉勵して之を學べば、則ち數歲にして以て其の生を養ふに足る矣。今夫れ國の大政を執る者、高爵を賜り大祿を食み赫々權有り炎々威あつて、而して禮敎未だ國に立たず德澤未だ民に流れざるものは何ぞ也。其の人庸劣にして其の職に勝へざるには非らず、人々昇平の澤を樂み一日の安を偸み賢を擧げ能を使ふに急にして、郤つて阿諛の臣、失節の士を取るに因る矣。是れ他なし、治を爲すに勤めずして放擲風を爲すの故に非ず耶。德川氏の季世に當つて、儁才卓識の人無きに非ずして政敎頽廢して振はざるものは、其の失亦放擲の二字に在るなり。夫れ古今の治を爲す者、未だ力行に成りて放擲に壞れざる者は有らず矣。余も亦放乎擲乎、在位の君子其れ諸を戒めよ。余も亦其の心を放し其の業を擲し漠然顧みざる者、早晚將に食を道路に乞はんとす。余大に賤女子に慙づる有る哉。

仙史此の編を草するの際、一客偸かに之を讀み額を蹙め眉を攢めて曰く、子の書は世敎に益無くして徒らに人を罵詈す。無用の文を作つて、以て世の怒に觸る。子、何の故に狂愚此の若き事をなすや、子それ悔あらん乎。仙史笑つて曰く、吾は固より無用の人なり、何の暇か能く有用の事を爲さん。且つ吾が罵る所の者は、皆世の風流罪過なり。而して吾の人を罵るも亦是れ吾が風流罪過なり。世人若し風流の瞋を以て吾が風流の筆を罪せば、吾將に甘んじて其の罪に服せんとす、何ぞ其れ之を辭せん。且つ世人孰れか風流罪過無からん、唯之を公にすると之を密にすると異る耳。若し一個の道學先生あつて、殷の輅に乘り周の冕を服し、右に唐典を按じ左に明律を繙し、侃々闇々來つて吾が風流罪過を責めば則ち吾將に之に對へて、君は道學を講じ吾は風流を好む、唯是れ半文の借貸も相及ばざるなり、虞らざりき君の吾が事

に渉らんとは。何の故ぞやと曰んとす。彼若し又彌の著する文章善からず、讀む者以て意味を解する無し、不佞是れ嘆き、記事妄誕にして實ならず、不佞是れ疑ふと曰はゞ、吾亦將に對へて文の善からざるは無學の故なり、敢て正を乞はざらんや、記事の實ならざるは、君其れ諸を柳橋に問へと曰はんとす、吾亦何の恐れか之有らん。昔靜軒翁繁昌記を著す。當時の幕吏其の誹謗の語を怒り、翁を獄に繫ぎ、其の書を焚き其の罪を鳴らして竟に之を逐ふ。世其の吏の局量偏隘なるを笑つて、而して翁の書猶今に行はる焉。且つ予聞かずや、泰西諸國刻する所の新聞紙は多く是れ誹謗罵詈の言にして、而も君主罪せず官吏咎めず、君子怒らず小人怨みず、爭つて之を讀み、以て聞見を博め以て警戒を知る焉。吾書の如きは則ち亦新聞紙にして用無きもの耳、子何ぞ慮るの過ぎたる也と。客默して退き戸を出て曰く、愚を療するに藥なしと。

後序

今夏予偶奉職事而在東京一日友人來而示何有仙史所著柳橋新誌二編且曰柳橋十年前情態既盡于初編當今則亦有冷熱易地者故此編以記其變請君披而知之余喜而一讀其筆力跌蕩行文奇絶加之解頤之論以模寫方今人情若使柴廣溪岳之徒讀之必將棄其筆硯而却退避若夫子車塵之間也夫仙史者舊友也予具知其爲人而今視斯書則如目色蕩子然如沈湎冶郎然仙史幼而育於儒林之巢啄於文苑之餌朝翔韓柳之域暮棲歐蘇之塒既而伸翼於九萬里之天者若此著則亦大鵬之一羽鷲鶩之一翰也耶予賦性尪弱加之有嚴父之訓戒足不踏市街之間若繁華地方耳聞其情態而已今賴仙史之著而得知其概略是亦非藉鵬鷲之羽翰以爲其遊觀乎曩者仙史嘗題覇廷臚壁曰君看千載上一卵棄于域其忼慨可想也既而幡然改途著諸謔如此書以自適其猶孫臏刖足而説兵司馬遷係獄而著史之類乎於是有感于仙史之心而題區々蕪言者誰東鄙之狂生桂閣子也

辛未芒種後八日書于江東龍涎窩子

時芍藥盛開風香滿簾

清泉白石山人筠書

花のなさけ

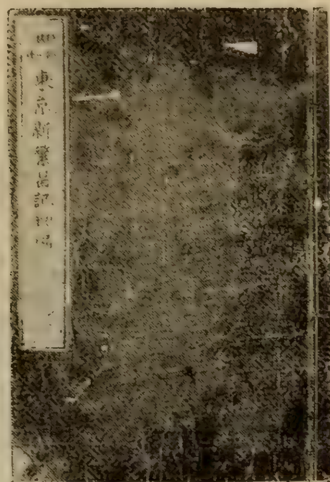
梓弓はるの日かげのまだ短かゝりければ。暮れぬさきにと手ぐるまを。前よりも早く馳せつゝ歸りにけれど。三めぐりあたりにて日はとく沈み。川波遠く霞みて。富士の雪筑波の雲も見えわかぬほどになりにけり。柴のとぼそ推しあけて入りみれば。庭の梅のあるじ待顔にて。何となく薫りのゆかしきまゝ。夕月夜にすかし見るに。昨日はまだ堅かりし蕾の二つ三つ綻びそめしぞ。いと憐れふかし。去年の春は霜雪のとけやらぬ比より。ひとやに繋がれ。花の頃もむなしく過ぎ侍りにたれば。せめてことしは花の下に起きふしせんなど。獨りごちつゝ。こゝかしこ見めぐるうちに。夢ともなくうつゝとも無く。獨りの女花の木のまより出で來にけり。あまりの事に胸とゞろきぬれど。さあらぬけしきして。御身は誰そと尋ぬれば。女ほゝ笑みて。問ふも愚かや。妾は君が家近く住む賤の女にて侍る。君が今宵いと物思はしげなるさまをかいまみしより。物語りしてみこゝろをなぐさめばやと思ひて來たりしなりと云ふ。我が物思ひしつるはよそ事にも候はず。日ごとに營む業のいとま無ければ、我が宿の花見るさへもかなはぬをかこち侍りしなりと答ふれば。女云ふ樣。さな言ひ給ひそ。みやびの道は忙はしき業の中にこそ候べけれ。昔し白川少將の君は。日野大納言に言の葉の道學ばれたりき。ひとゝせ大納言東に下り給ふ時。少將其かりの宿に參りて申さるゝやう。やつがれ年比敷島の道に心よせ侍りぬれど。此の三とせあまり公の政を身にひきうけぬれば。文かき歌よむいとまの有らぬは。いと／＼口惜しく思へど。いかにとも爲す可きやうも候はずと。其の折大納言は少將の顏つくづくうちまもり。こは仰せとも覺えず。我が身の勤む可きことつとむるが。まさしく敷島の道にて候ぞや。唯ふみかき歌よむばかりを大和ごころとは得申し侍らずと申されければ。少將深く恥ぢ。かついたく喜び給ひしとかや。いま君が暇なき身の花見ることもかなはぬを嘆き給へど。筆の林にはなどか梅櫻にまさる花の無かるべきやと言ひすてゝ。いづちゆきけん影だに見えず。朧なる月の梅が枝に宿りしかげのみ殘りたり。見し人は日比めでいつくしみたる梅の木精にてもあるらん。いと怪しかりけり。

をた巻のいとまなき身は人しらぬ
月の夜な／＼花をこそ見め

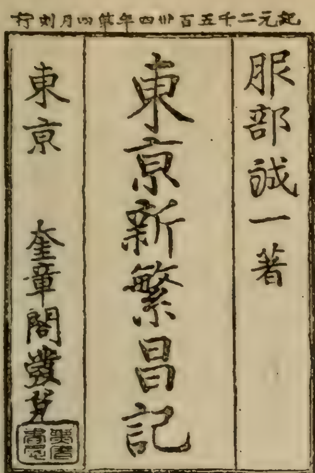
東京新繁昌記

服部誠一

東京新繁昌記



(原本 表紙)



(原本 見返し)

學校

世の繁華の由つて生ずる所の者は何ぞ、文化の繁華なれば也。本邦文運の隆盛なる未だ曾て今日の如き者有らざる也。全國を分つて七大學區と爲し、又大區を分つて二百五十六中學區と爲し、又中區を分つて五萬三千七百六十小學區と爲す東陬西隅と雖も學校の設け有らざる者無し。教育の道至れりと謂ふ可し矣。今也人民蒙昧の雲霧を出で而して文華の錦繡に入り、父兄たる者は汲々として其の子弟を鼓舞し、子弟たる者は孳々として其の學業を勉勵す。國內日ならずして其の極域に進む可き也。本府は學區の樞軸にして而して大小の學校林叢の如く、小川坊の開成校を以て第一と爲し、或は市校有り或は共立校有り或は私校有り、官私を合せて其の數三千、生徒凡そ五千人、四方より笈を負ふ者日に輻輳し月に薈萃す。百科の技術百般の學藝、研窮せざる者無し。故に五尺の童も、紙鳶陀螺に耽つて而して通學の時刻を誤る者無く、七歲の女も羽子手毬に流れて而して習字の催促を受くる者無し。裏店の小廝と雖も世界國盡を諳んじて、而して老父の文盲を歎き、酒肆の丁稚と雖も商賣往來を閱して、而して伴頭の放蕩を笑ふ。噫ゝ盛なる哉文乎、噫ゝ大なる哉文乎。苟くも今の生徒たる者は亂暴の舊習を惡んで、而して端正の美風を慕ひ、互ひに學等を競ひ共に智識を磨す。曾て芳原の花に醉ふて門限を誤る游生無く、未だ柳橋の春に迷うて放逐せらるゝ惰生を見ず。街頭に立つて魚鮓を食ふ者なく、室內に在つて酒瓶を倒す者無し。內には則ち英書佛籍の咿唔を斷たず、外には則ち月落ち烏啼いての放歌を聞かず。況んや厠に入つて拇戰の獨學を爲す者あらん乎。偶ゝ惰生と稱する者は、飢ゑて牛肉店に至つて一鍋の燒肉と二合の鬼殺(俗に麁酒を稱して鬼殺と云ふ)とに飽き、倦んで楊花の寄に至り竹元の阿駒と淸元の阿花とを聞いて而して歸るに過ぎざる耳。書生の風亦美ならず乎。

六筯の小室約ね三四名を容る、机一脚書百卷、発子に凭る者有り毛氈に坐する者有り、壁上必ず地球の全圖を揭げ床頭多くは六角時器を置く。外套の長きは一夜の貸衾の如く、着

帶の便なるは一幅の晒布を以てす。三時の飲食菲うして而して他の牛肉を思ひ、終夜の蒲團冷かにして而して彼の少年を戀ふ。我が生の景况此の如しと雖も亦何ぞ歎く可きに非ず。諺に云はずや、尺蠖の屈むは其の伸びんが爲め、鷹隼の蹙むは其の揚らんが爲め也と。今草席に坐すと雖も、後必ず石造の層樓に住んで花紋の氈毯に坐すべき也。暫く敝衣を着くと雖も又羅紗の衣裳を纏うて金皮の時器を携ふ可き也。各室琅々誦する者有り音讀する者有り、或は言訓を正し或は字義を鑿り、文を構する有り語を習ふ有り、唐人の寢語變じて洋人の擬聲と爲り、蚯蚓の筆法化して蟹行の文字と爲る。玻璃燈明かにして而して螢雪の光を壓し、西洋紙滑かにして藤楮の權を奪ふ。喋々として世界の國土を談ずる者は地理家なり。便々として商社の規則を論ずる者は經濟家なり。眼を側てて器械を動かす者は窮理家なり。頤を支へて法律を閲みする者は政事家也。一生道ふ、僕洋學に志す既に數年、一日も午睡せず一夜も游歩せず、已に五大洲を併吞して而して萬國交際を諳んず。曾て牛肉の風味を嘗むるも未だ娼妓の口脣を吸はず、亦た大學士ならず乎。此の大學士にして而して未だ馬車に乘らず未だ官服を着けず、飢寒落魄此の如し。嗚呼驥も伯樂に遇はざれば槽櫪の中に老い、龍も將軍無ければ草廬の間に伏す。僕已に二十五年三月也。余の衰ふるや久し矣。我亦夢に倫動英京を見ず。假令我大官を得ざるも寧ろ官途に出でん乎。我れ美玉を韞めて而して之を藏す、沽らん哉沽らん哉我は價を待つ者也。一生道ふ、僕學に就いて以來未だ楊弓の阿娘に接せず未だ混室の小婦を顧みず日夜勉強孳々として止む無し。彼輩の一册の字書を典じて、駒屐を横坊の阿福に與ふ如き者に非ざる也。僕にして而して亦三顧の命を受けず、我輩の學業未だ至らざる乎。談の未だ終らざるに時器鏘々十二時を報じ食堂話柝木梆々。

日曜の日好天氣、長羽織五六人筒袖七八人、丁子湯に浴し、淺草に諷じ、咏じて而して歸る。歸路一生小酌を通街の牛肉店に謀る。肉一鍋、酒一瓶一鍋一瓶飯を喰ふが如く湯を飲むが如し。既にして而して醉ふ、側らに一客有り亦四合を傾く、又其の側に一客有り自若として盃を擧げ頭髪法印の如く、一小刀を帶ぶ。三人終に合して團欒一席と爲る。更に酒肉を命じ巡盃數回、玉山將に頽れんとす。一生意氣揚々として曰く僕熟ゝ方今の形勢を視るに、洋學に非ざれば寧ろ學無からん。其廣大なるや五大洲を併吞し全世界を一目し、天下の經濟、全國の富强、政事と無く軍事と無く、皆洋學に關せざる者無し。輓近建築の方法、衣服の制度、漸く洋風に遷り、茶店の少婦と雖も洋語を用ゐ、絃妓の歌も亦洋語を挾む。亦愉快ならず乎。凡そ宇宙の間何物か洋に歸せざる、家を齊ふも洋に歸し身を脩むるも洋に歸す。又其力の大なるや、積年の封建を廢して萬世の郡縣に歸す。洋學洽く民間に浸潤せば則ち惰夫も志を立つる有り、薄夫も厚うする所有り、且つ人の生ある元同等にして而して貴賤なし、才あれば則ち國民に代つて國政を治め、才無ければ則ち租税を輸して勞役に代ふ。是れ至當の通義にして而して千古の確論也。僕一書を繙へす毎に益々洋學の尊大なるを知る、某の輩の如き未だ一册の文典を讀む能はずして而して官途に就く。聞く少しく漢籍を讀むと。孔子の道は士族の權と與に已に既に地に墮ち、廉價極つて骨董店の長物に屬す。此の長物に賴つて官途に在るは豆腐に坐するが如く、日ならずして墮落せん。或は豆腐と共に腐敗して眞の腐儒と爲る者乎、是れ亦人車先生の門に入る可き者也。一客、切齒扼腕進んで曰く、余は乃ち漢學生也。子の漢

學を誹謗する何事ぞ乎。洋も亦學、漢も亦學、道義に於て豈二有らん乎。夫れ孔子の道は至正至大西洋夷狄の道と日を同うして論ず可らざる也。汝憤怒する、余得て之を辯解せん、汝未だ論孟を讀まざる乎。父子君臣の懿、文物禮制の盛なる、皆仁義に在り、上に在つては則ち天下を治む可く、下に在つては則ち一家を治む可し。豈盛なりと謂はざるを得んや。抑々學問とは何ぞ、人道を修むる也。人道とは何ぞ、一身を修むる也。人生日用彝倫の間、少頃も仁義を離る可らざる也。語に云く、仁は人の安宅也、義は人の正路也。街道居宅總べて仁義の中に在り、天下一日も此の道を缺けば、則ち臣其の君を弑し子其の父を弑し、官吏其の私を行ひ商賈其の利を網す。開化も復混沌とならん。西洋諸國の狡猾なる、利を見て君臣父子を忘れ財を見て廉恥醜惡を失ふ。唯だ經濟々々と謂ひて、而して人倫の道を顧みず。此の人や一文の錢を拾はんと欲して犬糞を踏む者也。又何ぞ論ずるに足らん。洋生散髮を振つて曰く、否否何ぞ然らん、古漢儒と稱する者は口に經義を唱へ行に經義無し、巧みに虚舌を掉して身に實行なし。汝聞かず乎、現今支那の國體一も採る可き者無し。其の政體君主專治にして專ら人民の自由を束縛し、自ら尊大にして而して中華と稱し未だ萬國の交際を知らず。寧ろ支那地方を以て夷狄と爲し、西洋諸國を以て中華と稱して可也。且つ口を開けば則ち文章々々と稱す。文章は果して何する物ぞ。赤壁の賦を作るも蒸氣の發明を知らず、陳腐の寐語を吐くも開化の文字を解せず、毛唐人の用たる果して亦何か有らん。漢生目を瞋らして曰く、然らず然らず、謹んで案ずるに　應神帝の十五年、百濟の儒者　我朝に來つて太子に師たり。儒學始めて開け文化爰に行はる。桓武帝都を葛野に遷するに臻るに及んで國學を朱雀の東に建て、自後名儒輩出し、日用の間、漢字を用ゐざる者無し。若獨り横字を以て姓名を記する乎。苟くも其の字を用ふる者は、漢學の徒たるを免れず、儒者の道は彼の國學者流の如き者に非ざる也。一客乍ち怒を發して曰く、余は國學生也汝輩我國を忌んで而して他國を慕ふ、何ぞ速かに去つて其の國に行かざる。辱くも我が日本國は　皇統一系にして而して赫々たる神國也。上世蒙古の西海に寇するや神風一たび起つて而して寇兵二十萬を鏖殺す。若輩未だ銀行の新紙幣（新紙幣蒙古の敗軍を匿す）を見ざる乎抑々若輩、我が　皇祖大神の事蹟を知るや。我が國史を讀まずして而して他國の歴史を諳んず、是れ猶ほ己の父母を棄て而して人の父母を慕ふが如き也。且つ西洋諸國の如き、人民の與黨を結ぶ甚し矣。國王を廢する犬狗を放つが如く、王族を弑する西瓜を斬るに似たり。他國に對しては則ち之を稱して革盟と曰ふ。何ぞ其の不忠なる。又漢土の如き、唐虞以來王朝の沿革、凡そ幾十回ぞ苟くも日本魂ある者にして而して之を快しと爲す乎且つ我が國は言辭の國にして而して古より和歌を尊び、僅に三十一字を以て天地を動かし鬼神を感ぜしむ。和歌の德たる亦た大いなり。若輩絃妓の戀歌と流行の葉歌とに感じ未だ嘗て和歌の妙神に逼るを知らざる也。又洋學生の弊たる、我が　皇國の神教を棄て而して耶蘇の邪教を弘めんと欲する者亦尠なからず矣。是れ神國の罪人也。洋生怫然として曰く、汝耶蘇教を謂つて邪教となす者は何ぞや。腥坊頭の木魚を敲いて虚説を唱へ、瘦禰宜の錆鈴を振つて空文を誦する如き者に非ざる也。夫れ神明は獨り天に在り。空像を拜し、空社に詣るは何が故ぞ。全歐洲の開化は全く耶蘇の力也。能く野蠻を變じて文明を致す、其の遺德亦大ならず乎。和生曰く、汝言はずや、神明は獨り天に在りと若何が故に芳町の絃妓を携へて初卯

に至る乎。龜井戸の社は菅公の靈を祭る也。若歸路に深川八幡に詣らざる歟。若亦た口に虛言を唱へて、身に實行なき者也。洋生曰く、余が龜井戸深川に至る者は一身の運動の爲め也。敢て社に祈る所有るに非ざる也、汝の如き嘗て淺草觀音に至らざる歟。余竊かに汝が茶店の阿龜に戀着するを見る、阿龜は天津兒命の後胤なるに因つての故乎。一たび觀音の境內に至れば是れ卽ち佛境に到る也。若口に神道を唱へて何ぞ其の醜態あるや。且つ蒸氣車の便なるを知らざる乎。煉化石の美なるを見ざる乎。汝が如き者は天の嵓窟に入つて和歌浦の波に溺死す可き者也。和生身を振つて曰く、汝神罰を免れずんば寧ろ天誅を免れざる者也。汝我が國の五穀を喰はずして而して常に牛肉と麥麪とを以て生活する乎。汝亦漢生の薇を採つて首陽の下に餓死す可きなり。漢生激して曰く、苟くも仁義を學ぶ者汝輩の如く反覆表裏の行を爲す者非ざる也（洋生の龜井戸に到り和生の淺草に到るを謂ふなり）身敝縕袍を衣て羅紈を衣る者と、立つて而して恥ぢざる也。或る時は愛宕の風月に嘯ぶき或る時は墨陀の煙花に吟ず、悠優自適以て彼の仁義を樂しむ。肩を脅かし諂ひ笑うて、豈に二三十金の爲めに腰を折らん乎。余は端正にして而して君子なり。和生冷笑して曰く、汝口を開けば仁義を唱へ正道を稱して、而して横坊の居酒居に至り纔に二合の酒を飲んで醉歩蹣跚、人の檐下に立つて潛かに尿せんと欲す。偶ゝ邏卒を見て愕然として驚き去る。汝我が國の法律を知らざるや。五尺の童も猶ほ之を知る。汝仁義を唱へて國の法律を犯す。是れ卽ち論語を讀んで論語を知らざる也。汝も亦世界を併呑する洋生の脚下の我が國を知ざる者と兄弟也。洋生唇を尖にして曰く、汝我が國我が國と稱して僅かに我國有るを知つて他國有るを知らざる也。井蛙管見の可憐生、何ぞ共に世界の大道を論ずるに足らんや。三生の舌戰益ゝ熾にして烈火の如く、勝敗の決す可き色無し。番人樓下に來つて耳を傾け、亭子側匐して二階を覗ふ。偶ゝ屛風を隔て一の老客有り。慇懃に三生の前に頓首して曰く、君輩の高論は愚老具に之を聞く。余は草莽の一夫と雖も少しく發明する所あり、請ふ諸君の爲めに一言を述べん。君輩互ひに己の長ずる所に誇つて人の短なる所を譏む、是皆不可也。譬へば俳優家の其の技を爭ふが如し。一人は管絃家也、一人は淨瑠璃家也、一人は舞踏家也。今一の狂言を開かんに、其の一人を缺いで而して能く狂言を爲す可けんや。畢竟世間萬事皆狂言也。愚未だ横文を讀まず、未だ漢書を見ず、未だ和歌を知らず、眞に不具の一夫也。然るに世の形勢を視て己の將來を察するに、未だ嘗てこの事を謬まらず、是れ唯演劇場の狂言を見るに因つて也。國に農工商の三役者あつて、一國を爲す。これ大狂言なり。政府に官吏の役者有り、各ゝ其の事務を掌る、是れ亦狂言也。夫婦の間も亦小狂言也。我が國今日の開化は、和漢洋の三役者を備うて新狂言を開かんと欲するの秋也。其の役者たる者冀くは絃歌舞の三藝を兼ねて而して舞臺に上らば、調子整うて狂言一層繁昌す可き也。君輩の如き役者の卵也。何となれば則ち未だ室家有らず、未だ講堂に上らず、未だ商社に入らず、乃ち未だ一舞臺をも踏まざる者也。世界を呑む者、仁義を說く者、和歌を能くする者、皆余が不具に劣ること遠し矣。余歐羅巴を見ずと雖も既に三層の石樓を築いて之に居り、未だ堯舜を夢みざるも家妻に法つて兄弟に娯り、一家渾然として飢寒の憂ひ無し。未だ神道を知らざるも、不正を爲さざれば亦た神罰を蒙る可きの理無し。家に事故無きは是れ所謂神の賜もの也。余此の言を述ぶる敢て慢するに非ず又敢て誇るに非ず、唯其の理を陳ぶる也。余今

已に老いたり矣。八十の手習成る可きの目途無し。故に君輩をして輔相の人たらしめんと欲する也。君輩各〻その學派を立つ、曰く洋學、曰く漢學、曰く國學、是れ大に不可なり。苟くも我が國に在つて學ぶ者は、乃ち我が國の學也。亦た何ぞ其の派を分つを用ひん、三學全く合して一學となるものは、眞に皇國の大學士也。君輩春秋に富み且つ氣力あり、今より切瑳琢磨せば、皇國の大學士となる期して而して待つ可き也。是れ決して諛言に非ず。余が言若し理無くんば、謹んで足下輩の教を受けん。三生の激聲乍ち止んで恰も雷雨の霽るゝが如し。洋生曰く、時已に六時に近し、余が塾門限有り、請ふ先づ歸らん、失敬々々。漢生曰く、余今夕會讀有り。和生曰く余は教院の當直なりと、三生悄々として樓を下り去る矣。

西洋目鏡

鴻雁の翔ける蒼蠅も猶ほ翼を振ひ、衣服の行はるゝ裸體も亦た腰を拭る。これ目鏡の繁昌に入つて而して寫眞と共に紅帘を飄へす所以也。始め場を淺草の奧山に開く者有り、後數月ならずして而して數處に及ぶ、殊に舊藩邸の新街（[illegible]）るに多し矣。蓋し耕さずして而して食ひ織らずして而して衣る者の工夫歟。未だ眞の市人にして而して此の觀を賣る者を見ず、觀室は概ね小塗屋を築き、前面纔かに白堊を塗つて而してその尻を拭はざるは、恰も竈婦の白粉を面に施して而して墻を背に存するに似たり。或は層樓を設くる者有り、板を染めて石に擬す、庸醫の玄關に異ならず。室内數尺を隔てて數個の鏡を列ね回つてこれを觀る、又榮螺堂に入つて龍王の宮殿を望むに異ならず。鏡面約ね大蛇の眼の如く、一眼能く人の兩眼を容る。觀者即ち針孔より世界を覗いて、而して値は僅かに一錢也。其の畫は則ち世界萬國の風景にして而して眞に實景を寫す者有り、或は全く想像を寫す者有り、皆寫眞店に從つて其の糟粕を鬻ぐ者也。倫動の鐵橋は霓より長く、巴黎（[illegible]）の宮殿は、雲より高し魯西亞の大將、怒つて而して兵卒の鬚を拔き、伊太利の婦人臥して而して洋犬の口を吸ふ。米利堅の火事を買ひ來つて之を賣り、日耶曼戰爭を包み去つて之を開く。軍艦波を衝いて而して山山を爲し、商船港に入つて而して林又た林、蒸氣車山に上り、輕氣球空に飛ぶ。坐して喜望峯を望む可く、臥して地中海に臨む可し。人を喰ふ獅子は即ち必ず胴より屠り、舟を盪す黑人は則ち永く底に黏す。博物館の圖を觀て而して隣の典鋪を侮り、大病院の景を覗いて而して人の頭痛を憂ふ。最後の鏡に至つて益〻其の値の廉なるを知る可き也。辨才天裸體にして床に臥し、肌膚皆白うして只だ××××××見る耳。恨むらくは一脚を撑げて其の奧に媚びざるを。或は半身を露はして其の尻を見ざるを惜み、或は眞面に對して其の脣を嘗めざるを歎ず。奇中の奇、新中の新、以て田夫野傖の眼を驚かすに足る。是其の二三を擧ぐる也。此の物亦た觀物なりと雖も、之を他の觀物に比すれば、則ち人に益有ること少からず淺草寺の贋虎は斑猫の毛を染め、萬世の橋（舊と筋違ひに在り、人稱して目鏡橋と曰ふ、兩國の繁華は全く此の地に遷り亦た觀物家[illegible]の淵藪となる、）の僞龍は碧蛇の鱗を彩りして、日ならずして而して贋僞の皮毛頽つ可き也。此の畫は則ち然らず、世界の新奇を寫し萬國の風俗を摸し、一目世界を巡るが如く人の眼目を喜ばしめて而して人の智識を弘めしむ可き也。其の國に至らざれば則ち未だ其の眞僞を知る可からずと雖も、決して猫の虎と化す類に非ず。又演史家の見るが如き虛言を吐くの類に非ず。只だ曝店の

古道具に過ぎざる耳。鏡室の外には小茶店を開き、娘誰火盆を出し娘何煎花を勸む。並びに妖粧盛飾して狐媚を賣り諞諛を鬻ぐ。觀者此に於て始めて辨才天の眞體を拜する也。一笑客を顧みて而して二錢の茶料を促し、二笑喫餘の烟を與へて而して劇場の同行を說く、三笑他の膝に傍うて而して辨天の開帳を勸む。若し辨天を信ずる者あらば直ちに帳を待合茶店の樓上に開く可き也。客若し之に應ずるに二三の艶語を以てすれば則ち鐘馗の鬼を捕ふが如く、舌頭劍を磨して忽ち情男の腸を斷つ。凡そ茶店の少婦は皆贋辨天にして而して屢〻不時の帳を開く者也。災ひ天より降るに非らず婦人より生ず、須らく鬼神を敬して之を遠ざく可き也。余開帳の繁昌を記す可き者有りと雖も、前座の長さは後座の妨げ、暫く後篇に讓つて去らんと欲す。彼の小娘余が袖を控へて曰く君も亦た贋物たるを免れず、禿筆を舐つて世界の糟粕を嘗め、空腹を叩いて都下の虛誇を吐く、眞に稗史家の贋物にして而して强ひて帳を書舖の店前に開き、以て日に來客を待つ。是れ阿娘輩に異ならず。君如何君如何と。余遁辭なく尻より前座の幕を穿つて退く矣。

築地異人館

附　賣魚店

築地の名たるや、往昔隅田の支流を埋めて、其の地を築くを以て其の名有りと云ふ。地位は隅田川の口脣に當つて乃ち東都の咽喉也。商船の都下に入るや皆此れを過ぎざる者無く、母船を斯に泊し子舟を放つて四方に搬運す。無數の商船常に輻輳し、苫篷鱗次、帆檣林立、釣艇網舸、亦其の間に居り、舳艫相銜み楫櫂相擊つ、來往織るが如く中流爲めに水波を見ず、川脣又小汽船を容れ專ら橫濱に運送す。此の地舟楫の利有るに因つて元舟子漁夫の巢窟となり、市街狹斜、屋宇破壞、中央に一空地有り、塵芥山を爲し犬屎丘を作す。都人呼んで築地の原と謂ふ。都下に入つて曠原を見る。特だに此地耳。故に僻地に屬し曾て顧みざる者の多し。世界交際の益たるや貿易の利たるや近輓外國人の居留地と爲り、全く積年の塵埃を掃つて而して新たに一繁華の地を開く。居留の人員日月に繁殖し美屋を建築し寬街を脩繕し、人烟稠密、商戶櫛比、數年にして而して新小港を爲す、只遺憾と爲す者は、港底淺くして巨艦を容る能はず、此の地に居留する者は、宣教師、留學生の徒多く、商賈の移住する者甚だ少し矣。後世若し能く大溝を通ずる者あらば獨りこの地のみならず亦全都の繁昌を增す可き也。

佳樓麗室甍瓦相映じ、煉瓦石を積む者有り花崗石を疊める者有り、白堊の雪は、富嶽の雪より輝き石炭の烟は淺間の烟より薰す、街道砂石を敷いて坦々、雨に行潦なく門戶硝燈を照らして燎々として庭に暗夜無し。或は園囿を開いて花木を栽ゆる者有り、或は池沼を穿つて魚鳥を飼ふ者有り。室內亦美を盡し、席牀氍毹を布いて洋犬花に眠り、窓戶繡幕を垂れて佳人霞を撐ぐ。建築の風、庭砌の景、瀟洒清潔、皆觀る可きもの多し。（其の樹壁の修飾詳かに記さんと欲する者有り。故に贅せず）一群の偉夫（東京見物）臂を連ねて某の店前に佇立す。一夫道ふ、神社歟佛閣歟、高きこと觀音塔の如くして而して鰐口無く、大さ檀那寺に似て而して半鐘無し、拜殿の帳を開けども亦御影を見ず、不動尊を安置する歟或は仁王天を祭る歟、一夫仰いで樓上を指點して道ふ、阿呀這れは箇れ辨天の社也、彼の欄に凭る婦人を視よ頭に錦冠を戴き腰に緋袴を着け美面は生活羅樣に異ならず、特に疑ふ可きは背面大蛇を見ず、其の側に立つ者は

愛翫れ親長し、毛唐人に似て毛唐人に非ず。是れ毘沙門天也。亦疑ふ可きは手に珠數を携へず。一夫道ふ、兒等謹んで彼の語を聞く可し、薩摩の神寳、眞に唐人の寝語の如し、兒童草鞋を磨して其の側に在り、之を聞いて抱腹に堪へず、口を開いて大に笑ふ。叟忽ち問うて曰く、汝は何の係ぞ。童又笑つて曰く、野叟の頑愚甚しき矣。これ英吉利の商人某の家也。辨天の如き則ち羅紗綿（土俗洋人の妾を呼で羅紗綿と曰ふ）毘沙門の如きは則ち主人、童は則ち靴工の子也。叟憤つて曰く、若輩口にして我が老翁を欺く勿れ。叟、今を距る二十年前、伊勢に詣で毘比羅に參し、西京大坂到らざる處無く、神と佛とは皆て實見する所也。童起つて寫眞を懐にして來り示して曰く、是れ佛蘭西の京都也。西洋諸國の繁華なる、大厦層樓府内に列なり、清水の舞臺より高く日光の靈屋より美なり。這の商館の如きは則ち支店中の支店にして、本店の百分の一に過ぎず、一を以て能く其の百美を知る可き也。叟驚いて曰く、余が保正殿の家俄奢ると爲す。外國は則ち人其の奢侈を許す乎。曰く、東洋諸國の開化せざる好んで敝衣を着け勉めて粗食を喫ふ、寶玉も蔵し蔵すれば馬矢の如し、金銭も用ひざれば瓦丸に同じ、家萬金を積むと雖も一貧夫に異ならず。是れ田舍の弊習也。夫れ奢と稱する者は、田畝を賣つて酒食を貪り衣裳を典じて娼妓を愛する等、乃ち奢なり。人の世に在る、其の力に應じて其の樂を爲す、何ぞ之を奢と謂はん、美衣あつて服せず美食あつて喫はず、是れ節儉に非ずして乃ち吝嗇也。叟若し財あらば亦能く此の家に住して彼の辨天を抱く可き也。此の婦は異人に非らず日本人也。彼の人は他國に來つて巨室に住し美婦を擁す。此の叟は此の國に生れて陋屋に栖み醜婆を愛す、賢愚の相距る亦遠からず乎、叟鼻汁を啜つて曰く、余老たりと雖も未だ八十に至らず、字能く習ふ可く事も亦能く得べし。齡武内の宿禰に及ばざれば千歳も亦能く任す可し。若小兒何を以て愚と爲す、曰く、歇めよ歇めよ、諺に云ふ老いては子に從ふと、後世大事を爲す可き者は乃ち童輩なり。童年僅に十三、七年を出でずして必ず外國に航し、其の美婦を娶り十層の大樓に住む可き也。今翁を諭するは韓信の胯間を過ぐるに異ならず、一童又竊かに叟の背後に來つて、頭髮一莖の白髮を一引し去る、叟顧みて曰く、油斷大敵、商賈賤子眞に惡心（信心は當に感心と書す）眞に感心と首を掻いて而して去る。

海濱の魚市築地に在つて販賣す。河南し河北に魚丘連接、意氣人を喜ばす。芝浦も亦漁家多く、萬魚游泳、新鮮にして喫ふ可し。然るも彼に手づから魚網を投じ自ら釣綸を垂れ、皆魚を捕ふの人也。此れは然らず、遠く魚族を買ひ常に生魚を蓄へて、多くは魚を賣るの人也。魚店若し三日來らざれば則ち價忽ち騰し、今朝昨夕に十倍するは魚店の常也。故に生魚を蓄ふ者は一刻にして而して大利を得ること有り、都人の鮮魚を嗜むはその價を論ぜず、松魚の如きは則ち衣を典し簪を擲つて其の初頭を喫ふ。是れ俠客豪遊の風習也。都下魚店の盛なる芝地に芝浦に深川に、魚を捕へて口を糊する者算數す可らず。況んや國内の廣大なるをや。故に市井に生れて市井に死する者も亦算す可らず。古語に云く、海中魚は都有りと。君子は水を以て喩となし身を以て家と爲す、都有りと謂ふも亦宜也。或は云ふ、水上魚は都に花を生ずと。

外濠已に暮づきて、營深宮に横はり、新月正に照つて風喪禁を吹く、緑塵夜冷やかにして貴子未だ眠らず、三人の婦相依つて語る、時已に二更浮雲月を遮り暗中乍ち暗し、行者人有り頻々呼んで曰く、鉢叩頭好し蘇戴頭好し蔵、一夫忽ち衝いて曰く、何等の妙品、何等の甘味、未だ曾て之

を喰はず、請ふ試みに之を嘗めん。一夫曰く、腹亦空耗須らく一飽すべし、先づ其の品味を問ふ可き也。一夫舟を呼んで曰く、我輩始めて都下に來り未だ曾て之を知らず、問ふ其の形如何、味は亦如何。曰く、形小舟の如くにして而して紫色を帶び味の美なる甘露の如く、一箇の餘味能く渾身に徹す。曰く、余が腹巨大能く數十を喰ふ可し。曰く、日本一の黍團子一人一箇に過ぎず、多く喰へば命に害有り。三夫涎を流して而して之を待つ。頃く有つて、何人か手巾頭を罩して悄々船に遷り來る。時恰も雲散じ蓬窓復た月を漏らす。視れば則ち三婦袖を連ねて已に他の膝頭に逼る。一婦は面に白粉を塗る。其の色白堊の如く厚くして香氣無し。蓋し痘痕を埋むる也。一婦は凋瞼膨脣眞に是れ兩峯聳え谷底微かに低鼻を見る。一婦は年已に五十に垂れ全額蹙皺、秋波已に漲り、雙鬢扶疎、霜柳將に衰へんとす。三夫相顧みて胸裡悸々、目見て口言ふ能はず、老婦自ら令して曰く、妾は彼の光頭を×××し。少婦曰く、娘は此の少年を×××し。中婦曰く、婦は請ふ殘物を×××、殘物は福有りと云ふ。其の面を視て其の物想ひ見るべし。三婦微笑し××××××××欲す。舟子甚だ恐る、一身將に妖魔の口に葬られんとするを。一夫漸くして曰く、汝等我が物を喰ふに非らず、我汝が物を喰はんと欲す。何ぞ汝が命を用ゐん。少婦曰く、娘は其の業を以て喰ふ。喰へども其の味を知らず、味は君輩の舌に在り、一口も猶能く三人を合せ喰ふ可し。曰く、價幾何ぞ、曰く一箇の値僅に二銖、曰く其の物焉くにか在る。何の方か亦之を喰ふ。婦×××××××××曰く、物乃ち斯にあり、斯の如くして能く喰ふ耳。三婦忽ち三夫を擁し、先づ他の懷を摸して其の價を探り出し××××××鞭を下し飽くまで喰つて而して去る。土俗新舟を稱して新造と謂ふ。新婦も亦新造と稱す。乃ち新舟未だ人を載せざるの謂ひ歟。寡婦と雖も年少ければ則ち新造と稱す。既に百夫を載する者も亦然り。其の實古造と謂つて可なり矣。饅頭は則ち嗜欲、貪つて飽くこと無く、謂つ可し命を喰ふの口と。新造は則ち載運流れて止まらず、眞に是れ人を溺らすの舟、食能く命を保ち亦能く命を害す、舟能く人を載せ亦能く人を覆へす。

諸家年譜

假名垣魯文

文政十二丑年　正月六日京橋槍屋町に生る。本名は野崎文藏。

弘化四年　戲述を好んで花笠文京の門に入る。

嘉永三年　『名聞面赤本』を板行。戲名披露のため當時の戲作者、浮世繪師、その他雅客の狂歌發句を集めたものである。狂歌はこれより前三世千種庵諸持の門人となつて斜月窓諸兄と號し、俳句は香以に就いて風子應一と號した。

安政元年　始めて戲作を以て、活業とする決心をする。當時の住居は湯島妻戀坂であつた。

安政三年　『安政見聞誌』三册を表はす。友人の助力を得たのだとも言ひ、全然魯文の筆は加はつてゐないとも言ふ。

文久二年　妻戀坂より日本橋龜井町に移る。

文久三年　更に神田久右衞門町に移る。『粹興奇人傳』を表はす。尙、『滑稽富士詣』も文久年間の著である。

明治元年　一人で兩名を用ひることを禁ぜられたので、本名を廢し、專ら魯文の通稱に改む。別に野狐庵と號したのは、妻戀稻荷の社邊に住んだことのある因縁により、猫々道人との別號あるは、猫皮を馴らす藝者の毀譽を「假名讀」、「いろは」等の新聞に書き出した頃のことで、これより後のことである。猫々道人は、成島柳北がつけたのだと言ふ。

明治三年　『西洋道中膝栗毛』を出す。

明治四年　『安愚樂鍋』を出す。

明治五年　『河童相傳胡瓜遣』、『西洋料理通』、『大洋新話』、『倭國字西洋文庫』、『世界都路』等の著あり。横濱元辨天に移轉し神奈川縣廳の雇員となり、内々「横濱毎日新聞」の記者を兼ね、又野毛山に新聞縱覽所を設けた。

明治七年　『佐賀電信錄』を著す。

明治八年　「横濱毎日」を去り、「假名讀新聞」を起し、翌年社を東京に移す。別に「魯文珍報」を發行したのも此の頃であつた。

明治十二年　「假名讀新聞」を退き、「いろは新聞」主筆となる。當時が魯文の全盛時代であつた。『酌子定妓藝者の心得』を著す。『高橋於傳夜叉譚』、『格蘭氏傳倭文賞』の著あり。

明治十七年　「今日新聞」主筆となる。名聲漸く落つ。

明治十九年　「今日新聞」を退き、「東西新聞」客員となる。

明治二十一年　『明治新調都々逸撰粹の栞』を著す。

明治二十三年　名納會を催して、文壇を退き、專ら都々逸の選者となる。

明治二十七年　十一月八日享年六十六歳を以て新富町の自宅に歿す。遺骨は谷中永久寺に葬る。

福澤諭吉

天保五年　十二月十二日大阪堂島玉江橋中津奥平藩倉屋敷に生る。時に父百助四十三歳、母順子三十一歳なり。

天保七年　大阪にて父百助死し、母に伴はれ一家共に中津に歸る。

安政元年　同藩奧平壹岐をたより長崎に赴き、砲術家山本物次郎宅に身を寄せ、蘭學を修む。

安政二年　長崎を出立、中津に歸らず、兄のゐた大阪に行き、北濱の緒方洪庵の塾に通ふ。

安政三年　腸チフスにかゝる。病後、兄の勤番年期明けて、五月中津へ兄弟同道歸省す。八月一人大阪へもどる。中津藩屋敷に獨居自炊緒方塾へ通ふ。九月長兄三之助死し、歸藩して生家を繼ぐ。母を殘して十一月大阪へ歸り、初めて内塾生となる。

安政五年　中津へ歸省、母に別を告げ、大阪に寄つて江戸に出る。鐵砲洲奥平中屋敷にて藩の子弟に蘭學を教授す。

安政六年　長崎の通詞森山多吉郎について、專心英語の研究を始む。幕府使節木村攝津守を米國に派遣するに際し、隨行に決定。

萬延元年　使節御用船咸臨丸にて品川沖を出帆、三十五日の航海後、サンフランシスコへ上陸。同五月浦賀へ歸港。『華英通語』を譯出版す、處女出版である。

文久元年　幕府の遣歐使節の一行に加はり十二月出發英國軍艦オーヂン號にて、インド洋を經マルセーユへ上陸、佛、英、蘭、普、露、ポルトガルの諸國を歷遊す。此年同藩士族土岐太郎八の次女錦子と結婚す。

文久二年　往航と同じ航路を經て歸朝。攘夷論者の仲間から洋學者は賣國奴としてねらはる。

慶應二年　『西洋事情』、『雷銃操法』を出版。

慶應三年　一月出立、幕府の軍艦、鐵砲受取りの爲め再び渡米す。ニューヨーク、ワシントン滯在、用務を果し、六月歸朝。十二月塾舍を鐵砲洲より新錢座に移す。有馬藩の中屋敷を買つたのである。『西洋旅案内』『西洋衣食住』を出版。

慶應四年　『窮理圖解』を著す。

明治元年　四月塾舍の新築成る。

明治二年　『英國議事院談』『世界國盡』を著す。

明治四年　三月塾舍を三田島原藩屋敷跡に移す。今の慶應義塾である。

明治五年　『童蒙教草』を著す。

明治六年　『帳合の法』『文字の教へ』の著あり。

明治八年　『文明論の概略』の著あり。

明治九年　『分權論』の著あり。

明治十年　『民間經濟錄』の著あり。

明治十一年　『福澤文集』『通俗民權論』の著あり。

明治十二年　『民情一新』の著あり。

明治十三年　『學問のすゝめ』を著す。

明治十四年　十二月大隈下野の政變に會し、伊藤、井上に詰問狀を發す。『時事小言』の著あり。

明治十五年　『時事新報』創刊。『帝室論』『兵論』等の著あり。

明治十六年　『學問の獨立』の著あり。

明治十八年　『品行論』『士人處世論』の著あり。

明治二十一年　『日本男子論』の著あり

明治二十六年　『實業論』を著す。

明治二十七年　日清戰爭に會し、必勝のため全力をつくして上下に奔走す。

明治三十一年　九月二十六日腦出血症を起し、昏睡一週日に及ぶ。明治天皇、昭憲皇太后、大正天皇御使を以て、御見舞の恩賜あり。

明治三十四年　一月二十六日舊病を發し、二月三日六十八歲を以て逝く。同月八日白金大崎村本願寺に葬る。

川島忠之助

嘉永六年　五月三日江戸本所外手町に生る。

安政六年　父と共に飛驒高山に移る。

慶應二年　父の死と共に一家江戸に移る。父の遺志により醫學を修めようとしたが諸種の事

情により果さず。

明治二年　製圖見習工として横須賀製鐵所に入る。英佛語を修む。後、止めて横須賀に出て、フランスの齒科醫某の許へ使丁として住みこむ。

明治三年　明治政府の造船機械科傳習生の募集に應じ、選に入る。

明治五年　傳習生生活を終へ海軍省十五等出仕となる、判任の最下給である。月給十二圓。同年中大藏省租稅寮雇の名義にて上州富岡製絲場に赴任す。月給三十圓。

明治六年　秋、富岡を止め、職を失ふ。

明治七年　横濱蘭八番館に番頭として入る。

明治九年　蠶紙賣捌のためイタリーに赴く。

明治十年　七月歸朝。

明治十一年　ジュール・ヴェルヌの小說『八十日間世界一周』を譯了。自費出版す。嚴密に云ふ明治飜譯小說の嚆矢である。

明治十三年　同下卷出版。

明治十四年　『虛無黨退治奇談』出版。

明治十五年　再度目洋行の途に上る。横濱正金銀行リヨン出張員としてである。業務閑散なので午前中は法科大學に通って聽講し、午後は銀行の事務を執つた。ギリシャ、ローマの古典、史籍、殊にプルタークの『英雄傳』を耽讀す。

明治十六年　矢野龍溪の來遊せるに會し、報知新聞へ入らうかと、一寸意が動いた。併し結局依然としてリヨンに原職のまゝ留まる。

明治二十一年　七年振りにて歸朝す。元老院議官石井忠亮の二女を娶る。再びリヨンに歸赴す。

明治二十八年　夫人肺炎を病み、リヨンを引上げて歸朝す。横濱本店詰となる。

明治三十年　印度ボンベイの支店長として赴任。

明治三十二年　四月歸朝。東京支店開設の命を受く。

明治三十九年　横濱本店へ歸任の命を受く。

明治四十年　同銀行取締役となる。

明治四十三年　本店營業の支配人を兼ぬ。

明治四十五年　退職。但し依然として重役たり。

大正六年　夫人を喪ふ。

大正十四年　これより前松方侯の委囑によつて横濱堀越家の顧問をしてゐたが、この年辭す。

昭和二年　四月の「早稻田文學」に柳田泉「川島忠之助傳」を揭載。この前後より氏の譯壇に致せる業績に就て再評價の評論隨所に見ゆ。

昭和六年　七十九歲。老いてます／＼健在。

東海散士

嘉永五年　十二月千葉縣富津洲會津陣屋に生る。本名は柴四朗。會津藩士柴佐多藏の四男である。

夙に漢學を學び、後、英、佛兩學を學ぶ。渡米してサンフランシスコ商業學校を卒業した後、フィラデルヒヤ大學に入つて經濟學を修む。

明治十七年　農商務大臣祕書となる。

明治十八年　『佳人之奇遇』を現はし、洛陽の紙價ために高し。

明治二十四年　代議士に當選す。

明治二十五年　條約改正に際し野にありて大阪「毎日新聞」初代の社長となる。

明治二十九年　閔妃事件の嫌疑にて下獄す。

明治三十一年　農商務次官となる。

明治三十七年　「羽川六郎」を著す。

大正四年　外務參政官となる。

大正十一年　七月二十五日逝く。享年七十一歲。

末廣鐵腸

嘉永二年　二月伊豫宇和島に生る。幼名雄三郎、後年重恭と改む。早く父母を失ひ、姉の鞠育する所となる。

文久三年　藩校に入る。

慶應元年　八幡ケ濱に遊び、儒者上甲禮三の門に入る。

慶應二年　藩校の舍長となる。王陽明の『傳習錄』を耽讀す。

明治二年　藩校教授に任ぜらる。

明治三年　笈を負つて東都に出づ。併し、維新後の不整頓のため、その學問の都に非ざるを知つて、京都の陽明學者春日潛庵の門をたゝく。

明治五年　鄕里に歸り、再び藩校の教授に復す。幾何もなく、神山縣の小吏となり、同縣の廢せらるるに及んで、愛媛縣に出仕し、長官と意見が合はずして辭職し、東京に出て、大藏省の官吏となる。

明治八年　「曙新聞」の主筆となる。たま〳〵新聞紙上で讒謗律の制定せられたのを、攻擊して禁獄三ケ月、罰金三十圓の刑に處せらる。これは新聞紙條例に牴觸した最初である。出獄後朝野新聞に入る。

明治九年　再び官吏讒謗の廉を以て禁獄八ケ月、罰金二百圓の言渡しを受く。そして新聞社主成島柳北と一緒に、鍛冶橋監獄に這入る。この間に獨案內書によりて、英語を獨修す。

明治十四年　大同團結を成さんとして果さず、自由黨の起るに會して、之に入會す。

明治十五年　自由黨總理板垣退助の洋行に反對し、遂に脫黨す。爾來「朝野新聞」により進步自由兩黨の合同を提唱す。

明治二十年　條約改正の中止により、再び人心の動くを見て、自由改進兩黨の間を奔走したが、矢張合同の機運に達しなかつた。

明治二十一年　英米を巡遊す。

明治二十三年　憲法發布の當日歸朝す。朝野新聞を退き、「東京公論」の主筆となる。依然、大同團結の意見を抱き、四國、中國を歷遊し、愛媛縣の委員及常任議員となる。たま〳〵「東京公論」が中立主義を標榜したので、同社を辭し、衆議員候補に立つ。當選。

明治二十七年　代議士に再選。

明治二十九年　二月逝く。

須藤南翠

安政五年　十一月三日伊豫宇和島に生る。御目付本役、軍使兼役の須藤但馬の二男で晚年の子である。幼名孟。後に光暉と改む。七歲初めて字を學び、八歲初めて讀書を學び、九歲初めて射を學び、十歲にして劍馬を收める。藩の定規の教育を受く。南翠は多く江戶に留まつてゐた。

明治三年　父但馬は一時宇和島藩大參事となつたがこの年十一月免役。南翠はうか〳〵してゐられぬと感ず。十三歲。

爾後、年月がたしかでないが藩の貢進生たらんとして鄕里に歸り、藩校明倫館に學び、又松山師範に轉ず。卒業後三戶濱小學校に勤めたが、徵兵制度に對する不滿を抱いて鄕里を出奔す。

明治十年　園直樹を說いて新平民學校の設立を企畫し、事成らず。

明治十一年　「有喜世新聞」起るに及び、探訪として雇はれ、後編輯部員に拔擢さる。初めて『つゞき物』を書き、殊に毒婦ものにて人氣を集む。「新藥おみな」「茨木お瀧」等當時の作

である。作者名は土屋南翠と署す。

明治十六年　「有喜世新聞」發行禁止となり、「開花新聞」發刊さる。「千代田の刃傷」を載するに及んで南翠の名一躍高し。同紙又改進新聞と改題さるゝに及び、引きつゞき『黄金花籠』を載す。

明治二十年　政治小說流行の機運に乘じ、『新粧の佳人』『綠蓑談』を著し、明治文學胎成期に重要地位を占む。

明治二十一年　築地一丁目三番地に住居を買ひて、流浪的生活より脫却す。『綠蓑談』を著はす。

明治二十二年　「新小說」創刊。每號執筆。長男まかね生る。

明治二十五年　「大阪朝日新聞」に聘さる。

明治三十六年　腦溢血に掛り、酒と煙草を全廢す。

明治三十八年　「大阪朝日新聞」を辭す。

明治四十一年　妻文子死す。

大正六年　腎臟を患ひ、糖尿病を併發し、又動脈硬化と狹心症に掛る。

大正八年　病を冒して、前年より着手中の『土居通夫傳』を執筆す。

大正九年　二月四日大阪にて死す。六十三歲。初め青山墓地の近く立山墓地に葬られ、後多摩に移る。

饗庭篁村

安政二年　八月江戶に生る。本名は與三郎、竹の屋主人の別號あり。

明治六年　初めて讀賣新聞社に入る。福地櫻癡と知り、誘導を受く。

明治十九年　坪內逍遙と知る。彼の作中ディッケンズの『クリスマス・カロル』、ポウの『黑猫』等の飜案あるは逍遙及び高田早苗等に接して新文學の話を聞いたからである。

明治二十二年　冬、「東京朝日新聞」に入る。『むら竹』出づ。當時までの篁村の全集と云つてもいゝものである。

明治二十三年　早稻田大學の前身、東京專門學校に近松を講ず。當時よりその劇評は天下一品を以て稱さる。

大正八年　「朝日新聞」本社員を退き、客員となる。

大正十一年　六月二十一日、西大久保の自邸に逝く。六十八歲。墓は染井墓地にあり。著書には前記の外『篁村叢書』『雀をどり』等あり。

加藤弘之

天保七年　六月二十三日但馬國出石城下谷山町に生る。父は加藤四郎兵衞、母は錫子、氏の通稱は土代士、實名は弘藏、成之、誠之等と再三改められたが、維新後弘之と定む。

天保十三年　この頃より三四の塾に通ひ、文武兩道を修む。

弘化二年　弘道館に入學。初めて藩の有志家多田彌太郎に接して泰西開化の事情を知る。

嘉永五年　父四郎兵衞の御用役として江戶在勤を命ぜられたのに隨行し、初め甲州流の兵學を學び、飽き足らず、後佐久間象山の門に入り、洋式兵學、砲術、蘭書を學ぶ。

嘉永六年　歸國。

安政元年　再び江戶出府。木下仲益の門に入り、蘭學を修む。

安政二年　大地震の年也。九月歸鄕、父の死に會ひ、家督を相續す。

安政三年　三たび江戶出府。

萬延元年　蕃書調所教授手傳を命ぜらる。

文久元年　『鄰草』を著はして立憲政體を紹介したが、時勢を憚り寫本にて傳へらる。

文久二年　市川齋宮の養女鈴子と結婚。獨逸語

を學び始めたのはこの少し前からである。日本にて獨逸語を學べる最初の人。

元治元年　開成校準教授職に任ぜらる。

慶應元年　『交易問答』を著はす。

慶應三年　『西洋各國盛衰强弱一覽表』を著す。

慶應四年　目付役より大目付に累進し、勘定頭を兼ぬ。『立憲政體略』板行

明治元年　これより明治政府に仕へ、政體律令取調御用掛、學校權判事、會計官權判事、制度寮撰修、大學大丞、文部大丞、大外史、外務大丞に歷任す。

明治三年　この年より八年まで御前進講の榮を得。『眞政大意』板行。

明治七年　撰議院開設の建議に對し尙早論を唱ふ。

明治八年　元老院議官に任ぜらる。幾ばくもなく辭す。『國體新論』板行。

明治十年　二月開成學校總理となる。後に帝國大學と改稱されたが依然總理の職に駐る。

明治十五年　『人權新說』を著し、從來講說し來りし『天賦人權說』を淸算す。

明治十九年　帝國大學總理を辭し、元老院議官となる。

明治二十一年　文學博士を授けらる。

明治二十三年　大學總長に再任。貴族院議員に敕選さる。

明治二十六年　三月、再び總長を辭す。『强者の權利と競爭』を著述す。

明治二十七年　『道德法律の進步』を著す。

明治三十三年　男爵を授けらる。

明治三十四年　『道德法律進化の理』を著す。

明治三十八年　法學博士を授けらる。

明治三十九年　樞密院顧問官に任ぜらる。

明治四十年　『自然界の矛盾』と進化を著す。

大正二年　『自然と倫理』を著す。

大正五年　二月五日東京の邸に逝く。

馬場辰猪

嘉永三年　五月十五日土佐國高知市中島町に生る。文學者馬場孤蝶の兄である。

文久二年　初めて「いろは」を母に習ふ。

文久三年　藩校知道館に入學す。

元治元年　八月叔父氏連に隨つて大阪に至り十二月歸藩す。

慶應元年　再度藩校知道館に入學す。

慶應二年　三月二日藩費生と爲り江戶留學を命ぜられ福澤諭吉の奧平邸の塾に入る。

慶應三年　十二月二十六日一旦歸藩す。

明治元年　四月長崎に遊學す。

明治二年　正月長崎を出で岩崎彌太郎に隨ひ大阪を經、再び東京に遊學し慶應義塾に入る。

明治三年（西曆千八百七十年）七月二十一日藩費生と爲り英國留學の途に上る。

明治四年　三月ウヲールミンスタのグランマースクールに入る。

八月倫敦ユニヴァーシチー、カーレッヂの理科に入る。

明治六年　テムプルに入りて羅馬法及不動産法を研修す。

日本語文典を著しホートン公に獻ず。

九月日本留學生會を創設す。

明治七年　十二月歸朝す。

明治八年　一月二十一日故鄕土佐に向ひ二月二十三日歸著す。

三月七日弟妹を伴うて上京す。

同月再度英國に遊學す。

十月二十七日『日本に在る英人』成る。

明治九年　正月古事記英譯成り英國人類學協會に於て演說す。

九月二十八日「日英條約改正論」成り十一月十

日之を英國諸政治家に贈る。
明治十一年　五月十一日歸朝す。
同月共存同衆に出席す。
十一月『法律一斑』成る。
明治十四年　五月山形地方へ遊歴す。
十月自由黨起る。
明治十五年　十一月板垣自由黨總理洋行す。
自由黨を脫す。
十二月『天賦人權論』成る。
明治十六年　十月自由黨解散す。
明治十八年　七月『雄辯法』を著す。
十月箱根に於て英文自傳を草す。
十一月二十一日爆發物買入詐欺嫌疑の爲捕縛獄に投ぜらる。
明治十九年　二月八日獄中病に罹り監獄病院に入り四月二十七日監房に還る。
五月公判開廷。
六月二日無罪放免の宣告を受け出獄す。
同月十二日午後十時横濱を解纜し米國に向ふ。
十一月五日米國オークランド、オペラハウスにて『日本古代之武器』を演說す。十四日東部に去り二十四日日本監獄論考案成る。
明治二十年（千八百八十七年）三月費府フランクリンインスチチュートに於て再び『日本古代之武器』を演說す。
明治二十一年　六月二十五日『日本監獄論』を華府ぜ、イヴニングスター新聞に投ず。
十月『日本政治上之得失』成る。
十一月一日費府大學病院に病死す。

服部誠一

天保十三年　二本松に生る。父は丹羽家儒臣で名は惟十郎、洞山と號し、祿百石をはむ。誠一が後に撫松と號したのは「孤松を撫して盤桓す」より出づ。
明治三年　廢藩置縣後、家祿を奉還して東京に出る。
明治七年　「東京新繁昌記」出づ。忽ちにして洛陽の紙價を高め、金四五千圓を得、湯島妻戀坂に新邸を建築し、吸霞樓と號す。
明治九年　週刊雜誌「東京新誌」を發行す。「團團珍聞」と並びて世に行はる。後に此の雜誌は、外務大臣井上馨の令孃の醜行を摘發したために、發行禁止の厄に會ひ、早速その身代りとして、記事體裁「東京新誌」に一寸分違はぬ、我妻新誌を發刊し、一年餘繼續す。
明治十四年　「江湖新報」と題する政治雜誌を發行す。
明治十五年　「東京新繁昌記」後篇二冊、「第二夢想兵衞胡蝶物語」二冊を發行。大學出の新人山田喜之助、高田早苗、天野爲之、砂川雄峻等を叫合して「立權憲政新聞」を發行す。
明治二十一年　「京華新誌」を發行し、二三號にして倒る。
明治二十九年　宮城縣尋常中學校（今の第一中學校）に作文教授として聘さる。滯在十二年。
明治四十一年　八月暑中休暇を利用して、上京中、腦溢血にかゝり、同月十八日、享年六十八歲を以て歿す。

成島柳北

天保八年　二月生る。甲子麿と稱す。
弘化元年　この前後から和歌を學ぶ。
嘉永六年　父稼堂を失ふ。
安政元年　家を嗣ぐ。侍講見習となる。別に幕府實錄の編修を監督す。
安政三年　侍講に進み、讀書を家茂に授く。
安政四年　布衣の班に列す。
安政六年　「柳橋新誌」第一篇成る。

萬延元年　祖父司直編する所の實記五百餘卷及び稼堂編する所の後鑑三百七十五卷を命によりて訂正す。賞として黄金及時服を幕府より受く。

文久元年　一字を築き、有待舍と名付く。

文久三年　時勢を諷する詩を詠み、罰を得て家に閉居す。英語を學ぶ。

慶應元年　『伊都滿底草』を戲著す。この年幕府兵制を改め、閉居三年の柳北を立てて、歩兵の頭並に任じ、祿千石を授く。後騎兵の頭並に轉ず。

慶應二年　大いに軍事を督す。

慶應三年　騎兵の頭に上り、祿二千石を受く。

慶應四年（明治元年）　一月外國奉行に任ぜられ、從五位の下に敍せられ、大隅守となる。秋騎兵奉行となり、冬辭す。

幾何もなく、會計副總裁に進み、參政の班に列す。幕府の瓦解と共に、柳北も亦、仕を止め、隅田川の堤上に一字を築いて世に隱る。

明治二年　山陽道に遊び、『航薇日記』あり。

明治三年　淺草本願寺に學舍を設けて子弟を敎ゆ。

明治五年　東本願寺法主に從ひ、歐洲を周遊す。

明治六年　歐洲より歸り、『航西日乘』の著あり。この歳『柳橋新誌』第二篇成る。

明治七年　京都に遊び、『京猫一斑』を著す。後朝野新聞に聘せられて、社長となり、新聞の名は柳北の文名と共に、大に世に喧傳さる。

明治九年　『柳橋新誌』第三篇成る。官これが發行を許さず、大に文部大輔田中不二麿に詰問す。この歳筆禍を以て獄に投ぜらる。

明治十年　一月朝野新聞社の中で、「花月新誌」を創刊す。この雜誌に連載せられた、『楊牙兒奇談』は日本に輸入せられた最初の探偵小說として、又、雜誌に譯載せられた最初の西洋小說として文藝史上非常に注目に値する。この歳西南の亂が起り、柳北は京攝の間に赴いて、戰事ニュースを探訪した。『客中漫錄』の著あり。

明治十一年　熱海に遊び、『澡泉紀遊』の著あり。

明治十二年　駿遠に遊び、『濱の松風』及び『濯纓紀行』の著あり。

明治十三年　小向の梅林を紹介して、東都近郊の一名勝たらしむ。

明治十四年　『寐亂髮』及び『頭の洗濯』の二紀行あり。

明治十五年　伊香保に遊び、『四日菖蒲』及び『洗愁日乘』の著あり。

明治十七年　十一月三十日逝く。享年四十八。本法寺に葬る。

明治二十八年　「文藝俱樂部」臨時增刊として、『柳北全集』出づ。

中村正直

天保三年　五月二十六日麻布丹波谷に生る、父は中村武兵衞、母は松村氏、祖妣釧太郎と命ず、敬宇と號す。

天保五年　葛馬茂右衞門に就き四書素讀を習ひ始む。鹽田龍潭に就き書法を習ひ始む。

天保六年　石川梧堂に就き書法を學び梧山と號す。

天保七年　岩崎多左衞門に就き素讀を習ふ。

天保八年　法華經を寫して本傳寺に納む。

天保十二年　十月聖堂にて素讀吟味を受け十二月十三日素讀出世に付白銀三枚若年寄本庄伊勢守より賜はる。

天保十三年　平田馬之進、川崎魯助等につき漢學を學ぶ。

弘化二年　十月四日再び石川梧堂の門に入る。

弘化三年　十五歳、井部香山の塾に入る。

弘化四年　桂川國興につきひそかに蘭書を習ふ。

嘉永元年　昌平坂學問所寄宿寮に入り漢學を修む。

嘉永六年　正月學問吟味を受く。四月十三日、學問出精に付銀子五枚を賜はる旨若年寄本多越中守より申渡さる。

安政二年　五月二日學問所教授方出役仰付けられ、十人扶持下さる旨本多越中守より申し渡さる。

安政四年　六月九日學問所勤番仰付けられ、十一月十四日甲府徽典館學頭を仰付けらる。

安政五年　二月五日學問所に於て若年寄經學講釋漢文講義考試の節、漢文講義に罷出白銀七枚を賜はる、二月六日甲府に出發す。

安政六年　二月十六日甲府より歸る。文學教授骨折相勤候に付銀七枚を賜はる。十月九日御儒者勤向見習仰付けらる、十人扶持を受く。

萬延元年　三月二十八日父歿す、十二月二日學問所勤番組頭勤方仰付けられ、百俵に增俸さる。

文久元年　三十歳、二月十二日儒者見習仰付られ二百俵に增俸さる、母歿す。

文久二年　正月玄關帳の記事あり、三月十一日儒者仰付けられ二百俵十五人扶持を受く。

文久三年　二月一日常に出精相勤候に付御膳奉行次席仰付けらる。十一月三日上洛の節御供被仰付。

元治元年　正月九日江戸を發し西上、五月八日東歸の途につく。

慶應元年　年末漢英辭書を寫す。

慶應二年　三十五歳。九月六日、英國へ留學差遣取締のため出發仰付けられ、十月二十二日江戸發足、二十六日出帆す。

慶應三年　元日ロンドン府チェーリンクロスホテルに在りし記事あり、『自助論』の原本此の年に版行さる。

明治元年　四月ロンドンを去り、六月二十一日歸朝、八月末駿河に赴く、九月靜岡學問所一等教授被命。

明治三年　閏十月二十五日『西國立志編』第一稿卒業。

明治四年　四十歳、七月『西國立志編』を新刻す、冬『自由之理』を出す。

明治五年　六月東上、八月二十七日大藏省飜譯御用を申付けられ、月給百圓。

明治六年　二月同人會を開く、諸同志と「明六雜誌」發刊。

明治七年　三月『西稗雜纂』一集上木。

明治八年　六月津田岸田等連名にて訓盲院設立を出願す、十一月十八日東京女子師範學校攝理囑託、毎月報酬として金二百圓を受く。

明治九年　三月『西稗雜纂』第二集上木、四月『愛敬餘唱』上木。

明治十年　二月『改西國立志編』版權免許を受く。八月十一日東京大學文學科囑托、一ケ年金三百五十圓を受く。

明治十二年　一月十五日東京學士會院會員に擧せらる。

明治十三年　五月二十日願に依つて東京女子師範學校攝理を解かる。職務勉强に付報酬金として三百圓を受く。

明治十四年　八月十一日東京大學教授に任ぜられ年俸五百圓を受く、九月二十四日從五位に敍さる。

明治十六年　今年より年俸千二百圓を受く。自敍『千字文』成る。

明治十七年　九月六日東京帝國大學教授に任ぜられ、敕任に進めらる。年俸千八百圓を受く、九月三十日正五位に敍せられ、『童子龜鑑』出版。

明治十八年　二月靜岡より籍を東京に移す、三月第一回中學校師範學校教員免許試驗委員仰付けられ、十一月二十五日訓盲啞院商議員囑託。

明治十九年　五十五歲、三月一日元老院議官に任ぜられ、一等官相等年俸三千圓を受く、十月三十日從四位に敍せられ、十二月二十八日第二回教員免許試驗委員仰付けらる。

明治二十年　速記術に意を留む。

明治二十一年　六月七日文學博士の學位を授けらる。

明治二十二年　五月三十一日第一級選擧にて市會議員に當選。翌月一日當選許可、十月二十日元老院廢され、同二十一日在職中勉勵にて八百圓を受く、十一月二十五日帝國憲法發布記念章を授與せらる、十二月一級選擧にて區會議員當選同三日當選許可。

明治二十三年　三月二十六日女子高等師範學校長を兼任し、奏任官一等に敍せらる。九月二十九日貴族院議員に任ぜらる。

明治二十四年　一月藏書目錄の序文あり、三月三十一日下級俸下賜、六月六日上級俸下賜、特旨を以て正四位勳三等に敍せられ、瑞寶章を賜はる。同月七日卒、祭祀料一千圓下賜さる。同十二日敕使參向幣帛を下賜せらる。

巻末解題

普通に開化期とか、開化時代とか云ふのは「文明開化」をスローガンとした明治初年から、内閣官制の具はつた明治十八九年頃までを漠然と指して云つてゐるもののやうで、多くの史上の稱呼がさうであるのと同じく、此れにも元より確然たる時代區劃などの付けらるべきものでは無い。本集はその時代の特色ある文學的作品を一通り網羅しようと心掛けて編纂したものである。

然らば文明開化とは何か。平俗に云へば西洋化すると云ふ意味であつた。だから歐化の語さへ別に行はれた。

も一つ追究してその西洋化、もしくは歐化は何を意味したであらう。今日の言葉で云へば資本主義の組織と文化とを取入れると云ふ事であつた。

日本が所謂邪教の宣傳に懲りて三百年國を閉鎖してゐる間に、ヨーロッパではブルジョアの制覇が確立してゐた。或る國は産業革命を中心として。他の國は政治革命を中心として。又別な國にはそれらが並び行はれて。元より後進國には歐洲と雖も未だそのブルジョア制覇の完成してゐない國はあつた。併し此れを目標としなければ國際競爭に追隨できない見通しは餘りにも明白だつた。

日本は開國してはたと此の狀勢に面接したのだ。そしてその光彩に眩惑され、度を失ふて周章の體であつた。

『資本論』の著者はあの浩瀚な大著の中にたつた一回だけ日本の事を書いてゐる。それにはかうある。

「日本はその土地所有の純封建的な體制と、發達した小農經營とを以て、多くはブルジョア的僻見の下に書かれた我々の歴史書の總べてに比べると、遙かに忠實な描寫をヨーロッパの中世について提供するものである。」（改造版『資本論』第一巻七一二頁）

だが彼は又かう云ふ見通しに立つてゐた。それは一八六四年の執筆で、『資本論』の出版よりも十九年前の事であつた。玆には特に日本への言及はないが、而も日本も決してこの例に洩れるものではなかつたのだ。

「ブルジョアジーは、生産機關の急速な改善により、又甚しく容易になつた交通により、總ての國民を、最も野蠻な國民をすらも、文明の中に引き入れる。彼等の商品の廉價なることは重砲の如きものである。彼等はそれを以て、あらゆる支那の城壁をも撃破し、如何に頑固な、野蠻人の、排外心をも降服させてしまふ。總ての國民は、若し滅亡を欲しないならば、ブルジョアジーの生産方法を習得せねばならない。所謂文明を自國に取入れねばならない――即ちブルジョアにならねばならない。之を一言にすれば、ブルジョアジーは自分自身の姿に模して世界を創るものである。」（共産黨宣言）

所で折角マルクスが封建の完全な現存見本だと云つて、畢生の大著に引例の光榮を與へてくれた日本ではあつたが、併し『資本論』の出版された時には、もはやその制度はもちこたへ得なくなつてゐた。決潰の一つ手前にあつた。だから『資本論』の出版の翌年にはそれが瓦壞して、つまり『共産黨宣言』の中に見通されてゐる

前引の事項は實現の緒について大政の奉還となり、王政の維新となり、年號も明治と變つた。

さて、その以後の、卽ちこの集に收載した諸篇の創作せられた開化時代の文學は、從來いろいろな分類法が行はれたが、この資本主義の意義を把捉した者と、しなかつたものとに二大別して考察するのが、先づ最も本質的で、且つ便宜である。

從來、或は開化主義者、或は洋學者、或は硬派文學者と呼ばれた人の多くは、その前者に屬するもので、卽ち外來侵攻の資本主義の意義の理解者、把捉者、乃至は宣傳者だつたのである。その代表者は何と云つても、福澤諭吉でなくてはならない。彼こそは明治初期の、いな、全明治を通じての、この意義の最も全面的な理解者、指導者、且つ實踐者でさへあつた。人は中村敬宇を之に對立せしめて、福澤の物質主義的傾向に對する精神的傾向の宣傳者だと說く。そして歐洲文明の基底に基督教の存するを觀破した效績を擧げる。それも一面の見方ではある。併し謂はゆる「明治の聖書」(『西國立志篇』のこと)が何を意味したかは、後に解題で私の詳らかにする通りである。所詮は彼とても、福澤の振幅內の一間隙を補佐したに過ぎなかつたのだ。

時代は流れる。このブルジョア思想は經濟的には產業立國、富國强兵の聲として擧がり、政治的には自由民權の運動となつて發した。後者は明治十年代の文學の大部分なる政治小說の温床である。

さて、前記の洋學者、開化論者の對立的存在は舊幕の殘黨である。守舊家である。軟文學者である。その代表に吾等は先づ假名垣魯文を見出すのである。尤も魯文と雖も時には開化追隨者のやうな事を筆にしないではなかつた。併しそれは福澤と對比して、何と云ふ意義の把捉の稀薄さか。いな、或は絕無と云つた方が近からう。併しそれらの存在も決して無意味ではない。彼自ら意識しなかつた效績は後引坪內博士の文で明かになる。

『東京新繁昌記』の著者は只魯文の著を漢文でなしたと云ふだけだとしても、成島柳北は歐文も讀めたし、歐米も一巡した。時に依つては洋學者のリストの中に彼の名を見ることもある。又改進黨の黨員でさへもあつた。而も吾々が彼を時代の先登者として仰ぎ見得ないのは、彼が舊幕臣であつた加減ではない、彼の遺著の暴露してゐる新文明の意義の把捉の薄弱さに依るのである。

だが古い傳統は決して死滅して了ひはしない。それは篁村の諸作品となり、更に下つては國粹保存の提唱となり、元祿熱の復興となり、江戶趣味の讃美となり、樣々に形を變へて、時には甚だ華やかに、明治の全文化の流れの所々を點彩した。そしては次ぎ〳〵に克服せられて行つた。

さて茲に開化期の諸作品に對し、たとへば大佛次郎氏や菊池寬氏の作品に對すると同じ態度で臨んで、さつぱり面白くないと云ふ者があるとしたら、それは云ふ方が無理なのである。その面白味も意義も、常に年月の隔りと、時代的狀勢の差異とを、顧慮する親切さがあつて初めて汲めるのである。

その點はこの集の讀者の先づ念頭において置かねばならない事であらう。一々の解題に入るに先立つて、收載の諸篇の發行年月を表示しておくのが便宜である。

『眞政大意』	明治三年
『西國立志編』	明治四年
『安愚樂鍋』	明治四年
『かたわ娘』	明治六年

『東京新繁昌記』　明治七年
『柳橋新誌』　明治十一年
『八十日間世界一周』　明治十五年
『天賦人權論』　明治十八年
『佳人之奇遇』　明治十八年
『雪中梅』　明治十九年
『綠蓑談』　明治廿一年
『むら竹』（篇は『三筋町の町人』、『駈落の駈落』はこの中に在り）明治廿二年

序に斷つておかねばならぬのは、この解題は初學讀者諸君のために、若干の暗示を提供しようと云ふだけのものだから、元より完備は期し得られぬ。時に先人の批評感想を摘記し、時に友人の研究を藉り、又時に私が讀下の際の印象を書きつける等の不統一があるのも、又篇に依つて繁簡の均衡を得ないのも、制限ある紙數の中で、なるべく讀者の讀書興味誘發の手掛りたる役目をより多く果したいと思ふ微意に出でたのである。元よりたとひ誤つたとした所で、博識の眼に觸れる事を期待したものでない。

『安愚樂鍋』　假名垣魯文

作者たる假名垣魯文の地位と業蹟に就いては左に引く坪内逍遙博士の一文が最も要を得てゐるかも思ふ。

「只、聊か後のわが近世文學史家のために注意を呼んでおきたいのは、此過渡期の代表作家中の主要者としての魯文と二世春水に關しての事である。明治二十七年に六十五歳で死んだ魯文は、既に安政年間に名を成して、ともかくも明治十八九年頃まで活動を續け、種彥張の草双紙をも書く、三馬、一九式の滑稽本をも作る、馬琴風の讀み本をも間に合はせる、『安政見聞誌』のやうなものも綴る、其上『假名讀』『いろは』二新聞の創立者でもあり、『猫々奇聞』『魯文珍報』『猫洒落誌』等の主筆者でもあり、『歌舞伎新報』の最も有力な記者でもあり、劇評家でもあり、藝妓を猫、九代目を團洲、新史劇を活歷と命名した名附の親でもあつて、たとひ低級の譏りは免れないとしても、其多方面な點に於て、又其巧妙に此過渡を泳ぎ拔き得た手際に於て、優に戲作文學系の第一人者たる資格がある。草双紙の作者であつた爲め、習慣的に通俗の祕訣を心得てゐたのでもあらうが、『太政官日誌』式の漢文讀み下し本位の七むづかしい文章が一般となつてゐる時文壇に傍訓附き、平假名本位の新聞紙を發行して、暗に福澤の漢字節減論に聲援を與へたと同時に、期せずしてではあるが、後の口語體新聞紙の先驅となつたなぞも、彼の機才の一例である。『豈に夫れ浩歎すべき也』なぞと叩き附けて平氣でゐたやうな學殖ではあつたが、何でもかでも當意卽妙、一氣呵成に遣つてのけた其縱横の文才も決して馬鹿には出來なかつた。とにかく彼れの諸著は、其全部に渉つて、改めて一讀過されべきであらう。さうして在來の月並批判以外に出でて、新たに評價する必要があらう。齋藤綠雨は彼れの最晩年の門人の一人であつたのだが、實は私の如きも、明治九年に初めて東京へ出た當座には、人を介して彼れの弟子にならうか知らと、ふら〳〵と思つて見た事もあつた。そのくらゐ其頃は有名でもあり優勢でもあつたものだ。」

所で此の『安愚樂鍋』の一篇は明治四五年頃東京方面に恐ろしい勢で殖えた牛肉屋を舞臺にし、各方面の男女を拉し來つて、銘々に說話せしめる趣向になつたもので、當時の社會の一般常識を推知する意味で興味と價値がある。

一體今日では何人も怪しまない牛肉を食ふと云ふその事からして當時はひどく珍しかつたの

だ。南蠻紅毛時代に還る古い穿鑿を除けば、牛肉を常食とすると云ふ知識を吾が國民が得たのは、ペルリの下田渡來以後の事と云はれる。その後雜書を漁ると、江戸や横濱に牛肉店のぼつぼつ出來初めてゐた事は推察できるが、それとて全市に二三軒を數ふるに留まり、それを箸にする者は餘程の物好きで無ければならなかつた。それが明治五年には明治天皇も膳宰に敕して、肉饌を進めしめられてゐる位だから、その前年に出版され、當時の社會の實相を描いてゐるこの一篇は、單なる文學的興味からのみでなく、食糧史の變遷の上からも重要文獻である。語を換へて云へば、當時牛肉店を題材とした事は、今日カフェやレギウを題材としたのよりも遙かに珍奇清新であつたのだ。この外魯文には「西洋膝栗毛」「胡瓜圖解」（福澤諭吉の「窮理圖解」なる物理學初歩の書のパロディ）などのハイかつた著述もある。即ち戲作者の殿將たる魯文にも、この敏感なモダン味があつた。そしてこの適應の才こそ、後の作を實價以上に世間に買はれた所以であらう。

『かたわ娘』　福澤諭吉

福澤諭吉は明治の日本に、殊にその前半期に最も大きく輝く巨人像である。これに關して愉快な逸話がある。

日獨戰爭終結の後、守備長官であつた神尾大將が地方巡察の途次、或る田舍の小學堂に立寄つた。支那人敎師は日本の高官を優待する意味で、閣下自ら何なりと質問して御覽なさいと言つた。

「今、支那で何れが一番えらいと思ふか。』

これが大將の第一質問であつた。

「孫逸仙。」

これが全生徒の答であつた。

「然らは日本では？」

第二問はかく發せられた。

「福澤諭吉！」

これが生徒の答であつた。それが一人や二人ではない。大部分の生徒の遲疑する所なく答へた所であつた。これには神尾大將はひどく驚き、屬僚達は色を失うた。

以上の話を傳へて（『公人の常識』四一頁）吉野作造氏は「支那の子供は或る意味に於て日本人よりも能く日本を知つてゐる」と結論した。私もこの結論に心から同感である。

恐らくこれ以外に、福澤翁の功業を事々しく列記する必要はあるまい。元より本全集一卷を宛てて記念すべき偉大な文明批評家だが彼の著作は全集が容易に得られるし、他の複刻全集の中にも數々收錄せられてゐるので、本集への收錄は此の一篇に限ることにしたのである。

さてこの作意に付いては、全集の卷頭に著者が自ら詳しく語つてゐる。全文は左の通りである。

「かたわ娘は實にたわいもなき小說やうのものなれども之を綴りたるには自から其時の事情あり明治四五年の頃、人の噂を傳聞するに京都の堂上公卿の中には今尚ほ鐵漿を着ける者ありと云ふ余は竊に不平に堪へず王政維新既に四五年を經過して堂上貴顯の因循文弱、唯驚くの外なし數百年來京都の公卿輩が國中に重きを爲し得ざりしも偶然に非ず實に氣の毒なる次第なれば今これを文明に導て活潑男兒たらしめんとするには先づ其外形よりして兎も角も婦人やうの鐵漿を廢せしむることこそ至急なれと思ひ、執筆起草して之を議論せんとする折柄、不圖思案すれば待てしばし、公卿が婦人の眞似するは固より可笑しけれども其婦人が天然に白き齒を持ちながら態と之を黒く染るも亦笑ふに堪へたり左れば

小數の公卿は咎むるに足らず全國大多數の婦人の齒を白くして天然の美を保たしむるは事の順序なり婦人にして果して鐵漿の陋習を脫するときは京都の柔弱男兒も自から愧ぢて自から改むるや必せり一擧兩善の法なりと是に於てか最前の文案を改め單に婦人に向て鐵漿の利害を説かんとし齒を黑くするは人爲の片輪者なりとの意味を以て之を諷したることなり。」

先づ京都の堂上公卿に鐵漿を付ける者のある事を攻擊せうと思ひつく。併しその後です、併し公卿は少數の存在だが、日本大多數の婦人にこの弊風があるに思ひ到る。さうするとこの方が先づ大切だから、大多數の方からさきに着手せうと考へる。如何にも效果的で、功利的で、そして福澤的である。が、當時の改革家としての意氣はそこに見えるのである。

併しこの篇に對しては全く別な解釋がある。試みに太田正孝氏の『町人諭吉』を見よ。

「ある金持ちが、玉のやうな美しい女子をもつたが、大きくなつてみると、齒が、おハグロを塗つたやうに黑く、眉は、年頃になつても生えない。世間は、親たちが何か惡いことをした天罰で、片輪女が生れたといふ。――親の身になつてみると、わが子が、いとしい。しかも、世間に對しては、はづかしい。心のなやみは、いたいたしいほどである。けれども、その子が、廿をすぎて人妻になつてみると、齒の黑いことも、眉のないことも、あるがまゝにして世話女房たるにふさはしい。かへつて、美しい。すぎし日の片輪女は、いまは人から、うらやまれてゐる。

よいか。時代の先覺者は、みなこの片輪女である。諭吉もみづから片輪女を以て任じた。」(『町人諭吉』七頁)

著者が自らこの『かたわ娘』を以て任じたとは、福澤も地下に聞いて恐らくは驚くに違ひない突飛な異解である。勿論、著者自らの説明が前引の如く明白なる以上、これは決して正當なものではないが、又異解なるだけに一顧の價値なしとせぬから引用しておいた。なほ此れを以て明治の短篇小說の祖と見る人もあるが、これは嚴密にアレゴリイであつて短篇小說と云ふことは出來ぬ。同じ福澤の『世界國盡し』が七五の韻を持つてゐるからとて、新體詩の祖だと云ふ愚解と同じく、私の取らぬ所である。

『八十日間世界一周』　川島忠之助

これは只に明治に於ける飜譯小說の先頭を切るものとして重要な許りでなく、原著についても、譯書に就いても語るべき多くの事がある。

原著者ジュール・ヴェルヌは現在もフランスに於て青少年の間に最も多く愛讀せられてゐる作家の一人であり、英國に於ても一時彼の譯書の多くが絕版になつてゐたのに、最近又續々として複刻せらるゝ氣運にある。一つは彼が科學小說の創造者で且つ卓越した作家であるから、今日讀書界の科學小說に對する世界的な要望が彼の復活、彼の再評價問題を要求してゐる事と思はれる。

さうした一般的理由以外に、又特にこの『八十日間世界一周』の作が、屢々人の話題に上るのは、世界一周の時間が短縮せられる每に、必ずこの作が顧みられるからである。恐らく今後も世界一周の記錄が新たにせらるればその度に又必ずこの作は話題となるに相違なく、その意味に於ては實に不朽の名著と謂はなくてはならぬ。

實を云ふとヴェルヌがこの書を書いた時(一八七三年)には、八十日間に世界を一周する事は

一つの夢想たるに過ぎなかつたのである。後に一九〇七年ヴェルヌの傳記を書いたグランギル教授は「今なら七十五日間で世界一周が出來る」と云つて、ヴェルヌの時代にはユトピヤンドリイムに過ぎなかつた潛水船も、舵行風船（飛行船）も、自動車もその他の交通機關も一々實現せられたので、科學が半世紀後に完成する約束にあつた諸奇蹟を、彼が前以て說破した豫言者的眼光に推服してゐるのである。

更にその時から四半世紀を經過した今日は、異常なる度合で世界の距離が短縮せられて、一九二八年にはヘンリ・シア及びキャプテン・コリアなる二米人が二十三日で世界を一周して日本にも立寄つた。歐米諸新聞が前記ヴェルヌの小說を又賑やかに顧みた最も近い一例であらう。

これに限らず、ヴェルヌの取材は全世界に涉り、殊に極地の事を書いたものが少くない。そこで非常な旅行家らしく考へられるが、實は書齋の外に足を踏み出した事は殆んどなく、萬國地圖と首引きでは著作に耽つてゐたのであつた。そこでニューヨーク市立大學の教授ルイズ・デラマルと、コロンビヤ大學教授のジョン・グランギル・ギルとの合纂になる『近代フランス文學研究』の中には「もしヴェルヌが世界を旅行したら、その到る所の、卽ち日本やモロッコの書店の棚にさへ、その用語に譯された自分の著書を發見したであらう。」と言つてゐる位である。

この批評家をして「日本やモロッコの書店の棚にさへ」譯書が見出されると言はしめたその日本譯は、明治初期に於て、意外に澤山ある。

私は曾て西洋小說の飜譯が出初めた明治十一年から十年間、乃ち明治二十一年までの飜譯小說の原著者の統計を取つてみた事があるが、シェークスピアが最も多くて十二種、その次ぎがこのヴェルヌで十種、次がスコットとデュマとボッカッチオの各々五六種である。そして川島氏の譯書が、明治に於ける全飜譯小說の先登なのだから、隨つて必然にヴェルヌの譯書の先頭でもある。

氏がこの飜譯を思立つた事情に就いては、柳田泉氏が詳說してゐる。卽ち

「川島氏が『新說八十日間世界一周』の飜譯に着手したのは、歸國後（最初イタリに洋行して）間もなくの事であつたらしい。川島氏の語に『槪シテ閑散ノ任務ニ服セシヲ以テ佛文小說飜譯ヲ試ルニ至リシナリ』云々とある。此の小說の原作は洋行以前、當時パリ三井物產支店にゐた從兄弟の中島氏から贈物にもらつたもので、川島氏は一讀異常な感興を覺えた。ところが洋行の際アメリカの某驛で小憩したとき、賣場の中を覗くと此の小說の英譯があつた、これを買つて車中の徒然を慰めたが、この英譯にはアメリカの部に原作にない增補がしてある。川島氏は此の小說に一層の興味を感じた。それで社會啓蒙の一端にもと思つて飜譯の筆を執ることになつた。明治十一年六月出版、有名な織田純一郎氏の『花柳春話』より四箇月早い。

（『早稻田文學』二百五十五號）

さて此の譯書が出てから茲に面白い逸話がある。元來この作は一讀すれば分る通り、ある紳士が一夕、八十日間で世界を一週して來て見せようと云つて友人と賭をする。そして愈々出發すると種々の障害が起り、幾多の危險に遭遇したが、結局は僅々數時間の差で賭に勝つと云ふ話なのである。

さて川島氏のこれが邦譯を讀んだ時、幕府の遺臣で明治初期に於ける有名な新聞記者であつ

た栗本鋤雲が人に語つて言つたさうだ。

「兎に角變つてゐて面白い小說だ。」

そしてその變つてゐる理由を鋤雲は次のやうに說明した。

「支那や日本の小說だと、災厄が四方に迫り、進退全く谷まる。窮境に際し、之を救ふ者は神佛の加護に非ずんば、必ず狐狸妖怪の助力である。然るに此の小說を見ると、さうした窮境を救うてゐるものは常に金である。——日本でも今後はこのやうに金が口をきく世の中にならう。」と。

此れは私が、譯者なる川島翁から直接に聞いた話であるが、實に驚くべき卓見ではないか。

思ふに原著者のヴェルヌは此の作にこのやうな批評が下されようとは思ひそめてもゐなかつたらう。だがわが國ではその特殊な國情から、この作を通して來るべき資本主義社會が明確に豫言されたのだ。

『佳人之奇遇』　東海散士

この作は實に明治年間屈指の廣く流布した小說であつた。一體、時代に依つて民心の歸嚮の中心點の明白に判明してゐる時代と、さうでない時代とがあるが、明治も自由民權運動の勃興後から二十三年の國會開設まではそれが明確に判然してゐたので、卽ち政治が、一般の希望でもあり、憧憬でもあつた。『佳人之奇遇』は憂世慨國の志士に碧眼金髮の美人などが絡まり、舞臺は全世界に跨る萬波重疊の政治小說だから、當時の讀書界の望む壺にぴつたりと嵌つたものであつた。當時如何なる山間僻地でも文字に眼のある青年が、この書を懷にしてゐない所はないと言はれた位に廣く流布し、中に插まれた漢詩は好んで朗誦せられた。自然主義當時の文藝史家は、これを惡文だと斷じ去つてゐるが、第一卷の如き、文は西村天囚の刪正を經、詩は實は高橋大華山人が作つたのだと言ふから、共に見るべきものがある。一時青年の作文と言へば、悉くこの『佳人之奇遇』張りで、たとへば高山樗牛の青年時代の日記の如きも全然この文體であるのを見ても、その感化がいかに廣く及んだかが分る。猶ほこの邊の消息は德富健次郎の『黑い眼と茶色の眼』などからも間接に窺はれるが、更に又正宗白鳥氏の『北米通信』の中にも自由の破鐘に關してこの作に言及されてゐるのを見た。

さてこの作は何しろ非常な長篇である上に、話の筋がかなり枝葉に分れてゐることだから、初學の士は適當な梗概を先づ一度讀んでおいてそれから繙讀に掛つたら、一層よいであらう。その點で日頃から私の最もよいと思つて、人にも一讀を勸めてゐるのは『文藝講座』所載の小島政二郎氏の一文である。この書を論評するもの幾十人に及んだか知らないが、未だかくの如く精緻で、的確な批判を見ない。氏の許諾を乞ふ得て左に轉載しておくであらう。

「この小說は、この時代の小說としては珍らしく、私小說である。冒頭から既に分る通り、東海散士と號ける著者自身が主人公となつてゐる。さうして其生活のうちに遭遇した事代を書き、人物を描き、見聞を描き、また自己の生活を語つてゐる。時には、いや餘りに屢々、東洋西洋に行はれた小國滅亡の歷史や、一國內に起つた不正義派の橫暴を語り過ぎてゐる憾がある。而もどこでも中心は『東海散士』だ。東海散士の目を通して見られ、東海散士の主觀を通して語られてゐる。東海散士の感情の迸出が到る所にある。

東海散士は、自由の國アメリカに憧れてフィラデルフィヤに遊學してゐる若い紳士

である。正義を愛し、強國が小國を蠶食するのを憎み、不義の徒の榮えるのを憎んでゐる。人事ならず暗く呪つてゐる。實は彼も亡國の武士なのである。それだけに、その呪ひや憎しみには、反抗的な劇甚さがある。さう云ふ彼が、アメリカで二人の美女に逢ふ。一人は、作者の描寫に從へば、『年齒二十ばかり、盛粧濃飾せずと雖も、冷艷全く雪を欺き、眉は遠山の翠を畫きて鳳鬟雲より綠に、秋波情を凝せずとも炯々人を射て暗に威儀を備へ、紅頰笑みを含みて皓齒微かにあらはれ、纖々たる細腰に輕綺の長裾を曳き、娟娟たる蓮歩に綵繡の輕履を踐み、餘香人を襲ひ、除歩階を下り、來り迎ふ。』美女名は幽蘭、『西班牙の京城麻戸立都の者なり。家は世々西國の名族たり。』父は志士風の老政治家で、國を立君公議の國にしようと云ふのが理想である。當時西班牙は君主專政だつた。父はこれが崩壞を企てた。成功したが、天下を取つたのは父の一派ではなくて、共和政體を主張する者の手であつた。彼等は、父を目して『自由の公敵』だと云つて、死刑にしようとした。父は戰つた。その戰ひで、幽蘭の兒は命を失つた。かくて父は幽蘭を連れて、アメリカに渡り、自分は引つ返して又ヨーロッパに行き、同志を糾合して初一念を貫徹しようとしてゐる。さう云ふ節義ある政治家の幽蘭は令孃だ。

もう一人の美女は、名を紅蓮と云つてアイルランド人である。作者の描寫に曰く、『年二十三四、綠眸皓齒、黃金の髮を垂れ(西人綠眸にして毛髮の金光あるを稱して美人となす)細腰氷肌、遊散の文履を踏み、纖手をあげて揚柳一枝を折る。其態度風采梨花の露を含み紅蓮の綠池に浴するが如し。』この令孃の父は、アイルランドの獨立を企てて捕へられ、獄に投じられて病ひを得て死亡した。

かうした二令孃に、東海散士は逢つたのである。三人とも、云はゞ燕趙悲歌の人々である。氣の合はない筈がない。一夜、幽蘭の隱れ家に相會して、杯を擧げ琴を彈じ詩を賦して鬱懷を遣つた。その時歌ふ詩が佛國の國歌マルセーユだ。清人王紫詮の譯と云ふのが載つてゐる。『法國榮光自レ民著』に始まつて『不レ勝 損レ軀義 並高』に終つてゐる。マルセーユの漢譯は珍らしい、遂に『幽蘭彈を止め散士の手を執り起ちて舞踏』した後、月明の庭に出て散歩をする。その夜は散士は一泊して、翌朝七日後の再會を約して別れる。この歡會の間に、散士に對する幽蘭の戀愛が育まれる。それを語るのに、作者は白鸚鵡を使つて、『郎君妾を捨てて去る勿れ』と云はせてゐる『幽蘭俯して語らず、滿顏紅を潮し眉間羞を帶ぶ』と說明が施されてゐる。

ところが、約束の一週間の後に、散士が途中まで行くと、暴風雨になつて河を渉つて行くことが出來ない。空しく歸つたが、雨にヅブ濡れになつた爲め、發熱して十七日の間病臥するの止むなきに至る。やつとの思ひで行つて見ると、二人の令孃は最早ゐない。實は幽蘭の父が西班牙で捕はれたのである。それを知つた幽蘭は、父を助け出す爲めに急いで出立してしまつた後だつたのである。この『佳人之奇遇』十六卷の中で、最も小說的で面白いのは此幽蘭、いや主に紅蓮が色仕掛けで守城長を瞞して幽蘭の父を助け出し、伊太利に走る前後だ。卷數で云へば、四卷と五卷との二册だ。冒險小說的な變化と、不安と期待とが

讀者の心を捉へて放さない。助け出す筋立は、からした種類の冒險小說によくある手で、一度讀んでしまへば、一向興味も引かれない。藝術的に優れたところもない。かうした漢文くづしの文體で、どの位まで守城長に對する紅蓮の媚態が書き現されてゐるかと興味を持つて讀んだが、一向平凡だつた。唯千辛萬苦の末やう／＼の事で、伊太利のガルバルヂー將軍を使つて最後の港まで着いて見ると、見わたす港のどの家にも將軍の死を悼んだ弔旗が飜へつてゐるのを見るあたりは、優れた小說的段落を示してゐると思つた。幽蘭父子の沮喪落膽のが狀我事の如く胸に落ちた。弔旗に人生の姿を見る思ひがした。

フランスへ向ふ航海中、彼等一行の乘つた汽船が沈沒して、幽蘭父子の行方は不明になる。紅蓮だけ助かつてアメリカに歸つて來て散士に逢ふ。紅蓮も散士に對して戀情を抱いてゐる事が此時讀者に明かされる。二人は幽蘭の死を悲しんでゐる。そこへ骨數斗夫人と云ふのが尋ねて來て、幽蘭の無事を告げる。父と共にアレキサンドリア港にある由。折柄イギリスは埃及を屬國にしようとしてゐた。埃及人はこれに抗して武器を取つて立つた。さうして軍師として老將軍を迎へようとした。將軍は埃及の地に留る事を諾した。そこで骨數斗夫人が別れを告げると、幽蘭は左の指から金の指輪を外して、若しどこかで東海散士に逢つたら、これを渡してくれと云つたと云つて、金の指輪を出して渡した。

その後數日經つてから、ふと新聞を見ると、『海樓の埃及營中に、西班牙の一佳人あり。』と云ふ書出しで、傷病兵の看護に努めてゐる、幽蘭らしい女性の消息を載せてゐる。『散士覺えず恍然たり。』明月窓を窺ふ夜、空しく幽蘭を胡沙千里のうちに夢みる事を知つた。

幾年か經つて、散士はアメリカの遊學を終へて東に歸つたが、間もなく官命を帶びてまた歐洲に赴いた。その途中、カイロで幽蘭に逢ふ。幽蘭は埃及の王族に幽閉されて、辱しめを受けようとした。そこを助けられて、今はかくまはれてゐる。この際、散士の指に例の指輪のあるのを發見して喜び、紅蓮が無事と聞いて『然らば則ち女史の赤繩豈郎君の色を纏はざらんや。』と嫉妬を催したりする。可憐愛すべし。浪漫的小說の女主人公たる資格十分である。

併し讀者はこれ以上この二人の戀愛の發展を望んではイケない。この戀愛は遂に淸淨で終はるのである。『僕官命の身を縛するなくんば、何爲ぞ令孃を救ひて倶に歐洲に赴かざらん』などと甚だ生ぬるい事を云つてゐる。こんな一通りの理由では、小說の上では通用しない。併し流石にそれだけではない。『今僕の身邊の物を以て悉く令孃に贈り敢て行費に供せんと欲す。願くば以て微衷を諒せよ。令孃早く機を伺ひフィラデルフィヤに遁れ、徐に時の至るを待て。天道の報施ある、必ず快く手を執るの日あらん。』

ところが、仕舞まで讀んでも、遂に『快く手を執る日』などは來ないのである。散士と幽蘭女との關係は、これで全く跡を斷つてゐる。快く手を執る事が出來た喜びを以つて大團圓になつてゐるか、或は手を執る事の出來ない悲しみを敍して卷を結んでゐるかと思つて讀んで行つたら、筆は全くあらぬ方に走つて、散士が朝鮮の閔后事件に坐して廣陵の獄に繫がれるところで終

はつてゐる。

そこで私は考へて見た。一體この小説は、何を書かうとしたのか。散士と幽蘭女の別離常ない世界的な戀愛を書かうとしたのか。さうだとすれば、餘りに餘事が多過ぎる。私は今二人の事を語られたかと思ふと、次にはイギリスのアイルランド壓制の歴史的事實を語られる。支那に阿片を持ち込む英國貿易の不道徳を語られる。それから又暫く經つてから、やつと散士と幽蘭女との事が聞かれるのだ。さうかと思ふと、それは仕舞まで語られずに、話は又ロシアのポーランド占領に移る。甚だまだるい。いや、まだるい抔と云ふよりも、量から云つて遥かに餘事の方が多いのだ。十六卷の大部分は世界近世史を以つて埋められてゐると云つていゝ。だから、以上私が梗概を述べた散士と幽蘭女との關係を辿るだけでも、庭の飛び石づたひ式で、容易な業ではない。從つて一貫した小説的感銘を受ける事が弱く稀薄である。散士と幽蘭女との事を小説に書くのが目的なら、三分の一の枚數で足りる。散士と幽蘭女との事を書くつもりで筆を執つてゐる間に、興奮して我知らず世界各國の亡國史、虐政史を書いてしまつたのだと云ふ人があるかも知れない。併し、それにしては、歴史を語る態度が餘りに組織的だ。

では、世界亡國史を小説的手法を以つて書かうとしたのだらうか。——さうかも知れない。一人の人物が讀者に紹介される度に、必ず國籍が違ふ。併し誰も彼も亡國の民か、亡命者である點に於ては一致してゐる。さうして彼等は極まつて自分の國の歴史を述べ立てる。その場合、大國は筆誅を加へられてゐる。注意すべきは、この小説の書かれた時代は日本は決して一等國でも二等國でもなかつた。小國の部に屬してゐた。だから、大國の恐るべき野心を語る時には、我國に對する警世的意圖が含まれてゐる。

——著者の最後の目的は、ここ等にあつたのではあるまいか。さう云へば、散士と幽蘭女との淡紅色の戀愛情調の取り扱ひ方なども、伴奏的である。

それにしても『佳人之奇遇』執筆の目的が私の云つた第二の上にあるにしても、構想が如何にも拙いと思ふ。亡國史虐政史を語るに當つて、から平面的に敍述したのでは、結局讀者には似たり寄つたりの亡國史、虐政史の繰り返しとしてしか耳に這入らない。世界を舞臺として其上に事件が構想的に展開して行かない。從つて構想的興味は甚だ薄い。さうかと云つて、作中人物の人間的興味も薄い。前にも云つたやうに、幾人も人物が出て來るが、それは皆亡國史、虐政史を語る傀儡に過ぎないから、個性などは賦與されてゐない。稍個性を與へられてゐるのは、ハンガリーの骨數斗夫人一人位のものだ。併しそれにしても『稍』に過ぎない。

それでは、『佳人之奇遇』は興味索然たるものであらうか。——いや、決してさうでない。私は讀後作者の鬱屈した熱情を滿身に浴びた思ひがした。それは飽く事を知らぬ熱情だ。明るい喜びの熱情ではない。鬱屈した悲劇的熱情だ。獨立國を亡す者に對する怒りと憎しみの中に迸り出てゐる熱情だ。苦境、逆境に敢然として戰ふ忍苦の生活となつて現れてゐる熱情だ。不義を憎み、正義を愛する精神となつて襲つて來る熱情だ。多くの場合、悲壯の響を帶びて耳朶を打つ。第九卷の跋で

犬養毅が、苦境逆境の極を寫すのが「吾見得意腕力而他人不レ可レ及妙處」と推奬してゐる。

この熱情は、或は單純、單調の譏りを免れないかも知れない。併し贋物では決してない。本物である。純粹である。この時代の所謂政治小説に、これ程作者の心が作品の近くに置かれたものは外にはない。その點で珍らしいと思ふ。その點で私は此小説らしからぬ小説に敬意を表する。

因に我々の父祖の時代には、西洋の令孃と日本男子との戀愛は斬新目を奪つたであらう。小説の舞臺に廣く五大洲を用ゐた點も好奇心を呼んだであらう。併しマルセーユの歌も漢文で示される位だから、描寫の上に異國情調の空氣は浮んで來ない。」

『雪中梅』　末廣　鐵腸

『緑簑談』　須藤　南翠

これらの諸作まで來れば、今日の創作にかなり接近してゐるから、初學の士と雖も讀過にさして難澁を感ぜられる事なく、批判も自ら下さるべきである。作意に就てはその序文に明瞭だ。たゞ『雪中梅』に於ては下篇の尾崎咢堂の序に、『緑簑談』に於ては自序に Political novel なる語があるのを見落してはならない。

云ふまでもなくそれは政治小説の事だが、その政治小説に對する見解は、日本の在來の文學史に論ずる所が悉く十分でないと思ふから、私はこゝでこれを補足しておきたい。

從來の史家が政治小説と言へば漫然、文藝の幼稚な時代にはどこの國でも持囃される功名談、冒險談の一種に過ぎぬと斷じ去つてをるのは盲斷も甚だしい。自然派小説でも、神祕主義的作品でも、又はプロレタリヤ派の諸作でも、之が正確なる論評を下すには先づその源流乃至は先蹤を究めて、何時、如何なる時代に何人が創始したかを明確にしておく必要がある。政治小説に於てのみは如何なる明治文學史にも未だ嘗て此れがなされてゐないのは史家の怠慢に非ずして何であらう。

政治小説とは後に英國の大宰相となり、今日の保守黨の建設者となつたベンヂャミン・ディスレリのプリズム的な思想の裡に孕み出だされた文學上の新ヂャンルなのである。而も此れは彼個人のみに於て絶滅してはゐない。ディスレリの作に於てトーリイ・デモクラシイを反映した政治小説は、アンソニイ・トロロープに於てはヰクトリヤン・レアリズムを、ジョージ・エリオットに於てはラディカリズムを、ジョージ・メレディスに於ては政治上の理想主義者を、ハンフリイ・ワード夫人に於てはフェミニズムを、エッチ・ヂー・ウェルズに於ては個人主義カルトを、更に大西洋を超えてアメリカ合衆國ではヘンリイ・アダムスが先頭に立つて、ウヰンストン・チャーチルの政治的改革の作となり、パウル・レスタア・フォードの政治的産業の反映となり、脈々として今日に續いてゐる。而して政治家としてのディスレリは暫く問はず、小説家としての、或は政治小説創始者としてのディスレリは、今日の英國に於て再評價の機運が著しい。

特に政治小説研究の爲に一著を公けにしたモリス・エドモンド・スピイア教授は政治小説を定義してから言つた。「それは情緒的よりも思想的に傾いた散文物語である。……作家の主目的は黨のプロパガンダ、社會の改革、又は政府を支持する諸人物の生活の暴露、政府を組織する勢力の暴露などになる。そして此の暴露に於ては、政治生活の内部表現の手段として客間が屢々用ゐられる。」と説いて十分ではない。併し本集所收の諸作を

經過した後では、この定義を顧みて微笑む所があるであらう。

次に政治小說は如何なる時代、如何なる事情の下に初めて創始せられたか。ピアス教授は云ふ。

「ギクトリヤ女王の在位時代に於ける英國の議會制度は、歐洲の他國民間に嘗つて見られぬ安定性を示してゐた。一八三二年に於ける改正法案の通過は中流階級に於ける參政權を著しく擴大はしたが、數箇の第一位の大都市に議員選出の權利を與へたのみで、五十餘の市邑は未だ此れを持たなかつたから、この法案通過の直前にロバアト・プリユマア・ワードの行うたやうな、英國政治樣式の根本的變化は與へなかつた。その後も選擧方案は一八六七年と一八八四年の改正案、一九一一年の議會案、それから一九一八年の人民代表案と稱さるゝ要項を通じて初めて完成されたので、末尾は吾々の時代に迄及んでゐる。ディスレリが四十年代に書いた三大傑作の政治小說は最初の改正方案が初まる以前の事に筆を起し、第二改正法案が立案さるゝ以前の時代に迄續いてゐる。そして後の二作の取扱ふ所も未だ七十年代以前である。だから彼の取材してゐる英國は決して、未だ完全にデモクラタイズされてゐる英國ではない。それは主として未だ古き貴族的制度の下にある英國である。而もそれでゐながら新制度の方向へ第一歩をまさに踏み入れようとしてゐた英國である。一八三二年以後は政黨政治が著しい發達を遂げ、貴族院が立法に優先權を占める風は次第に止んで、それは漸次にたゞ修正と延期の機關たるに止まり、內閣の政治が著しい重大性を以つて來た。とは云へ貴族の勢力は增すとも衰へてはゐなかつた。上記の諸變化も、大衆が貴族を畏敬する從來の慣習に對して著しい變化は決して與へなかつた。貴族はその社會的、經濟的勢力を利用して、下院議員を如何やうにでも操縱し得たから、その後三十年の久しきに涉つて、殆んどその勢力を減損する事は無かつた。彼等は英國民がその女皇に對する尊敬の念を少しも薄弱にするやうな事はしなかつた。英國の政治並に社會生活と云ふペジェントの頂點をなすものは皇室であるとの信念は國民の間に搖がなかつた。

之と著しい對照をなすのは十九世紀に於ける大陸諸國の出來事である。フランスは革命の鐵火碧血を浴び、ナポレオン一世は全歐を席捲した後あの沒落を見た。オーストリヤにはメッテルニッヒが辛腕を揮つてアブソリューチズムは殆んど全歐諸國に傳播したが、それに對しては絕え間なき反逆と抗爭と分裂と混亂とが續いた。內亂と小國併呑の戰爭とが年中行事の如くなつた。この時代に獨り英國のみは議會主義と云ふ遲々たる併し明白なる手段に訴へて、如何に異常なる偶然事件にも冷靜に善處する事が出來た。英國はナポレオン戰爭後の前古未曾有の窮乏をも克服し、チャーチスト運動を焦點として產業的、經濟的危機にも善處した。見た變化と云へば科學思想が產業に革命を惹き起した事と、一般教育の著しい普及とであつた。受けた要求と云へば勞働階級大衆からの參政權と政治的代表選出のそれであつた。英國は歐洲に於ける最大の立憲デモクラシイ國家として認識せられた。他國民に見るが如き暴力遂行なくして、一地方的存在の孤島から、世界に版圖を有する大帝國となつた。」

ディスレリのペン先から政治小説なる新ジャンルの誕生を見たのは、斯る時代、斯る環境の英國である。政治小説を生んだ明治日本は元より當時の英國ではなかつた。併し或る意味に於ては又當時の英國であつた。日本には歐洲大陸の革命は無かつた。併し佐賀や、萩や、最後に鹿兒島に起つた内亂は、暴力的手段の當時に於ける社會改革上の最大武器でない事を、大陸革命が英國に對するよりも、より痛切に教へた筈である。かくして自由民權の聲は起つた。代議政體の要望は絶叫せられた。産業的背景が著しく稀薄ではあるが自由民權運動はあの當時の日本としては或る意味でチャーチスト運動である。一八三二年の改正法案に擬へてみていいものは明治二十三年から代議政體を施行するとの聲明である。（明治十五年發表）「即ち舊制度の下に新らしい一歩をまさに踏み出さんとした時」、勃然として政治小説は起り、而もその祖宗としては大いにディスレリが迎へられた。見よ、關直彦の『春鶯囀』（明治十七年）は彼のコニングスビイである。渡邊始の『政海の情波』（明治十九年）は彼のエンヂミオンである。尾崎行雄の『經世偉勳』（明治十九年）は彼の評傳である。政治小説の當時飜譯されたのも、創作されたのも、この社會的、政治的背景を除いては十分な討究は困難であらう。

　ディスレリの小説は實に「ヤング・イングランド」の聲であり、明治の政治小説は又「ヤング・日本」の叫であつたのだ。

『藪椿』『三筋町の通人』『驅落の驅落』　饗庭篁村

魯文を舊幕の戯作者の最後の作家その者とすれば、篁村はこの戯作者系統の最後の、洗練せられたる作家であつた。政治小説は元より魯文及びその亞流の著作は、文學として消化し難い粗硬さ、又は卑俗さを含んでゐたが、篁村はさすがに輕妙洒脱で、譬へば支那料理の鯉の如く、頭も骨も尾も、優に文學として嚥下し得る。別に彼の劇評の如きは天下一品として推稱せられたものであつた。

『憲政大意』　加藤弘之
『天賦人權論』　馬場辰猪

　前にも一寸述べたが自由民權運動は明治開化期の脊髓骨と云つてもいゝ重要な大運動で、前述の政治小説もこの運動の背景の上に成長したものである。旁々、社會史的にも、又文學史の上からもその指導理論を究めておく事は必要なので、この二篇を採錄した。

　前者は明治三年の出版だから、幕府瓦壞の直後で、未だ民選議院設立の請願も出ない前のものだが、思想はその系統の上に立つてゐる。即ち云ふならば自由民權論が未だ形態をなさぬ前の先驅者の聲である。この中にコンミュニズム、ソシャリズムなどの語が見えるが、此等の語の日本の文獻に現はれたのは、この書を最初とするやうだ。それから此の文體の斬新さだが、言文一致の提唱の起らぬ數年前にこの破天荒の試みがある。往昔、交通の不便な時は同じ日本國内でも諸地方の言語が滑かに理解はし合へなかつたのだが、僧侶の説教だけは特殊な用語に依つて、エスペラントの如くにどこへでも通じた。この文體はその説教體から暗示を得たのではあるまいか。暫く疑を存しておく。又明治初年京都府の小學校の科目表の中で第二年で福澤諭吉の『西洋事情』やこの書を教科書として教へてゐた事を發見した。興味ある事だから附記しておく。

　『天賦人權論』は十五年の出版だから、民權運動の最高潮期に現はれたものである。面白い事に明治最初期に於ては民權論の先達と仰ぎ見て

もよかつた加藤弘之は中途から當時の諸著を絕版にし、進化論から來た優勝劣敗これ天理の說を唱へて、民權論の最も恐るべき敵として出現した。皮肉屋は明治時代の變說改論の最大なるものの一つに之を數へる。馬場辰猪のこの著はそれらの思想を駁擊したものである。

これ以外、民權運動の指導理論としては、中江兆民の、殊に『民約譯解』を一讀しておく必要がある。その篇ではないが、兆民の文は『社會文學集』に收載せられてゐる。

『西國立志篇』　中村　敬宇

この譯書も亦、從來とは全く變つた見地からの再檢討を要求するものの一つである。

第一、多くの史家がこの原書を本國に於てさまで重要さを持たなかつたもののやうに云ふのが誤りで、これは恐らく今日の英文學史に彼の名の發見せられない所から來てゐるのであらうが、この原著の『セルフ・ヘルプ』は英國に於ても最上の成功を收めた出版の一つで、タッパアの詩、アンソニイ・トロロープの小說と並べて、最もよきヸクトリヤニズムの代表的著作とされてゐる。

卽ち『セルフ・ヘルプ』は十七ケ國語に飜譯せられ、當時の名士の中には、もし自分が少年の時に之を一讀してゐたら、その全生涯は全く一變したものになつてゐたであらうと迄激賞し、伊太利政府は著者に自國の材料を提供して『伊太利自助論』の著作を依賴したと迄言はれる。

何故そのやうな大成功をかち得たか？　それはその書が徹底的に十九世紀の英國的なものであつたからだ。英國產業の繁榮のために新たに擡頭したブルジョアの思ふ壺の道德を傳記と云ふ滋味に包んで、青少年の間に宣傳したからだ。卽ちそれは自助の精神を、勉勵實行した人々の成功譚である。そしてその中心を貫く響は個人主義である。

個人の品性こそは人類至高の表象である。人間の最も高貴な紋章である。個性こそは人間を眞に意味づけ、人類の段階を高め得る媒體である。そしてそれこそ社會的意識を形成し、その最上の動機力を創造する。――これが終始一貫して渝りなき原著者の個性觀であつた。

この書がダーウヰンの『種の起原』と同じ一八五九年に出てゐるのも面白いが、明治四年に邦譯の出てゐる事にも非常な意義と興味がある。卽ち維新の革命は慶應四年（明治元年）に成就はしたが、それが漸くブルジョア革命としての實を現はし初めたのは、實に明治四年だからである。

言ひ換へればブルジョア革命の第一步を踏み出した明治四年に、徹底的に十九世紀式ヸクトリヤニズムの產業熱鼓吹の『自助論』の邦譯が出版され初めて、全明治を通じ、賣行も、感化力も最も大きな書物の一つであつたと云ふ事は、偶然と見るべく、餘りに符節がよく合し過ぎるではないか。

されば明治文學の攻究家は、この原書が英國讀書界に持つた意義と、その中心思想とを十分に檢討し、更にそれが邦譯の現はれ初めた時勢と關聯せしめて考察し直さなくてはならない。

『東京新繁昌記』　服部　撫松

『柳橋新誌』　成島　柳北

この二著については『改造社文學月報』第四十八號に柳田泉氏の非常に巧みな比喩が出てゐる。卽ち

「これら漢文脈戲文の諸著作は今日からいと、絕滅に歸した動植物の殘骸が、世界の生成發達の研究に貴重資料となるやうなもので、開化期特有の文學であらう。開化

開化期と共に榮え開化期と共に消え去つたものであるが、その全盛時代には文壇を風靡してゐたものであつた。それだけ當時の空氣を知るには是非とも一讀しなくてはならぬ。」

共に寺門靜軒の『江戸繁昌記』の影響を受けて述作せられたものである。

「東京新繁昌記」は明治初年の風俗研究の上には缺くべからざるものとされてゐる。全三十六項目の中三篇だけを拔いた。

「柳橋新誌」は第一編があるが、何分安政六年の著述故、明治以降の文學の集成なるこの全集に收めるのもどうかと思ひ、第二編のみを採る事とした。第三編も述作せられた事は確かだが、當局の忌諱に觸れて出版せられたかどうかは確證を得ない。坊間一讀したと云ふ者があるが、私の知る限りでは皆何かを間違つてゐるもののやうである。

森鷗外博士の「雁」と云ふ小説の中に

「……さう云ふ時代だから、岡田の文學趣味も漢學者が新らしい世間の出來事を詩文に書いたのを、面白がつて讀む位に過ぎなかつたのである。」（本全集第三卷三八七頁下段）

とある。この詩文は暗に上記の「東京繁昌記』や「柳橋新誌」のやうな著作を指してゐるのである。

現代文學者の中で最も屢々二家の著作に就いて語つた人は永井荷風氏である。たとへば『紅茶の後』の中の「蟲干」の章などが此れに屬する。（春陽堂版『明治大正文學全集』三一卷五〇四—六頁）

その他荷風氏には柳北を説いた文が非常に多い。詳しくは本全集二十二卷の年表を參照されても一端は分る。

木村毅

昭和六年一月十五日印刷
昭和六年一月二十日發行

現代日本文學全集 第一篇

編纂者 山本三生
發行者 山本美
東京市芝區愛宕下町四丁目四〇番地
印刷者 杉山愛二
東京市牛込區市谷加賀町一ノ一二



發兌
東京市芝區愛宕下町四丁目四〇番地
改造社
振替東京八四〇二番
電話芝(43)一一二一番 一一二二番 一一二三番 一一二四番

株式會社秀英舍印刷

改造社